

四戸遺跡

— 本文編 1 —

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二〇

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

四戸遺跡

— 本文編 1 —

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



四 戸 遺 跡

－ 本文編 1 －

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



1 上信自動車道吾妻西バイパス四戸遺跡遠景 空中写真(上信国境を望む。中央を流れる吾妻川と手前右が岩櫃山。)

口絵 2



1 四戸遺跡 空中写真



2 四戸遺跡から望む岩櫃山



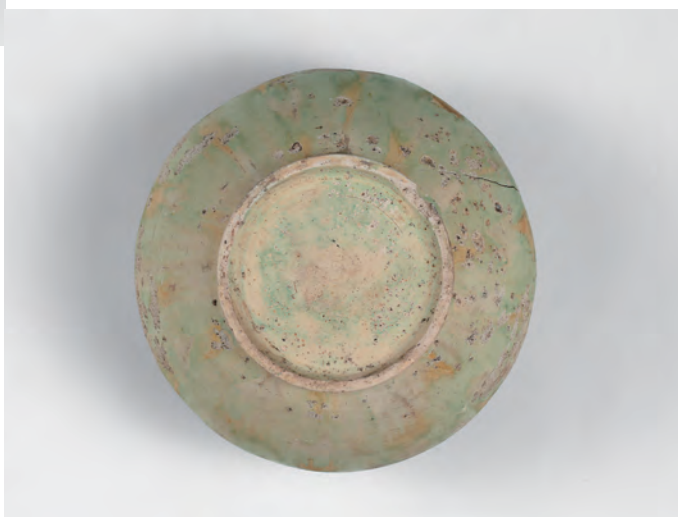
3 現存する四戸遺跡古墳群(3号墳石室)



1 2区51号竪穴建物出土 奈良三彩短頸壺(口径13.0cm、高さ18.7cm、最大径25.0cm、底径13.9cm)



2 2区51号竪穴建物出土 奈良三彩短頸壺(上面)



3 2区51号竪穴建物出土 奈良三彩短頸壺(底面)

口絵 4



1 2区 51号竪穴建物 遺物出土状況 全景 北から



2 奈良三彩短頸壺 出土状況 北から



3 奈良三彩短頸壺 破片出土状況 東から

序

上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジと長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジとを結ぶ総延長約80kmに及ぶ自動車専用の地域高規格道路です。この事業は、群馬県の「はばたけ群馬・県土整備プラン」で示された「7つの交通軸構想」のうちの「吾妻軸」に属し、関越自動車道と上信越自動車道とを結ぶ新たな交通体系として、吾妻地域の活性化に寄与することが期待されています。そして、この上信自動車道の整備区間の一つである吾妻西バイパスは、東吾妻町大字厚田から東吾妻町大字松谷に至る約7kmの区間で、現在、事業完了を目指して事業が鋭意進められているところです。

本書で報告します四戸遺跡は、北毛地域でも有数の四戸の古墳群を擁する遺跡で、その隣接地を平成25年から28年、30年にかけて当事業団が発掘調査を実施しました。その結果、縄文時代から古代にかけての竪穴建物や掘立柱建物、土坑、そして畠や水田といった極めて多くの遺構が発見されました。また、中世の掘立柱建物や土坑、墓、畠も見つかっています。中でも、全国的にも希少な古代の奈良三彩短頸壺が竪穴建物から出土したことは、マスコミでも大きな話題となりました。まさに、岩櫃山を正面に望む地に、時代を越えて人々が営々と暮らした跡が明らかとなったのです。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでには、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県中之条土木事務所、群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会をはじめ、関係する機関や地元関係者の皆様には、多大なご指導とご協力を賜りました。本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますと共に、本書が地域における歴史の解明に広く役立てられますことを願ひまして、序といたします。

令和2年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 中 野 三 智 男

例 言

1. 本書は、上信自動車道吾妻西バイパス建設工事に伴い発掘調査された、四戸遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 四戸遺跡は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字三島字四戸 B 115、B 118、B 119、B 120、甲121、B 乙121、B 甲123、B 乙123、B 124-1、B 196、199、B 200、B 201、B 202-1、B 203-1、B 204-1、B 205-3、212-1、213-1、215-5、216-1、217、218、219-1、220、221、222、B 223、B 224、B 225、B 226、B 227、B 228、B 250-1、250-3、250-4、251-3、252-3、253-3、253-4、254-3、254-4、B 255、B 257-1、B 258-1、B 262-1、B 263-1、263-3、B 264-1、B 264-5、B 293、B 295-1、C 295-1、296-2、B 297、B 298-1、B 299、B 301-1、304、305、B 306-1、B 307-1、B 311-1、B 312-1、B 313-1、B 314-2番地に所在する。
3. 事業主体は、群馬県県土整備部である。
4. 調査主体は、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
5. 遺跡の発掘調査期間と調査面積、調査体制は、次の通りである。

調査委託契約履行期間	平成25年度	平成25年7月1日～平成26年2月28日
	平成26年度	平成26年6月1日～平成27年1月31日
	平成27年度	平成27年4月1日～平成28年3月31日
	平成28年度	平成28年4月1日～平成29年3月31日
	平成30年度	平成30年4月1日～平成31年2月28日
発掘調査期間	平成25年度	平成25年9月1日～平成25年11月30日
	平成26年度	平成26年7月1日～平成26年10月31日
	平成27年度	平成27年5月1日～平成27年12月31日
	平成28年度	平成28年4月1日～平成28年12月31日
	平成30年度	平成30年5月1日～平成30年5月31日
発掘調査面積	22,100.55㎡(総調査表面積)	
	平成25年度調査：2,346.05㎡	
	平成26年度調査：5,301.61㎡	
	平成27年度調査：11,999.00㎡	
	平成28年度調査：6,428.92㎡(この内4938.17㎡は、平成27年度からの継続調査分)	
	平成30年度調査：963.14㎡	
発掘調査担当	平成25年度	菊池 実(上席専門員)、小林 正(専門員(主任))、藤井義徳(主任調査研究員)
	平成26年度	関根愼二(上席専門員・調査統括)、藤井義徳(主任調査研究員)
	平成27年度	谷藤保彦(上席専門員)、立野喜紀(調査研究員)、相京建史(専門調査役)
	平成28年度	小原俊行(専門員)、相京建史(専門調査役)
	平成30年度	関口博幸(主任調査研究員)、坂本和之(主任調査研究員)
遺跡掘削工事請負	平成25年度	技研コンサル 株式会社
	平成26年度	株式会社 歴史の杜
	平成27年度	シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
	平成28年度	シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

地上測量委託 平成30年度：飯塚・高澤・宮下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
平成25年度：株式会社 測研
平成26年度：技研コンサル 株式会社
平成27年度：株式会社 測研
平成28年度：株式会社 測研
平成30年度：株式会社 測研

6. 整理事業の期間と体制は次のとおりである。

整理委託契約履行期間	平成28年度	平成28年4月1日～平成29年3月31日
	平成29年度	平成29年4月1日～平成30年3月31日
	平成30年度	平成30年4月1日～平成31年3月31日
	平成31年度	平成31年4月1日～令和2年3月31日
整理期間	平成28年4月1日～令和2年3月31日	
整理担当	平成28年度：谷藤保彦(上席専門員)	
	平成29年度：谷藤保彦(専門調査役)	
	平成30年度：石坂 茂(専門調査役)、谷藤保彦(専門調査役)	
	平成31年度：谷藤保彦(専門調査役)	

7. 本書作成の担当者は、次の通りである。

編集担当	谷藤保彦
本文執筆	第6章については第3節を大木紳一郎、第6節を高島英之、第7節を相京建史・山口一俊が分担し、それ以外は谷藤が執筆した。
遺物観察・観察表	石器・石製品：津島秀章(資料2課長)、縄文土器・弥生土器：石坂 茂、山口逸弘(専門調査役)、土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役)、徳江秀夫(専門調査役)、大西雅広(専門調査役)、陶磁器：矢口裕之(資料1課長(総括))、大西雅広(専門調査役)、金属製品：板垣泰之(専門員)
遺物写真	土師器・須恵器と金属製品の遺物写真撮影については、大半を谷藤が行い、一部を佐藤元彦(専門調査役)が行った。それ以外の撮影は、遺物観察者がそれぞれ行った。
デジタル編集	齋田智彦(主任調査研究員)
保存処理	板垣泰之(専門員)、関 邦一(専門調査役)

8. 石材の同定は、飯島静男(地質学者・群馬地質研究会)に依頼した。

9. 発掘調査および報告書の作成にあたり、群馬県教育委員会事務局文化財保護課、東吾妻町教育委員会のご指導とご助言を得た。

10. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

1. 本書で使用した座標値および方位は、世界測地系(日本測地系2000平面直角座標系第IX系)を用い、座標北で示した。調査対象範囲は、X=61085～61325、Y=-93215～-93850の範囲に収まる。
2. 等高線・遺構断面図等に記した数値は、海拔標高を示す。
3. 遺構名については、発掘調査時の名称を踏襲し、各区ごとに遺構種別に通し番号で標記した。
例：1区1号竪穴建物、2区1号竪穴建物、3区1号竪穴建物・・・。
例：1区1号土坑、2区1号土坑、3区1号土坑・・・。
※「竪穴建物」の名称は、調査時には「住居」と呼称していた。
4. 各遺構の土層断面に記した色調は、農林水産省水産技術事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修1988「新版標準土色帖」に依っている。
5. 遺構図・遺物図については、各挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一の縮尺を原則とした。
遺構図： 遺構全体図1/500 1/1500 竪穴建物1/60 炉・カマド1/30 竪穴遺構1/60 掘立柱建物
1/60 土坑1/40 1/60 墓壇1/30 井戸1/40 鍛冶遺構1/40 溝1/100 1/160 1/300
道1/200 畠1/80 1/100 1/200 1/400 水田1/400
遺物図： 縄文・弥生土器1/3 1/4 1/6 土師・須恵器1/3 1/4 土製品1/2 石器・石製品1/1 1/2
1/3 1/4 1/8 金属製品類1/1 4/5 1/2 1/3
6. 遺物の掲載は、種別に限らず遺構毎に通し番号とした。
7. 図中で使用したスクリーントーンおよびマークは、各図毎に表示した。
8. 遺構の計測は、全容が計測できない遺構について残存値()で表記してある。
9. 降下火山灰については、以下の略号を使用した。
As-B：天仁元年(1108年)の浅間山から噴出した軽石(浅間-B軽石)
As-Kk：浅間山から噴出した軽石(浅間-粕川テフラ)
As-YP：浅間山から噴出した軽石(浅間-板鼻黄色軽石)
10. 遺物観察表は遺構毎とし、観察表編(第3分冊)に纏めて掲載した。また、遺物観察表での表現および記載法については、観察表の前に掲載している。
11. 本書で使用した地形図は下記の通りである。
国土地理院：地勢図 1:200,000 「長野」(平成24年5月1日発行)
国土地理院：地形図 1:50,000 「草津」(平成11年1月1日発行)、「中之条」(平成11年8月1日発行)

総目次

本文編 1 (第 1 分冊)

口絵

序

例言

凡例

総目次

本文編 1 目次

本文編 1 挿図目次・表目次

第 1 章 調査に至る経緯、方法と経過 …… 1

第 1 節 上信自動車道吾妻西バイパスについて …… 1

第 2 節 調査に至る経緯 …… 2

第 3 節 調査の方法 …… 4

第 4 節 調査の経過 …… 6

第 2 章 遺跡の地理的・歴史的環境 …… 13

第 1 節 地理的環境 …… 13

第 2 節 歴史的環境 …… 13

第 3 章 基本層序 …… 21

第 4 章 検出された遺構と遺物 …… 27

第 1 節 1 区の遺構と遺物 …… 27

第 2 節 2 区の遺構と遺物 …… 163

本文編 2 (第 2 分冊)

本文編 2 目次

本文編 2 挿図目次

第 4 章 検出された遺構と遺物 …… 3

第 3 節 3 区の遺構と遺物 …… 3

第 4 節 4 区の遺構と遺物 …… 127

第 5 章 自然科学分析 …… 225

第 1 節 火山灰分析(1 区) …… 256

第 2 節 火山灰分析(2 区) …… 258

第 3 節 樹種同定(1 区) …… 264

第 4 節 樹種同定(2・4 区) …… 268

第 5 節 放射性炭素年代測定 …… 270

第 6 節 出土人骨鑑定 …… 274

第 6 章 調査の成果(総括) …… 279

第 1 節 集落の変遷について …… 279

第 2 節 縄文時代の土器について …… 287

第 3 節 四戸遺跡出土の弥生時代の
土器について …… 290

第 4 節 弥生時代の家屋構造 …… 298

第 5 節 特異な遺物と四戸遺跡 …… 302

第 6 節 四戸遺跡出土の墨書・刻書土器 …… 304

第 7 節 四戸遺跡周辺の地質について …… 309

第 8 節 まとめ …… 320

報告書抄録

観察表編(第 3 分冊)

凡例

表 目次

遺構一覧表 …… 1

遺物観察表 …… 47

写真図版編(第 4 分冊)

写真図版 目次

遺構写真図版

遺物写真図版

本文編 1 目 次

本文編 1 (第 1 分冊)	1 区 6 号竪穴建物	32
口絵	1 区 11 号竪穴建物	36
序	1 区 12 号竪穴建物	37
例言	1 区 14 号竪穴建物	39
凡例	1 区 15 号竪穴建物	41
総目次	1 区 16 号竪穴建物	43
本文編 1 目次	1 区 17 号竪穴建物	43
本文編 1 挿図目次・表目次	1 区 18 号竪穴建物	47
	1 区 19 号竪穴建物	48
	1 区 20 号竪穴建物	50
第 1 章 調査に至る経緯、方法と経過	1 区 21 号竪穴建物	57
第 1 節 上信自動車道	1 区 22 号竪穴建物	57
吾妻西バイパスについて	1 区 23 号竪穴建物	59
第 2 節 調査に至る経緯	1 区 24 号竪穴建物	61
第 3 節 調査の方法	1 区 25 号竪穴建物	64
第 1 項 調査区とグリッドの設定	1 区 26 号竪穴建物	67
第 2 項 発掘調査の方法	1 区 27 号竪穴建物	69
第 4 節 調査の経過	1 区 29 号竪穴建物	73
第 1 項 発掘調査の経過	1 区 30 号竪穴建物	78
第 2 項 整理事業の経過	第 3 項 古代(7 世紀後半以降)の遺構と遺物	82
	(1)概要	82
	(2)竪穴建物	82
	1 区 2 号竪穴建物	82
	1 区 3 号竪穴建物	82
	1 区 5 号竪穴建物	82
	1 区 8 号竪穴建物	83
	1 区 9 号竪穴建物	85
	1 区 10 号竪穴建物	87
	1 区 13 号竪穴建物	95
	1 区 28 号竪穴建物	96
	1 区 32 号竪穴建物	102
	(3)掘立柱建物	103
	1 区 2 号掘立柱建物	103
	1 区 3 号掘立柱建物	103
	(4)土坑	103
	(5)畠	118
第 2 章 遺跡の地理的・歴史的環境		
第 1 節 地理的環境		
第 2 節 歴史的環境		
第 3 章 基本層序		
第 4 章 検出された遺構と遺物		
第 1 節 1 区の遺構と遺物		
第 1 項 縄文時代の遺構と遺物		
(1)概要		
(2)遺構外出土遺物		
第 2 項 古墳時代の遺構と遺物		
(1)概要		
(2)竪穴建物		
1 区 1 号竪穴建物		
1 区 4 号竪穴建物		

(6)道	119	2区14号竪穴建物	201
第4項 中世以降の遺構と遺物	120	2区17号竪穴建物	212
(1)概要	120	2区18号竪穴建物	212
(2)掘立柱建物	120	2区22号竪穴建物	216
1区1号掘立柱建物	120	2区25号竪穴建物	220
1区4号掘立柱建物	120	2区28号竪穴建物	226
(3)柱穴列	120	2区31号竪穴建物	227
(4)土坑	123	2区32号竪穴建物	231
(5)墓壇	150	2区35号竪穴建物	232
(6)ピット	151	2区36号竪穴建物	237
(7)鍛冶遺構	151	2区37号竪穴建物	238
(8)溝	152	2区40号竪穴建物	246
(9)畠	153	2区41号竪穴建物	248
第5項 遺構外出土遺物	156	2区45号竪穴建物	257
(1)土器類	156	2区53号竪穴建物	259
(2)石製品	156	2区54号竪穴建物	262
(3)金属製品	156	2区55号竪穴建物	262
		2区56号竪穴建物	264
第2節 2区の遺構と遺物	163	2区57号竪穴建物	269
第1項 縄文時代の遺構と遺物	164	2区58号竪穴建物	270
(1)概要	164	2区59号竪穴建物	276
(2)竪穴建物	164	2区63号竪穴建物	276
2区102号竪穴建物	164	2区65号竪穴建物	280
2区103号竪穴建物	164	2区68号竪穴建物	284
2区104号竪穴建物	165	2区71号竪穴建物	285
(3)遺構外出土遺物	165	2区73号竪穴建物	290
第2項 古墳時代の遺構と遺物	173	2区74号竪穴建物	290
(1)概要	173	2区75号竪穴建物	294
(2)竪穴建物	173	2区76号竪穴建物	297
2区2号竪穴建物	173	2区77号竪穴建物	299
2区3号竪穴建物	174	2区81号竪穴建物	300
2区4号竪穴建物	174	2区82号竪穴建物	303
2区5号竪穴建物	179	2区83号竪穴建物	305
2区7号竪穴建物	180	2区84号竪穴建物	308
2区8号竪穴建物	185	2区85号竪穴建物	310
2区9号竪穴建物	191	2区86号竪穴建物	313
2区10号竪穴建物	195	2区87号竪穴建物	314
2区11号竪穴建物	199	2区89号竪穴建物	323
2区12号竪穴建物	200	2区92号竪穴建物	325
2区13号竪穴建物	201	2区93号竪穴建物	326

2区95号竪穴建物	326	2区88号竪穴建物	445
2区96号竪穴建物	331	2区90号竪穴建物	452
2区100号竪穴建物	335	2区91号竪穴建物	454
2区101号竪穴建物	335	2区94号竪穴建物	455
第3項 古代(7世紀後半以降)の遺構と遺物	339	2区99号竪穴建物	455
(1)概要	339	(3)竪穴遺構	463
(2)竪穴建物	339	(4)掘立柱建物	463
2区6号竪穴建物	339	2区1号掘立柱建物	463
2区15号竪穴建物	340	2区2号掘立柱建物	464
2区19号竪穴建物	345	2区3号掘立柱建物	464
2区20号竪穴建物	345	2区4号掘立柱建物	464
2区21号竪穴建物	348	2区5号掘立柱建物	465
2区26号竪穴建物	353	2区6号掘立柱建物	465
2区27号竪穴建物	354	(5)土坑	465
2区29号竪穴建物	360	(6)ピット	475
2区30号竪穴建物	360	(7)畠	477
2区33号竪穴建物	364	(8)水田	478
2区34号竪穴建物	365	第4項 中世以降の遺構と遺物	478
2区38号竪穴建物	368	(1)概要	478
2区39号竪穴建物	373	(2)土坑	478
2区42号竪穴建物	377	(3)溝	489
2区43号竪穴建物	387	(4)畠	499
2区44号竪穴建物	391	第5項 遺構外出土遺物	503
2区46号竪穴建物	398	(1)土器類	503
2区47号竪穴建物	399	(2)石製品	503
2区48号竪穴建物	403	(3)金属製品	503
2区49号竪穴建物	409		
2区50号竪穴建物	411		
2区51号竪穴建物	412		
2区52号竪穴建物	417		
2区61号竪穴建物	418		
2区62号竪穴建物	420		
2区66号竪穴建物	421		
2区67号竪穴建物	429		
2区69号竪穴建物	430		
2区70号竪穴建物	430		
2区72号竪穴建物	436		
2区78号竪穴建物	437		
2区79号竪穴建物	437		
2区80号竪穴建物	444		

本文編 1 挿図目次

第1図	上信自動車道計画路線図	1	第64図	1区9号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物(1)	91	
第2図	遺跡の位置	2	第65図	1区9号竪穴建物	出土遺物(2)	92	
第3図	上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各遺跡位置図	3	第66図	1区9号竪穴建物	出土遺物(3)	93	
第4図	調査区設定図および調査年度	5	第67図	1区9号竪穴建物	出土遺物(4)	94	
第5図	四戸遺跡全体図	11・12	第68図	1区9号竪穴建物	出土遺物(5)	95	
第6図	周辺地形分類図	14	第69図	1区10号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	96	
第7図	周辺遺跡位置図	18	第70図	1区13号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	97	
第8図	各調査区の基本層序	23	第71図	1区13号竪穴建物	出土遺物	98	
第9図	4-A 1区 北側トレンチ内土層結果	24	第72図	1区28号竪穴建物	床面 平・断面図	99	
第10図	1区 第1・2面遺構配置図	25・26	第73図	1区28号竪穴建物	床面下 平・断面図	100	
第11図	1区 細区割り図	27	第74図	1区28号竪穴建物	出土遺物	101	
第12図	1区縄文時代遺構外出土遺物	28	第75図	1区32号竪穴建物	床面 平・断面図	102	
第13図	1区1号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	30	第76図	1区2号掘立柱建物	平・断面図	104
第14図	1区1号竪穴建物	出土遺物	31	第77図	1区3号掘立柱建物	平・断面図	105
第15図	1区4号竪穴建物	床面 平・断面図	33	第78図	1区1・3・4・7～10・13・16号土坑	平・断面図	113
第16図	1区4号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物(1)	34	第79図	1区18・21・28～31・34号土坑	平・断面図	114
第17図	1区4号竪穴建物	出土遺物(2)	35	第80図	1区43・47・48・57・67・84・85・95号土坑	平・断面図	115
第18図	1区6号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図、出土遺物	36	第81図	1区99・101・102・113～115・127・129号土坑	平断面図	116
第19図	1区11号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	38	第82図	1区130～132号土坑	平・断面図	117
第20図	1区11号竪穴建物	出土遺物	39	第83図	1区21・31・57・129号土坑	出土遺物	118
第21図	1区12号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	40	第84図	1区3号畠 断面、1号道 平面図	119	
第22図	1区12号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物	41	第85図	1区1・4号掘立柱建物、1号柱穴列	平・断面図	121・122
第23図	1区14号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図、出土遺物	42	第86図	1区2・6・14・15・22・24・25・33号土坑	平・断面図	141
第24図	1区15・16号竪穴建物	床面 平・断面図	44	第87図	1区32・35～39号土坑	平・断面図	142
第25図	1区15号竪穴建物	カマド 平・断面図	45	第88図	1区40～42・44・49・51・52号土坑	平・断面図	143
第26図	1区15号竪穴建物	出土遺物(1)	46	第89図	1区45・46・53・54・58・66・68・69号土坑	平・断面図	144
第27図	1区15号竪穴建物	出土遺物(2)	47	第90図	1区71・72・76～80号土坑	平・断面図	145
第28図	1区17号竪穴建物	床面 平・断面図	49	第91図	1区73・74・81～83・86・88・90号土坑	平・断面図	146
第29図	1区17号竪穴建物	出土遺物	50	第92図	1区91～93・96・98・100・103・104・106・107号土坑	平・断面図	147
第30図	1区18号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	51	第93図	1区105・108～112・117・118号土坑	平・断面図	148
第31図	1区18号竪穴建物	出土遺物	52	第94図	1区119・122・123・134・135号土坑	平・断面図	149
第32図	1区19号竪穴建物	床面 平・断面図	53	第95図	1区71・86・122号土坑	出土遺物	150
第33図	1区19号竪穴建物	床面下、カマド 平・断面図	54	第96図	1区1・2号墓塚	平・断面図、出土遺物	151
第34図	1区19号竪穴建物	出土遺物(1)	55	第97図	1区1号鍛冶遺構	平・断面図	152
第35図	1区19号竪穴建物	出土遺物(2)	56	第98図	1区3・5号溝	平・断面図、出土遺物	154
第36図	1区20号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	58	第99図	1区1・2号畠	平・断面図	155
第37図	1区20号竪穴建物	出土遺物	59	第100図	1区古墳時代以降遺構外出土遺物(1)	156	
第38図	1区21号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	60	第101図	1区古墳時代以降遺構外出土遺物(2)	157	
第39図	1区21号竪穴建物	出土遺物	61	第102図	2区 第1・2面 遺構配置図	159・160	
第40図	1区22号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	62	第103図	2区 第3面 遺構配置図	161・162	
第41図	1区22号竪穴建物	カマド 平・断面図	63	第104図	2区 細区割り図	163	
第42図	1区22号竪穴建物	出土遺物	64	第105図	2区102～104号竪穴建物	平面図	166
第43図	1区23号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	65	第106図	2区102号竪穴建物	出土遺物	167
第44図	1区24号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	66	第107図	2区103号竪穴建物	出土遺物	168
第45図	1区25号竪穴建物	床面 平・断面図	68	第108図	2区104号竪穴建物	出土遺物	169
第46図	1区25号竪穴建物	床面下 平面図	69	第109図	2区縄文時代遺構外出土遺物(1)	170	
第47図	1区25号竪穴建物	カマド 平・側面図(1)	70	第110図	2区縄文時代遺構外出土遺物(2)	171	
第48図	1区25号竪穴建物	カマド 平・断面図(2)	71	第111図	2区縄文時代遺構外出土石器	172	
第49図	1区25号竪穴建物	出土遺物(1)	72	第112図	2区2号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	175
第50図	1区25号竪穴建物	出土遺物(2)	73	第113図	2区3号竪穴建物	床面 平・断面図	176
第51図	1区26号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	74	第114図	2区3号竪穴建物	カマド 平・断面図	177
第52図	1区27号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	75	第115図	2区3号竪穴建物	出土遺物	178
第53図	1区27号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物(1)	76	第116図	2区4号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	180
第54図	1区27号竪穴建物	出土遺物(2)	77	第117図	2区5号竪穴建物	床面 平・断面図	181
第55図	1区29号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図、出土遺物	79	第118図	2区5号竪穴建物	カマド 平・断面図	182
第56図	1区30号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	80	第119図	2区5号竪穴建物	出土遺物(1)	183
第57図	1区30号竪穴建物	床面下 平・断面図、出土遺物	81	第120図	2区5号竪穴建物	出土遺物(2)	184
第58図	1区2・3・5号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	84	第121図	2区7号竪穴建物	床面 平・断面図	186
第59図	1区8号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	86	第122図	2区7号竪穴建物	カマド 平・断面図(1)	187
第60図	1区8号竪穴建物	カマド 平・断面図	87	第123図	2区7号竪穴建物	カマド 平・正面・側面図(2)	188
第61図	1区8号竪穴建物	出土遺物(1)	88	第124図	2区7号竪穴建物	カマド 平面図(3)、出土遺物	189
第62図	1区8号竪穴建物	出土遺物(2)	89	第125図	2区8号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図、	
第63図	1区9号竪穴建物	床面 平・断面図	90				

	出土遺物	190	第190図	2区57号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	272	
第126図	2区9号竪穴建物	床面 平・断面図	192	第191図	2区58号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	273
第127図	2区9号竪穴建物	カマド 平・断面図	193	第192図	2区58号竪穴建物	出土遺物(1)	274
第128図	2区9号竪穴建物	出土遺物	194	第193図	2区58号竪穴建物	出土遺物(2)	275
第129図	2区10号竪穴建物	床面 平・断面図	196	第194図	2区59号竪穴建物	遺物出土図、床面、カマド 平断面図	277
第130図	2区10号竪穴建物	床面下 平・断面図	197	第195図	2区59号竪穴建物	出土遺物(1)	278
第131図	2区10号竪穴建物	カマド1～4 平・断面図	198	第196図	2区59号竪穴建物	出土遺物(2)	279
第132図	2区10号竪穴建物	出土遺物	199	第197図	2区63号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	281
第133図	2区11号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	202	第198図	2区65号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	282
第134図	2区12号竪穴建物	床面 平・断面図	203	第199図	2区65号竪穴建物	出土遺物(1)	283
第135図	2区12号竪穴建物	カマド 平・断面図	204	第200図	2区65号竪穴建物	出土遺物(2)	284
第136図	2区12号竪穴建物	出土遺物(1)	205	第201図	2区68号竪穴建物	床面 平・断面図	286
第137図	2区12号竪穴建物	出土遺物(2)	206	第202図	2区68号竪穴建物	床面下、カマド 平・断面図	287
第138図	2区13号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図、 出土遺物	207	第203図	2区68号竪穴建物	出土遺物	288
第139図	2区14号竪穴建物	床面、カマド1 平・断面図	209	第204図	2区71号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図、 出土遺物	289
第140図	2区14号竪穴建物	床面下、カマド2 平・断面図	210	第205図	2区73号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図、 出土遺物	291
第141図	2区14号竪穴建物	出土遺物	211	第206図	2区74号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	292
第142図	2区17号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	214	第207図	2区74号竪穴建物	出土遺物	293
第143図	2区17号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物	215	第208図	2区75号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	295
第144図	2区18号竪穴建物	床面(18A)、カマド1 平・断面図	217	第209図	2区75号竪穴建物	出土遺物	296
第145図	2区18号竪穴建物	床面下(18B・C) 平・断面図	218	第210図	2区76号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	298
第146図	2区18号竪穴建物	出土遺物	219	第211図	2区76号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物	299
第147図	2区22号竪穴建物	床面(カマド1期) 平・断面図	221	第212図	2区77号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	301
第148図	2区22号竪穴建物	床面(カマド2期) 平・断面図	222	第213図	2区77号竪穴建物	出土遺物(1)	302
第149図	2区22号竪穴建物	カマド1 平・断面図、側面図	223	第214図	2区77号竪穴建物	出土遺物(2)	303
第150図	2区22号竪穴建物	床面下、カマド2 平・断面図	224	第215図	2区81号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	304
第151図	2区22号竪穴建物	出土遺物(1)	225	第216図	2区81号竪穴建物	出土遺物	305
第152図	2区22号竪穴建物	出土遺物(2)	226	第217図	2区82号竪穴建物	床面 平・断面図	306
第153図	2区25号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物(1)	228	第218図	2区82号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物	307
第154図	2区25号竪穴建物	床面下 平面図、出土遺物(2)	229	第219図	2区83号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	309
第155図	2区28号竪穴建物	床面 平・断面図	230	第220図	2区83号竪穴建物	出土遺物	310
第156図	2区28号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物	231	第221図	2区84号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	311
第157図	2区31号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	233	第222図	2区84号竪穴建物	出土遺物	312
第158図	2区32号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	234	第223図	2区85号竪穴建物	床面、床面下、カマド 平・断面図、 出土遺物	315
第159図	2区32号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物(1)	235	第224図	2区86号竪穴建物	遺物出土図、床面、床面下、カマド 平・断面図	316
第160図	2区32号竪穴建物	出土遺物(2)	236	第225図	2区86号竪穴建物	出土遺物(1)	317
第161図	2区35号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	239	第226図	2区86号竪穴建物	出土遺物(2)	318
第162図	2区36号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	240	第227図	2区86号竪穴建物	出土遺物(3)	319
第163図	2区36号竪穴建物	床面下、カマド 平・断面図	241	第228図	2区86号竪穴建物	出土遺物(4)	320
第164図	2区37号竪穴建物	床面 平・断面図	242	第229図	2区87号竪穴建物	床面、床面下、カマド 平・断面図	321
第165図	2区37号竪穴建物	床面下、カマド 平・断面図	243	第230図	2区87号竪穴建物	出土遺物(1)	322
第166図	2区37号竪穴建物	出土遺物(1)	244	第231図	2区87号竪穴建物	出土遺物(2)	323
第167図	2区37号竪穴建物	出土遺物(2)	245	第232図	2区89号竪穴建物	床直、カマド 平・断面図、 出土遺物	324
第168図	2区37号竪穴建物	出土遺物(3)	246	第233図	2区92号竪穴建物	床直 平・断面図	327・328
第169図	2区40A号竪穴建物	床面 平・断面図	249	第234図	2区92号竪穴建物	カマド1 平・断面図、 出土遺物(1)	329
第170図	2区40A号竪穴建物	カマド 平・断面図	250	第235図	2区92号竪穴建物	カマド2 平・断面図、 出土遺物(2)	330
第171図	2区40A号竪穴建物	床面下 平・断面図	251	第236図	2区93号竪穴建物	床直 平・断面図、出土遺物	331
第172図	2区40B号竪穴建物	床面下 平・断面図	252	第237図	2区95号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図、 出土遺物	332
第173図	2区40C号竪穴建物	床面下 平・断面図	253	第238図	2区96号竪穴建物	床面 平・断面図	333
第174図	2区40A号竪穴建物	出土遺物(1)	254	第239図	2区96号竪穴建物	出土遺物	334
第175図	2区40A号竪穴建物	出土遺物(2)	255	第240図	2区100号竪穴建物	床面 平・断面図	336
第176図	2区41号竪穴建物	床面 平・断面図	256	第241図	2区100号竪穴建物	床面下 平面図、出土遺物	337
第177図	2区41号竪穴建物	床面下 平面図	257	第242図	2区101号竪穴建物	床面 平・断面図 出土遺物	338
第178図	2区41号竪穴建物	カマド1・2 平・断面図	258	第243図	2区6号竪穴建物	床面 平・断面図	341
第179図	2区41号竪穴建物	出土遺物	259	第244図	2区6号竪穴建物	床面下、カマド 平・断面図	342
第180図	2区45号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	260	第245図	2区6号竪穴建物	出土遺物	343
第181図	2区45号竪穴建物	出土遺物	261	第246図	2区15号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	344
第182図	2区53号竪穴建物	床面 平・断面図	263	第247図	2区19号竪穴建物	床面、床面下、カマド 平・断面図	346
第183図	2区53号竪穴建物	カマド 平・断面図	264				
第184図	2区53号竪穴建物	出土遺物	265				
第185図	2区54号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	266				
第186図	2区54号竪穴建物	出土遺物	267				
第187図	2区55号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	268				
第188図	2区55号竪穴建物	出土遺物	269				
第189図	2区56号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図、 出土遺物	271				

第248図	2区19号竪穴建物	カマド側面図、出土遺物	347	第313図	2区61号竪穴建物	出土遺物(2)	424
第249図	2区20号竪穴建物	床面 平・断面図	349	第314図	2区61号竪穴建物	出土遺物(3)	425
第250図	2区20号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物(1)	350	第315図	2区61号竪穴建物	出土遺物(4)	426
第251図	2区20号竪穴建物	出土遺物(2)	351	第316図	2区62号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	427
第252図	2区21号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	352	第317図	2区62号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物	428
第253図	2区21号竪穴建物	出土遺物	353	第318図	2区66号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	431
第254図	2区26号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物(1)	355	第319図	2区67号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	432
第255図	2区26号竪穴建物	出土遺物(2)	356	第320図	2区67号竪穴建物	出土遺物(1)	433
第256図	2区26号竪穴建物	カマド 平・断面図	357	第321図	2区67号竪穴建物	出土遺物(2)	434
第257図	2区27号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	358	第322図	2区69号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	435
第258図	2区27号竪穴建物	カマド 平・断面図、出土遺物	359	第323図	2区70号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	438
第259図	2区29号竪穴建物	床面 平・断面図	361	第324図	2区70号竪穴建物	出土遺物(1)	439
第260図	2区29号竪穴建物	出土遺物	362	第325図	2区70号竪穴建物	出土遺物(2)	440
第261図	2区30号竪穴建物	床面、床面下、カマド 平・断面図	363	第326図	2区70号竪穴建物	出土遺物(3)	441
第262図	2区30号竪穴建物	出土遺物	364	第327図	2区72号竪穴建物	床面、床面下、カマド 平・断面図	442
第263図	2区33号竪穴建物	床面、床面下、カマド 平・断面図	366	第328図	2区72号竪穴建物	出土遺物	443
第264図	2区33号竪穴建物	出土遺物	367	第329図	2区78号竪穴建物	床面 平・断面図	444
第265図	2区34号竪穴建物	床面 平・断面図	369	第330図	2区79号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図、 出土遺物	446
第266図	2区34号竪穴建物	床面下 平面図、カマド 平・断面図	370	第331図	2区80号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	447
第267図	2区34号竪穴建物	出土遺物(1)	371	第332図	2区80号竪穴建物	カマド 平・断面図、側面図	448
第268図	2区34号竪穴建物	出土遺物(2)	372	第333図	2区88号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物(1)	449
第269図	2区34号竪穴建物	出土遺物(3)	373	第334図	2区88号竪穴建物	カマド 平・断面図、側面図	450
第270図	2区38号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	374	第335図	2区88号竪穴建物	出土遺物(2)	451
第271図	2区38号竪穴建物	カマド 平・断面図、側面図	375	第336図	2区90号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	453
第272図	2区38号竪穴建物	出土遺物	376	第337図	2区90号竪穴建物	出土遺物	454
第273図	2区39号竪穴建物	床面 平・断面図	378	第338図	2区91号竪穴建物	床面、床面下 平・断面図	456
第274図	2区39号竪穴建物	床面2(炭化材出土)、 床面下 平面図	379	第339図	2区91号竪穴建物	カマド 平・断面図、側面図	457
第275図	2区39号竪穴建物	カマド 平・断面図、側面図	380	第340図	2区91号竪穴建物	出土遺物(1)	458
第276図	2区39号竪穴建物	出土遺物(1)	381	第341図	2区91号竪穴建物	出土遺物(2)	459
第277図	2区39号竪穴建物	出土遺物(2)	382	第342図	2区94号竪穴建物	床直、床面下 平・断面図	460
第278図	2区39号竪穴建物	出土遺物(3)	383	第343図	2区94号竪穴建物	出土遺物	461
第279図	2区39号竪穴建物	出土遺物(4)	384	第344図	2区99号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	462
第280図	2区39号竪穴建物	出土遺物(5)	385	第345図	2区1号竪穴遺構	平・断面図	463
第281図	2区39号竪穴建物	出土遺物(6)	386	第346図	2区1・2号掘立柱建物	平・断面図	469
第282図	2区42号竪穴建物	床面 平・断面図	387	第347図	2区3・4号掘立柱建物	平・断面図	470
第283図	2区42号竪穴建物	床面下、カマド 平・断面図	388	第348図	2区5・6号掘立柱建物	平・断面図	471
第284図	2区42号竪穴建物	出土遺物(1)	389	第349図	2区2・121・122・136・138号土坑	平・断面図	472
第285図	2区42号竪穴建物	出土遺物(2)	390	第350図	2区139~142・145・146号土坑	平・断面図	473
第286図	2区43号竪穴建物	床面 平・断面図	392	第351図	2区土坑出土遺物(1)		474
第287図	2区43号竪穴建物	床面下、カマド 平・断面図	393	第352図	2区土坑出土遺物(2)		475
第288図	2区43号竪穴建物	出土遺物(1)	394	第353図	2区ピット出土遺物		476
第289図	2区43号竪穴建物	出土遺物(2)	395	第354図	2区古代畠・水田 平面図(1)		479
第290図	2区44号竪穴建物	床面、床面下、カマド 平・断面図	396	第355図	2区古代畠・水田 平面図(2)		480
第291図	2区44号竪穴建物	出土遺物	397	第356図	2区南壁 断面図(1)		481
第292図	2区46号竪穴建物	床面 平・断面図	399	第357図	2区南壁 断面図(2)		482
第293図	2区46号竪穴建物	カマド 平・断面図、側面図	400	第358図	2区3・4・20・30・51・54・57・61号土坑 平・ 断面図		490
第294図	2区46号竪穴建物	出土遺物(1)	401	第359図	2区68~71・73号土坑 平・断面図		491
第295図	2区46号竪穴建物	出土遺物(2)	402	第360図	2区75・77・79・80・82・83号土坑 平・断面図		492
第296図	2区47号竪穴建物	床面 平・断面図、出土遺物	404	第361図	2区81・94・96~98・100号土坑 平・断面図		493
第297図	2区47号竪穴建物	カマド 平・断面図、側面図	405	第362図	2区115・117・119・125~131号土坑 平・断面図		494
第398図	2区48号竪穴建物	床面 平・断面図	406	第363図	2区6~14号溝 平面図		498
第399図	2区48号竪穴建物	カマド 平・断面図、側面図	407	第364図	2区1~4号畠 平面図		500
第300図	2区48号竪穴建物	出土遺物(1)	408	第365図	2区5~7号畠、3区1・2号畠 平面図		502
第301図	2区48号竪穴建物	出土遺物(2)	409	第366図	2区古墳時代以降遺構外出土遺物		504
第302図	2区49号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図	410				
第303図	2区49号竪穴建物	出土遺物	411				
第304図	2区50号竪穴建物	床面、床面下、カマド 平・断面図	413				
第305図	2区50号竪穴建物	出土遺物	414				
第306図	2区51号竪穴建物	床面、床面下、カマド他 平断面図	415				
第307図	2区51号竪穴建物	出土遺物(1)	416				
第308図	2区51号竪穴建物	出土遺物(2)	417				
第309図	2区52号竪穴建物	床面、カマド 平・断面図、出土遺物	418				
第310図	2区61号竪穴建物	床面 平・断面図	419				
第311図	2区61号竪穴建物	カマド 平・断面図、側面図	422				
第312図	2区61号竪穴建物	出土遺物(1)	423				

本文編 1 表目次

第1表	上信自動車道吾妻西バイパス調査遺跡一覧	3
第2表	周辺遺跡一覧	19

第1章 調査に至る経緯、方法と経過

第1節 上信自動車道 吾妻西バイパスについて

上信自動車道(国道145・353号バイパス)は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジを起点に、長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジへと至る総延長約80km(群馬県約65km、長野県約15km)の地域高規格道路として、平成6年12月16日に計画路線の指定を受けた。この道路は、群馬県の「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」における「吾妻軸」として位置づけられ、関越自動車道と上信越自動車道を連携し、吾妻地域の活性化支援に大きく寄与することが期待され、起点となる関越自動車道渋川伊香保インターチェンジの東側に続く前橋渋川バイパスや上武道路を含めた地域高規格道路「熊谷渋川連絡道路」とともに、本県

の広域的ネットワークを形成する重要路線である。

この上信自動車道は、起点から県境までを、渋川西バイパス(国施工区間 約5km)、金井バイパス(約1km)、川島バイパス(約2km)、祖母島～箱島バイパス(約4km)、吾妻東バイパス2期(約7km)、吾妻東バイパス(約6km)、吾妻西バイパス(約7km)、ハッ場バイパス(約9km)の各整備区間と、さらに調査区間(約26km)とに分かれている。この中には、既に現道活用や暫定供用されている区間もある。

吾妻西バイパスは、国道145号バイパスの一部となる整備区間の一つで、東吾妻町大字厚田(吾妻東バイパスとの接続地点)から東吾妻町大字松谷(供用が開始されているハッ場バイパスとの接続地点)までの区間であり、途中には吾妻川を渡る橋梁も含まれる。また、この整備区間は東吾妻町大字厚田、三島、岩下、松谷に位置し、



第1図 上信自動車道計画路線図(群馬県HP「上信自動車道」より引用 <http://www.pref.gunma.jp/contents/100010158.pdf>)

第1章 調査に至る経緯、方法と経過

特に三島地区は吾妻川を挟んだ対岸に標高802.6mの奇岩・怪岩に覆われた岩櫃山を望み、さらには四戸の古墳群(町指定史跡 昭和47年指定)や唐堀遺跡(昭和55年調査 縄文時代晩期)、三島根古屋城(中世城郭)といった埋蔵文化財があることでも知られている地区である。

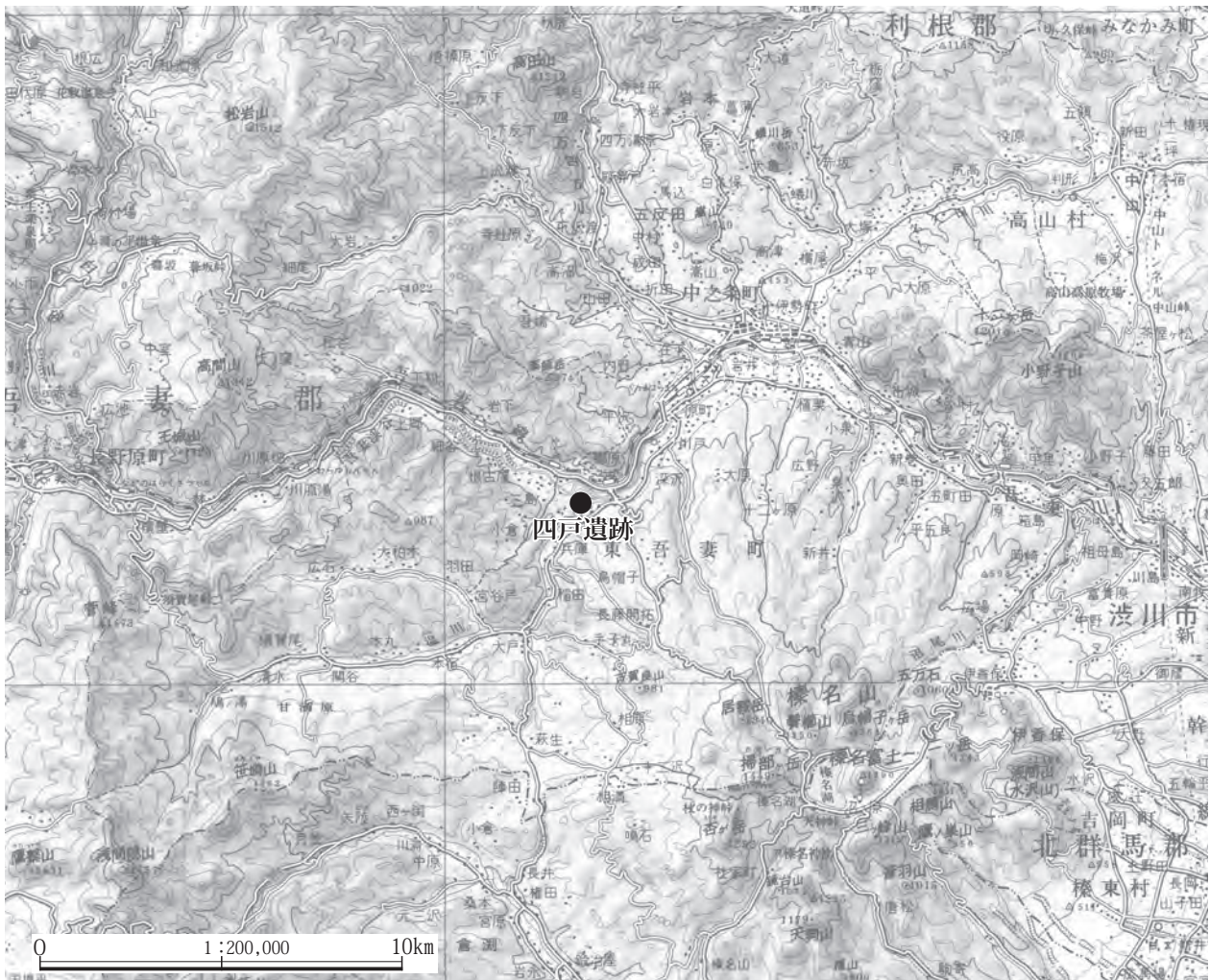
第2節 調査に至る経緯

吾妻西バイパスは、平成21年3月31日に整備区間の指定を受け、その後に路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が進められた。工事の着工に先立ち、平成23年5月13日付で工事を監理する群馬県中之条土木事務所から、当該区間における埋蔵文化財の有無と取扱について、群馬県教育委員会と協議がなされた。これを受けた群馬県教育委員

会文化財保護課では、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、用地取得の終わった箇所ごとに試掘調査を行い、その結果を中之条土木事務所に通知し、協議の結果工事の変更が不可能なことから、発掘調査による記録保存の措置が講じられることとなった。

発掘調査は、群馬県教育委員会の指導のもと、群馬県中之条土木事務所を委託者、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を受託者として委託契約を締結し、発掘調査が実施されることになった。吾妻西バイパスの最初の発掘調査は、平成25年8月からの厚田中村遺跡、同年9月からの四戸遺跡(本遺跡)で、その後、各遺跡の発掘調査が断続的に進められた。

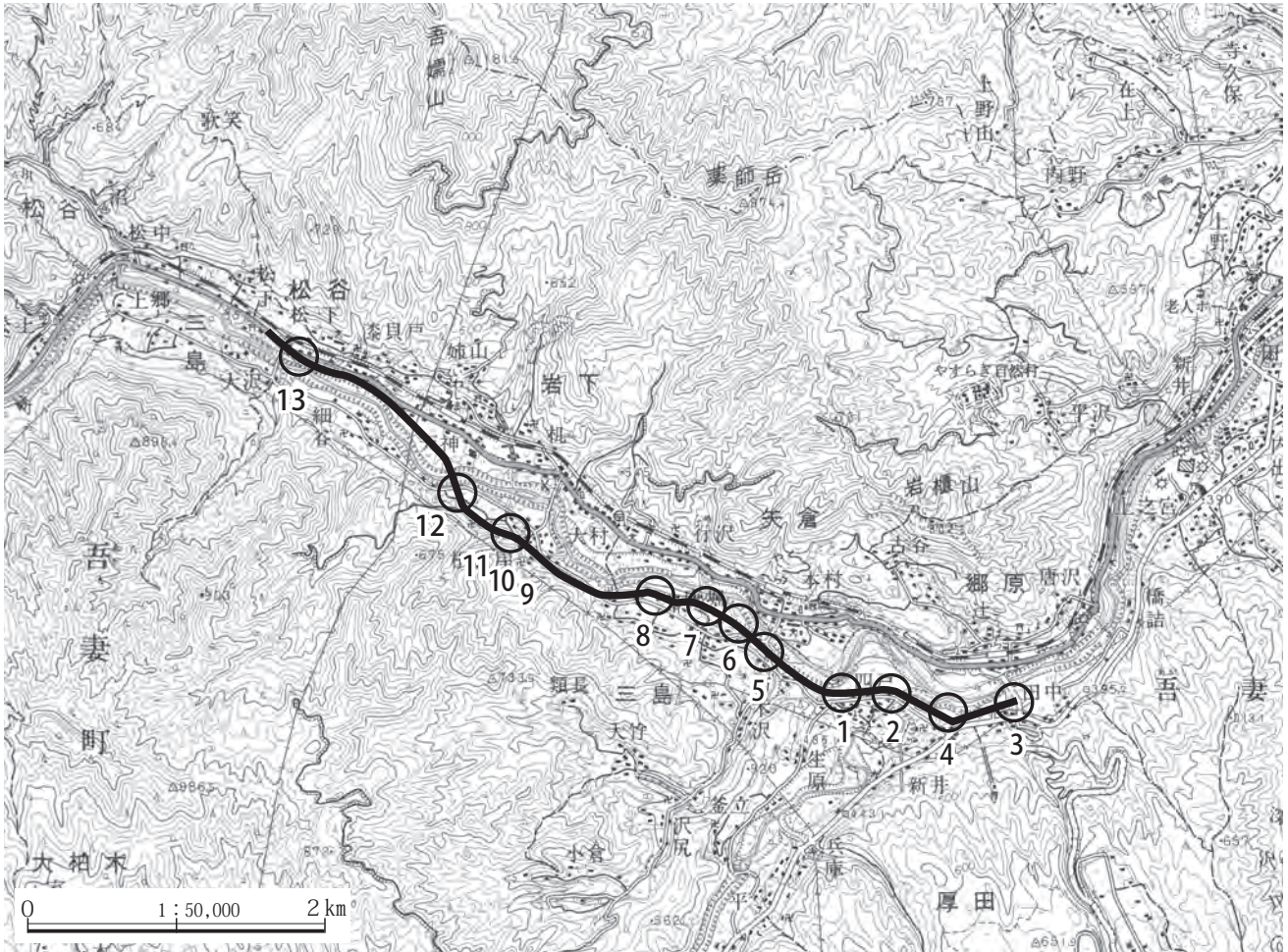
四戸遺跡の試掘調査は、平成26年1月、同年6月、同年11月、平成28年12月に行われ、その調査結果から用地内に弥生時代や古墳時代、さらには古代の集落が存在す



第2図 遺跡の位置(国土地理院 1 / 200,000地勢図「長野」平成24年5月1日を使用)

ることが明らかとなり、発掘調査が実施されることになった。発掘調査は、平成25年9月から同年11月の3ヶ月間、平成26年7月から同年10月の4ヶ月間、平成27年5月から同年12月の8ヶ月間、平成28年4月から同年10

月までと同年12月の計8ヶ月間、平成30年5月の1ヶ月間、発掘調査全体では5ヶ年度に跨って断続的に行われた。



第3図 上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各遺跡位置図(国土地理院 1/50,000地形図「草津」中中之条を使用)

第1表 上信自動車道吾妻西バイパス調査遺跡一覧

	遺跡名	調査年度						
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
1	四戸遺跡	○	○	○	○		○	
2	四戸の古墳群						○	
3	厚田中村遺跡	○	○		○			
4	新井遺跡		○		○		○	
5	万木沢B遺跡			○		○		
6	唐堀B遺跡		○	○				
7	唐堀遺跡			○	○	○	○	
8	唐堀C遺跡				○		○	
9	根小屋城跡				○			
10	根小屋B遺跡				○			
11	根小屋城跡				○		○	○
12	細谷E遺跡				○			
13	松谷松下遺跡							○

(令和元年12月現在)

第3節 調査の方法

第1項 調査区とグリッドの設定

本遺跡の発掘調査は、用地取得の進捗により平成25年度から平成28・30年度の5ヶ年度に跨がって進められ、発掘調査の初年度となる平成25年度調査箇所を1区、平成26年度調査箇所を3区と呼称していたため、平成27年度調査箇所となる1区と3区の間を2区、3区の東側で町道から北に延びる農道までの間を4区、さらに1区の西側も1区に含めることで、調査範囲全体を大きく区割した。そのため、4区から東側の温川までの間は、5区（「四戸の古墳群」として平成30年度に発掘調査を行った）の区名が付されることとなる。結果、四戸遺跡の大きな調査区の設定は、遺跡の西側を画する万木沢川側から順に1区～4区と、東に向かって数字が大きくなる。

また、各調査区においては、調査年度および調査の進捗、さらには現道および地境等で調査区内の分割を行った。その結果、1区については平成25年度調査箇所を1-A区、平成27年度調査箇所を1-B区、平成28年度調査箇所を1-C区、2区は西半を2-A区、東半を2-B区として平成27・28年度に跨がって調査を行い、3区は平成26年度調査箇所を3-A区から3-D区、平成30年度調査箇所を3-E区、4区は平成27年度調査箇所を4-A1区・4-B・4-C1区・4-D区、平成30年度調査箇所では枝番を付す形で4-A2区・4-C2・3区と細分した。（第4図）

その1～4区の調査区は、世界測地系（日本測地系2000平面直角座標系第IX系）の $X=61,085\sim 61,325$ 、 $Y=-93,215\sim -93,850$ の範囲に収まり、各年度の調査表面積は平成25年度では $2,346.05\text{ m}^2$ 、平成26年度は $5,301.61\text{ m}^2$ 、平成27年度は $11,999.00\text{ m}^2$ 、平成28年度は $6,428.92\text{ m}^2$ （この内 4938.17 m^2 は、平成27年度からの継続調査分）、平成30年度は 963.14 m^2 であり、総調査表面積は $22,100.55\text{ m}^2$ となる。

グリッドの設定は、四戸遺跡（四戸の古墳群を含む）に関わる用地全域をカバーできるように、東の温川西岸から西の万木沢川東岸までの間を対象とし、世界測地系（日本測地系2000平面直角座標系第IX系）の $X=61,000$ 、 Y

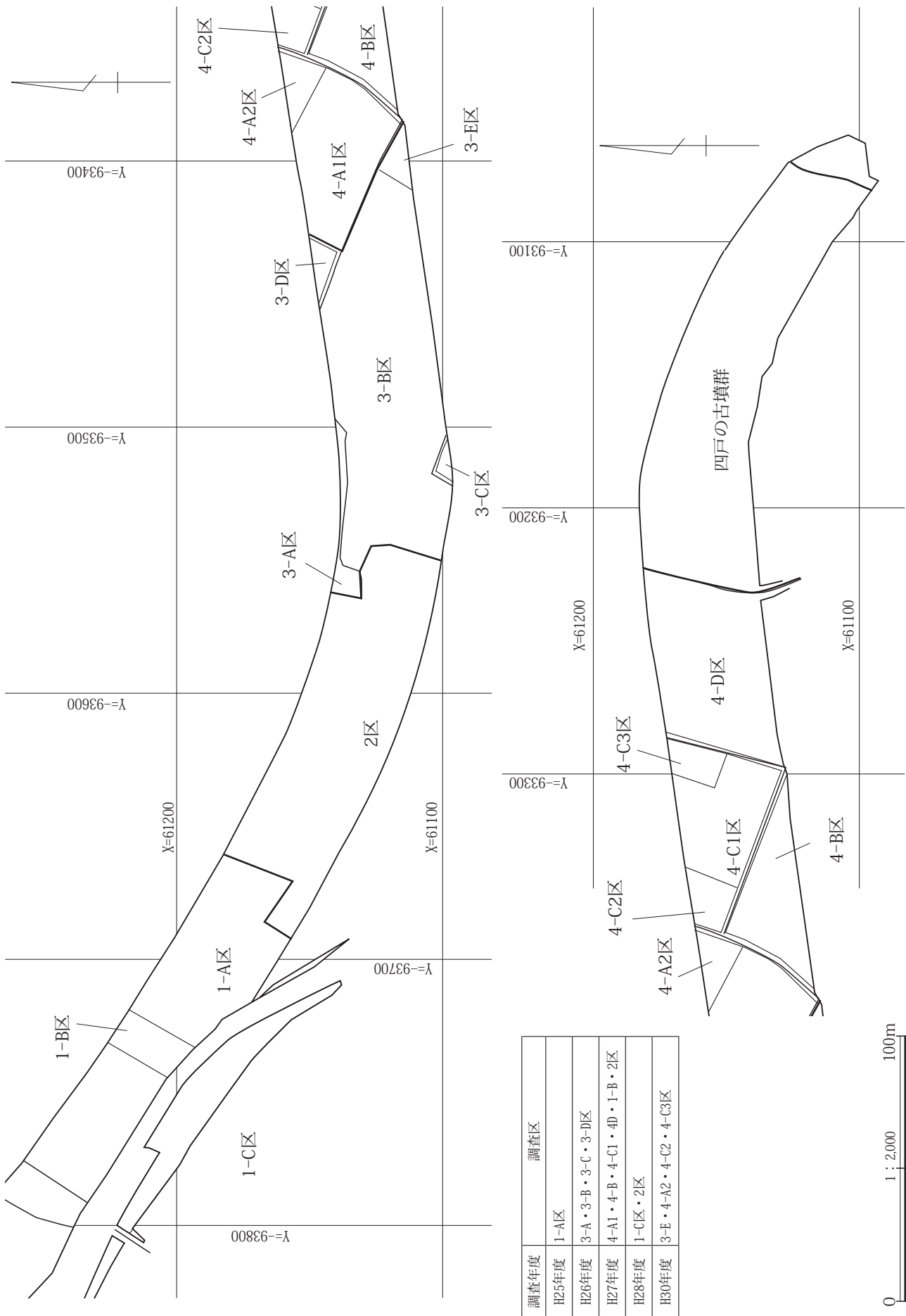
$=-93,000$ を基点として、1区画5m四方のグリッドを割り付けた。基点からX軸となる南から北へA～Z・2A～2Z・3A～3Z、Y軸となる東から西へ1～180を付し、各グリッドを呼称した。

第2項 発掘調査の方法

発掘調査は、各調査区における土層確認のためのトレンチを先行させ、表土除去に重機を使用し、表土除去後の各作業は発掘作業員により実施した。遺構確認作業はジョレンを用いて行い、面的な遺構の把握に努めた。遺構確認は地点により異なるが、浅間-粕川テフラ（As-Kk 基本土層II層）の痕土層下面ないし基本土層V層上面（As-Bの下面）を確認面とし、第1面調査となる平安時代後半および中・近世までの遺構を検出した。この第1面で検出された遺構の種類には、中・近世の数多くの土坑および島、溝、そして平安時代後半の島と水田がある。その後、基本土層VII層上位ないし基本土層VIII層上面を確認面とした第2面調査において、弥生・古墳・奈良・平安時代といった各時代の遺構を数多く検出した。遺構の種類には、弥生時代中期から後期の竪穴建物・土坑、古墳時代初頭から末葉にかけての竪穴建物・ピット、奈良時代から平安時代前半期の竪穴建物・掘立柱建物・土坑・ピットがある。さらに、先行して行ったトレンチ内の下層から縄文土器が出土していることから、基本土層VII層下位ないしローム漸移層上面を確認面とした縄文時代の遺構を対象とする第3面調査を実施した。

各遺構の調査は、竪穴建物では土層確認のための十字のベルトを設定し、土坑は半裁して土層観察を行う等、それぞれに適した方法を用いた。数の多いピットについては、先ず半裁し、遺構と判断されたものに限って記録することとした。遺構名は、各地区毎に、遺構種別に通し番号で標記した（例：1区1号住居、2区1号住居、3区1号住居・・・）。

遺構等の測量は、平成25・26年度においては土層断面図を作業員による手実測とし、平面図と一部の断面図を測量業者に委託した。平成27・28年度においては、全ての測量図面を測量業者に委託して調査期間の短縮を図った。縮尺は、住居や土坑等については1/10、1/20、島や水田といった生産遺構については1/40を基本とし、それぞれの遺構の性格に合わせて適宜使用した。また、各調



第4図 調査区設定図及び調査年度

第1章 調査に至る経緯、方法と経過

調査区における各調査面毎の全体図は、1/100を基本に作成した。

写真撮影は、中判カメラでの白黒フィルム、デジタル撮影データの2種類を基本とした。調査区の全景写真等は、調査の進展にあわせて行い、併せてラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影を業者に委託して実施した。なお、撮影した写真のデジタルデータは、HDやDVD-ROM等のメディアに保存し、データのファイル名は、調査区・遺構略号・番号・撮影方向・内容を数値化したものに置き換えるリネーム作業を行った。

第4節 調査の経過

第1項 発掘調査の経過

発掘調査は、平成25年度調査として平成25年9月1日から同年11月30日にかけての3ヶ月間、平成26年度調査として平成26年7月1日から同年10月31日までの4ヶ月間、平成27年度調査として平成27年5月1日から同年12月31日までの8ヶ月間、平成28年度調査として平成28年4月1日同年10月までと同年12月の計8ヶ月間、平成30年5月の1ヶ月間、5ヶ年度に跨がる合計24ヶ月間を要した。

平成25年(1-A区調査)

- 9月2日 現地調査事務所の設営開始。
- 9月4日 重機による表土掘削を開始する。
- 9月10日 重機による表土掘削と併行し、作業員によるトレンチ掘削および遺構検出作業を調査区南東部から開始する。
- 9月13日 土坑、ピットの遺構調査を開始する。
- 9月20日 住居、掘立柱建物を含めた全面的な遺構調査となる。
- 10月8日 調査区北半を対象に、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影を行う。
- 10月9日 遺構調査と併行して、旧石器の試掘調査を開始する。
- 10月17日 遺構調査と併行して、重機による表土掘削を再開する(調査区西側)。
- 10月18日 重機による調査区東側の埋め戻しを行う。

- 10月24日 台風の影響により、調査中断。
- 10月29日 調査再開。遺構調査および南東部の拡張を行う。
- 11月5日 遺構調査と併行して、調査区北側トレンチを掘削する。
- 11月19日 調査区南半を対象に、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影を行う。
- 11月22日 検出された各遺構の調査を終了する。
- 11月25日 調査区全体の埋め戻しを開始する。併せて、現地調査事務所の撤収作業を始める。
- 11月29日 平成25年度の現地調査を終了する。

平成26年(3-A~D区調査)

- 7月1日 現地調査事務所の設営開始。
- 7月4日 重機による表土掘削、併せて作業員による遺構検出作業を3-A区から開始する。
- 7月16日 第1面調査として、土坑、溝、島の各遺構調査を開始する。
- 8月26日 第1面を対象に、高所作業車による調査区全景写真撮影を行う。
- 9月2日 重機による第2面の掘削、併せて遺構検出作業を開始する。
- 9月10日 第2面調査として、住居、土坑等の各遺構調査を開始する。
- 10月16日 3-A・B・D区第2面を対象に、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影を行う。
- 10月23日 重機による第3面の掘削、併せて遺構検出作業を開始する。
- 10月24日 第2・3面調査と併行して、旧石器の試掘調査を開始する。
- 10月29日 検出された各遺構・試掘調査を終了。併せて、重機による調査区全体の埋め戻し、現地調査事務所の撤収作業を始める。
- 10月31日 平成26年度の現地調査を終了する。

平成27年(4-A1区、4-B区、4-C1区、4-D区、1-B区、2-A・B区調査)

- 5月1日 現地調査事務所の設営開始。
- 5月13日 4-D区を対象に、作業員による土層確認トレンチの掘削を開始する。

- 5月14日 4-D区第1面を対象に、重機による表土掘削を開始。併せて、作業員による遺構検出作業を調査区北側から開始し、その後に遺構調査を開始する。
- 5月28日 4-D区第2面を対象に、作業員による土層確認トレンチの掘削、その後に第2面の遺構調査を始める。
- 6月8日 4-D区第2面の遺構調査に併行して、重機による本格的な掘削と、作業員による遺構検出作業を開始する。
- 6月15日 4-D区第2面調査に併行して、4-A1区および4-B区第1面を対象に、重機による表土掘削、併せて作業員による遺構検出作業を両調査区北側から開始し、その後に遺構調査へ移行する。
- 6月22日 4-B区北側第1面の全景写真撮影を行う。併行して、4-A1・D区の遺構調査を継続。なお、4-B区において、現道下に住居が跨がることを確認した。
- 6月24日 4-A1区北側第1面の全景写真撮影を行い、その後に第2面のトレンチ掘削。併行して、4-B区北側第2面のトレンチ掘削。4-D区の遺構調査は継続する。
- 6月29日 4-B区北側の埋め戻しおよび現道移設後、南側の表土掘削を開始。併せて、4-A1区北側の埋め戻し開始。4-D区の遺構調査は継続する。
- 7月3日 4-B区南側の第1面調査を終了し、4-A1区南側の表土掘削後に第1面調査を行う。4-D区の遺構調査は継続する。
- 7月7日 4-A1・B区南側の第2面遺構確認後、遺構調査を開始する。4-D区の遺構調査は継続する。
- 7月15日 4-A区南側の調査を終了し、その後埋め戻しを行う。4-B区南側と4-D区の遺構調査は継続する。
- 8月6日 4-B区南側・D区の第2面を対象に、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影を行う。
- 8月19日 4-B区南側の第2面調査を終了し、その後埋め戻し。4-D区の遺構調査は継続する。
- 8月21日 4-D区調査と併行して、同区第2面調査の終了した南側へ第3面確認トレンチの掘削を開始。併せて、4-C1区の表土掘削を開始し、第1面の遺構確認と遺構調査へ移行する。
- 8月27日 4-D区調査を終了し、本格的に埋め戻しを開始する。4-C1区の遺構調査は継続のまま。
- 8月31日 4-C1区第1面調査を終了し、その後第2面の掘削を開始する。併行して、人力による1-B区の土層確認トレンチ掘削を開始する。
- 9月2日 4-C1区第2面の遺構確認。中之条土木、文化財保護課、事業団の3者による、2区調査の事前打ち合わせを行う(調査範囲の追加)。
- 9月7日 1-B区の表土掘削を開始する。4-C1区第2面の遺構調査は継続する。
- 9月11日 1-B区の第1面調査を終了し、第2面の掘削を開始。4-C1区第2面の遺構調査は継続する。
- 9月16日 2-A区の土層確認トレンチ掘削を開始する。1-B区および4-C1区第2面の遺構調査は継続する。
- 9月19日 1-B区および4-C1区の第2面を対象に、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影を行う。
- 9月24日 2-A区の表土掘削を開始し、その後に第1面の遺構確認を開始する。1-B区および4-C1区第2面の遺構調査は継続する。
- 10月9日 2-A区第1面を対象に、高所作業車からの全景写真撮影を行う。併せて、人力による第2面の土層確認トレンチ掘削を行い、その後第2面の掘削を開始する。1-B区および4-C1区第2面の遺構調査は継続する。
- 10月14日 4-C1区の調査が終了し、埋め戻しを行う。2-A区第2面の遺構確認と共に、遺構調査を開始する。1-B区第2面の遺構調査は継続する。
- 10月21日 1-B区の調査が終了し、埋め戻しを行う。2-A区第2面の遺構確認と、遺構調査は継続する。

第1章 調査に至る経緯、方法と経過

- 10月27日 2-B区の表土掘削を開始し、その後に第1面の遺構確認を開始する。2-A区第2面の遺構調査は継続する。
- 11月5日 地元向け現地説明会を行う。
- 11月7日 2-B区第1面を対象に、高所作業車からの全景写真撮影を行う。その後、第2面の掘削および遺構確認を開始する。
- 11月17日 2-B区第2面の遺構調査を開始する。2-A区第2面の遺構調査は継続する。
- 12月4日 2区51号住居から奈良三彩短頸壺が出土。
- 12月28日 次年度調査に関わる遺構への越冬対策と、安全対策を講じ、2区南際の埋め戻しおよび水路復元を終え、27年度の現地調査を終了する。
- 平成28年(2-A・B区、1-C区調査)
- 4月4日 調査準備を開始する。
- 4月11日 前年度の継続となる2区第2面の調査を対象に、重機による掘削を開始。併せて、前年度調査面および継続調査遺構の復元作業を開始する。
- 4月13日 前年度の継続となる2区第2面を対象に、作業員による遺構確認作業を開始する。併せて、前年度遺構調査の継続を開始する。
- 4月25日 2区第1面に関わる土坑調査を開始する。2区第2面の遺構調査は継続する。
- 5月24日 2区第2面の遺構調査は継続。併行して、1-C区の安全策(単管パイプ)設置後、1-C区東側第1面を対象に、重機による表土掘削を開始した。
- 5月26日 2区第2面の遺構調査と併行し、1-C区東側第1面の作業員による遺構確認を開始する。
- 5月30日 2区第2面の遺構調査は継続。1-C区東側第1面の全景写真撮影、さらに平面図等の図化作業を終え、第1面調査を終了する。その後、1-C区東側第2面を対象に、重機による掘削を開始し、併せて作業員による遺構確認を開始した。
- 6月3日 2区第2面の遺構調査は継続。1-C区東側第2面の全景写真撮影、さらに平面図等の図化を終えて調査を終了し、埋戻しを行う。その後、1-C区西側の調査準備を開始する。
- 6月7日 2区第2面の遺構調査は継続。1-C区西側第1面を対象に、重機による表土掘削を開始し、併せて作業員による遺構確認を開始する。
- 6月15日 2区第2面の遺構調査は継続。1-C区西側第1面の全景写真、図化作業を終えて調査を終了。その後、1-C区西側第2面を対象に遺構確認を開始し、順次、各種の遺構調査へと移行する。
- 6月23日 2区第2面の遺構調査は継続。1-C区西側第2面調査は、土坑・ピットの調査から住居調査へと移行。
- 7月7日 2区第2面の遺構調査は継続。1-C区西側第2面の各遺構調査、さらに調査区内の土層断面等を完了させ、調査を終了する。その後に埋戻し開始する。
- 7月15日 1-C区西側の埋戻しを終え、現地引き渡しとなる。以後、2区第2面の調査が主となる。
- 7月29日 2区第2面東側(2-B区)を対象に、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影を行う。調査の主体は、順次、2区第2面西側(2-A区)へ移行する。
- 8月19日 2区第2面西側(2-A区)の遺構調査は継続。2区東側(2-B区)の第3面を対象とした調査準備を行い、重機による掘削と作業員による遺構確認を開始。
- 9月2日 2区第2面西側(2-A区)の遺構調査は継続。2区東側(2-B区)第3面の調査を終了する。
- 9月27日 2区第2面西側(2-A区)を対象に、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影を行う。
- 10月6日 2区第2面西側の遺構調査と併行し、部分的に第3面の遺構確認を開始し、第3面調査へと移行する。
- 10月13日 業者委託による自然化学分析のための土壌サンプルを採取し、2区調査を一端終了させる。
- 12月8日 2区の未調査箇所(追加調査)の調査を再開する(追加調査)。重機による表土掘削と、第1面の遺構確認作業を開始する。
- 12月10日 2区追加調査箇所の第1面調査を終了し、第2面を対象に重機による表土掘削と遺構確認

作業を行い、遺構調査へ移行する。

12月20日 2区追加調査箇所の埋め戻しを終了させ、28年度の現地調査を終了する。

平成30年(3-E区、4-A2区、4-C2・3区)

5月1日 各調査区(3-E区、4-A2区、4-C2・3区)の設定を行い、4-C2・3区を対象とした重機による表土掘削を開始し、併せて4-C3区への作業員による遺構確認を開始する。

5月2日 3-E区、4-A2区への重機による掘削を順に行う。併せて、各調査箇所への作業員による遺構確認を順次進める。

5月9日 3-E区第1面の全景写真撮影を行う。その後、第2面調査を開始する。

5月11日 4-A2区、4-C2・3区第1面の全景写真撮影を行う。その後、第2面調査を開始する。

5月14日 4-C3区の第2面遺構調査を開始する。

5月17日 3-E区、4-A2区への最終面の遺構確認を開始する。4-C2区の第2面遺構調査を開始する。

5月23日 各区を対象に、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影を行う。

5月28日 4-C3区の全景写真撮影および遺物取り上げ等を含めた遺構調査を終了する。

5月31日 各調査箇所の埋め戻しを終了させ、この調査をもって四戸遺跡における1～4区の現地調査を全て終了した。

第2項 整理事業の経過

整理事業は、平成25年から平成30年度に跨がって発掘調査した出土資料を対象に、平成28年4月1日から令和2年3月31日までの4ヶ年間で予定し、調査年度の異なる出土資料を順次取り込みながら1区から4区までの整理事業を行った。なお、5区(「四戸の古墳群」として平成30年度に調査)については別報告となる。

平成28年度

平成25～27年度に発掘調査された、遺構および出土遺物を対象に整理作業を行った。

出土遺物については、基礎分類を行った上で、古墳時代から平安時代の土師器・須恵器・陶器を1区→3区→4区→2区の順に接合・復元の作業を進め、報告書への掲載遺物と非掲載遺物の選別を行った。また、土師器・須恵器の一部については、掲載遺物の写真撮影、実測作業を進めた。石器・石製品についても同様な選別を行い、掲載遺物の写真撮影、実測、トレースの各作業、さらに観察記録と観察表の作製を行った。金属製品については、錆落とし等の処理まで行った。

一方、遺構測量図については、各区・各遺構毎の確認、各遺構の計測、遺構台帳の整備といった基礎作業を先行させ、その後に竪穴建物・掘立柱建物・土坑等の遺構種別に図面修正を進めた。遺構写真については、各区・各遺構毎に撮影内容等の確認を済ませ、掲載写真の選定準備を行った。さらに、原稿の執筆については、第1章と第2章を先行させ、各遺構の執筆についても適宜行った。

平成29年度

平成28年度に発掘調査された遺構および出土遺物を取り込み、整理作業を継続させた。

出土遺物については、平成28年度発掘調査分の基礎分類を行った上で、1-C区の接合・復元作業を行い、報告書への掲載遺物と非掲載遺物の選別を行った。さらに、2区の平成27年度調査分と共に古墳時代から平安時代の土師器・須恵器の接合・復元作業を進め、先行して作業が進められていた2区西側の土器について報告書への掲載遺物と非掲載遺物の選別を行った。その後、土師器・須恵器については、掲載遺物の写真撮影、実測、トレース作業を進めた。縄文・弥生土器については、平成25年度から平成28年度までの出土土器を対象に基礎分類を行い、その後に接合・復元作業を経て実測・拓本および一部のトレース作業を行った。石器・石製品についても、平成28年度発掘調査分の分類・選別を行い、掲載遺物の写真撮影、実測、トレースの各作業、さらに観察記録と観察表の作製を行った。金属製品については、錆落とし等の処理まで行った。

一方、遺構測量図については、平成28年度調査の各遺

第1章 調査に至る経緯、方法と経過

構の確認、遺構計測、遺構台帳の整備といった基礎作業を先行させ、併せて遺構写真の確認作業も行った。その後、平成28年度整理作業の継続として、竪穴建物・掘立柱建物・土坑等の遺構種別に図面修正を進めた。遺構写真については、掲載写真の選定準備を行った後、各区ごとに仮レイアウトを作成した。さらに、4区を先行させて遺構図版の仮レイアウト作成を行うと共に、各遺構原稿の執筆についても適宜行った。

平成30年度

平成30年度に発掘調査された遺構および出土遺物を取り込み、整理作業を継続させた。

出土遺物については、2区東側の土師器・須恵器の接合・復元作業を継続させ、報告書への掲載遺物と非掲載遺物の選別を行い、その後に掲載遺物の写真撮影、実測、トレース作業を進めた。縄文・弥生土器については、トレース作業を継続して終了させた。金属製品については、報告書への掲載遺物の選別、写真撮影、実測、トレース作業を進めた。また、平成30年度発掘調査分の基礎分類を行い、新たに追加資料として整理作業を開始した。

一方、遺構測量図については、平成29年度整理作業の継続として、竪穴建物・掘立柱建物・土坑等の遺構種別に図面修正を進めた。各遺構図版の仮レイアウトの作成終了後、デジタル編集をそれぞれ進めた。また、各遺構原稿の執筆についても適宜行った。なお、平成30年度調査資料についても、各遺構の確認、遺構計測、遺構台帳の整備といった基礎作業、併せて遺構写真の確認作業も取り込んで行った。

平成31年度

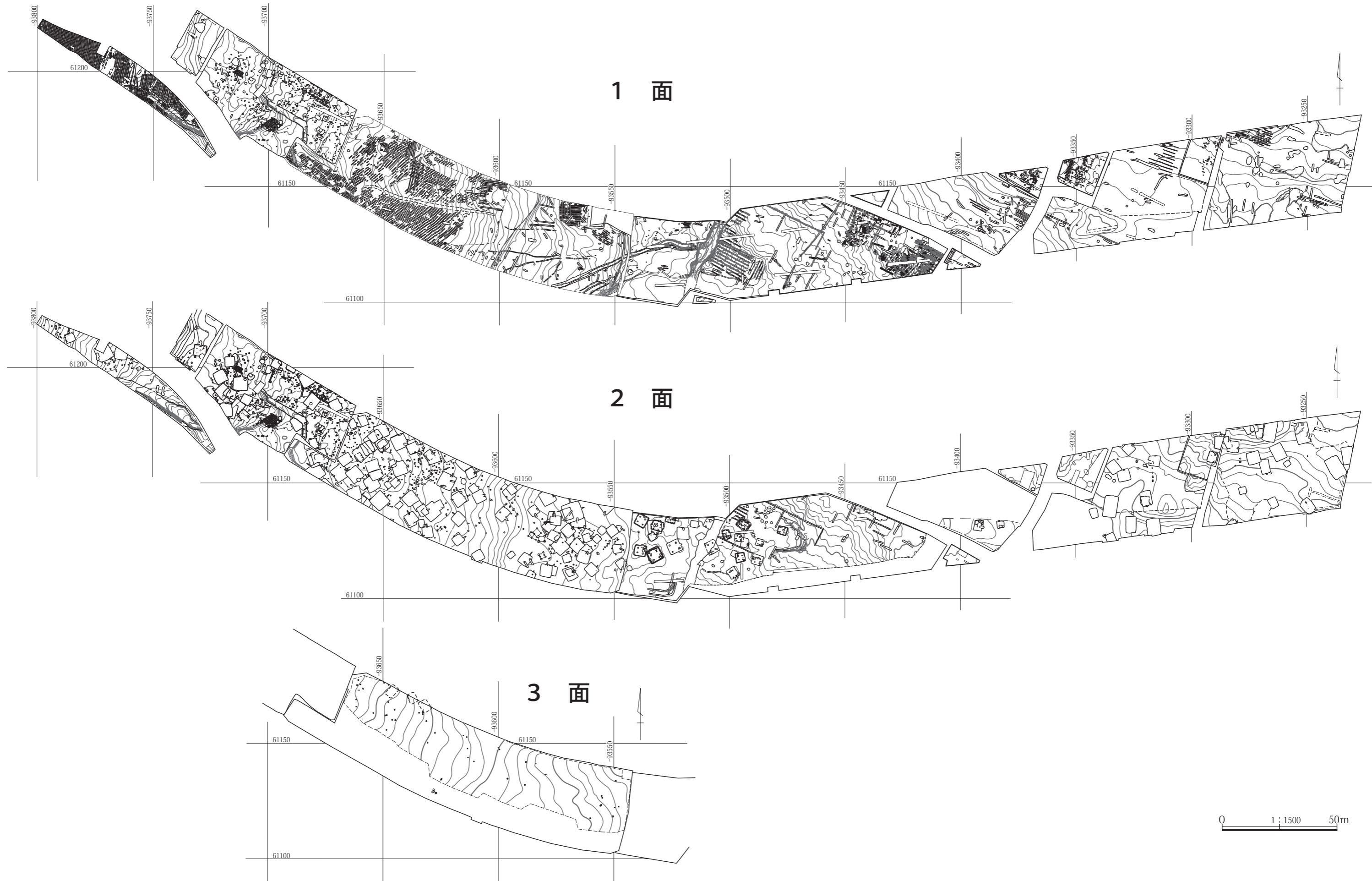
前年度の整理作業を継続し、報告書刊行に向けた執筆および編集作業を進め、遺物や資料類の収納作業を行い、整理業務の完了に努めた。

出土遺物については、2区東側の土師器・須恵器の実測、トレース作業を継続し、併せて平成30年度調査分の土器類および石器・石製品類についても報告書への掲載遺物と非掲載遺物の選別、その後に掲載遺物の写真撮影、実測、トレース作業を進めた。また、2区出土の縄文土器についても掲載遺物を増加し、鏽落とし作業を終了していた金属製品についても掲載遺物の実測、トレース作

業を進めた。さらに、これら各掲載遺物の観察記録と観察表の作成を終了させた。

一方、遺構測量図については、前年度整理作業の継続として、竪穴建物・掘立柱建物・土坑等の遺構種別に図面修正、各遺構図版の仮レイアウトの作成、それらの作業終了後にデジタル編集をそれぞれ進めた。また、各遺構を含めた本文原稿の執筆、各種表の作成等を行った。その後、報告書版下のレイアウト作成、全体のデジタル編集作業およびデジタル組版を行い、印刷・製本を業者委託して発掘調査報告書を刊行した。また、整理した遺物や写真等については、管理台帳を作成し、活用に備えて遺物や資料類の収納作業を行い、すべての整理業務を完了した。

なお、四戸遺跡の全体図を第5図に示した。



0 1 : 1500 50m

第5図 四戸遺跡全体図

第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

四戸遺跡は、群馬県北西部となる吾妻郡東吾妻町の西部に位置し、J R 吾妻線郷原駅から南西に約1 km、J R 吾妻線矢倉駅から南東に約0.8kmの距離にあり、吾妻郡東吾妻町大字三島字四戸に所在する。吾妻川が大きく蛇行する右岸で、西に万木沢川、東に温川が北流し吾妻川に合流する段丘上に位置する。標高は410m前後で、温川に面する段丘上の東縁には四戸の古墳群(昭和47年3月1日町指定)がある。

調査対象地周辺の作物栽培は、水田やこんにゃく畑が中心となっている。

吾妻郡東吾妻町は、平成18(2006)年3月27日に吾妻郡吾妻町と東村が合併して成立した。榛名山の北側に位置し、町域の北・西・南には標高1000m級の嶺が連なり、吾妻川を挟んだ南側に榛名山や浅間隠山、北側には岩櫃山や吾嬭山などが聳え、町域内を吾妻川・温川・深沢川などの河川が流れている。周辺の山地は、急峻な地形を呈している。なお、本遺跡から北側に望む岩櫃山は標高802mの岩山で、奇岩・怪石からなる山容は吾妻八景を代表する景勝地としても知られ、本遺跡からの眺望も素晴らしく、カメラを構える人の姿も多い。

吾妻川は、長野県との県境である鳥居峠付近を源とし、吾妻郡内を西から東へと流れている。川沿いには河岸段丘が発達しており、上位段丘面群である蓑原面・成田原面、中位段丘面である新巻面、下位段丘面である中之条面、最下位段丘面群である伊勢町面群に分類される。これら段丘面のうち、上位段丘面群に下部～上部ローム層が、中位段丘面に中部～上部ローム層が、下位段丘面に上部ローム層が堆積している。最下位段丘面群にはローム層が堆積していない。

本遺跡の西約6.5kmに位置する国指定名勝吾妻峡も、この吾妻川によって形成された峡谷である。吾妻郡東吾妻町大字松谷の雁ヶ沢川との合流地点付近から吾妻郡長野原町大字川原湯のハッ場ダム建設予定地の東側付近にかけての約4 kmに亘っている。

榛名山は、標高1449mの掃部ヶ岳を最高峰とする複式

成層火山であり、山頂部にはカルデラ、カルデラ湖、中央火口丘等が、山体斜面には熔岩ドームや爆裂火口が存在し、古墳時代6世紀の初頭と前半とされる二度の噴火が発生している。榛名山北側山麓の大部分は火山麓扇状地であり、大谷沢川・深沢川・寺沢川・大泉寺川・泉沢川・奥田川などの放射谷が山体を抉っている。泉沢川以西では、火山麓扇状地原面の一部が保存されている。周辺の山地は、急峻な地形を呈している。

また、本遺跡の南西約30kmに位置する浅間山は、現在でも活発な火山活動を続けており、地域にさまざまな影響を与えている。

本遺跡が所在する東吾妻町は、戦国期城郭である岩櫃城跡や、J R 吾妻線郷原駅付近に位置する郷原遺跡から1941(昭和16)年に出土した国指定重要文化財「ハート形土偶」(個人蔵、東京国立博物館寄託)などが文化・観光資源として注目を集めている。

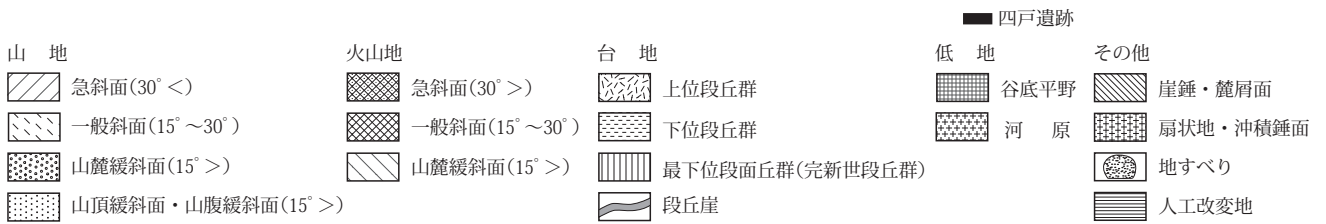
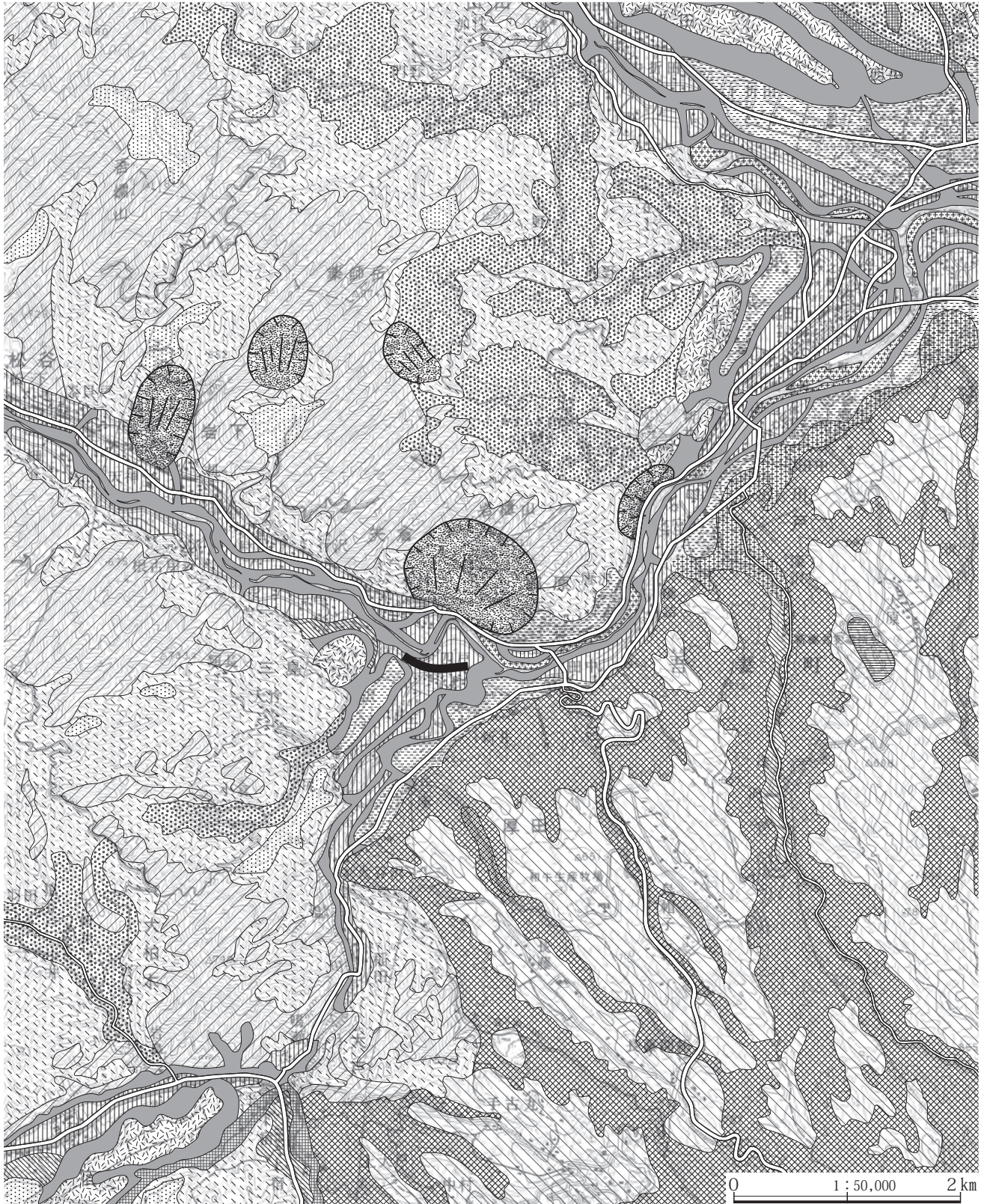
第2節 歴史的環境

遺跡のある東吾妻町は、吾妻郡の東南に位置し、名勝地「我妻溪谷」を有する吾妻川が町内を東へと流下する。古代にあつては「吾妻郡」の一角をなし、戦国武将「真田氏」の岩櫃城、近世の大戸関はよく知られているところである。特に、郷原遺跡から出土した縄文時代後期の国指定重要文化財「ハート形土偶」、岩櫃山の山頂付近には弥生時代中期の「鷹の巣岩陰遺跡」といった著名な遺跡がある。また、近年の上信自動車道吾妻西バイパス建設に伴う発掘調査等を含め、徐々に発掘調査件数が増えてきている状況でもある。

ここでは、歴史的環境として各時代を通じた概要を記すこととする。

1. 旧石器時代

吾妻郡内での旧石器時代の遺跡調査事例は極めて少なく、高山村に所在する新田西沢遺跡1が知られているのみで、東吾妻町では調査例はない。



第6図 周辺地形分類図(国土交通省国土政策局国土情報課5万分の1都道府県土地分類基本調査(中之条)を一部改変)

2. 縄文時代

縄文時代後期のハート形土偶で知られる郷原遺跡や、晩期の唐堀遺跡、ハッ場ダム関連調査での上郷岡原遺跡があるものの、東吾妻町内での縄文時代遺跡の発掘調査例は少なく、現状では不明な点が多い。近年の上信自動車道吾妻西バイパス調査において、本遺跡をはじめとした新井遺跡、万木沢B遺跡、唐堀遺跡、唐堀C遺跡で縄文時代の遺構が検出され、それ以外にも縄文時代の遺物を出土させている遺跡は多くある。

前期の遺構が検出された遺跡として、本報告の四戸遺跡と新井遺跡、唐堀C遺跡がある。本遺跡では前葉の竪穴建物や土坑、新井遺跡では中葉の竪穴建物と土坑、唐堀C遺跡では後葉の竪穴建物と土坑が検出されている。

中期の遺構が検出された遺跡として、郷原遺跡がある。郷原遺跡はハート形土偶で知られた後、昭和59(1984)年と平成6(1994)年に発掘調査が行われ、中期後半の竪穴建物が検出されている。

後期の遺構が検出された遺跡として、郷原遺跡、新井遺跡、上郷岡原遺跡がある。郷原遺跡のハート形土偶もそうであるが、昭和59年と平成6年の調査において後期初頭の敷石建物や配石土坑が検出されている。新井遺跡では後期初頭の敷石建物が検出されている。上郷岡原遺跡でも後期初頭から後期前半にかけての敷石建物や竪穴建物が多く検出されている。また、遺構は検出されていないが、後期から晩期の多量の遺物を出土させた昭和55年に調査された唐堀遺跡が知られている。

晩期の遺構が検出された遺跡として、唐堀遺跡や万木沢B遺跡がある。吾妻西バイパス建設に伴う唐堀遺跡の調査では、後期後半から晩期の竪穴建物や土坑、配石遺構、水場遺構等が検出され、東北地方から搬入されたと考えられる遮光器土偶の頭部をはじめとする多量の遺物が出土している。さらに、万木沢B遺跡においても、土坑と共に晩期の遺物が多量に出土している。

3. 弥生時代

中期の遺跡としては、「岩櫃山式土器」の標式遺跡である岩櫃山鷹の巣遺跡、再葬墓が検出された前畑遺跡が知られている。前畑遺跡は吾妻川の河岸段丘の最下位段丘面群上に立地する一次埋葬地であり、また、岩櫃山鷹

の巣遺跡は岩櫃山の岸壁に立地する二次埋葬地と考えられている。他に、新井遺跡では土坑や遺物、本遺跡においても竪穴建物が検出されている。

後期の遺構が検出された遺跡として、本遺跡および四戸の古墳群、新井遺跡、唐堀B遺跡がある。本報告で扱う1～4区では集落を形成する多くの竪穴建物が検出され、4区の東隣となる「四戸の古墳群」の調査においても数棟の竪穴建物が検出され、共に同時期の一集落であることが明らかとなっている。新井遺跡からは、竪穴建物、円形周溝墓、大型の方形土坑等が検出されている。また、唐堀B遺跡においても竪穴建物を含む集落が確認されている。

注目される点として、四戸遺跡での後期の集落は、吾妻川流域にあって最も西側に位置する大規模な集落であることが挙げられる。

4. 古墳時代

当該地域は、本県における古墳所在地の最北西端の地として知られてきた。四戸遺跡のある段丘上の東縁には昭和47(1972)年3月1日に町指定となった四戸の古墳群がある。この四戸の古墳群は、昭和13(1938)年の『上毛古墳総覧』に20基を超える記載があり、その内の四戸1号墳(総覧 岩島村19号)、四戸2号墳(総覧 岩島村16号)、四戸3号墳(総覧 岩島村13号)、四戸4号墳については、昭和39・42(1964・1967)年に群馬大学による調査が行われている。他にも『上毛古墳総覧』に記載されている古墳として、上古墳(総覧 岩島村43号)、玉科遺跡(総覧 川戸42～51号)、下郷古墳群(総覧 川戸62～69号)、原町下ノ町古墳群(総覧 川原1～16号)、町指定史跡の金井廃寺遺跡(総覧 川戸75号)、岩井寺沢古墳(総覧 大田村17号)、岩井西古墳群(総覧 大田村1～14号)、白山神社遺跡(総覧 大田村21号)等が東吾妻町内にある。

これまで同地域における古墳時代の集落については不明な点が多かった。本遺跡から北西に約3.5kmに位置する「姉山の石組かまど」は、緩斜面に立地する竪穴建物に構築された山石利用の石組竈が知られていた。吾妻西バイパス建設事業に伴う発掘調査の進展によって、古墳時代前期から後期に至る集落も検出され、古墳時代の居住域の展開も次第に判明しつつある。

まず、本報告の四戸遺跡1～4区からは、古墳時代前期から後期までの多くの竪穴建物が検出されており、5世紀後半に急増した竪穴建物は、その後も安定した棟数を保ちながら継続した集落が展開している。この集落展開の状況は、段丘東縁の四戸の古墳群の造営にも大きくかかわることは明らかである。また、東側の「四戸の古墳群」の調査では古墳群の一端となる3基が検出・調査されている。特に本報告にもあるように、6世紀以降の竪穴建物には古墳石室を彷彿とさせる石組みカマドを有する例が数多く、併せてカマド方向を変える建て替えを行った竪穴建物も数多い。

新井遺跡からは、中期から後期の集落、方形周溝墓4基、古墳3基も検出されている。検出された一辺約27m程度の方墳は『上毛古墳総覧』に記載された「遠見塚古墳」に相当するとみられる。唐堀遺跡からは、6世紀後半の円墳1基が検出されている。また、唐堀遺跡の西側に隣接する唐堀C遺跡、本遺跡の西側に位置する万木沢B遺跡では後期の集落が検出されている。

一方、厚田中村遺跡では6世紀初頭に降下したと考えられている榛名山二ツ岳火山灰(Hr-FA)によって埋没した古墳時代の極小区画水田が部分的に検出され、当該地域における古墳時代の極小区画水田の初めての検出事例となった。

5. 奈良・平安時代

律令制下において、群馬県域はほぼ上野国の領域に当たっており、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれた(当初13郡、和銅4(711)年に多胡郡設置で14郡)。吾妻郡には「長田」、「伊参」、「太田」の3郷があったとされ、吾妻郡中之条町大字市城付近は官牧である「市代牧」の所在地に比定されている。

本遺跡周辺における奈良・平安時代の遺跡は、これまでは、前畑遺跡などで集落が検出されていたことと、本遺跡の北東約5kmに位置する白鳳期寺院跡である金井廃寺の存在が知られるに止まっていた。そうした状況下、近年の吾妻西バイパス建設に伴う発掘調査の進展により、奈良・平安時代の遺跡の検出事例は格段に多くなり、新たな注目をよんでいる。

奈良・平安時代の集落では、温川の東側に位置する新

井遺跡に平安時代(9世紀)の集落が検出されている。

本遺跡においては、前代から続いて7世紀後半から10世紀前半までの数多くの竪穴建物と掘立柱建物から成る集落が検出されている。この時期の竪穴建物にも、前代の竪穴建物と同様な石組みカマドが構築される例も多く存在し、石組みカマドが長期に渡って継続的に造られていたことが明らかとなった。また、竪穴建物から出土した遺物の中には、「寺」と記された墨書土器があり、寺院との関連性も窺われる。さらに、9世紀後半の2区51号竪穴建物からは、ほぼ完形の状態に復元できる大型の奈良三彩短頸壺が出土しており、その希少性および特異性も含め、大きく注目される発見であった。

万木沢川の西側となる万木沢B遺跡や唐堀C遺跡、根小屋遺跡においても、平安時代の集落の存在が調査によって明らかとなっている。

本遺跡の北東約5kmに位置する白鳳期寺院跡の金井廃寺は、7世紀後半から9世紀前半にかけての寺院跡であり、上野国佐位郡家に隣接し、佐位郡の郡領層が建立した寺院と考えられる伊勢崎市上植木廃寺と同範の軒丸瓦が採取されている。県内では前橋市の山王廃寺(放光寺)、伊勢崎市の上植木廃寺、太田市の寺井廃寺とこの金井廃寺以外に、現在のところ本格的な白鳳期寺院の遺跡は発見されていない。吾妻地域にいち早く本格的な寺院を建立できるような強い経済基盤を有する在地首長が存在していた証である。『長元3(1030)年上野国不與解由状案』(いわゆる「上野国交替実録帳」)定額寺項には、「放光寺」、「法林寺」、「弘輪寺」、「慈廣寺」の4寺の名称が記載されている。「放光寺」が前橋市に所在する山王廃寺に当たることは、出土した文字瓦によって確実であるので、「法林寺」、「弘輪寺」、「慈廣寺」の三箇寺が、伊勢崎市上植木廃寺、太田市寺井廃寺、東吾妻町金井廃寺のどれかに、それぞれ当たるのではないかと考えられている。

一方、生産遺構として古代の畠や水田も検出されている。厚田中村遺跡では、天仁元(1108)年降下の浅間山火山灰As-Bによって埋没した水田が部分的に検出されている。本遺跡においては、1区および2区西半においてAs-B火山灰である黄灰色土が大ブロック状に多量に混在した状態で畝間を埋め、その畝間が溝状に幾筋も連なるように検出された。この古代畠の検出は、吾妻地域での初例でもある。また、2区東側では、不明瞭ではあるが

同火山灰下に小規模な水田を検出している。万木沢B遺跡では、As-B直上に小規模な畠、その上位となる12世紀前半に降下したとみられている浅間-粕川テフラ(As-Kk)層の直上と直下に畠を検出している。唐堀C遺跡では、As-Bで埋没した畠が検出されている。

こうした古代の畠や水田は、本遺跡および万木沢B遺跡、唐堀C遺跡において、平安時代の集落の上に検出されており、集落廃絶後に大きな土地利用の変換がなされたことを物語っている。

6. 中世

天仁元(1108)年の浅間山噴火後、上野国内では荘園開発への動きが活発になる。吾妻郡域においては、12世紀末頃に秀郷流藤原氏である吾妻氏(前吾妻氏)が台頭する。

『吾妻鏡』には吾妻八郎・吾妻太郎助亮・吾妻四郎助光の名が見えるが、承久3(1221)年に勃発した承久の乱において吾妻助光が戦死したことにより前吾妻氏は滅亡したと言われている。その後、嘉禎年間(1235~38年)に、前吾妻氏と同様、秀郷流藤原氏を称する吾妻(下河辺)行家が鎌倉幕府より吾妻郡を賜った。これを学界では、便宜的に後吾妻氏と称している。貞和5(1349)年に吾妻行盛が里見義侯との争いで戦死し、後吾妻氏は滅亡したとの伝承がある。東吾妻町大字岩井の長福寺五輪塔に刻まれた「藤原行盛」がこの吾妻行盛であるとされるが、戦死の一件については疑問視もされている。

14世紀末になると、この地域では秀郷流藤原氏の齊藤氏が台頭してくる。永禄4(1561)年の上杉輝虎の関東出兵時の「関東幕注文」には、「岩下衆 齊藤越前守 六葉柏」とあり、齊藤氏が、本遺跡の北西約3.5kmに位置する岩下城を中心に勢力を張ったことが窺える。

16世紀前半には温川上流の手子丸城(大戸城)に拠った大戸氏が勢力を伸ばし、本遺跡の西約3kmに位置する根小屋城に入っている。この根小屋城跡は、吾妻西バイパス建設に伴い発掘調査され、竪穴状遺構、土坑、ピットなどが検出された。同時に根小屋川を挟んだ対岸の根小屋B遺跡や、根小屋城跡の東側に位置する根小屋遺跡も調査されている。

永禄6(1563)年、甲斐・信濃を領した武田信玄の上野国西部への侵攻により、大戸氏は武田氏に従属し、武田

氏の部将真田幸隆により齊藤氏の居城であった岩下城が落城し、岩櫃城が武田氏の拠点となった。これによって吾妻郡域は武田氏の支配下となる。その後、岩櫃城は天正10(1582)年の武田氏滅亡後に独立した真田氏の支配下となり、元和元(1615)年に江戸幕府によって発せられた「一国一城令」により破却されるまで存続した。この岩櫃城は、本年(令和元年)10月16日に国指定史跡となった。

吾妻川流域は中世城館跡が多い地域として知られているが、こうした中世・戦国期における覇権・勢力争いの結果であることは言うまでもない。

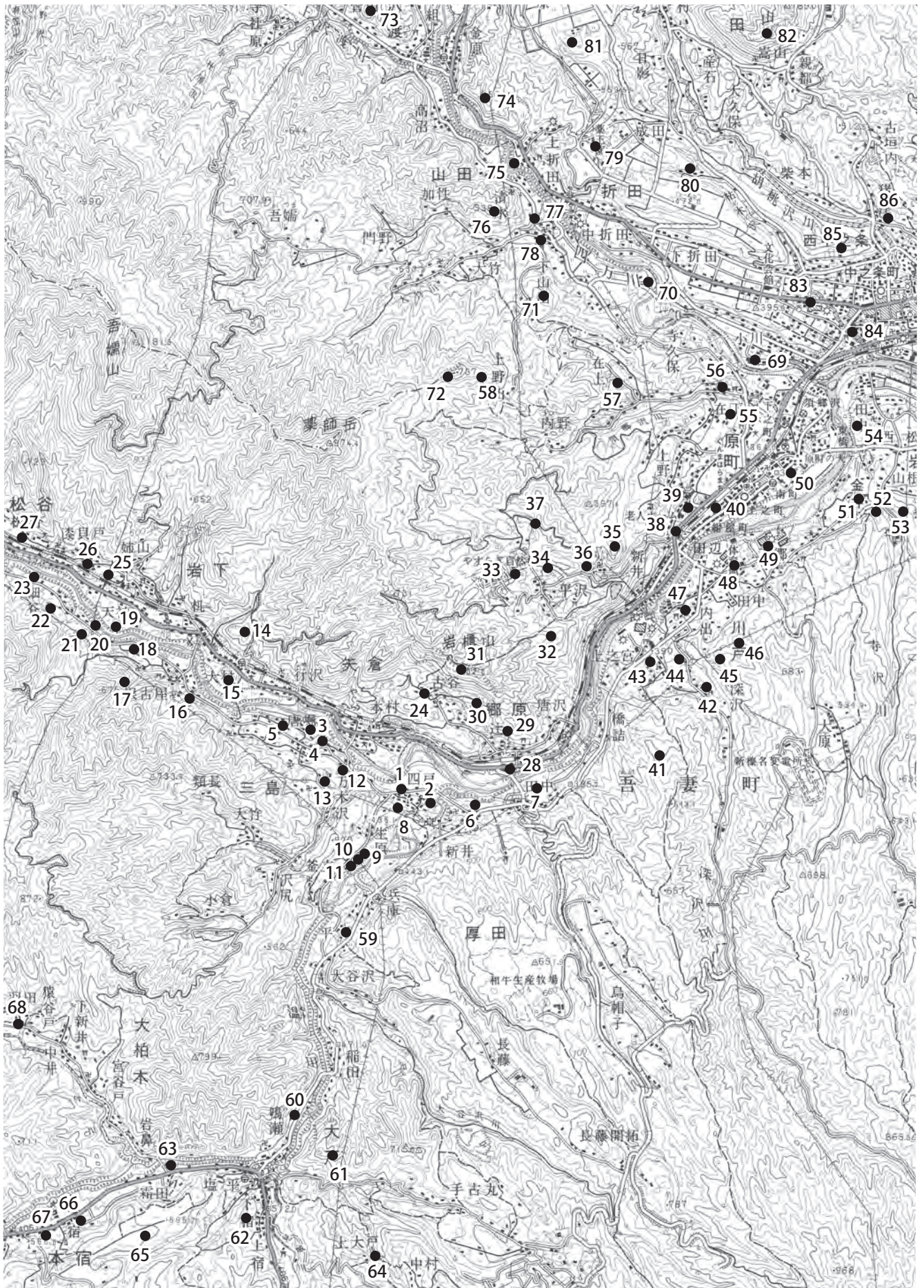
徳川家康の江戸入府後、本遺跡のある三島村は引き続き真田氏の支配下にあった。そして天和2(1682)年に天領となり、文政7(1824)年には御三卿清水徳川家の支配下となるが、その後の安政2(1855)年には、再度、天領となった。

この間、天明三(1783)年には浅間山が噴火して火山灰(As-A)を降下させ、吾妻川流域では噴火に伴う泥流被害が知られている。八ッ場ダム建設予定地を中心に、数多くの泥流下の遺跡が確認されている。

中・近世の遺構を検出した遺跡には、先述した根小屋城跡や根小屋B遺跡、根小屋遺跡、そして本遺跡、他に厚田中村遺跡、新井遺跡、唐堀遺跡、唐堀B遺跡、唐堀C遺跡、細谷E遺跡がある。

本遺跡では、中世の掘立柱建物や墓壇、鍛冶遺構、中世以降の数多くの土坑や溝が検出されている。唐堀B遺跡では掘立柱建物や土坑、唐堀C遺跡では掘立柱建物や竪穴状遺構、墓壇、土坑、水路が検出されている。また、細谷E遺跡では鍛冶遺構や土坑が検出されている。これらの各遺跡は、同一の段丘上に位置している。

一方、天明泥流によって埋没した畑や水田が検出されている遺跡には、厚田中村遺跡、新井遺跡、唐堀遺跡があり、いずれも一段低い段丘面で検出されている



第7図 周辺遺跡分布図(国土地理院1/50,000地形図「中之条」平成10年8月1日発行を使用)

第2表 周辺遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	時代	種別	調査歴・備考
1	四戸遺跡				本遺跡
2	四戸の古墳群	東吾妻町三島77他	古	古墳	平成30年調査(埋文事業団)
3	唐堀遺跡	東吾妻町大字三島字唐堀	縄	散布地	昭和55年調査(吾妻町教育委員会) 平成27～30年調査(埋文事業団)
4	唐堀B遺跡	東吾妻町大字三島字唐堀	縄・弥・古・奈・平・近	集落	平成26・27年調査(埋文事業団)
5	唐堀C遺跡	東吾妻町大字三島字唐堀	縄・奈・平	集落、その他	平成28・30年調査(埋文事業団)
6	新井遺跡	東吾妻町厚田新井646他	縄・弥・古・奈・平	集落	平成26～28・30年調査(埋文事業団)
7	厚田中村遺跡	東吾妻町厚田840他	近	その他	平成25・26・28年調査(埋文事業団)
8	峰遺跡	東吾妻町三島四戸388	古	散布地	
9	生原遺跡	東吾妻町三島生原620	古	古墳	
10	石村下古墳	東吾妻町三島生原620	古	古墳	
11	上古墳	東吾妻町三島生原580-1	古	古墳	古墳総覧 岩島村43
12	万木沢遺跡	東吾妻町大字三島3324	古	散布地	万木沢B遺跡 平成29年調査(埋文事業団)
13	上反遺跡	東吾妻町大字三島3203	縄	散布地	岩島村誌
14	岩下城跡	東吾妻町岩下	中	城館	中世城館跡779
15	前畑遺跡	東吾妻町岩下76	縄・弥・古・奈・平・中	散布地、集落、墓、他	昭和62年調査(吾妻町教育委員会)
16	根小屋遺跡	東吾妻町三島根小屋	縄・奈・平	その他、不明	根小屋遺跡・根小屋B遺跡 平成28年調査(埋文事業団)
17	根小屋城跡	東吾妻町三島	中世	城館	中世城館跡780 平成28・30・31年調査(埋文事業団)
18	細谷E遺跡	東吾妻町三島細谷	弥	散布地	平成28年調査(埋文事業団)
19	弁天淵遺跡	東吾妻町岩下前畑	縄	散布地	
20	細谷D遺跡	東吾妻町三島細谷5128	縄	散布地	
21	細谷C遺跡	東吾妻町三島細谷5092他	縄・平	散布地	
22	細谷B遺跡	東吾妻町三島細谷5542	縄・平	散布地	
23	細谷A遺跡	東吾妻町三島細谷5625	縄	散布地	
24	古谷遺跡	東吾妻町郷原古谷	弥	散布地	
25	天神遺跡	東吾妻町岩下天神873他	弥・古・平	散布地	
26	漆貝戸遺跡	東吾妻町岩下漆貝戸1172他	縄・古	散布地	
27	松谷松下遺跡	東吾妻町大字松谷109他	縄・古・奈・平・中・近	集落	令和元年
28	郷原遺跡	東吾妻町郷原592-1	縄・平・中	散布地、その他	昭和59年・平成6年調査(吾妻町教育委員会)
29	郷原城跡	東吾妻町郷原	中	城館	中世城館跡
30	潜龍院跡(古屋館)	東吾妻町郷原	中	社寺	中世城館跡778 10
31	岩櫃山鷹の巣	東吾妻町原町岩櫃山	弥	墓その他	弥生時代の墓跡(明治大学)
32	岩櫃城跡	東吾妻町原町在下	中	城館	中世城館跡781 国指定史跡(令和元年10月16日指定)
33	岩櫃城跡北側遺跡群	東吾妻町原町	縄・中	集落・城館	平成4年調査(吾妻町教育委員会)
34	念仏塚遺跡	東吾妻町原町念仏塚1768	縄・弥	集落	平成3・4年調査(吾妻町教育委員会)
35	柳沢城跡	東吾妻町平沢	中	城跡	中世城館跡783
36	道心穴遺跡	東吾妻町原町4159	弥	散布地	
37	蝦夷穴遺跡	東吾妻町原町雁陳山	弥	墓その他	
38	善導寺前遺跡	東吾妻町原町1091-1	弥・平・中	散布地・墓その他	平成7年調査(吾妻町教育委員会)
39	諏訪前遺跡	東吾妻町原町1018-1	弥・古・平・近世	集落・古墳・生産遺跡	平成6・7年調査(吾妻町教育委員会)
40	原町駅遺跡	東吾妻町原町上之町	平	散布地	
41	川戸楮原遺跡	東吾妻町川戸1364-2他	縄	その他	陥し穴
42	玉科遺跡	東吾妻町川戸1602-1	縄・弥	散布地	古墳総覧 川戸42-51
43	上ノ宮遺跡	東吾妻町川戸上ノ宮	古	散布地	
44	深沢遺跡	東吾妻町川戸深沢	縄・古	集落	
45	水上遺跡	東吾妻町川戸水上	縄・古	集落	
46	城峯城跡	東吾妻町川戸	中	城館	中世城館跡789
47	内出城跡	東吾妻町川戸	中	城館	中世城館跡788
48	下郷A遺跡	東吾妻町川戸下郷284	縄・古	散布地	
49	下郷古墳群	東吾妻町川戸甲271	古	古墳	古墳総覧 川戸62-69
50	原町下ノ町古墳群	東吾妻町原町460	古	古墳	古墳総覧 川原1-16
51	金井廃寺跡	東吾妻町金井472-1	奈	社寺	町指定史跡(昭和47年3月1日指定) 昭和53年発掘調査(吾妻町教育委員会) 古墳総覧 川戸75、
52	岩井寺沢古墳	東吾妻町岩井寺沢庚1693	古	古墳	古墳総覧 大田村17
53	先陣峠の砦跡	東吾妻町岩井	中	城館	中世城館跡794
54	岩井西古墳群	東吾妻町岩井字西135	古	古墳	古墳総覧 大田村1-14
55	東上野遺跡	東吾妻町原町上野2662-1他	縄・弥・古・奈・平	散布地・集落	
56	稲荷城跡	東吾妻町原町在下	中	城館	中世城館跡787
57	上須郷遺跡	東吾妻町原町上須郷3295-1	古	集落	平成2年(吾妻町教育委員会)
58	高野平城跡	東吾妻町原町	中	城館	中世城館跡
59	平遺跡	東吾妻町大戸1361-1	古	散布地	
60	千人窟陣城跡	東吾妻町大戸	中	城館	中世城館跡774
61	手子丸城跡	東吾妻町大戸	中	城館	中世城館跡775
62	大戸平城跡	東吾妻町大戸	中	城館	中世城館跡773
63	下田遺跡	東吾妻町大字大戸150-1	弥	散布地	平成14～17年試掘(吾妻町教育委員会)
64	上大戸遺跡	東吾妻町大戸3850	縄	散布地	
65	上ノ原遺跡	東吾妻町本宿175-1	縄	散布地	
66	下宿遺跡	東吾妻町本宿364-1	古	散布地	
67	宿遺跡	東吾妻町大字本宿字宿524他	古	集落	平成3年試掘(吾妻町教育委員会)
68	下中遺跡	東吾妻町大柏木下中	縄	散布地	
69	小川古墳群	中之条町小川362	古	古墳	古墳総覧・中之条町25～28・31～34 町指定史跡(昭和63年3月26日指定)

第2章 遺跡の遺跡の地理的・歴史的環境

No	遺跡名	所在地	時代	種別	調査歴・備考
70	山田勝負瀬古墳群	中之条町山田119-3	古	古墳	古墳総覧・澤田村1～4 町指定史跡(苗吹塚昭和63年3月26日指定)
71	山田城址(古城)	中之条町山田696	中	城館	中世城館跡750山田古城町指定史跡(平成6年12月1日指定)
72	高野平城跡	中之条町山田	中	城館	中世城館跡751 吾妻町境に位置する
73	天狗山城址	中之条町下沢渡	中	城館	中世城館跡746
74	内山城址	中之条町折田2070-1	中	城館	中世城館跡753仙蔵城町指定史跡(平成6年12月1日指定)
75	折田屋敷跡	中之条町折田	中	城館	中世城館跡754
76	桑田城址(寺山)	中之条町山田2181-1	中	城館	中世城館跡748町指定史跡(平成6年12月1日指定)
77	清水敷石住居跡	中之条町山田清水2289-3	縄	集落	遺跡台帳3065
78	吉城址	中之条町山田	中	城館	中世城館跡749
79	成田遺跡	中之条町折田成田原2344	弥	集落	遺跡台帳3062
80	成田原千貫遺跡	中之条町折田千貫2859	縄・弥	散布地	遺跡台帳3066 中世城館跡752
81	養原遺跡	中之条町五反田4373-1	縄・奈・平	散布地、その他	平成17年立会調査
82	嵩山城址	中之条町五反田	中	城館	中世城館跡760町指定史跡(昭和63年3月26日指定)
83	永田原遺跡	中之条町西中之条永田原119	古	古墳	遺跡台帳3078 古墳総覧・中之条町38
84	中条城址	中之条町中之条	中	城館	中世城館跡755
85	城峯城跡	中之条町西中之条	中	城館	中世城館跡756町指定史跡(昭和63年3月26日指定)
86	法満寺遺跡	中之条町中之条町法満寺2268	弥	散布地	遺跡台帳3076

文献

- 1『年報33 一四戸遺跡一』2014 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報34 一四戸遺跡一』2015 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報35 一四戸遺跡一』2016 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報36 一四戸遺跡一』2017 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報38 一四戸遺跡一』2019 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 2『年報38 一四戸の古墳群一』2019 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 3『唐堀遺跡』1983 吾妻町教育委員会
- 『年報35 一唐堀遺跡一』2016 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報36 一唐堀遺跡一』2017 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報37 一唐堀遺跡一』2018 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報38 一唐堀遺跡一』2019 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 4『年報34 一唐堀B遺跡一』2015 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報35 一唐堀B遺跡一』2016 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『唐堀B遺跡』2017 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5『年報36 一唐堀C遺跡一』2017 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報38 一唐堀C遺跡一』2019 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 6『年報34 一新井遺跡一』2015 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報35 一新井遺跡一』2016 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報36 一新井遺跡一』2017 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報38 一新井遺跡一』2019 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 7『年報33 一厚田中村遺跡一』2014 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報34 一厚田中村遺跡一』2015 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報36 一厚田中村遺跡一』2017 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『厚田中村遺跡』2018 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 12『年報37 一万木沢B遺跡一』2018 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 15『前畑遺跡』1998 吾妻町教育委員会
- 16『年報36 一根小屋遺跡一』2017 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報36 一根小屋B遺跡一』2017 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 17『年報36 一根小屋城跡一』2017 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『年報38 一根小屋城跡一』2019 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 18『年報36 一細谷E遺跡一』2017 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 27『松谷松下遺跡』2014 東吾妻町教育委員会
- 28『郷原遺跡』1985 吾妻町教育委員会
- 『郷原遺跡』1998 吾妻町教育委員会
- 32『吾妻町指定史跡 岩櫃城跡』1993 吾妻町教育委員会
- 『岩櫃城跡北側遺構群遺跡』1994 吾妻町教育委員会
- 『東吾妻町指定史跡 岩櫃城跡』2016 東吾妻町教育委員会
- 『東吾妻町指定史跡 岩櫃城跡総合調査報告書』2018 東吾妻町教育委員会
- 34『念仏塚遺跡』1994 吾妻町教育委員会
- 38『善導寺前遺跡』1996 吾妻町教育委員会
- 39『諏訪前遺跡I』2004 吾妻町教育委員会
- 51『金井庵寺遺跡』1979 吾妻町教育委員会
- 57『上須郷遺跡』1992 吾妻町教育委員会
- 67『宿遺跡発掘調査報告書』1993 吾妻町教育委員会

第3章 基本層序

本遺跡は吾妻川左岸にあり、先述したように、東の温川、西の万木沢川に挟まれ、北側を東流する吾妻川に突出した広い河岸段丘上(最下位段丘面群)に立地する。天明三(1783)年の浅間山噴火に伴う泥流が吾妻川を流下した際の痕跡は、調査地内では確認できなかった。しかし、温川を遡上した記録はあり、東側に隣接する新井遺跡の温川沿い(本河岸段丘より一段低い部分)でも泥流堆積物を確認している。

この広い河岸段丘上を東西に貫くような調査地内には、多くの調査区でAs-Kk(浅間-粕川テフラ)の堆積が確認され、さらにAs-B(浅間-B軽石)の火山灰も確認されている。また、1-B・C区や4-C・D区では、第2面遺構確認面の一部に地山礫層の頂部が露出する箇所があった。さらには、遺構底面(住居の掘込み面下)に礫層が露出する遺構、地山礫層を掘抜いた遺構等、下位層のローム層内(ローム上位)に地山礫層が包含されていることが窺える。しかし、この礫層は、調査地内全体に均一に広がる状況でもないようである。

一方、4-A 1区南側では表土(耕作土)下がすぐにローム上面であるのに対し、4-A 1区北側および4-B区北西部にかけては、第1面の遺構確認面以下の堆積状況が他の調査区と大きく異なる。その状況は、4-A 1区II層と4-B区V層が相当し、暗茶褐色土。4-A 1区III層と4-B区VI層が相当し、暗褐色土。4-A 1区IV層と4-B区VII層が相当し、明褐色土という層序であった。この違いを明らかにするべく4-A 1区北側にトレンチ調査を行った結果、ローム層上面が一段低い状態にあり、さらに帯状に低くなる箇所も明らかとなった(第9図)。こうした状況は、段丘形成に関わる自然地形である可能性も考えられる。

以下、調査地内の各地点の層序を第8図に示し、それぞれの堆積層について記す。

1-C区北壁の層序

- I 暗褐色土 表土(耕作土)。As-Kkを少量含む。
- II 暗褐色土 As-Kkを含み、酸化鉄分を多く含む。

- III 黒色土 As-Kkを多く含む。
- IV 鈍い黄褐色軽石層 As-Kkの1次堆積層。
- V 黄灰色土 As-B火山灰と火山砂との混土。
- VI 黒褐色土 粘性がある。上面が第1面遺構確認面。
- VII 褐色土 地山礫が一部で露出する。上面が第2面遺構確認面。

1-A区北壁の層序

- I 暗褐色土 表土(耕作土)。As-Kkを多量に含む。
- II 暗褐色土 黄褐色粒を少量含む。
- III 黒褐色土 黄褐色粒を少量含む。層中位が第1面遺構確認面。
- IV 灰褐色土 III層が少量混じり、黄褐色粒を微量含む。上面が第2面遺構確認面。
- V 鈍い黄褐色土 黄褐色粒を僅かに含む。

2-A区南壁の層序

- I 暗褐色土 表土(耕作土)。As-Kk混土で、水田耕作によるグライ土と酸化層を数枚確認できる。下位ほどAs-Kkの量が多く、褐色土。
- II 鈍い黄褐色軽石層 As-Kkの1次堆積層。上位は灰黄褐色軽石、下位に鈍い黄褐色軽石が堆積するが、層の薄い場所では上位軽石はない。
- III 褐色土 As-KkとAs-Bの間層。僅かにAs-Bの灰・軽石層を含む。部分的に確認。
- IV 褐色土 As-B。肌理の細かい灰層で、下位に薄く軽石層を確認できる。
- V 黒褐色土 As-B降下以前の耕土。上面が第1面遺構確認面。
- VI 黒色土 黄色粒を僅かに含む。混入物が少なく、やや粘質。上面ないし上位が第2面遺構確認面、下位が第3面の遺構確認面となる。

2-B区南壁の層序

- I 暗褐色土 As-Kk混土層。

第3章 基本層序

- I-a 現水田耕作土(表土)。
- I-b 旧水田耕作土。
- I-c 酸化ぎみの耕作土で、上位に酸化層あり。
- I-d As-Kkを多量に含む耕作土。
- I-e As-Kkをかなり多量に含む耕作土(中～近世)。
- I-f As-Kkの純層に近いが、II層とは異なる。
- II 鈍い黄褐色軽石層 As-Kkの1次堆積層。
- IV 褐灰色土 As-B。肌理の細かい灰層で、下位に薄く軽石層を確認できる。
- V 褐灰色土 グライ化し、上半は暗く、下半は酸化ぎみで明るい。混入物はほとんどなく、かなり粘質。上面が第1面遺構確認面。
- VI 鈍い赤褐色土 酸化層で、混入物はほとんどなく、かなり粘質。
- VII 黒褐色土 混入物はほとんどなく、粘質
- VIII 黒褐色土 VII層より暗く、粘質。上面が第2面遺構確認面。

3区の層序

- I 暗褐色土 表土(現耕作土)。
- II 暗褐色土 旧表土(旧耕作土)。
- III 暗褐色土 As-Kkを多量に含む。
- IV 暗褐色土 粘質土。上面が第1面遺構確認面。
- V 黒褐色土 小礫を含む。
- VI 黒褐色土 ローム粒を含む。上面が第2面遺構確認面。
- VII 黄褐色土 ロームで、As-YPを少量含む。

4-A 1区北壁の層序

- I 暗褐色土 表土(耕作土)。As-Kkを多量に含む。
- II 暗茶褐色土 混入物が少なく、かなり粘質で、硬く締まる。上面が第1面の確認面。(4-B区V層に相当)
- III 暗褐色土 小ブロックの黄色軽石を少量含む。上位ほど黒い。粘質で締まりがある。(4-B区VI層に相当)
- IV 明褐色土 谷部の埋没土。ローム粒を多量、黄色軽石を少量含む。粘質で締まりがある。上面が第2面の確認面。(4-B区VII層に相当)

- V 黒褐色土 谷部の埋没土。砂粒、黄色軽石を含む。やや砂質で、粘性が強い。

4-B区北西壁の層序

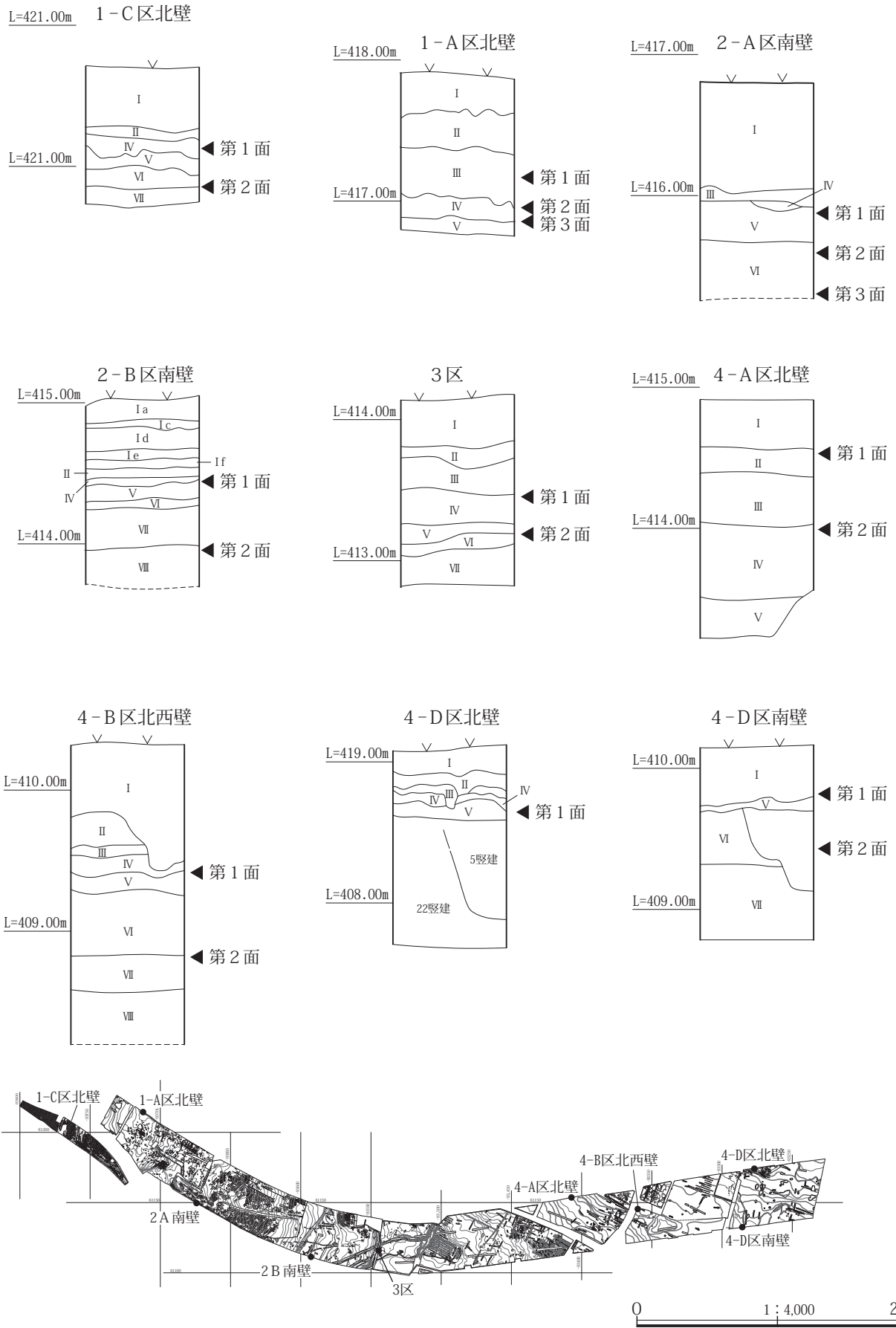
- I 暗褐色土 As-Kkを多量含む。耕作土。
- II 暗黄色軽石層 As-Kkの一次堆積層。
- III 暗灰色粘質土 As-B。肌理の細かい灰層で、下位に薄く軽石層を確認できる。
- IV 暗褐色土 小礫を僅かに含む。粘性がある。
- V 暗茶褐色土 混入物が無くかなりの粘性で硬く締まっている。上面が第1面の確認面。(4-A区II層に相当)
- VI 暗褐色土 黄色粒を少量含む。上位ほど暗く、粘質。(4-A区III層に相当)
- VII 明褐色土 下位ほどローム粒を多量に含む。上面が第2面の確認面。(4-A区IV層に相当)
- VIII 黄色砂質土 ローム層

4-D区北壁の層序

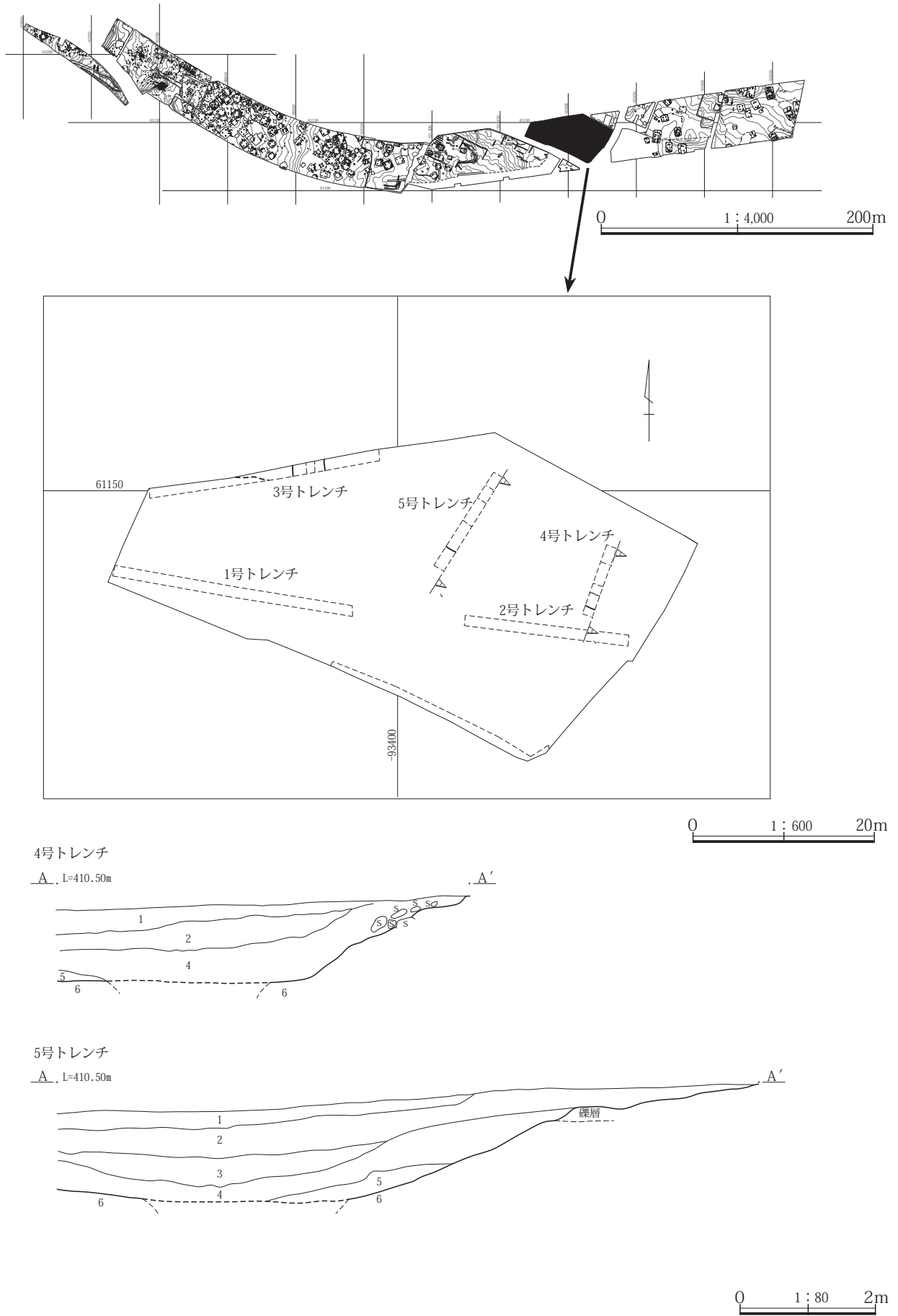
- I 黒褐色土 表土(耕作土)。As-Kkを少量含む。
- II 黒褐色土 As-Kkを少量含む。
- III 暗黄色軽石層 As-Kkの一次堆積層。
- IV 暗灰色粘質土 As-B。肌理の細かい灰層で、下位に薄く軽石層を確認できる。
- V 黒褐色土 混入物少なく、粘質ぎみ。上面が第1面遺構確認面。
- VI 黒褐色土 V層より明るく、混入物はない。粘質。層中位が第2面遺構確認面で、下面のローム上面が第3面の遺構確認面。

4-D区南壁の層序

- I 黒褐色土 表土(耕作土)。As-Kkを少量含む。
- V 黒褐色土 混入物少なく、粘質ぎみ。上面が第1面遺構確認面。
- VI 黒褐色土 V層より明るく、混入物はない。粘質。層中位が第2面遺構確認面で、下面のローム上面が第3面の遺構確認面。
- VII 黄褐色土 ローム層



第8図 各調査区の基本層序

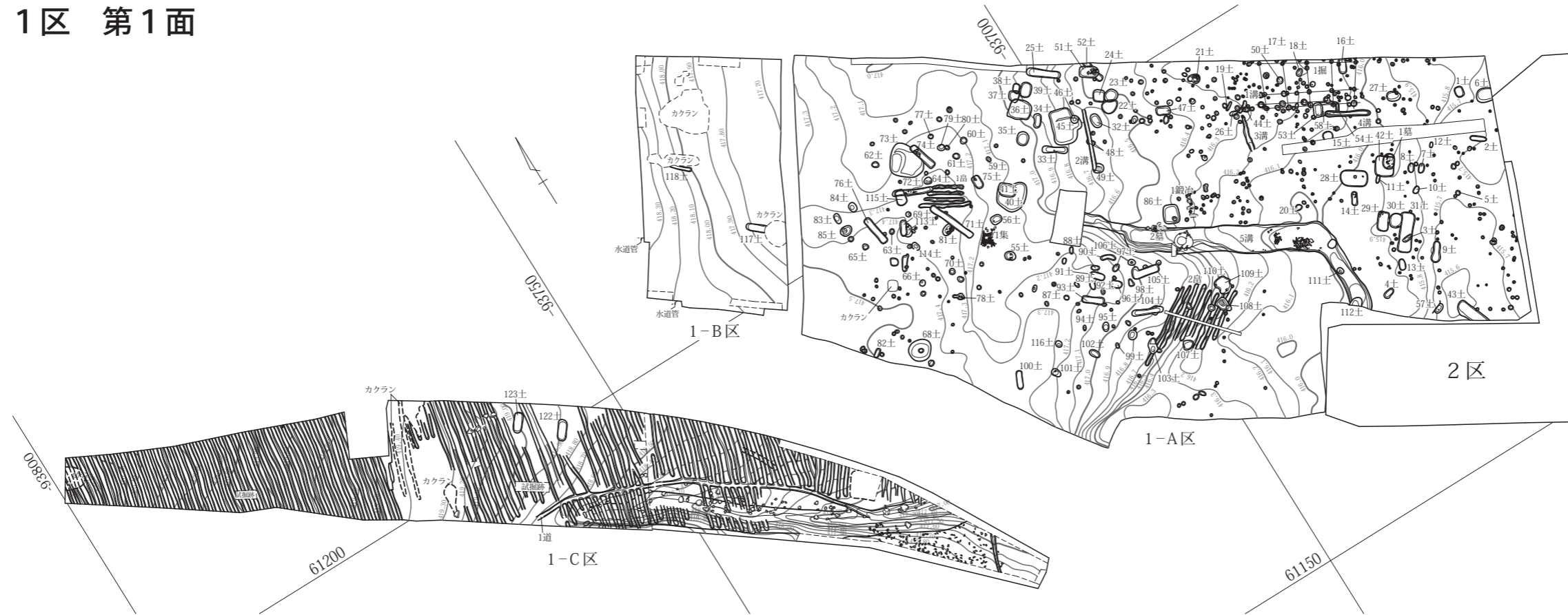


第9図 4-A区北側トレンチ内土層結果

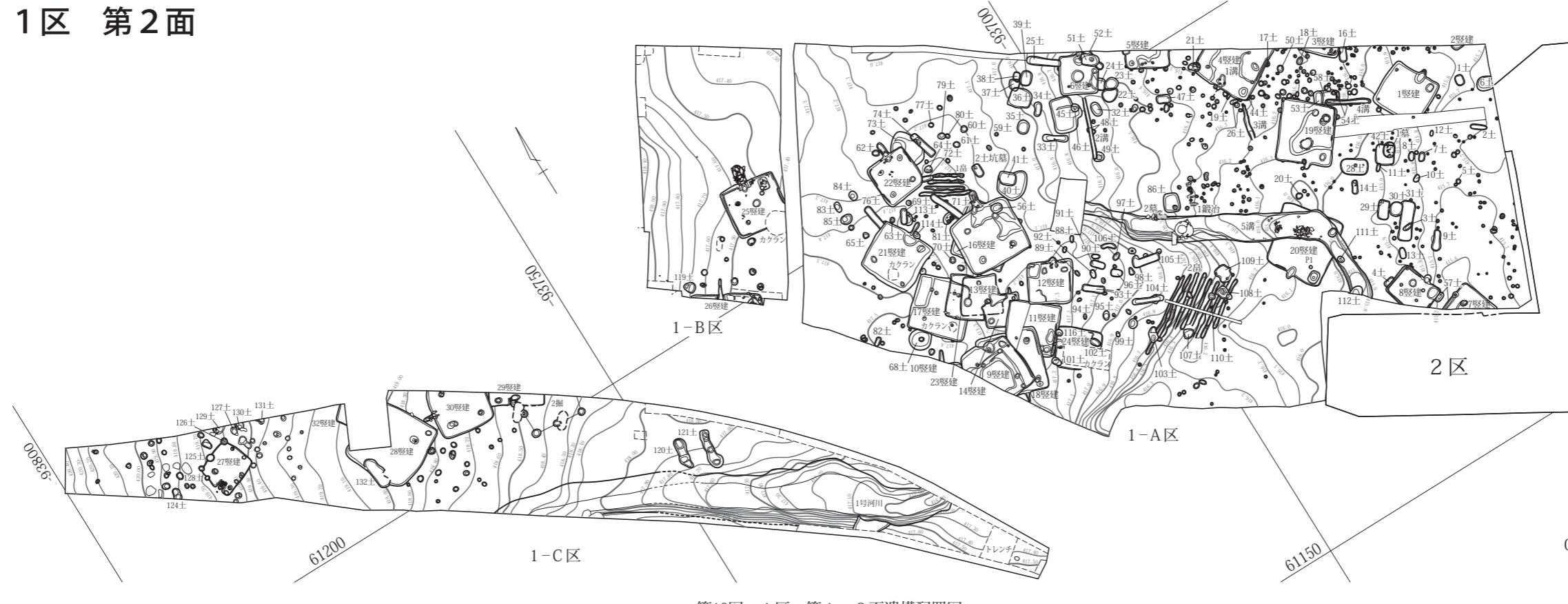
第 4 章

第 1 節 1 区の遺構と遺物

1区 第1面



1区 第2面



第10図 1区 第1・2面遺構配置図

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 1区の遺構と遺物

本調査区は、道路等により1-A～C区の3カ所に区分され、平成25・27・28年度の3ケ年に跨がって調査が行われた。1-A区は平成25年度、1-B区は平成27年度、1-C区は平成28年度の調査である。

平成25年度調査は四戸遺跡調査の初年に当たり、当初は1区としていた。まず中・近世を対象とした第1面調査、その後に縄文時代・古墳時代～古代を対象とした第2・3面調査を順次行った。その結果、第1面調査では中世から近世の畠や土坑・溝等を中心に検出され、第2面調査では古墳時代から奈良・平安時代に至る各時代の建物や土坑等といった遺構・遺物が検出された。さらに、第2面調査時に基本土層IV層中より縄文土器が出土したことから、縄文時代を対象とした第3面調査を行った。なお、ローム層への旧石器時代の確認調査を行ったが、旧石器時代の遺構・遺物は出土していない。この平成25年度調査で検出された遺構は、古墳時代から平安時代の竪穴建物(住居)24棟、土坑33基、畠1区画、中世以降の掘立柱建物2棟、土坑77基、墓壇2基、鍛冶遺構1カ所、溝2条、畠2区画、さらに古墳時代から中世以降のピット439基である。

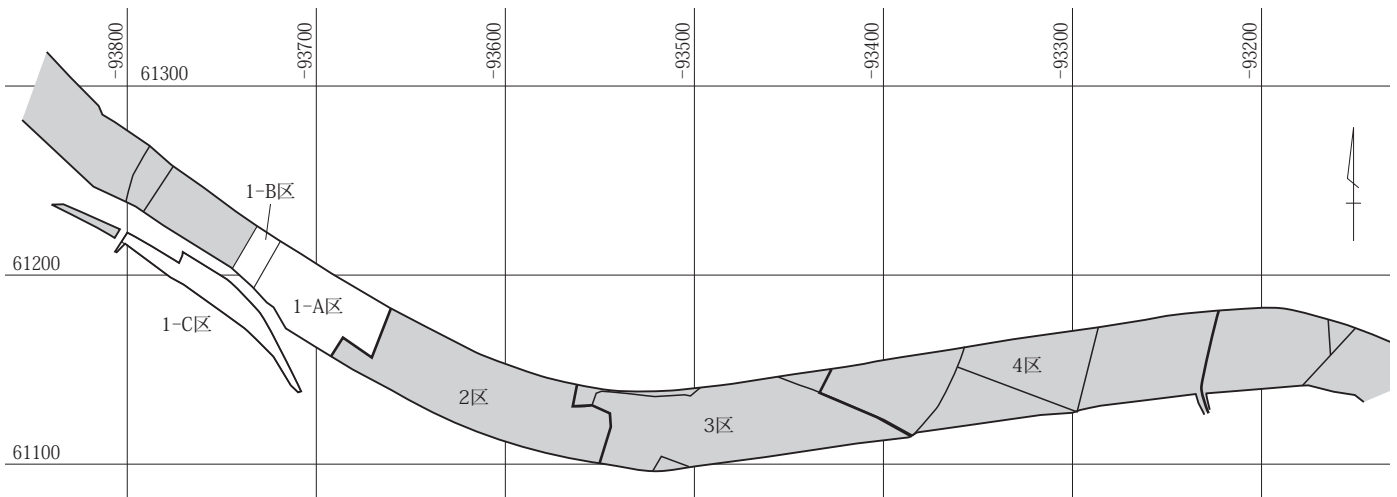
平成27年度の調査において、平成25年度の1区以西での調査を行うにあたり、平成25年度の調査範囲を1-A

区とし、平成27年度調査地点を1-B区として調査を行った。調査では、平成25年度の調査データを基に2面調査を行い、各時期ならびに各種の遺構・遺物を検出した。調査範囲が狭いながらも検出された遺構には、古墳時代の竪穴建物(住居)2棟、中世以降の土坑3基、ピット8基がある。この古墳時代の建物内の1棟は、カマド煙道部を石組とした際めて遺存状況の良好な建物である。

さらに、平成28年度の調査地点を1-C区とし、前年と同様な2面調査を行い、各時期ならびに各種の遺構・遺物を検出した。検出された遺構には、古墳時代から平安時代の竪穴建物(住居)5棟、掘立柱建物2棟、土坑13基、畠1区画、ピット57基、道1条がある。この内の畠は、第1面調査で検出された遺構で、他の1-A・B区では検出されていないものの、後述の2区第1面下で検出された古代畠に続く遺構である可能性が高い。

以上の結果、1区から検出された遺構は、古墳時代から平安時代の竪穴建物(住居)31棟、掘立柱建物2棟、土坑35基、畠1区画、中世以降の掘立柱建物2棟、土坑86基、墓壇2基、鍛冶遺構1カ所、溝2条、畠2区画、さらに古墳時代から中世以降のピット504基である。他に遺構は検出されていないが、縄文時代の遺物包含層を確認している。(第10図を参照)

以下、各時代ごとに記述する。



第11図 1区 細区割り図

第1項 縄文時代の遺構と遺物

(1) 概要

本調査区での縄文時代の遺構は、検出されなかった。しかし、第3面調査において、調査区の東側となる2区寄りから縄文時代の遺物が出土している。平成28年度調査での2区西寄りからは、縄文時代前期の建物や土坑が検出されており、縄文時代の遺跡範囲の一部に相応していた可能性が高い。

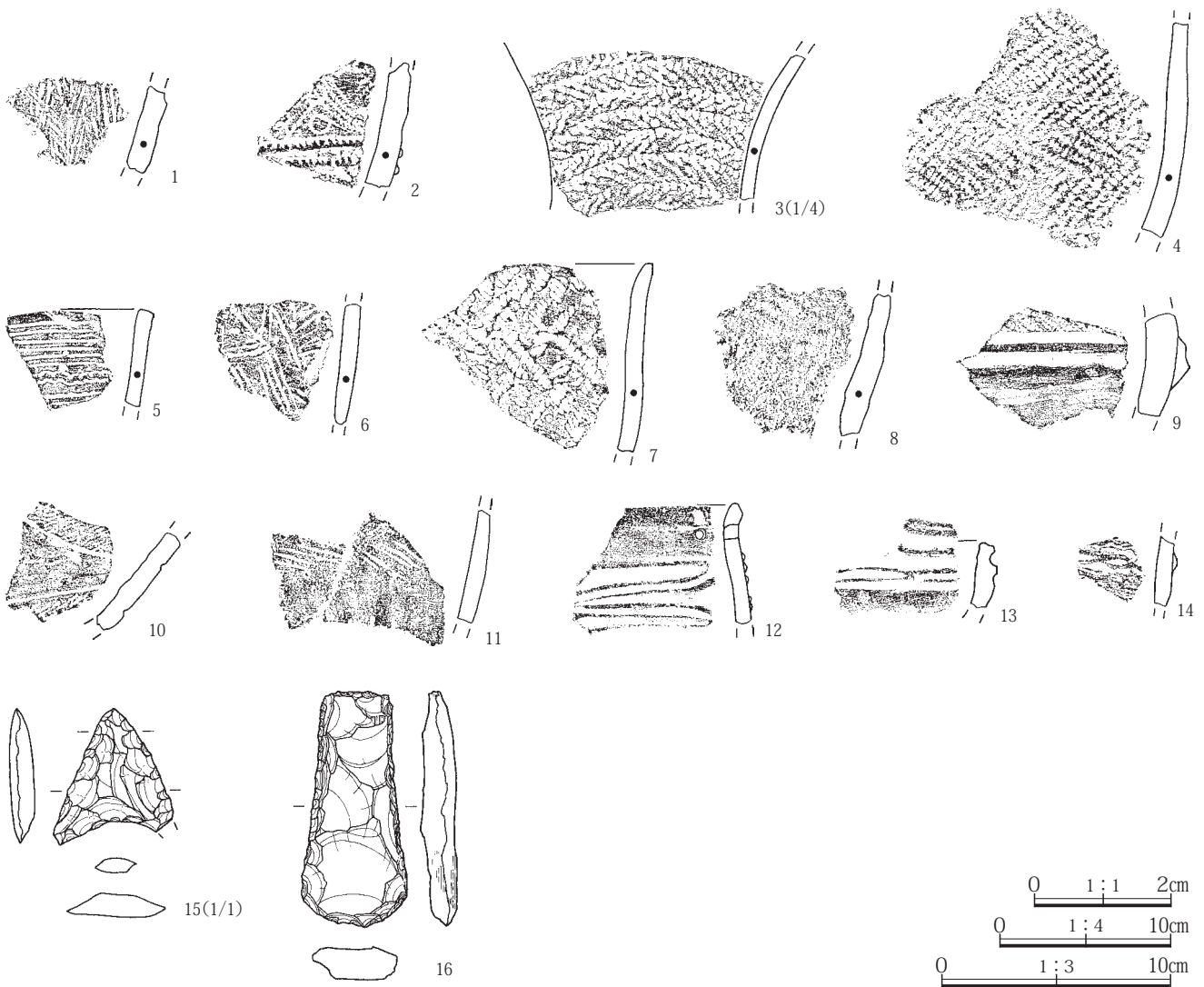
(2) 遺構外出土遺物 (第12図、第64表、PL.176)

遺構に伴わない遺物として、早期から晩期までの各時期の土器および石器が出土している。その代表的な遺物を第12図に示した。

を第12図に示した。

早期末葉に位置づけられる条痕文系土器の1、胎土に繊維を含んだ前期前葉から中葉に位置づけられる2～8、中期後葉に位置づけられる9、後期前葉・中葉に位置づけられる10・11、そして晩期の12～14がある。

石器には、15の黒色安山岩製の石鏃1点、16の黒色頁岩製の撥形となる打製石斧1点があり、他に石核や二次加工のある剥片および剥片類がある。



第12図 1区縄文時代遺構外出土遺物

第2項 古墳時代の遺構と遺物

(1)概要

本調査区で検出された古墳時代の遺構は、調査区全体に広がり、その範囲は東側の2区にまで及ぶ広範囲な集落を形成していたようである。基本層序とした1-A区北壁でのIV層上面および1-C区北壁VII層上面を確認面とした第2面調査で、5世紀から7世紀にかけての集落が検出された。この集落を構成する遺構は、竪穴建物22棟がある。検出された建物の分布状況から、集落の広がりには東側の2区は元より、調査区外となる北・南側にまで展開するものと推測される。また、本調査区を含めた広い範囲に、段丘東側の温川西岸沿いに点在する四戸の古墳群の存在に大きく関わる古墳時代の集落が展開していたものと考えられる。

(2)竪穴建物

本調査区で検出された古墳時代の竪穴建物は、第2面調査において1-A区に17棟、1-B区に2棟、1-C区に3棟の計22棟の建物が検出された。

以下、各建物ごとに記述する。(第3表 1区竪穴建物一覧を参照)

1区1号竪穴建物(第13・14図、第3・35表、PL. 3・165)

平成25年度の調査で検出した。1区27号土坑と重複する。

位置：1-A区の北東隅付近に位置し、北東側3.6mに1区2号竪穴建物、西側3.8mに1区19号竪穴建物、北西側5mに1区3号竪穴建物がある。

グリッド：2K・2L-134・135

座標値：X=61,181~61,188 Y=-93,667~93,673

重複：本建物の北西壁の内側に1区27号土坑が重複する。

遺構確認および土層断面の観察から、本建物の方が古い。

形状：長方形

規模：長軸5.04m 短軸4.61m 壁高35~49cm

長軸方向：N-27°-W 床面積：(20.49)m²

埋没土：1区27号土坑の埋土は黒褐色土を主体とし、本建物は2層の暗褐色土と3・4層とした黒褐色土に分層できる。また、層中に自然礫を含むことから、人為

的な埋没と考えられる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央にかけては硬化する。壁高は35~49cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南東壁中央のやや南寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-62°-Eを向く。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部が外側に僅かに突出し、規模は全長1.62m、幅1.23mを測る。袖は壁から50cmほど突き出るように残存するが、袖先端は不明。焚口部から燃烧部の底面にかけては建物床面より低くなり、燃烧部底面には並列する2本の支脚石が残存し、煙道部は急角度に立ち上がる。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置し、規模は長軸90cm、短軸72cm、深さ70cmを測り、長方形を呈する。埋土は暗褐色土を主体とする。

柱穴：柱穴は、3方向の隅付近にP1~3を検出したが、主柱穴とは考え難い。柱穴上面はほぼ円形で、径20~30cmを測り、深さ6~12cmと浅い。埋土は黒褐色土を主体とする。

床面下：床面下は、僅かな掘り込みをもち、地山礫を除去した凹凸を確認した。底面の一部には、小礫が多く露出する。床面下の埋土はロームブロック混じりの黒褐色土で、上面は硬い床面を構築している。

遺物：遺物は埋土中からの出土が多く、カマド内からは6の杯と10の甕底部、カマド前に7の甕が出土している。また、貯蔵穴内からは1の杯片が出土している。P1の上面からは11の石製紡錘車が出土している。

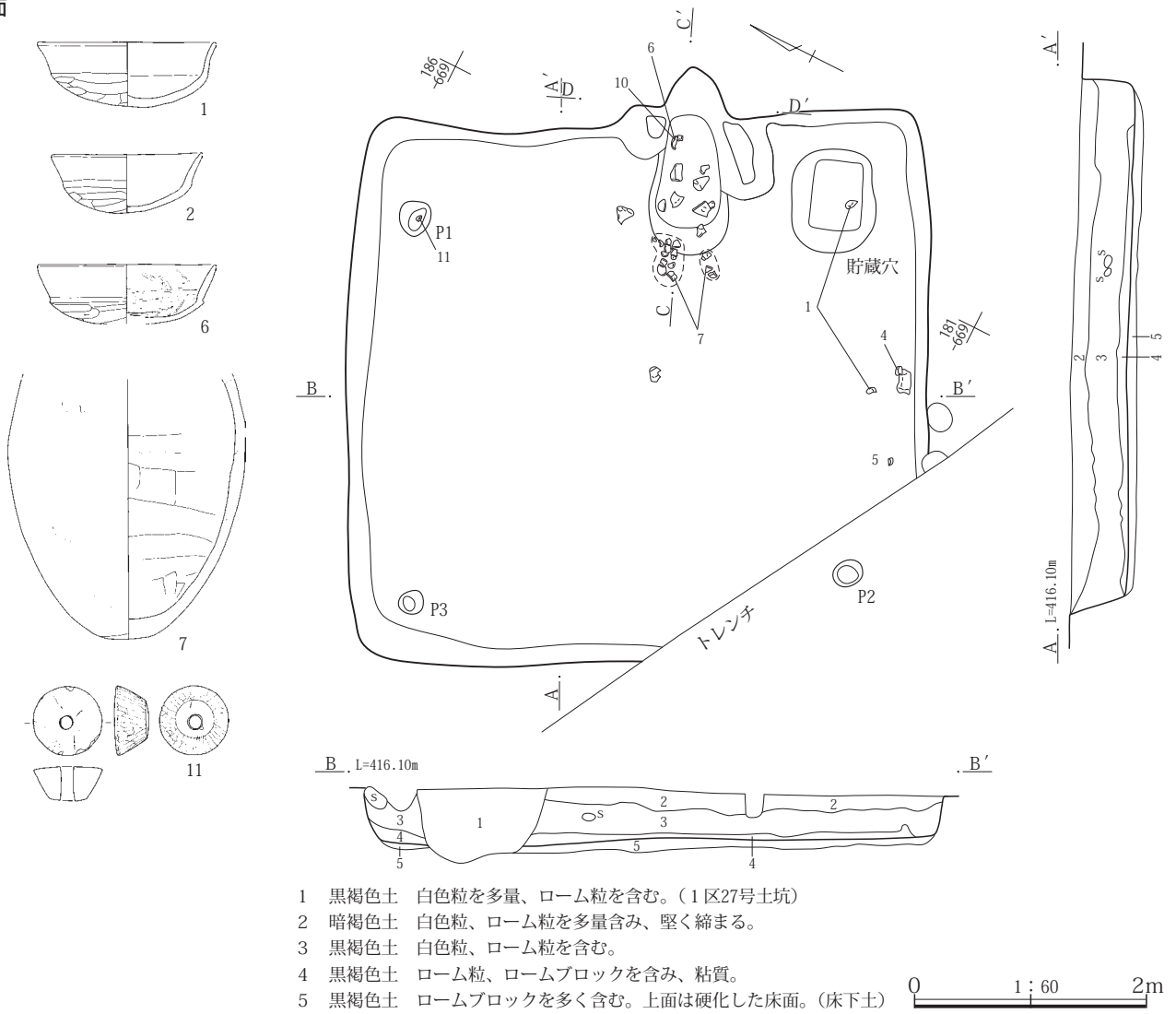
出土遺物として、土器10点と石製品1点を図示した。土師器の杯には1~6があり、6は内面にヘラ磨きを施す。7~10は土師器の甕で、10の底部外面には木葉痕をもつ。

石製品には、11の蛇紋岩製の紡錘車(紡輪)がある。径4.0cm、厚さ2.0cm、孔径0.8cmを測り、研磨整形が施され、刀子等の工具による整形痕が見つかる。

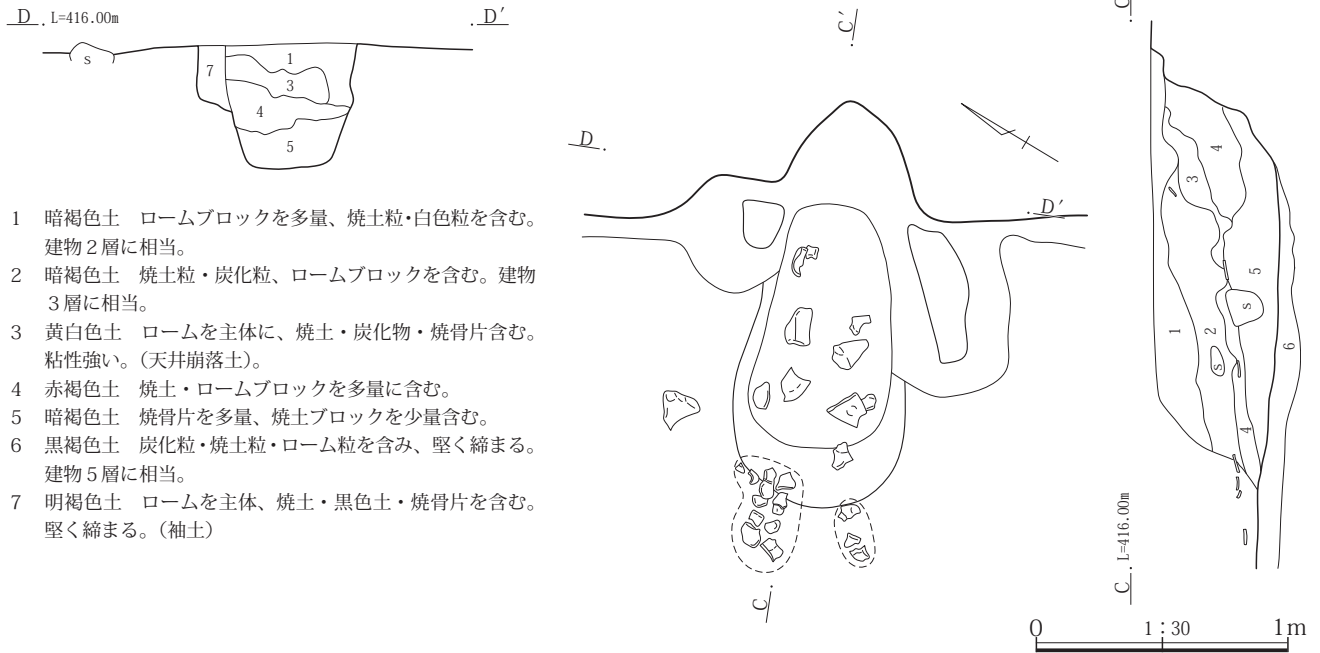
未掲載遺物には、同時期の土器片、石器には黒曜石製の剥片1点がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

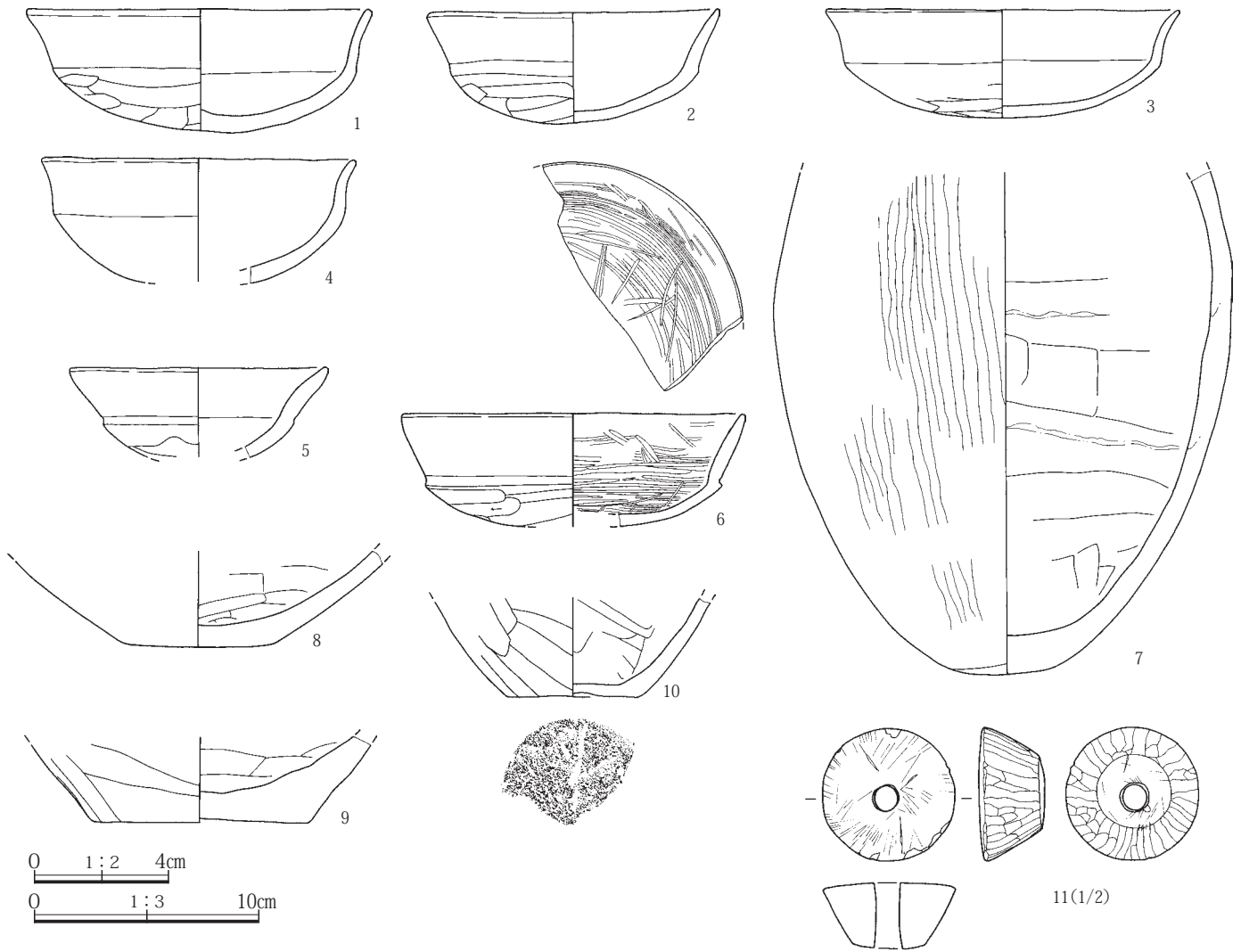
床面



カマド



第13図 1区1号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第14図 1区1号竪穴建物 出土遺物

1区4号竪穴建物

(第15～17図、第3・36表、PL. 3・4・165)

平成25年度の調査で検出した。建物の北半は調査区外となる。

位置：1-A区の北壁中央やや東寄りの壁際に位置し、東側3.0mに1区3号竪穴建物、南東側3.0mに1区19号竪穴建物、北西側2.2mに1区5号竪穴建物がある。

グリッド：2M・2N-136～138

座標値：X=61,190～61,197 Y=-93,679～93,686

形状：正方形か

規模：長軸(6.00)m 短軸6.09m 壁高26cm

長軸方向：N-61°-E 床面積：(19.98)m²

埋没土：1・2層の暗褐色土を主体とし、その下層に3層の茶褐色土、4層の暗褐色土、さらに壁際の5層とした黄褐色土に分層できる。また、層下位に自然礫を

含むことから、人為的埋没も考えられる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から建物中央にかけて著しく硬化する。また、カマド周辺の床面には焼土粒が散乱し、南東壁中央の壁際付近の床面上にも焼土粒や炭化物粒が薄く広がっていた。壁高は26cmを測り、やや傾斜ぎみに立ち上がる。

カマド：複数のカマドを検出した。カマド1は、南西壁中央に位置し、建物廃絶時に伴う最も新しいカマドである。主軸方位はN-116°-Wを向き、煙道部天井が崩落せずに残存する。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部が外側に長く突出し、規模は全長2.17m、幅1.01mを測る。袖は壁から75cmほど突き出るように残存し、袖の先端には袖石と、袖石に架かる焚口部の天井石を確認した(崩落していない)。焚き口部から燃烧部の底面にかけては建物床面より低くなり、燃烧部底面には

第4章 検出された遺構と遺物

崩落焼土とその上に土師器杯・甕の土器がまとまって出土している。燃烧部奥は壁面となり、一段高い位置から煙道が直線的に緩やかな角度で延び、煙道端部は径35cmの小穴状に立ち上がる。なお、焚き口部の袖石の内幅は、下端で42cm、上端で34cmを測り、天井石は扁平な棒状角礫で、長さ48cmを測る。

カマド2は、南東壁中央に位置し、カマド1に先行する旧いカマドである。残存状況は極めて悪く、焚き口部から燃烧部にかかる落ち込みの底面のみを確認した。先述のごとく、この部分の上面となる床面には、焼土粒や炭化物粒が薄く広がっていた。この状況と、後述の貯蔵穴2との位置的關係から、カマドの残痕と判断した。

貯蔵穴：カマド1に伴う貯蔵穴1と、カマド2に伴う貯蔵穴2の2基を検出した。貯蔵穴1はカマド1の右側となる西隅付近に位置し、規模は長軸55cm、短軸50cm、深さ12cmと浅く、円形に近い楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色土と黒褐色土を主体とする。

貯蔵穴2はカマド2の右側となる南隅付近に位置し、規模は長軸92cm、短軸80cm、深さ52cmを測り、楕円形を呈する。埋土は灰褐色土と暗褐色土を主体とする。

柱穴：P1・2の2基を検出したが、支柱穴とは考え難い。柱穴上面はほぼ円形で、径30～35cm、深さ25～32cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とする。

床面下：床面下に僅かに浅い掘り込みをもち、上面はやや硬い床面を構築している。

遺物：出土遺物はかなり多く、埋土中の出土も多い。カマド1内からは1の杯と甕の胴部、カマド右袖の右脇から7・10の甕が床面直上に出土している。また、6の甕が、建物中央の床面直上に潰れた状態で出土している。他に、まとまった出土ではないが、棒状礫が床面直上から出土している。

出土遺物として、土器13点と石製品1点を図示した。土師器の杯には1～3があり、3は1区21号竪穴建物出土片と接合している。須恵器の高杯の脚部4も、1区21号竪穴建物出土片と接合。5は土師器の小型甕で、1区21号竪穴建物出土片と接合。6～13は土師器の甕で、11の胴部外面は縦位のへう磨き。12・13は甕の底部。石製品の14は、滑石製の白色から灰色の白玉で、径0.7

～0.8cm、厚さ0.3cm、孔径3mmを測り、わずかに擦痕が認められる。

未掲載遺物には、同時期の多くの土器片と、長さ13.0～17.0cmほどの棒状礫(粗粒輝石安山岩9点、変質安山岩1点)がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

1区6号竪穴建物(第18図、第3・37表、PL. 4・166)

平成25年度の調査で検出した。1区24・25・51・52号土坑と重複する。

位置：1-A区の北壁中央やや西寄りの壁際に位置し、東側2.6mに1区6号竪穴建物があり、1区45号土坑と接する。

グリッド：2N・2O-139・140

座標値：X=61,199～61,203 Y=-93,694～93,698

重複：本建物のカマドの一部を壊すように北東壁に沿った東隅に長方形の1区51号土坑および1区52号土坑が重複する。また、南隅付近に1区24号土坑、北隅付近に1区25号土坑が重複する。遺構確認および土層断面の観察から、いずれの土坑よりも本建物の方が古い。

形状：正方形

規模：長軸3.74m 短軸3.73m 壁高15～42cm

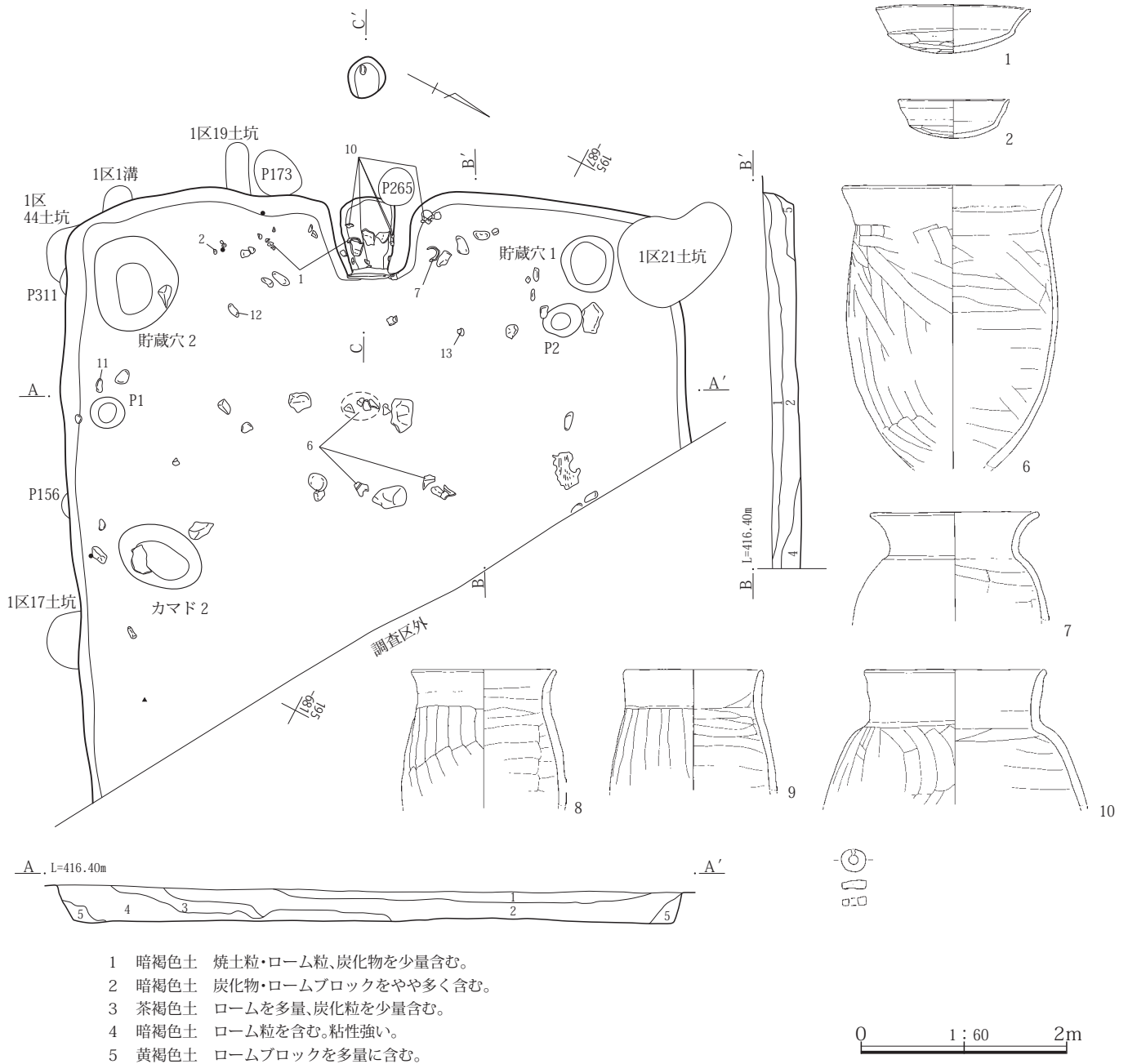
長軸方向：N-31°-E 床面積：(11.66)m²

埋没土：1層の茶褐色土、2層と壁際からの3層とした暗褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から建物中央にかけて著しく硬化する。壁高は15～42cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：カマドの右半を1区51号土坑に壊されるが、北東壁のほぼ中央に位置し、主軸方位はN-33°-Eを向く。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部が外側にやや長く突出する。残存する規模は、全長(1.38)m、幅(0.46)mを測る。左袖は壁から36cmほど突き出るように残存するが、袖先端は不明。焚き口部から燃烧部の底面にかけては建物床面よりやや低くなり、煙道部は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置するが、1区51号土坑と重複し、貯蔵穴の底面が僅かに残存する。残存規模は、長軸46cm、短軸36cmを測り、楕円形を呈



第15図 1区4号竪穴建物 床面 平・断面図

する。床面からの深さは、49cmほどと推定される。

柱穴：支柱穴と考えられるP1・2の2基を検出したが、他は不明。柱穴上面はほぼ円形で、径25~35cm、深さ26cmを測る。埋土は鈍い黄褐色土を主体とする。

床面下：床面下の掘り込みはないが、建物中央に床下土坑1、南東壁の中央壁際に床下土坑2を検出した。共に円形で、床下土坑1は径118cm、深さ15cmを測り、床下土坑2は径60cm、深さ18cmを測る。

遺物：遺物の出土は少ない。1の杯が南東壁際付近の床面直上に、3の白玉が建物中央の床面直上に出土して

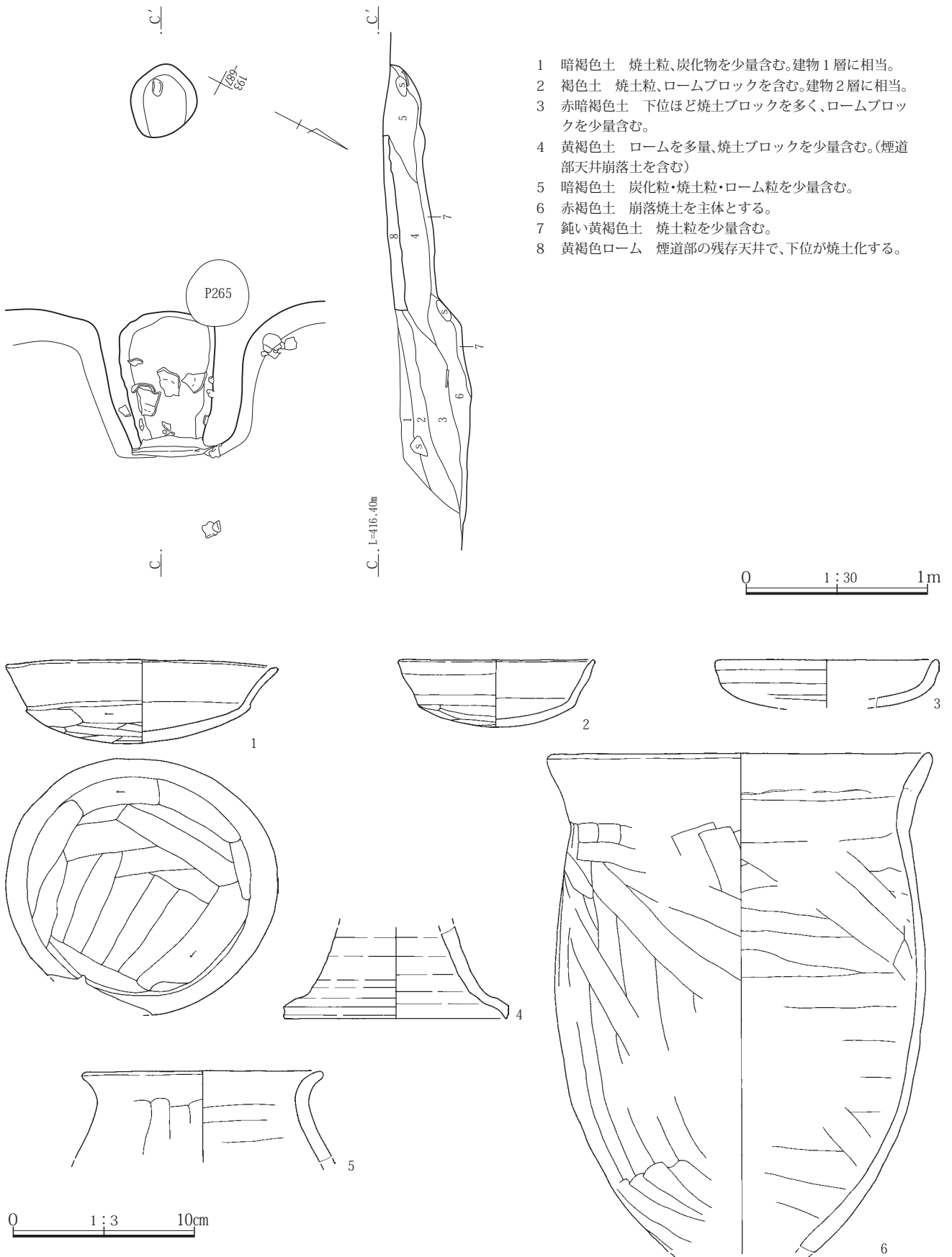
いる。

出土遺物として、土器2点と石製品1点を図示した。1は土師器の杯で内面へラ磨き、2は土師器の甕の底部である。

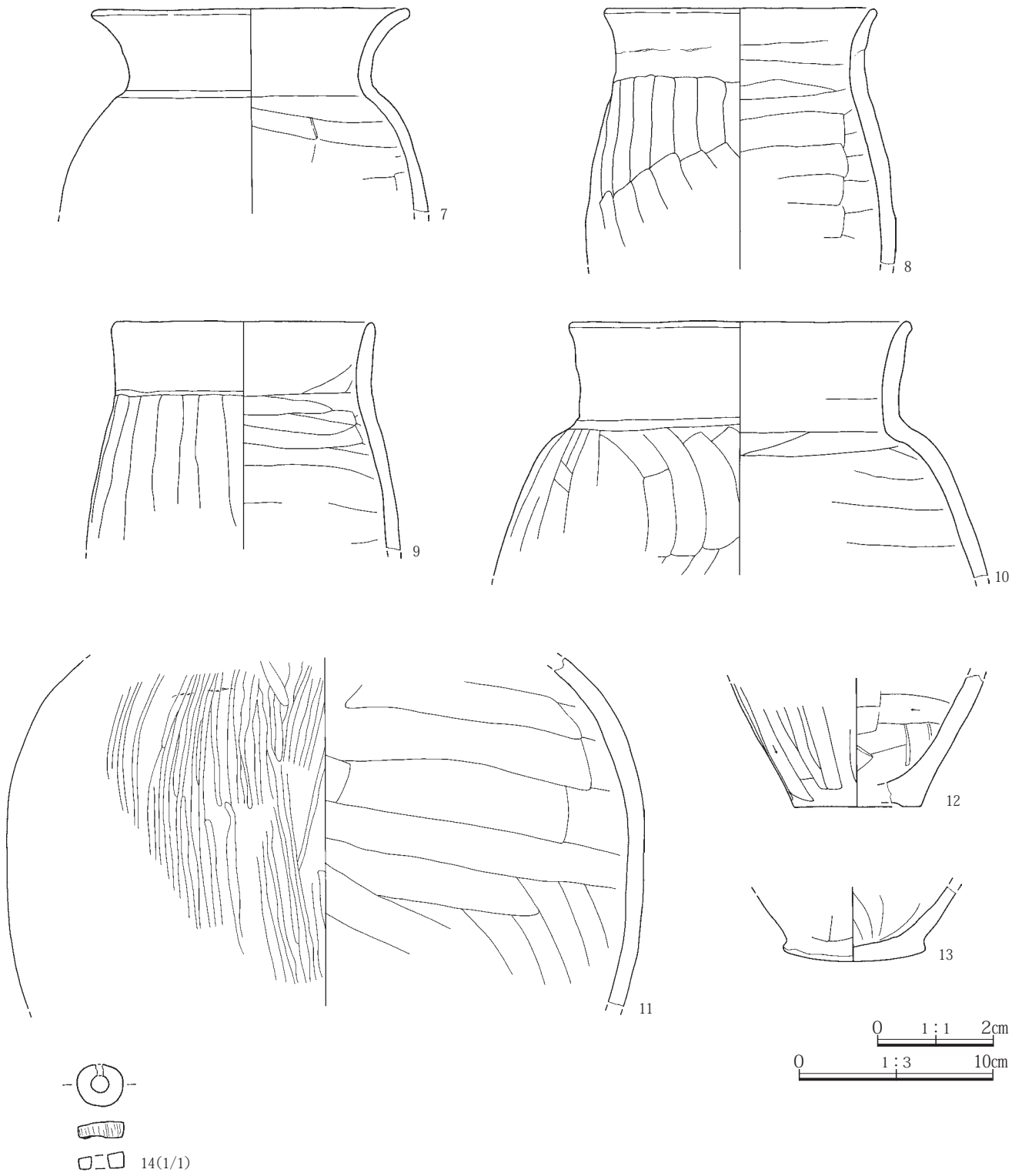
石製品の3は、滑石製の灰オリーブ色の白玉で、径0.8cm、厚さ0.2cm、孔径3mmを測り、わずかに擦痕が認められる。

未掲載遺物には、同時期の土師器細片が僅かにある。

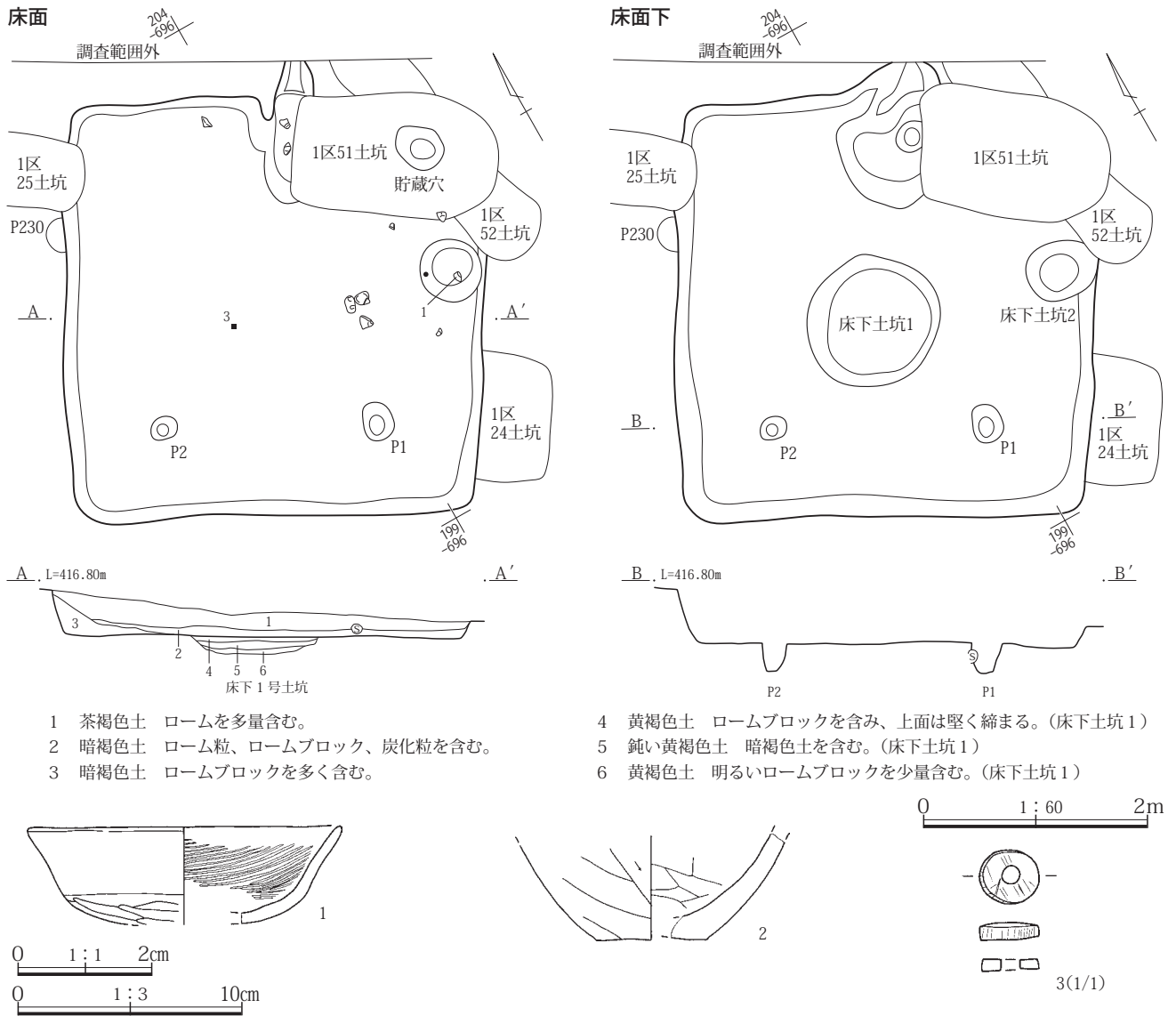
所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀代の可能性が高い。



第16図 1区4号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物(1)



第17図 1区4号竪穴建物 出土遺物(2)



第18図 1区6号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図、出土遺物

1区7号竪穴建物 (第112図、第3表、PL. 4)

建物の北側の一部を平成25年度調査で検出したが、平成27年度調査において建物の大半となる南側を2区2号竪穴建物として調査した。そのため、記述は後述の2区2号竪穴建物を参照。

1区11号竪穴建物(第19・20図、第3・41表、PL. 6・169)

平成25年度の調査で検出した。1区9・12・14・18・24号竪穴建物と重複し、重複の多い一画である。特に、建物の南西側の多くを1区18号竪穴建物に壊され、不明な点も多い。

位置：1-A区の中央南西寄りに位置し、北側に1区12号竪穴建物と重複し、東側を1区24号竪穴建物と重複、

南側を9・18号竪穴建物と重複、西側を1区14号竪穴建物と重複する。

グリッド：2 J ~ 2 L-142~144

座標値：X=61,179~61,186 Y=-93,709~93,715

重複：本建物の南西側に重複する1区9・18号竪穴建物との新旧は、遺構確認および土層断面等の観察から、古い順に1区11号竪穴建物→1区18号竪穴建物→1区9号竪穴建物である。また、北東側に重複する1区12号竪穴建物、南東壁に接するように重複する1区24号竪穴建物とは、いずれの建物よりも本建物の方が古いことが遺構確認時に明らかであった。さらに、北西側に重複する1区14号竪穴建物との新旧が不明確であったため、本建物と同時に調査した結果、土層断面の観

察から本建物のほうが古い。

形状：正方形

規模：長軸5.01m 短軸5.01m 壁高51cm

長軸方向：N-40°-E 床面積：(21.52)m²

埋没土：1・2層の暗褐色土を主体とし、その下層の3・4層とした暗褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化する。壁高は51cmを測り、ほぼ垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南西壁中央のやや南寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-135°-Wを向くが、1区18号竪穴建物との重複によりカマド下部が残存する。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部が外側に突出し、規模は全長1.85m、幅1.58mを測る。袖は壁から60~80cmほど突き出るように残存する。焚口部から燃烧部の底面にかけては、建物床面より僅かに低くなり、煙道部は斜めに立ち上がる。

貯蔵穴：カマドの左側となる南隅に位置し、規模は長軸70cm、短軸66cm、深さ42cmを測り、不整形円形を呈する。埋土は暗褐色土を主体とする。

床面下：掘り込みはない。

遺物：出土した遺物量は少ない。カマド内からは6の土師器甕があり、建物中央付近の床面直上から1・3の土師器杯が出土している。また、貯蔵穴北側の床面直上に8、北隅付近の床面直上から9・10の白玉が出土。出土遺物として、土器7点と石製品3点を図示した。土師器の杯には1~3があり、4は須恵器の高杯の脚部で、土師器の甕には5~7がある。

石製品の8・9は、滑石製の灰白色の白玉で、径0.8cm、厚さ0.5cm、孔径3mm。10は、滑石製の灰白色の白玉で、径0.8~0.9cm、厚さ0.8cm、孔径3mmを測り、いずれも表裏面にわずかに擦痕が認められる。

未掲載遺物には、同時期の土器片がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

1区12号竪穴建物

(第21・22図、第3・42表、PL. 6・169)

平成25年度の調査で検出した。重複の密な一画で、1区11号竪穴建物と重複する。

位置：1-A区の中央南西寄りに位置し、南側を1区11号竪穴建物と重複し、西側0.8mに1区14号竪穴建物が近接、北西側1.2mに1区15号竪穴建物が近接する。

グリッド：2K・2L-142・143

座標値：X=61,183~61,188 Y=-93,706~93,712

重複：本建物の南西隅が僅かに1区11号竪穴建物と重複し、遺構確認および土層断面等の観察から、本建物のほうが新しい。

形状：正方形

規模：長軸4.32m 短軸4.20m 壁高45cm

長軸方向：N-33°-E 床面積：14.84m²

埋没土：1・2層の暗褐色土を主体とし、壁際に3層とした暗褐色土、さらに4層の周溝埋土とに分層できる。なお、埋土中に大型礫を含むことから、人為的埋没の可能性が高い。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化する。壁高は45cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

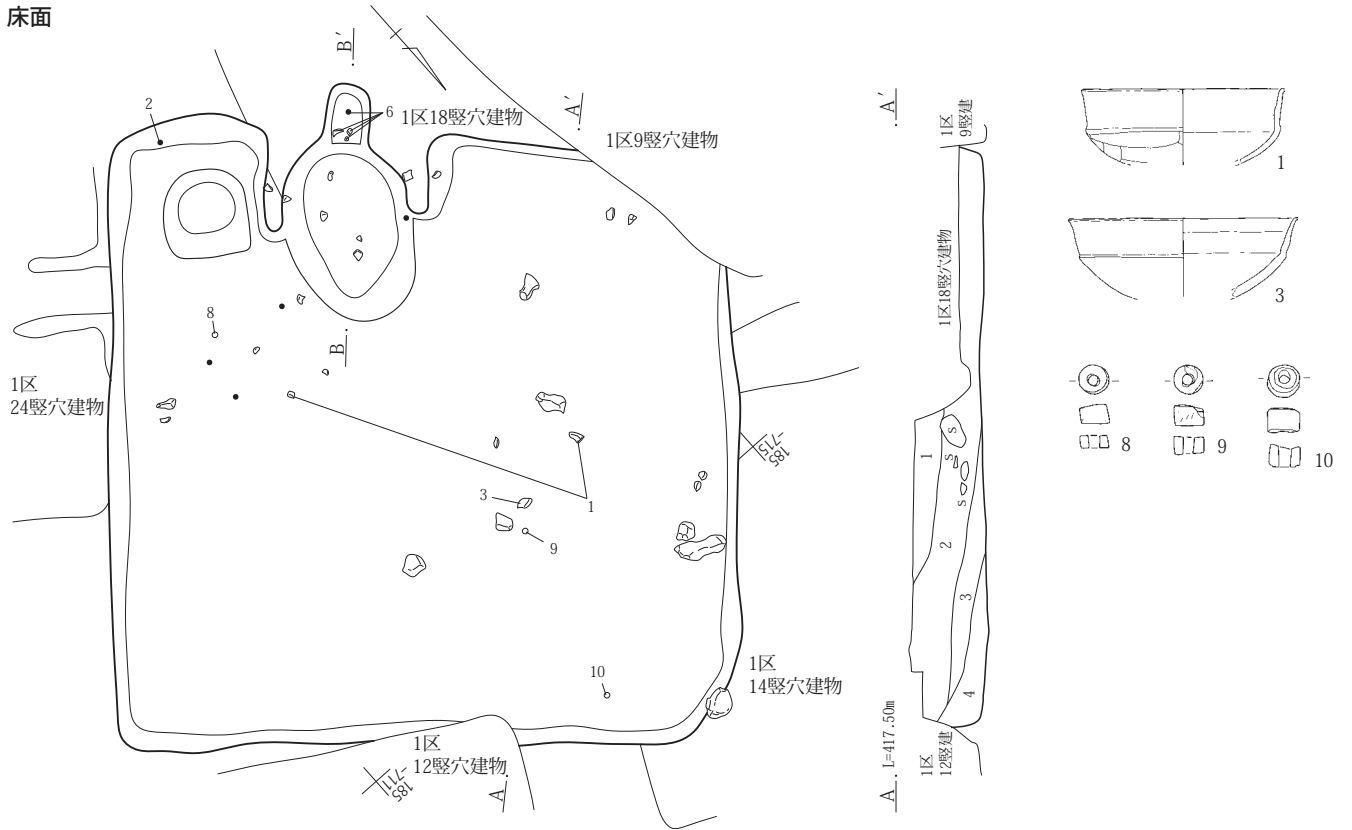
カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-52°-Eを向き、残存状態はかなり悪い。燃烧部は壁の外側にやや突出し、煙道部はさらに外側に突出する。残存する規模は、全長1.02m、幅0.9mを測り、袖は壁から僅かに突き出るような痕跡が残る。焚口部から燃烧部の底面にかけては、建物床面より僅かに低くなり、煙道部は斜めに立ち上がる。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置し、規模は長軸66cm、短軸50cm、深さ15cmを測り、楕円形を呈する。埋土は暗褐色土を主体とする。

周溝：北東壁のカマドを除く両側および南東壁際には、幅16cm前後、深さ6cmほどの周溝が途切れぎみに巡り、埋土は黄橙砂質土ブロックを含む暗褐色土を主体とする。

床面下：床面下に5cm前後の掘り込みをもち、底面は凹凸が著しい。床面下の埋土は、5層とした暗褐砂質土ブロックを含む黄橙色土で、上面は硬い床面を構築している。また、北隅には床下土坑を検出した。規模は

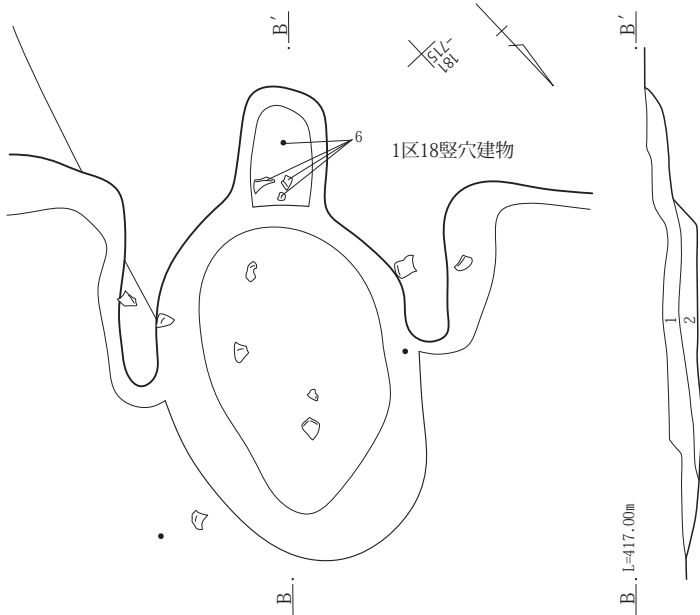
床面



- 1 暗褐色土 黄橙色粘質ブロックを少量、炭化物を微量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、白色粒を微量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを微量含む。

0 1:60 2m

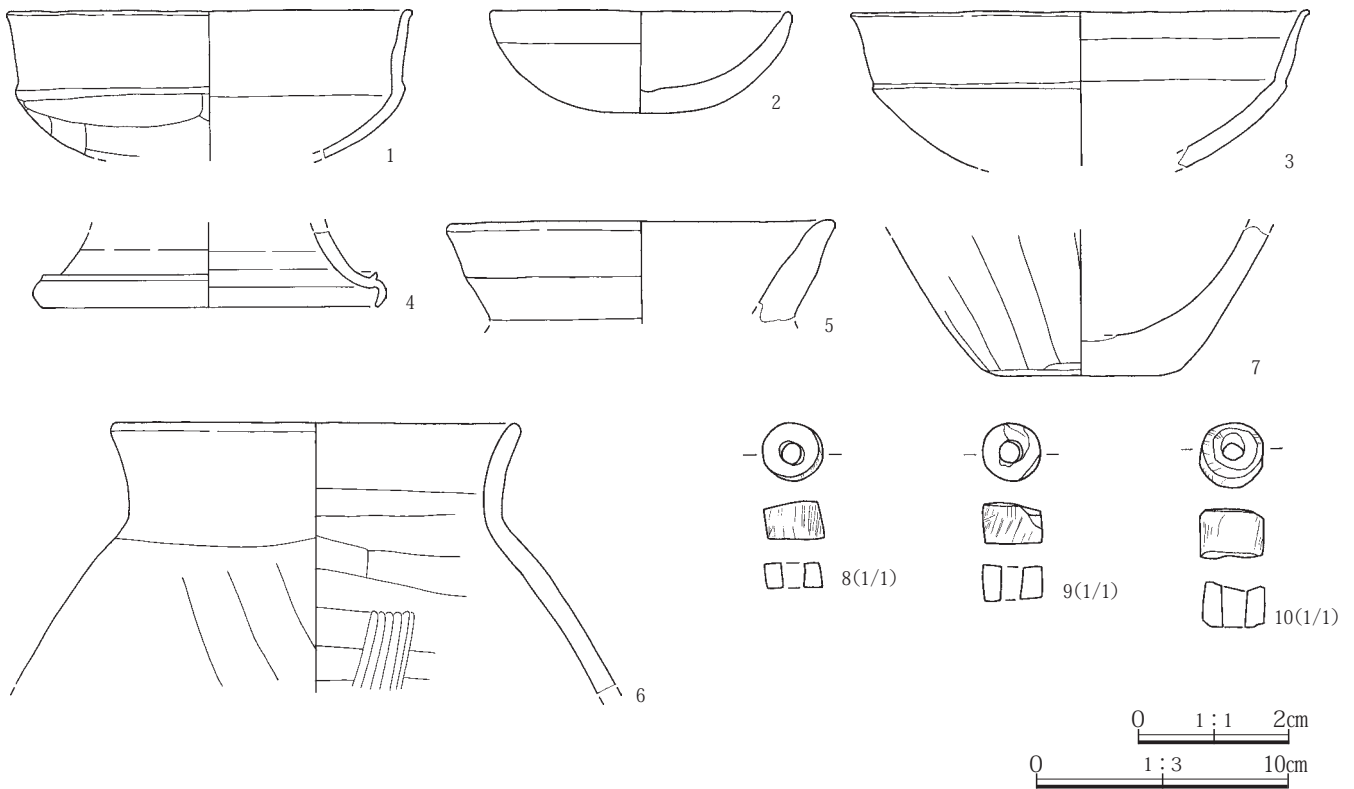
カマド



- 1 黒褐色土 黄橙色ブロック・焼土粒・炭化物を少量含む。建物3層に相当。
- 2 黒褐色土 焼土ブロックを少量、炭化物を微量含む。

0 1:30 1m

第19図 1区11号竖穴建物 床面、カマド 平・断面図



第20図 1区11号竪穴建物 出土遺物

長軸140cm、短軸106cm、深さ15cmを測り、不整形を呈する。埋土は暗褐色土を主体とする。

遺物：出土した遺物量は極めて少なく、埋土中からである。カマド内に土師器甕の胴部片が出土しているが、やはり埋土上位からである。

出土遺物として、土器3点を図示した。1は土師器の杯であり、2は土師器の甕、3は土師器であるが不明。

所見・時期：遺物の出土も少なく、人為的埋没による遺物の混入と考えられることから、建物の時期は、出土土器から7世紀前半か。

1区14号竪穴建物（第23図、第3・44表、PL. 7・169）

平成25年度の調査で検出した。重複の密な一画で、1区11・13・23号竪穴建物と重複する。

位置：1-A区の中央西寄りに位置し、北側3.5mに1区15・16号竪穴建物、東側に1区12号竪穴建物が近接し、南東側を1区11号竪穴建物が重複する。また、南側に1区9・18号竪穴建物が近接し、北西側を1区13・23号竪穴建物が重複する。

グリッド：2K・2L-143・144

座標値：X=61,184~61,188 Y=-93,712~93,716

重複：本建物の南東側に重複する1区11号竪穴建物との新旧が不明確であったため、本建物と同時に調査した結果、土層断面の観察から本建物の方が新しい。また、本建物の北西側に重複する1区13号竪穴建物との新旧は、1区13号竪穴建物のカマドの存在と遺構確認から、本建物の方が古い。さらに、重複するであろう1区23号竪穴建物との新旧は不明。

形状：正方形

規模：長軸3.19m 短軸(2.21)m 壁高27cm

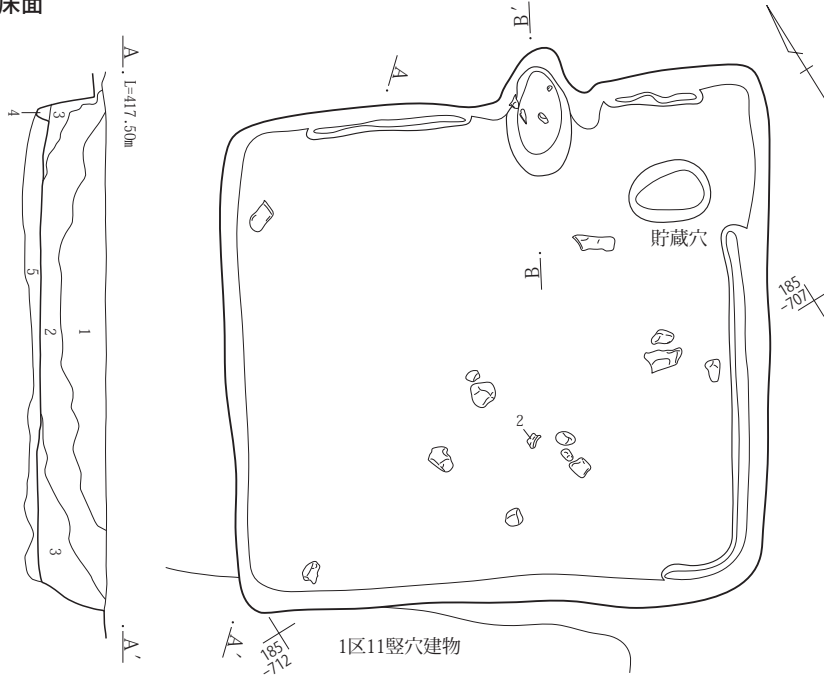
長軸方向：N-30°-E 床面積：(9.25)m²

埋没土：1層の暗褐色土を主体とし、僅かではあるが2層とした茶褐色土が堆積する。

床面・壁：床面は1-A区基本層序となる北壁IV層(灰褐色土)中にあり、床は概ね平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化する。壁高は27cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

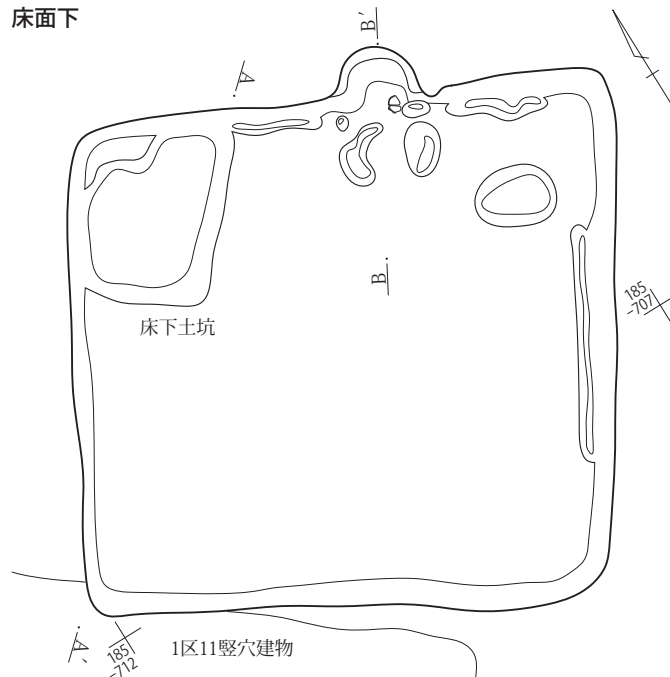
カマド：北東壁中央の東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-28°-Eを向き、残存状態は極めて悪い。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長1.7m、幅0.52mを測り、明確

床面



- 1 暗褐色土 灰白・黄橙粒、焼土粒、炭化物を微量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物、黄橙砂質土ブロックを微量含む。
- 3 暗褐色土 黄橙砂質土ブロックを少量、焼土粒、炭化物を微量含む。
- 4 暗褐色土 黄橙砂質土ブロックを含む。(周溝)
- 5 黄橙色土 暗褐色砂質土ブロックを少量含む。上面は硬化した床面。(床下土)

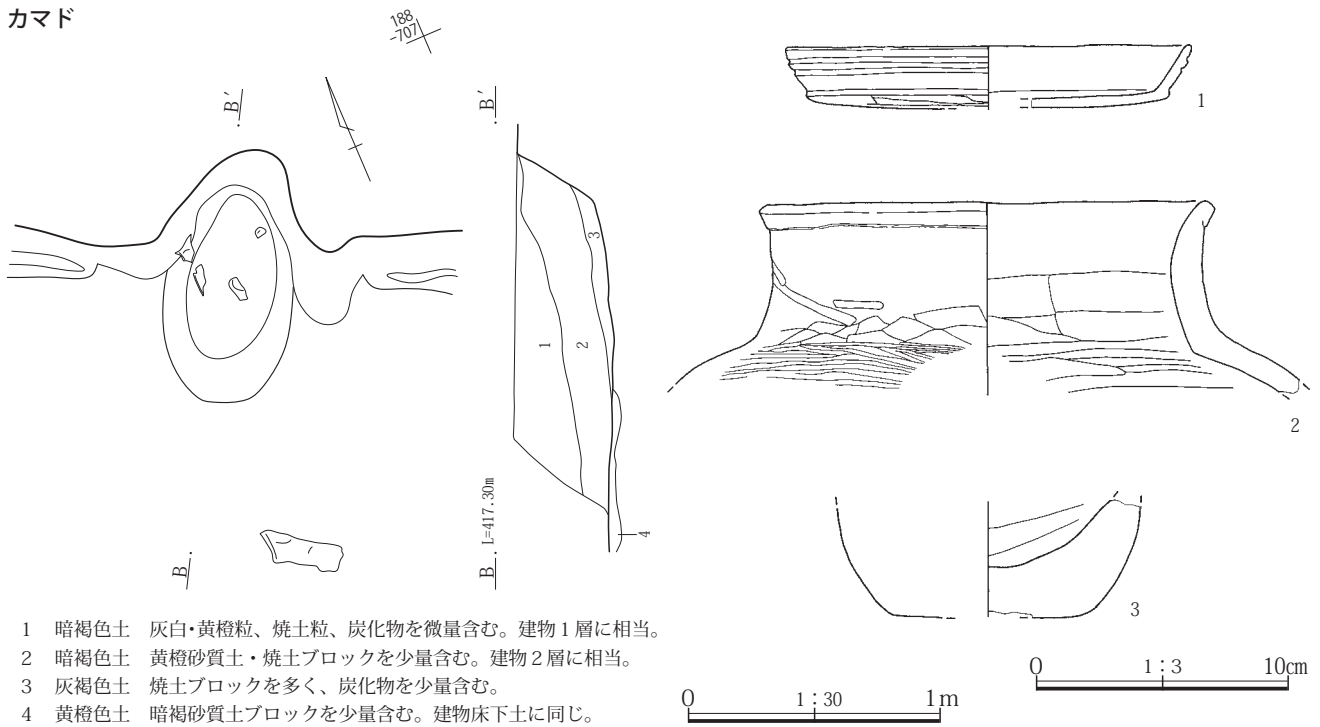
床面下



0 1:60 2m

第21図 1区12号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図

カマド



- 1 暗褐色土 灰白・黄橙粒、焼土粒、炭化物を微量含む。建物1層に相当。
- 2 暗褐色土 黄橙砂質土・焼土ブロックを少量含む。建物2層に相当。
- 3 灰褐色土 焼土ブロックを多く、炭化物を少量含む。
- 4 黄橙色土 暗褐砂質土ブロックを少量含む。建物床下土に同じ。

第22図 1区12号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物

な袖は残存していない。焚口部から燃焼部の底面にかけて、建物床面より僅かに低くなり、煙道部は燃焼部奥に一段高く緩やかに長く立ち上がる。なお、燃焼部から焚き口付近には大型礫や土器が散乱する。

床面下：掘り込みはない。しかし、西隅付近には床下土坑が検出された。規模は径60cm前後、深さ15cmを測り、円形を呈する。埋土は暗褐色土を主体とする。

遺物：出土した遺物量は極めて少ない。カマド付近の埋土中から2・4の土師器の甕が出土している。

出土遺物として、土器4点を図示した。1は土師器の杯で、内面にヘラ磨きを施している。2～4は土師器の甕で、3・4は底部である。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀前半の可能性が高い。

1区15号竪穴建物

(第24～27図、第3・45表、PL. 7・169・170)

平成25年度の調査で検出した。1区16号竪穴建物、1区71号土坑と重複する。

位置：1-A区の中央西寄りに位置し、同位置に1区16号竪穴建物が重複し、南東側1.2mに1区12号竪穴建物が近接し、南西側に1区13・23号竪穴建物が近接、

西側2.0mに1区21号竪穴建物、北西側4.8mに1区22号竪穴建物がある。

グリッド：2L・2M-142～144

座標値：X=61,189～61,197 Y=-93,708～93,715

重複：本建物と大きく重複する1区16号竪穴建物との新旧は、土層断面の観察から本建物の方が新しい。なお、1区71号土坑との新旧は、遺構確認により明らかに本建物の方が古い。

形状：長方形

規模：長軸6.28m 短軸5.90m 壁高56cm

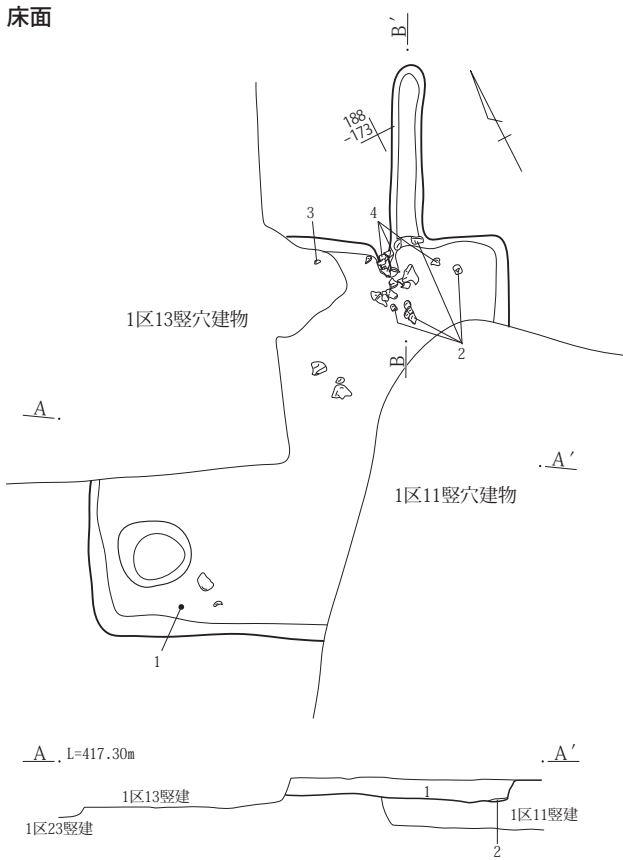
長軸方向：N-88°-W 床面積：32.54㎡

埋没土：1・2層の暗褐色土を主体とし、壁際の3層とした茶褐色土とに分層できる。なお、埋土中に礫を多量に含むことから、人為的埋没と考えられる。

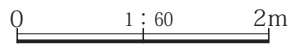
床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化が著しい。壁高は56cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北壁中央の僅か東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-6°-Eを向き、燃焼部付近の残存状態は悪いが、煙道部は極めて良好に残存する。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。燃焼部上部に大型の垂円礫、右袖上部に角礫が出土したもの

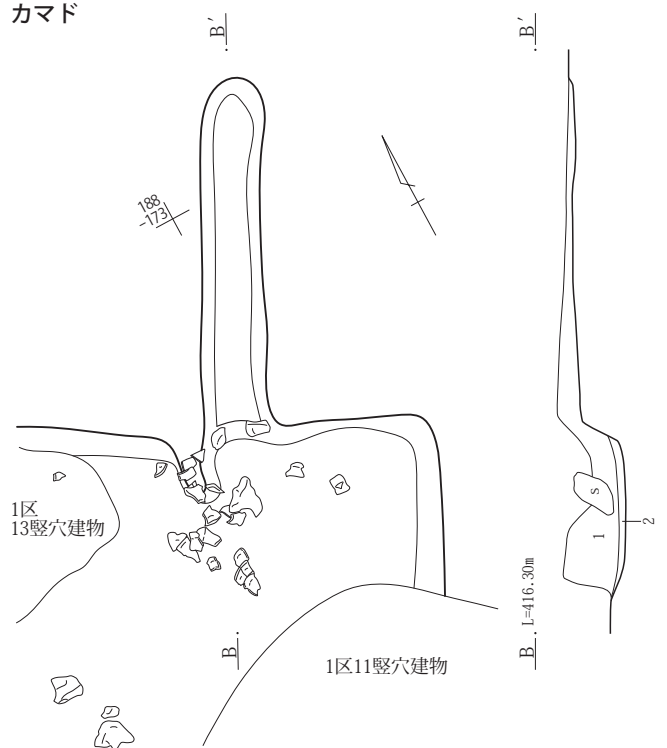
床面



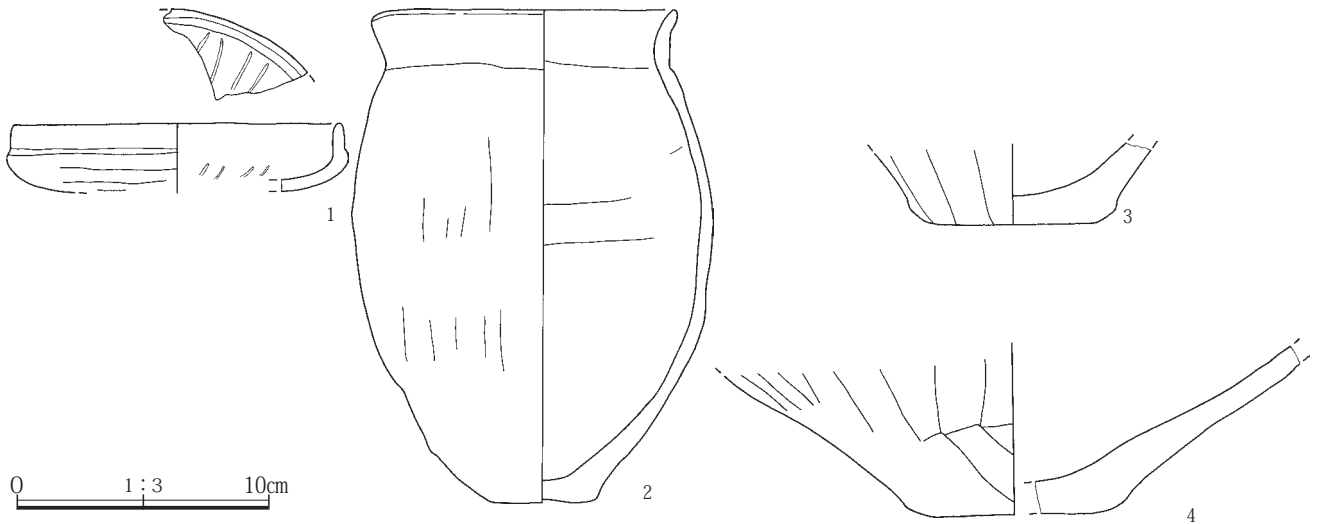
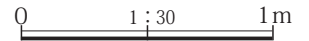
- 1 暗褐色土 白色粒・ロームブロックを多く、炭化粒・焼土粒を含む。
- 2 茶褐色土 ローム主体。



カマド



- 1 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロック、ロームブロックを含む。建物1層に相当。
- 2 灰黄褐色土 焼土ブロックを少量含む。



第23図 1区14号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図、出土遺物

の、埋土中からであり本カマドに伴わないと考えられる。また、右袖の右脇に、長い板状の角礫が壁に立てかかるように出土しており、焚き口部の天井石の可能性はある。カマドの残存する規模は、全長2.44m、幅1.1mを測り、明確な袖は残存していない。焚き口部から燃焼部の底面にかけて、建物床面より僅かに低くなり、煙道部は崩落せずに残存する。煙道部は石組構造で、まず天井石上にカマド6層とした灰黄褐色土が残存し、その下に天井石7石が確認され、さらに煙道の両側に天井石を支える各側5石の側壁石を検出した。側壁石の内幅は20～30cmを測り、煙道先端ほど狭くなる。また、煙道部底面は、燃焼部から緩やかに長く立ち上がる。

貯蔵穴：カマドの右側となる北東隅付近に位置し、規模は長軸108cm、短軸85cm、深さ37cmを測り、長方形ないし楕円形を呈する。埋土は暗褐色土を主体とする。なお、調査時は1区56号土坑として扱った。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。柱穴上面は円形ないし楕円形で、長軸68～110cm、短軸63～85cm深さ34～46cmを測り、埋土は暗褐色土を主体とする。なお、P3については、調査時に1区55号土坑として扱った。

遺物：出土遺物は比較的に多いものの、埋土中からの出土が多い。カマド内からは5の土師器杯、11の土師器甕が、カマド周辺および右袖右脇の床面直上からは3の土師器杯、9・12の土師器甕、13の須恵器甕が出土している。また、貯蔵穴内から1の土師器杯が出土している。他に、埋土中から18の白玉が出土し、棒状礫がカマド周辺の床面直上から2点出土している。

出土遺物として、土器17点と石製品1点を図示した。土師器の杯に1～5があり、6・7は須恵器の短頸壺。8は須恵器小型甕で口縁下に波状文を施す。9～12は土師器の甕。13～17は須恵器甕および胴部片で、13の胴部外面には平行叩き目の上に横位カキ目を施している。なお、19の土師器の杯と20・21の須恵器の杯は、時期の異なる混入遺物と考えられる。

石製品の18は、滑石製の灰白色の白玉で、径1.2cm、厚さ0.7cm、孔径3mm。表裏面はほぼ平坦で、擦痕がわずかに認められる。

未掲載遺物には、同時期の土器片と、長さ15cm前後の

棒状礫(変質安山岩1点、粗粒輝石安山岩1点)がある。
所見・時期：石組構造となるカマド煙道部は、極めて良好な状態にあった。建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

1区16号竪穴建物 (第24図、第3表)

平成25年度の調査で検出した。1区15号竪穴建物と大きく重複し、四隅のみの残存と、遺存状況は極めて悪い。また、1区71号土坑とも重複する。

位置：1-A区の中央西寄りに位置し、同位置に1区15号竪穴建物が重複する。

グリッド：2L～2N-142～144

座標値：X=61,189～61,196 Y=-93,708～93,715

重複：重複する1区15号竪穴建物との新旧は、土層断面の観察から本建物の方が古い。なお、1区71号土坑との新旧は、遺構確認により明らかに本建物の方が古い。

形状：長方形

規模：長軸5.44m 短軸5.34m 壁高52cm

長軸方向：N-55°-E 床面積：32.55㎡

埋没土：1・2層の暗褐色土を主体とし、壁際の3層とした暗褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、重複する1区15号竪穴建物の床面より若干高い位置にある。壁高は52cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：1区71号土坑と1区15号竪穴建물에壊され、ほとんど残存していないが、煙道の一部を僅かに確認できたことから、建物北西壁の中央に位置する。しかし、カマドの詳細は不明。

遺物：出土していない。

所見・時期：建物の四隅のみの調査であり、遺物の出土もないことから、建物の時期は不明。しかし、1区15号竪穴建物より旧く、カマドをもつことから、古墳時代の可能性が高い。

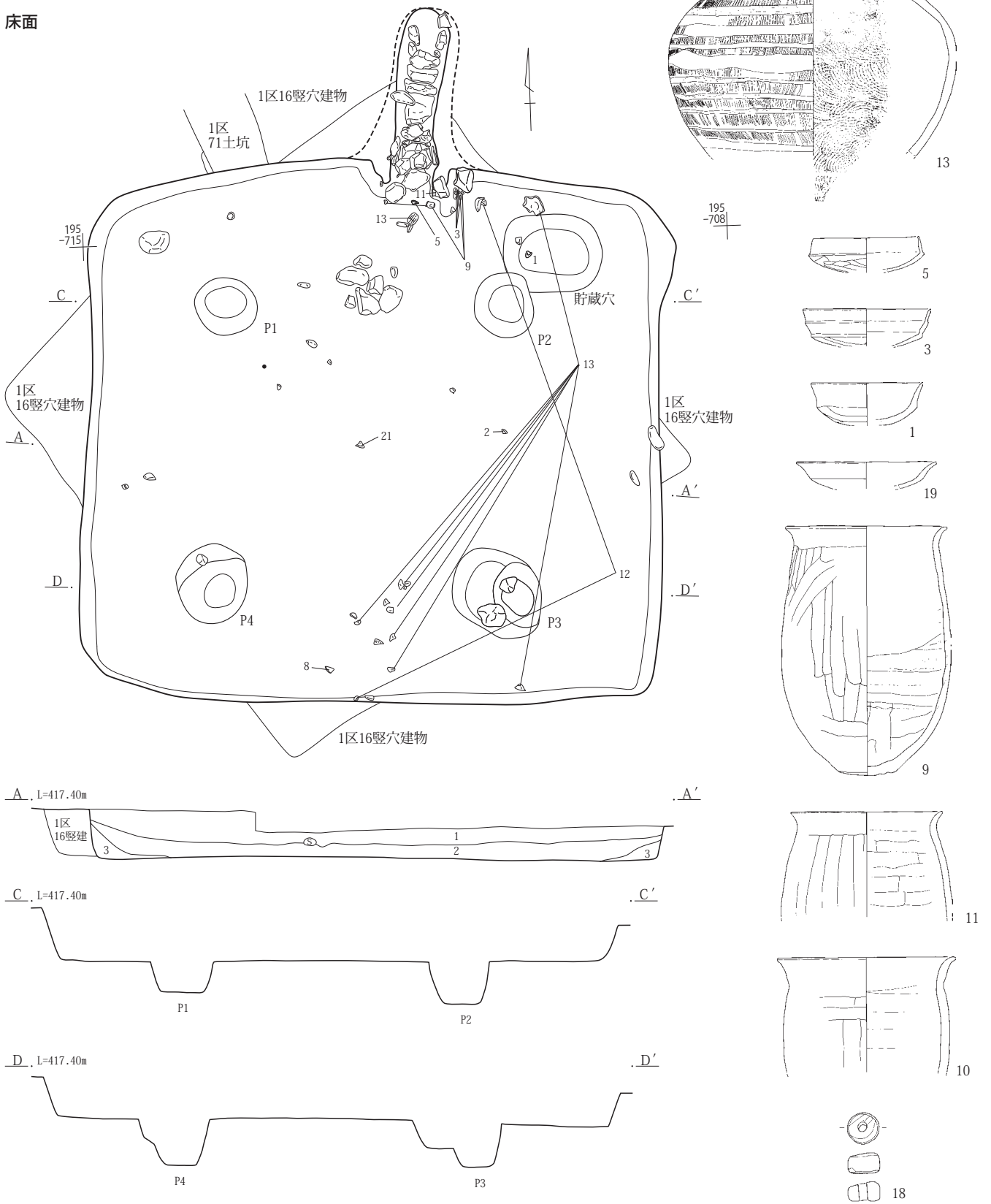
1区17号竪穴建物

(第28・29図、第3・46表、PL.7・170)

平成25年度の調査で検出した。1区13・23号竪穴建物、1区68号土坑と重複する。

位置：1-A区の西側に位置し、東側を1区13・23号竪穴建物が重複し、南側に1区9・10・18号竪穴建物が

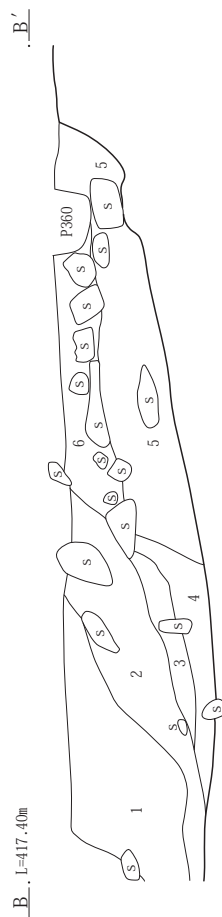
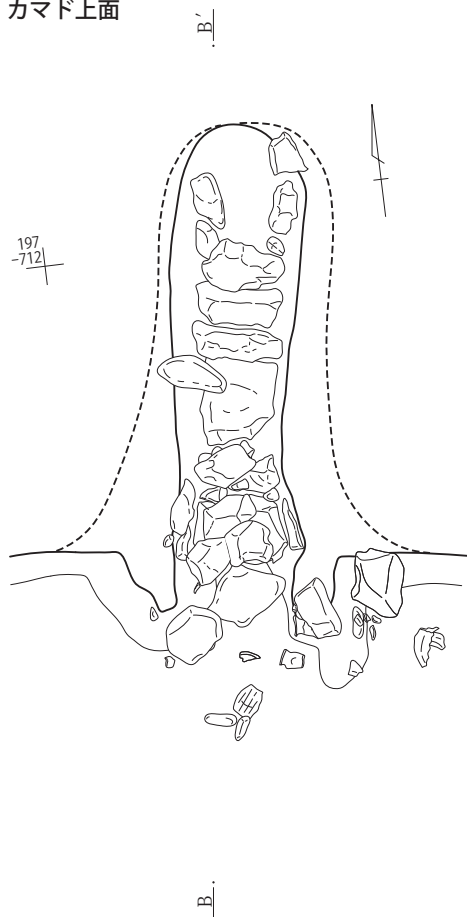
床面



- 1 暗褐色土 炭化粒・焼土粒を少量、白色粒を微量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物、ロームブロックを含む。
- 3 茶褐色土 ロームブロックを多量、炭化粒・焼土粒を含む。

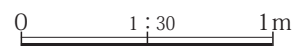
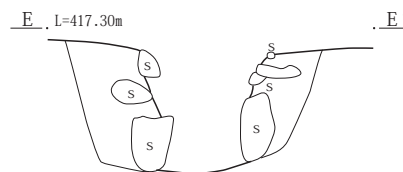
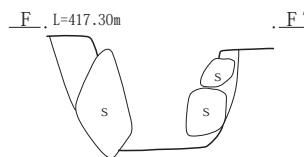
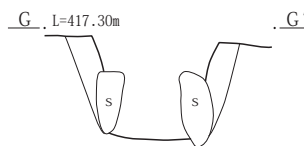
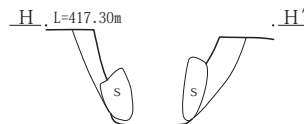
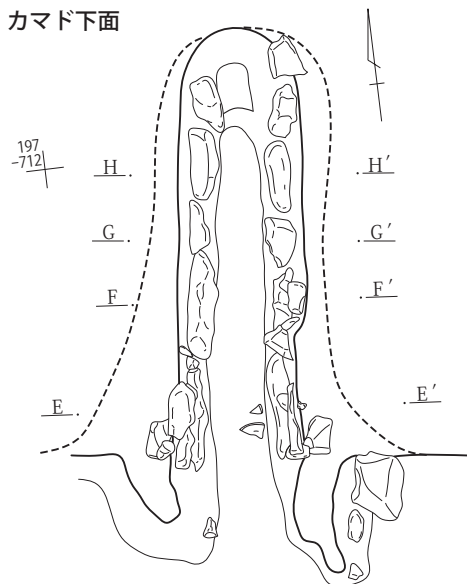
第24図 1区15・16号竖穴建物 床面 平・断面図

カマド上面



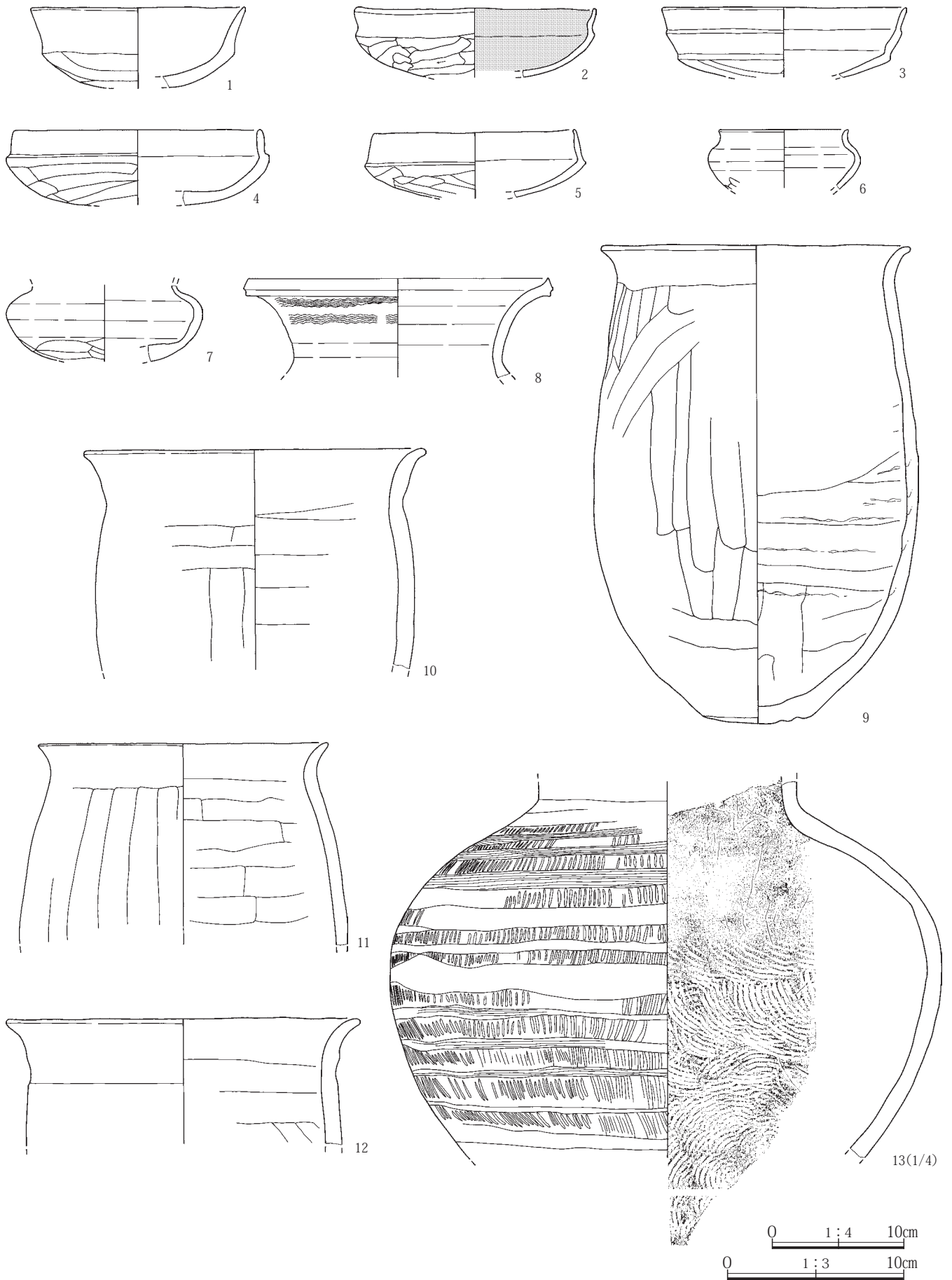
- 1 暗褐色土 炭化粒・焼土粒を少量、白色粒を微量含む。建物1層に相当。
- 2 暗褐色土 焼土粒を多く、炭化物、ロームブロックを含む。建物2層に相当。
- 3 灰褐色土 焼土ブロックを少量、灰白・黄橙粒、炭化物を微量含む。
- 4 赤褐色土 灰白粘質土ブロックを混在し、焼土ブロックが下位ほど多い。
- 5 灰暗褐色土 灰白・黄橙粒、焼土粒を微量含む。
- 6 灰黄褐色土 灰白・黄橙粒、黄橙砂質土ブロックを微量含む。

カマド下面

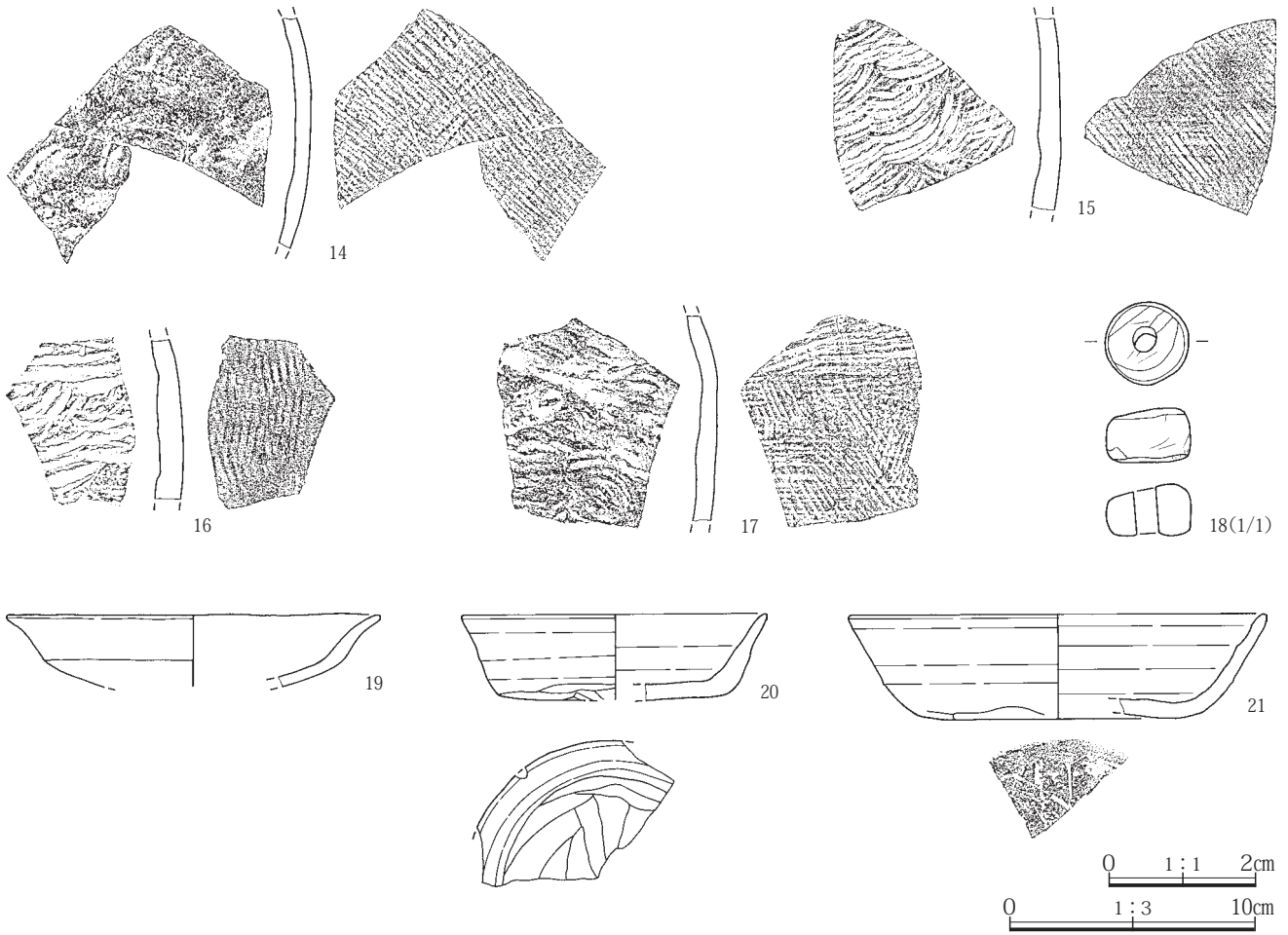


第25図 1区15号竪穴建物 カマド 平・断面図

第4章 検出された遺構と遺物



第26図 1区15号竪穴建物 出土遺物(1)



第27図 1区15号竪穴建物 出土遺物(2)

近接、北西側に1区21号竪穴建物が近接する。

グリッド：2L・2M-144・145

座標値：X=61,185~61,193 Y=-93,717~93,723

形状：正方形

重複：東側に重複する1区13・23号竪穴建物との新旧は、土層断面の確認および遺構確認から、古い順に1区17号竪穴建物→1区23号竪穴建物→1区13号竪穴建物となり、本建物が最も古い。また、南西側に重複する1区68号土坑との新旧は、遺構確認により本建物の方が明確に旧かった。

規模：長軸5.65m 短軸5.60m 壁高55cm

長軸方向：N-47°-E 床面積：(27.36)m²

埋没土：1~3層の暗褐色土を主体とし、一部の壁際に見られる4層とした黒褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面はローム上面にあり、概ね平坦である。

壁高は55cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南東壁の中央付近に想定されるが、1区23号竪

穴建物との重複により残存していない。

柱穴：主柱穴と考えられるP1~4と、他にP5の計5基を検出した。主柱穴上面は概ね円形で、径30~35cm前後、深さ32~35cmを測る。埋土は暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

床面下：掘り込みはない。

遺物：出土した遺物量は極めて少ない。北東壁中付近の壁際床面直上から出土した3の土師器甕、床面のやや上から出土した2の土師器甕がある。埋土中であるが、棒状礫2点が出土している。

出土遺物として、土器4点と金属製品1点を図示した。1は土師器の杯で、2~4は土師器の甕となる。金属製品には5があり、鉄鏃片か。

未掲載遺物には、同時期の土器細片と、長さ11.1・10.9cmの棒状礫(粗粒輝石安山岩2点)がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

1区18号竪穴建物

(第30・31図、第3・47表、PL. 7・8・170)

平成25年度の調査で検出した。建物の大半は1区9号竪穴建物に壊され、一部は調査区外となり、不明な点も多い。1区9・11号竪穴建物と重複し、重複の多い一画である。

位置：1-A区の中央南西寄りに位置し、北側を1区11号竪穴建物と重複、西側を1区9号竪穴建物と大きく重複する。

グリッド：2J・2K-143・144

座標値：X=61,177~61,184 Y=-93,712~93,718

重複：本建物の西半に1区9号竪穴建物、北東隅付近に1区11号竪穴建物が重複する。遺構確認では、1区11号竪穴建物が最も旧く、本建物と1区9号竪穴建物の新旧は不明確であったため、本建物と1区9号竪穴建物を同時に調査した結果、土層断面の観察等から古い順に、1区11号竪穴建物→1区18号竪穴建物→1区9号竪穴建物となる。

形状：正方形

規模：長軸6.17m 短軸6.00m 壁高43cm

長軸方向：N-16°-W 床面積：(31.94)m²

埋没土：1・2層の暗褐色土を主体とし、3層とした周溝埋土とに分層できる。

床面・壁：床面は1-A区基本層序となる北壁IV層(灰褐色土)中にあり、残存する床はほぼ平坦。壁高は43cmを測り、斜位ないし垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南壁の中央やや東寄りに位置し、主軸方位はN-160°-Wを向き、焚き口部から燃焼部にかけて1区9号竪穴建物に壊される。焼部は壁の内側にあるが、煙道部は外側に長く突出する。残存する規模は、全長(1.45)m、幅(1.48)mを測る。左袖は壁から40cmほど突き出るように残存するが、袖先端は不明。焚き口部から燃焼部の底面にかけては建物床面よりやや低くなり、燃焼部の両側には壁石が配され、壁石の燃焼部面は被熱している。このことから、石組みカマドであった可能性を残す。燃焼部から煙道部にかけては、斜位の段となり、その先の煙道は緩やかに上る。また、袖等のカマド構築材には、灰白色粘土の混在土を一部に用いている。

貯蔵穴：カマドの左側となる南東隅に位置し、規模は長

軸63cm、短軸46cm、深さ45cmを測り、楕円形を呈する。

埋土は暗褐色土を主体とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1~3を検出した。柱穴上面は楕円形ないし円形(P3は柱穴下部)で、長軸70~78cm、短軸50~60cm、深さ30~46cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とする。

周溝：残存する東半の状況では、カマド部分を除く南・東・北壁際に、幅14~18cm、深さ5~9cmほどの周溝が巡り、埋土は黄澄砂質土ブロックを含む暗褐色土を主体とする。

床面下：掘り込みはない。

遺物：出土した遺物量は極めて少ない。建物中央の床面付近から1の土師器甕が出土している。また、北東隅付近の東壁際に、棒状礫15点がまとまって床面直上に出土している。

出土遺物として、土器1点と石製品1点を図示した。

1は土師器の甕で、2は細かい線条痕をもつ砥沢石製の砥石である。

未掲載遺物には、同時期の土器細片と、長さ12.8~16.6cmほどの棒状礫(変質安山岩2点・粗粒輝石安山岩11点・ひん岩1点・石英閃緑岩1点)がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀代と考えられる。

1区19号竪穴建物

(第32~35図、第3・48表、PL. 8・170~172)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の中央東寄りに位置し、北東側4.6mに1区3号竪穴建物、東側3.8mに1区1号竪穴建物、南西側4.0mに1区20号竪穴建物、北西側3.0mに1区4号竪穴建物がある。

グリッド：2K・2L-136・137

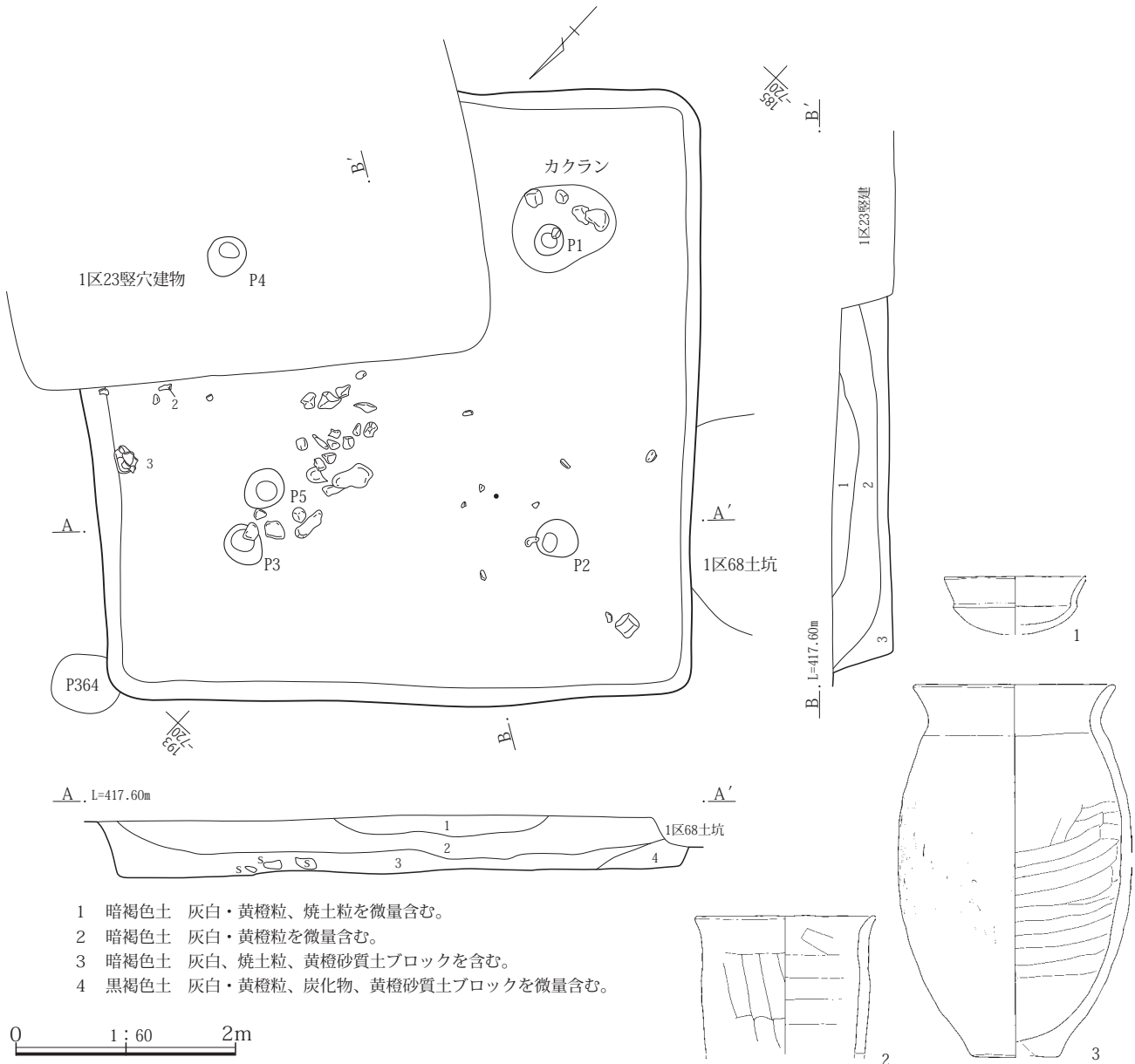
座標値：X=61,181~61,189 Y=-93,677~93,684

形状：長方形

規模：長軸6.03m 短軸5.33m 壁高21~47cm

長軸方向：N-40°-E 床面積：28.98m²

埋没土：1・2層の暗褐色土と黒褐色土、その下層に3層の灰黄褐色土が薄く堆積し、さらに4層とした大小の礫や遺物を多量に出土させた暗褐色土が主体となる。壁際には5および6層とした暗褐色土ないし黒褐



第28図 1区17号竪穴建物 床面 平・断面図

色土が三角堆積する。なお、埋土中に礫を多量に含むことから、人為的埋没と考えられる。

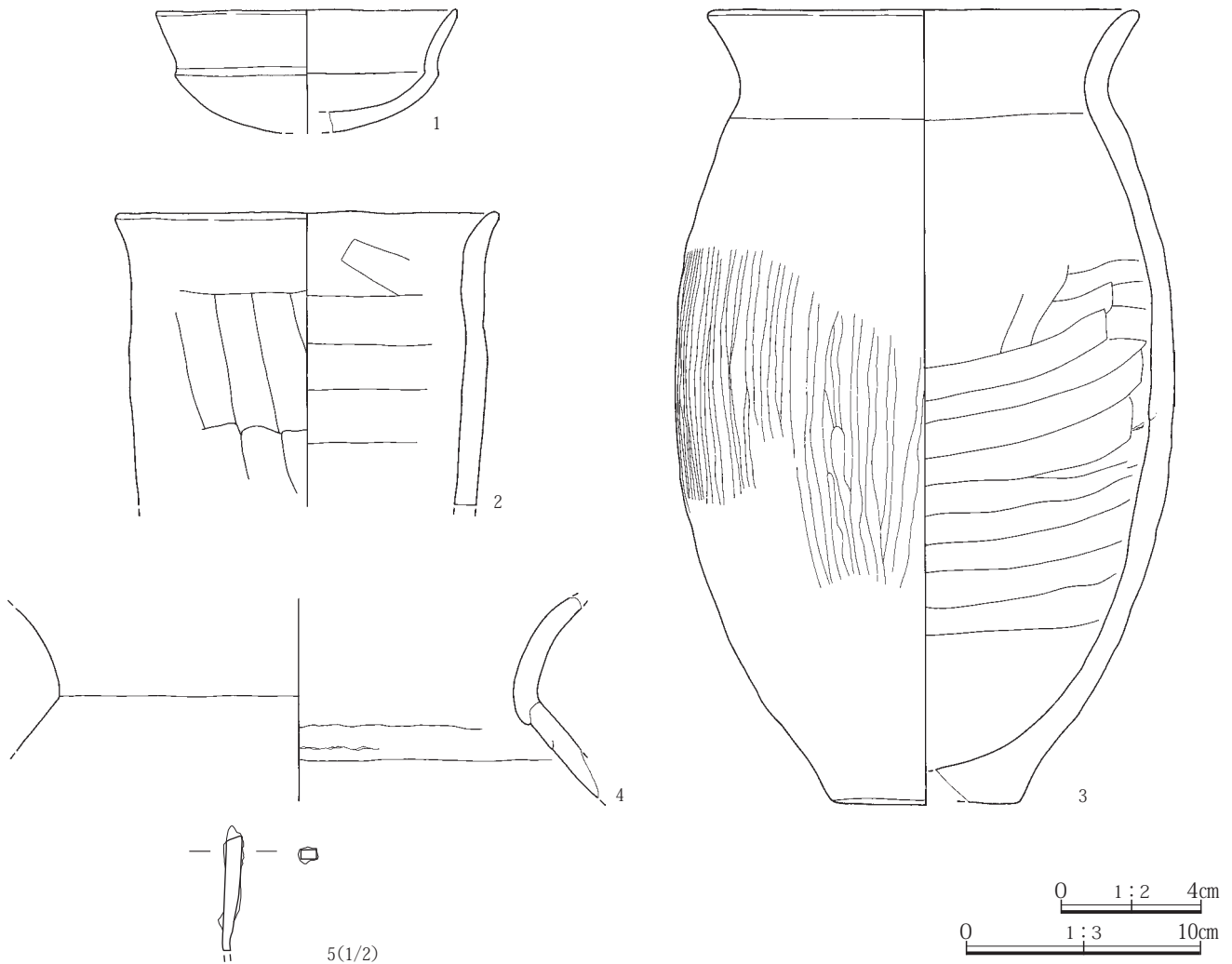
床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化が著しい。壁高は47cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南西壁の中央やや南寄りに位置し、主軸方位はN-140°-Wを向き、右袖は中世以降のピットに壊される。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側に突出する。残存する規模は、全長1.07m、幅1.01mを測る。左袖は壁から64cmほど突き出るように残存するが、袖先端は不明。焚口部から燃焼部の底面にかけては建物床面よりやや低くなり、煙道部は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴：2基検出した。貯蔵穴1は、カマドの左側となる南隅に位置し、上面は長軸110cm、短軸100cmの楕円形、途中から長軸62cm、短軸54cmの長方形を呈し、深さ110cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とし、底面から土器が出土している。

貯蔵穴2は、建物の東隅付近に位置し、土坑が重複する様にあり、長軸112cm、短軸88cm、深さ80cmを測る楕円形を呈する。埋土は暗褐色土を主体とする。

床面下：床面下に5~10cm前後の掘り込みをもち、底面は礫を抜き取った凹凸が著しく、礫層が露出する部分もある。床面下の埋土は、7層とした暗褐色土で、上面は硬い床面を構築している。また、床下土坑を2基



第29図 1区17号竪穴建物 出土遺物

検出した。床下土坑1は底面中央付近にあり、規模は長軸120cm、短軸90cm、深さ76cmを測り、断面が袋状となる楕円形を呈する。埋土は暗褐色土を主体とする。床下土坑2は北東壁東寄りの壁際にあり、規模は長軸70cm、短軸58cm、深さ18cmを測る楕円形を呈する。埋土は暗褐色土を主体とする。

遺物：出土した遺物量は極めて多いものの、その多くが埋土中からである。北西壁中央付近から建物中央に向かって、斜位な状態で出土しているのが特徴的で、礫も含めた遺物的人為的な廃棄を窺わせる。この状況は、建物4層上面に集中している観がある。本建物に伴う遺物としては、貯蔵穴1の底面から出土した1の土師器杯、カマド内から出土した9の土師器甕がある。また、南東壁南寄りの壁際から、棒状礫がまとまって出土している。他に、埋土中からではあるが白玉が1点出土している。

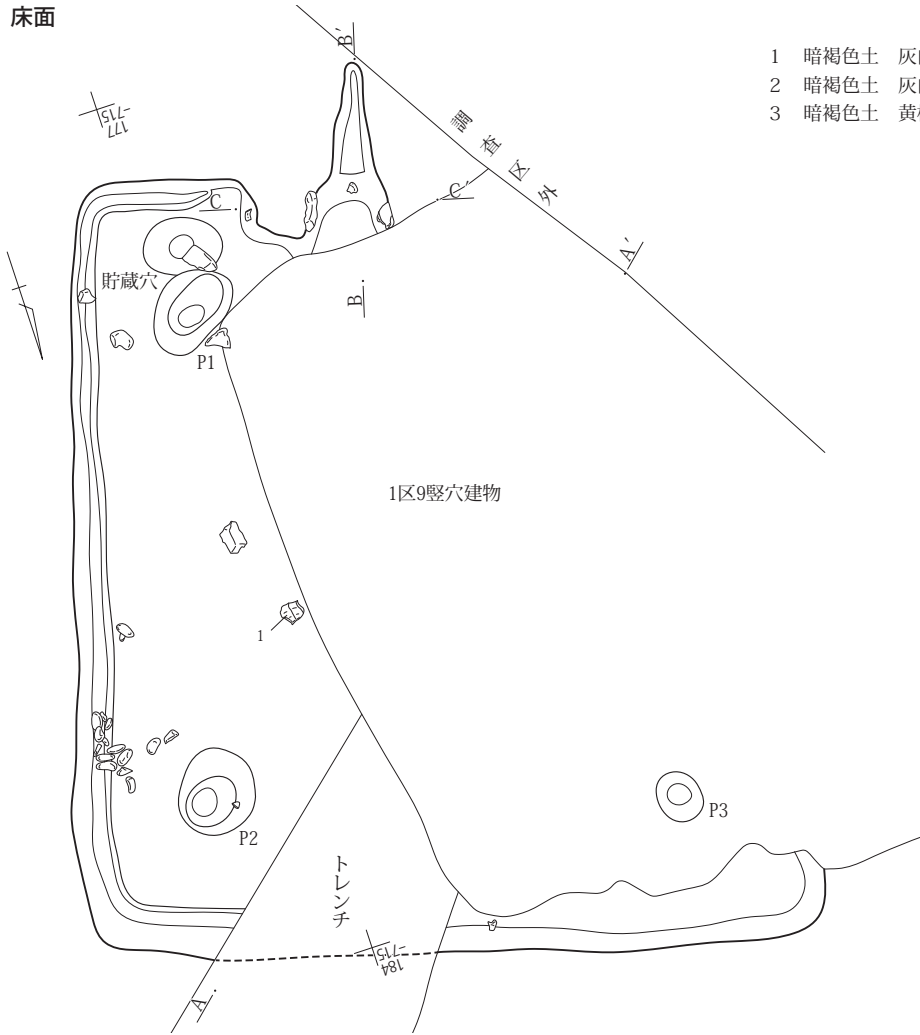
出土遺物として、土器18点と石製品1点を図示した。土師器の杯には1・2、3は土師器の小型壺で胴部上半にヘラ磨きを施す。4～7は土師器の甕、8～17は土師器甕である。18は須恵器の甕で、口縁下に波状文が巡る。

石製品の19は、滑石製のオリーブ灰色の白玉で、径0.9cm、厚さ0.5cm、孔径3mm。わずかに擦痕が認められる。

未掲載遺物には、同時期の土器片が多量に、長さ15.1～18.7cmの棒状礫(変質安山岩1点・粗粒輝石安山岩6点)計7点がある。

所見・時期：礫や遺物的人為的な廃棄を特徴的に示す建物で、時期は出土土器から6世紀前半と考えられる。

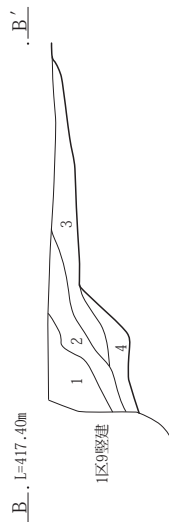
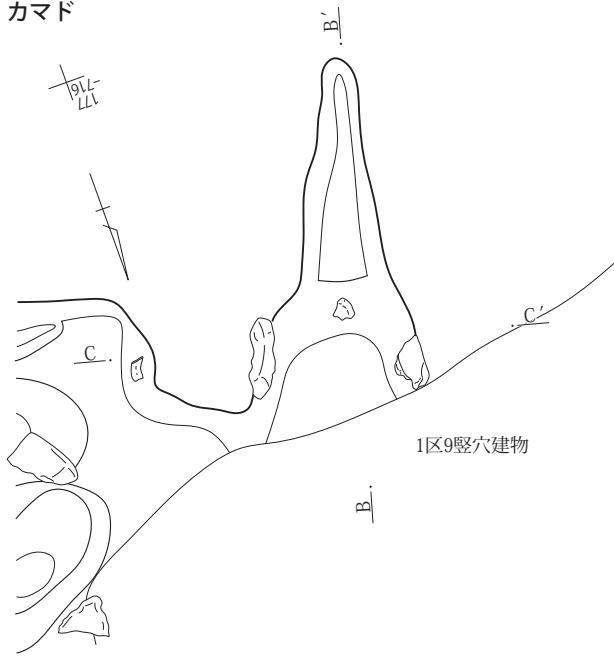
床面



- 1 暗褐色土 灰白・黄橙粒、炭化粒を微量含む。
- 2 暗褐色土 灰白・黄橙粒、黄橙砂質ブロックを微量含む。
- 3 暗褐色土 黄橙砂質ブロックを少量含む。(周溝)

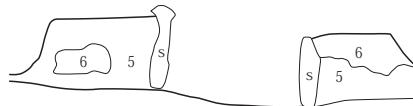


カマド

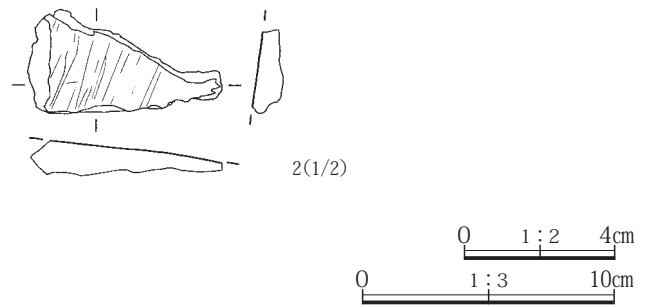
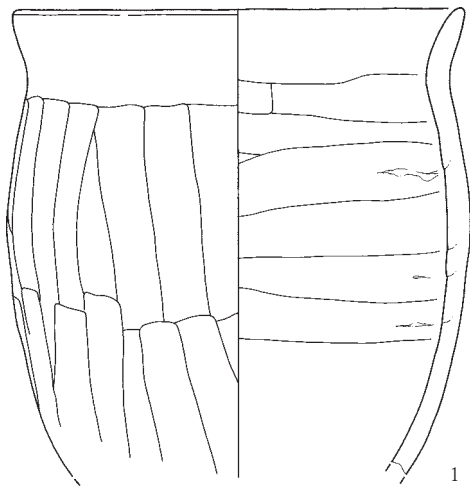


- 1 暗褐色土 灰白粒、焼土粒を微量含む。建物1層に相当。
- 2 暗褐色土 灰白粒、焼土ブロックを微量含む。建物2層に相当。
- 3 黒褐色土 焼土粒を少量、炭化物を微量含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロックを多く含む。

C., l=417.40m



第30図 1区18号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第31図 1区18号竪穴建物 出土遺物

1区20号竪穴建物

(第36・37図、第3・49表、PL. 8・9・172)

平成25年度の調査で検出した。1区5号溝と大きく重複する。

位置：1-A区の中央南東寄りに位置し、北東側4.0mに1区19号竪穴建物、南東側5.8mに1区8号竪穴建物がある。

グリッド：2 I～2 K-137～139

座標値：X=61,172～61,180 Y=-93,682～93,690

重複：幅広い1区5号溝が、本建物の北半を北西側から南側へと「く」字状に重複する。遺構確認で、本建物の方が古いことが明らかであった。

形状：長方形

規模：長軸6.67m 短軸5.81m 壁高23cm

長軸方向：N-57°-E 床面積：(35.98)m²

埋没土：1層の暗褐色土を主体とし、僅かに2層と分層できた。1層下位には、炭化材が多く出土している。

床面・壁：床面はローム土上面にあり、概ね平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化する。壁高は23cmと浅く、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南西壁のほぼ中央に位置し、主軸方位はN-119°-Wを向き、残存状態は悪い。焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側に突出する。残存する規模は、全長1.06m、幅1.01mを測る。袖は壁から46～50cmほど突き出るように残存するが、袖先端は不明。焚口部から燃焼部の底面にかけては建物床面とほぼ同じで、煙

道部は斜位に立ち上がる。また、袖の構築材は、ロームブロックを多く含む明黄褐色土である。

貯蔵穴：カマドの左側となる南隅に位置し、上面は長軸123cm、短軸102cmの長方形、途中から長軸74cm、短軸58cmの長方形を呈し、深さ142cmとかなり深い。埋土は暗褐色土を主体とする。

柱穴：柱穴と考えられるP1を検出したが、対応する柱穴は検出できなかった。径38cmの円形で、深さ23cmを測り、暗褐色土を主体とする。

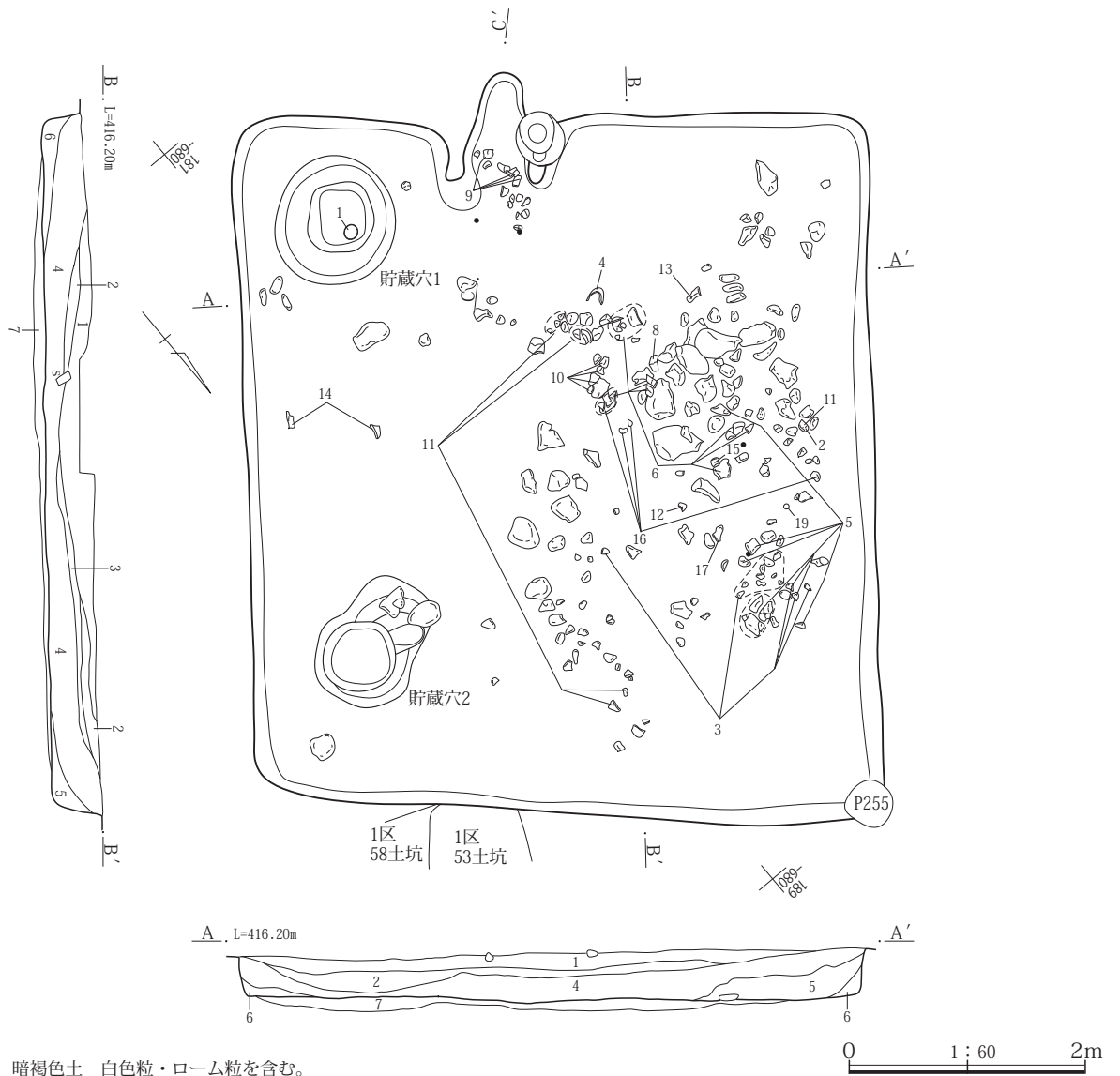
周溝：カマド部分を除く南西半の壁際に、幅12～16cm、深さ5～9cmほどの周溝が巡り、埋土は黒褐砂質土ブロックを含む暗褐色土を主体とする。

床面下：掘り込みはないが、重複する1区5号溝内に本建物に伴う土坑を確認した。床下土坑と考えられる。楕円形を呈し、長軸87cm、短軸72cm、深さ70cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とする。

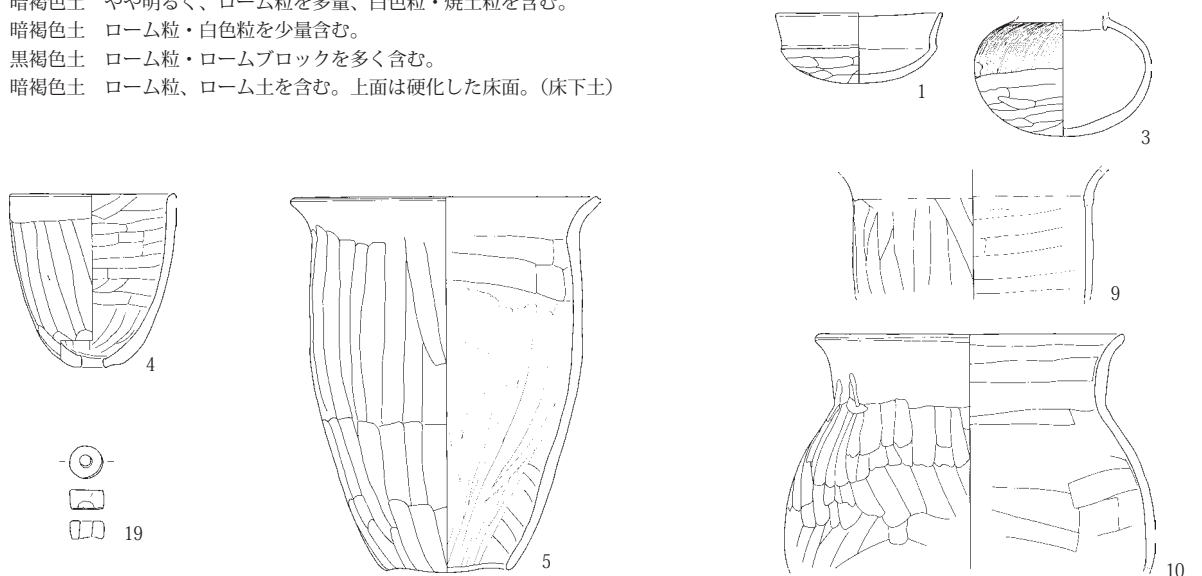
遺物：床面上には多くの炭化材が出土しているが、遺物は意外と少ない。カマド内からは、土師器甕の胴部片のみで図示していない。南東側の床面上に1の土師器杯、3・4の土師器有孔鉢が出土し、さらに6の白玉も床面直上から出土している。

出土遺物として、土器5点と石製品1点、金属製品1点を図示した。土師器には、内面にへう磨きのある1と2の杯、3・4の有孔鉢2点、5の甕がある。

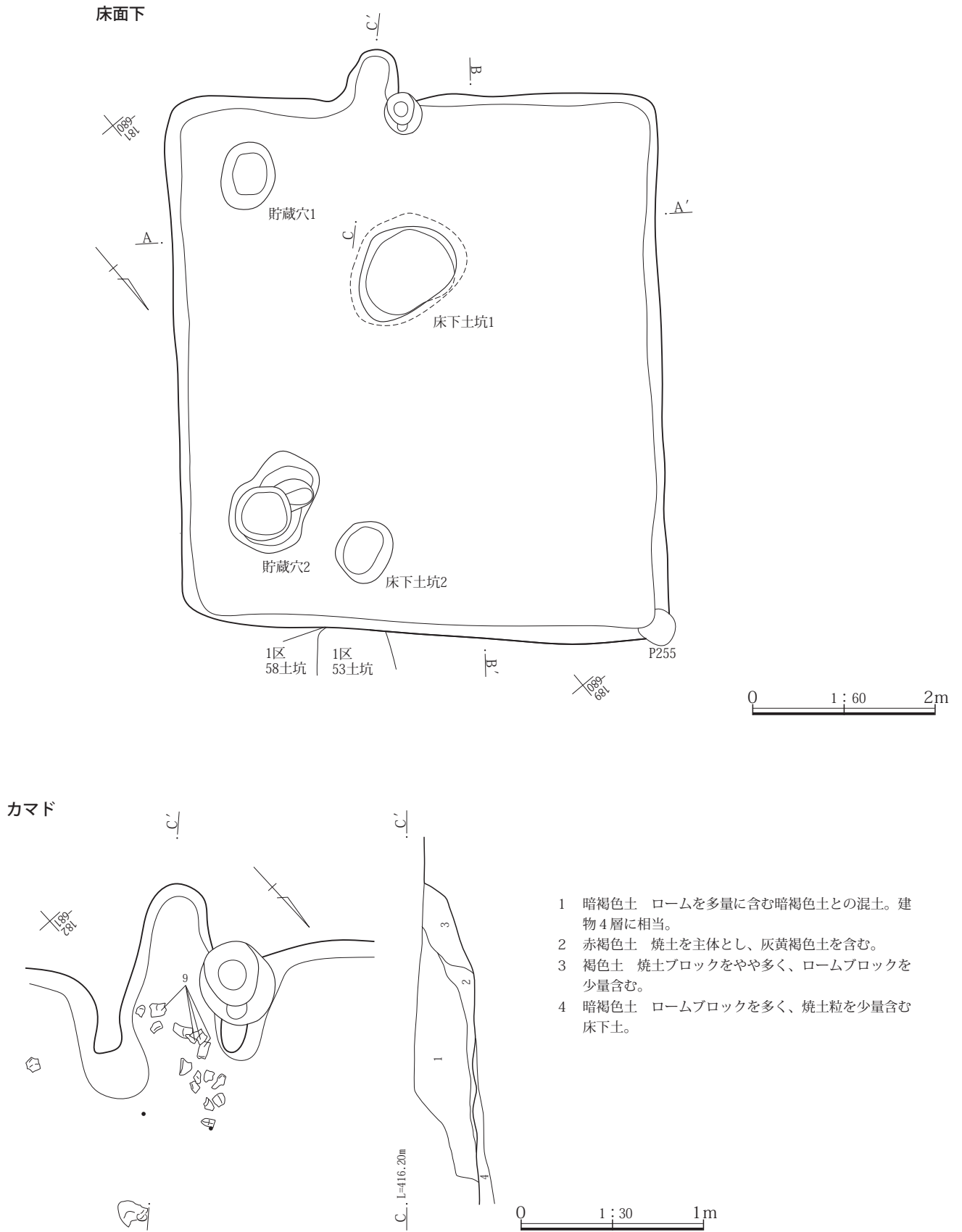
石製品の6は、滑石製の灰白色の白玉で、径0.7cm、厚さ0.5cm、孔径約2mmを測り、表面に擦痕は認めら



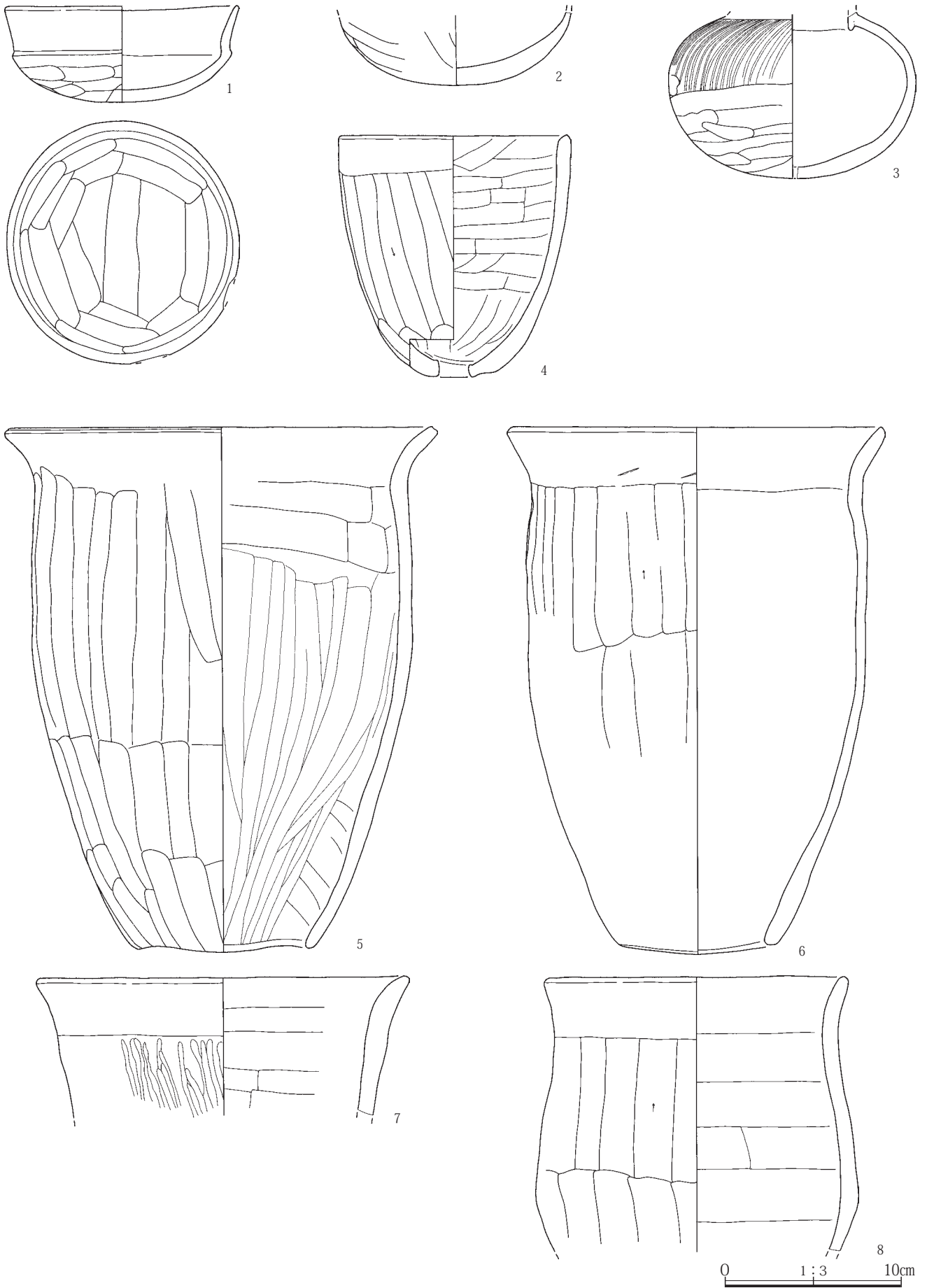
- 1 暗褐色土 白色粒・ローム粒を含む。
- 2 黒褐色土 白色粒・ローム粒を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 ややシルト質で、炭化粒・焼土粒を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや明るく、ローム粒を多量、白色粒・焼土粒を含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒・白色粒を少量含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックを多く含む。
- 7 暗褐色土 ローム粒、ローム土を含む。上面は硬化した床面。(床下土)



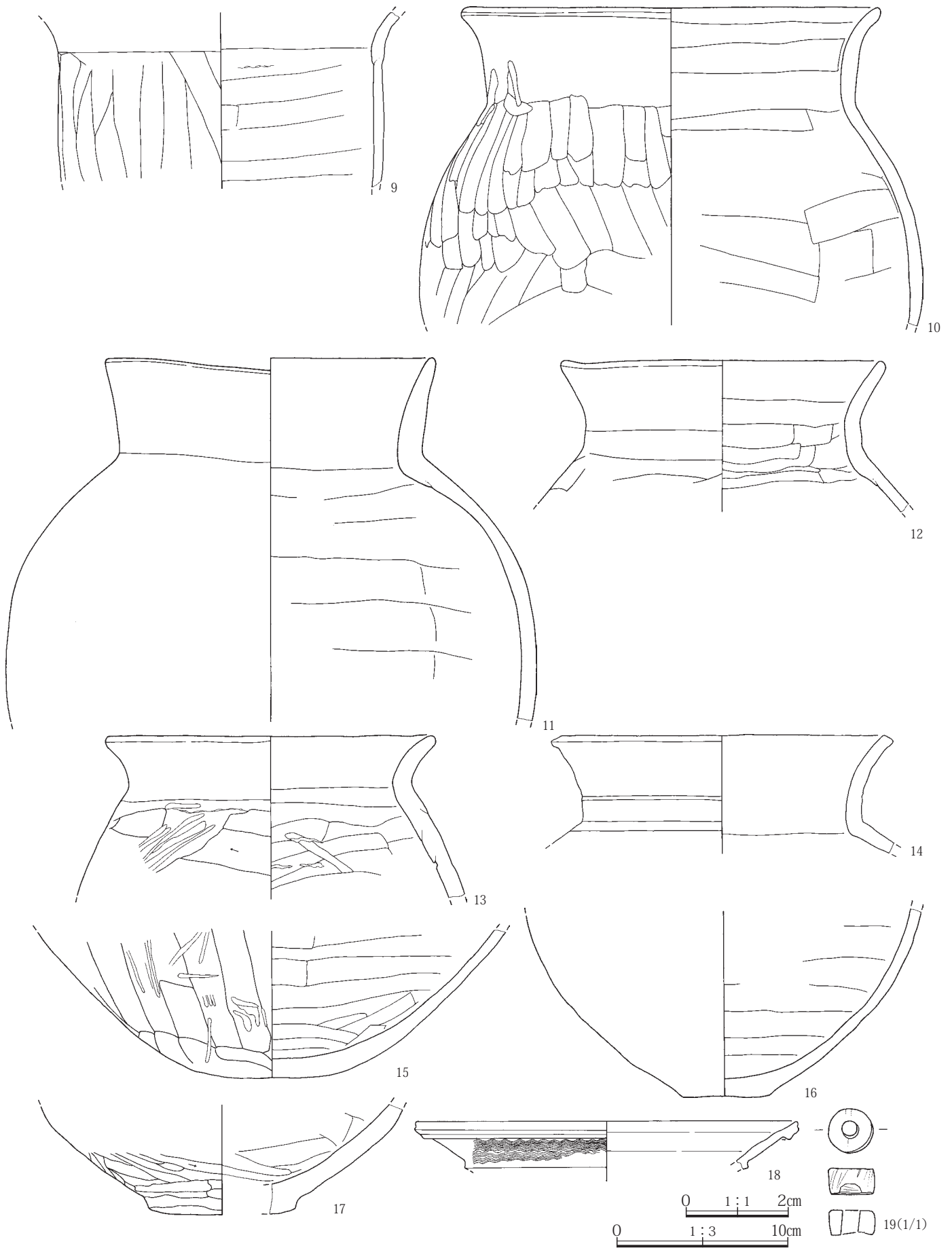
第32図 1区19号竪穴建物 床面 平・断面図



第33図 1区19号竪穴建物 床面下、カマド 平・断面図



第34図 1区19号竪穴建物 出土遺物(1)



第35図 1区19号竪穴建物 出土遺物(2)

れないが平坦である。

金属製品である7は鉄製の刀子片。

未掲載遺物には、同時期の杯・甕の胴部片がある。

所見・時期：出土した炭化材の状況から、焼失家屋の可能性がある。建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

1区21号竪穴建物

(第38・39図、第3・50表、PL. 9・172)

平成25年度の調査で検出した。1区76・114号土坑と重複する。

位置：1-A区の西側に位置し、北東側1.5mに1区22号竪穴建物、東側2.0mに1区15・16号竪穴建物があり、南東側に1区17号竪穴建物が近接する。

グリッド：2M・2N-144・145

座標値：X=61,192~61,199 Y=-93,717~93,723

重複：本建物の北隅付近に1区76号土坑、カマド部分に1区114号土坑が重複する。遺構確認で、いずれの土坑よりも本建物の方が古いことが明らかであった。

形状：方形

規模：長軸5.45m 短軸5.39m 壁高43~52cm

長軸方向：N-29°-W 床面積：23.42㎡

埋没土：1層の黒褐色土を上層に、2・3層の黄澄砂質土ブロックを含む灰黄褐色土が主体となる。黄澄砂質土ブロックを多く含むことから、人為的堆積の可能性をもつ。

床面・壁：床面はローム土中にあり、概ね平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化する。なお、北西壁付近の床面には、中小の礫が帯状に露出する。壁高は43~52cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がるものの、南東壁は斜位に立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、主軸方位はN-58°-Eを向き、残存状態は極めて悪いが、煙道部の天井は残存する。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側に突出する。残存する規模は、全長1.66m、幅(0.64)mを測る。右袖の一部が壁から突き出るように残存するが、袖先端は不明。焚口部から燃焼部の底面にかけては建物床面よりやや低く、煙道部は緩やかに立ち上がる。なお、煙道上部には黄褐色ローム土の天井が残存しており、煙道は掘り抜き状となっていた

ことを窺わせる。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置し、長軸84cm、短軸68cmの楕円形を呈し、深さ31cmを測る。埋土は灰黄褐色土を主体とする。

柱穴：柱穴と考えられるP1を検出したが、対応する柱穴は検出できなかった。径60cmの円形で、深さ33cmを測り、灰黄褐色土を主体とする。

床面下：掘り込みは、北西壁側は浅く、底面に礫層の礫が多量に露出する。対する南東側半面は、10cm前後と南東壁際が最も深くなり、底面は礫の抜き取り痕と思われる凹凸が著しい。4層としたロームブロックを含む暗褐色土が埋土となり、上面の床面を構築している。

遺物：出土した遺物量は極めて少ない。カマド内から3の土師器杯、4の土師器鉢片があり、カマドの右脇から2の土師器杯が出土している。

出土遺物として、土器6点を図示した。1~3は土師器の杯で、4は土師器の鉢、5は須恵器の甕の口縁部、6は須恵器の甕の胴部片である。

未掲載遺物には、同時期の土器細片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀後半から7世紀前半と考えられる。

1区22号竪穴建物

(第40~42図、第3・51表、PL. 9・172)

平成25年度の調査で検出した。1区72・73号土坑と重複する。

位置：1-A区の北西側に位置し、南東側4.8mに1区15・16号竪穴建物、南西側1.5mに1区21号竪穴建物がある。

グリッド：2O・2P-143・144

座標値：X=61,200~61,205 Y=-93,714~93,718

重複：本建物の北東隅付近に1区73号土坑が大きく、南東隅に1区72号土坑が重複する。遺構確認で、いずれの土坑よりも本建物の方が古いことが明らかであった。

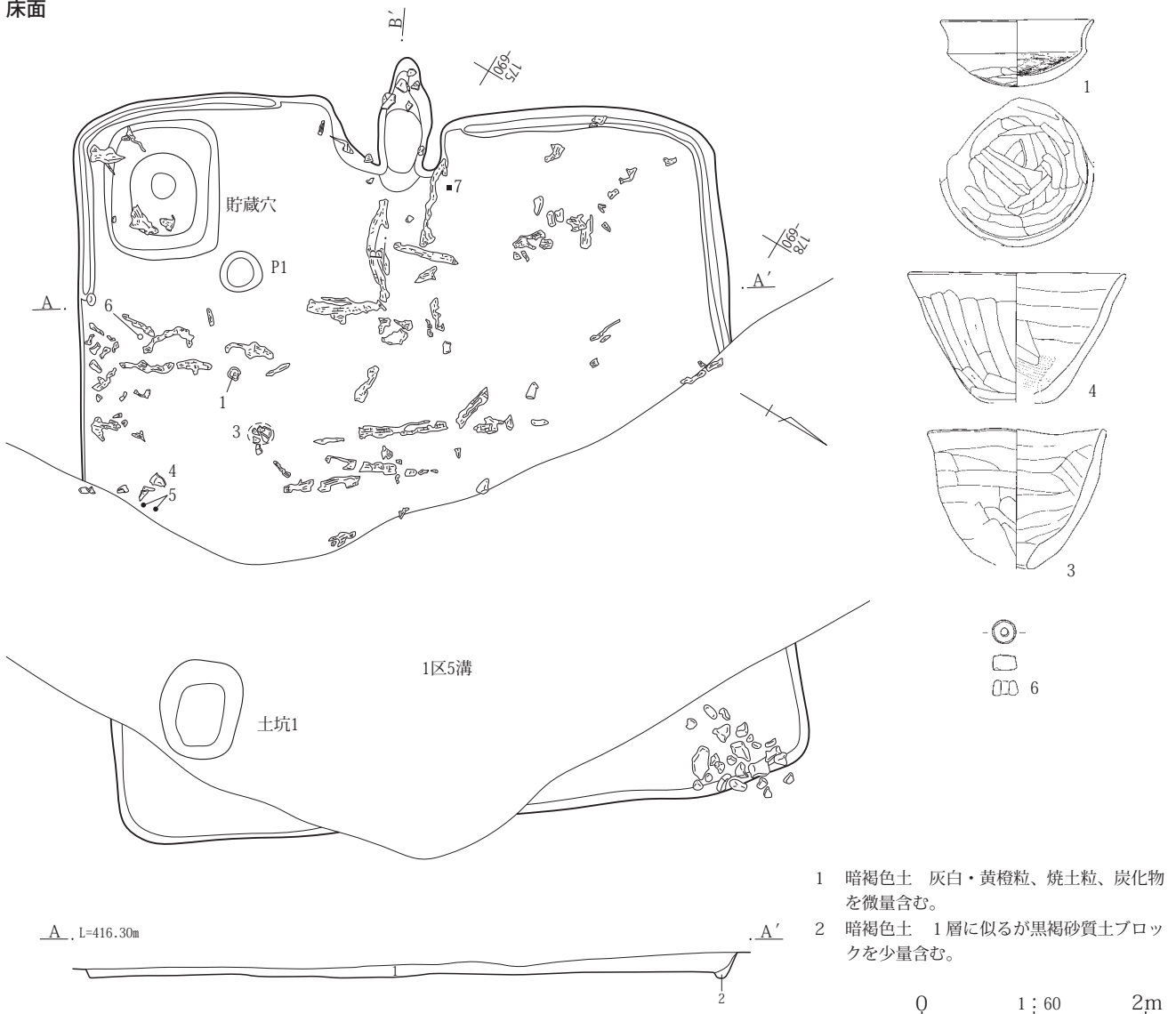
形状：方形

規模：長軸4.37m 短軸4.28m 壁高28~56cm

長軸方向：N-3°-W 床面積：15.59㎡

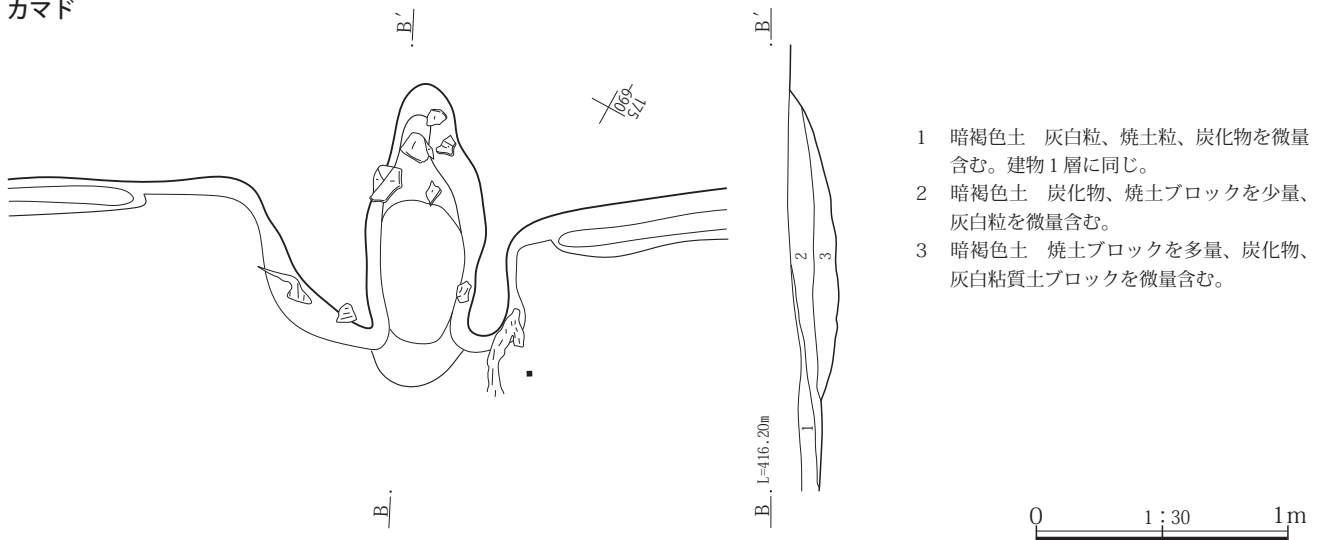
埋没土：1・2層の黒褐色土を主体とし、3層とした周溝埋土とに分層できた。なお、2層下位には大中の礫

床面



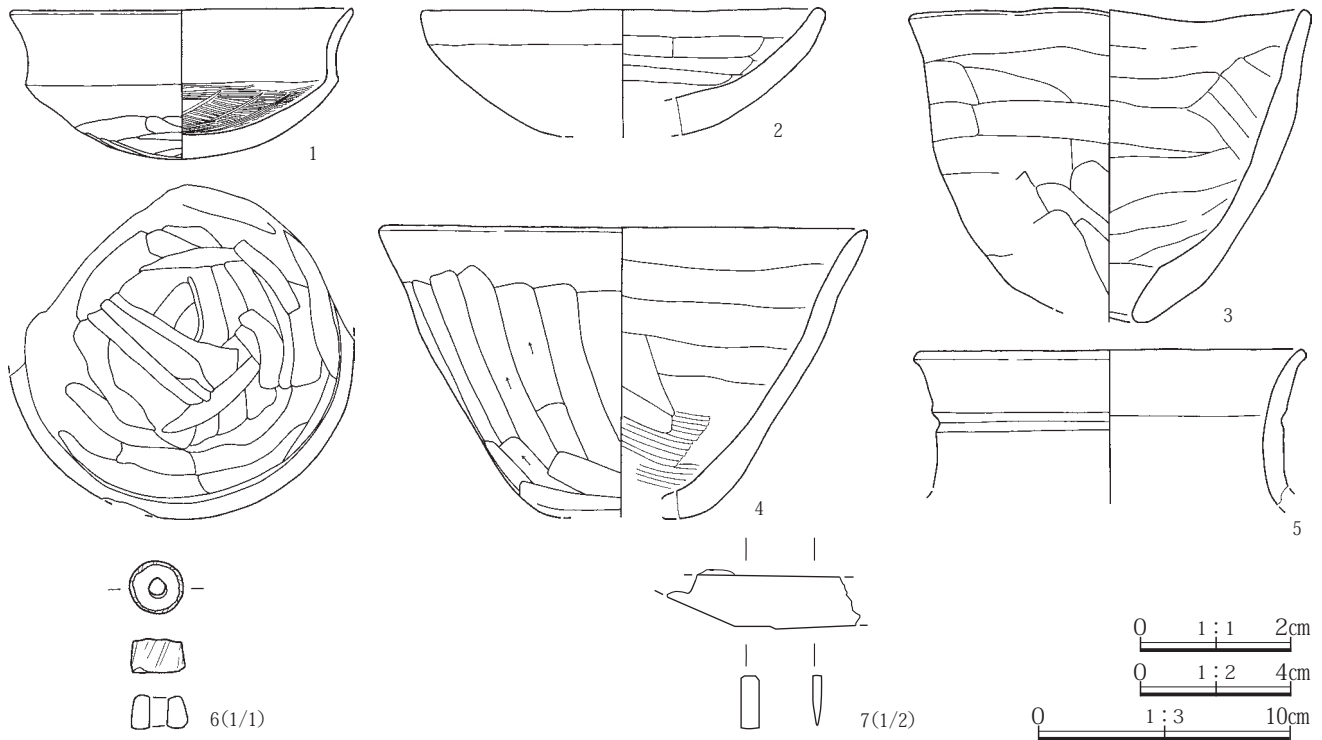
- 1 暗褐色土 灰白・黄橙粒、焼土粒、炭化物を微量含む。
- 2 暗褐色土 1層に似るが黒褐砂質土ブロックを少量含む。

カマド



- 1 暗褐色土 灰白粒、焼土粒、炭化物を微量含む。建物1層に同じ。
- 2 暗褐色土 炭化物、焼土ブロックを少量、灰白粒を微量含む。
- 3 暗褐色土 焼土ブロックを多量、炭化物、灰白粘質土ブロックを微量含む。

第36図 1区20号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第37図 1区20号竪穴建物 出土遺物

を多量に含むことから、人為的埋没と考えられる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、概ね平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化する。なお、床面には、中小の礫が部分的に露出する。壁高は28～56cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-3°-Wを向き、燃烧部付近の残存状態は悪いが、煙道部は良好に残存する。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。調査時に確認されていた煙道部に残る大型礫3石は、天井石であることは間違いないが、全て原位置を止めておらず、ずり落ちた状態にあった。また、燃烧部付近に散乱する中型礫についても、カマド構築石の可能性をもつが詳細は不明。カマドの残存する規模は、全長1.87m、幅(0.64)mを測り、明確な袖は残存していない。僅かに、右袖の痕跡を確認した。焚口部から燃烧部の底面にかけて、建物床面より僅かに低くなる。煙道部は石組構造で、天井石は大型の垂円礫を用いるが崩落し、煙道の両側に天井石を支える側壁石を検出した。側壁石の内幅は20～25cmを測り、煙道先端の壁上部に石が乗る。また、煙道部底面は、燃烧部から緩やかに長く立ち上がる。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。主柱穴上面は円形ないし楕円形で、長軸49～64cm、短軸38～58cm、深さ22～34cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とする。

周溝：北東隅から北西隅までの東・南・西片の壁際に、幅15～20cm、深さ8cm前後の周溝が巡り、埋土は3層とした黒褐色土が主体となる。

床面下：掘り込みは浅く、南半の底面には礫層の礫が露出する。対する北半の底面には、礫の抜き取り痕と思われる凹凸が著しい。4層とした暗褐色土が埋土となり、上面の床面を構築している。

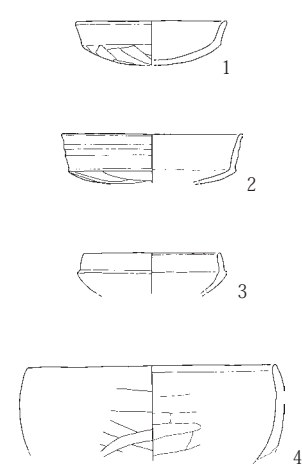
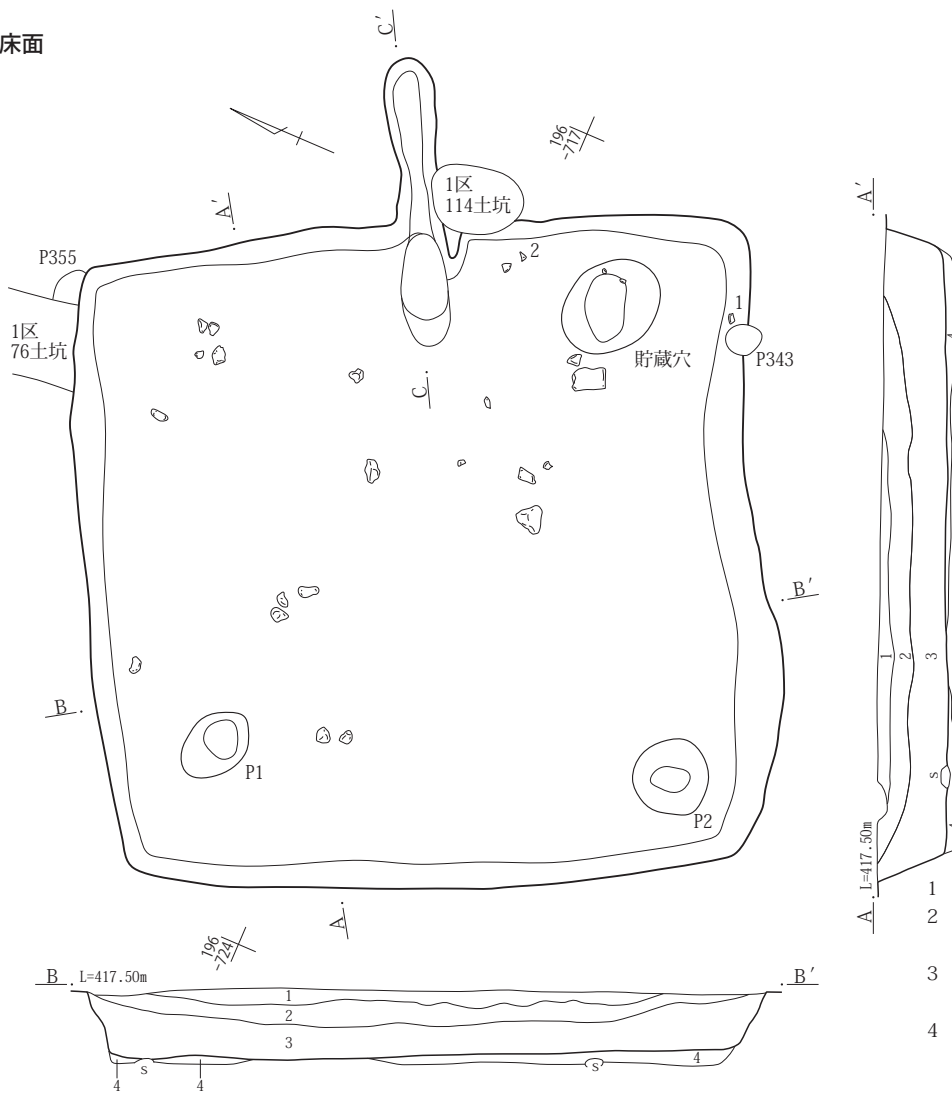
遺物：出土した遺物量は極めて少ない。カマド内からのみで、1・2の土師器杯、4の土師器甕が燃烧部付近から出土している。

出土遺物として、土器4点を図示した。1・2は土師器の杯、3は土師器の小型甕、4は土師器の甕である。

未掲載遺物には、同時期の土器細片が少量ある。

所見・時期：石組構造となるカマド煙道部をもつ建物で、その時期は出土土器から6世紀前半と考えられる。

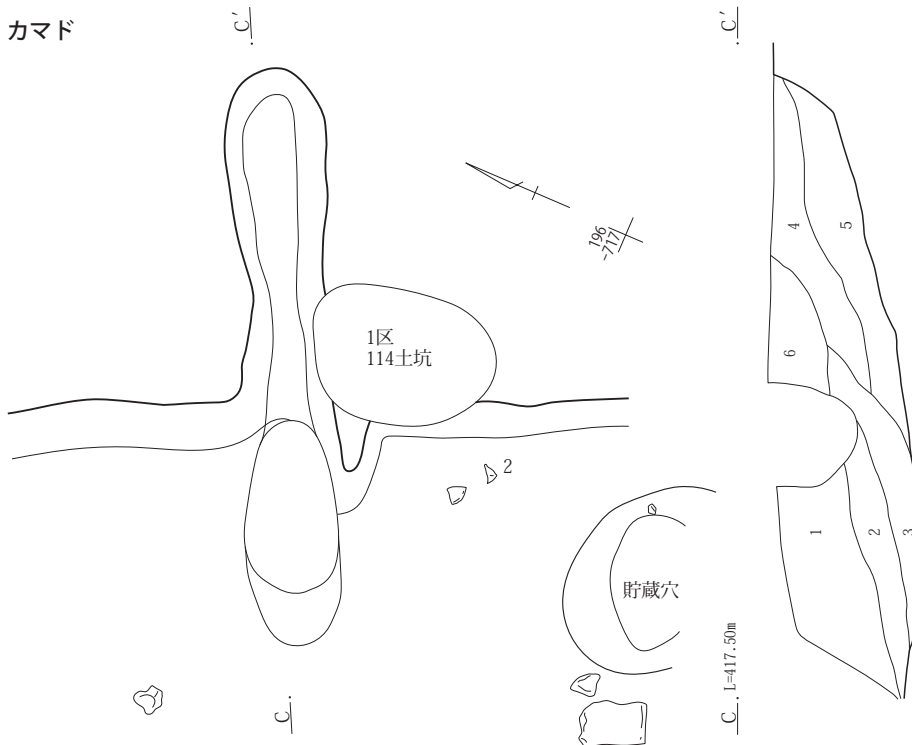
床面



- 1 黒褐色土 灰白粒、焼土粒を微量含む。
- 2 灰黄褐色土 黄橙砂質土ブロックを多量、灰白粒、焼土粒を微量含む。
- 3 灰黄褐色土 2層より暗く、黄橙砂質土ブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土 灰白粒、ロームブロックを含む。(床下土)

0 1:60 2m

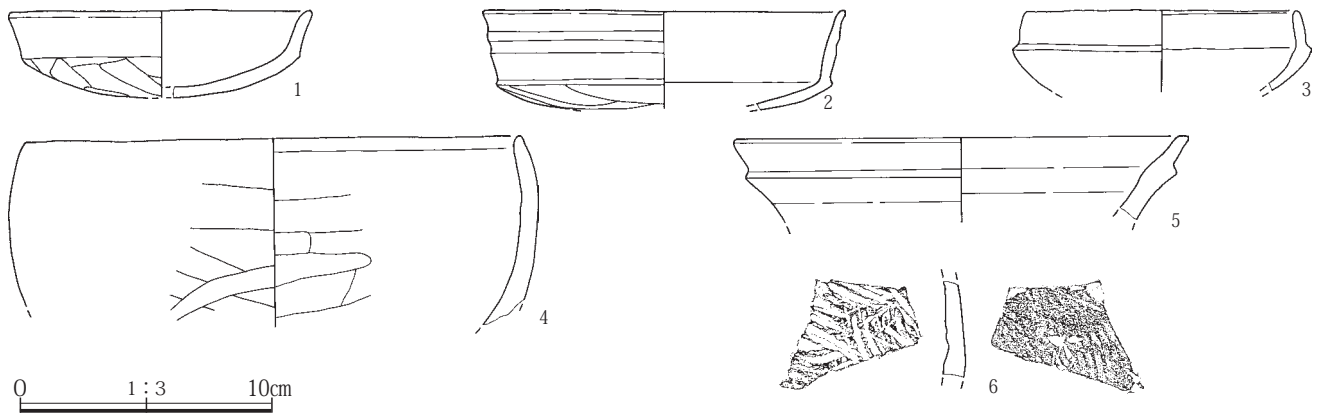
カマド



- 1 灰黄褐色土 浅黄橙色土小ブロック、炭化物、焼土粒を微量含む。建物3層に相当。
- 2 灰黄褐色土 浅黄橙色土粒、焼土粒を微量含む。
- 3 灰黄褐色土 黄橙色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む。
- 4 灰黄褐色土 黄橙色土小ブロック、焼土ブロックを微量含む。
- 5 暗褐色土 黄橙砂質土ブロックを少量、焼土粒を微量含む。
- 6 黄褐色ローム土 残存する煙道部天井。

0 1:30 1m

第38図 1区21号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第39図 1区21号竪穴建物 出土遺物

1区23号竪穴建物（第43図、第3・52表、PL.10・172）
平成25年度の調査で検出した。重複の多い一画で、1区13・14・17号竪穴建物と重複する。

位置：1-A区の西側に位置し、北東側に1区15・16号竪穴建物が近接し、東側を1区13・14号竪穴建物が重複、西側を1区17号竪穴建物が重複する。

グリッド：2L・2M-143

座標値：X=61,184~61,191 Y=-93,715~93,719

重複：東側に重複する1区13号竪穴建物、西側に重複する1区17号竪穴建物との新旧は、土層断面の確認および遺構確認から、古い順に1区17号竪穴建物→1区23号竪穴建物→1区13号竪穴建物となる。

形状：方形

規模：長軸4.41m 短軸3.83m 壁高7~45cm

長軸方向：N-43°-E 床面積：15.23㎡

埋没土：1・2層の黒褐色土を主体とする。

床面・壁：床面はローム土中にあり、概ね平坦ではあるが、床面上には自然礫が露出する。壁高は7~45cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南東壁の中央付近に想定されるが、1区13号竪穴建物との重複により残存していない。

柱穴：P1の1基を検出した。円形を呈し、径43cm、深さ29cmを測る。埋土は黒褐色土を主体とする。

床面下：掘り込みはないが、建物中央付近に床下土坑を検出した。規模は径80cm前後の円形を呈し、深さ7cmと浅い。

遺物：出土した遺物量は極めて少ない。P1脇の床面直上から1・2の土師器杯2個体が、並んで出土している。

出土遺物として、土器4点を図示した。4点全て土師器の杯で、2・4は内面へら磨き。

未掲載遺物には、同時期の土器細片がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

1区24号竪穴建物（第44図、第3・53表、PL.10・172）

平成25年度の調査で検出した。重複の多い一画で、1区11号竪穴建物と重複する。また、1区101・102・116号土坑とも重複する。なお、建物の南半には、試掘トレンチが大きく入る。

位置：1-A区の中央南西寄りに位置し、西側を1区11号竪穴建物が重複する。

グリッド：2J・2K-142・143

座標値：X=61,177~61,181 Y=-93,707~93,712

重複：本建物の北西壁に接するように重複する1区11号竪穴建物との新旧は、遺構確認および本建物のカマドの存在から、本建物の方が新しい。また、本建物の西隅に重複する1区101号土坑、東隅に重複する1区102号土坑、北隅に重複する1区116号土坑との新旧は、遺構確認で本建物の方が古いことが明らかであった。

形状：長方形

規模：長軸4.43m 短軸(3.62)m 壁高14cm

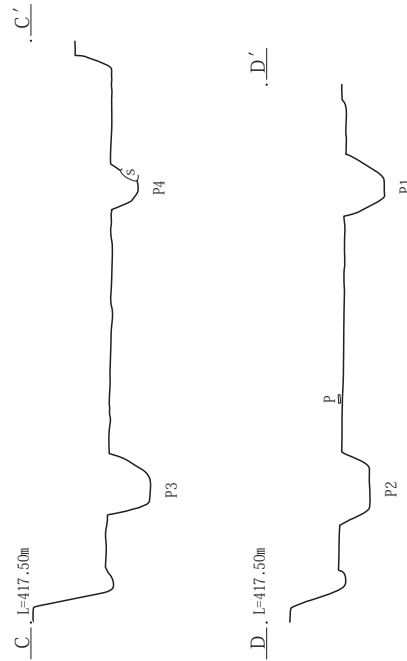
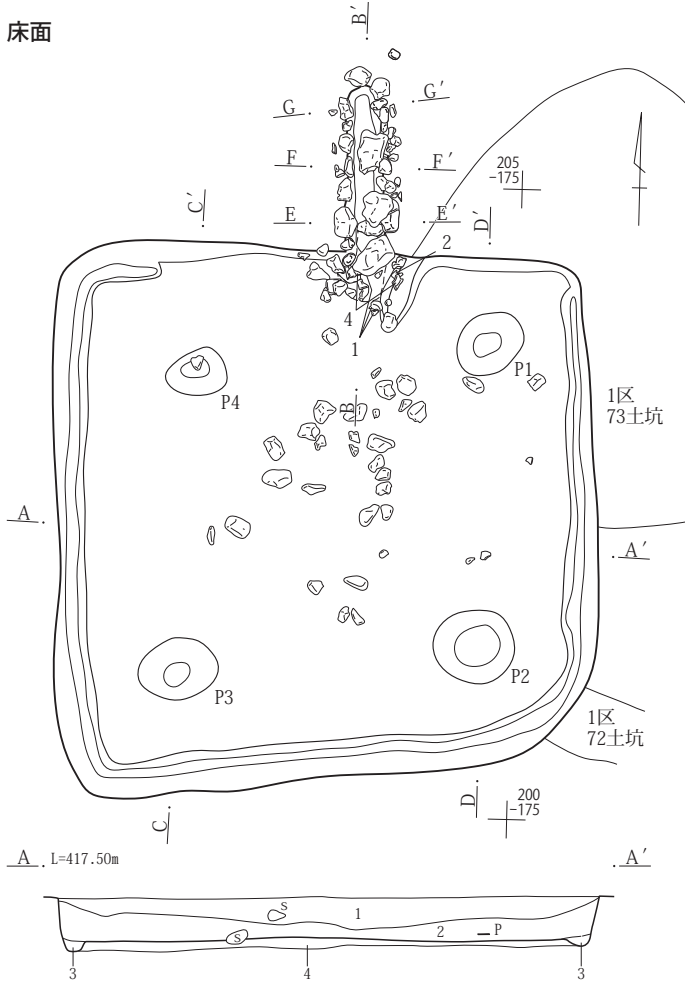
長軸方向：N-43°-W 床面積：(12.39)㎡

埋没土：1層の暗褐色土を主体とする。

床面・壁：床面は1-A区基本層序となる北壁IV層(灰褐色土)中にあり、残存する床はほぼ平坦。壁高は14cmと浅く、斜位に立ち上がる。

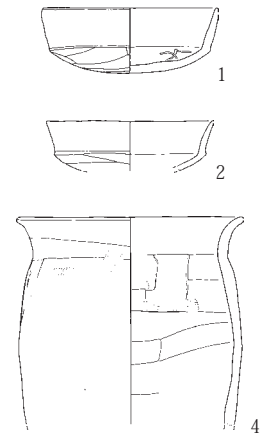
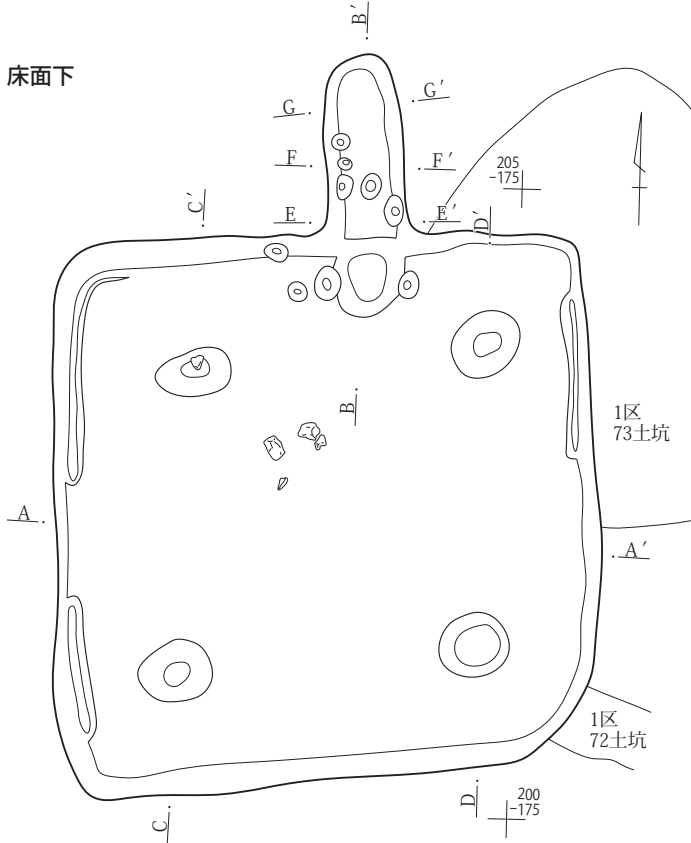
カマド：北西壁のほぼ中央に位置し、主軸方位はN-

床面



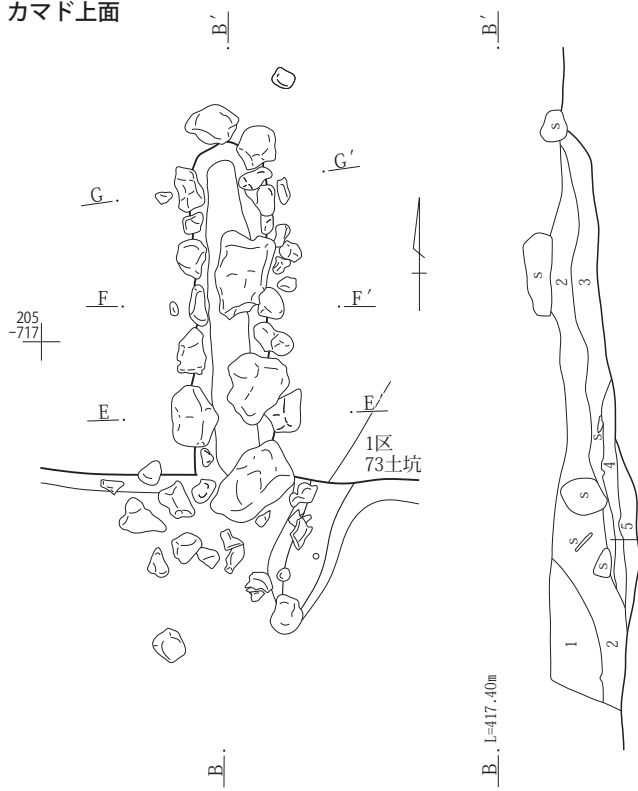
- 1 黒褐色土 灰白・黄橙粒を微量含む。
- 2 黒褐色土 灰白・黄橙粒、黄橙砂質土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 灰白・黄橙粒を微量含む。(周溝)
- 4 暗褐色土 灰白・黄橙粒を微量含む。上面が床面。(床下土)

床面下



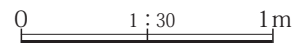
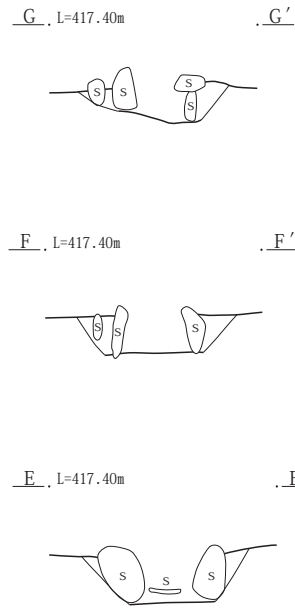
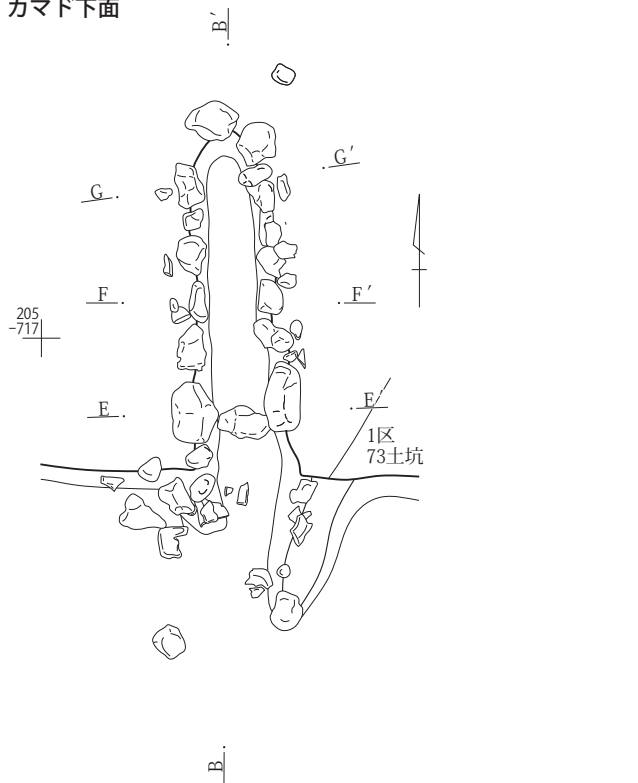
第40図 1区22号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図

カマド上面

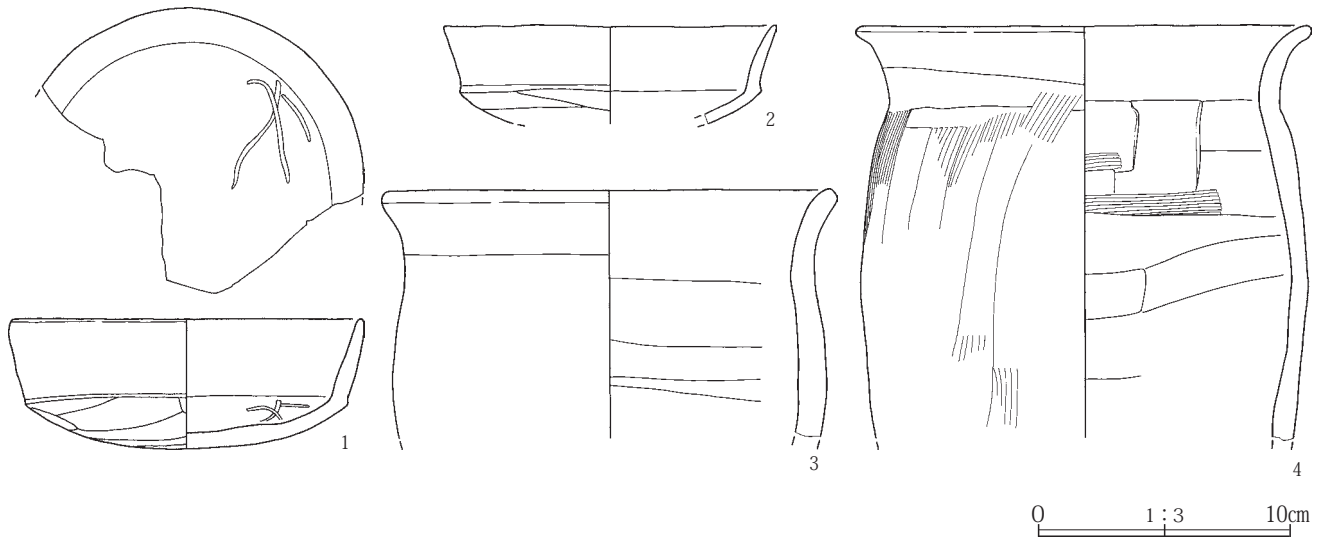


- 1 灰黄褐色土 灰白・黄橙粒、焼土粒を微量含む。建物1層に相当。
- 2 灰黄褐色土 黄橙砂質土ブロック、焼土粒を含む。建物2層に相当。
- 3 暗褐色土 黄橙砂質土ブロック、焼土粒、炭化物を微量含む。
- 4 灰黄褐色土 焼土中ブロック、灰白粘質土ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土 焼土ブロックを含み、灰・炭化物を微量含む。

カマド下面



第41図 1区22号竪穴建物 カマド 平・断面図



第42図 1区22号竪穴建物 出土遺物

51°-Wを向き、残存状態が悪く不明な点がある。燃烧部は壁の内側から外側にかけてあり、煙道部は外側に突出すると思われる。残存する規模は、全長1.06m、幅1.11mを測る。袖は壁から45cmほど突き出るように残存し、袖先端には袖石が残存する。

床面下：2層の暗褐色土を主体とする浅い掘り込みをもち、上面はやや硬化した床面となる。また、建物の南隅に、径56cmの円形を呈する、暗褐色土を埋土とした床下土坑を検出した。

遺物：出土した遺物は、埋土中から土師器片が数点と極めて少ない。

出土遺物として、土器2点と石製品1点を図示した。1・2は、内面にヘラ磨きが施された土師器の杯である。

石製品の3は、蛇紋岩製の紡錘車(紡輪)で、径3.9cm、厚さ1.5cm、孔径約7mmを測り、表裏面ともよく研磨され光沢がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀代と考えられる。

1区25号竪穴建物 (第45~47図、第3・54表、PL.10・11・172)

平成27年度の調査で検出した。南東隅付近は、調査区外になることと、現代の攪乱により壊されていた。

位置：1-B区の東壁中央付近に位置し、南西側5.2mに1区26号竪穴建物がある。

グリッド：20~2Q-146・147

座標値：X=61,204~61,211 Y=-93,726~93,732

形状：横長長方形

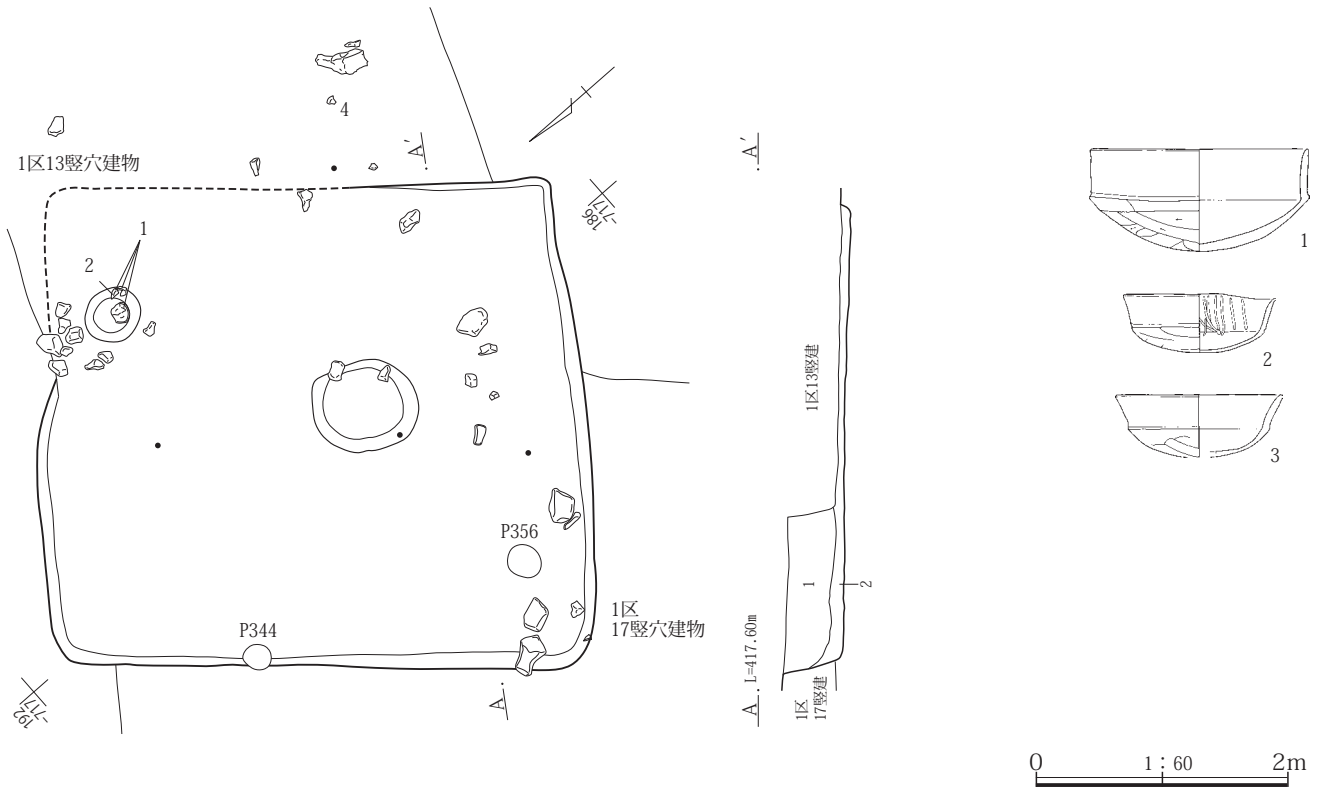
規模：長軸5.53m 短軸5.08m 壁高43~70cm

長軸方向：N-10°-E 床面積：(24.33)m²

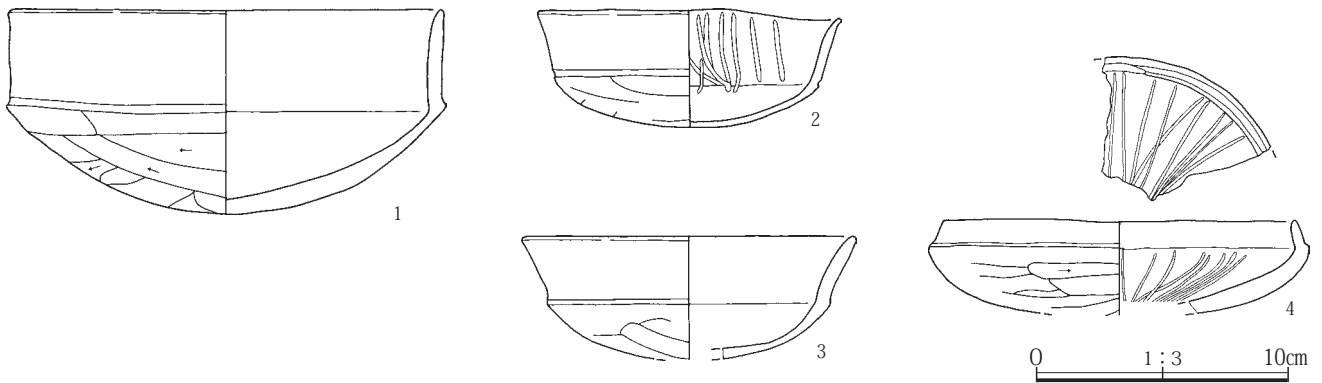
埋没土：1・2層の黒褐色土を主体とし、壁際には三角堆積状に3層の鈍い黄褐色土と、4層の暗褐色土とに分層できた。なお、埋土中に大中の礫を含むことや、汚れたロームブロックを主体とする4層の存在から、人為的埋没と考えられる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化が著しい。壁高は43~70cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北壁中央のやや西寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-11°-Eを向き、残存状態は良く、煙道部は極めて良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。調査時に確認されていた煙道部の大型礫4石からなる天井石、奥壁石など、ほとんどの石が原位置を止めていた。また、煙道部の掘り方プランも明瞭であった。カマドの規模は、全長2.24m、幅1.17mを測る。袖は壁から50cmほど突出するが、先端は不明。先端部に、袖石の痕跡はない。焚口部から燃烧部の底面にかけて、建物床面よりやや低くなる。袖部は石組みではなく、カマド7層の黒褐色土を芯に、その外側に6・8層とした鈍い黄褐色土や暗褐色土で構築される。焚き口から燃烧部に架かる天井は、崩落



- 1 黒褐色土 灰白・黄橙粒、炭化物を微量含む。
- 2 黒褐色土 灰白・黄橙粒、焼土粒、炭化物を微量含む。

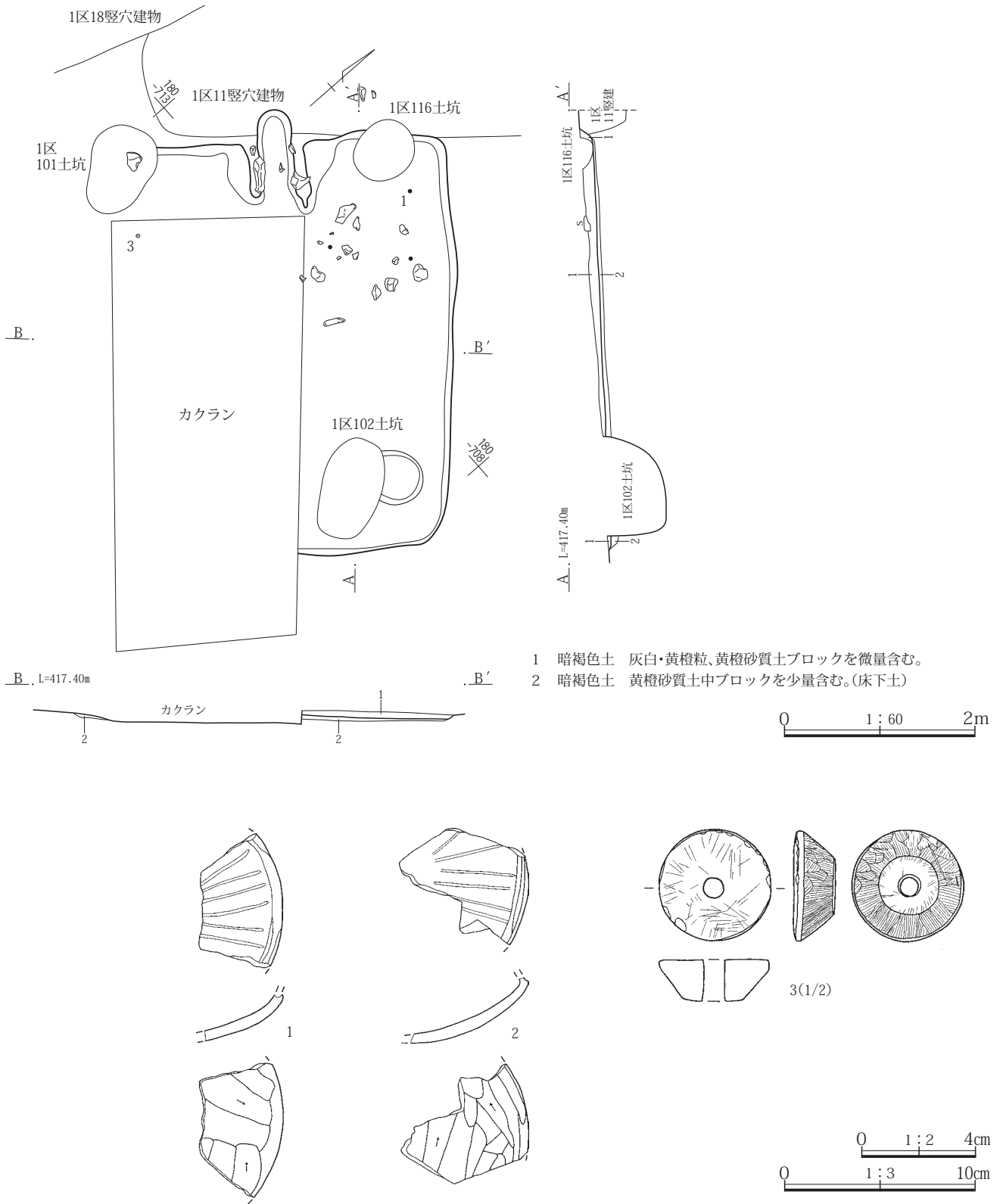


第43図 1区23号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

して残存しない。煙道部は石組構造で、天井石は大型の垂円礫(長さ50cm前後、幅30cm前後)4石が残存し、大型天井石間には中型礫が間詰めされる。大型天井石の残存状況および煙道の長さから、本来は5石の天井石であった可能性がある。天井石下には、煙道の両側に天井石を支える側壁石を検出した。側壁石の内幅は25cm前後を測り、煙道先端付近で内幅18cmほどやや狭くなる。用いられる石は、右側壁で長さ35~47cm

の大型礫4石、左側壁で長さ30~40cmの大型礫5石で1段積みを基本とし、隙間には間詰め石を組み込んでいる。さらに、煙道先端には奥壁石が存在し、長さ45cm、幅35cmの大型礫を垂直気味に立てるように使い、その頂部は側壁石上部より高く、天井石上面と同じ高さにある。これら両側壁石の壁面は、燃焼部側ほど被熱がより顕著である。煙道部底面は、燃焼部から一段高くなり、緩やかに長く立ち上がる。一方、煙道部に

第4章 検出された遺構と遺物



第44図 1区24号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

は、遺構確認時でも明瞭であった、造作のための掘り方が存在する。その幅は100cm前後を測り、側壁石を据えた後に、裏込め土となる褐色土(カマド10層)を埋め込んでいる。なお、煙道部の石組状況を、第47・48図に示した。

貯蔵穴：カマドの右側となる北東隅付近に位置し、長軸120cm、短軸90cmの長方形を呈し、深さ30cmを測る。底面には、地山礫が露出する。埋土は褐色土を主体とするが、上位ほど暗い。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～3を検出し、貯蔵穴内に主柱穴とは異なるP4を検出した。主柱穴上面は概ね円形で、径45cm前後、深さ60～70cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とする。

周溝：カマドを除く各壁際に、幅14～20cmの周溝が巡ると思われるが、部分的に検出できなかった箇所もある。埋土は建物3・4層となる。

床面下：掘り込みは浅く、西側の底面には礫層の礫が露出し、中央から東側の底面には礫の抜き取り痕と思われる凹凸が著しい。建物5層とした暗褐色土が埋土となり、上面の床面を構築している。また、底面中央には床下土坑が検出された。径70cmほどの円形を呈し、深さ20cmを測り、黄褐色土を埋土とする。

遺物：出土遺物は比較的が多いものの、埋土中からの出土も多い。カマド右袖脇からは、10の胴下半の欠けた土師器甕が床面直上に正位で、その隣に5の土師器の杯が床面付近に出土している。さらに、カマド右脇の壁際上位から1の土師器の杯、カマド左脇の床面上に3の土師器の杯が出土している。また、貯蔵穴上面から2の土師器の杯、北東隅の北壁に立て掛かるように11の完形の土師器の甕が床面直上に正位で出土している。

出土遺物として、土器15点を図示した。土師器の杯に1～7があり、1の内面はヘラ磨き。8は須恵器の壺か杯の体部下半。9は土師器の小型甕で、10～15は土師器の甕である。

未掲載遺物には、同時期の土器片が多くある。

所見・時期：石組構造となるカマド煙道部は、極めて良好な状態にあった。建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

1区26号竪穴建物（第51図、第3・55表、PL.11・172）

平成27年度の調査で検出した。建物の南側の大半は調査区外(町道下)となり、僅かに北壁とカマドの一部を調査しただけで、不明な点が多い。

位置：1-B区の南壁中央の壁際に位置し、北東側5.2mに1区25号竪穴建物がある。

グリッド：2N・2O-147・148

座標値：X=61,198～61,203 Y=-93,733～93,739

形状：正方形か長方形

規模：長軸(6.93)m 短軸(0.90)m 壁高26～37cm

長軸方向：N-53°-E 床面積：(3.13)m²

埋没土：1層の耕作土下に2～4層の各々火山灰層を確認でき、4層の堆積状況からその下面(5層上面)が古代の畠面であることが判る。建物の埋没土は、6～8層とした暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

床面・壁：床面はローム土中にあり、概ね平坦となる。壁高は26～37cmを測り、やや緩く立ち上がる。

カマド：北壁中央のやや西寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-29°-Eを向き、残存状態は良く、煙道部も良好。しかし、カマド全体の調査はできていない。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。調査できたカマドの規模は、全長(1.97)m、幅1.16mを測る。袖は壁から40cmほど突出するが、先端は不明。燃烧部の底面は、建物床面よりやや低くなる。袖部には石組みはなく、13層の鈍い黄橙色土を内側に、外側を14・15層とした暗褐色土で構築されている。煙道部にも石組みはなく、底面は燃烧部から緩やかに長く立ち上がる。

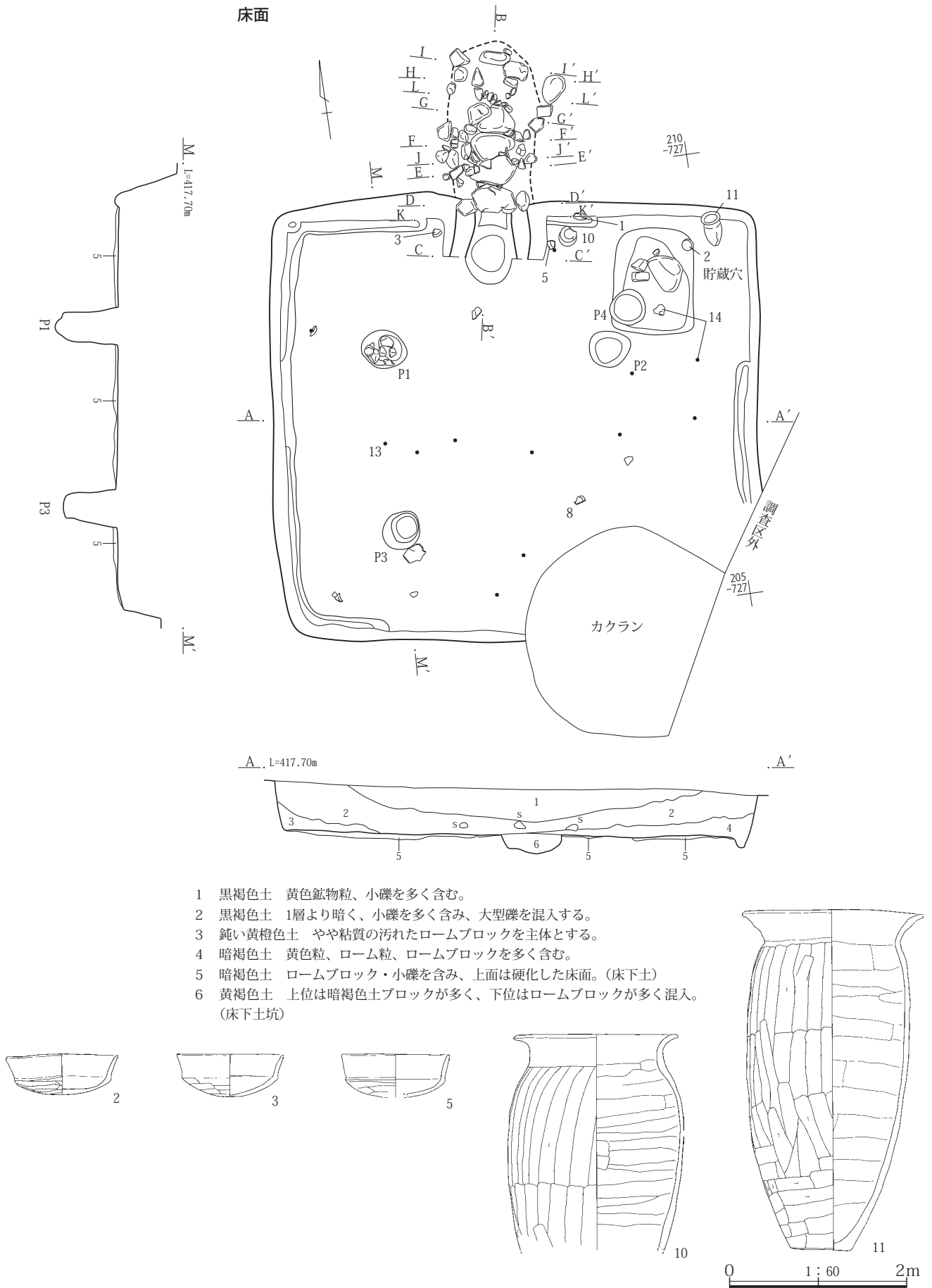
貯蔵穴：カマドの右側となる北東隅に位置し、楕円形と思われるが規模は不明。深さ24cmを測る。底面には地山礫が露出し、埋土は黒褐色土を主体とする。

床面下：掘り込みはカマドの右側に確認され、底面には礫層の礫が露出する。16層とした暗褐色土が埋土となり、上面は硬化した床面を構築している。

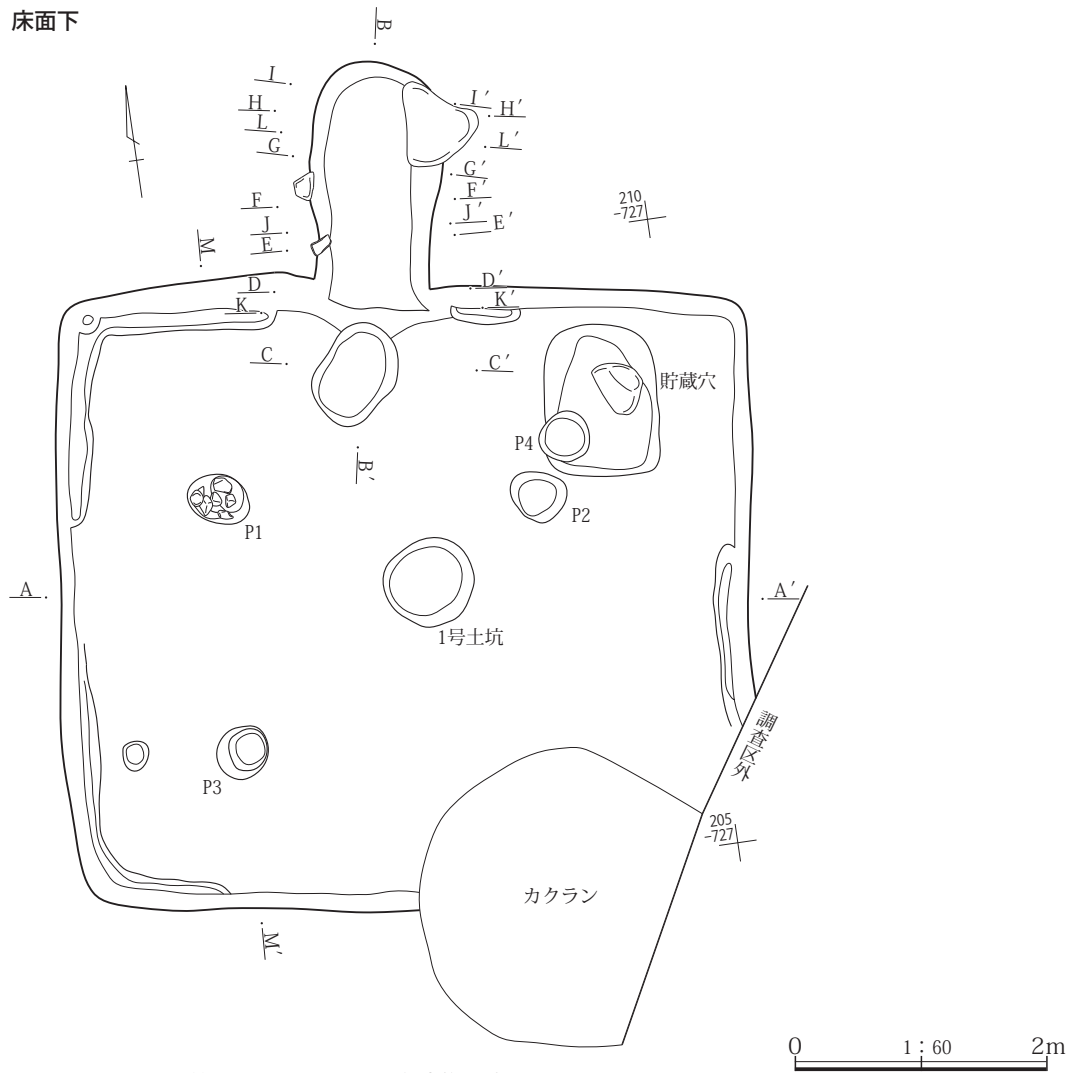
遺物：出土した遺物は極めて少ないが、カマド右側の床面直上から1の台部を欠損した土師器の台付甕が出土している。

未掲載遺物には、同時期の土器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀か。



第45図 1区25号竪穴建物 床面 平・断面図



第46図 1区25号竪穴建物 床面下 平面図

1区27号竪穴建物

(第52～54図、第3・56表、PL.12・173・174)

平成28年度の調査で検出した。本遺跡調査における最西端に位置する建物である。

位置：1-C区の西端付近に位置し、東側9.0mに1区32号竪穴建物、南東側9.0mに1区28号竪穴建物がある。

グリッド：2Q・2R-157・158

座標値：X=61,210～61,215 Y=-93,783～93,787

形状：不整形

規模：長軸4.15m 短軸3.65m 壁高9～19cm

長軸方向：N-67°-E 床面積：13.65㎡

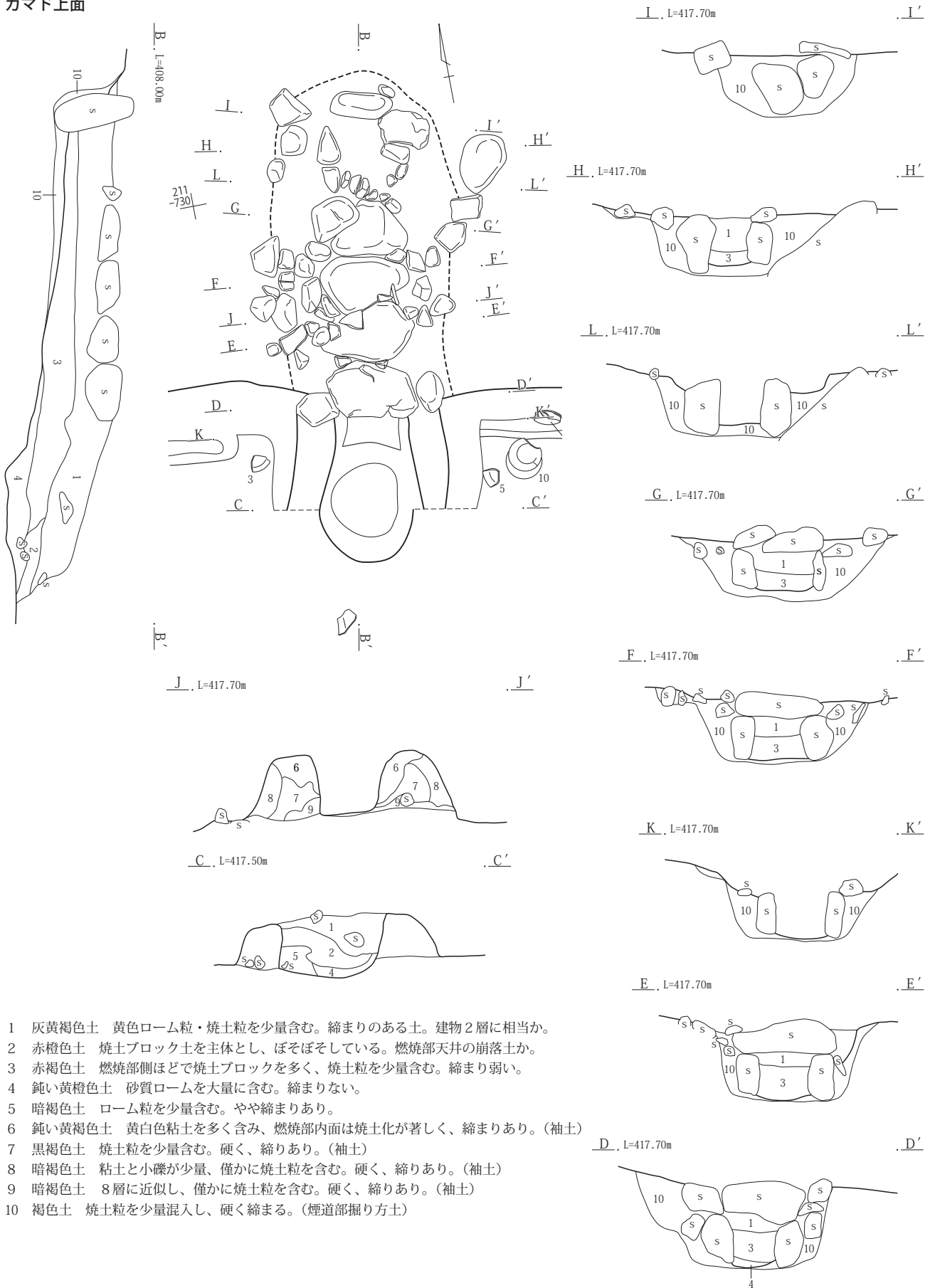
埋没土：1・2層の暗黒褐色土を主体とし、壁際には三角堆積状に3層の黒褐色土とに分層できた。なお、埋土中に大中の礫を多く含むことや、ロームブロックが

混在することから、人為的埋没と考えられる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化する。また、建物中央床面に被熱して焼土化した部分を確認したが、炉とは異なる(量は少ないが、床面上に炭化材を出土していることから、焼失に伴う焼土化の可能性をもつ)。壁高は9～19cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：西壁中央の南寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-115°-Wを向き、残存状態は極めて良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は不明。燃焼部から焚き口部にかけては甕や杯が多く出土し、支脚に掛かった状態での10の甕は特徴的である。カマドの規模は、全長0.97m、幅0.81mを測る。袖は壁から85cmほど突出して、両先端部に袖石をもつ。焚口部から燃焼部の底面にかけて、建物床面よりやや低くなる。袖部の内側

カマド上面

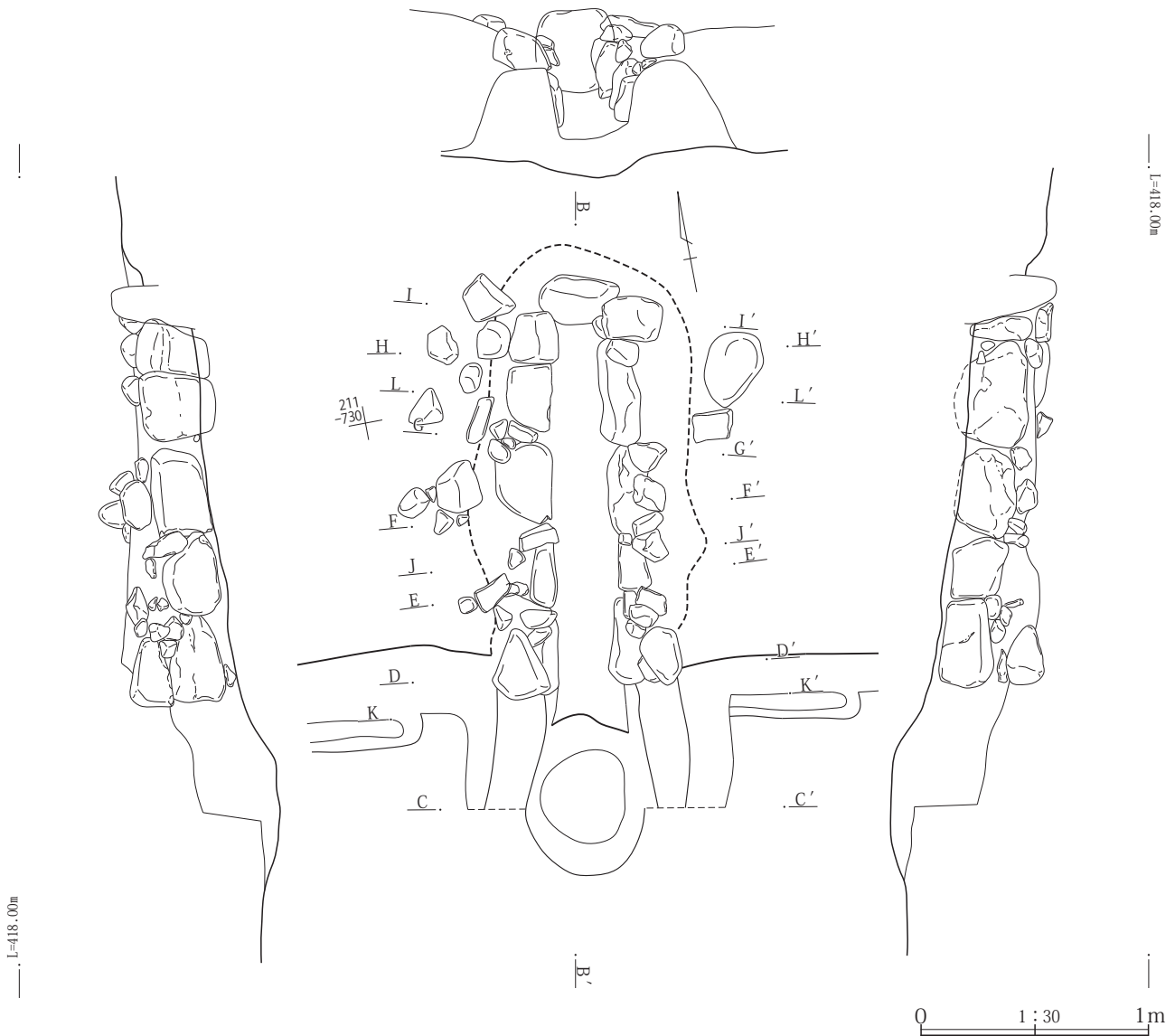


- 1 灰黄褐色土 黄色ローム粒・焼土粒を少量含む。締まりのある土。建物2層に相当か。
- 2 赤橙色土 焼土ブロック土を主体とし、ぼそぼそしている。燃烧部天井の崩落土か。
- 3 赤褐色土 燃烧部側ほどで焼土ブロックを多く、焼土粒を少量含む。締まり弱い。
- 4 鈍い黄橙色土 砂質ロームを大量に含む。締まりない。
- 5 暗褐色土 ローム粒を少量含む。やや締まりあり。
- 6 鈍い黄褐色土 黄白色粘土を多く含む、燃烧部内面は焼土化が著しく、締まりあり。(袖土)
- 7 黒褐色土 焼土粒を少量含む。硬く、締りあり。(袖土)
- 8 暗褐色土 粘土と小礫が少量、僅かに焼土粒を含む。硬く、締りあり。(袖土)
- 9 暗褐色土 8層に近似し、僅かに焼土粒を含む。硬く、締りあり。(袖土)
- 10 褐色土 焼土粒を少量混入し、硬く締まる。(煙道部掘り方土)

第47図 1区25号竪穴建物 カマド 平・側面図(1)

カマド下面

— L=418.00m —



第48図 1区25号竪穴建物 カマド 平・断面図(2)

は石組みとなり、袖部先端(焚き口部)の1石と燃烧部内壁の2石の計3石で片側を構築している。しかし、焚き口部等の天井石の存在は不明。なお、燃烧部の底面中央には、縦長な礫を支脚として据えている。

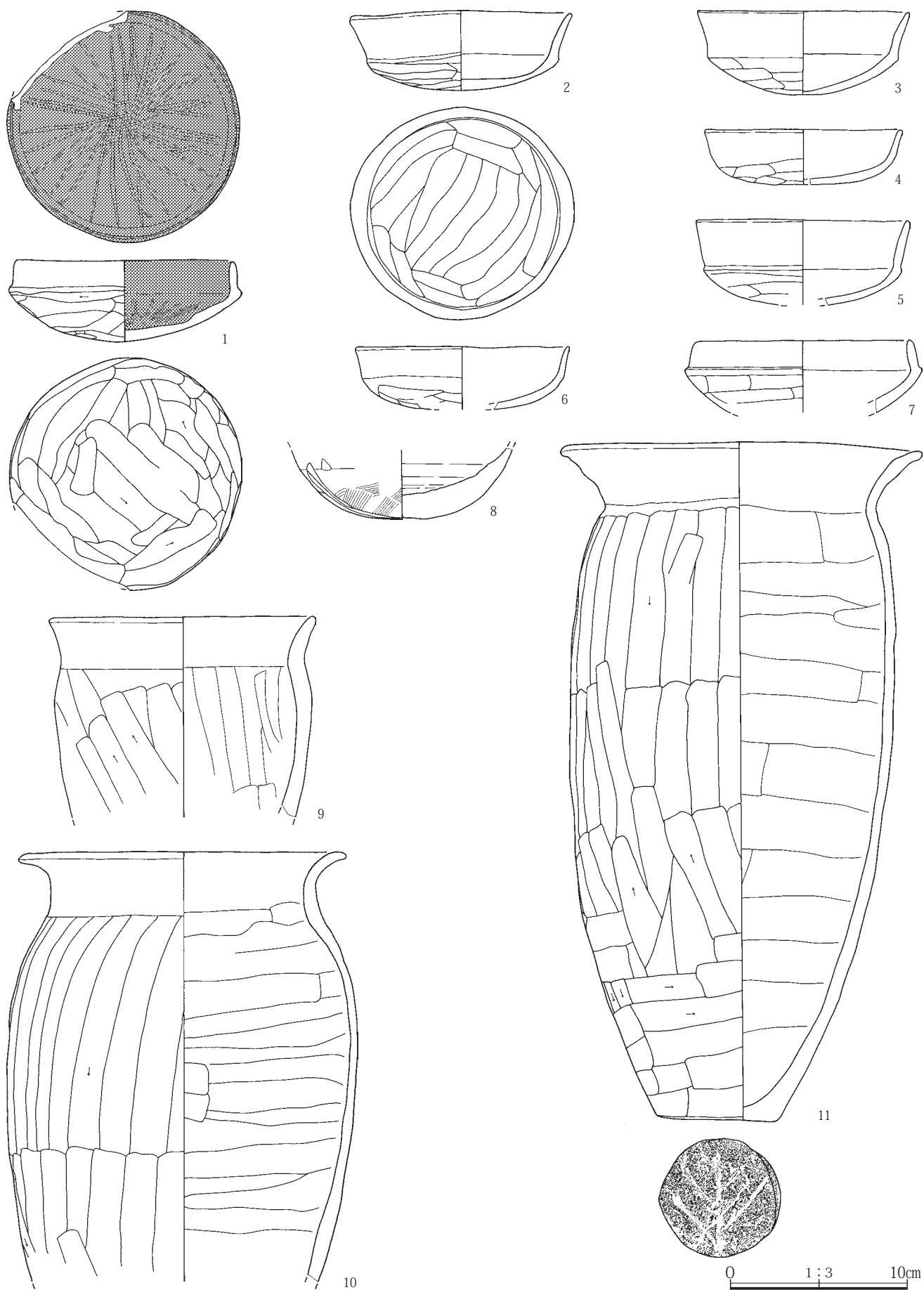
貯蔵穴：カマドの左側となる南西隅付近に位置し、長軸50cm、短軸40cmの楕円形を呈し、深さ52cmを測る。埋土は暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

柱穴：主柱穴は判然としないが、柱穴にP 1～4を検出した。円形ないし楕円形で、概ね径60～40cm前後、深さ36～14cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とする。

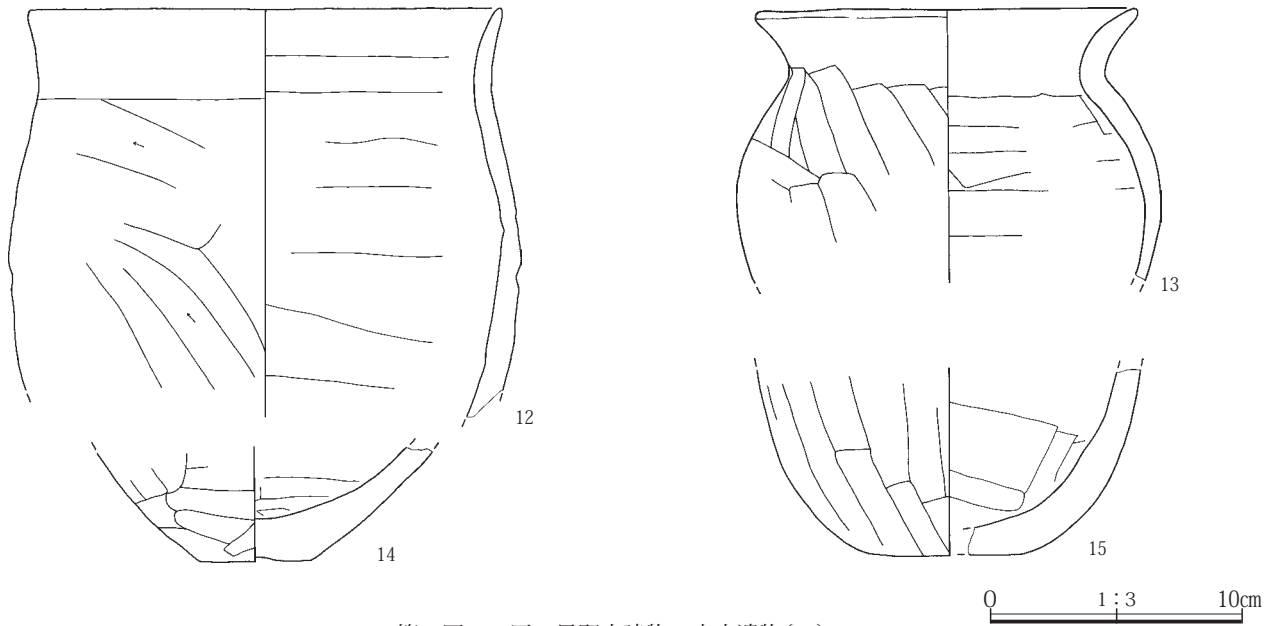
床面下：掘り込みは6cm前後と浅く、底面には礫層の礫

が露出し、礫の抜き取り痕と思われる凹凸も見られる。建物4層とした褐色土が埋土となり、上面は床面を構築している。また、底面中央には南西隅と南壁中央付近にピットが検出され、褐色土を埋土とする。

遺物：出土遺物は比較的が多く、カマド内および床面直上からの遺物が目立つ。カマド内中央には支脚に掛かった状態で10の甕が、その手前に11の甕がずり落ちるように潰れ、11の下から1の杯が出土している。また、カマド前となる建物中央北寄りの床面直上に3の杯や12の甕上半が出土し、建物中央南寄りの床面直上に14～19の白玉6点がややまとまるように出土してい



第49図 1区25号竪穴建物 出土遺物(1)



第50図 1区25号竪穴建物 出土遺物(2)

る。他に、東半の床面直上には、炭化材が出土している。

出土遺物として、土器13点と石製品7点の計20点を図示した。土師器の杯に1～9があり、1・2の内面はへら磨きを施す。10～13は土師器の甕で、11・12の胴部の一部に刷毛目整形痕が残る。

石製品の14～19は滑石製の白玉であり、14は黒褐色で径0.7cm、厚さ0.7cm、孔径2mm。15は黒褐色で径0.7cm、厚さ0.5cm、孔径2mm。16は暗オリーブ灰色で径0.7cm、厚さ0.4cm、孔径2mm。17は暗オリーブ灰色で径0.7cm、厚さ0.6cm、孔径2mm。18は黒褐色で径0.8cm、厚さ0.5cm、孔径2mm。19はにぶい黄橙色で径1.3cm、厚さ0.9cm、孔径3mmと大きい。また、20は粗粒輝石安山岩製の砥石で、長さ18.2cm、幅7.0cm、厚さ6.2cmを測り、表面に中央が窪んだ滑らかな砥面が認められる。

未掲載遺物には、同時期の土器片が多くある。

所見・時期：床面上に出土した炭化材や焼土化した床面の状況から、焼失家屋の可能性が高い。建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

1区29号竪穴建物 (第55図、第3・58表、PL.12・175)

平成28年度の調査で検出した。建物の北側の大半は調査区外となり、不明な点が多い。1区30号竪穴建物と僅かに重複し、1区2号掘立柱建物とも重複する。

位置：1-C区の北壁中央付近の壁際に位置し、東側を1区2号掘立柱建物、西側を1区30号竪穴建物と僅かに重複する。

グリッド：20・2P-152・153

座標値：X=61,201～61,205 Y=-93,756～93,761

重複：本建物の西隅に僅かに重複する1区30号竪穴建物との新旧は、遺構確認の結果、本建物の方が古い。また、1区2号掘立柱建物との新旧は、遺構確認で本建物の方が古いことが明らかで、しかも掘立柱建物P5によって本建物のカマドの一部(左袖先端)が壊されていた。

形状：方形か

規模：長軸(1.29)m 短軸5.36m 壁高15～25cm

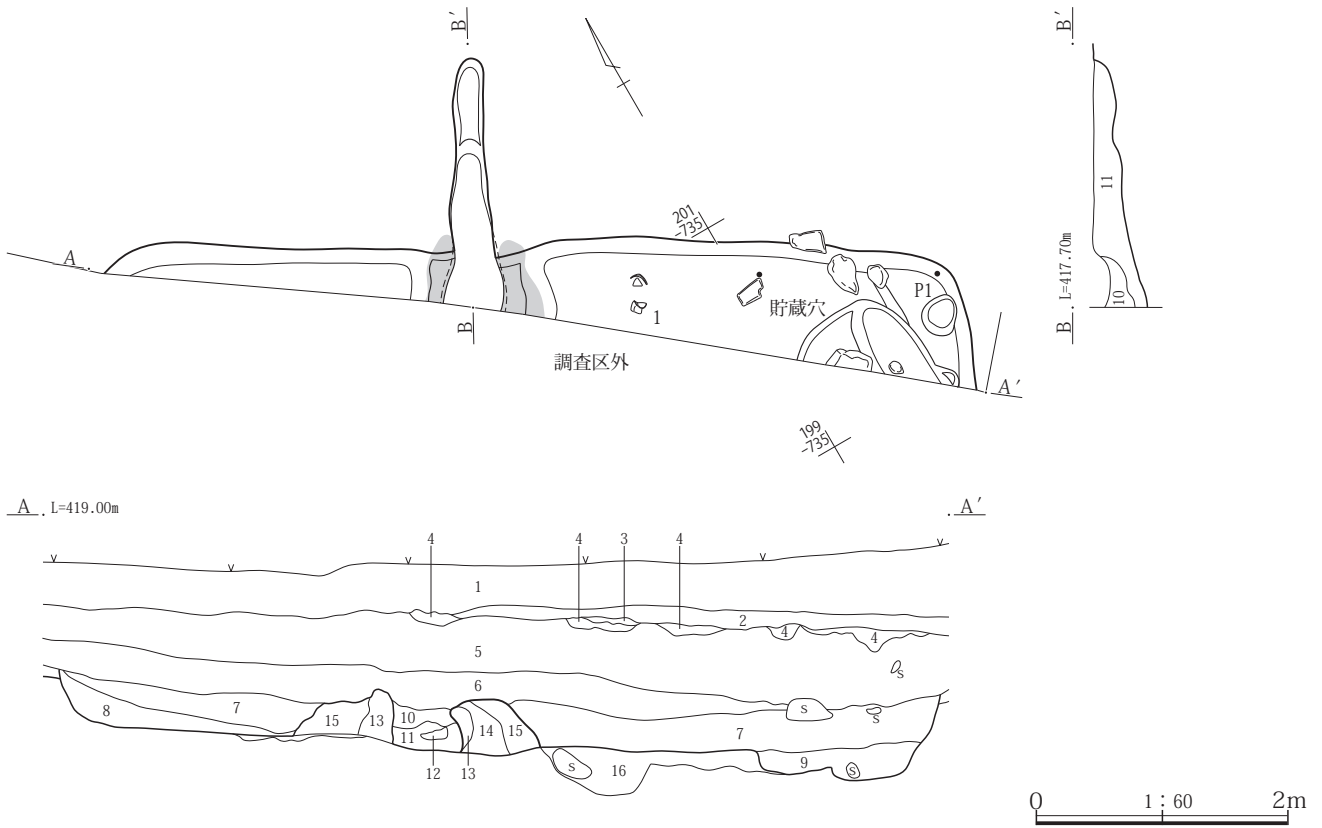
長軸方向：N-57°-W 床面積：(5.80)m²

埋没土：I～VI層はそれぞれ1-C区基本土層である。

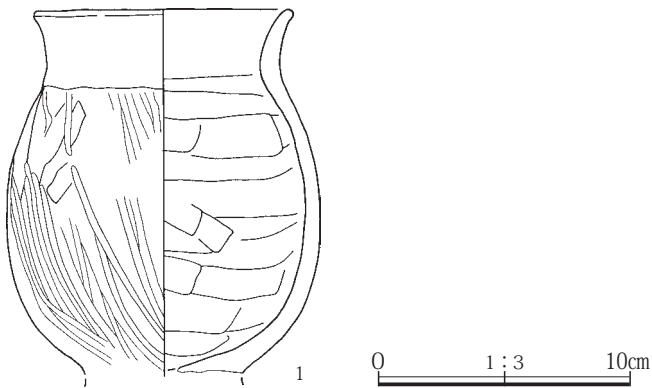
その下位の1・2層が埋没土となり、鈍い黄褐色土が主体となる。埋土中に大中の礫を多く含むことから、人為的埋没と考えられる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦。壁高は15～25cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南西壁中央のやや西寄りに位置し、カマドの主

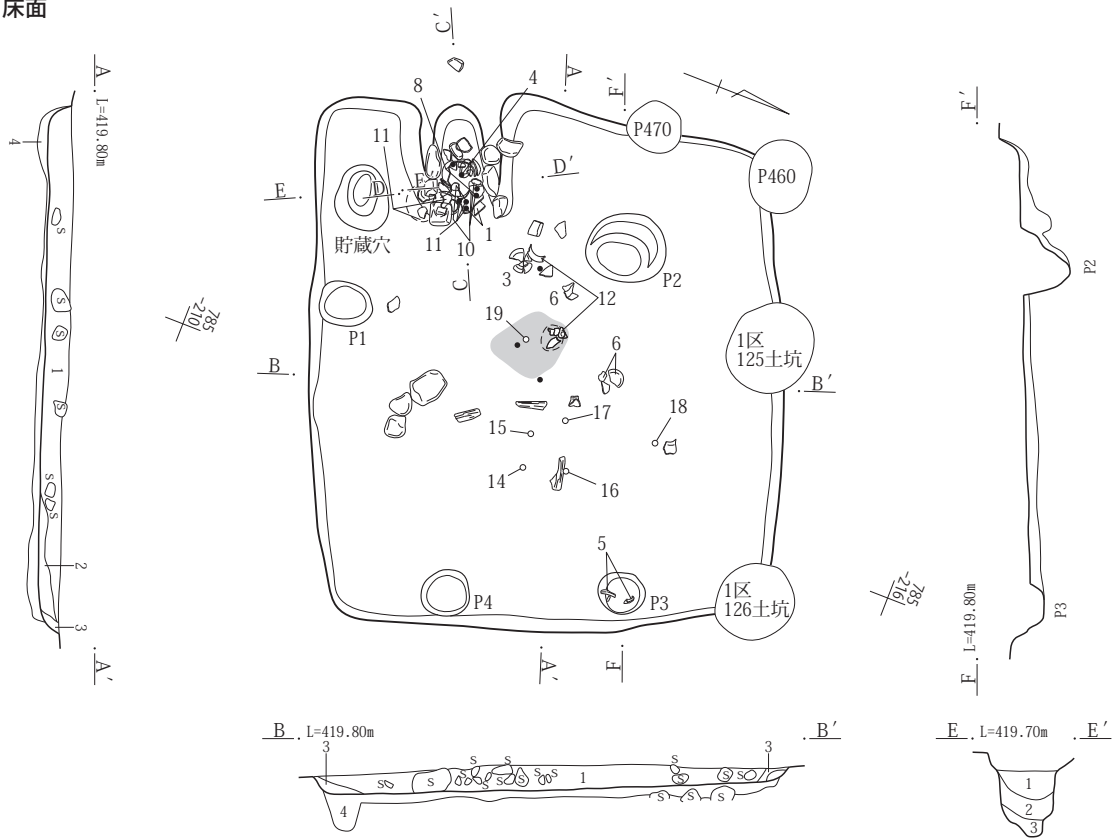


- 1 現表面 耕作土。基本層序の1-C区北壁I層序と同じ。
- 2 黒色土 As-Kk(1~5mmφ軽石を多く含む)基本層序の1-C区北壁III層序と同じ。
- 3 黒褐色土 As-B火山灰を微量に混入。
- 4 黄灰色土 As-B火山灰をブロック状に多量含む。(古代畠の畝間土)基本層序の1-C区北壁V層序と同じ。
- 5 暗褐色土 白色鈹物粒と赤褐色鈹物粒を含み、締まりあり。基本層序の1-C区北壁VI層序に相当。
- 6 暗褐色土 白色鈹物粒・焼土粒、ロームブロックを含む。(建物埋土)
- 7 暗褐色土 白色鈹物粒・焼土粒、炭化物を含む。(建物埋土)
- 8 黒褐色土 僅かにロームブロックと礫を含む。砂質ぎみ。(建物埋土)
- 9 黒褐色土 ロームブロック・礫を含む。砂質土。(貯蔵穴埋土)
- 10 赤褐色土 黄白色粘土・焼土粒を多く含む。(カマド埋土)
- 11 極暗赤褐色土 焼土ブロックと黒褐色土の混土。(カマド埋土)
- 12 鈍い黄橙色土 黄白色粘土の焼土化塊。(天井崩落土か)
- 13 鈍い黄橙色土 黄白色粘土を主とし、燃焼部内面側が赤褐色に焼土化する。(袖土)
- 14 暗褐色土 焼土ブロックと黄白色粘土ブロックの混在土。硬く締まる。(袖土)
- 15 暗褐色土 焼土ブロック・黄白色粘土ブロック・炭化物が混入。(袖の崩落土か)
- 16 暗褐色土 ロームブロック・礫を含む。砂質土。(床下土)

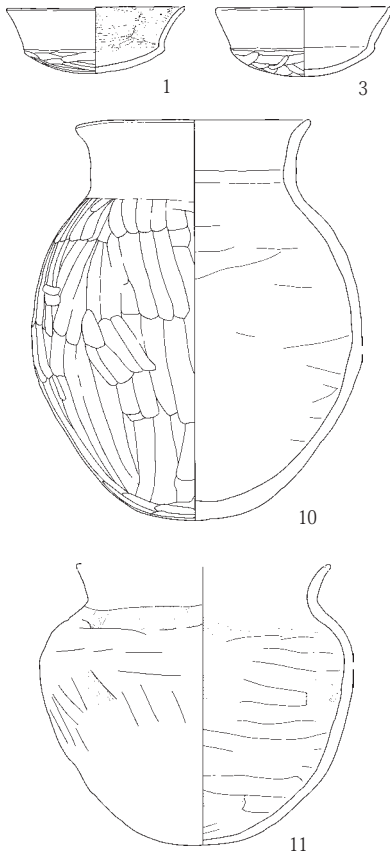


第51図 1区26号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

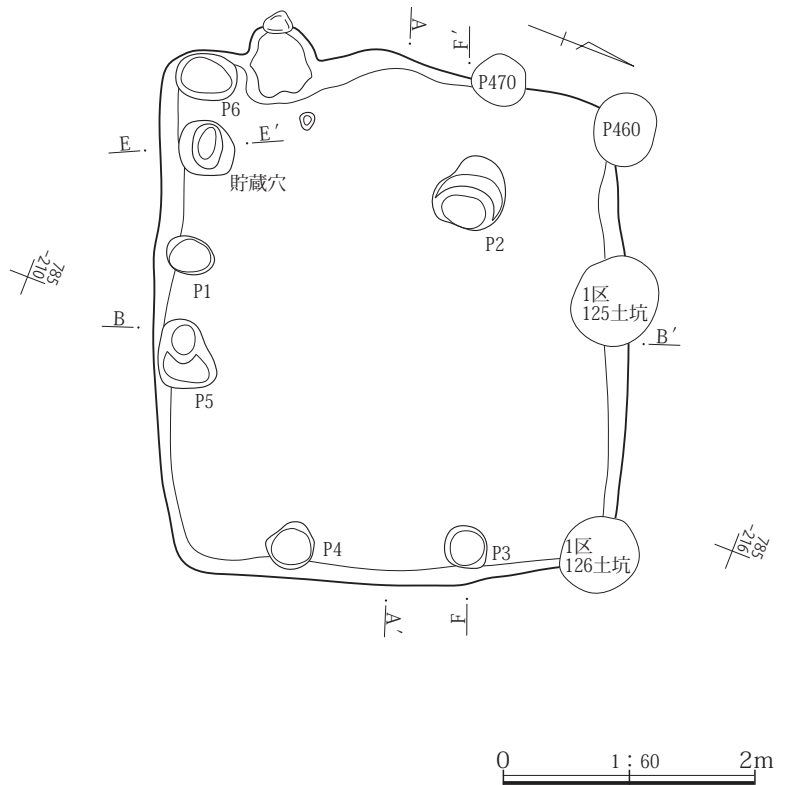
床面



- 1 暗褐色土 礫が多く、黄褐色土ブロックを少量混入する。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒、小礫、ロームブロックが混在。
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む。やや砂質土。
- 4 褐色土 ロームブロック、大礫を含む。強く締まった土である。(床下土)

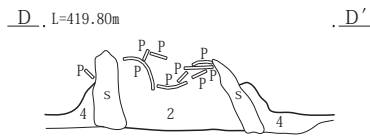
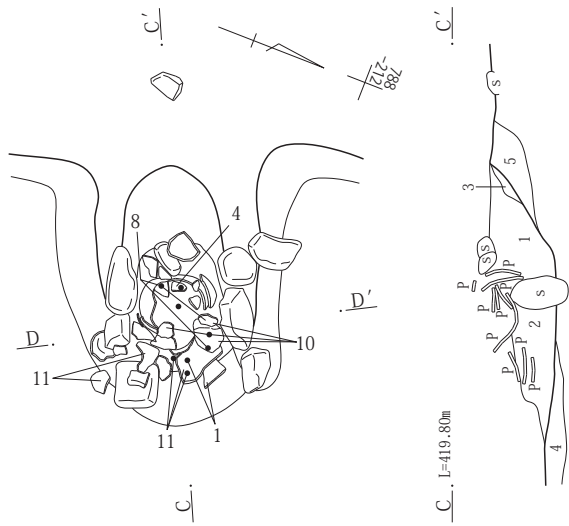


床面下



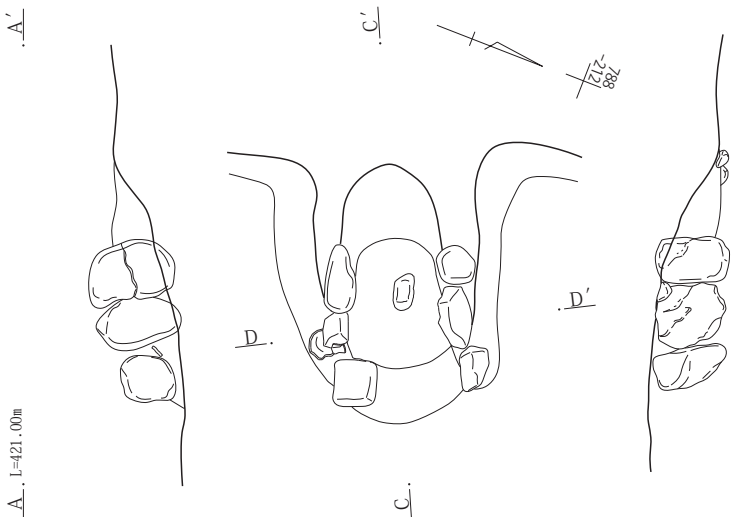
第52図 1区27号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図

カマド上面



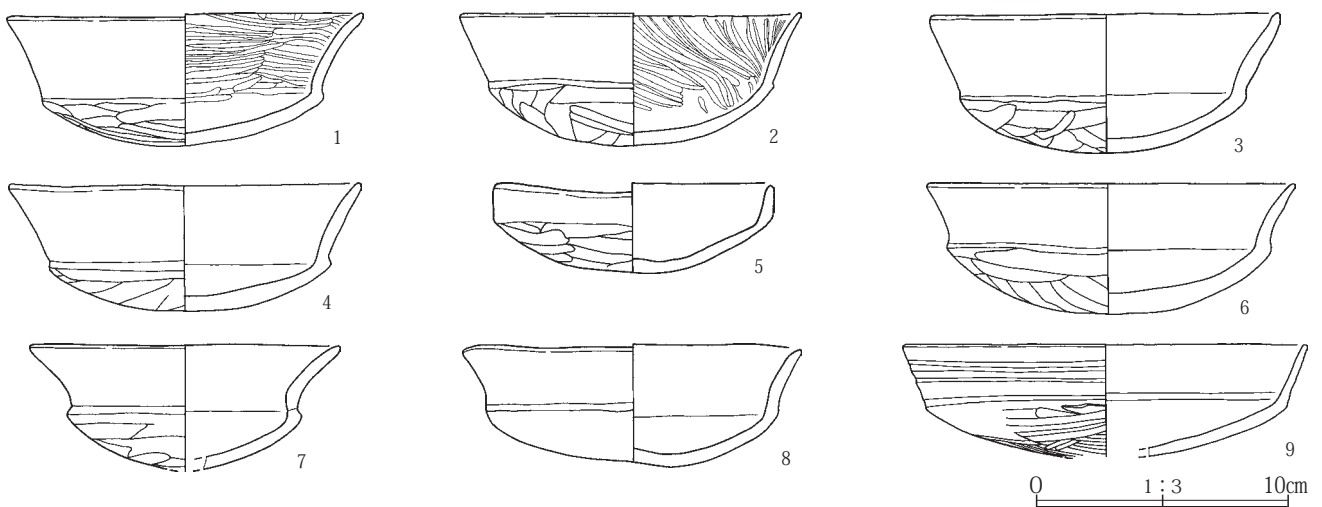
- 1 暗褐色土 焼土粒、ブロック、炭化物を斑に含む。
- 2 黒褐色土 焼土ブロックを僅かに含み、下位に僅かに灰がみられる。
- 3 黒褐色土 地山の礫が顔を出す。
- 4 暗褐色土 ローム粒を多く混入する。袖部の構築土でもあり、建物4層に相当。
- 5 黒褐色土 焼土粒を多く、ロームブロックを混入する。

カマド下面

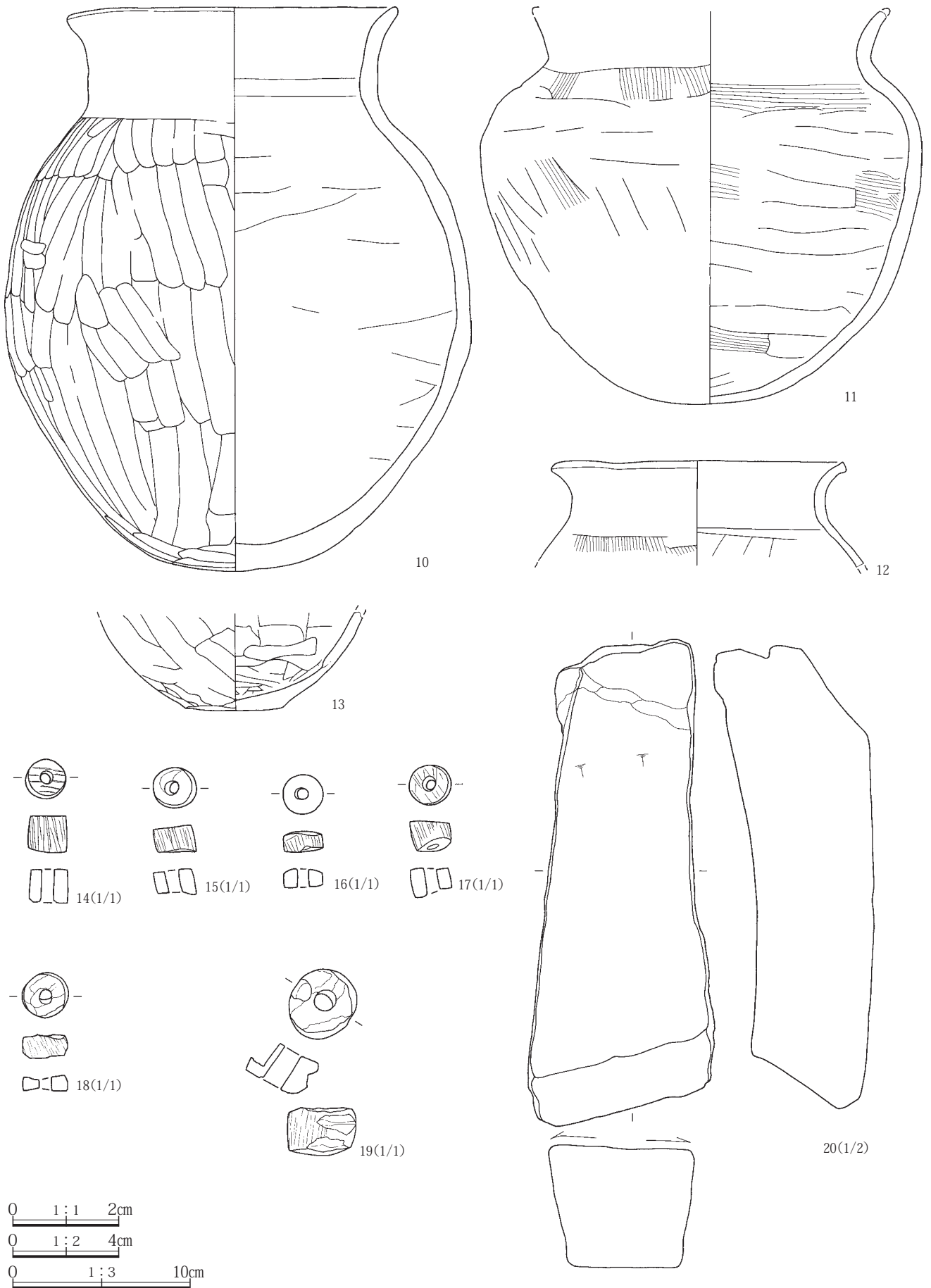


A, L=421.00m

A, L=421.00m



第53図 1区27号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物(1)



第54図 1区27号竖穴建物 出土遺物(2)

第4章 検出された遺構と遺物

軸方位はN-141°-Wを向く。一部を攪乱により壊されるが、残存状態は良。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ突出する。残存する規模は、全長1.18m、幅0.85mを測る。袖は壁から50~60cmほど突き出るように残存し、右袖先端には袖石をもつ。焚口部から燃焼部の底面にかけては建物床面よりやや低くなり、煙道部は斜位に角度をもって立ち上がる。

貯蔵穴：カマドの右側に位置し、長軸70cm、短軸54cmの楕円形を呈し、深さ52cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とする。

遺物：出土遺物は極めて少ない。南隅付近の床面直上から2の杯が出土している。

出土遺物として、1・2の土師器の杯2点を図示した。

未掲載遺物には、同時期の土器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。

1区30号竪穴建物（第56・57図、第3・59表、PL.13・175）

平成28年度の調査で検出した。建物の北側は調査区外となり、1区29号竪穴建物と僅かに重複する。

位置：1-C区の北壁中央やや西寄りの壁際に位置し、東側を1区29号竪穴建物が僅かに重複し、西側に1区28号竪穴建物が近接する。

グリッド：20・2P-153・154

座標値：X=61,203~61,208 Y=-93,760~93,766

重複：本建物の東壁に僅かに重複する1区29号竪穴建物との新旧は、遺構確認の結果、本建物の方が新しいことが明らかであった。

形状：方形

規模：長軸5.33m 短軸(4.98)m 壁高37~82cm

長軸方向：N-82°-W 床面積：(19.70)m²

埋没土：1層は1-C区基本土層のI~IV層であり、2層は基本土層のVI層である。その下位の3層以下が埋没土となり、3・4層の灰黄褐色土と黒褐色土を主体に、壁際には5層の黒褐色土が三角堆積状にある。埋没土中に大型礫を含むことから、人為的埋没と考えられる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦となる。壁高は37~82cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：西壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-84°-Wを向き、残存状態はあまり良くない。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長1.57m、幅0.54mを測る。袖は壁から36~43cmほど突き出ようにあるが、残存は悪い。焚口部から燃焼部の底面にかけては建物床面よりやや低くなり、煙道部は斜位に角度をもって立ち上がった後に平らに延びる。なお、調査時に確認された煙道部の礫は、カマドに伴う礫ではなかった。また、カマド煙道部は三角状の大きな掘り方をもち、掘り方は黒褐色土が主体となる。

柱穴：主柱穴と考えられるP1~3とP4を検出した。主柱穴は概ね楕円形で、P1~3は長軸60~80cm、短軸62~60cm、深さ50~65cmを測る。埋土は暗褐色土ないし黒褐色土を主体とする。

床面下：掘り込みは12~24cm前後とやや深く、底面は凹凸があり、P2脇では部位的に一段高い。また、底面には礫層の礫が一部で露出し、礫の抜き取り痕と思われる凹凸も見られる。建物6層とした褐色土が埋土となり、上面が床面となる。また、P1とP3の間に、ピットが検出されている。

遺物：出土遺物はあまり多くなく、埋土中からの出土がほとんどである。遺物には、土器類の他に石製品や金属製品がある。

出土遺物として、土器10点と土製品1点、金属製品1点の計12点を図示した。土師器の杯に1~6があり、高杯に7の体部と8の脚部がある。9は須恵器の壺片で、10は土師器の甕である。

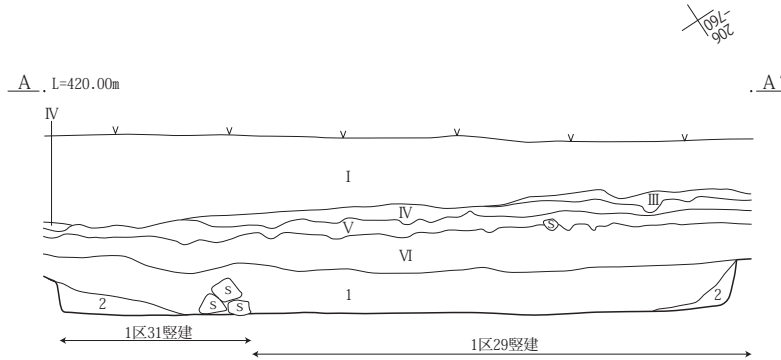
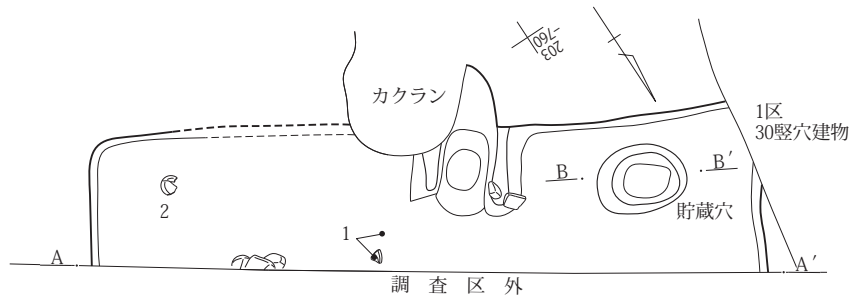
土製品として11の土玉がある。径0.8cm、厚さ0.4cm、孔径2mmを測る。

金属製品には12の鉄製の片刃鎌がある。

未掲載遺物には、同時期の土器片が多くある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀前半の建物の可能性が高い。

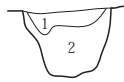
床面



- I 暗褐色土 表土(耕作土)。(1-C区基本土層)
- III 黒色土 As-Kkを多く含む。(1-C区基本土層)
- IV 鈍い黄褐色土 As-Kkの1次堆積層。(1-C区基本土層)
- V 黄灰色土 As-B火山灰と火山砂との混土。(1-C区基本土層)
- VI 黒褐色土 粘性がある。(1-C区基本土層)
- 1 鈍い黄褐色土 黄褐色土粒、ロームブロック、大礫を少量含む。締まりあり。
- 2 鈍い黄褐色土 ローム粒、ロームブロックが1層より多く混入する。



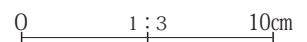
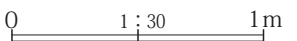
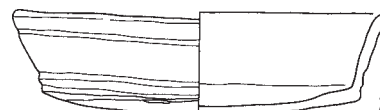
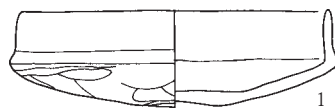
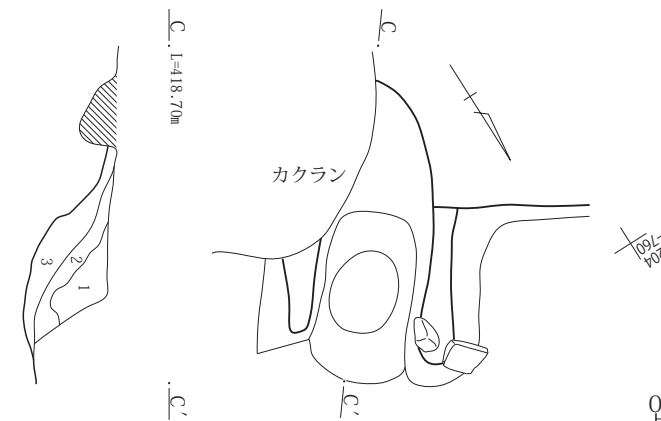
B. L=418.50m B'



- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

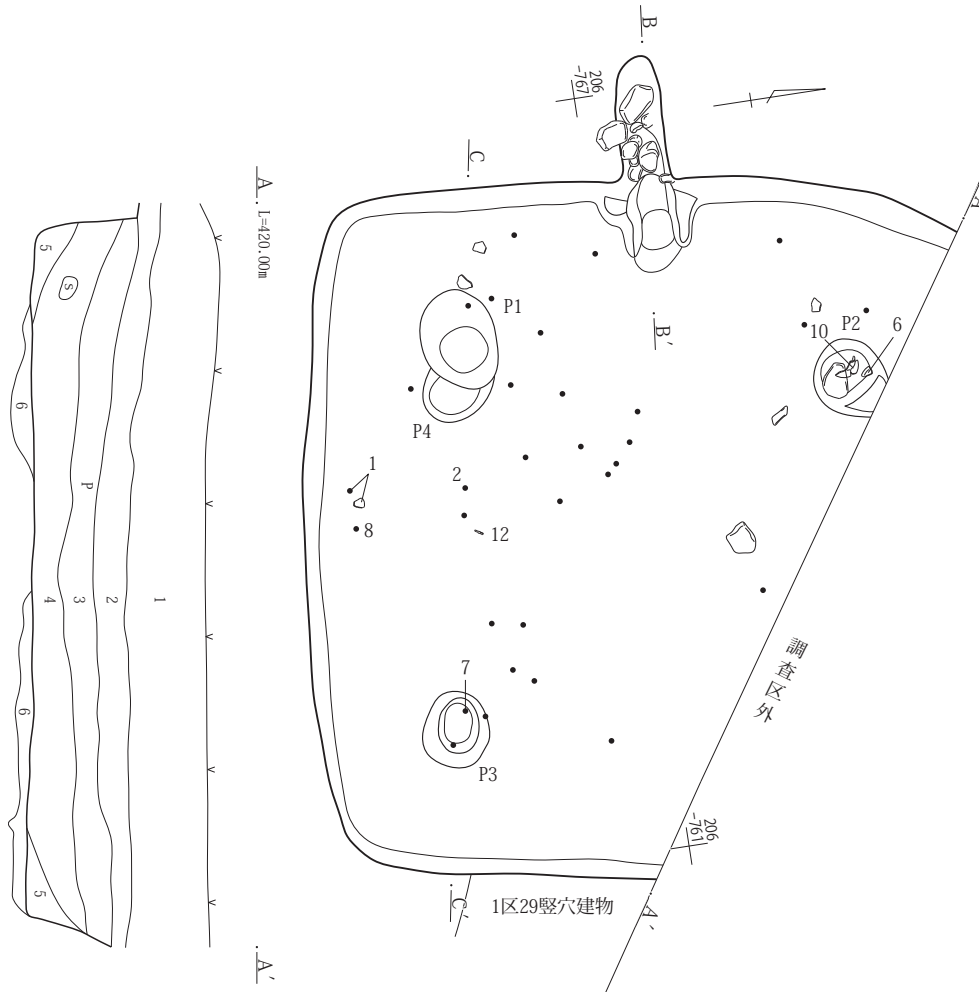
カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物を少量含む。中礫が混入する。
- 2 褐色土 焼土ブロックを多く、炭化物を少量含む。
- 3 黒褐色土 焼土ブロック、炭化材を含む。



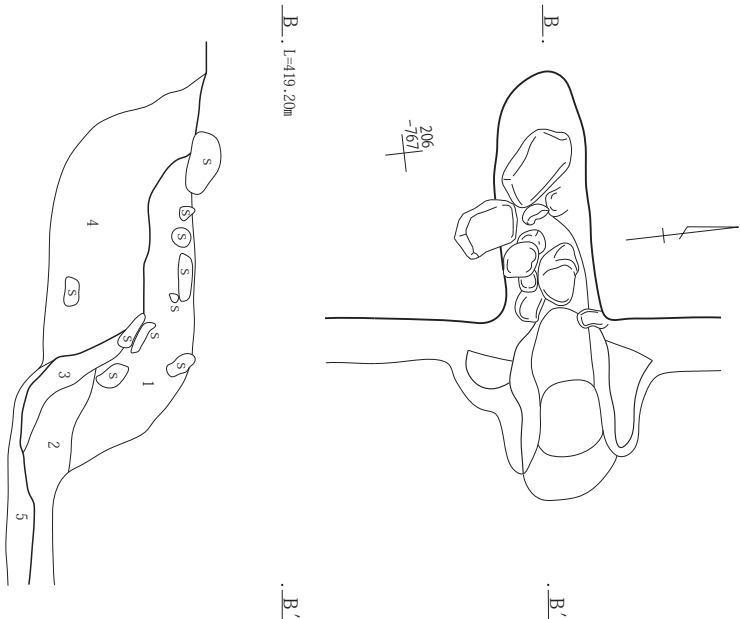
第55図 1区29号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図、出土遺物

床面



- 1 暗褐色土 1-C区基本土層I~IV層。
- 2 黒褐色土 1-C区基本土層VI層。
- 3 灰黄褐色土 黄褐色土小ブロックが僅かに混入する。
- 4 黒褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含み、大型礫が混入する。
- 5 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。締まりあり。
- 6 褐色土 暗褐色土とロームブロックの混土。(床下土)

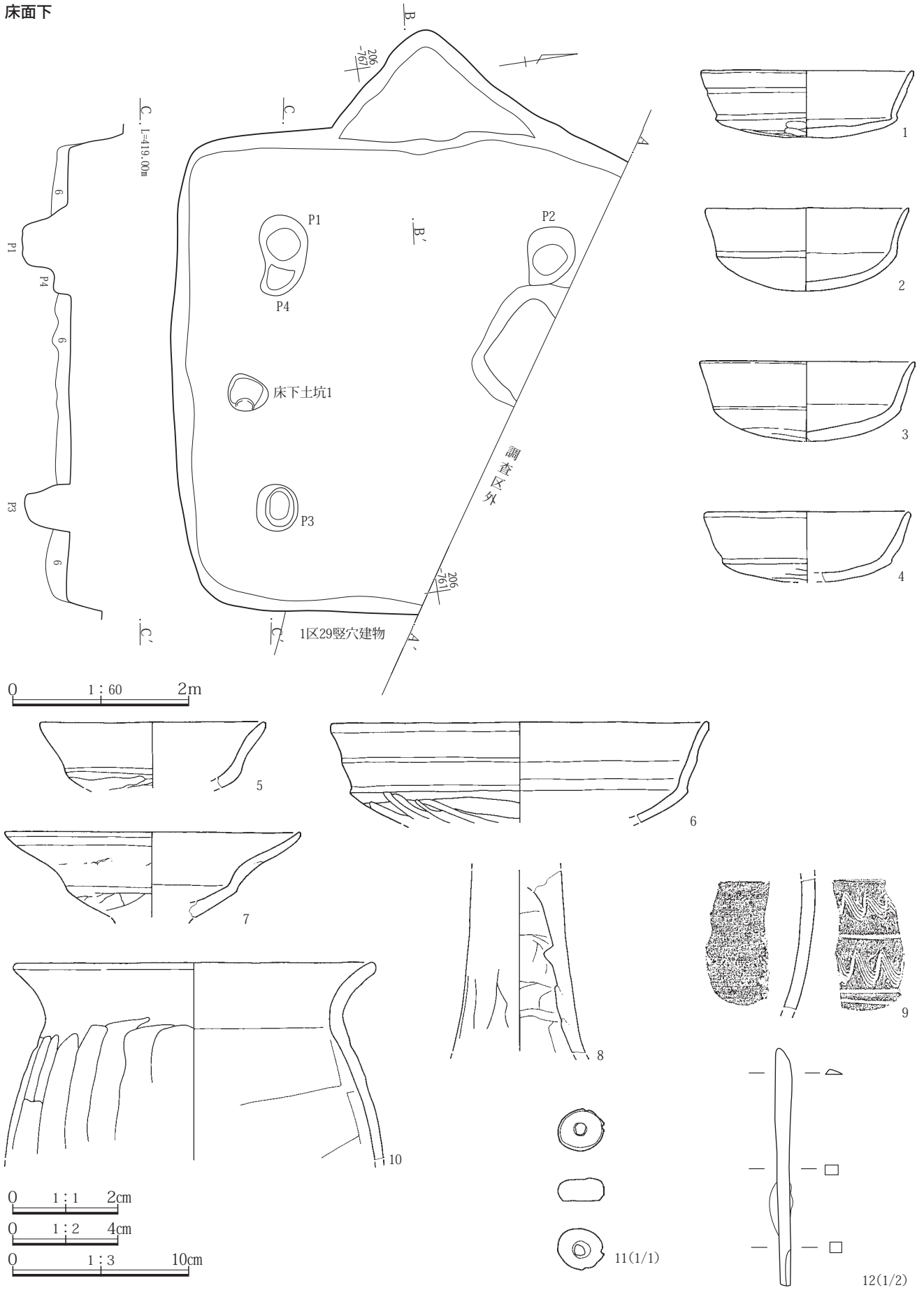
カマド



- 1 暗褐色土 大礫が多く、赤褐色ブロック粒・ローム粒・白色鈹物粒を混入する。
- 2 暗褐色土 小粒のロームブロックを混入する。
- 3 褐色土 ローム粒が多く混入する。
- 4 黒褐色土 白色鈹物粒、黄褐色土ブロックを少量含む。軟質土。
- 5 褐色土 暗褐色土とロームブロックの混土。建物6層に相当。

第56図 1区30号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図

床面下



第57図 1区30号竪穴建物 床面下 平・断面図、出土遺物

第3項 古代(7世紀後半以降)の遺構と遺物

(1)概要

本調査区で検出された古代の遺構は、調査区全体に広がり、その範囲は東側の2区にまで及び、広範囲な集落を形成していたようである。先述の古墳時代の遺構と共に、基本層序とした1-A区北壁でのIV層上面および1-C区北壁VII層上面を確認面とした第2面調査で、7世紀後半以降の集落が検出された。この集落を構成する遺構は、竪穴建物12棟、掘立柱建物2棟、土坑35基(古墳時代と古代)、畠2区画、道1条がある。検出された建物の分布状況から、集落の広がりや東側の2区は元より、調査区外となる周囲にまで展開するものと推測される。

(2)竪穴建物

本調査区で検出された古代の竪穴建物は、第2面調査において1-A区に10棟、1-C区に2棟の計12棟の建物が検出された。

以下、各遺構ごとに記載する。(第3表 1区竪穴建物一覧を参照)

1区2号竪穴建物 (第58図、第3表、PL. 3)

平成25年度の調査で検出した。建物の大半は調査区外となり、僅かに南西隅のみを調査しただけで、不明な点が多い。

位置：1-A区の北壁北東隅の壁際に位置し、南西側3.6mに1区1号竪穴建物がある。

グリッド：2K-133

座標値：X=61,184 Y=-93,663・93,664

形状：方形か

規模：長軸(1.50)m 短軸(0.58)m 壁高39cm

長軸方向：N-90°-W 床面積：(0.23)m²

埋没土：1層の黒褐色土を主体とし、2層の暗褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦と思われる。壁高は41cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

床面下：床面下に10cm程の掘り込みをもち、底面には地山礫を除去した凹凸と僅かに露出する小礫を確認した。床面下の埋土はローム混じりの暗褐色土で、上面はやや硬い床面を構築している。

遺物：出土していない。

所見・時期：建物の一部のみの調査であり、遺物の出土もないことから、建物の時期は不明。

1区3号竪穴建物 (第58図、第3表、PL. 3)

平成25年度の調査で検出した。建物の大半は調査区外となり、僅かに南壁端を調査しただけで、不明な点が多い。

位置：1-A区の北壁東寄りの壁際に位置し、南東側5.0mに1区1号竪穴建物、南西側4.6mに1区19号竪穴建物、西側3.0mに1区4号竪穴建物がある。

グリッド：2L・2M-135・136

座標値：X=61,189~61,192 Y=-93,673~93,675

形状：正方形か長方形

規模：長軸(3.53)m 短軸(0.95)m 壁高41cm

長軸方向：N-52°-W 床面積：(1.91)m²

埋没土：1-A区の基本層序となる北壁I・II層(共に暗褐色土)下に、1層の灰黄褐色土と2層の褐色土を主体とし、3層とした灰黄褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦でやや硬化している。壁高は41cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

床面下：床面下に10cm程の掘り込みをもち、底面には、地山礫を除去した凹凸を確認した。床面下の埋土は暗褐色土とローム土混じりの鈍い黄褐色土で、上面はやや硬い床面を構築している。

遺物：出土していない。

所見・時期：建物南側の一部の調査であり、遺物の出土もないことから、建物の時期は不明。

1区5号竪穴建物 (第58図、第3表、PL. 4)

平成25年度の調査で検出した。建物の北半は調査区外となる。

位置：1-A区の北壁中央の壁際に位置し、南東側2.2mに1区4号竪穴建物、西側2.6mに1区6号竪穴建物がある。

グリッド：2N・2O-138・139

座標値：X=61,197~61,201 Y=-93,687~93,692

形状：正方形か長方形

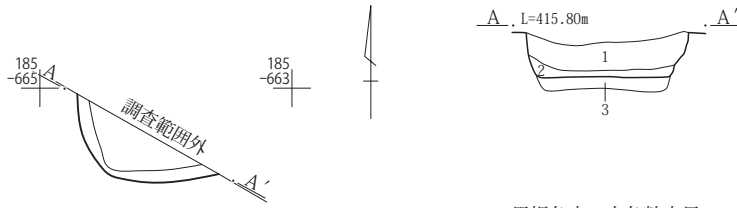
規模：長軸4.14m 短軸(1.73)m 壁高3~14cm

長軸方向：N-80°-W 床面積：(6.53)m²
 埋没土：1-A区の基本層序となる北壁I層(暗褐色土)下に、1層とした暗褐色土を主体とする。
 床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から建物中央にかけてやや硬化する。壁高は14cmほどを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。
 カマド：北西壁の中央に位置し、主軸方位はN-63°-Wを向く。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部が外側に僅かに突出する。規模は、全長0.77m、幅(0.54)mを測る。袖は壁から30cmほど突き出るように残存するが、袖先端は不明。焚き口部から燃焼部の底面にかけては建物床面よりやや低くなり、煙道部は急角度に立ち上がる。
 柱穴：P1の1基を検出したが、主柱穴とは考え難く、貯蔵穴とも考え難い。柱穴上面はほぼ円形で、径48cm、深さ45cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とする。
 床面下：掘り込みはない。
 遺物：遺物の出土は極めて少なく、埋土中から土師器の甕の細片が数点のみである。
 所見・時期：カマドの位置から古墳時代の可能性を残すが、遺物の出土が希薄であり、建物の時期は不明。

1区8号竪穴建物 (第59～62図、第3・38表、PL. 5・166)
 建物の大半を平成25年度調査で検出し、南西隅の一部を平成27年度調査で2区1号竪穴建物として調査した。そのため、記述は本項で扱う。
 位置：1-A区の南西隅付近に位置し、南峰側1.0mに1区7号竪穴建物(2区2号竪穴建物)、北西側5.8mに1区20号竪穴建物がある。
 グリッド：2G・2H-136・137
 座標値：X=61,164～61,169 Y=-93,677～93,682
 形状：横長長方形
 規模：長軸4.34m 短軸3.54m 壁高34cm
 長軸方向：N-23°-W 床面積：12.23m²
 埋没土：1・2層の暗褐色土を主体とし、僅かに3層、そして4層とした周溝埋土とに分層できる。また、埋土中に大型の自然礫を含むことから、人為的埋没と考えられる。
 床面・壁：床面は1-A区基本層序となる北壁IV層(灰

褐色土)中にあり、床はほぼ平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化する。壁高は34cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。
 カマド：東壁中央のやや南寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-69°-Eを向き、残存状態は比較的良好。燃焼部は壁の外側に大きく突出し、煙道部はさらに外側に突出する。規模は、全長1.09m、幅1.1mを測り、袖先端は壁から僅かに突き出るように袖石が残存し、袖石に架かる焚き口天井石がずれ落ちて残る。天井石は板状礫で、長さ110cm、幅45cm。焚き口部から燃焼部の底面にかけては、建物床面より低くなり、煙道部は斜めに立ち上がる。
 貯蔵穴：カマドの右側となる南東隅に位置し、規模は長軸128cm、短軸94cm、深さ28cmを測り、楕円形を呈する。埋土は灰白色粘土ブロックを含む黄褐色土と暗褐色土を主体とする。
 柱穴：柱穴はP1～4を検出した。いずれの柱穴上面はほぼ円形で、径32～50cm、深さ30～42cmを測る。埋土は黒褐色土を主体とする。
 床面下：床面下に僅かな掘り込みをもち、底面には自然礫がかなり多く露出する。床面下の埋土は、5層とした暗褐色土で、上面は硬い床面を構築している。また、建物中央付近に床下土坑を検出した。規模は長軸75cm、短軸68cm、深さ42cmを測り、楕円形を呈する。埋土はロームブロックを多量に含む茶褐色土を主体とする。
 遺物：出土した遺物量は、埋土中の出土も含めかなり多い。カマド内からは16の土師器の甕、貯蔵穴上面から3・4の須恵器の杯と12の須恵器の椀、20の土師器甕が出土している。また、7の須恵器杯、10の須恵器椀が床面直上に、5の須恵器杯と23の須恵器甕片が床面のやや上に出土している。さらに、24の砥石が建物南側の床面直上から出土している。
 出土遺物として、土器23点と石製品1点、金属製品2点の計26点を図示した。須恵器の杯には1～8があり、9～13は須恵器の椀、14は須恵器の高杯である。土師器の甕は口縁部がコ字状を呈する16～19、20は甕の胴下半、15は台付甕の脚部である。また、21～23は須恵器の甕片である。
 石製品の24は、砥沢石製の砥石で、砥面を4面にも

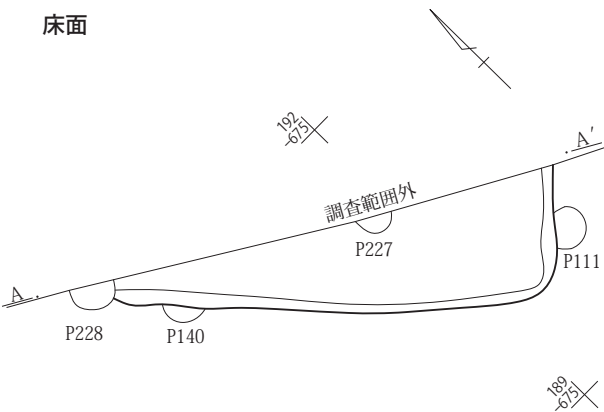
2号竖穴建物



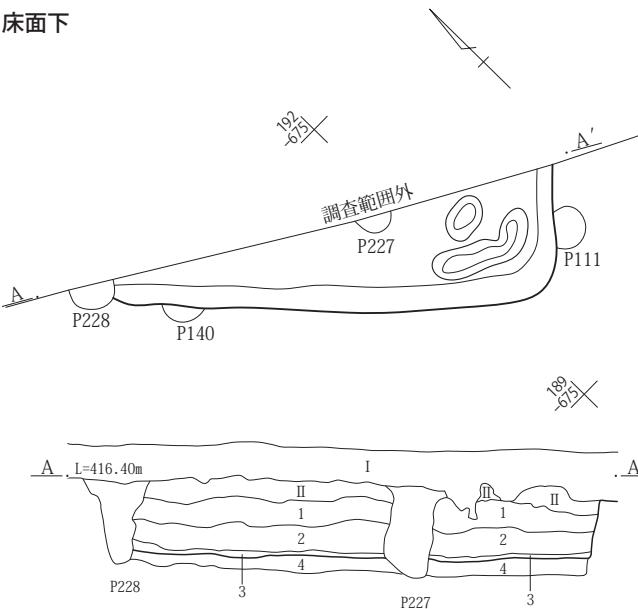
- 1 黒褐色土 白色粒中量、ローム粒・焼土粒を微量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 ローム土を中量含む。上面は床面。(床下土)

3号竖穴建物

床面

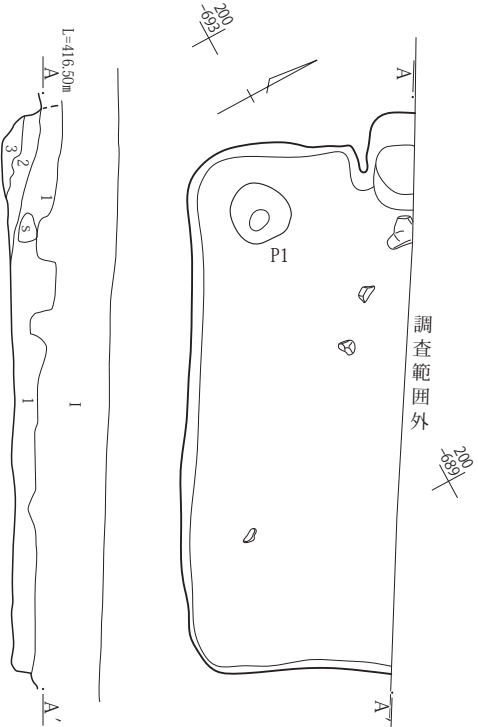


床面下

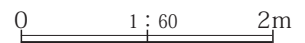


- I 暗褐色土 表土。1-A区北壁の層序と同じ。
- II 暗褐色土 黄褐色小粒を少量含む。1-A区北壁の層序と同じ。
- 1 灰黄褐色土 白色粒・ローム粒を中量含む。堅く締まる。
- 2 褐色土 白色粒・ローム粒を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 土質均一。締まり強い。
- 4 鈍い黄褐色土 暗褐色土とロームの混土。上面は硬化した床面。(床下土)

5号竖穴建物



- I 暗褐色土 表土。1-A区北壁の層序と同じ。
- 1 暗褐色土 炭化粒・焼土粒を少量、下位ほどロームブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 炭化粒を少量、焼土ブロック・ロームブロックを含む。(カマド内)
- 3 黄褐色土 焼土ブロックを多量に含む。(カマド内)



第58図 1区2・3・5号竖穴建物 床面、床面下 平・断面図

ち、長さ(7.8)cmを測る。

金属製品である25・26はいずれも鉄製の刀子。

未掲載遺物には、同時期の多くの土器片がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀第3四半期と考えられる。

1区9号竪穴建物

(第63～68図、第3・39表、PL. 5・166～169)

平成25年度の調査で検出した。1区10・11・18号竪穴建物と重複し、重複の多い一画である。遺構確認時、本建物と1区18号竪穴建物との重複が不明確であったことから、同時に調査を行った。

位置：1-A区の南壁西寄りの壁際に位置し、北側に1区13・14・17・23号竪穴建物が近接し、東側に本建物と重複する1区11・18号竪穴建物、西側に1区10号竪穴建物が重複するように接する。

グリッド：2J・2K-144・145

座標値：X=61,178～61,184 Y=-93,715～93,720

重複：本建物の東半に1区11・18号竪穴建物が重複するものの、遺構確認では1区11号竪穴建物が最も旧く、本建物と1区18号竪穴建物の新旧は不明確であった。そこで本建物と1区18号竪穴建物を同時に調査した結果、土層断面の観察とカマドの存在から本建物の方が新しい。

形状：長方形

規模：長軸m6.20 短軸4.95m 壁高57cm

長軸方向：N-8°-W 床面積：(26.56)m²

埋没土：1・2層の黒褐色土を主体とし、3層とした周溝埋土とに分層できる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化する。また、中央から南寄りにかけての床面は、白色粘土ブロックが混在する張り床を成す。壁高は57cmを測り、東壁はほぼ垂直に立ち上がる。

カマド：北壁の中央やや東寄りに位置し、主軸方位はN-6°-Wを向く。燃烧部は壁の内側にあるが、煙道部の詳細は不明。残存する規模は、全長(0.74)m、幅(1.18)mを測る。袖は壁から50～70cmほど突き出るように残存するが、袖先端は不明。焚口部から燃烧部の底面にかけては建物床面よりやや低くなり、燃烧部の

両側には壁石が配され、燃烧部内壁は被熱している。このことから、石組みカマドであった可能性を残す。なお、袖等のカマド構築材には、灰白色粘土の混在土を用いている。

貯蔵穴：カマドの右側となる北東隅に位置し、規模は長軸80cm、短軸62cm、深さ27cmを測り、楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色土を主体とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～3、他に2基を検出した。いずれの柱穴上面はほぼ円形で、径32～50cm、深さ30～42cmを測る。埋土は黒褐色土を主体とする。

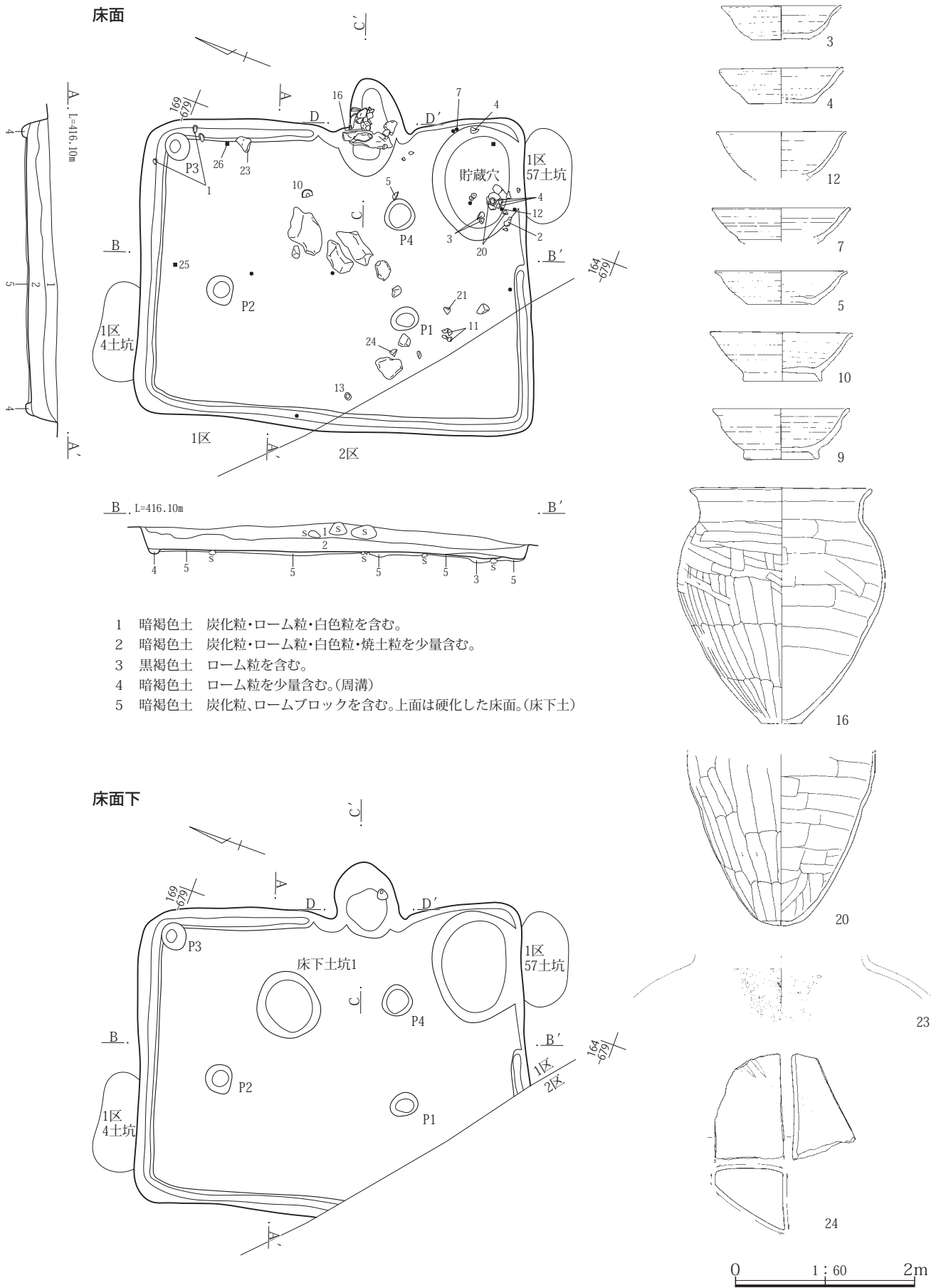
周溝：東壁および南壁際には、幅10～18cm、深さ4～9cmほどの周溝が巡り、埋土はロームブロックを含む黒褐色土を主体とする。

床面下：床面下に6～10cmほどの掘り込みをもつ。床面下の埋土は、4層とした灰白粘土ブロックとロームブロックを含む黒褐色土で、上面は硬い床面を構築している。特に、南半の床面は、灰白粘土ブロックが多い張り床となる。

遺物：出土した遺物量は、埋土中の出土も含めかなり多い。カマド内からは27の土師器の甕、カマド内およびその周辺から25・33の土師器の甕、そして右袖右脇から5の土師器の杯が床面直上に出土している。また、30の土師器の甕が逆位で床面直上に出土している。1・3の土師器杯が床面のやや上に、15・16の須恵器の杯も床面のやや上から出土している。さらに、7の土師器杯や18の須恵器の盤、24の土師器の甕等が、建物内で遠く接合している。なお、P2脇の床面直上から45の白玉が出土している。

出土遺物として、土器44点と石製品1点、金属製品1点の計46点を図示した。土師器の杯には1～13があり、12の内面にはヘラ磨きを施す。須恵器の杯蓋に14、須恵器の杯に15～17がある。18は脚部を欠いた後も使用した須恵器の盤。19は短頸壺の蓋。20は須恵器の立瓶の頸部。さらに、21～23は須恵器の壺で、21の外肩部にカキ目をもつ。土師器の甕には24～36があり、35の底部には木葉痕が付く。39～44は須恵器の甕で、胴部外面に叩き痕、内面に当て具痕をもつ。他に、土師器であるが器種不明な38がある。なお、37の土師器甕は時期の異なる混入土器である。

石製品の45は、滑石製の灰白色の白玉で、径0.8～



第59図 1区8号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図

0.9cm、厚さ0.4cm、孔径3mmを測り、わずかに擦痕が認められる。

金属製品である46は鉄製の刀子。

未掲載遺物には、同時期の多くの土器片がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀末から8世紀初頭と考えられる。

1区10号竪穴建物（第69図、第3・40表、PL. 5・169）

平成25年度の調査で検出した。建物の大半は調査区外となり、北東隅とカマド煙道の一部を僅かに調査しただけで、不明な点が多い。

位置：1-A区の南壁西寄りの壁際に位置し、北側に1区13・14・17・23号竪穴建物が近接し、東側に1区9号竪穴建物が重複するように接する。

グリッド：2K・2L-145

座標値：X=61,183~61,186 Y=-93,720~93,722

重複：本建物の東壁を沿うように、1区9号竪穴建物の西壁が接する。土層断面の観察から、明瞭ではないが本建物の方が新しい。

形状：不明

規模：長軸(1.85)m 短軸(1.20)m 壁高53cm

長軸方向：N-58°-W 床面積：(0.14)m²

埋没土：1-A区の基本層序となる北壁I層(暗褐色土)相当下に、1層とした暗褐色土を主体とし、貯蔵穴埋土の2層に分層した。

床面・壁：床面はローム土中にあると思われるが、詳細は不明。壁高は53cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：煙道の先端部のみ調査である。長く伸びる煙道方位はN-20°-Eを向き、長さ(1.1)mを測る。このことから、カマドは北壁に位置し、煙道部が壁の外側に長く突出する。他の詳細は不明。

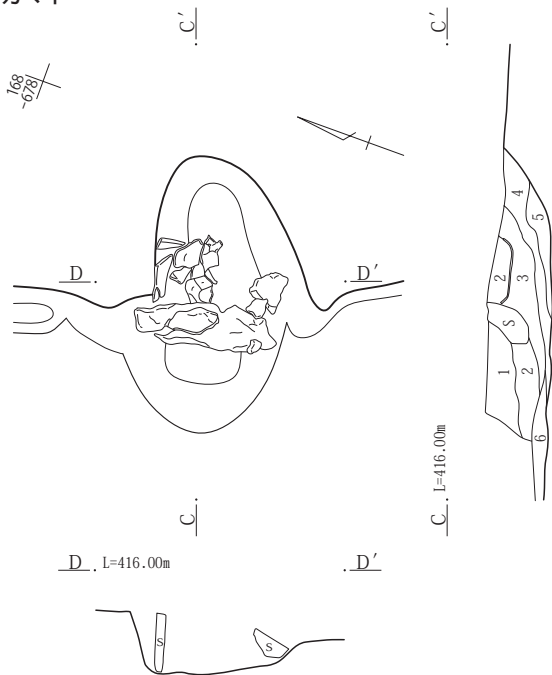
貯蔵穴：カマドの右側となる北東隅に位置する。規模は不明であるが、2層とした暗褐色土が埋土となる。

遺物：埋土中からの出土である。

出土遺物として、土器5点を図示した。1~3は土師器の杯で、3の底面には焼成後の小孔(径8mm)を穿つ転用品か。4・5は須恵器の杯蓋である。

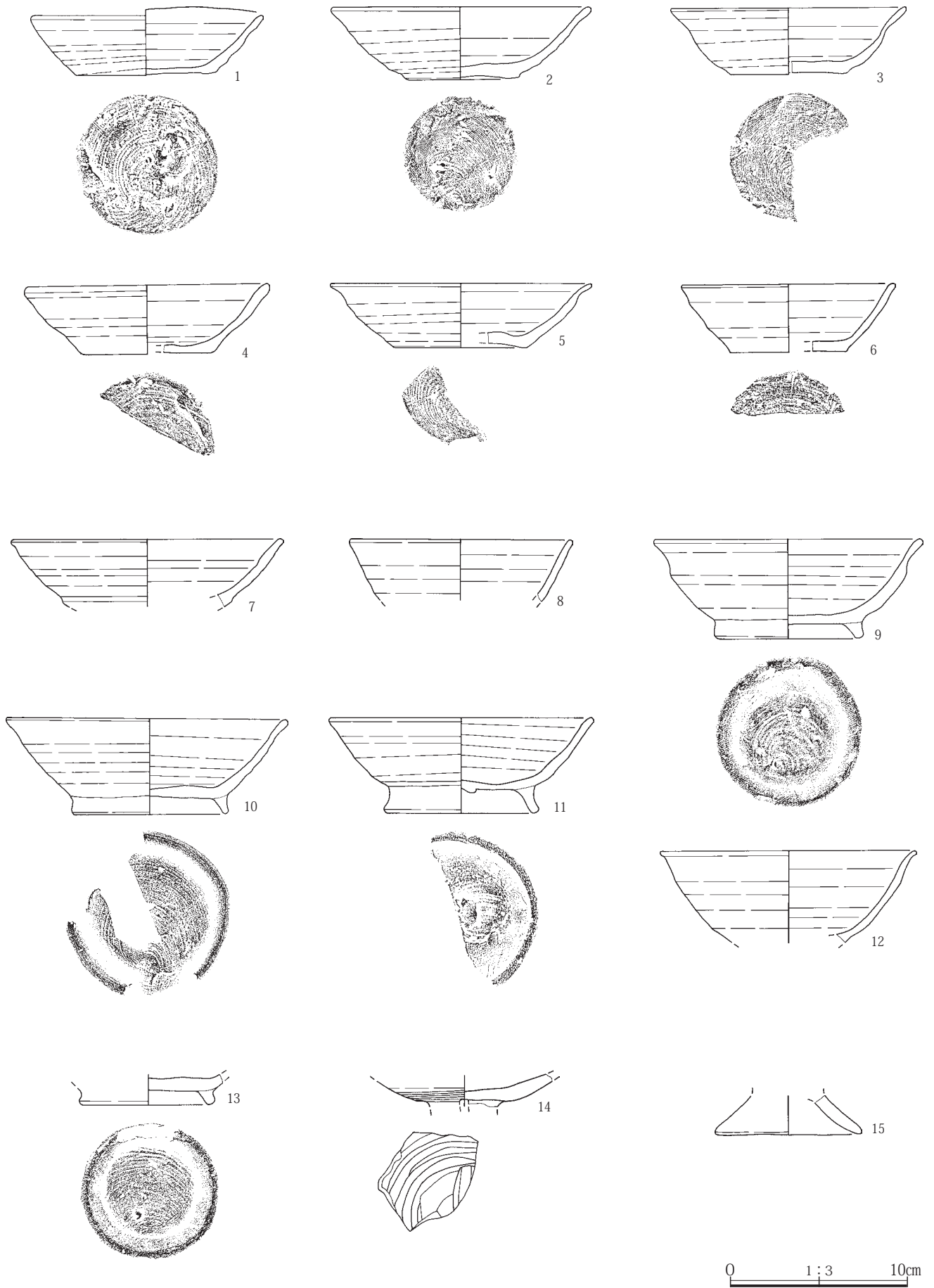
未掲載遺物には、同時期の土師器細片が僅かにある。
所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀末から8世紀初頭と考えられる。

カマド

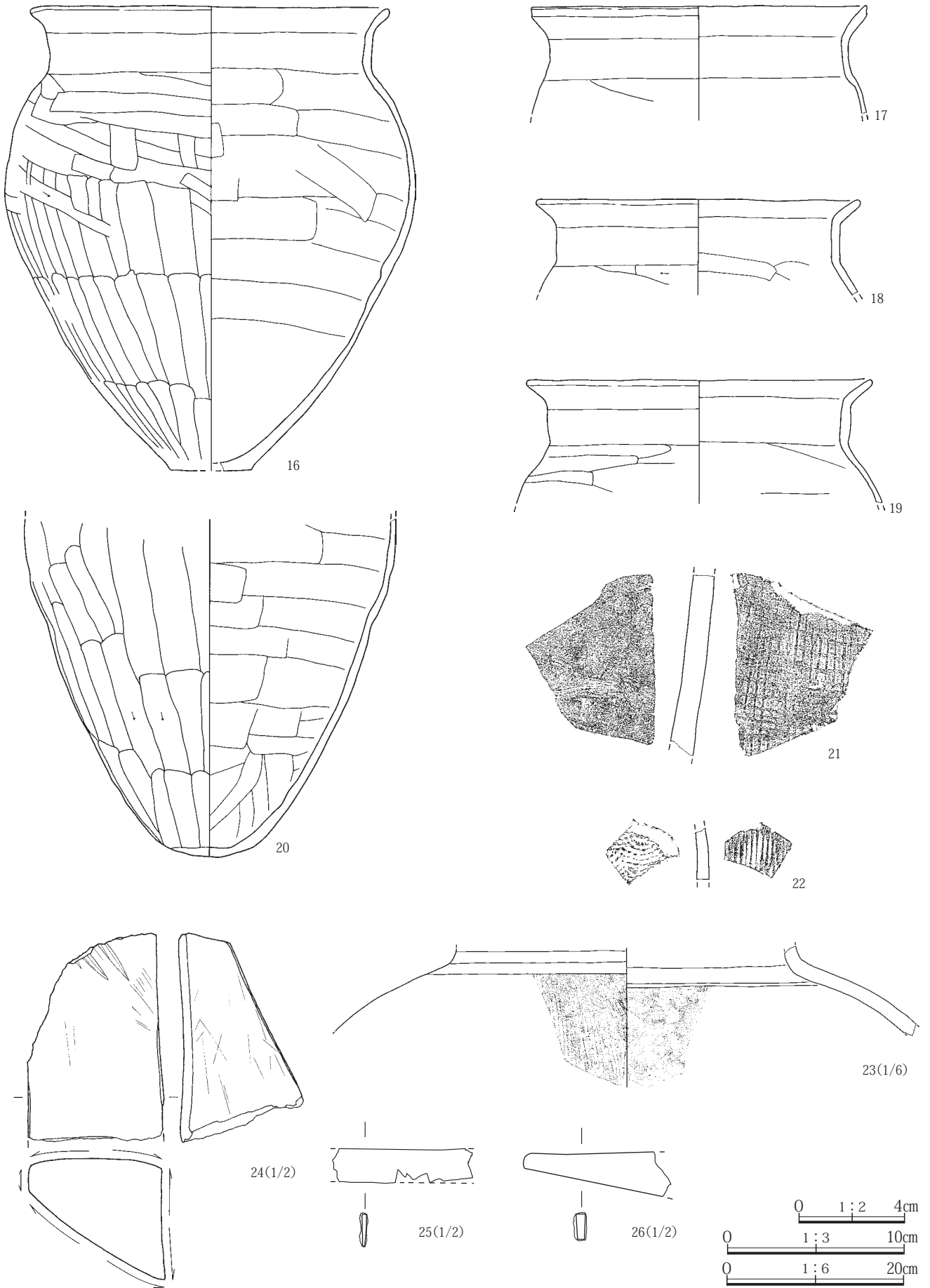


- 1 暗褐色土 白色軽石を多量含む。建物1層に相当。
- 2 暗褐色土 焼土粒を多く、白色軽石を少量含む。建物2層に相当。
- 3 黒褐色土 灰黄褐色土、焼土粒を含む。
- 4 灰赤褐色土 灰色粘質土、焼土ブロックを含む。
- 5 赤褐色土 焼土ブロックを主体とする。
- 6 黒褐色土 炭化粒、ロームブロックを混在する床下土。

第60図 1区8号竪穴建物 カマド 平・断面図

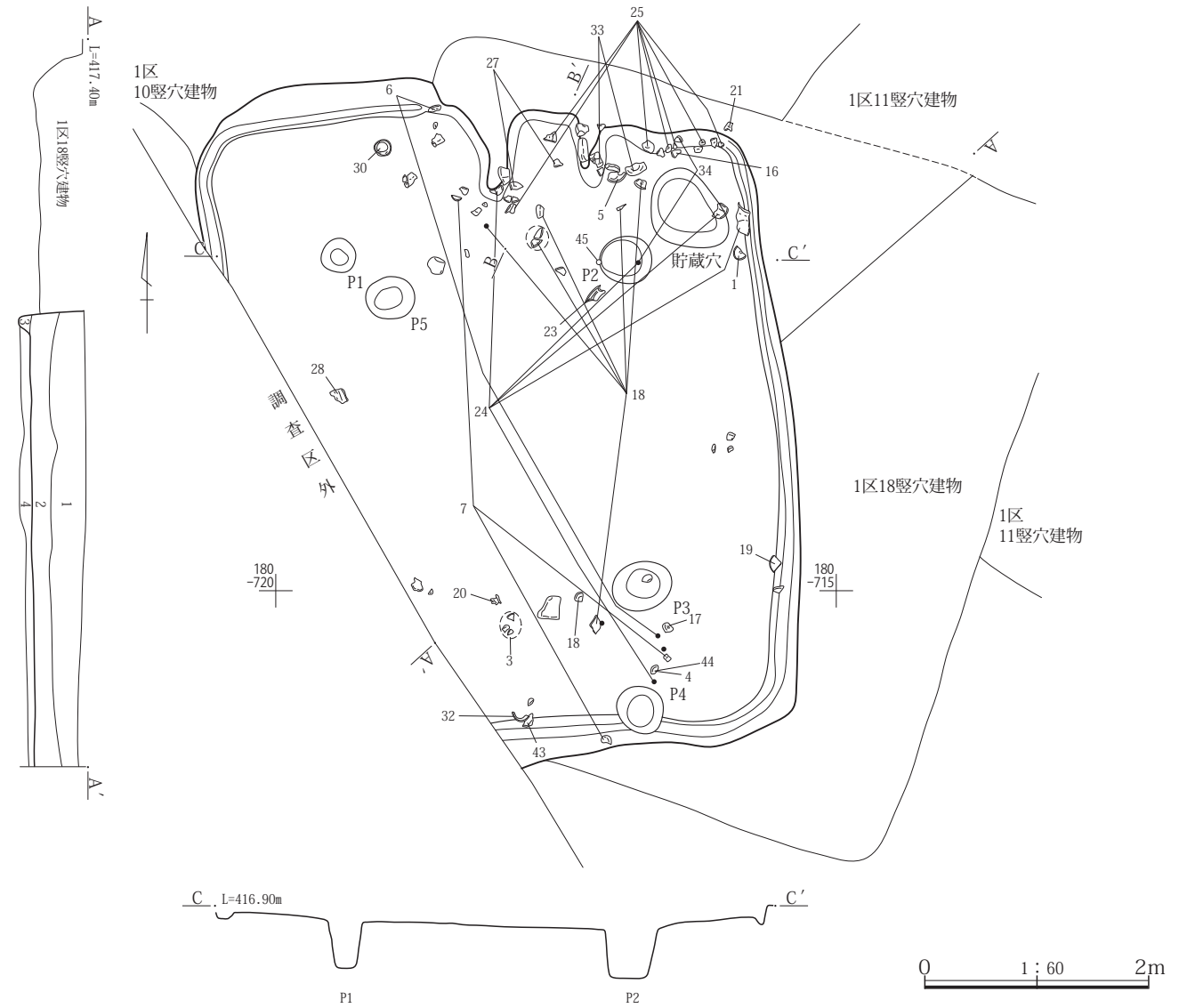


第61図 1区8号竪穴建物 出土遺物(1)

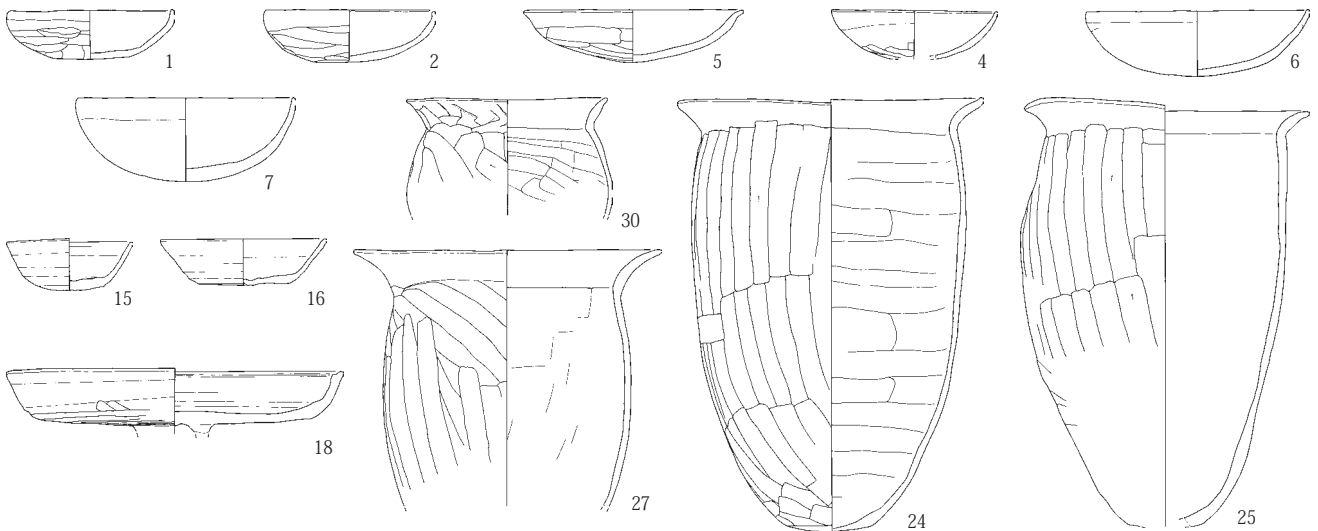


第62図 1区8号竖穴建物 出土遺物(2)

床面

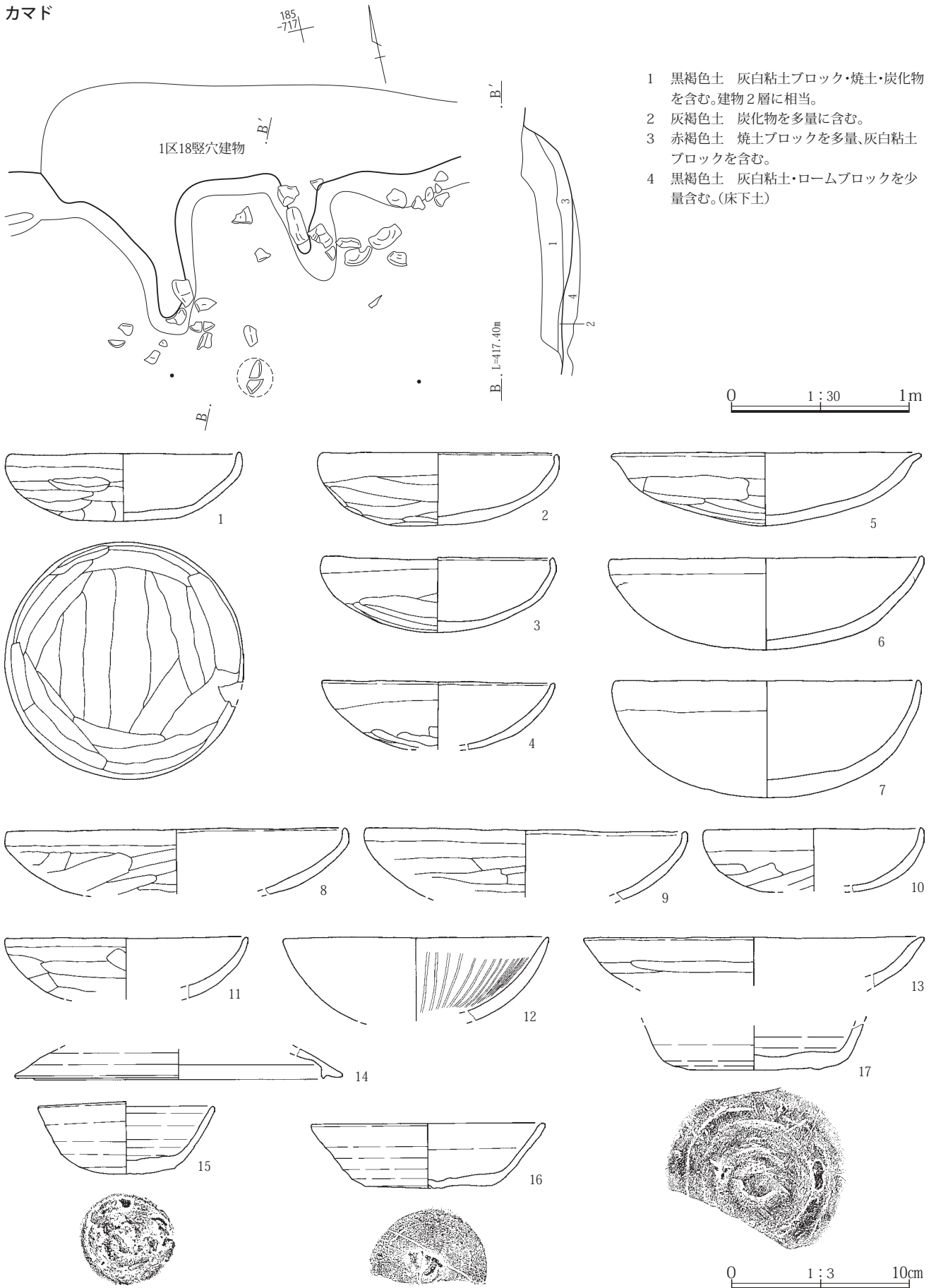


- 1 黒褐色土 白色粒・炭化粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 炭化物・ローム粒、灰白粘土ブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを含む。(周溝)
- 4 黒褐色土 灰白粘土・ロームブロックを少量含む。上面は硬化した床面。(床下土)

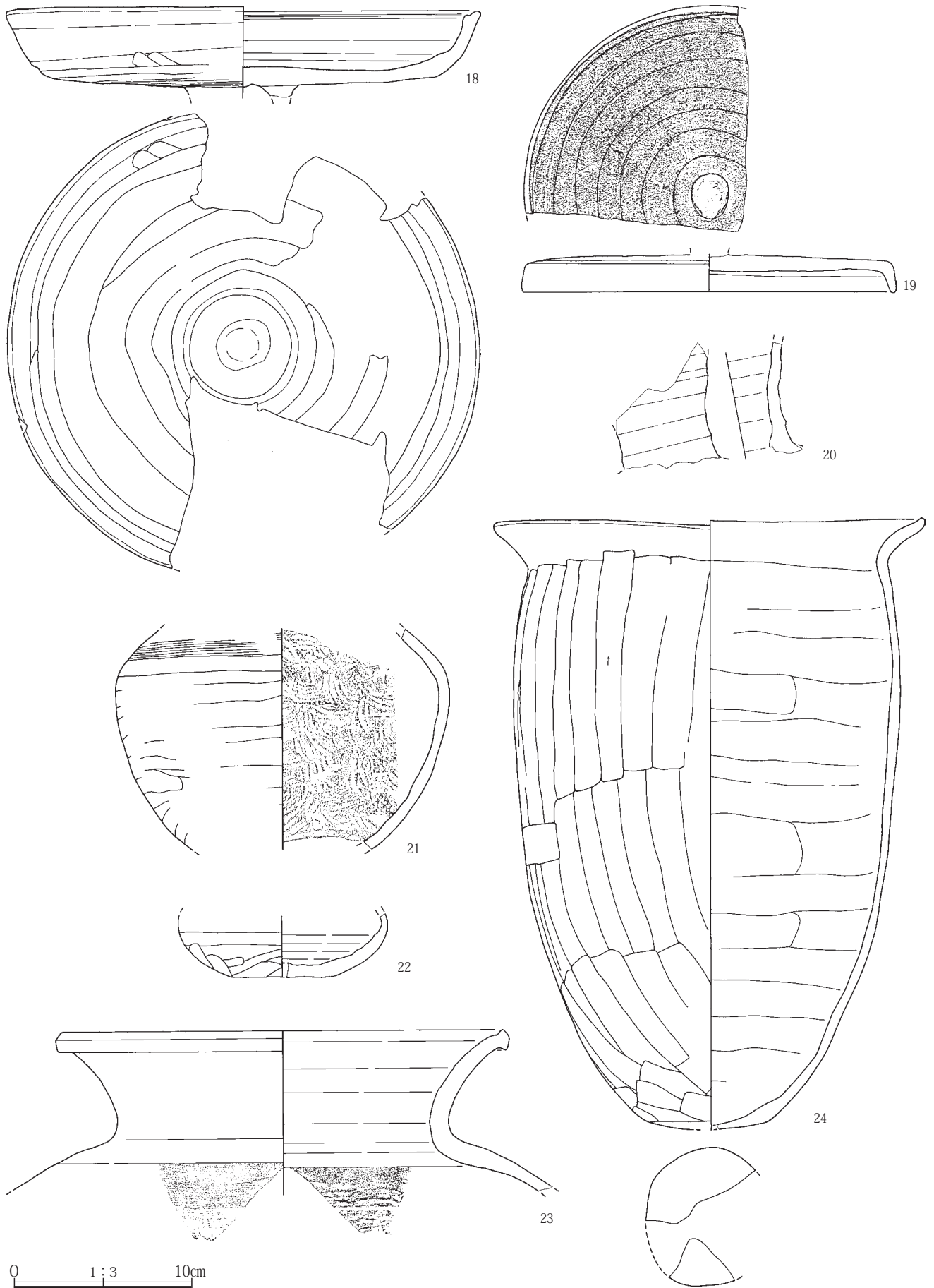


第63図 1区9号竖穴建物 床面 平・断面図

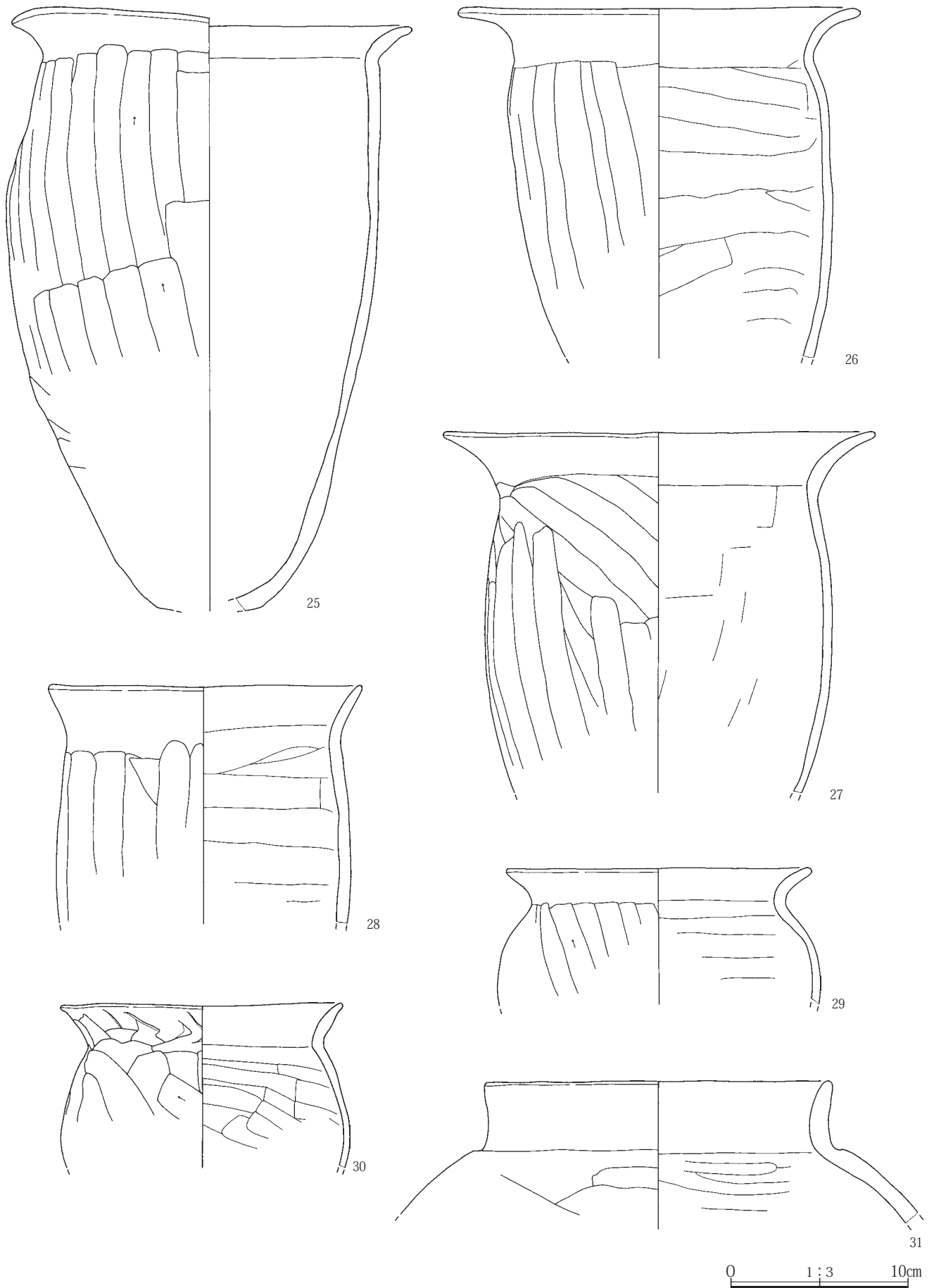
カマド



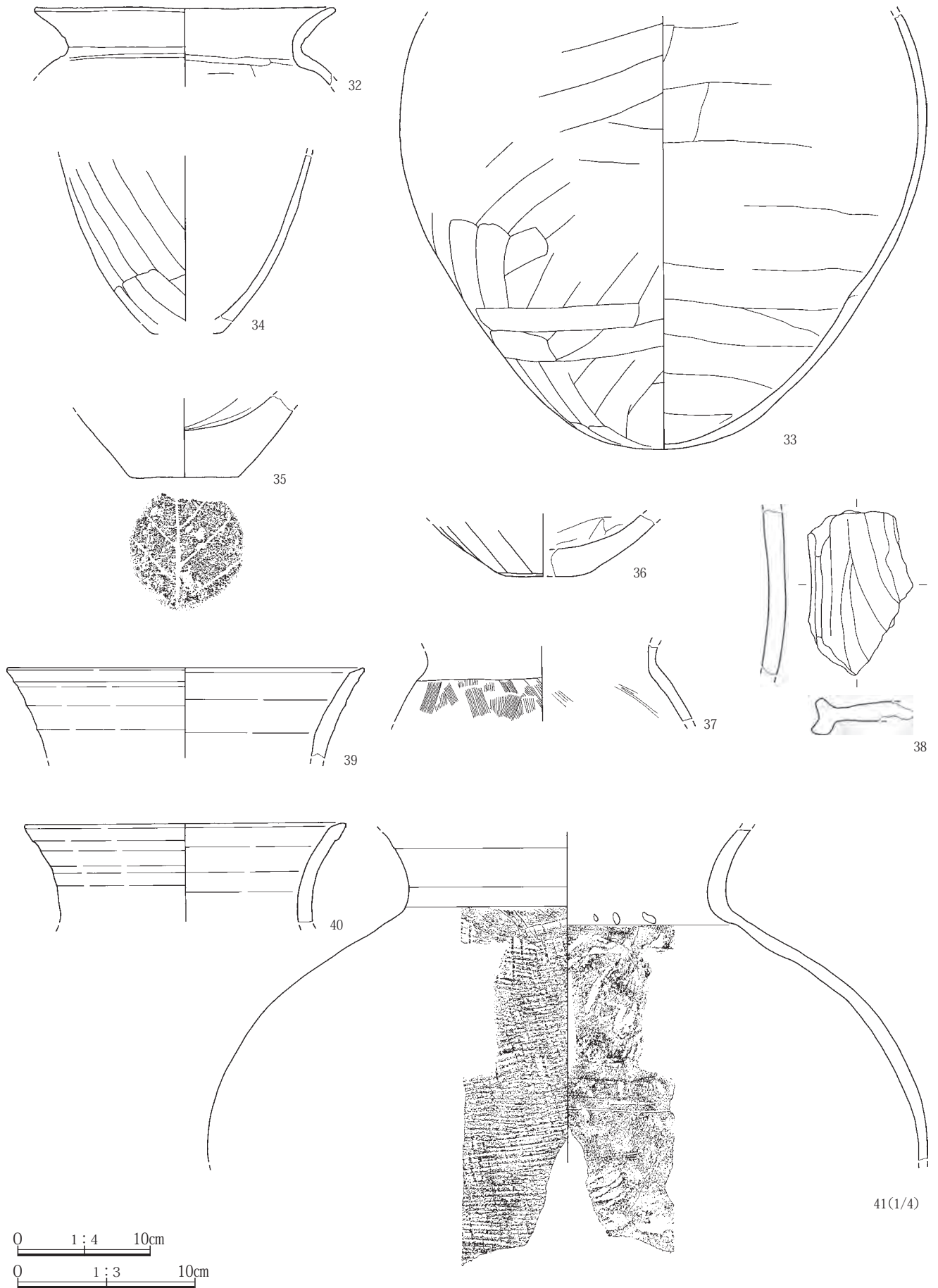
第64図 1区9号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物(1)



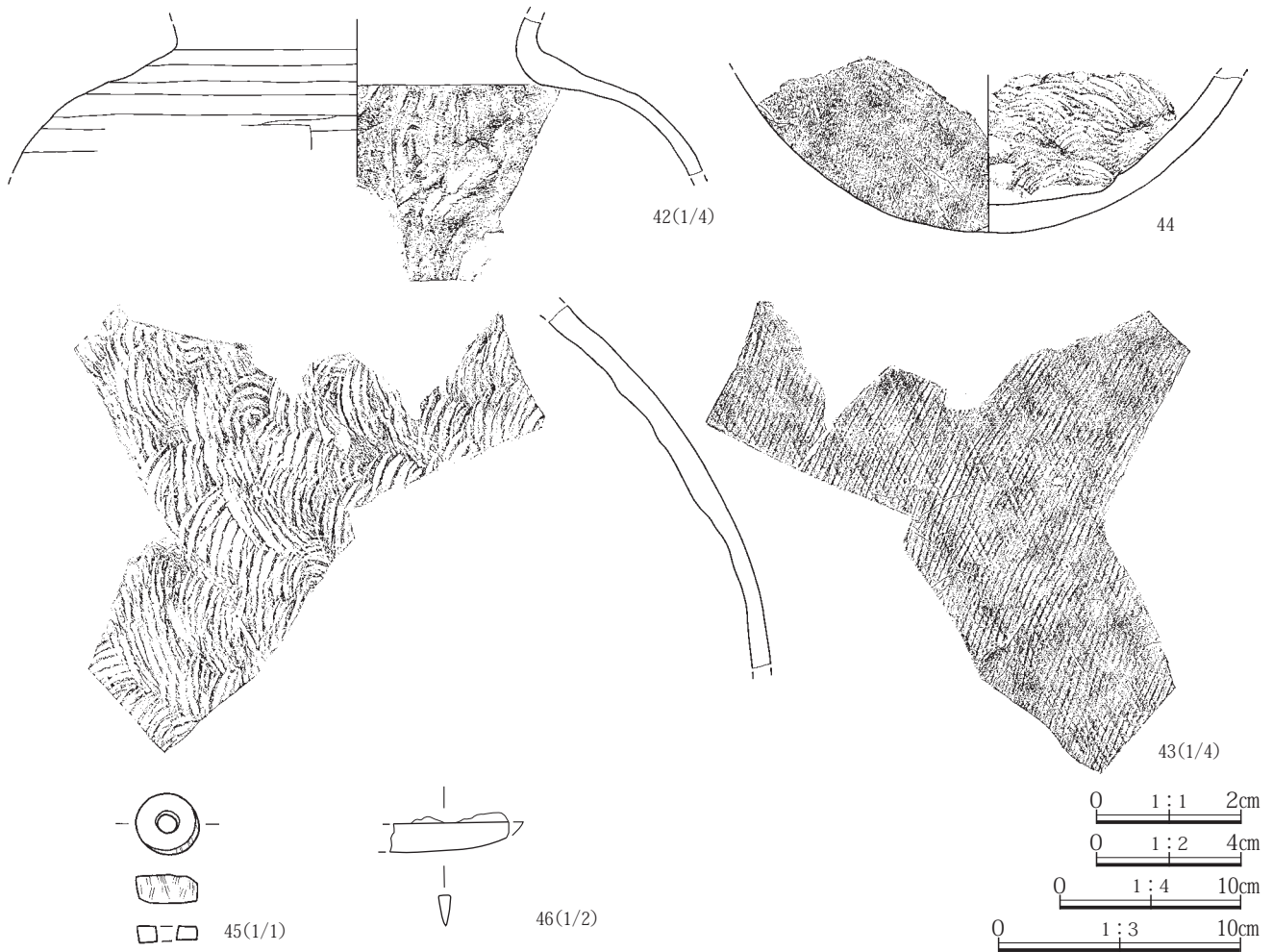
第65図 1区9号竪穴建物 出土遺物(2)



第66図 1区9号竪穴建物 出土遺物(3)



第67図 1区9号竪穴建物 出土遺物(4)



第68図 1区9号竪穴建物 出土遺物(5)

1区13号竪穴建物

(第70・71図、第3・43表、PL. 6・169)

平成25年度の調査で検出した。重複の密な一画で、1区14・17・23号竪穴建物と重複する。

位置：1-A区の中央西寄りに位置し、北側に1区15・16号竪穴建物が極めて近接し、南側を1区14号竪穴建物が重複、西側を1区17・23号竪穴建物が重複する。

グリッド：2L・2M-143・144

座標値：X=61,186~61,191 Y=-93,713~93,718

重複：南東側に重複する1区14号竪穴建物との新旧は、本建物のカマドの存在と遺構確認から、本建物の方が新しい。また、西側に重複する1区17・23号竪穴建物との新旧は、土層断面の確認および遺構確認から、古い順に1区17号竪穴建物→1区23号竪穴建物→1区13号竪穴建物となり、本建物が最も新しい。

形状：不整形

規模：長軸(4.09)m 短軸(3.86)m 壁高8~28cm

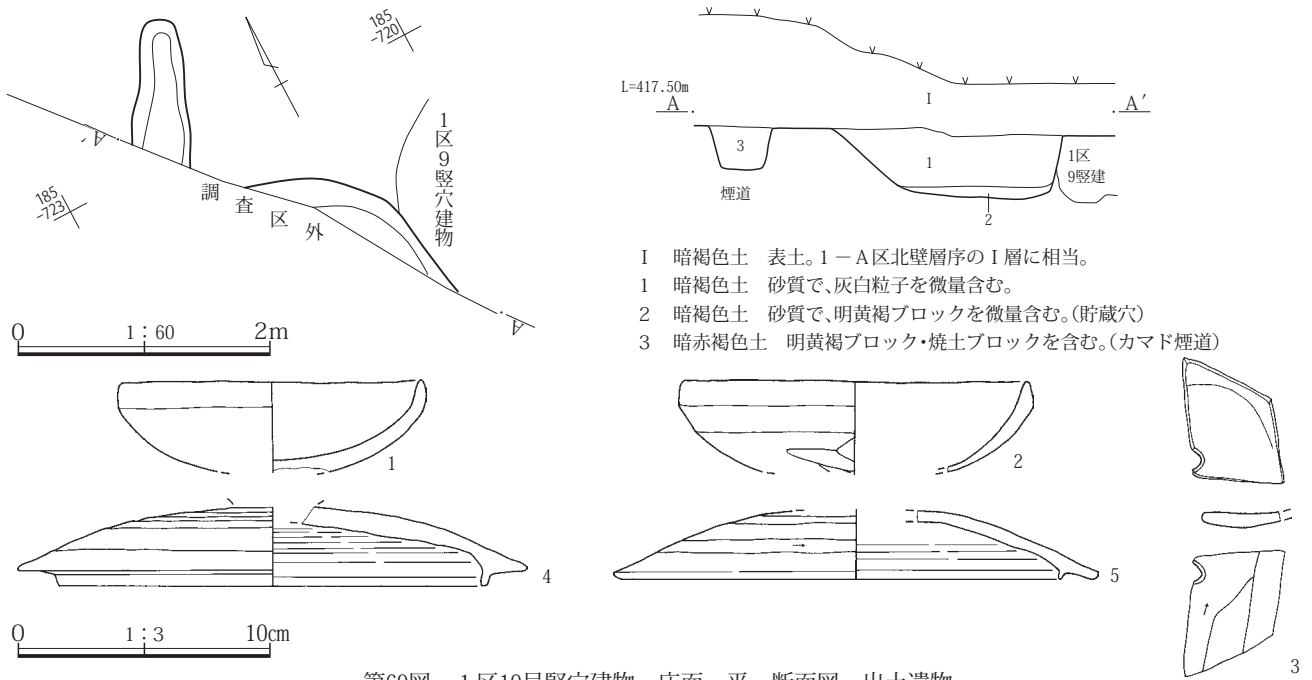
長軸方向：N-61°-W 床面積：13.85㎡

埋没土：1層の暗褐色土を主体とする。

床面・壁：床面は1-A区基本層序となる北壁IV層(灰褐色土)中にあり、床は概ね平坦で、カマド前から建物中央にかけて硬化する。壁高は8~28cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：東壁中央の南寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-112°-Eを向き、残存状態はかなり悪い。燃焼部は壁の外側に突出し、煙道部はさらに外側に突出する。残存する規模は、全長1.2m、幅0.88mを測り、袖は残存していない。焚口部から燃焼部の底面にかけて、建物床面より僅かに低くなり、煙道部は斜めに立ち上がる。

床面下：床面下に10cm前後の掘り込みをもち、カマド周辺に凹凸が著しい。2層としたロームブロックを含む灰黄褐色土が埋土となり、上面の床面を構築している。



第69図 1区10号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

遺物：出土遺物はあまり多くない。カマドも含め、埋土中からの出土が多い。6～8の土師器甕が、床面のやや上から出土している。また、棒状礫が床面直上から1点出土している。

出土遺物として、土器11点を図示した。須恵器の杯には1～3があり、4は須恵器の鉢である。5は土師器の小型甕。6・7は土師器の甕で、口縁部がコ字状を呈する。8・9も土師器甕の胴部と底部である。10は内面に突帯貼付をもつ不明な土師器片。11は須恵器の甕片である。

未掲載遺物には、同時期の土器片と、長さ12.6cmの棒状礫(滑石1点)がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀第3四半期と考えられる。

1区28号竪穴建物

(第72～74図、第3・57表、PL.12・174・175)

平成28年度の調査で検出した。1区32号竪穴建物と重複する可能性が高い。なお、電柱の安全対策により、北西側の一部を調査することができなかった。

位置：1-C区の西端付近に位置し、北側を1区32号竪穴建物と重複すると考えられるが不明。東側を30号竪穴建物が近接し、北西側9.0mに1区27号竪穴建物が

ある。

グリッド：2 O・2 P-154～156

座標値：X=61,202～61,209 Y=-93,766～93,775

形状：方形

規模：長軸6.97m 短軸6.64m 壁高24～41cm

長軸方向：N-65°-E 床面積：推定38.55㎡

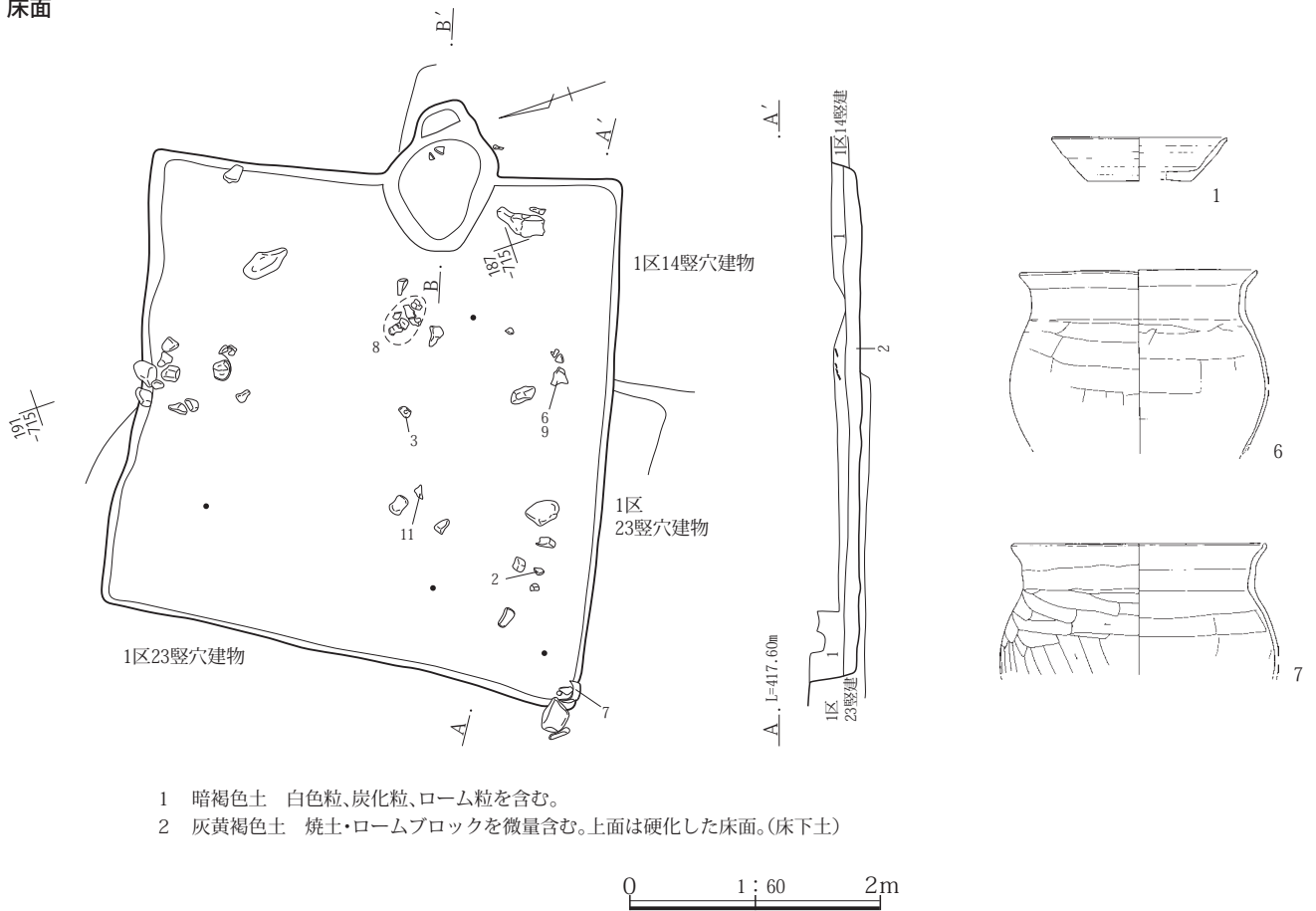
埋没土：1層の暗褐色土は耕作土であり、2～4層はそれぞれ1-C区基本土層のIV～VI層である。その下位の5層以下が埋没土となり、5・7層の黒褐色土を主体に、壁際には6・8層の暗褐色土と黒褐色土が三角堆積状にある。埋土中に大中の礫を多く含むことから、人為的埋没と考えられる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦。また、建物中央床面付近には、炭および細かな炭化物が広がっている。壁高は24～41cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：建物の北西壁以外の壁面にカマドは確認されていないことから、北西壁に位置するものと考えられるが詳細は不明。

柱穴：主柱穴と考えられるP 1～4を検出し、東隅にP 5を検出した。主柱穴は概ね楕円形で、P 3・4では長軸78～126cm、短軸62～100cm、深さ50～65cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とする。また、P 5は円形で径

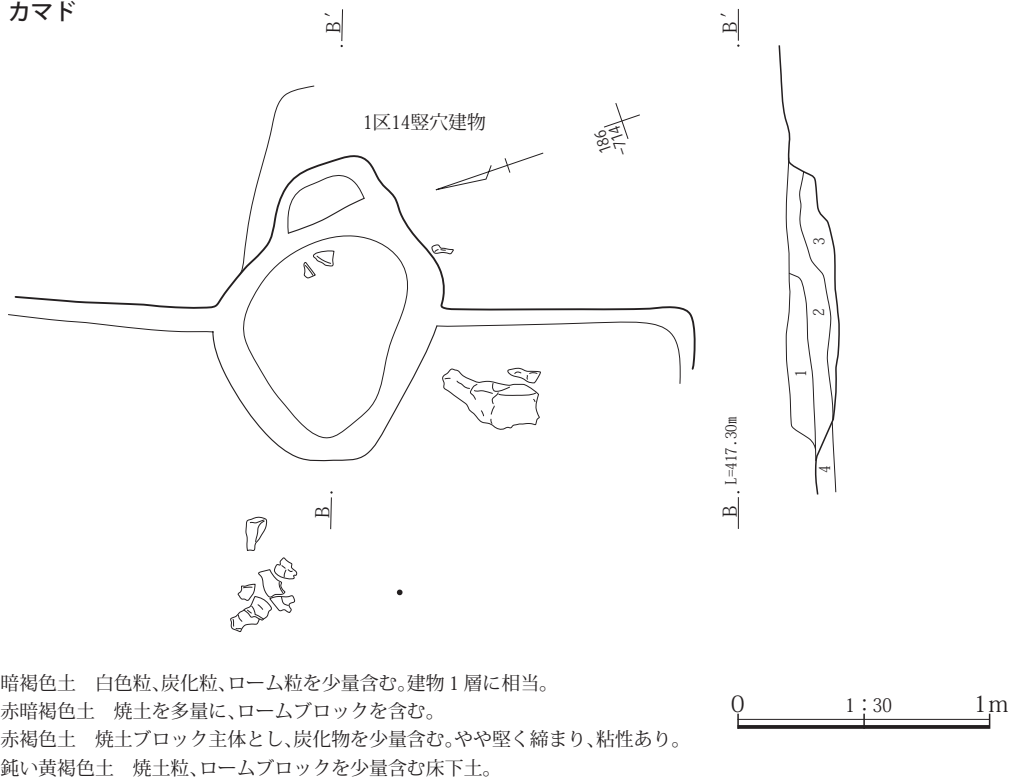
床面



- 1 暗褐色土 白色粒、炭化粒、ローム粒を含む。
- 2 灰黄褐色土 焼土・ロームブロックを微量含む。上面は硬化した床面。(床下土)

0 1:60 2m

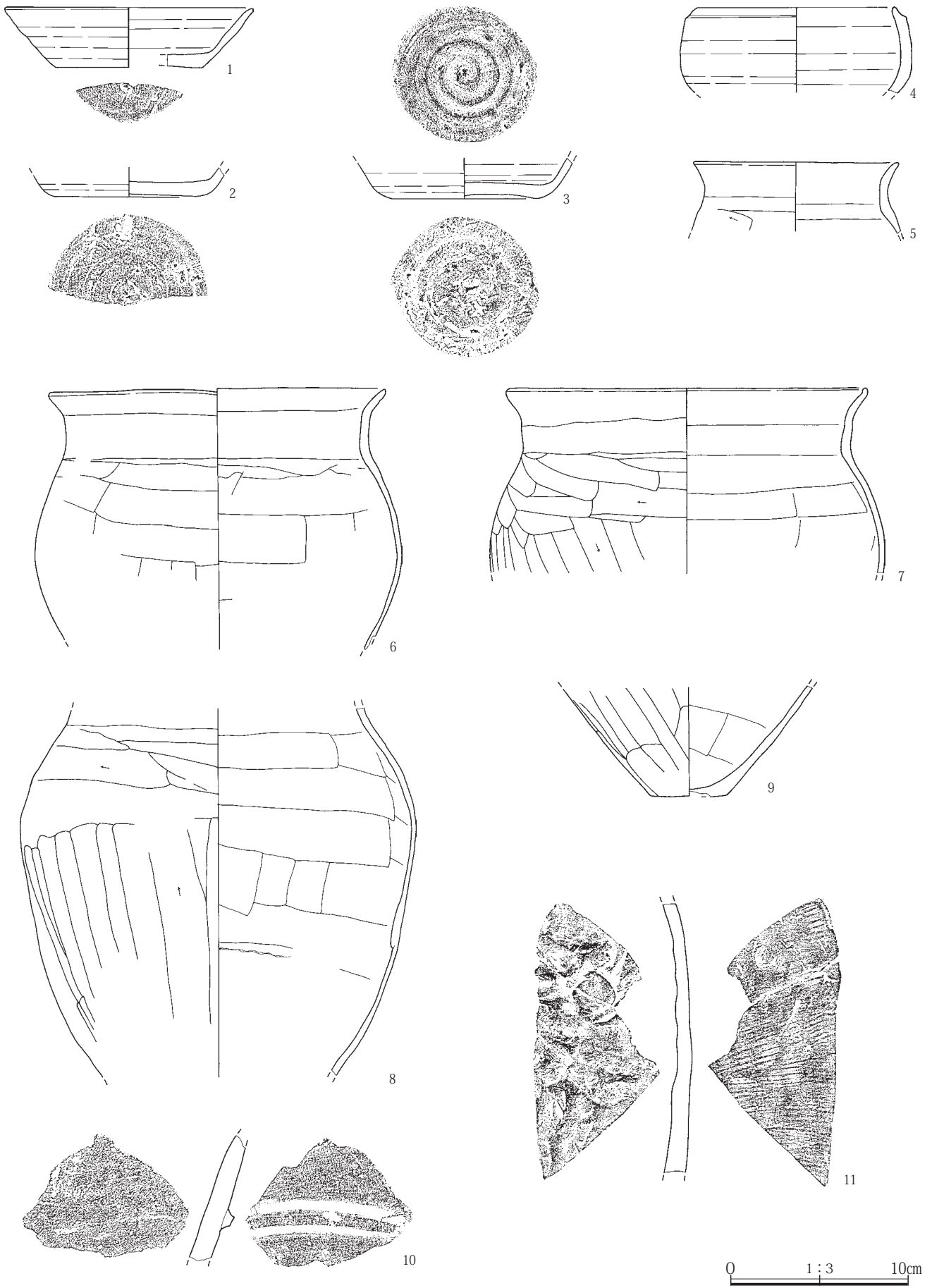
カマド



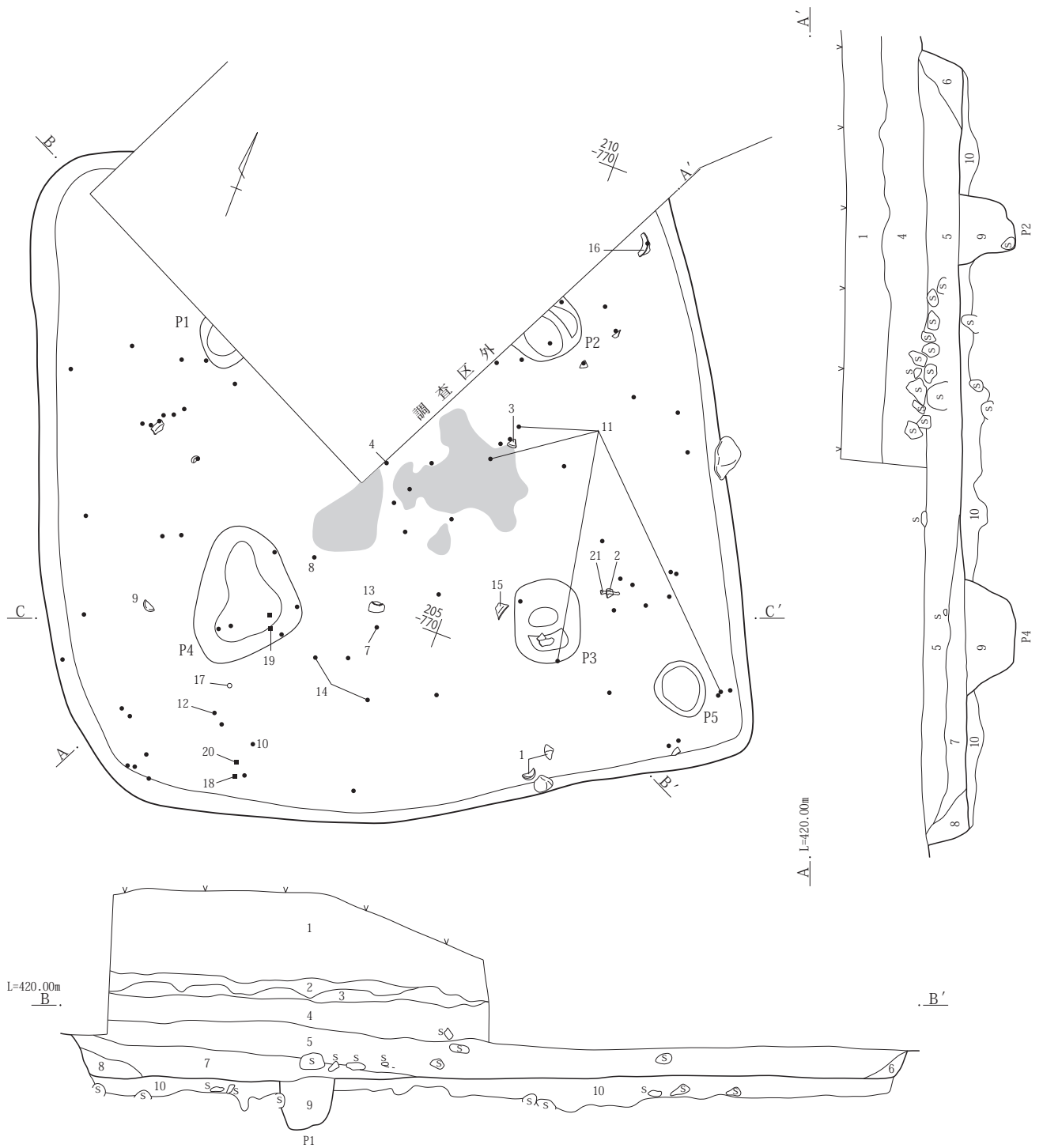
- 1 暗褐色土 白色粒、炭化粒、ローム粒を少量含む。建物1層に相当。
- 2 赤暗褐色土 焼土を多量に、ロームブロックを含む。
- 3 赤褐色土 焼土ブロック主体とし、炭化物を少量含む。やや堅く締まり、粘性あり。
- 4 鈍い黄褐色土 焼土粒、ロームブロックを少量含む床下土。

0 1:30 1m

第70図 1区13号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第71図 1区13号竪穴建物 出土遺物



- 1 暗褐色土 As-Kk軽石小を少量含み、酸化鉄分もみられる。
- 2 鈍い黄橙色軽石層 As-Kkの1次堆積層。(基本土層: 1-C区北壁IV層)
- 3 黄灰色土 As-Bの火山灰と火山砂が混在する。(基本土層: 1-C区北壁V層)
- 4 黒褐色土 粘性がある。(基本層序: 1-C区北壁VI層)
- 5 黒褐色土 白色鉱物粒、赤褐色粒、炭化粒、ロームブロックが少量混入し、中央付近に大礫を含む。
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒、黄白色土粒を少量、ローム粒が混入する。締まりあり。
- 7 黒褐色土 5層に似るが礫を含まず、ロームブロックを多く含む。
- 8 黒褐色土 僅かに白色鉱物粒、ローム粒を含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロックが少量、中礫が混入する。やや粘質土。
- 10 黒褐色土 焼土粒、炭化物、ローム・白色粘土ブロックを混入し、小礫と大礫を含む。

0 1:60 2m

第72図 1区28号竪穴建物 床面 平・断面図

第4章 検出された遺構と遺物

50cm前後、深さ20cmを測る。

床面下：掘り込みは15~20cm前後とやや深く、底面には礫層の礫が露出し、礫の抜き取り痕と思われる凹凸も見られる。建物10層とした黒褐色土が埋土となり、上面が床面となる。また、P1の脇にはP7、P3の脇にはP6、P4とP6の延長上の両壁際にP8・9が検出された。このP6・7やP4の不整楕円形等のあり方から、建物の建て替えの可能性をもつ。さらに、南東壁中央付近には床下土坑が検出されており、やや楕円形で長軸96cm、短軸88cm、深さ57cmを測る。

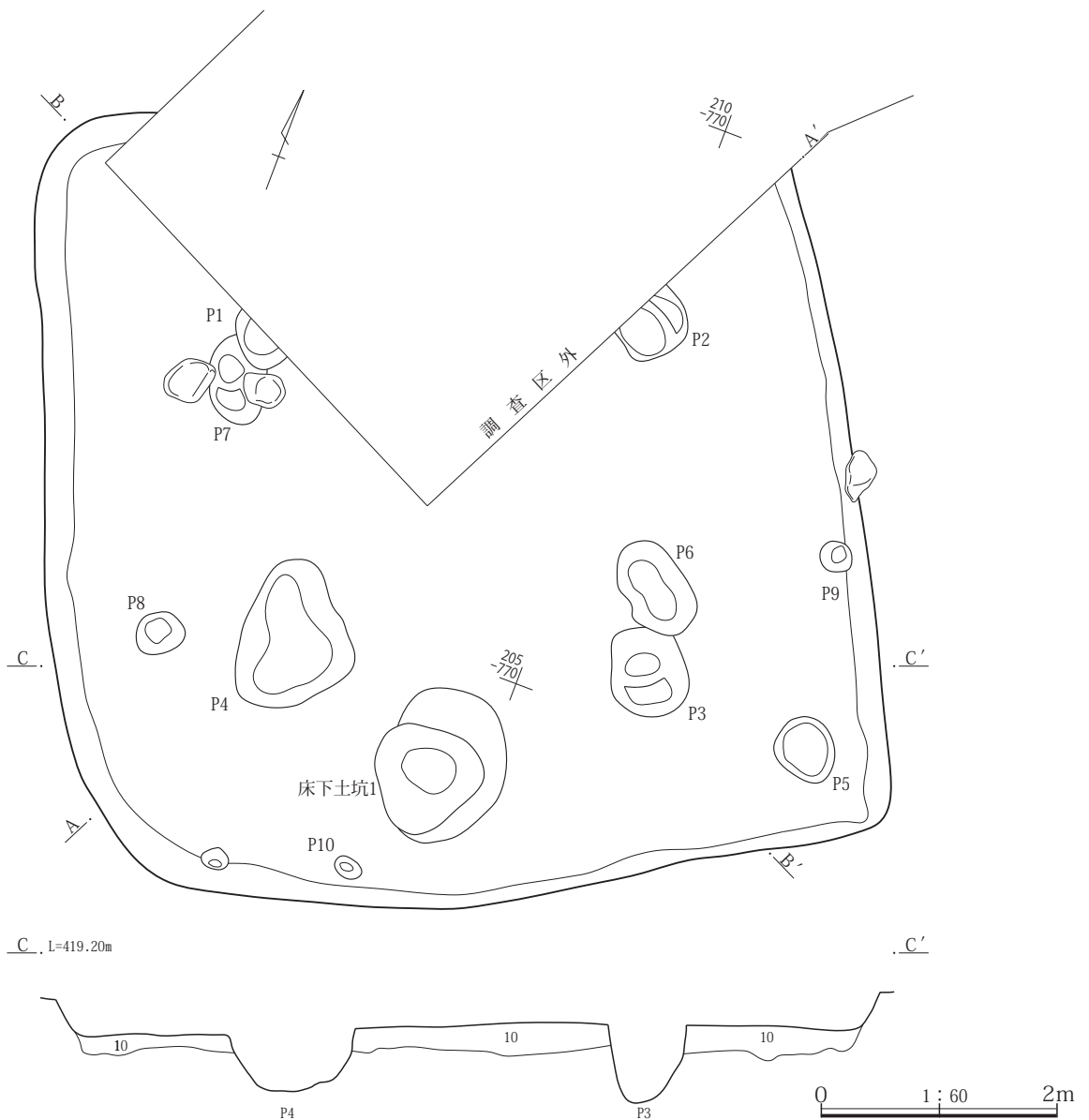
遺物：出土遺物は比較的に多く、土器類の他に石製品や金属製品もある。しかし、床面直上からの遺物は少ない。北東壁の北端の壁際に16の甕口縁部が出土し、南

東壁の中央やや東寄りの壁際からは1の杯が分割して出土している。

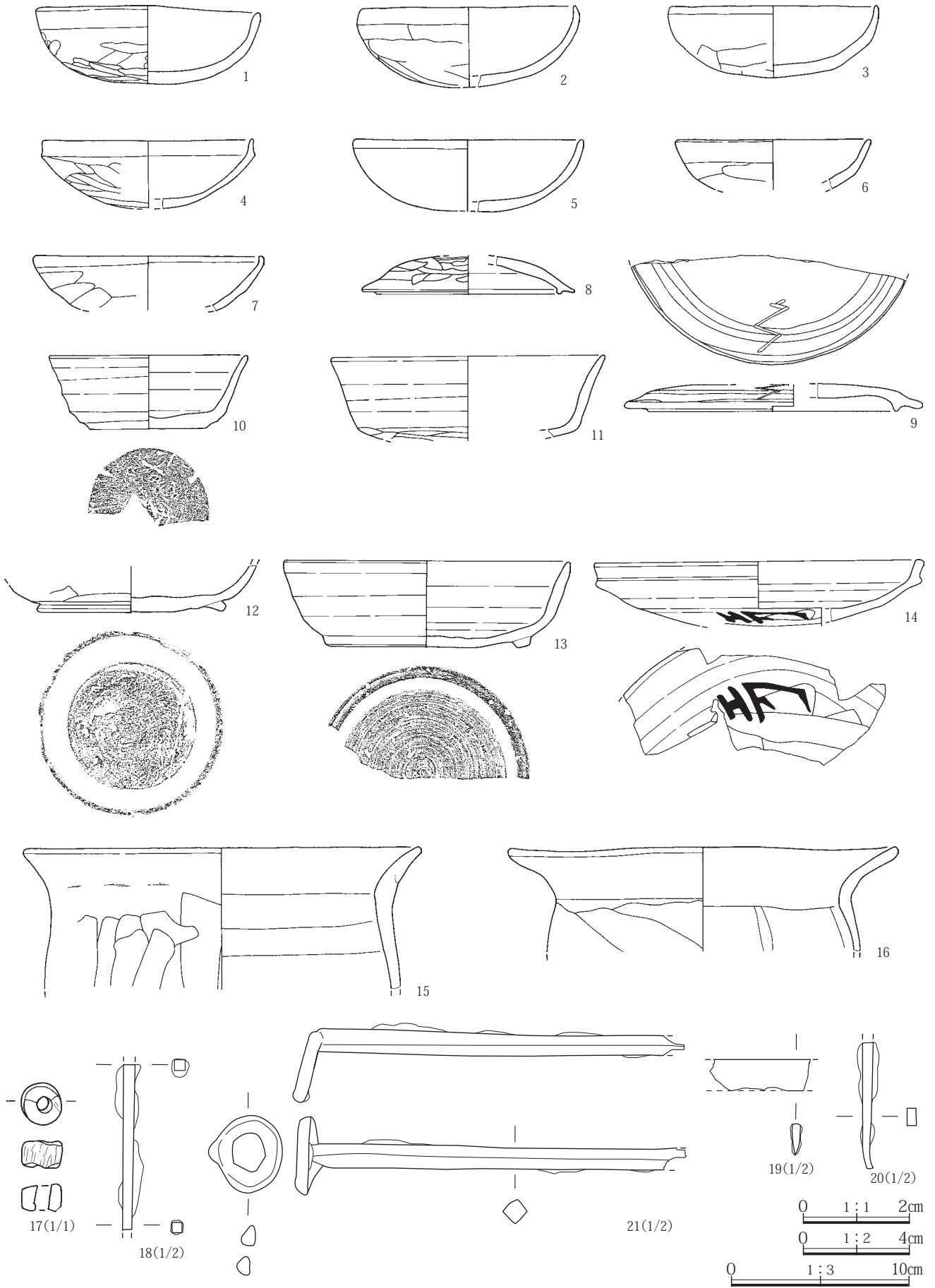
出土遺物として、土器16点と石製品1点、金属製品4点の計21点を図示した。土師器の杯には1~7がある。8・9は須恵器の杯蓋で、9の天井部外面には線刻をもつ。須恵器の杯には10~12があり、13は須恵器の高台付杯である。14は須恵器の盤であるが、底部の外面には「寺」の墨書がある。そして、土師器の甕には15・16がある。

石製品の17は滑石製の白玉で、灰色で径0.8cm、厚さ0.5cm、孔径3mmを測り、平坦な表面に擦痕がわずかに認められる。

金属製品である18~21は、いずれも鉄製。18は鉄鏃、



第73図 1区28号竪穴建物 床面下 平・断面図



第74図 1区28号竪穴建物 出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

19は刀子、20は釘。21は馬具(引手金具)で端部が屈曲して環状となる。

未掲載遺物には、同時期の土器片が多くある。

所見・時期：床面下に検出された柱穴のあり方から、建物の建て替えの可能性をもつ。建物の時期は、出土土器から7世紀末から8世紀初頭と考えられる。

1区32号竪穴建物 (第75図、第3表、PL.13)

平成28年度の調査で検出した。建物の北側の大半は調査区外となり、僅かに南西隅の一部を調査しただけで、不明な点が多い。1区28号竪穴建物と重複する可能性が高い。

位置：1-C区の北壁西寄りの壁際に位置し、南側を1区28号竪穴建物と重複する可能性が高く、西側9.0mに1区27号竪穴建物がある。

グリッド：2Q-155

座標値：X=61,210~61,212 Y=-93,772~93,774

形状：方形か

規模：長軸(1.84)m 短軸(1.06)m 壁高32cm

長軸方向：N-47°-E 床面積：(1.08)m²

埋没土：I~VI層はそれぞれ1-C区基本土層である。

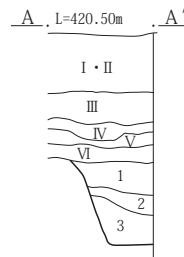
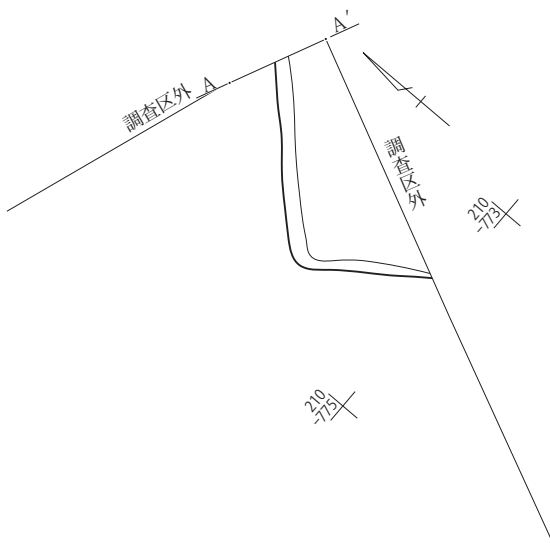
その下位の1~3層が埋没土となり、暗褐色土と黒褐色土が主体となる。埋土中に大中の礫を多く含むことから、人為的埋没と考えられる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦。壁高は32cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

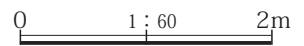
カマド：位置等の詳細は不明。

遺物：出土はない。

所見・時期：出土遺物がないことから時期は不明。



- I・II 暗褐色土 耕作土。(1-C区基本土層)
- III 黒色土 As-Kkを多く含む。(1-C区基本土層)
- IV 鈍い黄橙色土 As-Kkの1次堆積層。(1-C区基本土層)
- V 黄灰色土 As-B火山灰と火山砂との混土。(1-C区基本土層)
- VI 黒褐色土 粘性がある。(1-C区基本土層)
- 1 暗褐色土 赤褐色鉱物粒、小さなロームブロックを含む。大型礫を多く混入する。
- 2 暗褐色土 ローム粒が全体に薄く、中型礫が混入する。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、中型礫が混入する。



第75図 1区32号竪穴建物 床面 平・断面図

(3) 掘立柱建物

本調査区で検出された古代の掘立柱建物は、第2面調査において1-C区に2棟が検出された。

以下、各遺構ごとに記載する。(第4表 1区掘立柱建物一覧を参照)

1区2号掘立柱建物 (第76図、第4表、PL.13)

平成28年度の調査で検出した。建物の北側は調査区外となり、1区29号竪穴建物と重複する。

位置：1-C区の北壁中央付近の壁際に位置し、北西側を1区29号竪穴建物と重複し、西側1.7mに1区30号竪穴建物がある。

グリッド：2N・2O-151・152

座標値：X=61,198~61,204 Y=-93,753~93,759

重複：本掘立柱建物が重複する1区29号竪穴建物との新旧は、遺構確認遺構確認で本建物の方が新しいことが明らかで、掘立柱建物P5が1区29号竪穴建物のカマドの一部(左袖先端)を壊していた。

形状：長方形か

規模：桁行方向(4.55)m以上 梁行方向4.10m

長軸方向：N-85°-W

検出状況・埋没土：検出された柱穴はP1~5の5基で、桁行2間以上、梁行2間の掘立柱建物となる。各柱間の距離は、桁行方向で2.21~2.60m、梁行方向で1.75~2.32mを測る。各柱穴は概ね円形に近い楕円形を呈し、その規模は長軸70~88cm、短軸60~73cm、深さ34~52cmを測る。埋土は暗褐色土および黒褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が基本土層1-C区北壁V層より下位であること、重複する1区29号竪穴建物が古墳時代であることから、本遺構の時期は古代である可能性が極めて高い。

1区3号掘立柱建物 (第77図、第4表、PL.13)

平成28年度の調査で検出した。

位置：1-C区の中央南東寄りに位置し、北西側9.0mに1区2号掘立柱建物がある。

グリッド：2L・2M-149・150

座標値：X=61,187~61,192 Y=-93,744~93,748

形状：長方形。

規模：桁行方向2.80m 梁行方向2.60m

長軸方向：N-12°-E

検出状況・埋没土：検出された柱穴はP1~5の5基で、桁行2間、梁行1間の掘立柱建物となる。各柱間の距離は、桁行方向で1.3~1.5m、梁行方向で2.6mを測る。桁行方向となるP1~3及びP4・5の柱間は、布堀状の溝で繋がっている。各柱穴は概ね円形に近い楕円形を呈し、その規模は長軸55~96cm、短軸55~74cm、深さ40~57cmを測る。埋土は黒褐色土および褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が基本土層1-C区北壁V層より下位であること、同様な布堀状の溝をもつ掘立柱建物が2区でも調査されていることから、本遺構の時期は古代である可能性が高い。

(4) 土坑

本調査区で検出された古代の土坑は、第2面調査において調査区全体から検出された。その数は35基である。なお、本項では古墳時代に含められる可能性の土坑も合わせて記述する。なお、形状分類については、円形および方形を除く長方形から長楕円形の土坑に対し、次の基準で類別した。A類：2.0m以下の短い類、B類：2.0~5.0mのやや長い類、C類：5.0~10.0mの長い類、D類：10.0mを超える極端に長い類。

以下、各土坑ごとに記載する。(第6表 1区土坑一覧を参照)

1区1号土坑 (第78図、第6表、PL.14)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の北東隅付近に位置する。北側に1区2号竪穴建物、西側に1区1号竪穴建物が近接する。

グリッド：2K-134

座標値：X=61,181・61,182 Y=-93,665・93,666

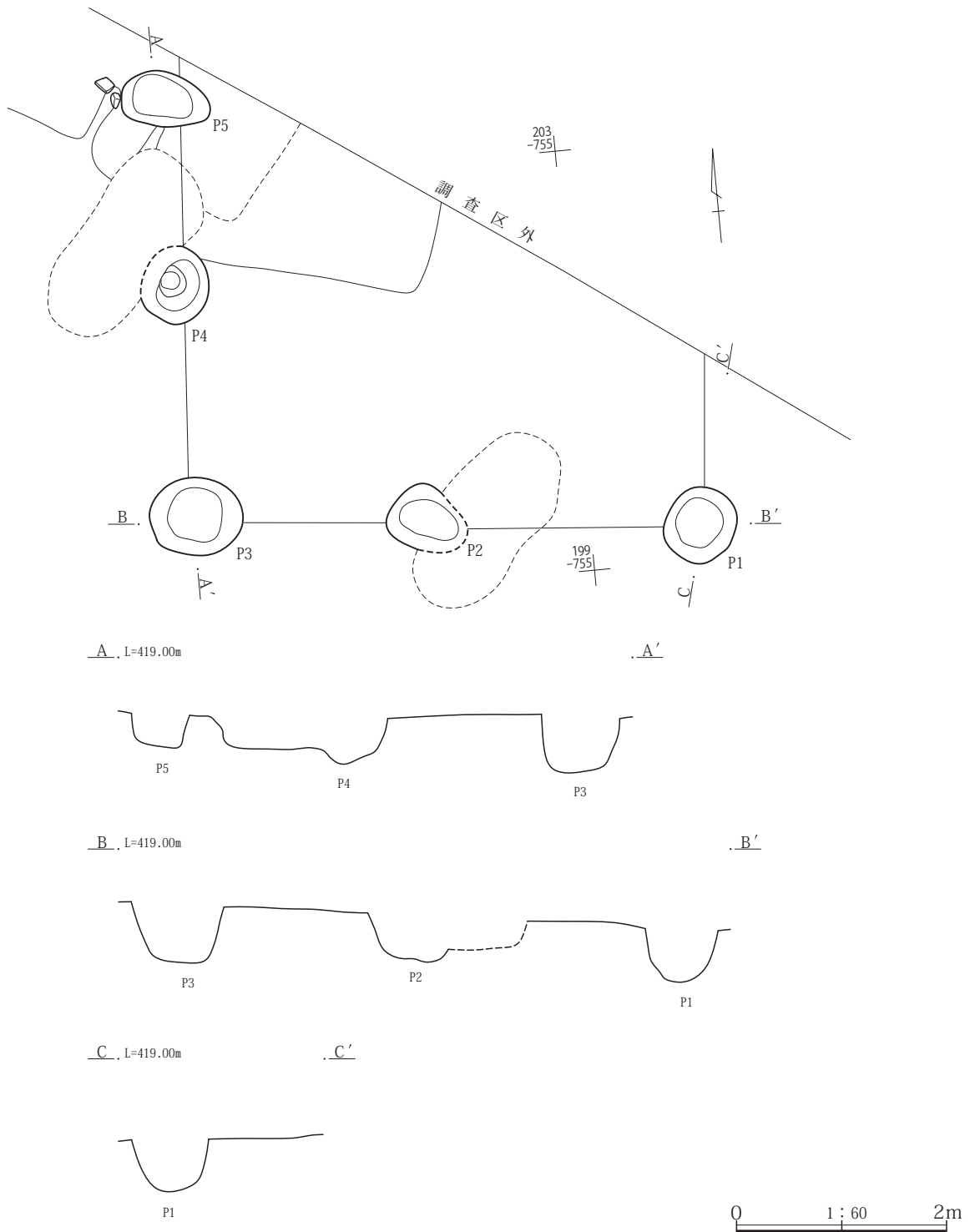
検出状況：1-A区北壁での基本土層IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状：方形

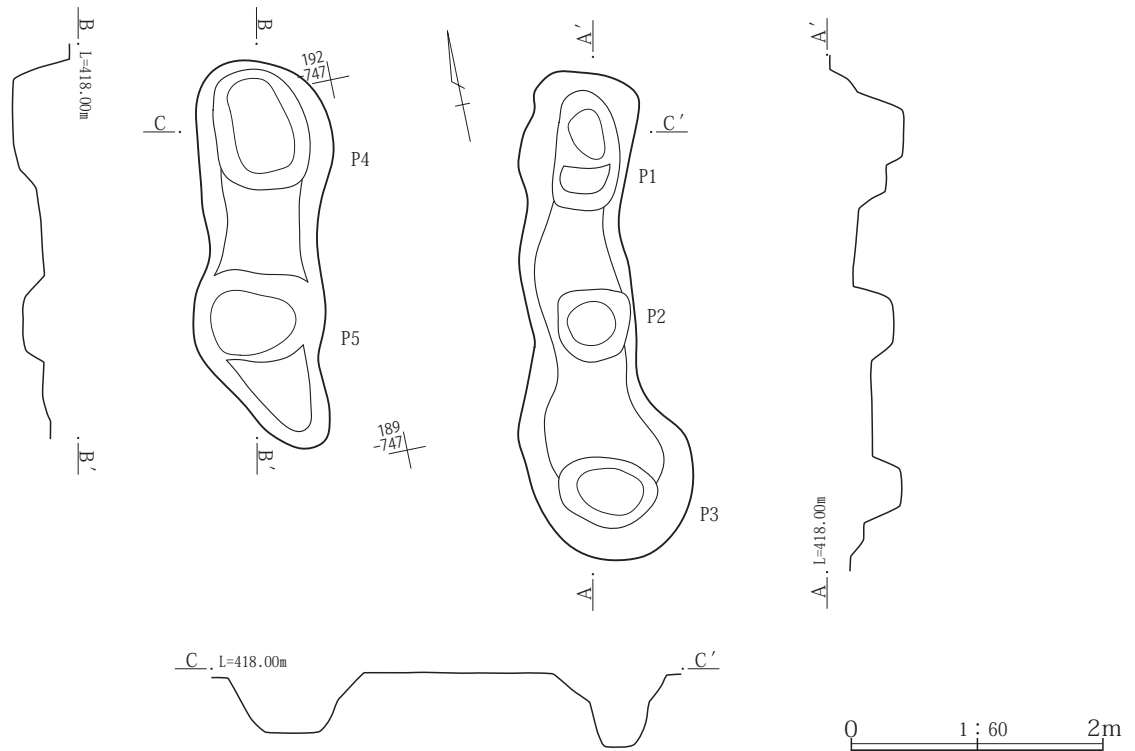
規模：長軸1.20m 短軸0.86m 深さ14cm

長軸方向：N-10°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。



第76図 1区2号掘立柱建物 平・断面図



第77図 1区3号掘立柱建物 平・断面図

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区3号土坑（第78図、第6表、PL.14）

平成25年度の調査で検出した。1区31号土坑と重複する。

位置：1-A区の東側に位置する。南側に1区7・8号竪穴建物がある。

グリッド：2I-136

座標値：X=61,172 Y=-93,676・93,677

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。1区31号土坑と重複するが、その新旧は遺構確認および土層確認から本土坑の方が新しい。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長楕円形(A類)

規模：長軸1.10m 短軸0.40m 深さ28cm

長軸方向：N-84°-E

埋没土：灰褐色土と黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区4号土坑（第78図、第6表、PL.14）

平成25年度の調査で検出した。1区8号竪穴建物と重複する。

位置：1-A区の南東側に位置し、1区8号竪穴建物の西隅付近に重複する。

グリッド：2H-137

座標値：X=61,168・61,169 Y=-93,681・93,682

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する1区8号竪穴建物との新旧は、遺構確認および土層確認から本土坑の方が新しい。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長楕円形(A類)

規模：長軸1.11m 短軸0.53m 深さ11cm

長軸方向：N-74°-E

埋没土：灰褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区7号土坑（第78図、第6表、PL.14）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東側に位置する。南側に1区10号土坑、

第4章 検出された遺構と遺物

西側に1区8号土坑が近接する。

グリッド：2J-135

座標値：X=61,176・61,177 Y=-93,672・93,673

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.92m 短軸0.56m 深さ12cm

長軸方向：N-40°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区8号土坑 (第78図、第6表、PL.14)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東側に位置する。西側に1区7号土坑、南側に1区10号土坑が近接する。

グリッド：2J-135

座標値：X=61,177・61,178 Y=-93,673

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.90m 短軸0.54m 深さ23cm

長軸方向：N-37°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区9号土坑 (第78図、第6表、PL.14)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東側に位置する。南西側に1区8号竪穴建物、西側に1区3・31号土坑がある。

グリッド：2H・2I-135・136

座標値：X=61,168~61,170 Y=-93,674~93,676

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。埋土中から土師器の細片が少量出土している。

形状(分類)：楕円形(B類)

規模：長軸2.06m 短軸0.63m 深さ21cm

長軸方向：N-37°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物が少なく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区10号土坑 (第78図、第6表、PL.14)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東側に位置する。北側に1区7・8号土坑が近接する。

グリッド：2J-135

座標値：X=61,175・61,176 Y=-93,673・93,674

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.78m 短軸0.49m 深さ14cm

長軸方向：N-55°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区13号土坑 (第78図、第6表、PL.14)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の南東側に位置し、北側に1区3・31号土坑が近接し、南側に1区8号竪穴建物と1区4号土坑がある。

グリッド：2H・2I-136

座標値：X=61,169~61,171 Y=-93,678・93,679

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.06m 短軸0.60m 深さ10cm

長軸方向：N-20°-E

埋没土：灰褐色土と黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区16号土坑（第78図、第6表、PL.14）

平成25年度の調査で検出した。1区111号ピットと重複する。

位置：1-A区の東側の北壁際に位置する。西側に1区3号竪穴建物が接するようにある。

グリッド：2L・2M-135

座標値：X=61,189・61,190 Y=-93,673・93,674

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する1区111号ピットとの新旧は、遺構確認から本土坑の方が古い。埋土中から須恵器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸(1.42)m 短軸0.62m 深さ43cm

長軸方向：N-28°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物が少なく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区18号土坑（第79図、第6表）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東側の北壁際付近に位置する。北側に1区3号竪穴建物が近接する。

グリッド：2M-136

座標値：X=61,191 Y=-93,677・93,678

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.78m 短軸0.44m 深さ25cm

長軸方向：N-59°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区21号土坑（第79・83図、第6・60表、PL.14）

平成25年度の調査で検出した。1区4号竪穴建物と重複する。

位置：1-A区中央の北壁付近に位置する。1区4号竪穴建物の西隅に重複する。

グリッド：2N-138

座標値：X=61,195・61,196 Y=-93,686・93,687

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する1区4号竪穴建物との新旧は、遺構確認で本土坑の方が新しいことが明らかであった。埋土中から土師器・須恵器片が出土し、1の須恵器の高杯の脚部を図示した。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.19m 短軸0.58m 深さ64cm

長軸方向：N-57°-W

埋没土：暗褐色土と茶褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古墳時代の可能性が高い。

1区28号土坑（第79図、第6表、PL.15）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東側中央付近に位置する。西側に1区19号竪穴建物が近接する。

グリッド：2J・2K-136

座標値：X=61,178~61,181 Y=-93,677~93,679

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。埋土中から土師器の甕片が多量に出土している。

形状(分類)：楕円形(B類)

規模：長軸2.64m 短軸1.53m 深さ23cm

長軸方向：N-53°-W

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古代と考えられる。

1区29号土坑（第79図、第6表、PL.15）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東側中央付近に位置する。東側に1区30・31号土坑が近接する。

グリッド：2I・2J-136

座標値：X=61,174・61,175 Y=-93,677~93,679

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。埋土中から土師器片が僅かに出土している。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.86m 短軸1.06m 深さ13cm

長軸方向：N-40°-E

第4章 検出された遺構と遺物

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古墳時代の可能性が高い。

1区30号土坑（第79図、第6表、PL.15）

平成25年度の調査で検出した。1区31号土坑と重複する。

位置：1-A区の東側中央付近に位置する。東側を1区31号土坑が重複し、西側に1区29号土坑が近接する。

グリッド：2I・2J-136

座標値：X=61,173~61,175 Y=-93,676~93,678

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する1区31号土坑との新旧は、遺構確認および土層観察から本土坑の方が新しい。埋土中から土師器・須恵器片が出土している。

形状：方形

規模：長軸1.38m 短軸1.21m 深さ24cm

長軸方向：N-39°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古代と考えられる。

1区31号土坑（第79・83図、表6・60、PL.15・175）

平成25年度の調査で検出した。1区3・30号土坑と重複する。

位置：1-A区の東側中央付近に位置する。南側を1区3号土坑、西側を1区30号土坑が重複する。

グリッド：2I・136

座標値：X=61,171~61,174 Y=-93,675~93,678

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する1区3・31号土坑との新旧は、遺構確認および土層観察からいずれの土坑よりも本土坑の方が古い。埋土中から土師器・須恵器片が多量に出土しており、その中から2の土師器の杯、3の石製品を図示した。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸3.77m 短軸1.20m 深さ23cm

長軸方向：N-36°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古代と考えられる。

1区34号土坑（第79図、第6表、PL.15）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区中央の北西寄りに位置する。東側に1区6号竪穴建物がある。

グリッド：2O-141

座標値：X=61,200・61,201 Y=-93,701・93,702

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.40m 短軸0.60m 深さ28cm

長軸方向：N-40°-E

埋没土：茶褐色土と暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区43号土坑（第80図、第6表）

平成25年度の調査で検出した。1区7号竪穴建物および1区62号ピットと重複する。

位置：1-A区の南東隅付近に位置する。1区7号竪穴建物、1区62号ピットと重複し、西側に1区57号土坑が近接する。

グリッド：2G-135・136

座標値：X=61,161~61,164 Y=-93,674~93,676

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する遺構との新旧は、1区62号ピットより本土坑の方が旧く、1区7号竪穴建物より新しい。埋土中から土師器片が出土している。

形状(分類)：長楕円形(B類)

規模：長軸(2.71)m 短軸1.16m 深さ19cm

長軸方向：N-21°-W

埋没土：暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古代と考えられる。

1区47号土坑（第80図、第6表）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区中央の北寄りに位置する。北側に1区5号竪穴建物がある。

グリッド：2M・2N-139

座標値：X=61,194・61,195 Y=-93,690・93,691

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。埋土中から土師器片が僅かに出土している。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.36m 短軸0.78m 深さ24cm

長軸方向：N-64°-W

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古代と考えられる。

1区48号土坑 (第80図、第6表)

平成25年度の調査で検出した。1区134号土坑と重複する。

位置：1-A区中央の北西寄りに位置する。長い1区134号土坑の中央で重複し、北側に1区6号竪穴建物がある。

グリッド：2N-140

座標値：X=61,195・61,196 Y=-93,697・93,698

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.81m 短軸0.50m 深さ2cm

長軸方向：N-23°-W

埋没土：暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区57号土坑 (第80・83図、第6・60表、PL.16・175)

平成25年度の調査で検出した。1区8号竪穴建物と重複する。

位置：1-A区の南東隅付近に位置する。1区8号竪穴建物の東隅に重複し、東側に1区7号竪穴建物が近接する。

グリッド：2G・2H-136

座標値：X=61,164・61,165 Y=-93,677・93,678

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する1区8号竪穴建物との新旧は、遺構確認および土層観察から本土坑の方が古い。埋土中から土師器の杯・甕片が

多量に出土しており、その中から4の土師器の杯を図示した。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.06m 短軸(0.53)m 深さ51cm

長軸方向：N-70°-W

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古墳時代の可能性が高い。

1区67号土坑 (第80図、第6表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。1区21号竪穴建物および1区380号ピットと重複する。

位置：1-A区西側の中央付近に位置する。1区21号竪穴建物の上位に重複し、周囲に1区113・114号土坑が近接する。

グリッド：2N-144・145

座標値：X=61,195・61,196 Y=-93,718~93,720

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する遺構との新旧は、1区380号ピットより本土坑の方が旧く、1区21号竪穴建物より新しい。埋土中から土師器片が出土している。

形状(分類)：不整形(A類)

規模：長軸1.71m 短軸0.44m 深さ22cm

長軸方向：N-42°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古代と考えられる。

1区84号土坑 (第80図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央西寄りに位置する。東側に1区22号竪穴建物があり、南西側に1区85号土坑が近接する。

グリッド：2O-145

座標値：X=61,202・61,203 Y=-93,720・93,721

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸0.91m 短軸0.71m 深さ43cm

長軸方向：N-2°-E

埋没土：暗褐色土と灰黄褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区85号土坑（第80図、第6表、PL.17）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央西寄りに位置する。南側に1区21号竪穴建物があり、北東側に1区84号土坑が近接する。

グリッド：2O-145

座標値：X=61,200・61,201 Y=-93,722・93,723

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。埋土中から土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.19m 短軸0.90m 深さ30cm

長軸方向：N-86°-E

埋没土：暗褐色土と灰黄褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古代と考えられる。

1区95号土坑（第80図、第6表）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区中央の南寄りに位置する。西側に1区24号竪穴建物があり、南側に1区99・102号土坑がある。

グリッド：2K-142

座標値：X=61,180 Y=-93,706

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.89m 短軸0.59m 深さ66cm

長軸方向：N-28°-E

埋没土：暗褐色土と鈍い黄褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区99号土坑（第81図、第6表）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区中央の南寄りに位置する。西側に1区24号竪穴建物があり、北西側に1区98号土坑がある。

グリッド：2J-141・142

座標値：X=61,178 Y=-93,704・93,705

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。埋土中から土師器の細片が僅かに出土している。

形状：円形

規模：長軸0.95m 短軸0.81m 深さ55cm

長軸方向：N-55°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古代と考えられる。

1区101号土坑（第81図、第6表、PL.17）

平成25年度の調査で検出した。1区24号竪穴建物と重複する。

位置：1-A区中央の南西寄りに位置する。1区24号竪穴建物の西隅に重複し、東側に1区102号土坑がある。

グリッド：2J-143

座標値：X=61,178・61,179 Y=-93,712・93,713

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する1区24号竪穴建物との新旧は、遺構確認で本土坑の方が新しいことが明らかであった。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.95m 短軸0.61m 深さ57cm

長軸方向：N-26°-W

埋没土：灰黄褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区102号土坑（第81図、第6表、PL.17）

平成25年度の調査で検出した。1区24号竪穴建物と重複する。

位置：1-A区中央の南寄りに位置する。1区24号竪穴建物東隅に重複し、北東側に1区95号土坑、西側に1区101号土坑がある。

グリッド：2J-142

座標値：X=61,178・61,179 Y=-93,708～93,709

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する1区24号竪穴建物との新旧は、遺構確認で本土坑の方が新しいことが明らかであった。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.07m 短軸0.60m 深さ67cm

長軸方向：N-30°-W

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区113号土坑 (第81図、第6表)

平成25年度の調査で検出した。1区69号土坑、1区340・365号ピットと重複する。

位置：1-A区西側の中央付近に位置する。1区69号土坑および1区340・365号ピットの下位に重複し、周囲に1区114・115号土坑が近接する。

グリッド：2N-144

座標値：X=61,197・61,198 Y=-93,717・93,718

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する遺構との新旧は、遺構確認で本土坑の方が古いことが明らかであった。埋土中から土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸(0.94)m 短軸(0.48)m 深さ37cm

長軸方向：N-17°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古代と考えられる。

1区114号土坑 (第81図、第6表、PL.18)

平成25年度の調査で検出した。1区419号ピットと重複する。

位置：1-A区西側の中央付近に位置する。1区419号ピットの下位に重複し、周囲に1区67・113号土坑が近接する。

グリッド：2N-144

座標値：X=61,196・61,197 Y=-93,717・93,718

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確

認面とした第2面調査時に検出された。重複する遺構との新旧は、遺構確認で本土坑の方が古いことが明らかであった。埋土中から土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.86m 短軸(0.58)m 深さ51cm

長軸方向：N-12°-W

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古代と考えられる。

1区115号土坑 (第81図、第6表、PL.18)

平成25年度の調査で検出した。1区72号土坑と重複する。

位置：1-A区西側の中央付近に位置する。1区72号土坑の下位に重複し、周囲に1区113号土坑が近接する。

グリッド：2O-144

座標値：X=61,200～61,202 Y=-93,716・93,717

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長円形(A類)

規模：長軸1.53m 短軸0.88m 深さ3cm

長軸方向：N-16°-E

埋没土：鈍い黄褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区127号土坑 (第81図、第6表、PL.18)

平成28年度の調査で検出した。1区474号ピットと重複する。

位置：1-C区西側の北壁寄りに位置する。1区474号ピット下位に重複し、西側に1区27号竪穴建物、北側に1区129～131号土坑が近接する。

グリッド：2Q-157

座標値：X=61,213・61,214 Y=-93,782・93,783

検出状況：1-A区北壁での基本層序IV層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：不定形(A類)

規模：長軸0.90m 短軸0.74m 深さ24cm

長軸方向：N-77°-E

埋没土：黒褐色土と褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区129号土坑（第81・83図、第6・60表、PL.19）

平成28年度の調査で検出した。

位置：1-C区西側の北壁際に位置する。南側に1区27号竪穴建物、東側に1区130・131号土坑が近接する。

グリッド：2R-157

座標値：X=61,215・61,216 Y=-93,783・93,784

検出状況：1-C区北壁での基本層序VII層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。埋土中から土師器が出土しており、その中から5の土師器の杯を図示した。

形状(分類)：不整形(A類)

規模：長軸(0.71)m 短軸(0.55)m 深さ53cm

長軸方向：N-50°-E

埋没土：黒褐色土と褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古墳時代の可能性が高い。

1区130号土坑（第82図、第6表、PL.19）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-C区西側の北壁際に位置する。南側に1区27号竪穴建物、東側に1区131号土坑、西側に1区129号土坑が近接する。

グリッド：2R-157

座標値：X=61,215 Y=-93,782

検出状況：1-C区北壁での基本層序VII層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：不整形(A類)

規模：長軸(0.64)m 短軸0.87m 深さ34cm

長軸方向：N-21°-E

埋没土：黒褐色土と褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区131号土坑（第82図、第6表、PL.19）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-C区西側の北壁際に位置する。西側に1区27号竪穴建物、1区127・130号土坑が近接する。

グリッド：2Q・2R-157・158

座標値：X=61,214・61,215 Y=-93,780

検出状況：1-C区北壁での基本層序VII層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：不整形(A類)

規模：長軸(0.52)m 短軸0.85m 深さ38cm

長軸方向：N-31°-E

埋没土：黒褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区132号土坑（第82図、第6表、PL.19）

平成25年度の調査で検出した。1区28号竪穴建物と重複する。

位置：1-C区中央西寄りに位置する。土坑の北半を1区28号竪穴建物と重複する。

グリッド：2O・2P-155

座標値：X=61,203~61,206 Y=-93,772~93,774

検出状況：1-C区北壁での基本層序VII層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。重複する1区28号竪穴建物との新旧は、遺構確認で本土坑の方が新しいことが明らかであった。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長楕円形(B類)

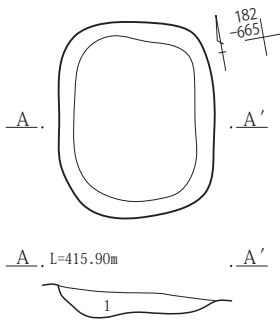
規模：長軸3.26m 短軸1.15m 深さ56cm

長軸方向：N-12°-W

埋没土：暗褐色土を主体とする。

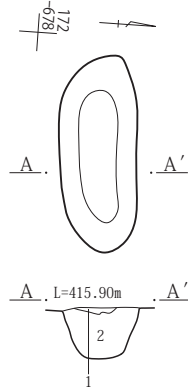
所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

1区1号土坑



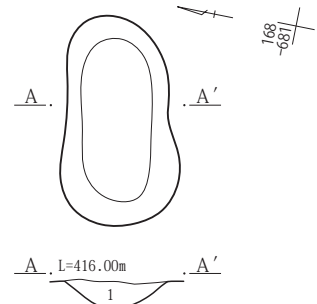
1 暗褐色土 白色軽石粒を少量含む。

1区3号土坑



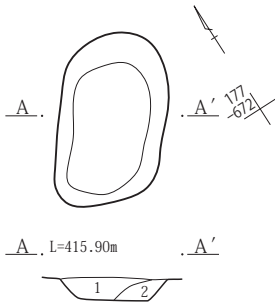
1 灰褐色土 やや堅く締まり、粘性あり。
2 黒褐色土 ローム粒を少量含む。

1区4号土坑



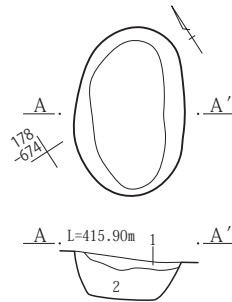
1 灰褐色土 やや堅く締まり、粘性あり。

1区7号土坑



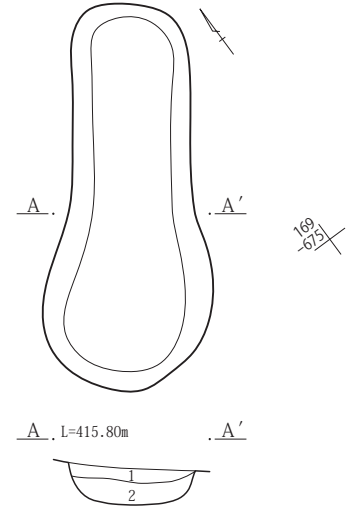
1 暗褐色土 白色粒、ロームブロックを含む。
2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

1区8号土坑



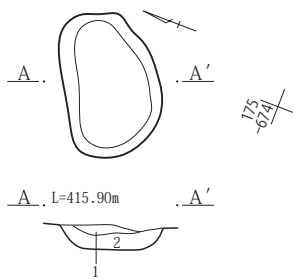
1 暗褐色土 白色粒、ロームブロックを含む。
2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

1区9号土坑



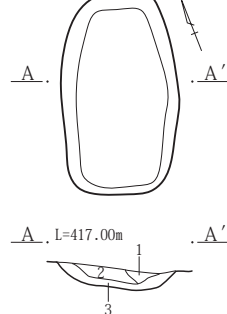
1 暗褐色土 白色粒、ロームブロックを含む。
2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む。

1区10号土坑



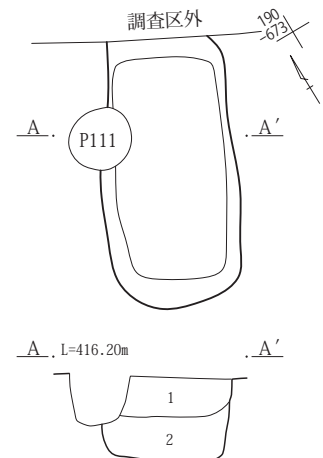
1 暗褐色土 白色粒、ロームブロックを含む。
2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

1区13号土坑

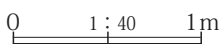


1 暗褐色土 ローム粒・白色粒を含む。
2 灰褐色土 白色粒を少量含む。
3 黒褐色土 締まりよく、粘性強い。

1区16号土坑

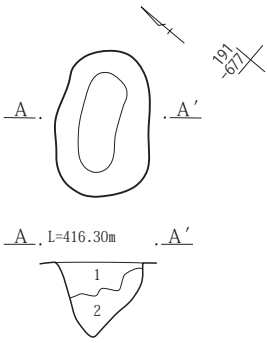


1 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。
2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。



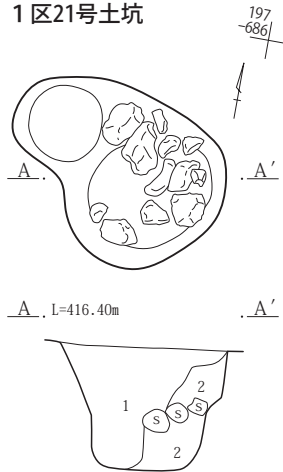
第78図 1区1・3・4・7～10・13・16号土坑 平・断面図

1区18号土坑



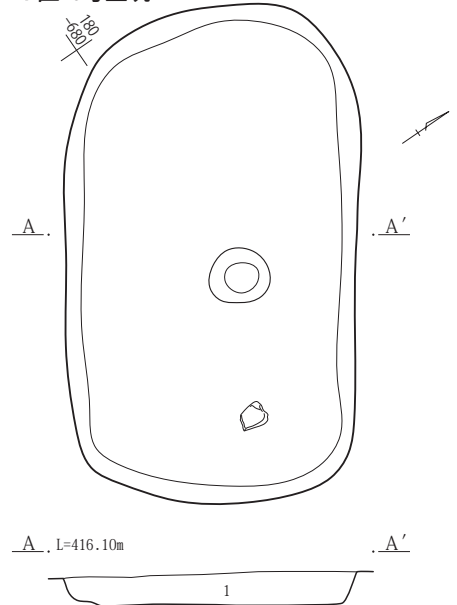
- 1 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。
2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

1区21号土坑



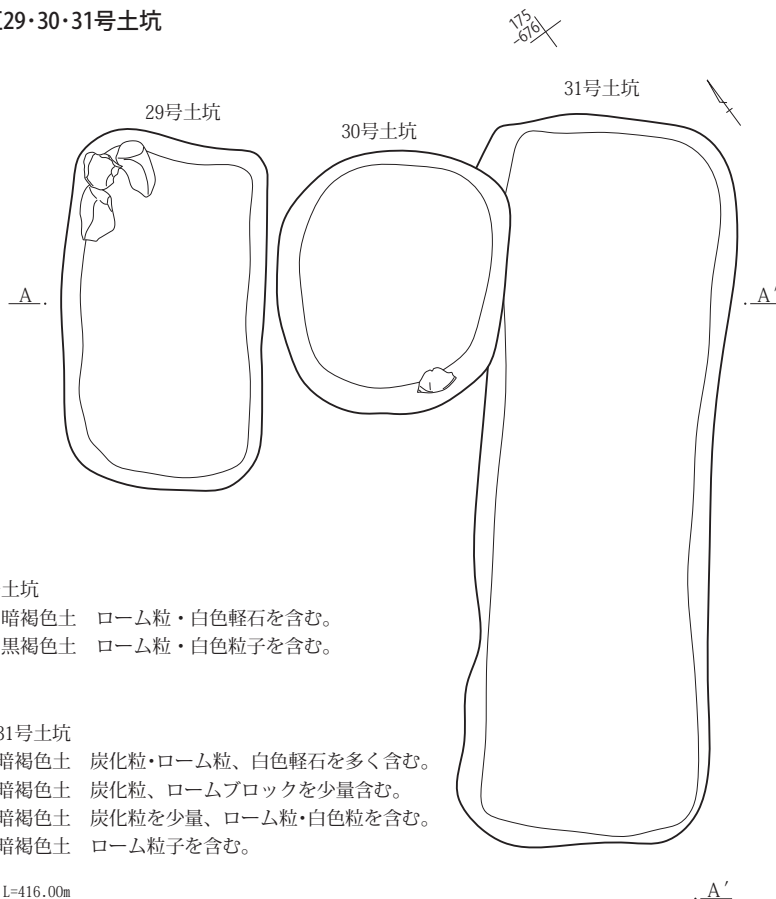
- 1 暗褐色土 白色粒、ロームブロックを含む。
2 茶褐色土 ロームをやや多く含む。

1区28号土坑



- 1 暗褐色土 炭化粒を少量、ローム粒・白色粒を含む。

1区29・30・31号土坑



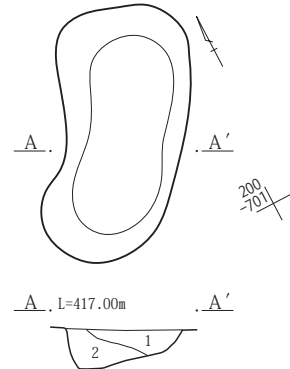
29号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・白色軽石を含む。
2 黒褐色土 ローム粒・白色粒子を含む。

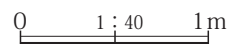
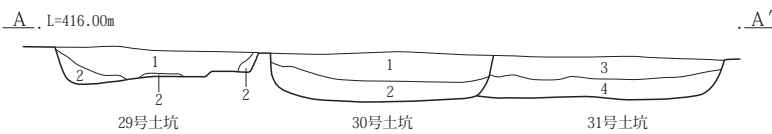
30・31号土坑

- 1 暗褐色土 炭化粒・ローム粒、白色軽石を多く含む。
2 暗褐色土 炭化粒、ロームブロックを少量含む。
3 暗褐色土 炭化粒を少量、ローム粒・白色粒を含む。
4 暗褐色土 ローム粒子を含む。

1区34号土坑

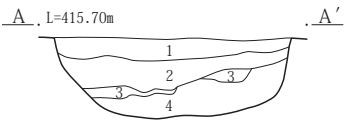
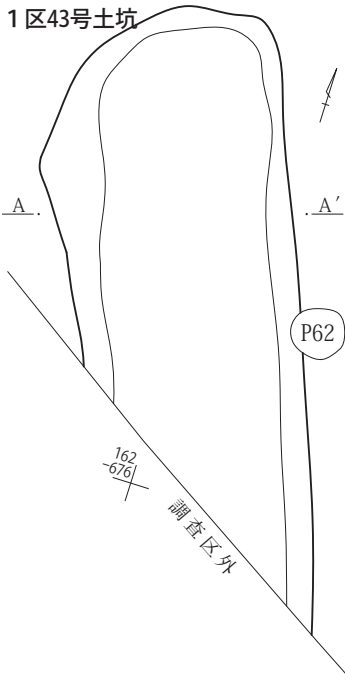


- 1 茶褐色土 やや強く締まり、粘性あまりなし。
2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。



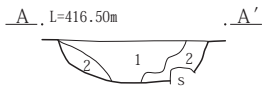
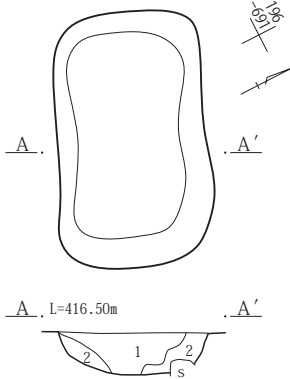
第79図 1区18・21・28～31・34号土坑 平・断面図

1区43号土坑



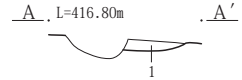
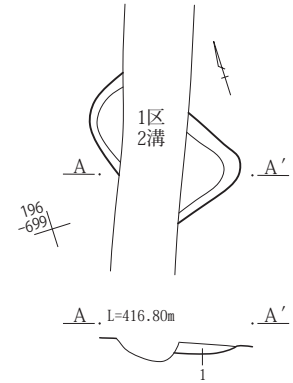
- 1 暗褐色土 炭化物を少量、ローム粒・白色粒を含む。
- 2 暗褐色土 炭化粒・ローム粒・白色粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
- 4 暗褐色土 炭化粒・ローム粒を少量含む。

1区47号土坑



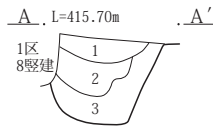
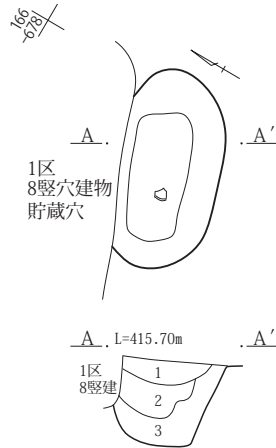
- 1 暗褐色土 炭化粒を少量、ローム粒・白色粒を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを含む。

1区48号土坑



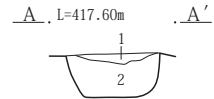
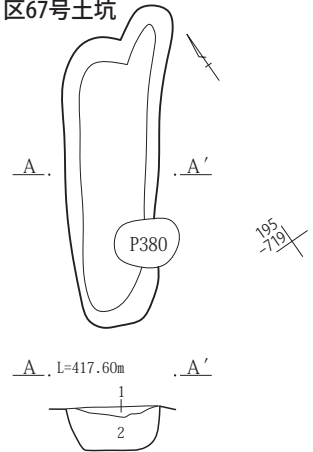
- 1 暗褐色土 ローム粒、白色粒を含む。

1区57号土坑



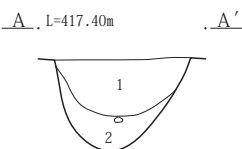
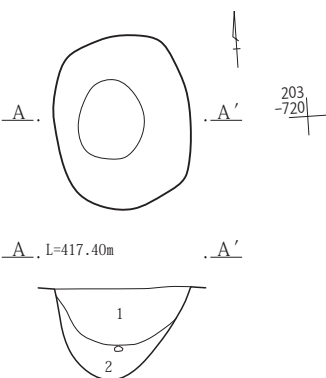
- 1 暗褐色土 白色粒を多量、ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

1区67号土坑



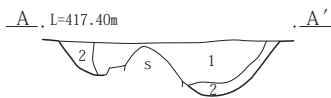
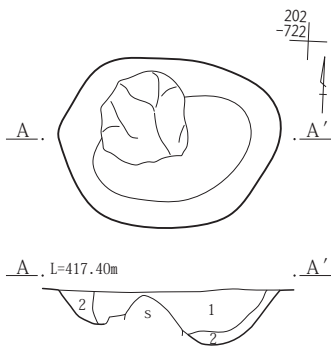
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒を少量、ローム粒を含む。

1区84号土坑



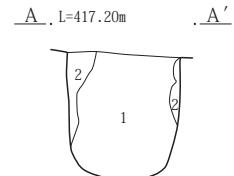
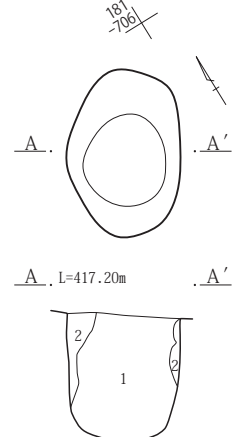
- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 1層とローム土との混土。

1区85号土坑

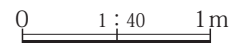


- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 1層とローム土との混土。

1区95号土坑

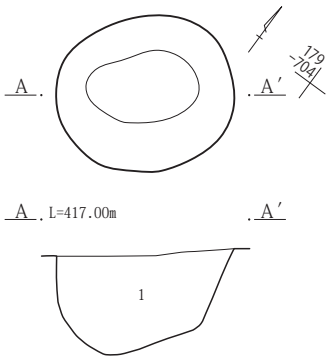


- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を微量含む。
- 2 鈍い黄褐色土 ローム土と暗褐色土との混土。



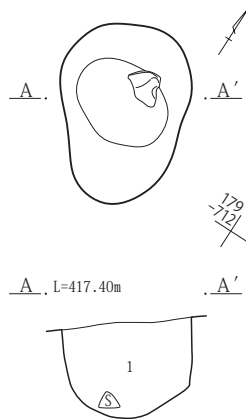
第80図 1区43・47・48・57・67・84・85・95号土坑 平・断面図

1区99号土坑



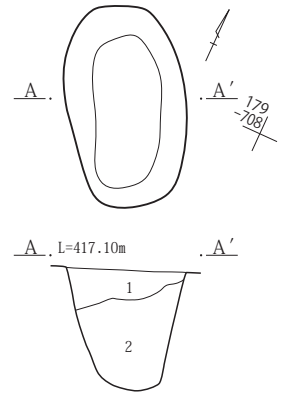
1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

1区101号土坑



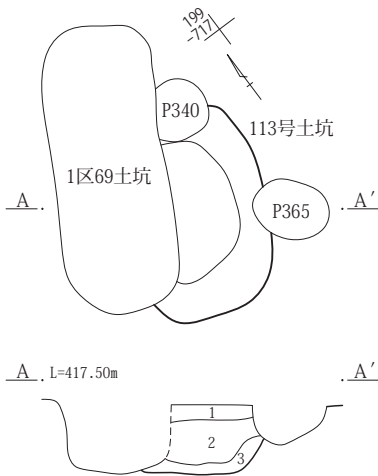
1 灰黄褐色土 灰色粘土を多量含む。

1区102号土坑



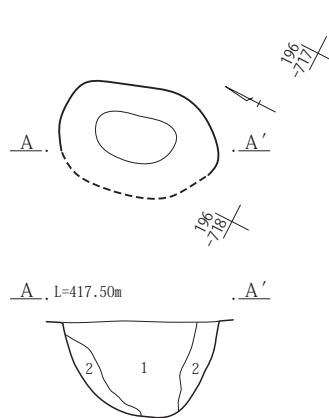
1 暗褐色土 ローム粒を含む。
2 暗褐色土 ローム粒、炭化物を微量含む。

1区113号土坑



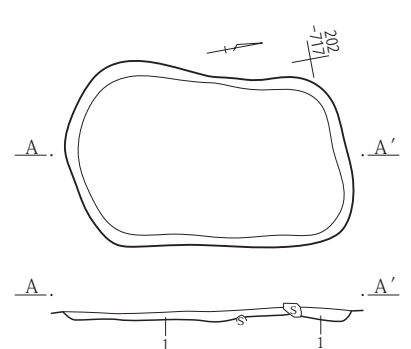
1 暗褐色土 白色粒を多量、明黄褐色粒を少量含む。
2 暗褐色土 白色粒を含み、明黄褐色粒を少量含む。
3 暗褐色土 白色粒・明黄褐色土粒を少量含む。

1区114号土坑



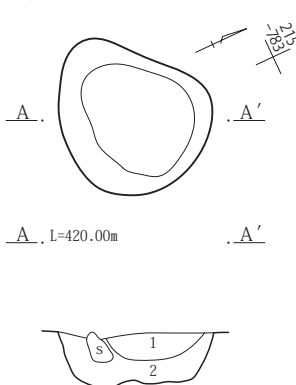
1 暗褐色土 砂質で、灰白・黄橙粒子を微量含む。
2 暗褐色土 砂質で、黄橙砂質土ブロックを少量含む。

1区115号土坑



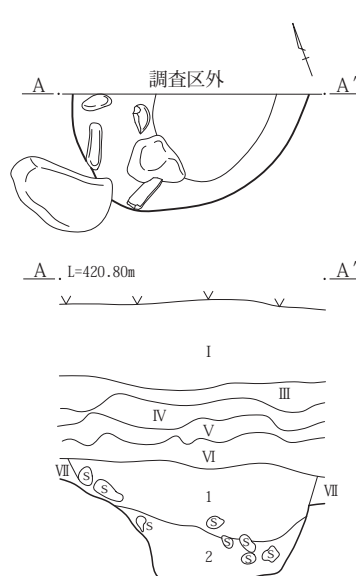
1 鈍い黄褐色土 灰白・黄橙粒・焼土粒を微量含む。

1区127号土坑

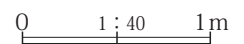


1 黒褐色土 赤褐色土粒・黄褐色土粒を含む。
2 褐色土 ローム粒を多く含み、礫が混入。

1区129号土坑

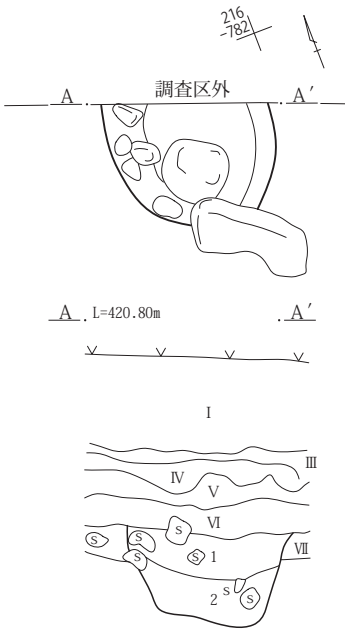


I 暗褐色土 表土(耕作土)。(1-C区基本土層)
III 黒色土 As-Kkを多く含む。(1-C区基本土層)
IV 鈍い黄褐色土 As-Kkの1次堆積層。(1-C区基本土層)
V 黄灰色土 As-B火山灰と火山砂との混土。(1-C区基本土層)
VI 黒褐色土 粘性がある。(1-C区基本土層)
VII 褐色土 粘性がある。地山礫を一部に含む。(1-C区基本土層)
1 黒褐色土 赤褐色土粒・黄褐色土粒を僅かに含む。
2 褐色土 ローム粒を斑状に含み、礫を多く混入。



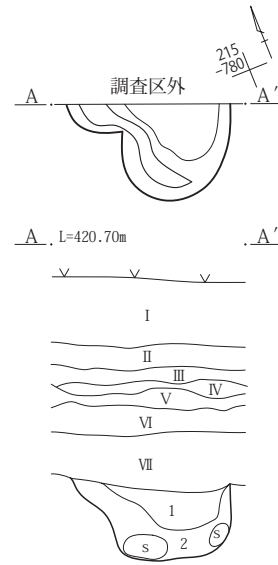
第81図 1区99・101・102・113~115・127・129号土坑 平・断面図

1区130号土坑



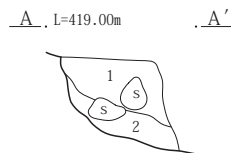
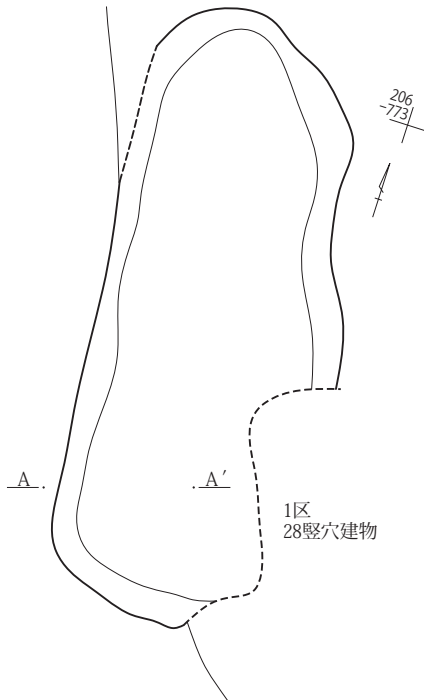
- I 暗褐色土 表土(耕作土)。(1-C区基本土層)
- III 黒色土 As-Kkを多く含む。(1-C区基本土層)
- IV 鈍い黄橙色土 As-Kkの1次堆積層。(1-C区基本土層)
- V 黄灰色土 As-B火山灰と火山砂との混土。(1-C区基本土層)
- VI 黒褐色土 粘性がある。(1-C区基本土層)
- VII 褐色土 粘性がある。地山礫を一部に含む。(1-C区基本土層)
- 1 黒褐色土 赤褐色土粒・黄褐色土粒を僅かに含む。
- 2 褐色土 ローム粒を斑状に含み、礫を多く混入。

1区131号土坑

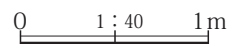


- I 暗褐色土 表土(耕作土)。(1-C区基本土層)
- II 暗褐色土 As-Kkを含む。(1-C区基本土層)
- III 黒色土 As-Kkを多く含む。(1-C区基本土層)
- IV 鈍い黄橙色土 As-Kkの1次堆積層。(1-C区基本土層)
- V 黄灰色土 As-B火山灰と火山砂との混土。(1-C区基本土層)
- VI 黒褐色土 粘性がある。(1-C区基本土層)
- VII 褐色土 粘性がある。地山礫を一部に含む。(1-C区基本土層)
- 1 黒褐色土 白色鈹物粒・黄褐色土粒、礫を含む。やや軟質土。
- 2 黒褐色土 ローム粒を多く含む。やや砂質土。

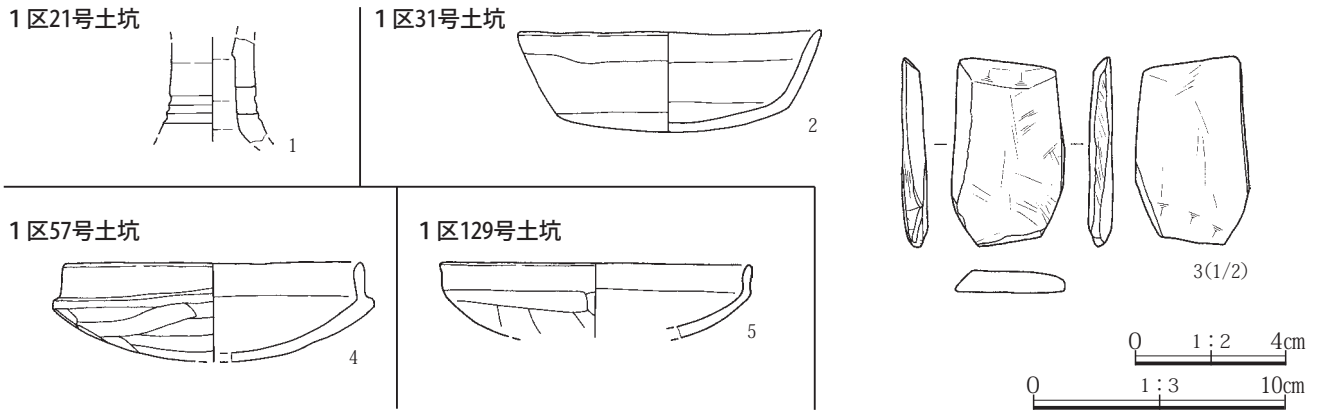
1区132号土坑



- 1 暗褐色土 礫を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量、礫を含む。



第82図 1区130～132号土坑 平・断面図



第83図 1区21・31・57・129号土坑 出土遺物

(5) 畠

本調査区で検出された古代の畠は、第1面調査において検出された。この古代の畠は、As-Kkの1次堆積層(鈍い黄橙色軽石層)が残存する箇所の下位に検出され、平成27年度の2区での調査で明確に検出されたのが最初である。畠間の埋土は、As-B火山灰である黄灰色土が大きなブロック状に多量に混在した状態で、溝状に幾筋も連なるように確認することができる。本調査区では、1-A区の南西部の一部、さらに1-C区のほぼ全域に検出されている。

以下、各畠ごとに記載する。(第11表 1区畠一覧を参照)

1区3号畠 (第84図、第11表、PL.21)

平成25年度の調査で検出されていたが、整理時に畠の存在を認定した。

位置：1-A区南西の南壁際付近に位置する。

グリッド：2G・2H-139~141

座標値：X=61,162~61,166 Y=-93,692~93,701

検出状況：1-A区南西の南壁土層断面で確認できる。

11層上面が畠面となり、畠の畠間に10層としたAs-Bの火山灰がブロック状に堆積している。こうした畠間の埋没土の状況は、1-C区での4号畠でも同様である。なお、平面的な広がりについては不明であるが、東隣となる2区南西端で検出されている古代畠(2区8号畠)に続く部分にあたる。遺物等の出土はない。

区画規模：長さ1m 幅(4.6)m

畠長1m 畠間間隔60~70cm

畦高6~8cm 畦数10条

所見・時期：2区8号畠から続く古代の畠で、時期はAs-B火山灰降下後からAs-Kk降下以前である。

1区4号畠 (第11表、PL.21)

平成28年度の調査で1区3号畠として検出したが、整理時に1区4号畠に変更した。

位置：1-C区のほぼ全面。

グリッド：2J~2S-147~160

座標値：X=61,175~61,222 Y=-93,730~93,799

検出状況：1-C区のほぼ全面に畠間を検出したが、1-C区東端では不明瞭であった。また、1-C区東半での旧河道上部では窪地状に低くなるが、畠間はその窪地状の地形のまま続き、1区1号道が緩い弧状に畠間と交差する。1-C区北壁の土層断面では、基本土層VI層が畠面の上面となり、基本土層V層であるAs-Bの火山灰がブロック状に堆積す黄灰色土が畠の畠間を覆う。このブロック状となるAs-B火山灰の状況は、As-B火山灰直後に耕作した状況を示したものと考えられる。こうした畠の状況は2区8号畠でも同様であるが、2区8号畠とは畠間の走行方向が異なる。遺物等の出土はない。

区画規模：長さ(81.0)m 幅(12.5)m

畠長(12.5)m 畠間間隔60~70cm前後

畦高4~6cm 畦数101条

畠間方向：N-10~14°-E

所見・時期：区画の広い古代の畠で、時期はAs-B火山灰降下直後からAs-Kk降下以前である。

(6)道

本調査区で検出された道は、第1面調査において古代の畝と共に検出された。古代の畝と同様に、溝状を呈して、畝間と同じ埋土で覆われていたが、畝間とは走行方向が全く異なる。

1区1号道 (第84図、第12表)

平成28年度の調査で検出されていたが、整理時に道として遺構認定した。

位置：1-C区東半の中央付近に位置する。

グリッド：2J~2M・2R-148~153

座標値：X=61,177~61,193 Y=-93,735~93,762

検出状況：1-C区東半の中央付近で、1区4号畝を突っ切るように交差しながら緩く湾曲して南側へ延びる。溝状を呈し、畝間と同じ埋土で覆われ、畝と同時期であることが明らかであった。なお、本道による畝の区画境は、極めて不明瞭。遺物等の出土はない。

区画規模：長さ33.3m 幅0.3~0.6m 深さ22cm

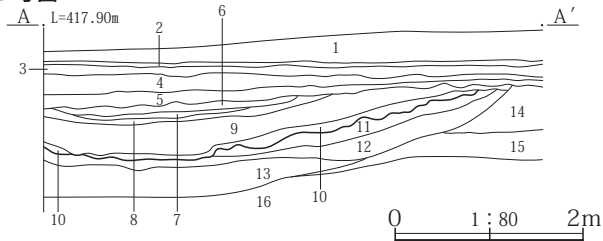
畝長—m 畝間間隔60~70cm

畦高6~8cm 畦数10条

走行方向：N-62°-W

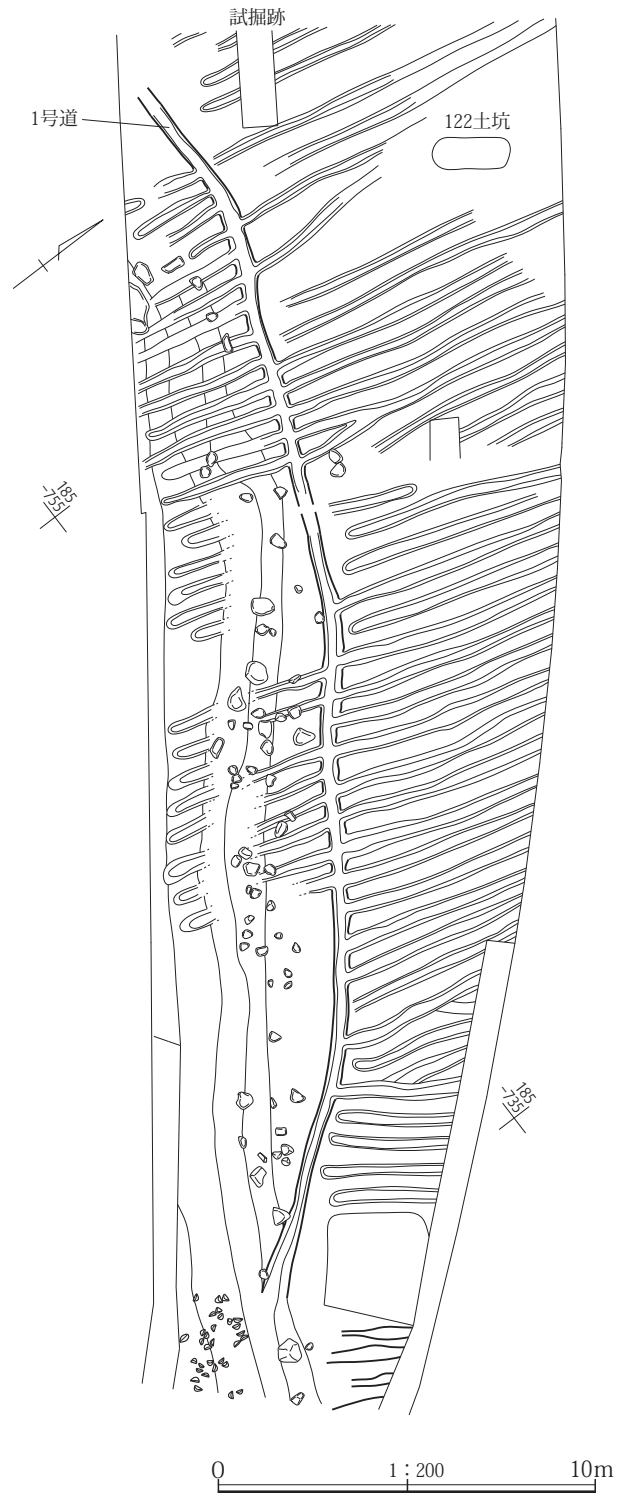
所見・時期：古代の畝と同時期である。

3号畝



- 1 灰黄褐色土 現水田耕作土。
- 2 明黄褐色土 現水田耕作土。
- 3 灰黄褐色土 軽石を微量含む。粘性強い。
- 4 鈍い褐色土 軽石を少量含む。粘性弱い。
- 5 暗褐色土 軽石を少量含む。粘性弱い。
- 6 青灰色土 軽石を主体とする。
- 7 灰オリーブ色土 軽石が少量入る。
- 8 青灰色土 As-Kkを主体とする。
- 9 浅黄色土 As-Kkの1次堆積層。(1-C区基本土層IV層に相応)
- 10 鈍い黄褐色土 As-Bの火山灰と火山砂との混土。(1-C区基本土層V層に相応)
- 11 鈍い黄褐色土 混入物なく、粘性やや強い。(上面が畝面、1-C区基本土層VI層に相応)
- 12 鈍い黄褐色土 礫を微量含み、粘性やや強い。
- 13 灰黄褐色土 砂礫層で、礫を少量含む。
- 14 暗褐色土 砂質で、灰白・黄橙粒子、小礫を微量含む。
- 15 黒褐色土 砂礫層。礫を少量含む。
- 16 黄褐色土 ローム土。

1号道



第84図 1区3号畝 断面、1号道 平面図

第4項 中世以降の遺構と遺物

(1) 概要

本調査区で検出された中世以降の遺構は、調査区全体に広がり、その範囲は東側の2区にまで及ぶ。基本層序とした1-A区北壁でのⅢ層中位および1-C区北壁Ⅵ層上面を確認面とした第1面調査で、中世以降の遺構および遺物が出土した。遺構には、掘立柱建物2棟、柱穴列1棟、土坑86基、墓壇2基、鍛冶遺構1基、溝2条、畠2区画がある。

(2) 掘立柱建物

本調査区で検出された中世以降の掘立柱建物は、第1面調査において1-A区に2棟が検出された。

以下、各遺構ごとに記載する。(第4表 1区掘立柱建物一覧を参照)

1区1号掘立柱建物 (第85図、第4表、PL.13)

平成25年度の調査で検出した。建物の北側は調査区外となり、1区4号掘立柱建物および1区1号柱穴列、1区58号土坑と重複する。

位置：1-A区東側の北壁際に位置し、建物の南半に1区4号掘立柱建物と1区1号柱穴列が重複する。

グリッド：2L・2M-135~137

座標値：X=61,186~61,194 Y=-93,673~93,682

重複：重複する各遺構との新旧は不明。

形状：長方形

規模：桁行方向9.5m 梁行方向4.3m

長軸方向：N-59°-W

検出状況・埋没土：検出された柱穴はP1~12の12基で、桁行5間、梁行1間の掘立柱建物となる。各柱間の距離は、桁行方向で1.0~2.36m、梁行方向で4.3mを測る。各柱穴は概ね円形に近い楕円形を呈し、その規模は長軸34~56cm、短軸32~44cm、深さ25~40cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とし、軽石(As-Kk)を混在する。
所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を混在することから、本建物の時期は中世以降と考えられる。

1区4号掘立柱建物 (第85図、第4表)

平成25年度の調査で検出され、整理時に掘立柱建物として遺構認定した。1区1号掘立柱建物および1区1号柱穴列、1区58号土坑と重複する。

位置：1-A区東側の北壁際付近に位置し、1区1号掘立柱建物の南半に重複し、1区1号柱穴列が中央に重複する。

グリッド：2L・2M-135~137

座標値：X=61,186~61,193 Y=-93,673~93,684

重複：重複する各遺構との新旧は不明。

形状：長方形

規模：桁行方向10.76m 梁行方向2.36m

長軸方向：N-62°-W

検出状況・埋没土：検出された柱穴はP1~9の9基で、桁行5間、梁行1間の掘立柱建物となるが、北辺の柱穴は不明な箇所もある。各柱間の距離は、桁行方向で2.2~6.46m、梁行方向で2.2m前後を測る。各柱穴は概ね円形に近い楕円形を呈し、その規模は長軸26~68cm、短軸22~54cm、深さ20~46cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とし、軽石(As-Kk)を混在する。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を混在することから、本建物の時期は中世以降と考えられる。

(3) 柱穴列

本調査区で検出された中世以降の柱穴列は、第1面調査において1-A区に1カ所検出された。

1区1号柱穴列 (第85図、第5表)

平成25年度の調査で検出した。1区1・4号掘立柱建物と重複する。

位置：1-A区東側の北壁際付近に位置し、1区1号掘立柱建物の南半に重複し、1区4号掘立柱建物の中央に重複する。

グリッド：2L~2N-135~139

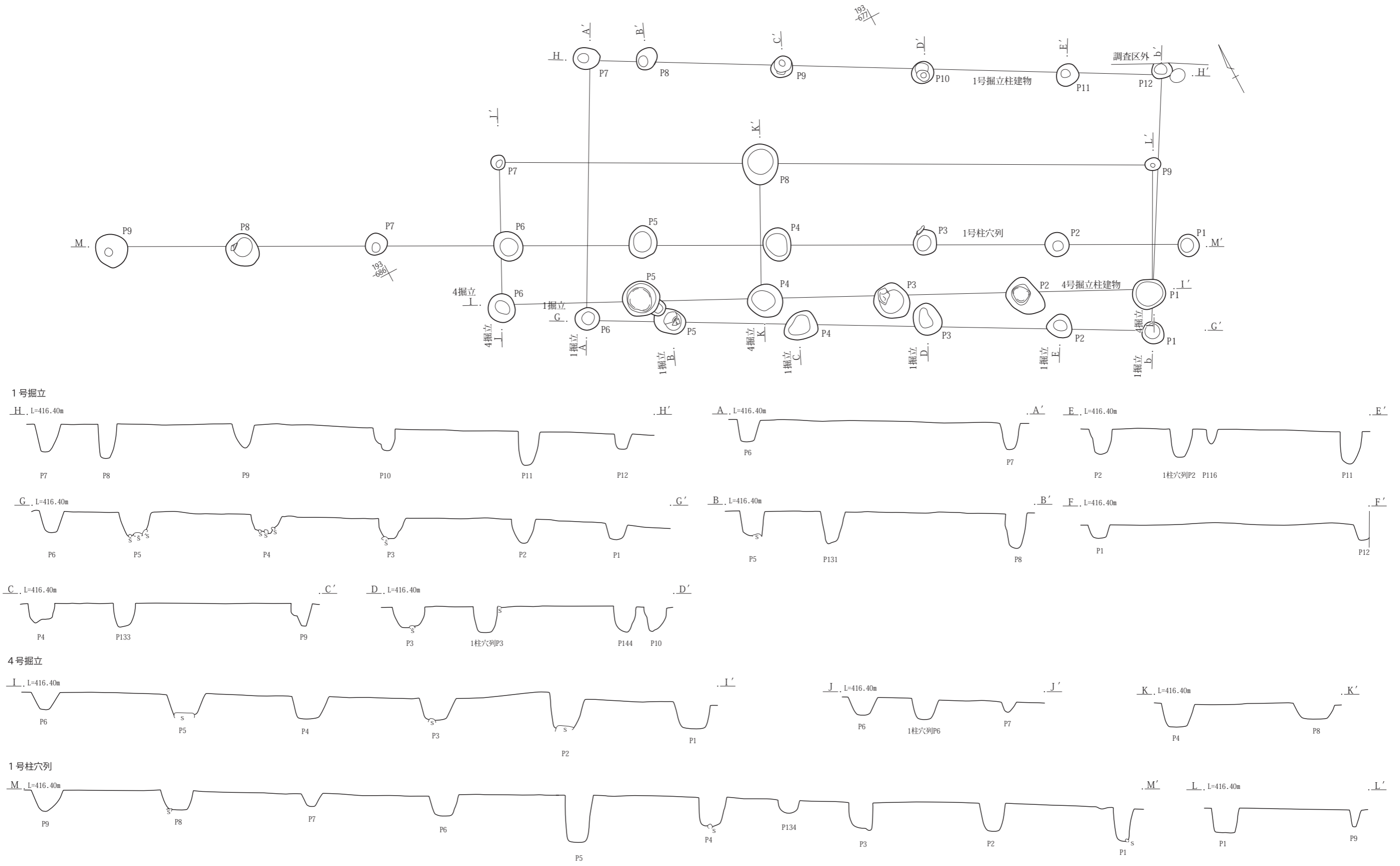
座標値：X=61,187~61,195 Y=-93,673~93,690

重複：重複する1区1・4号掘立柱建物との新旧は不明。

規模：長さ17.8m

長軸方向：N-81°-W

検出状況・埋没土：検出された柱穴はP1~9の9基で、



第85图 1区1·4号掘立柱建物、1号柱穴列 平·断面图

長軸方向8間の柱穴列となる。この柱穴列の南北両側に併走する柱穴はなく、柱間の距離は2.13~2.46mを測る。各柱穴は概ね円形に近い楕円形を呈し、その規模は長軸38~52cm、短軸34~45cm、深さ25~75cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とし、軽石(As-Kk)を混在する。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を混在することから、本柱穴列の時期は中世以降と考えられる。

(4)土坑

本調査区で検出された中世以降の土坑は、第1面調査(一部は第2面調査)において調査区全体から検出された。その数は86基である。各土坑の埋土中に、As-Kkを混在することが特徴である。なお、形状分類については、円形および方形を除く長方形から長楕円形の土坑に対し、次の基準で類別した。A類：2.0m以下の短い類、B類：2.0~5.0mのやや長い類、C類：5.0~10.0mの長い類、D類：10.0mを超える極端に長い類。

以下、各土坑ごとに記載する。(第6表 1区土坑一覧を参照)

1区2号土坑 (第86図、第6表、PL.14)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東端付近に位置する。北側に1区6号土坑がある。

グリッド：2J-134

座標値：X=61,176・61,177 Y=-93,666・93,667

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長楕円形(A類)

規模：長軸1.60m 短軸0.48m 深さ10cm

長軸方向：N-51°-W

埋没土：As-Kkを混在する暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を混在することから、時期は中世以降と考えられる。

1区5号土坑 (第6表、PL.14)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東端付近に位置する。北側に1区2・12号土坑がある。

グリッド：2I-135

座標値：X=61,173 Y=-93,670・93,671

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状：円形

規模：径0.49m 深さ17cm

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区6号土坑 (第86図、第6表、PL.14)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東端壁際に位置する。南側に1区2号土坑がある。

グリッド：2J・2K-133

座標値：X=61,179・61,180 Y=-93,663・93,664

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。東側は調査区境で未完掘。土師器・須恵器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸(1.48)m 短軸1.37m 深さ14cm

長軸方向：N-65°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土と黒色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区11号土坑 (第6表、PL.14)

平成25年度の調査で検出した。1区42号土坑と重複する。

位置：1-A区の東側中央に位置する。北端を1区42号土坑と重複する。

グリッド：2J-136

座標値：X=61,178・61,179 Y=-93,676・93,677

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。須恵器の細片が僅かに出土している。

第4章 検出された遺構と遺物

形状(分類)：長楕円形(A類)

規模：長軸0.82m 短軸0.33m 深さ6cm

長軸方向：N-48°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区12号土坑 (第6表、PL.14)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東端付近に位置する。東側に1区2号土坑がある。

グリッド：2J-135

座標値：X=61,178・61,179 Y=-93,670

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。東側は調査区境で未完掘。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長楕円形(A類)

規模：長軸0.54m 短軸0.28m 深さ4cm

長軸方向：N-40°-W

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面であることから、時期は中世以降の可能性が高い。

1区14号土坑 (第86図、第6表、PL.14)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東側中央に位置する。北東側に1区11・42号土坑がある。

グリッド：2J-136・137

座標値：X=61,177・61,178 Y=-93,679・93,680

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.23m 短軸0.52m 深さ11cm

長軸方向：N-30°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とし、礫を含む。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区15号土坑 (第86図、第6表)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の東側中央付近に位置する。北側に1区53・54・58・135号土坑がある。

グリッド：2K・2L-136

座標値：X=61,184・61,185 Y=-93,678・93,679

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸(0.73)m 短軸0.85m 深さ16cm

長軸方向：N-20°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区17号土坑 (第6表)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の北壁中央の東寄り付近に位置する。南東側に1区50号土坑が近接する。

グリッド：2M-137

座標値：X=61,192・61,193 Y=-93,680

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状：円形

規模：径0.58m 深さ46cm

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区22号土坑 (第86図、第6表)

平成25年度の調査で検出した。1区23号土坑と重複する。

位置：1-A区北壁の中央付近に位置する。北側を1区23号土坑と重複し、1区24号土坑が近接する。

グリッド：2N-139・140

座標値：X=61,197・61,198 Y=-93,694・93,695

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、

本土坑の方が古い。土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.63m 短軸1.14m 深さ23cm

長軸方向：N-85°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区23号土坑 (第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。1区22号土坑と重複する。

位置：1-A区北壁の中央付近に位置する。南側を1区22号土坑と重複し、西側に1区24号土坑が隣接する。

グリッド：2N-139

座標値：X=61,198・61,199 Y=-93,693・93,694

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、本土坑の方が新しい。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.30m 短軸1.21m 深さ8cm

長軸方向：N-68°-W

埋没土：As-Kkを含む茶褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区24号土坑 (第86図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区北壁の中央付近に位置する。東側に1区23号土坑が隣接する。

グリッド：2N・2O-139・140

座標値：X=61,198~61,200 Y=-93,694・93,695

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器の細片が少量出土している。

形状：方形

規模：長軸1.15m 短軸1.06m 深さ23cm

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区25号土坑 (第86図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区北壁の中央西寄り付近に位置する。南西側に1区39号土坑が近接する。

グリッド：2O・2P-140・141

座標値：X=61,203~61,205 Y=-93,697~93,700

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器・須恵器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸3.25m 短軸0.64m 深さ62cm

長軸方向：N-51°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区27号土坑 (第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区東側中央の北寄りに位置する。西側に1区135号土坑がある。

グリッド：2K・2L-135

座標値：X=61,184・61,185 Y=-93,670・93,671

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長楕円形(A類)

規模：長軸1.35m 短軸0.90m 深さ58cm

長軸方向：N-62°-W

埋没土：As-Kkを僅かに含む黒褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区32号土坑 (第87図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の中央北寄りに位置する。東側に1区22号土坑、西側に1区134号土坑が近接する。

グリッド：2N-140

座標値：X=61,197・61,198 Y=-93,696・93,697

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。須恵器の細片

第4章 検出された遺構と遺物

が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.41m 短軸0.85m 深さ56cm

長軸方向：N-1°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とし、礫を多く含む。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区33号土坑 (第86図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の中央北西寄りに位置する。北側に1区45号土坑が隣接する。

グリッド：2N-141

座標値：X=61,196~61,198 Y=-93,700~93,702

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器・須恵器の細片が多量に出土している。

形状(分類)：長楕円形(B類)

規模：長軸2.44m 短軸0.47m 深さ46cm

長軸方向：N-55°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区35号土坑 (第87図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の北東寄りに位置する。北側に1区36号土坑が近接する。

グリッド：2N・2O-141

座標値：X=61,199・61,200 Y=-93,703・93,704

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状：方形

規模：長軸1.34m 短軸1.10m 深さ42cm

長軸方向：N-39°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区36号土坑 (第87図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。1区37号土坑と重複する。

位置：1-A区西側の北東寄りに位置する。北西側を1区37号土坑と重複し、北側に1区39号土坑が近接する。

グリッド：2O-141

座標値：X=61,201~61,203 Y=-93,701~93,703

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、本土坑の方が新しい。土師器・須恵器の細片が出土している。

形状：方形

規模：長軸2.09m 短軸1.80m 深さ37cm

長軸方向：N-45°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区37号土坑 (第87図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。1区36・38号土坑と重複する。

位置：1-A区西側の北東寄りに位置する。北側を1区38号土坑と重複し、南側を1区36号土坑と重複する。

グリッド：2O-141

座標値：X=61,203・61,204 Y=-93,701・93,702

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、いずれの土坑よりも本土坑の方が古い。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸(1.13)m 短軸0.98m 深さ47cm

長軸方向：N-27°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区38号土坑 (第87図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。1区37号土坑と重複する。

位置：1-A区西側の北東寄りに位置する。南側を1区

37号土坑と重複し、東側に1区39号土坑が隣接する。
 グリッド：20-141
 座標値：X=61,203・61,204 Y=-93,701・93,702
 検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、本土坑の方が新しい。遺物等の出土はない。
 形状(分類)：楕円形(A類)
 規模：長軸0.91m 短軸0.61m 深さ27cm
 長軸方向：N-39°-E
 埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。
 所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区39号土坑 (第87図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。
 位置：1-A区西側の北東寄りに位置する。西側に1区37・38号土坑が隣接する。
 グリッド：20-141
 座標値：X=61,203・61,204 Y=-93,700・93,701
 検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器の細片が僅かに出土している。
 形状(分類)：長方形(A類)
 規模：長軸1.46m 短軸1.01m 深さ19cm
 長軸方向：N-44°-E
 埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。
 所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区40号土坑 (第88図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。1区41号土坑と重複する。
 位置：1-A区西側の東寄りに位置する。北西側を1区41号土坑と重複する。
 グリッド：2M・2N-142
 座標値：X=61,194~61,197 Y=-93,705~93,708
 検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。土師器・須恵器の細片が出土している。
 形状(分類)：不整形(B類)

規模：長軸3.01m 短軸2.66m 深さ34cm
 長軸方向：N-50°-E
 埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。
 所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区41号土坑 (第88図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。1区40号土坑と重複する。
 位置：1-A区西側の東寄りに位置する。土坑の大部分が1区40号土坑と重複する。
 グリッド：2N-142
 座標値：X=61,195~61,197 Y=-93,706~93,708
 検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)
 規模：長軸1.72m 短軸1.23m 深さ44cm
 長軸方向：N-42°-W
 埋没土：As-Kkを含む黄褐色土を埋土とする。
 所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区42号土坑 (第88図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。1区11号土坑・1区1号墓壙と重複する。
 位置：1-A区の東側中央に位置する。南側に1区11号土坑が重複し、1区1号墓壙の直上に重複する。
 グリッド：2J・2K-135・136
 座標値：X=61,178~61,180 Y=-93,674~93,676
 検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、1区1号墓壙より本土坑の方が新しく、1区11号土坑とは不明。遺物等の出土はない。

形状：方形
 規模：長軸1.99m 短軸1.80m 深さ23cm
 長軸方向：N-36°-E
 埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。
 所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区44号土坑 (第88図、第6表)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区中央の北東寄りに位置する。

グリッド：2M-137

座標値：X=61,190・61,191 Y=-93,683・93,684

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸(0.75)m 短軸0.51m 深さ33cm

長軸方向：N-57°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区45号土坑 (第89図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。1区46号土坑と重複する。

位置：1-A区の中央北西寄りに位置する。1区45号土坑が直上に重複し、南側に1区33号土坑が隣接する。

グリッド：2N・2O-140・141

座標値：X=61,197~61,200 Y=-93,698~93,701

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、本土坑の方が新しい。土師器・須恵器片が多量に出土している。

形状(分類)：不整形(B類)

規模：長軸3.46m 短軸2.13m 深さ73cm

長軸方向：N-20°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とし、礫を多く含む。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区46号土坑 (第89図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。1区45号土坑と重複する。

位置：1-A区の中央北西寄りに位置する。1区45号土坑の直上に重複し、東側に1区134号土坑が隣接する。

グリッド：2N-140

座標値：X=61,198・61,199 Y=-93,698

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、本土坑の方が古い。土師器・須恵器片が多量に出土している。

形状：円形

規模：長軸0.80m 短軸0.79m 深さ1.05cm

埋没土：As-Kkを含む黄褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区49号土坑 (第88図、第6表、PL.15)

平成25年度の調査で検出した。1区134号土坑と重複する。

位置：1-A区の中央北寄りに位置する。西半を1区134号土坑と重複する。

グリッド：2M-140

座標値：X=61,193・61,194 Y=-93,698・93,699

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。遺物等の出土はない。

形状：円形

規模：長軸(0.94)m 短軸0.92m 深さ27cm

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土と茶褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区50号土坑 (第6表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区中央の北東寄りに位置する。

グリッド：2M-136・137

座標値：X=61,191・61,192 Y=-93,679・93,680

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.68m 短軸0.60m 深さ25cm

長軸方向：N-32°-E

埋没土：As-Kkを僅かに含む黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区51号土坑（第88図、第6表、PL.16）

平成25年度の調査で検出した。1区52号土坑と重複する。

位置：1-A区北壁の中央西寄り付近に位置する。東半を1区52号土坑が重複する。

グリッド：20-139・140

座標値：X=61,201・61,202 Y=-93,694・93,695

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、本土坑の方が新しい。土師器片が出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.85m 短軸1.03m 深さ30cm

長軸方向：N-57°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とし、礫を多く含む。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区52号土坑（第88図、第6表、PL.16）

平成25年度の調査で検出した。1区51号土坑と重複する。

位置：1-A区北壁の中央西寄り壁際に位置する。大きく1区51号土坑と重複する。

グリッド：20-139

座標値：X=61,200~61,203 Y=-93,693・93,694

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、本土坑の方が古い。土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：長楕円形(B類)

規模：長軸(2.26)m 短軸0.57m 深さ24cm

長軸方向：N-12°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区53号土坑（第89図、第6表、PL.16）

平成25年度の調査で検出した。1区58号土坑と重複する。

位置：1-A区の東側中央付近に位置する。大きく1区58号土坑と重複する。

グリッド：2L-136

座標値：X=61,186~61,188 Y=-93,677・93,678

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、本土坑の方が新しい。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.36m 短軸0.86m 深さ56cm

長軸方向：N-30°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区54号土坑（第89図、第6表、PL.16）

平成25年度の調査で検出した。1区58・135号土坑と重複する。

位置：1-A区の東側中央付近に位置する。大きく1区58号土坑と重複し、南側を1区135号土坑と重複する。

グリッド：2L-136

座標値：X=61,186 Y=-93,676

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、1区58号土坑より本土坑の方が新しく、1区135号土坑とは不明。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長楕円形(A類)

規模：長軸(0.82)m 短軸0.27m 深さ19cm

長軸方向：N-31°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区58号土坑（第89図、第6表、PL.16）

平成25年度の調査で検出した。1区53・54・135号土坑と重複する。

位置：1-A区の東側中央付近に位置する。西側を1区53号土坑、東側を1区54・135号土坑と重複する。

グリッド：2L-136

座標値：X=61,186・61,187 Y=-93,676~93,678

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、いずれの土坑よりも本土坑の方が古い。遺物等の出土

はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸(2.06)m 短軸1.29m 深さ57cm

長軸方向：N-62°-W

埋没土：鈍い黄褐色土およびAs-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区59号土坑 (第6表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の西側中央付近に位置する。西側に1区2号墓壙が近接する。

グリッド：2N・2O-142

座標値：X=61,199・61,200 Y=-93,707

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.50m 短軸0.36m 深さ26cm

長軸方向：N-14°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区62号土坑 (第6表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央北西寄りに位置する。東側に1区73号土坑が近接する。

グリッド：2P-144

座標値：X=61,205 Y=-93,716・93,717

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.70m 短軸0.57m 深さ14cm

長軸方向：N-59°-W

埋没土：暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面であることから、時期は中世以降と考えられる。

1区63号土坑 (第6表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央付近に位置する。東側に1区69号土坑、西側に1区76号土坑が近接する。

グリッド：2N-144

座標値：X=61,198・61,199 Y=-93,718・93,719

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.54m 短軸0.43m 深さ22cm

長軸方向：N-48°-E

埋没土：暗褐色土と茶褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面であることから、時期は中世以降と考えられる。

1区64号土坑 (第6表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央付近に位置する。東側に1区69号土坑、南西側に1区72号土坑が近接する。

グリッド：2O-143

座標値：X=61,201 Y=-93,713

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器・須恵器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.74m 短軸0.59m 深さ29cm

長軸方向：N-77°-W

埋没土：暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面であることから、時期は中世以降と考えられる。

1区65号土坑 (第6表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央西寄りに位置する。東側に1区76号土坑が近接する。

グリッド：2N-145

座標値：X=61,198・61,199 Y=-93,721・93,722

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土

はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.60m 短軸0.54m 深さ29cm

長軸方向：N-26°-W

埋没土：暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面であることから、時期は中世以降と考えられる。

1区66号土坑 (第89図、第6表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央西寄りに位置する。北側に1区76号土坑が近接する。

グリッド：2N-144・145

座標値：X=61,196 Y=-93,719・93,720

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器の細片が僅かに出土している。

形状：方形

規模：長軸0.74m 短軸0.72m 深さ19cm

長軸方向：N-32°-E

埋没土：As-Kkを含む灰褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区68号土坑 (第89図、第6表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の南西壁寄りに位置する。西側に1区82号土坑がある。

グリッド：2L-145

座標値：X=61,186~61,188 Y=-93,721~93,723

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器・須恵器片が出土している。

形状(分類)：楕円形(B類)

規模：長軸2.26m 短軸2.01m 深さ27cm

長軸方向：N-84°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区69号土坑 (第89図、第6表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央に位置する。西側に1区63号土坑が近接する。

グリッド：2N-144

座標値：X=61,198・61,199 Y=-93,717・93,718

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器片が出土している。

形状(分類)：長楕円形(A類)

規模：長軸1.53m 短軸0.57m 深さ38cm

長軸方向：N-31°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区71号土坑 (第90・95図、第6・61表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。1区81号土坑、1区1号畠と重複する。

位置：1-A区西側の中央に位置する。土坑中央に1区81号土坑、北端に1区1号畠が重複する。

グリッド：2M・2N-143

座標値：X=61,194~61,199 Y=-93,712~93,714

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、1区1号畠より本土坑の方が新しく、1区81号土坑とは不明。出土遺物には、図示した1の須恵器の杯蓋、他に土師器・須恵器片がある。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸4.88m 短軸0.58m 深さ51cm

長軸方向：N-22°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土と茶褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区72号土坑 (第90図、第6表、PL.16)

平成25年度の調査で検出した。1区1号畠と重複する。

位置：1-A区西側の中央に位置する。土坑の東端が1区1号畠と重複する。

グリッド：2O-143・144

第4章 検出された遺構と遺物

座標値：X=61,200~61,202 Y=-93,713~93,717

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、1区1号畠より本土坑の方が新しい。土師器・須恵器片が出土している。

形状(分類)：長楕円形(B類)

規模：長軸3.89m 短軸0.46m 深さ35cm

長軸方向：N-65°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区73号土坑 (第91図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。1区74号土坑と重複する。

位置：1-A区西側の中央に位置する。東側を1区74号土坑と重複する。

グリッド：2O・2P-143・144

座標値：X=61,202~61,205 Y=-93,712~93,716

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、1区74号土坑より本土坑の方が古い。土師器片が出土している。

形状(分類)：楕円形(B類)

規模：長軸3.01m 短軸2.89m 深さ39cm

長軸方向：N-41°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区74号土坑 (第91図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。1区73号土坑と重複する。

位置：1-A区西側の中央に位置する。北半を1区73号土坑と重複する。

グリッド：2O・2P-143

座標値：X=61,202~61,204 Y=-93,712・93,713

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、1区73号土坑より本土坑の方が新しい。土師器の細片

が出土している。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸2.83m 短軸0.62m 深さ36cm

長軸方向：N-13°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を主体とし、礫を含む。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区76号土坑 (第90図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央西寄りに位置する。東側に1区63号土坑、西側に1区65号土坑が近接する。

グリッド：2N・2O-144・145

座標値：X=61,198~61,201 Y=-93,719・93,720

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器・須恵器片が出土している。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸3.00m 短軸0.66m 深さ44cm

長軸方向：N-10°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区77号土坑 (第90図、第6表)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央北寄りに位置する。南側に1区79号土坑が近接する。

グリッド：2O・2P-143

座標値：X=61,204・61,205 Y=-93,710・93,711

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状：円形

規模：長軸0.51m 短軸0.47m 深さ16cm

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区78号土坑（第90図、第6表、PL.17）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央南寄りに位置する。

グリッド：2L・2M-144

座標値：X=61,189・61,190 Y=-93,716・93,717

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器片が出土している。

形状(分類)：不整楕円形(A類)

規模：長軸1.18m 短軸0.28m 深さ21cm

長軸方向：N-47°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区79号土坑（第90図、第6表、PL.17）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央北寄りに位置する。東側に1区80号土坑が接するようにある。

グリッド：2O-143

座標値：X=61,203 Y=-93,710・93,711

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器片が出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.74m 短軸0.59m 深さ25cm

長軸方向：N-58°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土と茶褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区80号土坑（第90図、第6表、PL.17）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央北寄りに位置する。西側に1区79号土坑が接するようにある。

グリッド：2O-143

座標値：X=61,202・61,203 Y=-93,710

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.47m 短軸0.40m 深さ24cm

長軸方向：N-22°-W

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区81号土坑（第91図、第6表、PL.17）

平成25年度の調査で検出した。1区71号土坑と重複する。

位置：1-A区西側の中央に位置する。1区71号土坑の中央に重複する。

グリッド：2N-143

座標値：X=61,195・61,196 Y=-93,713・93,714

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。土師器・須恵器片が出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸(1.13)m 短軸0.80m 深さ51cm

長軸方向：N-72°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区82号土坑（第91図、第6表、PL.17）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の南西壁際に位置する。東側に1区68号土坑がある。

グリッド：2L・2M-146

座標値：X=61,189・61,190 Y=-93,725・93,726

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸0.91m 短軸0.41m 深さ26cm

長軸方向：N-51°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区83号土坑 (第91図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区西側の中央西寄りに位置する。南東側に1区76号土坑がある。

グリッド：20-145

座標値：X=61,202・61,203 Y=-93,722・93,723

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.01m 短軸0.56m 深さ28cm

長軸方向：N-7°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区86号土坑 (第91・95図、第6・61表、PL.17・175)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。南側に1区5号溝が近接する。

グリッド：2L-139・140

座標値：X=61,185~61,187 Y=-93,694~93,696

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。出土遺物には図示した2の石鉢(粗粒輝石安山岩製)があり、他に土師器・須恵器片が出土している。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.80m 短軸1.48m 深さ38cm

長軸方向：N-31°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土と灰黄褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区88号土坑 (第91図、第6表)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。南側に1区89・90号土坑がある。

グリッド：2L-142

座標値：X=61,188 Y=-93,705

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.71m 短軸0.35m 深さ7cm

長軸方向：N-32°-E

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区89号土坑 (第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。東側に1区91・92号土坑が近接する。

グリッド：2L-142

座標値：X=61,185 Y=-93,706

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.58m 短軸0.34m 深さ49cm

長軸方向：N-13°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区90号土坑 (第91図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。南側に1区91・92号土坑が近接する。

グリッド：2L-141

座標値：X=61,185・61,186 Y=-93,703・93,704

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。須恵器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.80m 短軸0.42m 深さ12cm

長軸方向：N-55°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土および鈍い黄褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区91号土坑 (第92図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。北側に1区90号土坑、南側に1区92号土坑が近接する。

グリッド：2K・2L-141・142

座標値：X=61,184・61,185 Y=-93,703~93,705

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.46m 短軸0.63m 深さ27cm

長軸方向：N-44°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区92号土坑 (第92図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。北側に1区91号土坑、南側に1区93号土坑が近接する。

グリッド：2K-142

座標値：X=61,184 Y=-93,705

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.85m 短軸0.50m 深さ22cm

長軸方向：N-13°-E

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土および鈍い黄褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区93号土坑 (第92図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。北側に1区92号土坑が近接する。

グリッド：2K-142

座標値：X=61,182~61,184 Y=-93,705~93,707

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器・須恵器片が僅かに出土している。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸2.18m 短軸0.59m 深さ37cm

長軸方向：N-52°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区94号土坑 (第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区の中央南寄りに位置する。北東側に1区93号土坑がある。

グリッド：2L-142

座標値：X=61,181 Y=-93,708

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.53m 短軸0.28m 深さ20cm

長軸方向：N-28°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区96号土坑 (第92図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。北側に1区91・97号土坑、東側に1区98号土坑が近接する。

グリッド：2K-141

座標値：X=61,182・61,183 Y=-93,702・93,703

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。須恵器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.15m 短軸0.71m 深さ28cm

長軸方向：N-55°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区97号土坑 (第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。北側に1区106号土坑、南側に1区96号土坑が近接する。

グリッド：2K・2L-141

座標値：X=61,184・61,185 Y=-93,702

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.83m 短軸0.55m 深さ17cm

長軸方向：N-65°-E

埋没土：暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面であることから、時期は中世以降と考えられる。

1区98号土坑 (第92図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。東側に1区105号土坑、西側に1区96号土坑が近接する。

グリッド：2K-141

座標値：X=61,182・61,183 Y=-93,701・93,702

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.74m 短軸0.38m 深さ11cm

長軸方向：N-11°-E

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区100号土坑 (第92図、第6表、PL.17)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区中央の南西壁付近に位置する。

グリッド：2J・2K-144

座標値：X=61,179~61,181 Y=-93,715・93,716

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器片が出土している。

形状(分類)：長楕円形(A類)

規模：長軸1.81m 短軸0.55m 深さ35cm

長軸方向：N-27°-E

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区103号土坑 (第92図、第6表)

平成25年度の調査で検出した。1区2号畠と重複する。

位置：1-A区中央のやや南寄りに位置する。1区2号畠の西側に重複し、北側に1区104土坑、東側に1区107号土坑がある。

グリッド：2J-141

座標値：X=61,175~61,177 Y=-93,703・93,704

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。土師器・須恵器片が出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.50m 短軸0.74m 深さ39cm

長軸方向：N-32°-E

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区104号土坑 (第92図、第6表、PL.18)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区中央のやや南寄りに位置する。南側に1区103土坑がある。

グリッド：2J・2K-141

座標値：X=61,178~61,180 Y=-93,700~93,703

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長楕円形(B類)

規模：長軸3.03m 短軸0.50m 深さ55cm

長軸方向：N-65°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区105号土坑（第93図、第6表、PL.17）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。西側に1区98号土坑が近接する。

グリッド：2K-140・141

座標値：X=61,182・61,183 Y=-93,699~93,701

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器・須恵器片が出土している。

形状(分類)：不整形(B類)

規模：長軸2.64m 短軸0.72m 深さ43cm

長軸方向：N-76°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区106号土坑（第92図、第6表、PL.17）

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。南側に1区97号土坑が近接する。

グリッド：2L-141

座標値：X=61,185・61,186 Y=-93,702・93,703

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。土師器・須恵器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：不整楕円形(A類)

規模：長軸1.50m 短軸0.37m 深さ19cm

長軸方向：N-59°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土と鈍い黄褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区107号土坑（第92図、第6表）

平成25年度の調査で検出した。1区2号畠と重複する。

位置：1-A区中央の南寄りに位置する。1区2号畠の南側に重複し、西側に1区103号土坑がある。

グリッド：2I・2J-141

座標値：X=61,174・61,175 Y=-93,700・93,701

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。遺物等の出土はない。

形状(分類)：不整形(A類)

規模：長軸1.09m 短軸0.88m 深さ23cm

長軸方向：N-79°-E

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区108号土坑（第93図、第6表、PL.18）

平成25年度の調査で検出した。1区2号畠と重複する。

位置：1-A区中央の南東寄りに位置する。1区2号畠の東側に重複し、北側に1区109号土坑、西側に1区110号土坑がある。

グリッド：2J-140

座標値：X=61,175・61,176 Y=-93,695・93,696

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：不整形(A類)

規模：長軸1.53m 短軸0.53m 深さ45cm

長軸方向：N-17°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区109号土坑（第93図、第6表、PL.18）

平成25年度の調査で検出した。1区2号畠と重複する。

位置：1-A区中央の南東寄りに位置する。1区2号畠の東側に重複し、南側に1区108号土坑が近接する。

グリッド：2J-139・140

座標値：X=61,177・61,178 Y=-93,693~93,695

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認

第4章 検出された遺構と遺物

認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。遺物等の出土はない。

形状(分類)：不整形(A類)

規模：長軸1.69m 短軸1.15m 深さ15cm

長軸方向：N-6°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区110号土坑 (第93図、第6表)

平成25年度の調査で検出した。1区2号畠と重複する。

位置：1-A区中央の南東寄りに位置する。1区2号畠の東側に重複し、東側に1区108号土坑が近接する。

グリッド：2J-140

座標値：X=61,176・61,177 Y=-93,696・93,697

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。遺物等の出土はない。

形状：円形

規模：径0.68m 深さ26cm

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区111号土坑 (第93図、第6表、PL.18)

平成25年度の調査で検出した。1区5号溝と重複する。

位置：1-A区東側の南壁付近に位置する。1区5号溝の南側に重複し、南側となる南壁際に1区112号土坑がある。

グリッド：2I-137

座標値：X=61,172・61,173 Y=-93,684

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.67m 短軸0.51m 深さ72cm

長軸方向：N-21°-W

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区112号土坑 (第93図、第6表)

平成25年度の調査で検出した。5号溝と重複する。

位置：1-A区東側の南壁際に位置する。1区5号溝の南側に重複し、北側に1区111号土坑がある。

グリッド：2H・2I-137・138

座標値：X=61,169・61,170 Y=-93,684・93,685

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は不明。小さな鉄滓が出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸(0.79)m 短軸1.14m 深さ29cm

長軸方向：N-40°-E

埋没土：As-Kkを多く含む暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区117号土坑 (第93図、第6表、PL.18)

平成27年度の調査で検出した。

位置：1-B区の南東側に位置する。

グリッド：2P-146・147

座標値：X=61,205~61,207 Y=-93,728~93,730

検出状況：1-B区の第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸(1.75)m 短軸0.68m 深さ34cm

長軸方向：N-49°-W

埋没土：As-Kkを少量含む黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区118号土坑 (第93図、第6表、PL.18)

平成27年度の調査で検出した。

位置：1-B区の中央付近に位置する。

グリッド：2Q・2R-147

座標値：X=61,214・61,215 Y=-93,732・93,733

検出状況：1-B区の第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸(2.05)m 短軸0.36m 深さ25cm

長軸方向：N-48°-W

埋没土：As-Kkを少量含む黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区119号土坑 (第94図、第6表、PL.18)

平成27年度の調査で検出した。

位置：1-B区の南壁際に位置する。

グリッド：2O-148

座標値：X=61,203・61,204 Y=-93,738・93,739

検出状況：1-B区の第2面調査時に検出された。土師器片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.14m 短軸1.00m 深さ68cm

長軸方向：N-45°-W

埋没土：As-Kkを含む黒褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区122号土坑 (第94・95図、第6・61表、PL.18・175)

平成28年度の調査で検出した。

位置：1-C区中央の北壁寄りに位置する。北西側に1区123号土坑がある。

グリッド：2N・2O-152

座標値：X=61,198~61,200 Y=-93,755・93,756

検出状況：1-C区北壁での基本層序VI層上面を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。出土遺物には図示した3の鉄製の刀子がある。

形状(分類)：隅丸長方形(B類)

規模：長軸2.05m 短軸0.83m 深さ83cm

長軸方向：N-37°-E

埋没土：As-Kkを含む黒褐色土と暗褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区123号土坑 (第94図、第6表、PL.18)

平成28年度の調査で検出した。

位置：1-C区中央の北壁寄りに位置する。南東側に1区122号土坑がある。

グリッド：2O-152

座標値：X=61,201~61,203 Y=-93,758・93,759

検出状況：1-C区北壁での基本層序VI層上面を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：隅丸長方形(A類)

規模：長軸1.98m 短軸0.84m 深さ88cm

長軸方向：N-40°-E

埋没土：As-Kkを含む褐色土から黒褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区124号土坑 (第6表、PL.18)

平成28年度の調査で検出した。

位置：1-C区西側の南壁際に位置する。北側に1区128号土坑が近接する。

グリッド：2Q-159

座標値：X=61,212・61,213 Y=-93,790・93,791

検出状況：1-C区北壁での基本層序VII層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.21m 短軸0.68m 深さ27cm

長軸方向：N-1°-W

埋没土：As-Kkを含む黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区125号土坑 (第6表、PL.18)

平成28年度の調査で検出した。

位置：1-C区西側の中央付近に位置する。東側に1区126号土坑が近接する。

グリッド：2Q-158

座標値：X=61,214 Y=-93,780

検出状況：1-C区北壁での基本層序VII層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状：円形

規模：径0.78m 深さ28cm

埋没土：As-Kkを含む黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区126号土坑 (第6表、PL.18)

平成28年度の調査で検出した。

位置：1-C区西側の北壁寄りに位置する。西側に1区125号土坑が近接する。

グリッド：2Q・2R-157・158

座標値：X=61,214 Y=-93,784・93,785

検出状況：1-C区北壁での基本層序Ⅶ層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状：円形

規模：径0.66m 深さ34cm

埋没土：As-Kkを含む褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区128号土坑 (第6表、PL.18)

平成28年度の調査で検出した。

位置：1-C区西側の中央付近に位置する。南側に1区124号土坑が近接する。

グリッド：2Q-158・159

座標値：X=61,214 Y=-93,789・93,790

検出状況：1-C区北壁での基本層序Ⅶ層上面を遺構確認面とした第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.71m 短軸0.58m 深さ27cm

長軸方向：N-11°-W

埋没土：As-Kkを含む黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区134号土坑 (第94図、第6表、PL.19)

平成25年度の調査で検出した。調査時は1区2号溝としていた。1区48・49号土坑と重複する。

位置：1-A区の中央北寄りに位置する。南端に1区49号土坑が重複し、東側に1区32号土坑が近接する。

グリッド：2M・2N-140

座標値：X=61,193~61,199 Y=-93,697~93,699

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は

不明。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長楕円形(B類)

規模：長軸5.94m 短軸0.33m 深さ20cm

長軸方向：N-21°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土と茶褐色土を主体とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区135号土坑 (第94図、第6表)

平成25年度の調査で検出した。調査時は1区4号溝としていた。1区54・58号土坑と重複する。

位置：1-A区の東側中央付近に位置する。西側に1区54・58号土坑と重複する。

グリッド：2K・2L-135・136

座標値：X=61,184~61,186 Y=-93,674~93,677

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、1区58号土坑より本土坑の方が新しく、1区54号土坑とは不明。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長楕円形(B類)

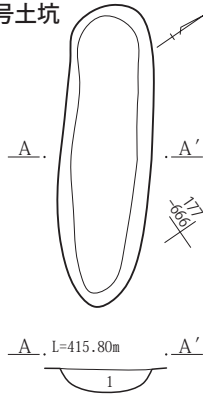
規模：長軸4.32m 短軸0.41m 深さ43cm

長軸方向：N-57°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

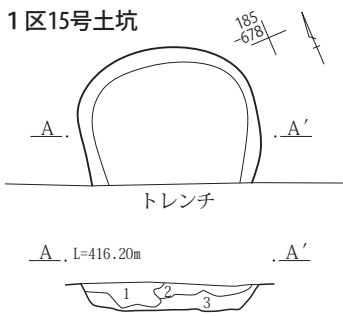
所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、本建物の時期は中世以降と考えられる。

1区2号土坑



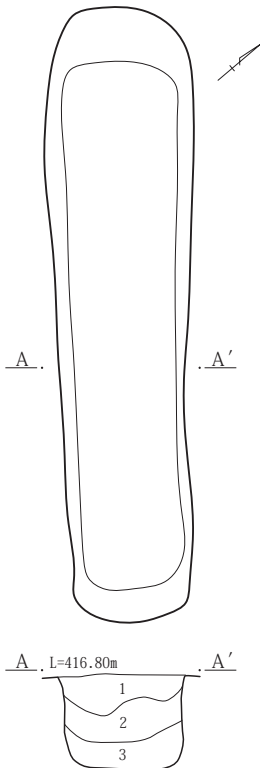
1 暗褐色土 軽石を多量、炭化物を少量含む

1区15号土坑



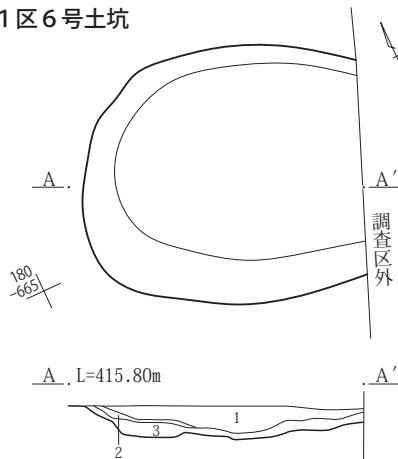
- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、軽石を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

1区25号土坑



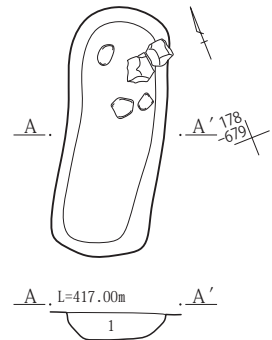
- 1 暗褐色土 ロームブロック・軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。

1区6号土坑



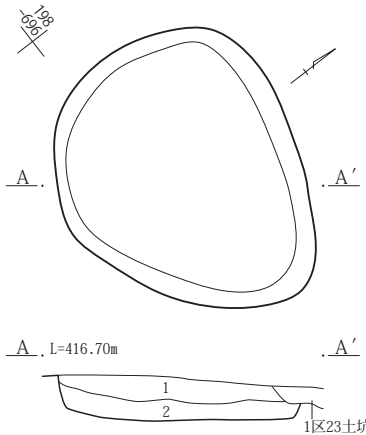
- 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒、軽石を含む。
- 2 黒色土 炭化物を多量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

1区14号土坑



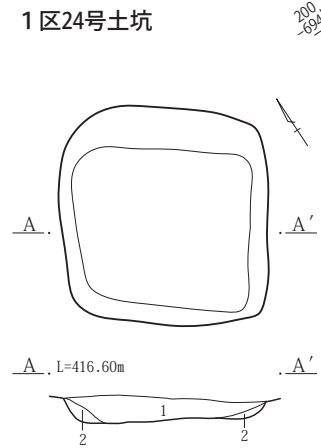
1 暗褐色土 軽石を含む。

1区22号土坑



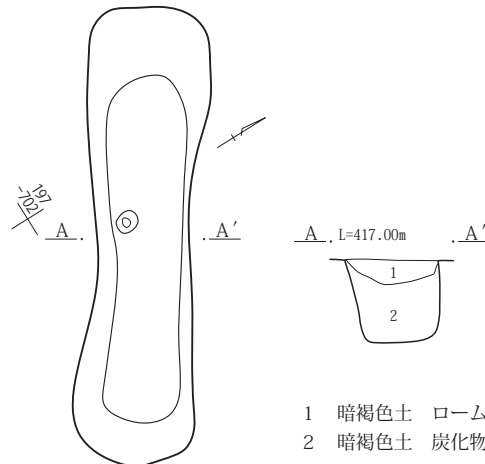
- 1 暗褐色土 ロームブロック・軽石を多量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。

1区24号土坑

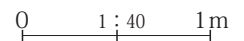


- 1 暗褐色土 軽石を多量、ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を含む。

1区33号土坑

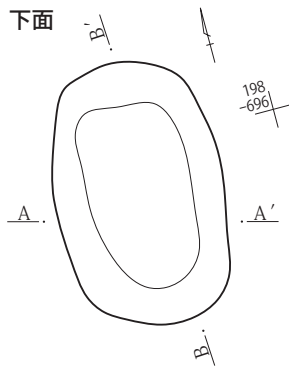
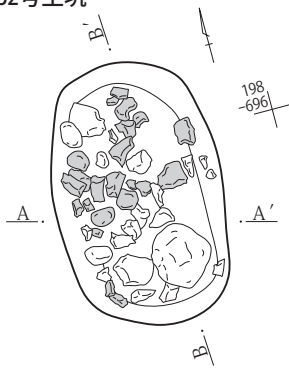


- 1 暗褐色土 ローム粒、軽石を含む。
- 2 暗褐色土 炭化物を少量、ロームブロックを多く含む。

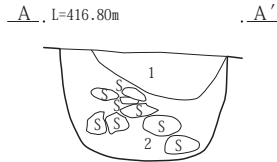


第86図 1区2・6・14・15・22・24・25・33号土坑 平・断面図

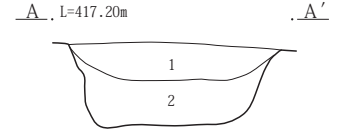
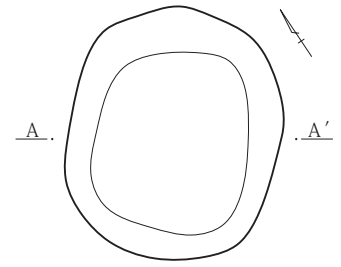
1区32号土坑
上面



- 1 暗褐色土 炭化粒を少量、ローム粒、軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。

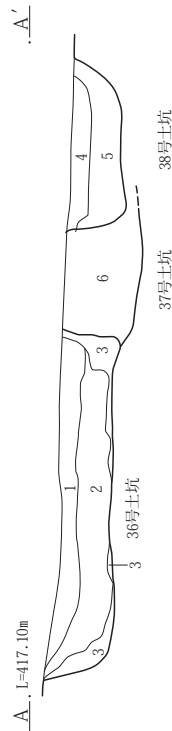
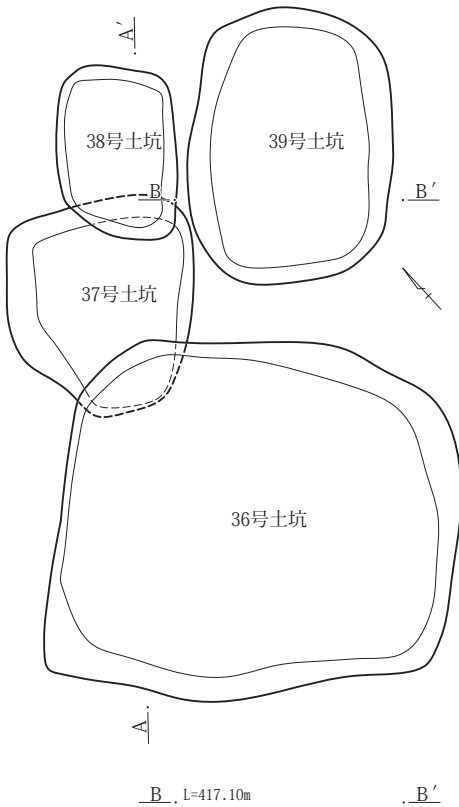


1区35号土坑



- 1 暗褐色土 ローム粒子、軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。

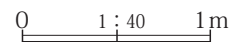
1区36~39号土坑



- 1 暗褐色土 ローム粒、軽石を含む。(36号土坑)
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。(36号土坑)
- 3 暗褐色土 ロームをやや多く含む。(36号土坑)
- 4 暗褐色土 ローム粒、軽石を含む。(38号土坑)
- 5 暗褐色土 ロームブロック・軽石を含む。(38号土坑)
- 6 暗褐色土 ロームブロックを多く、軽石を含む。(37号土坑)

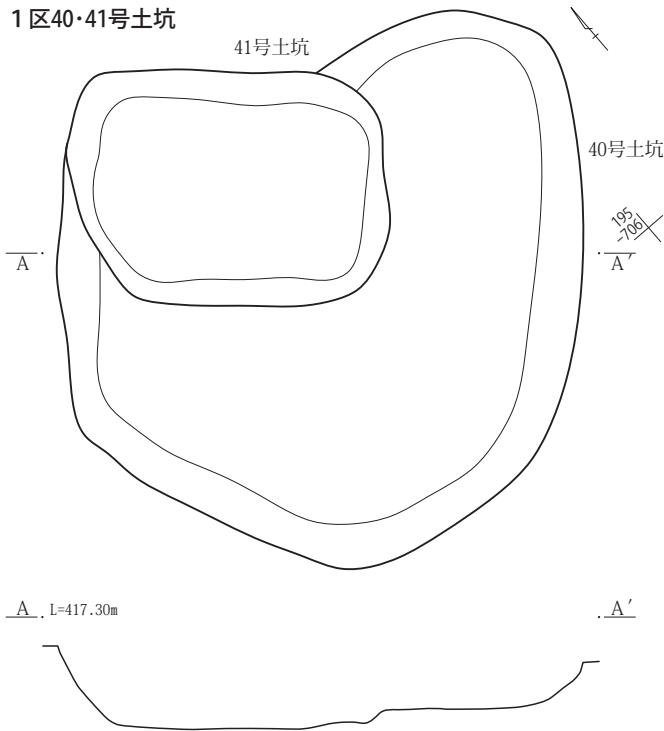


- 1 暗褐色土 ロームブロック・軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。

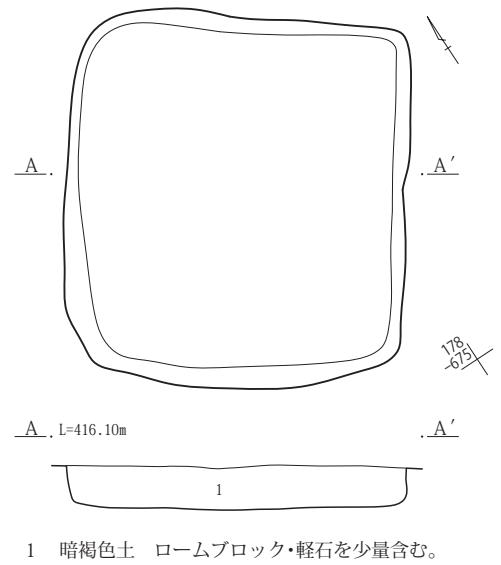


第87図 1区32・35~39号土坑 平・断面図

1区40・41号土坑

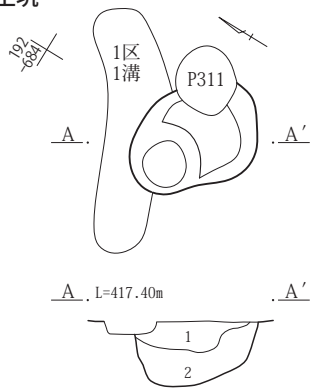


1区42号土坑



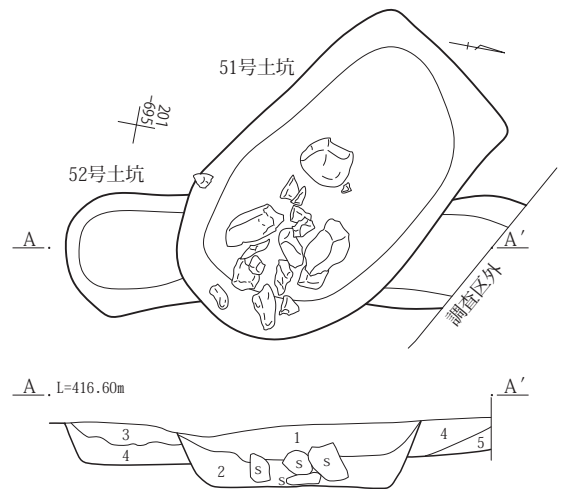
1 暗褐色土 ロームブロック・軽石を少量含む。

1区44号土坑



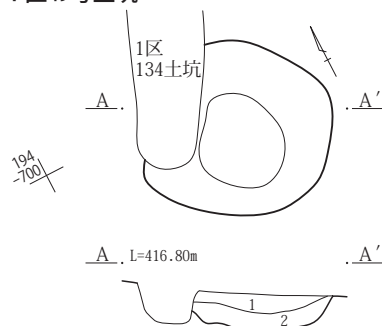
- 1 暗褐色土 炭化粒・焼土粒を少量、ローム粒・軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

1区51・52号土坑

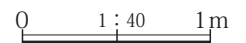


- 1 暗褐色土 白色粒を多く、ロームブロックを少量含む。(51号土坑)
- 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを少量含む。(51号土坑)
- 3 暗褐色土 ローム粒、軽石を含む。(52号土坑)
- 4 暗褐色土 ローム粒、軽石を少量含む。(52号土坑)
- 5 暗褐色土 ローム粒を含む。(52号土坑)

1区49号土坑

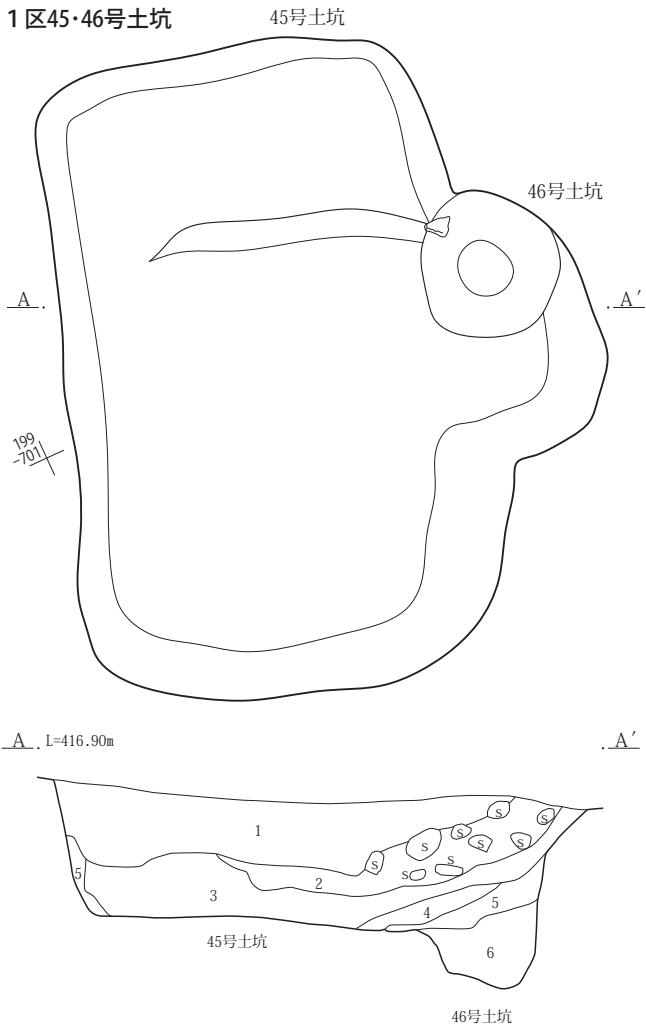


- 1 暗褐色土 炭化物・ローム粒、軽石を含む。
- 2 茶褐色土 ロームブロック・灰白色粘土ブロックを多量含む。

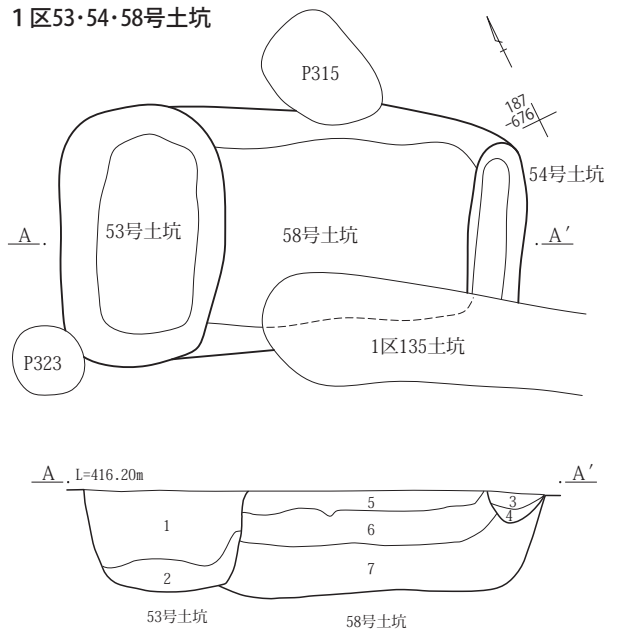


第88図 1区40～42・44・49・51・52号土坑 平・断面図

1区45・46号土坑



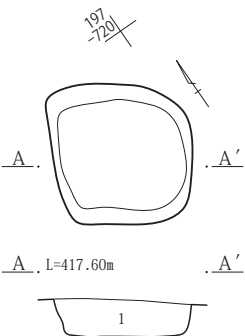
1区53・54・58号土坑



- 1 暗褐色土 軽石を多量、ロームブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・軽石を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、軽石を含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒、軽石を含む。
- 5 鈍い黄褐色土 ローム土と暗褐色土との混土。
- 6 暗褐色土 白色軽石粒・炭化粒・ローム粒を少量含む。
- 7 暗褐色土 2層よりやや暗い。軽石を含む。

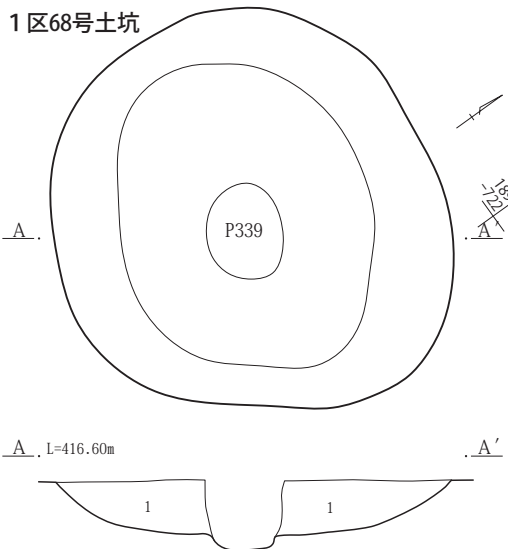
- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。(45号土坑)
- 2 暗褐色土 軽石を含む。(45号土坑)
- 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。(45号土坑)
- 4 暗褐色土 砂利・軽石を含む。(45号土坑)
- 5 暗褐色土 ロームブロックを含む。(45号土坑)
- 6 黄褐色土 ロームブロックを多量含む。(46号土坑)

1区66号土坑



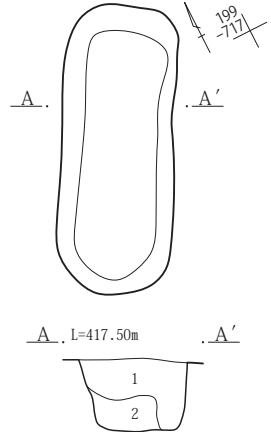
- 1 灰褐色土 軽石を含む。

1区68号土坑

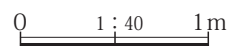


- 1 暗褐色土 軽石を含む。

1区69号土坑

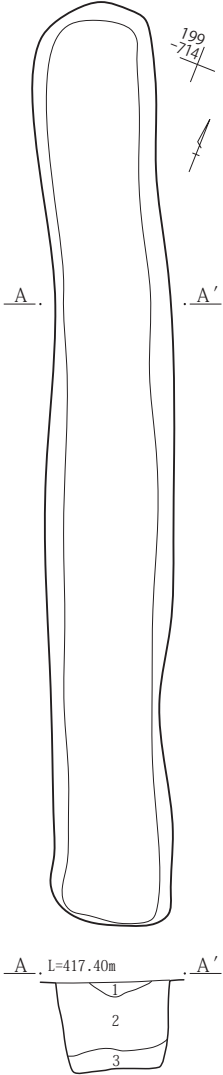


- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。
- 2 暗褐色土 軽石・ロームを含む。



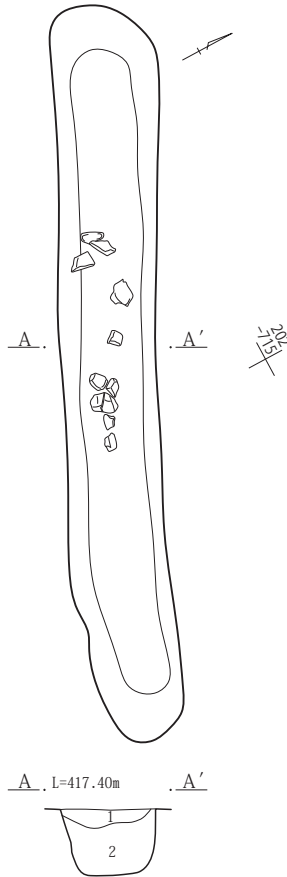
第89図 1区45・46・53・54・58・66・68・69号土坑 平・断面図

1区71号土坑



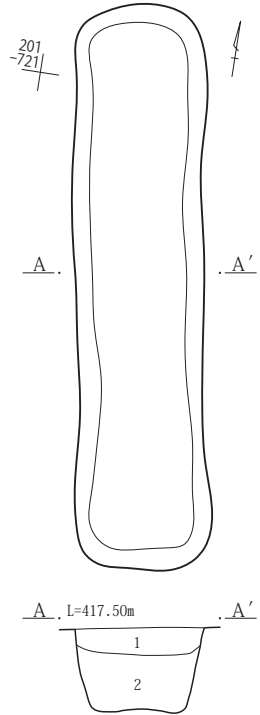
- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。
- 2 茶褐色土 ローム・軽石を含む。
- 3 暗褐色土 軽石を多量含む。

1区72号土坑



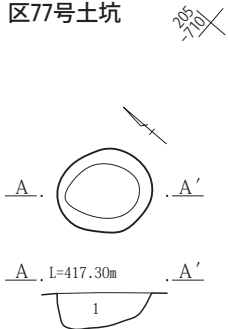
- 1 暗褐色土 軽石を含む。
- 2 暗褐色土 1層より暗い。軽石を多量含む。

1区76号土坑



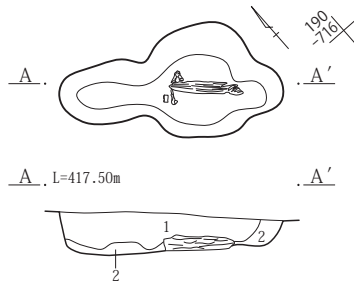
- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。
- 2 暗褐色土 軽石・ロームを含む。

1区77号土坑



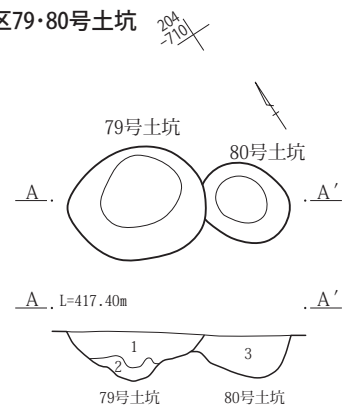
- 1 暗褐色土 軽石を少量含む。

1区78号土坑



- 1 暗褐色土 軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや堅く締まり、粘性強い。

1区79・80号土坑

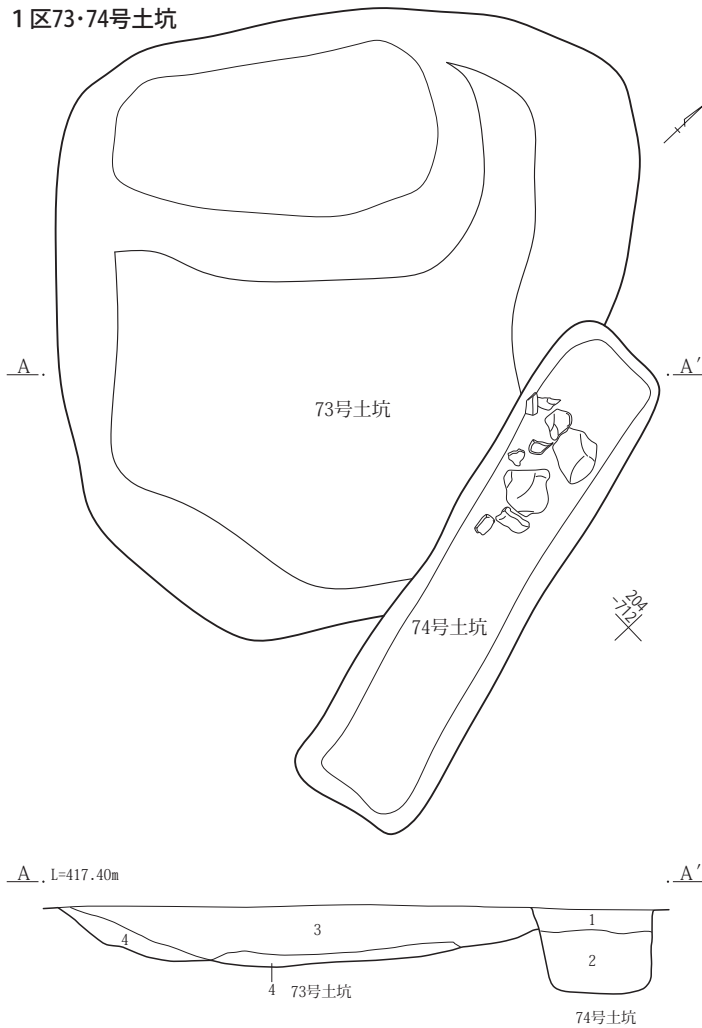


- 1 暗褐色土 軽石・ローム粒を少量含む。(79号土坑)
- 2 茶褐色土 ローム粒を多く含む。(79号土坑)
- 3 暗褐色土 軽石を少量含む。(80号土坑)



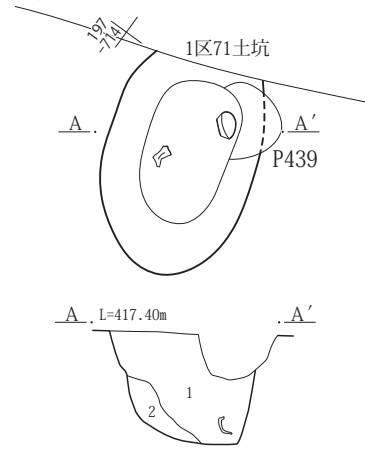
第90図 1区71・72・76～80号土坑 平・断面図

1区73・74号土坑



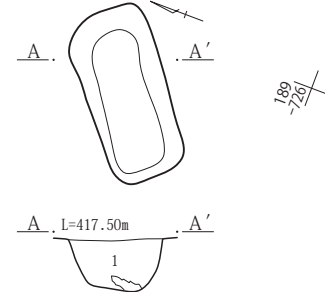
- 1 暗褐色土 軽石をやや多く含む。(74号土坑)
- 2 暗褐色土 軽石を多量、ロームを含む。(74号土坑)
- 3 暗褐色土 軽石をやや多く含む。(73号土坑)
- 4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック・軽石を含む。(73号土坑)

1区81号土坑



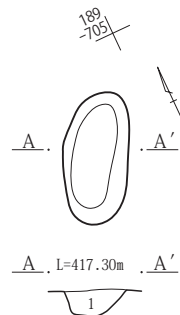
- 1 暗褐色土 炭化物・ローム粒・軽石を含む。
- 2 暗褐色土 1層より暗く、ロームブロックを含む。

1区82号土坑



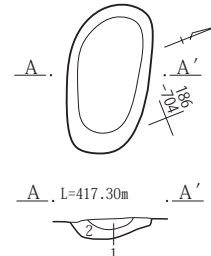
- 1 暗褐色土 ローム・軽石を含む。

1区88号土坑



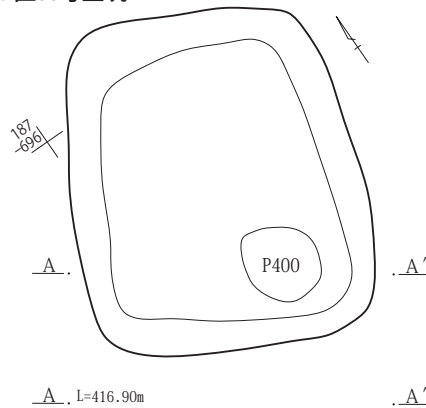
- 1 暗褐色土 軽石を多く、ローム粒を含む。

1区90号土坑



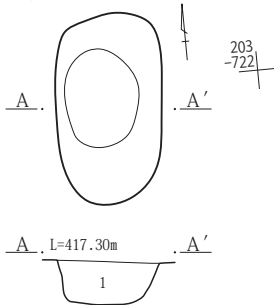
- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。
- 2 鈍い黄褐色土 ローム土と暗褐色土の混土。

1区86号土坑

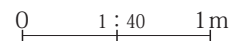


- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。
- 2 灰黄褐色土 軽石を中量含む。
- 3 暗褐色土 ローム土混じり。

1区83号土坑

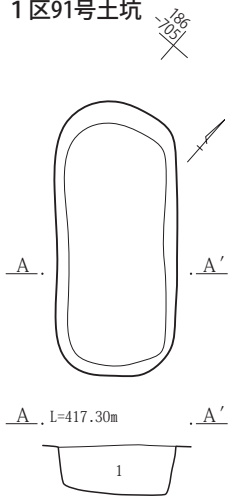


- 1 暗褐色土 ローム・軽石を含む。



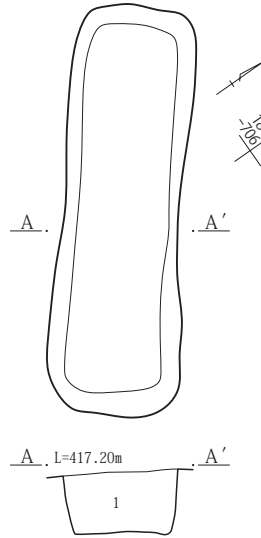
第91図 1区73・74・81～83・86・88・90号土坑 平・断面図

1区91号土坑



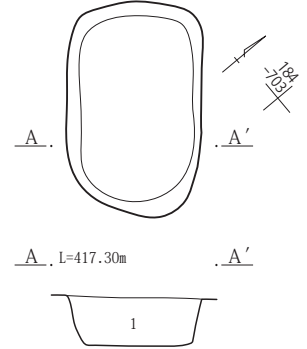
1 暗褐色土 軽石を多量含む。

1区93号土坑



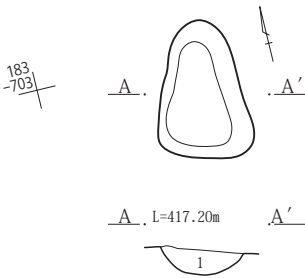
1 暗褐色土 軽石を多量含む。
2 鈍い黄褐色土 ローム・暗褐色土を少量含む。

1区96号土坑



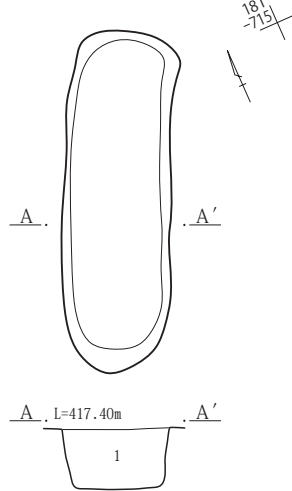
1 暗褐色土 軽石を多量含む。

1区98号土坑



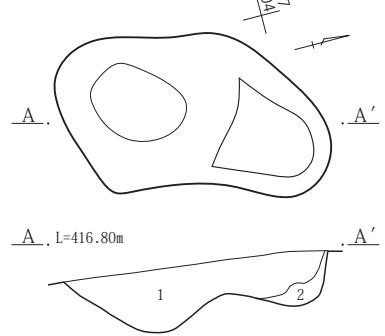
1 暗褐色土 軽石を多量含む。

1区100号土坑



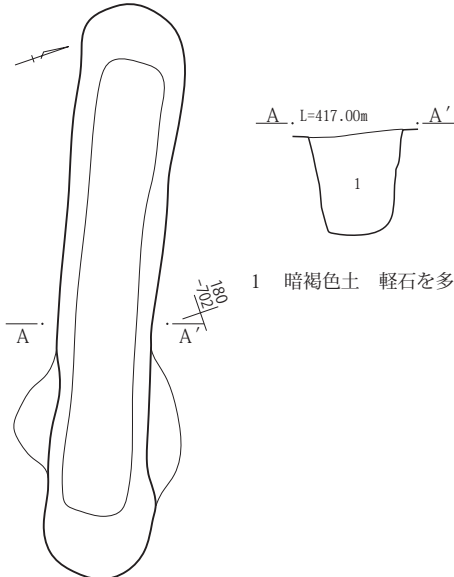
1 暗褐色土 軽石を多量含む。

1区103号土坑



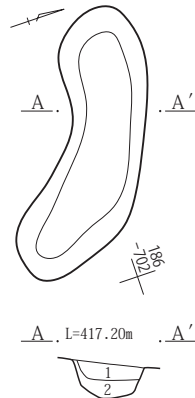
1 暗褐色土 軽石を多量含む。
2 黒褐色土 土質均一。

1区104号土坑



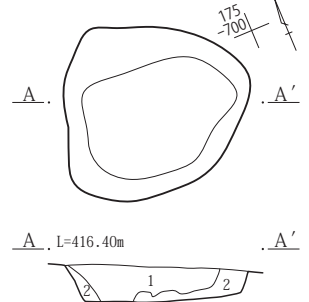
1 暗褐色土 軽石を多量含む。

1区106号土坑

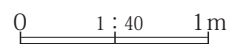


1 暗褐色土 軽石を多量含む。
2 鈍い黄褐色土 ローム土と暗褐色土の混土。

1区107号土坑

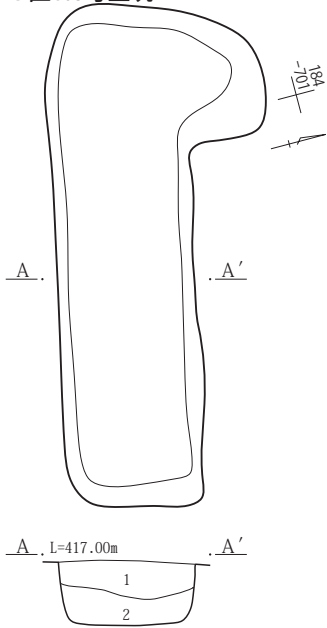


1 暗褐色土 軽石を多量、灰色シルトブロックを含む。
2 暗褐色土 ローム粒を微量含む。



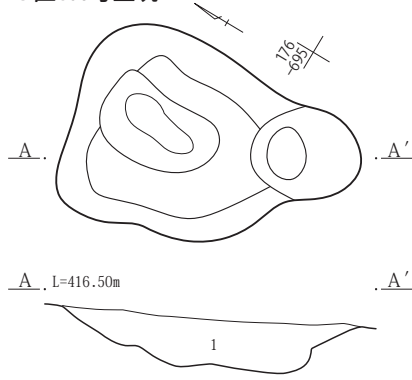
第92図 1区91～93・96・98・100・103・104・106・107号土坑 平・断面図

1区105号土坑



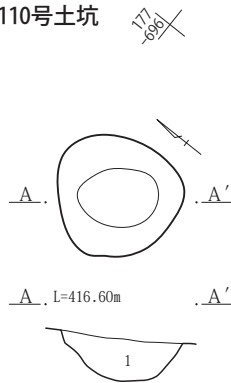
- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。
- 2 暗褐色土 軽石・ローム土を少量含む。

1区108号土坑



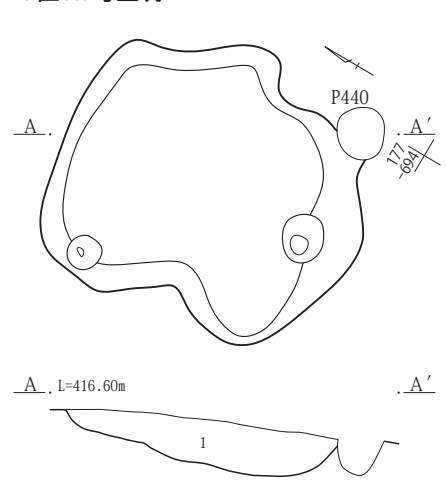
- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。

1区110号土坑



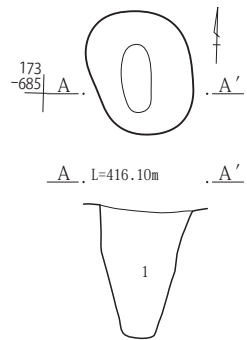
- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。

1区109号土坑



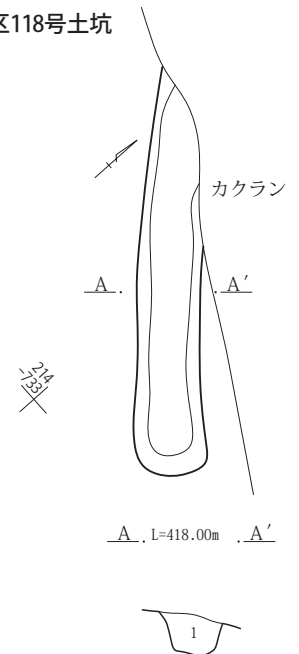
- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。

1区111号土坑



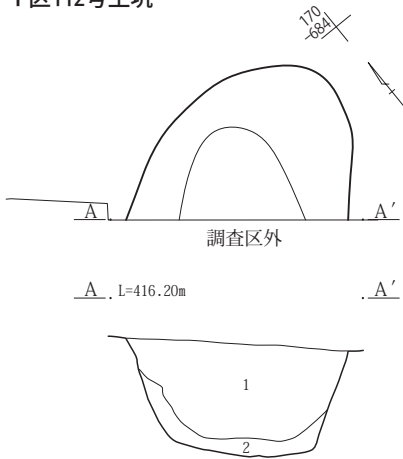
- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。

1区118号土坑



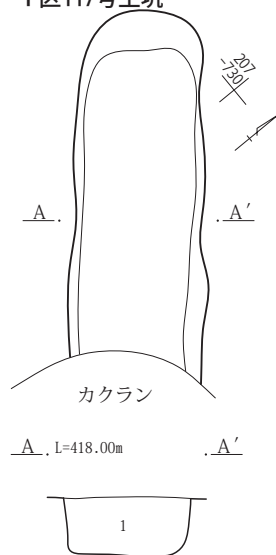
- 1 黒褐色土 As-Kkを少量含む。

1区112号土坑

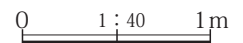


- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

1区117号土坑

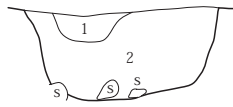
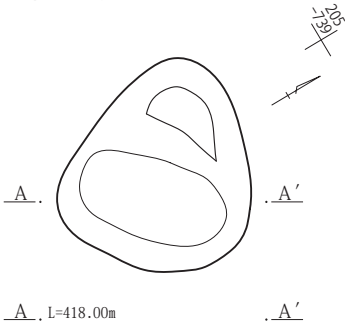


- 1 黒褐色土 As-Kkを少量含む。



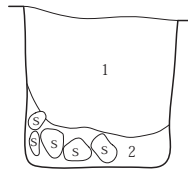
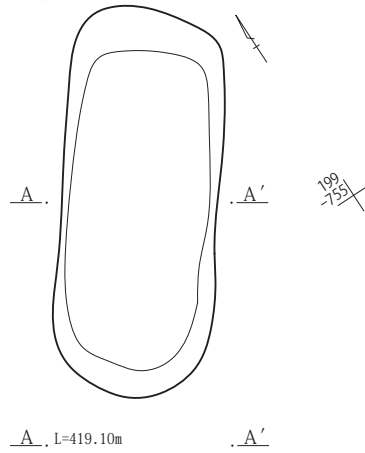
第93図 1区105・108～112・117・118号土坑 平・断面図

1区119号土坑



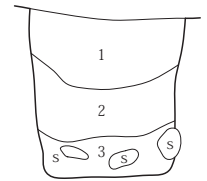
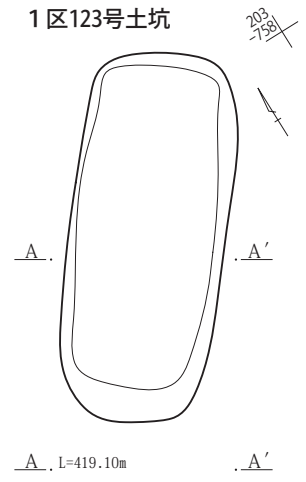
- 1 黒褐色土 As-Kkを含む。
- 2 黒褐色土 赤褐色鋳物粒・As-Kk・礫を少量含む。

1区122号土坑



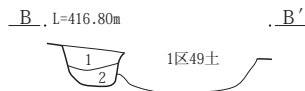
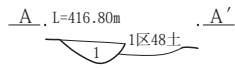
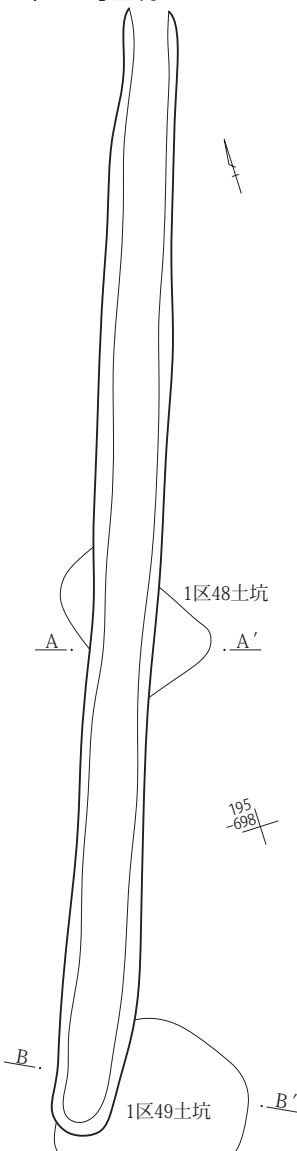
- 1 暗褐色土 As-Kkを多く含む。
- 2 黒褐色土 As-Kk混土で、大礫を含む。

1区123号土坑



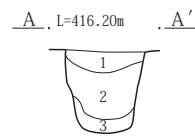
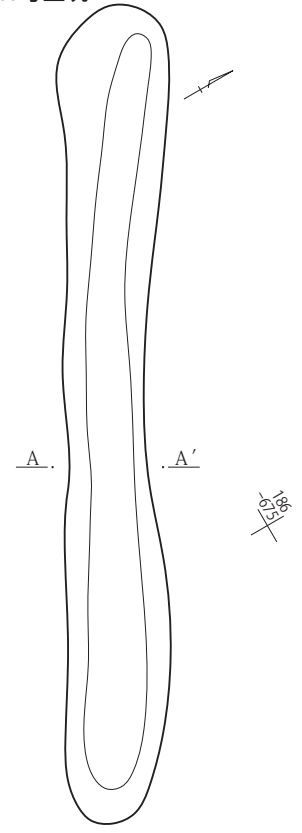
- 1 褐色土 As-Kkを少量、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 As-Kk混入土。
- 3 黒褐色土 As-Kk混土で、礫を含む。

1区134号土坑

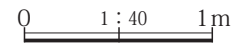


- 1 暗褐色土 ロームブロック・軽石を含む。
- 2 茶褐色土 ロームブロックを多量含む。

1区135号土坑

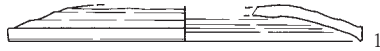


- 1 暗褐色土 炭化物・ローム粒を少量、軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・軽石を含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒・ローム粒を含む。

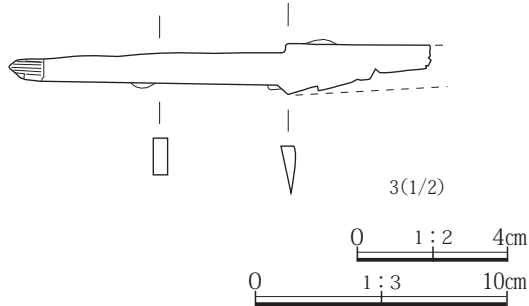


第94図 1区119・122・123・134・135号土坑 平・断面図

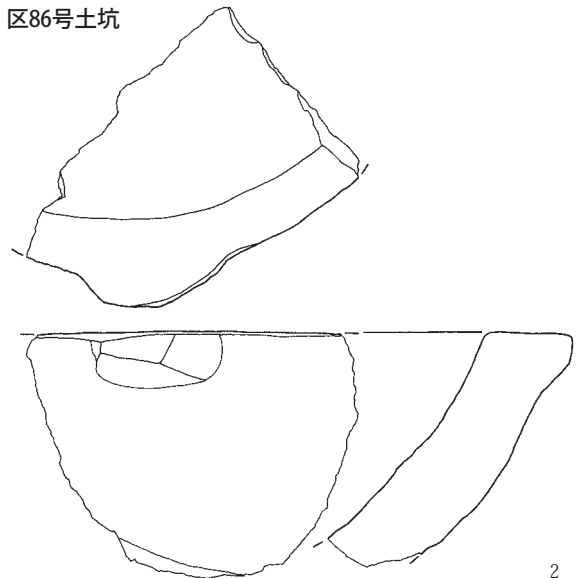
1区71号土坑



1区122号土坑



1区86号土坑



第95図 1区71・86・122号土坑 出土遺物

(5)墓壙

本調査区で検出された中世以降の墓壙は、第1面調査において2基を検出した。いずれも人骨を伴い、埋土中にAs-Kkを混在することが特徴である。

以下、各土坑ごとに記載する。(第7表 1区墓壙一覧を参照)

1区1号墓壙 (第96図、第7・62表、PL.15・19・175)

平成25年度の調査で検出した。1区42号土坑と重複する。

位置：1-A区の東側中央に位置する。墓壙の大半が1区42号土坑と重複する。

グリッド：2J・2K-134・135

座標値：X=61,178~61,180 Y=-93,674~93,676

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複の新旧は、土層観察からも1区42号土坑より本墓壙の方が古い。底面から人骨が出土しており、ほぼ全身を検出したが残存状態はあまり良くない。その出土状態は、頭位を北に、右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬状態にあった。副葬品として、1「咸平元寶」・2「至和元寶」の銭貨(北宋銭)が2点出土している。

形状：楕円形

規模：長軸1.48m 短軸1.11m 深さ47cm

長軸方向：N-40°-E

埋没土：暗褐色土を主体に、底面付近に茶褐色土。

所見・時期：検出面が第1面であり、出土銭貨が北宋銭であることから、本墓壙の時期は中世と考えられる。なお、鑑定の結果、被葬者は男性で、死亡年齢は約30歳代~40歳代と推定された。

1区2号墓壙 (第96図、第7表、PL.19)

平成25年度の調査で検出した。調査時は1区75号土坑としていた。

位置：1-A区西側の中央付近に位置する。

グリッド：2N-142

座標値：X=61,198・61,199 Y=-93,708・93,709

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。底面から人骨の頭骨が出土しているが、他の四肢骨は不明。その出土状態は、頭位を北にした状態にあった。副葬品はなく、土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：長方形(A類)

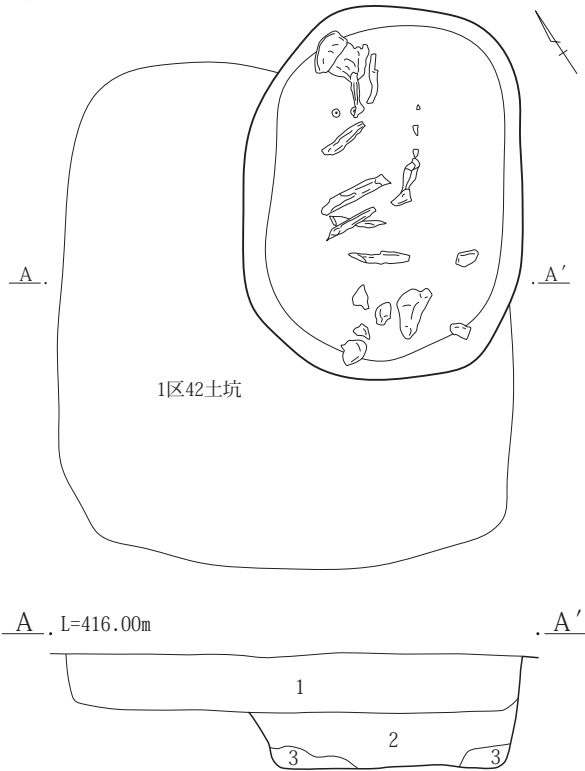
規模：長軸1.31m 短軸0.80m 深さ27cm

長軸方向：N-3°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

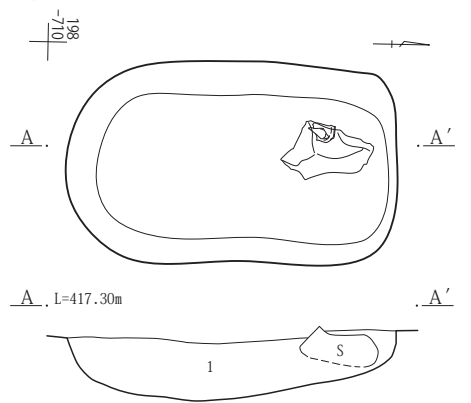
所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、本墓壙の時期は中世以降と考えられる。なお、鑑定の結果、被葬者は性別不明の未成年と推定された。

1区1号墓墳

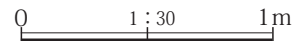
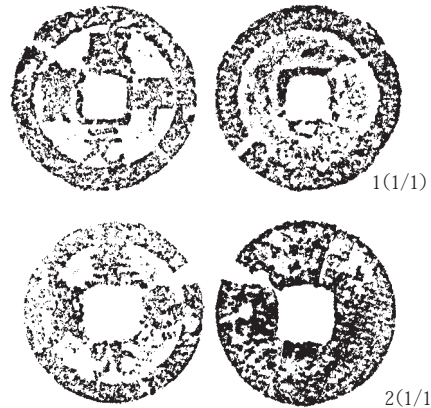


- 1 暗褐色土 ロームブロック・軽石を少量含む。(42土坑)
- 2 暗褐色土 炭化物・ローム粒を少量含む。(1号墓)
- 3 茶褐色土 ロームを多く含む。(1号墓)

1区2号墓墳



1 暗褐色土 軽石・ロームを含む。



第96図 1区1・2号墓墳 平・断面図、出土遺物

(6)ピット

検出されたピットは計505基を数える。1区全体に広がりを見せるが、1-A区では東側の壁寄りとなる1区1・4号掘立柱建物周辺により多くに集中する傾向が、1-B区では南側寄りに、1-C区では中央から西側にかけて多く検出された。これらピットの埋土は暗褐色土が圧倒的に多く、併せて軽石(As-Kk)を含む例がほとんどである。しかも、土師器の細片が僅かに混入する例があるものの、出土遺物で時期を決定できるピットはない。埋土からすれば、大方のピットが中世以降と考えられるため、ピットについては本項で扱うに至った。(第8表 1区ピット一覧を参照)

(7)鍛冶遺構

本調査区で検出された中世の鍛冶遺構は、第1面調査において1カ所検出した。上屋を伴う鍛冶遺構であり、検出された土坑からは炭化材と鍛造剥片が出土し、炭化材の放射性炭素年代測定の結果からその時期が判明した。

1区1号鍛冶遺構(第97図、第9表、PL.19)

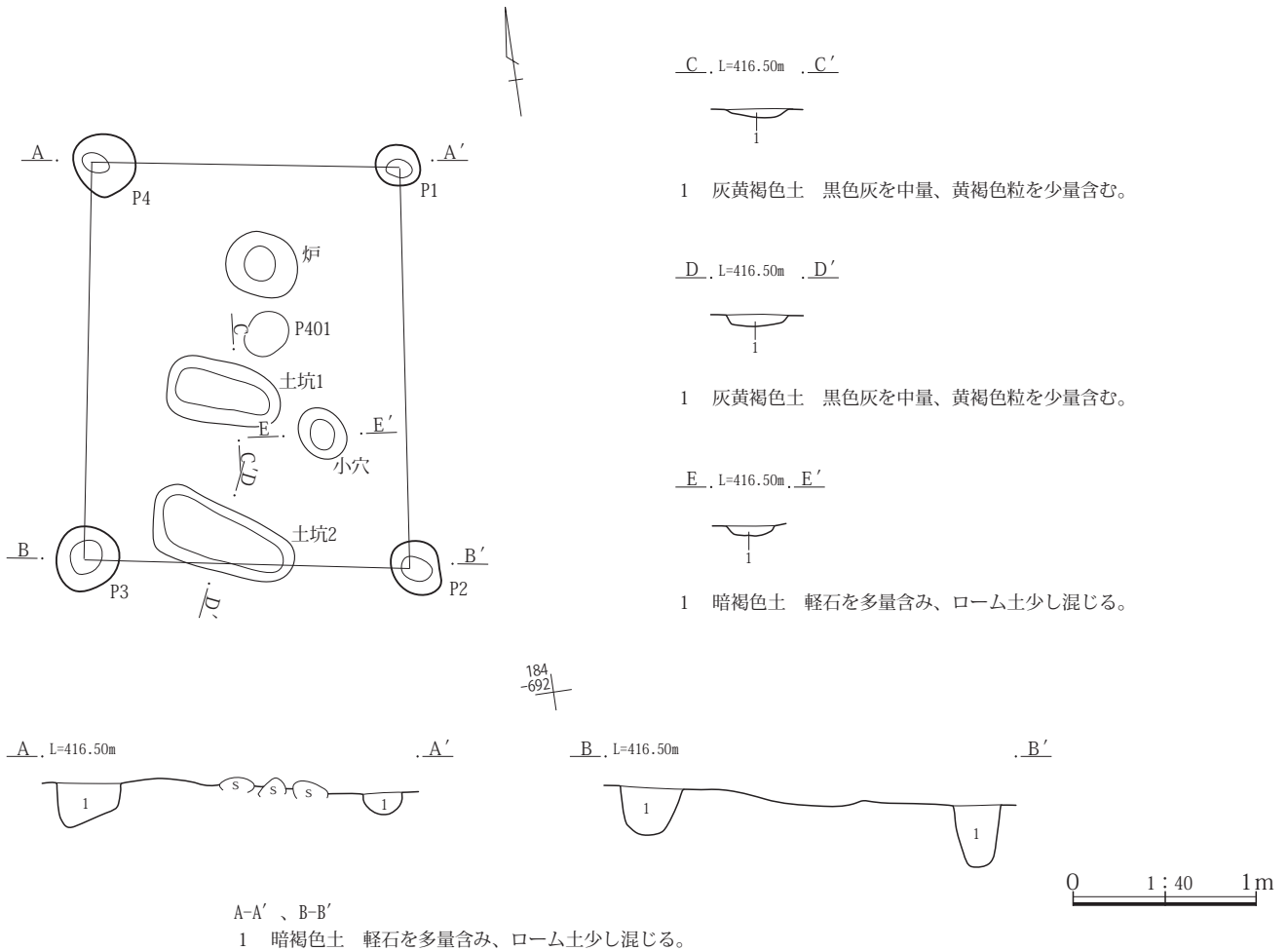
平成25年度の調査で検出した。上屋をも伴い、内部に鍛冶炉跡をもつ。

位置：1-A区のほぼ中央に位置する。西側に1区86号土坑、南側に1区5号溝が近接する。

グリッド：2K・2L-139

座標値：X=61,184~61,187 Y=-93,692~93,694

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。南北方向に長い1間(2.15m)×1間(1.65~1.80m)の掘立柱建物状の柱穴4基を伴い、その内部に鍛冶炉跡および土坑2基、小穴1基を設けている。鍛冶炉跡は中軸上の中央北寄りにあり、中央が青灰色に、その周囲が赤灰色ないし赤色に被熱した状態にあった。鍛冶炉跡の南側には土坑1と土坑2が前後に並び、土坑1の東側には小穴が近接する。土坑1は楕円形を呈して長軸を東西にとり、規模は長軸0.62m、短軸0.34m、深さ5cmを測る。埋土中には細かな炭化材と鍛造剥片を多く含む。



第97図 1区1号鍛冶遺構 平・断面図

土坑2も楕円形を呈して長軸を東西にとり、規模は長軸0.82m、短軸0.38m、深さ7cmを測る。土坑1と同様に埋土中には炭化材と鍛造剥片を多く含む。小穴は径27cm前後の円形を呈し、埋土中に炭化材と鍛造剥片を多量に含む。

上屋形状：長方形

上屋規模：長軸2.15m 短軸1.65m(北辺)、1.80m(南辺)

柱穴深さ12~34cm

長軸方向：N-10°-E

所見・時期：検出面が第1面であることと、放射性炭素年代測定の結果、土坑1より出土した炭化材が14世紀頃の年代値であったことから、本鍛冶遺構の時期は中世と考えられる。

(8)溝

本調査区で検出された中世以降の溝は、第1面調査において2条を検出した。いずれも、埋土中にAs-Kkを混在することが特徴である。

以下、各溝ごとに記載する。(表10 1区溝一覧を参照)

1区3号溝 (第98図、第10表)

平成25年度の調査で検出した。

位置：1-A区中央の北東側に位置する。

グリッド：2L・2M-137・138

座標値：X=61,187~61,190 Y=-93,684・93,685

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。南北方向に延びる溝で、底面は北側ほど低くなる傾向であるが浅く不明な点も多い。遺物等の出土はない。

規模：長軸3.36m 短軸0.49m 深さ5cm

延伸方向：N-17°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区5号溝 (第98図、第10・63表、PL.20・175)

平成25年度の調査で検出した。両端は不明で、1区111・112号土坑が重複する。

位置：1-A区の南東側から中央にかけて位置する。溝は南東部から北進するように1区111・112号土坑を重複し、途中で屈曲して北西方向に延びる。

グリッド：2H～2M-137～141

座標値：X=61,168～61,190 Y=-93,623～93,703

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複する1区111・112号土坑との新旧は不明。溝の両端も不明。溝の底面幅が広く、底面は北西方向に傾斜をもつ。また、底面の一部には礫が露出する。出土遺物には図示した1の砥沢石製の砥石がある。

規模：長軸30.09m 短軸2.90m 深さ3～50cm

延伸方向：N-52°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土と黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

(9) 畠

本調査区で検出された中世以降の畠は、第1面調査において2区画を検出した。いずれも、埋土中にAs-Kkを混在することが特徴である。

以下、各畠ごとに記載する。(第11表 1区畠一覧を参照)

1区1号畠 (第99図、第11表、PL.20)

平成25年度の調査で検出した。1区71・72号土坑と重複する。

位置：1-A区西側の中央北寄り位置する。本島の南西側に1区72号土坑、北西端に1区72号土坑が重複する。

グリッド：2N・2O-143・144

座標値：X=61,197～61,200 Y=-93,711～93,715

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複する両土坑との新旧は不明。畠の区画は狭く、溝状に併走する

4条の畝間からなり、As-Kkを混在する暗褐色土がこの畝間の埋土となる。畝間の走行方向も1区2号畠とは異なり、北西方向を向く。こうした中世以降の畠の状況は、他の調査区でも同様である。なお、遺物等の出土はない。

区画規模：長さ5.10m 幅2.10m

畝長5.10m 畝間間隔13～38cm前後

畦高11～15cm 畦数4条

畝間方向：N-58°-W

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区2号畠 (第99図、第11表、PL.20)

平成25年度の調査で検出した。1区103・107～110号土坑と重複する。

位置：1-A区中央の南寄り位置する。本島の南西端に1区103号土坑、南端に1区107号土坑、北東側に1区108～110号土坑が重複する。

グリッド：2N・2O-143・144

座標値：X=61,197～61,200 Y=-93,711～93,715

検出状況：1-A区北壁での基本層序Ⅲ層中位を遺構確認面とした第1面調査時に検出された。重複する土坑との新旧はいずれも不明。畠の区画は狭く、溝状に併走する8条の畝間からなり、As-Kkを混在する暗褐色土がこの畝間の埋土となる。畝間の走行方向も1区1号畠とは異なり、北東方向を向く。こうした中世以降の畠の状況は、他の調査区でも同様である。なお、遺物等の出土はない。

区画規模：長さ8.40m 幅5.01m

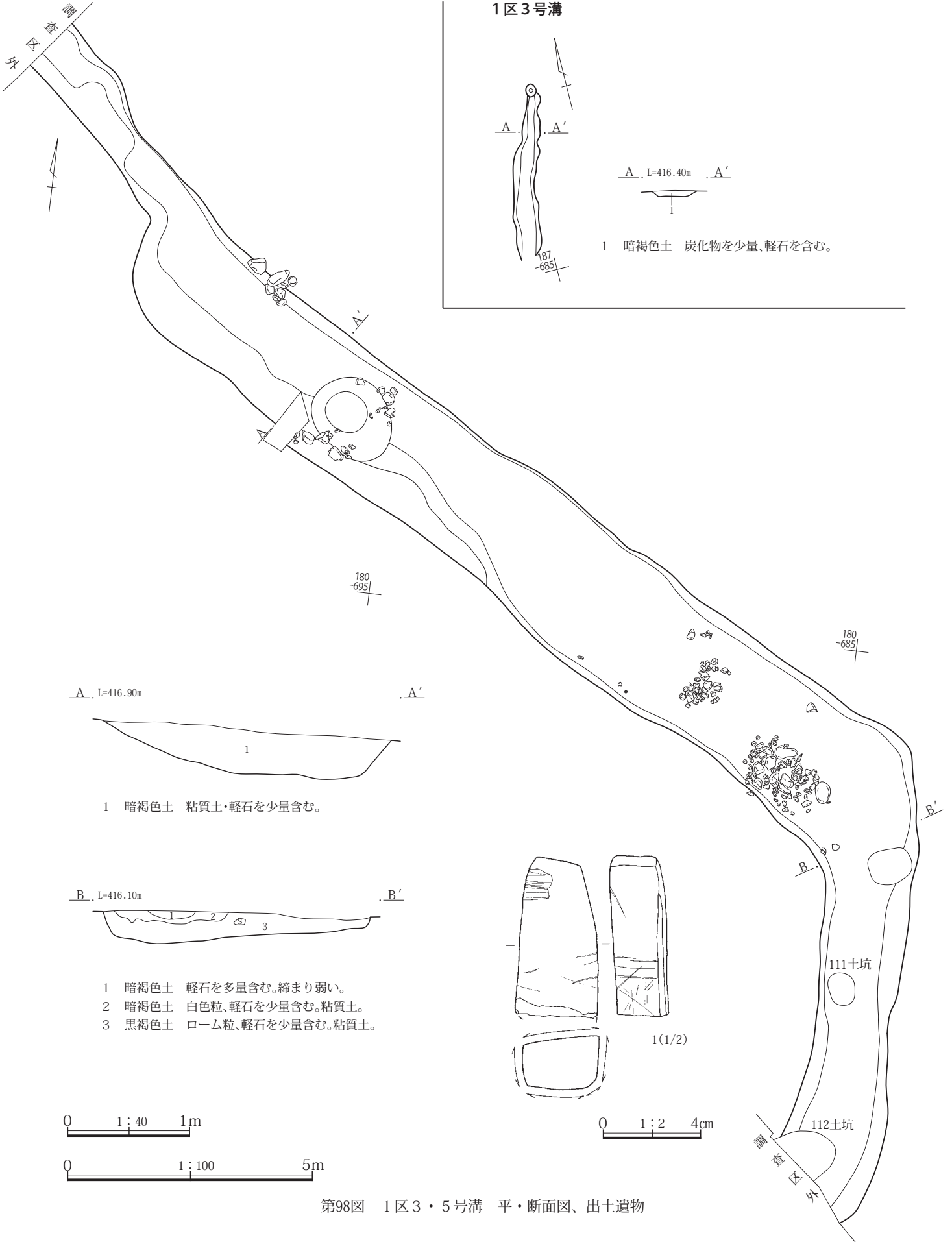
畝長8.40m 畝間間隔15～42cm前後

畦高12cm 畦数8条

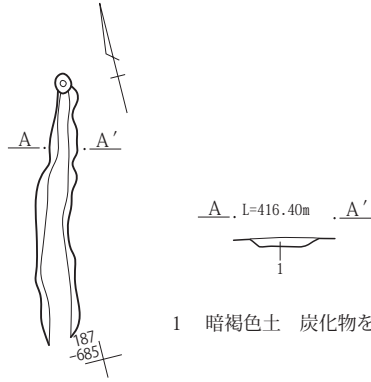
畝間方向：N-56°-E

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

1区5号溝



1区3号溝



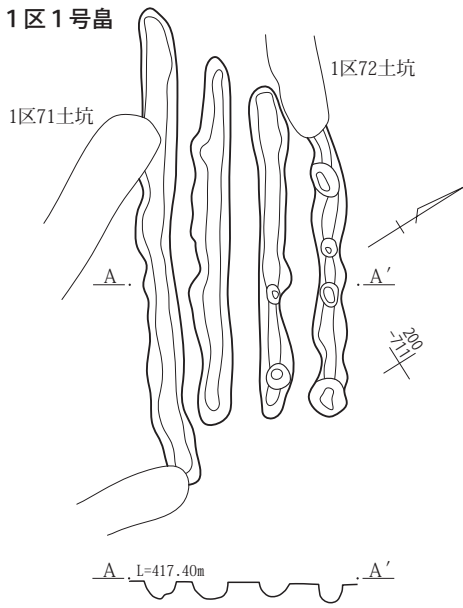
1 暗褐色土 炭化物を少量、軽石を含む。

1 暗褐色土 粘質土・軽石を少量含む。

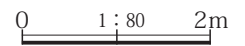
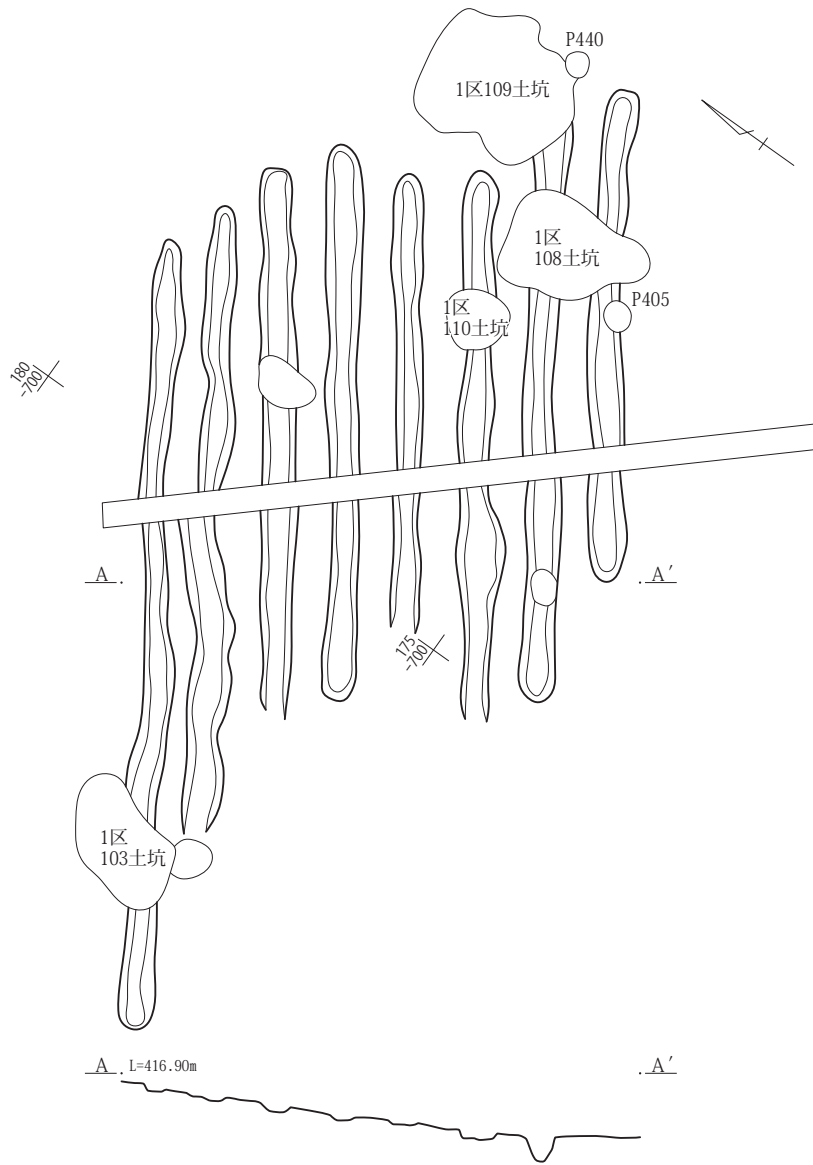
- 1 暗褐色土 軽石を多量含む。縮まり弱い。
- 2 暗褐色土 白色粒、軽石を少量含む。粘質土。
- 3 黒褐色土 ローム粒、軽石を少量含む。粘質土。

第98図 1区3・5号溝 平・断面図、出土遺物

1区1号畠



1区2号畠



第99図 1区1・2号畠 平・断面図

第5項 遺構外出土遺物

本調査区での第1・2面調査で出土した、古墳時代以降の遺構に伴わない遺物を扱う。遺構外出土遺物には、土器類をはじめ、石製品および金属製品がある。

以下、種別ごとに記載する。

(1)土器類(第100・101図、第65表、PL.176)

古墳時代の土器として1～5の5点を図示した。1は土師器の杯、2は土師器の高杯の脚部がある。3は波状文や刺突を配した須恵器の臄で、4は体部に波状文を描く須恵器の壺である。5は刷毛目を残す土師器の台付甕の台部である。

古代の土器として6～18の12点を図示した。6は土師

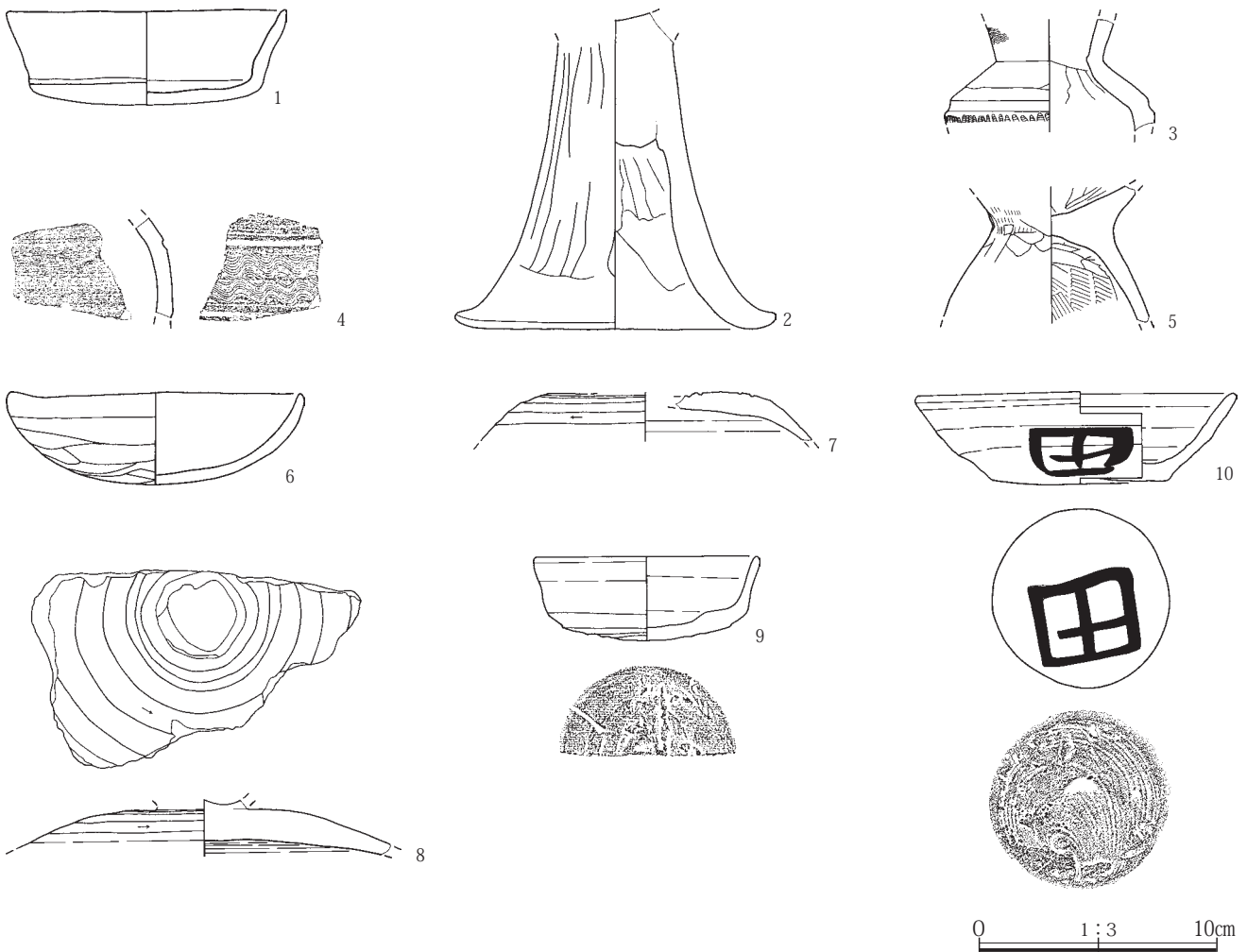
器の杯で、それ以外は全て須恵器である。7・8は杯蓋、9～15は杯である。この内、10の体部外面と底面の2カ所に「田」の墨書、15の体部外面にも墨書がある。16・17は椀で、16の体部外面に「□寺」の2文字の墨書がある。18は甕片で内外面に叩き目をもつ。

(2)石製品(第101図、第65表、PL.176)

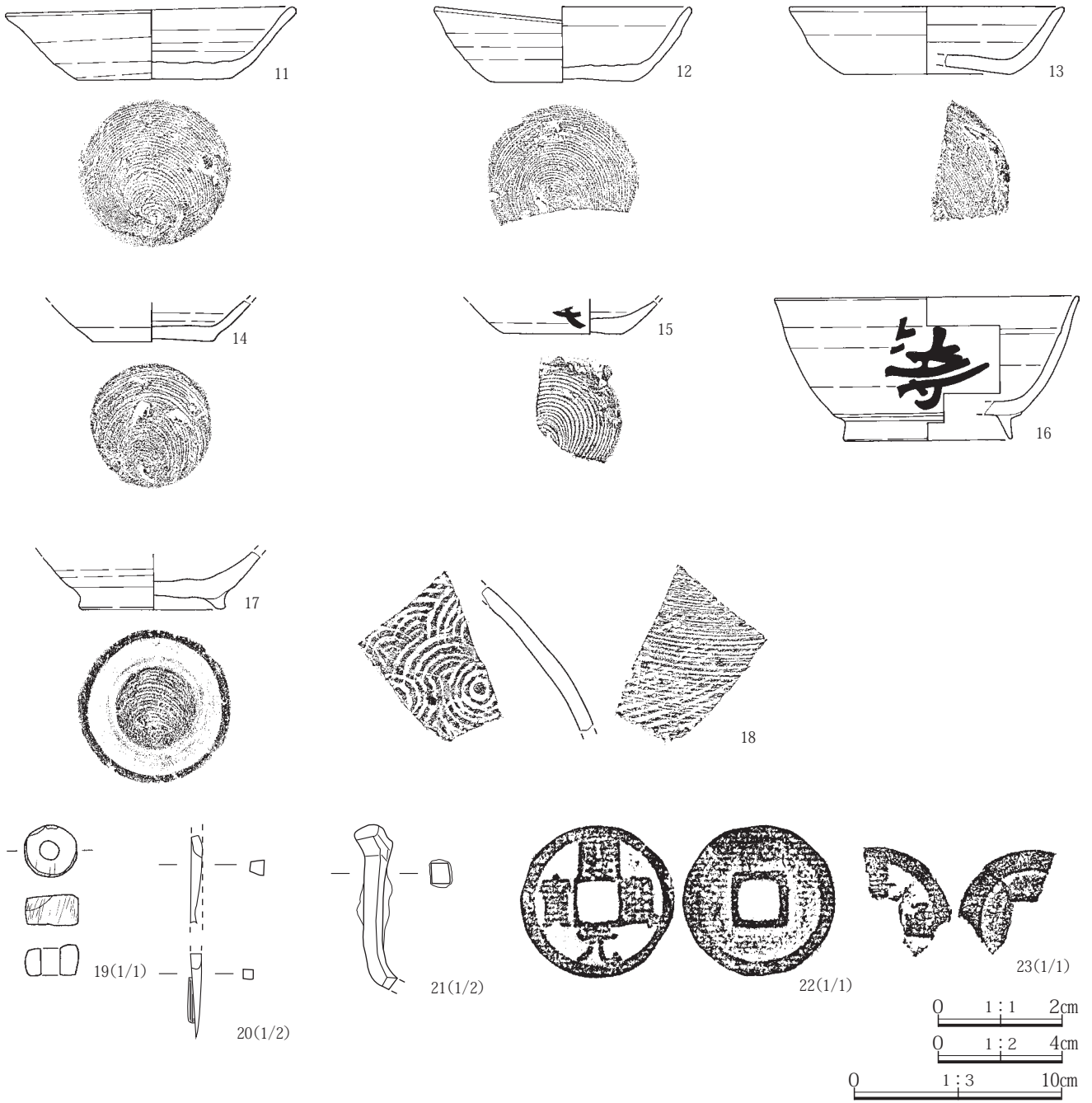
図示した石製品は1点である。19は滑石製の白玉であり、灰白色で径0.8cm、厚さ0.5cmを測る。

(3)金属製品(第101図、第65表、PL.176)

図示した金属製品は4点である。鉄製品として20の鉄鏃、21の釘があり、銭貨に22の「開元通寶」と銭銘不明の23がある。



第100図 1区古墳時代以降遺構外出土遺物(1)



第101図 1区古墳時代以降遺構外出土遺物(2)

第 4 章

第 2 節 2 区の遺構と遺物

2区 第1面



2区 第2面



第102図 2区 第1・2面 遺構配置図



第103图 2区 第3面 遺構配置図

第2節 2区の遺構と遺物

本調査区は、平成27・28年度の2ヶ年度に跨がり、調査の進行上から便宜的に2区の西半を2-A区、東半を2-B区として調査を行った。各年度の調査対象箇所は、2区第1面全体と2区第2面の西側および南側を主に平成27年度に調査し、越冬した翌平成28年度には2区第2面の東側から北側、さらに第3面となる縄文時代の調査を行った。

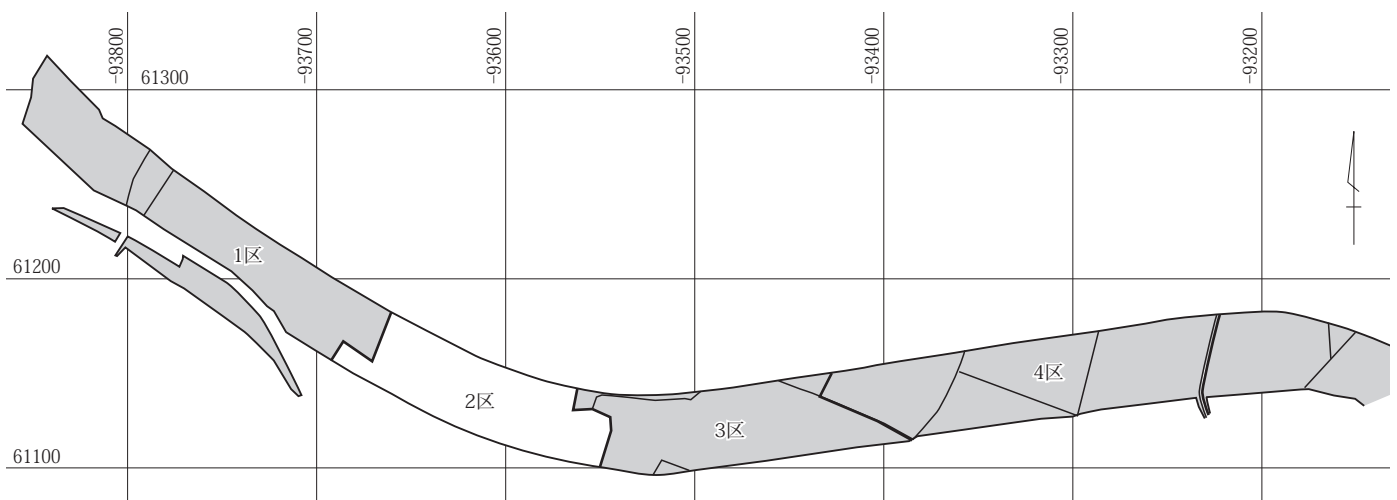
平成27年度調査は四戸遺跡の3年度目の調査であり、以前の調査データから中・近世を対象とした第1面調査、さらに縄文時代～古代を対象とした第2ないし3面の調査が予測され、各面の調査を順次行った。その結果、第1面調査では中世から近世の土坑や溝、畠等の遺構、さらに古代の畠と水田が全面に広がって検出された。この古代の畠と水田については、以前の調査では検出されておらず、浅間山を給源とするAs-Kk（浅間粕川テフラ）とAs-B（浅間B軽石）の良好な堆積が残存する状況にあった本調査区の特徴でもある。そして第2面調査では、古墳時代から平安時代に至る各時代の竪穴建物（住居）や掘立柱建物、土坑等の遺構・遺物が極めて多く検出された。この第2面調査での遺構量は、先の平成25年度調査（1-A区）と平成26年度調査（3区）での遺構検出状況から、集落の中心部にあたることを予測されていたことで

あったが、実際にはその予測を遙かに超える遺構数であった。さらに、竪穴建物内から出土した奈良三彩短頸壺の完形品は、その希少さだけでなく、地域における本遺跡（集落）の重要性を物語るものであり、その後の調査に期待された。

四戸遺跡の4年度目となる平成28年度調査は、前年度の第2面調査を継続する形で進行した。さらに、第2面の遺構確認で縄文時代の遺物が2区西半の北側に多く出土していたことから、その範囲を中心とした第3面調査を行ったところ、縄文時代の竪穴建物（住居）を検出するに至った。

以上の結果、2区から検出された遺構は、縄文時代および古墳時代から平安時代の竪穴建物（住居）104棟、古墳時代から平安時代の掘立柱建物6棟、土坑17基、畠と水田、そして中世以降の土坑99基、溝14条、畠7区画、さらに古墳時代から中世以降のピット399基である。出土した遺物量は、膨大な量に上る。

以下、各時代ごとに記述する。



第104図 2区 細区割り図

第1項 縄文時代の遺構と遺物

(1) 概要

先の平成25年に調査が行われた1区の東寄り(2区に寄った辺り)で縄文時代の遺物が出土していることや、平成26年の調査においても3-B区で縄文時代の竪穴建物が検出されている中、本調査区においても縄文時代の遺構ないし遺物の存在は強く想定されていた。本調査区の調査が進行するに従って、第2面の遺構確認時や土層確認トレンチ、古墳時代以降の各竪穴建物内に混入した縄文時代の遺物が、調査区の北西寄りに多くみられる状況が明らかとなった。その状況から、調査区の北西寄りを主に、2-A区南壁の基本層序VI層(黒色土)下位を遺構確認面とした第3面の調査を行った。

その結果、縄文時代の竪穴建物を検出した。また、遺構確認時には、多くの土器や石器も出土している。

(2) 竪穴建物

本調査区で検出された縄文時代の竪穴建物は、第3面調査において2区北西側の北壁際に前期の竪穴建物3棟が検出された。しかし、重複する古墳時代以降の竪穴建物により、全体に残存状態は悪く、しかも遺構確認に苦慮した。

以下、各竪穴建物ごとに記述する。(第13表 2区竪穴建物一覧を参照)

2区102号竪穴建物

(第105・106図、第13・157表、PL.89・234)

平成28年度の調査で検出した。古墳時代以降の2区36・66・101号竪穴建物と重複する。調査時は円形プランを想定したが、整理時において遺物の出土分布とその時期から長方形と想定した。なお、調査時に2区143・144号土坑として扱った出土遺物も、本竪穴建物に伴う遺物として記述する。

位置：2区北西側の北壁際に位置し、東側に2区103号竪穴建物が近接する。

グリッド：2H～2J-129・130

座標値：X=61,169～61,175 Y=-93,643～93,649

重複：重複するいずれの竪穴建物よりも、本竪穴建物の方が古い。

想定形状：長方形か

想定規模：長軸(5.33)m 短軸(3.52)m

埋没土：細礫を多量に、焼土粒、炭化物を少量含む黒褐色土を埋土とする。

床面・壁：詳細は不明。

炉：明確な炉は確認されていない。

遺物：1は床面直上からの出土と考えられる土器で、底部を欠くほぼ完形品。緩い4単位波状口縁の深鉢で、口縁部以下に結節縄文と考えられる原体を幅狭多段に施し、底部は緩い尖底を呈すると考えられる。2は小波状口縁の波頂下に隆帯を垂下させ、口縁部に隆帯を巡らせる。3は波状口縁でやや肥厚ぎみとなる口縁部無文帯に縦位の沈線を施し、以下の胴部に縄文を施す土器。4・5は平口縁の口縁以下に非結束羽状縄文を施す。6～9は胴部に閉端環付縄を羽状・多段に施し、10・11は胴部に幅狭な結束羽状縄文を施す。12・13は胴部に付加条縄文を施す土器である。

石器には14の粗粒輝石安山岩製の磨石、15の粗粒輝石安山岩製の台石がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から縄文時代前期前葉の二ツ木式期と考えられる。

2区103号竪穴建物

(第105・107図、第13・158表、PL.89・235)

平成28年度の調査で検出した。古墳時代以降の2区39・99号竪穴建物と重複する。調査時は円形プランを想定したが、整理時において遺物の出土分布とその時期から長方形と想定した。

位置：2区北西側の北壁際に位置し、東側に2区104号竪穴建物、西側に2区102号竪穴建物が近接する。

グリッド：2H・2I-127・128

座標値：X=61,166～61,172 Y=-93,634～93,639

重複：重複するいずれの竪穴建物よりも、本竪穴建物の方が古い。

想定形状：長方形か

想定規模：長軸(4.51)m 短軸(3.62)m

埋没土：焼土粒、炭化物を少量含む黒褐色土を埋土とする。

床面・壁：詳細は不明。

炉：明確な炉は確認されていない。

遺物：大半の遺物が埋土中からの出土である。1は平口

縁の深鉢で、口縁下に隆帯が巡り、口縁部および胴部に斜行縄文が施されている。2も1と同様である。3～6は平口縁の口縁以下に斜行縄文や羽状縄文が施される。7・8は胴部に閉端環付縄を幅狭な羽状・多段に施し、9は10～14は胴部に幅狭な非結束の羽状縄文を施している。

石器には15の黒曜石製の石鏃、16の粗粒輝石安山岩製の磨石、17の粗粒輝石安山岩製の凹石、18の粗粒輝石安山岩製の台石がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から縄文時代前期前葉の二ツ木式期と考えられる。

2区104号竪穴建物

(第105・108図、第13・159表、PL.89・235・236)

平成28年度の調査で検出した。古墳時代以降の2区39・67・99号竪穴建物と重複する。調査時は円形プランを想定したが、整理時において遺物の出土分布とその時期から長方形と想定した。なお、調査時に包含層出土として扱った一部の遺物(想定プラン内)も、本竪穴建物に伴う遺物として記述する。

位置：2区北西側の北壁際に位置し、西側に2区103号竪穴建物が近接する。

グリッド：2G・2H-126・127

座標値：X=61,163～61,169 Y=-93,628～93,634

重複：重複するいずれの竪穴建物よりも、本竪穴建物の方が古い。

想定形状：長方形か

想定規模：長軸(5.20)m 短軸(4.00)m

埋没土：黒色土をブロック状に含む黒褐色土を埋土とする。

床面・壁：詳細は不明。

炉：明確な炉は確認されていない。

遺物：1は平口縁口縁直下に2条の刻み隆帯を巡らせ、瘤状貼付文を配し、口縁部文様に燃糸側面圧痕で主文様を描き、隙間に円形刺突を充填する。2は平口縁の口縁下に閉端環付縄を多段に施す。3は波状口縁で、4・5は平口縁となる口縁下に幅狭な非結束の羽状縄文を施す。6は口縁部文様の下端を区画する刻み隆帯を巡らせ、以下の胴部に閉端環付縄を羽状・多段に施す。7は同様の隆帯を巡らせ、以下の胴部に縄文を

施す。8・9は胴部に閉端環付縄を幅狭な羽状・多段に施し、10は胴部に結節回転で幅狭な多段に施す。11は胴部に細い2本組縄を左右から絡めた付加条縄を施している。12は胴部に幅狭な結束羽状縄文を施し、13～16は胴部に幅狭な非結束の羽状縄文を施している。17・18は胴部に幅狭な斜行縄文を施す。19は平底となる底部で、底面にも縄文が施されている。20は変質蛇紋岩製の石製品で、小型の磨製石斧状を呈し、丁寧な研磨により光沢がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から縄文時代前期前葉の二ツ木式期と考えられる。

(2) 遺構外出土遺物

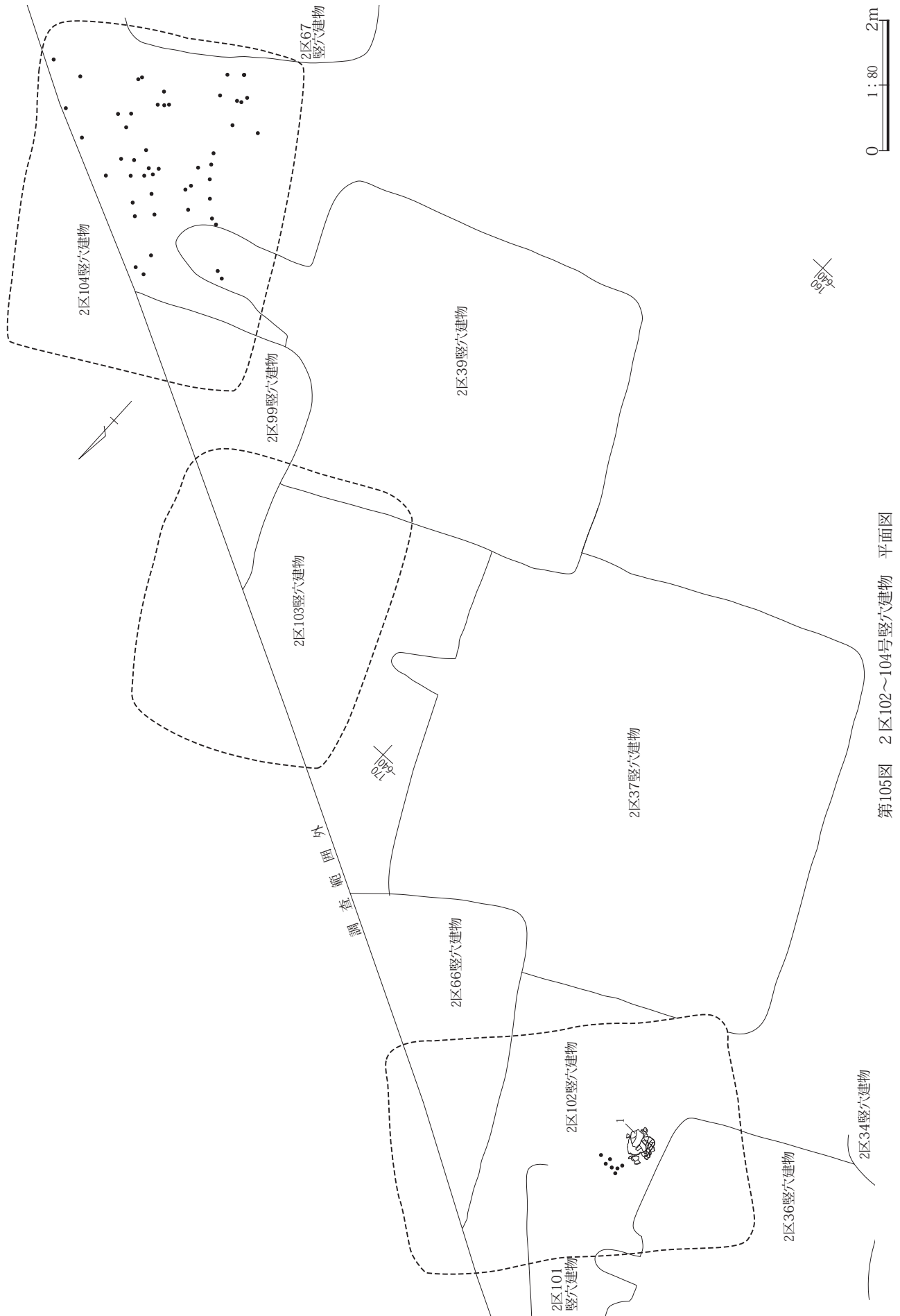
遺構に伴わない遺物として、前期から晩期までの各時期の土器および石器が出土している。その代表的な遺物を第109～111図に示した。

土器 (第109・110図)

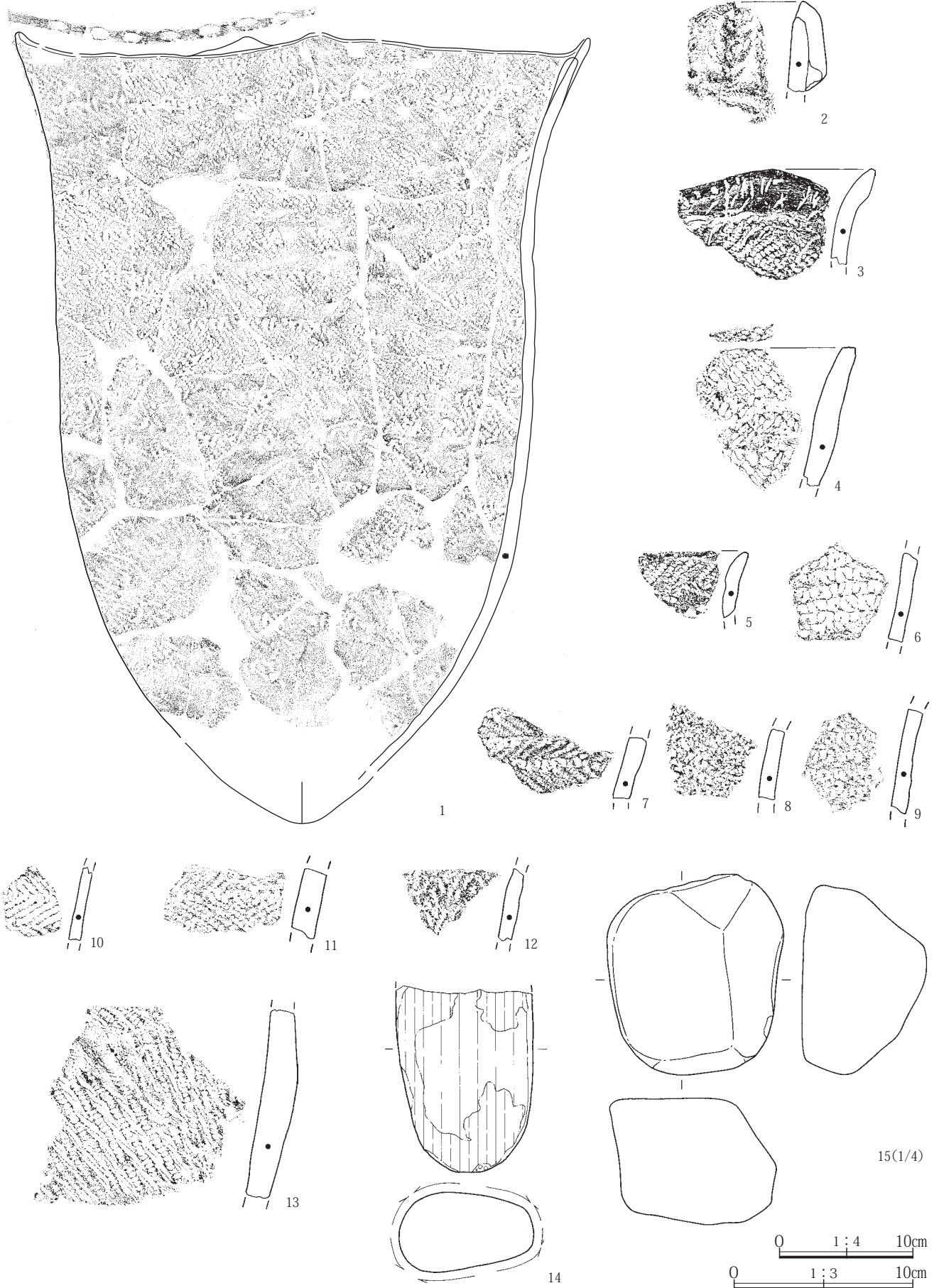
前期に位置づけられる土器に1～51がある。前葉前葉の二ツ木式土器として、口縁部文様に文様帯を区画する刻み隆帯、主文様としての燃糸側面圧痕、充填文様に刺切文や円形刺突等を施す1～8があり、7の胴部には幅狭なループ縄文(閉端環付)が羽状に施され、8では胴部に幅狭な非結束羽状縄文が施されている。また、9～13は波状口縁ないし平口縁の口縁部以下に縄文を施す土器で、口唇部に刻み隆帯または刻みを施すものもあり、施文される縄文には異条斜縄文(直前段合撚り)や結束回転縄文、結束羽状縄文、非結束羽状縄文等がみられる。さらに、14～36に示した胴部片では、前述した縄文の他に付加条縄文(格子状)や細い2本組縄を編み込み様に絡めた特異な縄文もある。37は平底の底面に縄文が施されている。38～40は関山式土器で、多載竹管による爪形刺突や組紐縄文を施す。前期中葉の黒浜式土器に41～44があり、前期後葉の諸磯式a土器には口縁以下に縄文を施した45～47、諸磯式b土器には爪形刺突や浮線文を施す48～51がある。そして、中期の土器として52・53があり、後期初頭から前葉の土器に54～58、晩期末葉の土器に59・60がある。これら諸型式の中で、最も出土量が多いのは、前期前葉の二ツ木式土器である。

石器 (第111図)

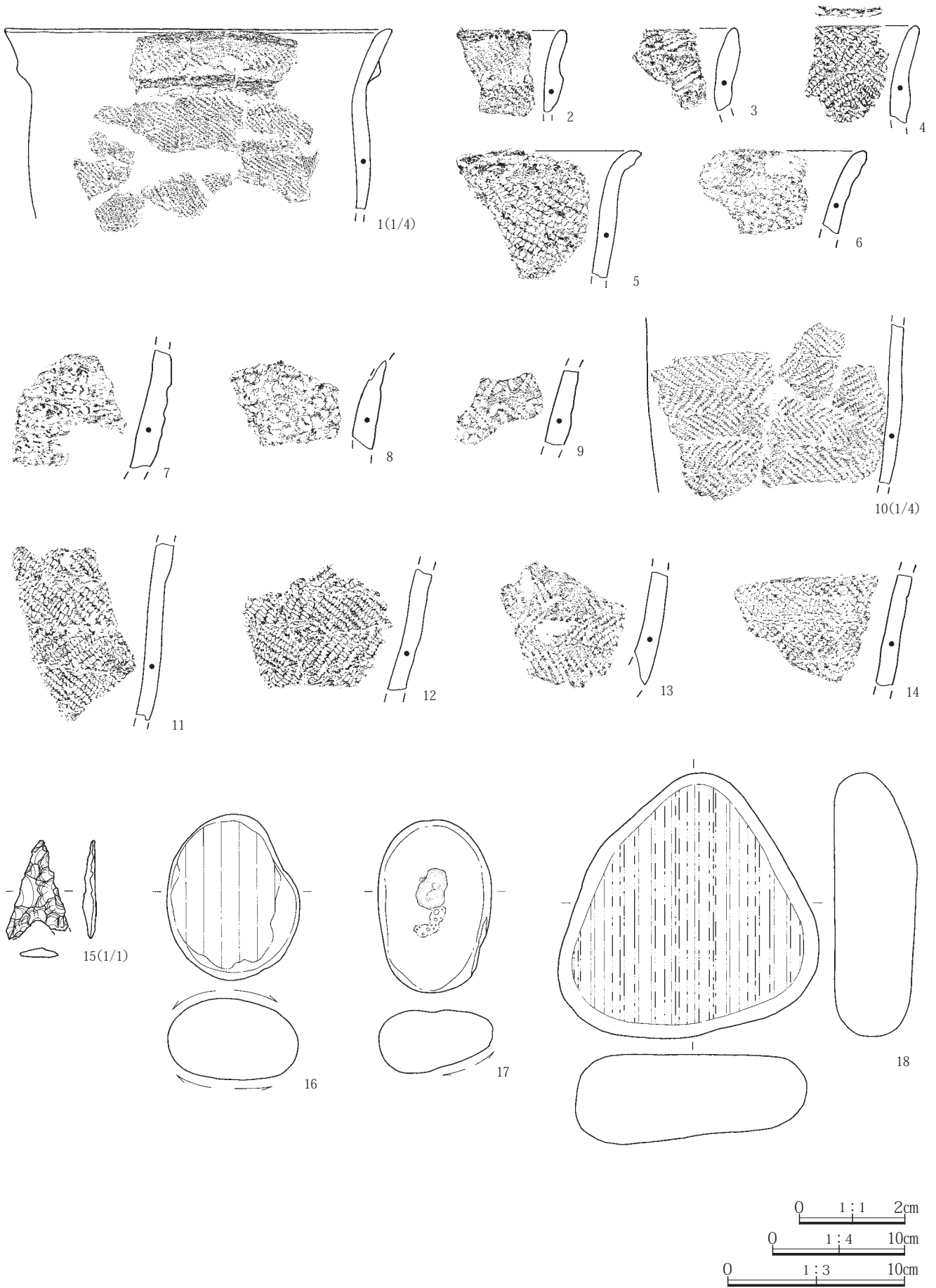
石鏃には黒曜石製の61～63、チャート製の64・65、黒



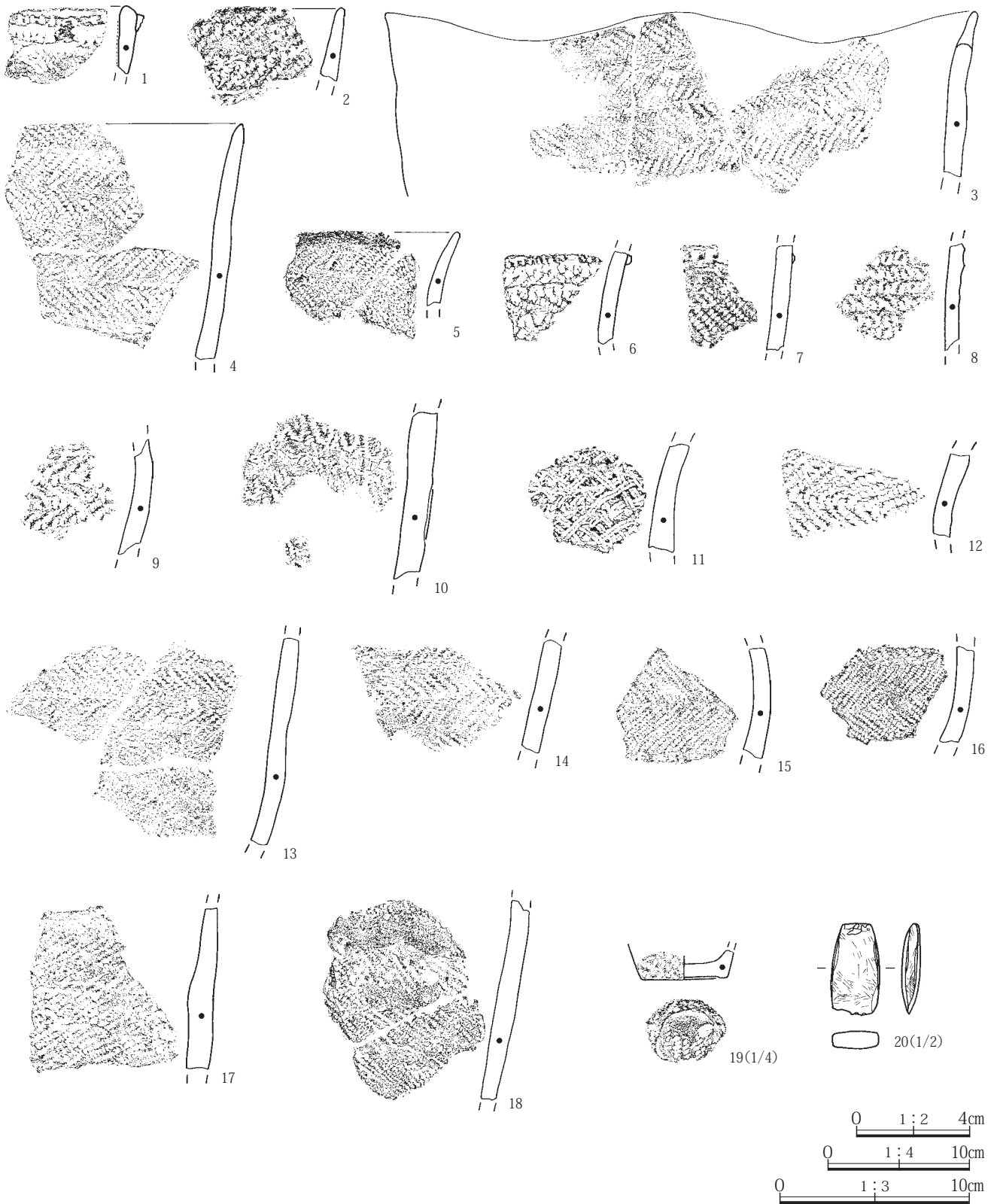
第105図 2区102～104号竪穴建物 平面図



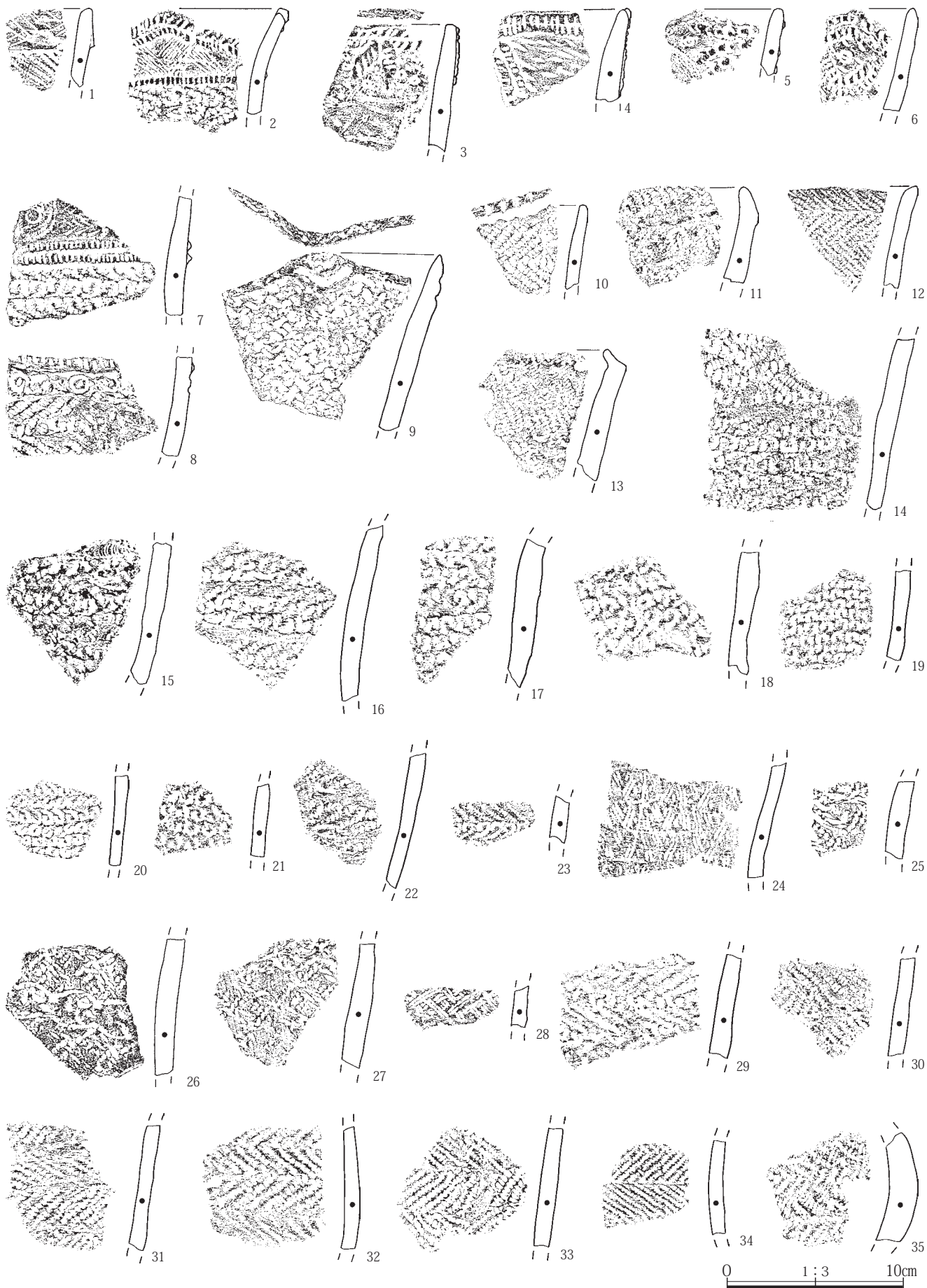
第106図 2区102号竪穴建物 出土遺物



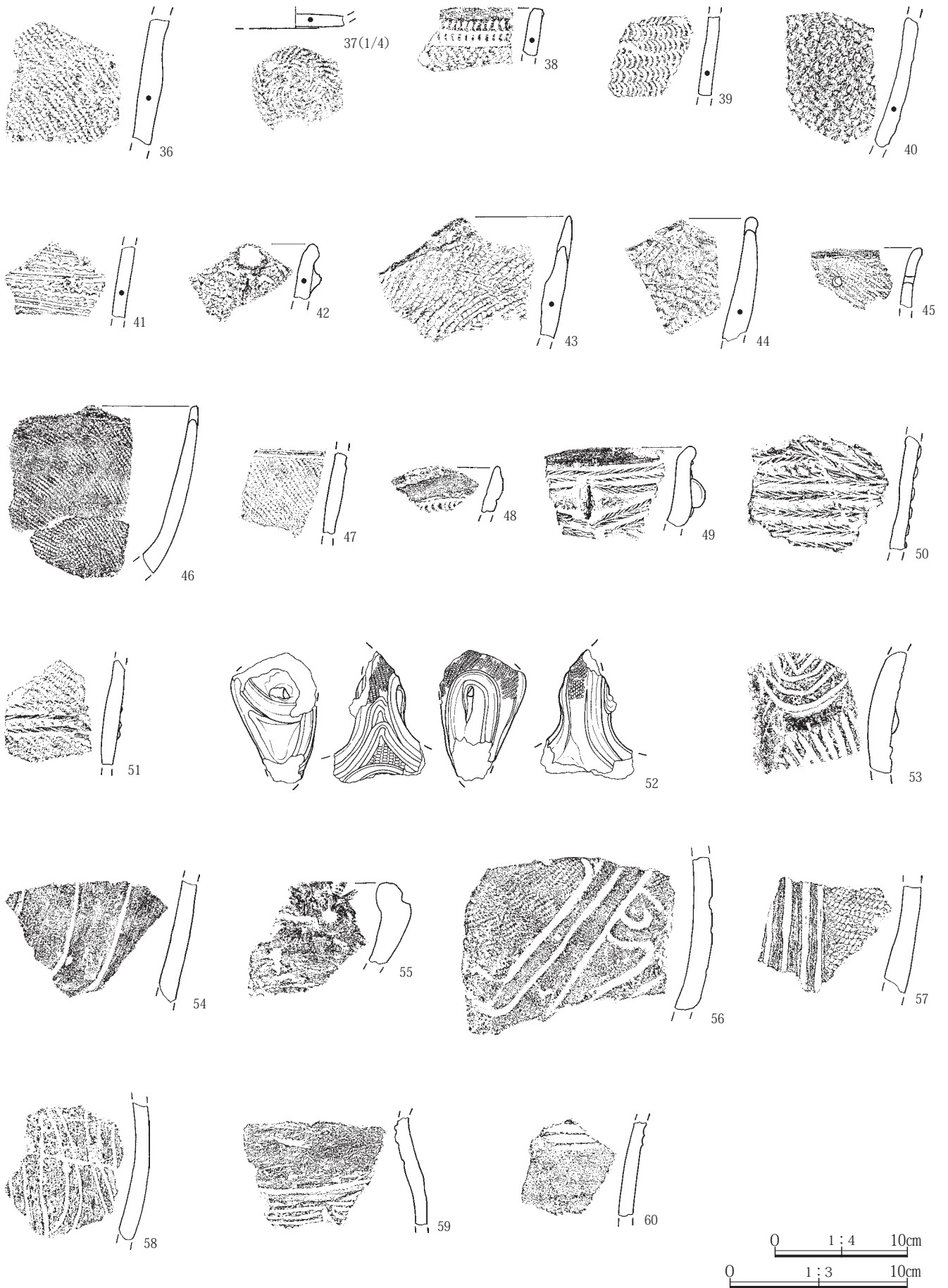
第107図 2区103号竪穴建物 出土遺物



第108図 2区104号竪穴建物 出土遺物

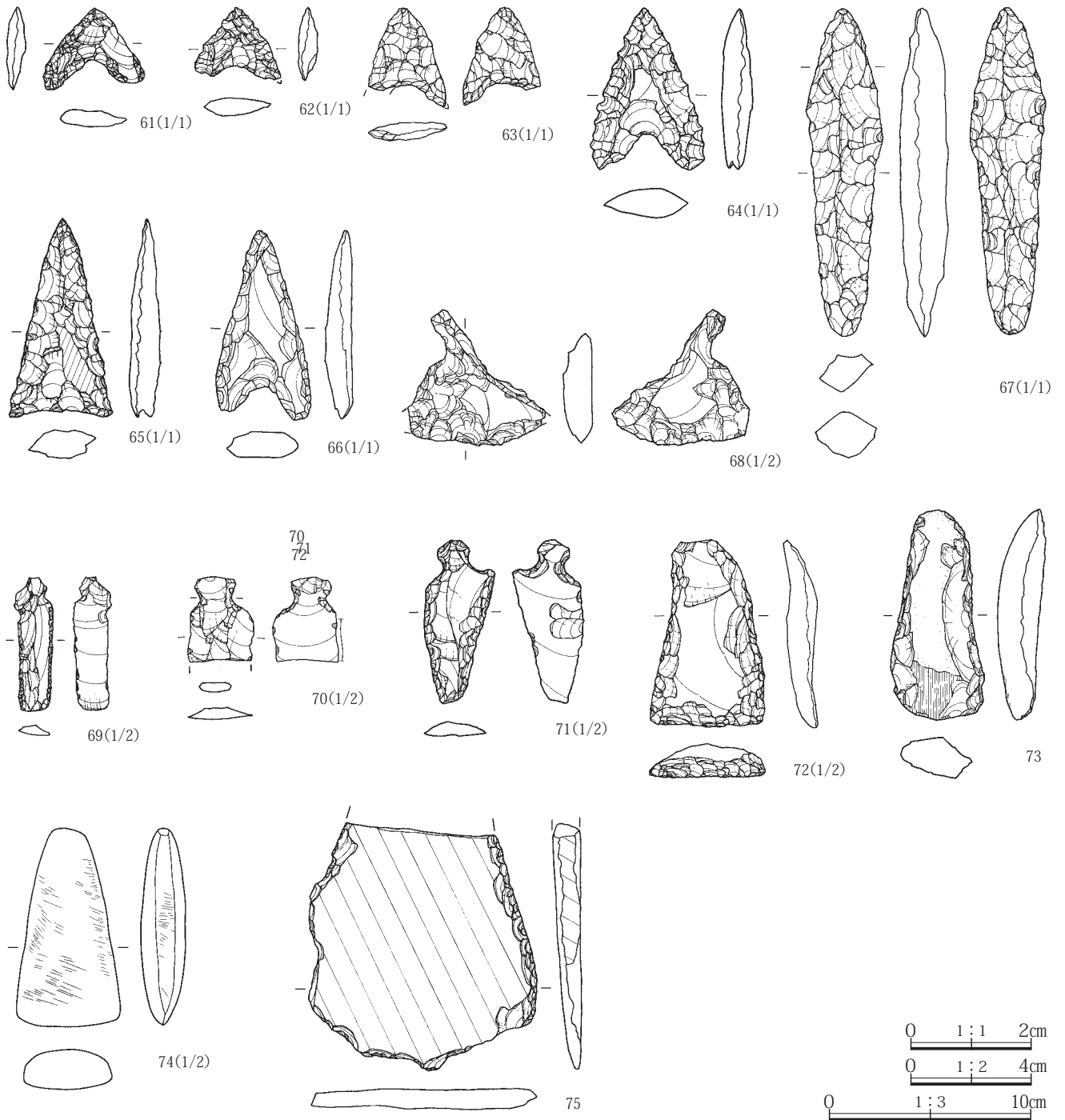


第109図 2区縄文時代遺構外出土遺物(1)



第110図 2区縄文時代遺構外出土遺物(2)

第4章 検出された遺構と遺物



第111図 2区縄文時代遺構外出土石器

色頁岩製の66があり、共に無茎鏃。67は黒色頁岩製の石槍。横型石匙には黒曜石製の68、縦型石匙には珪質頁岩製の69と黒色頁岩製の70・71がある。72は黒色頁岩製のスクレイパーである。73は黒色頁岩製の打製石斧で、74は変質蛇紋岩製の磨製石斧である。さらに、75は表裏面に摂理面を残す粗粒輝石安山岩製の石鍬であり、弥生時代の可能性がある。

他に、黒曜石や黒色頁岩等の石材を主とした石鏃・未製品、石匙、スクレイパー、打製石斧、二次加工ある剥片、石核、粗粒輝石安山岩製の凹石、磨石、そして多くの剥片が出土している。なお、古墳時代の竪穴建物から出土した凹石や磨石も、縄文時代の遺物の可能性はある。

第2項 古墳時代の遺構と遺物

(1) 概要

本調査区で検出された古墳時代の遺構は、調査区全体に広がり、その範囲は西側の1区から東側の3区にまで及ぶ広範囲な集落を形成していたようである。基本層序とした2-A区南壁でのVI層上面ないし上位および2-B区南壁VIII層上面を確認面とした第2面調査で、4世紀から7世紀前半にかけての集落が検出された。この集落を構成する遺構は、竪穴建物53棟がある。検出された建物の分布状況から、集落の広がりや東側の3区は元より、調査区外となる北・南側にまで展開するものと推測される。それは、本調査区を含めた広い範囲に、段丘の東側となる温川西岸沿いに点在する四戸古墳群の存在に大きく関わる古墳時代の集落が展開していたものと考えられる。

(2) 竪穴建物

本調査区で検出された古墳時代の竪穴建物は、第2面調査において4世紀代の竪穴建物2棟、5世紀代の竪穴建物10棟、6世紀代の竪穴建物36棟、7世紀前半代の竪穴建物5棟の計53棟の建物が検出された。これら古墳時代の竪穴建物の特徴に、付随するカマドの構造が石組みによる例が多いことが挙げられよう。

以下、各建物ごとに記述する。(第13表 2区竪穴建物一覧を参照)

2区2号竪穴建物(第112図、第13・66表、PL.24・177)

平成27年度の調査で、調査区の南西端突出部に竪穴建物の南西側の大半を検出したが、その北東隅を平成25年度調査で1区7号竪穴建物として調査している。同一の竪穴建物である。そのため、記述は本項で扱う。

位置：2区南西端の突出部に位置し、1区と跨がる。北側に1区8号竪穴建物、南側に2区3号竪穴建物が重複し、東側に2区5・17号竪穴建物が近接する。

グリッド：2F～2H-135～137

座標値：X=61,156～61,166 Y=-93,673～93,683

形状：方形

重複：本建物の北壁を1区8号竪穴建物、南隅付近に2区3号竪穴建物が重複する。遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は1区8号竪穴建物より本建物の方が旧く、2区3号竪穴建物より新しい。

規模：長軸8.20m 短軸7.83m 壁高20cm

長軸方向：N-72°-E 床面積：60.80㎡

埋没土：1層の褐灰色土と、2層の黒褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、中央付近が硬化する。壁高は20cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：検出されていないが、北壁に存在した可能性が高い。

貯蔵穴：カマドが北壁に存在した可能性からすれば、その配置から1区57号土坑とした遺構が本建物の貯蔵穴であった可能性がある。1区57号土坑出土土器も、本建物出土土器と同時期である。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形を呈し、長軸60～94cm、短軸50～72cm、深さ32～38cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とする。他にP5～10を検出した。いずれの上面も円形ないし楕円形で、長軸32～68cm、短軸30～58cm、深さ25～30cmを測る。埋土は黒褐色土を主体とする。

床面下：床面下に6～10cmほどの掘り込みをもつ。床面下の埋土は、礫を少量含む粘質な黒褐色土で、上面は硬い床面を構築している。

遺物：出土した遺物量は極めて少ない。南隅付近のP4脇の床面上に薦編石と考えられる長さ15cm前後の石がまとまって出土している。

第4章 検出された遺構と遺物

出土遺物として、土器1点と石製品1点を図示した。1は土師器の杯であり、2は碧玉の管玉で緑黒色を呈し、長さ2.7cm、幅0.9cm、重さ3.9gを測り、丁寧に研磨され、上面から下面に向けた片面穿孔である。

未掲載遺物には、土師器片が僅かにある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀末から7世紀前半か。

2区3号竪穴建物

(第113～115図、第13・67表、PL.24・177)

平成27年度の調査で検出した。2区2号竪穴建物と重複する。

位置：2区南西端突出部の南壁際に位置し、北側に2区2号竪穴建物が重複する。東側に2区4・5号竪穴建物が近接する。

グリッド：2E・2F-135～137

座標値：X=61,151～61,158 Y=-93,674～93,684

形状：方形

重複：本建物の北隅を2区2号竪穴建物と重複する。遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が古い。

規模：長軸(6.53)m 短軸6.65m 壁高15～28cm

長軸方向：N-60°-E 床面積：(32.20) m²

埋没土：2区2号竪穴建物2層よりやや明るい黒褐色土を埋土とする。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近が著しく硬化する。壁高は15～28cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-57°-Eを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長(2.48)m、幅1.17mを測る。袖は壁から70～83cmほど突き出るように残存し、両袖に袖石が据えられ、袖石に架かる焚口部の天井石をカマド前の床面上に確認した。また、袖の内壁は被熱して焼土化が著しい。焚き口部から燃烧部の底面にかけては建物床面より低くなり、燃烧部の底面には並列した二つの支脚石が残存する。煙道部は燃烧部奥に一段高く緩やかに長く立ち上がる。

一方、カマドの構築状況は、袖部を含めた燃烧部全

体を大きく掘り窪め、両袖石を据えてからカマド面を黒褐色土で構築し、その後に袖を含めたカマド本体を暗褐色土で構築したと考えられる。なお、袖構築土内には白色の骨片を僅かに含む。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、規模は長軸88cm、短軸69cm、深さ32cmを測り、長方形を呈する。埋土は上位に黒褐色土、下位に暗褐色土である。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形を呈し、長軸65～100cm、短軸62～66cm、深さ42～86cmを測る。埋土は暗褐色土を主体とする。他にP4と重なるP5を検出した。

遺物：出土した遺物量はあまり多くないが、カマドの周囲おもび南東壁際に土器が出土し、中央付近の床面上に薦編石と考えられる長さ15cm前後の石が散漫に出土している。8の甕はカマド右袖脇となる壁際の床面直上に潰れて出土し、2の杯はP4内から、1の杯は右袖内から出土している。他は、埋土中からの出土である。

出土遺物として、土器10点を図示した。1～5は土師器の杯であり、1の内面にはへら磨きを施す。6は土師器の鉢。7は須恵器の高坏の脚部で、透孔をもつ。8・9は土師器の甕で、8はほぼ完形品。10は須恵器の甕の胴部片で、内外面に叩き具痕や当て具痕を残す。

未掲載遺物には、土師器片が僅かにある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区4号竪穴建物(第116図、第13・68表、PL.24・177)

平成27年度の調査で検出した。南壁際に竪穴建物の北側の一部を検出したが、大半は調査区外にあるため詳細は不明。

位置：2区南西端の南壁際に位置し、西側に2区3号竪穴建物、北側に5号竪穴建物が近接する。

グリッド：2D・2E-135・136

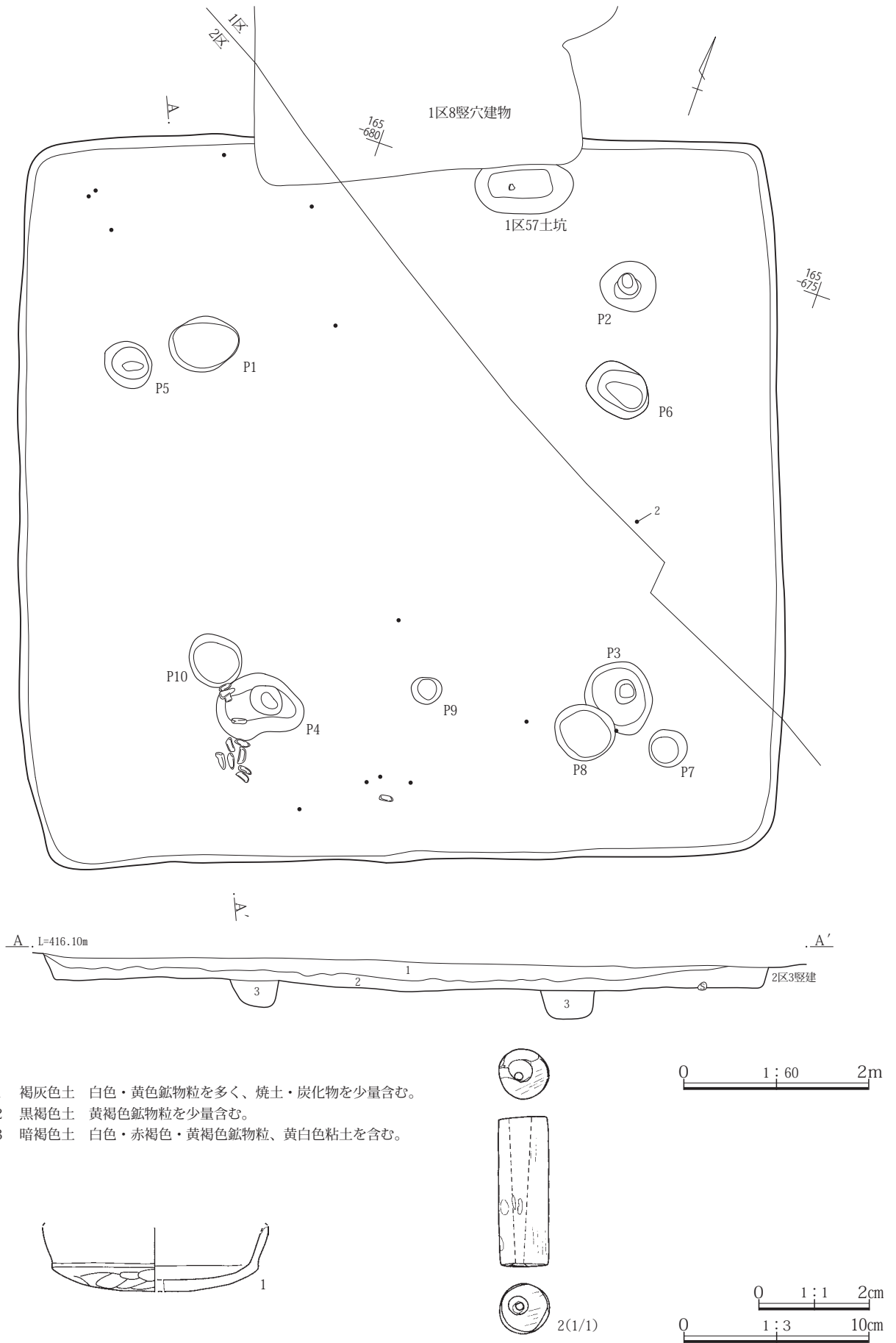
座標値：X=61,147～61,152 Y=-93,371～93,376

形状：方形か

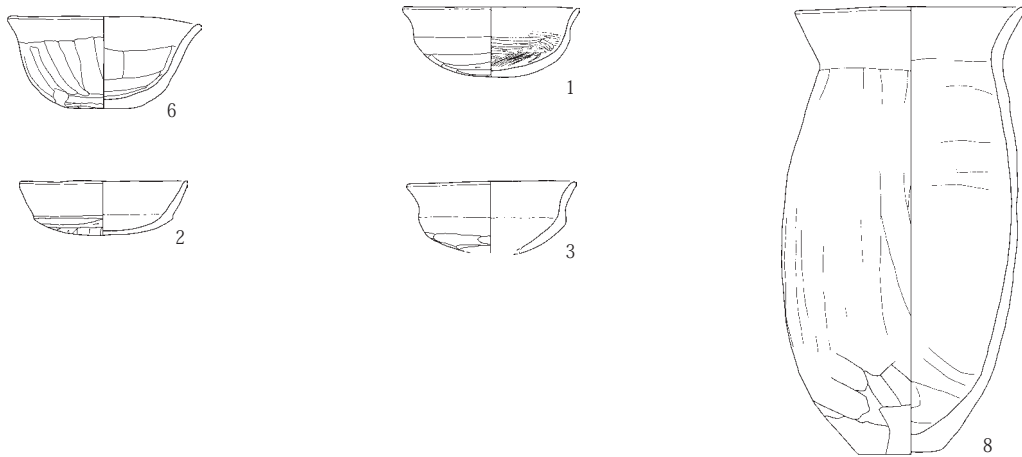
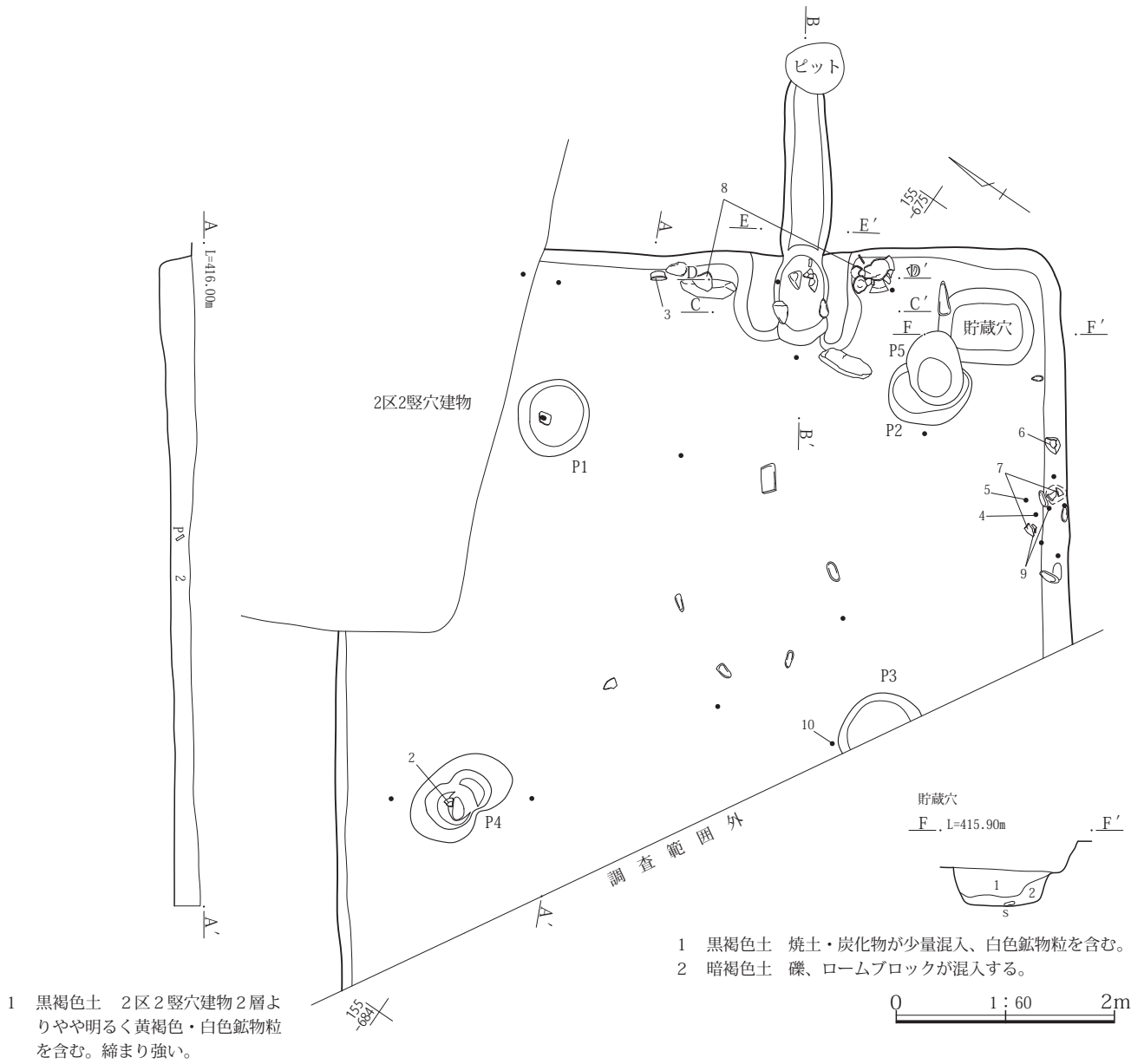
規模：長軸6.08m 短軸(1.63)m 壁高40cm

長軸方向：N-47°-W 床面積：(5.01) m²

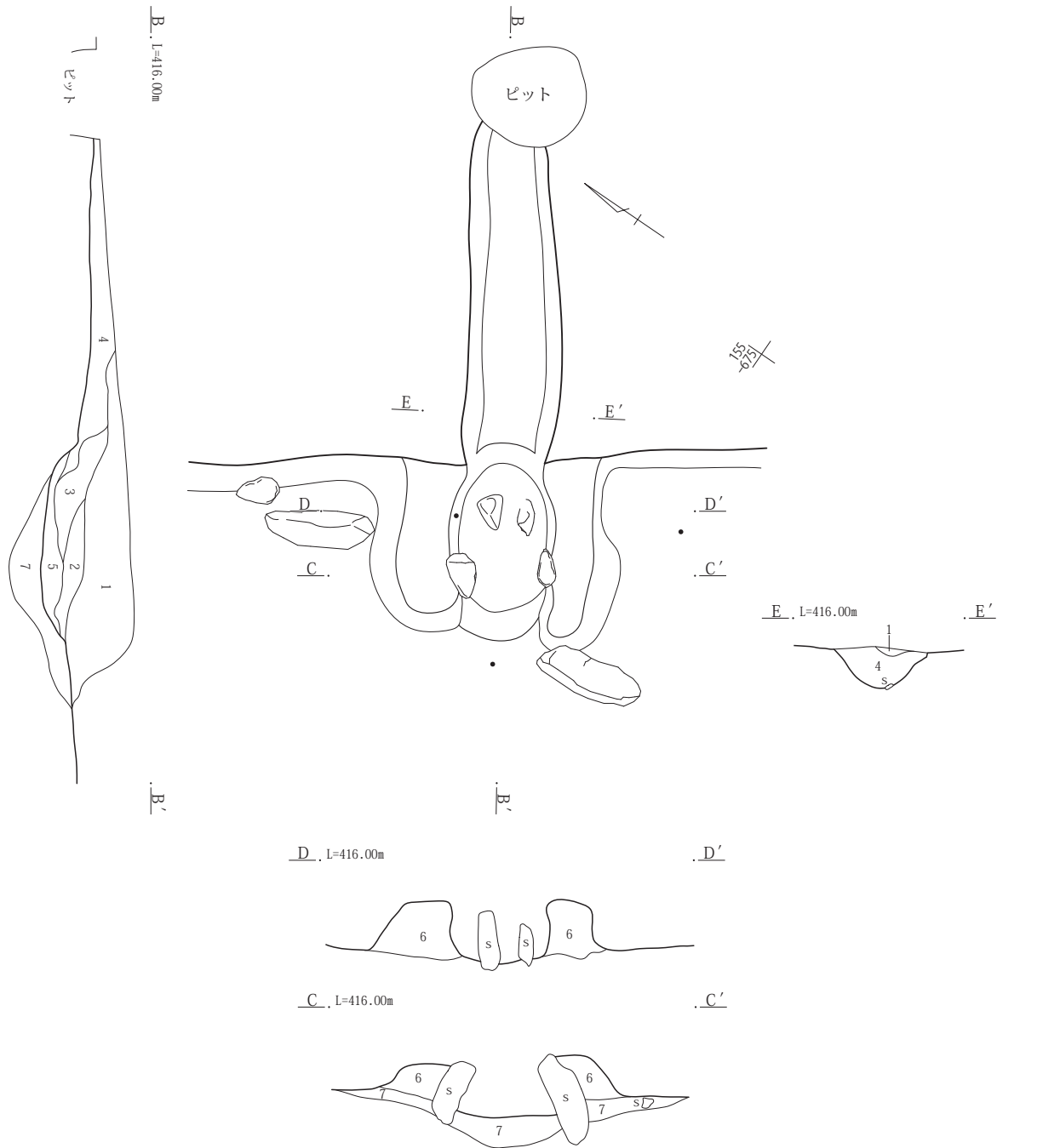
埋没土：2-A区南壁での基本層序I～V層下に、6・7層の黒褐色土を主体とし、8・9層とに分層できる。



第112図 2区2号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

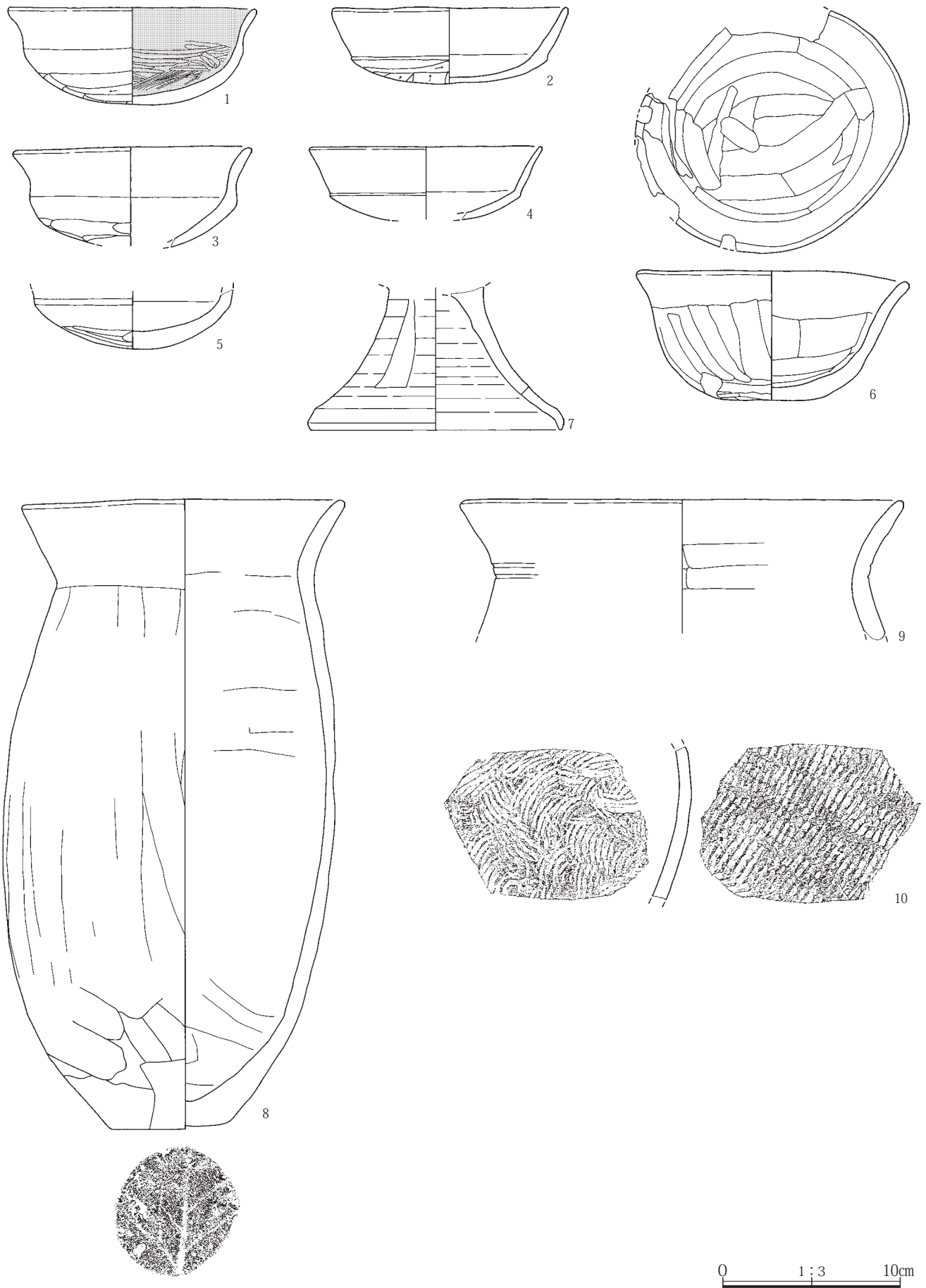


第113図 2区3号竪穴建物 床面 平・断面図



- 1 黒褐色土 白色鉱物粒・焼土粒を少量含む。(建物2層に相当)
- 2 赤褐色土 焼土・黄白色粘土ブロックを混入する。天井部の崩落土か。
- 3 赤褐色土 焼土ブロックを主とする。天井部の崩落焼土か。
- 4 暗褐色土 白色・赤褐色鉱物粒を含み、下位ほど焼土化する。煙道部天井の崩落焼土か。
- 5 褐灰色土 焼土を含み、粘性がある。
- 6 暗褐色土 内側は被熱して焼土化する。白色粘土を少量含み、締まりあり。(袖構築土)
- 7 黒褐色土 焼土と灰が上位に僅かに混入する。(カマド底面の構築土)

第114図 2区3号竪穴建物 カマド 平・断面図



第115図 2区3号竪穴建物 出土遺物

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦な状況である。壁高は40cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：詳細は不明。

遺物：出土した遺物は極めて少なく、埋土中からである。

出土遺物として、1の土師器の杯1点を図示した。

未掲載遺物には、土師器や須恵器片が僅かにある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

2区5号竪穴建物

(第117～120図、第13・69表、PL.24・25・177・178)

平成27年度の調査で検出した。2区6・17号竪穴建物、2区1号土坑と重複する。

位置：2区の南西端に位置し、北側に2区17号竪穴建物、東側に2区6号竪穴建物、南西側に2区1号土坑と重複する。また、西側に2区2・3号竪穴建物、南西側に2区4号竪穴建物が近接する。

グリッド：2E-134

座標値：X=61,150～61,158 Y=-93,665～93,673

重複：本建物の北隅を2区17号竪穴建物、東隅を2区6号竪穴建物、南西壁に2区1号土坑と重複する。遺構確認および土層断面の観察から、その新旧はいずれよりも本建物の方が古い。

形状：正方形

規模：長軸6.41m 短軸6.41m 壁高15～32cm

床面積：38.32㎡

埋没土：1層の褐灰色土と、2層の黒褐色土とに分層できる。2層下位には、炭化材や炭化物が出土している。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近が著しく硬化する。また、西隅の床面上には炭化物粒が薄く広がっていた。壁高は15～32cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-53°-Eを向き、残存状態は良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長1.68m、幅1.20mを測る。袖は壁から90cmほど突き出るように残存し、袖石はなく、袖の内壁は被熱して焼土化する。焚き口部から燃焼部の底面にかけては建物床面より僅かに低くなり、煙道部は燃焼部奥から斜位に長く立ち上がる。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後、袖を含めたカマド本体を構築するが、下部に暗褐色土、上部に褐色土を乗せる形で構築したと考えられる。

貯蔵穴：2区6号竪穴建物との重複により不明。

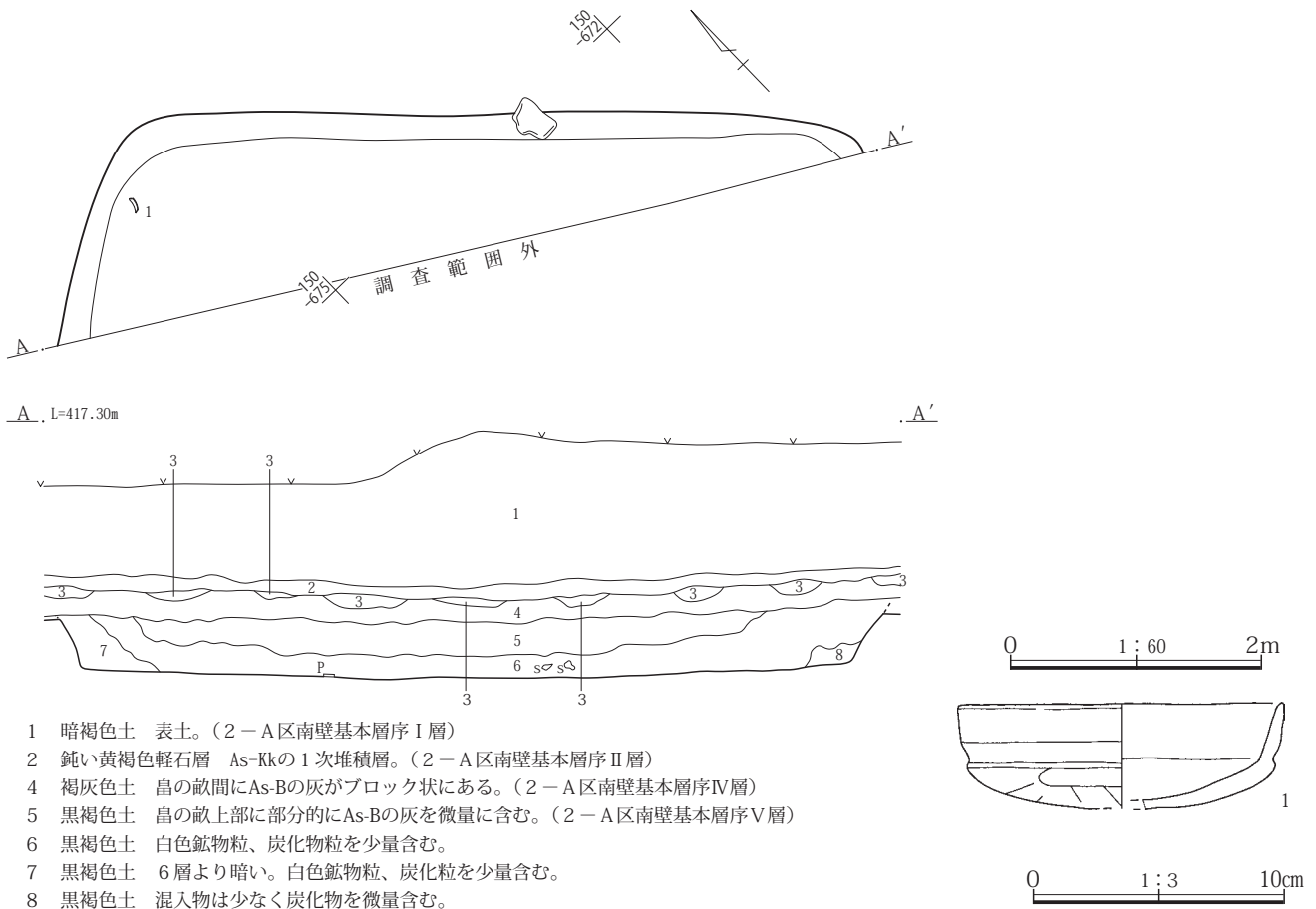
柱穴：支柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形を呈し、長軸48～97cm、短軸46～62cm、深さ28～70cmを測る。埋土は暗褐色土ないし黒褐色土を主体とする。なお、P2は2穴からなるが、北東側が支柱穴となる。他にP5を検出した。

床面下：床面下に15～20cmほどの掘り込みをもつ。床面下の埋土は、3層としたロームブロックを混入した暗褐色土が張床風になり、上面の床面がより硬化している。また、4層とした黒褐色土上面の床面においても硬化は確認されている。

遺物：出土した遺物量はやや多い。P5の上面となる床面直上からは12の甕が逆に、その脇に8の壺の胴部片、南東壁際の床面直上から7の杯が出土し、北西壁付近の北側では1の杯および9の甕が床面のやや上から、西隅付近の床面のやや上から13・14の甕が出土している。10の小型甕等は西隅付近の埋土中からの出土である。また、16～20の白玉はカマド左袖の左脇床面付近から出土し、21～23の白玉はP4の北側の床面直上から、24・25の白玉はP4の周囲から出土している。

出土遺物として、土器15点と石製品11点の計26点を図示した。1～7は土師器の杯であり、7の内面にはへう磨きを施す。8は土師器の壺で、9は土師器の甕。10・11は土師器の小型甕で、12～15は土師器の甕である。

石製品は全て滑石製の白玉である。16は灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.3cm、孔径3mm、重さ0.2gを測り、側面に擦痕が認められる。17はオリーブ灰色をなし、径0.8cm、厚さ0.5cm、孔径2mm、重さ0.6gを測り、側面に擦痕が認められる。18は灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.7cm、孔径3mm、重さ1.0gを測り、側面に擦痕が認められる。19は灰白色をなし、径1.0cm、厚さ0.7cm、孔径3mm、重さ1.0gを測り、側面に擦痕が認められる。20はオリーブ灰色をなし、径0.9cm、厚さ0.8cm、孔径2mm、重さ1.0gを測り、側面に擦痕が認められる。21は灰白色をなし、径1.0cm、厚さ0.5cm、孔径3mm、重さ0.6gを測り、側面に擦痕が認められる。22



第116図 2区4号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

はオリーブ灰色をなし、径0.9cm、厚さ0.4cm、孔径2mm、重さ0.4gを測り、側面に擦痕が認められる。23はオリーブ灰色をなし、径0.9cm、厚さ0.5cm、孔径2mm、重さ0.3gを測り、側面に擦痕が認められる。24は灰白色をなし、径0.8cm、厚さ0.6cm、孔径3mm、重さ0.4gを測り、側面に擦痕が認められる。25は灰白色をなし、径0.8cm、厚さ0.8cm、孔径3mm、重さ1.1gを測り、側面に擦痕が認められる。26は灰白色をなし、径0.7cm、厚さ0.5cm、孔径3mm、重さ0.3gを測り、側面に擦痕が認められる。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器片が僅かにある。

所見・時期：出土した炭化材や炭化物の広がりから、焼失家屋の可能性ある。建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

2区7号竪穴建物

(第121～124図、第13・71表、PL.26・27・43・179)

平成27年度の調査で検出した。南壁際にあるため、竪穴建物の南西隅は調査区外となる。2区31号竪穴建物と重複する。カマドの残存状況が良好で、特に石組構造の状況が特徴的である。

位置：2区南西端付近の南壁際に位置し、南東側を2区31号竪穴建物と重複する。また、北側に2区6号竪穴建物、東側に2区10号竪穴建物、南東側に2区8号竪穴建物が近接する。

グリッド：2C・2D-132～134

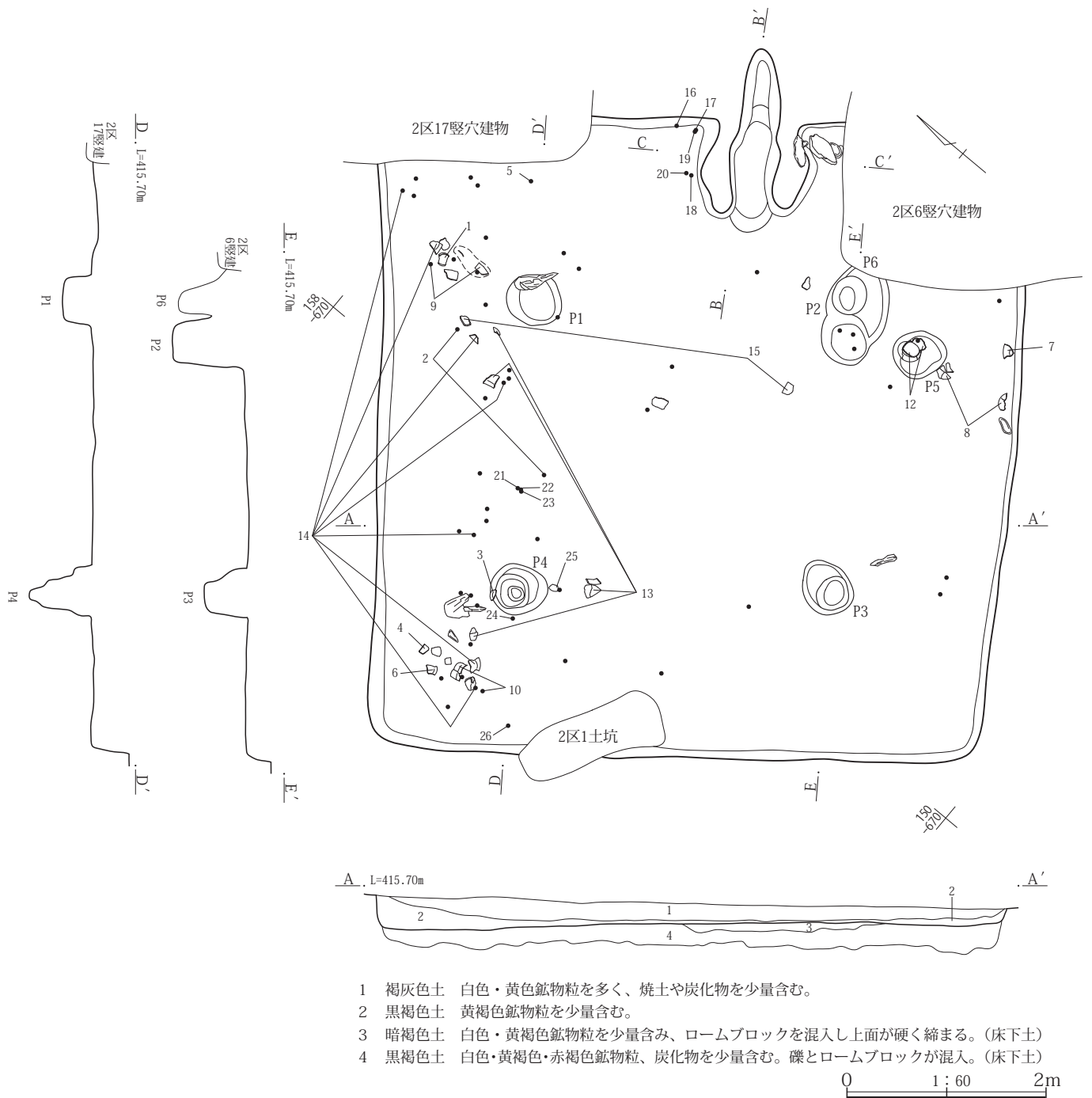
座標値：X=61,142～61,149 Y=-93,659～93,665

重複：本建物の南東側を2区31号竪穴建物と重複する。

遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が新しい。

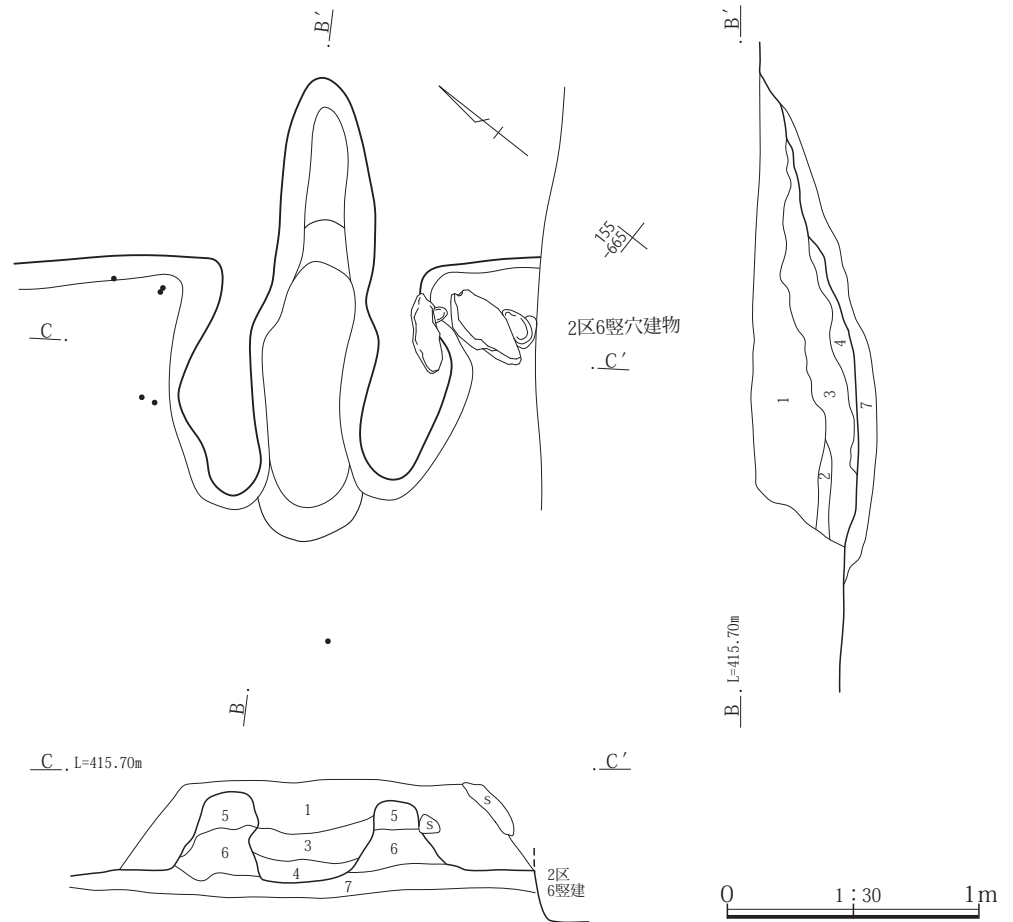
形状：方形

規模：長軸5.84m 短軸5.81m 壁高44～63cm



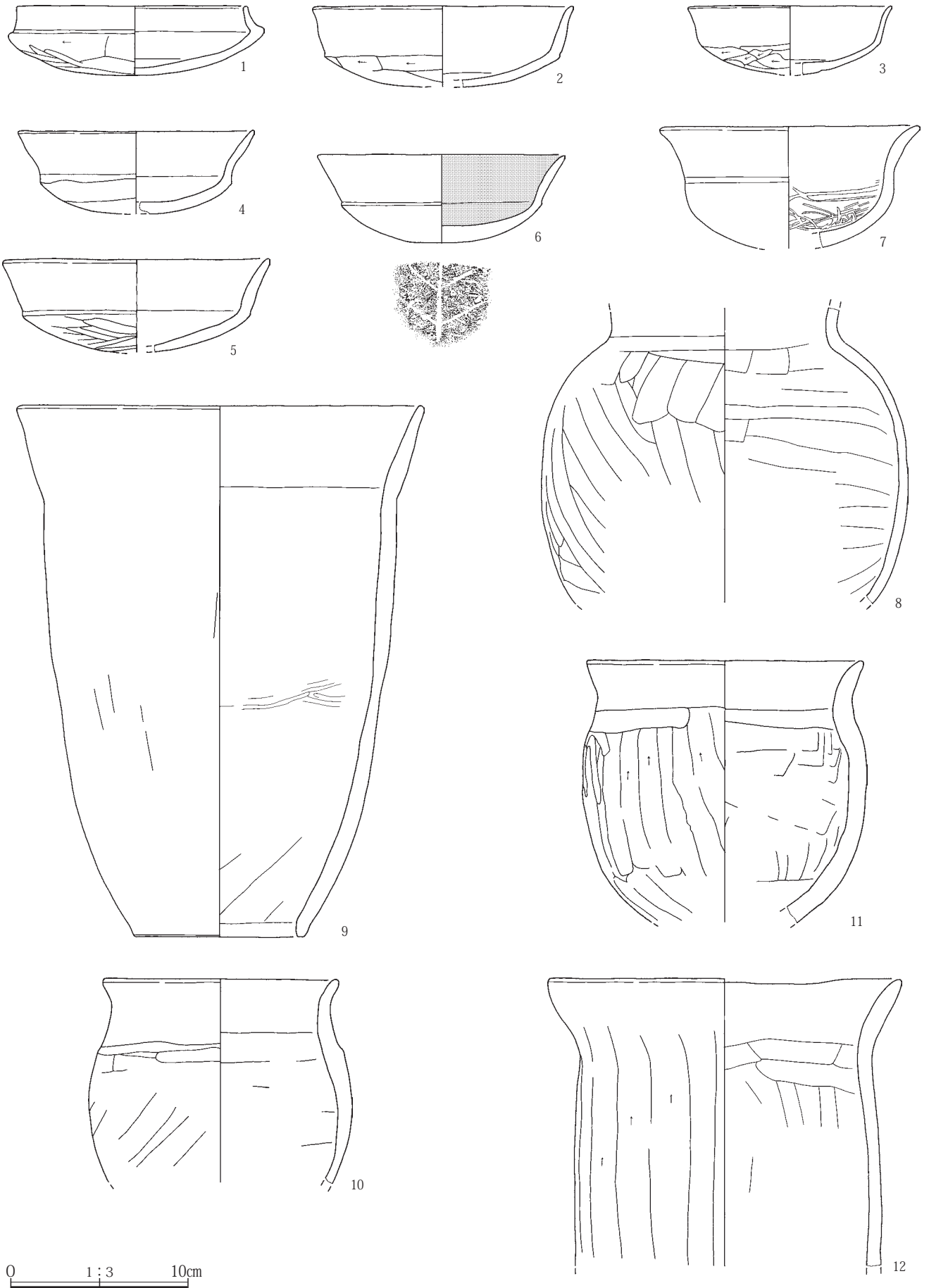
- 1 褐灰色土 白色・黄色鈹物粒を多く、焼土や炭化物を少量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色鈹物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 白色・黄褐色鈹物粒を少量含む、ロームブロックを混入し上面が硬く締まる。(床下土)
- 4 黒褐色土 白色・黄褐色・赤褐色鈹物粒、炭化物を少量含む。礫とロームブロックが混入。(床下土)

第117図 2区5号竪穴建物 床面 平・断面図

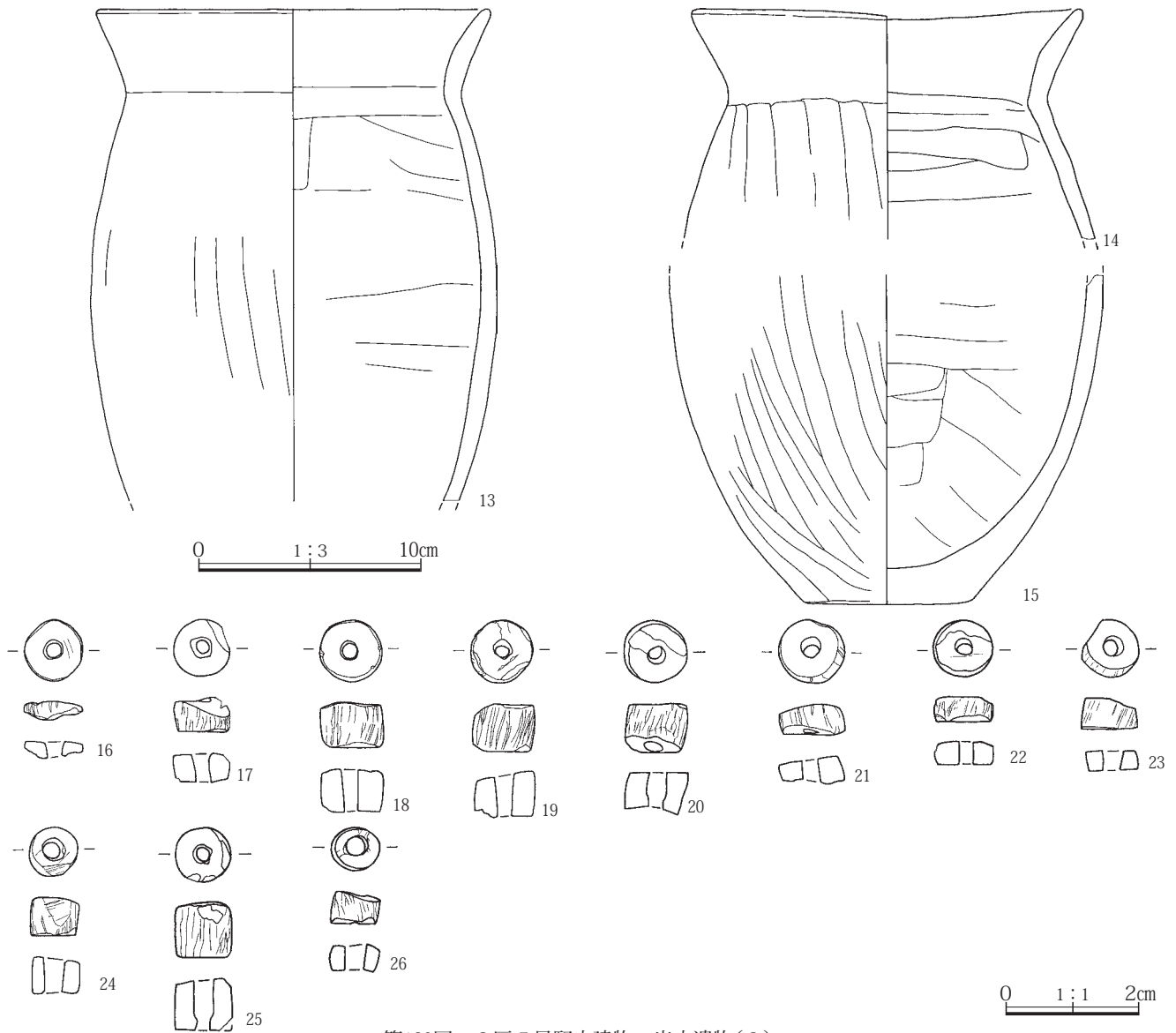


- 1 暗褐色土 白色・黄褐色鋳物粒、焼土粒を少量含む。(建物1層に相当)
- 2 黒褐色土 白色鋳物粒を少量含む。(建物2層に相当)
- 3 暗赤褐色土 焼土ブロックを主とする。
- 4 黒褐色土 灰や炭化物を含み、粘質。
- 5 褐色土 白色鋳物粒、黄褐色粘土ブロックを少量、焼土ブロックを含み、硬く締まる。(袖構築土)
- 6 暗褐色土 白色鋳物粒、黄褐色粘土ブロックを少量、焼土ブロックを含み、硬く締まる。(袖構築土)
- 7 黒褐色土 白色・黄褐色・赤褐色鋳物粒を少量含み、ロームブロックが混入。(建物4層に相当)

第118図 2区5号竪穴建物 カマド 平・断面図



第119図 2区5号竪穴建物 出土遺物(1)



第120図 2区5号竪穴建物 出土遺物(2)

長軸方向：N-27°-W 床面積：(29.93)m²
 埋没土：1・2層の黒褐色土を主に、壁際から下位に3層の粘質な黒色土と4層の黒褐色土とに分層できる。
 床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近が著しく硬化する。壁高は44~63cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。
 カマド：北西壁中央のやや北寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-20°-Wを向き、遺構確認面に煙道部天井石が確認できた残存状態の極めて良好な石組みカマドである。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。調査時に確認されていた煙道部の大型礫4石からなる天井石など、多くの石が原位置を止めた石組構造である。カマドの規模は、全長2.44m、幅1.49mを測る。袖は壁から110cmほど突出し、先端部

に袖石は確認されなかったが、右袖のカマド前に長さ63cmほどの礫が出土しており、この長い礫が焚口部の天井石と考えられる。焚口部から燃焼部の底面にかけて、建物床面よりやや低くなる。なお、燃焼部にあたる袖内壁は被熱して焼土化が著しい。極めて良好に残存する煙道部は、天井石に粗粒輝石安山岩の大型板状礫4石(S 1~4、各石の大きさ：長さ50~70cm前後、幅30~40cm前後)からなり、その隙間に拳大前後の石を間詰めしていた。また、煙道部の天井石下には煙道部両側面に長い大型の垂円礫(長さ60cm前後、幅25~30cm前後)を据え、その底面は燃焼部奥から長く傾斜をもって立ち上がる。煙道部出口にみられる大型礫は、原位置を止めていない(出口の蓋石とも考えられるが、詳細は不明)。

一方、カマドの構築状況は、第124図に示すように最初に煙道部も含めた広い範囲を大きく掘り窪め、その後煙道部の側壁となる大型礫を据え、さらに天井石を据える手順で進む。この側壁石を据える段階に、側壁石S5・8の断面状況(10・11層)から袖部の一部も構築していたと考えられ、第123図に示す燃烧部奥を起点に高さを調整しながら側壁石S5・8を最初に据え、S10・12を据えながら袖部の付け根部も構築する。さらに、側壁石S6・7・9を順次据える。煙道部の内幅は20cm前後となる。天井石も起点となる燃烧部側のS1を先に据え、高さを調節しながらS2～4へと順次据えつつ各天井石間の間詰めを行う。天井石は側壁石S7には乗らない。依って、その箇所が煙道出口となる(3区25号竪穴建物カマドの石組煙道部にみられた奥壁石はもたない)。構築の最終段階として、燃烧部および焚き口部の天井石等を構築したことが窺える。

貯蔵穴：カマドの右側となる北隅付近に位置し、長軸1.03m、短軸0.85mの楕円形を呈し、深さ50cmを測る。埋土は褐色土を主体とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。主柱穴上面は楕円形で、長軸78～92cm、短軸70cm前後、深さ62～74cmを測る。埋土は暗褐色土と黒褐色土を主体とする。他に小さく浅いP5を検出した。

床面下：床面下に掘り込みはもたないが、カマド煙道部先端(出口)の右側に、煙道部天井石と同様な粗粒輝石安山岩の大型板状礫が建物壁面と平行するようになり、その土層断面の観察から人為的に立てられたと考えられる。本竪穴建物に関わる石と推測される。

遺物：出土した遺物量は少なく、その多くは埋土中からである。その中であって、1の杯は貯蔵穴内から、2・3の杯は面のやや上からの出土である。

出土遺物として、土器6点と石製品3点を図示した。1～4は土師器の杯であり、5・6は土師器の甕の口縁部ないし底部である。

石製品には7・8の白玉と、9の棒状礫がある。7は滑石製で灰白色をなし、径0.7～1.2cm、厚さ0.7cm、孔径3mm、重さ0.7gを測り、側面に擦痕が認められる。8は滑石製で灰白色をなし、径1.0cm、厚さ0.8cm、孔径2mm、重さ1.5gを測り、側面に擦痕が認められ

る。9は粗粒輝石安山岩製で、長さ14.1cm、幅7.0cm、厚さ5.2cm、重さ700.1gを測り、表裏面が磨面となり、表面に線条痕が集中する。

未掲載遺物には、土師器片が多くある。

所見・時期：煙道部が石組構造となる極めて残存状況の良好なカマドを有する特徴的な竪穴建物である。建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区8号竪穴建物

(第125図、第13・72表、PL.28・43・179)

平成27年度の調査で検出した。南壁際にあるため、竪穴建物の南半は調査区外となる。2区9・31号竪穴建物と重複する。

位置：2区南西端付近の南壁際に位置し、東側に2区9号竪穴建物、西側に平行するように2区31号竪穴建物と重複する。また、北側に2区10号竪穴建物が近接する。

グリッド：2B・2C-132

座標値：X=61,139～61,144 Y=-93,655～93,658

重複：本建物の東隅の北東壁に2区9号竪穴建物、西半を2区31号竪穴建物と重複する。遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は2区9号竪穴建物より本建物の方が旧く、2区31号竪穴建物より新しい。結果、本建物の東隅の北東壁は壊され、本建物の床面より2区31号竪穴建物の床面はやや低い位置にある。

形状：方形か

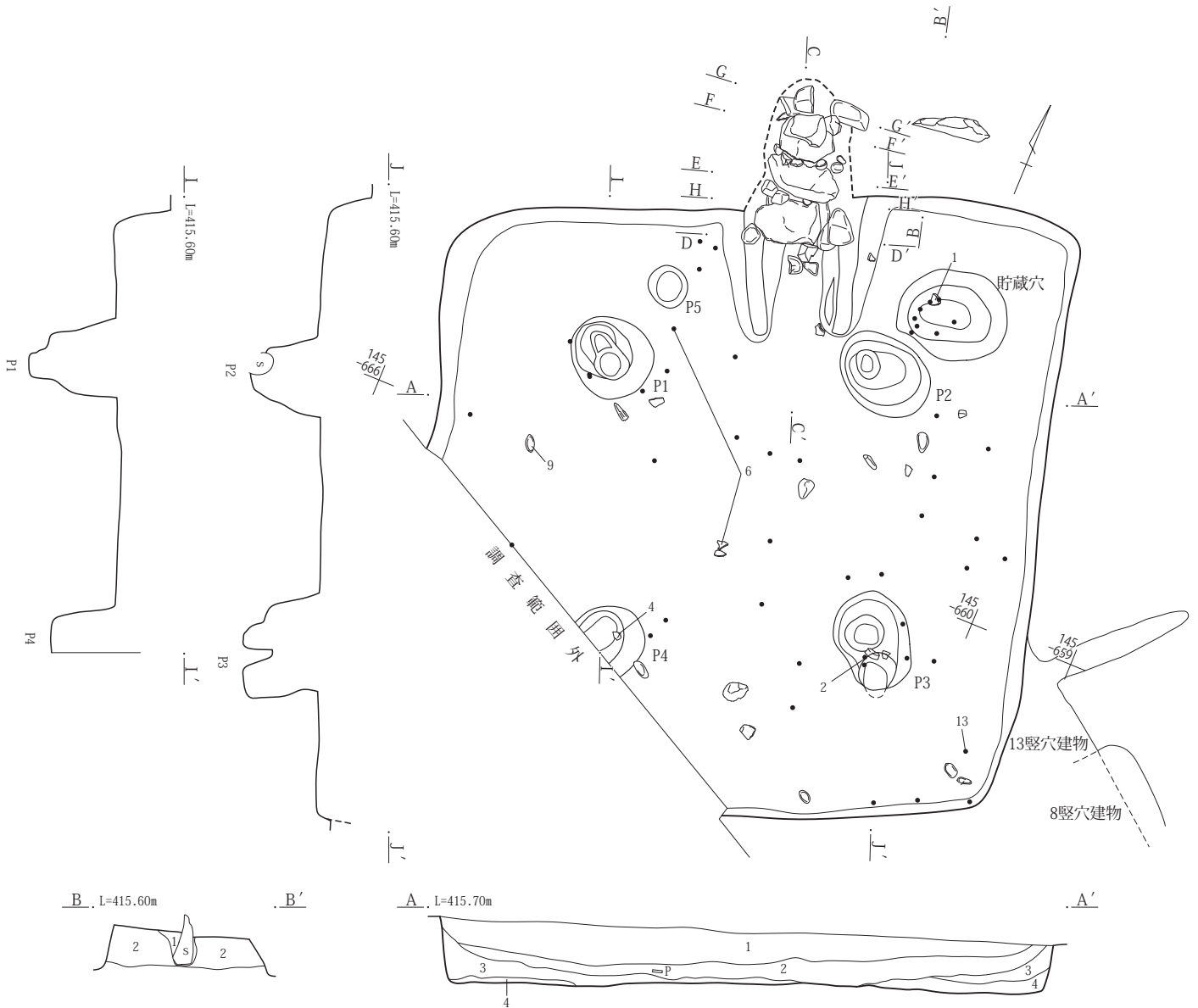
規模：長軸(3.15)m 短軸(4.73)m 壁高32～34cm

長軸方向：N-39°-E 床面積：(13.02) m²

埋没土：1・2層の黒褐色土を主とし、下層に3層となる2区31号竪穴建物の埋没土と分層できる。

床面・壁：床面はローム上面にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近がやや硬化する。壁高は30cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-47°-Eを向き、残存状態はあまり良くない。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長2.02m、幅1.28mを測る。袖は壁から40cmほど突き出るように残存するが、先端は不明。袖石は確認していない。焚き口部から燃烧部の底面にかけては建物床面より僅かに低くなり、



1 黒褐色土 僅かにロームブロックを含む。締りのある土。
 2 黒色土 白色鉍物粒を少量含む。(2-A区南壁基本層序VI層)

1 黒褐色土 白色・黄色・赤褐色鉍物粒を含み、やや砂質。
 2 黒褐色土 白色鉍物粒を少量、ローム・焼土ブロック、炭化物を含む。
 3 黒色土 僅かに焼土粒、ロームブロックを含む。粘質が強い。
 4 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。

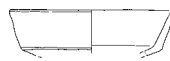
0 1:60 2m



1

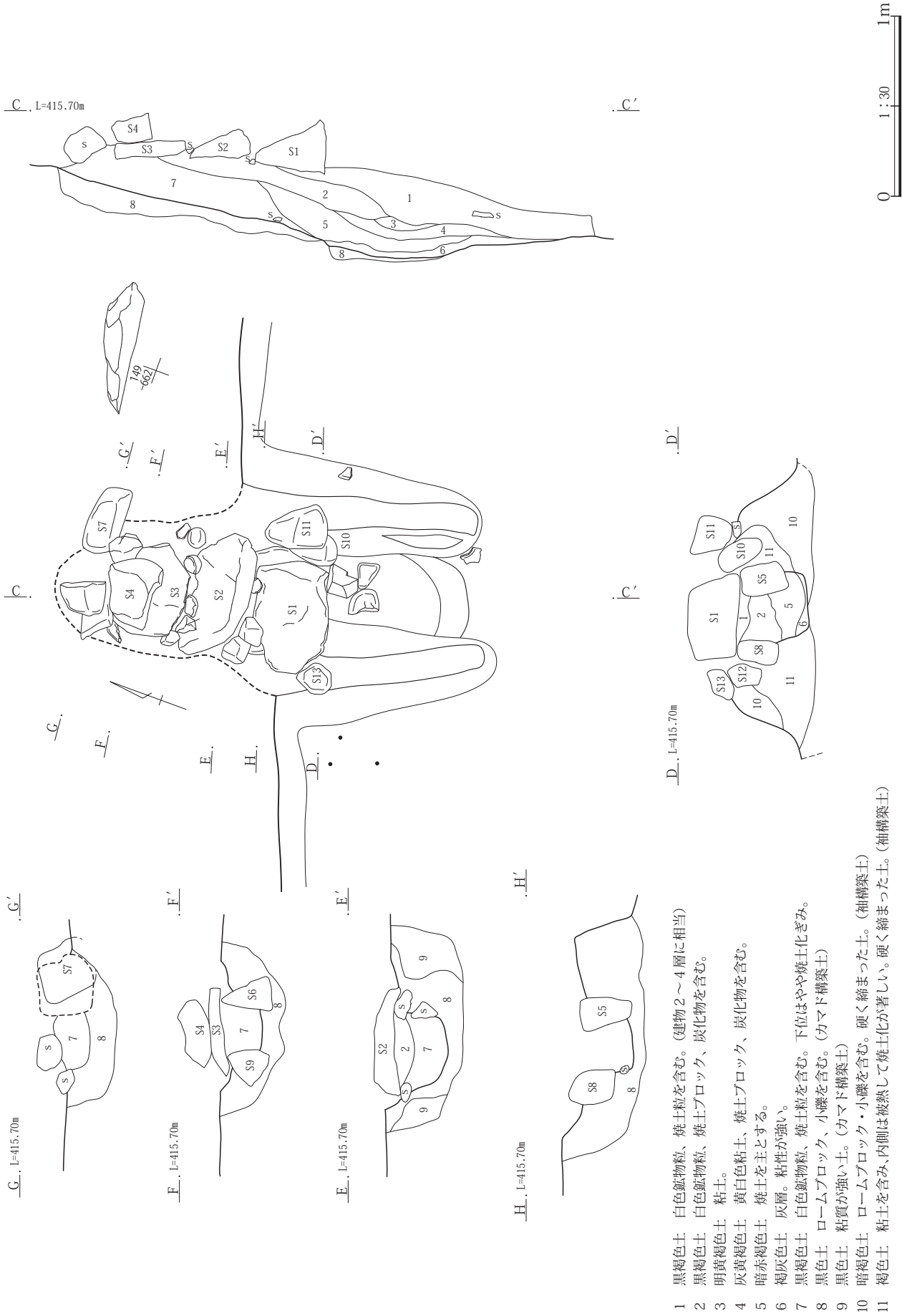


2



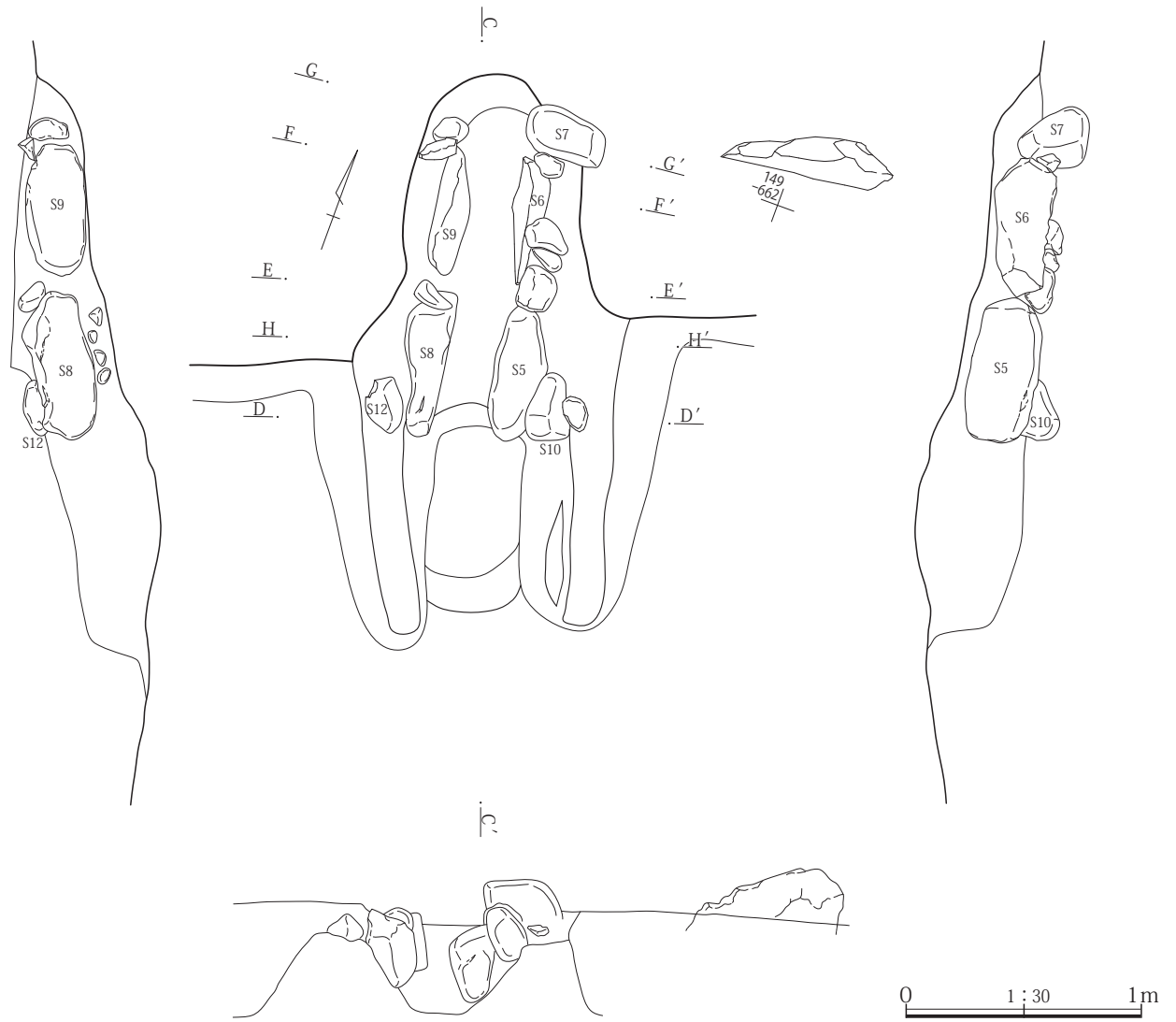
3

第121図 2区7号竪穴建物 床面 平・断面図

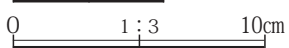
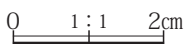
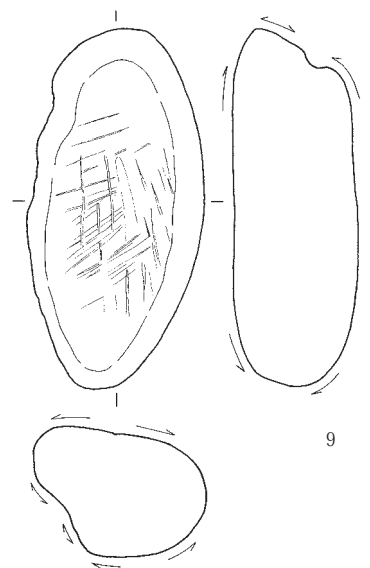
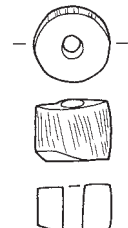
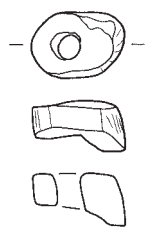
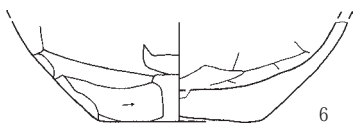
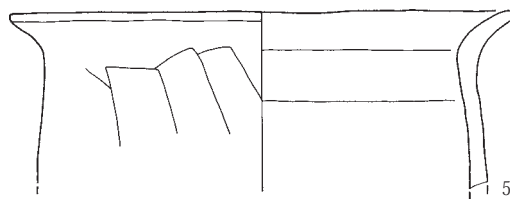
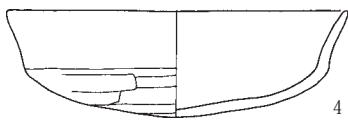
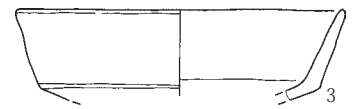
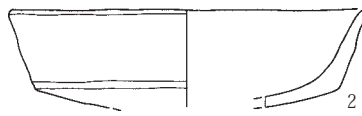
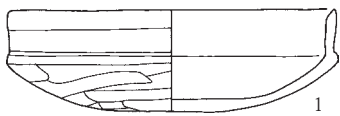
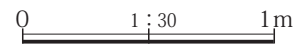
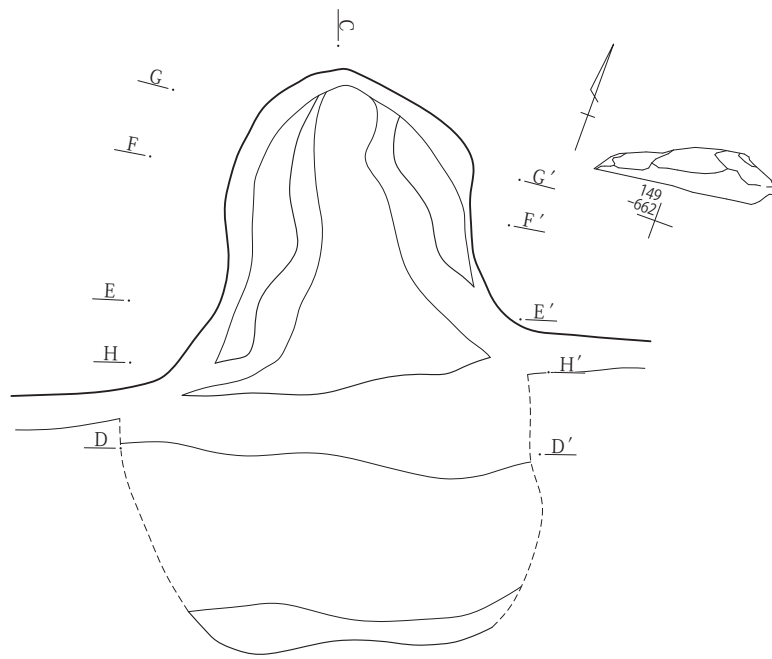


第122図 2区7号竪穴建物 カマド 平・断面図(1)

- 1 黒褐色土 白色鉱物粒、焼土粒を含む。(建物2~4層に相当)
- 2 黒褐色土 白色鉱物粒、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 3 明黄褐色土 粘土。
- 4 灰黄褐色土 黄白色粘土、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 5 暗赤褐色土 焼土を主とする。
- 6 褐灰色土 灰層。粘性が強い。
- 7 黒褐色土 白色鉱物粒、焼土粒を含む。下位はやや焼土化がみ。
- 8 黒色土 ロームブロック、小礫を含む。(カマド構築土)
- 9 黒色土 粘質が強い土。(カマド構築土)
- 10 暗褐色土 ロームブロック・小礫を含む。硬く縮まった土。(袖構築土)
- 11 褐色土 粘土を含み、内側は被熱して焼土化が著しい。硬く縮まった土。(袖構築土)

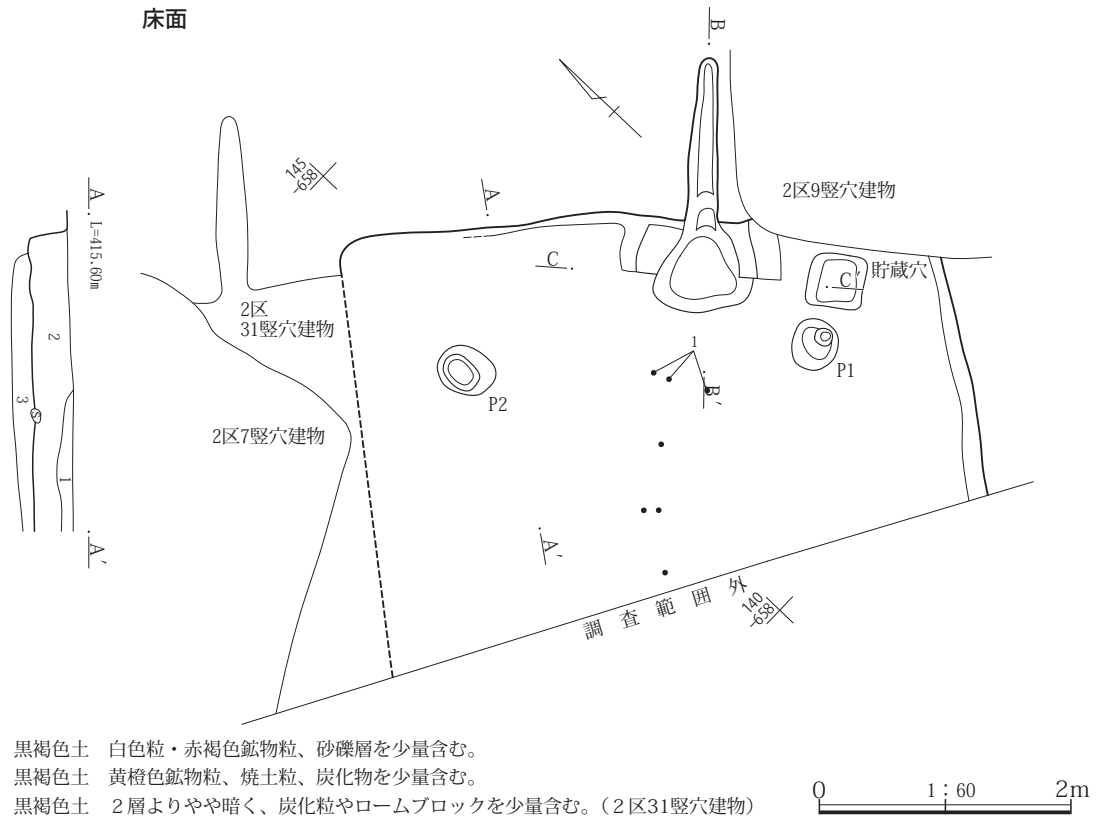


第123図 2区7号竪穴建物 カマド 平・正面・側面図(2)



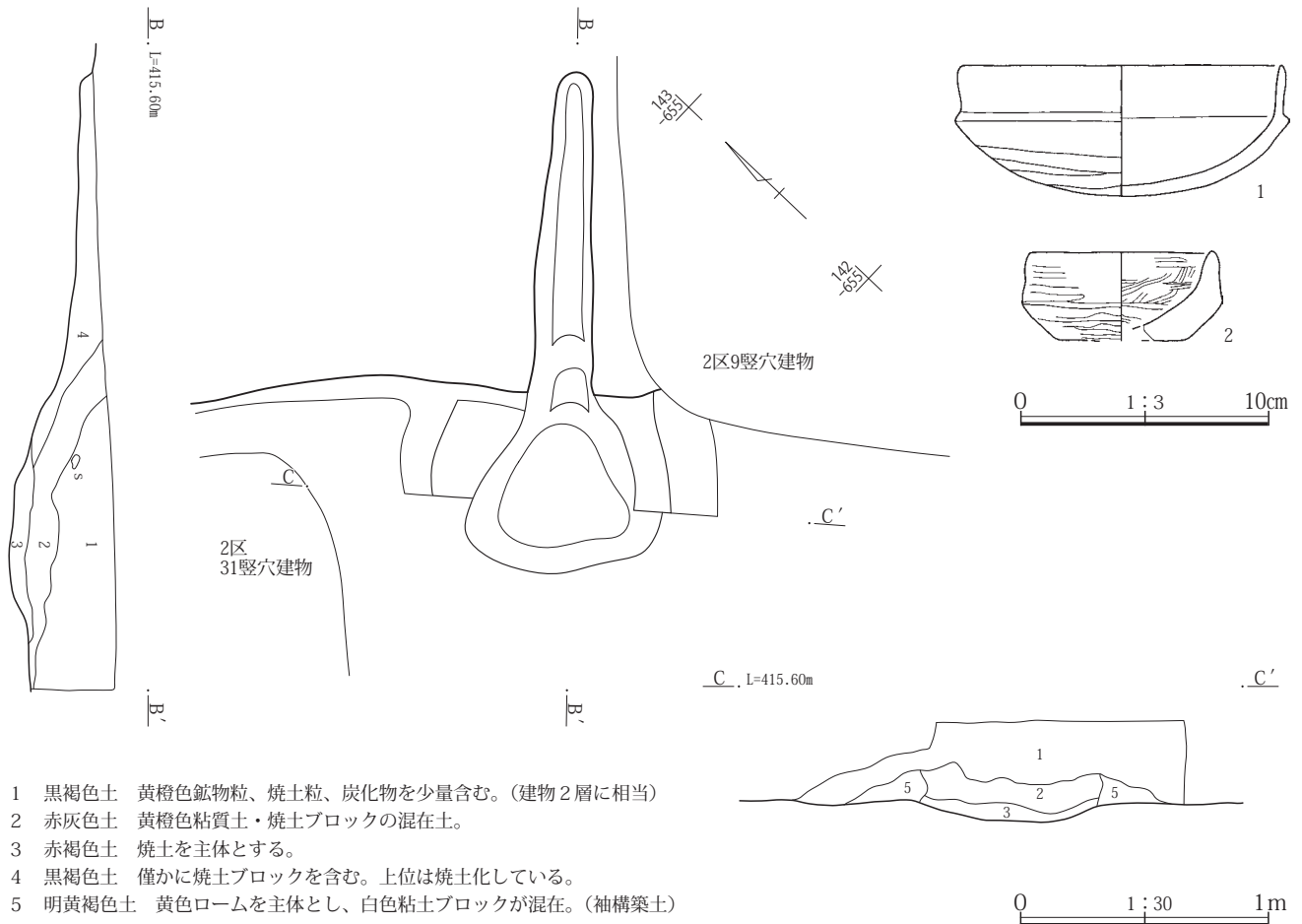
第124図 2区7号竪穴建物 カマド 平面図(3)、出土遺物

床面



- 1 黒褐色土 白色粒・赤褐色鉱物粒、砂礫層を少量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色鉱物粒、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 3 黒褐色土 2層よりやや暗く、炭化粒やロームブロックを少量含む。(2区31竪穴建物)

カマド



- 1 黒褐色土 黄褐色鉱物粒、焼土粒、炭化物を少量含む。(建物2層に相当)
- 2 赤灰色土 黄褐色粘質土・焼土ブロックの混在土。
- 3 赤褐色土 焼土を主体とする。
- 4 黒褐色土 僅かに焼土ブロックを含む。上位は焼土化している。
- 5 明黄褐色土 黄色ロームを主体とし、白色粘土ブロックが混在。(袖構築土)

第125図 2区8号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図、出土遺物

煙道部は燃焼部奥から斜位に長く立ち上がる。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後、袖を含めたカマド本体を構築するが、5層の明黄褐色土を袖部の構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置し、一辺0.45m前後の正方形を呈し、深さ23cmを測る。埋土は褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴は4本と考えられるが、その内の2本P1・2を検出した。主柱穴上面は楕円形で、長軸40～45cm、短軸35cm前後、深さ32～40cmを測る。埋土は褐色土である。

床面下：床面下の調査をしたが、明瞭ではなかった。

遺物：出土した遺物量は極めて少なく、1の杯がカマド前の床面直上に出土している。他は埋土中からである。

出土遺物として、土器2点を図示した。1・2は土師器の杯であり、2の内外面にはヘラ磨きが施されている。

未掲載遺物には、土師器や須恵器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区9号竪穴建物

(第126～128図、第13・73表、PL.28・29・179)

平成27年度の調査で検出した。2区8号竪穴建物と重複する。

位置：2区南西側の南壁付近に位置し、西隅に2区8号竪穴建物と重複する。また、北側に2区21・49号竪穴建物、東側に2区1号竪穴遺構、北西側に2区10号竪穴建物が近接する。

グリッド：2B～2D-130～132

座標値：X=61,137～61,146 Y=-93,647～93,655

重複：本建物の西隅に2区8号竪穴建物が重複する。遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が新しい。

形状：正方形

規模：長軸6.70m 短軸6.60m 壁高43～50cm

長軸方向：N-48°-W 床面積：39.00㎡

埋没土：1層の褐灰色土と、2層の黒褐色土に分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近が著しく硬化する。

壁高は43～50cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-51°-Eを向き、残存状態は良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長2.55m、幅1.40mを測る。袖は壁から80cmほど突き出るように残存し、両先端に袖石を確認した。両袖石は上端がやや内傾する。カマド周辺に焚き口部天井石は検出されていない。焚き口部から燃焼部の底面にかけては建物床面よりやや低くなり、煙道部は燃焼部奥から斜位に段をもちながら長く立ち上がる。また、燃焼部の内壁から煙道部内壁の一部が、被熱して著しく焼土化していた。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に袖石を据えながら、6層の暗褐色土を袖部の構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、上面形は楕円形を呈し、長軸100cm、短軸86cm、深さ100cmを測る。埋土は暗褐色土を埋土とする。

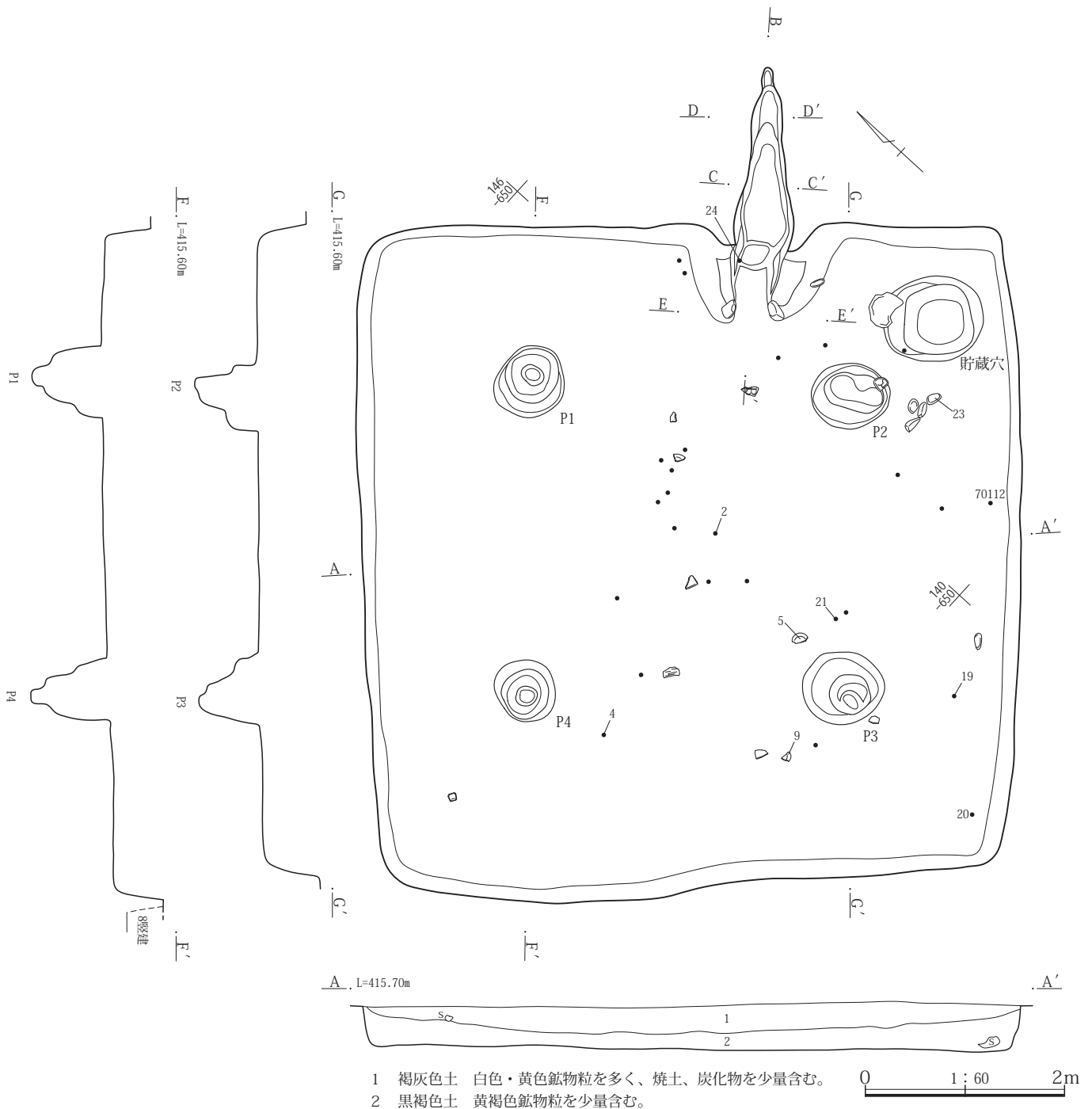
柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸65～82cm、短軸58～72cm、深さ62～74cmを測る。埋土は暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

床面下：床面下の調査をしたが、明瞭ではなかった。

遺物：出土した遺物量は比較的多いが、多くは埋土中からの出土である。2・9の杯が床面直上に出土しているが、極めて散漫である。また、19・20の白玉は南隅付近、21の白玉はP3脇の床面直上から出土している。さらに、P2脇の床面上に薦編石と考えられる長さ15cm前後の扁平礫が4点出土し、その中に23が含まれる。

出土遺物として、土器17点と石製品6点、金属製品1点の計24点を図示した。1～9は土師器の杯であり、3・9の内面にはヘラ磨きが施されている。10は土師器の鉢で、11は土師器の高環の脚部である。12は須恵器の杯身、13～15は須恵器の高環で、15の脚部には透孔をもつ。16・17は土師器の小型甕。

石製品には18の管玉の破片、19～22の白玉、23の磨石がある。18は碧玉製で暗緑色をなし、径(0.5)cm、厚さ(0.2)cm、重さ0.1gを測り、丁寧に研磨されて光沢がある。19は滑石製で灰白色～灰色をなし、径0.9cm、



第126図 2区9号竪穴建物 床面 平・断面図

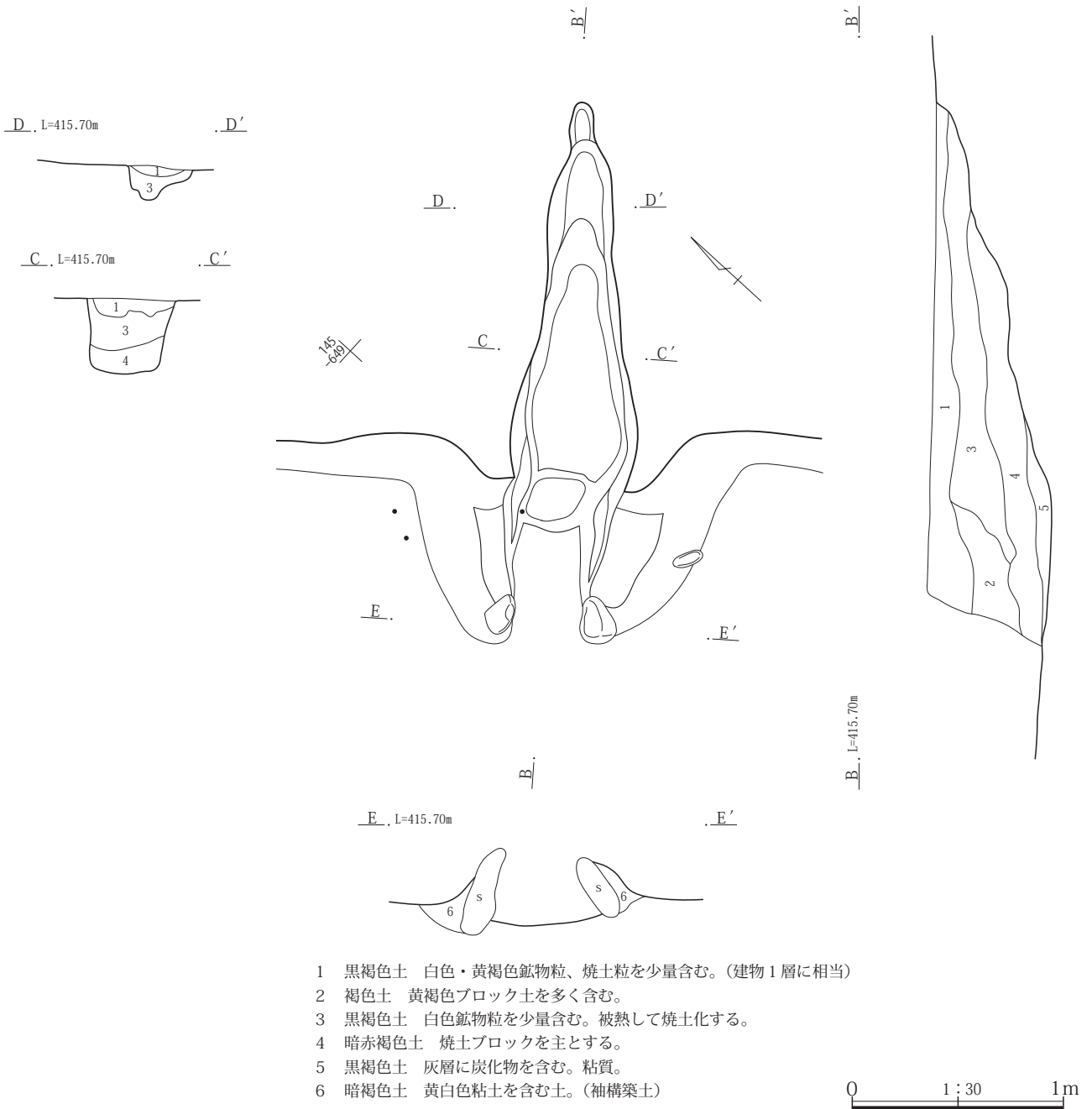
厚さ0.7cm、孔径3mm、重さ0.9gを測り、側面に擦痕が認められる。20は滑石製で灰白色をなし、径0.8cm、厚さ0.6cm、孔径3mm、重さ0.9gを測り、側面に擦痕が認められる。21は滑石製で灰白色をなし、径0.8cm、厚さ0.5cm、孔径3mm、重さ0.6gを測り、側面に擦痕が認められ、両面穿孔の可能性がある。22は滑石製で灰色をなし、径0.8cm、厚さ0.4cm、孔径3mm、重さ0.4gを測り、側面に擦痕が認められる。23は変質安山岩

製で、長さ14.9cm、幅8.1cm、厚さ4.6cm、重さ821.5gを測り、表面に磨面がある。

金属製品には24の鉄鏃があり、ほぼ完形で残存長4.9cm、最大幅2.2cmを測る。

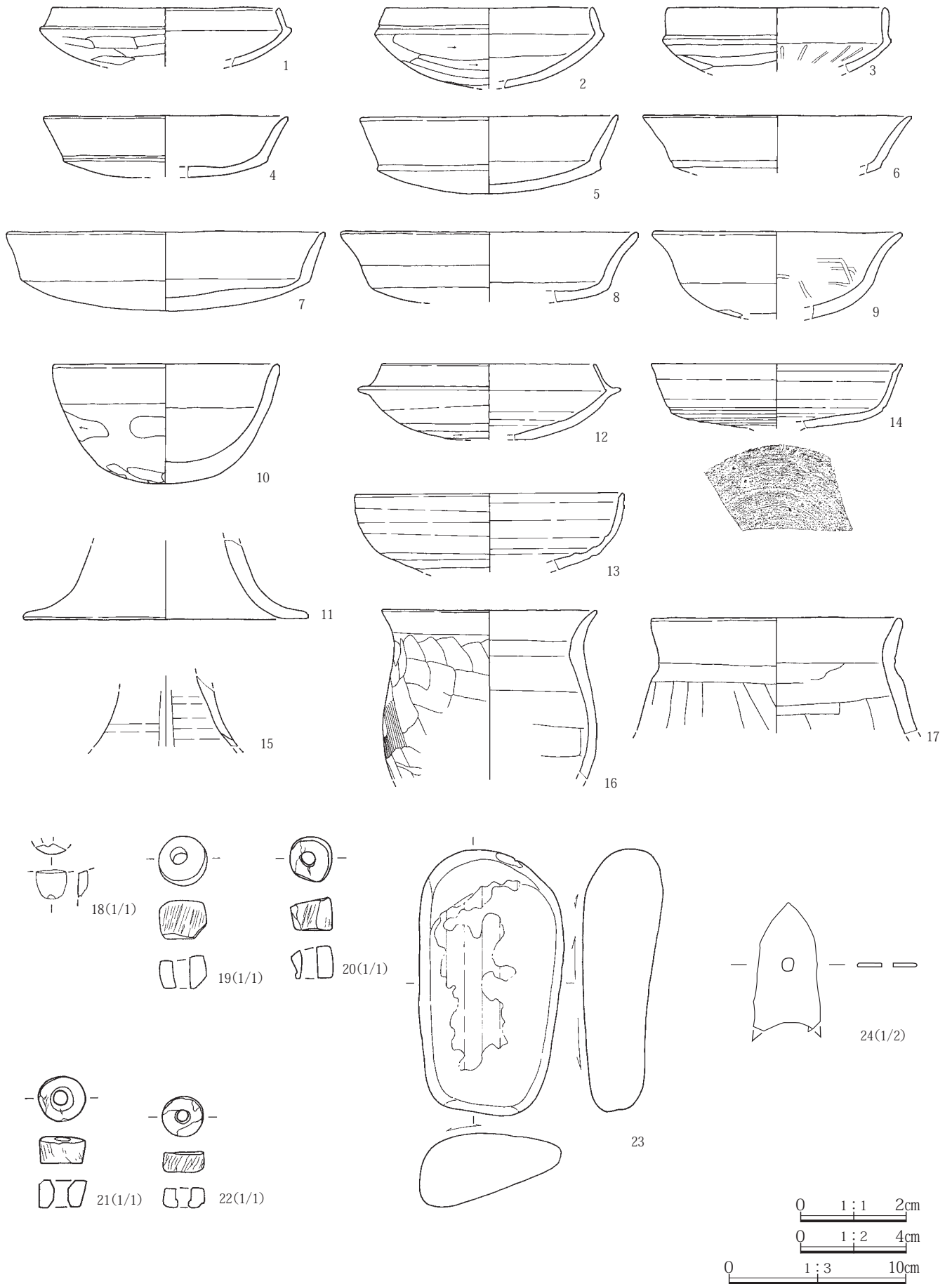
未掲載遺物には、土師器や須恵器片が多い。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。



第127図 2区9号竪穴建物 カマド 平・断面図

第4章 検出された遺構と遺物



第128図 2区9号竪穴建物 出土遺物

2区10号竪穴建物

(第129～132図、第13・74表、PL.29・30・180)

平成27年度の調査で検出した。2区20号竪穴建物と重複する。

位置：2区の南西側に位置し、北隅を2区20号竪穴建物と重複する。また、北側に2区45号竪穴建物、東側に2区49号竪穴建物、南側に2区7～9・31号竪穴建物、西側に2区6号竪穴建物が近接する。

グリッド：2D・2E-131・132

座標値：X=61,145～61,153 Y=-93,651～93,658

重複：本建物の北隅に2区20号竪穴建物が重複する。遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が古い。

形状：長方形

規模：長軸6.48m 短軸5.89m 壁高42～46cm

長軸方向：N-31°-W 床面積：33.50㎡

埋没土：1～3層の黒褐色土を主とし、壁際に4層となる黒色土とに分層できる。2層下面に遺物の出土が多い。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近が著しく硬化する。壁高は42～46cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：4基のカマドを確認した。カマド1は本建物の廃絶時に伴う最も新しいカマドで、南西壁中央のやや南寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-123°-Wを向き、残存状態は良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長2.28m、幅1.29mを測る。袖は壁から60cmほど突き出るように残存し、両先端に袖石を確認した。両袖石は上端がやや内傾し、焚き口部の天井石左端が左袖石の上端に掛かり、右端は袖石からずり落ちた状態にあった。焚き口部から燃焼部の底面にかけては建物床面より若干低くなり、煙道部は燃焼部奥の一段高い位置から斜位に長く立ち上がる。また、燃焼部の内壁から煙道部内壁の一部が、被熱して著しく焼土化していた。一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に袖石を据えながら、僅かに白色の骨片が混入する暗褐色土を袖部の構築土としている。

カマド2～3の新旧の順は不明。カマド2は北西壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-33°-

Wを向き、残存するのは煙道部のみ。燃焼部は壁の内側にあったと思われ、煙道部は外側へ長く突出する。残存する煙道部は、全長1.06m、幅0.27mを測り、緩く長く立ち上がる。また、煙道部の周囲は被熱している。

カマド3はカマド2の右側となる北西壁中央のやや北寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-30°-Wを向き、残存するのは煙道部のみ。燃焼部は壁の内側にあったと思われ、煙道部は外側へ長く突出する。残存する煙道部は、全長1.09m、幅0.9mを測り、緩く長く立ち上がる。

カマド4は北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-63°-Eを向き、残存するのは煙道部のみ。燃焼部は壁の内側にあったと思われ、煙道部は外側へ長く突出する。残存する煙道部は、全長1.24m、幅0.22mを測り、斜位および緩く長く立ち上がる。貯蔵穴：最終的に4基の貯蔵穴を確認した。貯蔵穴1はカマド1に伴い、カマド1の左側となる南隅に位置し、上面形は長方形を呈し、長軸78cm、短軸64cm、深さ76cmを測る。黒褐色土を埋土とする。貯蔵穴2～4は、床下面の調査時に検出された。

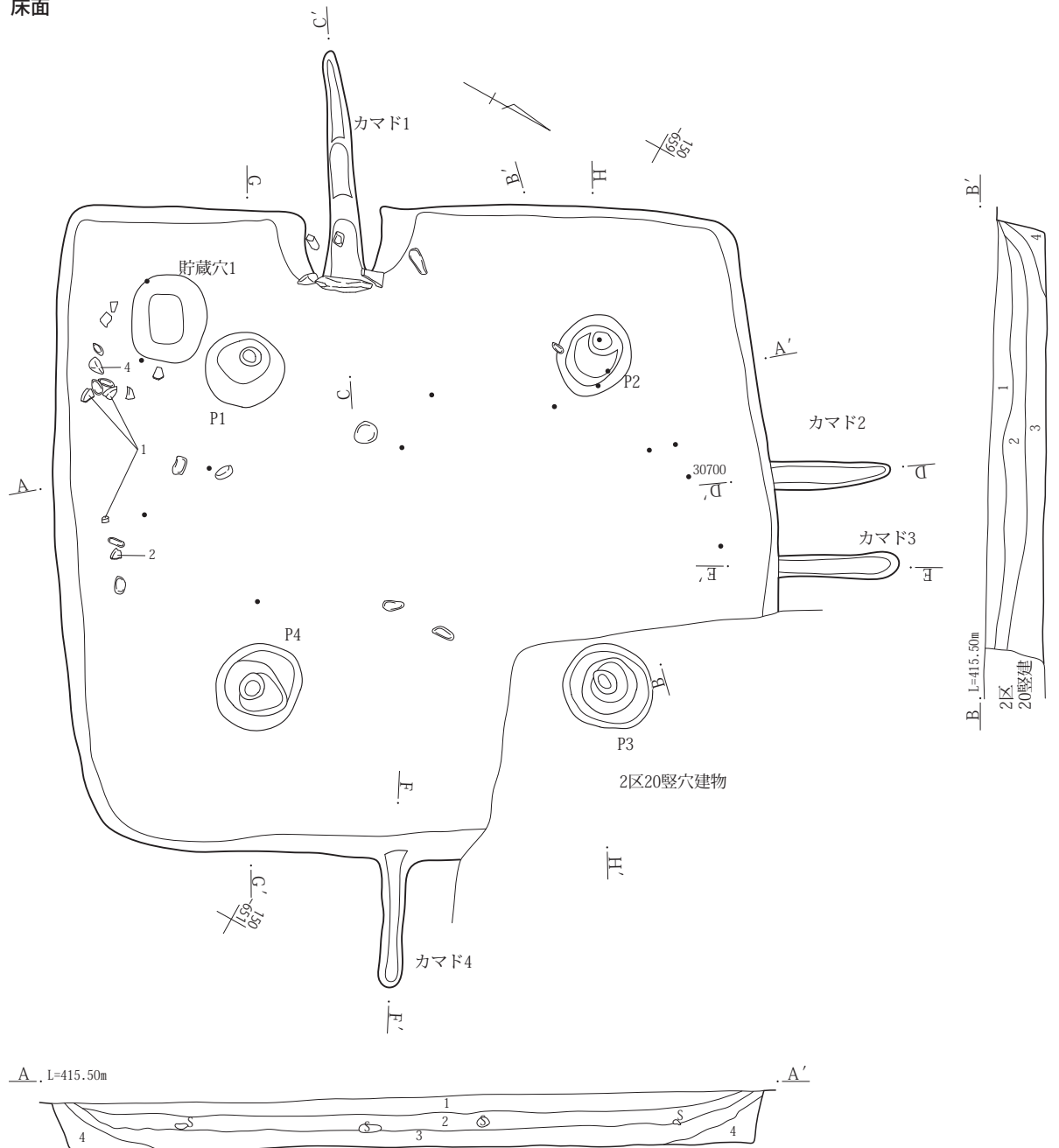
柱穴：支柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸76～82cm、短軸66～74cm、深さ56～70cmを測る。埋土は暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

床面下：床面下に6cm前後の掘り込みを確認した。埋土は5層とした黄褐色粘土ブロックを含む黒褐色土である。また、底面に貯蔵穴2～3を検出した。貯蔵穴2はカマド2に伴い、カマド2の右側となるP3脇に位置し、上面形は長方形を呈し、長軸78cm、短軸58cm、深さ63cmを測る。黒褐色土を埋土とする。貯蔵穴3はカマド3に伴い、カマド3の右側となる北隅に位置し、上面形は長方形を呈し、長軸70cm、短軸50cm、深さ48cmを測る。黒褐色土を埋土とする。貯蔵穴4はカマド4に伴い、カマド4の右側となる東隅に位置し、上面形は正方形を呈し、一辺85cm前後、深さ46cmを測る。黒褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物量は少なく、床面近くに小片が出土したが、ほとんどが埋土中からである。

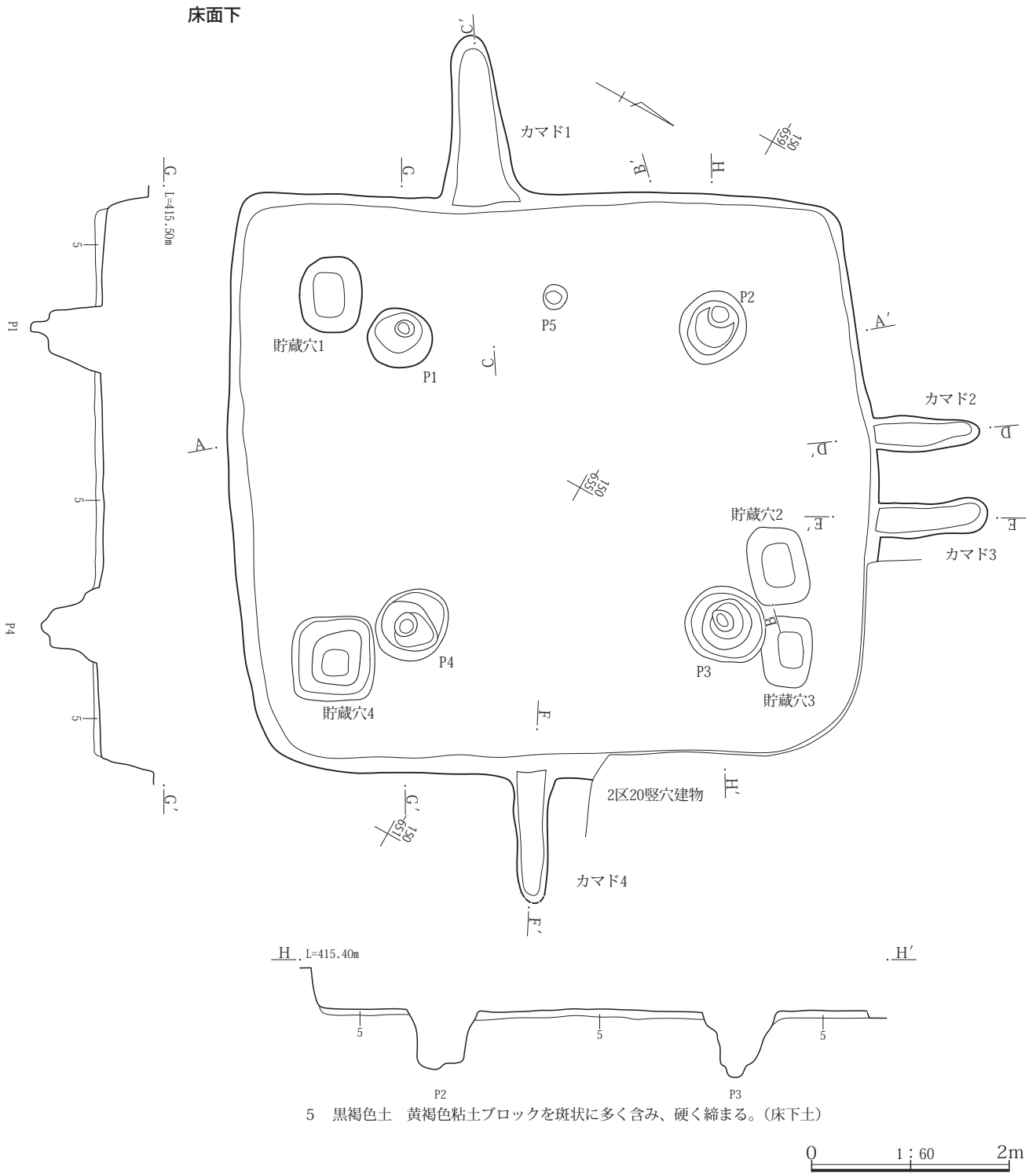
出土遺物として、土器6点と土製品1点を図示した。

床面

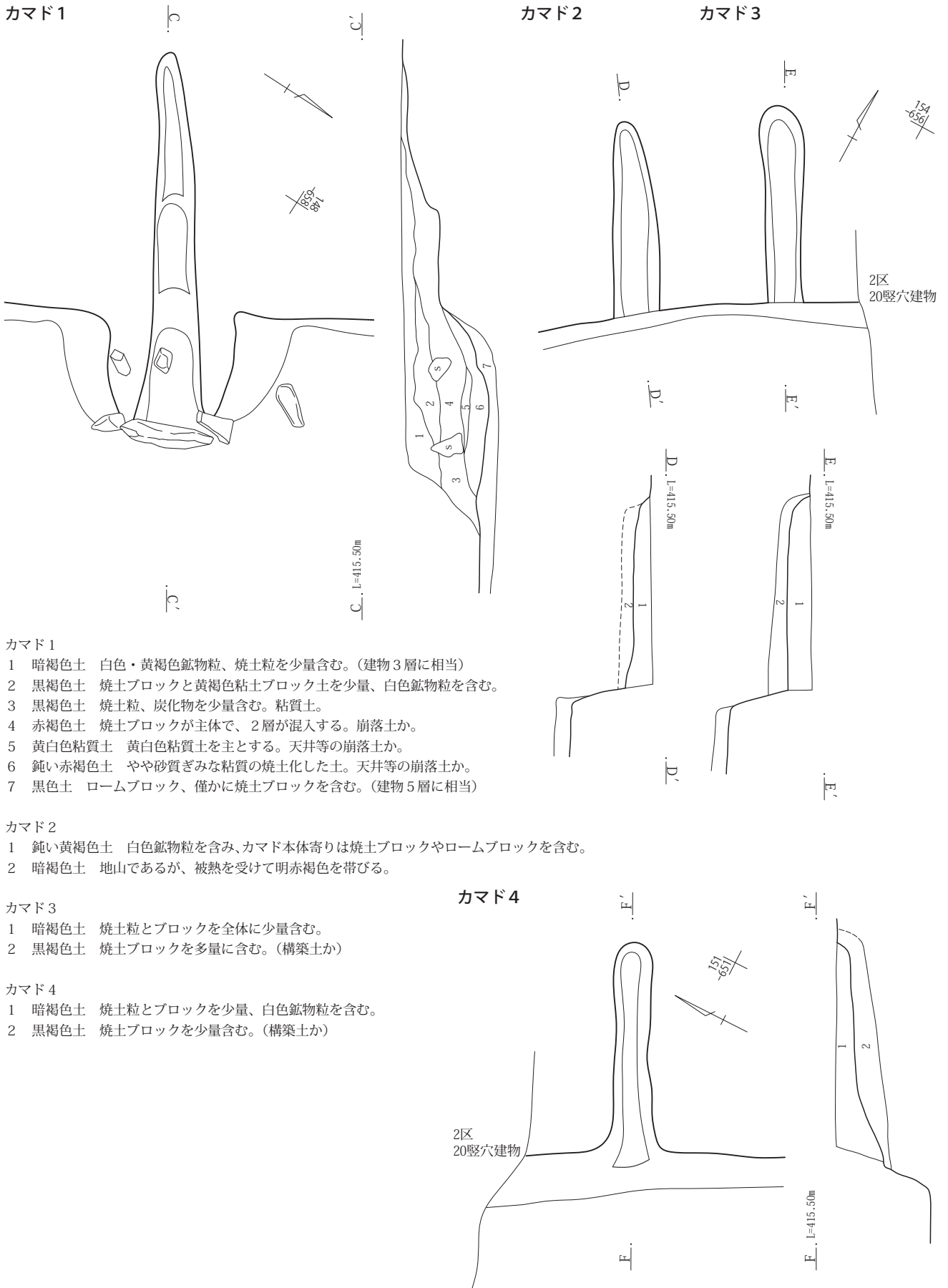


- 1 黒褐色土 砂粒と白色鈹物粒を多量、焼土粒、炭化物を少量含む。砂質ぎみ。
- 2 黒褐色土 1層に近似するが砂粒は少なく、硬く締まる。
- 3 黒褐色土 汚れた黄橙色粘性ブロックを微量含む。かなり粘質で、締まりが強い。
- 4 黒色土 黄色鈹物粒を微量含む。混入物が少なく暗い。粘質で、締まる。

第129図 2区10号竪穴建物 床面 平・断面図



第130図 2区10号竪穴建物 床面下 平・断面図



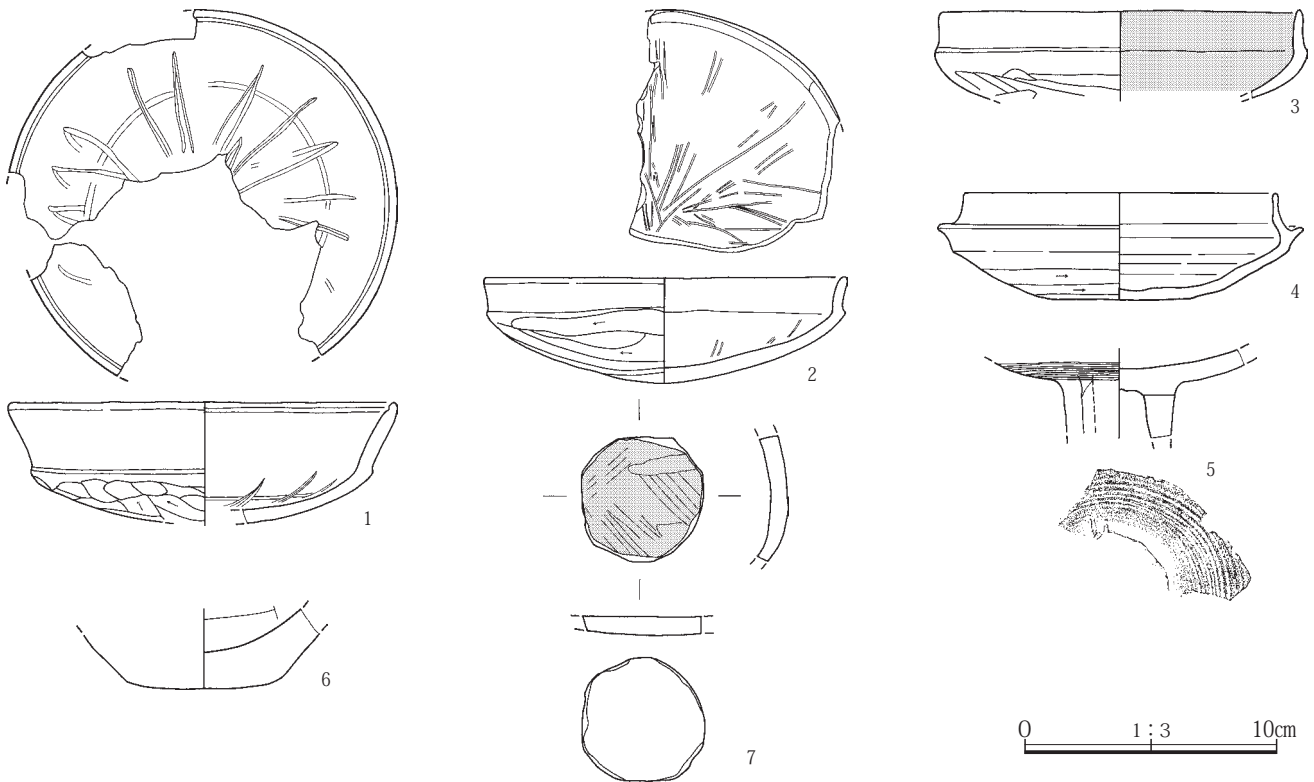
- カマド1
- 1 暗褐色土 白色・黄褐色鉱物粒、焼土粒を少量含む。(建物3層に相当)
 - 2 黒褐色土 焼土ブロックと黄褐色粘土ブロック土を少量、白色鉱物粒を含む。
 - 3 黒褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。粘質土。
 - 4 赤褐色土 焼土ブロックが主体で、2層が混入する。崩落土か。
 - 5 黄白色粘質土 黄白色粘質土を主とする。天井等の崩落土か。
 - 6 鈍い赤褐色土 やや砂質みな粘質の焼土化した土。天井等の崩落土か。
 - 7 黒色土 ロームブロック、僅かに焼土ブロックを含む。(建物5層に相当)

- カマド2
- 1 鈍い黄褐色土 白色鉱物粒を含み、カマド本体寄りには焼土ブロックやロームブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 地山であるが、被熱を受けて明赤褐色を帯びる。

- カマド3
- 1 暗褐色土 焼土粒とブロックを全体に少量含む。
 - 2 黒褐色土 焼土ブロックを多量に含む。(構築土か)

- カマド4
- 1 暗褐色土 焼土粒とブロックを少量、白色鉱物粒を含む。
 - 2 黒褐色土 焼土ブロックを少量含む。(構築土か)

第131図 2区10号竪穴建物 カマド1～4 平・断面図



第132図 2区10号竪穴建物 出土遺物

1～3は土師器の杯であり、1・2の内面にはヘラ磨きが施されている。4は須恵器の杯身、5は須恵器の高坏で杯部下面にカキ目と脚部は透孔をもつ。6は土師器の甕の底部である。

土製品には7の杯の転用品をあげた。杯の底部周囲を擦って円盤状に加工したものである。

未掲載遺物には、土師器片が多く、須恵器片が僅かにある

所見・時期：支柱穴が同じ位置で、カマドが位置を変えて4基とそれに伴う貯蔵穴4基のあり方から、柱はそのままに増築を伴わない4回の改築を行った建物と考えられる。カマド1と貯蔵穴1が最も新しいことは明らかであるが、それ以前の順は不明。建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

2区11号竪穴建物

(第133図、第13・75表、PL.30・31・180)

平成27年度の調査で検出した。2区12号竪穴建物と重複する。

位置：2区中央の南壁寄りに位置し、北側を2区12号竪穴建物と大きく重複する。また、北側に2区26～29号

竪穴建物、東側に2区13号竪穴建物、西側に2区1号竪穴遺構が近接する。

グリッド：2 A-128・129

座標値：X=61,130～61,135 Y=-93,635～93,641

重複：本建物の北側を2区12号竪穴建物と大きく重複する。遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が古い。

形状：長方形

規模：長軸(4.80)m 短軸4.01m 壁高36cm

長軸方向：N-31°-W 床面積：(17.94)m²

埋没土：黒褐色土を主とするが、1～3層に分層できた。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、重複する2区12号竪穴建物の床面よりやや高い位置。ほぼ平坦で、カマド位置付近に焼土粒が散布する。壁高は36cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：床面に散布する焼土粒から、北東壁中央のやや東寄りに位置すると考えられるが、2区12号竪穴建物の壊され詳細は不明。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、上面形は楕円形を呈し、長軸65cm、短軸58cm、深さ20cmを測る。黒褐色土を埋土とする。

柱穴：P 1 を検出したが、対応する柱穴が不明であるため、主柱穴かは判断し難い。埋土は黒褐色土。

周溝：壁際を全周していると考えられるが、詳細は不明。

幅18cm前後、深さ14cm前後を測る。埋土は黒褐色土。

床面下：床面下の調査をしたが、明瞭ではなかった。

遺物：出土した遺物量は極めて少なく、埋土上位に1・2の杯が出土した。

出土遺物として、土器2点と土製品1点、金属製品1点を図示した。1・2は須恵器の杯である。

石製品は3の白玉で、滑石製で灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.7cm、孔径3mm、重さ0.7gを測り、側面に擦痕が認められる。

金属製品は4の鉄製の刀子で、残存長4.9cm、最大幅1.3cmを測る。

未掲載遺物には、土師器の甕片が多い。

所見・時期：本建物と2区12号竪穴建物との重複関係から(本建物のカマドが壊されている状況は明らかである)、2区12号竪穴建物より古い古墳時代の竪穴建物と考えられる。なお、図示した1・2の杯は本建物には伴わず、後述の2区12号竪穴建物出土土器と同様に、古代の掘込みがあった可能性をもつ。

2区12号竪穴建物(第134～137図、第13・76表、PL.30・31・180・181)

平成27年度の調査で検出した。2区11号竪穴建物と重複する。

位置：2区中央の南壁寄りに位置し、南側に2区11号竪穴建物が重複する。また、北側に2区26～29号竪穴建物、東側に2区13号竪穴建物、西側に2区1号竪穴遺構が近接する。

グリッド：2A・2B-127～129

座標値：X=61,131～61,138 Y=-93,634～93,641

重複：本建物の南側に2区12号竪穴建物が重複する。遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が新しい。

形状：長方形

規模：長軸(4.97)m 短軸4.86m 壁高40～50cm

長軸方向：N-58°-E 床面積：21.65㎡

埋没土：1・2層の黒褐色土を主とし、北東壁際の3層とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位で、重複する2区11号竪穴建物の床面より低い位置にある。ほぼ平坦で、カマド前から中央付近が著しく硬化する。壁高は40～50cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北西壁中央のやや北寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-32°-Wを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長2.05m、幅1.40mを測る。袖は壁から65cmほど突き出るように残存し、両先端に袖石を確認した。両袖石は上端が左側に傾き、焚き口部天井石が焚き口部前の床面に落ちた状態にあった。燃烧部内からは、10の甕と12の甕の底部が出土している。焚き口部から燃烧部の底面にかけては建物床面より若干低くなり、煙道部は燃烧部奥に低い段をもった位置から緩く長く延びて出口部で急に立ち上がる。また、燃烧部奥寄りの内壁には、両側に壁石が据えられている。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に袖石を据えながら、僅かに白色の骨片が混入する暗褐色土を袖部の構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる北隅に位置し、上面形は楕円形を呈し、長軸82cm、短軸64cm、深さ60cmを測り、P 2 と接する。黒褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP 1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸58～75cm、短軸48～63cm、深さ55～64cmを測る。埋土は黒褐色土と鈍い黄褐色土を主体とする。他に、南東壁中央の壁際にP 5を検出した。

床面下：床面下に4cm前後の掘り込みを確認した。埋土は暗褐色土であり、底面は凹凸状となる。

遺物：出土した遺物量はかなり多い。まず、カマド内からは10の甕と12の甕底部が出土し、カマド右脇の壁際には6の甕が壁に寄り掛かるように立位で出土している。カマド左側には11の甕の胴下半、7の甕の大型片が床面頂上に出土している。この7は、P 2・3の中間の床面直上から出土した大型片と接合している。また、床面直上から出土した遺物には、1の杯が床中央に、2の杯が北東壁際、P 3・4の中間付近に9・13が、さらに16の白玉がP 3の南側の床面直上から出土している。他にも床面付近および埋土中から出土した

遺物は多い。なお、18・19の杯や20の短頸壺、21の甕口縁部片は南側の埋土上位からの出土である。

出土遺物として、土器18点と石製品3点を図示した。1は須恵器の杯。2～4は土師器の杯であり、3・4の内面にはへら磨きが施されている。5は土師器の小型甕、6～13は土師器の甕であり、6の底面には木葉痕が付き、7の胴部外面はへら削り後に部分的なへら磨き、11の胴部外面にはへら磨きを施す。14は須恵器の甕で、口縁部外面に波状文が施文され、胴部外面は平行叩き目をナデ消し、内面に当て具痕を残す。

石製品の3点はいずれも滑石製の白玉である。15は灰色をなし、径0.8cm、厚さ0.5cm、孔径4mm、重さ0.3gを測り、側面に擦痕が認められる。16も灰色をなし、径0.8cm、厚さ0.5cm、孔径4mm、重さ0.3gを測り、側面に擦痕が認められる。17は灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.5cm、孔径2mm、重さ0.6gを測り、側面に擦痕が認められる。

それと、18・19は須恵器の杯片であり、20は須恵器の短頸壺片、21は土師器の甕の口縁部片である。

未掲載遺物には、土師器片が多量にあり、須恵器片も少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。なお、図示した18～21の遺物は本建物には伴わず、重複する2区11号竪穴建物出土土器からすれば、検出できなかった古代の掘込みがあった可能性をもつ。

2区13号竪穴建物

(138図、第13・77表、PL.31・32・181)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区中央の南壁寄りに位置し、北側に2区25・26号竪穴建物、南側に2区14・15号竪穴建物、西側に2区11・12号竪穴建物が近接する。

グリッド：2A-127

座標値：X=61,130～61,134 Y=-93,631～93,634

形状：横長長方形

規模：長軸3.35m 短軸2.62m 壁高15～22cm

長軸方向：N-14°-W 床面積：7.47㎡

埋没土：黄橙色粘質ローム土を多量に含む1層の鈍い黄橙色土と、2層の黒色土とに分層できる。また、1層

は人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層中にあり、ほぼ平坦で、建物の中央付近がかなり硬化する。壁高は15～22cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：東壁中央より南側にかなり寄った位置にあり、カマドの主軸方位はN-79°-Eを向き、残存状態は良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へやや長く突出する。残存する規模は、全長1.13m、幅0.78mを測る。袖は壁から55cmほど突き出るように残存し、袖石を確認した。両袖石共に上端が右側に傾き、右袖石はずれた状態にある。焚き口部天井石は確認されていない焚き口部から燃焼部の底面にかけては建物床面より低くなり、煙道部は燃焼部奥から緩く長く延びて立ち上がる。また、燃焼部のやや右寄り底面には、支脚石が据えられていた。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に袖石を据えながら、黒褐色土を袖部の構築土としている。遺物：出土した遺物量は少ないものの、1の杯は北東隅の床面やや上から、2の甕口縁部も東壁中央の壁際から出土している。

出土遺物として、土器2点と土製品1点を図示した。

1は土師器の内斜口縁の杯で、内面にへら磨きを施す。

2は土師器の甕の口縁部。

石製品は3の白玉で、滑石製で灰白色をなし、径0.8cm、厚さ0.3cm、孔径3mm、重さ0.2gを測り、側面に擦痕が認められる。

未掲載遺物には、土師器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。

2区14号竪穴建物(第139～141図、第13・78表、PL.32・33・181・182)

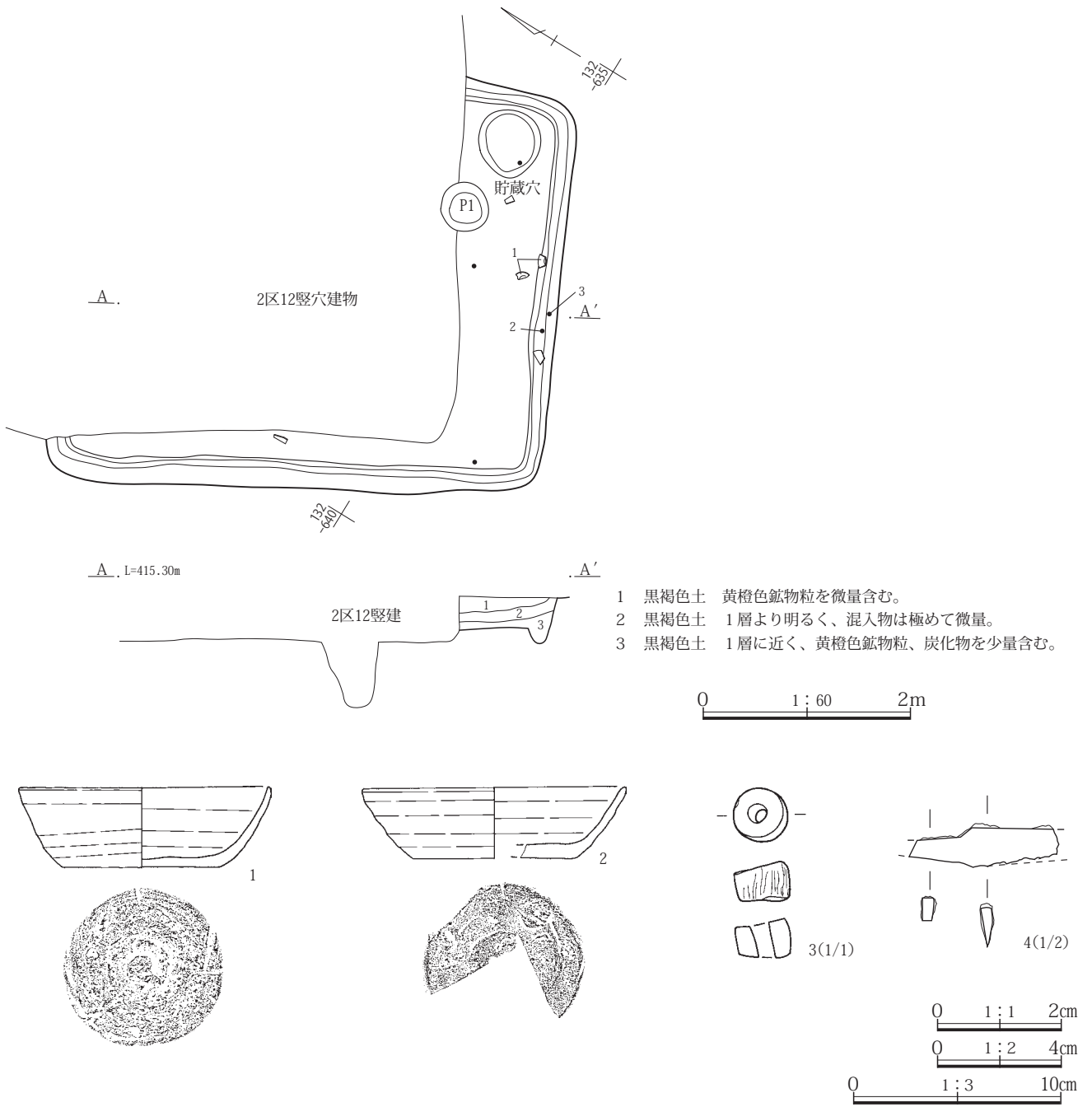
平成27・28年度に跨がって調査した。南西隅は2区15号竪穴建物と重複し、さらに調査範囲外となる。

位置：2区中央の南壁際に位置し、南西側の2区15号竪穴建物と重複する。また、北側に2区25号竪穴建物、北西側に2区13号竪穴建物が近接する。

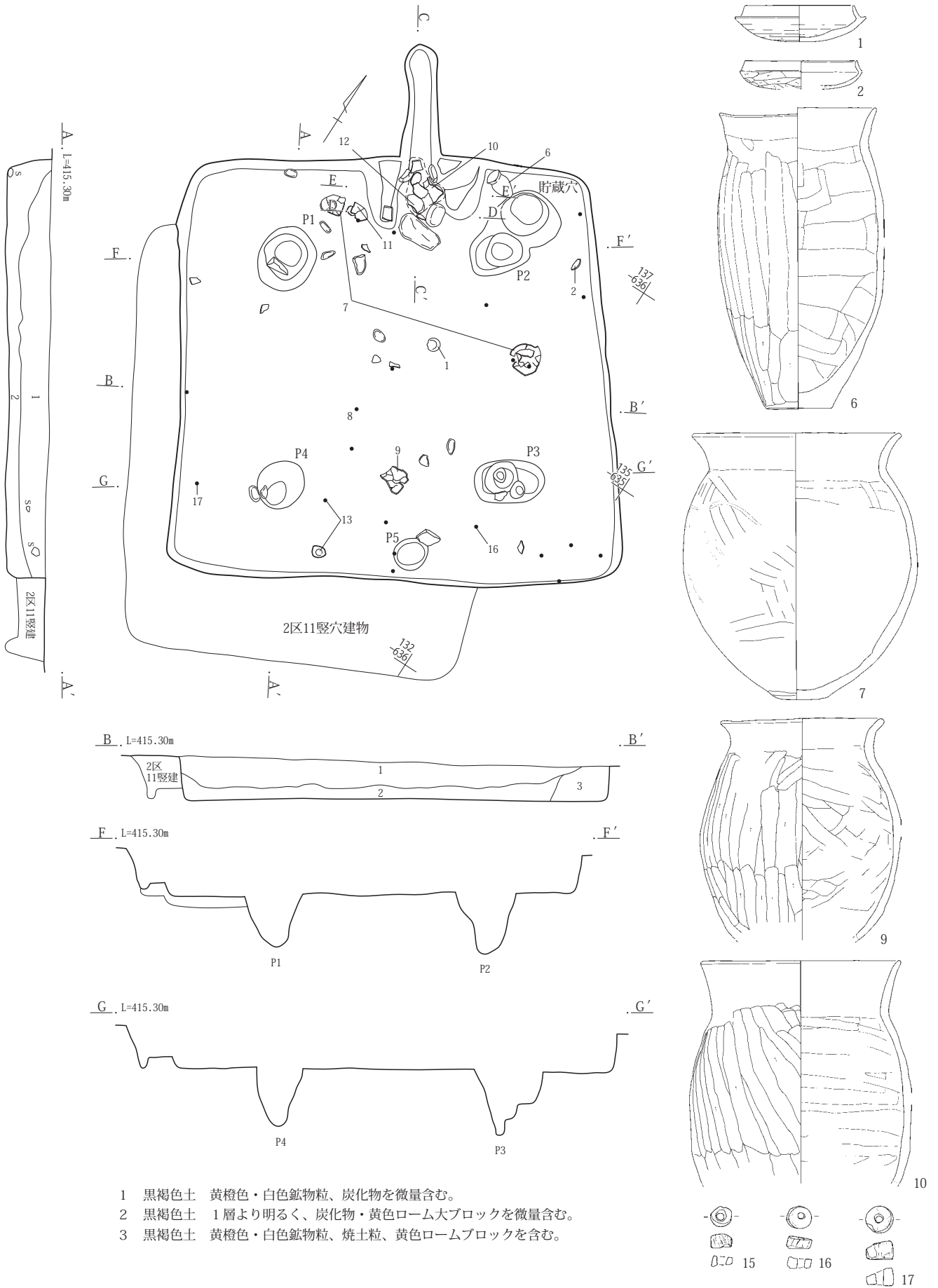
グリッド：Z・2A-126・127

座標値：X=61,126～61,132 Y=-93,627～93,633

重複：本建物の南西隅に2区15号竪穴建物のカマドが重

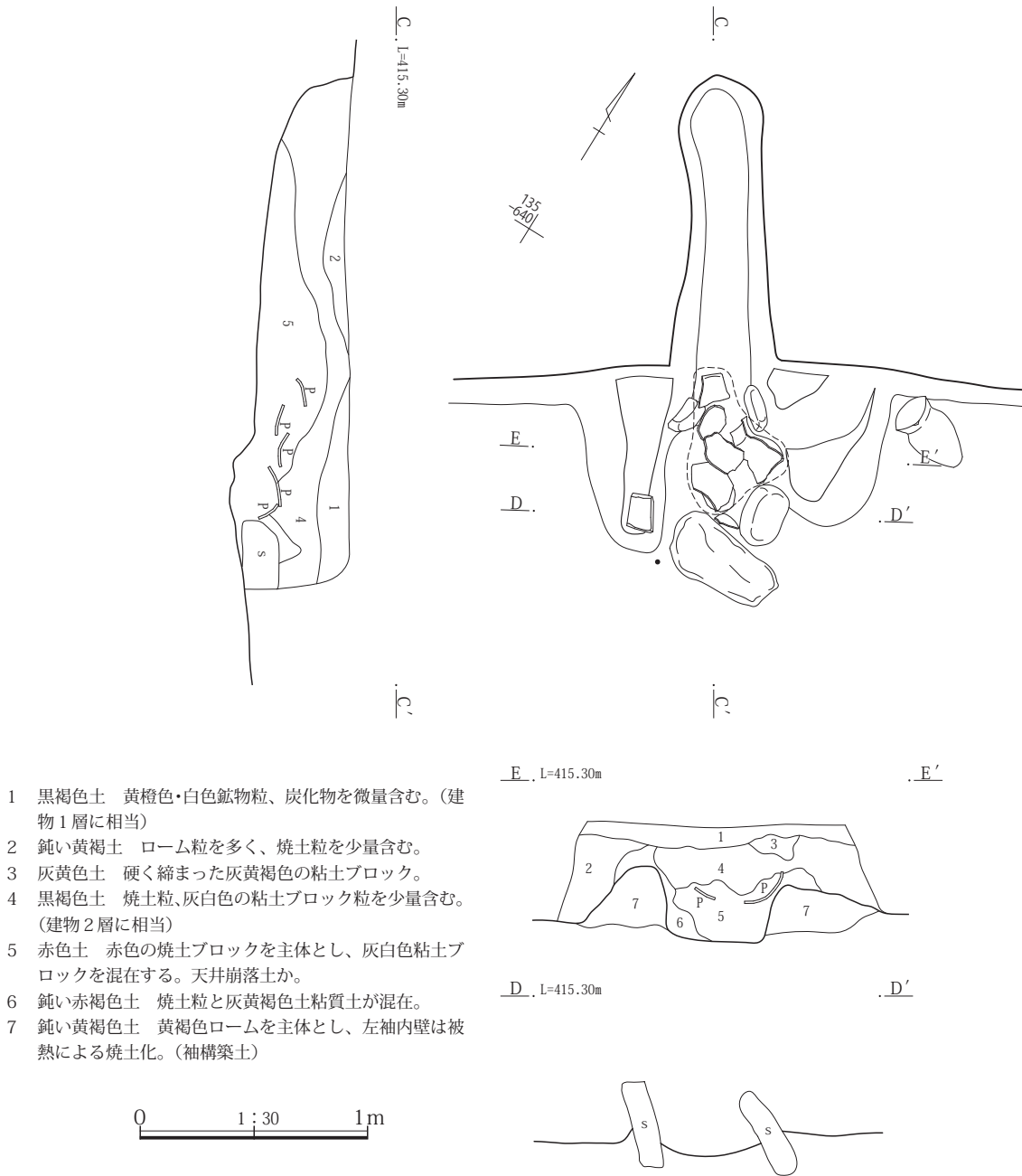


第133図 2区11号竖穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

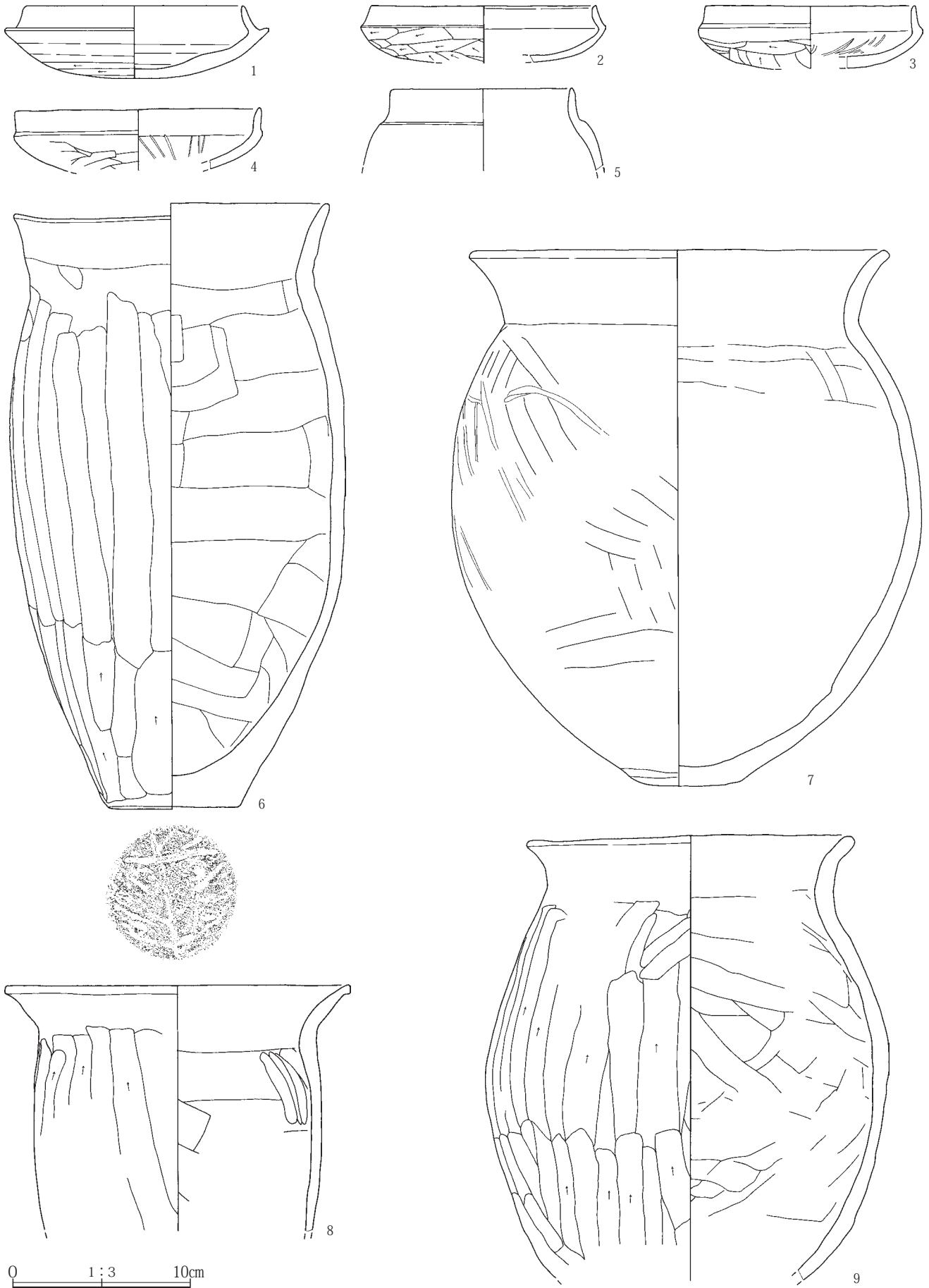


- 1 黒褐色土 黄橙色・白色鈹物粒、炭化物を微量含む。
- 2 黒褐色土 1層より明るく、炭化物・黄色ローム大ブロックを微量含む。
- 3 黒褐色土 黄橙色・白色鈹物粒、焼土粒、黄色ロームブロックを含む。

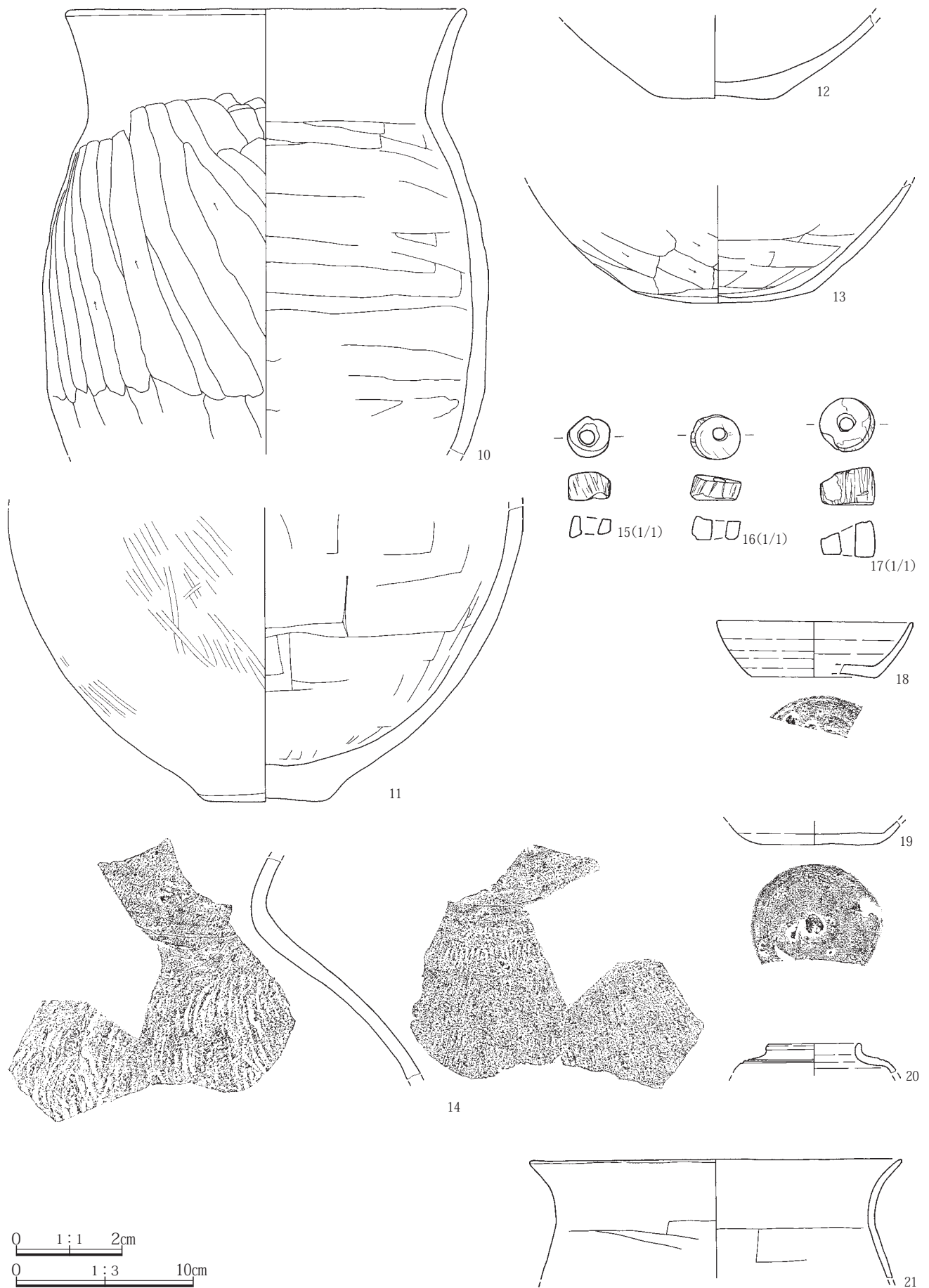
第134図 2区12号竖穴建物 床面 平・断面図



第135図 2区12号竪穴建物 カマド 平・断面図

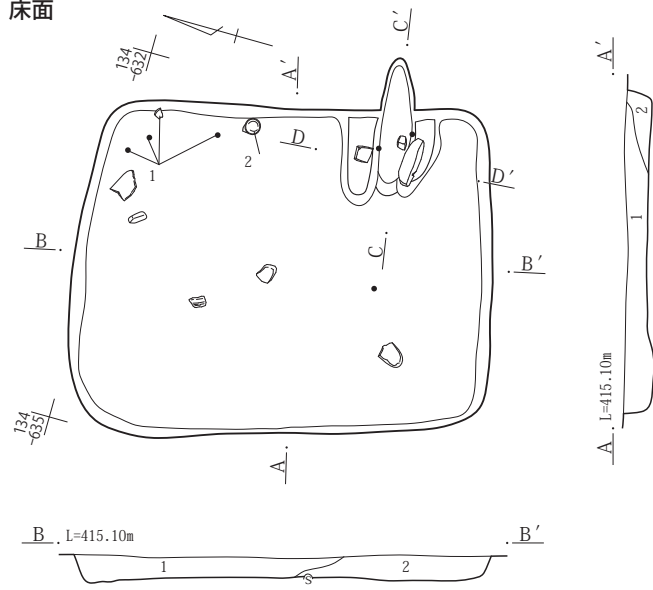


第136図 2区12号竖穴建物 出土遺物(1)

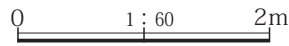


第137図 2区12号竪穴建物 出土遺物(2)

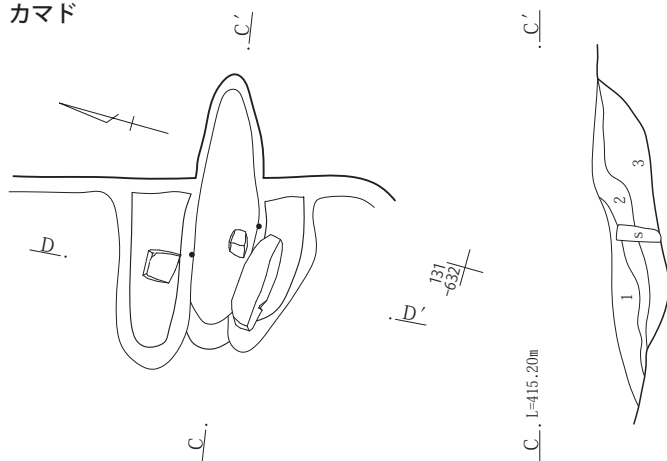
床面



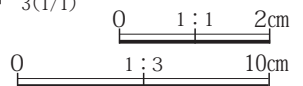
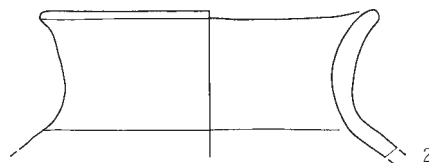
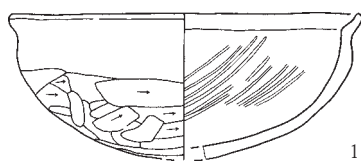
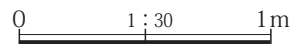
- 1 鈍い黄橙色土 黄橙色粘質ローム土を多量に含む。粘質が強い。
- 2 黒色土 焼土粒、炭化粒を僅かに含む。やや粘質。



カマド



- 1 黒色土 焼土粒、炭化粒、黄橙色粘質ブロックを含む。(建物2層に相当)
- 2 暗褐色土 焼土粒、黄橙色粘質粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 2層よりやや暗く、混入物が少ない。
- 4 黒褐色土 黄白色粘性小ブロックを上位に多量に含み、硬く締まる。(袖構築土)



第138図 2区13号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図、出土遺物

覆する。遺構確認から、その新旧は本建物の方が古い。

形状：方形

規模：長軸4.93m 短軸4.59m 壁高40～45cm

長軸方向：N-17°-W 床面積：推定19.10m²

埋没土：1・2層の黒褐色土と、3層の黒色土とに分層できる。また、1・2層中には大型礫の出土が多いことから、礫の廃棄を含む人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近がやや盛り上がるようになり硬化する。壁高は40～45cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：2基のカマドを確認した。カマド1は本建物の廃絶時に伴うカマドで、北壁中央より僅かに東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-12°-Wを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長2.33m、幅1.05mを測る。袖は壁から65cmほど突き出るように残存し、両先端に袖石を確認した。両袖石は上端がやや内傾し、焚き口部の天井石がカマド前に落ちた状態にあった。焚き口部から燃烧部の底面にかけては建物床面より低くなり、煙道部は燃烧部奥の一段高い位置から斜位に長く立ち上がる。また、燃烧部の内壁は被熱して著しく焼土化していた。一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に袖石を据えながら、白色粘土ブロックを多量に含む褐灰色土を袖部の構築土としている。

カマド2は東壁中央の南寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-82°-Eを向き、残存するのは煙道部のみである。燃烧部は壁の内側にあり、燃烧部底面の焼土が僅かに痕跡をとどめていた。煙道部は壁の外側へやや長く突出する。残存する煙道部は、長さ0.69m、幅0.37mを測り、緩く立ち上がる。また、煙道の一部は被熱している。

貯蔵穴：2基の貯蔵穴を確認した。貯蔵穴1はカマド1に伴い、カマド1の右側となる北東隅に位置し、上面形は長方形を呈し、長軸77cm、短軸65cm、深さ45cmを測る。黒褐色土を埋土とする。貯蔵穴2はカマド2に伴い、カマド2の右側となる南東隅に位置し、上面形は長方形を呈し、長軸66cm、短軸48cm、深さ68cmを測る。埋土は黒褐色土を主体とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸42～63cm、短軸36～48cm、深さ50～60cmを測る。P1・2は大きくほぼ同規模で、P3・4はやや小さく同規模。埋土は黒褐色土を主体とする。

床面下：床面下に10cm前後の掘り込みをもち、床面中央下に床下土坑を検出した。床下土坑は楕円形を呈し、長軸1.30m、短軸1.13m、深さ20cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

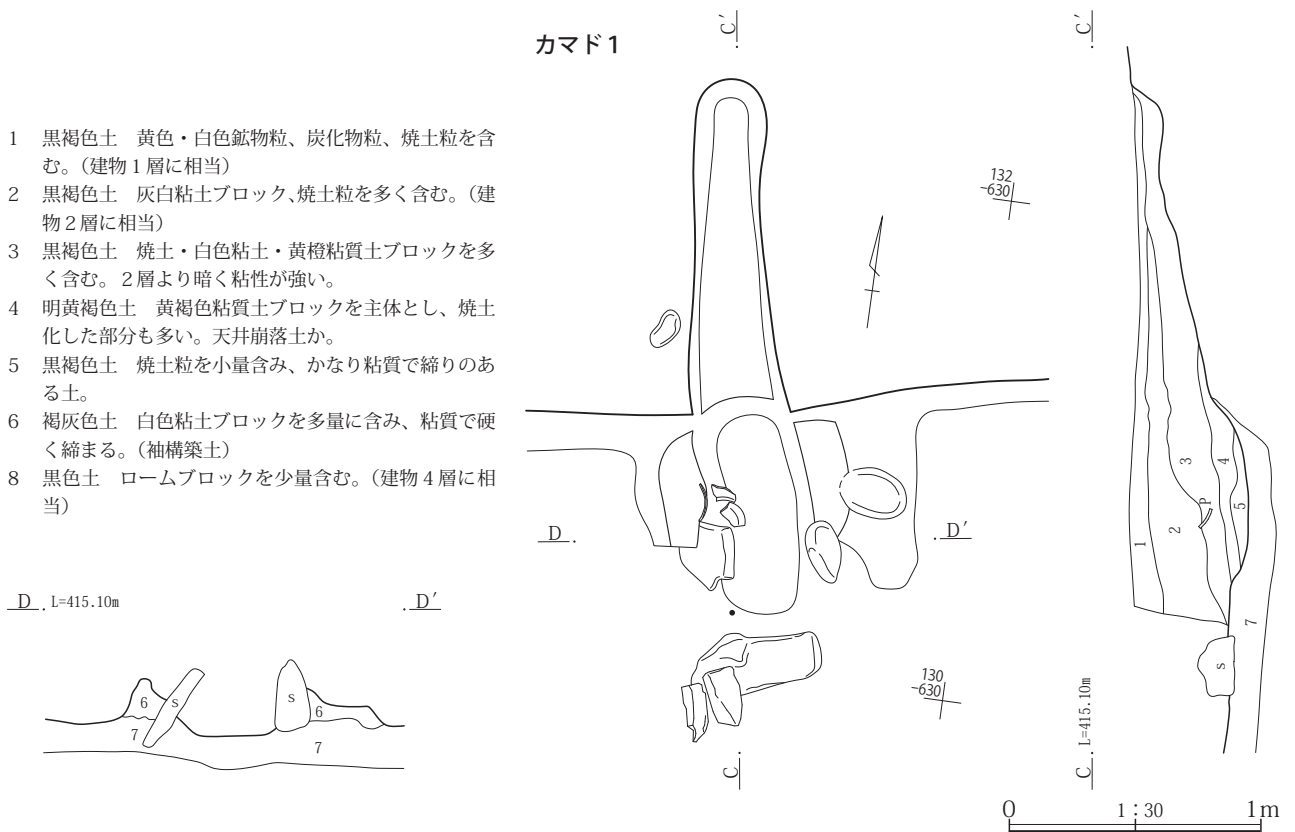
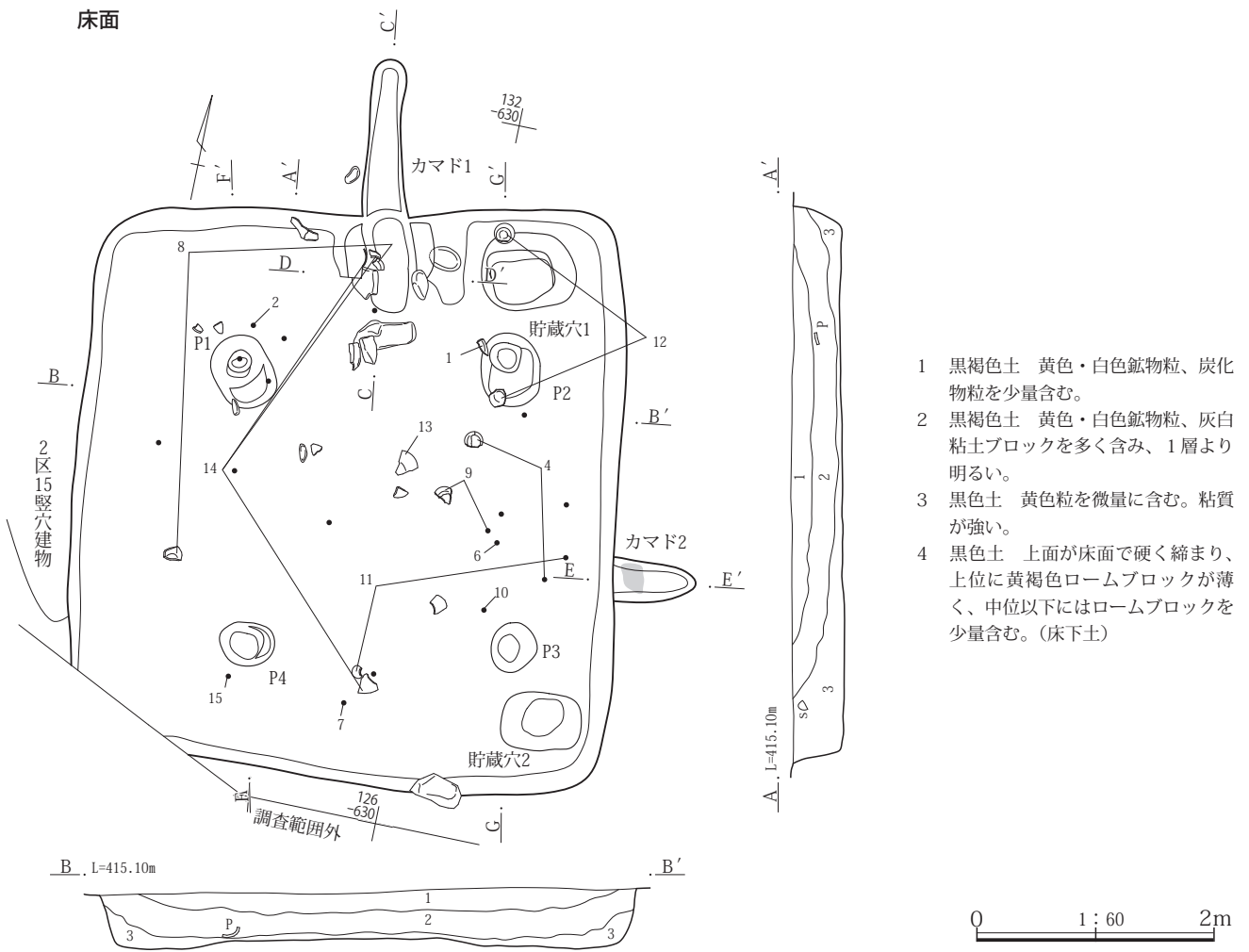
遺物：出土した遺物量はかなり多い。カマド内からは、南西側の床面上から出土した破片と接合した8の杯、それと南側の床面上から出土した破片と接合した14の甕がある。カマド右脇の壁際には12の壺の上半が床面直上に、下半はP2脇の床面直上から出土している。また、中央付近の床面直上からは4の杯、9の鉢、13の甕が、P3北側の床面直上からは10の有孔鉢、南側の床面やや上から11の埴が出土している。15の石製品はP4脇からの出土である。

出土遺物として、土器14点と石製品1点を図示した。1～8は土師器の杯で、3・6～8の内面にはヘラ磨きが施されている。9は土師器の鉢。10は土師器の有孔鉢で、内面のヘラ磨きが施される。11は土師器の埴で、胴上位に放射状のヘラ磨きを施す。12は土師器の壺で、口縁部内面と胴部外面上半にヘラ磨きが施される。13は土師器の甕で、口縁部内面は横位のヘラ磨き、胴部内面は斜位ヘラ削り後に縦位のヘラ磨きを施す。14は土師器の甕である。

石製品は15の蛇紋岩製の紡輪で、径4.0cm、厚さ1.5cm、孔径8mm、重さ0.6gを測り、表裏面とも光沢をもち、側面には整形痕が残る。

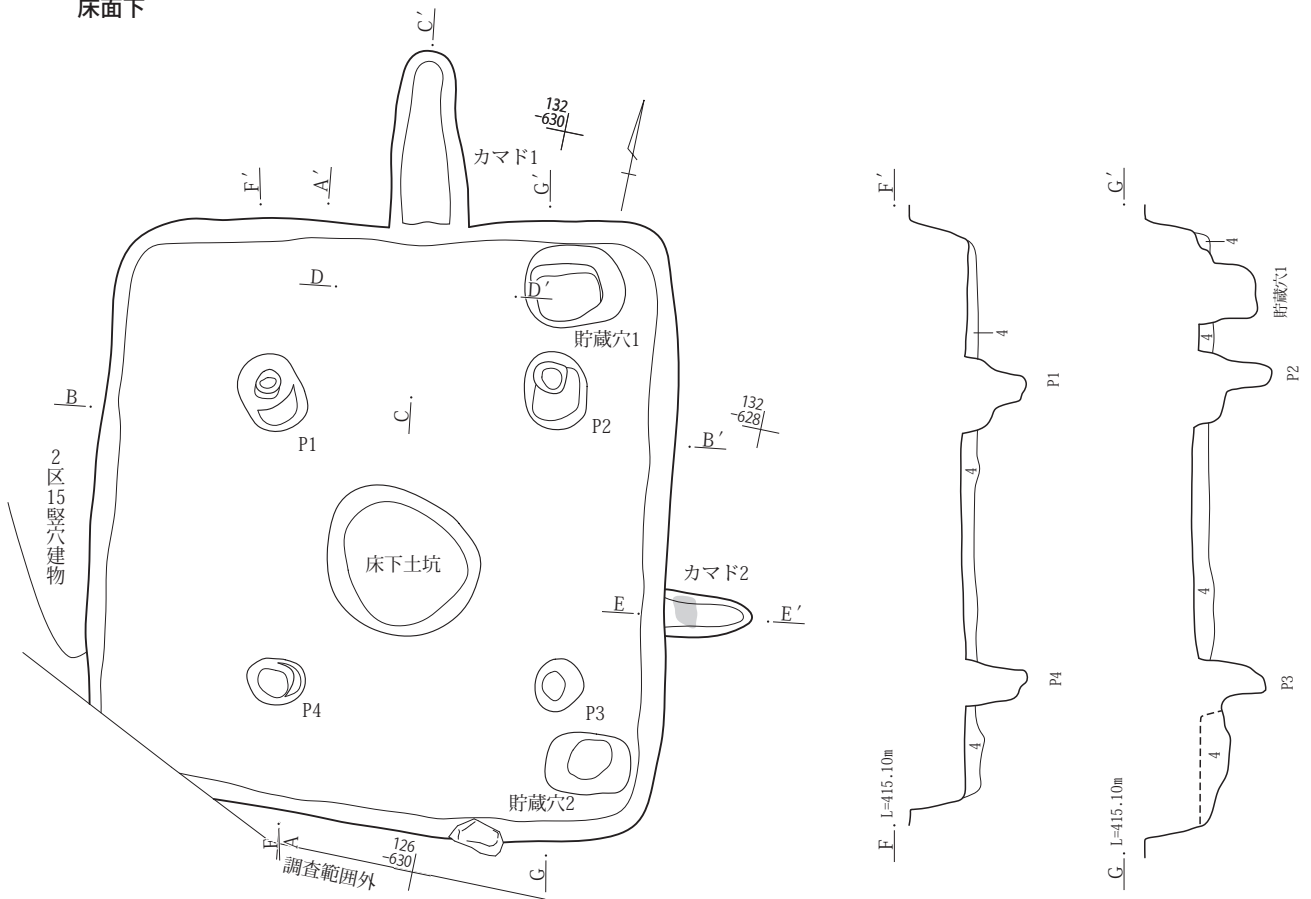
未掲載遺物には、土師器片が多く、須恵器の細片が僅かにある。

所見・時期：本建物は、カマドの位置を変える改築を行った建物と考えられ、建物の時期は出土土器から6世紀前半と考えられる。



第139図 2区14号竪穴建物 床面、カマド1 平・断面図

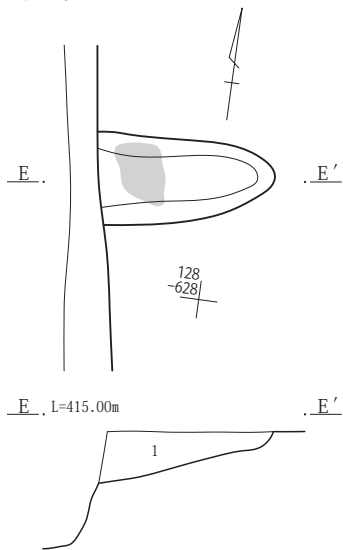
床面下



4 黒色土 上面が床面で硬く締まり、上位に黄褐色ロームブロックが薄く、中位以下にはロームブロックを少量含む。(床下土)

0 1:60 2m

カマド2



1 黒褐色土 焼土粒、炭化物を微量に含む。

0 1:30 1m

第140図 2区14号竪穴建物 床面下、カマド2 平・断面図



第141図 2区14号竪穴建物 出土遺物

2区17号竪穴建物

(第142・143図、第13・80表、PL.33・34・182)

平成27年度の調査で検出した。2区5号竪穴建物と重複する。

位置：2区の西端に位置し、南側を2区5号竪穴建物と重複する。また、東側に2区18・47号竪穴建物、南東側に2区6号竪穴建物が近接する。

グリッド：2F・2G-133・134

座標値：X=61,157~61,163 Y=-93,663~93,669

重複：本建物の南隅を2区5号竪穴建物と僅かに重複する。遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が新しい。

形状：長方形

規模：長軸5.45m 短軸2.52m 壁高40~48cm

長軸方向：N-15°-E 床面積：21.23㎡

埋没土：1層の暗褐色土と2層の黒褐色土を主に、3層のロームブロックを多量含む粘質な暗褐色土、さらに4層の暗褐色土とに分層できる。また、1層下位は大型礫が含まれることから、人為的堆積の可能性もある。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近がかなり硬化する。壁高は40~48cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-58°-Eを向き、残存状態は良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ短く突き出る。残存する規模は、全長1.27m、幅1.11mを測る。袖は壁から80cmほど突き出るように残存し、袖石はない。焚き口部底面は床面より低く凹み、燃焼部は平坦で、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がる。また、カマドの内壁は、被熱により焼土化していた。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に黒褐色土を袖部の構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置し、上面形は楕円形を呈する。長軸95cm、短軸65cm、深さ65cmを測り、暗褐色土と黒褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1~4を検出した。上面は楕円形で、長軸56~78cm、短軸48~56cm、深さ57~65cmを測る。埋土は黒褐色土と暗褐色土を主体とする。

床面下：僅かな掘り込みを全体にもつが、部分的に深くなる箇所もある。また、床下土坑を2基検出した。床

下土坑1は中央付近に位置し、P5と接する。不整形で、長軸1.05m、短軸1.00m、深さ23cmを測り、黄褐色土と黒褐色土を埋土とする。長楕円形を呈する床下土坑2はP4の位置にあり、長軸2.70m、短軸1.23m、深さ30cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物は極めて少ない。出土遺物として、1の土師器の器台を図示したが、混入遺物と考えられる。

未掲載遺物には、土師器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、不明な点はあるが古墳時代と考えられる。

2区18(A~C)号竪穴建物(第144~146図、第13・81表、PL.34・35・182)

平成28年度の調査で検出した。2区46・47号竪穴建物と重複する。床面下の調査および整理時の段階で拡張を伴う竪穴建物であることが判明し、最も新しい18A竪穴建物、次いで18B竪穴建物、最も古い18C竪穴建物として記述する。

位置：2区西側の西壁寄りにあり、2区18・34~36・46~48・100号竪穴建物が絡む重複の著しい一角の西側に位置する。本建物の北東側に2区46号竪穴建物、南西側に2区47号竪穴建物が重複する。南東側に2区20・45号竪穴建物、南側に2区6号竪穴建物、南西側に2区17号竪穴建物が近接する。

グリッド：2F~2H-132・133

座標値：X=61,158~61,166 Y=-93,655~93,664

重複：本建物の北東側と南西側を2区46・47号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は本建物が最も古い。

18A竪穴建物形状：方形

18A竪穴建物規模：長軸6.03m 短軸5.84m
壁高50cm

18A竪穴建物長軸方向：N-42°-W

18A竪穴建物床面積：21.23㎡

18A竪穴建物埋没土：1層の暗褐色土を主に、2層および3層の暗褐色土に分層できる。建物中央付近の床面直上、大型礫が多く出土していることから、人為的堆積と考えられる。

18A竪穴建物床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI

層下位にあり、南西側は重複する2区47号竪穴建物の床面より本建物の床面が低いため残存し、北東側では2区46号竪穴建物の床面が本建物の床面より僅かに低いことから残存していなかった。残存する床面の状態は、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化する。壁高は50cm前後を測り、垂直ぎみに立ち上がる。

18A 竪穴建物カマド(カマド1)：北西壁の中央やや北寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-42°-Wを向き、残存状態は良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側に短く突出する。カマドの規模は、全長0.82m、幅1.11mを測る。袖は壁から50cmほど突き出し、袖石は確認されていない。焚口部から燃焼部の底面にかけては床面より僅かに低くなり、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がる。燃焼部の内壁は被熱により焼土化していた。

18A 竪穴建物貯蔵穴(貯蔵穴1)：本建物に伴うのは貯蔵穴1で、カマド1の右側となる北隅に位置する。上面形は楕円形を呈し、長軸80cm、短軸60cm、深さ63cmを測り、上位に黒褐色土および下位に暗褐色土を埋土とする。

18A 竪穴建物柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸40～61cm、短軸36～45cm、深さ60～75cmを測り、黒褐色土や暗褐色土を埋土とする。なお、柱間は3.1m×3.18mを測る。

18A 竪穴建物周溝：カマドを除く各壁際を巡る。幅15cm前後、深さ10cmほどを測り、暗褐色土を埋土とする。

18A 竪穴建物床面下：床面下となる重複する2区46号竪穴建物の床面上に、本建物に絡む柱穴(P3・7)や北東壁推定位置に、焼土を埋土に含む落ち込み、さらに東隅に楕円形の落ち込みが検出されていたことから、北東壁に位置したカマドの存在が想定されていた。また、床面下を調査した結果、ローム上面にP5・6・8が、さらに東隅付近のP7脇にも長方形の落ち込みが検出された。これらの状況を加味すると、北東壁推定位置の焼土を含む落ち込みはカマドの残痕であり、カマド1の状況から本建物の前段階のカマド痕跡(カマド2)であり、これに東隅の楕円形の落ち込み(貯蔵穴2)が伴う。併せて、P8とP4が接するようであるP5～8の柱間は本建物の主柱穴P1～4より狭く、貯蔵穴2の内側に位置するP7脇の長方形の落ち

込みも貯蔵穴と考えられ(貯蔵穴3)、カマドは確認されていないがP5～8と貯蔵穴3が伴って最も古い建物を構成していたものと考えられ、拡張を伴う計3期の竪穴建物であると判断した。なお、床面下において床下土坑を1基検出したが、どの段階に伴うかは不明。床下土坑はP5とP8の中間に位置し、楕円形を呈する。長軸1.02m、短軸0.84m、深さ27cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

18B 竪穴建物形状：方形。痕跡を示すのは、重複する2区46号竪穴建物の床面上に確認されたカマドと貯蔵穴であり、詳細は不明。

18B 竪穴建物床面・壁：床面および壁については、18A 竪穴建物と共有していたと考えられ、本建物の段階に18C 竪穴建物の北東壁と北西壁を拡張させたものと考えられる。

18B 竪穴建物カマド(カマド2)：重複する2区46号竪穴建物の床面上の北東壁推定位置に、本建物のカマドの残痕(カマド2)を確認した。北東壁中央の東寄りに位置し、カマドの主軸方位は北東方向にあると思われ、残存状態は極めて悪い。燃焼部底面と考えられる浅い落ち込みは壁の内側にあり、埋土は焼土を含む黒褐色土である。詳細は不明。

18B 竪穴建物貯蔵穴(貯蔵穴2)：本建物に伴うのは貯蔵穴2で、カマド2の右側となる東隅に位置する。上面形は楕円形を呈し、長軸65cm、短軸52cm、深さ57cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

18B 竪穴建物柱穴：主柱穴は18A 竪穴建物と共有していたと考えられる。

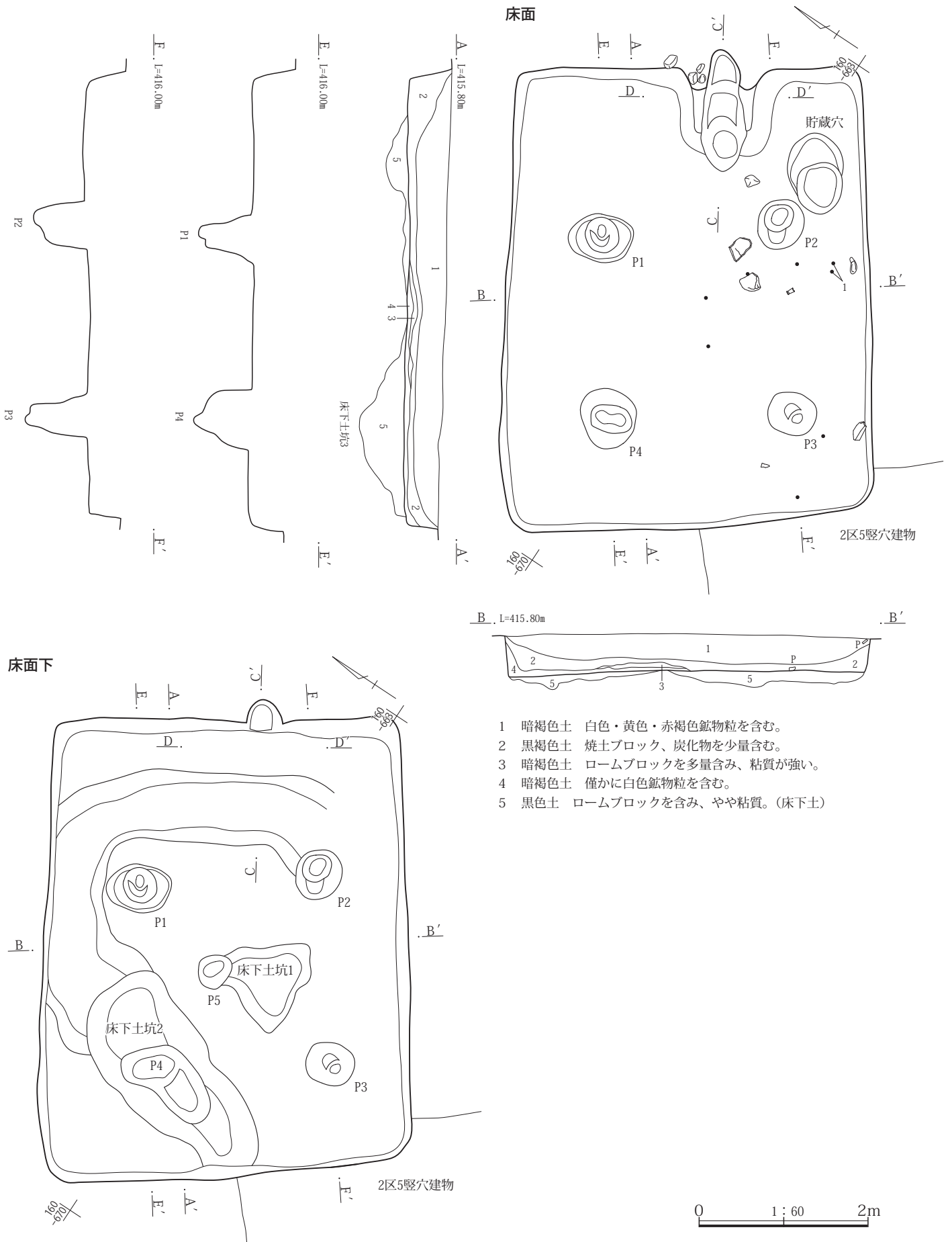
18C 竪穴建物形状：方形か。痕跡を示すのは、貯蔵穴と主柱穴であり、他の詳細は不明。

18C 竪穴建物規模：18A・B 竪穴建物より小さい。

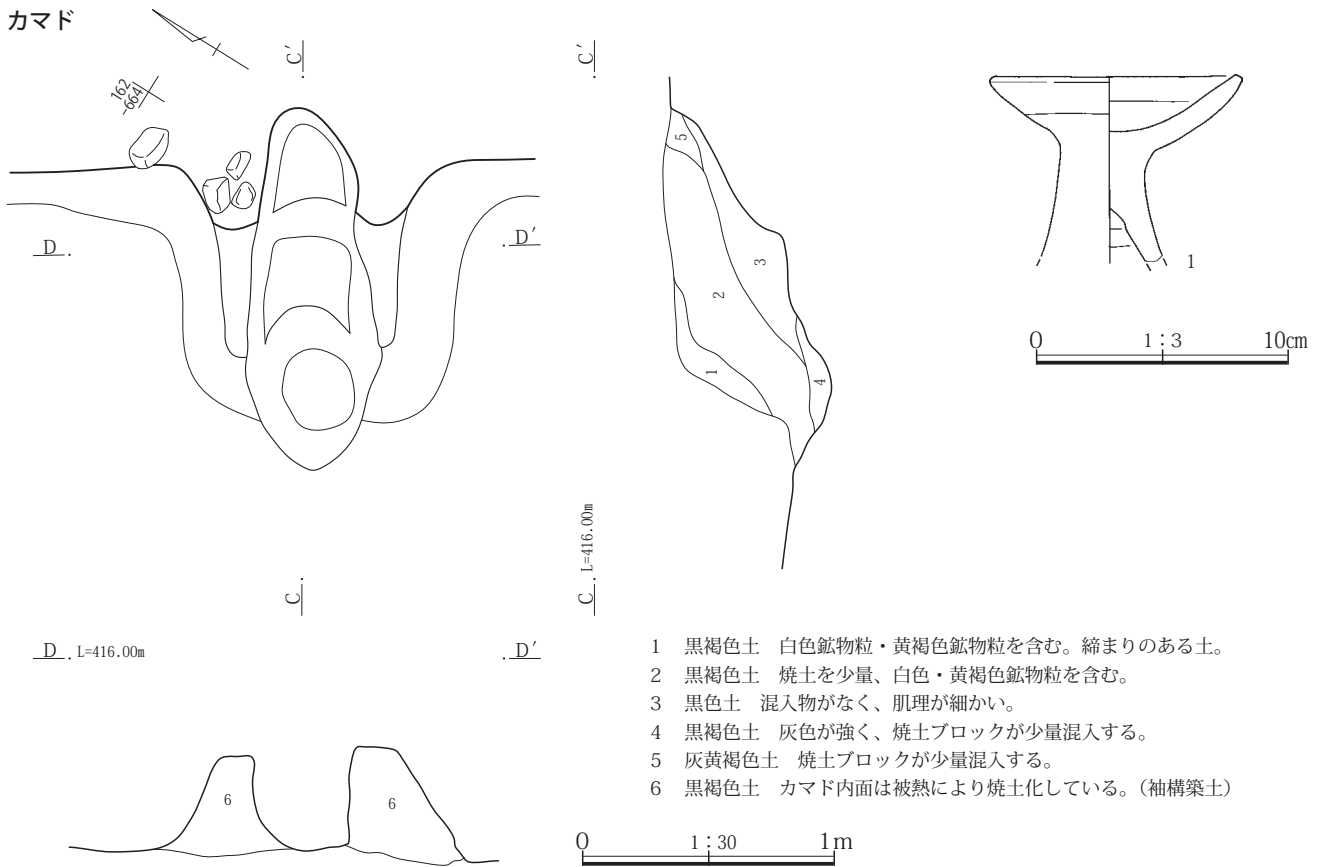
18C 竪穴建物床面・壁：床面は不明。壁については、主柱穴のあり方から南東壁と南西壁は18A・B 竪穴建物と共有し、北東壁と北西壁は18A・B 竪穴建物より内側となる。

18C 竪穴建物カマド：貯蔵穴3の位置から、北東壁にあったものと推測される。詳細は不明。

18C 竪穴建物貯蔵穴：本建物に伴うのは貯蔵穴3で、東隅付近のP7の脇に位置する。上面形は長方形を呈し、長軸58cm、短軸39cm、深さ30cmを測り、暗褐色土を埋



第142図 2区17号竖穴建物 床面、床面下 平・断面図



第143図 2区17号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物

土とする。遺物が出土している。

18C 竪穴建物柱穴：支柱穴と考えられる P 5～8 を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸36～52cm、短軸34～40cm、深さ40～54cmを測り、埋土は黒褐色土である。なお、柱間は2.7m×3.1mを測り、18A・B 竪穴建物の柱間よりも一回り小さく、P 8 は P 4 と接するようにあり、他は内側に位置する。

遺物：出土した遺物量は少ない。カマド内およびカマド前から2の杯、カマド前の床面直上に4の杯、中央付近の床面やや上からは6の高杯の脚部が出土している。なお、18C 竪穴建物の貯蔵穴3の底面から1の杯が出土している。

出土遺物として、土器7点と石製品5点を図示したが、1以外は18A 竪穴建物からである。1～5は土師器の杯で、1・5の内面にはへら磨きが施されている。6は土師器の高杯の脚部で、7は土師器の壺の口縁部である。

石製品には8・9の滑石製の白玉と、10の粗粒輝石安山岩製の石製品、11・12の粗粒輝石安山岩製の磨石

がある。8はオリーブ灰色をなし、径0.9cm、厚さ0.5cm、孔径3mm、重さ0.5gを測る。9は灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.6cm、孔径3mm、重さ0.5gを測る。10は多孔質な石質で、長さ5.2cm、幅5.1cm、厚さ3.2cmを測り、全体に研磨され、表裏面の中央に漏斗状の深い凹みがある。11は表面に、12は全面に磨面をもつ。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が少量ある。

所見・時期：拡張を伴う竪穴建物で、支柱穴や貯蔵穴の配置等から、18C 竪穴建物は北東壁にカマドが位置したであろう建物で、貯蔵穴3および支柱穴5～8で構成された最も小さく古い竪穴建物と考えられる。その後の18B 竪穴建物の段階で、南東・南西壁の2辺をそのままに拡張を行い、北東壁のカマド2と貯蔵穴2、支柱穴P 1～4で構成される。そして、最終的な段階となる18A 竪穴建物では拡張を伴わず、18B 竪穴建物をそのまま共有し、カマドと貯蔵穴の位置を変えたものと考えられる。建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区22号竪穴建物

(第147～152図、第13・85表、PL.37～39・184・185)

平成27・28年度に跨がって調査した。2区38号竪穴建物と重複する。また、新旧のカマドを有する。

位置：2区西側の中央付近に位置し、本建物の西隅に2区38号竪穴建物が重複する。北側に2区37・39号竪穴建物、南側に2区21・49号竪穴建物、南西側に2区20・45号竪穴建物が近接する。

グリッド：2E・2F-128～130

座標値：X=61,152～61,159 Y=-93,639～93,646

重複：本建物の西隅を2区38号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の観察から、本建物の方が古い。

形状：方形

規模：長軸6.15m 短軸5.38m 壁高56～71cm

長軸方向：N-64°-E 床面積：30.90㎡

埋没土：1・2層の黒褐色土を主に、3層の黒色土、4層の褐色土、さらに5層とした黒褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面付近にあり、重複する2区49号竪穴建物の床面より本建物の方が低い。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけてやや硬化する。壁高は56～71cmを測り、垂直ぎみに立ち上がるが、北東壁等の一部ではやや斜位となる。

カマド：2基のカマドを確認した。カマド1は本建物の廃絶時に伴う最も新しいカマドで、北西壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-28°-Wを向き、残存状態は極めて良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長1.66m、幅1.17mを測る。袖は壁から75cmほど突き出るように残存し、両先端に袖石、さらにその袖石に架かる天井石を確認した。天井石は長さ99cm、幅25cm、厚さ17cmを測り、横長の扁平な大型礫である。両袖石はほぼ直立し、焚き口部の間口は幅45cm、高さ15cmほどである。焚き口部から燃焼部の底面にかけては建物床面より僅かに低くなり、煙道部は燃焼部奥からそのまま続いた先で急角度に高くなり、その先が斜位立ち上がり煙出し部となる。また、煙道部内壁は、被熱して

著しく焼土化していた。燃焼部の内壁には、袖石から続くように側壁石が並び、その状況を側面図に示した。一方、カマドの構築状況は、7層とした暗褐色土を構築土としてカマドの底面および燃焼部の側壁石等を据え、その後に6層の褐色土で袖やカマド本体を構築している。なお、これら構築土中には、白色の骨片が少量混入する。

カマド2はカマド1に先行するカマドで、北東壁のほぼ中央に位置する。カマドの主軸方位はN-64°-Eを向き、残存するのは煙道部のみ。燃焼部は壁の内側にあったと思われ、煙道部は外側へ長く突出する。残存する煙道部は、全長1.10m、幅0.50mを測り、緩く続いた後に急激に立ち上がる。左壁付近に石を確認したが、側壁石の可能性もある。

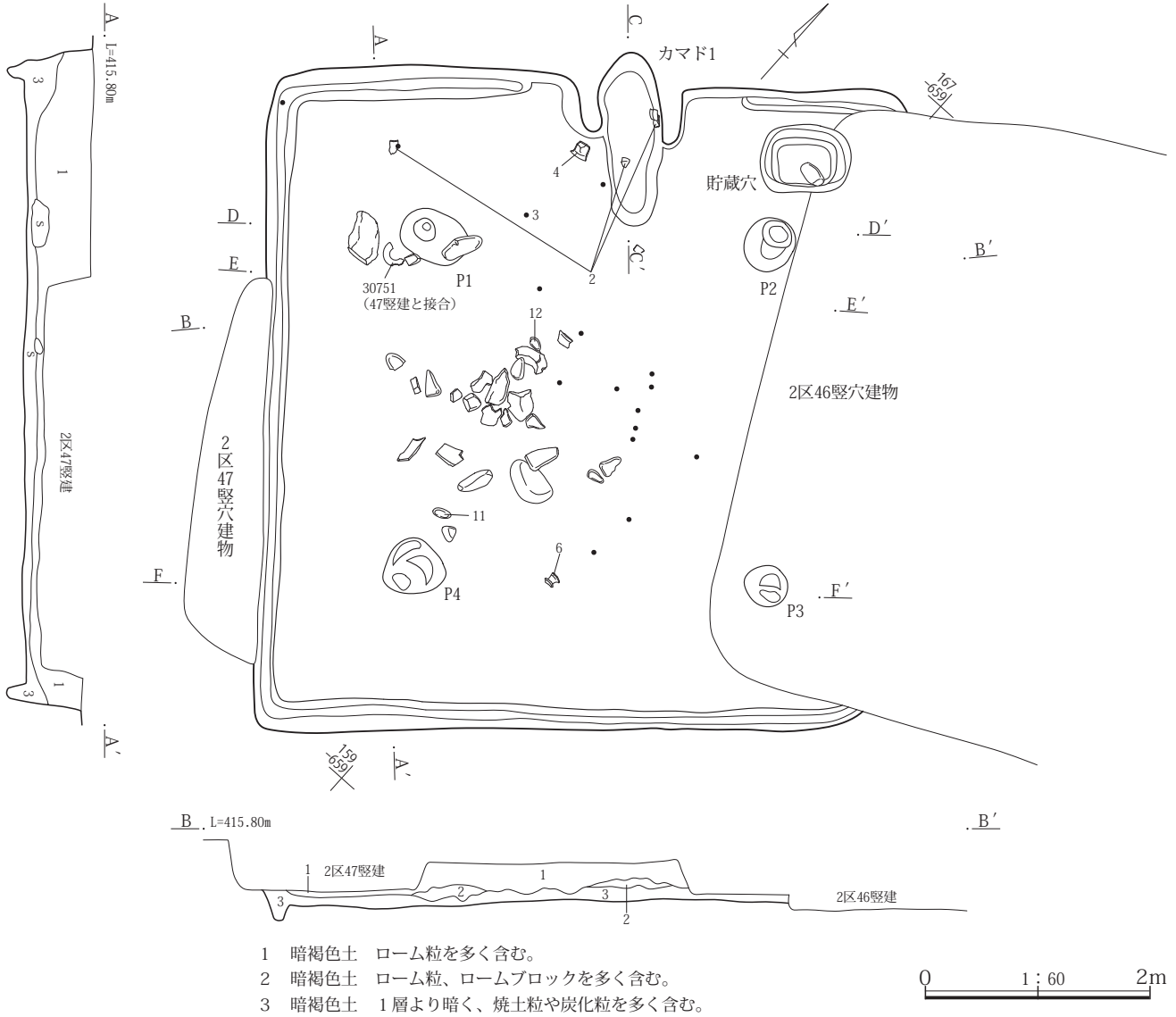
貯蔵穴：2基の貯蔵穴を確認した。貯蔵穴1はカマド1に伴い、カマド1の右側となる北隅付近に位置し、上面形は円形を呈する。径85cm前後、深さ22cmを測り、黒褐色土と褐色土を埋土とする。貯蔵穴2はカマド2に伴い、P3に接するように上面形は楕円形を呈する。長軸105cm、短軸97cm、深さ100cmを測り、黒褐色土を埋土とする。なお、この埋土中からは土器が出土している。

柱穴：支柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸45～84cm、短軸38～70cm、深さ65～74cmを測る。埋土は暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

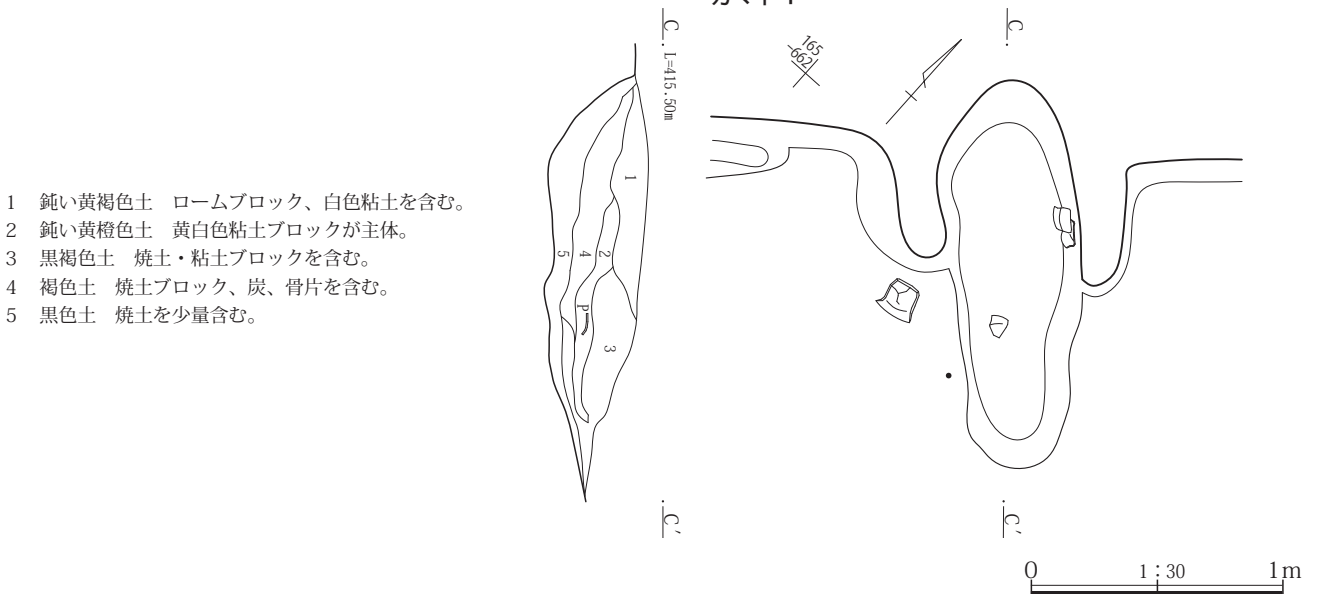
周溝：カマド位置を除く壁際をほぼ一周する。幅15～20cm前後、深さ5～10cmを測る。なお、南東壁際においては、壁の立ち上がり位置と周溝がずれている。

床面下：床面下に数cmほどの僅かな掘り込みをもち、床下土坑を6基検出した。床下土坑1はカマド2の前に位置し、床下土坑4と接する。楕円形で長軸1.05m、短軸0.90m、深さ60cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑2はカマド2の左側に位置し、円形で径0.74m、深さ19cmを測り、暗褐色土を埋土とする。床下土坑3は南東壁際中央に位置し、楕円形で長軸1.05m、短軸0.94m、深さ60cmを測り、暗褐色土と黒褐色土を埋土とする。床下土坑4は床下土坑1に接した南西側に位置し、楕円形で長軸(1.03)m、短軸0.98m、深さ35cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑5は建

床面(18A)

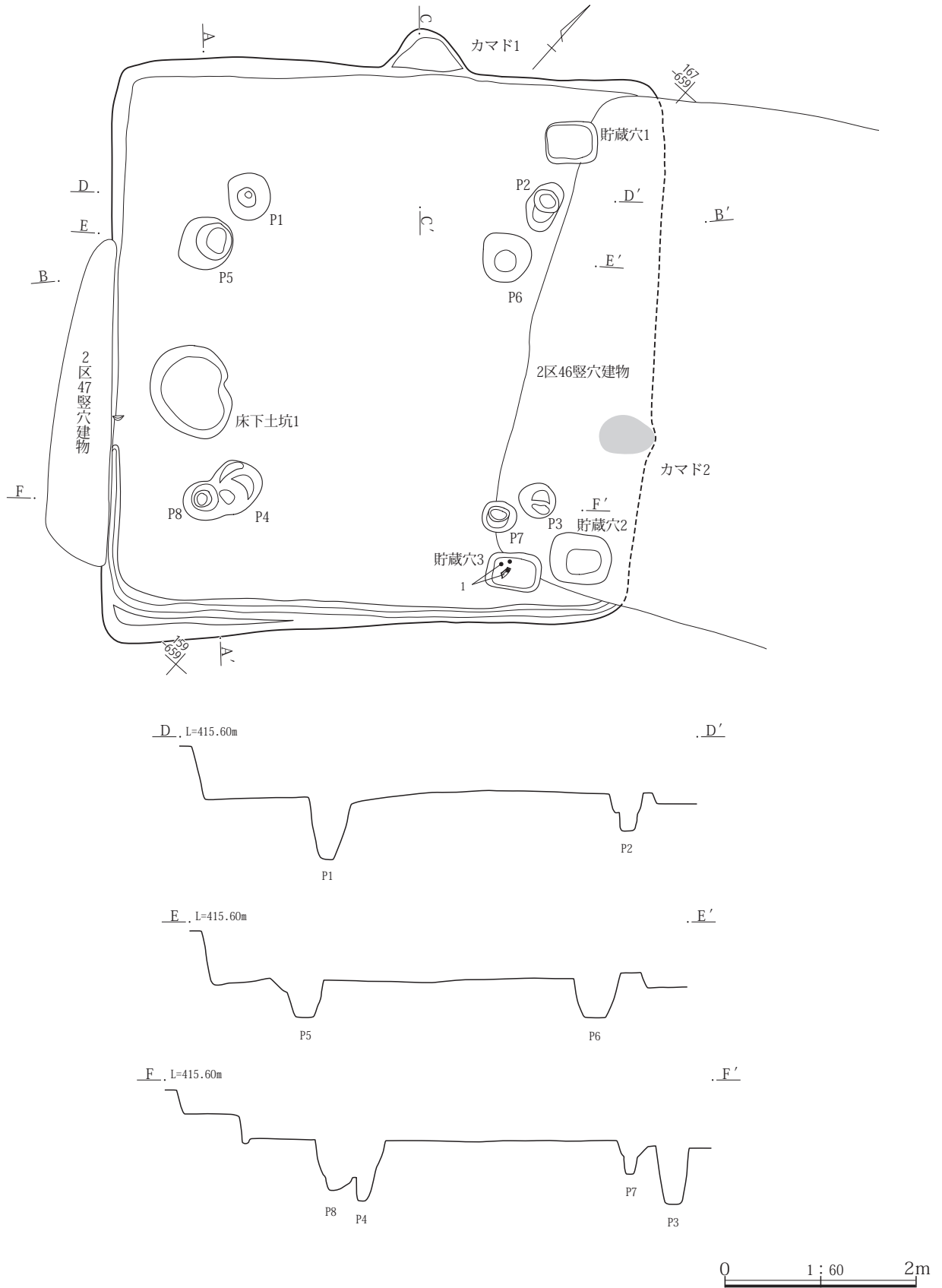


カマド1

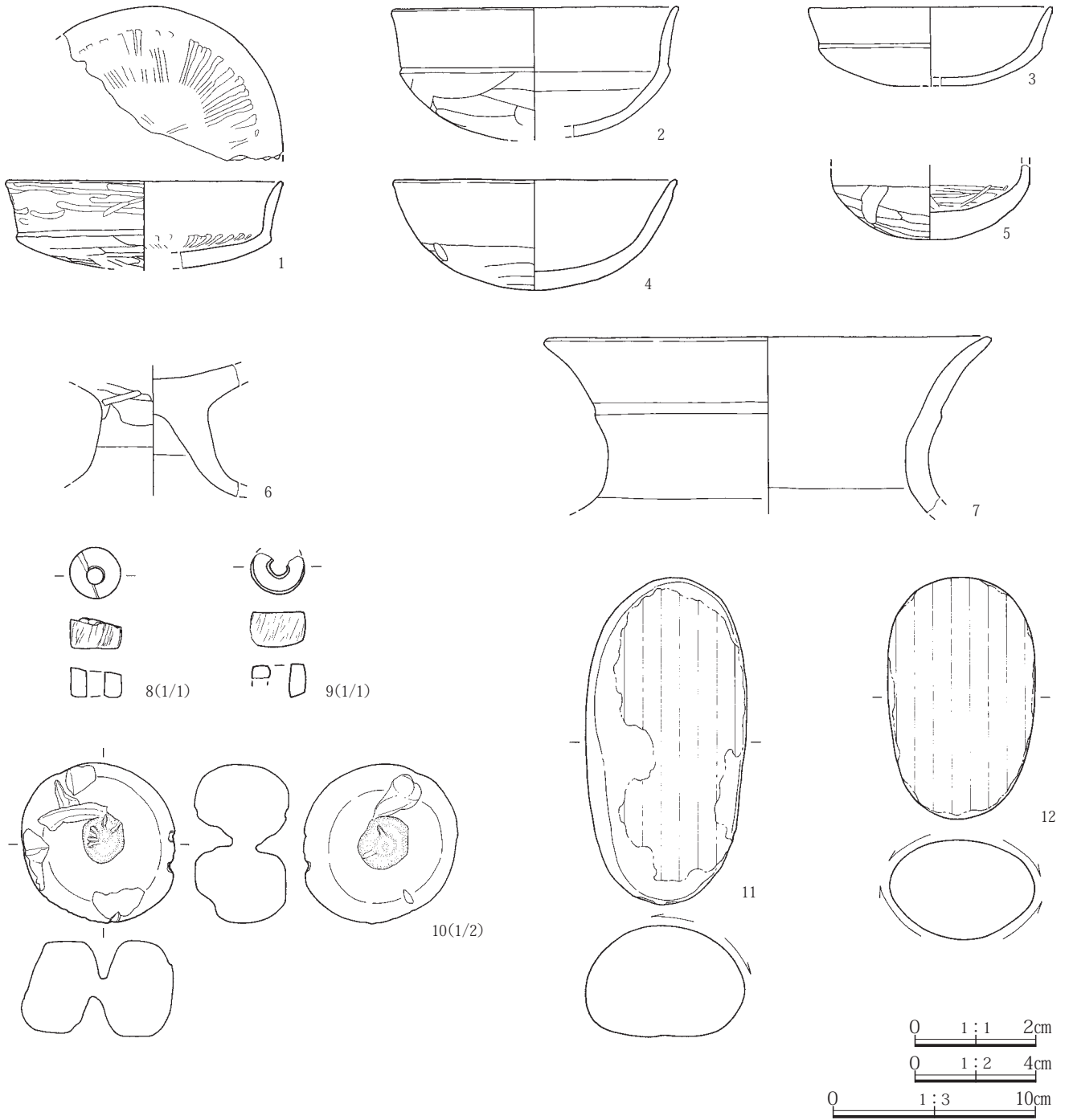


第144図 2区18号竪穴建物 床面(18A)、カマド1 平・断面図

床面下



第145図 2区18号竪穴建物 床面下(18B・C) 平・断面図



第146図 2区18号竖穴建物 出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

物中央に位置し、床下土坑6と接する。楕円形を呈し、長軸1.36m、短軸1.02m、深さ56cmを測り、暗褐色土を埋土とする。床下土坑6は床下土坑5に接してカマド1の前に位置し、円形で径1.07m、深さ36cmを測り、黒褐色土を埋土とする。さらに、P5～7までのピットをも検出した。

遺物：出土した遺物量はやや多いが、その多くは埋土中からである。その中であって、1の杯はカマド1の右袖前の床面直上に、2の杯はカマド1の右袖脇に出土している。また、南東壁際付近では17の石製品が床面直上から、13の甕が床面のやや上から出土している。さらに、14の甕はカマド2に伴う貯蔵穴2の埋土上位から出土している。

出土遺物として、土器16点と石製品3点、金属製品1点を図示した。土器は全て土師器である。1～10は杯で、3・4・8・9の内面にはヘラ磨きが施されている。11は鉢の口縁部で、12は埴の頸部片。13は甕で、14～16は甕である。

石製品には17・18の白玉と、19の砥石がある。17は滑石製でオリーブ灰色をなし、径0.7cm、厚さ0.3cm、孔径2mm、重さ0.3gを測り、側面に擦痕が認められる。18は滑石製で灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.5cm、孔径3mm、重さ0.55gを測り、側面に擦痕が認められる。19は粗粒輝石安山岩製で、表面に線条痕が認められる。

金属製品には20の鉄製の鎌がある。残存長(10.2)cm。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器片が僅かにある。他に、羽口片が1点ある。

所見・時期：主柱穴が同じ位置で、カマドの位置を変える改築を行った建物と考えられ、先述の2区10号竪穴建物の状況に近い。建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区25号竪穴建物(第153・154図、第13・86表、PL.39・40・185)

平成27年度の調査で検出した。2区26・30号竪穴建物と重複する。なお、2区30号竪穴建物との調査では、遺構確認の判別が難しく、本建物の調査を先行しつつ2区30号竪穴建物を同時に調査した。その結果、本建物のカマドの状態から新旧が明らかとなった。

位置：2区西側の南東寄りの2区25～30号竪穴建物が集中的に重複する一画に位置し、本建物の西隅を2区26号竪穴建物、北東壁を2区30号竪穴建物と重複する。また、南側から南西側にかけて2区11～15号竪穴建物が近接する。

グリッド：2A～2C-125～127

座標値：X=61,133～61,142 Y=-93,624～93,633

重複：本建物の西隅を大きく2区26号竪穴建物と重複するが、遺構確認における2区26号竪穴建物のカマドの存在から、本建物の方が古い。また、北東壁部分に重複する2区30号竪穴建物とは、本建物のカマドが2区30号竪穴建物に壊されていたことから、本建物の方が古い。

形状：方形

規模：長軸6.77m 短軸6.18m 壁高50cm

長軸方向：N-42°-W 床面積：(39.28)m²

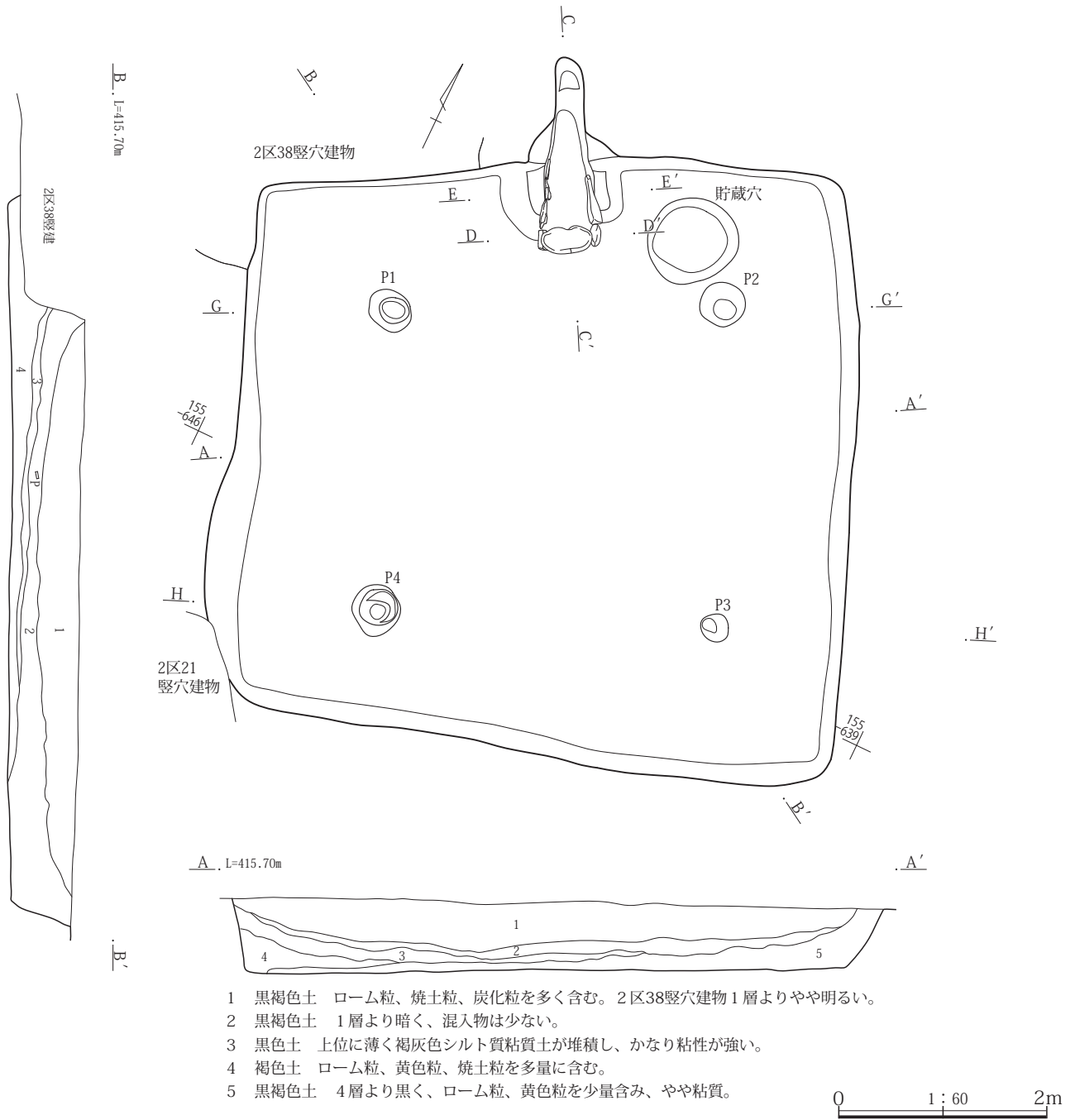
埋没土：1～3層の黒褐色土を主に、4層の黒色土とに分層できる。なお、遺物の出土のあり方から、人為的堆積を考えざるを得ない。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、重複する2区26号竪穴建物の床面より本建物の方が低く、2区30号竪穴建物とはほぼ同一である。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけてやや硬化ぎみ。また、床面上に炭化材が出土している。壁高は50cm前後を測り、垂直ぎみに立ち上がる。

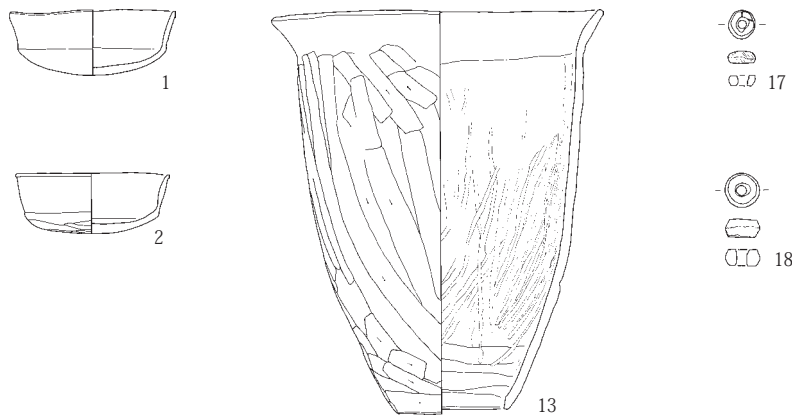
カマド：北東壁の中央やや東寄りに位置するが、重複する2区30号竪穴建物に壊され、床面に残る焼土粒がまとまる箇所が、その片鱗を残す。そのため詳細は不明。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、上面形は楕円形を呈するが、途中から方形となる。上面は長軸88cm、短軸76cm、深さ62cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

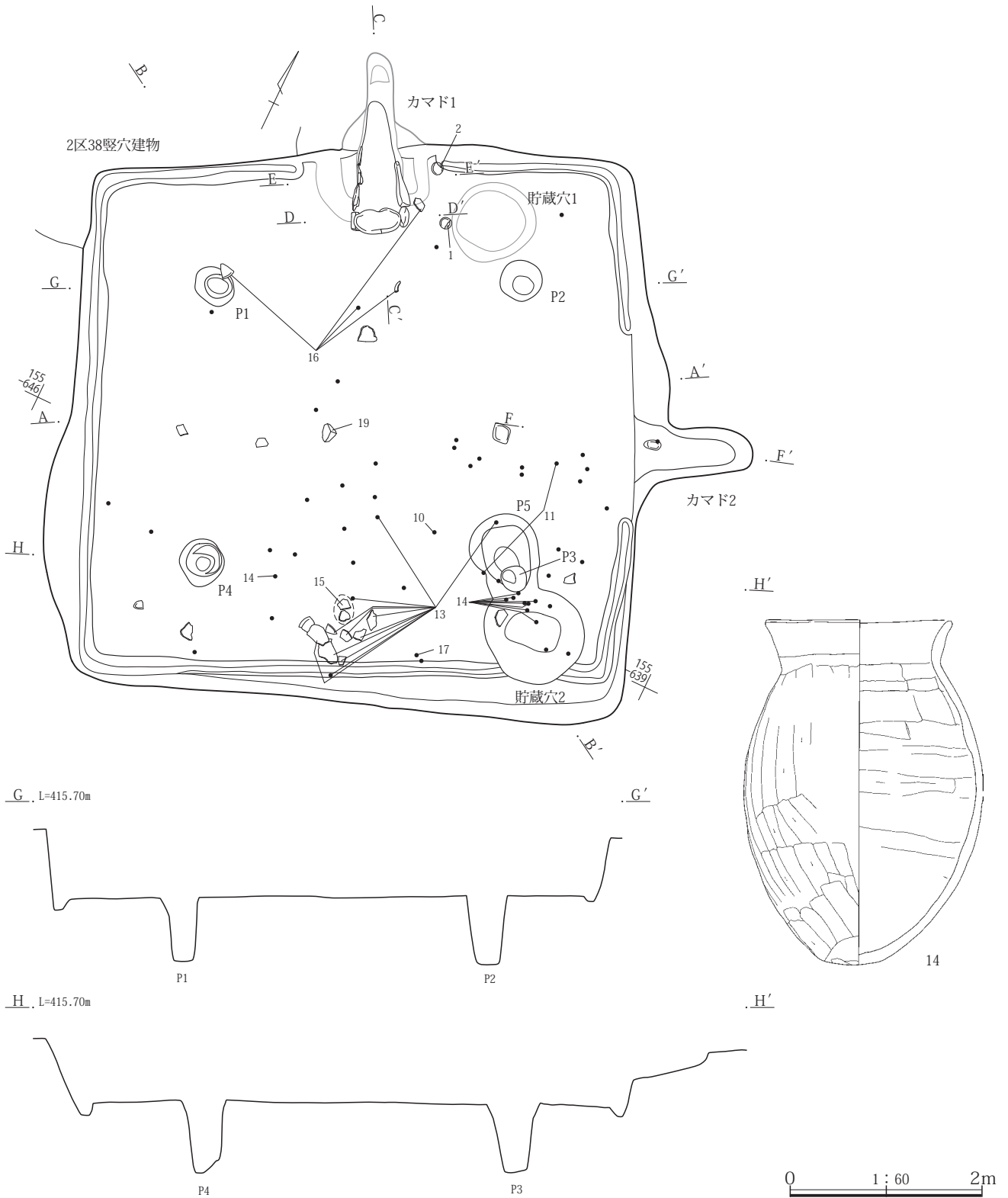
床面下：床面下を調査したが、明確な掘り込みは不明。しかし、ローム面で床下土坑を3基検出した。床下土坑1はカマド前に位置し、円形を呈する。径1.10m、深さ20cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑2は床面中央の西側に位置し、円形で径1.05m、深さ30cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑3は南隅付近の南東壁際に位置し、楕円形で長軸0.96m、短軸0.75m、深さ34cmを測り、黒褐色土を埋土とする。



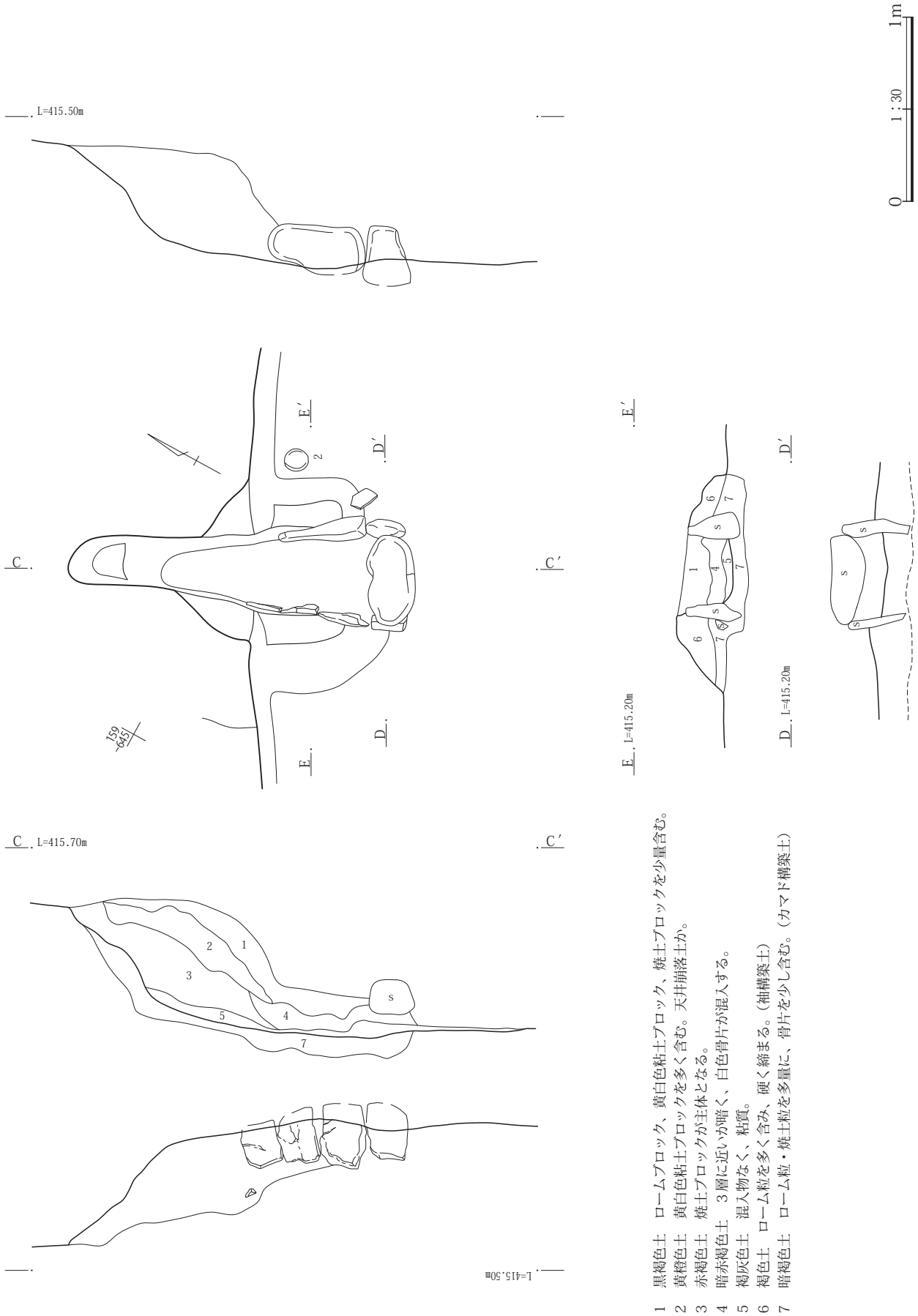
- 1 黒褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化粒を多く含む。2区38竪穴建物1層よりやや明るい。
- 2 黒褐色土 1層より暗く、混入物は少ない。
- 3 黒色土 上位に薄く褐灰色シルト質粘質土が堆積し、かなり粘性が強い。
- 4 褐色土 ローム粒、黄色粒、焼土粒を多量に含む。
- 5 黒褐色土 4層より黒く、ローム粒、黄色粒を少量含み、やや粘質。



第147図 2区22号竪穴建物 床面(カマド1期) 平・断面図



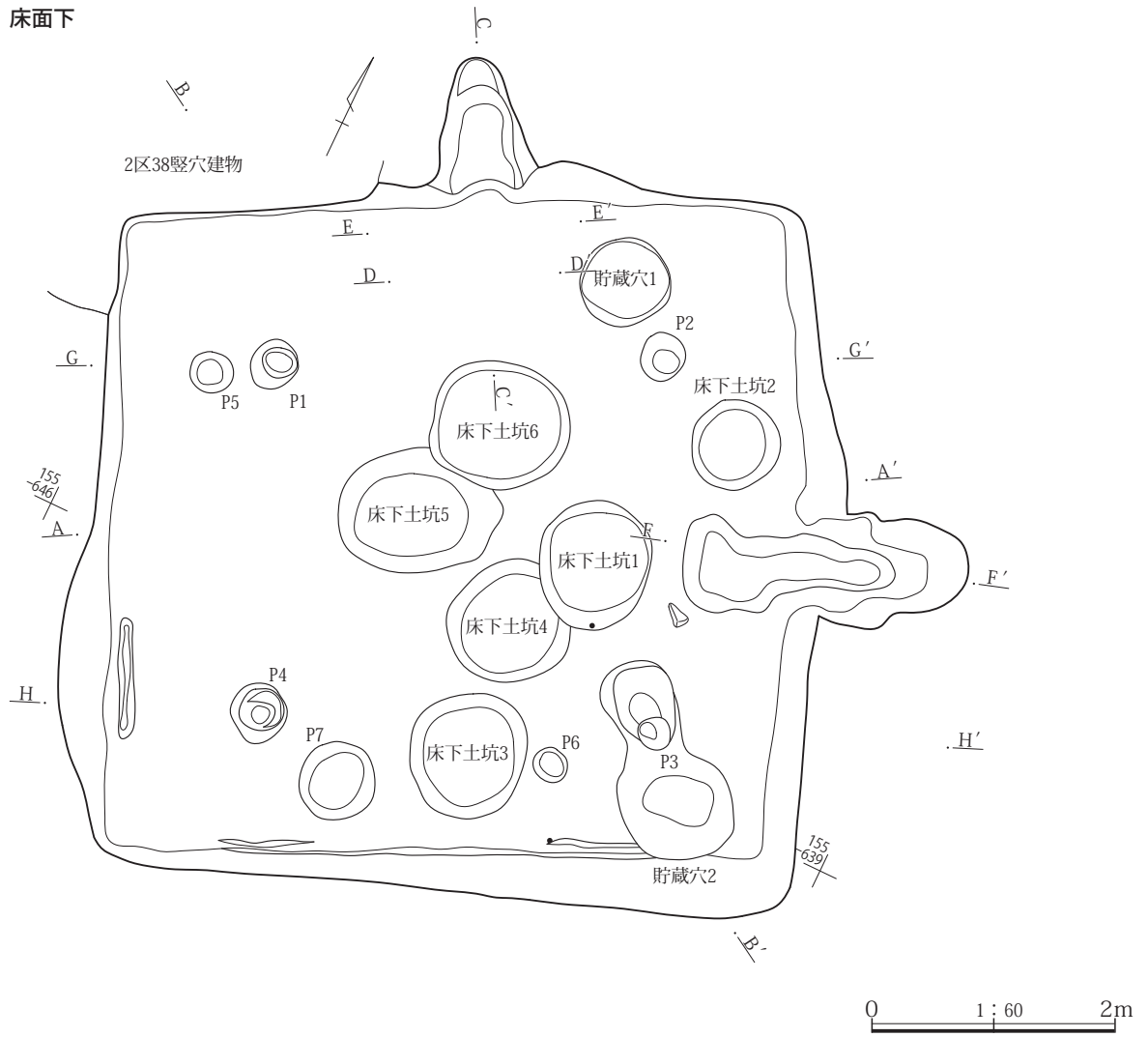
第148図 2区22号竪穴建物 床面(カマド2期) 平・断面図



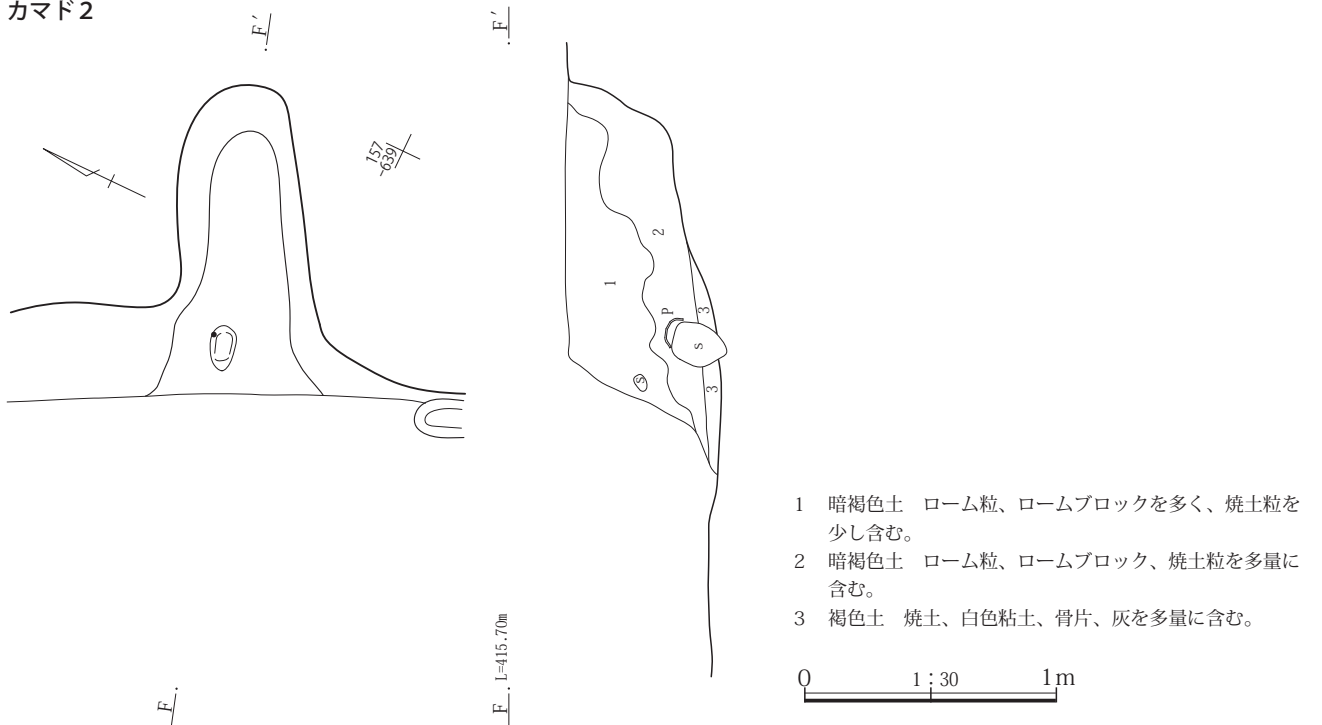
- 1 黒褐色土 ロームブロック、黄白色粘土ブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 黄白色粘土ブロックを多く含む。天井崩落土か。
- 3 赤褐色土 焼土ブロックが主体となる。
- 4 暗赤褐色土 3層に近いが暗く、白色骨片が混入する。
- 5 褐灰色土 混入物なく、粘質。
- 6 褐色土 ローム粒を多く含む、硬く締まる。(柚構築土)
- 7 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を多量に、骨片を少し含む。(カマド構築土)

第149図 2区22号竪穴建物 カマド1 平・断面図、側面図

床面下

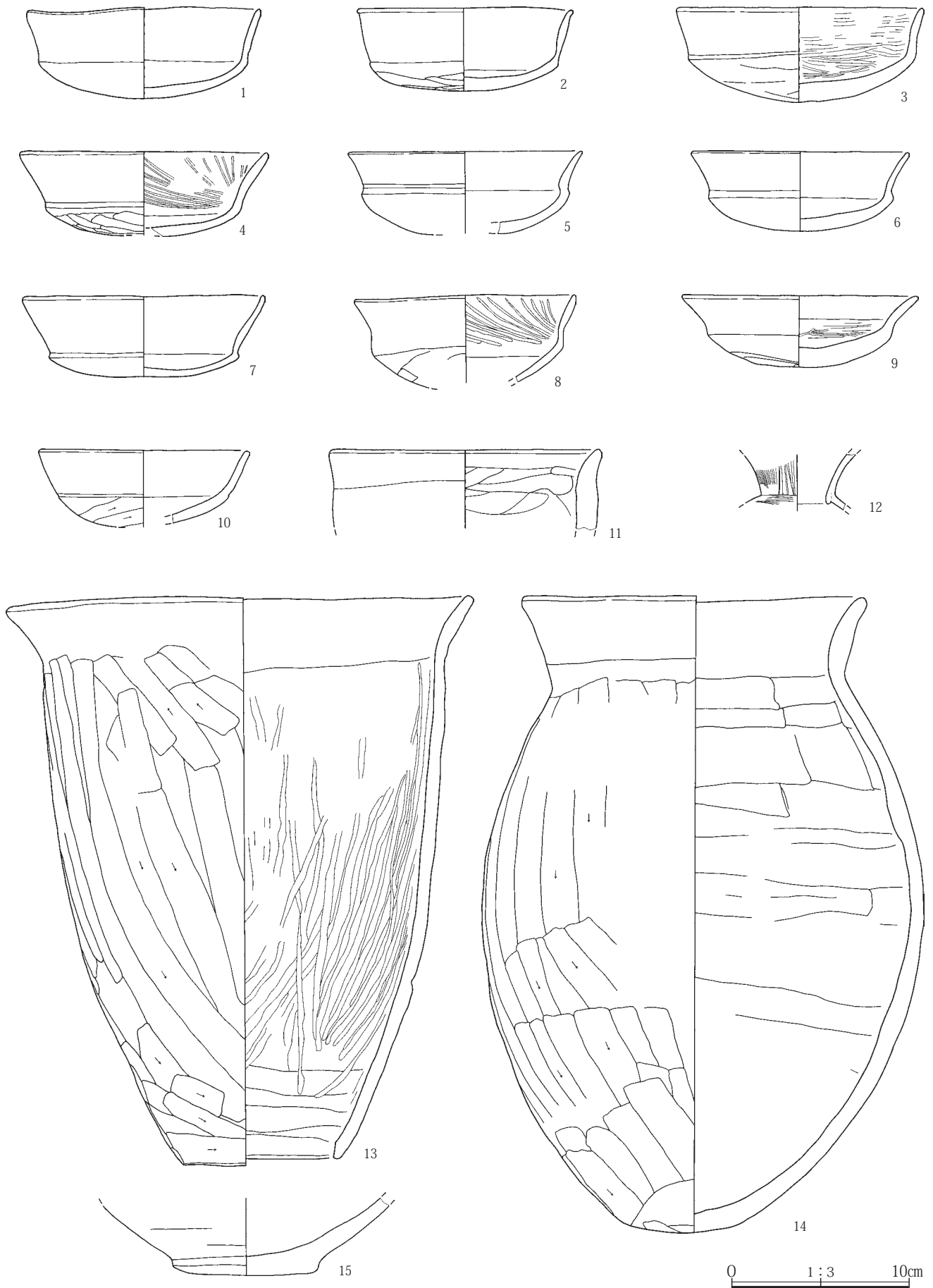


カマド2

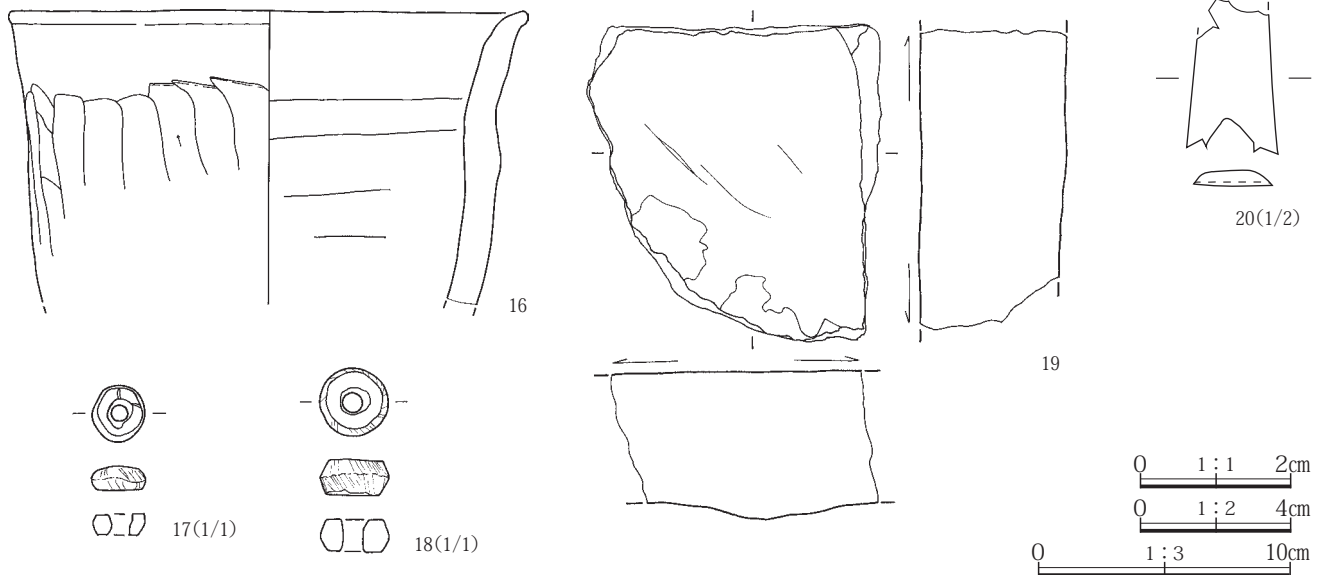


- 1 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く、焼土粒を少し含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック、焼土粒を多量に含む。
- 3 褐色土 焼土、白色粘土、骨片、灰を多量に含む。

第150図 2区22号竪穴建物 床面下、カマド2 平・断面図



第151図 2区22号竪穴建物 出土遺物(1)



第152図 2区22号竪穴建物 出土遺物(2)

また、P 1～6のピットをも検出した。

遺物：出土した遺物量はやや多いものの、埋土中からの出土が多い。床面直上の遺物としては、南東壁中央の壁際に長さ15cm前後の扁平な薦網石が5石まとなり、同じ位置に7の甕が横転した状態にあった。また、南東壁東寄りの壁際付近の床面のやや上から6の杯が出土し、南隅付近の床面直上に8の砥石が出土している。なお、時期の異なる1の杯は南隅の壁際の高い位置から、2の完形の小型壺は南東壁東寄りの壁際の高い位置。さらに、3・4の壺も南東壁東寄りの壁際の埋土中から出土している。これら1～4はその出土のあり方から、人為的堆積に伴う混入遺物と考えられる。

出土遺物として、土器7点と石製品1点を図示した。土器は全て土師器で、1は内面に磨きを施す杯で、2・3は内面に横位や斜格子状のヘラ磨きを施す小型壺であり、4も壺である。そして、5・6は杯であり、7は完形の甕である。

石製品は砥沢石製の砥石で、長さ7.2cm、幅2.3cm、厚さ2.3cmを測り、4面に砥面が認められる。

未掲載遺物には、土師器片が多く、須恵器片が僅かにある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

2区28号竪穴建物(第155・156図、第13・89表、PL.41・42・187)

平成27年度の調査で検出した。2区27・29号竪穴建物と重複する。なお、2区29号竪穴建物との調査では、遺構確認および土層断面の判別が難しく、本建物の調査を先行した。その後、出土した遺物の種類および出土のあり方から、新旧の逆転が明らかとなった。

位置：2区西側の南東寄りの2区25～30号竪穴建物が集中的に重複する西端に位置し、本建物の南東壁部分および南東隅を2区27・29号竪穴建物と重複する。また、南側に2区11・12号竪穴建物、南西側に2区1号竪穴遺構、西側に2区9号竪穴建物、北西側に2区21号竪穴建物が近接する。

グリッド：2B～2D-127～129

座標値：X=61,138～61,146 Y=-93,634～93,641

重複：本建物の南東壁部分に重複する2区27号竪穴建物との新旧は、遺構確認および土層断面の観察から、本建物の方が古い。南東側に重複する2区29号竪穴建物とでは、出土した遺物の種類および出土のあり方から、やはり本建物の方が古いことが判った。

形状：方形

規模：長軸6.10m 短軸5.76m 壁高47～64cm

長軸方向：N-50°-E 床面積：31.29㎡

埋没土：1・2層の暗褐色土、3層の黒褐色土、4層の

黄橙色ブロックを多量に含む鈍い黄褐色土、5層の粘質な黒色土に分層できる。なお、4層の存在は人為的堆積の可能性を示す。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面付近にあり、重複する2区29号竪穴建物の床面は本建物の床面より高い位置にあるため確認できたが、2区27号竪穴建物との重複部分では壊されている。残存する床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近はやや硬化する。壁高は47～64cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-53°-Eを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へやや長く突出する。残存する規模は、全長1.70m、幅1.12mを測る。袖は壁から55～70cmほど突き出るように残存するが、先端に袖石はない。燃烧部の底面は建物床面より低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位そして緩く長く立ち上がる。なお、袖部の内壁は被熱により焼土化していた。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に3基検出した。貯蔵穴1は貯蔵穴2に接しながら東隅に最も近く、楕円形で長軸0.80m、短軸0.63m、深さ35cmを測り、黒褐色土を埋土とする。貯蔵穴2は貯蔵穴1・3に挟まれるように接し、楕円形で長軸0.96m、短軸(0.75)m、深さ40cmを測り、黒褐色土を埋土とする。さらに貯蔵穴3は貯蔵穴2に接しながらカマド右前に位置し、正方形で一辺0.86m、深さ40cmを測り、黒褐色土を埋土とする。なお、貯蔵穴の新旧は不明。

柱穴：支柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸65～72cm、短軸45～55cm、深さ45～60cmを測る。埋土は黒褐色土を主体とする。

遺物：出土した遺物量は少なく、その多くが埋土中からである。僅かに、カマド右脇の床面やや上から2・4の杯が出土している。

出土遺物として、土器7点と石製品1点を図示した。1～4は土師器の杯で、4の内面には放射状の暗文をもつ。5～7は須恵器の甕で、胴部外面の凹線間に櫛状工具による縦位刺突文を巡らせている。

石製品の8は砥沢石製の砥石で、下部を欠損するが長さ6.5cm、幅3.6cm、厚さ1.7cmを測り、正面上方に穿孔途中の孔をもつ。

未掲載遺物には、土師器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区31号竪穴建物(第157図、第13表、PL.43)

平成27年度の調査で検出した。南壁際にあるため、竪穴建物の南半は調査区外となる。2区7・8号竪穴建物と重複する。

位置：2区南西端付近の南壁際に位置し、北西側に2区7号竪穴建物、南東側に平行するように2区8号竪穴建物と重複する。また、東側に2区9号竪穴建物、北側に2区10号竪穴建物が近接する。

グリッド：2C・2D-132・133

座標値：X=61,140～61,145 Y=-93,657～93,661

重複：本建物の西半を2区7号竪穴建物、南東側に2区8号竪穴建物と重複する。遺構確認および土層断面の観察から、その新旧はいずれの竪穴建物より本建物の方が古い。

形状：方形か

規模：長軸(2.80)m 短軸(3.26)m 壁高6～35cm

長軸方向：N-61°-W 床面積：(9.26)m²

埋没土：3層の黒褐色土を埋土とする。(上位の1・2層は2区8号竪穴建物の埋没土)

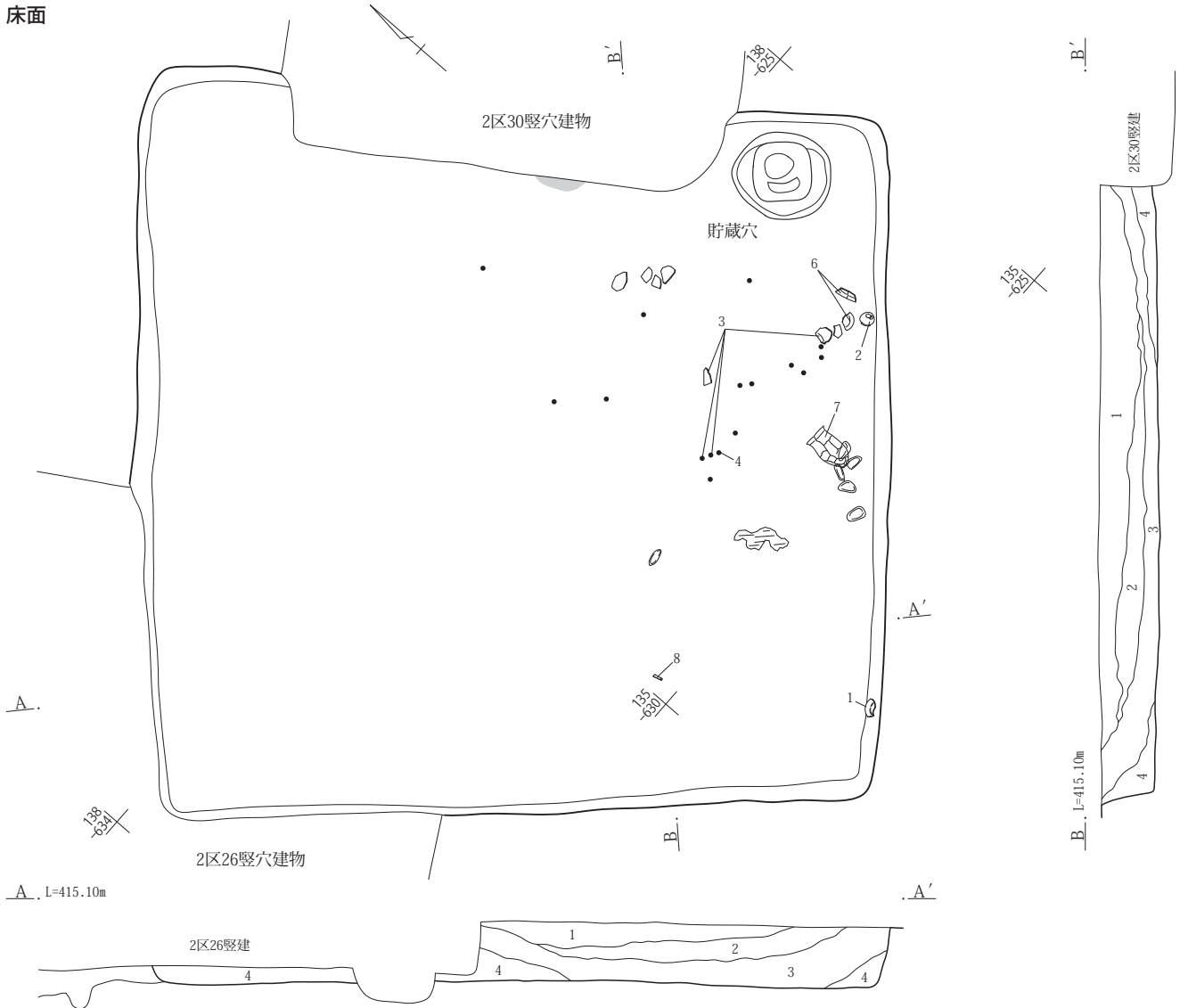
床面・壁：床面はローム層中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近がやや硬化する。壁高は12cm以上となるが、詳細は不明。

カマド：北東壁のほぼ中央に位置すると考えられ、カマドの主軸方位はN-43°-Eを向き、左袖およびカマド前を2区7号竪穴建物に壊されている。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長2.06m、幅(0.92)mを測る。袖は壁から60cmほど突き出るように残存するが、先端の袖石はない。燃烧部の底面は建物床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位そして緩く長く立ち上がる。特に、煙道部の内壁は被熱により焼土化が著しい。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置し、長軸0.60m、短軸0.43mの長方形を呈し、深さ64cmと深い。埋土は黒褐色土を埋土とする。

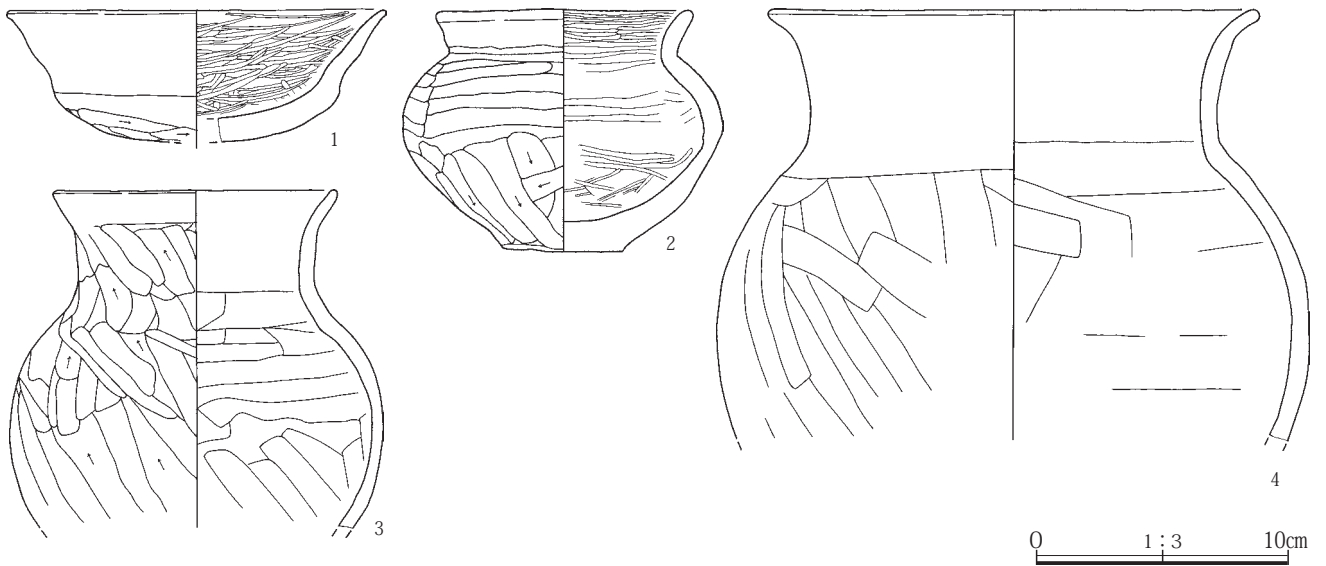
柱穴：支柱穴は4本と考えられるが、その内の2本P1・2を検出した。P2は2区7号竪穴建物P3の脇に重

床面

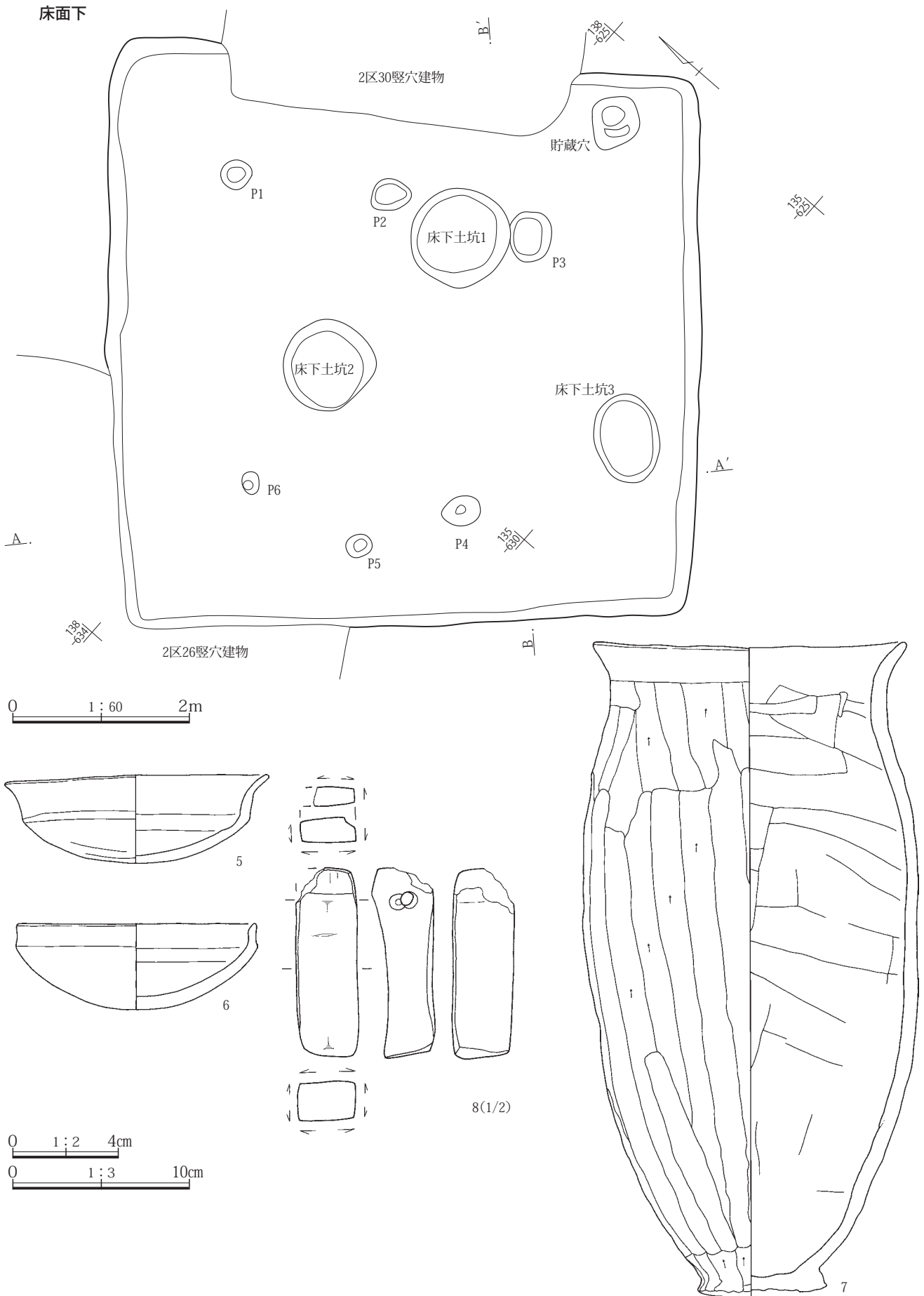


- 1 黒褐色土 黄色粒、炭化物を微量含む。
- 2 黒褐色土 黄色土ブロック、灰白色粘土小ブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土 黄色土粒、白色粒、炭化物を含む。
- 4 黒色土 混入物は少ない。黒く、粘質で強く締まる。

0 1:60 2m

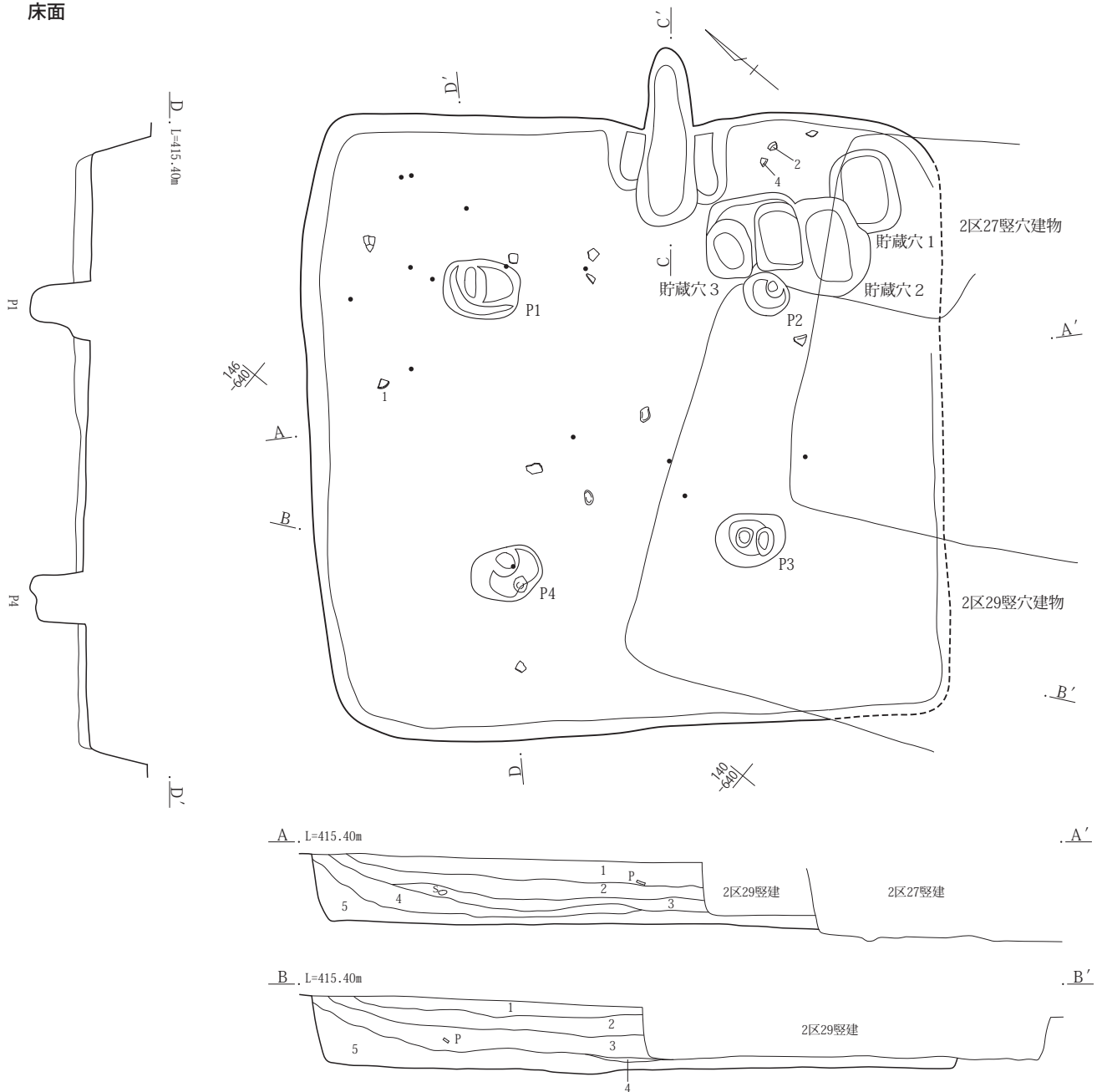


第153図 2区25号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物(1)



第154図 2区25号竪穴建物 床面下 平面図、出土遺物(2)

床面

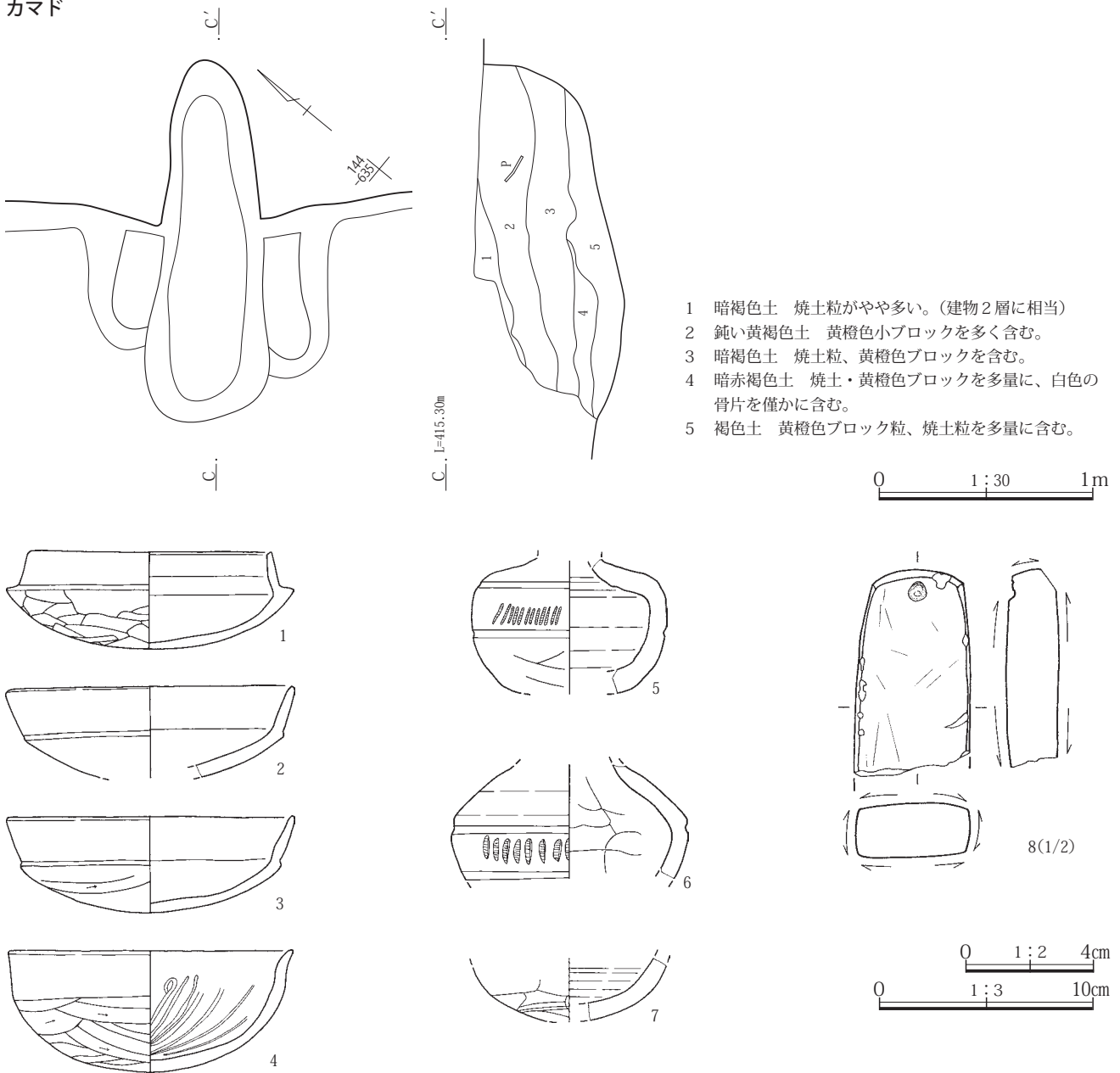


- 1 暗褐色土 白色粒と黄色粒を多量に、焼土粒、炭化物を微量含む。
- 2 暗褐色土 1層よりやや暗く、炭化物を多く含む。
- 3 黒褐色土 黄色粒・白色粒、黄橙色小ブロックを少量含む。
- 4 鈍い黄褐色土 黄橙色ブロックを多量、黄色粒・白色粒を少量含む。
- 5 黒色土 黄色粒を微量含む。やや粘質。

0 1:60 2m

第155図 2区28号竪穴建物 床面 平・断面図

カマド



- 1 暗褐色土 焼土粒がやや多い。(建物2層に相当)
- 2 鈍い黄褐色土 黄橙色小ブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒、黄橙色ブロックを含む。
- 4 暗赤褐色土 焼土・黄橙色ブロックを多量に、白色の骨片を僅かに含む。
- 5 褐色土 黄橙色ブロック粒、焼土粒を多量に含む。

第156図 2区28号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物

なる。支柱穴上面は楕円形で、P 1は長軸65cm、短軸50cm、深さ45cmを測る。埋土は黒褐色土である。
 床面下：床面下の調査をしたが、明瞭ではなかった。
 遺物：出土した遺物量は極めて少なく、全て埋土中からである。
 未掲載遺物に、土師器の甕の小片が僅かにある。
 所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀頃と考えられる。

2区32号竪穴建物

(第158～160図、第13・92表、PL.43・44・188)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区中央の西寄りに位置し、北側に2区41・42号竪穴建物、南側に2区50・105号竪穴建物、西側に2区25・30号竪穴建物が近接する。

グリッド：2 A・2 B-123～125

座標値：X=61,131～61,137 Y=93,614～93,620

形状：方形

規模：長軸5.10m 短軸4.93m 壁高55～64cm

長軸方向：N-46°-W 床面積：21.74㎡

埋没土：1・2層の黒褐色土を主とし、壁際の3層とに分層できる。この2層下位には大中の礫が多く、建物中央付近に集中することから、人為的堆積が考えられる。

床面・壁：床面はローム層中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近の広い範囲が硬化する。壁高は55～64cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北西壁中央のやや北寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-47°-Wを向き、煙道部天井が残存するなど状態は極めて良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長2.25m、幅0.91mを測る。袖は壁から65cmほど突き出るように残存し、両先端に袖石を確認した。両袖石は上端が僅かに内傾し、焚き口部の間口は40cmを測る。焚き口部天井石は不明。焚き口部から燃烧部の底面は建物床面よりやや低くなり、煙道部は燃烧部奥から緩やかに長く立ち上がる。また、燃烧部中央には支脚石が残存する。そして、燃烧部および煙道部周囲の内壁は被熱して著しく焼土化していた。

貯蔵穴：カマドの右側となる北隅に位置し、上面形は長方形を呈する。長軸0.85m、短軸0.75m、深さ68cmを測り、黒褐色土と黒色土を埋土とする。

柱穴：ピットは計7基検出したが、主柱と考えられるのはP1・4～6の4本である。主柱穴の上面は円形ないし楕円形で、長軸55～65cm、短軸50～55cm、深さ50～55cmを測り、黒褐色土を埋土とする。また、P7は南東壁中央付近に位置し、楕円形で長軸64cm、短軸50cm、深さ30cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

周溝：カマドおよびその両脇を除く各壁際を巡るが、部分的に途切れる箇所がある。幅15cm前後、深さ8cm前後を測り、黒褐色土を埋土とする。

床面下：掘り込みを確認した。主柱穴に囲まれた建物中央部を掘り残すように、その周囲を15～25cm前後の掘り込みが囲む。底面は凹凸となり、埋土は小礫を含むロームブロックを多く混在させた黒褐色土で、上面となる床面は硬化する。

遺物：出土した遺物量は少なく、その多くが埋土中からである。その中でも、10～14の白玉5点がまとまって

カマド内から出土し、8の小型甕や15・16の砥石が南東壁中央の壁際床面直上に出土している。なお、南東壁の両隅付近の壁際に、上面が平坦となるように扁平礫が床面直上に据えられていた。

出土遺物として、土器8点と石製品9点を図示した。1・2は土師器の杯。3は須恵器の杯蓋で、4～6は須恵器の杯。7は土師器の鉢で、内面にへら削りの後、部分的なへら磨きを施す。8は土師器の小型甕である。

石製品には9の紡輪、10～14の白玉、15・16の砥石、17の台石がある。9は蛇紋岩製の半欠品で、長さ(4.3)cm、幅(2.6)cm、厚さ1.3cm、孔径約7mmを測り、丁寧な研磨で光沢をもつ。白玉は全て滑石製で、10は灰白色をなし、径0.8cm、厚さ0.4cm、孔径約3mm、重さ0.38g。11は灰色をなし、径0.9cm、厚さ0.6cm、孔径約3mm、重さ0.82g。12は灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.5cm、孔径約2mm、重さ0.67g。13は灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.5cm、孔径約2mm、重さ0.45g。14は灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.4cm、孔径約3mm、重さ0.38gを測る。15・16の砥石は砥沢石製で、15は長さ(9.9)cm、幅3.5cm、厚さ4.5cm、砥面に線条痕が集中する。16は長さ(10.6)cm、幅4.7cm、厚さ9.2cm。17の台石は粗粒輝石安山岩製で、長さ(14.9)cm、幅(8.4)cm、厚さ7.5cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が多く、須恵器片が僅かにある。

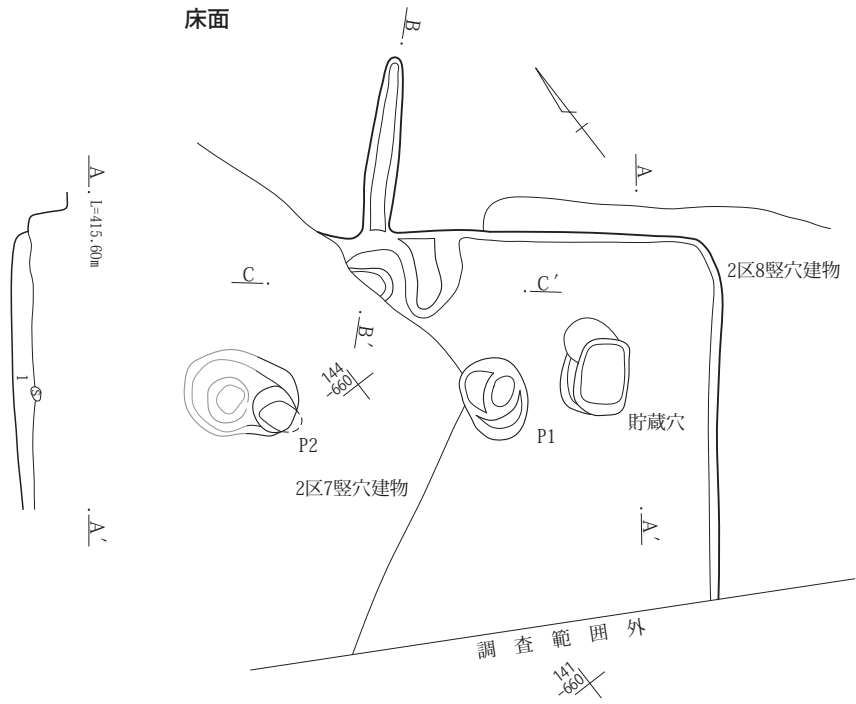
所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

2区35号竪穴建物

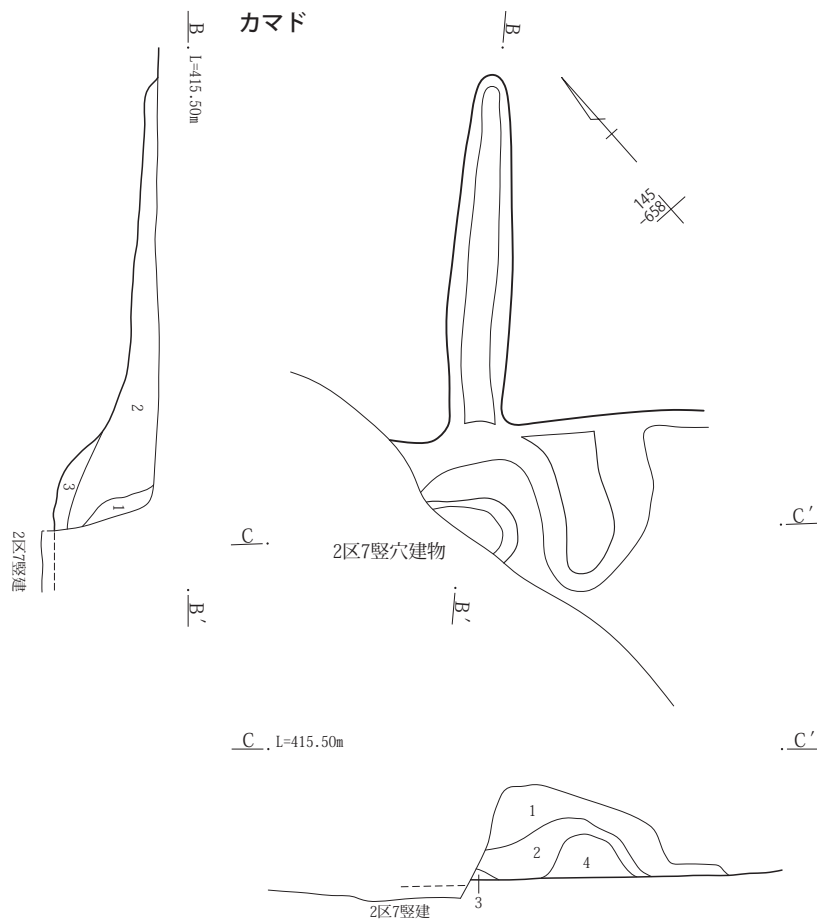
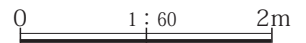
(第161図、第13・95表、PL.46・88・190)

平成28年度の調査で検出した。2区34・36・100号竪穴建物と重複する。2区34号竪穴建物の調査後、他の重複建物に先行して本建物の調査を行った。遺構確認が難しく、重複によるためかカマド等も不明である。

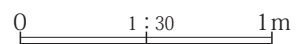
位置：2区西側の北壁寄りにあり、2区18・34～36・46～48・100・101号竪穴建物が絡む重複の著しい一角の中央付近に位置する。本建物の北東側に2区36号竪穴建物、南東側に2区34号竪穴建物、南西側に2区100号竪穴建物が重複する。また、北東側に2区101号竪穴建物、東側に2区37・48号竪穴建物、南西側に2区



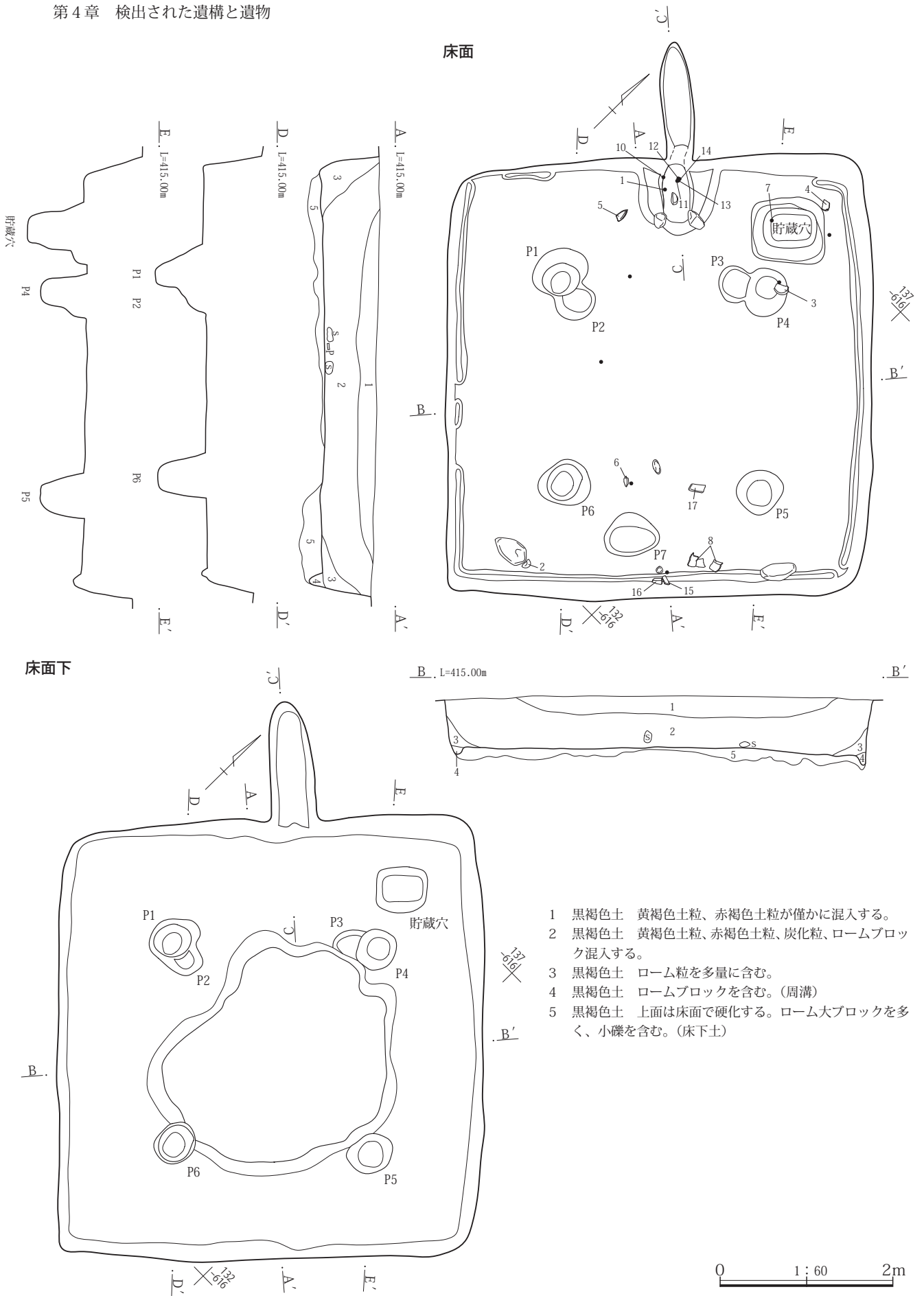
1 黒褐色土 2区8号竪穴建物2層よりやや暗く、炭化粒やロームブロックを少量含む



- 1 暗褐色土 白色鉱物粒、炭化物、焼土ブロックを少量含む。(建物3層に相当)
- 2 褐色土 焼土が多く混入する。
- 3 黒褐色土 僅かに灰が混入する。
- 4 黒褐色土 黄白色粘土ブロックを多く含む。硬く締る。(袖構築土)

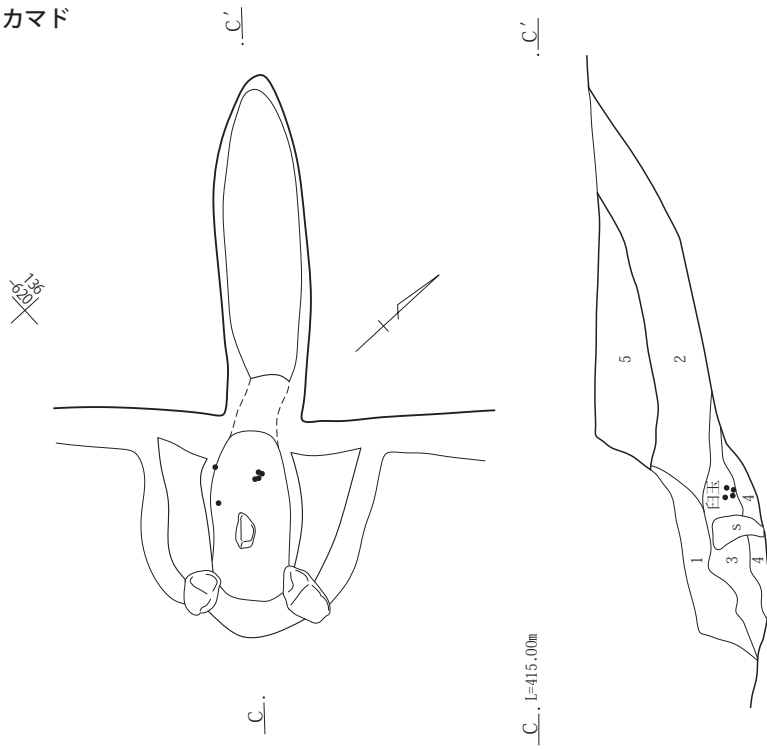


第157図 2区31号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



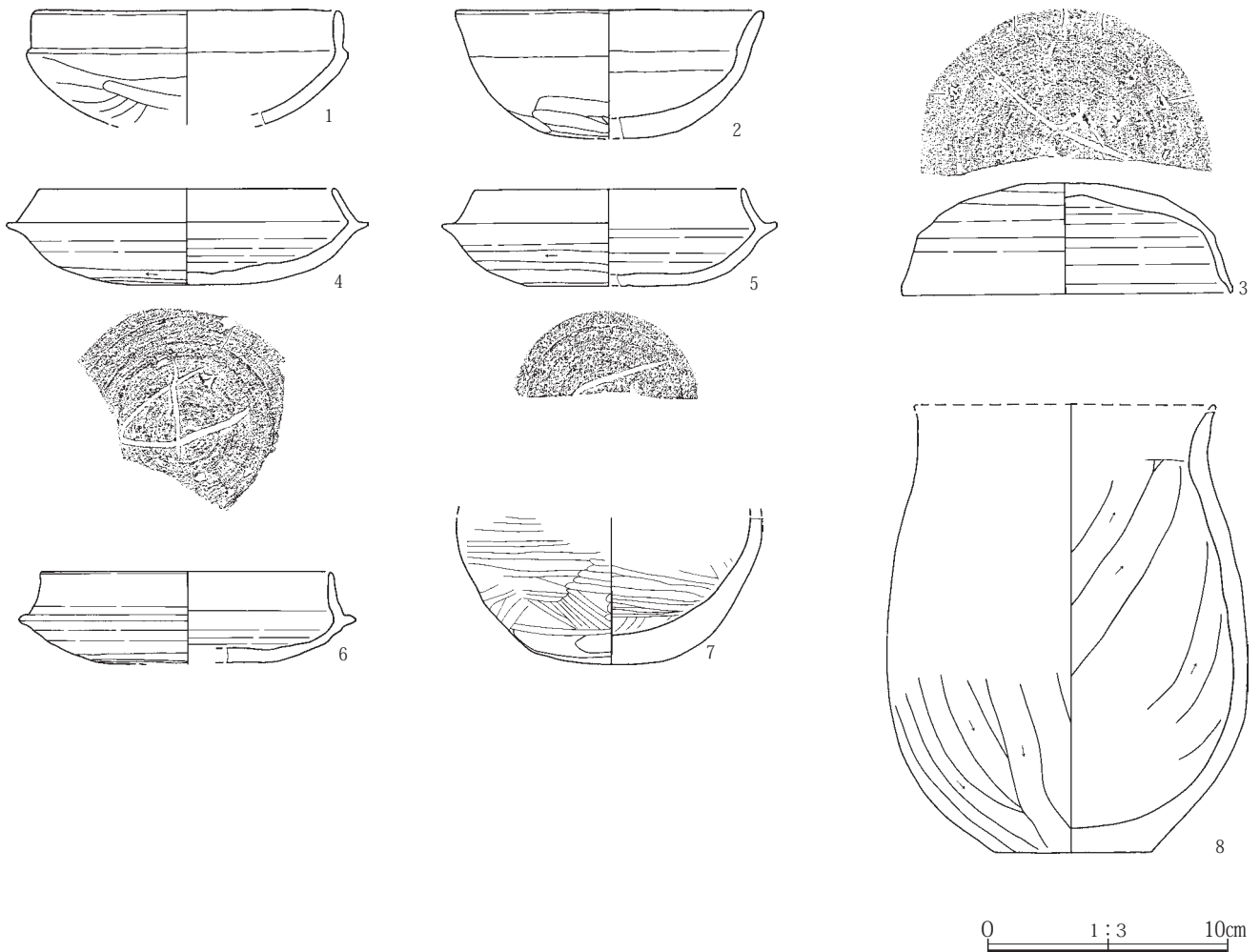
第158図 2区32号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図

カマド



- 1 黒色土 ローム粒、焼土ブロックを僅かに含む。(建物3層に相当)
- 2 黒褐色 焼土ブロックを混入する。(煙道内)
- 3 赤褐色土 焼土ブロックを主体に、白色粘性土を含む。
- 4 橙色土 白色粘土が焼土化する。
- 5 黒色土 2-A区南壁基本層序VI層であり、煙道の周囲は燃焼部側ほど被熱して焼土化が著しい。(煙道部天井)

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第159図 2区32号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物(1)

第4章 検出された遺構と遺物



第160図 2区32号竪穴建物 出土遺物(2)

18・46・47号竪穴建物、北西側に2区19・33号竪穴建物が近接する。

グリッド：2H・2I-131・132

座標値：X=61,167～61,174 Y=-93,650～93,656

重複：重複する2区34号竪穴建物とは、遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が明らかに古い。また、他に重複する2区36・100号竪穴建物より新しい。

形状：方形か

規模：長軸5.66m 短軸(4.16)m 壁高30～45cm

長軸方向：N-54°-E 床面積：推定21.39㎡

埋没土：1層の黒褐色土を主とし、壁際の2層の黒色土に分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、重複する34号建物の床面より高く、ほぼ平坦。壁高は30～45cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

遺物：出土した遺物量は極めて少なく、そのほとんどが埋土中からである。

出土遺物として、土器1点と石製品2点を図示した。1は土師器の杯。

石製品には2の白玉、3の磨石がある。2は滑石製で、灰白色をなし、径0.8cm、厚さ0.5cm、孔径約3mm、重さ0.5g。3は粗粒輝石安山岩製で、長さ13.0cm、幅7.3cm、厚さ4.6cmを測り、全面が磨面となる。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が僅かにある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀と考えられる。

2区36号竪穴建物

(第162・163図、第13・96表、PL.46・47・89・190)

平成28年度の調査で検出した。2区34・35・100・101号竪穴建物と重複する。2区34・35号竪穴建物の調査後、他に重複する100・101号建物に先行して本建物の調査を行った。

位置：2区西側の北壁寄りにあり、2区18・34・35・46～48・100・101号竪穴建物が絡む重複の著しい一角の北側に位置する。本建物の北東側に2区101号竪穴建物が重複し、南西側および南隅付近を2区34・35・100号竪穴建物が重複する。東側に2区37・66号竪穴建物、南側に2区48号竪穴建物、南西側に2区18・46

号竪穴建物、北西側に2区19・33号竪穴建物が近接する。

グリッド：2H・2I-130・131

座標値：X=61,168～61,176 Y=-93,647～93,654

重複：重複する各竪穴建物との新旧は、遺構確認および土層断面の観察から、2区34・35号竪穴建物より本建物の方が旧く、他の2区100・101号竪穴建物より新しい。

形状：方形

規模：長軸5.84m 短軸5.70m 壁高35～45cm

長軸方向：N-27°-W 床面積：推定31.57㎡

埋没土：1・2層の黒褐色土を主とし、壁際の3層の黒褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、重複する34号建物の床面よりは高く、35号建物の床面とほぼ同一面にある。ほぼ平坦であるが、カマド前から中央にかけてはロームブロックの混土で硬化が著しい。壁高は35～45cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-66°-Eを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ短く出張る。残存する規模は、全長1.45m、幅1.13mを測る。袖は壁から90cmほど突き出るように残存するが、先端に袖石はない。燃烧部の底面は建物床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。なお、袖は粘土粒を多量に含む暗褐色土を構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、P2に接するようにある。上面形は円形を呈し、径78cm、中央付近は深く70cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸60～76cm、短軸50～62cm、深さ58～69cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

周溝：カマドを除く各壁際を巡り、幅15cm前後、深さ6cm前後を測り、暗褐色土を埋土とする。

床面下：掘り込みを確認した。建物中央部がやや高く、周囲がやや低い20cm前後の掘り込みをもつ。底面には凹凸がみられ、埋土はロームブロックを多く含む暗褐色土で上面ほど硬く締まる。なお、この床面下の調査で、35号建物下に本建物の床面下の底面を確認した。

遺物：出土した遺物量は極めて少なく、床面直上からは

第4章 検出された遺構と遺物

1・2の杯が出土している。

出土遺物として、土器5点を図示した。1～4は土師器の杯で、3は内面に磨きを施す。5は土師器の高杯の脚部である。

未掲載遺物には、土師器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

2区37号竪穴建物(第164～168図、第13・97表、PL.47・48・190～192)

平成28年度の調査で検出した。2区39・66号竪穴建物と重複する。この内の2区39号竪穴建物との調査では、遺構確認および土層断面の判別が難しく、同時に調査を行った。その後に確認した出土遺物の時期から、新旧が明らかとなった。

位置：2区西側の北壁付近に位置し、北側に2区66号竪穴建物、東側に2区39号竪穴建物が僅かずつ重複する。また、東側に2区99号竪穴建物、南側に2区22・38号竪穴建物、西側に2区34～36・48・100・101号竪穴建物が近接する。

グリッド：2G～2I-128～130

座標値：X=61,163～61,171 Y=-93,639～93,647

重複：本建物の北隅に2区66号竪穴建物、東隅に2区39号竪穴建物が重複する。遺構確認および土層断面の観察、そして出土遺物の時期から、本建物の方が最も古い。

形状：方形

規模：長軸6.31m 短軸6.22m 壁高43～50cm

長軸方向：N-25°-W 床面積：推定35.54㎡

埋没土：黒褐色土を主に、1・2層に分層できる。床面直上および埋土中に大中の礫が多く、人為的堆積の可能性が強い。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近が硬化し、中央西寄りの床面には粘土が薄く広がっていた。また、カマド前から東隅にかけての床面上には、多くの炭化材が出土している。壁高は43～50cmを測り、直立ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁の中央やや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-77°-Eを向き、残存状態はやや良。燃

焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長1.75m、幅(0.78)mを測る。右袖は不明な点も多いが、袖は壁から65cmほど突き出る形で、両先端に袖石を確認した。この袖石に架かる天井石は分割して落ち込んではいないが、残存していた。袖石間となる焚き口部の間口は40cmを測る。焚き口部から燃焼部の底面は建物床面よりやや低くなり、煙道部は燃焼部奥から斜位に長く立ち上がる。また、燃焼部中央には支脚石が残存し、さらに燃焼部内壁と思われる礫もあることから石組み構造であった可能性もある。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、P2に接するようにある。上面形は長方形を呈し、長軸105cm、短軸90cm、深さ75cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

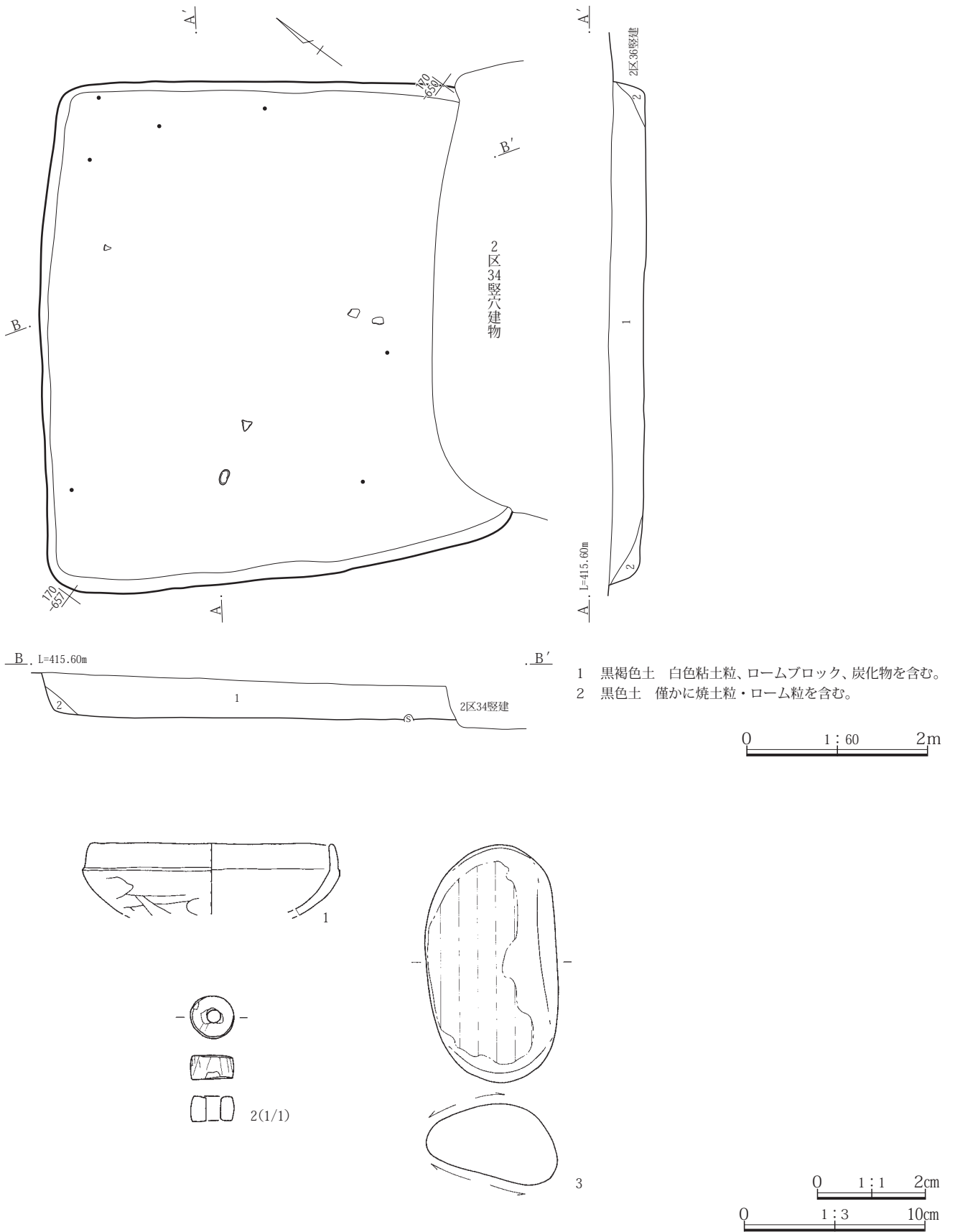
柱穴：支柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸70～83cm、短軸60～72cm、深さ80～98cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

周溝：カマドを除く各壁際を巡り、幅15cm前後、深さ8cm前後を測り、黒褐色土を埋土とする。

床面下：掘り込みを確認した。支柱穴に囲まれた建物中央部を高く、壁際に幅1.0m前後で20cm前後の掘り込みをもつ。底面には凹凸がみられ、埋土は黒褐色土で硬く締まる。また、床下土坑を2基検出した。床下土坑1は中央付近に位置し、円形に近い楕円形を呈する。長軸1.43m、短軸1.30m、深さ25cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑2は床下土坑1に接して北側に位置し、楕円形を呈する。長軸1.26m、短軸1.14m、深さ35cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

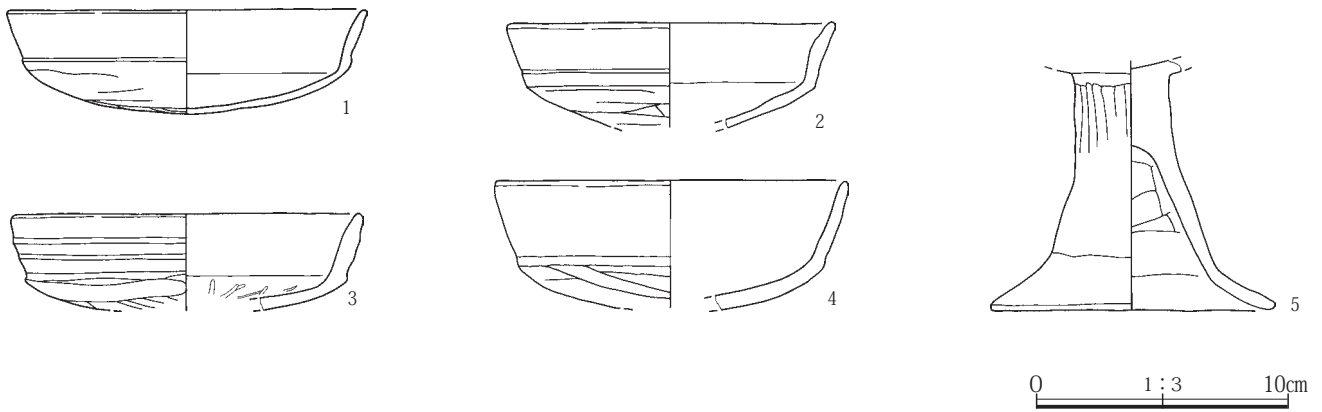
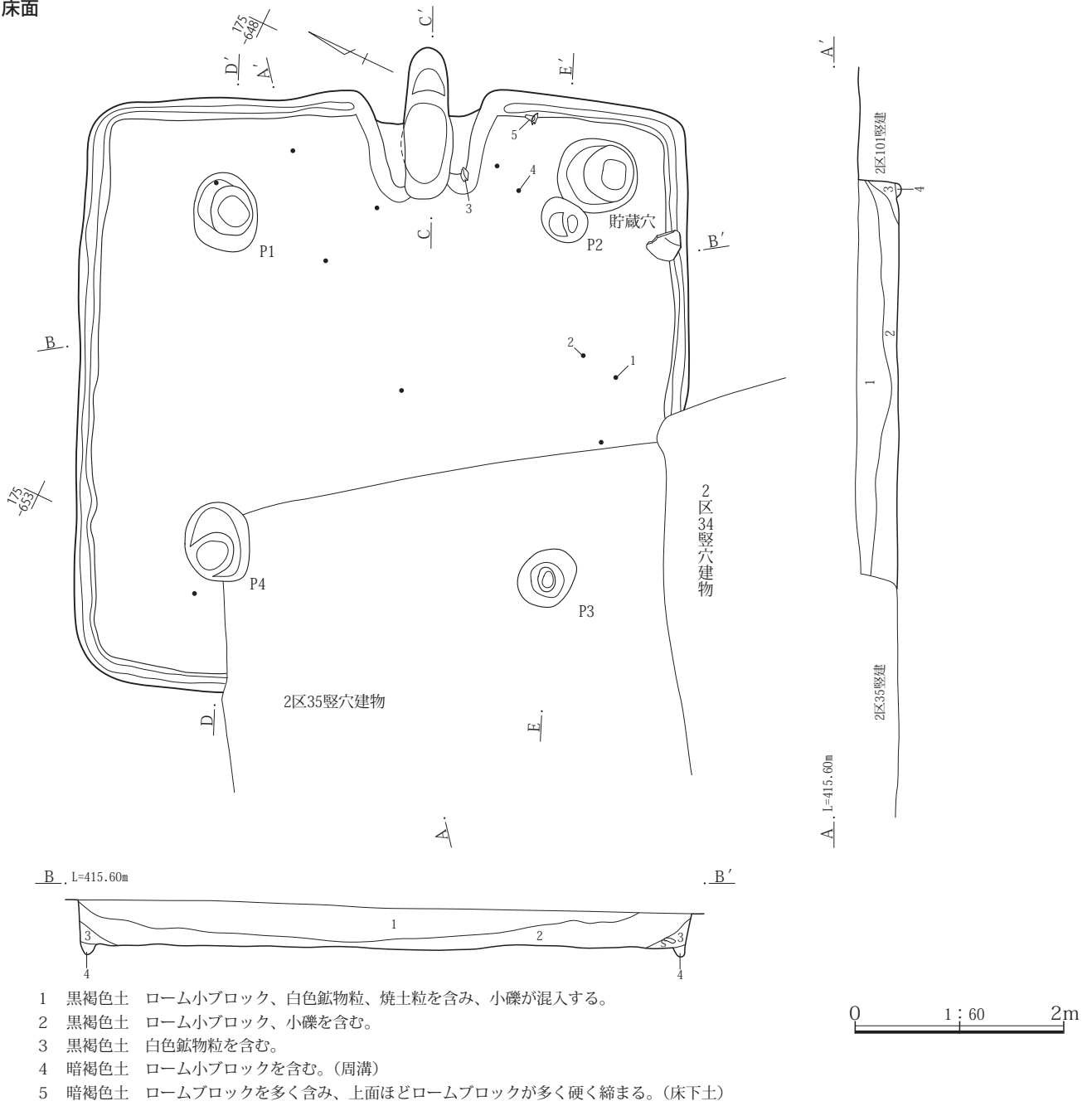
遺物：出土した遺物量は多い。カマド周辺での床面直上出土には、カマド右脇の壁寄りに13の高杯、21・22の小型甕があり、カマド前を主に南隅付近と接合した19の甕、カマド前からカマド左側に散乱した26の甕がある。また、南東壁際の床面やや上から12の杯、建物中央付近の床面直上には1の杯が出土している。なお、北隅付近から中央にかけて、埋土中に遺物と大小の礫が混在するように斜位に集中している状況があり、建物の廃絶後に外側からの投棄が想定される。

出土遺物として、土器29点と石製品3点を図示した。1～12は土師器の杯で、8は内面にヘラ磨き、10は内斜口縁で内面にヘラ磨きを施す。13・14は土師器の高



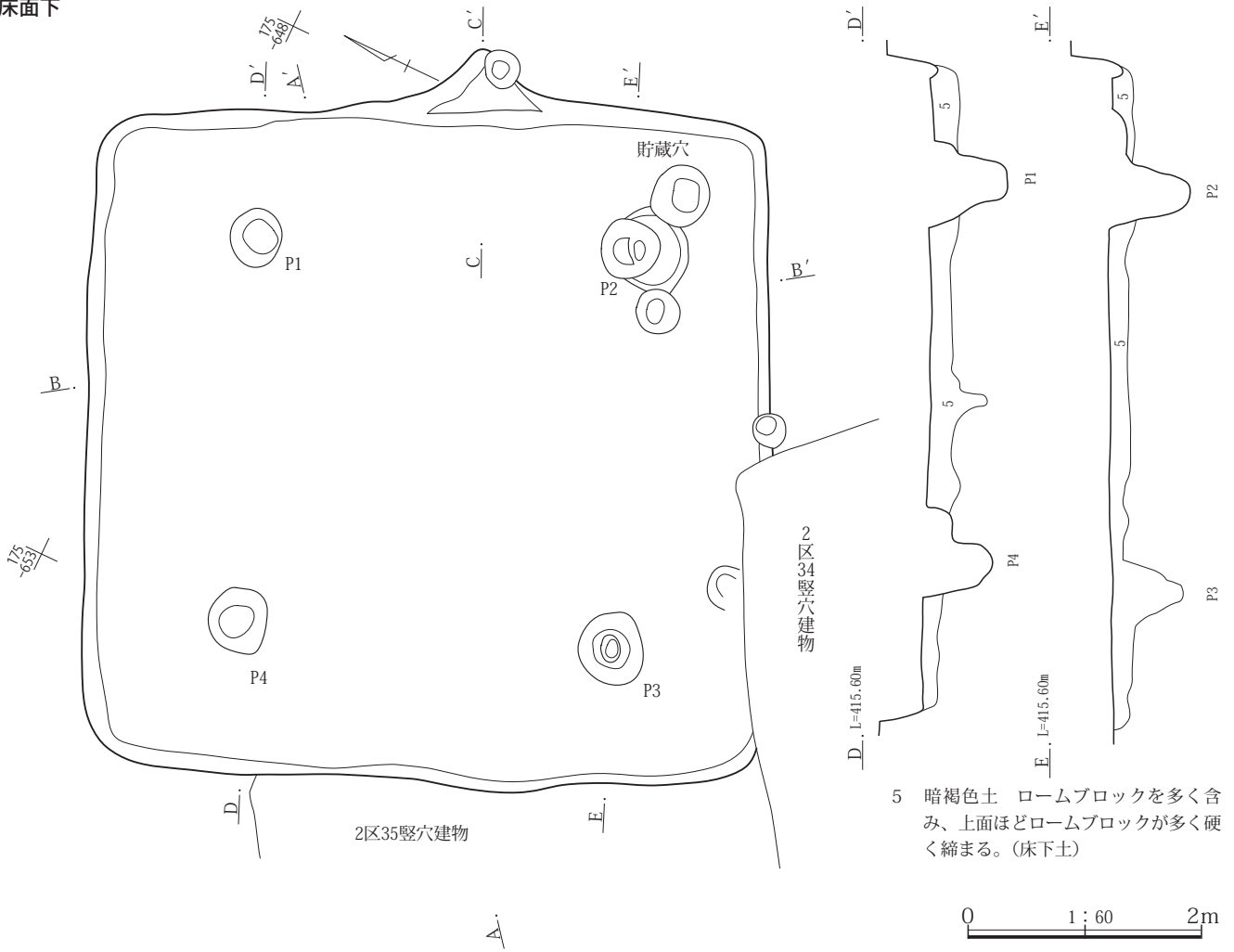
第161図 2区35号竖穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

床面



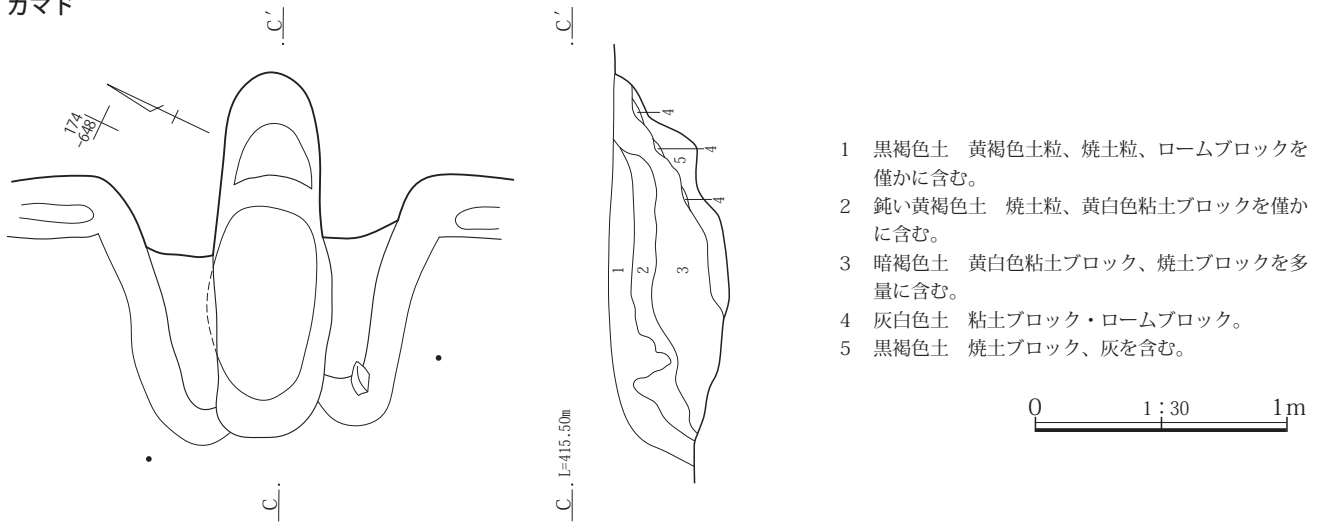
第162図 2区36号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

床面下



5 暗褐色土 ロームブロックを多く含み、上面ほどロームブロックが多く硬く締まる。(床下土)

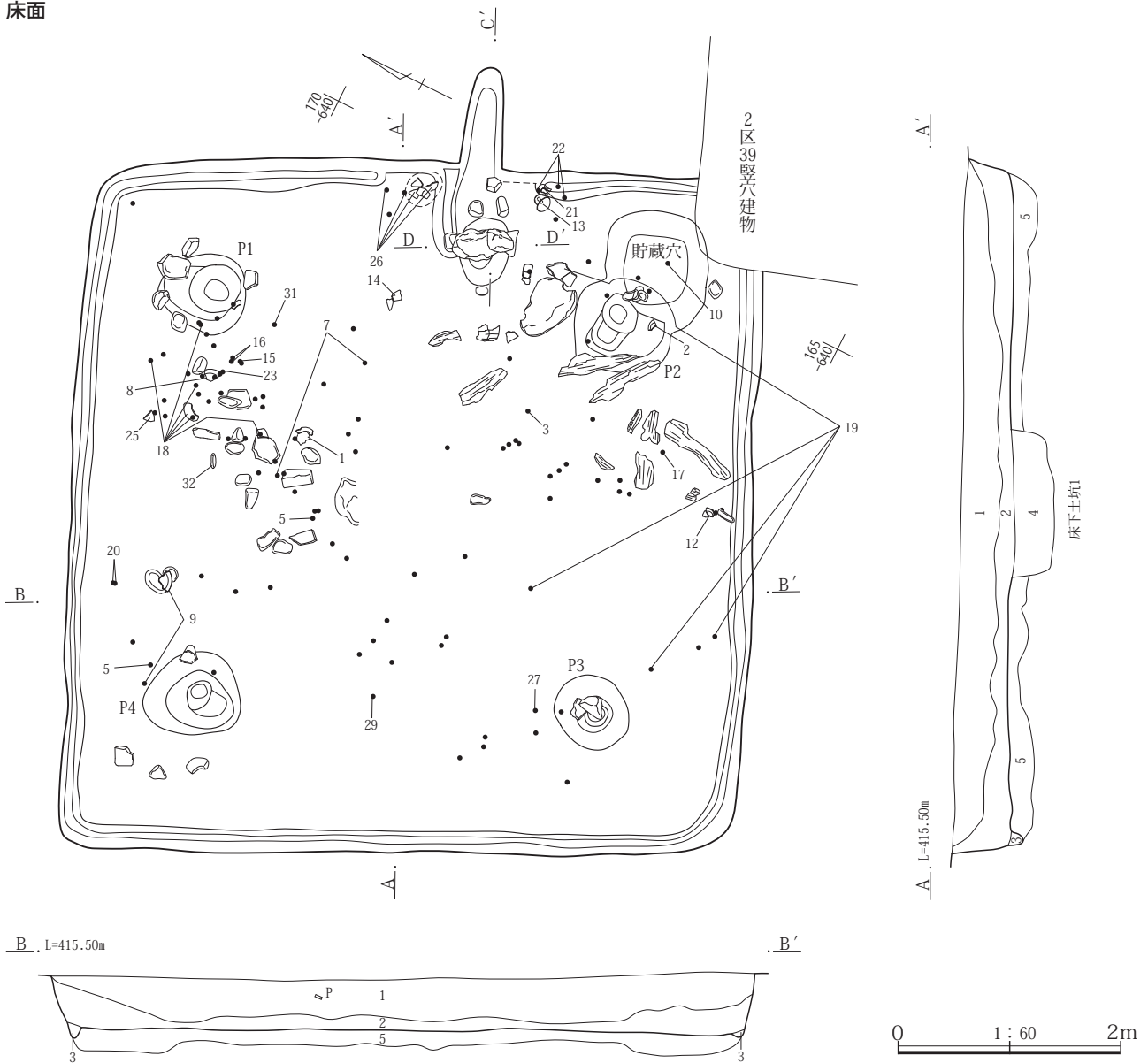
カマド



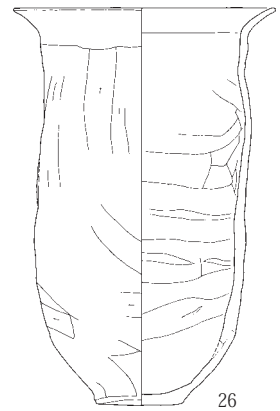
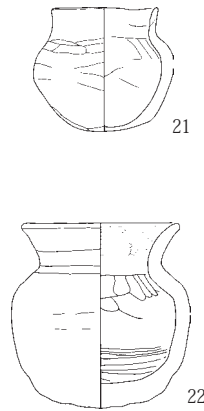
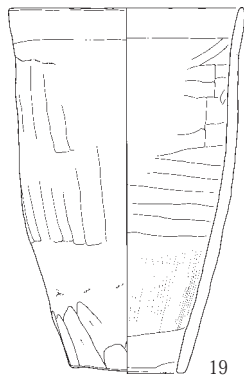
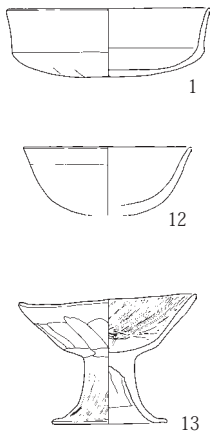
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒、焼土粒、ロームブロックを僅かに含む。
- 2 鈍い黄褐色土 焼土粒、黄白色粘土ブロックを僅かに含む。
- 3 暗褐色土 黄白色粘土ブロック、焼土ブロックを多量に含む。
- 4 灰白色土 粘土ブロック・ロームブロック。
- 5 黒褐色土 焼土ブロック、灰を含む。

第163図 2区36号竪穴建物 床面下、カマド 平・断面図

床面

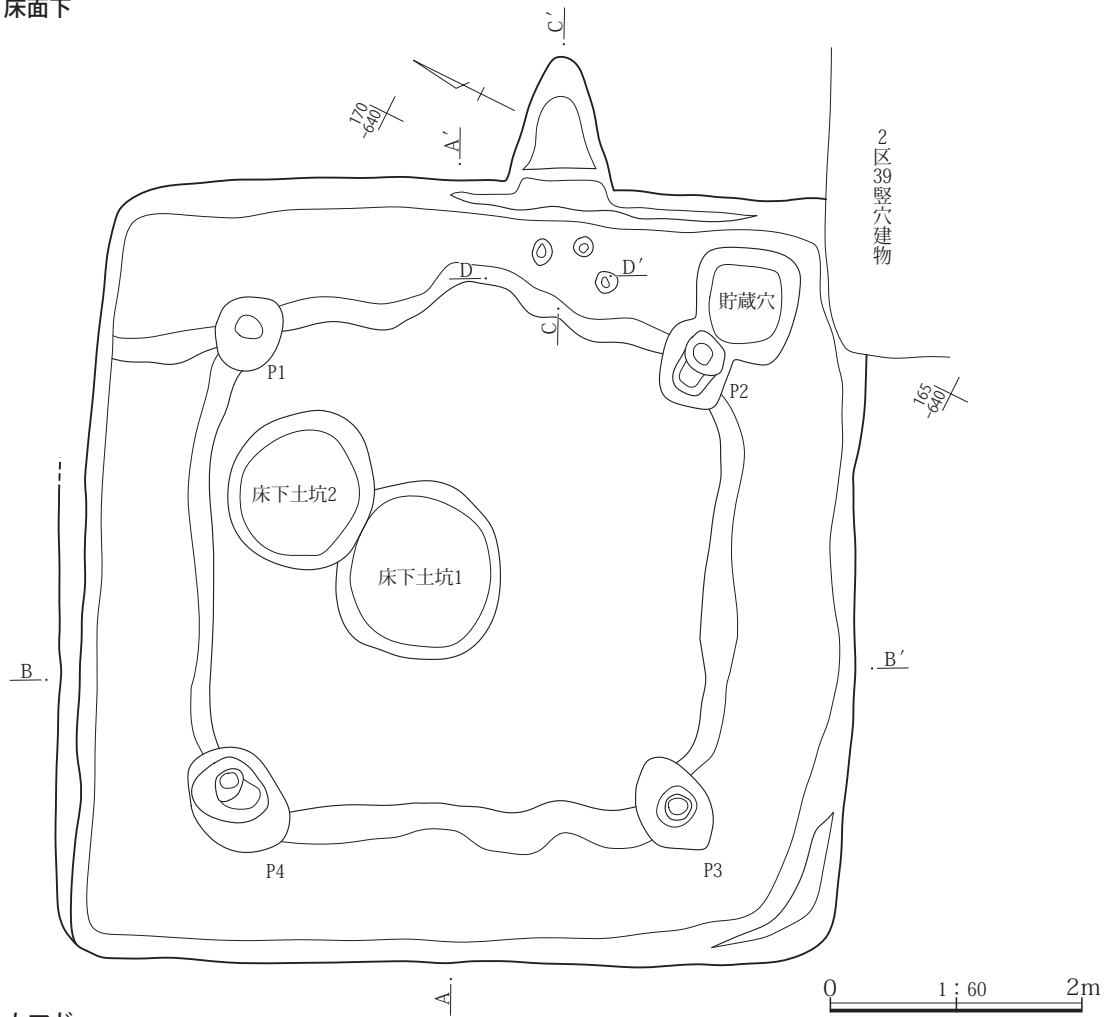


- 1 黒褐色土 白色粒を多量、焼土粒、炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 1層と比べて白色粒を含まない。
- 3 黒褐色土 ローム粒多く含む。(周溝)
- 4 黒褐色土 ローム粒・ブロックが多く、焼土粒と礫を少量含む。(床下土坑1)
- 5 黒褐色土 ローム粒、焼土粒を多く含む。(床下土)

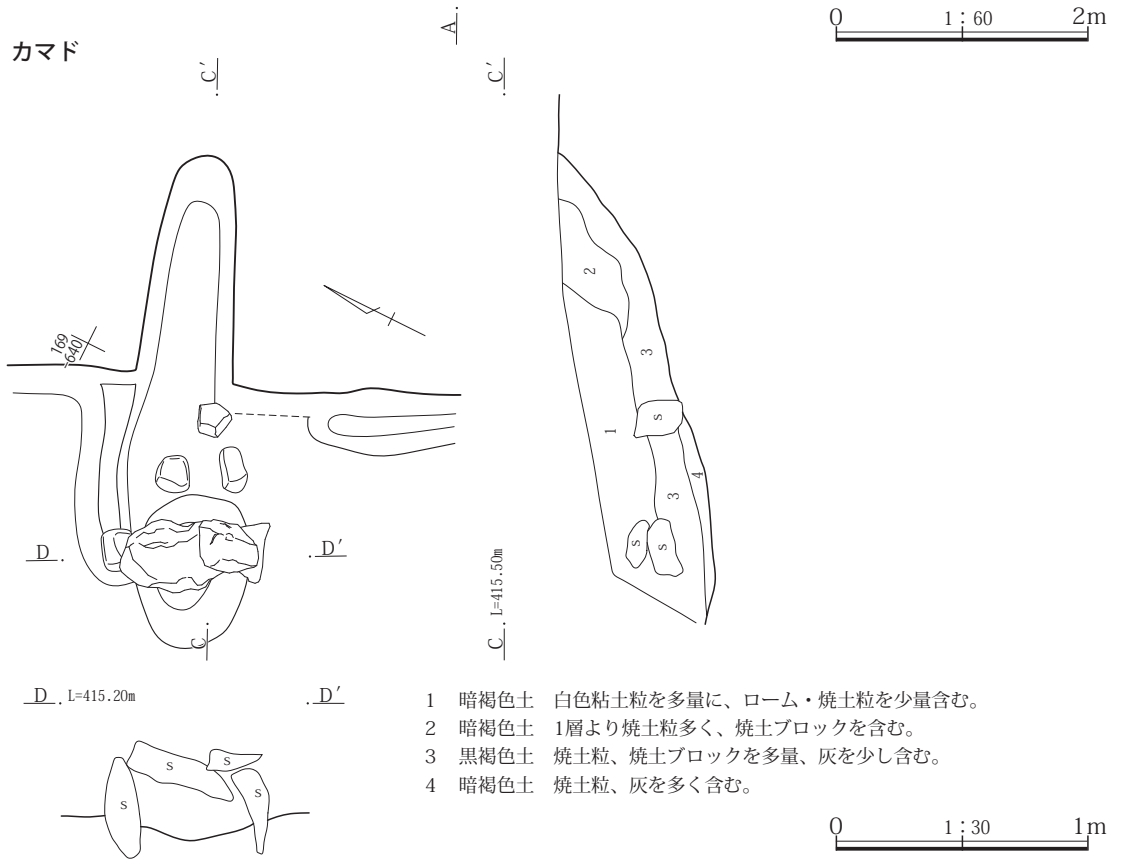


第164図 2区37号竪穴建物 床面 平・断面図

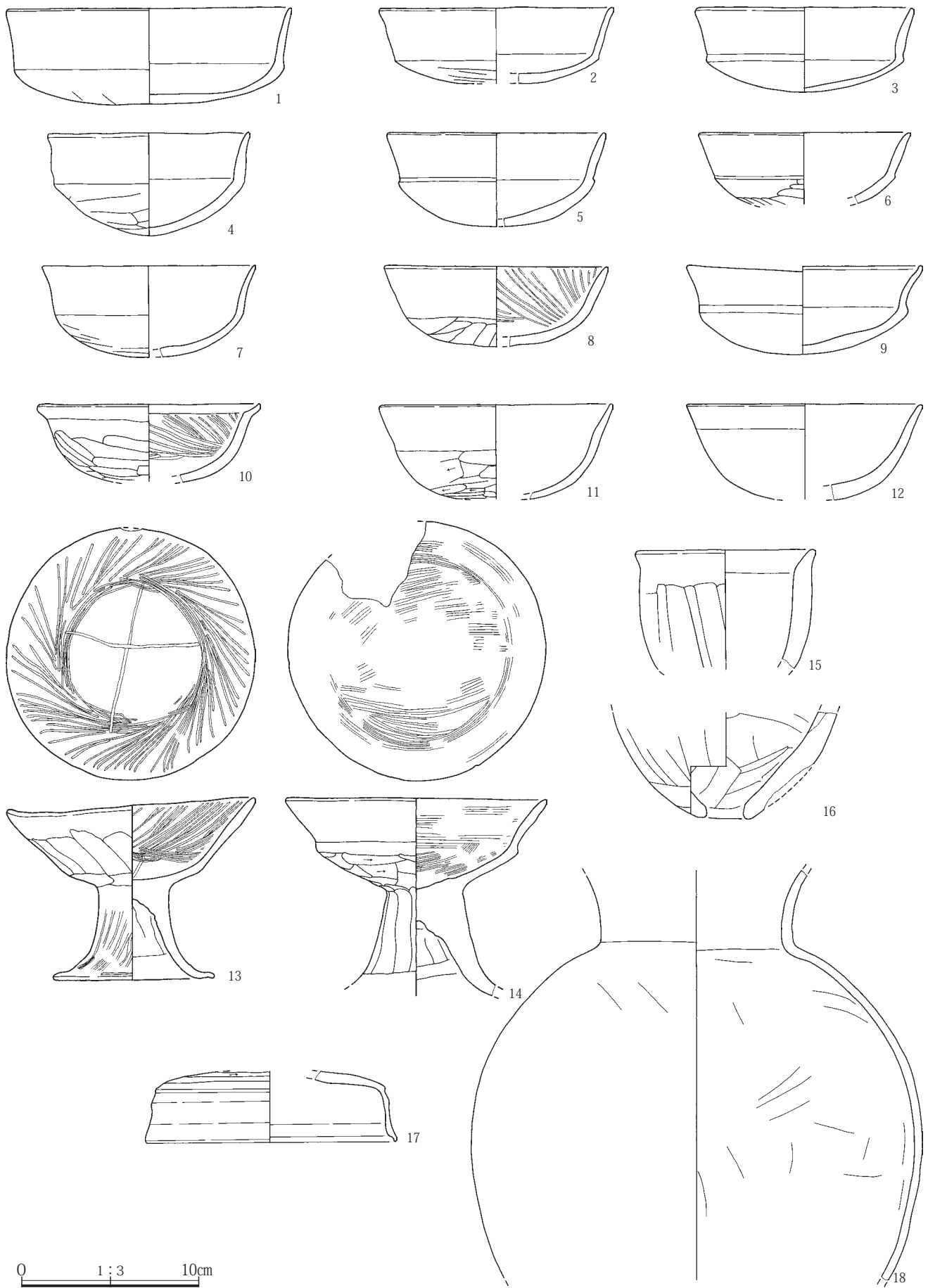
床面下



カマド



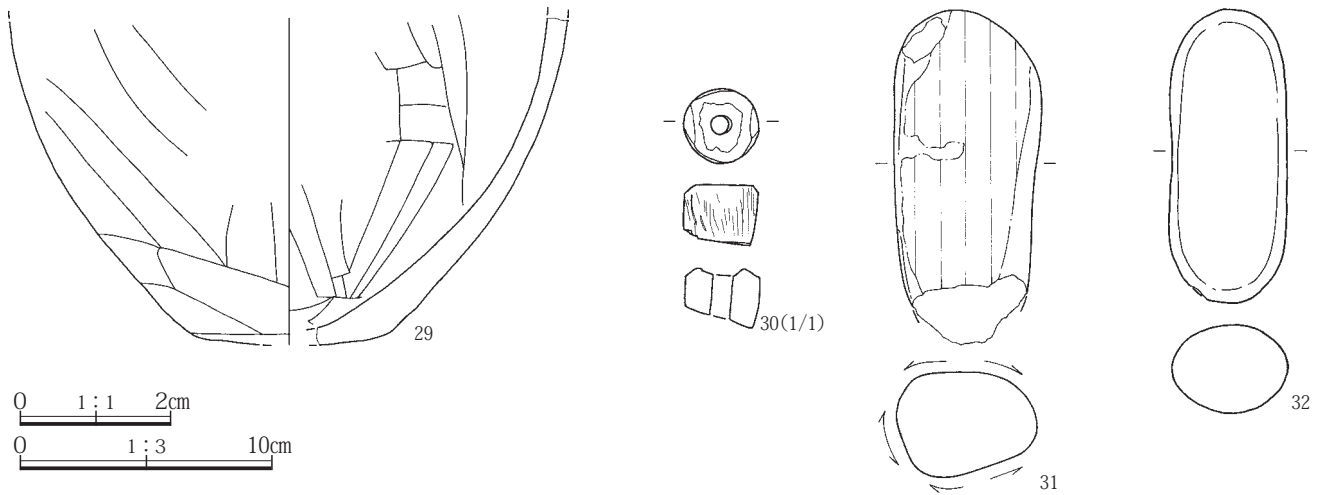
第165図 2区37号竪穴建物 床面下、カマド 平・断面図



第166図 2区37号竪穴建物 出土遺物(1)



第167図 2区37号竪穴建物 出土遺物(2)



第168図 2区37号竪穴建物 出土遺物(3)

杯で、13の内面にはヘラ磨きが施される。15は土師器の鉢で、16は有孔鉢。17は須恵器の杯蓋。18は土師器の壺で、19・20は土師器の甑である。そして、21～24は土師器の小型甕で、25～29は土師器の甕である。

石製品には30の白玉、31の磨石、32の棒状礫がある。30は滑石製で灰白色をなし、径1.0cm、厚さ0.8cm、孔径2mm、重さ1.20gを測り、側面に擦痕が残る。31はほぼ全面に磨面をもち、粗粒輝石安山岩製で、長さ(13.2)cm、幅5.9cm。32も粗粒輝石安山岩製で、長さ11.6cm、幅4.7cmを測り、薦網石か。

未掲載遺物には、土師器がかなり多量にあり、須恵器片が僅かにある。

所見・時期：出土した炭化材の状況から、焼失家屋の可能性はある。建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区40(A～C)号竪穴建物(第169～175図、第13・100表、PL.50・51・196・197)

平成28年度の調査で検出した。床面下の調査で拡張を伴う竪穴建物であることが判明し、最も新しい40A竪穴建物、次いで40B竪穴建物、最も古い40C竪穴建物として記述する。

位置：2区西側の東寄りに位置し、北西側から北東側にかけて2区67～69・70・71号竪穴建物、南東側に2区41・42号竪穴建物、南側に2区30号竪穴建物が近接する。

グリッド：2D・2F-124～126

座標値：X=61,146～61,154 Y=-93,618～93,626

40A竪穴建物形状：方形

40A竪穴建物規模：長軸6.89m 短軸6.68m

壁高53～62cm

40A竪穴建物長軸方向：N-60°-W

40A竪穴建物床面積：40.42㎡

40A竪穴建物埋没土：1層の黒褐色土、2・3層の暗褐色土を主に、壁際の4層とに分層できる。床面直上ないしやや上に、大中の礫が多く出土していることから、人為的堆積と考えられる。

40A竪穴建物床面・壁：床面はローム層中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近の広い範囲がやや硬化済み。壁高は53～62cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

40A竪穴建物カマド：北東壁の中央やや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-27°-Eを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側に長く突出する。カマドの規模は、全長1.98m、幅1.20mを測る。袖は壁から70cmほど突き出し、両袖の先端部に袖石が残存する。また、この袖石間には大型の平石が2石出土しており、天井石と考えられるが原位置かは不明。焚口部から燃烧部の底面にかけては床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から緩やかに長く立ち上がる。燃烧部の内壁は被熱により焼土化し、燃烧部の両内壁には1石残存していることから、部分的な石組み構造であったことが判る。因みに、袖石および燃烧部の内壁石の上端はやや内傾し、焚き口の間口は40cm、燃烧部の幅は55cmを測る。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面を構築後に袖石や側壁石を据えながら7層の暗褐色土を構築土としてカマドを構築している。

40A 竪穴建物貯蔵穴：接し合う3基の貯蔵穴を検出したが、本建物に伴うのは貯蔵穴1で、カマドの右側となる東隅に位置する。上面形は長方形を呈し、長軸(90)cm、短軸70cm、深さ68cmを測り、黒褐色土を埋土として中型礫を含む。

40A 竪穴建物柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸51～78cm、短軸48～68cm、深さ62～76cmを測る。埋土は黒褐色土や褐色土、黄褐色土である。なお、柱間は3.4m×3.55mを測る。

40A 竪穴建物周溝：カマドおよびその両脇を除く各壁際を巡る。幅15～20cm、深さ14cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

40A 竪穴建物床面下：床面下を調査した結果、壁際付近で深さ10～15cm前後、壁際から40～50cm前後内側に方形状に深さ20cm前後の掘り込みを確認した。これらの底面は凹凸が著しく、特に壁際に工具痕のような凹凸も見受けられる。また、方形状に一段低い北東辺中央付近には焼土粒を含む突出箇所を確認したことから、拡張前の建物のカマドの痕跡(カマド2)であることを想定した。併せて、主柱穴としてのP1～4の他に、P5～8、P9～12の存在、さらに貯蔵穴1～3の存在から、2回の拡張を伴う計3期の竪穴建物であるものと判断した。なお、床面下の底面において床下土坑を4基検出したが、どの段階に伴うかは不明。床下土坑1は建物中央のやや東に位置し、楕円形を呈する。長軸1.04m、短軸0.84m、深さ31cmを測る。床下土坑2は建物のほぼ中央に位置し、楕円形で長軸1.53m、短軸1.30m、深さ20cmを測る。床下土坑3は建物中央のやや西に位置し、楕円形で長軸1.36m、短軸1.14m、深さ23cmを測る。床下土坑4は南東壁際に位置し、楕円形で長軸0.78m、短軸0.65mを測り、深さ8cmと浅い。これら床下土坑の埋土は黒褐色土ないし暗褐色土である。

遺物：出土した遺物量はかなり多いが、その多くは埋土中からである。その中であって、カマド前付近の床面直上に15・20の杯、中央付近の床面直上に29の壺の胴

部片が散在して出土している。また、埋土中の遺物も中央から西方向に礫と共に集中する。

出土遺物として、土器33点と石製品4点、鍛冶関連遺物1点を図示した。1～24は土師器の杯で、7・10～21の内面には横位ないし斜位のヘラ磨きが施されている。25は土師器の小型鉢で、26・27は土師器の高杯。28は須恵器壺で、29は土師器の壺の胴部である。30は土師器の小型甕で、31～33は甕である。

石製品には34の白玉と、36の砥石、35・37の台石がある。34は滑石製で灰色をなし、径0.7cm、厚さ0.3cm、孔径3mm、重さ0.11gを測る半欠品で、側面に擦痕が認められる。36は砥沢石で、長さ(5.4)cm、幅4.1cm、厚さ1.7cm、孔径4mmを測り、表裏面と左側面が砥面となる。35・37は粗粒輝石安山岩製で、35の裏面上部には細い線条痕が集中し、37の表裏面には滑らかな部分が認められる。

鍛冶関連遺物の38は中型の薄い椀形鍛冶滓である。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器片が僅かにある。

40B 竪穴建物形状：方形か。なお、痕跡を示すのは貯蔵穴と主柱穴のみであり、他の詳細は不明。

40B 竪穴建物床面・壁：床面は残存せず、不明。壁については、主柱穴のあり方から南東壁は40A・C竪穴建物と共有していたと考えられる。

40B 竪穴建物貯蔵穴：接し合う貯蔵穴1・2に南東半を壊されるが、貯蔵穴3が本建物に伴う。カマドの右側と思われるがカマドは不明。上面形は楕円形を呈するものと考えられ、長軸(75)cm、短軸(45)cm、深さ35cmを測り、黒色土を埋土とする。

40B 竪穴建物柱穴：主柱穴と考えられるP5～8を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸36～58cm、短軸35～55cm、深さ55～70cmを測る。埋土は黒褐色土である。なお、柱間は3.4m×3.4mを測り、40A竪穴建物の柱間とほぼ同規模。また、40C竪穴建物の主柱穴であるP9～P12より僅かずつ対角の外側に位置するが、P3・7・11は同様な位置にある。

40C 竪穴建物形状：方形。なお、40A竪穴建物の床面下の調査で確認された方形状の僅かに一段低い部分が本建物の痕跡であり、貯蔵穴や主柱穴等が確認されている。他の詳細は不明。

40C 竪穴建物規模：長軸(6.03)m 短軸(5.35)m

40C 竪穴建物床面・壁：床面は残存せず、不明。壁については、支柱穴のあり方から南東壁は40A・B 竪穴建物と共有していたと考えられ、他の壁は40A 竪穴建物より内側となる。

40C 竪穴建物カマド：方形状に一段低い北東辺中央付近に位置するカマド2の痕跡は、壁の外側に突出する焼土粒を含む箇所が確認されているが、詳細は不明。

40C 竪穴建物貯蔵穴：接し合う3基の貯蔵穴のうち、本建物に伴うのは貯蔵穴2で、カマド2の右側に位置する。上面形は楕円形を呈し、長軸(88)cm、短軸(72)cm、深さ68cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

40C 竪穴建物柱穴：支柱穴と考えられるP9～12を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸35～45cm、短軸32～36cm、深さ52～61cmを測り、埋土は黒褐色土である。なお、柱間は2.75m×2.75mを測り、40A・B 竪穴建物の柱間よりも一回り小さく、最も内側に位置する。しかし、40A 竪穴建物のP3、40B 竪穴建物のP7、本建物のP11は同様な位置にある。

所見・時期：拡張を伴う竪穴建物で、支柱穴や貯蔵穴の配置等から、40C 竪穴建物が北東壁にカマドをもつ最も小さく古い竪穴建物であり、その後の40B 竪穴建物の段階で南東壁をそのままに拡張を行い、最終的な拡張段階である40A 竪穴建物でも南東壁を共有し廃絶したのと考えられる。建物の時期は、出土土器から5世紀末から6世紀初頭か。

2区41号竪穴建物

(第176～179図、第13・101表、PL.51・198)

平成28年度の調査で検出した。2区42号竪穴建物と重複する。

位置：2区中央の西寄りに位置し、大きく2区42号竪穴建物と重複する。また、東側に2区43・44号竪穴建物、南側に2区32号竪穴建物、南西側に2区30号竪穴建物、北西側に2区40号竪穴建物が近接する。

グリッド：2C・2D-123～125

座標値：X=61,141～61,148 Y=-93,612～93,620

重複：本建物の南側の大半を2区42号竪穴建物と重複する。遺構確認および土層断面の観察から、新旧は本建物の方が古い。

形状：方形

規模：長軸6.00m 短軸5.86m 壁高46～55cm

長軸方向：N-71°-E 床面積：推定32.82㎡

埋没土：1層の暗褐色土と2層の黒褐色土を主に、壁際に3層の黒褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、床面の位置は重複する2区42号竪穴建物の床面より若干低い。床面の状態の詳細は不明。壁高は46～55cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

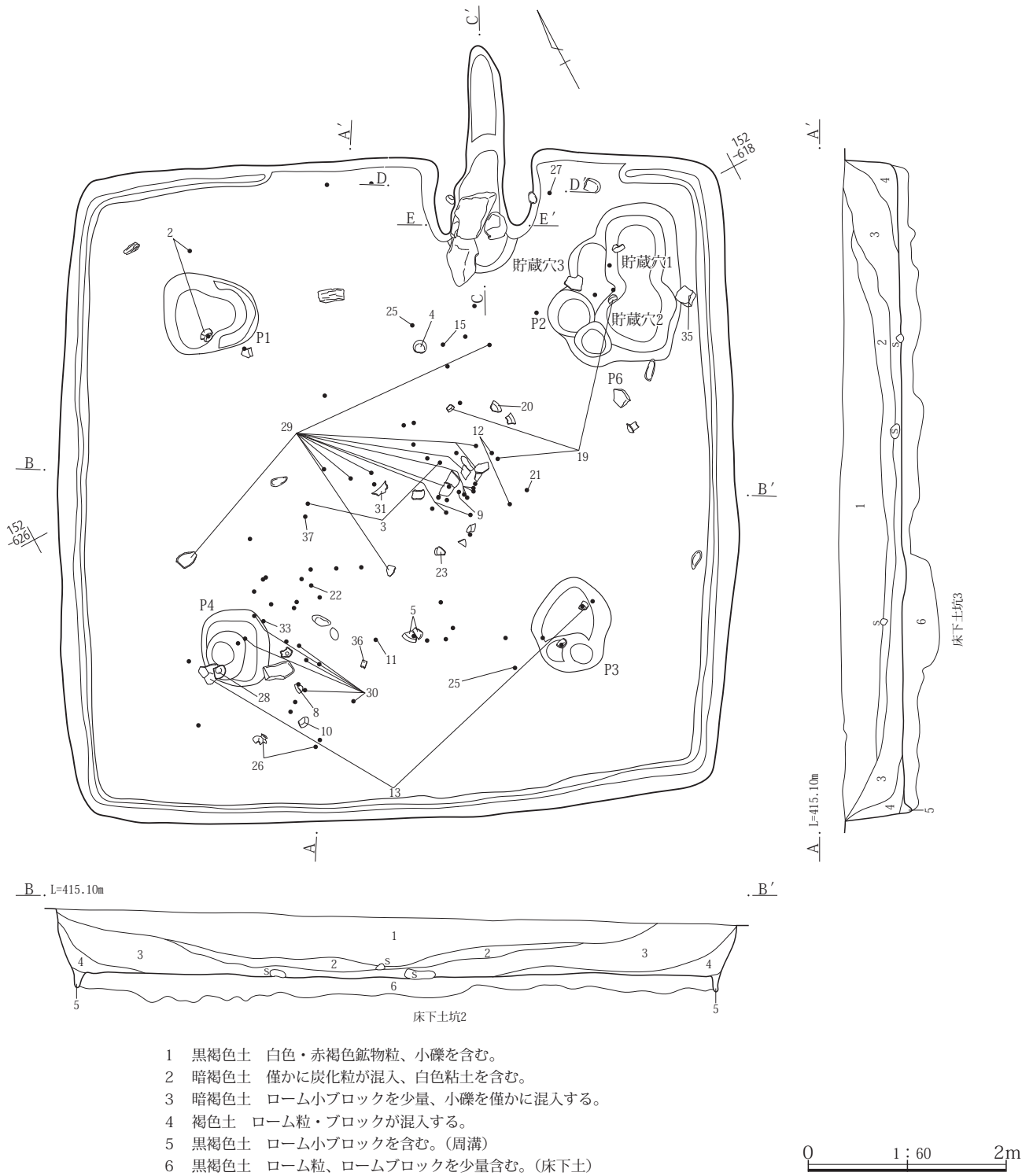
カマド：2基のカマドを確認した。カマド1は本建物の廃絶時に伴う最も新しいカマドで、北西壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-22°-Wを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へかなり長く突出する。残存する規模は、全長2.25m、幅1.07mを測る。袖は壁から70cmほど突き出るように残存し、先端に袖石は確認されていない。焚き口部から燃烧部の底面にかけては建物床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に長く立ち上がる。また、煙道部内壁は、被熱して焼土化していた。なお、燃烧部奥には煙道口を塞ぐように平石が立つようあり、その奥となる煙道部埋土の4層は天井の崩落土と考えられることから、この煙道口を閉塞する石はカマドの廃棄行為の可能性をもつ。

カマド2はカマド1に先行するカマドで、北東壁中央のやや東寄りに位置する。カマドの主軸方位はN-75°-Eを向き、残存するのは煙道部のみ。燃烧部の痕跡は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長2.05m、幅(0.59)mを測り、煙道部は緩く斜めに長く立ち上がる。

貯蔵穴：カマド1に伴う貯蔵穴1、カマド2に伴う貯蔵穴2の2基を検出した。貯蔵穴1はカマド1の左側脇に位置し、上面形は楕円形を呈する。長軸74cm、短軸60cm、深さ70cmを測り、黒褐色土を埋土とする。貯蔵穴2はカマド2の右側となる東隅に位置し、上面形は楕円形を呈する。長軸103cm、短軸73cm、深さ64cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

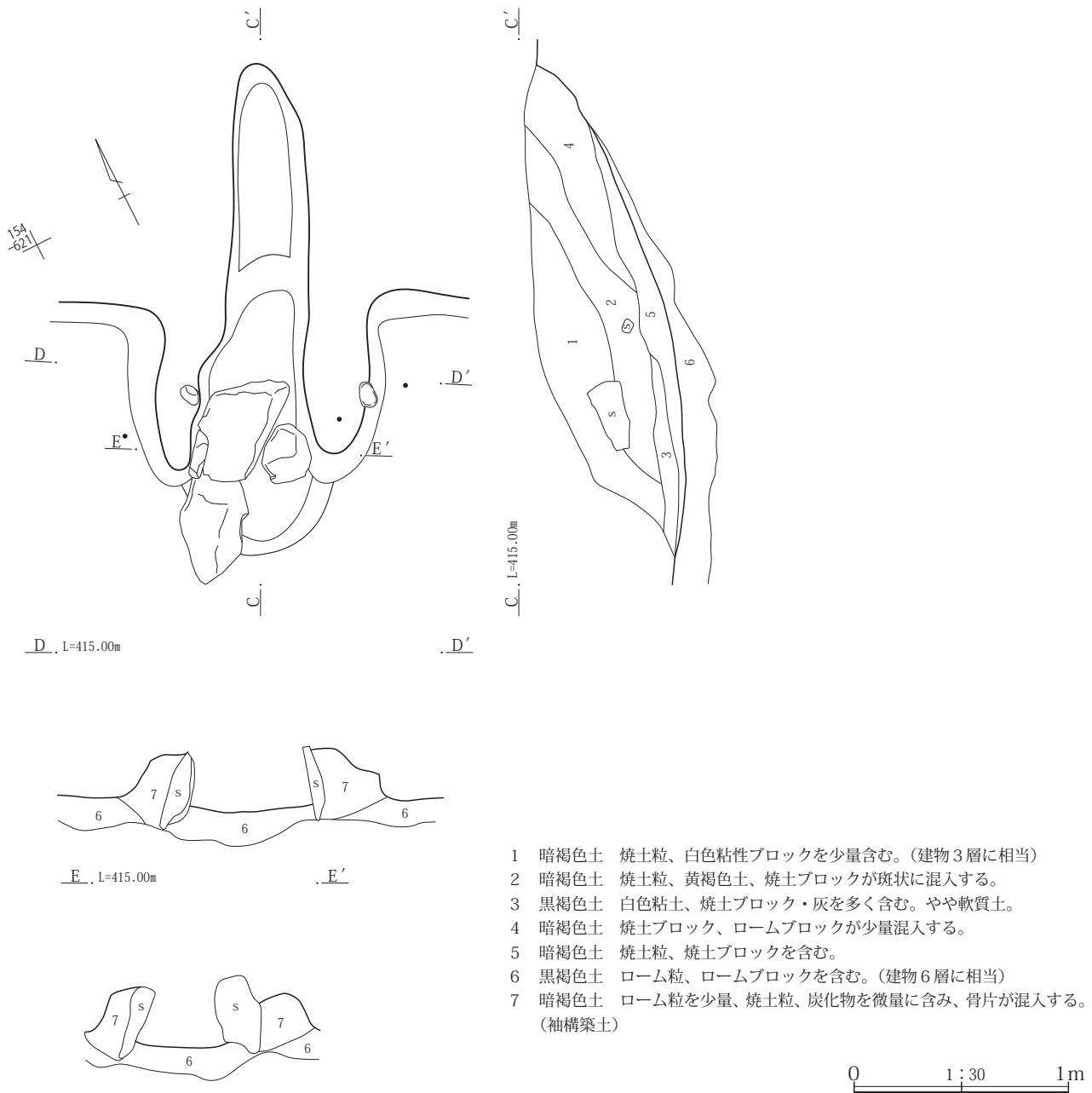
柱穴：支柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸52～60cm、短軸44～53cm、深さ65～74cmを測り、埋土は黒褐色土である。

周溝：カマド部分を除く各壁際を巡る。幅15cm前後、深



- 1 黒褐色土 白色・赤褐色鉱物粒、小礫を含む。
- 2 暗褐色土 僅かに炭化粒が混入、白色粘土を含む。
- 3 暗褐色土 ローム小ブロックを少量、小礫を僅かに混入する。
- 4 褐色土 ローム粒・ブロックが混入する。
- 5 黒褐色土 ローム小ブロックを含む。(周溝)
- 6 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。(床下土)

第169図 2区40A号竪穴建物 床面 平・断面図



- 1 暗褐色土 焼土粒、白色粘性ブロックを少量含む。(建物3層に相当)
- 2 暗褐色土 焼土粒、黄褐色土、焼土ブロックが斑状に混入する。
- 3 黒褐色土 白色粘土、焼土ブロック・灰を多く含む。やや軟質土。
- 4 暗褐色土 焼土ブロック、ロームブロックが少量混入する。
- 5 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロックを含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。(建物6層に相当)
- 7 暗褐色土 ローム粒を少量、焼土粒、炭化物を微量に含み、骨片が混入する。(袖構築土)

第170図 2区40A号竪穴建物 カマド 平・断面図

さ10cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

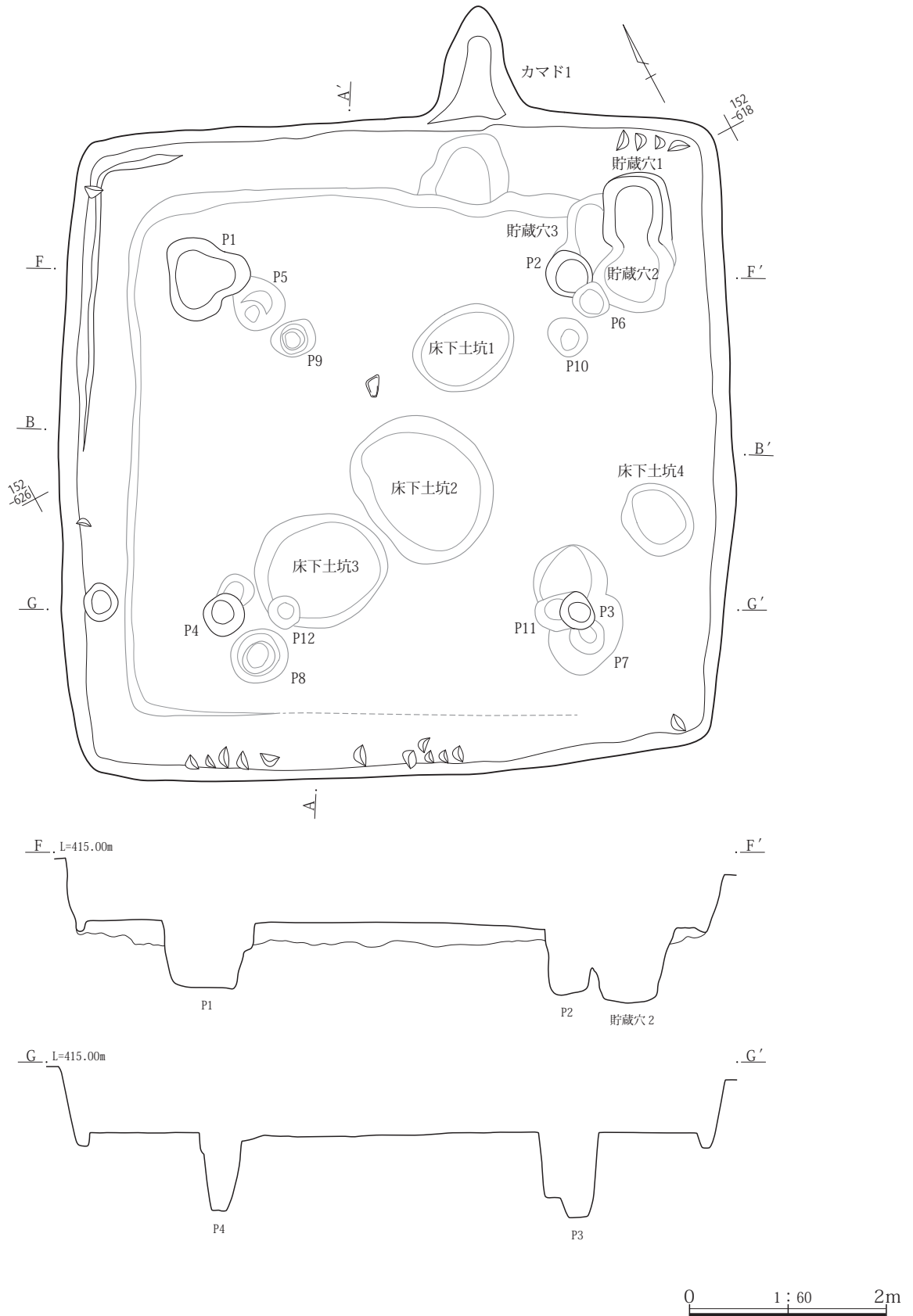
床面下：建物中央部を除く壁際に、幅1.0m前後で10～15cmほどの掘り込みをもつ。底面は大小の凹凸がみられ、埋土はロームブロックを多量に含む黒褐色土で硬く締まる。

遺物：本建物の大半を重複する2区42号竪穴建物に壊されていることから、出土した遺物量は少ない。そのほ

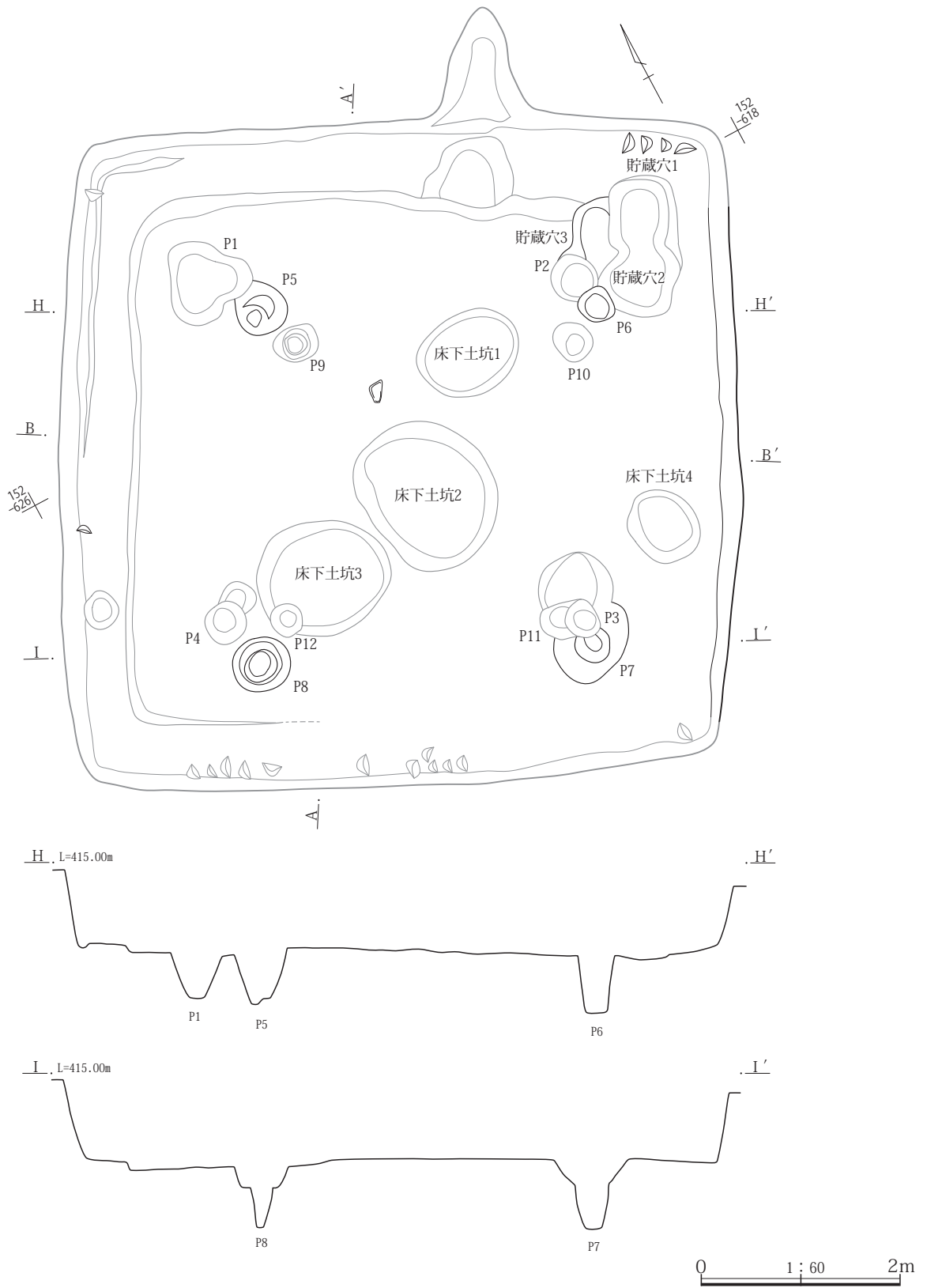
とんどが埋土中からの出土である。

出土遺物として、土器9点と石製品1点を図示した。土器は全て土師器である。1～4は杯で、5～9は甕である。

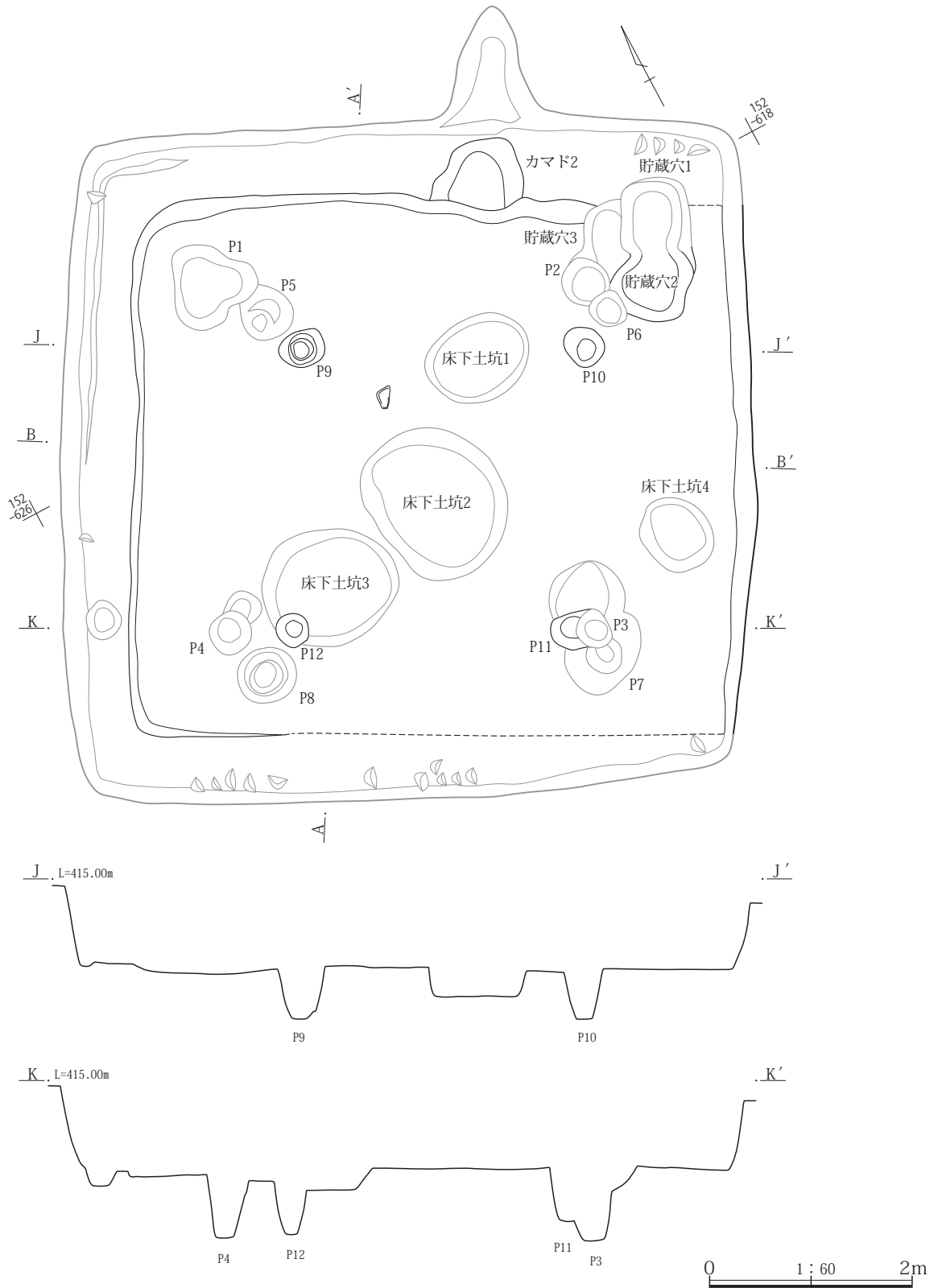
石製品の1は滑石製の白玉であり、灰白色をなし、径1.0cm、厚さ1.0cm、孔径3mm、重さ0.58gを測る。未掲載遺物には、土師器片が多量にある。



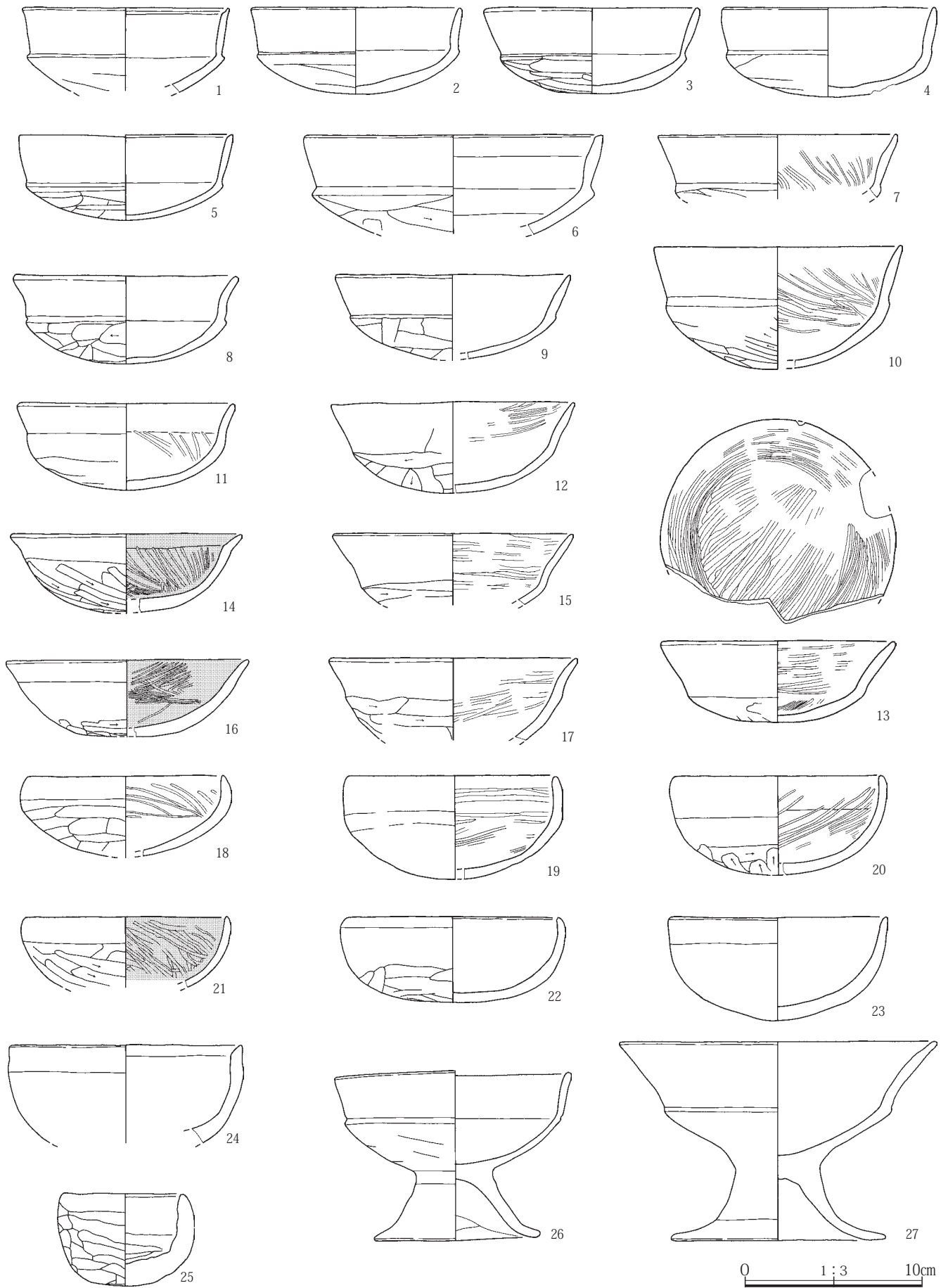
第171図 2区40A号竪穴建物 床面下 平・断面図



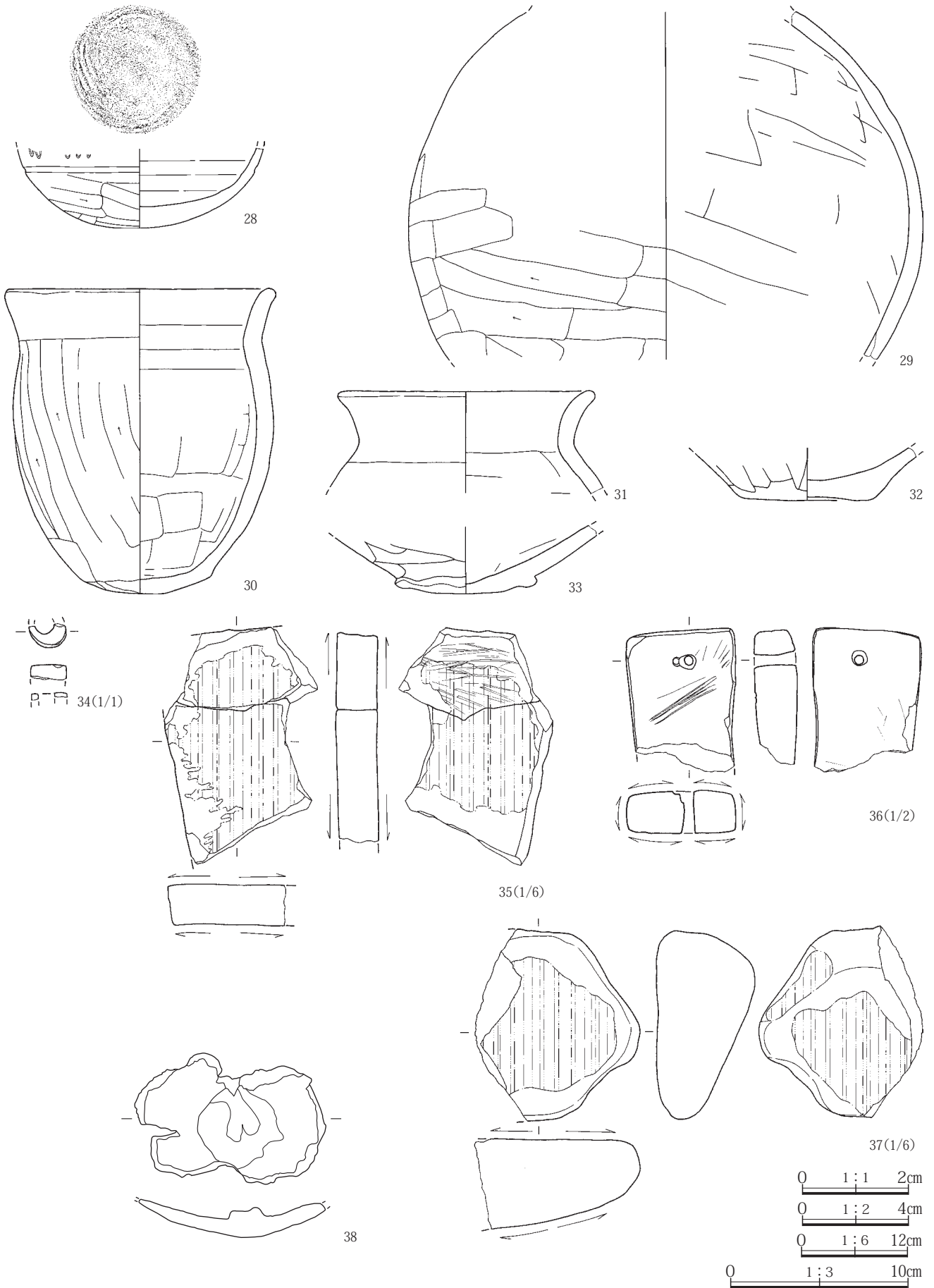
第172図 2区40B号竪穴建物 床面下 平・断面図



第173図 2区40C号竪穴建物 床面下 平・断面図



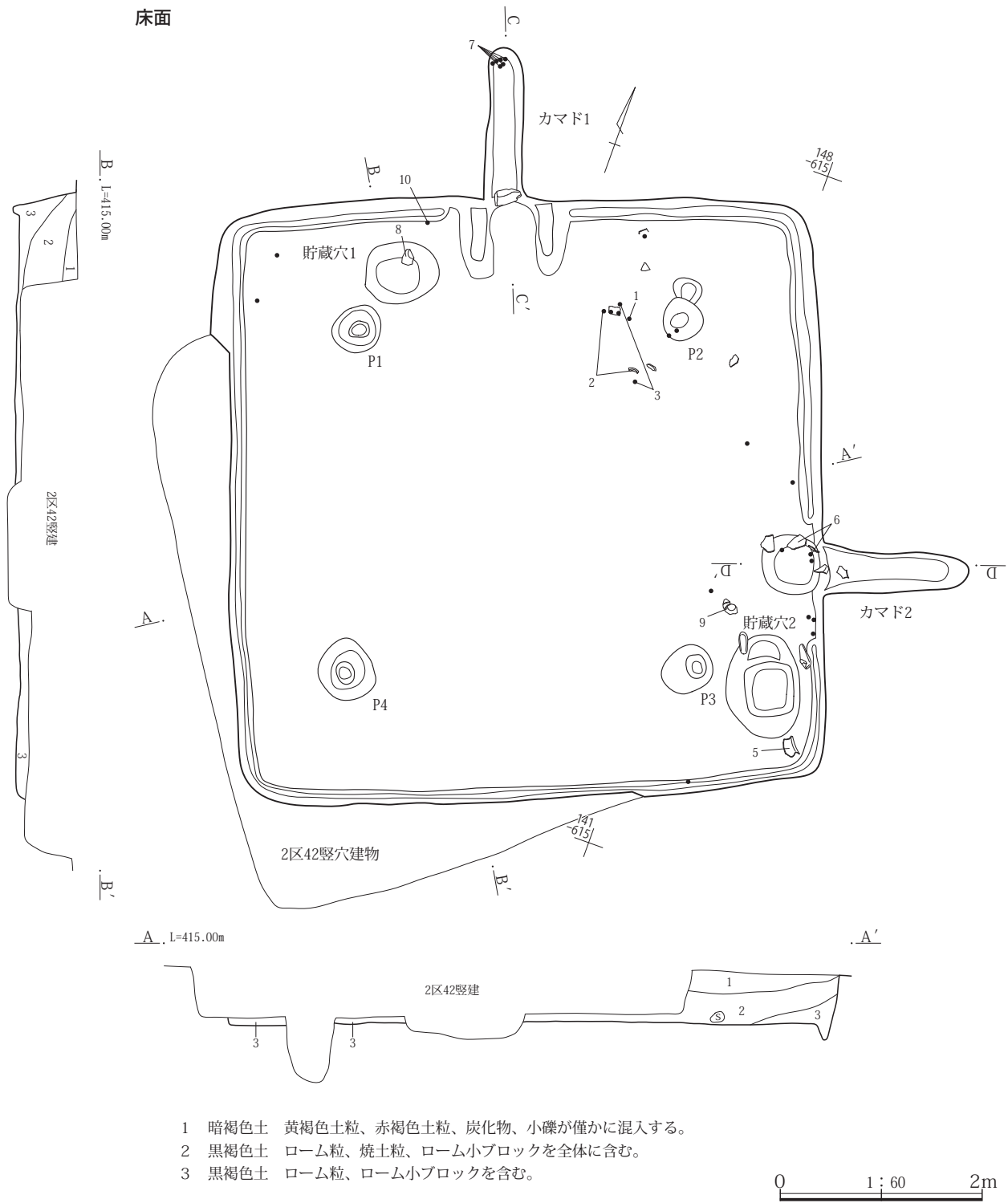
第174図 2区40A号竪穴建物 出土遺物(1)



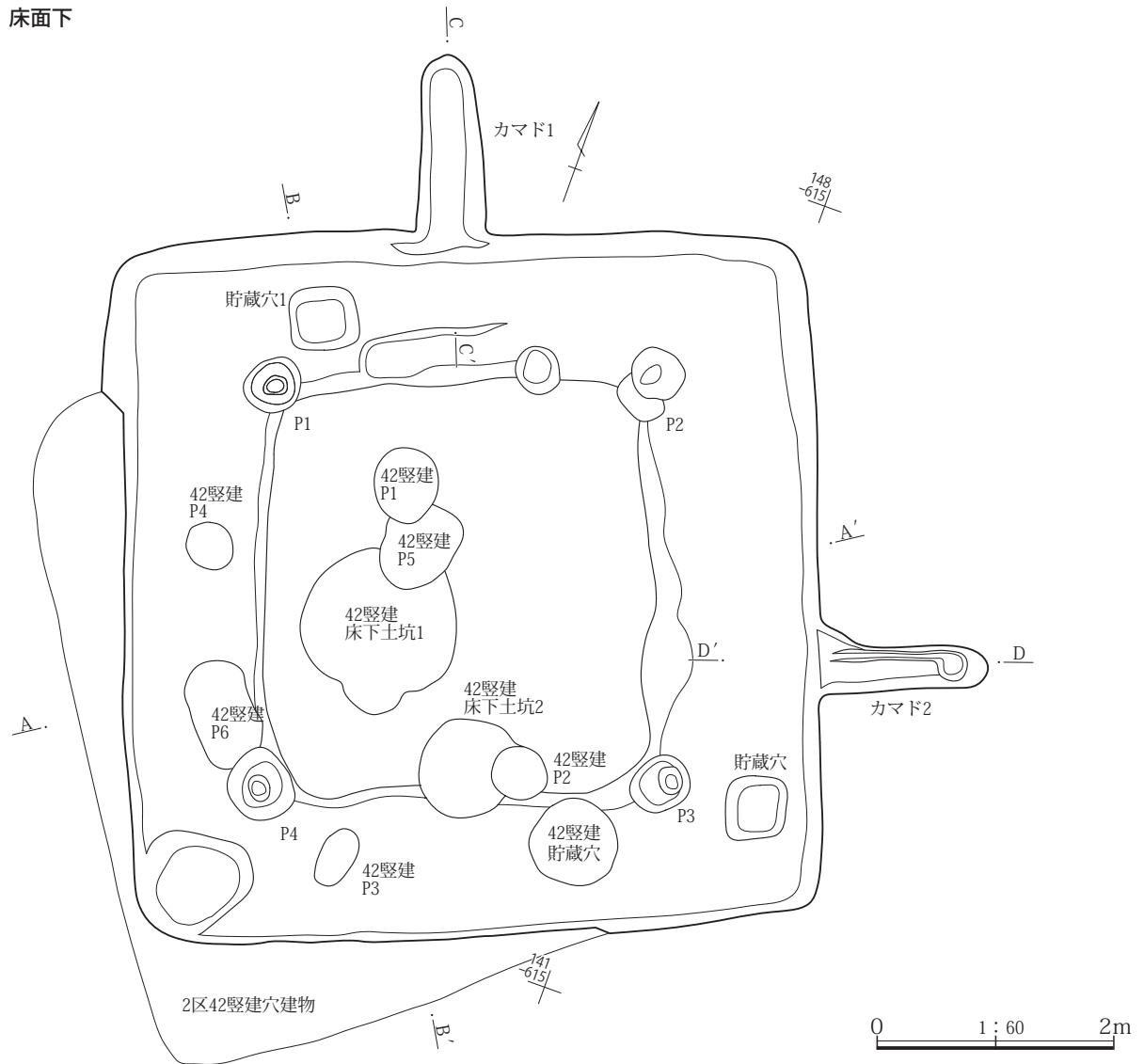
第175図 2区40A号竪穴建物 出土遺物(2)

所見・時期：主柱穴が同じ位置で、カマドの位置を変える改築を行った建物と考えられ、先述の2区22号竪穴

建物と同様である。建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第176図 2区41号竪穴建物 床面 平・断面図



第177図 2区41号竪穴建物 床面下 平面図

2区45号竪穴建物

(第180・181図、第13・105表、PL.54・200)

平成27年度の調査で検出した。2区20号竪穴建物と重複する。

位置：2区西側の中央付近に位置し、本建物の南東側に2区20号竪穴建物が重複する。北東側に2区22・38号竪穴建物、南側に2区10号竪穴建物、南西側に2区6号竪穴建物、北側から北西側にかけて2区18・34・35・46～48・100号竪穴建物が近接する。

グリッド：2 E・2 F-131・132

座標値：X=61,153～61,160 Y=-93,651～93,657

重複：本建物の南東壁付近を2区20号竪穴建物と重複する。遺構確認および土層断面の観察、遺物の出土状況等から、その新旧は本建物の方が古い。

形状：長方形

規模：長軸(4.72)m 短軸5.58m 壁高43～50cm

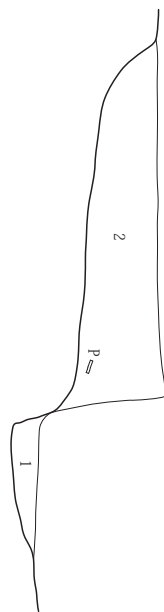
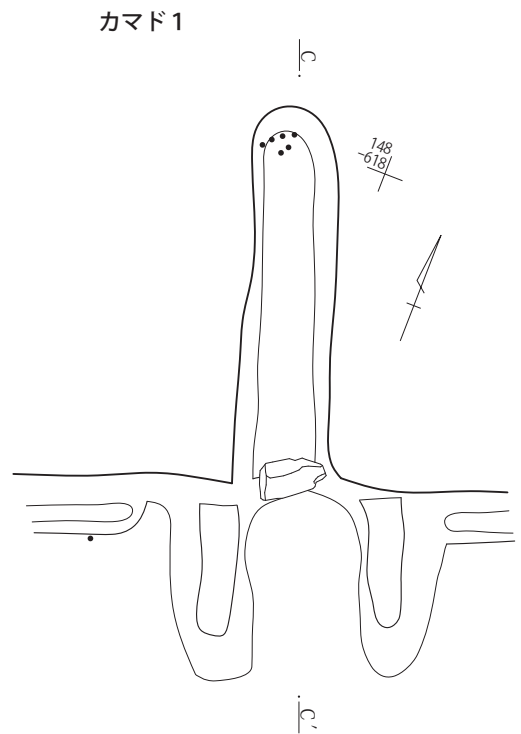
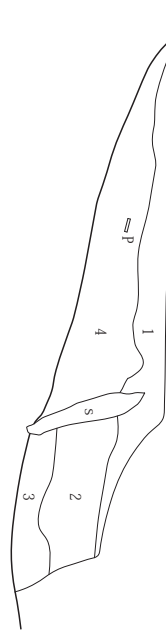
長軸方向：N-17°-W 床面積：(25.92)m²

埋没土：1・2層の黒褐色土を主体とする。

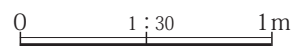
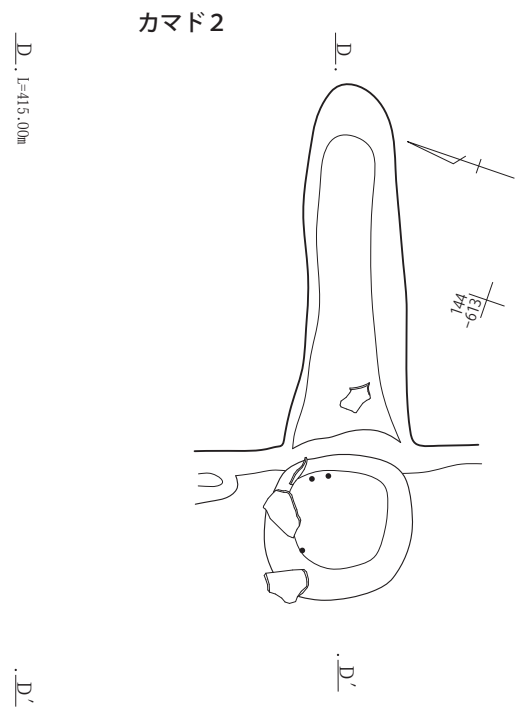
床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、重複する2区20号竪穴建物によって南東側を壊されている。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化する。壁高は43～50cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-73°-Eを向き、残存状態は良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へやや長く突出する。残存する規模は、全長1.50m、幅1.16mを測る。袖は壁から60～70cmほど突き出るように残存し、袖石

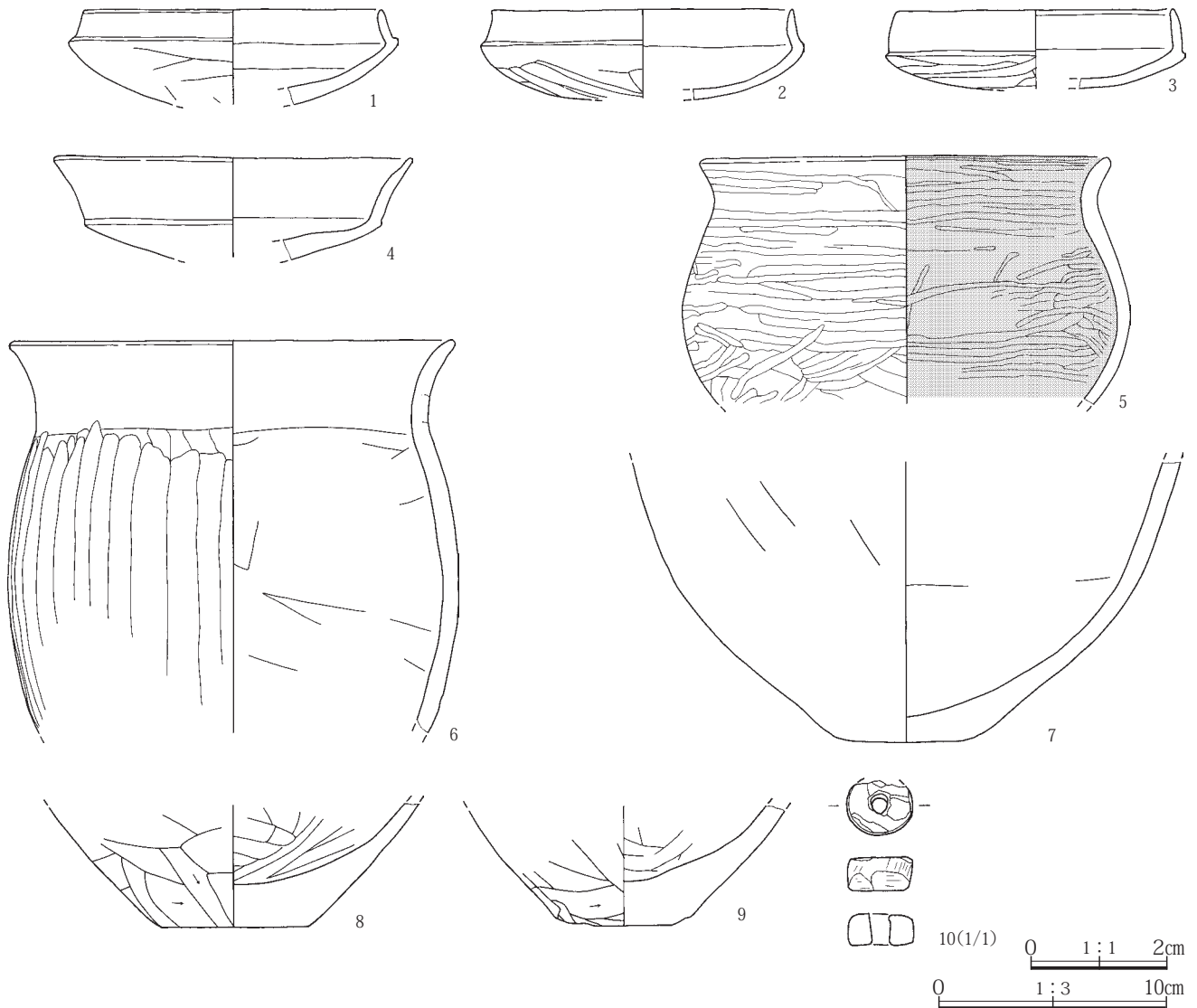
- 1 黒褐色土 焼土粒、ローム小ブロックを含む。
(建物2層に相当)
- 2 暗褐色土 焼土粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 焼土ブロックを多量に含む。
- 4 褐色土 焼土ブロックを多量に含む。煙道天井部の崩れか。



- 1 黒褐色土 僅かにロームブロックと焼土粒を混入する軟質土。
- 2 黒褐色土 赤褐色焼土ブロックと炭化物が多量に混入する。



第178図 2区41号竪穴建物 カマド1・2 平・断面図



第179図 2区41号竪穴建物 出土遺物

はない。焚き口部から燃焼部の底面は床面とほぼ同一で、煙道部は燃焼部奥から斜位に長く立ち上がる。また、カマドの内壁は、被熱により焼土化していた。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に黒褐色土を袖部の構築土としている。

柱穴：支柱穴と考えられるP 1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸50～62cm、短軸43～54cm、深さ57～75cmを測る。埋土は黒褐色土を主体とする。

床面下：床面下の調査をしたが、明瞭ではなかった。

遺物：出土した遺物は少なく、4の石製品がカマドの袖際に出土しているのみで、埋土中からほとんどである。出土遺物として、土器3点と石製品1点を図示した。土器は3点共に土師器で、1は杯、2は鉢であり、3は甕の底部である。また、4の石製品は滑石製の白

玉で、暗オリーブ灰色をなし、径0.8cm、厚さ0.4cm、孔径約3mm、重さ0.4gを測る。

未掲載遺物には、土師器片と須恵器の甕片がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

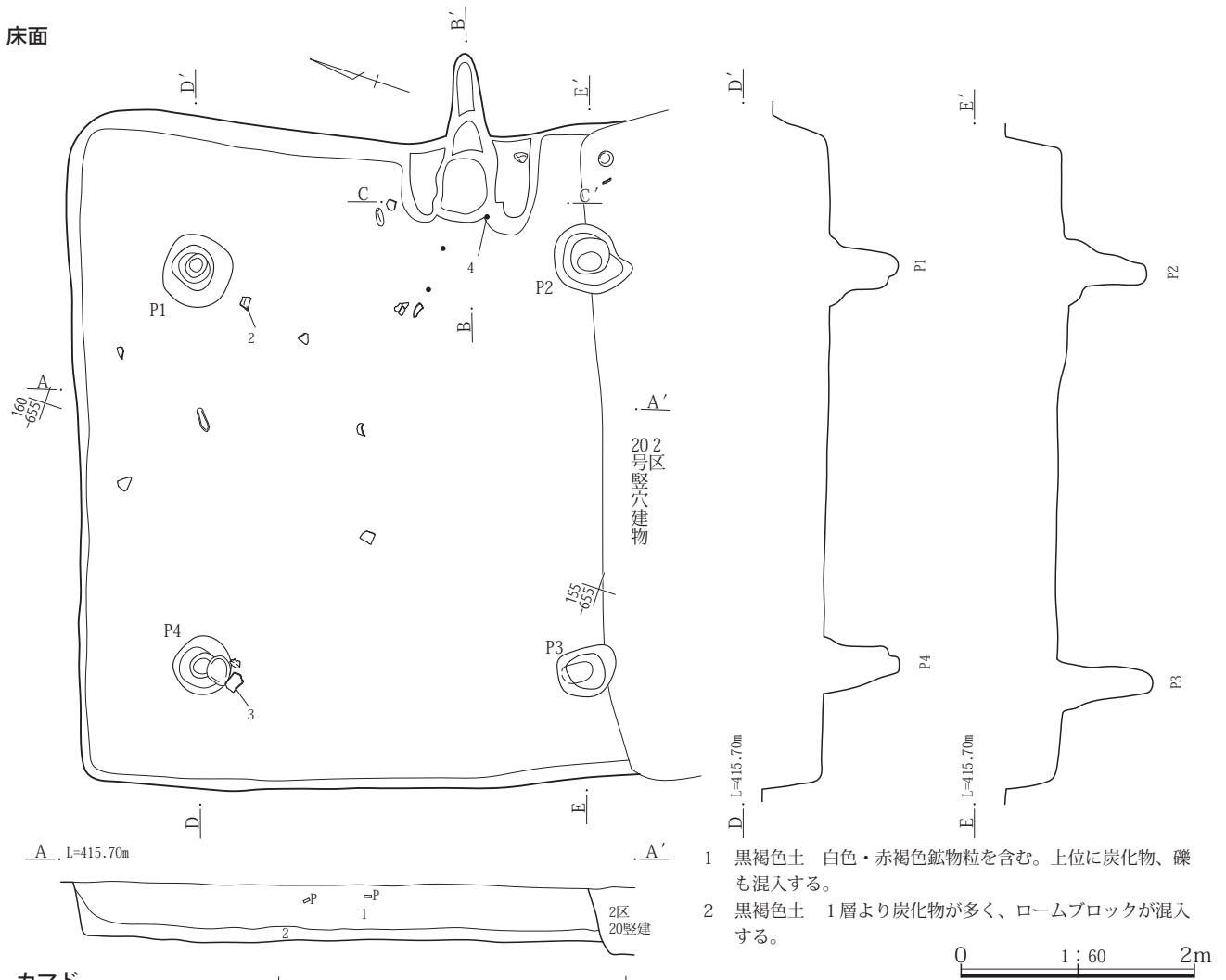
2区53号竪穴建物

(第182～184図、第13・113表、PL.60・61・204・205)

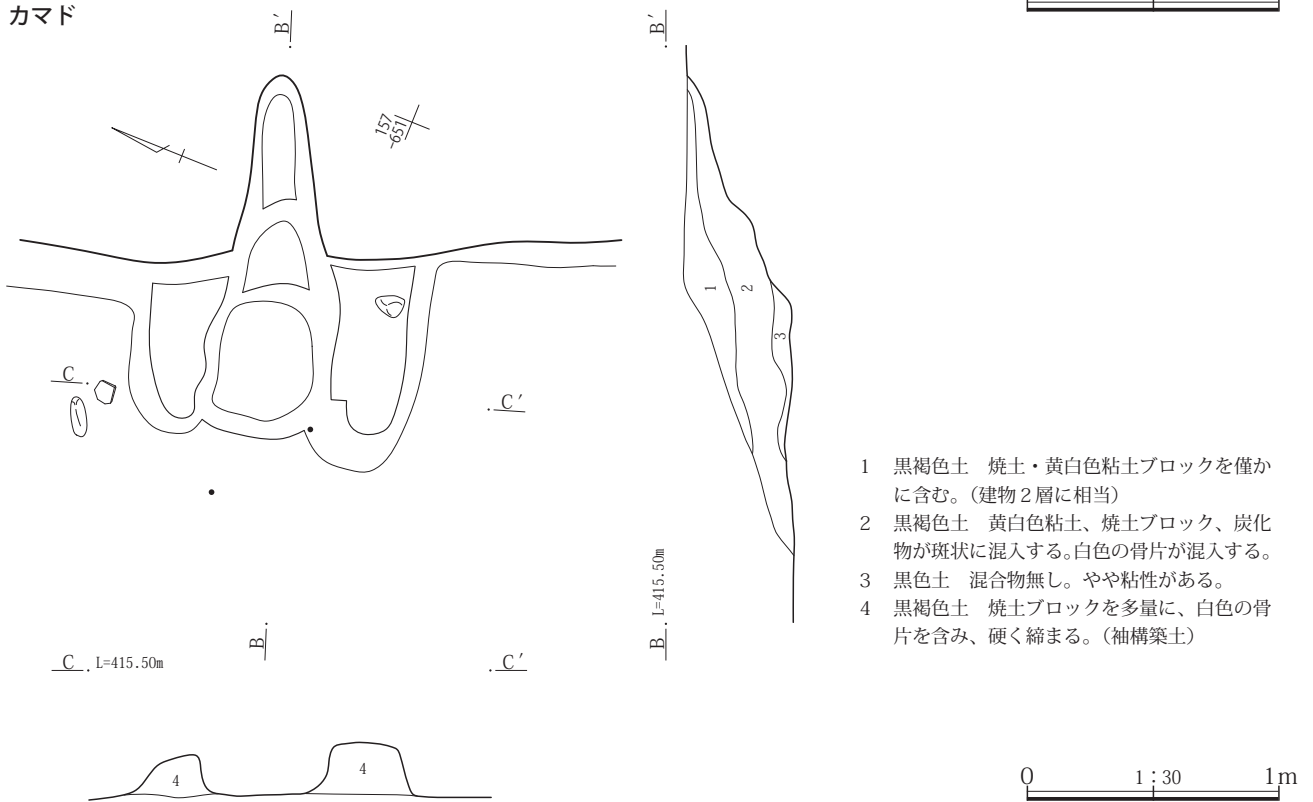
平成27年度の調査で検出した。2区1号掘立柱建物と重複する。

位置：2区東側の南壁際付近に位置し、建物の南東側を2区1号掘立柱建物と重複する。北東側に2区2号掘立柱建物、南東側に2区54～56号竪穴建物、西側に2区52号竪穴建物が近接する。

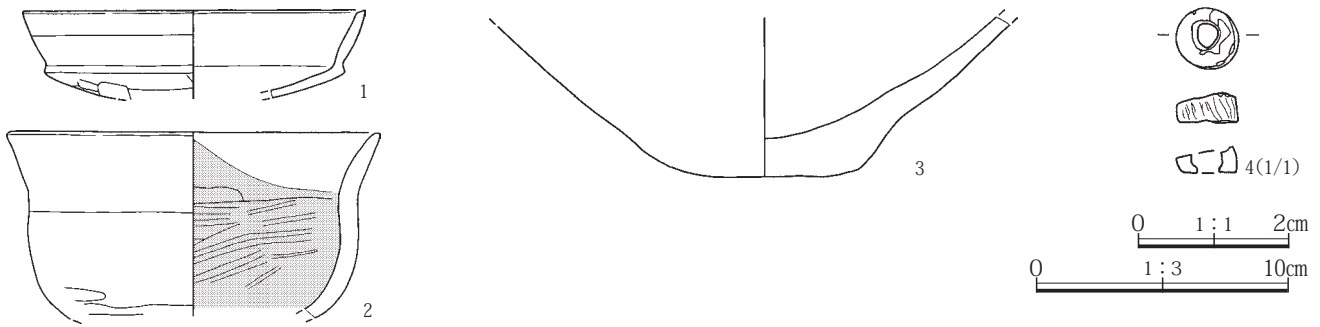
床面



カマド



第180図 2区45号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第181図 2区45号竪穴建物 出土遺物

グリッド：W～Y-118・119

座標値：X=61,113～61,119 Y=-93,585～93,591

形状：長方形

規模：長軸5.17m 短軸4.77m 壁高20～28cm

長軸方向：N-35°-E 床面積：21.73㎡

埋没土：2層の暗褐色土を間層に、1・3層の黒褐色土を主体とし、壁際の4層とに分層できる。また、2層中には炭化材や炭化物を多く含む。なお、埋土中には多くの遺物と共に中・大型礫が含まれており、人為的堆積と考えられる

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下面にあり、ほぼ平坦でやや粘質ぎみであるが、硬化ぎみでもある。また、床面上には炭化材が多く、床面中央には炭化物が集中する。壁高は20～28cmを測り、垂直ぎみに立ち上がるが、北東壁はやや緩い。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-37°-Eを向き、残存状態はかなり良好。燃烧部は壁の内側から外側に掛かり、煙道部は外側へかなり長く突出する。残存規模は、全長2.36m、幅0.90mを測る。袖は壁から40cmほど突き出るようにあり、両先端に袖石をもつ。右袖石は2石からなる。焚き口部の底面には長さ51cmの大型礫が出土しており、焚き口部に架かる天井石と考えられる。また、両袖石に並び、燃烧部内壁に側壁石が1石ずつ検出されているが、右側壁石の側壁面は被熱していた。石組みカマドの可能性をもつが、左側壁石が被熱していないことから、カマド構築時に芯材として据えた石が、右側壁だけ芯材の石の面となったと考えられる。勿論、周囲の壁面は著しく焼土化している。焚き口部から燃烧部の底面は床面より低くなり、煙道部は燃烧部奥から長く緩く立ち上がる。燃烧部の底面には、支脚石がやや傾いて

残存していた。なお、燃烧部から煙道部の内壁は、被熱して焼土化が著しい。

一方、袖部と燃烧部および煙道部の構築状況は、壁の外側に飛び出す部分の燃烧部の周囲を方形に大きく掘り込み、その最奥部と袖部および袖先端に石を据え、袖材に黄褐色ロームを主体とした黒褐色土との混土による鈍い黄褐色土を構築土としている。また、煙道部の周囲を一回り大きく掘り込み、袖材と同じ鈍い黄褐色土で構築している。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅にあり、上面形は長方形を呈すると考えられるが、重複する2区1号掘立柱建物に壊され詳細は不明。深さ30cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

柱穴：支柱穴と考えられるP1～4を検出したが、P3は重複する掘立柱建物の底面に検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸29～55cm、短軸29～35cm、深さ56～64cmを測り、埋土は黒褐色土である。

床面下：床面下には5～18cmのローム層への掘り込みをもち、中央部が高い。底面はやや凹凸をもち、埋土はロームブロックを多量に含む黒褐色土である。

遺物：出土した遺物量はあまり多くはないが、床面直上に出土した遺物には、カマド前に6の甕が潰れた状態、カマドの右袖脇に5の壺の胴部上半が、南東壁中央付近に7の小型甕がある。さらに、南寄りの床面直上に1の杯や2の高杯、8の石製品が出土している。

出土遺物として、土器7点と石製品1点を図示した。1は土師器の杯、2は脚部を欠く土師器の高杯、3は須恵器の高杯片、4は土師器の壺である。5は須恵器の壺で、口縁部外面に3段の波状文を描き、胴部外面の上位にタタキ目が残り、内面に当て具痕がある。6は土師器の甕、7は土師器の小型甕である。

第4章 検出された遺構と遺物

石製品の8は蛇紋岩製の紡輪で、径4.2cm、厚さ2.0cm、孔径約7mm、重さ47.0gを測り、よく研磨されて光沢をもつ。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器の甕片が少量ある。

所見・時期：出土した炭化材の状況から、焼失家屋の可能性がある。建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

2区54号竪穴建物

(第185・186図、第13・114表、PL.61・62・205・206)

平成27年度の調査で検出した。本建物の南半は調査範囲外にあるため不明な点が多い。

位置：2区東側の南壁際に位置し、建物の南半は調査範囲外となる。北東側に2区55・56号竪穴建物、北西側に2区53号竪穴建物が近接する。

グリッド：V・W-117・118

座標値：X=61,108~61,112 Y=-93,583~93,588

形状：方形か

規模：長軸(2.98)m 短軸3.72m 壁高15~30cm

長軸方向：N-35°-E 床面積：(8.78)m²

埋没土：黒褐色土を主とした6・7層に分層でき、7層中には多量の炭化材・炭化物を含む。また、5層の本竪穴建物の上位となる部分では、地山とは若干異なる。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下面にあり、ほぼ平坦である。粘質で、硬化の状態は不明。また、床面上には大型の炭化材が多く出土している。壁高は15~30cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-37°-Eを向き、残存状態は良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存規模は、全長1.55m、幅1.00mを測る。袖は壁から40cmほど突き出るようにあり、両先端に袖石をもつ。カマド前の床面上には長さ53cmの大型礫が出土しており、焚き口部に架かる天井石と考えられる。また、左袖石に並び、燃焼部内壁に側壁石が1石検出された。このことから、石組みカマドと言えよう。焚き口部から燃焼部の底面は床面より低くなり、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がる。燃焼部の底面には、支脚石がやや傾いて残存していた。なお、燃焼部から煙道部の内

壁は、被熱して焼土化が著しい。

一方、袖部と煙道部の構築状況は、床面構築後に袖石および側壁石を据え、袖材にロームブロックを主体とした粘質な鈍い黄褐色土を構築土としている。また、煙道部の周囲を一回り大きく掘り込み、袖材と同じ鈍い黄褐色土で構築している。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅にあり、上面形は方形を呈し、一辺70cm前後、深さ30cmで、黒褐色土を埋土とする。

床面下：床面下には7cm前後の浅いローム層への掘り込みをもち、底面は概ね平らで、埋土はロームブロックを多量に含む黒褐色土。

遺物：出土した遺物量はあまり多くはないが、床面直上に出土した遺物には、カマド前に4の甗が横転して、カマドの右袖脇に5の小型甗が潰れて、東隅の貯蔵穴上面の壁際に1の杯と6の小型甗がある。また、調査範囲境の南壁には、7の甗が出土している。

出土遺物として、土器8点を図示した。土器は全て土師器である。1・2は内斜口縁となる杯で、内面にへう磨きを施す。3は椀で、4は甗、5・6は小型甗、7・8は甗である。

未掲載遺物には、土師器片が多量にある。

所見・時期：出土した炭化材の状況から、焼失家屋の可能性がある。建物の時期は、出土土器から5世紀末から6世紀初頭と考えられる。

2区55号竪穴建物(第187・188図、第13・115表、PL.62・206)

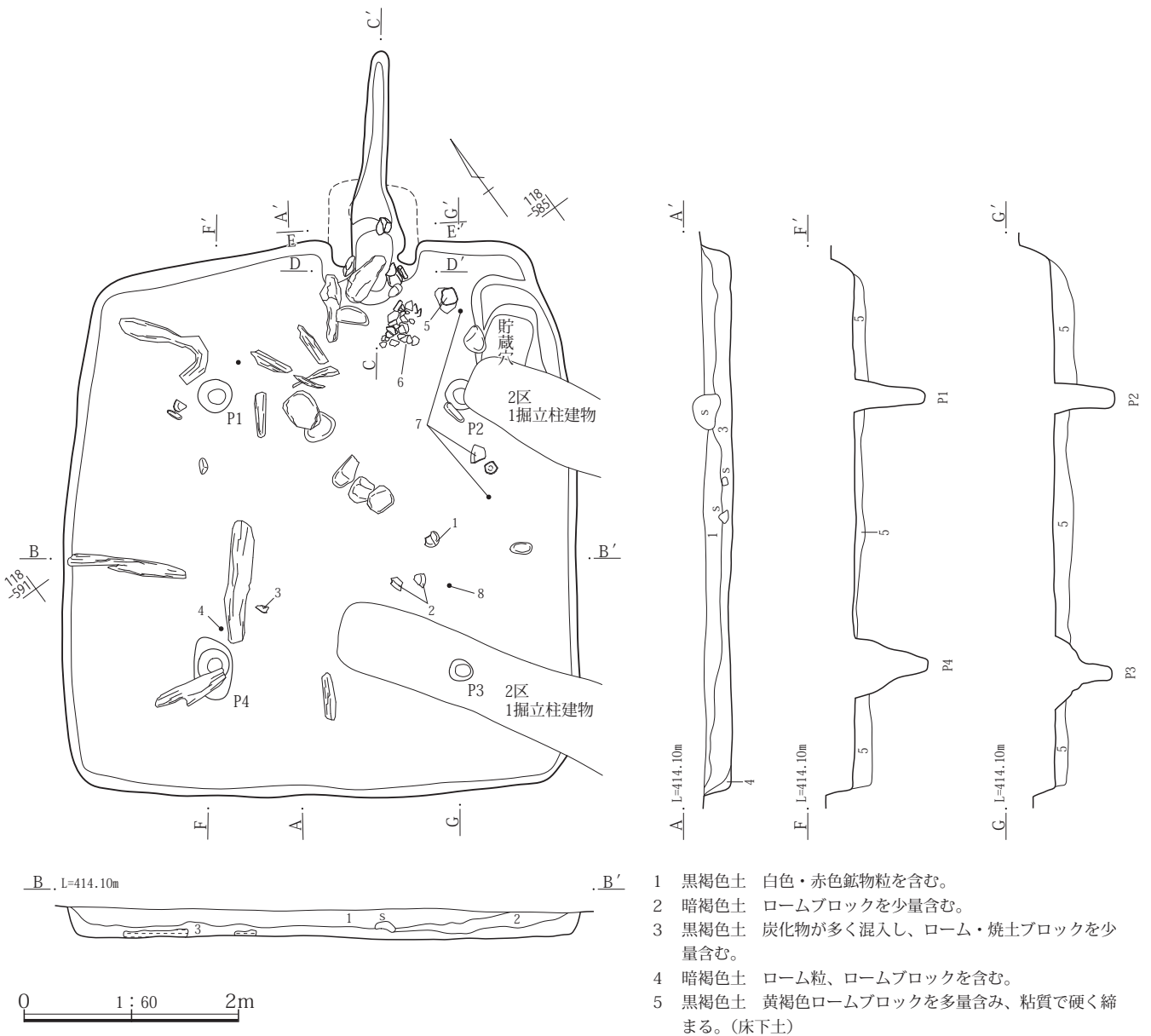
平成27年度の調査で検出した。2区56号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南側で、南壁付近に位置し、東側を大きく2区56号竪穴建物と重複する。また、北側から北東側にかけてに2区59・82号竪穴建物、東側に2区57・65号竪穴建物、西側に2区53・54号竪穴建物が近接する。

グリッド：V~X-116・117

座標値：X=61,109~61,115 Y=-93,576~93,582

重複：本建物の東側を2区56号竪穴建物と重複する。遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本建物の方が新しい。



第182図 2区53号竪穴建物 床面 平・断面図

形状：方形

規模：長軸5.31m 短軸5.11m 壁高24～29cm

長軸方向：N-10°-E 床面積：24.04㎡

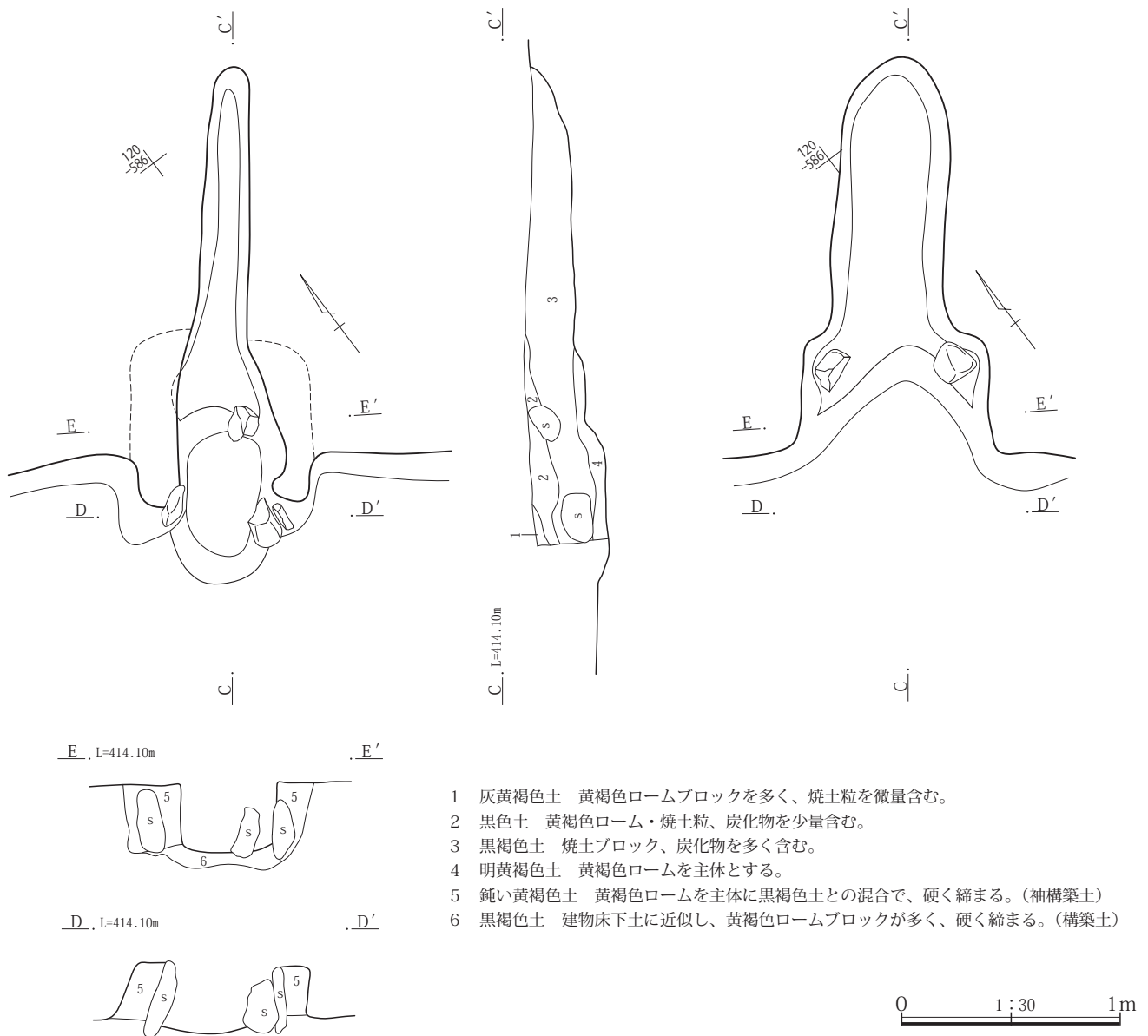
埋没土：黒褐色土を主とし、1・2層および壁際の3層とに分層できる。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下位にあり、ほぼ平坦で、全体に硬化ぎみ。重複する2区56号竪穴建物の床面より、本建物の床面が低い。壁高は24～29cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北壁中央のやや西寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-12°-Eを向き、残存状態はやや良。燃烧

部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存規模は、全長2.06m、幅0.94mを測る。袖は壁から40cmほど突き出るようにあり、袖石はない。焚き口部から燃烧部の底面は床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。なお、煙道部の内壁は被熱して焼土化が著しい。

一方、袖部と煙道部の構築状況は、両袖部内に長さ20cm前後の石を縦長に据えて袖の芯とし、袖材にローム粒の多い粘質な暗褐色土を構築土としている。また、煙道部の周囲にはローム粒の多い粘質な暗褐色土を薄く張っている。



第183図 2区53号竪穴建物 カマド 平・断面図

柱穴：主柱穴と考えられるP 1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸49～57cm、短軸40～50cm、深さ40～54cmを測り、埋土は黒褐色土である。

遺物：出土した遺物量は少なく、床面直上に出土したのは2・3の杯で、北東隅付近の壁際からである。6の壺の口縁部片は、P 2脇の床面やや上からである。

出土遺物として、土器6点を図示した。1～5は土師器の杯で、6は土師器の壺の口縁部。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器の甕片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区56号竪穴建物(第189図、第13・116表、PL.62・206)

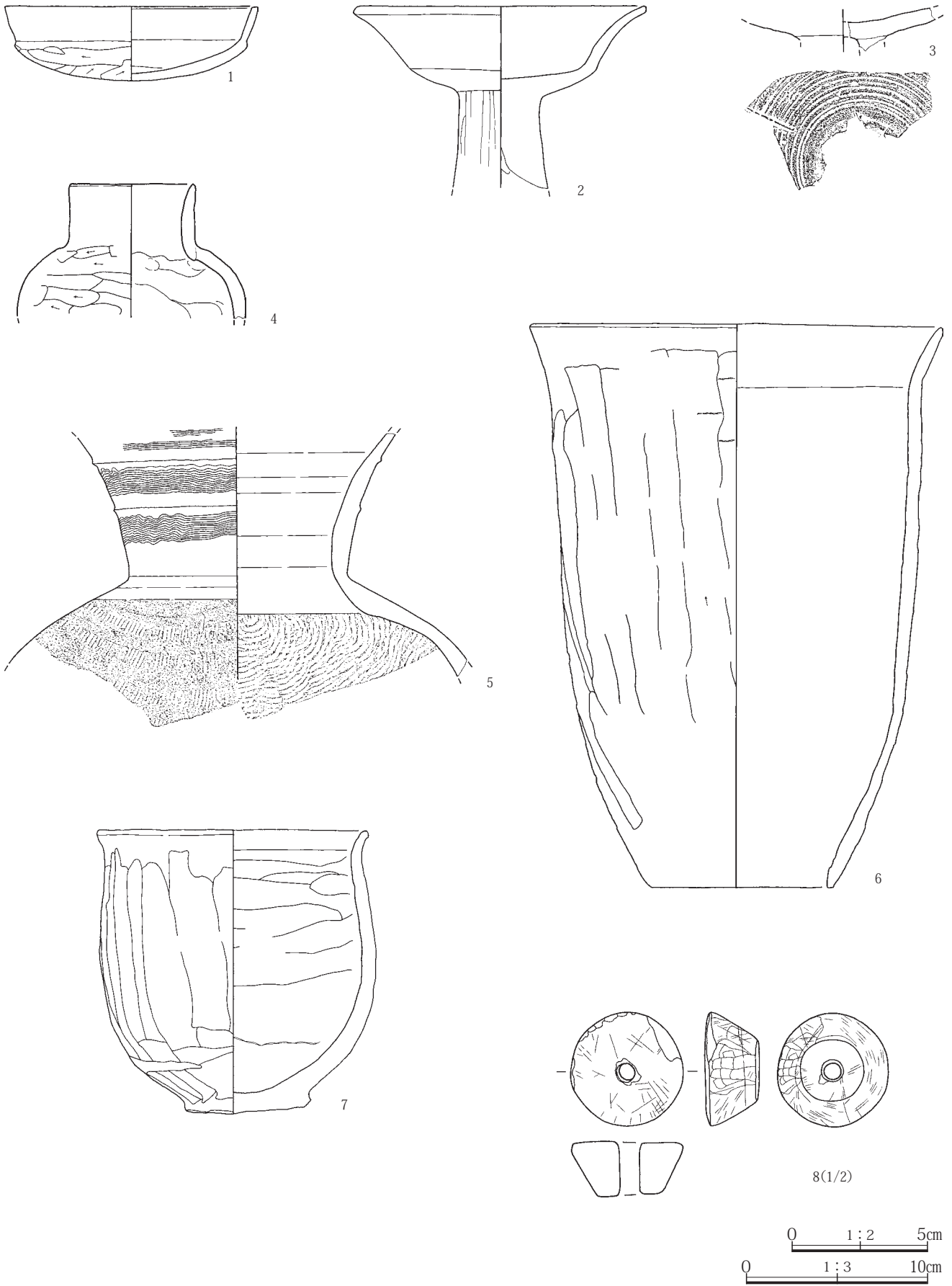
平成27年度の調査で検出した。2区55号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南側で、南壁付近に位置し、西半を大きく2区55号竪穴建物と重複する。また、北側から北東側にかけてに2区59・82号竪穴建物、東側に2区57・65号竪穴建物、西側に2区53・54号竪穴建物が近接する。

グリッド：V・W-115・116

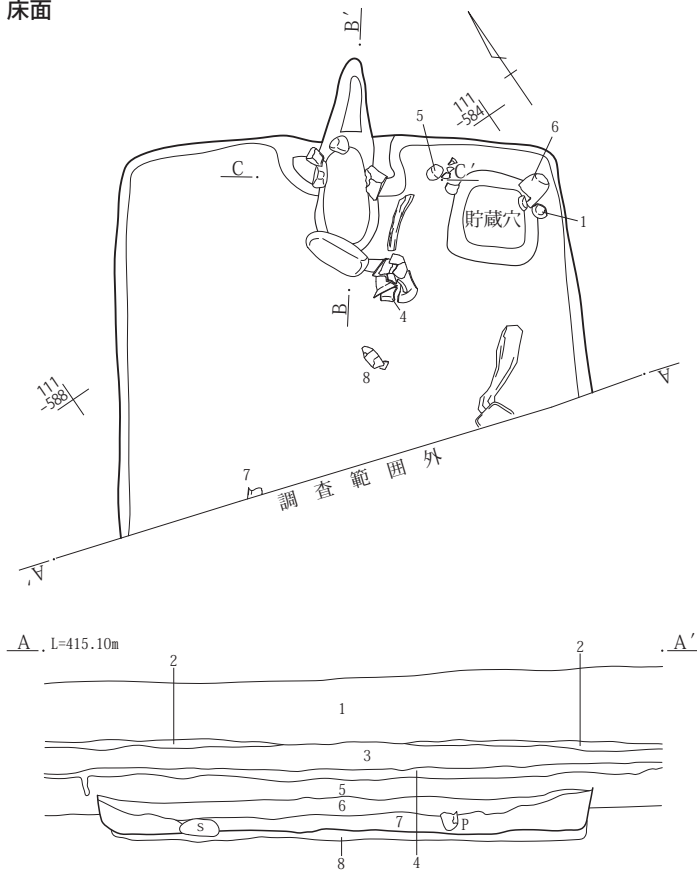
座標値：X=61,109～61,114 Y=93,574～93,578

重複：本建物の西半に2区55号竪穴建物が重複する。遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本建物の方

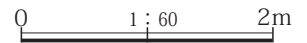


第184図 2区53号竪穴建物 出土遺物

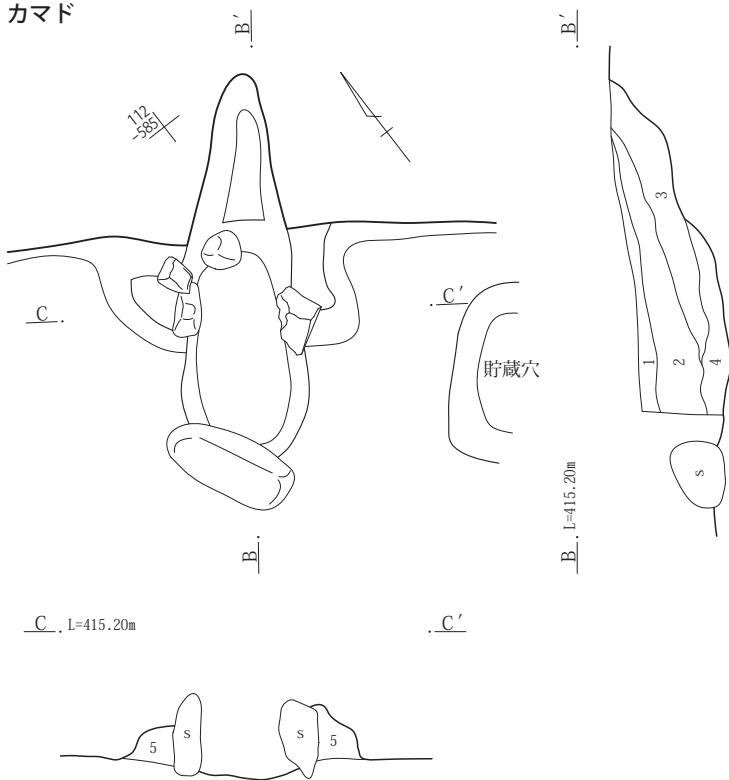
床面



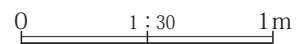
- 1 暗褐色土 表土(2-B区南壁基本層序I層)
- 2 褐灰色土 肌理の細かい灰層で、下位に薄くAs-B軽石を確認できる。(2-B区南壁基本層序IV層)
- 3 褐灰色土 グライ化した土層で、かなり粘質。混入物はほとんど無い。(2-B区南壁基本層序V層)
- 4 鈍い赤褐色土 酸化層で混入物はほとんど無く、かなり粘質。(2-B区南壁基本層序VI層)
- 5 黒褐色土 黄褐色ロームブロックを僅かに含む。地山(2-B区南壁基本層序VII層)はロームブロックを含まず、粘質。
- 6 黒褐色土 黄褐色ロームブロックを少量、炭化物を含む。6層より暗く粘質。
- 7 黒褐色土 6層に近いが、炭化材を多量に含む。
- 8 黒褐色土 ロームブロックを多量に含み、やや硬く締まる。(床下土)



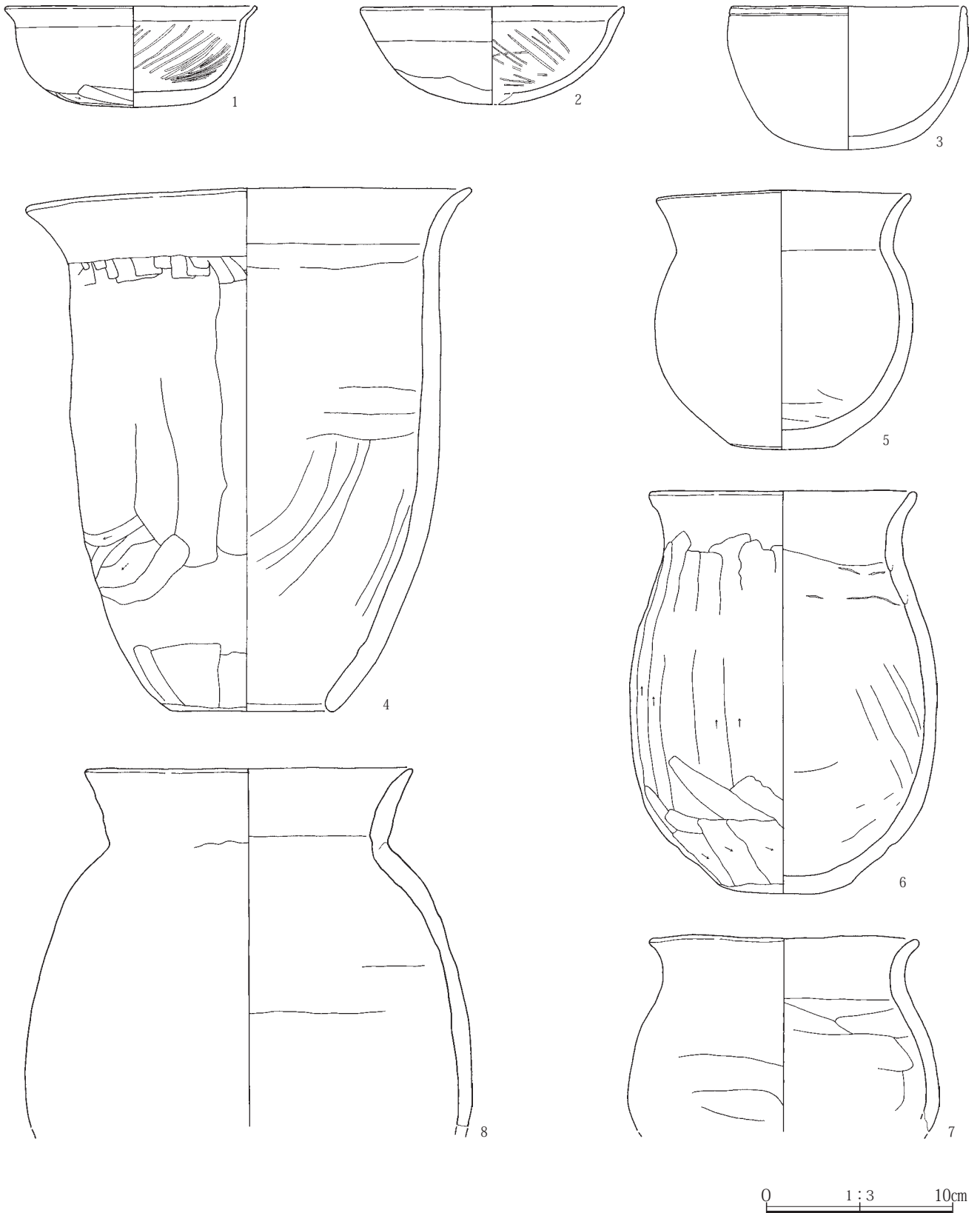
カマド



- 1 暗褐色土 黄褐色ローム小ブロックを多量、焼土粒を微量含む。
- 2 黒褐色土 焼土粒、黄褐色ロームブロック、炭化物を含む。
- 3 鈍い赤褐色土 黄褐色ロームブロック、焼土大ブロックを多量に含む。
- 4 黒褐色土 2層と似るが、黄褐色ロームブロックが少ない。
- 5 鈍い黄褐色土 汚れたロームブロックを主体とし、粘質で硬く締まる。(袖構築土)

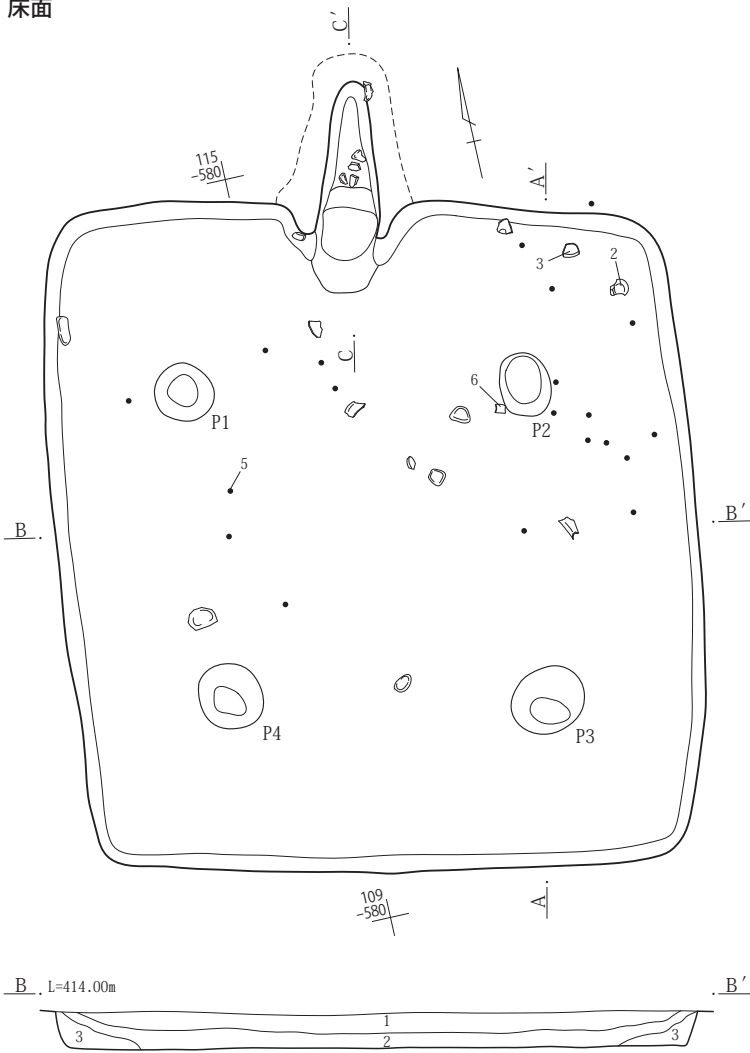


第185図 2区54号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



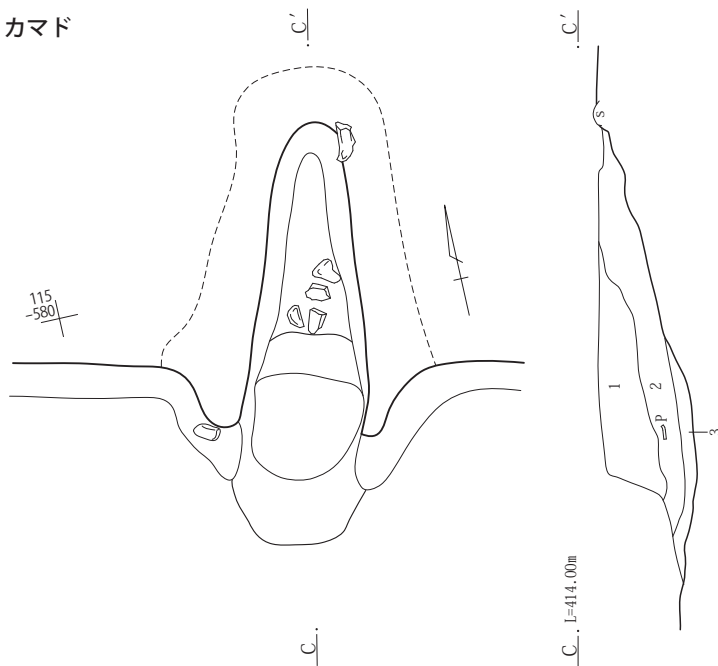
第186図 2区54号竪穴建物 出土遺物

床面

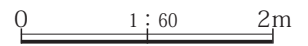


- 1 黒褐色土 ロームブロック、焼土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックが1層より多く、部分的に焼土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを含む。

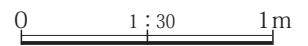
カマド



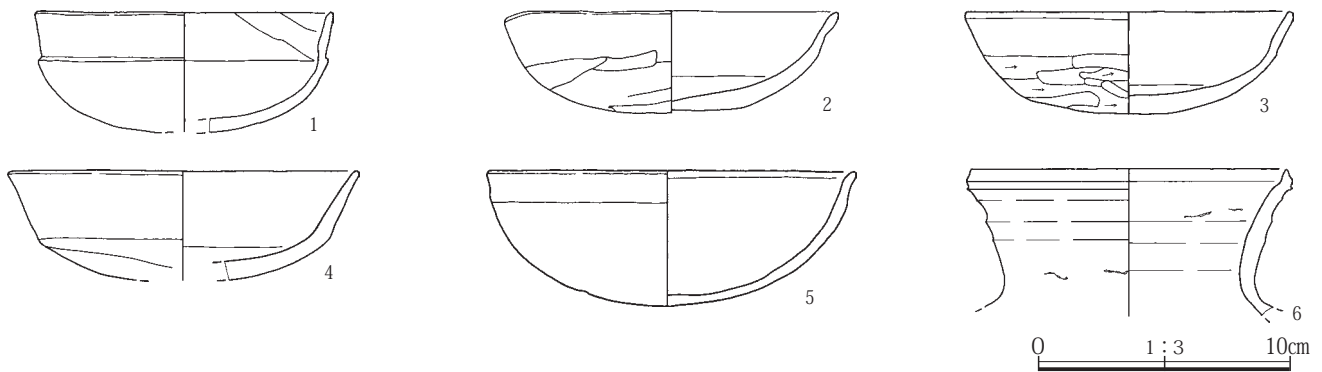
C. L=414.00m



- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒を含む。
- 2 暗赤褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 3 灰黄褐色土 黄褐色ローム粒を多量含む。



第187図 2区55号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第188図 2区55号竪穴建物 出土遺物

が古い。

形状：方形か

規模：長軸(4.10)m 短軸4.13m 壁高2～15cm

長軸方向：N-75°-W 床面積：(16.81)m²

埋没土：浅く、1層の黒褐色土を埋土とする。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層中位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近はかなり硬化する。ただし、重複する西半は不明。壁高は6cmと浅く、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-25°-Eを向き、残存状態は浅く極めて悪い。右袖部が僅かに残存し、カマド前に焚き口部天井石と考えられる長い大型礫が出土している。燃烧部は壁の外側となり、煙道部はさらに突出する。残存規模は、全長1.16m、幅0.67mを測る。焚き口部から燃烧部にかけての底面は床面より若干低くなり、煙道部は斜位に立ち上がる。なお、燃烧部から煙道部にかけての内壁は、被熱して焼土化している。

貯蔵穴：2基の貯蔵穴を検出した。貯蔵穴1はカマドの右側となる北東隅付近にあり、上面形は円形を呈し、径78cm、深さ22cmで、黒褐色土を埋土とする。貯蔵穴2は貯蔵穴1の北側に重複してあり、上面形は径52cmの円形を呈し、深さ30cmを測る。

遺物：出土した遺物量は極めて少ない。6の甑がカマド内から、1の杯がカマドの右側から、5の甕は貯蔵穴2の埋土中に、3・4の杯が貯蔵穴上面から出土している。

出土遺物として、土器6点を図示した。1～4は土師器の内斜口縁となる杯で、1～3の内面にはへら磨きが施される。5は土師器の口縁部を欠く甕で、一部

にへら磨きが施されている。6は土師器の甑で、胴部内面にへら磨きがある。

未掲載遺物には、土師器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。

2区57号竪穴建物

(第190図、第13・117表、PL.63・67・206)

平成27年度の調査で検出した。2区65号竪穴建物と重複する。遺構確認時は両建物を一棟の本竪穴建物として調査を開始したが、調査の途中段階で内側に2区65号竪穴建物の存在が明らかとなり、本建物は後行して調査を再開した。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南側で、南壁付近に位置し、2区65号竪穴建物が本建物の中央部に重複する。また、北側に2区59・62号竪穴建物、東側に2区58号竪穴建物、西側に2区55・56号竪穴建物が近接する。

グリッド：V・W-114・115

座標値：X=61,107～61,119 Y=-93,565～93,572

重複：2区65号竪穴建物が本建物の内側中央部に重複する。遺構確認では判明していなかったが、調査途中で検出された2区65号竪穴建物のカマドおよび土層断面の確認から、新旧は本建物の方が古い。

形状：横長長方形

規模：長軸5.88m 短軸4.75m 壁高15～27cm

長軸方向：N-28°-W 床面積：24.16m²

埋没土：1・2層の黒褐色土を主とし、壁際に3層とした暗褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下位にあり、

第4章 検出された遺構と遺物

ほぼ平坦となるが、重複する中央部分は不明。壁高は15～27cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-58°-Eを向き、残存状態は悪く、煙道部のみである。袖部は残存していないが、燃烧部は壁の内側にあったと考えられ、煙道部は外側へ突出する。残存規模は、残存長(0.82)m、幅(0.50)mを測る。燃烧部底面は床面と同じ平坦か。煙道部は斜位に立ち上がる。
遺物：出土した遺物量は少ないが、1の甕がカマドの左脇の床面直上に正位で、2の甕の完形品が北隅の壁に倒れかかるように出土している。

出土遺物として、土器2点を図示した。1は土師器の甕で、胴部外面の上半および内面下位に刷毛目が残る。2は土師器の甕で、胴部外面の上半はへら磨きとなる。

未掲載遺物には、土師器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。

2区58号竪穴建物

(第191～193図、第13・118表、PL.63・64・207・208)

平成27年度の調査で検出した。第1面調査時の2区58号土坑に中央部を壊されている。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南東端に位置し、北西側に2区62・76号竪穴建物、西側に2区57・65号竪穴建物が近接する。

グリッド：V～X-112・113

座標値：X61,109～61,115 Y=-93,556～93,562

形状：長方形

規模：長軸5.05m 短軸4.65m 壁高24cm

長軸方向：N-42°-W 床面積：20.39㎡

埋没土：黒褐色土を主とした1・2層、壁際に3層とした暗褐色土とに分層できる。また、2層中には炭化物や焼土ブロックを多く含む。なお、埋土中には多くの遺物と共に中・大型礫が含まれており、人為的堆積の可能性が高い。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近の床面の硬化が著しい。また、カマド右側となる貯蔵穴の周囲には薄くローム土が張られていた。壁高は24cm前後を測り、や

や垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-47°-Eを向き、残存状態はやや良。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存規模は、全長1.82m、幅(0.60)mを測る。袖は壁から45cmほど突き出るようであり、両先端に袖石をもつ。さらに、袖石から続く燃烧部内壁に両側壁石が3・4石並ぶ。煙道部に側壁石は続かない。焚き口部から燃烧部の底面は床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。なお、煙道部の内壁は被熱して焼土化が著しい。

貯蔵穴：2基の貯蔵穴を検出した。貯蔵穴1はカマドの右側となる東隅付近にあり、上面形は大きな不整楕円形(長軸98cm、短軸80cm)を呈し、その内側に長軸60cm、短軸40cmを測る楕円形の二重掘り込みとなり、深さ48cmで、黒褐色土を埋土とする。貯蔵穴2は貯蔵穴1の南西側となる南東壁際にあり、上面形は一辺53cmの正方形を呈し、深さ18cmを測る。埋土は黒褐色土。

柱穴：支柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸38cm前後、短軸34～38cm、深さ44～48cmを測り、埋土は黒褐色土である。

床面下：床面下を調査した結果、明らかな掘り込みは不明。

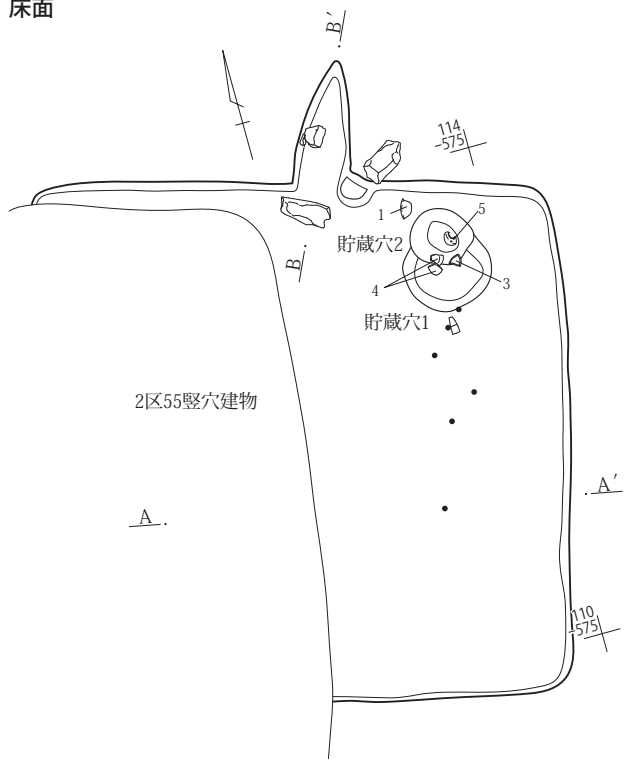
遺物：出土した遺物量は多く、埋土中からの出土も多い。床中央付近に遺物が集中し、床面直上に14の甕が横転した状態、15の甕が潰れた状態で出土し、その周辺に13・16の甕が床面のやや上から出土している。また、北西壁付近の床面やや上に、8の有孔鉢と10の小型甕が並んで出土している。なお、貯蔵穴1内から6の高杯が出土している。

出土遺物として、土器16点を図示した。1～5は土師器の杯で、全て内面にへら磨きを施し、1～3は内斜口縁となる。6は土師器の高杯の脚部で、外面にへら磨きを施す。7は須恵器の杯蓋片である。8は土師器の有孔鉢で、9は土師器の甕の胴下半である。10は土師器の小型甕で、11～16は土師器の甕である。

未掲載遺物には、土師器の内斜口縁杯片や甕片が多量にある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。

床面



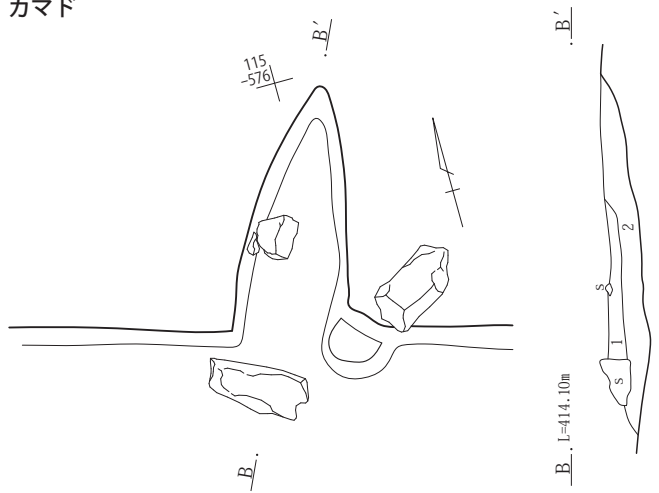
A. L=414.00m

2区55豎建

1 黒褐色土 白色鈹・黄褐色鈹物粒を含む。

0 1:60 2m

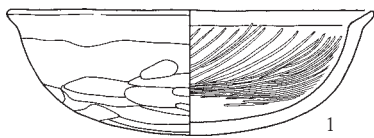
カマド



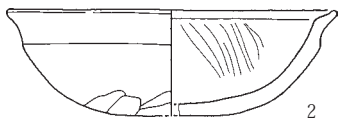
1 黒褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。

2 黒褐色土 1層に近いがやや明るく焼土粒を多く含む。

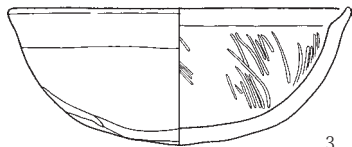
0 1:30 1m



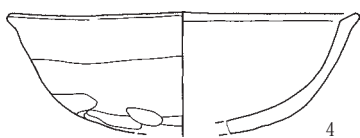
1



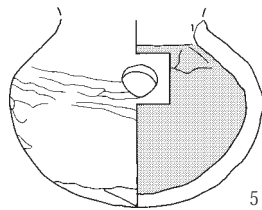
2



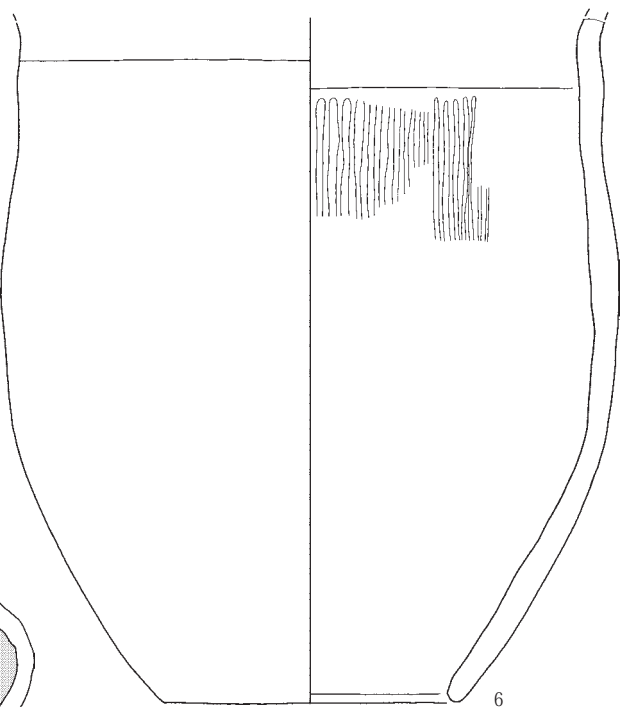
3



4



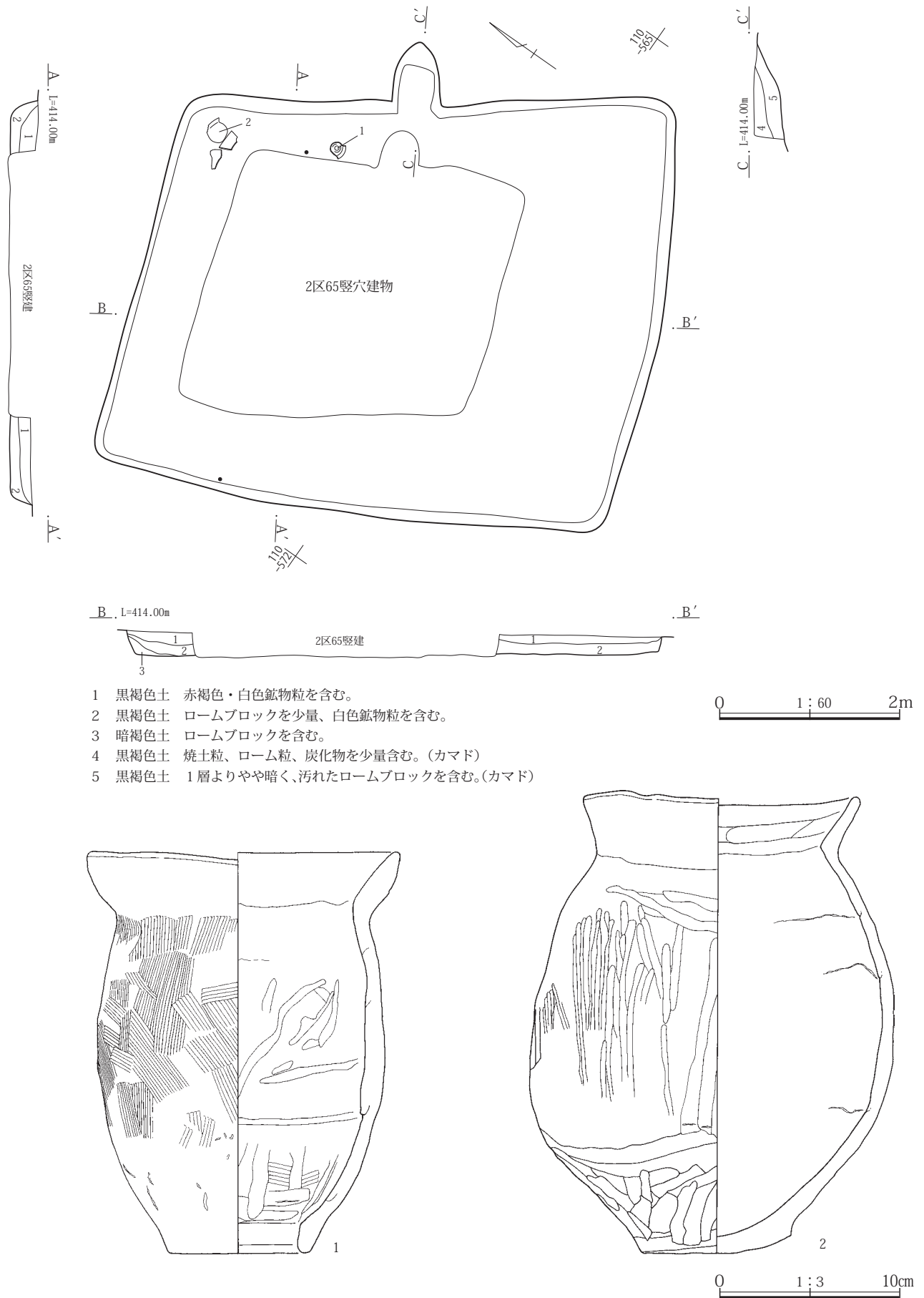
5



6

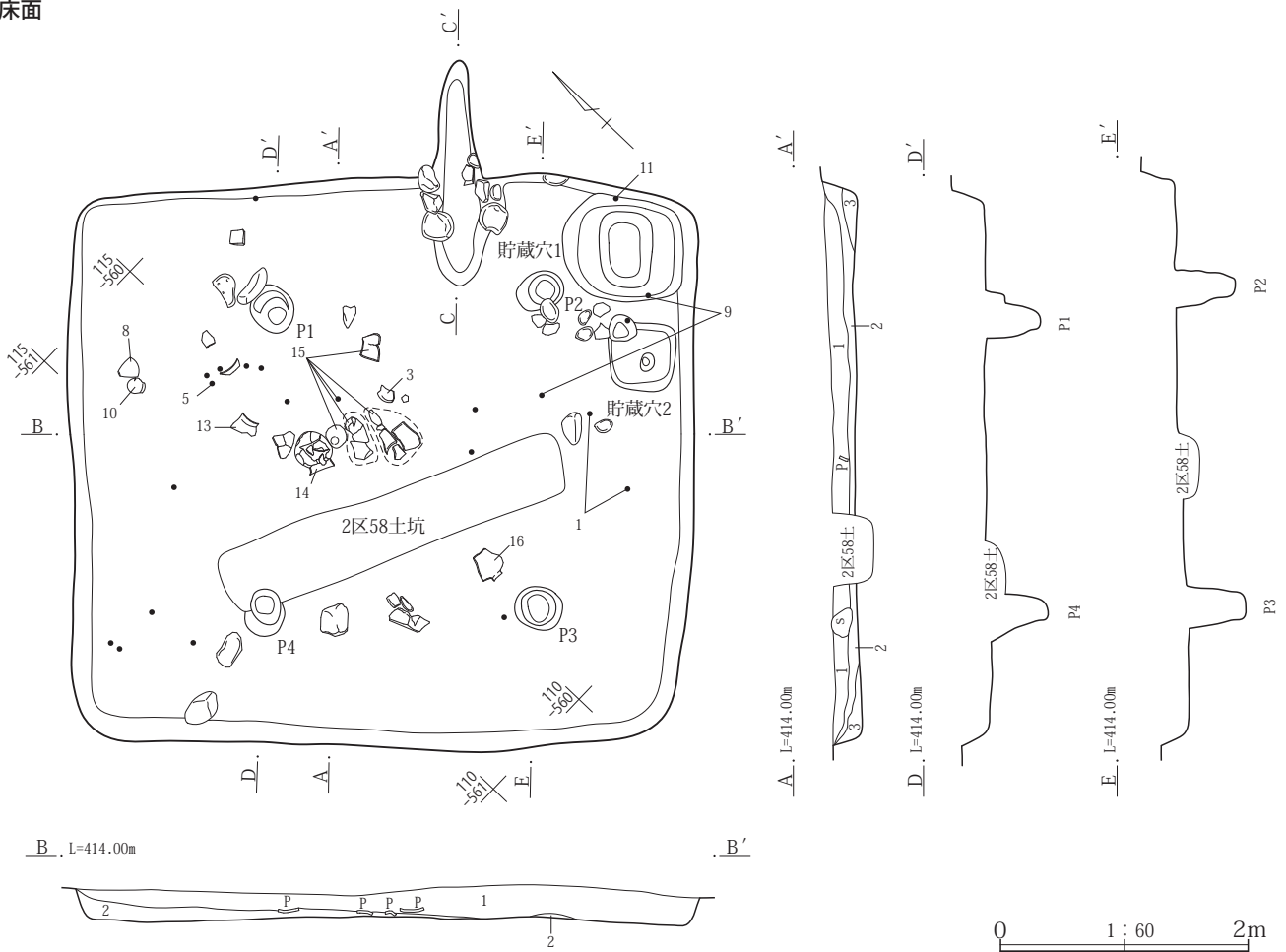
0 1:3 10cm

第189図 2区56号豎穴建物 床面、カマド 平・断面図、出土遺物



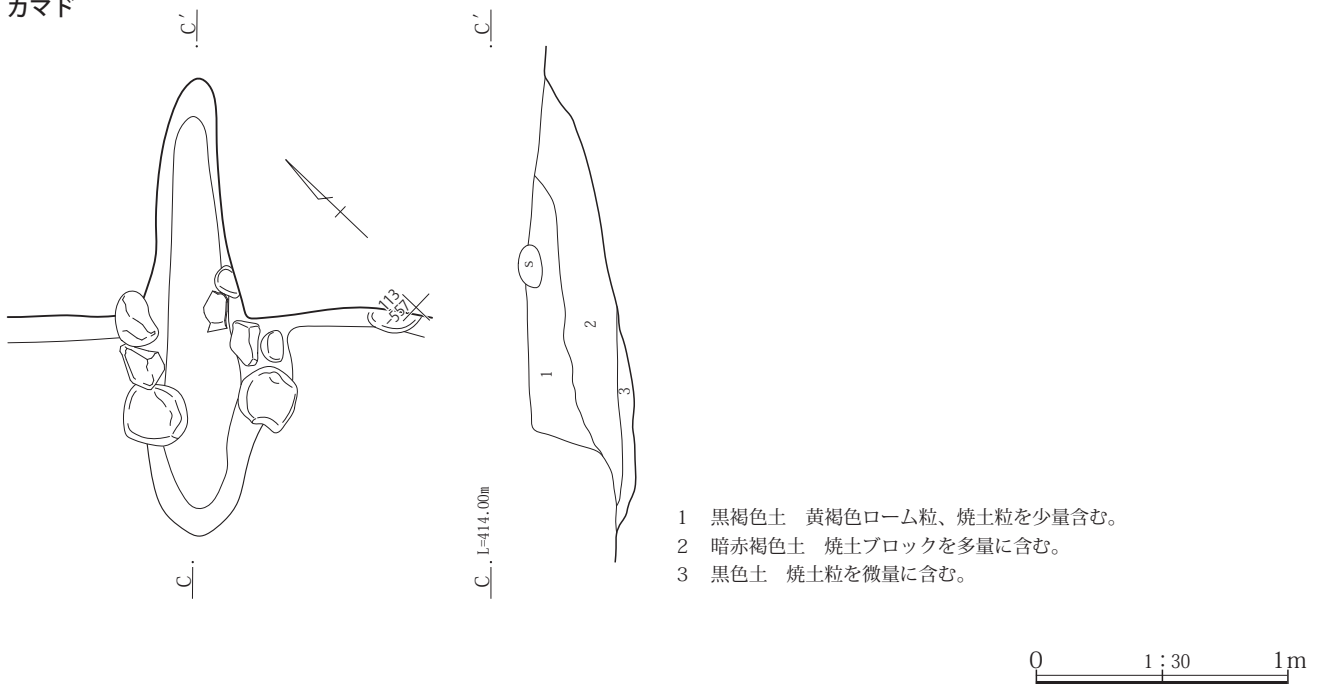
第190図 2区57号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

床面



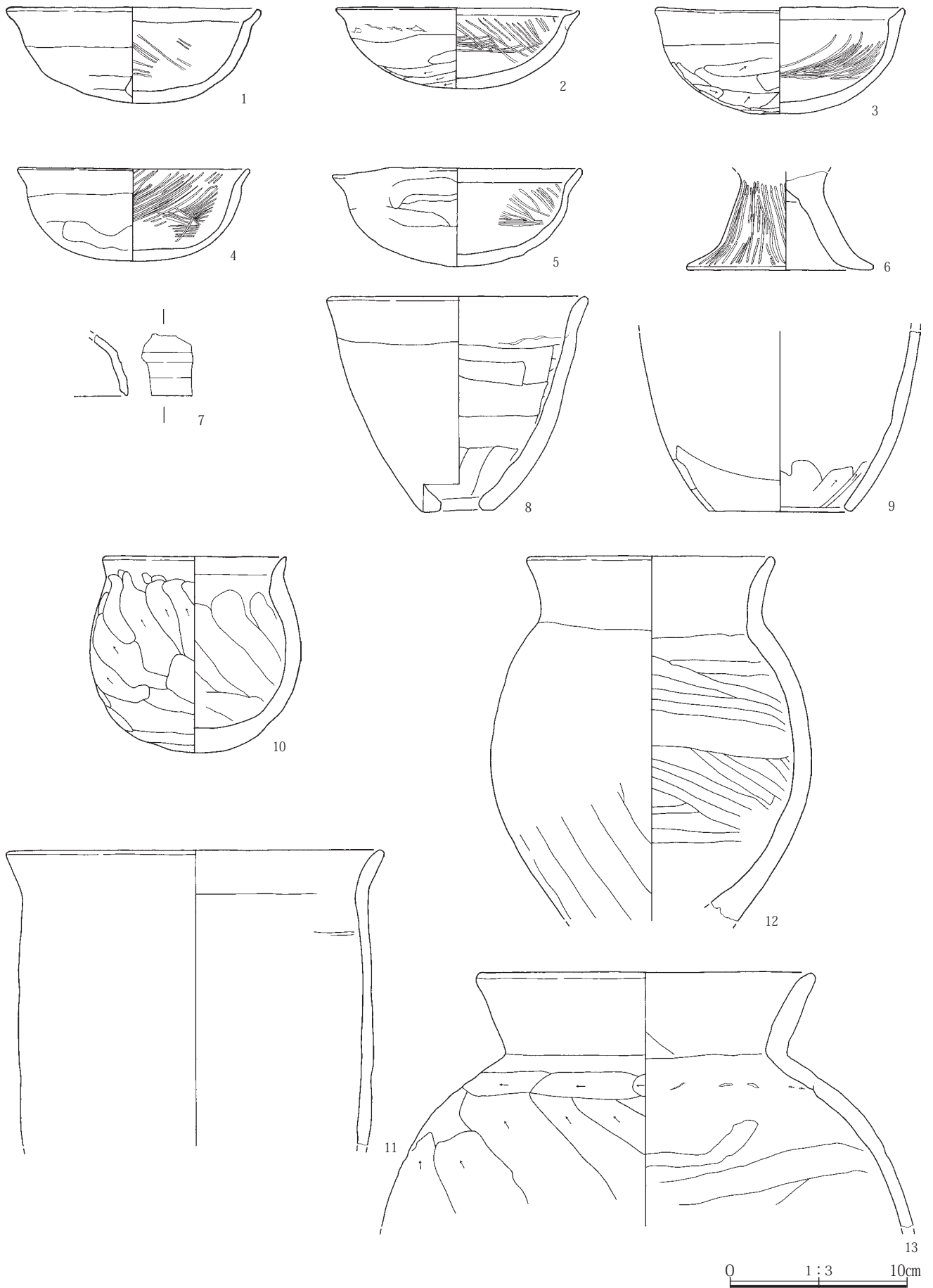
- 1 黒褐色土 赤褐色・白色鈹物粒と少量の炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを少量、白色鈹物粒を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。

カマド

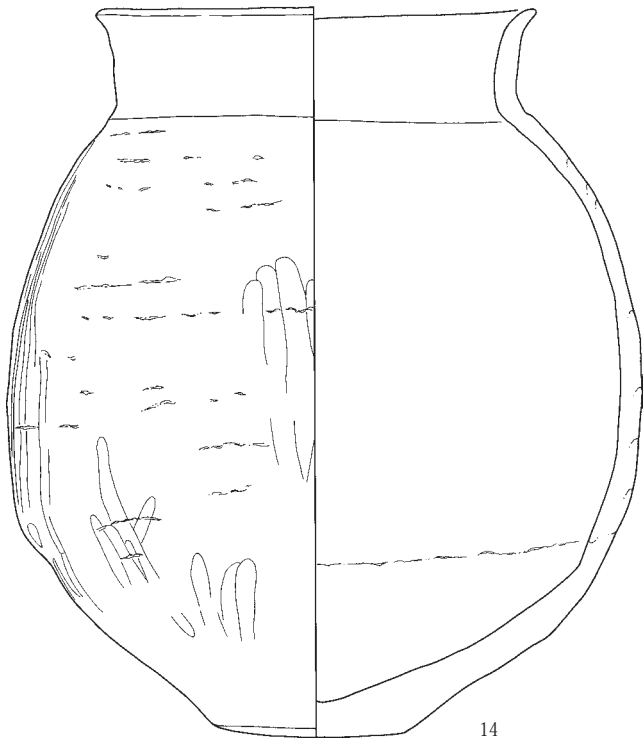


- 1 黒褐色土 黄褐色ローム粒、焼土粒を少量含む。
- 2 暗赤褐色土 焼土ブロックを多量に含む。
- 3 黒色土 焼土粒を微量に含む。

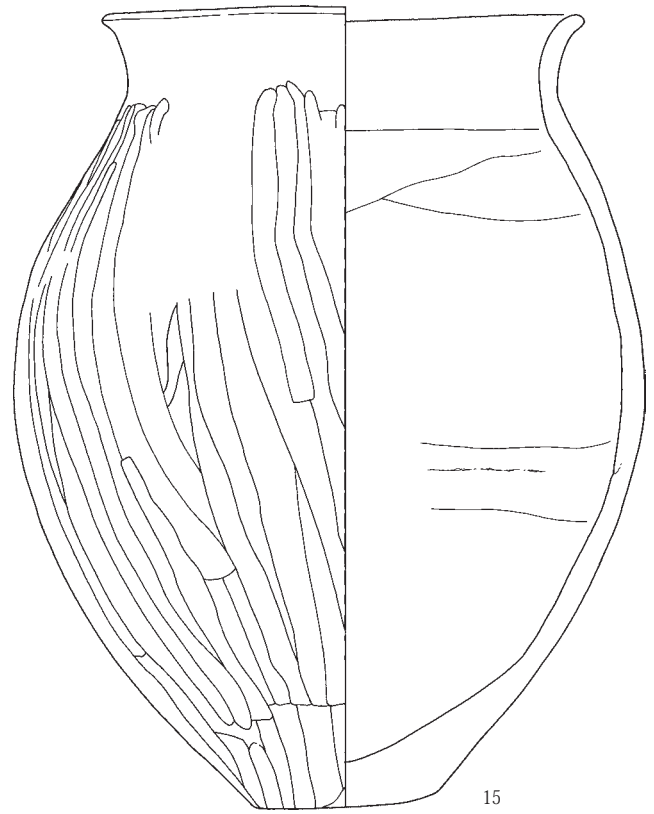
第191図 2区58号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



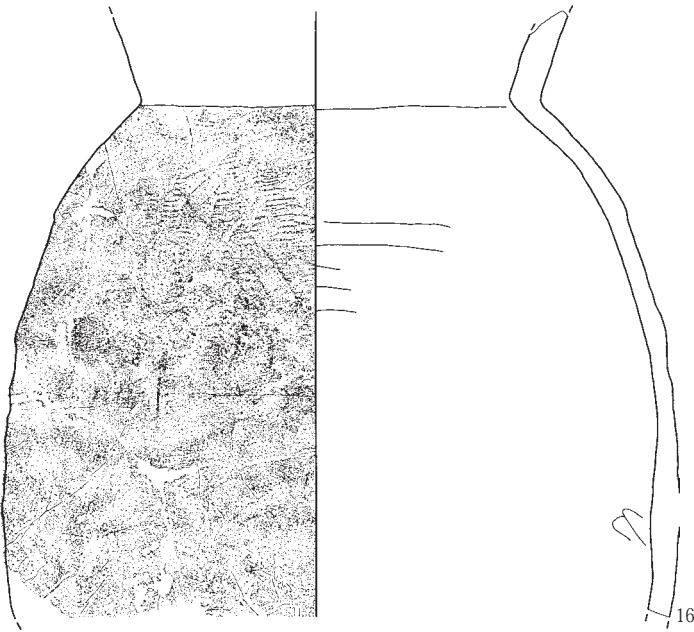
第192図 2区58号竪穴建物 出土遺物(1)



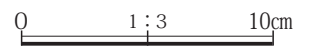
14



15



16



第193図 2区58号竪穴建物 出土遺物(2)

2区59号竪穴建物(第194~196図、第13・119表、PL.64・65・208~210)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南側の一角に位置する。北側から東側にかけてに2区62・75・76・82号竪穴建物、南側に2区57・65号竪穴建物、南西側に2区55・56号竪穴建物が近接する。

グリッド：X-114・115

座標値：X=61,115~61,119 Y=-93,568~93,572

形状：方形

規模：長軸3.67m 短軸3.48m 壁高26~30cm

長軸方向：N-70°-E 床面積：10.75㎡

埋没土：黒褐色土を主とした1・2層、壁際の3層に分層できる。また、2層中には炭化物や焼土ブロックを多く含む。なお、埋土中には多くの遺物と共に中・大型礫が含まれており、人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下面にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近の床面の硬化が著しい。床面上には多くの炭化材が散在し、床中央付近が被熱して焼土化していた。壁高は26~30cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方向はN-68°-Eを向き、残存状態は良好。燃燒部は壁の内側にあり、煙道部は外側へやや長く突出する。残存規模は、全長1.17m、幅0.80mを測る。袖は壁から45~50cmほど突き出るようにあり、両先端に袖石をもつ。カマド前の床面上には扁平な大型棒状礫が出土しており、焚き口部に架かる天井石と考えられる。焚き口部から燃燒部の底面は床面より僅かに低くなり、煙道部は燃燒部奥から斜位に立ち上がる。なお、燃燒部の内壁は被熱して焼土化が著しい。

カマドの構築状況は、袖部先端に袖石を据え、その後鈍い黄褐色土を袖の構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近にあり、上面形は楕円形を呈し、長軸78cm、短軸66cm、深さ54cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

柱穴：ピットを5基検出したが、全て深さ15cmほどと浅く、その配置からも主柱穴とは考え難い。円形ないし楕円形で、長軸35~40cm、短軸26~35cmを測り、埋土は黒褐色土である。

床面下：床面下には浅い掘り込みをもち、中央部が15cmほどと最も低くなる。底面は凹凸状となり、埋土はロームブロックを含む暗褐色土で、上面ほど硬く締まる。

遺物：出土した遺物量はかなり多量で、完形品の出土もかなりある。また、埋土中からの出土も多い。カマドの左袖脇の床面直上からは、4の完形品の有孔鉢が逆位で出土している。カマドの右袖右脇となる貯蔵穴上面に、6の甗、7・9・10の甗が横位に潰れた状態で、貯蔵穴脇となる南東壁際からは2の環が出土している。さらに、中央の床面直上に3の台付鉢、8・12の甗が、北寄りの床面直上に5の小型壺が出土している。一方、床面上に散在する炭化材の状況は、壁側から中央へ向かうようにあり、板材が多い。

出土遺物として、土器13点を図示した。全て土師器である。1・2は杯で、1は内面にへら磨きを施す。3は台付鉢で、口縁部は横ナデ後に間隔をあけた縦のへら磨き、さらに鉢身部内面にもへら磨きを施す。4は有孔鉢で、体部の外・内面にへら磨きを施す。5は小型壺で、6は甗。7~13は甗で、7・8の胴部外面にはへら削り後にへら磨きが施されている。

未掲載遺物には、土師器片が多量にある。

所見・時期：床面に出土した炭化材の状況および床面の被熱から、焼失家屋と考えられる。建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区63号竪穴建物(第197図、第13・122表、PL.67・212)

平成26年度の調査で、3区19号竪穴建物としてカマドを含む東隅付近を調査したが、その西側の大半を平成28年度調査で2区63号竪穴建物として調査した。調査区を跨いだ同一の竪穴建物であることから、記述は本項で扱う。

位置：2区の東端に位置し、2区と3区に跨がる。北側に2区77号竪穴建物、西側に2区58・62号竪穴建物が近接する。

グリッド：W・X-109・110

座標値：X=61,112~61,117 Y=-93,544~93,549

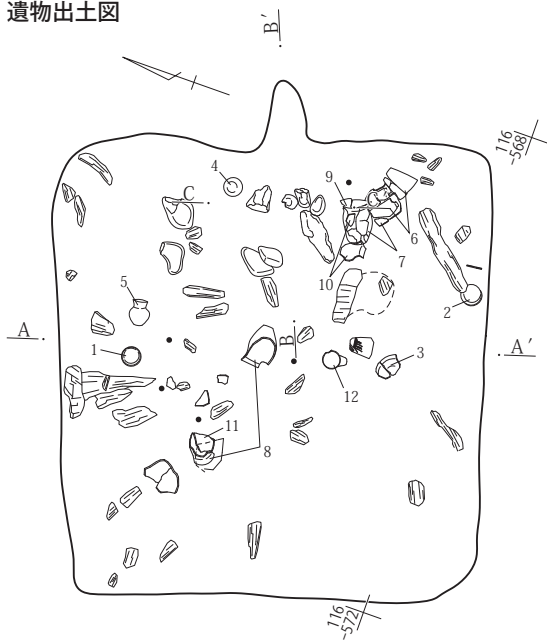
形状：方形

規模：長軸4.06m 短軸3.98m 壁高4~12cm

長軸方向：N-37°-W 床面積：14.68㎡

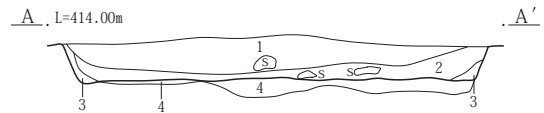
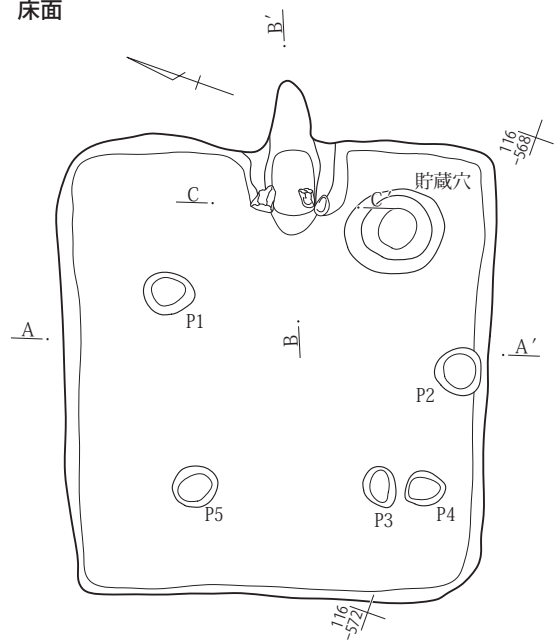
埋没土：1層とした黒褐色土を埋土とする。

遺物出土図



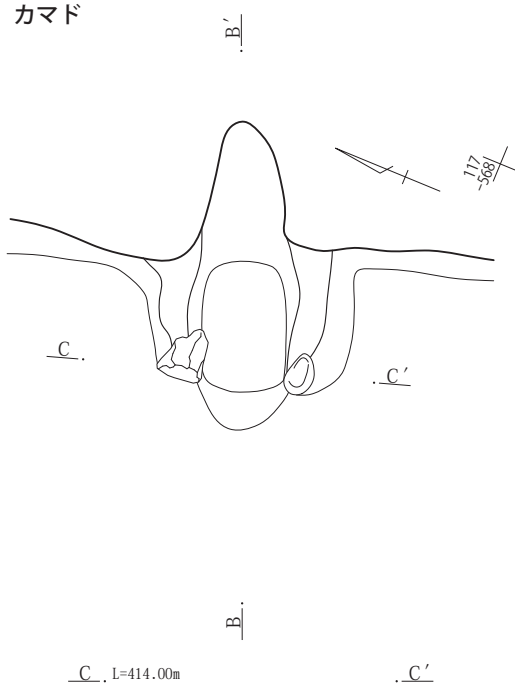
- 1 黒褐色土 ロームブロック、焼土粒、炭化物を少量含み、大型礫を混入する。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック、炭化材を多く含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックと焼土粒を少量含む。(床下土)

床面



0 1:60 2m

カマド



- 1 黒褐色土 炭化粒、黄褐色粘土ブロックを含み、礫を混入する。
- 2 黒褐色土 黄褐色土粘土粒、下位には焼土ブロックを少量含む。
- 3 鈍い赤褐色土 黄褐色粘土ブロック、焼土ブロックを主体に混入する。
- 4 黒褐色土 僅かに焼土ブロックが混入する。
- 5 鈍い黄褐色土 黄褐色粘質土ブロックを多く含み、硬く締まる。(袖構築土)

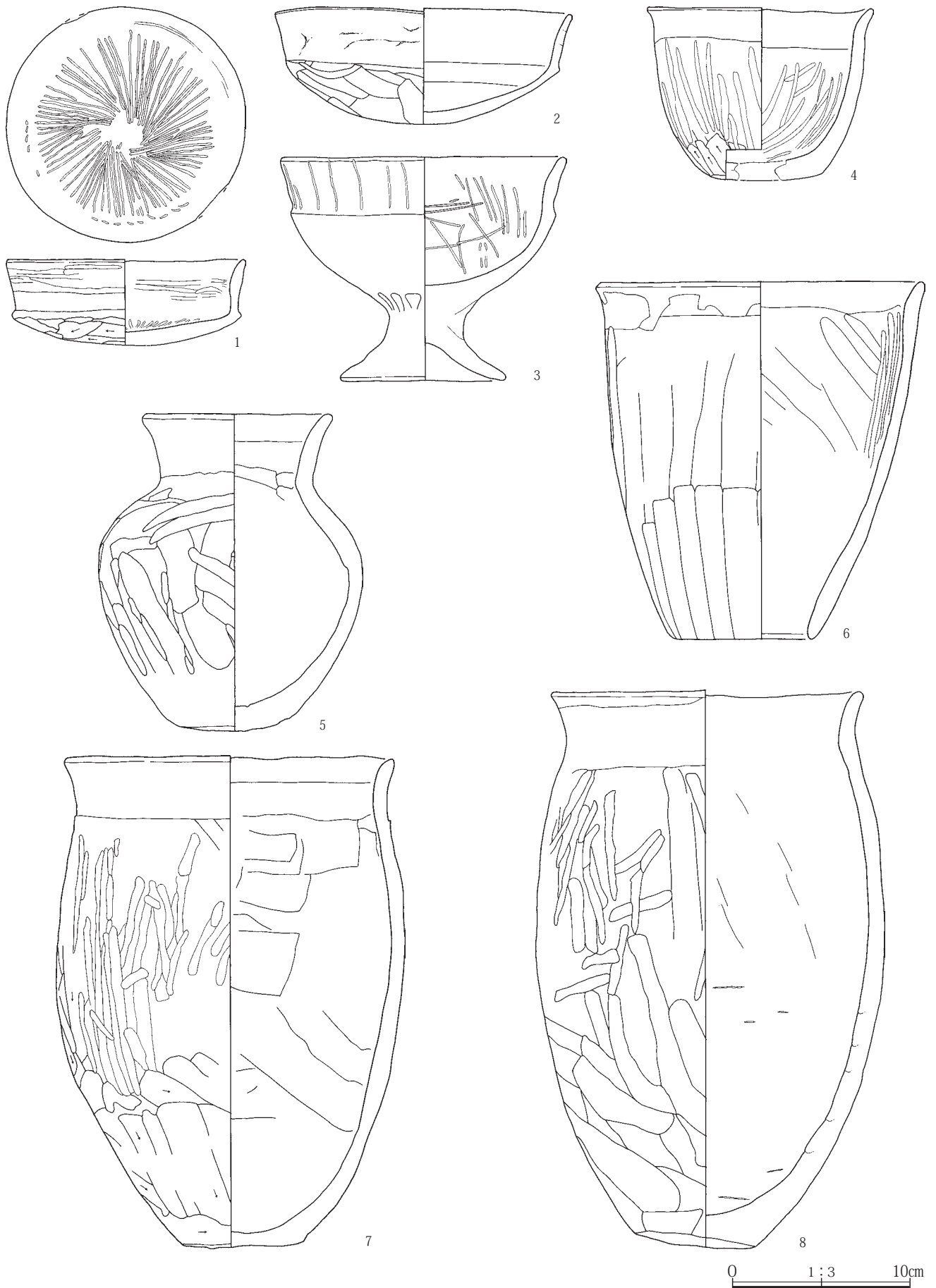
C, L=414.00m

B, L=414.00m

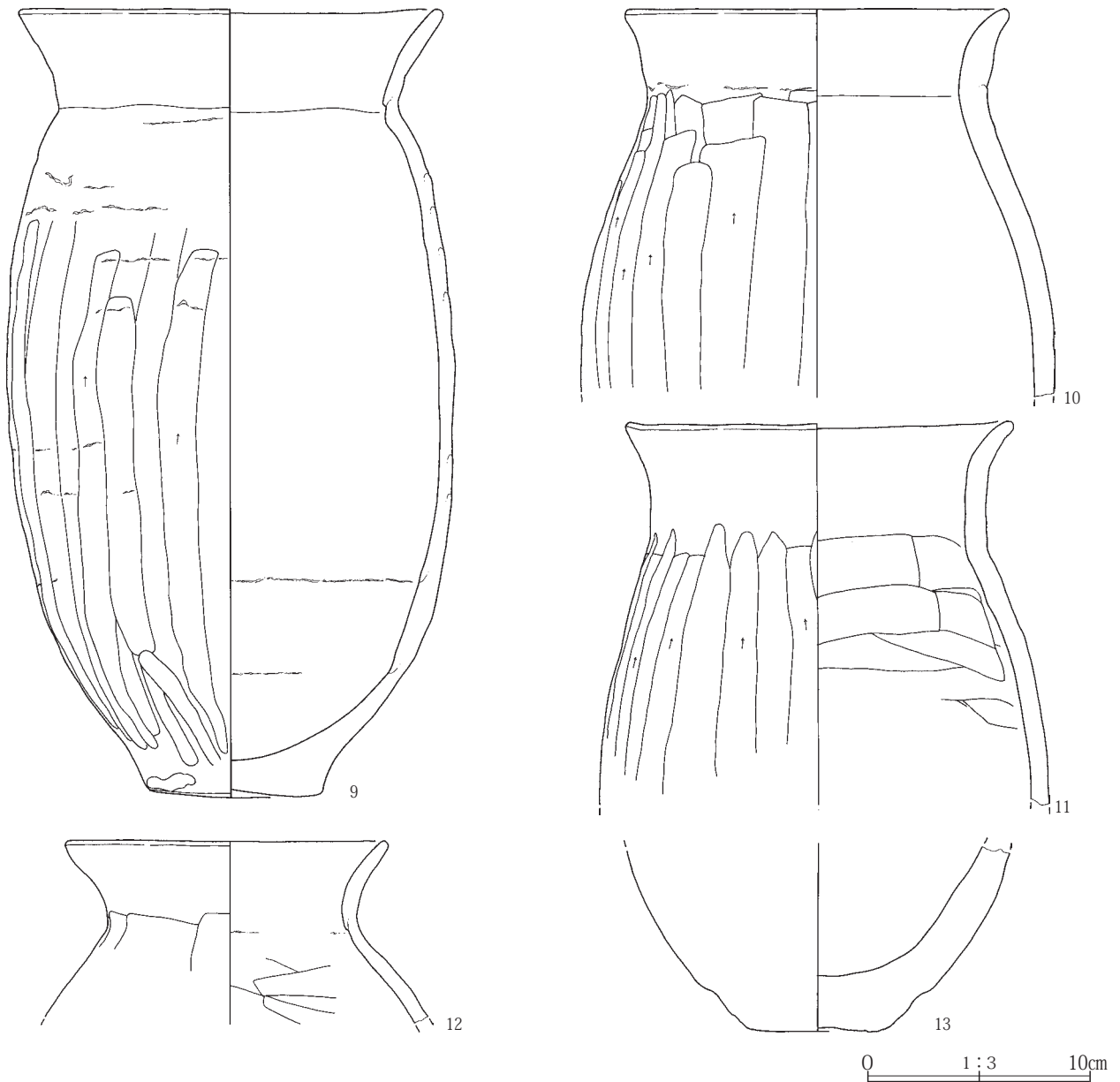


0 1:30 1m

第194図 2区59号竪穴建物 遺物出土図、床面、カマド 平・断面図



第195図 2区59号竪穴建物 出土遺物(1)



第196図 2区59号竪穴建物 出土遺物(2)

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下位にあり、ほぼ平坦で、全体にやや硬化ぎみ。壁高は8cm前後と浅く、斜位に立ち上がる。

カマド：北東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-55°-Eを向き、残存状態はかなり悪い。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ短く突出する。残存規模は、全長0.93m、幅0.76mを測る。右袖は壁から45cmほど突き出るようにあるが、左袖の詳細は不明。焚き口部から燃烧部の底面はほぼ平坦で、煙道部は斜位に立ち上がる。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近にあり、上面形は楕円形を呈し、長軸56cm、短軸50cm、深さ58cmを測り、

暗褐色土を埋土とする。

柱穴：ピットを4基検出したが、全て深さ13cmほどと浅く、その配置からも主柱穴とは考え難い。埋土は黒褐色土である。

遺物：遺構の残存状態に比べ出土した遺物量は多く、床面直上からの出土としてカマドの右袖脇から5・6の鉢、左袖脇から1の坏と8の甕の底部が出土し、南東壁際付近から2の坏が出土している。

出土遺物として、土器8点と石製品1点、金属製品1点を図示した。土器は全て土師器である。1～3は杯で、1・2は内斜口縁となり、内面にヘラ磨きを施す。4は高杯の脚部。5・6は鉢で、7・8は甕の底

部である。

石製品の9は滑石製の白玉で、鈍い黄橙色をなし、径0.7cm、厚さ0.4cm、孔径3mm、重さ0.40gを測る。

金属製品の10は鉄製の鍬先で、刃長8.9cm、刃幅10.8cmを測る完形品。鏑の付着がひどいが、断面はY字型。

未掲載遺物には、土師器片がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。

2区65号竪穴建物

(第198～200図、第13・123表、PL.67・68・212～214)

平成27年度の調査で検出した。2区57号竪穴建物と重複する。遺構確認時は2区57号竪穴建物として調査を開始したが、調査の途中段階で内側に本竪穴建物の存在が明らかとなり、本建物を先行して調査を再開した。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南側で、南壁付近に位置し、2区57号竪穴建物の中央部に重複する。

また、北側に2区59・62号竪穴建物、東側に2区58号竪穴建物、西側に2区55・56号竪穴建物が近接する。

グリッド：V・W-114・115

座標値：X=61,109～61,112 Y=-93,567～93,571

重複：2区57号竪穴建物の内側中央部に重複する。遺構確認では判明していなかったが、調査途中で検出されたカマドのあり方および土層断面の確認から、新旧は本建物の方が新しい。

形状：長方形

規模：長軸3.25m 短軸2.90m 壁高23～30cm

長軸方向：N-29°-W 床面積：(7.98)m²

埋没土：黒褐色土を主とし、1・2層に分層できる。なお、埋土中には多くの遺物と共に中・大型礫が含まれており、人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下面にあり、ほぼ平坦。また、重複する2区57号竪穴建物の床面より本建物の方が若干低い。壁高は23～30cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-67°-Eを向き、燃烧部の側壁石が確認できた残存状態の良好な石組みカマドである。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側に短く突出する。カマドの

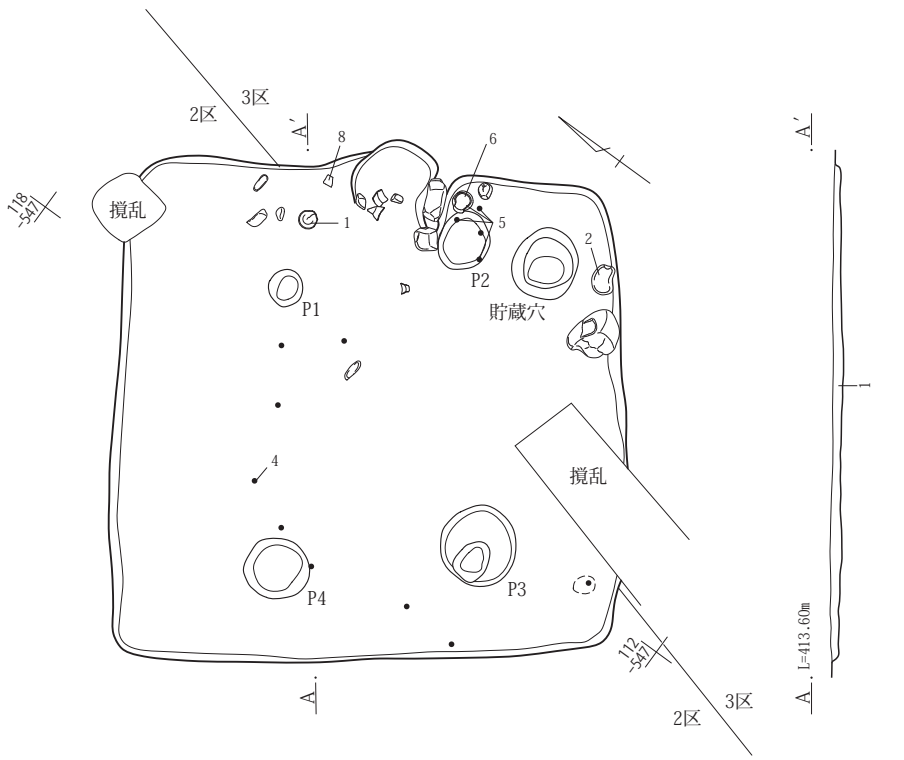
規模は、全長0.91m、幅(0.58)mを測る。袖は壁から60cmほど突き出るようであり、両先端に袖石が存在する。この袖石に架かるように、焚き口部天井石が3分割状態で落ち込んでいた。また、燃烧部内には甕を含む複数の土器が、原位置を止めるように出土した。その状況は、燃烧部中央付近に正位の入れ子状態で上に12の甕、下に甕の胴下半(未掲載)、その焚き口寄りの底面近くに3の高杯、煙道寄りの底面に4の高杯が逆位で、さらに12の甕の右脇上部に7の壺の胴部片が纏まって、左側上部に14の甕の胴部片が出土している。カマド燃烧部内壁には、袖石から続くように大型の平石で両側壁石が据えられ、左側壁石は煙道部にまで掛かる。焚き口部から燃烧部の底面は床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。因みに、焚き口部の幅は40cmを測る。

遺物：出土した遺物量はかなり多く、カマド内の状況は先述の通りで、それ以外では埋土中からの遺物が多い。中央付近には大型礫が集中し、遺物は建物内の西側に中型礫と共に集中する。また、カマド内出土の7の口縁部や14の甕の大型破片はも埋土中からである。さらに特徴的な出土のあり方として15の甕があり、北隅付近の床面直上に正位で直立して出土している。これらの出土の状況から、埋没には人為的な廃棄ないし投棄行為が想定されよう。

出土遺物として、土器15点を図示した。1・2は土師器の内斜口縁となる杯で、1の内面にへら磨きを施す。3・4は土師器の脚部を欠く高杯で、3の杯身部内面にへら磨きを施す。5は一部を欠損する須恵器の高杯で、脚部に円形孔を3カ所もつ。6は土師器の台付鉢。7は土師器の壺で、口縁部が屈曲して内反する特徴をもち、県内では類例が極めて少ない。8は土師器の甕で、胴部外面はへら磨きを施す。9は土師器の台付甕の脚部で、10は土師器の小型甕。11～15は土師器の甕で、12の胴部外面の底部付近に刷毛目が残りに、14は口縁部から胴部上位の外面および口縁部内面に刷毛目、15は胴部外面の一部および胴部内面に刷毛目が残る。

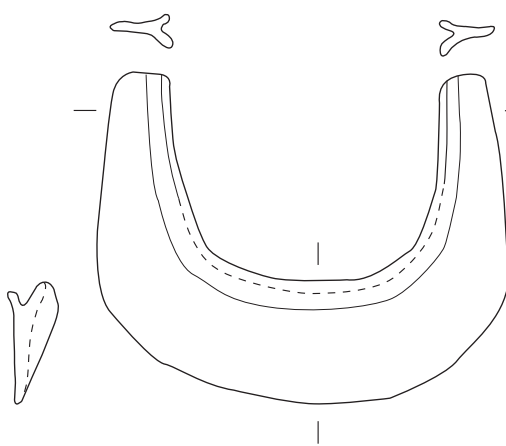
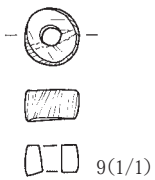
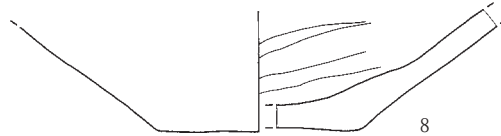
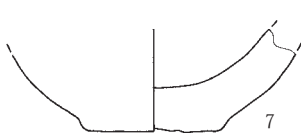
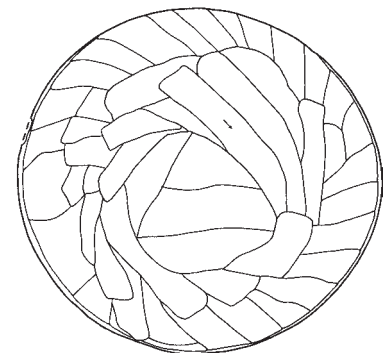
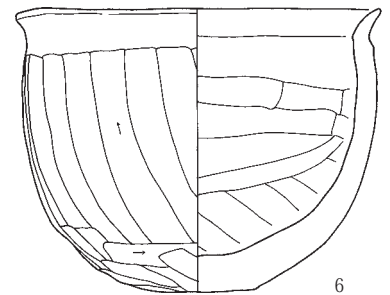
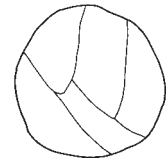
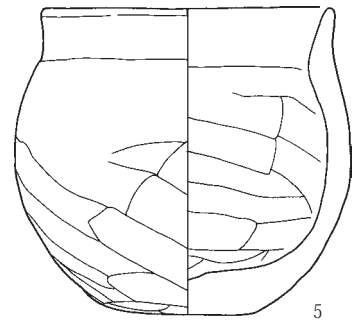
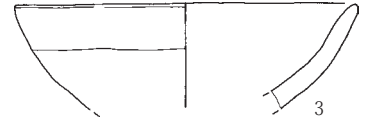
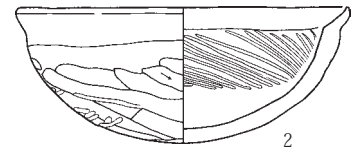
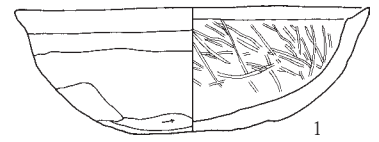
未掲載遺物には、土師器片が多量にある。

所見・時期：カマド内における遺物の出土状況は特異で、原位置ではあるものの、そのあり方は使用時の残存と



1 黒褐色土 焼土粒、ローム粒を微量、炭化物を僅かに含む。

0 1:60 2m



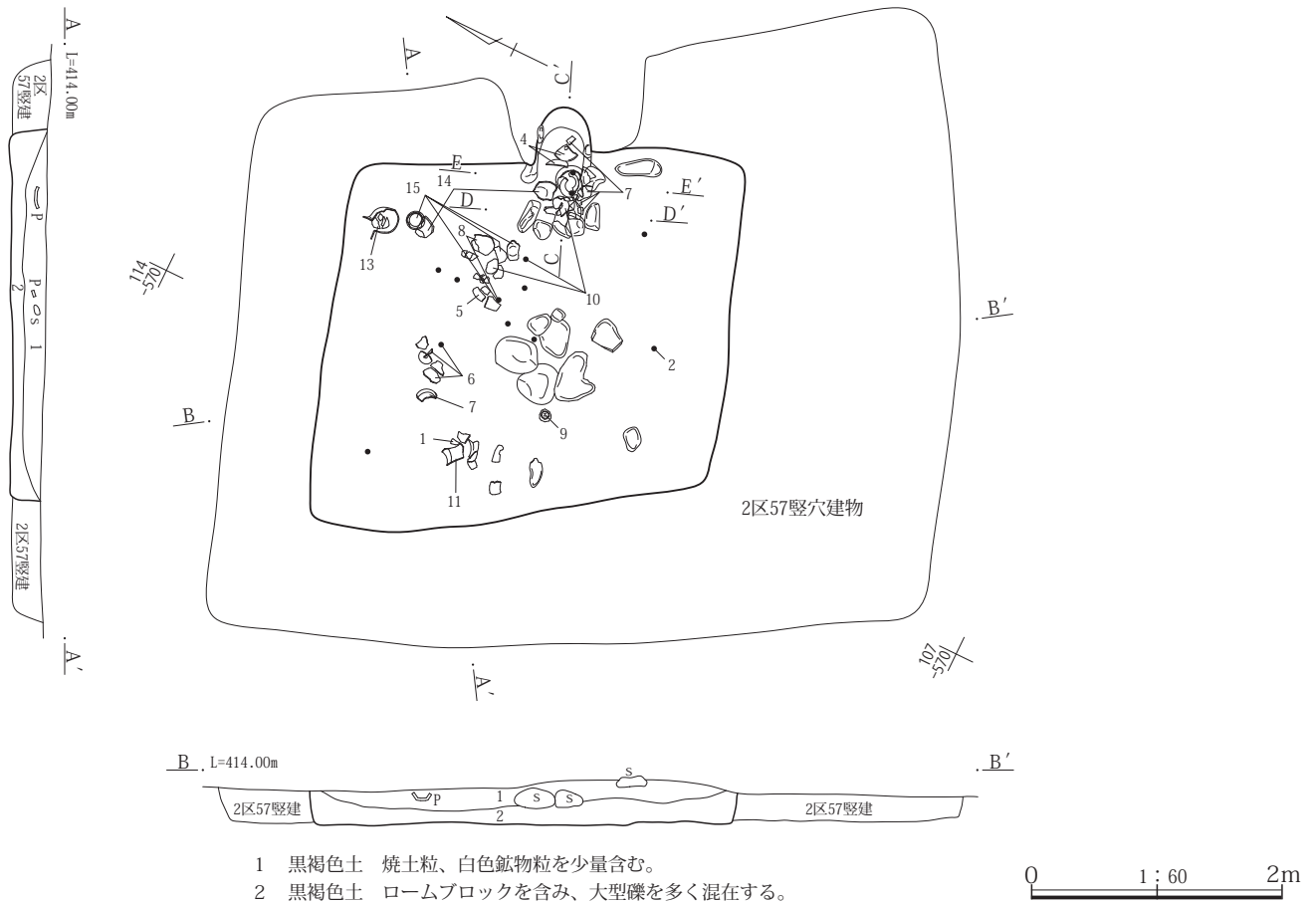
0 1:1 2cm

0 1:2 4cm

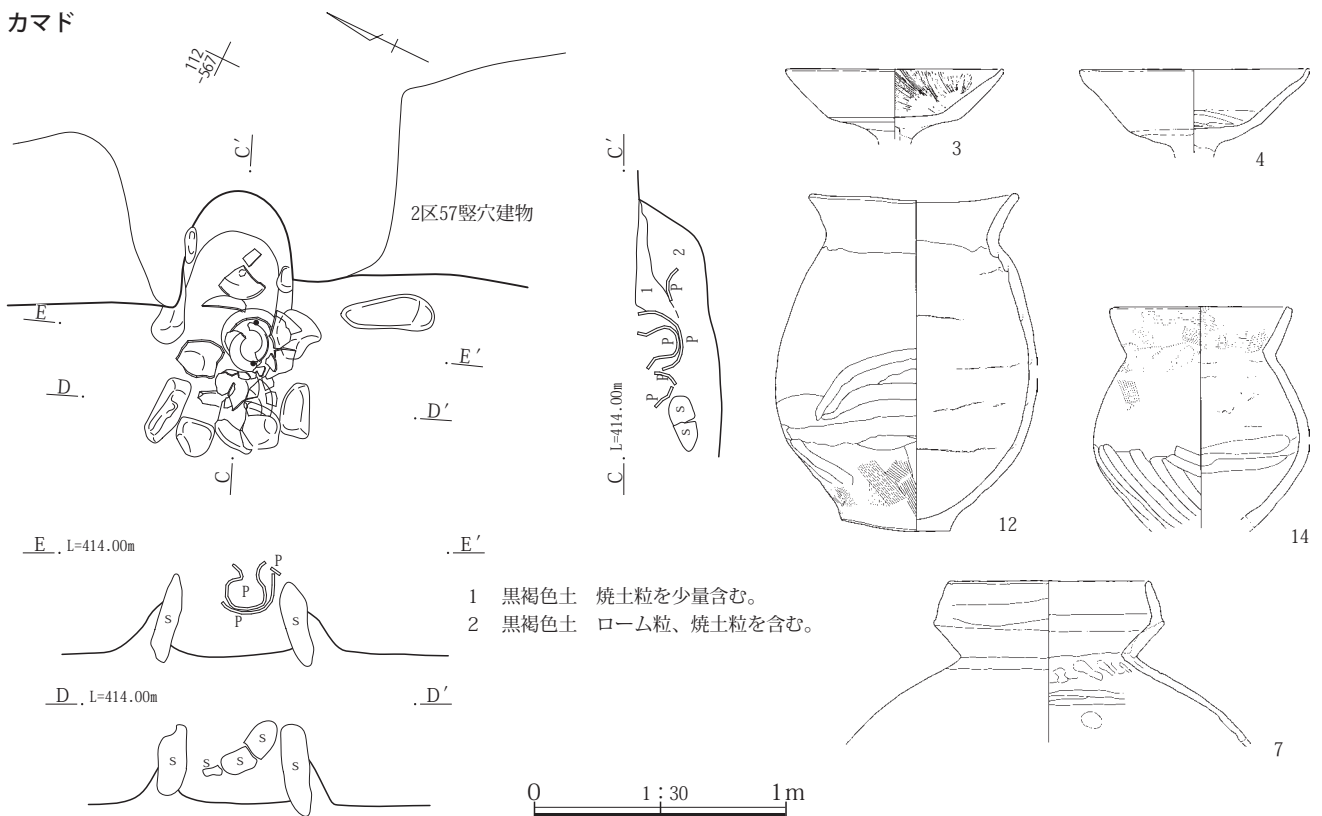
0 1:3 10cm

第197図 2区63号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

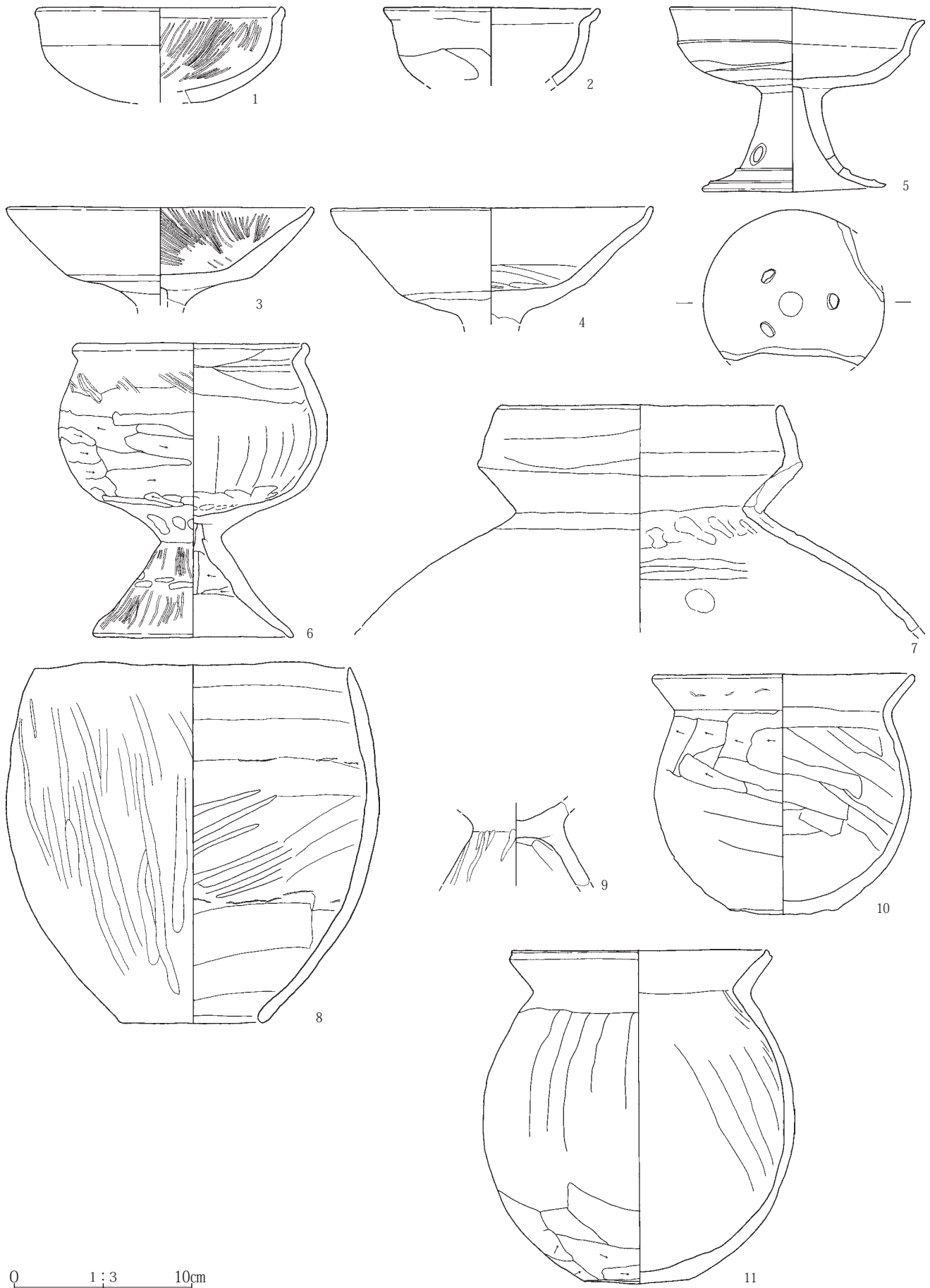
床面



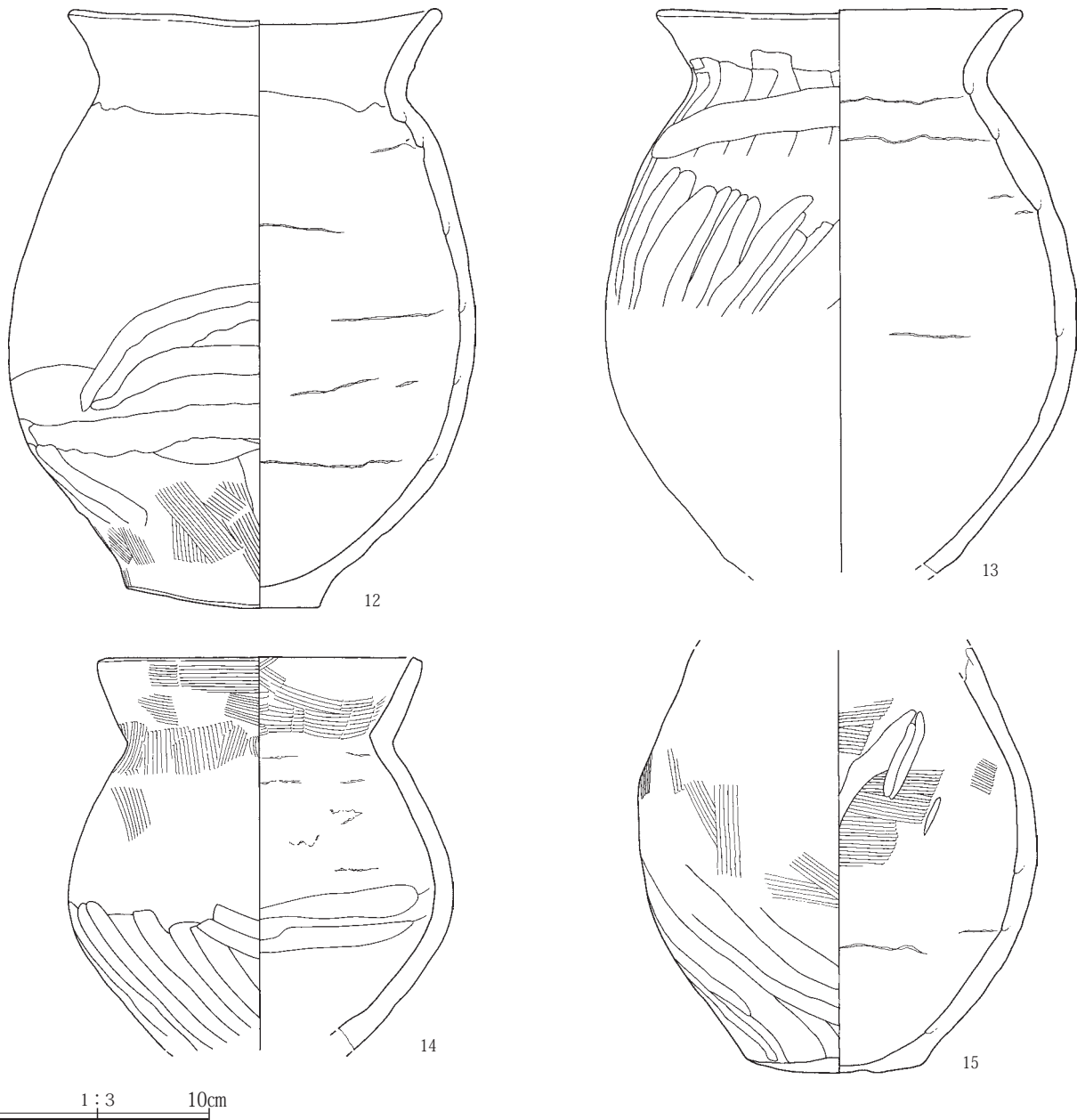
カマド



第198図 2区65号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第199図 2区65号竪穴建物 出土遺物(1)



第200図 2区65号竪穴建物 出土遺物(2)

は考え難く、むしろカマドの廃棄に伴う何らかの行為の残存の可能性が高い。建物の時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。

2区68号竪穴建物

(第201～203図、第13・126表、PL.69・70・215)

平成28年度の調査で検出した。2区67号竪穴建物と重複する。遺構確認の判別が難しく、2区67号竪穴建物と同時に調査を行ったが、その後に新旧が明らかとなった時点で67号竪穴建物に次いで調査した。

位置：2区の西側北東の北壁寄りに位置し、北西側を2

区67号竪穴建物と大きく重複する。また、東側に2区69号竪穴建物、南東側に2区40号竪穴建物、西側ないし北西側に2区39・99号竪穴建物が近接する。

グリッド：2 F・2 G-126・127

座標値：X=61,157～61,164 Y=-93,624～93,631

重複：本建物の北西側に2区67号竪穴建物が大きく重複する。遺構確認および土層断面の観察、出土遺物の確認から、新旧は本建物の方が古い。

形状：方形

規模：長軸5.51m 短軸5.23m 壁高46～55cm

長軸方向：N-72°-E 床面積：25.67㎡

埋没土：1・2層の黒褐色土を主に、壁際に3層の暗褐色土とに分層できる。

床面・壁：僅かにローム土を掘り込んだ中に床面があり、重複する2区67号竪穴建物の床面より若干低い。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて著しく硬化する。また、重複していない床面上には炭化材および大型礫が多く出土している。壁高は46～55cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：東壁の中央やや南寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-76°-Eを向き、残存状態はやや良。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長1.37m、幅(0.68)mを測る。右袖は壁から60cmほど突き出るように残存し、両袖先端に袖石を確認した。袖石の上端はやや内傾し、焚き口部の間口は37cm前後を測る。また、カマド前には両袖石に架かっていたであろう長さ43cmほどの天井石が検出されている。焚き口部から燃烧部の底面にかけては建物床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に長く立ち上がる。なお、燃烧部内には並列する2石の支脚石が残存していた。

貯蔵穴：カマドの右側となる南東隅に位置し、上面形は楕円形を呈する。長軸84cm、短軸65cm、深さ44cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸47～64cm、短軸32～54cm、深さ65～86cmを測り、埋土は黒褐色土である。他にP5がある。

周溝：カマド部分と西壁中央付近を除く各壁際を巡る。幅15cm前後、深さ10cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

床面下：建物中央部を除く壁際に、幅1.0m前後で10～30cm前後の掘り込みをもつ。底面は大小の凹凸が著しく、埋土はロームブロックを少量含む黒褐色土で硬く締まる。

遺物：本建物の半分を重複する2区67号竪穴建物に壊されていることから、出土した遺物量は少ない。床面直上に出土した遺物には、3の甕の口縁部がカマドの左脇に、2の甕が南壁付近に、そして床中央南寄りに炭化材と共に1の杯と11の台石がある。

出土遺物として、土器4点と石製品7点を図示した。土器は全て土師器である。1は杯で、2～4は甕であ

る。

石製品には5の石製模造品、6～8の白玉、9・10の磨石、11の台石である。5は滑石製で灰白色をなし、長さ2.8cm、幅2.3cm、厚さ0.9cm、重さ7.4gを測り、中央に孔を有する。白玉は全て滑石製で灰白色をなし、6は径0.8cm、厚さ0.4cm、孔径3mm、重さ0.38gを測る。7は径0.8cm、厚さ0.5cm、孔径2mm、重さ0.67gを測る。8は径1.0cm、厚さ0.5cm、孔径3mm、重さ0.70gを測る。磨石は共に粗粒輝石安山岩製で、ほぼ全面が磨面となり、9は長さ12.8cm、幅6.8cm、10は長さ9.2cm、幅7.4cmを測る。さらに、11も粗粒輝石安山岩製で、表面中央が滑らかとなり、長さ25.7cm、幅18.9cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が少量ある。

所見・時期：出土した炭化材の状況から、焼失家屋の可能性はある。建物の時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。

2区71号竪穴建物(第204図、第13・129表、PL.71・218)

平成28年度の調査で検出した。2区70号竪穴建物と重複し、建物の大半は北側の調査範囲外となる。

位置：2区の北壁中央の壁際に位置し、東側に2区70号竪穴建物が僅かに重複する。また、南東側に2区43・44号竪穴建物、南側に2区40～42号竪穴建物、西側に2区67～69号竪穴建物が近接する。

グリッド：2E～2G-123・124

座標値：X=61,154～61,160 Y=-93,611～93,618

重複：本建物の東隅付近を2区70号竪穴建物が僅かに重複する。遺構確認および土層断面の観察から、新旧は本建物の方が古い。

形状：方形か長方形

規模：長軸(4.03)m 短軸(6.57)m 壁高50cm

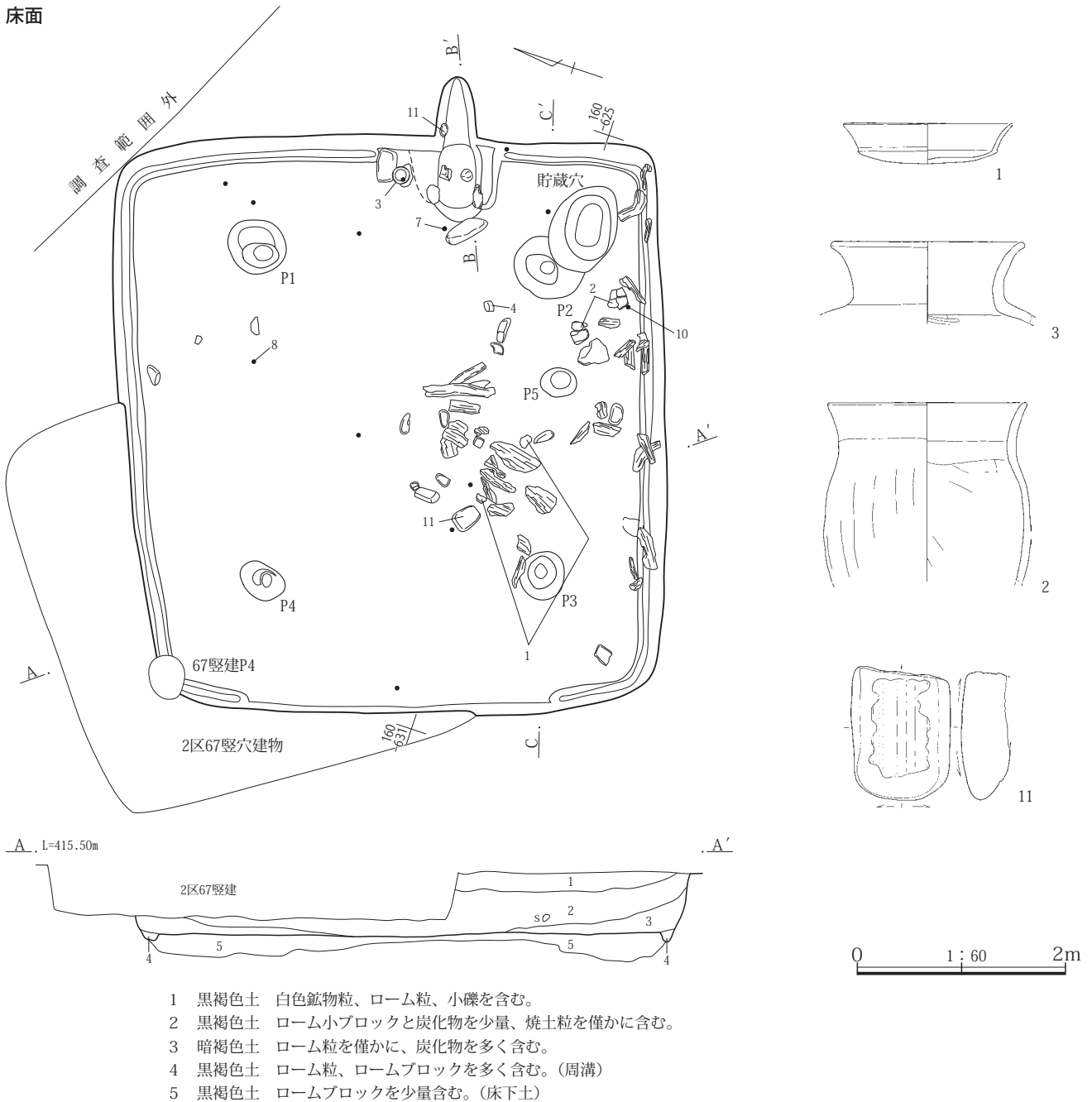
長軸方向：N-47°-E 床面積：(15.84)m²

埋没土：1層の暗褐色土を主に、壁際の2・3層とした暗褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、ほぼ平坦で、中央付近が硬化する。また、P1周辺の床面上には大型礫がまとまって出土している。壁高は50cm前後を測り、垂直ぎみに立ち上がる。

柱穴：P1・2を検出した。主柱穴は4本と考えられ、

床面



第201図 2区68号竪穴建物 床面 平・断面図

その内の2本に相当する。上面は円形ないし楕円形で、長軸60～65cm、短軸55～60cm、深さ62cmを測り、埋土は暗褐色土である。

周溝：壁際を巡り、幅15cm前後、深さ8cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

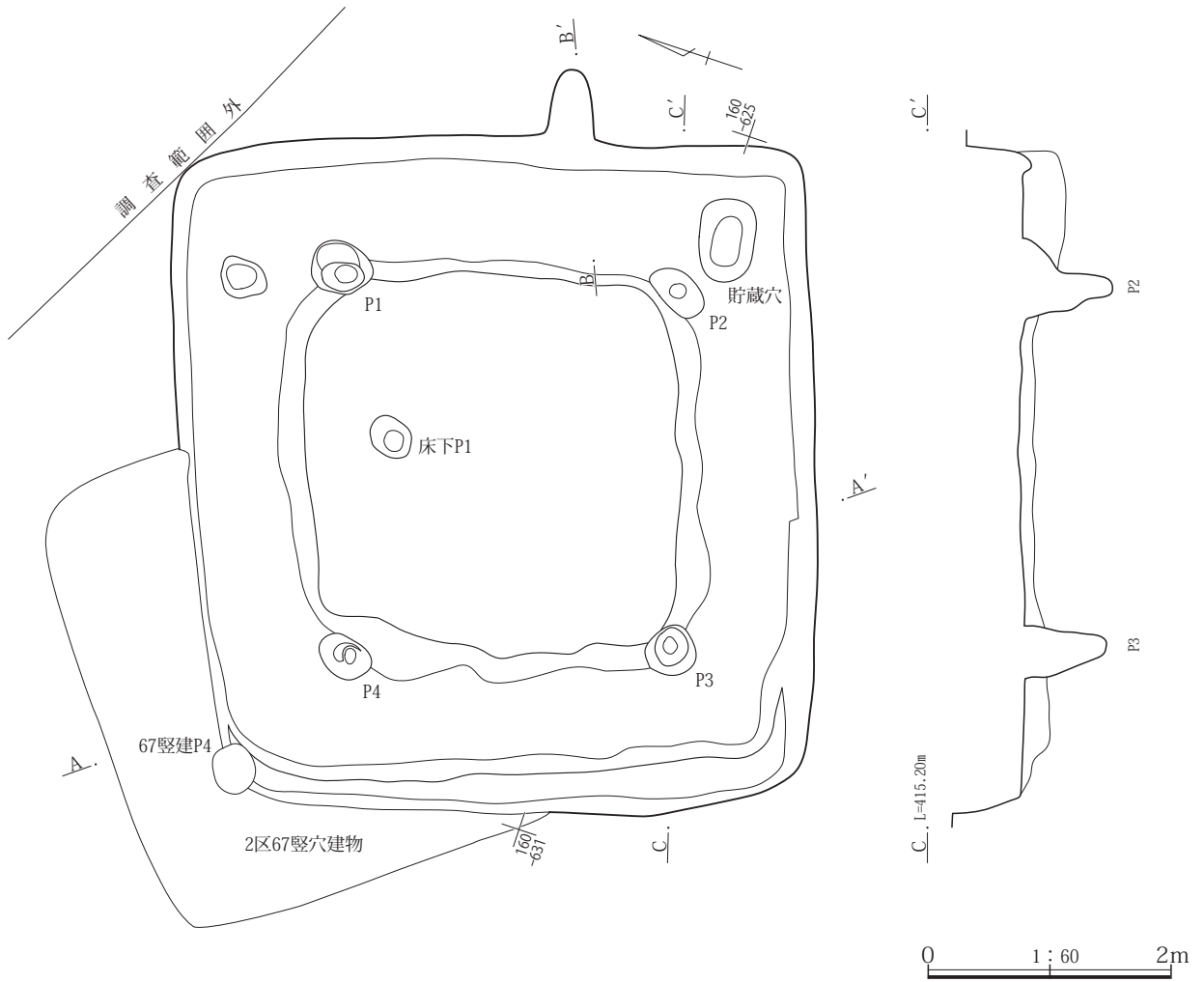
床面下：建物中央部を除く壁際に、幅1.0m前後で15～23cm前後の掘り込みをもつ。底面は大小の凹凸があり、埋土は礫を含む黒褐色土で硬く締まる。また、掘り込み上面の一部には、ロームが薄く張られていた。なお、

床下土坑を3基検出している。床下土坑1は南西壁中央付近、床下土坑2は南隅、床下土坑3はP1の北側に位置し、各々楕円形を呈して黒褐色土を埋土としている。

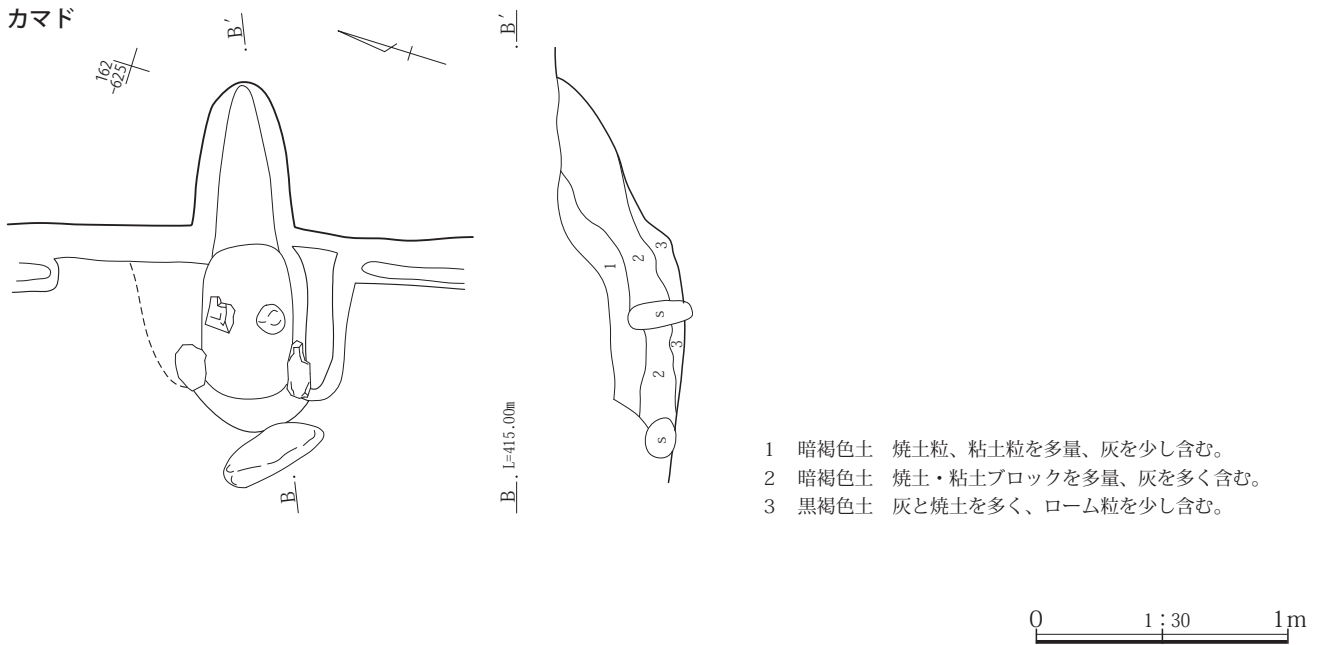
遺物：出土した遺物量は少なく、西隅付近の床面やや上に4の甕が出土している。また、薦編石と考えられる長さ20～25cm前後の3石が南東壁際の床面直上に出土している。

出土遺物として、土器4点と石製品1点を図示した。

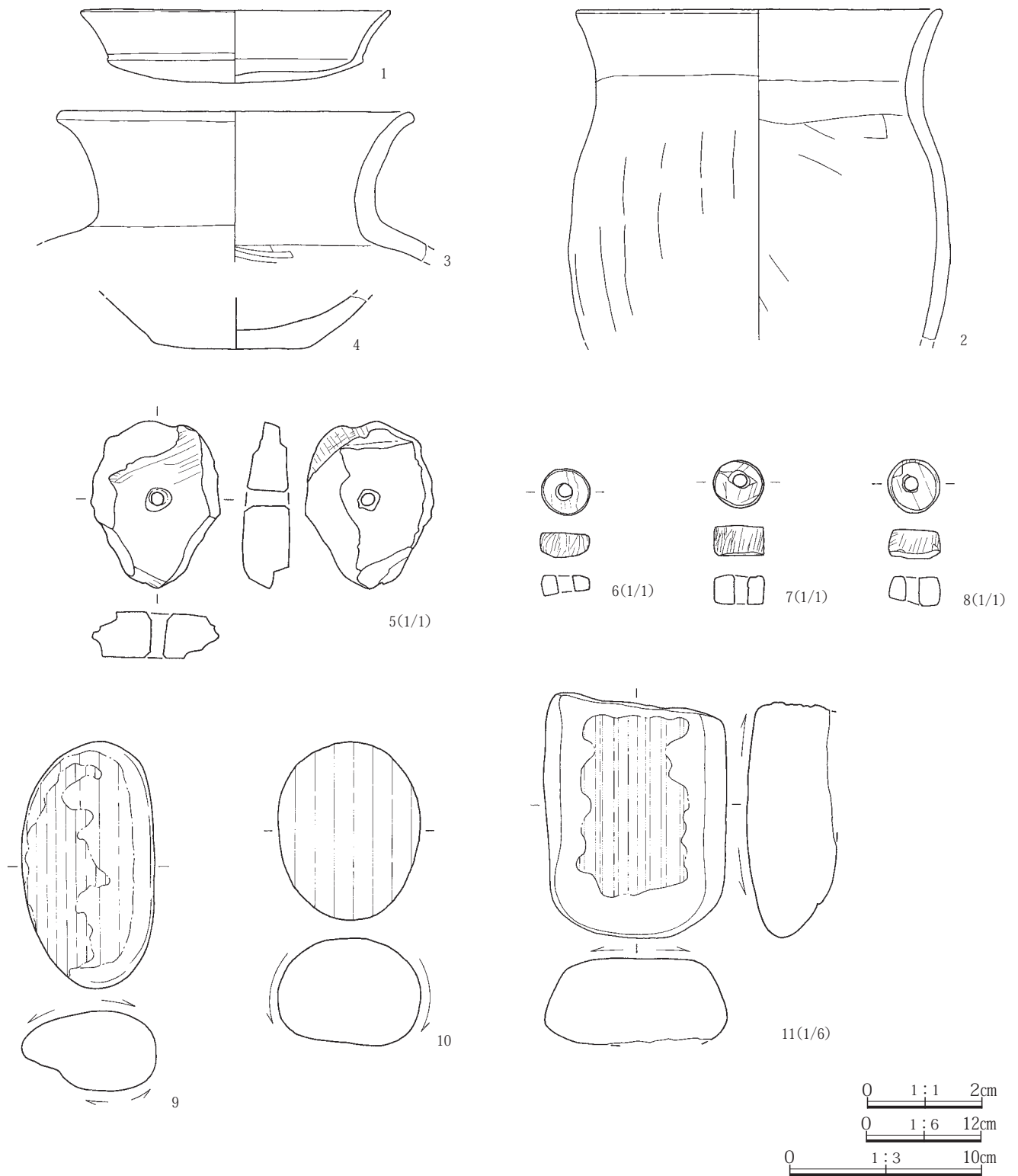
床面下



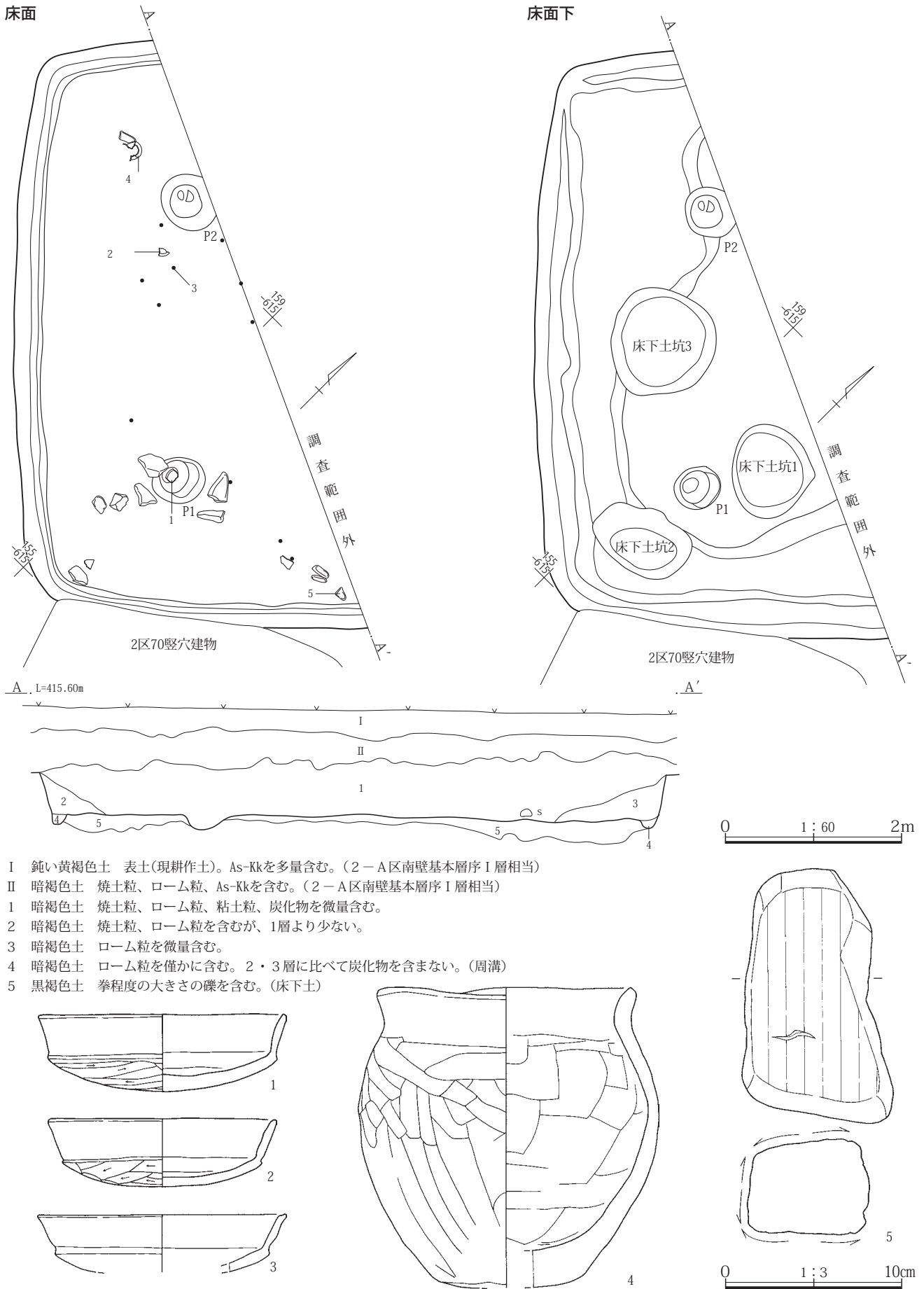
カマド



第202図 2区68号竪穴建物 床面下、カマド 平・断面図



第203図 2区68号竪穴建物 出土遺物



第204図 2区71号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図、出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

土器は全て土師器で、1～3は杯、4は甕である。

石製品には磨面をもつ5の粗粒輝石安山岩製の磨石がある。長さ14.1cm、幅8.3cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。

2区73号竪穴建物

(第205図、第13・131表、PL.72・73・219)

平成28年度の調査で検出した。全体的に浅く、残存状態はやや悪い。

位置：2区中央の北東寄りに位置し、北東側に2区74号竪穴建物、東側から南東側にかけて重複の著しい2区79～81・90～92号竪穴建物、西側に2区61号竪穴建物、北西側に2区72・78・95号竪穴建物が近接する。

グリッド：2B・2C-117・118

座標値：X=61,135～61,140 Y=-93,582～93,587

形状：正方形

規模：長軸4.05m 短軸4.03m 壁高5～24cm

床面積：14.65㎡

埋没土：1層の黒褐色土を主に、壁際の2層とした黒褐色土とに分層できる。なお、建物東側に多くの大小の円礫が混入しており、人為的堆積によるものと考えられる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、ほぼ平坦で、南東壁中央付近が硬化する。また、建物東側の床面上には多くの大小の礫がまとまって出土している。壁高は5～24cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁の中央やや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-57°-Eを向き、残存状態は悪い。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ突出すると思われるが不明。残存する規模は、全長0.95m、幅1.11mを測る。袖は壁から80cmほど突き出るように残存し、袖石等はない。焚き口部から燃烧部の底面にかけては床面より低くなる。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸52～66cm、短軸50～62cm、深さ37～50cmを測り、埋土は黒褐色土である。

床面下：建物中央部がやや高く、周囲が低い掘り込みを

確認した。深さ7～15cmを測り、底面は大小の凹凸が著しく、埋土はロームブロックと小礫を少量含む暗褐色土で、南東壁中央付近の上位にはロームブロックが集中して上面は硬化する。

遺物：出土した遺物量はかなり少なく、混入した大小の礫の間に出土している。

出土遺物として、土器2点と石製品1点を図示した。

1・2は土師器の甕で、1は口縁部から胴部上半、2は底部である。

石製品には磨面をもつ3の粗粒輝石安山岩製の磨石がある。長さ12.0cm、幅8.1cm、厚さ6.0cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀頃と考えられる。

2区74号竪穴建物

(第206・207図、第13・132表、PL.73・219)

平成28年度の調査で検出した。本建物の北隅付近は北側の調査範囲外となる。なお、第1面調査時に検出した2区77号土坑と重複し、一部を壊されている。

位置：2区中央の北壁際に位置し、東側から南側にかけて重複の著しい2区79・81・90～92号竪穴建物、南西側に2区73号竪穴建物が近接する。

グリッド：2B・2C-115～117

座標値：X=61,139～61,146 Y=-93,574～93,582

形状：長方形

規模：長軸6.28m 短軸6.09m 壁高20～25cm

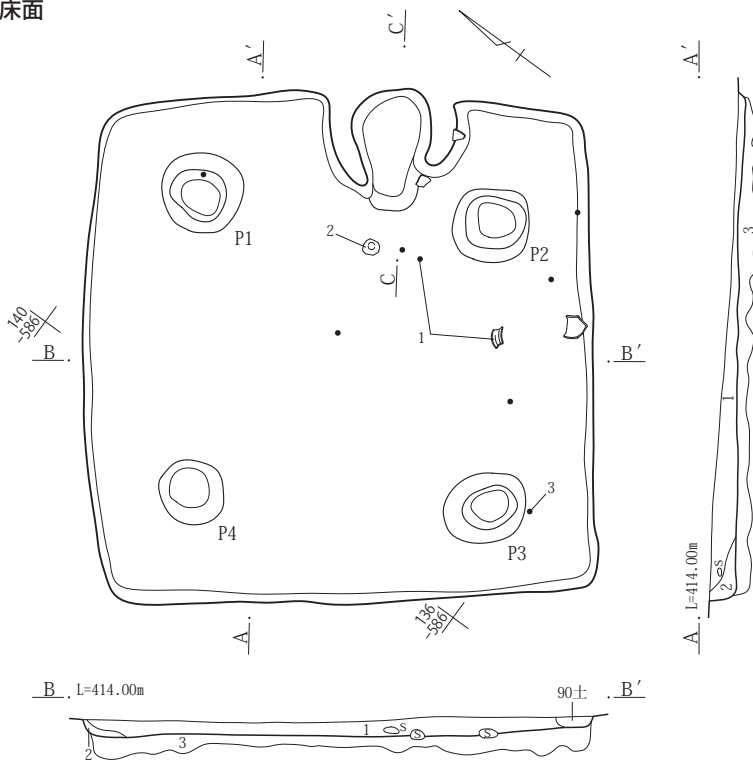
長軸方向：N-32°-W 床面積：(34.83)㎡

埋没土：1・2層の暗褐色土を主とし、壁際の3層とした黒褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化が著しい。なお、中央付近の床面上には礫が集中する箇所があった。壁高は20～25cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁の中央やや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-60°-Eを向き、残存状態は良くない。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ突出すると思われるが不明。残存する規模は、全長(1.16)m、幅(1.08)mを測る。袖は壁から90cmほど長く突き出るよ

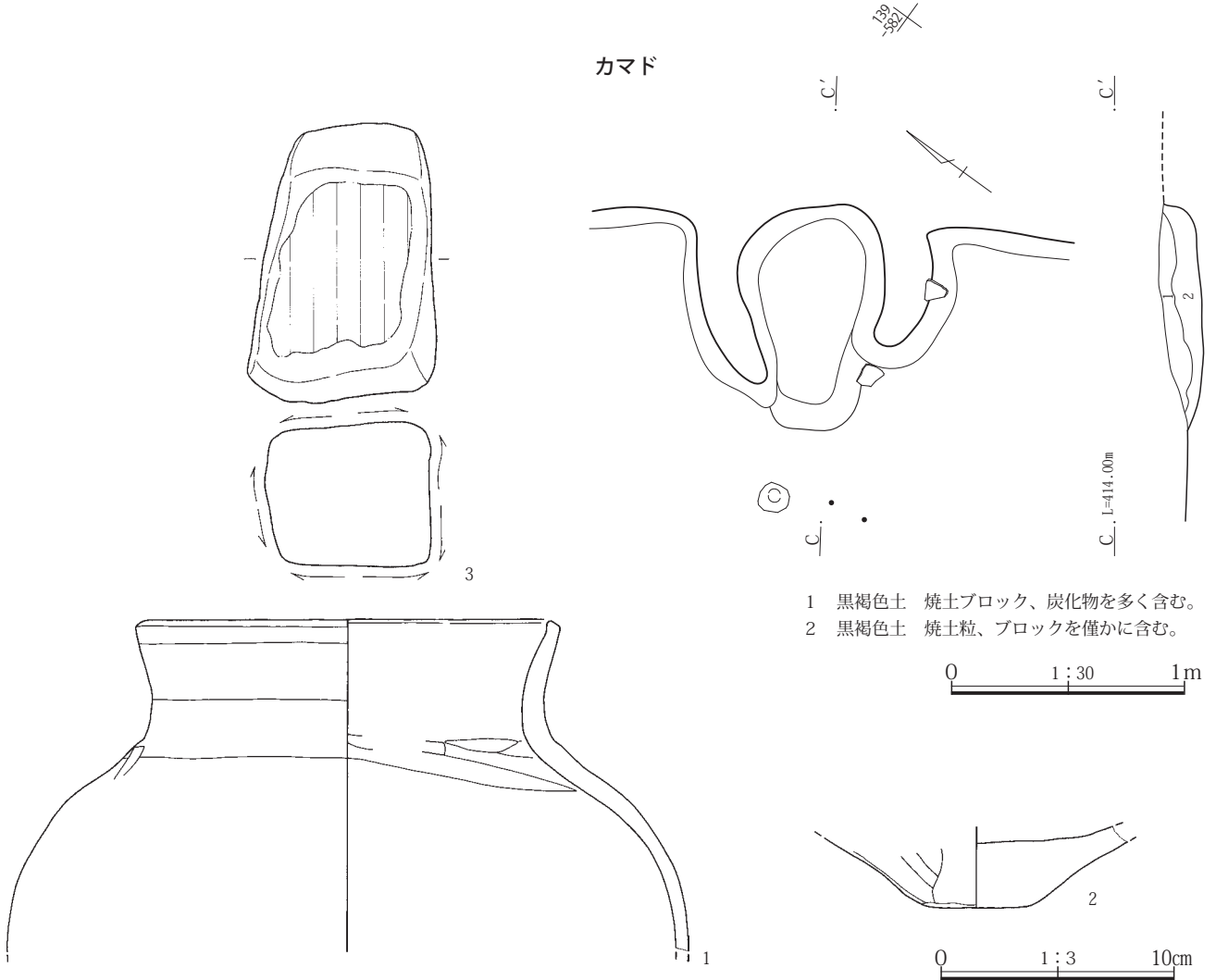
床面



- 1 黒褐色土 少量の白色・黄褐色鉱物粒と焼土粒を混入する。多くの大小の円礫を多く混入。
- 2 黒褐色土 ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含み、小礫を混入する。(床下土)

0 1:60 2m

カマド



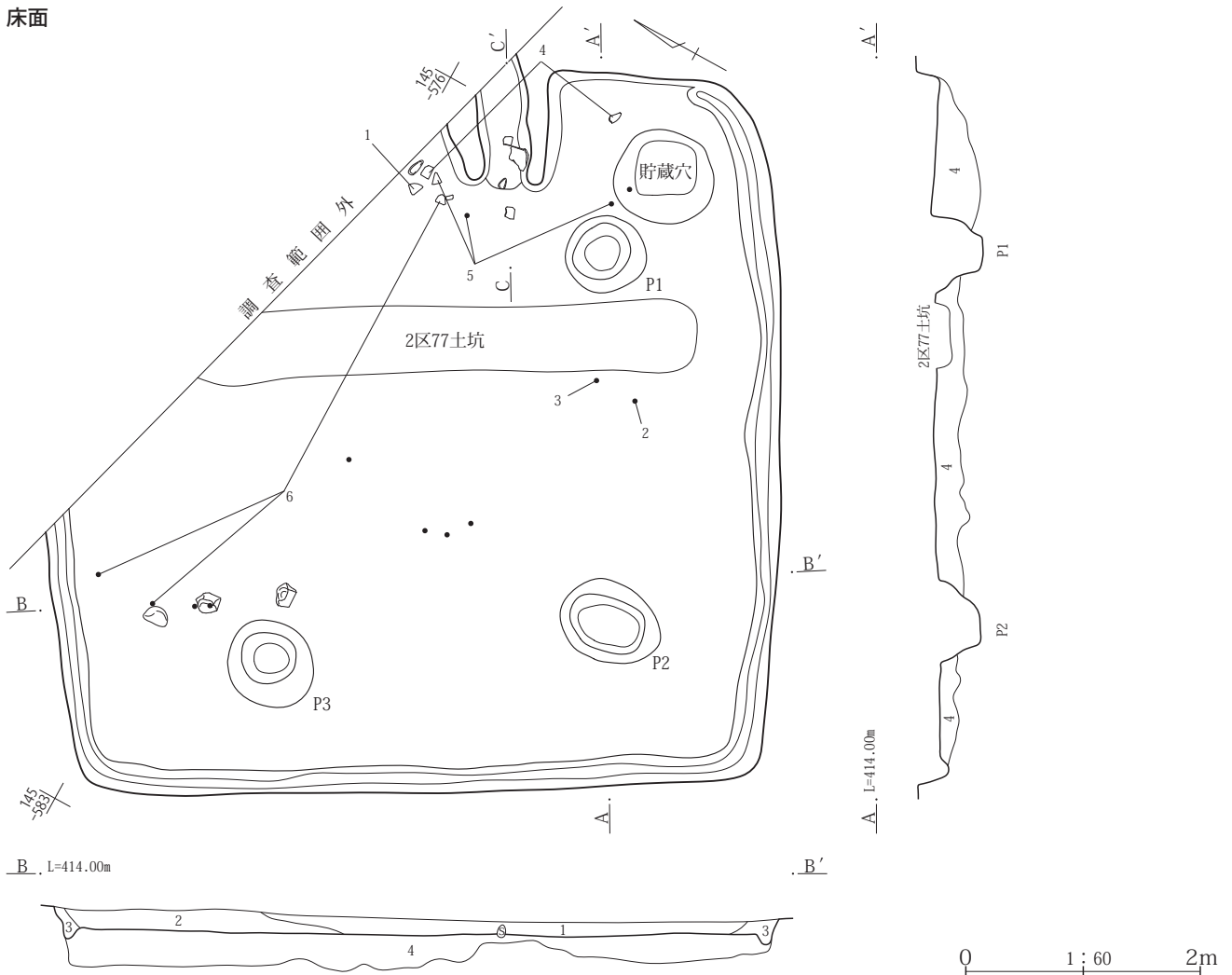
- 1 黒褐色土 焼土ブロック、炭化物を多く含む。
- 2 黒褐色土 焼土粒、ブロックを僅かに含む。

0 1:30 1m

0 1:3 10cm

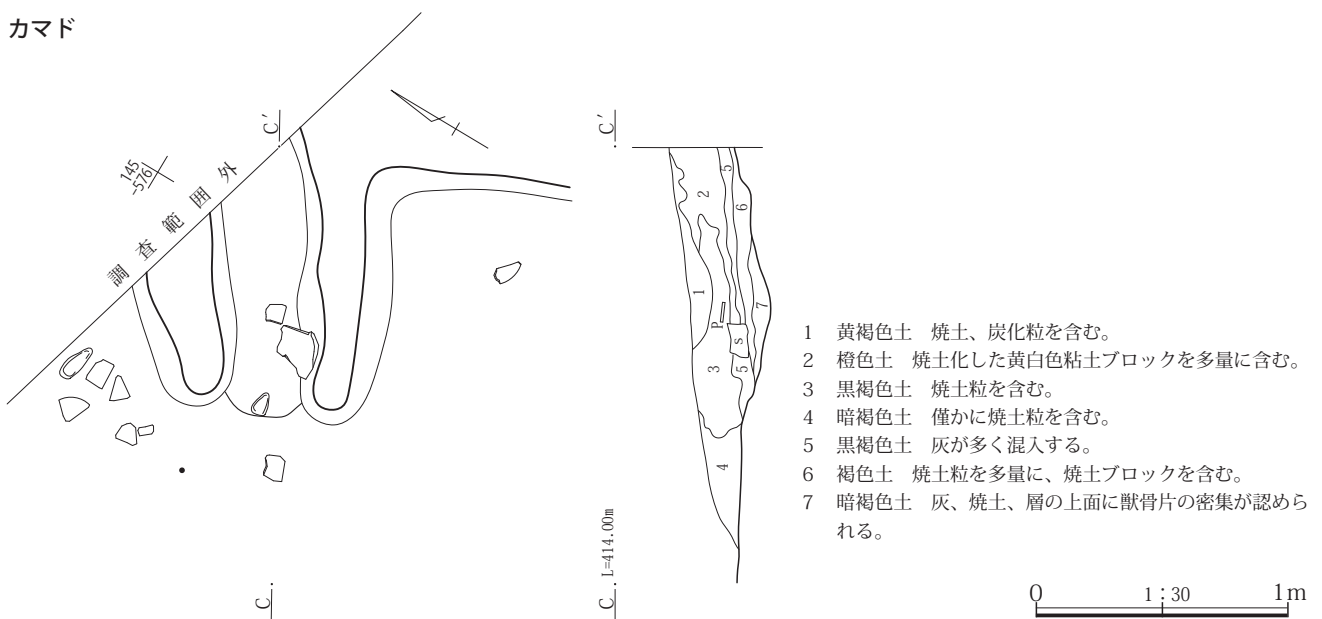
第205図 2区73号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図、出土遺物

床面



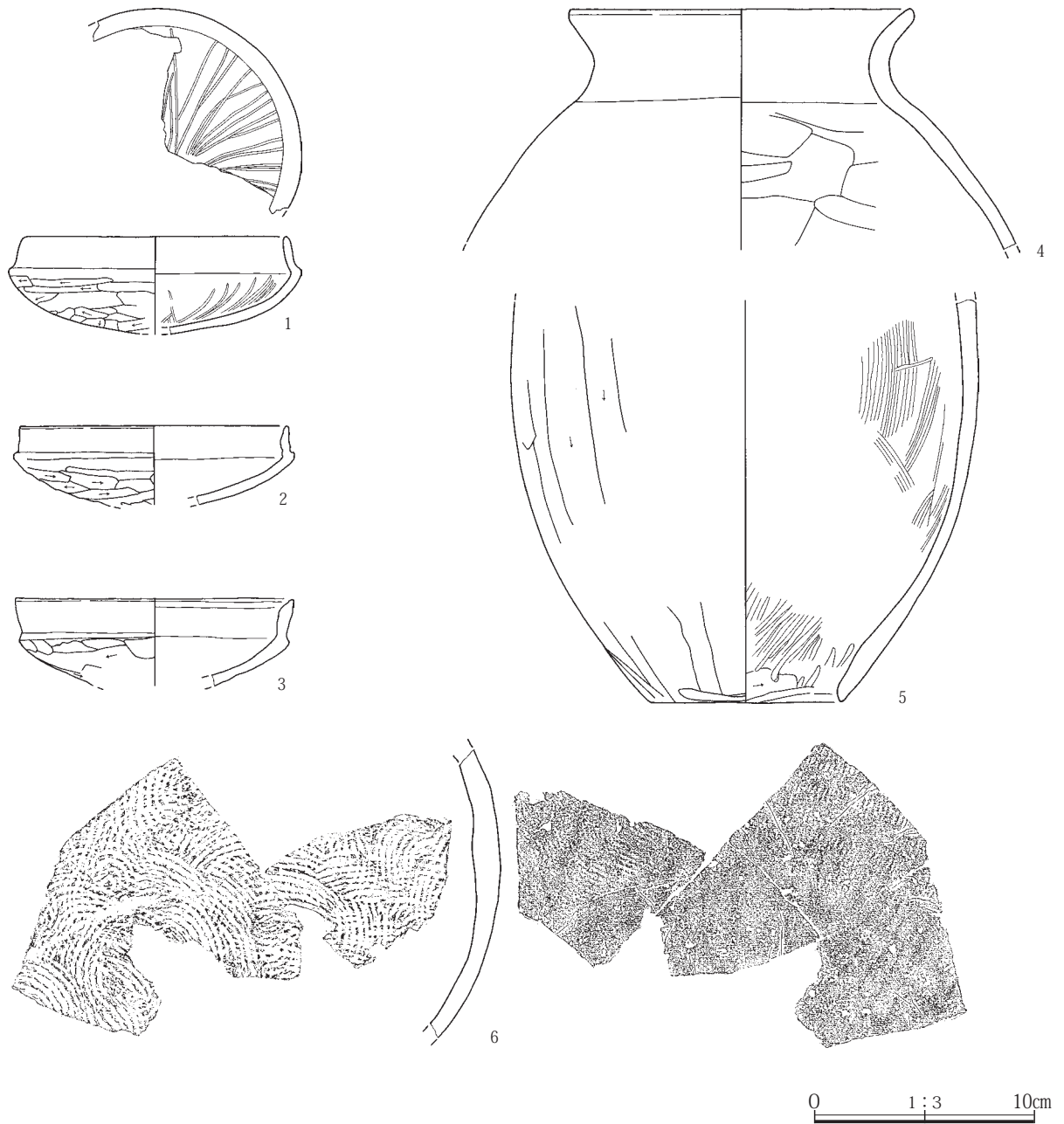
- 1 暗褐色土 ローム粒、炭化物、拳大の円礫を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く、礫を含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒を含む。(周溝)
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。(床下土)

カマド



- 1 黄褐色土 焼土、炭化粒を含む。
- 2 橙色土 焼土化した黄白色粘土ブロックを多量に含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒を含む。
- 4 暗褐色土 僅かに焼土粒を含む。
- 5 黒褐色土 灰が多く混入する。
- 6 褐色土 焼土粒を多量に、焼土ブロックを含む。
- 7 暗褐色土 灰、焼土、層の上面に獣骨片の密集が認められる。

第206図 2区74号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第207図 2区74号竖穴建物 出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

うに残存し、袖石等はない。焚き口部から燃焼部の底面にかけては床面より低くなる。

貯蔵穴：カマドの右側となる南東隅に位置し、上面形は不整な円形を呈する。径82cm前後、深さ45cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP 1～3の3基を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸68～90cm、短軸67～74cm、深さ35～47cmを測り、埋土は黒褐色土である。

周溝：カマドのある北東壁を除く各壁際を巡るようであり、幅15cm前後、深さ10cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

床面下：20cm前後の掘り込みを確認した。部分的に深い箇所もあるが、底面は大小の凹凸が著しく、埋土はロームブロックを多く含む暗褐色土で硬く締まる。

遺物：出土した遺物量は少ない。

出土遺物として、土器6点を図示した。1～3は土師器の杯で、1の内面には放射状ヘラ磨きが施されている。4は土師器の甕の口縁部で、5は土師器の甕の胴部下半。6は須恵器の甕の胴部片である。

未掲載遺物には、土師器片がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区75号竪穴建物

(第208・209図、第13・133表、PL.74・219・220)

平成28年度の調査で検出した。2区62・76・88号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南東側の一角に位置し、北東側で本建物のカマド先端が2区88号竪穴建物南隅に接するように重複し、南東側に2区62・76号竪穴建物と僅かに重複する。また、北東側に2区85・89号竪穴建物、南西側に2区59号竪穴建物、西側に2区82・84号竪穴建物、北西側に2区83号竪穴建物が隣・近接する。

グリッド：X・Z-113・114

座標値：X=61,119～61,126 Y=-93,562～93,569

重複：本建物のカマド先端を北東側の2区88号竪穴建物南隅に重複し、南東側に2区62号竪穴建物と僅かに、南東壁を南東側に2区76号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面、さらに出土遺物の確認から、

いずれの建物よりも本建物の方が古い。

形状：長方形

規模：長軸(4.93)m 短軸5.26m 壁高35cm前後

長軸方向：N-47°-W 床面積：(24.72)m²

埋没土：暗褐色土を主とし、1層および壁際の2層とに分層できる。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化ぎみ。なお、床面上には炭化材が僅かに散在する。壁高は35cm前後を測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央の東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-47°-Eを向き、残存状態はやや良。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へやや長く突出する。残存する規模は、全長1.61m、幅1.14mを測る。袖は壁から55cmほど突き出るように残存し、袖石等はない。焚き口部から燃焼部の底面は床面よりやや低くなり、煙道部は燃焼部奥から斜めに立ち上がる。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、上面形は楕円形を呈する。長軸75cm、短軸51cm、深さ37cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP 1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸40～47cm、短軸33～40cm、深さ48～56cmを測り、埋土は黒褐色土である。

周溝：カマドを除く各壁際を巡るようであり、幅13cm前後、深さ10cmを測り、黒褐色土を埋土とする。ただし、南東壁際は重複により不明。

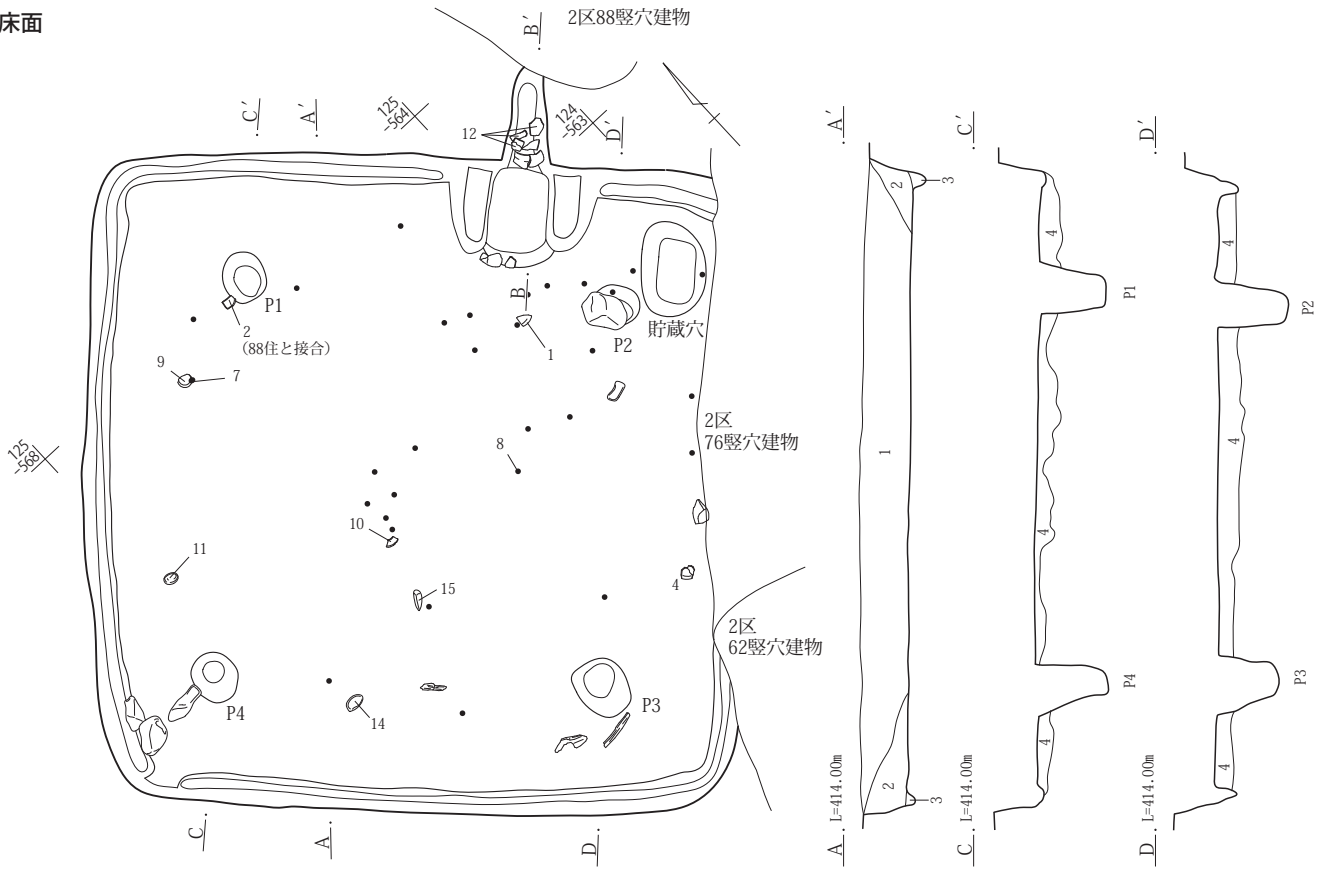
床面下：15cm前後の掘り込みを確認した。ローム土を掘り込んでおり、底面は大小の凹凸が多く、埋土はロームブロックを少量含む黒褐色土で硬く締まる。

遺物：出土した遺物量はあまり多くはなく、埋土中からの出土が多い。カマド煙道部内から12の甕ないし甔、貯蔵穴内から3の椀、カマド前の床面直上から1の杯、P 1脇の床面直上から2の椀、南東壁付近の床面やや上から4の椀が出土している。なお、11の杯は埋土中でも上位からの出土で、混入遺物と考えられる。

出土遺物として、土器12点と石製品3点を図示した。

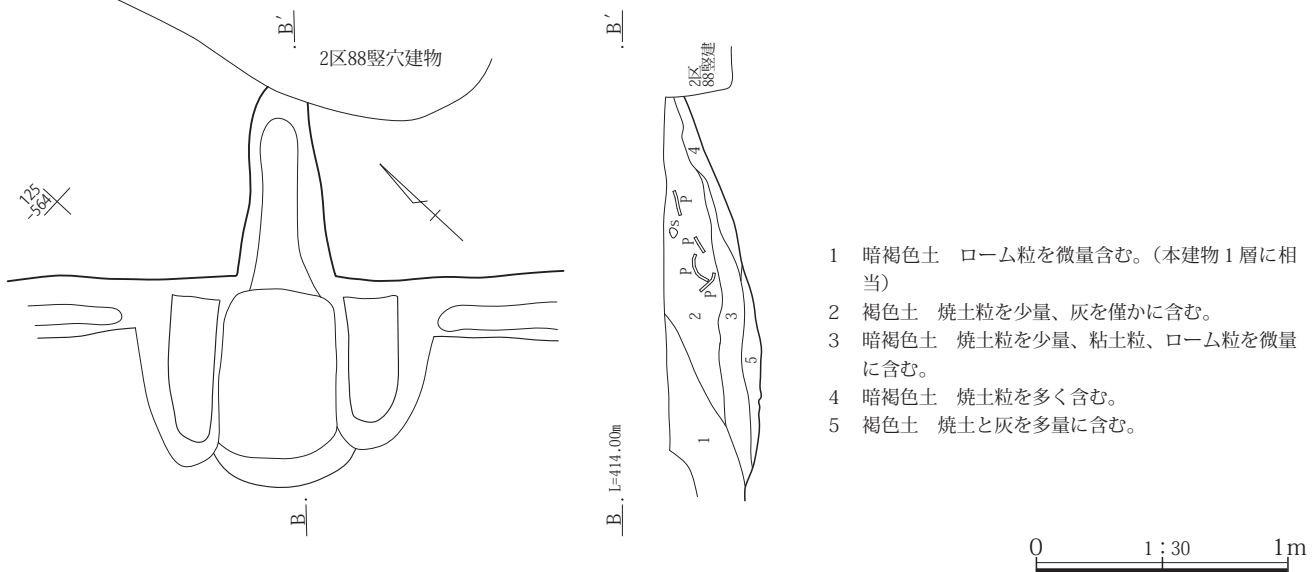
1は土師器の杯で、内面にヘラ磨きを施す。2～4は土師器の椀で、2・3は内斜口縁となり、内面にヘラ磨きが施されている。5・6は須恵器の椀(高杯か)。7、9は須恵器の杯で、10は土師器の高杯の脚部、8・11

床面



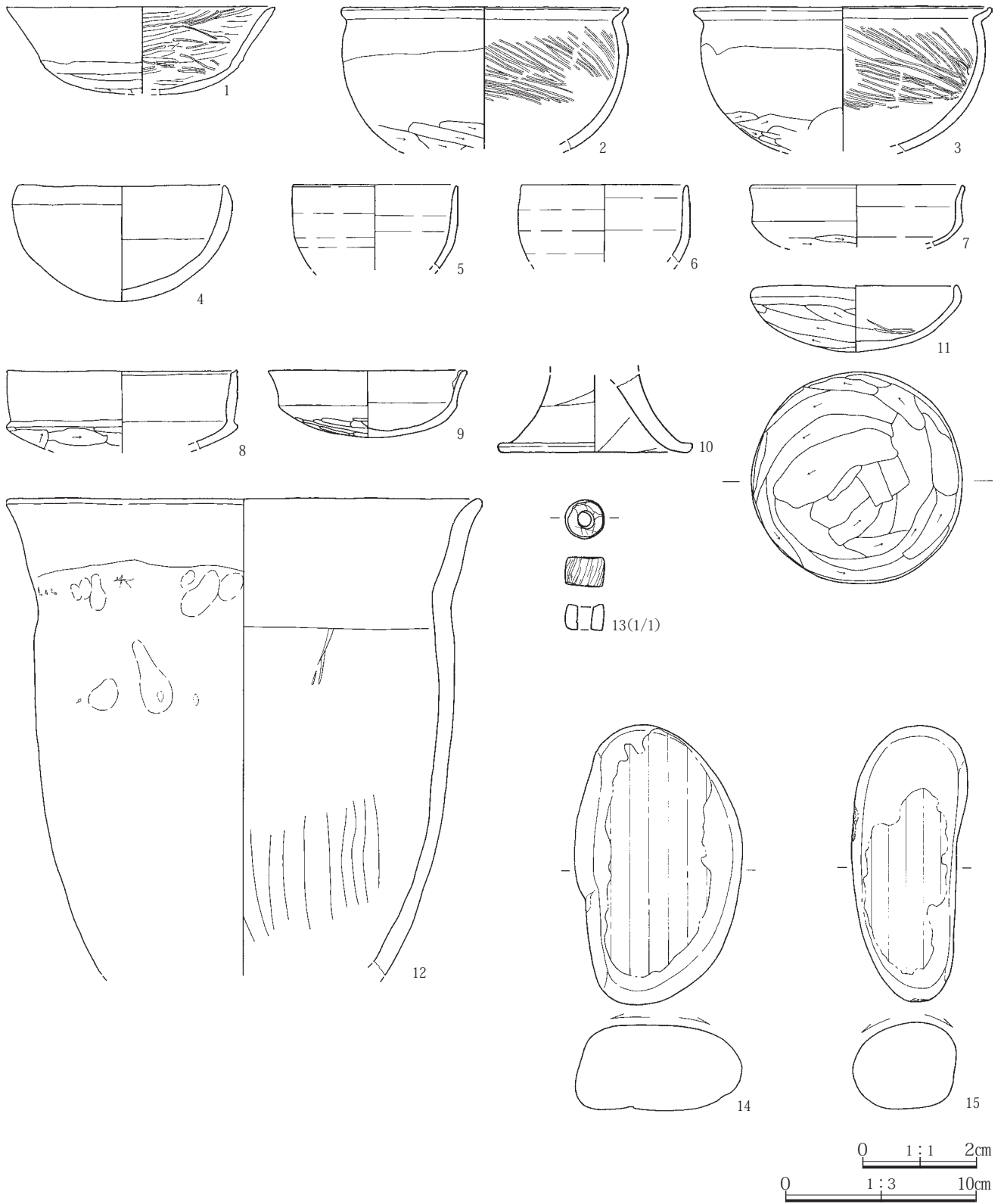
- 1 暗褐色土 ローム粒をやや多く、ロームブロック、焼土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。(壁周溝)
- 4 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。(床下土)

カマド



- 1 暗褐色土 ローム粒を微量含む。(本建物1層に相当)
- 2 褐色土 焼土粒を少量、灰を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒を少量、粘土粒、ローム粒を微量に含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒を多く含む。
- 5 褐色土 焼土と灰を多量に含む。

第208図 2区75号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第209図 2区75号竪穴建物 出土遺物

は土師器の杯。そして、12は土師器の甕ないし甗である。

石製品には13の白玉と14・15の磨石がある。13は滑石製で灰白色をなし、径0.7cm、厚さ0.5cm、孔径約3mm、重さ0.34gを測る。14・15は共に粗粒輝石安山岩製で、表面が磨面となり、14は長さ14.6cm、幅8.7cm、15は長さ14.4cm、幅6.0cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器の細片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。

2区76号竪穴建物

(第210・211図、第13・134表、PL.74・75・220)

平成28年度の調査で検出した。2区62・75号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南東側の一角に位置し、南側に2区62号竪穴建物、北西側に2区75号竪穴建物と僅かに重複する。また、北側に2区85・88・89号竪穴建物、南側に2区58号竪穴建物、西側に2区59・82号竪穴建物、北西側に2区83号竪穴建物が近接する。

グリッド：X・Y-112・113

座標値：X=61,119~61,123 Y=-93,559~93,564

重複：本建物の南半に2区62号竪穴建物、北西壁に接するように2区76号竪穴建物が重複する。遺構確認および土層断面、さらに出土遺物の確認から、新旧は2区62号竪穴建物より本建物の方が旧く、2区76号竪穴建物より新しい。

形状：正方形

規模：長軸4.08m 短軸4.05m 壁高35~55cm

床面積：(14.78)m²

埋没土：暗褐色土を主とし、1・2層および壁際の3層とに分層できる。また、中央付近の埋土中には中・大型礫が集中していることから、人為的埋没の可能性が高い。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序IX層となるローム中にあり、概ね平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化が著しい。南隅付近から西隅にかけて、2区62号竪穴建物と重複する部分は不明。壁高は37cm前後

を測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-46°-Eを向き、残存状態はやや良。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へやや短く突出する。残存する規模は、全長1.50m、幅1.10mを測る。袖は壁から55cmほど突き出るように残存し、両先端に袖石を確認したが、左袖石は倒れた状態にあった。焚き口部から燃烧部の底面は床面よりやや低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。また、右袖中央の燃烧部内壁には、内壁石が1石据えられていた。このことから、本カマドは石組みカマドであったと考えられる。なお、カマド前に床面上には平ないし扁平な大型礫が数石散乱しており、カマドに使用された焚き口部天井石や燃烧部内壁石と考えられる。

一方、燃烧部の構築状況は、床面構築後に袖石や側壁石を据えながら、粘土粒を混在した暗褐色土で構築したものと考えられる。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、上面形は楕円形を呈する。長軸87cm、短軸50cm、深さ40cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

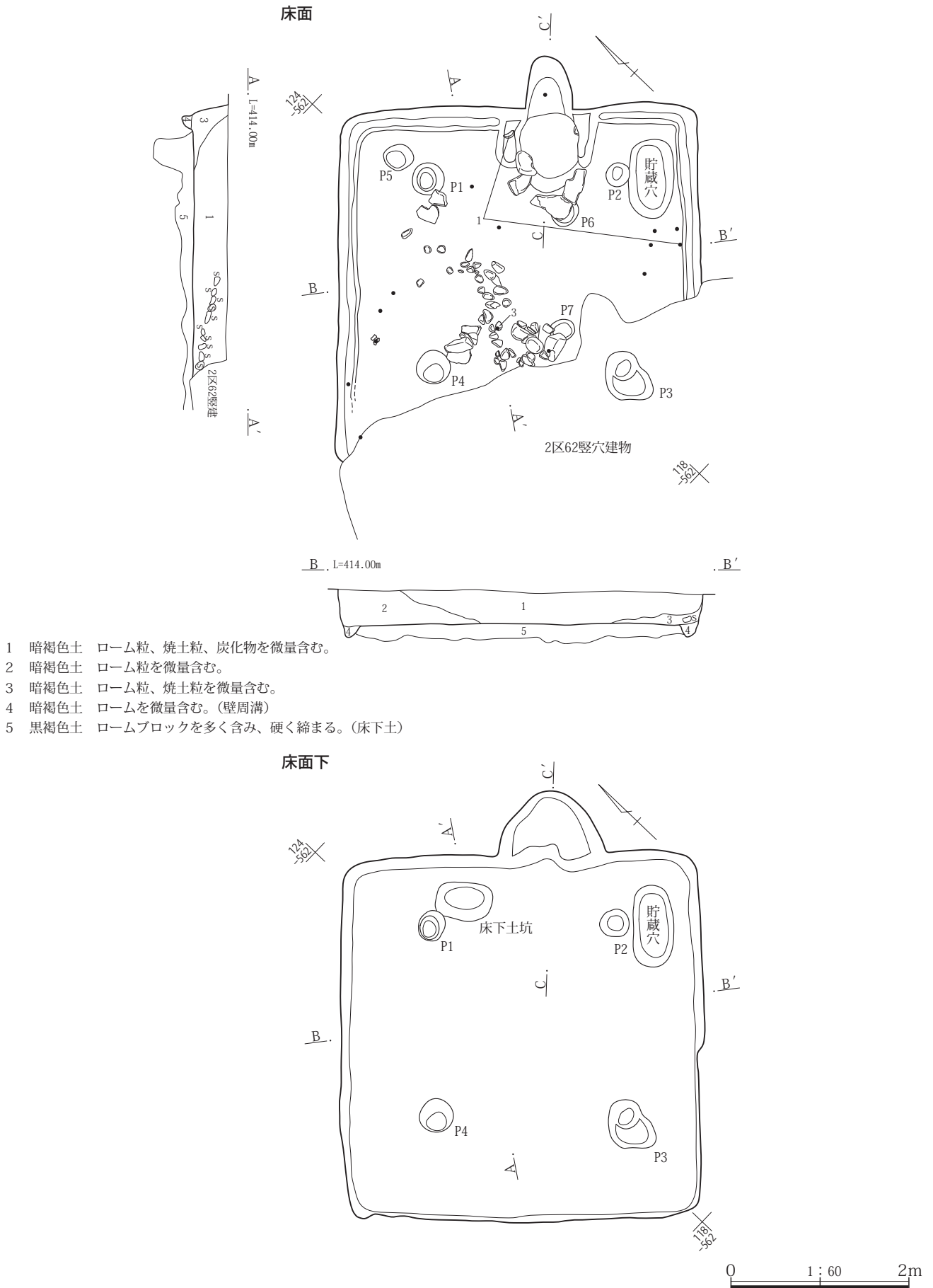
柱穴：支柱穴と考えられるP1~4を検出したが、P3は2区62号竪穴建物の床面下に確認した。上面は円形ないし楕円形で、長軸28~37cm、短軸25~38cm、深さ36~40cmを測り、埋土は暗褐色土である。他にP5~7の3基を検出した。

周溝：カマドを除く各壁際を巡るようにあると考えられ、幅15cm前後、深さ10cm前後を測り、暗褐色土を埋土とする。ただし、重複部分は不明。

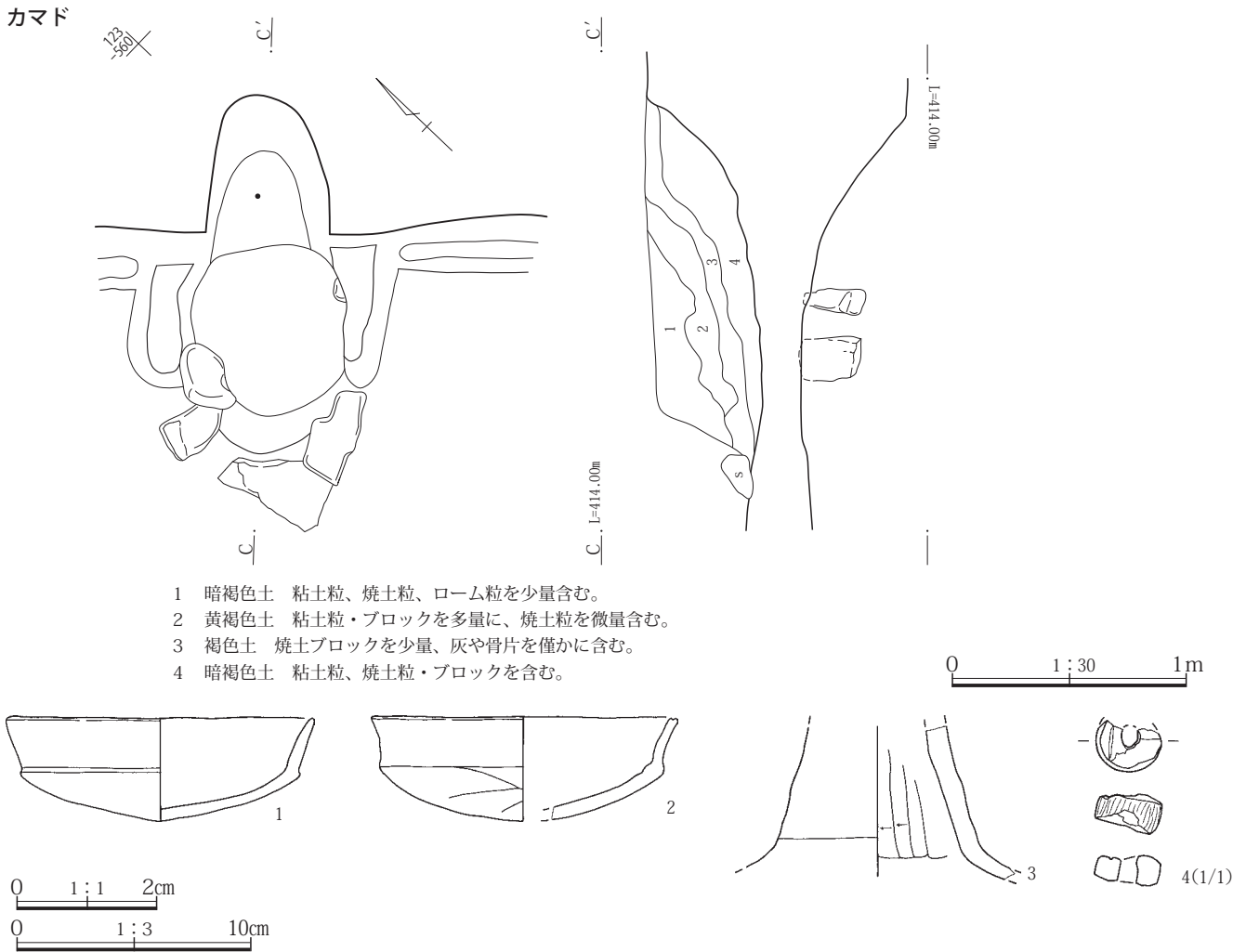
床面下：10~15cm前後の掘り込みを確認した。ローム土を掘り込んでおり、底面は大小の凹凸が多く、埋土はロームブロックを多く含む黒褐色土で硬く締まる。なお、重複する2区62号竪穴建物の床面下に、本建物の床面下を検出することができた。また、カマドの左側となる北東壁際に床下土坑を検出した。長軸62cm、短軸43cm、深さ40cmを測る楕円形で、暗褐色土を埋土とする。貯蔵穴の可能性もある。

遺物：出土した遺物量は少なく、1・2の杯がカマドの袖上や床面のやや上から出土している。

出土遺物として、土器3点と石製品1点を図示した。1・2は土師器の杯で、3は土師器の高杯の脚部であ



第210図 2区76号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図



第211図 2区76号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物

る。

石製品には4の滑石製の白玉があり、灰白色をなし、径1.0cm、厚さ0.6cm、孔径約2mm、重さ0.41gを測る。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が多量にある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区77号竪穴建物

(第212～214図、第13・135表、PL.75・76・220・221)
 平成28年度の調査で検出した。

位置：2区の東端に位置し、南側に2区63号竪穴建物、北側から西側および南西側にかけて2区58・62・76・85～89・93号竪穴建物が近接する。

グリッド：X・Y-110・111

座標値：X=61,119～61,123 Y=-93,546～93,550

形状：正方形

規模：長軸3.79m 短軸3.71m 壁高19～35cm

床面積：12.48㎡

埋没土：暗褐色土を主とし、1～4層に分層できる。また、埋土中には大型礫が混入することから、人為的埋没の可能性が高い。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層中位にあり、概ね平坦で、やや硬化済みではあるが詳細は不明。壁高は25cm前後を測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-83°-Eを向き、遺構確認時にカマド上部に大型礫や燃焼部の側壁石が確認できた残存状態の良好な石組みカマドである。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ短く突出する。残存する規模は、全長1.25m、幅1.11mを測る。袖は壁から85cmほど突き出るように残存し、両先端上部にやや小振りな袖石、さらにその袖石に架かる天井石を確認した。天井石は長さ49cm、

第4章 検出された遺構と遺物

幅18cmを測る横長の大型礫である。両袖石は袖先端の上部に天井石の受け石としてあり、その奥に燃烧部の内壁となる大型の平らな側壁石を2石ずつ配する。焚き口部から燃烧部の底面にかけては床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。また、燃烧部の中央やや北寄りに、支脚石が1石残存していた。

一方、カマドの構築状況は、燃烧部側壁石を据えながら4層とした暗褐色土を袖部の構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる南東隅に位置し、上面形は楕円形を呈する。長軸65cm、短軸53cm、深さ40cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

柱穴：ピットを3基検出したが、支柱穴とは異なる。黒褐色土を埋土とし、径40cm前後、深さ10～15cmを測る。床面下：床面下を調査したが、明確な掘り込みをもつかは不明。

遺物：出土した遺物量はやや多く、特にカマド周辺に纏まっている。カマド左袖直上に3の杯、右袖脇に手前から10の甕、その奥に8の甕、下に2の杯、さらに最も壁際に5の甕が床面直上に並ぶ。カマド前付近の床面直上には9の甕の底部、中央西寄りの床面直上からは7の小型甕が、西壁際の床面直上に11の石製品が出土している。また、1の杯は南壁中央際からの出土である。

出土遺物として、土器10点と石製品1点、金属製品1点を図示した。土器は全て土師器である。1～3は土師器の杯で、1は内斜口縁となり、1～3の内面にはヘラ磨きを施す。4は高杯の脚部で、杯身部内面は黒色処理され、内面底部にヘラ磨きがある。5・6は甕で、6の胴部外面に粗いヘラ磨きを施す。7は小型甕で、8～10は甕である。

石製品の11は上端を欠く流紋岩製の砥石で、長さ(6.9)cm、幅4.3cm、厚さ1.6cmを測り、全面が砥面となる。

金属製品の12は鉄製の馬具(鉸具)で、長さ5.4cm、幅3.5cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が多量にある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。

2区81号竪穴建物(第215・216図、第13・138表、PL.77・78・85・222)

平成28年度の調査で検出した。2区79・80・90号竪穴建物、2区121号土坑と重複する。なお、第1面調査時の2区71号土坑に、カマドを含めた一部を壊されている。位置：2区東側の竪穴建物が密集する西側の一角に位置し、北側に2区79・90号竪穴建物、南側を2区80号竪穴建物と重複する。また、北側に2区74号竪穴建物、北東側から南側にかけて2区82～84・91・92・96号竪穴建物、西側に2区73号竪穴建物の各竪穴建物が近接する。

グリッド：Z・2A-115～117

座標値：X=61,128～61,134 Y=-93,574～93,581

重複：本建物の北側に2区79・90号竪穴建物、南側を2区80号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、いずれの建物よりも本建物が最も古い。

形状：方形

規模：長軸4.80m 短軸4.78m 壁高6～10cm

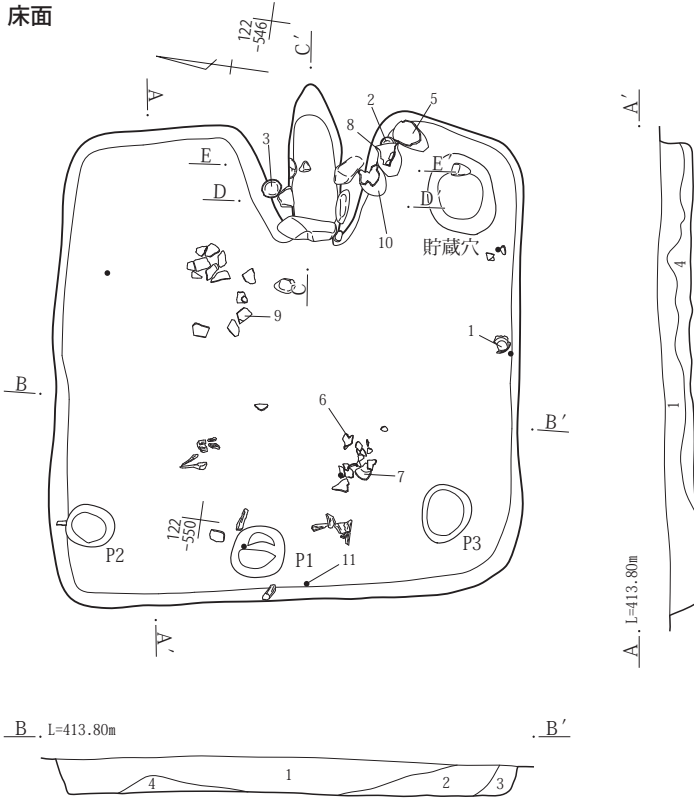
長軸方向：N-44°-E 床面積：(22.25)m²

埋没土：1層の暗褐色土を主とする。なお、建物中央には多量の大小からなる礫がまとまって検出されており、人為的に廃棄された状況を呈している。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化が著しく、床面上に炭化材が出土している。また、下位の自然礫層の礫が露出する部分もある。壁高は6～10cmと浅く、やや垂直ぎみに立ち上がる。

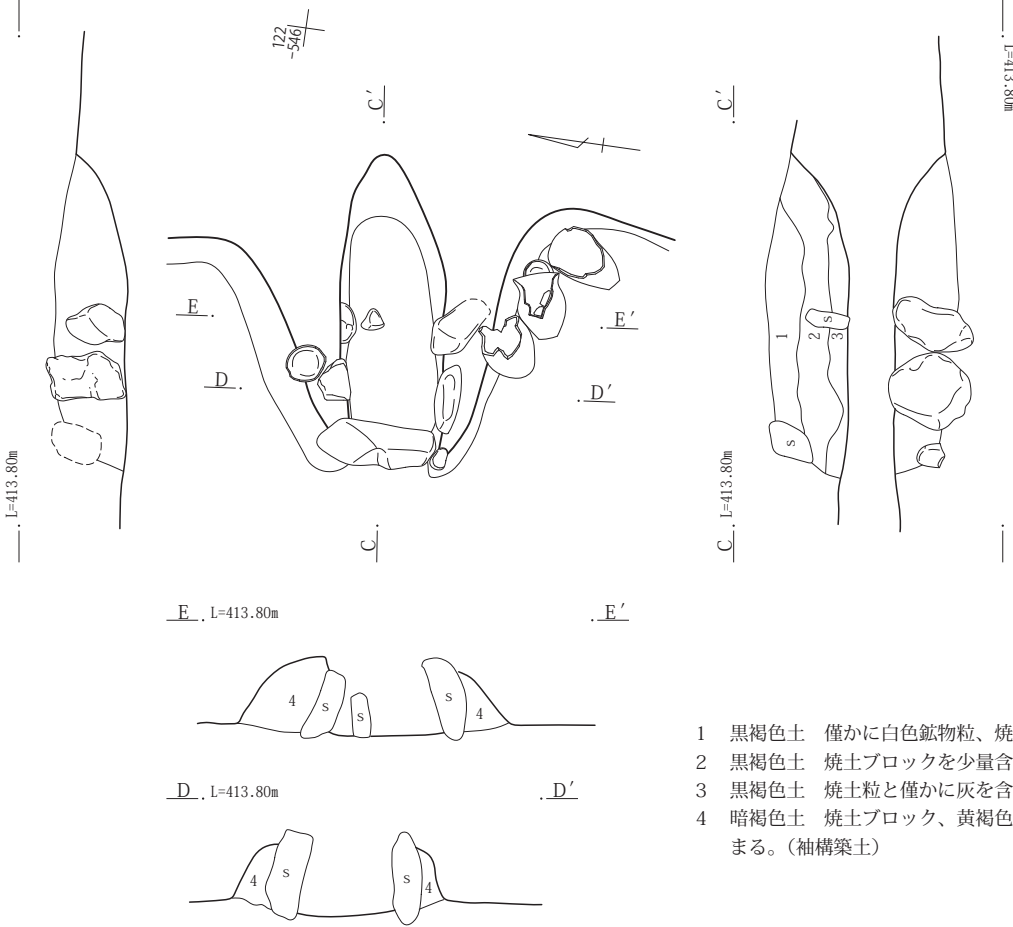
カマド：北西壁の中央付近に位置し、カマドの主軸方位はN-45°-Wを向き、遺構確認時にカマド上部に大型礫が確認できた。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側に僅かに突出するが、先端は2区71号土坑に壊されて不明。カマドの規模は、全長1.38m、幅0.94mを測る。袖は壁から90cmほど突き出るようにあり、先端に袖石はない。しかし、焚き口部付近の床面上には、大型で長い扁平礫が確認されている。遺構確認時の大型礫やカマド内から出土した大型礫は、石組みカマドに伴うものではない。焚き口部から燃烧部の底面は僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から緩く立ち上がる。柱穴：支柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸55～70cm、短軸53～65cm、

床面



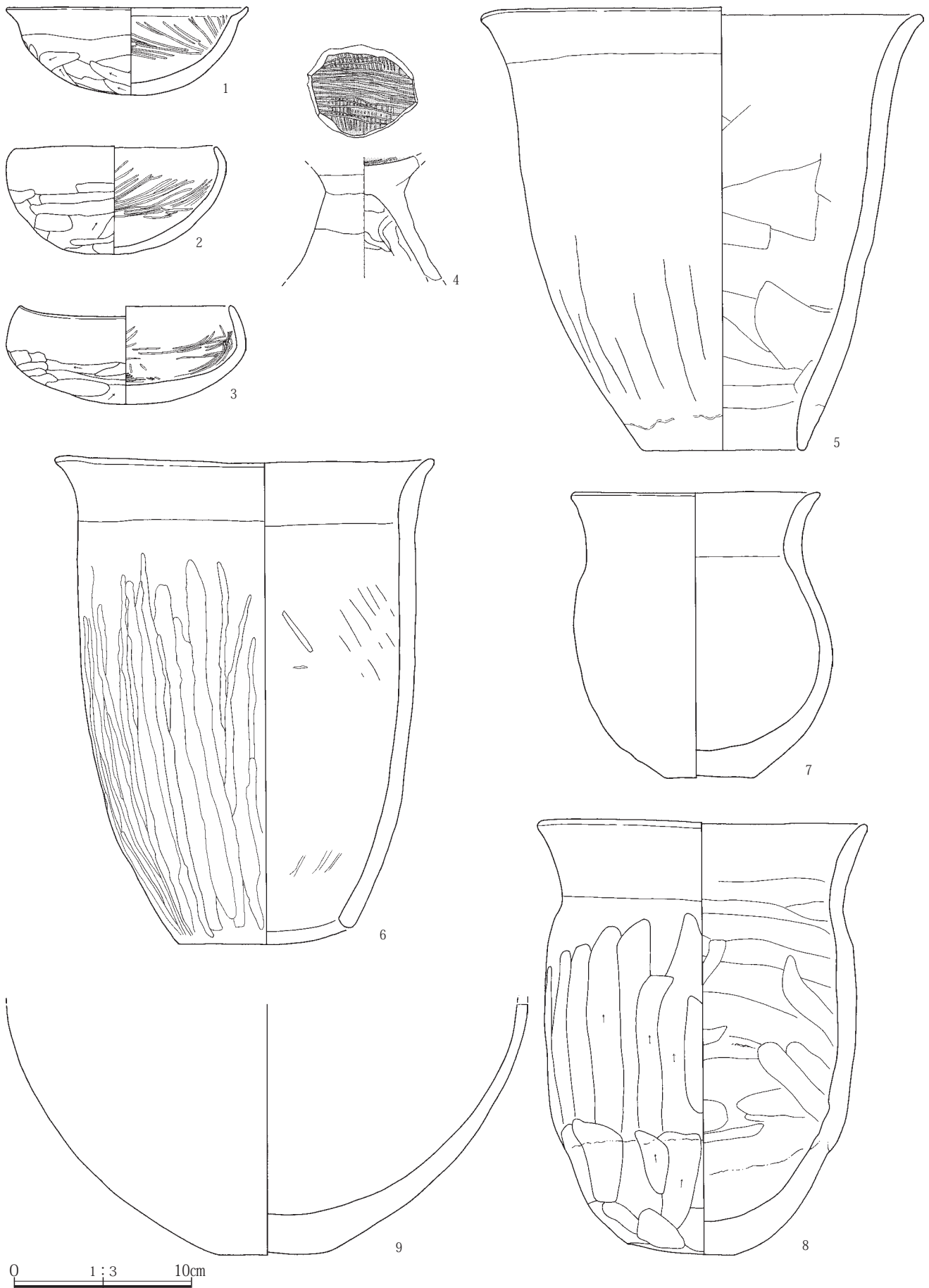
- 1 褐色土 焼土粒、炭化物を微量含む。
- 2 褐色土 白色粒、焼土粒、炭化物を微量含む。
- 3 褐色土 焼土粒を微量含む。
- 4 褐色土 炭化物を少量含む。

カマド

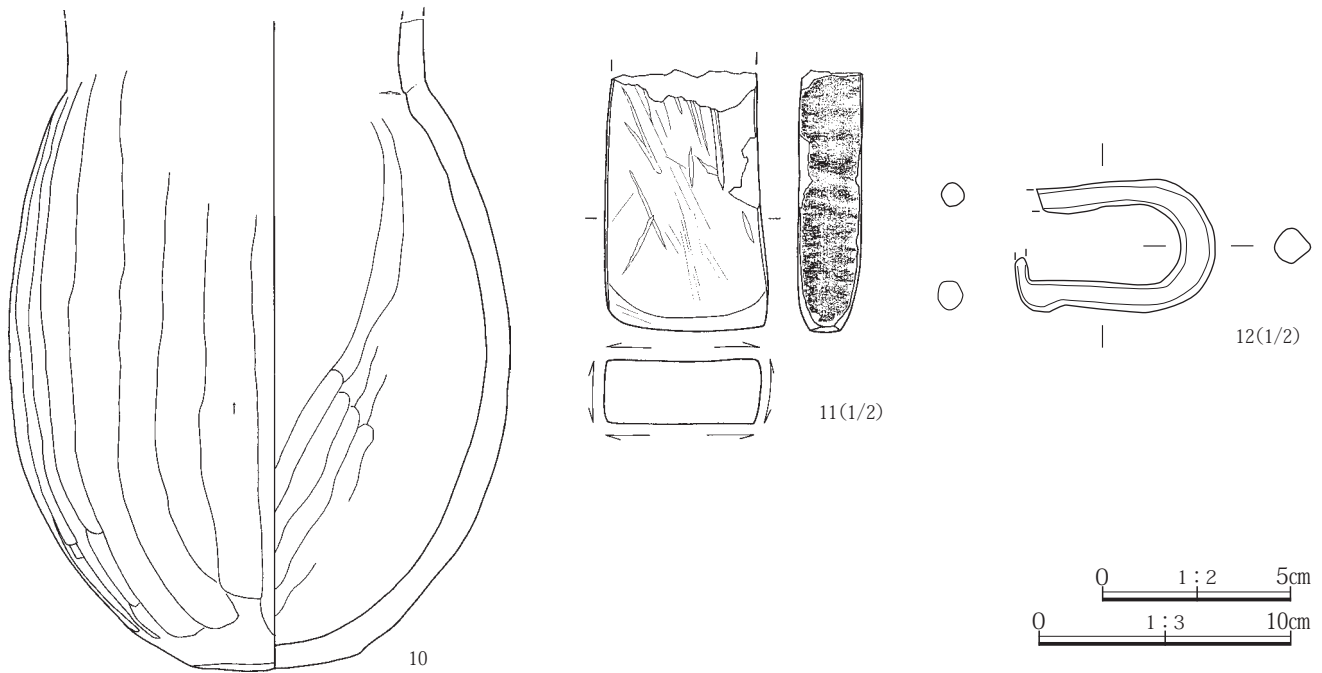


- 1 黒褐色土 僅かに白色鉱物粒、焼土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒と僅かに灰を含む。
- 4 暗褐色土 焼土ブロック、黄褐色ブロックを少量含み、硬く締まる。(袖構築土)

第212図 2区77号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第213図 2区77号竪穴建物 出土遺物(1)



第214図 2区77号竪穴建物 出土遺物(2)

深さ40～46cmを測り、埋土は黒褐色土である。また、東隅付近のP3脇にP5を検出した。長軸74cm、短軸50cm、深さ33cmを測る楕円形で、貯蔵穴の可能性もある。

床面下：床面下を調査したが、数cm下には自然礫層が露出する状況で、礫を除去しながら平坦な床面を構築したものと考えられる。また、北東側は重複する竪穴建物により詳細は不明。

遺物：出土した遺物量は少ないが、カマドの左袖脇に4の杯と6の甕が床面直上に出土し、P3の上面に3の杯、中央付近の床面直上に5の高杯の脚部が出土している。

出土遺物として、土器6点を図示した。1～4は土師器の杯、5は土師器の高杯の脚部、6は土師器の甕である。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

2区82号竪穴建物

(第217・218図、第13・139表、PL.78・222)

平成28年度の調査で検出した。2区80・84号竪穴建物と重複する。調査は本竪穴建物を先行しつつ、重複する2区84号竪穴建物とほぼ併行して行った。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南西側の一角に位置し、北側に2区80・84号竪穴建物が重複する。また、北西側から北側および東側にかけて2区62・75・76・79・81・83号竪穴建物、南側に2区55～57・59・65号竪穴建物および2区2号掘立柱建物が近接する。

グリッド：X～Z-114～116

座標値：X=61,118～61,126 Y=-93,569～93,577

重複：本建物の北側に2区80・84号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、2区80号竪穴建物よりも本建物が旧く、2区84号竪穴建物より新しい。

形状：方形

規模：長軸6.23m 短軸5.97m 壁高22～27cm

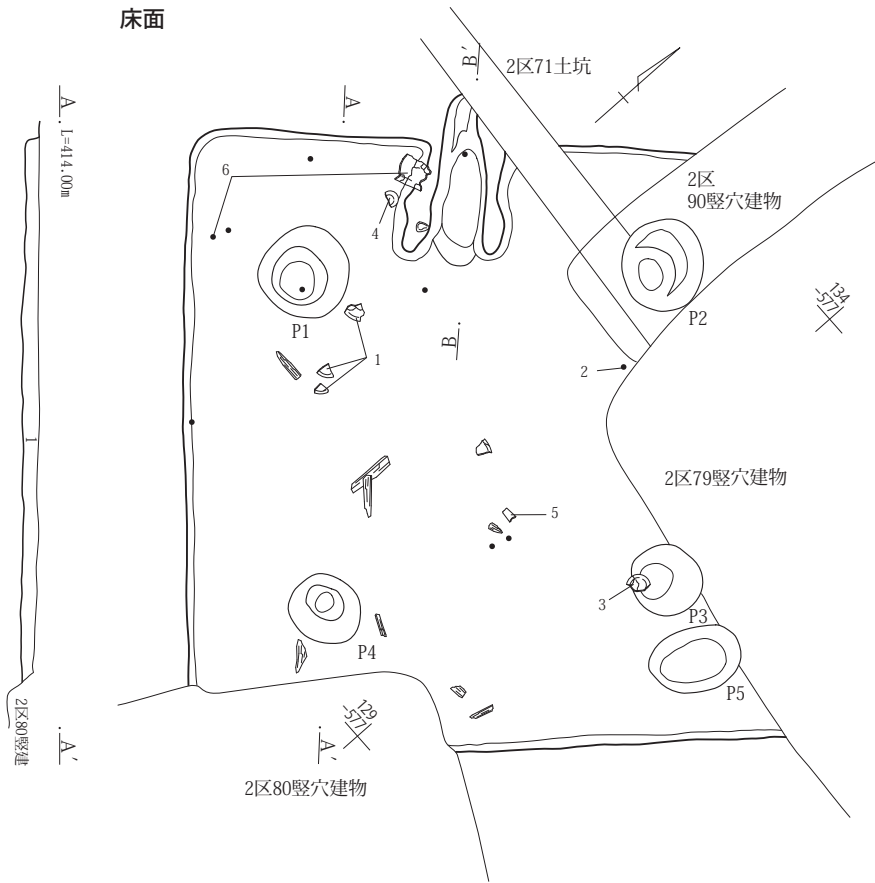
長軸方向：N-43°-W 床面積：(34.42)m²

埋没土：暗褐色土を主としながらも、壁際の埋土も含め1～3層に分層できる。なお、2層中には多くの中・大型礫、僅かではあるが炭化材が含まれており、人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前を含めた全体が硬化済み。なお、重複する2区80号竪穴建物の床面より本建物の床面が低い位置にある。壁高は22～27cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南西壁の中央やや南寄りに位置し、カマドの主

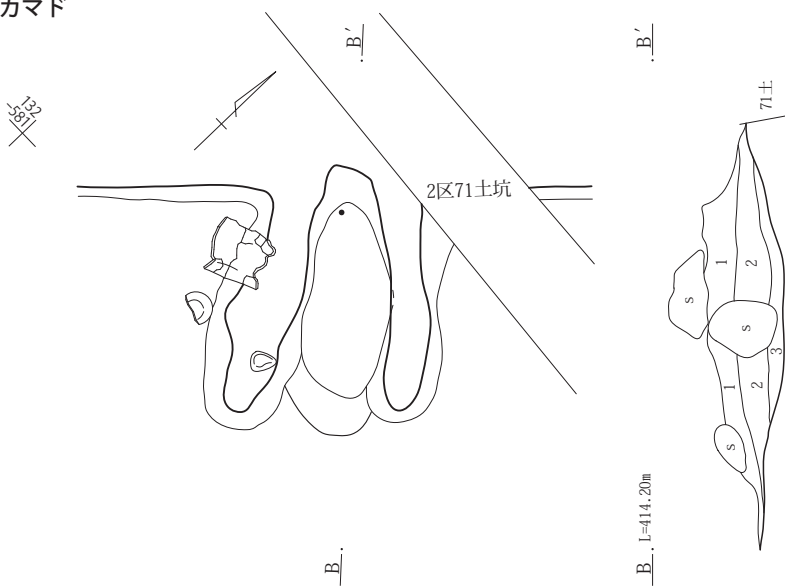
床面



1 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量混入する。

0 1:60 2m

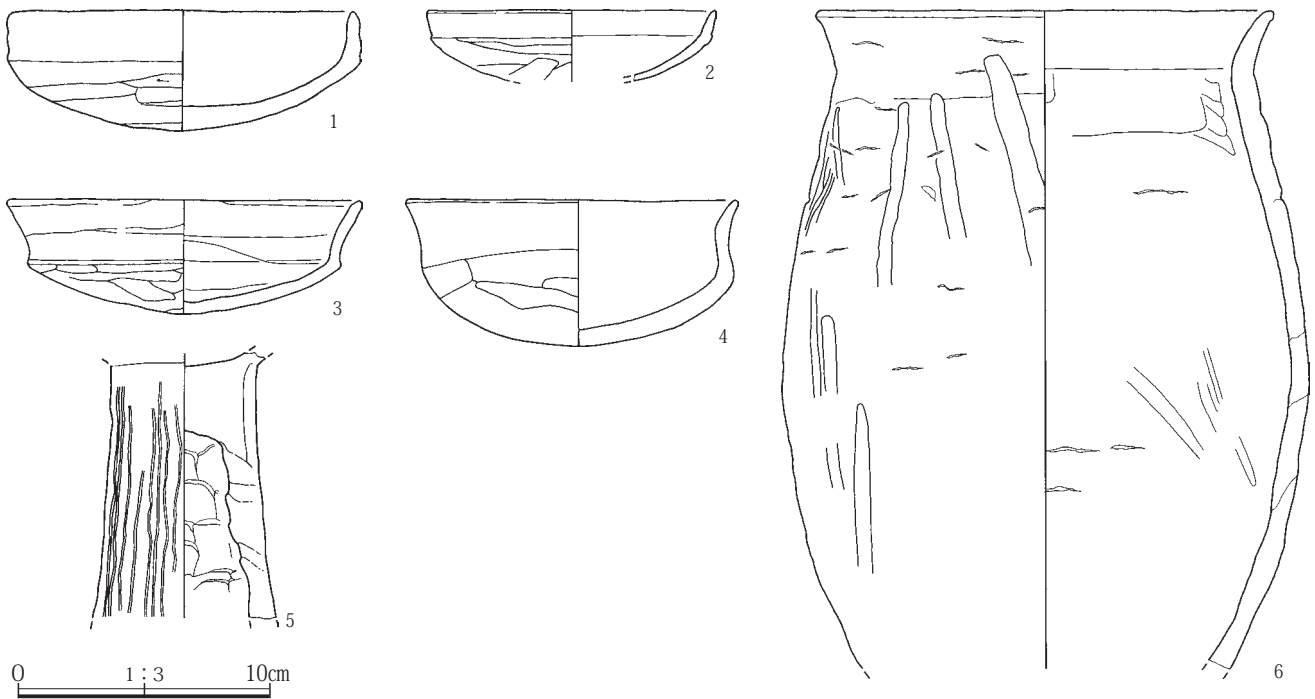
カマド



- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物が少量混入する。
- 2 暗褐色土 焼土粒を少し含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒、灰色粒、灰を少し含む。

0 1:30 1m

第215図 2区81号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第216図 2区81号竪穴建物 出土遺物

軸方位はN-133°-Wを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側から外側にかけてあり、煙道部は外側へ突出する。残存する規模は、全長1.43m、幅0.94mを測る。袖は壁から30cmほど短く突き出るようであり、両先端に袖石を確認した。焚き口部天井石の左端が左袖石の上端に掛かり、右端は袖石からずり落ちた状態にあった。焚き口部から燃烧部の底面は、建物床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から緩く立ち上がる。また、燃烧部の内壁は、被熱して焼土化していた。

カマドの構築状況は、建物の床面構築後に袖石を据えながら、暗褐色土を袖部の構築土としている。

貯蔵穴：カマドの左側となる南隅に位置し、上面形は楕円形を呈する。長軸92cm、短軸70cm、深さ40cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸62～84cm、短軸45～58cm、深さ52～64cmを測り、埋土は暗褐色土である。

床面下：建物中央部を除く壁際付近にやや深い掘り込みをもち、壁際沿いには部分的に工具痕を確認できた。また、底面は大小の凹凸が著しく、埋土はロームブロックを多量に含む黒褐色土で硬く締まる。

遺物：出土した遺物量は少なく、その多くが埋土中からである。南隅に近い南東壁際に磨石(薦網石か)が6点

ほど纏まって出土している。

出土遺物として、土器4点と石製品6点を図示した。

1・2は土師器の杯で、3・4は土師器の甕である。石製品には5の白玉、6～10の磨石がある。5は滑石製で、灰白色をなし、径1.0cm、厚さ0.6cm、孔径約3mm、重さ0.72gを測る。6・9は粗粒輝石安山岩製、7・8はひん岩製、10は石英閃緑岩製で、長さ12.1～17.9cm、幅6.3～9.2cm、厚さ4.2～6.2cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器片が僅かにある。他に、変質安山岩製の敲打痕が散在する棒状礫がある。

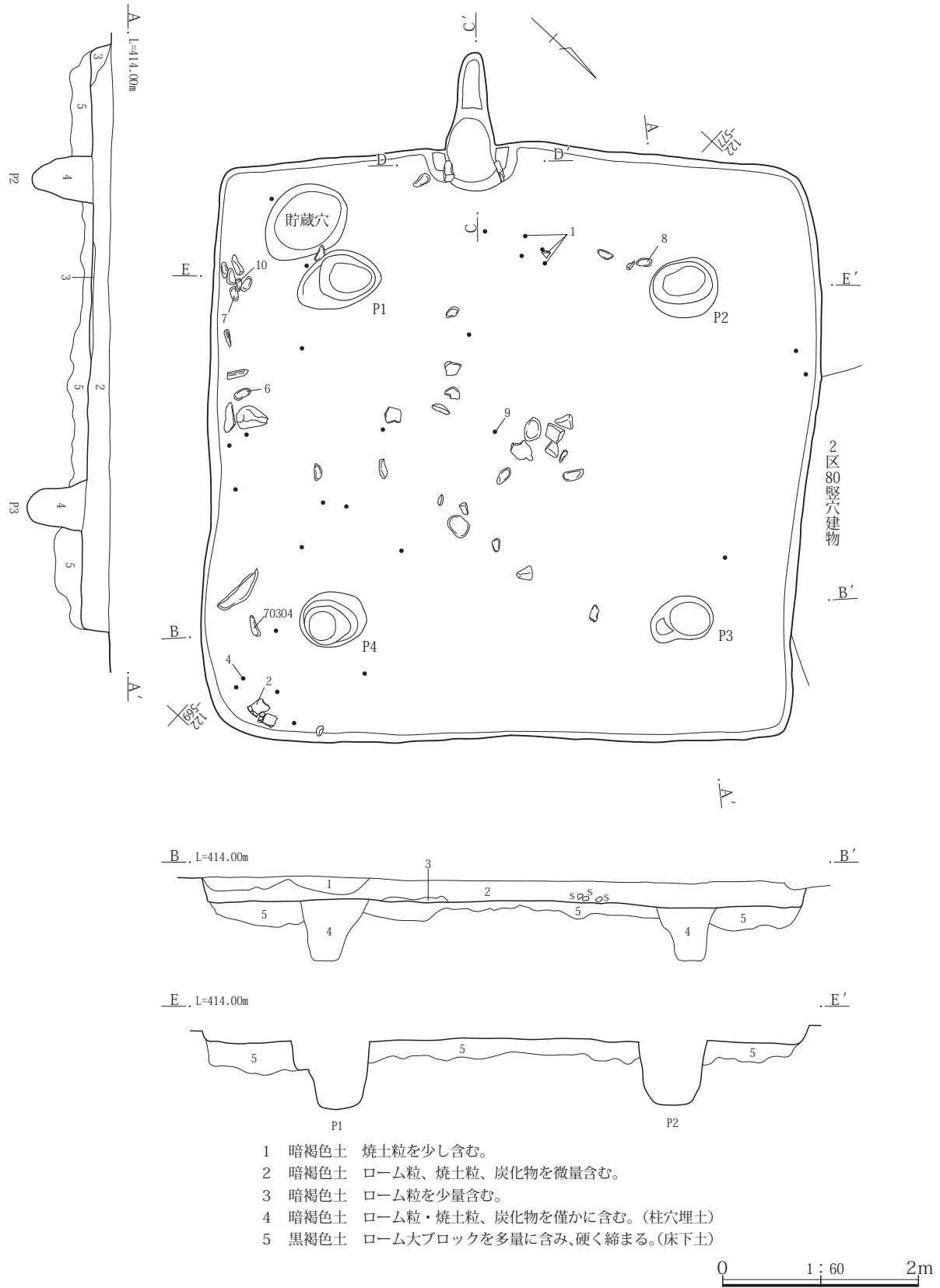
所見・時期：主柱穴が同じで、カマドと貯蔵穴位置を変えた改築を行った建物と考えられる。建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

2区83号竪穴建物

(第219・220図、第13・140表、PL.78・79・223)

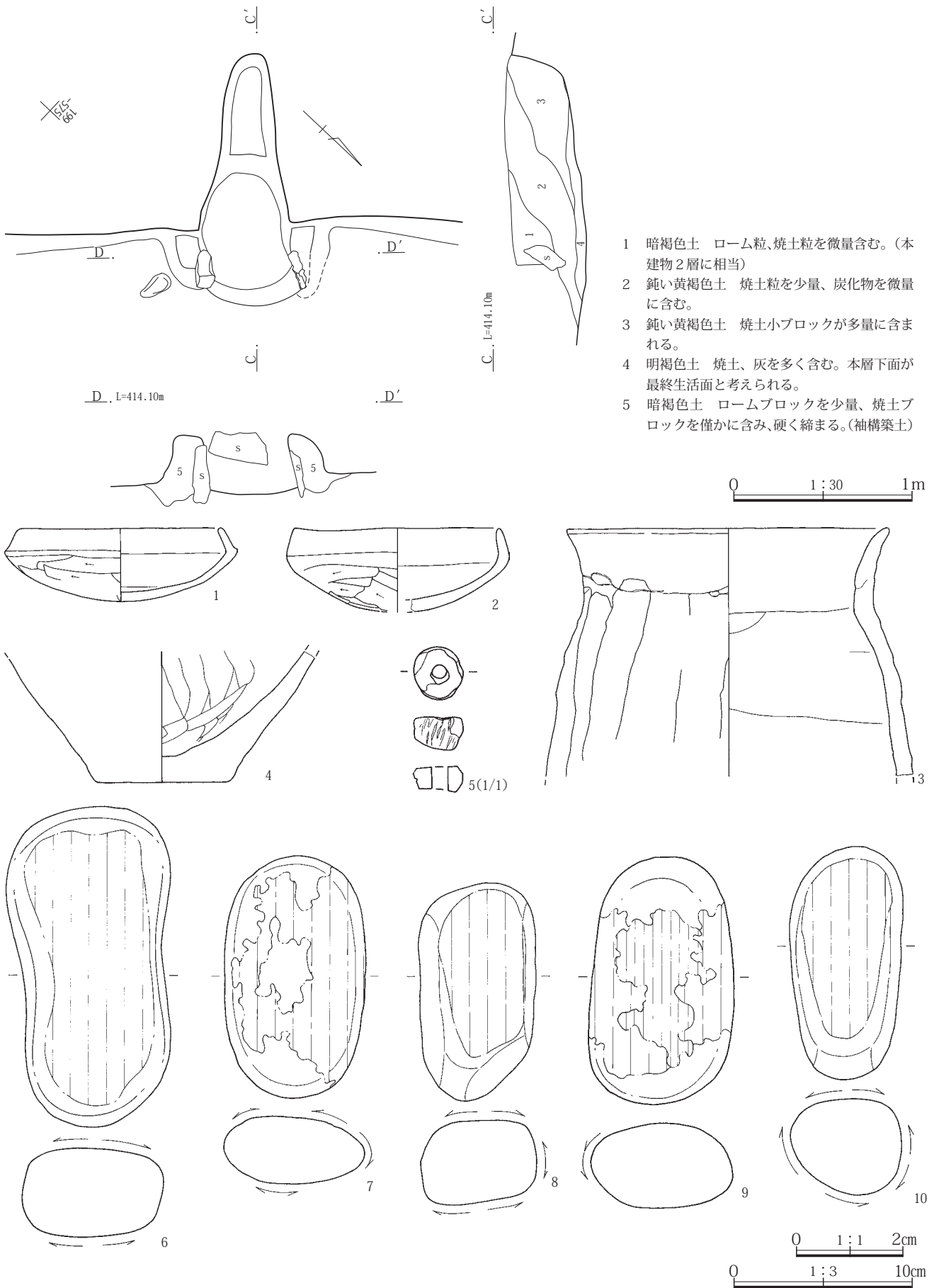
平成28年度の調査で検出した。2区84・96号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集するほぼ中央に位置し、北東側を2区96号竪穴建物、南西側に2区84号竪穴建物のカマド先端が僅かに重複する。また、周囲には2区75・79～82・88～92・96号竪穴建物が近接する。



- 1 暗褐色土 焼土粒を少し含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物を微量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒・焼土粒、炭化物を僅かに含む。(柱穴埋土)
- 5 黒褐色土 ローム大ブロックを多量に含み、硬く締まる。(床下土)

第217図 2区82号竪穴建物 床面 平・断面図



第218図 2区82号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物

グリッド：Z・2A-114・115

座標値：X=61,126~61,132 Y=-93,566~93,573

重複：本建物の北東側に2区96号竪穴建物、南西側を僅かに2区84号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、いずれの建物よりも本建物の方が新しい。

形状：方形

規模：長軸5.05m 短軸4.82m 壁高38~46cm

長軸方向：N-45°-W 床面積：21.63m²

埋没土：鈍い黄褐色土を主とし、1・2層に分層できる。

なお、埋土中には多くの中・大型礫が含まれており、人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、ほぼ平坦で、カマド前を含めた全体が硬化済み。床面上には中・大型礫が散在する。壁高は38~46cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁の中央やや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-36°-Eを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ突出する。残存する規模は、全長1.55m、幅1.22mを測る。袖は壁から80cmほど突き出るようにあり、両先端に袖石はない。なお、カマド埋土中にも大型礫が含まれていたが、天井石とは異なる。焚き口部から燃烧部の底面はほぼ平坦で、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。また、燃烧部の内壁は、被熱して焼土化していた。

カマドの構築状況は、袖部の構築に褐色土を構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、上面形は楕円形を呈するが、下部では長方形となる。上面では長軸133cm、短軸86cm、深さ62cmを測り、黒褐色土を主体とした埋土である。

柱穴：主柱穴と考えられるP1~4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸42~66cm、短軸33~50cm、深さ45~58cmを測り、埋土は暗褐色土である。

周溝：カマドを除く各壁際を巡るようであり、幅15cm前後、深さ8cm前後を測り、鈍い黄褐色土を埋土とする。

床面下：床面下を調査した結果、10cm前後の掘り込みをもち、北隅付近から西隅にかけて自然礫層が露出しており、礫のない底面には礫の抜き取り痕と考えられる凹凸が著しい。埋土はロームブロック、灰色粘土小ブ

ロックを含む鈍い褐色土で、硬く締まっている。

遺物：出土した遺物量は少なく、その多くが埋土中からである。

出土遺物として、土器3点を図示した。1は土師器の有孔鉢で、2・3は土師器の甕である。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器片が僅かにある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀か。

2区84号竪穴建物(第221・222図、第13・141表、PL.79・80・223)

平成28年度の調査で検出した。2区80・82・83号竪穴建物と重複する。調査は、重複する2区84号竪穴建物とほぼ併行して行った。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する中央付近に位置し、北東側の2区83号竪穴建物と僅かに重複し、南側を2区82号竪穴建物、西側を2区80号竪穴建物が大きく重複する。また、東側には2区75号竪穴建物、北西側には2区81号竪穴建物が近接する。

グリッド：Y・Z-115・116

座標値：X=61,123~61,128 Y=-93,570~93,575

重複：本建物の北東側に2区83号竪穴建物、南側に2区82号竪穴建物、西側を2区80号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、いずれの建物よりも本建物が最も古い。

形状：方形

規模：長軸4.88m 短軸4.23m 壁高25~30cm

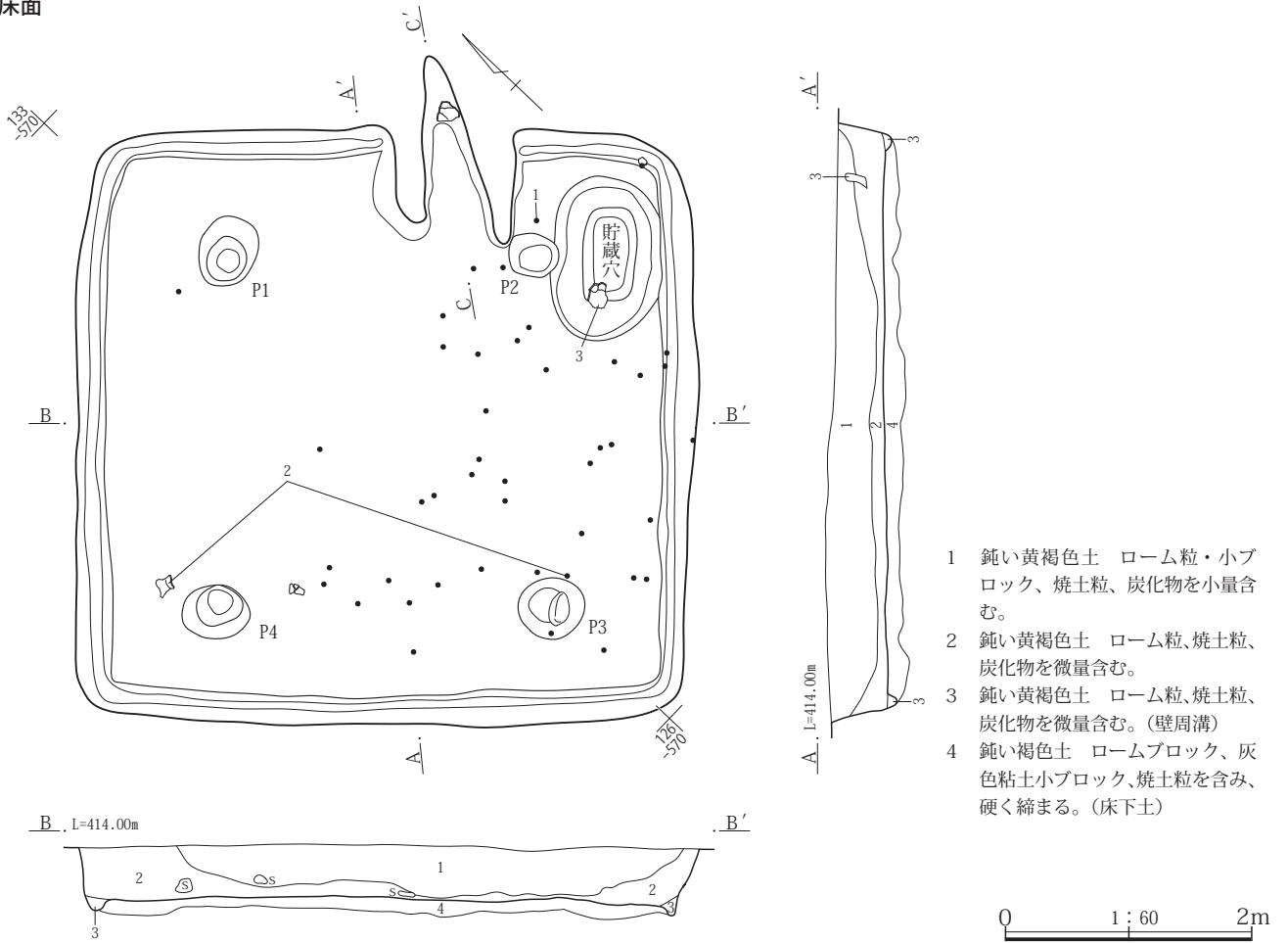
長軸方向：N-52°-E 床面積：(16.55)m²

埋没土：暗褐色土を主とし、2層とした壁際の黒褐色土とに分層できる。

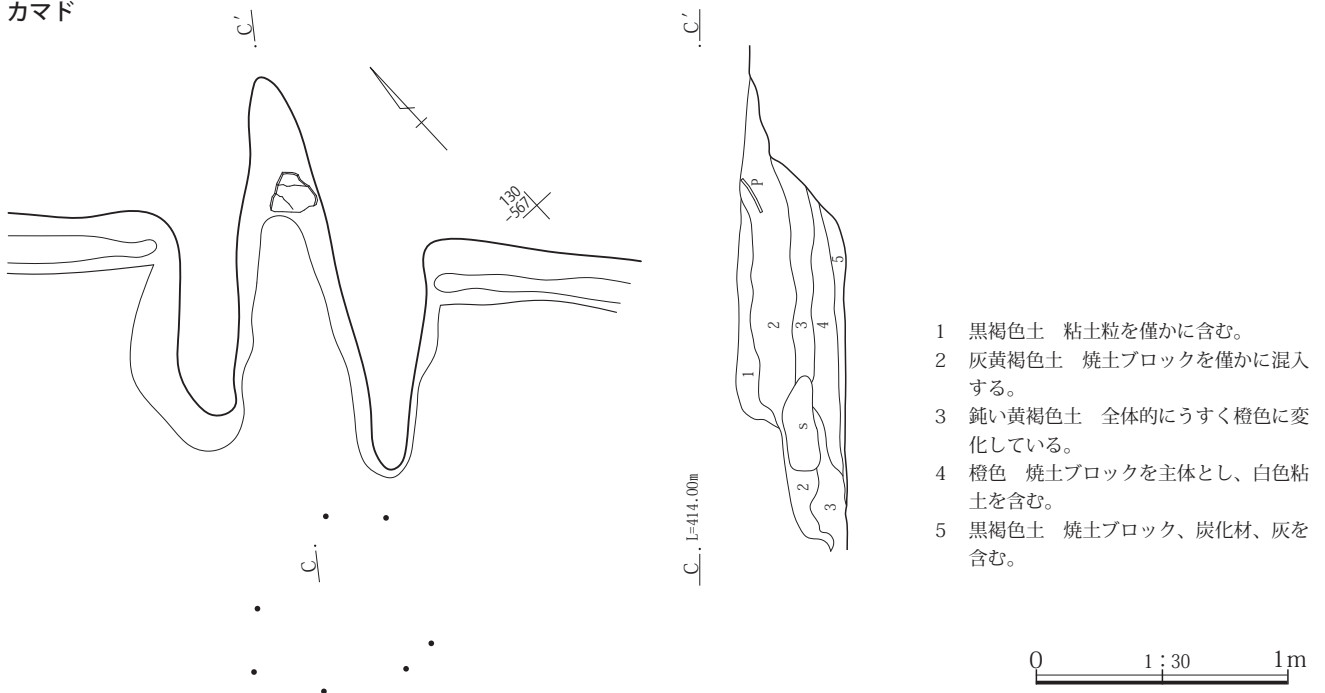
床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、ほぼ平坦であるが、中央から南側の大半が重複する竪穴建물에壊されているため詳細は不明。床面上には多くの炭化材が散在する。壁高は25~30cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁の中央やや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-58°-Eを向き、残存状態はやや良。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ突出するが、先端を重複する2区83号竪穴建물에壊されている。残存規模は、全長(1.02)m、幅1.19mを測る。袖は壁か

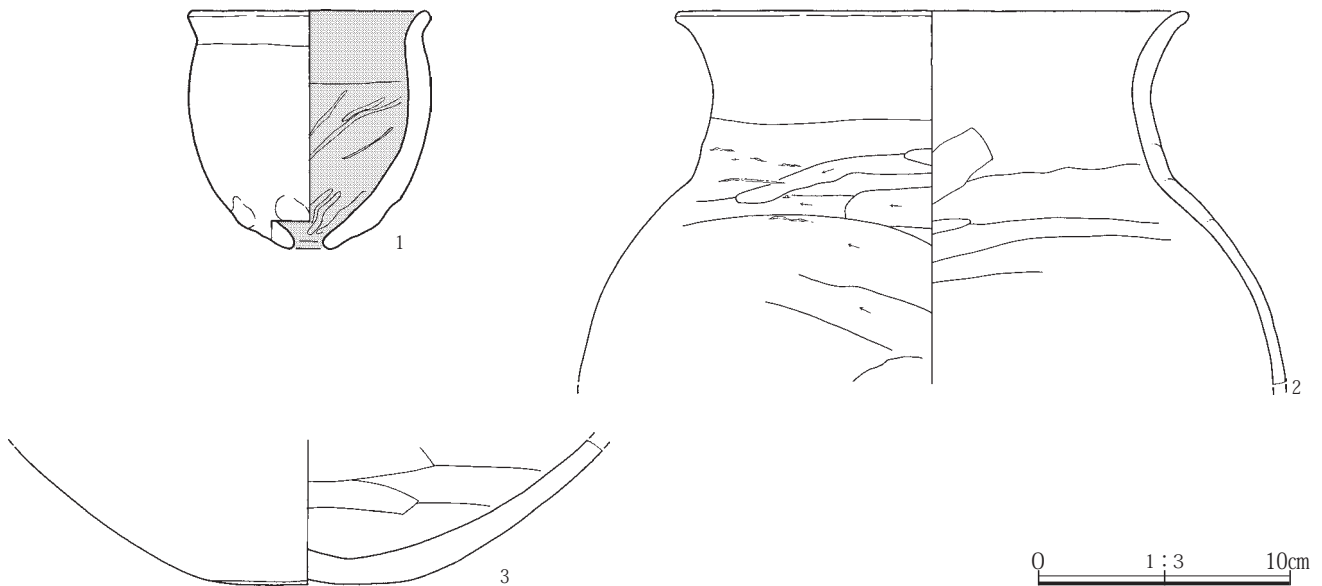
床面



カマド



第219図 2区83号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第220図 2区83号竪穴建物 出土遺物

ら40～50cmほど突き出ようようにあり、両先端に袖石はない。焼き口部から燃焼部の底面はほぼ平坦で、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がる。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、上面形は楕円形を呈する。長軸75cm、短軸65cm、深さ47cmを測り、埋土は黒褐色土を主体とし、6の甕が出土している。また、カマドを隔てた北隅にも土坑を検出した。長軸75cm、短軸65cm、深さ26cmを測る楕円形を呈し、暗褐色土を埋土とする土坑で、貯蔵穴の可能性が高い。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～3を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸25～34cm、短軸22～30cm、深さ40～48cmを測り、埋土は暗褐色土である。P4は確認できていない。

床面下：床面下を調査した結果、ローム面までは5cm前後で凹凸が著しい。詳細は不明。

遺物：出土した遺物量はやや多く、その多くはカマド周辺からの出土である。カマド右袖脇の床面直上からは2の小型甕が、貯蔵穴内上部からは6の甕、さらにカマド前から左側にかけての床面やや上からは7・8の甕胴部および底部が出土している。また、北西壁中央付近の床面直上からは、1の小型壺、3の小型甕、9の磨石が出土している。

出土遺物として、土器8点と石製品1点、金属製品1点を図示した。1は土師器の小型壺、2・3は土師器の小型甕、4～8は土師器の甕である。

石製品には9の表裏面に磨面をもつ粗粒輝石安山岩製の磨石があり、長さ13.1cm、幅6.8cm、厚さ3.5cmを測る。

金属製品には10とした茎部先端に木質の有機物が付着した鉄製の刀子がある。残存長6.6cm、幅1.8cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が多量にある。

所見・時期：床面に出土した炭化材の状況から、焼失家屋の可能性はある。建物の時期は、出土土器から6世紀と考えられる。

2区85号竪穴建物(第223図、第13・142表、PL.80・223)

平成28年度の調査で検出した。第1面調査時の2区96号土坑に一部を壊されている。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する東側の一角に位置し、北東側に2区86・87号竪穴建物、東側に2区77号竪穴建物、西側から南西側にかけて2区62・75・76・88・89号竪穴建物が近接する。

グリッド：Y・Z-112

座標値：X=61,123～61,127 Y=-93,555～93,559

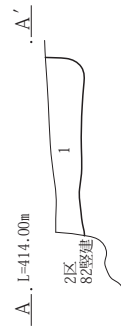
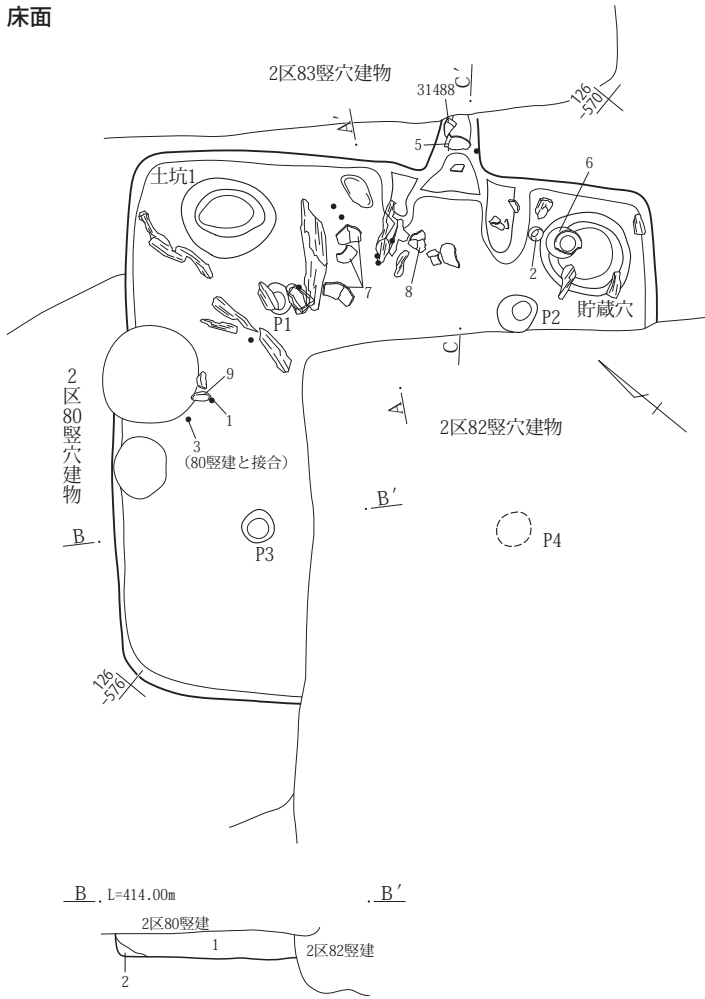
形状：方形

規模：長軸3.15m 短軸3.03m 壁高25～30cm

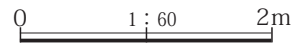
長軸方向：N-44°-E 床面積：8.14㎡

埋没土：黒褐色土を主とした1・2層に分層できる。また、2層下位には炭化物を多く含み、中央床面上にはやや広めに焼土ブロックを確認した。

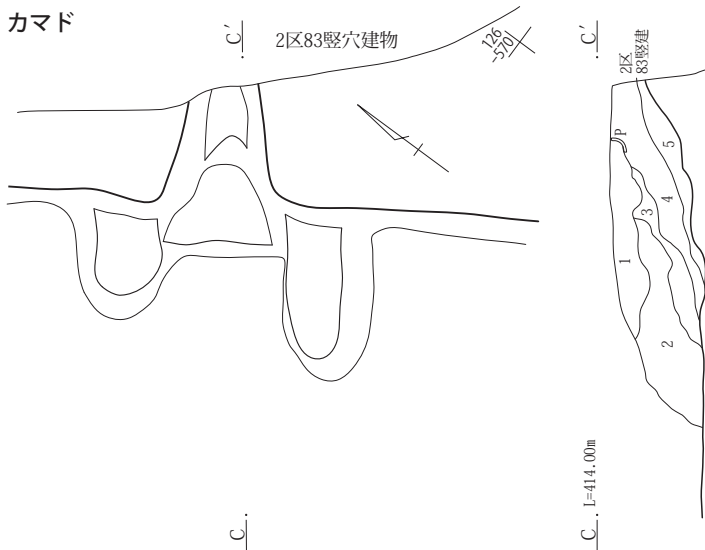
床面



- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物を微量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックが多量混入する。

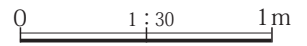


カマド

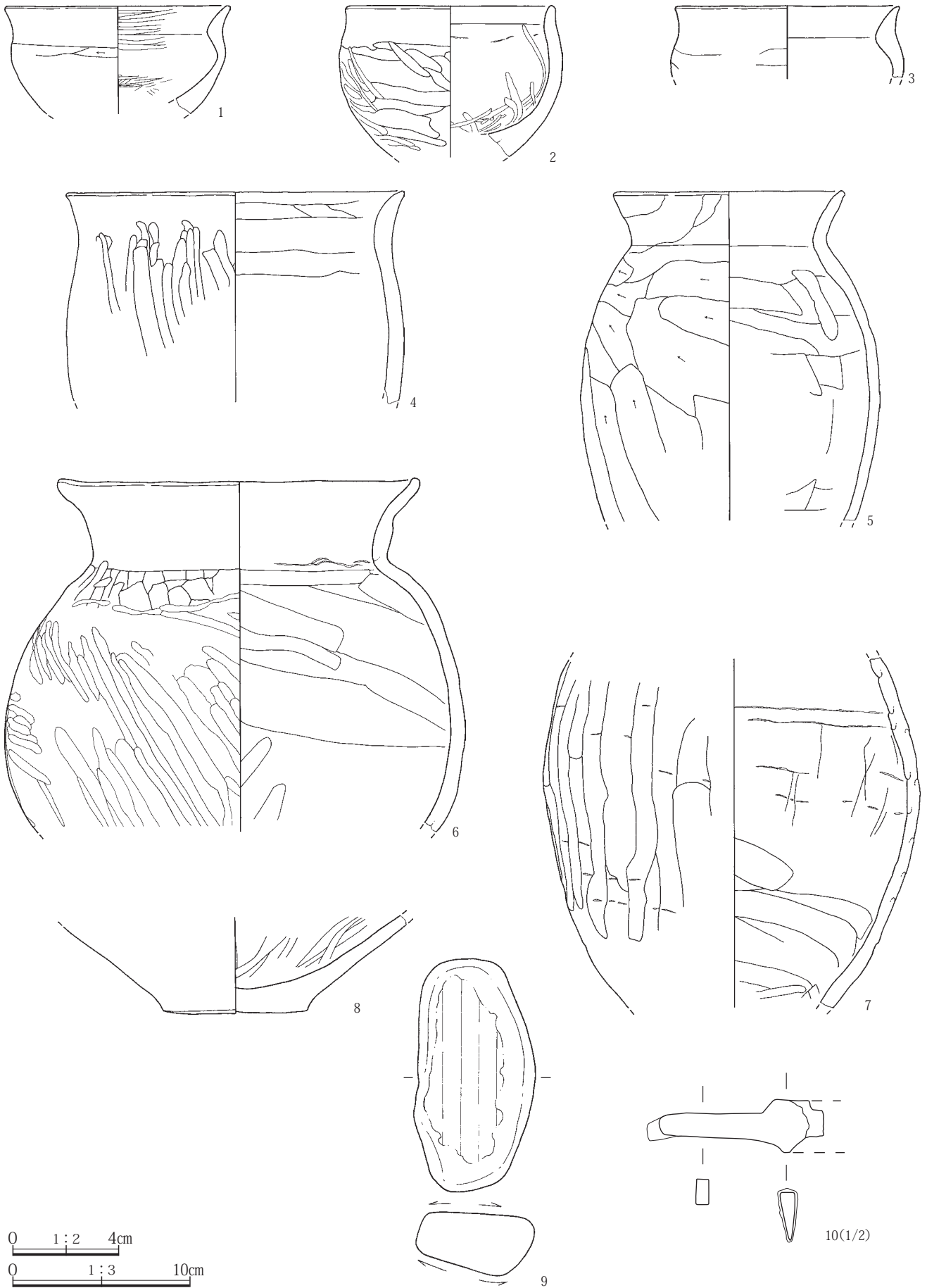


C. L=414.00m

- 1 黒褐色土 焼土・ロームブロックを僅かに含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒、焼土粒を含む。
- 3 暗赤褐色土 焼土ブロックが主体。
- 4 褐色土 黄褐色土ブロックが主体で、焼土が混入する。
- 5 褐色土 焼土粒、炭化物、灰を多量に含む。



第221図 2区84号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第222図 2区84号竪穴建物 出土遺物

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から全体に硬化済み。床面中央付近は被熱して焼土化し、周囲の床面上には多くの炭化材が散在する。壁高は25～30cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁の中央やや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-42°-Eを向き、残存状態はやや良。燃燒部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ短く突出する。残存規模は、全長0.86m、幅0.87mを測る。袖は壁から40～55cmほど突き出るようであり、両先端に袖石はない。焚き口部から燃燒部の底面は床面よりやや低くなり、煙道部は燃燒部奥から斜位に立ち上がる。また、カマド前の床面上には扁平な大型棒状礫が出土しており、焚き口部に架かる天井石の可能性をもつ。

カマドの構築状況は、袖部の構築に鈍い黄褐色土を構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近で、カマド右袖に接するようにある。上面形は楕円形を呈し、長軸55cm、短軸45cm、深さ46cmを測り、黒色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸35～48cm、短軸30～45cm、深さ28～60cmを測り、埋土は鈍い黄褐色土ないし暗褐色土である。また、北西壁中央の壁際にP5を検出している。

床面下：床面精査時に、カマド前から南隅方向に長い床下土坑を確認した。床下土坑は長軸1.3m、短軸0.63m、深さ37cmを測る長方形で、暗褐色土を埋土とする。また、床面下を調査した結果が、明らかな掘り込みをもつかは不明。

遺物：出土した遺物量は少なく、ほとんどが埋土中からである。

出土遺物として、土器2点を図示した。1は土師器の甕の胴部片で、凹線による区画内に波状文を施している。2は土師器の甕である。

未掲載遺物には、土師器片と須恵器片が1点ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀と考えられる。

2区86号竪穴建物

(第224～228図、第13・143表、PL.81・82・224～227)
平成28年度の調査で検出した。2区87号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する東側の一角に位置し、東隅を2区87号竪穴建物と重複する。北側に2区94号竪穴建物、東側に2区93号竪穴建物、南西側から西側にかけて2区85・88・89号竪穴建物が近接する。

グリッド：Z・2A-111・112

座標値：X=61,127～61,131 Y=-93,553～93,557

重複：本建物の東隅を僅かに2区87号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、本建物の方が古い。

形状：方形

規模：長軸3.45m 短軸3.33m 壁高55～60cm

長軸方向：N-44°-E 床面積：8.71㎡

埋没土：褐色土を主とした1・2層に分層できる。また、2層下位には炭化物を多く含む。なお、埋土中には多くの遺物と共に中・大型礫が含まれており、人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下面にあり、ほぼ平坦で、カマド前から全体に硬化する。床面上には多くの炭化材が散在し、床中央付近が被熱して焼土化していた。なお、重複する2区87号竪穴建物より、本建物の床面の方がやや高い。壁高は55～60cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-42°-Eを向き、残存状態は良好。燃燒部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ短く突出する。残存規模は、全長1.01m、幅0.77mを測る。袖は壁から45cmほど突き出るようであり、両先端に袖石を確認した。カマド前の床面上には扁平な大型棒状礫が出土しており、焚き口部に架かる天井石と考えられる。焚き口部から燃燒部の底面は床面より僅かに低くなり、煙道部は燃燒部奥から斜位に立ち上がる。

カマドの構築状況は、袖部先端に袖石を据えると共に、各袖の中間に芯材として縦長な石を据え、その後に黄褐色土を袖の構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近で、カマド右袖に接するようにある。上面形は不整な楕円形を呈し、長

第4章 検出された遺構と遺物

軸70cm、短軸67cm、深さ30cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

周溝：途切れ途切れではあるが、各壁際を巡るようであり、幅12cm前後、深さ7cm前後を測り、暗褐色土を埋土とする。

床面下：床面精査時に、床面中央の北西側に床下土坑を確認した。床下土坑は長軸1.17m、短軸1.00m、深さ23cmを測る楕円形で、暗褐色土を埋土とする。また、床面下を調査した結果、明らかな掘り込みをもつかは不明。

遺物：出土した遺物量はかなり多量にあるが、埋土中からの出土も多い。本建物に伴う遺物としては、カマド燃焼部奥から出土した8の高杯があり、崩落した焚き口天井石上に22の甕、その前に1の杯がある。カマドの右袖右脇となる貯蔵穴上面には、手前側から北東壁側に向かって6の高杯が逆位で、次に9の鉢と12の有孔鉢が正位で有孔鉢が上になる入れ子状に重なって、次に20の小型甕が正位、そして18の甗が横位に潰れた状態で、順に並ぶように出土している。しかも、これらはほぼ完形品である。さらに、貯蔵穴上面からは16の壺の口縁部、カマド前の床面直上には10の鉢。また、建物中央付近の床面直上には24の甕が横位に潰れた状態、19の特殊小型台付甕が横転した状態で、14・15の壺等が出土している。埋土中からの出土状況は、西隅から南隅の壁沿いから建物中央に向かって傾斜するように遺物や礫が集中しており、その中の主な遺物に2の杯、7の高杯、13の壺、17の甗、21・23の甕等がある。一方、床面上に散在する炭化材の状況は、壁側から中央へ向かうようであり、多くは幅10～15cmの板材である。

出土遺物として、土器25点と石製品2点を図示した。1～4は土師器の杯で、1は内斜口縁となり、内面にヘラ磨きを施す。5は土師器の椀(鉢)で、外・内面にヘラ磨きを施す。6～8は土師器の高杯で、6・8は脚部が短く、7・8の杯身部の内面にはヘラ磨きが施され、8の杯身部の内面は黒色処理されている。9～11は土師器の鉢で、11の外面にはヘラ削り後にヘラ磨き、内面にヘラ磨きを施す。12は土師器の有孔鉢。13～16は土師器の壺で、16の口縁部の外・内面にはヘラ磨きが施される。17・18は土師器の甗で、17の内面は

ヘラナデ後にヘラ磨き、18は歪みをもつが内面にヘラ磨きが施される。19は土師器の特殊小型台付甕で、口縁部に突起の欠損痕を残し、脚部も欠損する。20は土師器の小型甕。21～25は土師器の甕で、21・25では胴部下半の最大径をもち、21の胴部外面にはヘラ削り後にヘラ磨きが施され、25は底部が丸底となる。

石製品には26の白玉と27の管玉がある。26は滑石製で、灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.5cm、孔径約3mm、重さ0.63gを測る。27は頁岩製で、長さ3.4cm、幅1.1cm、厚さ1.1cm、孔径約3mm、重さ3.83gを測り、丁寧な研磨が施され、孔は両面穿孔による。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器片が3片ある。

所見・時期：床面に出土した炭化材の状況および床面の被熱から、焼失家屋と考えられる。建物の時期は、出土土器から5世紀末から6世紀初頭と考えられる。

2区87号竪穴建物

(第229～231図、第13・144表、PL.82・227・228)

平成28年度の調査で検出した。2区86・93号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する東側に位置し、東側に2区93号竪穴建物、西隅に2区86号竪穴建物と重複する。北側に2区94号竪穴建物、南側に2区77号竪穴建物、南西側に2区85号竪穴建物が近接する。

グリッド：Z・2A-110・111

座標値：X=61,126～61,132 Y=-93,547～93,553

重複：本建物の東側に2区93号竪穴建物、西隅を僅かに2区86号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、いずれの建物よりも本建物の方が新しい。

形状：方形

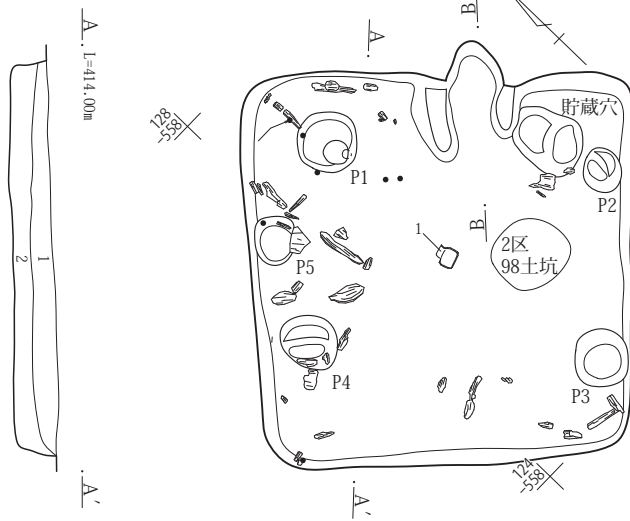
規模：長軸4.46m 短軸4.30m 壁高55～63cm

長軸方向：N-39°-W 床面積：16.33㎡

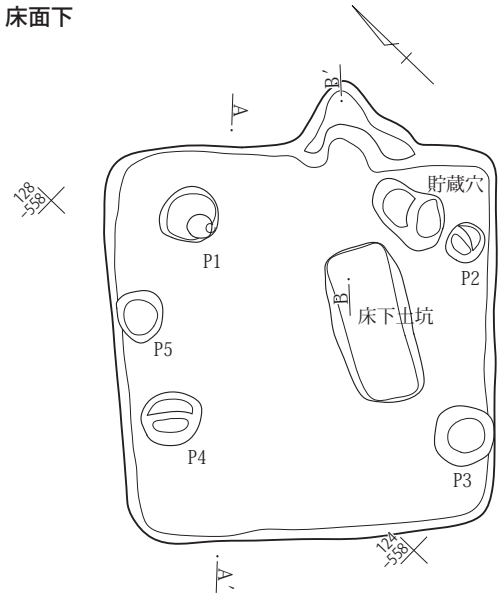
埋没土：黒褐色土を主とした1～4層に分層できる。また、埋土中には多くの遺物と共に中・大型礫が含まれており、人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序IX層となるローム中にあり、ほぼ平坦であるが中央がやや高まり、カマド前から全体に硬化する。なお、重複するいずれの

床面



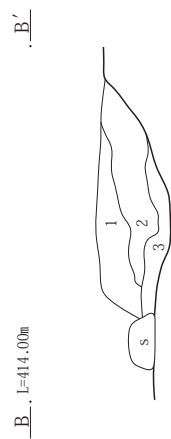
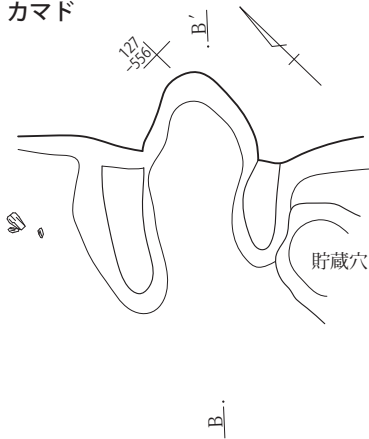
床面下



- 1 黒褐色土 焼土粒、焼土ブロックを僅かに含む。
- 2 黒褐色土 下位に大型の炭化材や炭化物を含み、中央床面上にやや広めに焼土ブロックを確認できる。

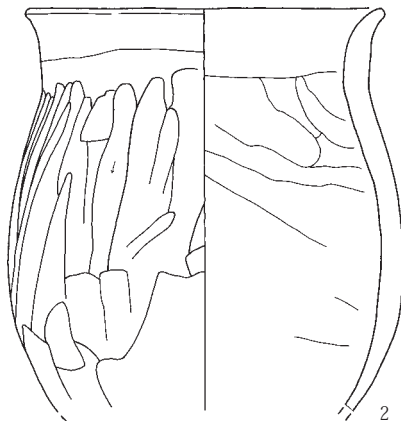
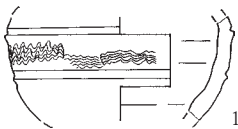
0 1:60 2m

カマド



- 1 黒褐色土 炭化物と焼土化した黄褐色粘土ブロックが少量混入する。
- 2 黒褐色土 黄褐色粘土ブロックを多量に、炭化物を少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。

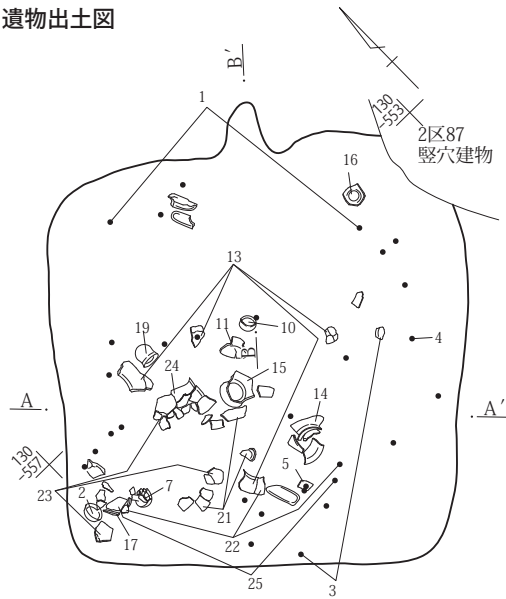
0 1:30 1m



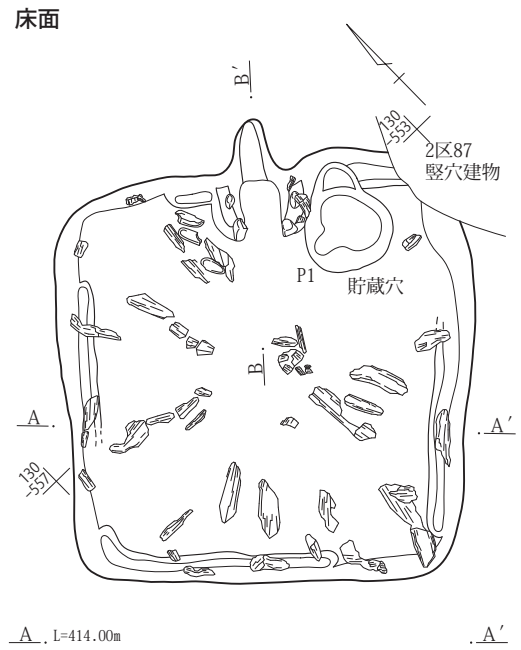
0 1:3 10cm

第223図 2区85号竪穴建物 床面、床面下、カマド 平・断面図、出土遺物

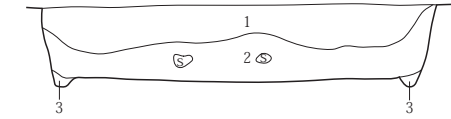
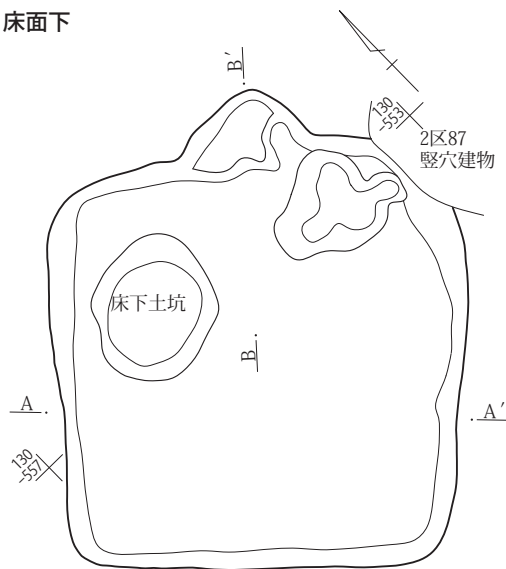
遺物出土図



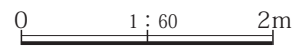
床面



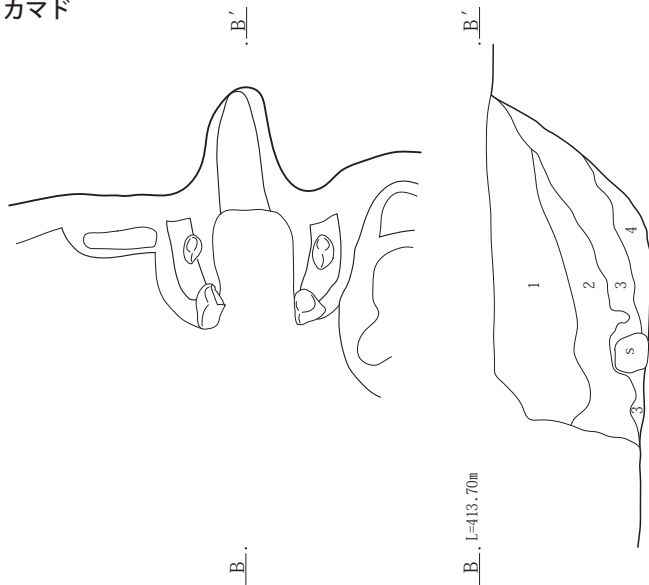
床面下



- 1 褐色土 ローム粒を少量、焼土粒や炭化物を微量含む。
- 2 褐色土 炭化物を多く、ローム粒や焼土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。(壁周溝)



カマド



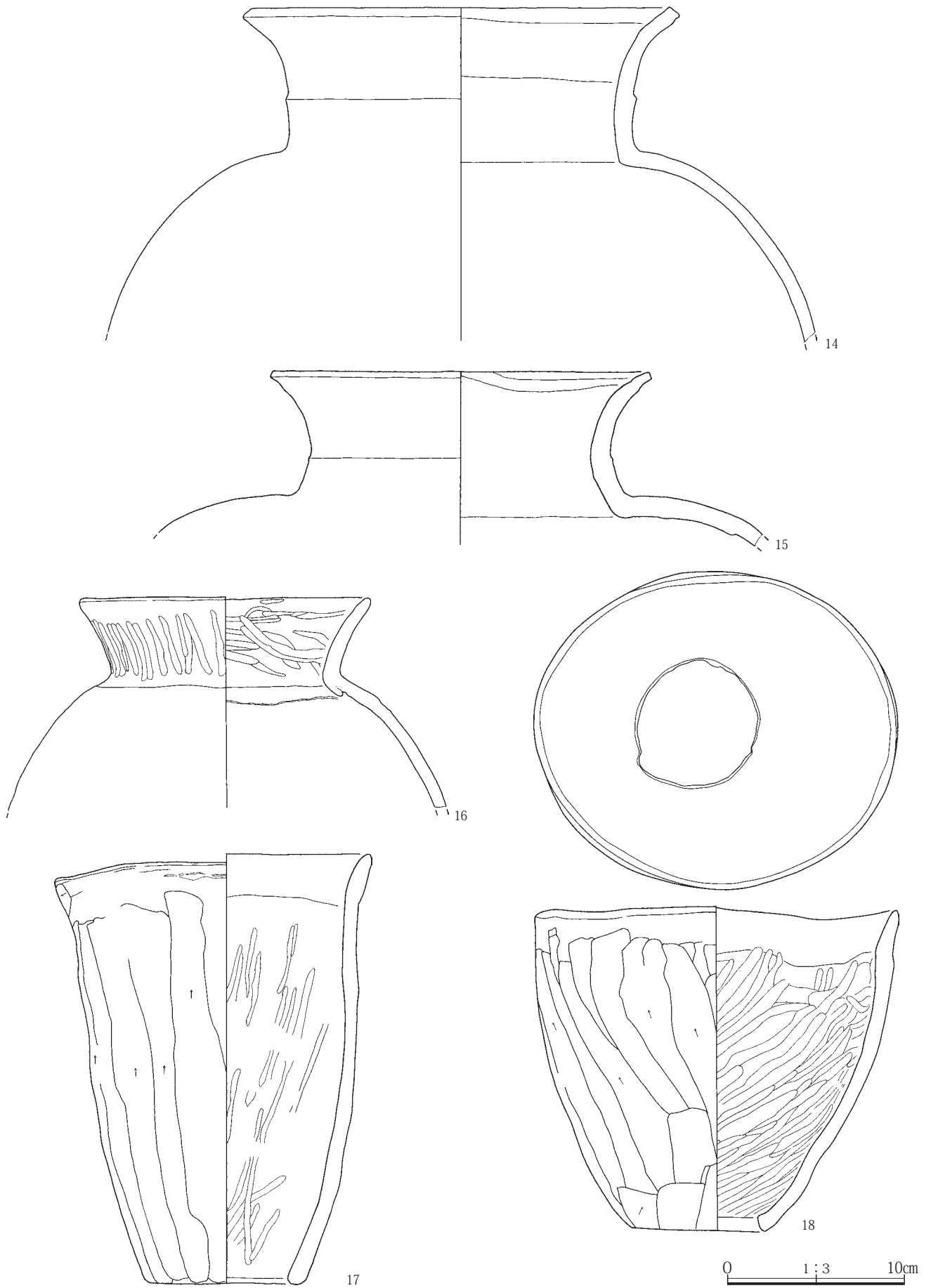
- 1 暗褐色土 ローム粒を少量、焼土粒と炭化物を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土 焼土粒を少量、炭化物を微量に含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒を多く含む。



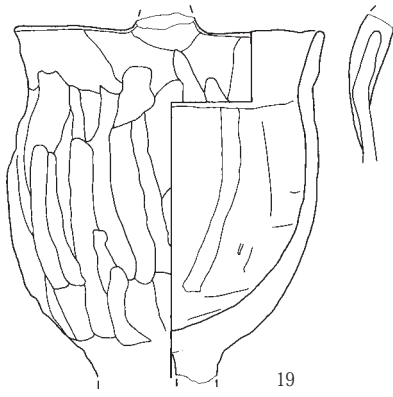
第224図 2区86号竪穴建物 遺物出土図、床面、床面下、カマド 平・断面図



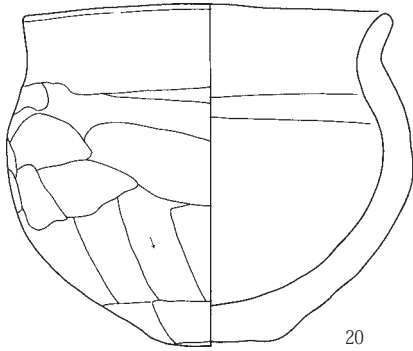
第225図 2区86号竪穴建物 出土遺物(1)



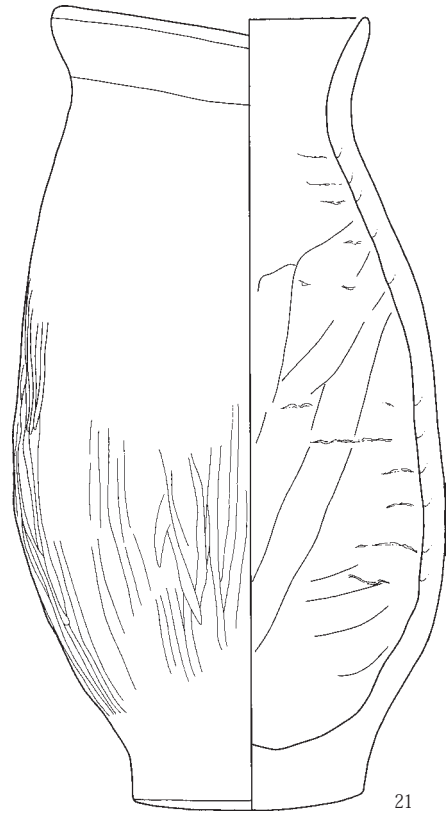
第226図 2区86号竪穴建物 出土遺物(2)



19



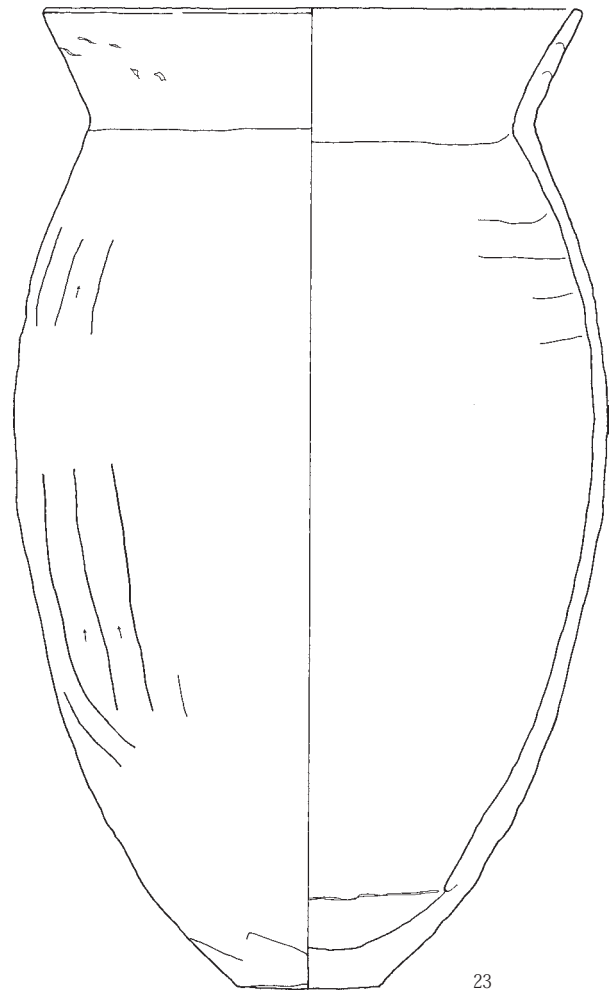
20



21



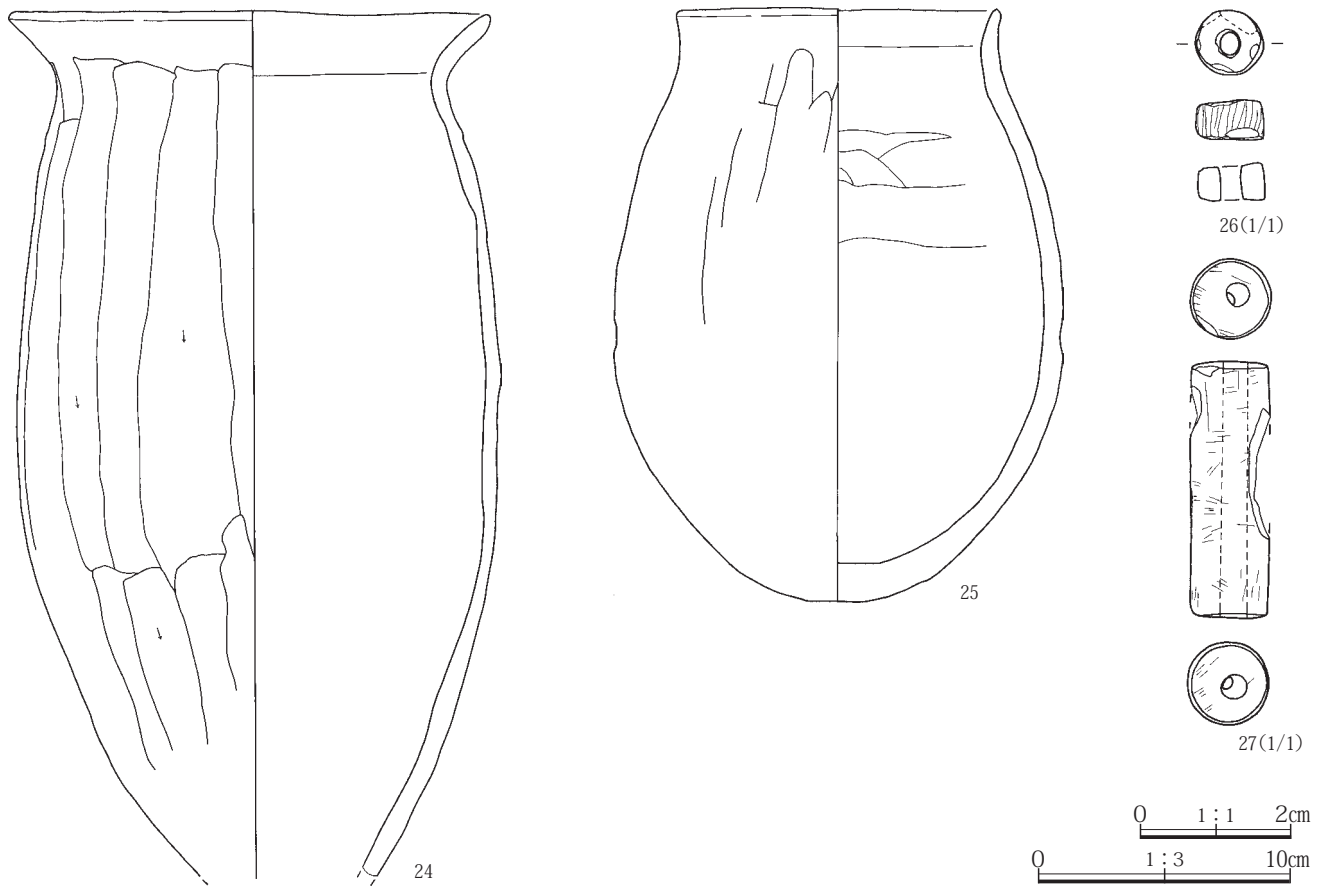
22



23

0 1:3 10cm

第227図 2区86号竪穴建物 出土遺物(3)



第228図 2区86号竪穴建物 出土遺物(4)

竪穴建物より、本建物の床面の方が低い。壁高は55～63cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-49°-Eを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ短く突出する。残存規模は、全長1.25m、幅1.14mを測る。袖は壁から80cmほど突き出るようにあり、両先端に袖石を確認したが、左袖石は横転していた。付近に焚き口部の天井石は確認されていない。焚き口部から燃烧部の底面は床面より低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。

カマドの構築状況は、袖部先端に袖石を据え、その後黄褐色土や暗褐色土を袖の構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近にあり、上面形は楕円形を呈する。長軸113cm、短軸70cm、深さ30cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸45～60cm、短軸40～50cm、深さ28～48cmを測り、埋土は暗褐色土である。

周溝：北隅付近と南隅付近の一部に検出した。幅14cm前後、深さ7cm前後を測り、暗褐色土を埋土とする。

床面下：建物中央部が高く、周囲がやや低い掘り込みを確認した。深さ4～15cmを測り、埋土はロームブロックを含む暗褐色土で上面は硬化する。なお、底面には自然礫層が露出しており、礫の抜き取り痕と考えられる凹凸が著しい。

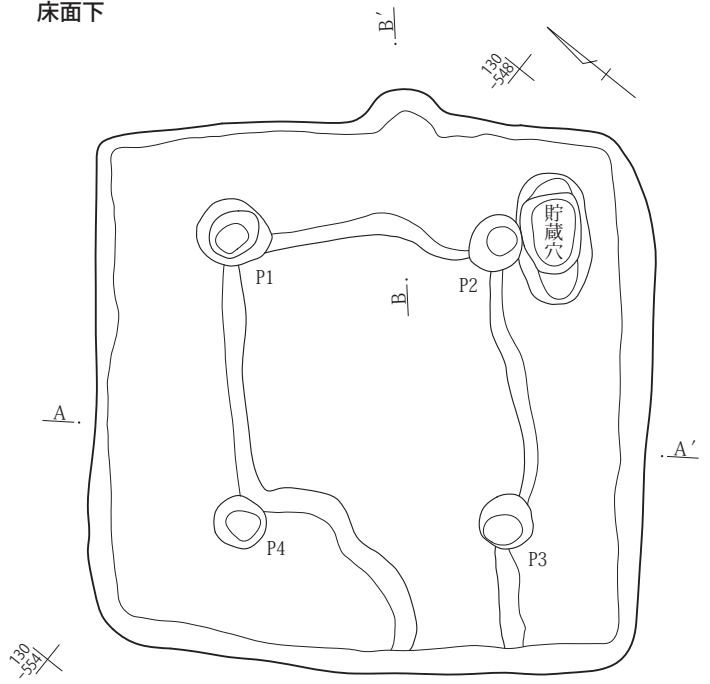
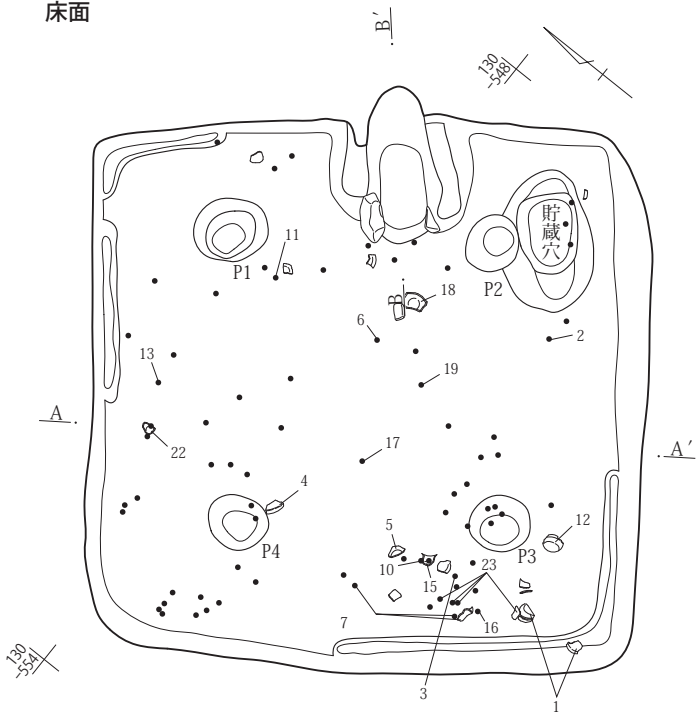
遺物：出土した遺物量は多量にあるが、そのほとんどが埋土中からの出土である。僅かに、カマド前の床面やや上から6の杯、18の甕が出土し、床面中央の床面直上に8の杯、19の甕底部が出土している。

出土遺物として、土器23点と土製品1点、石製品1点を図示した。1～9は土師器の杯で、3・5の内面および9の外・内面にはヘラ磨きを施す。10・11は土師器の鉢で、10の内面にヘラ磨きを施す。12・13は須恵器の杯蓋。14は土師器の小型無頸壺で、窄まる口縁下に孔を有する。15は土師器の小型甕。16～23は土師器の甕である。

土製品の24は、先端を欠く羽口である。

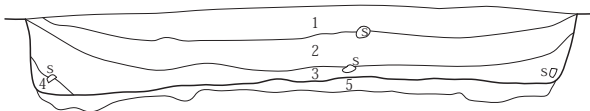
床面

床面下



A, L=414.00m

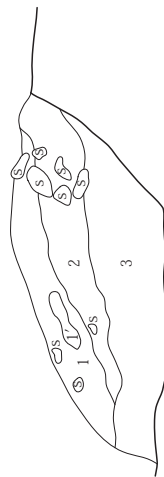
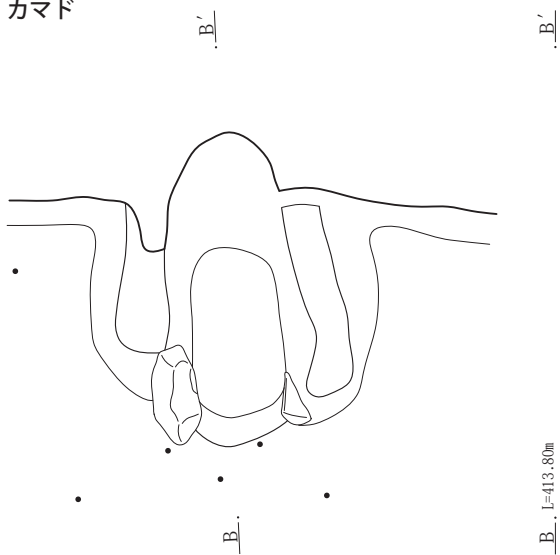
A'



- 1 黒褐色土 焼土粒を僅かに含み、礫が混入する。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック、ローム粒、炭化物を含み、中型礫が混入する。
- 3 黒褐色土 焼土粒を少量含み、中型礫が多く混入する。
- 4 黒褐色土 ローム小ブロック以下が混入する。やや軟質土。
- 5 暗褐色土 ローム粒・ブロックを含み、硬く締まる。(床下土)

0 1:60 2m

カマド

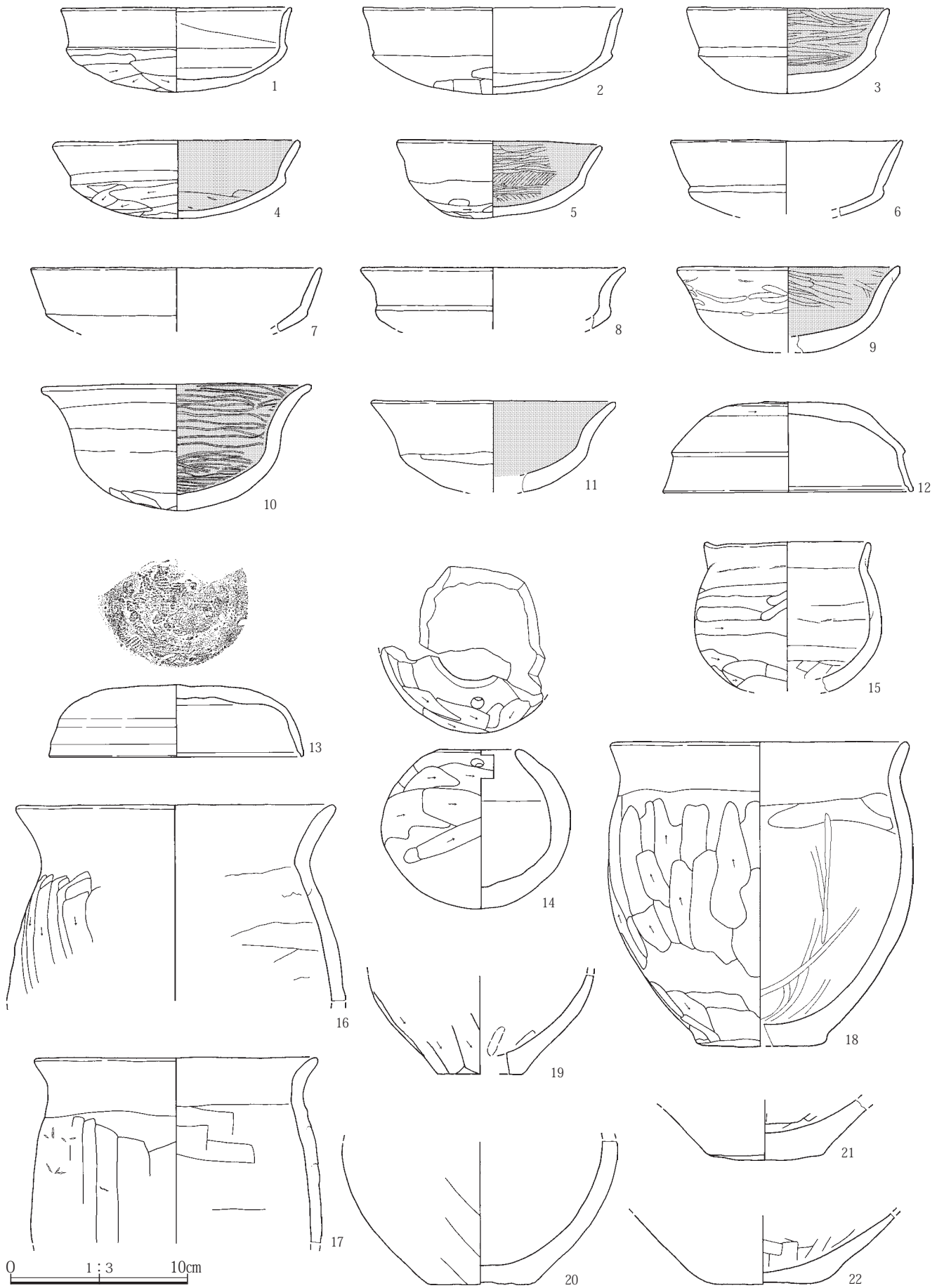


B, L=413.80m

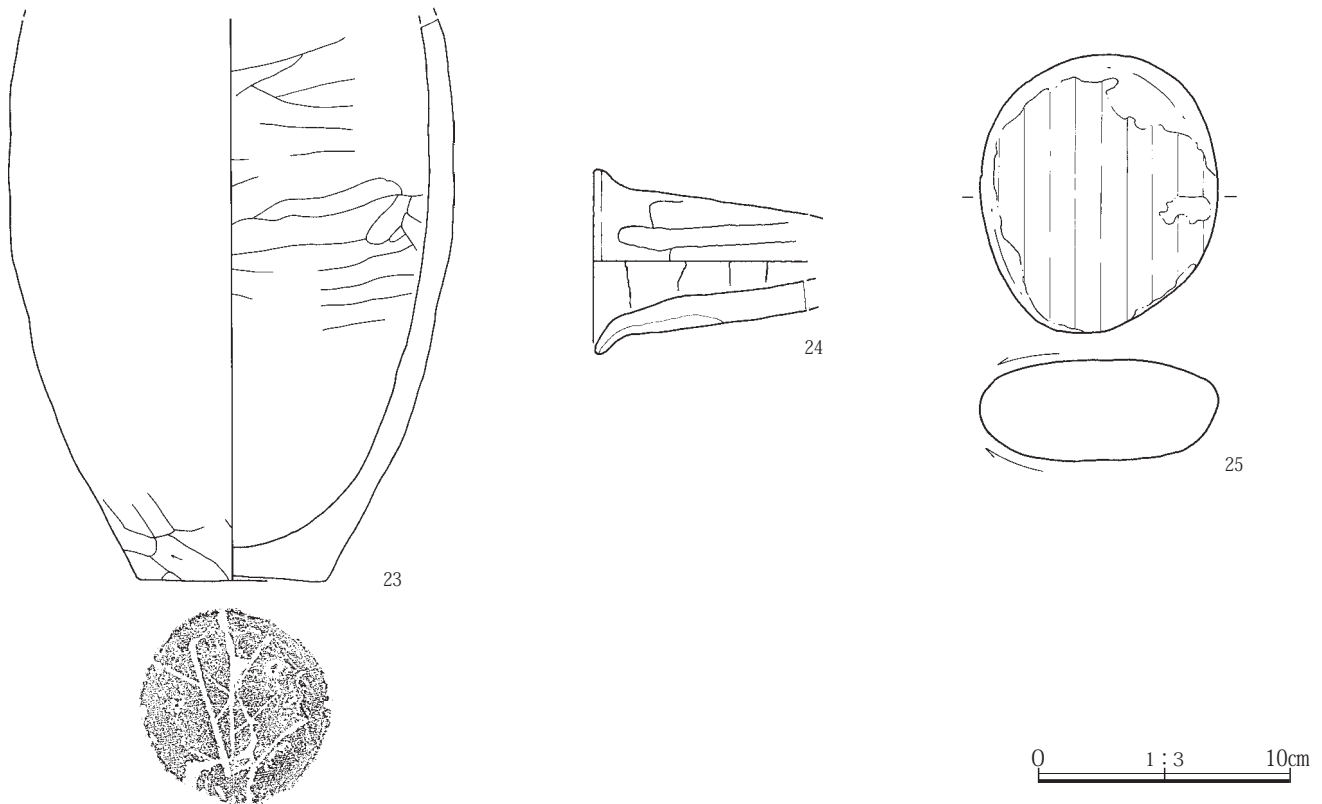
- 1 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物を僅かに、礫を含む。
- 2 暗褐色土 ローム中ブロックを微量、礫を多く含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒を少量、炭化物、灰、骨片を微量に含む。

0 1:30 1m

第229図 2区87号竪穴建物 床面、床面下、カマド 平・断面図



第230図 2区87号竪穴建物 出土遺物(1)



第231図 2区87号竪穴建物 出土遺物(2)

石製品の25は、全面が磨面となる粗粒輝石安山岩製の磨石で、長さ11.0cm、幅9.4cm、厚さ4.0cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区89号竪穴建物

(第232図、第13・146表、PL.84・85・230)

平成28年度の調査で検出した。2区88号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する東側の一角に位置し、南側に2区88号竪穴建物と大きく重複する。また、東側に2区85・86号竪穴建物、南側に2区75・76号竪穴建物、西側に2区83号竪穴建物、北西側に2区92・96号竪穴建物が近接する。

グリッド：Z・2A-112・113

座標値：X=61,126~61,130 Y=-93,559~93,564

重複：本建物の南側を大きく2区88号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、本建物の

方が古い。

形状：方形

規模：長軸4.06m 短軸3.61m 壁高9~25cm

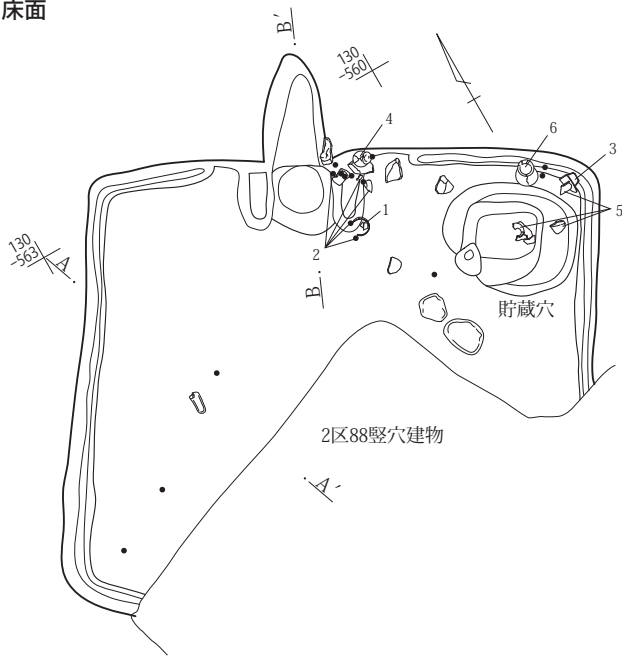
長軸方向：N-63°-W 床面積：(13.06)m²

埋没土：1層の暗褐色土を埋土とする。埋土中に大型礫を混入することから、人為的堆積の可能性が高い。

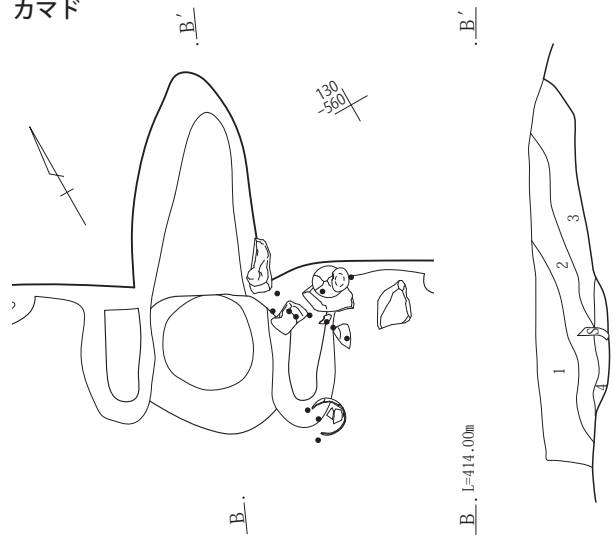
床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層中位にあり、ほぼ平坦で、全体にやや硬化ぎみ。なお、重複する2区88号竪穴建物より、本建物の床面の方が高い。壁高は15cm前後を測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや北寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-24°-Eを向き、残存状態はやや悪い。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側にやや長く突出する。カマドの規模は、全長1.45m、幅1.01mを測る。袖は壁から50cmほど突き出るようであり、両袖先端に袖石は確認されていない。焚口部から燃焼部の底面は概ね平坦で、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がる。なお、燃焼部および煙道部に1石ずつの石が配されていることから、石組みカマドであった可能性もあるが、詳細は不明。

床面



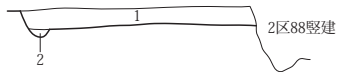
カマド



- 1 暗褐色土 焼土粒を微量に含む。
- 2 褐色土 焼土粒、ローム粒を微量に含む。
- 3 褐色土 灰を多く、焼土粒を少量含む。
- 4 暗褐色土 灰を多く、焼土粒・ブロックを含む。

A, L=414.00m

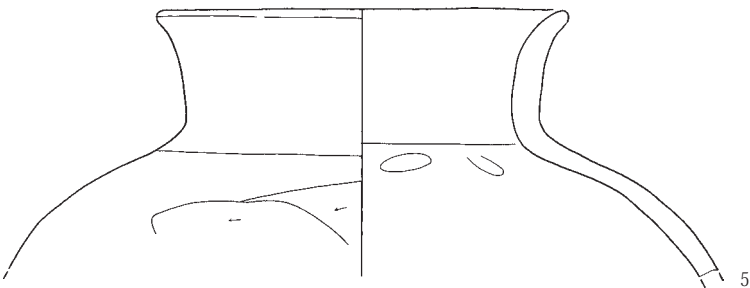
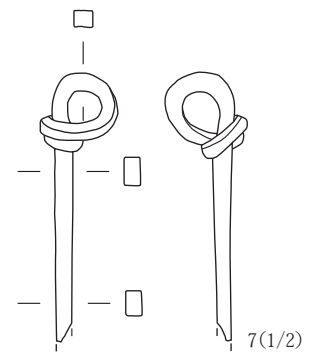
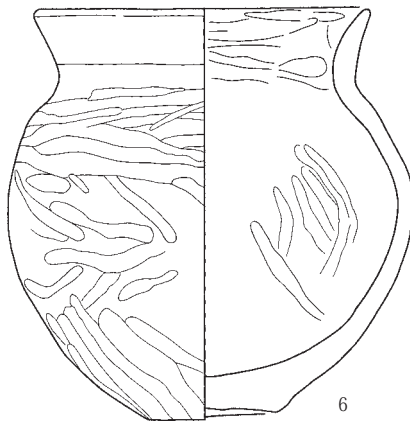
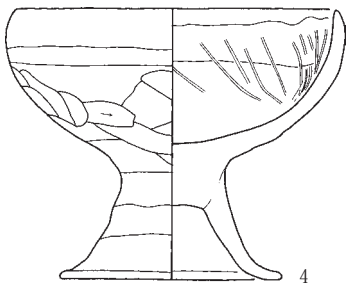
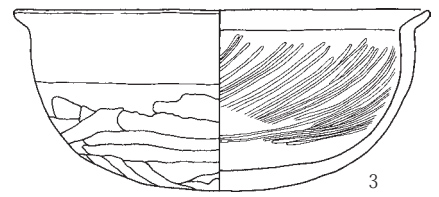
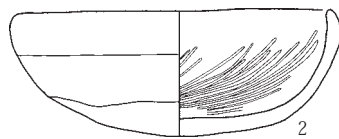
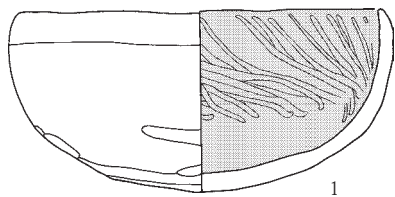
A'



- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少し含む。
- 2 暗褐色土 1層よりやや暗い。(壁周溝)

0 1:60 2m

0 1:30 1m



0 1:2 4cm
0 1:3 10cm

第232図 2区89号縦穴建物 床直、カマド 平・断面図、出土遺物

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅にあり、上面形は楕円形円形を呈する。長軸105cm、短軸88cm、深さ46cmを測り、暗褐色土を埋土とする。埋土中から遺物が出土している。

周溝：カマド部分を除く壁際を巡るようであるが、重複する南側は不明。幅15cm前後、深さ7cmを測り、やや暗い暗褐色土を埋土とする。

床面下：ローム面まで確認したが、明確な掘り込みをもつかは不明。

遺物：出土した遺物量はやや少ないものの、カマド右袖脇に2の杯と4の高杯が逆位で出土し、東隅の壁際に3の杯と6の小型甕が正位で床面直上に出土している。また、5の壺の口縁部が貯蔵穴内から出土している。

出土遺物として、土器6点と金属製品1点を図示した。1～3は土師器の杯で、3点共に内面にはへら磨きが施され、3は内斜口縁である。4は土師器の高杯で、杯身部内面にはへら磨きを施す。5は土師器の壺、6は土師器の小型甕である。

金属製品の7は馬具で、鉄製の引手金具。残存長7.2cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から5世紀後半と考えられる。

2区92号竪穴建物

(第233～235図、第13・149表、PL.86・87・231)

平成28年度の調査で検出した。2区91・96号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する北側の一角に位置し、南側に2区96号竪穴建物、西側に2区91号竪穴建物が重複する。また、南東側から南側および西側にかけて2区79・81・83・89・90号竪穴建物、北西側に2区74号竪穴建物が近接する。

グリッド：2A～2C-113～115

座標値：X=61,132～61,143 Y=-93,562～93,572

重複：本建物の南側を2区96号竪穴建物、西側を2区91号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、2区91号竪穴建物より本建物が旧く、2区96号竪穴建物より新しい。

形状：正方形

規模：長軸8.12m 短軸8.10m 壁高44～50cm

床面積：60.80㎡

埋没土：暗褐色土を主としながらも、壁際の埋土も含め1～5層に分層できる。なお、2層中には多くの中型礫が含まれることから、人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序Ⅶ層となるローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前を含めた全体が硬化する。なお、重複する2区91号竪穴建物の床面より、本建物の床面の方が低い位置にある。壁高は44～50cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：2基のカマドを確認した。カマド1は本建物の廃絶時に伴う最も新しいカマドで、北東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-72°-Eを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ長く突出する。残存する規模は、全長2.08m、幅1.01mを測る。袖は壁から75cmほど突き出るように残存し、両先端に袖石をもつ。焚き口部天井石がカマド前の床面上に確認されている。また、袖脇となる燃烧部寄りには、燃烧部の側壁石状の石が1石ずつやや内側にあり、石組みカマド様の配置となっている。焚き口部から燃烧部の底面は建物床面と差はなく、煙道部は燃烧部奥の一段高い位置から緩く長く立ち上がる。なお、燃烧部底面の中央には、支脚石が1石残存していた。さらに、燃烧部の内壁から煙道部内壁の一部が、被熱して焼土化していた。一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に袖石を据えながら、粘土粒を含む暗褐色土を袖部の構築土としている。

カマド2は北西壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-17°-Wを向く。残存するのは壁の内側に位置する燃烧部底面と、壁の外側へ長く突出する煙道部で、全長2.65m、幅0.66mを測る。燃烧部底面は長軸70cm、短軸65cmを測り、建物床面よりやや低くなる。煙道部は壁際の一段高い位置から緩く立ち上がる。

貯蔵穴：2基の貯蔵穴を確認した。貯蔵穴1はカマド1に伴い、カマド1の右側となる北東壁中央の東側壁際に位置し、上面が一辺125cm前後、深さ52cmを測る正方形で、黒褐色土を埋土とする。また、この貯蔵穴1の周囲には、僅かな高まりが取り巻くようである。貯蔵穴2はカマド2に伴い、カマド2の右側となる北西

第4章 検出された遺構と遺物

壁中央の北側壁際に位置し、上面形は楕円形で、長軸82cm、短軸70cm、深さ35cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は楕円形で、長軸77～95cm、短軸64～75cm、深さ30～36cmを測り、埋土は黒褐色土である。また、南東壁中央の壁際に、周囲に僅かな高まりが取り巻く径50cmの柱穴が検出されており、黒褐色土を埋土とする。

周溝：カマド部分を除く壁際を巡るようになり、幅15～20cm前後、深さ10cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

床面下：床下全体に5～10cm前後の浅い掘り込みをもち、底面は大小の凹凸が著しく、埋土はロームブロックを多量に含む黒褐色土で硬く締まる。

遺物：出土した遺物量は少なく、その多くが埋土中からで、西隅付近にやや纏まっている。唯一、1の杯がカマド内から出土している。

出土遺物として、土器8点と石製品1点を図示した。1～5は土師器の杯で、1は内面および底部外面、2は内面にヘラ磨きを施す。6～8は土師器の甕で、8は底部。

石製品の9は砥沢石製の砥石で、6面を砥面として測る。長さ6.2cm、幅4.1cm、厚さ1.4cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器片が少量ある。

所見・時期：主柱穴が同じで、カマドと貯蔵穴位置を変えた改築を行った建物と考えられる。建物の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

2区93号竪穴建物(第236図、第13・150表、PL.87・231)

平成28年度の調査で検出した。2区87号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の3区との区堺付近に位置し、南西隅側を2区87号竪穴建物と重複する。北西側に2区94号竪穴建物、西側に2区86号竪穴建物、南側に2区77号竪穴建物が近接する。

グリッド：Z・2A-110

座標値：X=61,129～61,131 Y=-93,546～93,549

重複：本建物の南西隅側を2区87号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、本建物の方が古い。

形状：不整形

規模：長軸2.42m 短軸2.30m 壁高1～11cm

長軸方向：N-8°-E 床面積：(5.22)m²

埋没土：炭化物や炭化材を多く含む1層とした黒褐色土を埋土とする。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層中にあり、ほぼ平坦で、やや硬化済み。床面上には炭化材が散在する。なお、重複する2区87号竪穴建物により南西側の床面は壊されている。また、2区87号竪穴建物より本建物の床面の方が高い位置にある。壁高は6～10cmと浅く、壁は斜位に立ち上がる。

遺物：出土した遺物量は少なく、西側の床面直上に1の埴、2の甕の口縁部が出土している。

出土遺物として、土器2点を図示した。1は口縁部を欠く土師器の埴で、胴部外面に刷毛目を施す。2は土師器のS字状口縁となる台付甕で、胴部に刷毛目を施す。

未掲載遺物には、土師器の甕片が少量ある。

所見・時期：床面に出土した炭化材の状況から、焼失家屋の可能性がある。建物の時期は、出土土器から4世紀と考えられる。

2区95号竪穴建物(第237図、第13・152表、PL.88・232)

平成28年度の調査で検出した。2区72号竪穴建物と重複し、本建物の北半は北側の調査範囲外にあるため不明な点が多い。

位置：2区中央の北壁際に位置し、南隅付近を2区72号竪穴建物と重複する。南側に2区61・78号竪穴建物が近接する。

グリッド：2D・2E-119・120

座標値：X=61,148～61,151 Y=-93,591～93,597

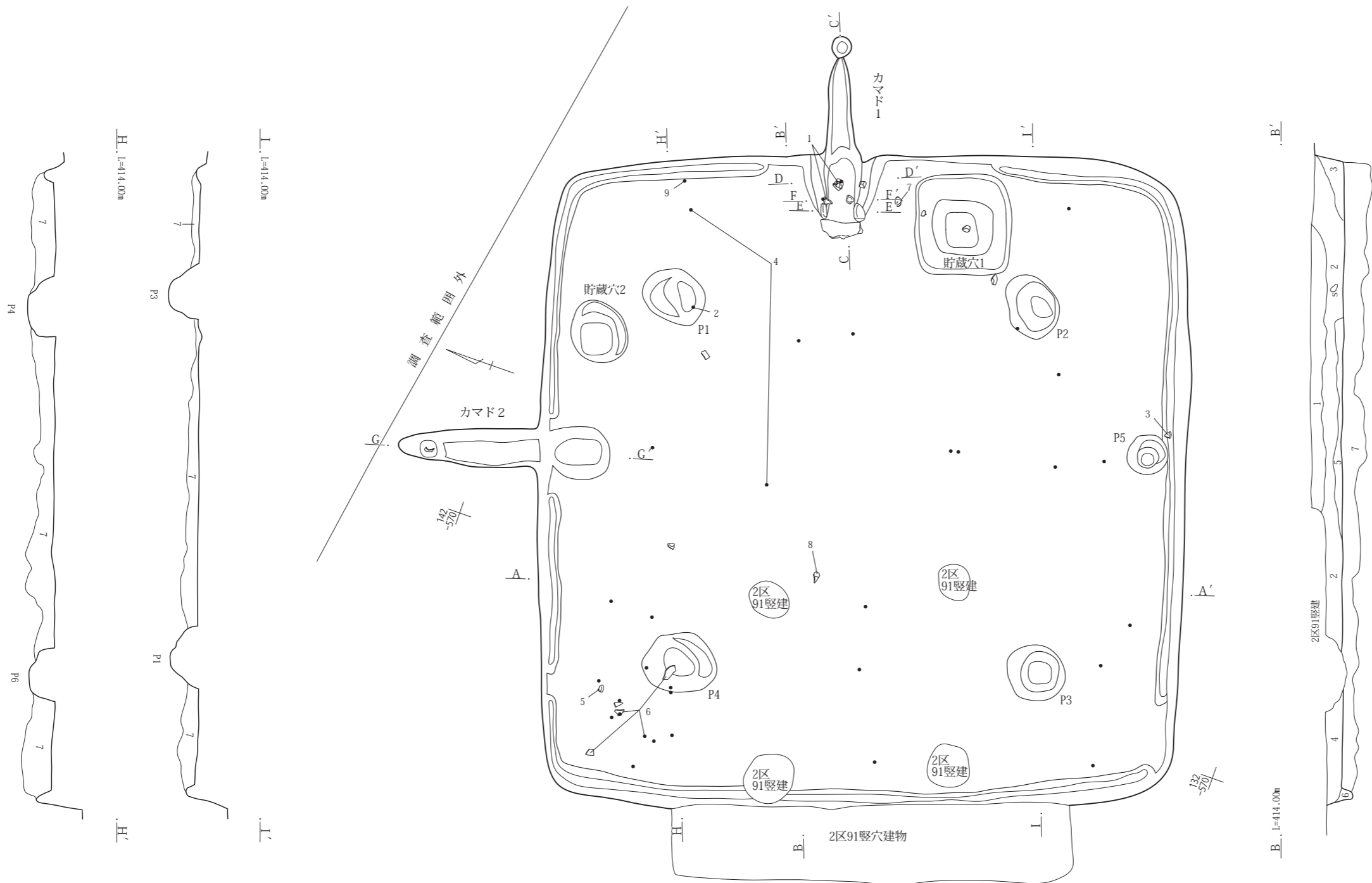
重複：本建物の南隅に2区72号竪穴建物が重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本建物の方が古い。

形状：方形か

規模：長軸(5.08)m 短軸(2.42)m 壁高18～48cm

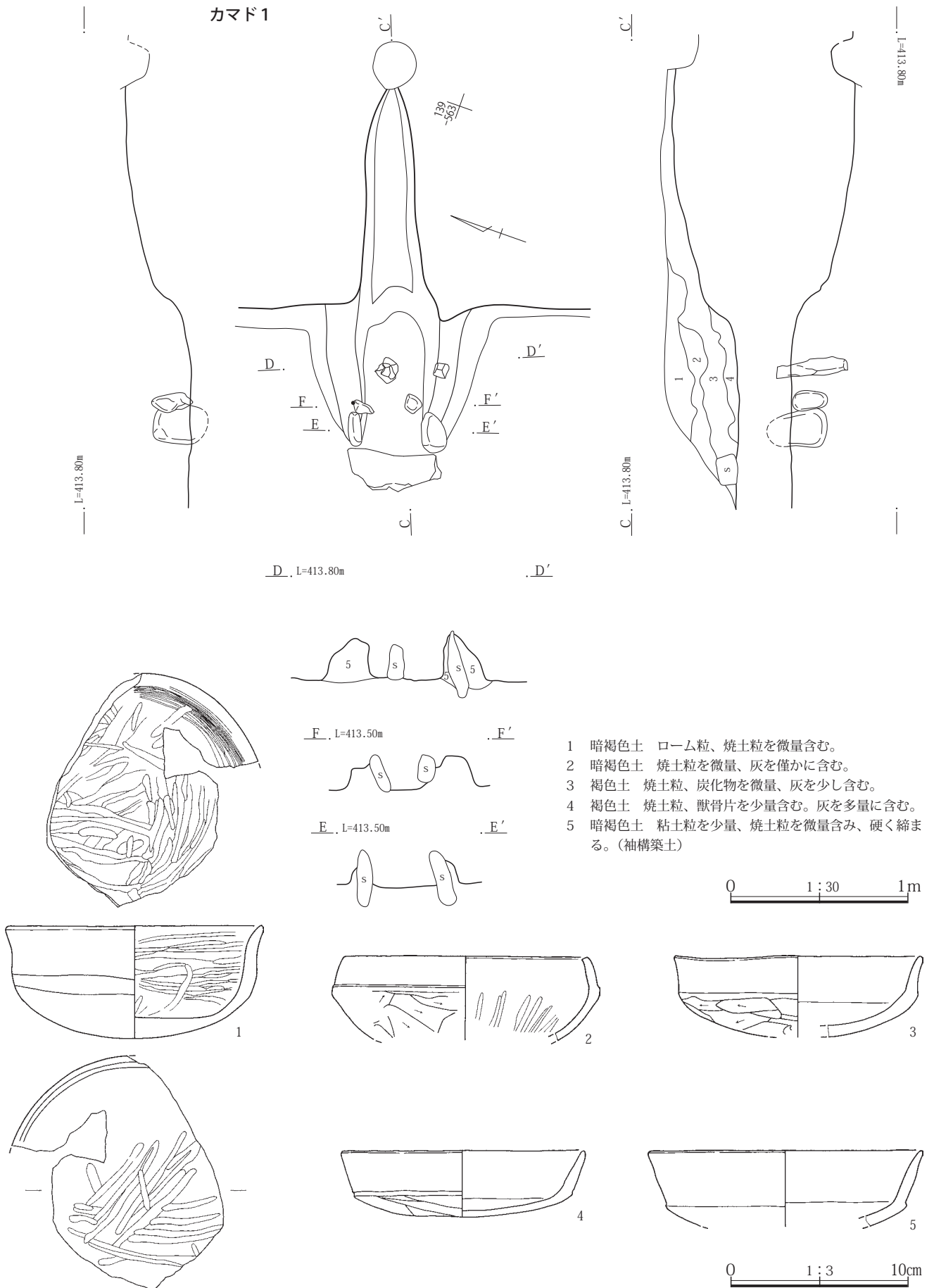
長軸方向：N-53°-W 床面積：(12.53)m²

埋没土：2-A区南壁基本層序Ⅰ層相当の下に、暗褐色土を主体とする1層が堆積し、壁際の2層とに分層した。



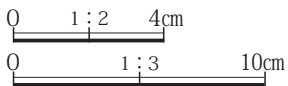
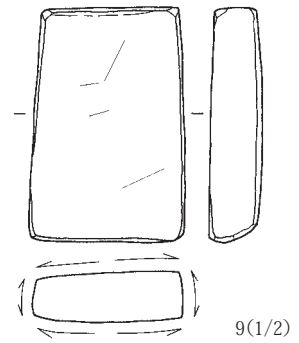
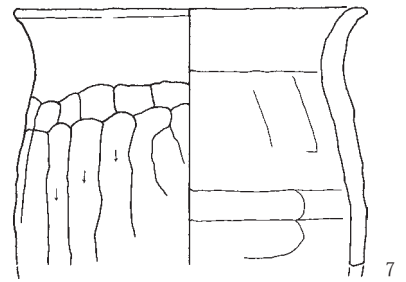
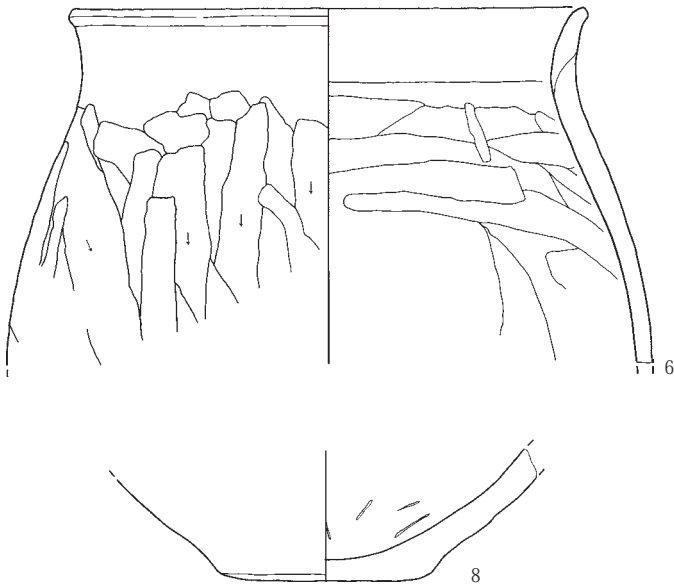
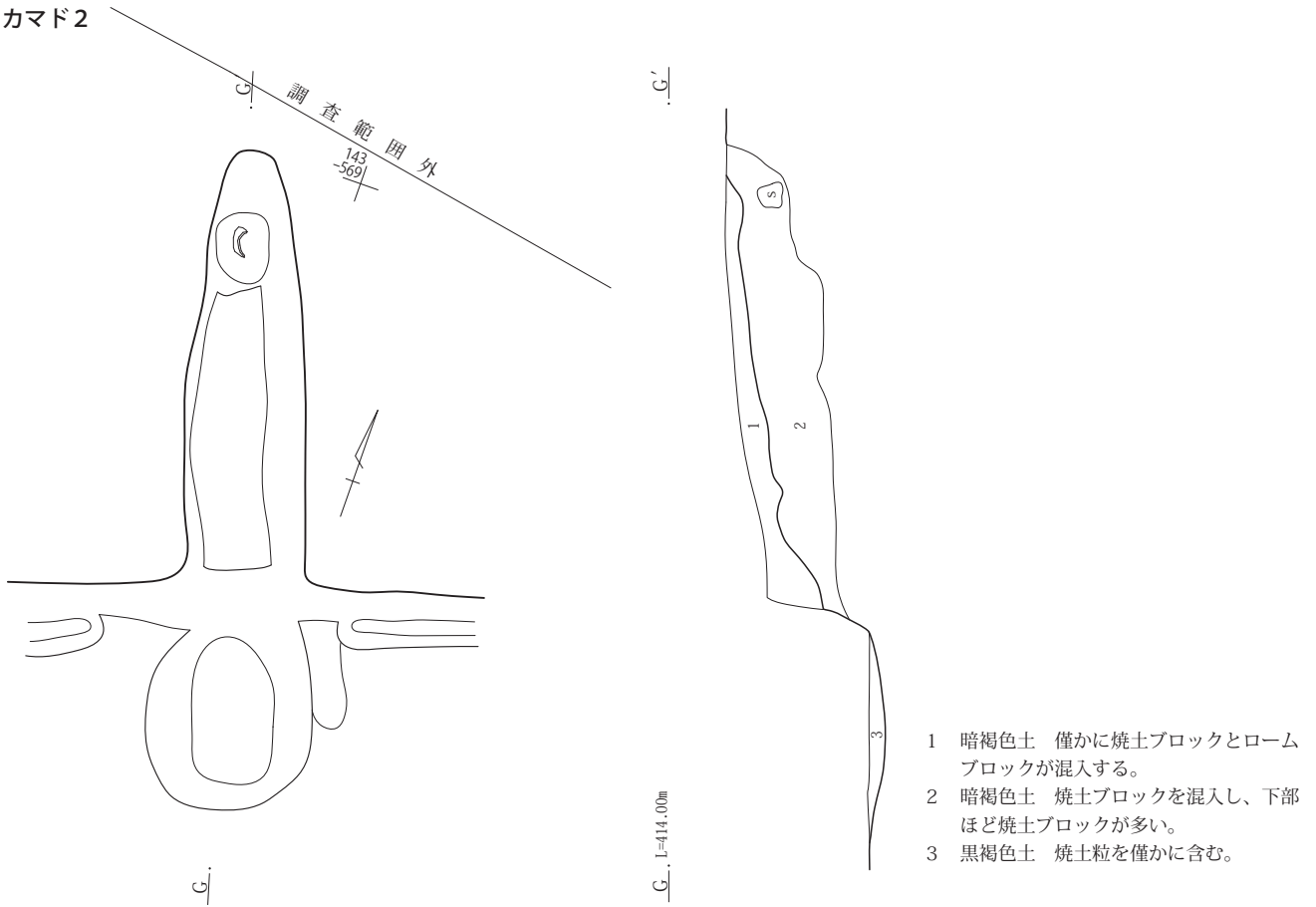
- 1 暗褐色土 ローム粒、焼土粒を微量に含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、焼土粒を微量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを微量に含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒を少量、焼土粒を微量に含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを微量に含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒・小ブロックを少量含む。(壁周溝)
- 7 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含み、硬く締まる。(床下土)

第233図 2区92号竪穴建物 床直 平・断面図

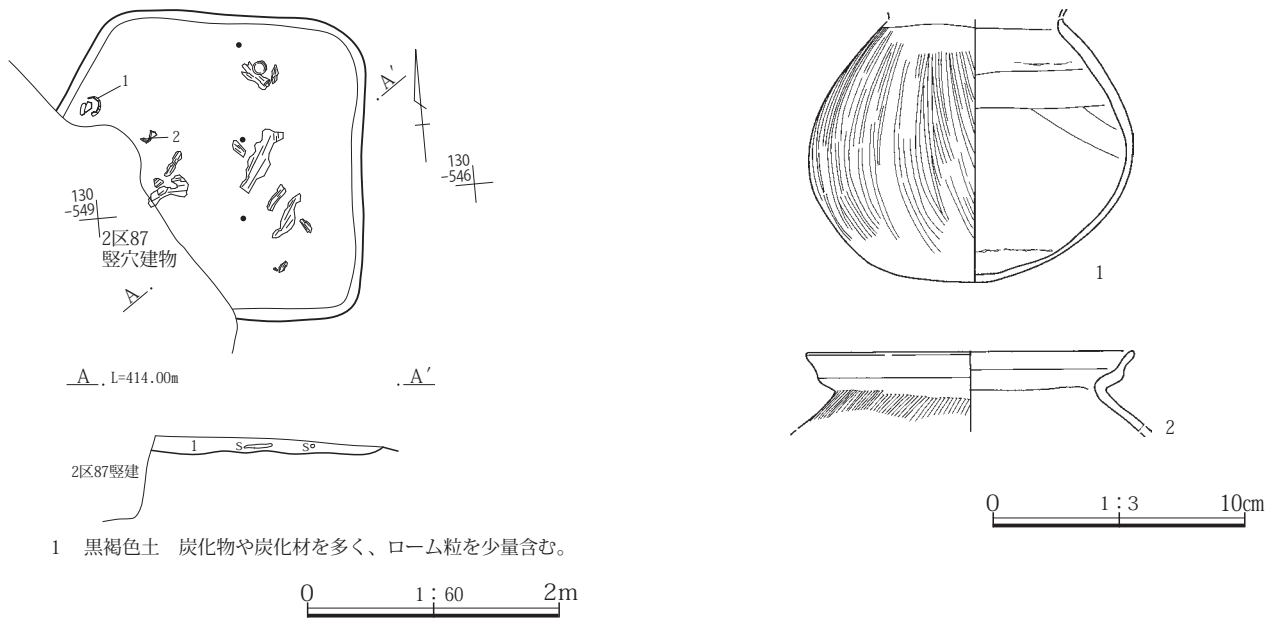


第234図 2区92号竪穴建物 カマド1 平・断面図、出土遺物(1)

カマド2



第235図 2区92号竪穴建物 カマド2 平・断面図、出土遺物(2)



第236図 2区93号竪穴建物 床直平・断面図、出土遺物

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、床面はほぼ平坦で、中央南東側の硬化が顕著。また、南東壁中央付近の壁際床面上には、大型の平石が上面を揃える様に数石検出されている。壁高は60cm前後を測り、北西壁および南西壁では垂直ぎみに立ち上がるが、南東壁ではやや斜めとなる。

柱穴：主柱穴と考えられるP1・2を検出した。P1は建物の南西の柱であり、P2は南東の柱と考えられ、P1のみを床面上に確認した。P1の上面は楕円形で、長軸33cm、短軸25cm、深さ58cmを測り、P2も同規模と考えられる。埋土は黒褐色土である。

周溝：各壁際を巡るようで、幅13cm前後、深さ7cm前後を測る。

床面下：ローム面まで確認したが、明確な掘り込みをもつかは不明。建物中央部に床下土坑が確認されており、壁際で形状は不明だが長さ0.72m、深さ50cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物量は極めて少なく、南東壁際付近の床面直上に1の杯が、2の石製品が平石上面に出土している。それ以外は埋土中からの出土である。

出土遺物として、土器1点と石製品1点を図示した。

1は土師器の杯で、内面にへら磨きを施す。

石製品の2は粗粒輝石安山岩製の磨石で、表面が磨面となり、縦方向に線条痕が集中する。長さ12.4cm、

幅6.4cm、厚さ4.5cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から5世紀後半の可能性が高いと考えられる。

2区96号竪穴建物

(第238・239図、第13・153表、PL.88・232・233)

平成28年度の調査で検出した。2区83・92号竪穴建物と重複する。また、第1面調査時の2区79・80号土坑によって一部を壊されている。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する北東側の一角に位置し、北側に2区92号竪穴建物、南西側に2区83号竪穴建物が重複する。また、南東側から南側および西側にかけて2区75・76・79～82・84～90号竪穴建物が近接する。

グリッド：2A・2B-113・114

座標値：X=61,130～61,135 Y=-93,562～93,568

重複：本建物の北側を2区92号竪穴建物、南西側を2区83号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、いずれの建物より本建物が古い。

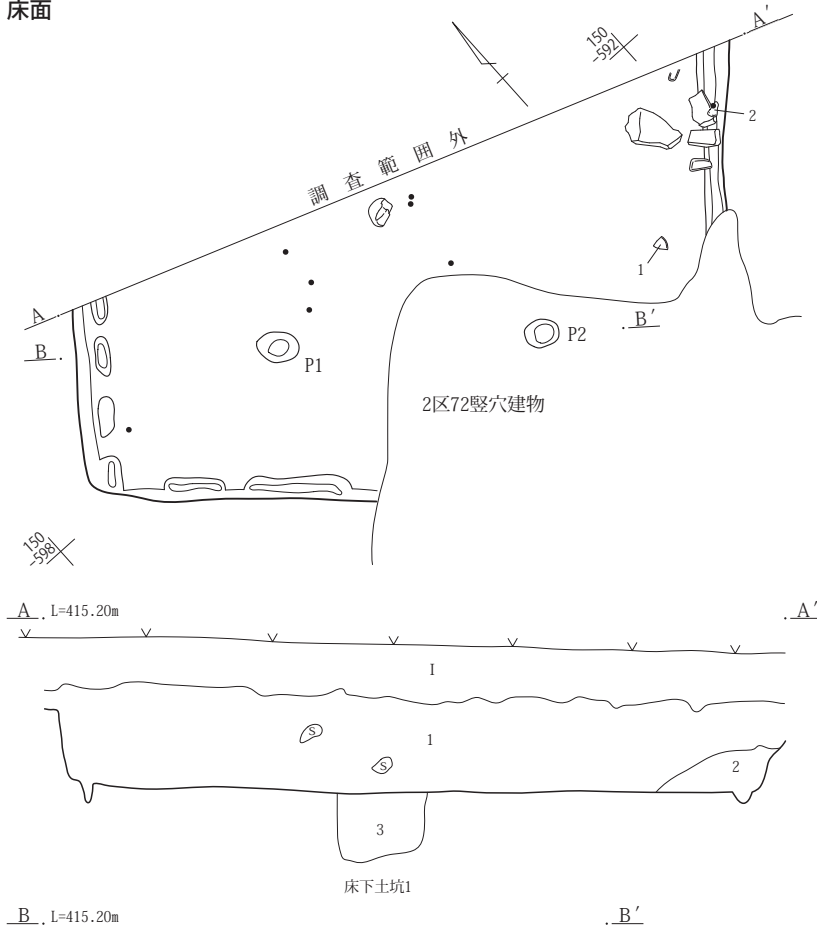
形状：方形

規模：長軸6.43m 短軸6.21m 壁高5～15cm

長軸方向：N-79°-E 床面積：(23.67)m²

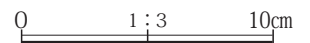
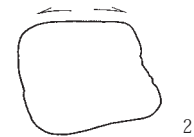
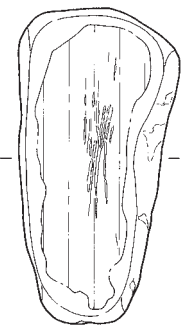
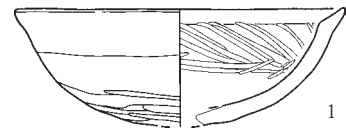
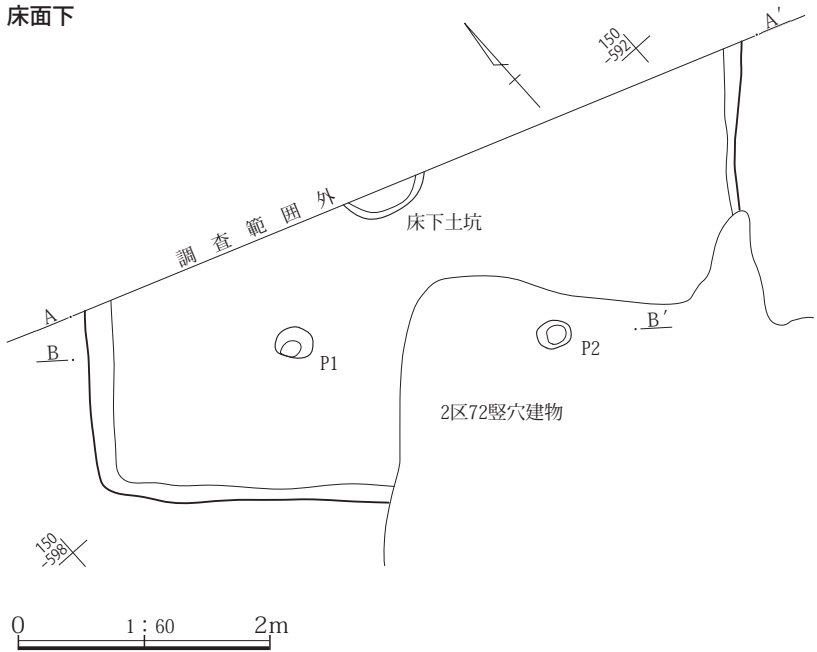
埋没土：暗褐色土を主体とする。

床面

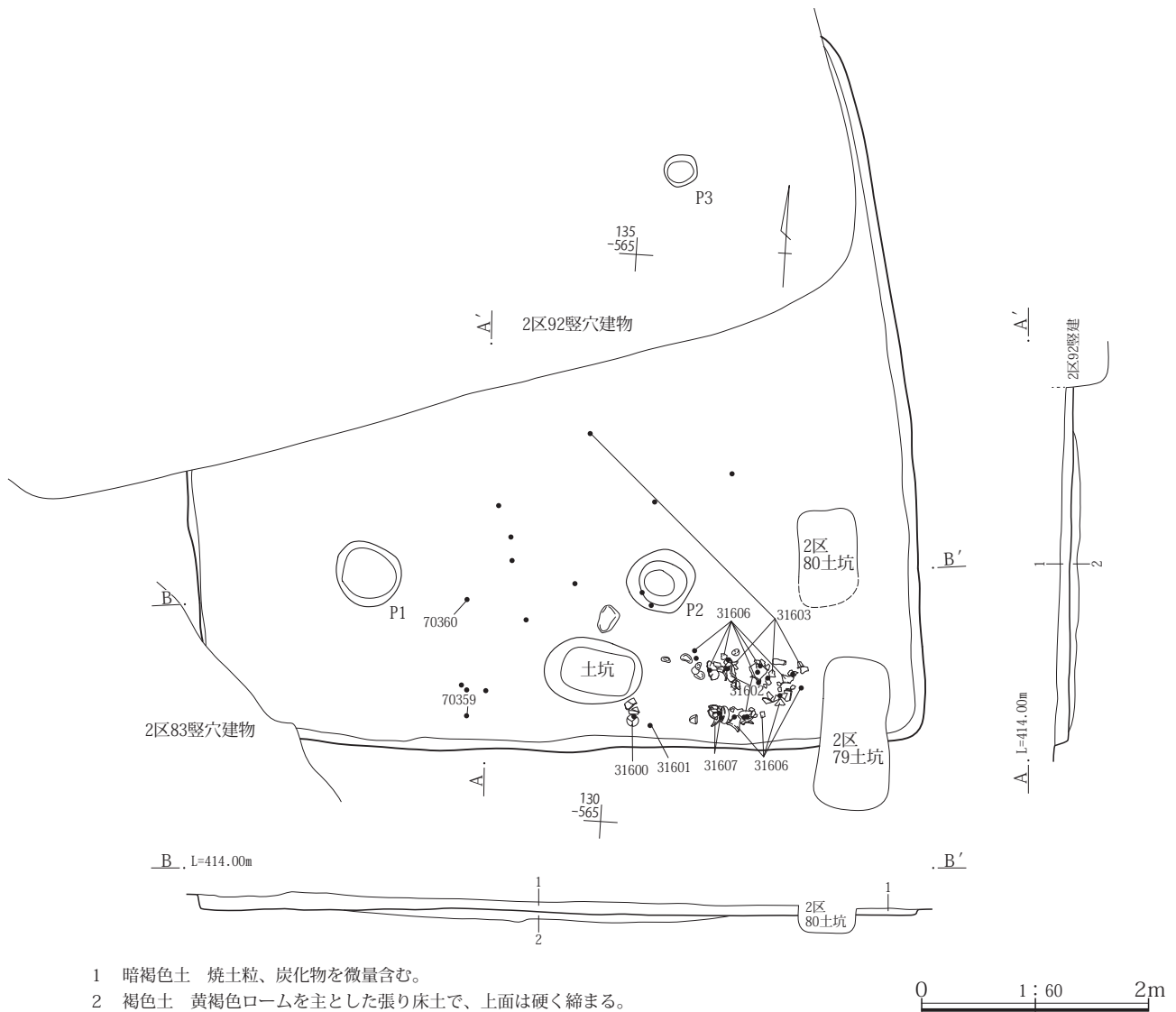


- 1 暗褐色土 As-Kkを多量含む。(2-A区南壁基本層序1層相当)
- 1 暗褐色土 焼土粒を微量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物を微量含む。
- 3 暗褐色土 ローム小ブロックを全体に少量混入する。(床下土坑)

床面下



第237図 2区95号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図、出土遺物



第238図 2区96号竪穴建物 床面 平・断面図

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、残存する南半の床面はほぼ平坦で、部分的ではあるが広い範囲にローム土を主とした張り床が顕著であった。壁高は5～15cmと浅く、垂直ぎみに立ち上がる。

土坑：南壁中央付近の壁際に1基検出した。長軸85cm、短軸65cm、深さ40cmを測る楕円形で、暗褐色土を埋土とする。

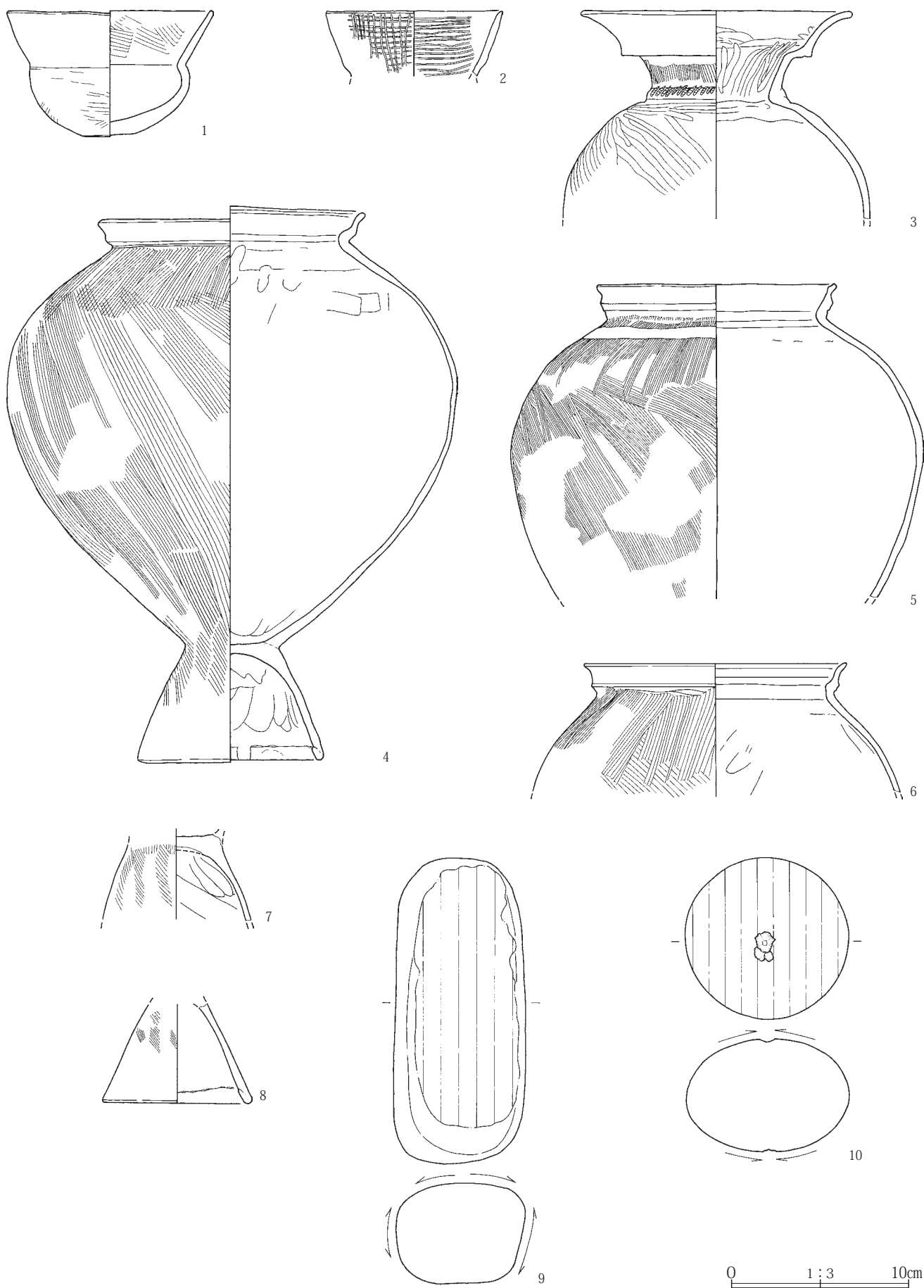
柱穴：主柱穴と考えられるP1～3を検出した。床面上に検出されたP1は建物の南西柱、P2は南東柱と考えられ、上面は円形で、径60cm前後、深さ30～42cmを測り、暗褐色土を埋土とする。また、P3は重複する2区92号竪穴建物の床面下に確認することができる。

床面下：ローム面まで確認した。部分的ではあるが、黄褐色ロームを主とした張り床を構築していることが

ら、掘り込みをもつと思われるものの詳細は不明。

遺物：出土した遺物量はやや多い。その多く土器が南東隅付近の床面直上に集中しており、1～6の罎や壺、台付甕が出土している。また、9・10の磨石も床面直上からの出土である。

出土遺物として、土器8点と石製品2点を図示した。1・2は土師器の罎で、1は胴部および口縁部内面に刷毛目が残り、2は口縁部の内外面にヘラ磨きを施す。3は土師器の壺で、頸部上半に刷毛目、下半に凸帯貼付後に刺突文を巡らせ、胴部はヘラ磨きを施し、内面は口縁部から頸部にヘラ磨きを施している。4～6は土師器のS字状口縁を呈する台付甕で、胴部から脚部にかけて刷毛目を施す。7・8も同様の台付甕の脚部である。



第239図 2区96号竪穴建物 出土遺物

石製品の9・10は粗粒輝石安山岩製の磨石で、全面が磨面となる。9は17.2cm、幅7.4cm、10は長さ9.1cm、幅9.1cmを測る。

未掲載遺物には、土師器の埴・甕片が多量にある。
所見・時期：建物の時期は、出土土器から4世紀と考えられる。

2区100号竪穴建物

(第240・241図、第13・155表、PL.88・233)

平成28年度の調査で検出した。2区34～36・46・48号竪穴建物と重複する。重複する全ての建物の調査後、本建物の調査を行った。

位置：2区西側の北壁寄りにあり、2区18・34～36・46～48・100・101号竪穴建物が絡む重複の著しい一角の中央付近に位置する。本建物の北東側に2区35・36号竪穴建物、東隅付近に2区34・48号竪穴建物、南西側を2区46号竪穴建物が重複し、非常に残りが悪い。また、北東側に2区101号竪穴建物、東側に2区37号竪穴建物、南側に2区45号竪穴建物、南西側に2区18・47号竪穴建物、北西側に2区19・33号竪穴建物が近接する。

グリッド：2G～2I-131・132

座標値：X=61,163～61,170 Y=-93,652～93,658

重複：重複する各竪穴建物との新旧は、遺構確認および土層断面の観察から、全ての竪穴建物より本建物の方が古い。

形状：方形

残存規模：長軸7.02m 短軸3.34m 壁高45～56cm

長軸方向：N-40°-W 床面積：(16.51)m²

埋没土：1層の暗褐色土を主に、壁際の2層の黒褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、重複する34号竪穴建物より高く、35号竪穴建物とはほぼ同一面、46号竪穴建物よりはやや高い位置にあることから、残存する床面はかなり狭い。床面はほぼ平坦で、中央付近はローム土による張床が形成されて硬化している。壁高は30～35cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：重複する竪穴建物により不明であるが、貯蔵穴の可能性をもつ掘り込みの位置から、北東壁にあった

ものと推測される。

貯蔵穴：重複する34号竪穴建物の床面下で検出されている土坑状の楕円形の掘り込みが想定される。本建物の東隅に位置することになり、規模は長軸90cm、短軸80cm、深さ30cm前後を測る。

柱穴：主柱穴と考えられるP1・3・4を検出し、P2は34号竪穴建物の床面下に確認した。上面は円形ないし楕円形で、長軸50～62cm、短軸45～50cm、深さ45～56cmを測り、埋土は黒褐色土である。

周溝：各壁際を巡るようで、幅15～20cm、深さ10cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

床面下：掘り込みを確認した。主柱穴に囲まれた建物中央部が高く、壁際に幅1.0m前後で20cm前後の掘り込みをもつ。底面には凹凸がみられ、埋土はローム粒を多く含む黒褐色土で、上面に薄くローム土による張床を形成して硬く締まる。また、床下土坑を検出した。P1の右側に位置し、円形に近い楕円形を呈する。長軸1.14m、短軸1.03m、深さ27cmを測り、暗褐色土を埋土とする。他に、数基のピットを検出した。

遺物：出土した遺物量は極めて少なく、埋土中からの出土である。

出土遺物として、土器2点を図示した。1は土師器の杯で、2は土師器の甕である。

未掲載遺物には、土師器片が僅かにある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から6世紀前半と考えられる。

2区101号竪穴建物(第242図、第13・156表、PL.89・233)

平成28年度の調査で検出した。2区36号竪穴建物と重複し、36号竪穴建物の調査後に本建物の調査を行った。

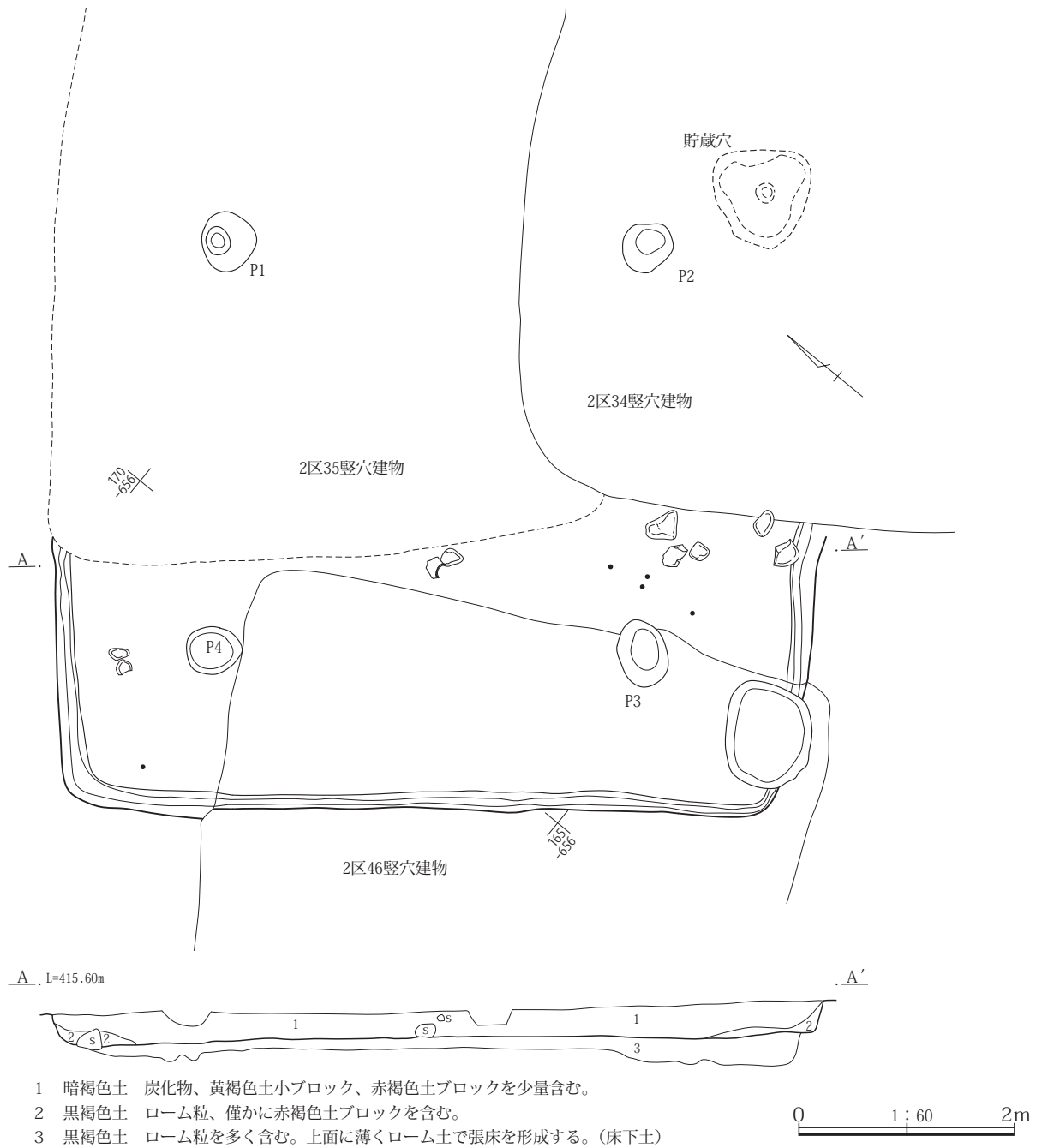
位置：2区西側の北壁寄りにあり、2区18・34～36・46～48・100・101号竪穴建物が絡む重複の著しい一角の北端に位置する。本建物の大半が南西側の2区36号竪穴建物と重複する。東側に2区37・66号竪穴建物、南側に2区34・48号竪穴建物、南西側に2区46・100号竪穴建物、北西側に2区19・33号竪穴建物が近接する。

グリッド：2I・2J-130

座標値：X=61,171～61,176 Y=-93,645～93,649

重複：大きく重複する2区36号竪穴建物とは、遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が

床面



- 1 暗褐色土 炭化物、黄褐色土小ブロック、赤褐色土ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒、僅かに赤褐色土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒を多く含む。上面に薄くローム土で張床を形成する。(床下土)

第240図 2区100号竪穴建物 床面 平・断面図

古い。

形状：方形か

規模：長軸4.60m 短軸(1.74)m 壁高35cm

長軸方向：N-9°-E 床面積：(5.09)m²

埋没土：暗褐色土を主に、1・2層に分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、重複する36号竪穴建物とほぼ同一面にあるが、36号竪穴建物の床下面の方が深いため、残存する床面は僅か

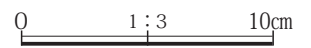
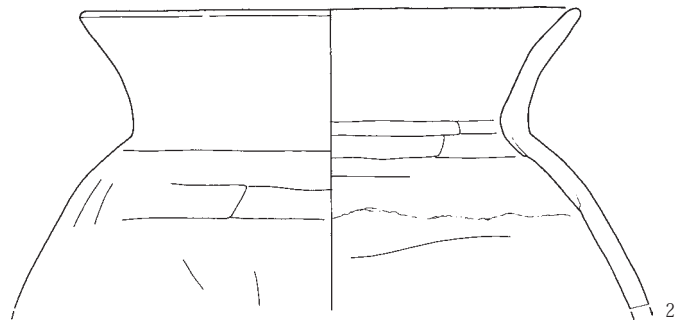
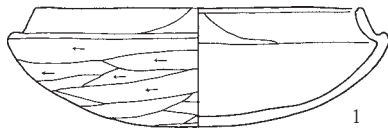
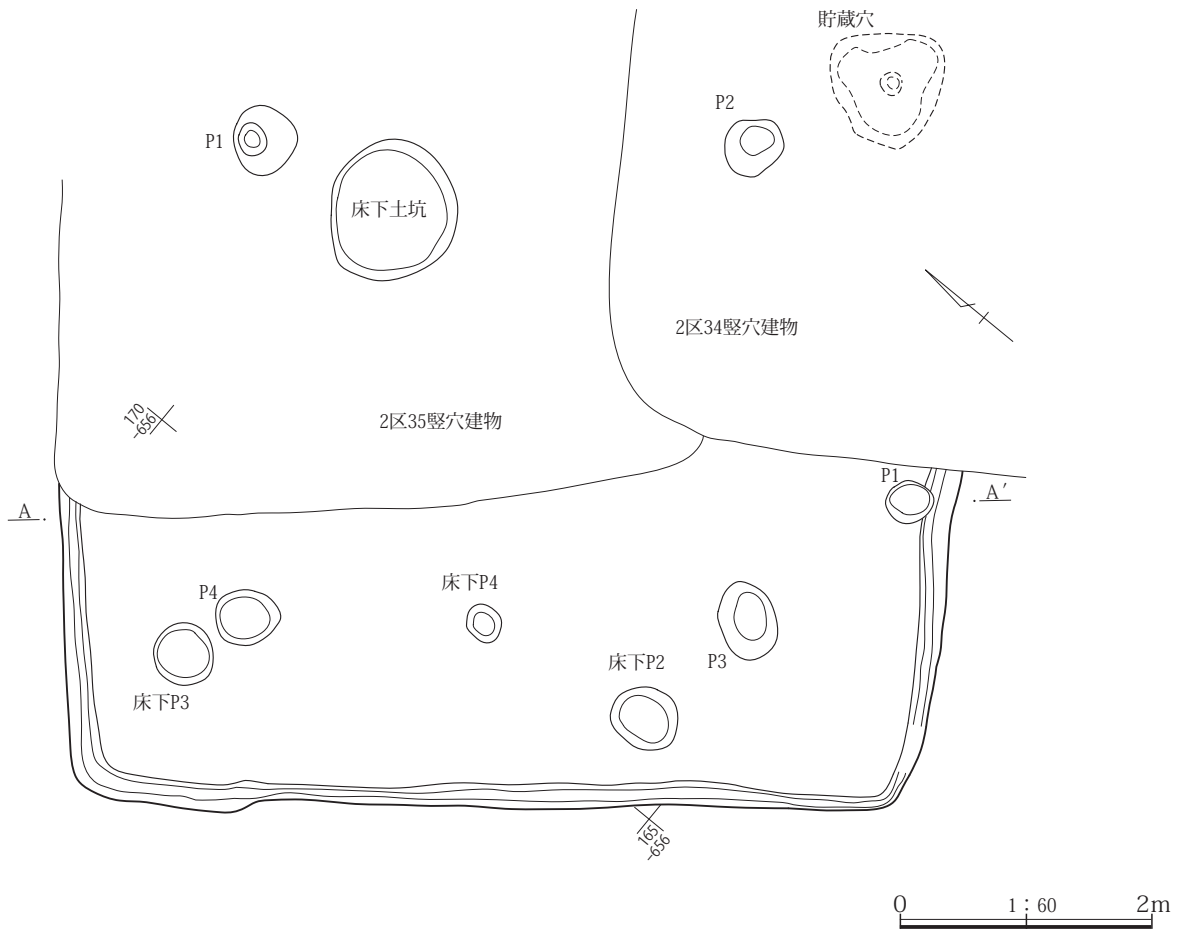
である。床面はほぼ平坦。壁高は35cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

遺物：出土した遺物量は極めて少なく、埋土中からの出土である。

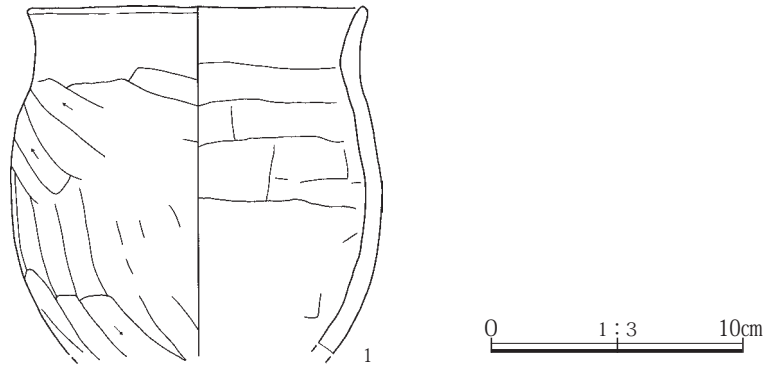
出土遺物として、1の土師器の小型甕を図示した。

所見・時期：不明な点が多いが、建物の時期は出土土器から古墳時代と考えられる。

床面下



第241図 2区100号竪穴建物 床面下 平面図、出土遺物



第242図 2区101号竪穴建物 床面 平・断面図 出土遺物

第3項 古代(7世紀後半以降)の遺構と遺物

(1)概要

本調査区で検出された古代の遺構は、調査区全体に広がり、その範囲は西側の1区から東側の3区にまで及び、広範囲な集落を形成していたようである。先述の古墳時代の遺構と共に、基本層序とした2-A区南壁でのⅥ層上面ないし上位および2-B区南壁Ⅷ層上面を確認面とした第2面調査で、7世紀後半以降の集落が検出された。この集落を構成する遺構は、竪穴建物40棟、掘立柱建物6棟、土坑17基(古墳時代と古代)、2区の東半に広がる畠、西半のやや低くなった部分での水田と考えられる一帯、がある。検出された建物の分布状況から、集落の広がりや西側の1区や東側の3区は元より、調査区外となる周囲にまで展開するものと推測される。

一方、本遺跡を特徴付ける一つに、竪穴建物内から出土した奈良三彩短頸壺の存在がある。また、金属製品の豊富さも特徴的である。

(2)竪穴建物

本調査区で検出された古代の竪穴建物は、第2面調査において7世紀後半代の竪穴建物7棟、8世紀代の竪穴建物14棟、9・10世紀代の竪穴建物15棟の計36棟の建物が検出された。これらの竪穴建物の特徴に、付随するカマドの構造が古墳時代と同様な石組みによる例が多いことが挙げられよう。

以下、各遺構ごとに記載する。(第13表 2区竪穴建物一覧を参照)

2区1号竪穴建物

平成27年度の調査で、調査区の南西端突出部に竪穴建物の南西隅を検出したが、その大半を平成25年度調査で1区8号竪穴建物として調査している。同一の竪穴建物であることから、記述は先述の1区8号竪穴建物を参照。

2区6号竪穴建物

(第243～245図、第13・70表、PL.25・26・178・179)

平成27年度の調査で検出した。2区5号竪穴建物、2区2号土坑と重複する。

位置：2区の南西端付近に位置し、西側を2区5号竪穴

建物と重複する。また、北側に2区18・47号竪穴建物、東側に2区10・20・45号竪穴建物、南側に2区7号竪穴建物、北西側に2区17号竪穴建物が近接する。

グリッド：2D～2F-132～134

座標値：X=61,149～61,157 Y=-93,658～93,666

重複：本建物の西隅を2区5号竪穴建物、南東壁を2区2号土坑と重複する。遺構確認および土層断面の観察から、その新旧はいずれよりも本建物の方が新しい。

形状：方形

規模：長軸6.16m 短軸5.79m 壁高36～55cm

長軸方向：N-37°-W 床面積：31.65㎡

埋没土：1層の褐灰色土と、2層の黒褐色土とに分層できる。中央付近の1・2層間に炭化物が薄く層状をなし、焼土ブロックと炭化物が多い。また、2層下位には、中・大型礫が多く、炭化材や炭化物、焼土、礫は床面よりもかなり上位に出土していることから、竪穴建物廃棄後に廃棄した可能性もある。

床面・壁：床面はローム土中にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近が著しく硬化する。壁高は36～55cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北西壁中央のやや北寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-35°-Wを向き、残存状態は良好。燃燒部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ僅かに出張る。残存する規模は、全長1.40m、幅1.45mを測る。袖は壁から106cmほど突き出るように残存し、両袖に袖石をもつが、焚口部の天井石は確認されていない。また、煙道部にみられる大型礫は、建物内に廃棄された礫と同様と考えられる。焚き口部から燃燒部の底面にかけては建物床面よりやや低くなり、煙道部は燃燒部奥の一段高い位置から短く急激に立ち上がる。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後、袖を含めたカマド本体を構築するが、7層とした暗褐色土を主に構築するが、袖石部分は褐色土で袖石を安定させている。

貯蔵穴：カマドの右側となる北隅に位置し、規模は長軸103cm、短軸93cm、深さ64cmを測り、楕円形を呈する。また、貯蔵穴の周囲には、カマド側を解放する逆C字状の粘土帯をもつ。幅15cm前後、高さ5cm程度。埋土は黒褐色土である。

柱穴：支柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は

楕円形を呈し、長軸74~80cm、短軸54~65cm、深さ44~72cmを測る。埋土は黒褐色土を主体とする。

床面下：床面下に数cmほどの僅かな掘り込みをもつが、P1・2間の床面下中央がやや深くなる。また、床面下に床下土坑を6基検出した。床下土坑1はP2の南東脇に位置し、円形で径0.8m前後、深さ25cmを測り、上位に暗褐色土、下位に褐色土を埋土とする。床下土坑2は床下土坑1の南東脇に位置し、楕円形で長軸0.7m、短軸0.48m、深さ18cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑3は建物中央付近の北東寄りに位置し、楕円形で長軸1.04m、短軸0.88m、深さ26cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑4は建物中央付近の南西寄りに位置し、楕円形で長軸1.04m、短軸0.84m、深さ26cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑5はP1の北側に位置し、楕円形で長軸1.12m、短軸0.90m、深さ22cmを測り、上位に黒褐色土、下位に暗褐色土を埋土とする。床下土坑6はP4の北東脇に位置し、楕円形で長軸0.98m、短軸0.87m、深さ24cmを測り、黒褐色土を埋土とする。さらに、P5~11までのピットをも検出した。この内のP6~9は、P1~4の対角状の内側に概ね位置していることから、P1~4を支柱穴とする竪穴建物の前身の建物支柱穴とも考えられる。つまり、P1~4を支柱穴とする2区6号竪穴建物は、P6~9を支柱穴とする竪穴建物の拡張後の建物である可能性が高い。しかし、拡張前の詳細は不明。

遺物：出土した遺物量はやや多いが、その多くは埋土中からであり、11の甕がカマド前に散乱していた。また、17の白玉は北東壁付近の床面直上から出土し、19の鎌は南東壁際の床面よりやや上に出土している。

出土遺物として、土器14点と土製品1点、石製品2点、金属製品2点の計19点を図示した。1~4は土師器の杯であり、5は須恵器の杯蓋、6は須恵器の杯である。7は須恵器の高杯の透孔をもつ脚部で、8は須恵器の盤、9は須恵器の高盤の脚部。10・11は土師器の甕。12~14は須恵器の甕の胴部片で、外内面に叩き具痕や当て具痕を残す。

土製品には15の羽口(先端)片がある。

石製品には16の紡錘車の紡輪と17の大型な白玉がある。16は蛇紋岩製で、径3.9cm、厚さ1.3cm、孔径9

mm、重さ24.6gを測り、丁寧に研磨されて光沢をもち、体部側面に細かい線条痕が認められる。17は滑石製で灰白色をなし、径1.4cm、厚さ0.6cm、孔径3mm、重さ1.8gを測り、側面に擦痕が認められる。

金属製品には18の鉄鏃と19の鎌があり、18は残存長3.8cm、最大幅2.4cmを測る。19は完形品で、長さ13.2cm、最大幅3.3cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が極めて多量にあり、須恵器の甕片も多い。

所見・時期：出土した礫や炭化材・炭化物の状況から、竪穴建物廃棄後の埋没途中に廃棄した可能性も、本建物は拡張後の竪穴建物の可能性が高い。建物の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。

2区15号竪穴建物(第246図、第13・79表、PL.33・182)

平成27年度の調査で検出した。カマドを含む竪穴建物の一部を調査しただけで、建物の大半は南側の調査範囲外となる。なお、2区14号竪穴建物と重複する。

位置：2区中央の南壁際に位置し、カマドを含む竪穴建物の一部を僅かに確認した。そのカマドの先端が北東側の2区14号竪穴建物と重複する。また、北側に2区13号竪穴建物、北西側に2区11・12号竪穴建物が近接する。

グリッド：Z-127・128

座標値：X=61,126~61,129 Y=-93,632~93,636

重複：遺構確認において、重複する2区14号竪穴建物を本建物のカマドが壊す形で確認されたことから、その新旧は本建物の方が新しい。

形状：方形か

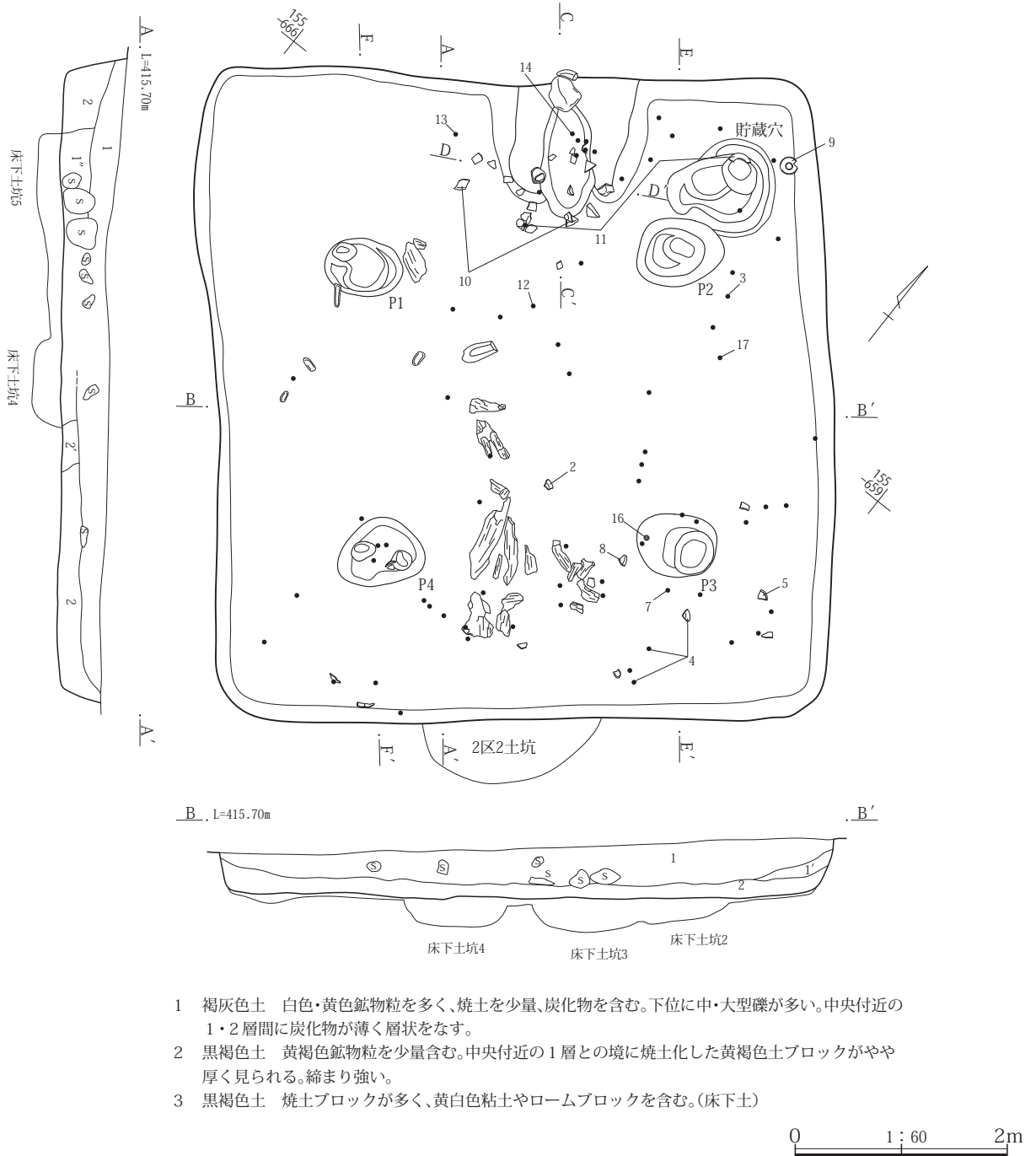
規模：長軸(2.16)m 短軸(2.00)m 壁高47cm

長軸方向：N-70°-E 床面積：(2.34)m²

埋没土：2-A区南壁での基本層序I~VI層下に、1~4層とした灰黄褐色土、褐灰色土、赤褐色土、暗褐色土に分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、やや硬化している。壁高は47cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

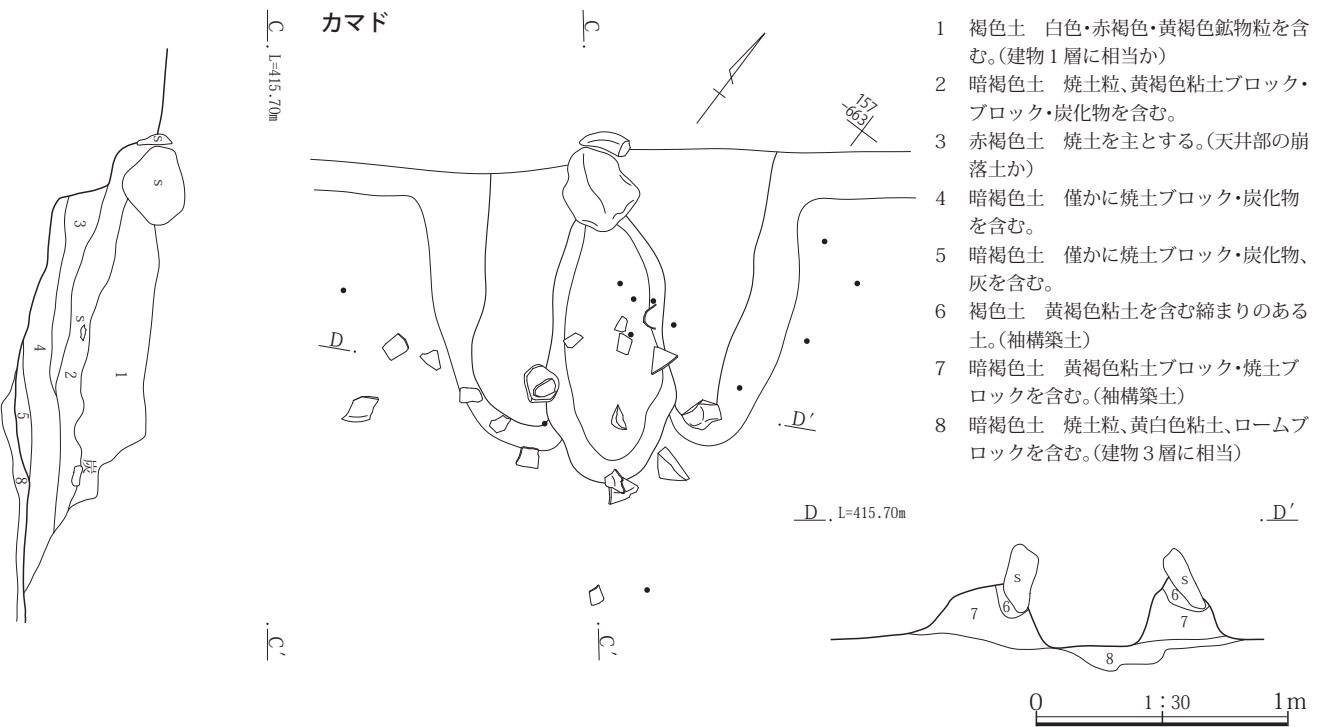
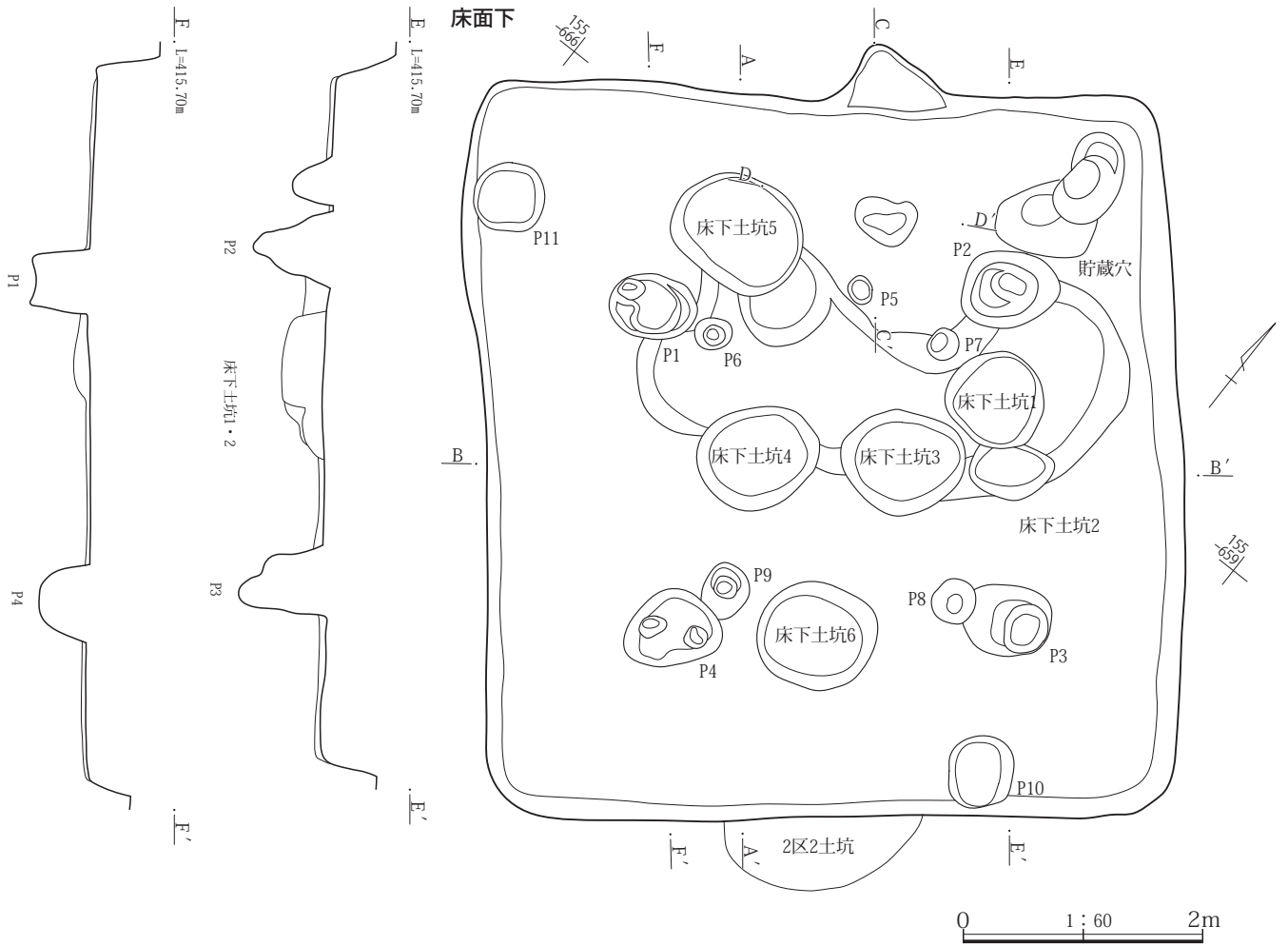
カマド：燃焼部の一部から煙道にかけて調査したが、詳細は不明。北東壁に位置し、カマドの主軸方位はN-47°-Eを向く。燃焼部は壁の外側にまで張り出し、



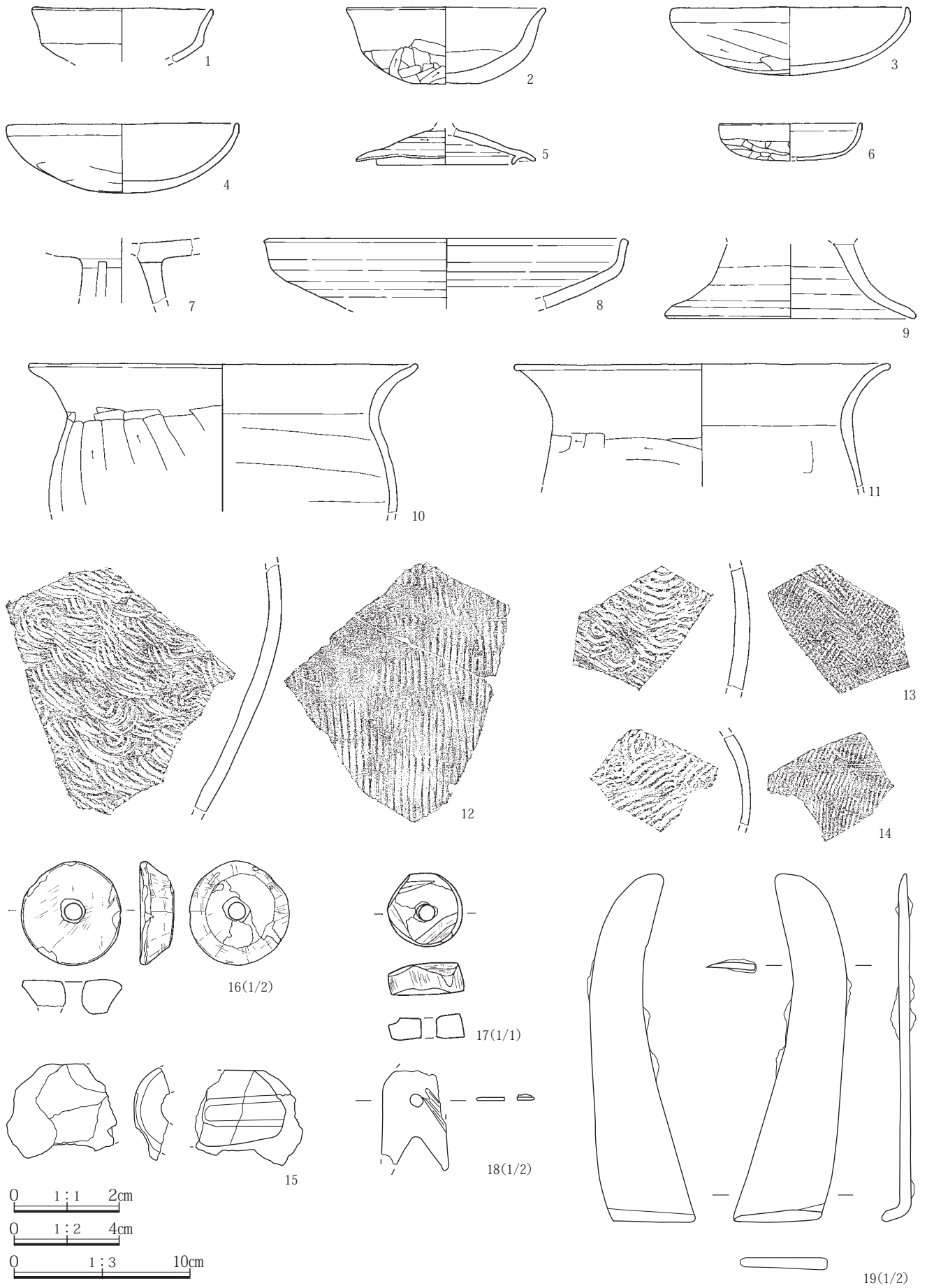
第243図 2区6号竪穴建物 床面 平・断面図

煙道部は短く突出する。調査では、全長(0.9)mを測る。
 袖は8層とした鈍い黄褐色土で構築されている。
 貯蔵穴：不明。
 床面下：掘り込みはないが、円形を呈する床下土坑を検出した。径0.9m、深さ43cmを測り、暗褐色土と黒褐色土を埋土とする。

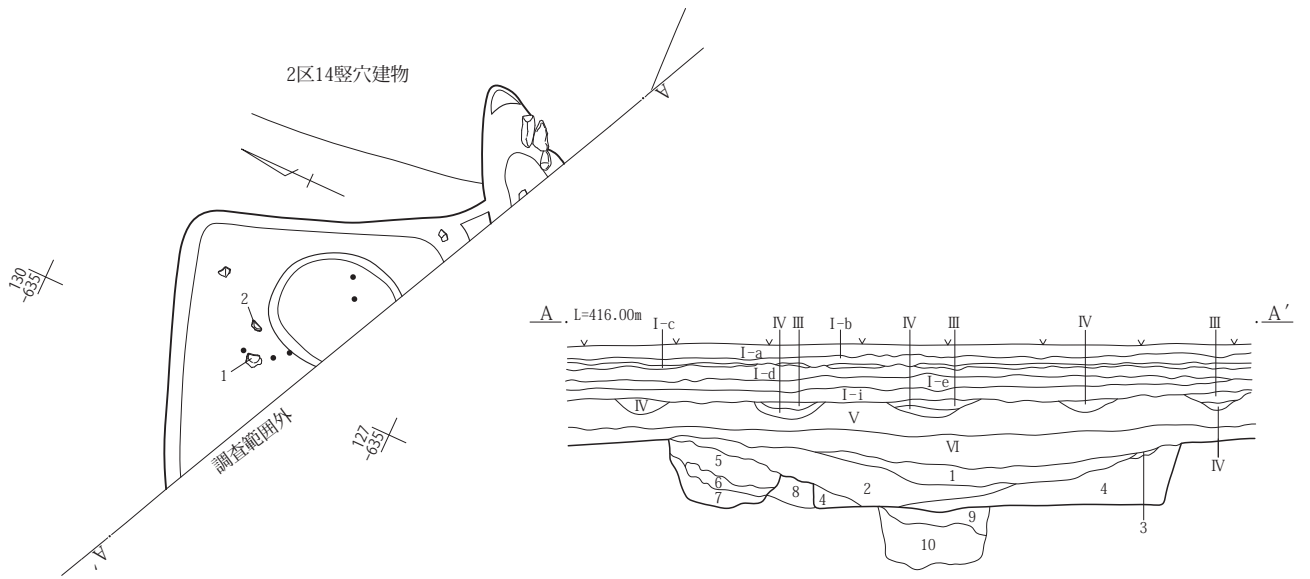
遺物：出土した遺物量は少ない。出土遺物として、土器4点を図示した。1・2は須恵器の杯で、3・4は土師器の甕の口縁部。
 未掲載遺物には、土師器および須恵器片が少量ある。
 所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀第3四半期と考えられる。



第244図 2区6号竪穴建物 床面下、カマド 平・断面図

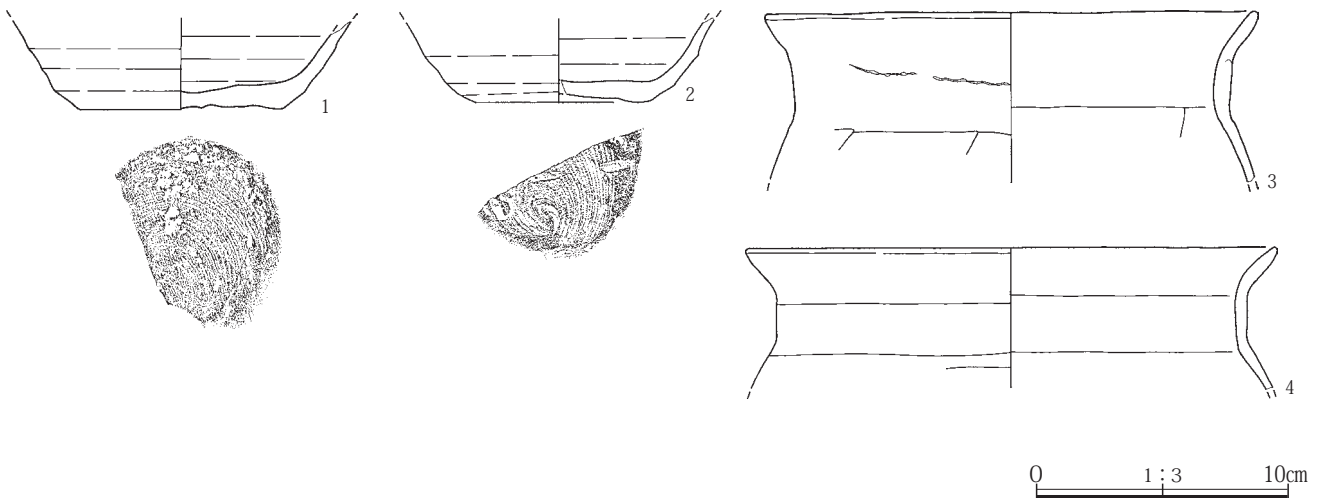


第245図 2区6号竪穴建物 出土遺物



- I-a 褐灰色土 表土(現水田耕作土)。As-Kk混土層。(2-A区南壁基本層序I層)
- I-b 褐灰色土 旧水田耕作土。As-Kk混土層。(2-A区南壁基本層序I層)
- I-c 赤褐色土 旧水田耕作の酸化土。As-Kk混土層。(2-A区南壁基本層序I層)
- I-d 灰黄褐色土 旧水田耕作土。As-Kk混土層。(2-A区南壁基本層序I層)
- I-e 褐灰色土 旧水田耕作土。As-Kkを多く含む。(2-A区南壁基本層序I層)
- I-i 褐灰色土 旧水田耕作土。As-Kkを多量に含む。(2-A区南壁基本層序I層)
- III 褐灰色土 僅かにAs-B軽石を含む。(2-A区南壁基本層序III層)
- IV 褐灰色土 As-Bの灰で大ブロック状に畝の畝畦間を埋める。(2-A区南壁基本層序IV層)
- V 黒褐色土 As-B降下以前の耕土。(2-A区南壁基本層序V層)
- VI 黒色土 黄色粒を僅かに含む。混入物が少なく、やや粘質。(2-A区南壁基本層序VI層)
- 1 灰黄褐色土 基本層序VI層より明るく、焼土粒、ローム小ブロックを僅かに含む。
- 2 褐灰色土 汚れた黄褐色ロームブロックを多く、白色粘土粒を少量含む。
- 3 赤褐色土 粘土粒、ロームブロックとの混在土。
- 4 暗褐色土 混入物少ないが、炭化粒を少量含む。
- 5 鈍い橙色土 黄色ロームブロックを主体に焼土ブロックを混在。(カマド内)
- 6 明赤褐色土 焼土ブロックを主体とする。(カマド内、天井崩落焼土か)
- 7 黒色土 混入物なく、かなり粘質。(カマド内)
- 8 鈍い黄褐色土 ロームブロックと焼土ブロックの混在土で、硬く締まる。(カマド袖構築土)
- 9 暗褐色土 ローム小ブロックを多く含む。(床下土坑)
- 10 黒褐色土 ローム大ブロックを多く含む。(床下土坑)

0 1:60 2m



第246図 2区15号竖穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

2区19号竪穴建物

(第247・248図、第13・82表、PL.35・36・183)

平成28年度の調査で、1区に跨がり検出した。

位置：2区の北西端に位置し、竪穴建物の北西隅付近が

1区に跨がる。東側に2区33号竪穴建物が近接する。

グリッド：2 I・2 J-133・134

座標値：X=61,173~61,177 Y=-93,661~93,665

形状：横長長方形

規模：長軸3.92m 短軸3.02m 壁高26~35cm

長軸方向：N-66°-E 床面積：10.25㎡

埋没土：1層の暗褐色土を主体に、壁際の2・3層とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて極めて硬化が著しい。ただし、北西隅付近の状況は不明。壁高は26~35cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：東壁中央の南寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-75°-Eを向き、残存状態は極めて良好。燃烧部は壁の外側に張り出し、煙道部はその先に短く突出する。カマドの規模は、全長0.97m、幅0.81mを測る。袖は壁際に僅かに突出し、両先端部に袖石をもつ。焚き口部から燃烧部の底面にかけては床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。燃烧部の内壁は石組みとなり、袖部先端(焚き口部)の1石と燃烧部内壁の2石、煙道基部の1ないし2石で片側を構築している。また、図示したように、燃烧部奥側の天井石が残存しており、その下部(燃烧部内)にずり落ちた石は左側壁石と考えられる。なお、焚き口部の天井石は不明。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後にカマド全体を大きく掘り凹め、7層の黒褐色土でカマドを底面および袖石・側壁石の土台を構築し、その後袖石や側壁石を据えながら6層の褐色土を構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる南隅に位置し、上面形は楕円形を呈する。長軸95cm、短軸65cm、深さ22cmを測り、黒褐色土と埋土とする。なお、貯蔵穴の壁の周囲には、黄白色粘土を多く含む暗褐色土が巡る。

床面下：10cm前後の掘り込みを全体にもち、1区に跨がる北西隅を検出できた。埋土は暗褐色土で硬く締まる。

また、床下土坑を4基検出した。床下土坑1はカマド前に位置し、貯蔵穴と接する。円形に近い楕円形で、長軸0.67m、短軸(0.60)m、深さ25cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑2は西壁際に位置する。楕円形を呈し、長軸0.78m、短軸0.66m、深さ12cmを測り、暗褐色土を埋土とする。床下土坑3は中央付近に位置する。楕円形を呈し、長軸0.98m、短軸0.83m、深さ26cmを測り、暗褐色土と黒褐色土を埋土とする。床下土坑4は北東隅に位置し、径0.44m、深さ8cmを測る円形で、暗褐色土を埋土とする。なお、床下土坑1・3からは遺物が出土している。

遺物：出土した遺物量はやや多いものの、床面直上からの遺物は少ない。唯一、5の杯が北東隅付近の床面から出土している。また、2の杯は貯蔵穴の上面付近、4の杯は南西隅付近の床面よりやや上に出土している。床面下ではあるが、床下土坑1からは3の杯、床下土坑3からは10の甕の口縁部片が出土している。

出土遺物として、土器10点と鍛冶関連遺物1点を図示した。1は土師器の黒色土器碗か。2~6は須恵器の杯で、7~9は須恵器の碗。10は土師器の甕である。

鍛冶関連遺物は11の椀形鍛冶滓(中型)で、径9.5cm前後を測る。埋土中からの出土である。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が多くある。

所見・時期：石組み構造のカマドを伴う竪穴建物で、時期は出土土器から10世紀中頃と考えられる。

2区20号竪穴建物

(第249~251図、第13・83表、PL.36・183)

平成27年度の調査で検出した。2区10・45号竪穴建物と重複する。遺構確認が難しく、不明瞭な点が多い。

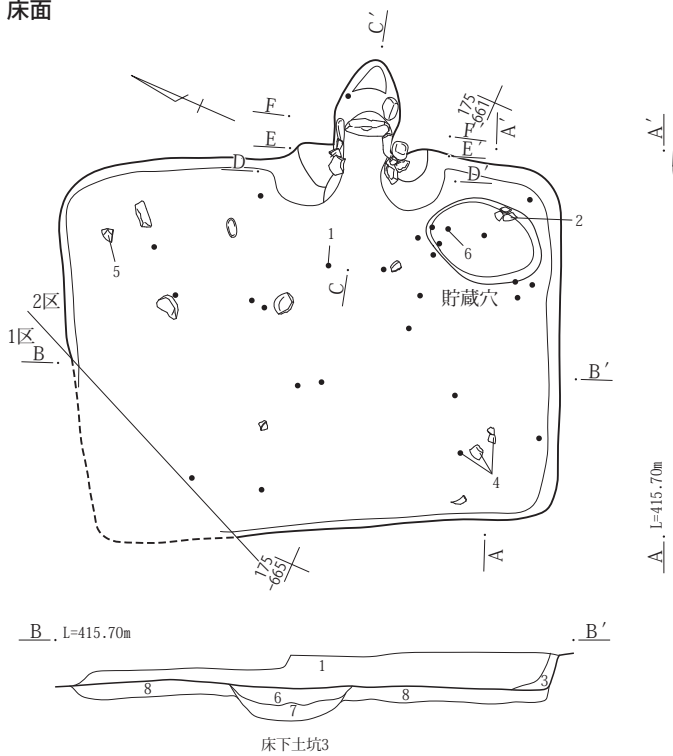
位置：2区西側の中央付近に位置し、本建物の南側を2区10号竪穴建物、北西側を2区45号竪穴建物と重複する。北東側に2区22・38号竪穴建物、南東側に2区21・49号竪穴建物、西側に2区6号竪穴建物、北側から北西側にかけて2区18・34・35・46~48・100号竪穴建物が近接する。

グリッド：2 E・2 F-130~132

座標値：X=61,150~61,156 Y=-93,649~93,656

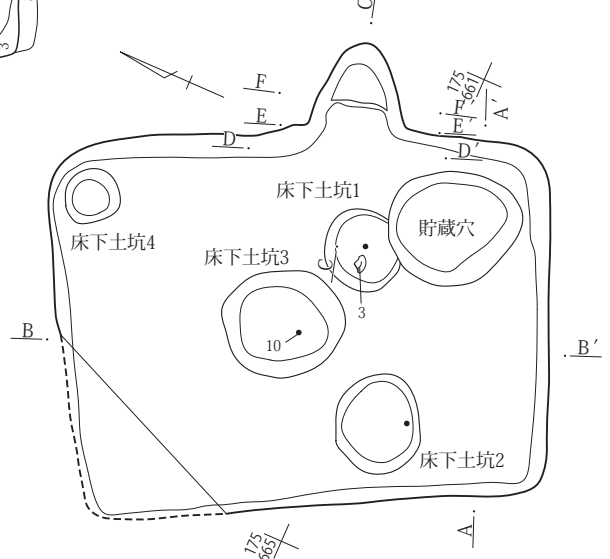
重複：本建物の南隅を2区10号竪穴建物と重複、北西壁を僅かに2区45号竪穴建物と重複する。遺構確認およ

床面



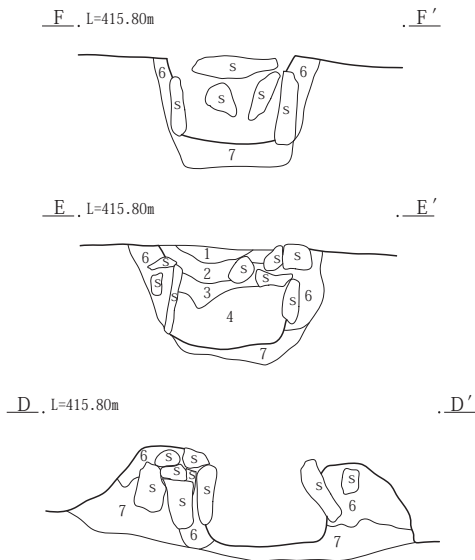
- 1 暗褐色土 白色・黄色鉱物粒、焼土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 黄白色粘土ブロックを多量に含む。
- 3 黒褐色土 白色鉱物粒を少量含む。
- 4 黒褐色土 粘質。(貯蔵穴)
- 5 暗褐色土 黄白色粘土を多く含む。(貯蔵穴壁土)
- 6 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。上面に炭化粒が多い。(床下土坑3)
- 7 黒褐色土 ロームブロックを少量含み、粘質。(床下土坑3)
- 8 暗褐色土 炭化粒、ロームブロック、白色粘土を少量含む。硬く締まる。(床下土)

床面下



0 1:60 2m

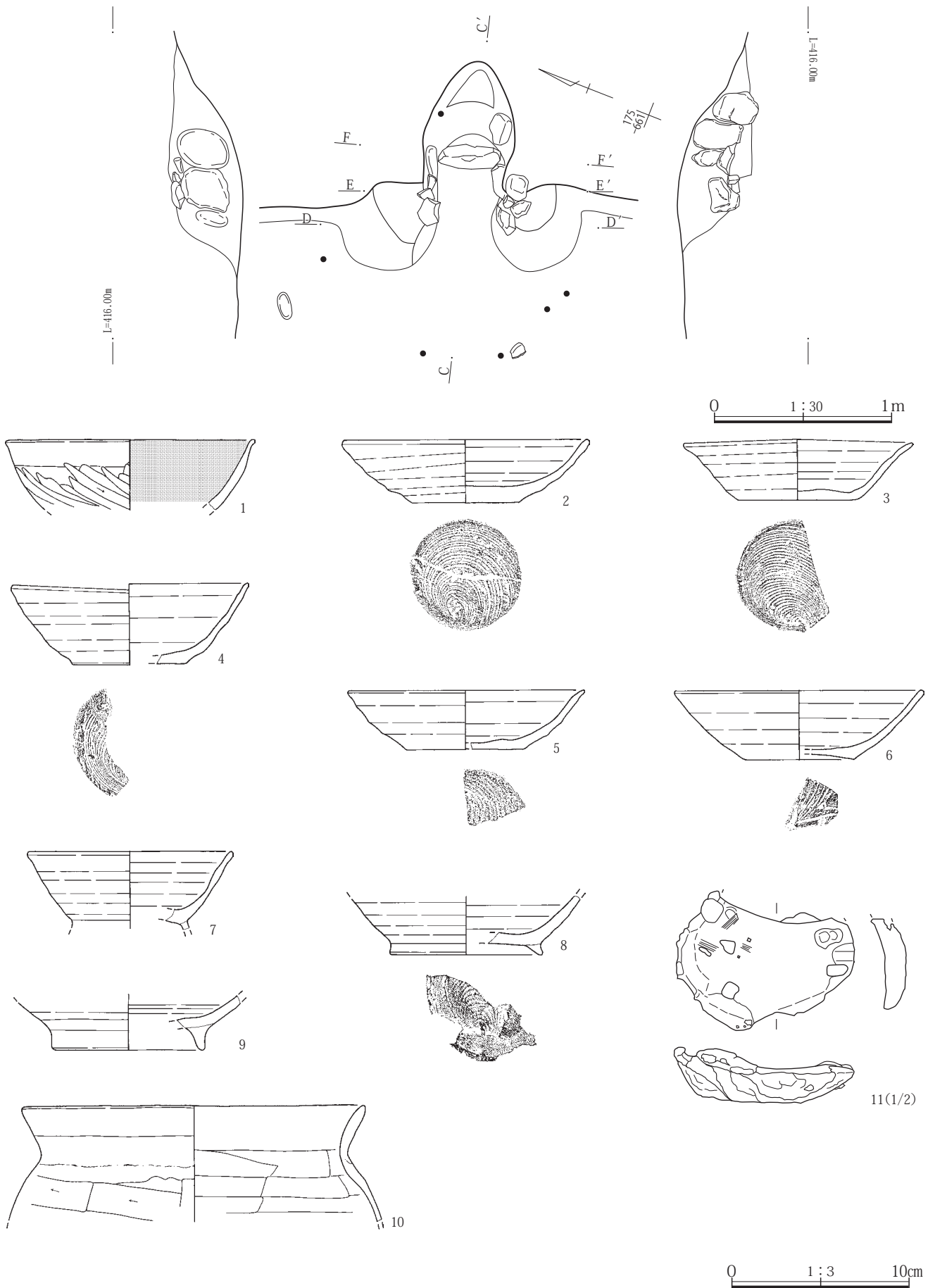
カマド



- 1 黒褐色土 黄白色粘土ブロックを多量に、焼土粒を少量含む。(建物2層に相当)
- 2 黒褐色土 1層に近似し、黄白色粘土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 焼土ブロックを含む。
- 4 褐色土 焼土ブロックを多く含む。
- 5 褐灰色土 炭化物、灰、焼土を僅かに含む。
- 6 褐色土 礫を多く混入する。黄白色粘土を含み、硬く締まる。(袖構築土)
- 7 黒褐色土 白色・赤褐色鉱物粒が混入する。(建物8層に相当)

0 1:30 1m

第247図 2区19号竪穴建物 床面、床面下、カマド 平・断面図



第248図 2区19号竪穴建物 カマド側面図、出土遺物

び土層断面の観察、遺物の出土状況等から、その新旧はいずれよりも本建物の方が新しい。

形状：長方形を呈するが、北東壁がカマドを境に食い違う。

規模：長軸5.68m 短軸4.04m 壁高50～55cm

長軸方向：N-63°-W 床面積：19.45㎡

埋没土：1層の暗褐色土および2層の黒褐色土とに分層できる。また、1・2層中には大型礫の出土がかなり多いことから、礫の廃棄を含む人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面近くであり、重複する2区10・45号竪穴建物との床面の高低差は、僅差ではあるが本建物の床面の方が低い。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化する。壁高は50～55cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、北東壁がカマドを境に北側と東側で食い違いを見せている。カマドの主軸方位はN-59°-Eを向き、遺構確認面に煙道部天井石が確認できた残存状態の極めて良好な石組みカマドである。燃焼部は壁の食い違い部にあたり、煙道部は壁の外に短く突出する。カマドの規模は、全長1.28m、幅1.49mを測る。袖は壁の食い違いに応じて右袖が短く、左袖が長くあり、両先端部に袖石をもつ。焚き口部から燃焼部の底面は床面ほど同一で、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がる。袖石を先端に、燃焼部、煙道部の内壁は石組みとなり、燃焼部奥から煙道にかけて天井石が残存していた。ただし、煙道の出口部には天井石は架かっていない。焚き口部の袖石の上端はやや内傾し、下端付近の間口は40cm前後を測り、燃焼部の側壁石間は50cmとやや広がり、煙道の幅は15cmとかなり狭い。なお、焚き口部の天井石は不明。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に部分的に掘り凹め、6～8層の黒褐色土を構築土として、袖石や側壁の石を据えながら構築したと考えられる。

床面下：床面下の調査をしたが、明瞭ではなかった。

遺物：出土した遺物量はやや多いものの、床面直上からの遺物は極めて少ない。唯一、5の杯がカマド前の床面直上に出土している。それ以外は、大型礫と共に埋土中からの出土である。また、埋土中ではあるが、南東壁中央の壁際に馬歯が出土している。

出土遺物として、土器16点と石製品4点、金属製品1点を図示した。1～5は土師器の杯で、1・3～5の内面にはへら磨きが施されている。6～8は須恵器の杯蓋で、9～12は須恵器の杯。13は須恵器の壺。14・15は土師器の甕である。

石製品の16は砥沢石製の砥石で、長さ10.2cm、幅4.0cm、厚さ5.4cmを測る完形品。

金属製品の17は鉄製の釘である。

なお、18の土師器の杯および19～21の滑石製の白玉は、埋土中の上位からであり、時期の異なる混入遺物と考えられる。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が多量にある。

所見・時期：石組み構造のカマドを伴う竪穴建物で、時期は出土土器から8世紀初頭と考えられる。

2区21号竪穴建物

(第252・253図、第13・84表、PL.36・37・183)

平成27年度の調査で検出した。2区49号竪穴建物と重複する。遺構確認で不明瞭であったため、遺構の一部を確認できなかったが、調査途中で判明した。

位置：2区西側の中央付近に位置し、本建物の西隅に2区49号竪穴建物が重複する。北側に2区22・38号竪穴建物、南東側に2区28号竪穴建物、南西側に2区9号竪穴建物、西側に2区10・20号竪穴建物が近接する。

グリッド：2D・2E-129・130

座標値：X=61,147～61,152 Y=-93,642～93,647

重複：本建物の西隅に2区49号竪穴建物が重複しているが、遺構確認で不明瞭であったため土層断面の観察に重点を置いた。その結果、調査途中の段階で本建物の方が新しいことが判明した。

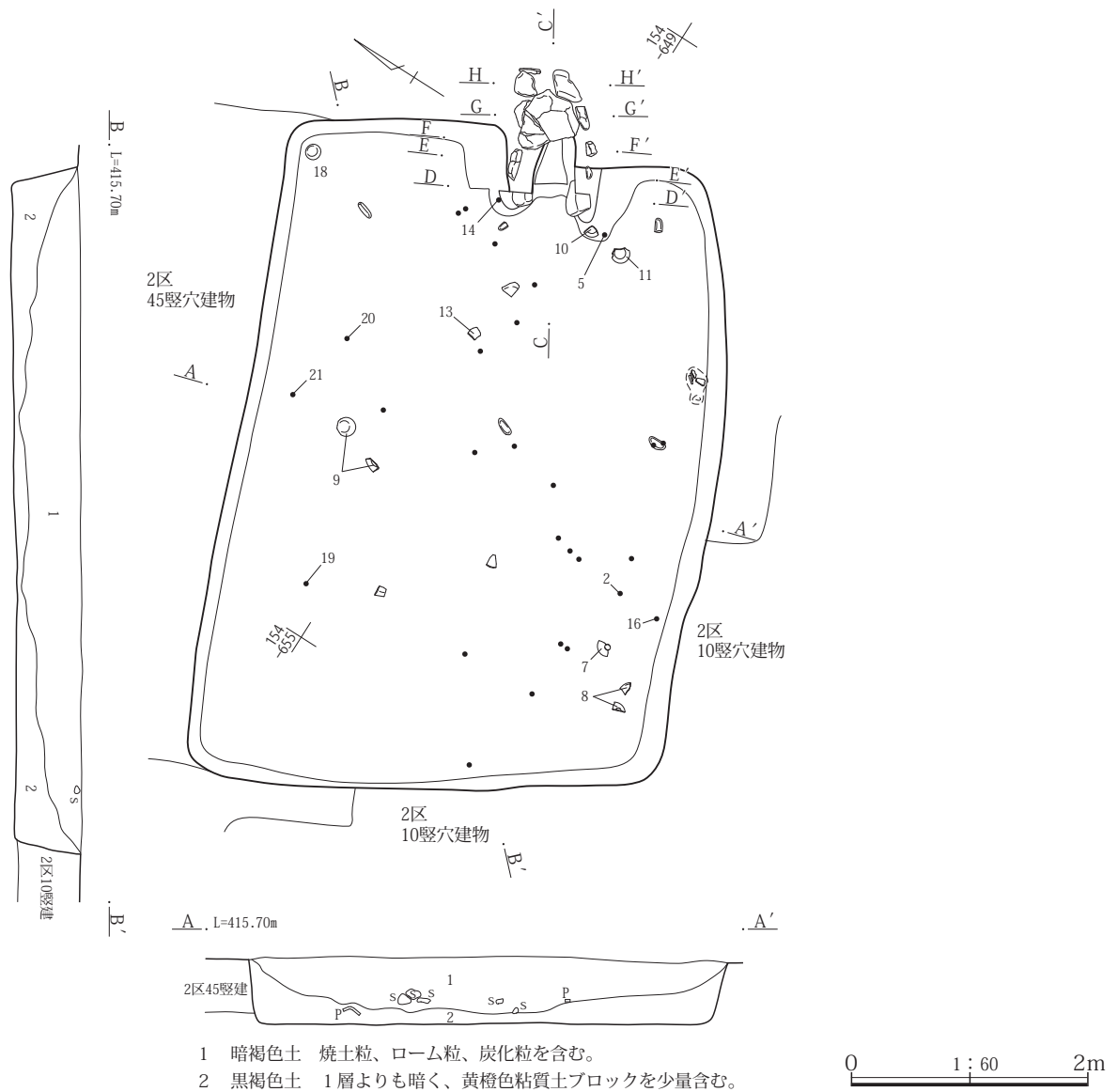
形状：長方形

規模：長軸3.74m 短軸3.36m 壁高50cm

長軸方向：N-49°-E 床面積：11.04㎡

埋没土：1層の暗褐色土を主に、壁際の2・3層とした黒褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、重複する2区49号竪穴建物との床面の高低差は本建物の方が低い。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけてやや硬化する。壁高は50cm前後を測り、垂直ぎみに立ち上がる。



第249図 2区20号竪穴建物 床面 平・断面図

カマド：北東壁中央の僅かに東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-52°-Eを向き、残存状態は良好。燃燒部は壁の内側にあり、煙道部は外側へやや長めに突き出る。残存する規模は、全長1.39m、幅1.08mを測る。袖は壁から60~65cmほど突き出るように残存し、両先端に袖石をもつ。袖石はほぼ垂直に据わる。焚き口部から燃燒部の底面は平坦で、煙道部は燃燒部奥の一段高い位置から斜位に立ち上がる。また、燃燒部内壁は、被熱により焼土化していた。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に黒褐色土を袖部の構築土としている。

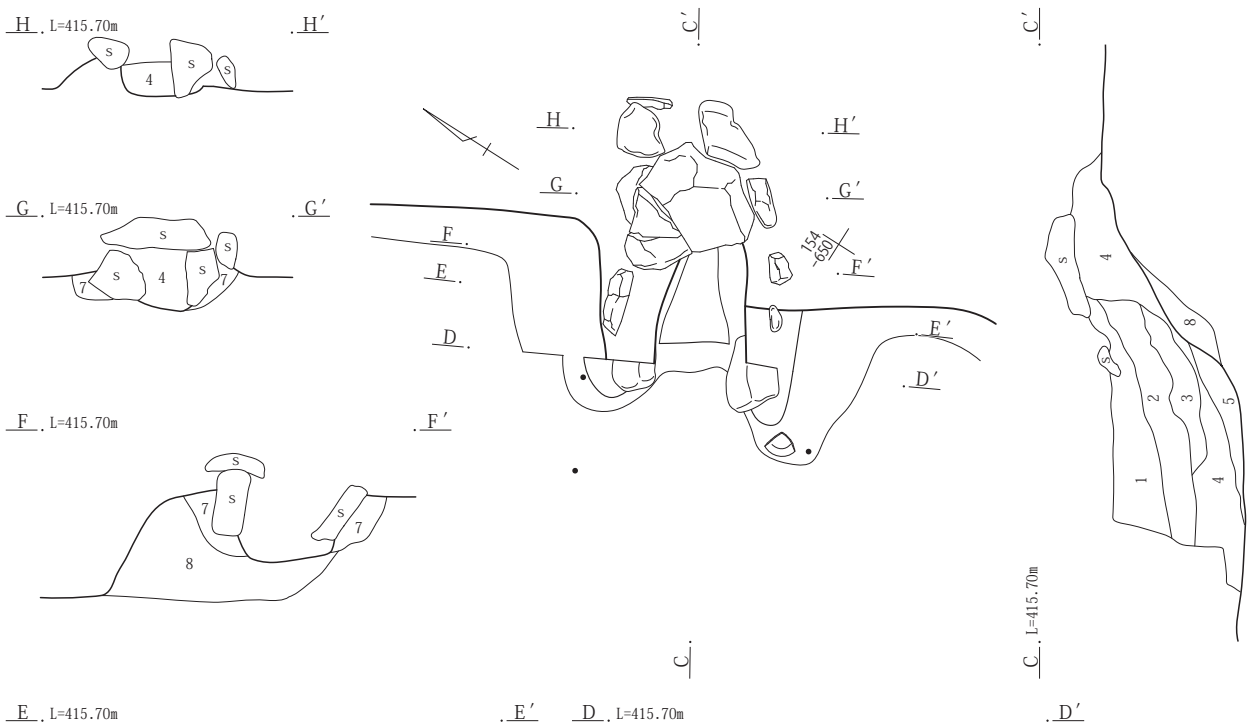
遺物：出土した遺物量はあまり多くはなく、その多くは埋土中からである。唯一、1・3の杯が床面のやや上に出土している。

出土遺物として、土器10点を図示した。1~6は土師器の杯。7は須恵器の杯蓋で、8・9は須恵器の杯。10は須恵器の小型短頸壺である。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片がある。

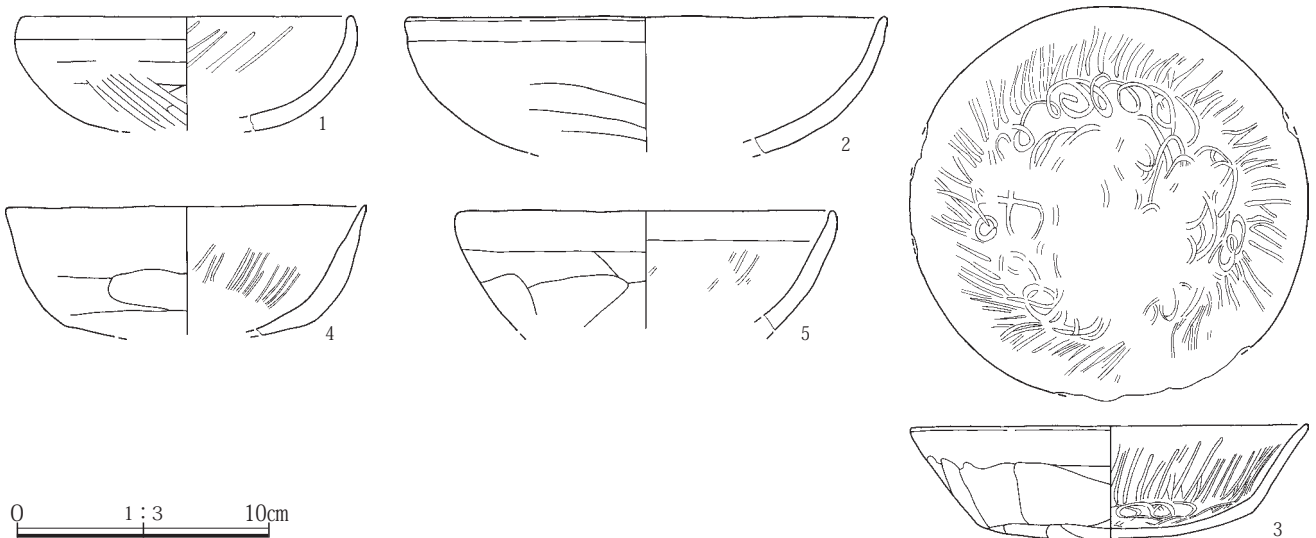
所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。

第4章 検出された遺構と遺物

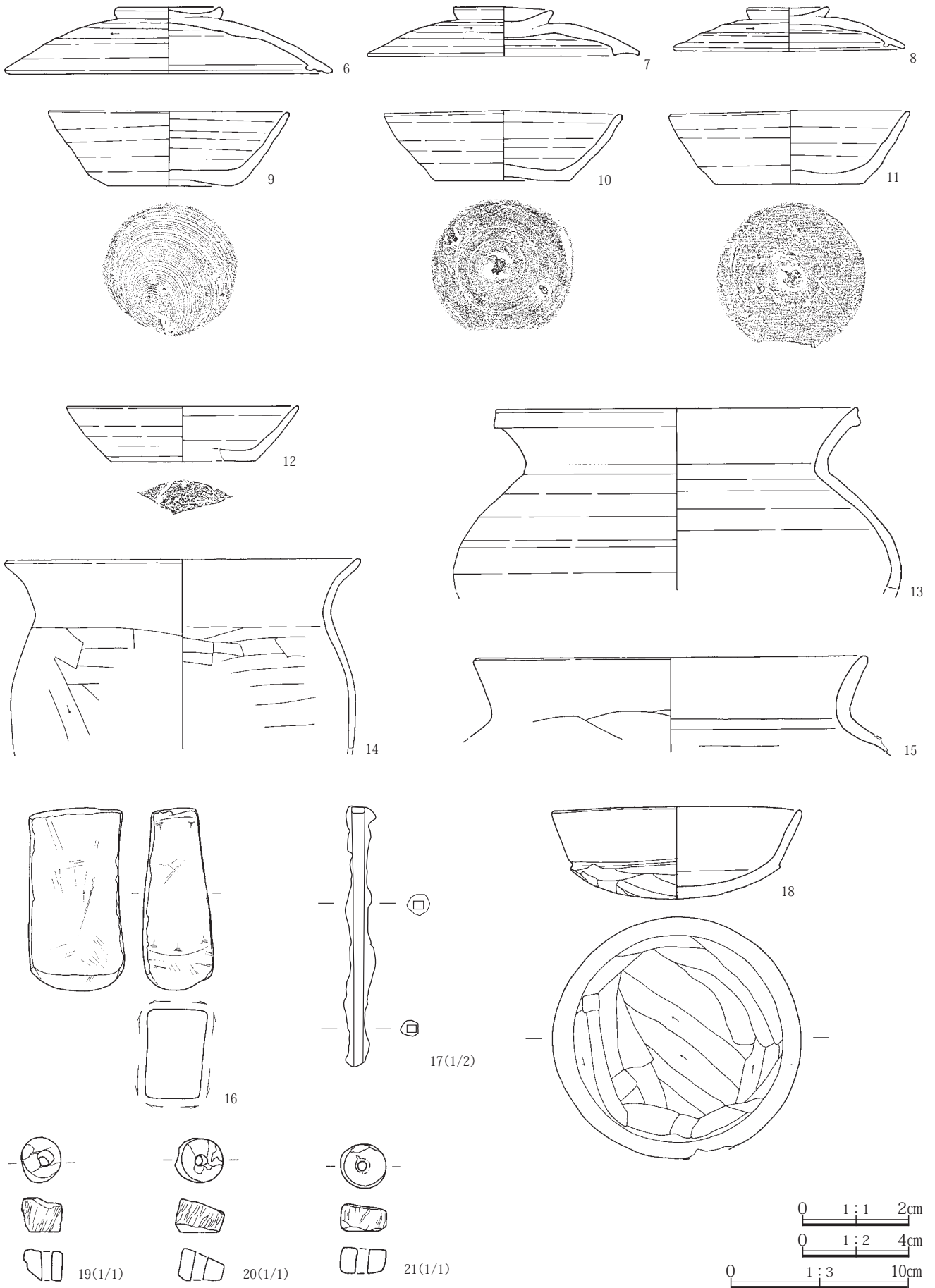


- 1 黒褐色土 僅かに炭化物と焼土粒が混入する。(建物2層に相当)
- 2 黒褐色土 2層に近いが、焼土ブロックが少量混入する。
- 3 黒褐色土 黄白色粘土、炭化物、焼土ブロックが混入する。
- 4 暗褐色土 焼土粒と焼土ブロックを含む。
- 5 黒褐色土 炭化粒を少量含む。
- 6 黒褐色土 焼土粒、炭化物を含み、硬く締まる。(袖構築土)
- 7 黒褐色土 黄白色粘土・焼土ブロック、炭化物を含み、硬く締まる。(袖構築土)
- 8 黒褐色土 褐色土、赤褐色土、ロームブロックを含み、粘質。(袖・カマド構築土)

0 1:30 1m

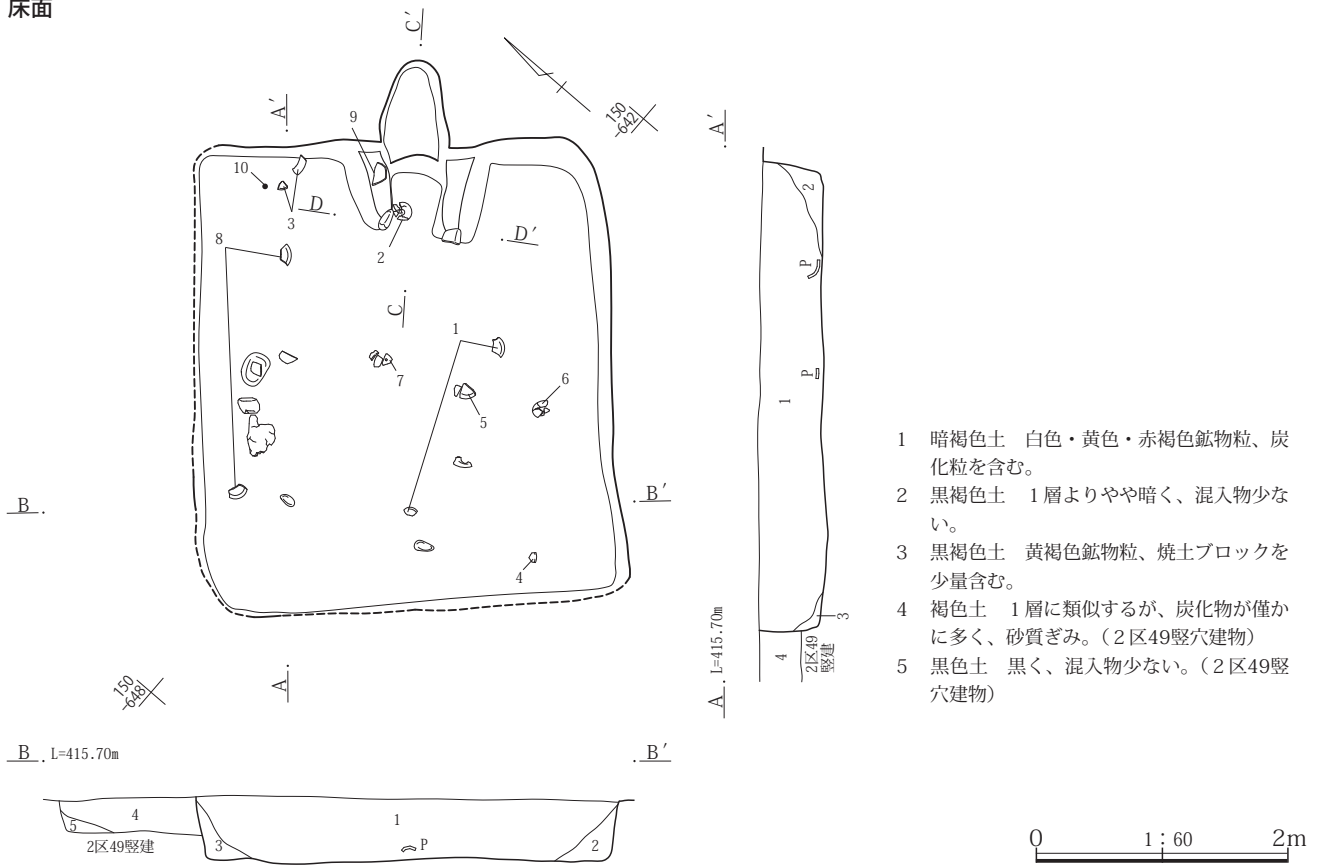


第250図 2区20号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物(1)

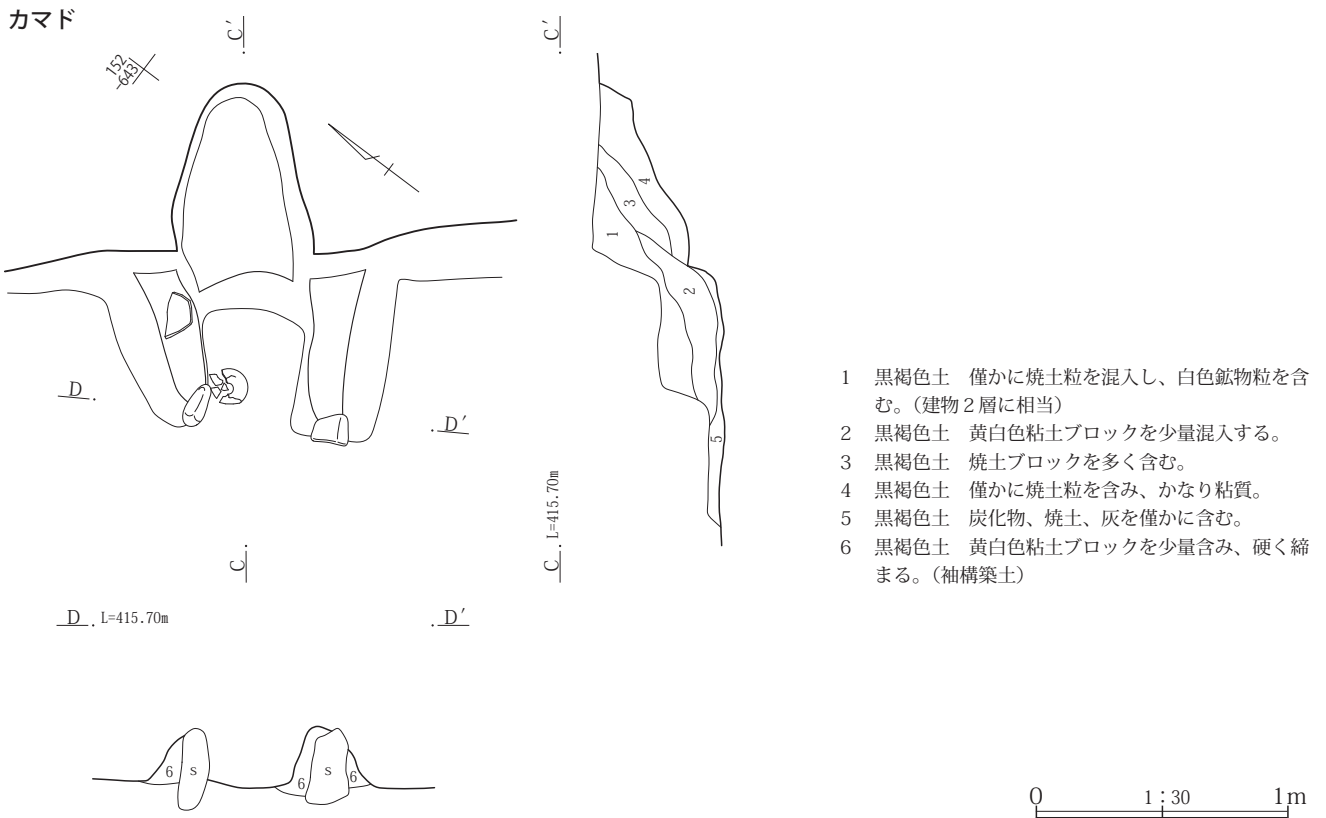


第251図 2区20号竪穴建物 出土遺物(2)

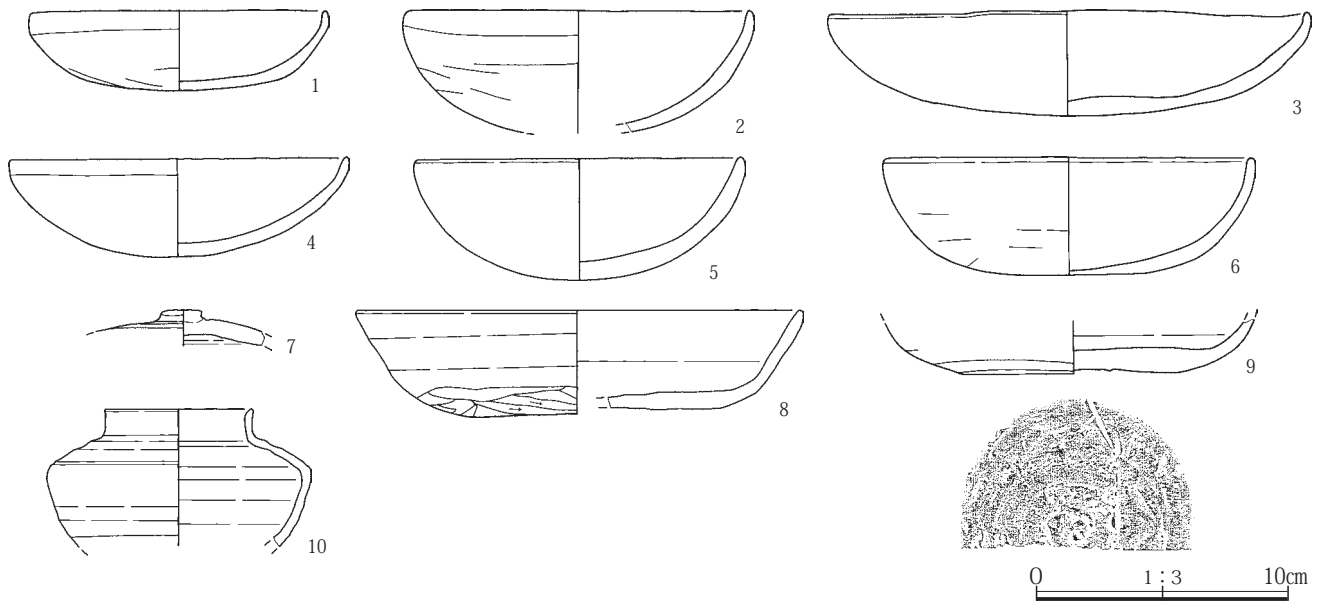
床面



カマド



第252図 2区21号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第253図 2区21号竪穴建物 出土遺物

2区26号竪穴建物

(第254～256図、第13・87表、PL.40・41・186)

平成27年度の調査で検出した。2区25・27号竪穴建物と重複する。

位置：2区西側の南東寄りの2区25～30号竪穴建物が集中的に重複する一面に位置し、本建物の東半が2区25号竪穴建物、西側を2区27号竪穴建物と重複する。また、南側から南西側にかけて2区11～13号竪穴建物が近接する。

グリッド：2B・2C-126～128

座標値：X=61,135～61,140 Y=-93,630～93,635

重複：本建物の東半を2区25号竪穴建物、西側を2区27号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の観察から、いずれよりも本建物の方が新しい。

形状：横長長方形

規模：長軸4.64m 短軸4.06m 壁高35～40cm

長軸方向：N-29°-W 床面積：16.07㎡

埋没土：1・2層の黒褐色土に分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、重複する2区27号竪穴建物との床面の高低差は、僅差ではあるが本建物の床面の方が低い。床面はほぼ平坦となるが、白色粘土が目立つ。壁高は35～40cmを測り、垂直ぎみに立ち上がるが、南西壁はやや斜位ぎみ。

カマド：北東壁の中央東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-63°-Eを向き、遺構確認面に煙道部の側壁

石や天井石が確認できた残存状態の極めて良好な石組みカマドである。燃烧部は壁の外側にあり、その奥に煙道部がやや長めに突出する。なお、北東壁はカマドを境に僅かに食い違う。カマドの規模は、全長1.54m、幅1.31mを測る。袖は壁から僅かに短く突出し、両先端部に袖石をもつ。焚き口部から燃烧部の底面は床面より低くなり、煙道部は燃烧部奥に段をもちながら斜位に立ち上がる。また、燃烧部の左寄りには、支脚として細長い礫も残存している。石組みの状況は、袖石を先端に、燃烧部、煙道部の内壁は石組みとなり、燃烧部奥ないし煙道に天井石が1石残存していた。焚き口部の天井石は残存していないが、焚き口部の間口は55cm前後を測り、燃烧部の側壁石間は40cm前後、天井石の残る燃烧部奥ないし煙道の側壁石の幅は25cm前後、煙道部先端付近の側壁石の幅は15cmと徐々に狭くなっている。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後にカマド部分を一回り大きく掘り凹め、7層の鈍い黄橙色土を構築土として、袖石や側壁の石を据えながら構築したと考えられる。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、上面形は円形に近い楕円形を呈する。長軸68cm、短軸60cm、深さ25cmを測り、黒褐色土を埋土とする。なお、貯蔵穴の周囲は、厚さ10cmほどに白色粘土ブロックを多量に含む褐灰色土で構築されている。

床面下：6～10cm前後の掘り込みを全体にもち、埋土は上面に白色粘土ブロックを薄く堆積させた黒褐色土で、カマド前では数枚の白色粘土ブロック層を確認できた。上面となる床面の硬化は弱い。

遺物：出土した遺物量は比較的が多い。まず、カマド燃焼部内および左袖前、南東壁中央の壁際から出土して接合した13の甕、カマド左袖前から1の皿があり、貯蔵穴内からは5の杯が出土している。建物中央の床面直上には2の杯、床面のやや上から8の椀が出土している。

出土遺物として、土器15点と金属製品2点を図示した。1は須恵器の皿、2～7は須恵器の杯で、7の底部内面に墨が付着か。8～11は須恵器の椀で、8の体部外面には逆に墨書「吾」をもつ。12は須恵器の壺の底部。13～15は土師器の甕である。

金属製品はいずれも鉄製品で、16は板状を呈した不明品、17は鍵の先端部と思われる。

未掲載遺物には、土師器の甕片および須恵器片が少量にある。

所見・時期：石組み構造のカマドを伴う竪穴建物で、時期は出土土器から9世紀第4四半期と考えられ、13の甕はやや古い。

2区27号竪穴建物

(第257・258図、第13・88表、PL.41・186・187)

平成27年度の調査で検出した。2区26・28・29号竪穴建物と重複する。

位置：2区西側の南東寄りの2区25～30号竪穴建物が集团的に重複する一画に位置し、本建物の南東半が2区26号竪穴建物、南西側を2区29号竪穴建物、そして北西壁部分を2区28号竪穴建物と重複する。また、南側にかけて2区11～13号竪穴建物が近接する。

グリッド：2B・2C-127・128

座標値：X=61,137～61,143 Y=-93,632～93,637

重複：本建物の南東半を2区26号竪穴建物、南西側を2区29号竪穴建物、北西壁部分を2区28号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の観察から、本建物は2区26号竪穴建物より旧く、2区28・29号竪穴建物より新しい。

形状：横長長方形か

規模：長軸4.50m 短軸3.78m 壁高32～37cm

長軸方向：N-57°-E 床面積：14.87㎡

埋没土：1層の灰黄褐色土と2層の黒褐色土に分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、重複する2区26号竪穴建物との床面の高低差は、本建物の床面の方が僅差で高い。また、2区29号竪穴建物とは、ほぼ同一の高さにある。床面はほぼ平坦となるが、白色粘土が目立つ。壁高は32～37cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央の東寄りに位置し、右袖の一部を2区26号竪穴建物に壊されている。カマドの主軸方位はN-63°-Eを向き、残存状態はやや良好。燃焼部は壁の外側にあり、その奥に煙道部が短く突出する。カマドの規模は、全長1.54m、幅1.31mを測る。袖は壁から僅かに突出し、両先端部に袖石は確認できなかった。焚口部から燃焼部の底面は床面よりやや低くなり、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がる。なお、燃焼部の内壁は被熱して著しく焼土化していた。

床面下：20cm前後の掘り込みを全体にもち、埋土は上面に白色粘土ブロックを薄く堆積させた黒褐色土である。また、床下土坑を2基検出した。床下土坑1はカマド前に位置し、楕円形で長軸1.05m、短軸0.82m、深さ24cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑2は西炭の壁際に位置し、楕円形で長軸0.97m、短軸0.56m、深さ20cmを測り、黒褐色土を埋土とする。この床下土坑2から南西壁際沿いにやや浅い掘り込みをもち、さらに南東壁際沿いにも深さ23cmほどの掘り込みがある。

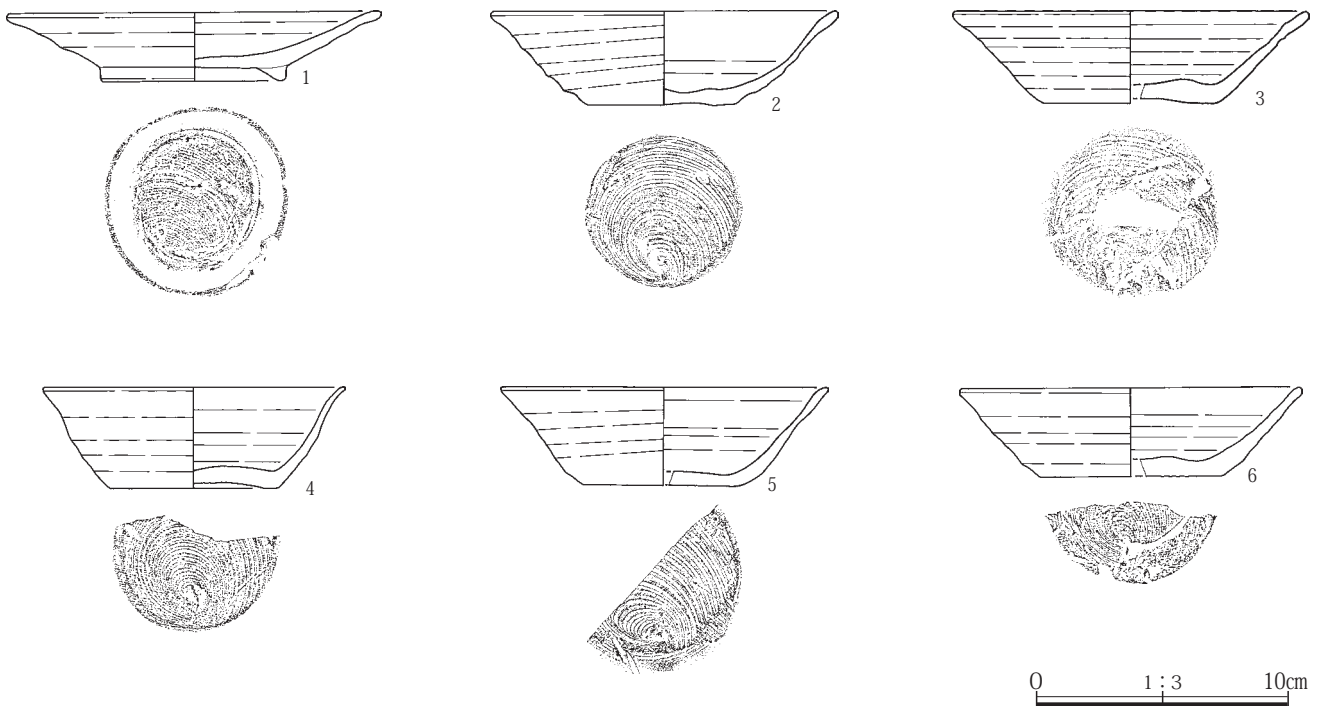
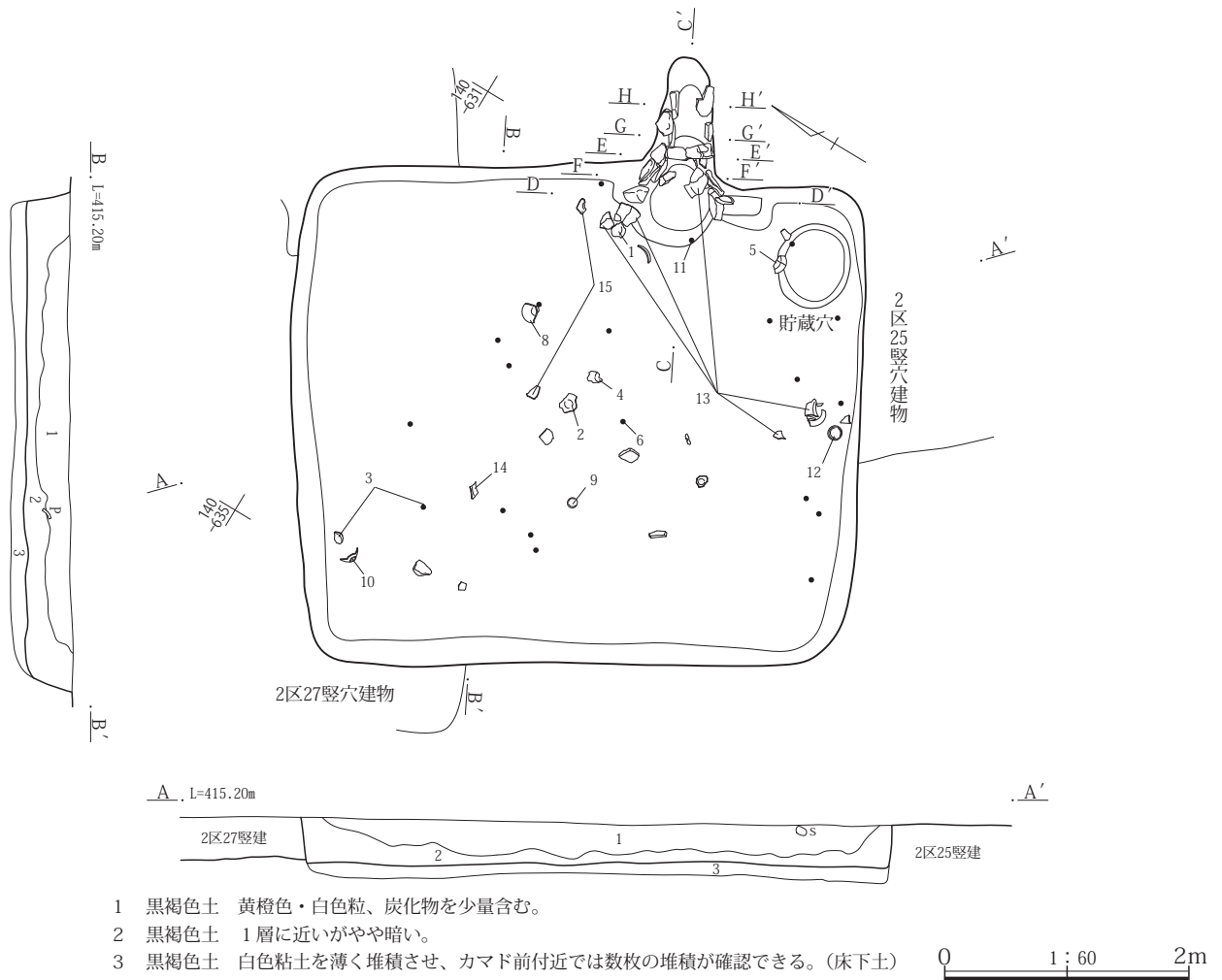
遺物：出土した遺物量は少ないが、床面直上の遺物が多い。カマドの左側から5の甕と1の杯が出土し、中央付近からも3や4の甕が床面頂上に出土している。

出土遺物として、土器5点と鍛冶関連遺物1点を図示した。1・2は須恵器の杯で、3～5は土師器の甕である。

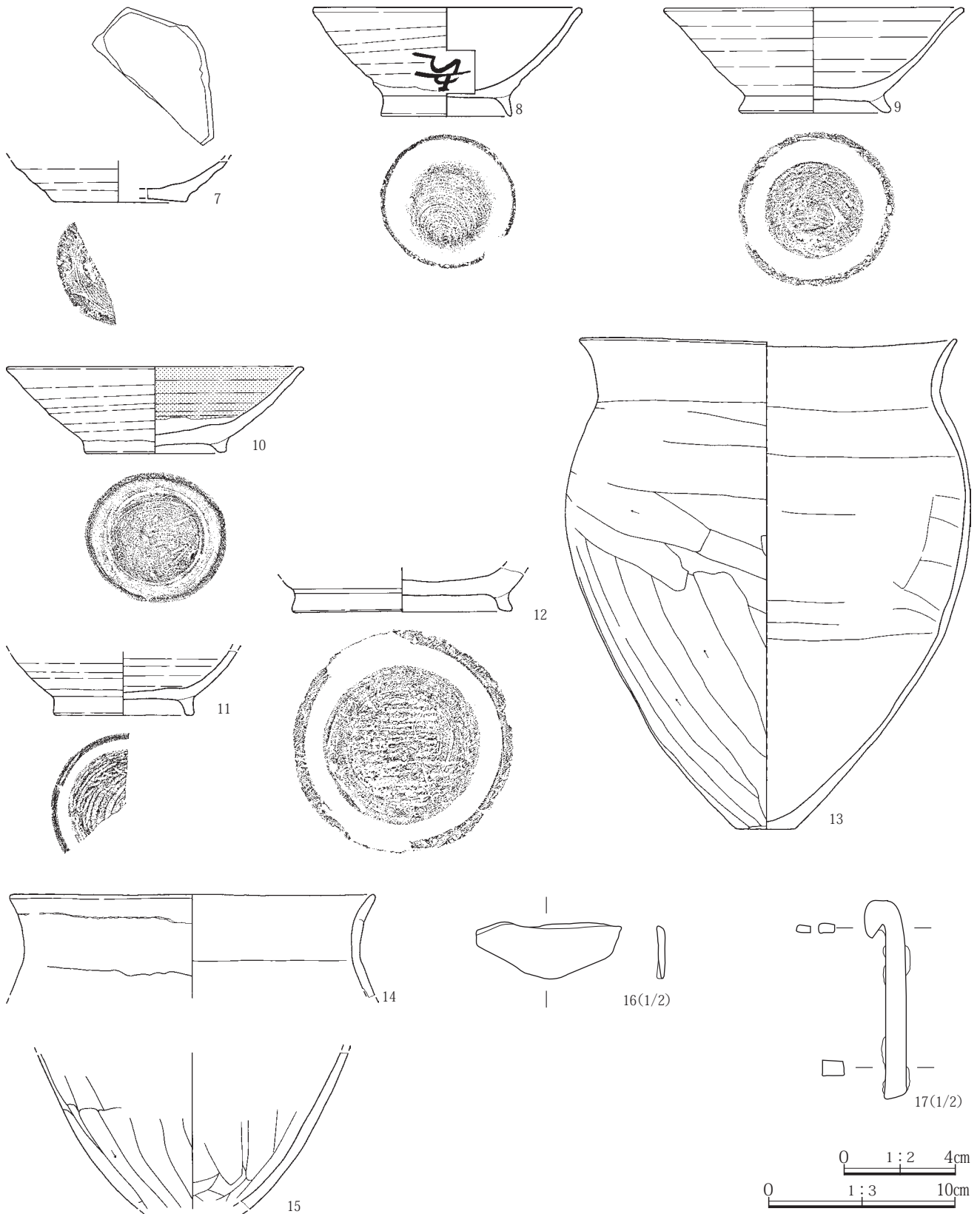
鍛冶関連遺物の6は、やや小振りな椀形鍛冶滓で、上面に炭痕を残す。

未掲載遺物には、土師器の甕片および須恵器片が少量ある。

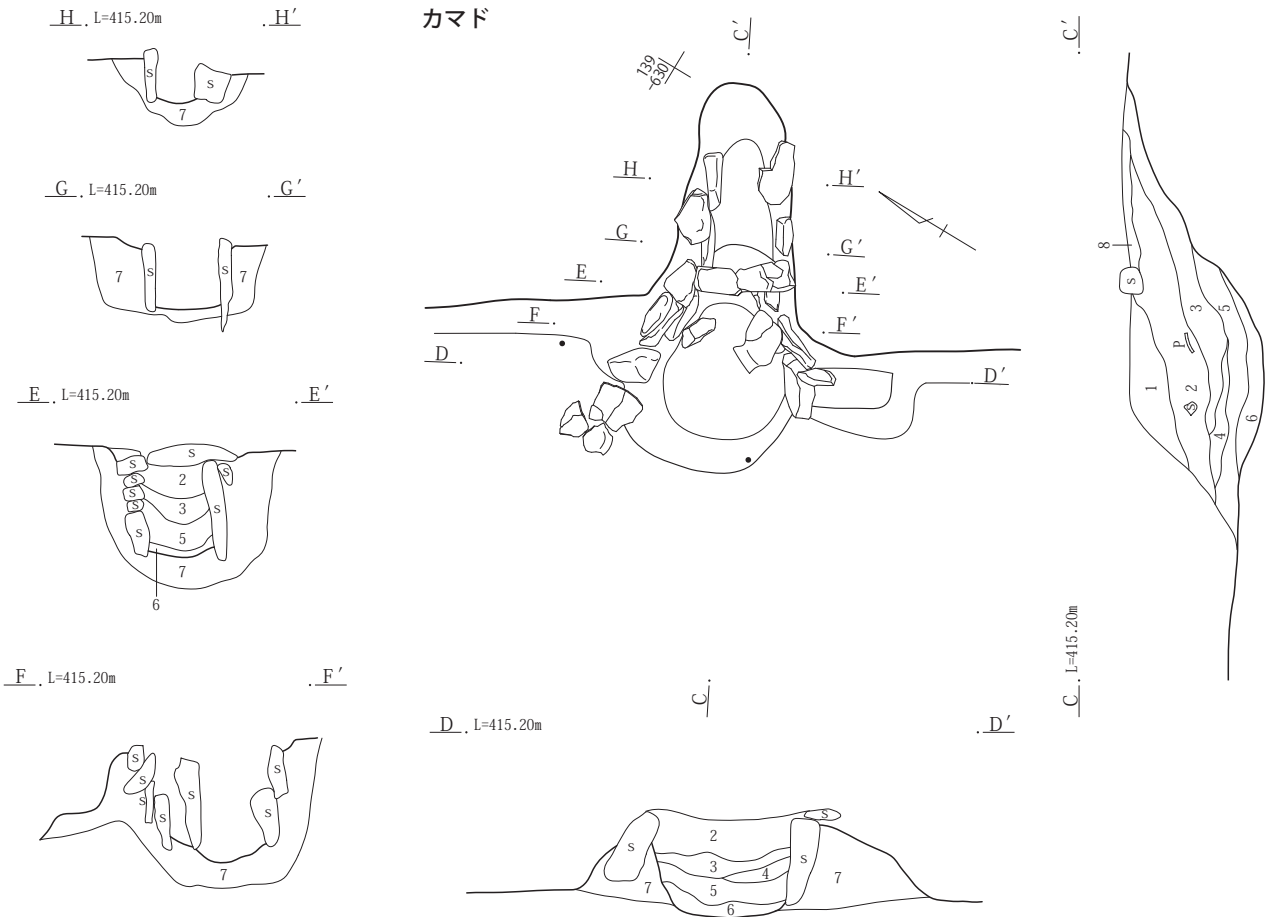
所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀第2四半期と考えられる。



第254図 2区26号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物(1)

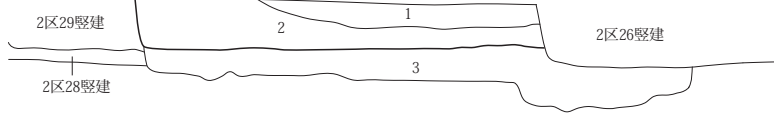
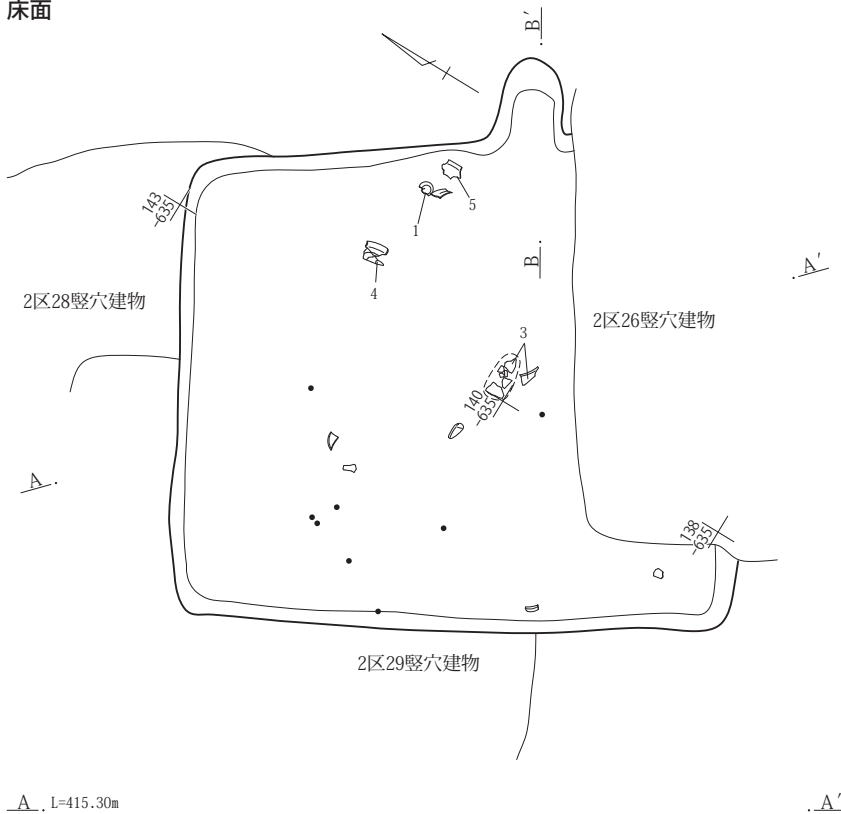


第255図 2区26号竪穴建物 出土遺物(2)



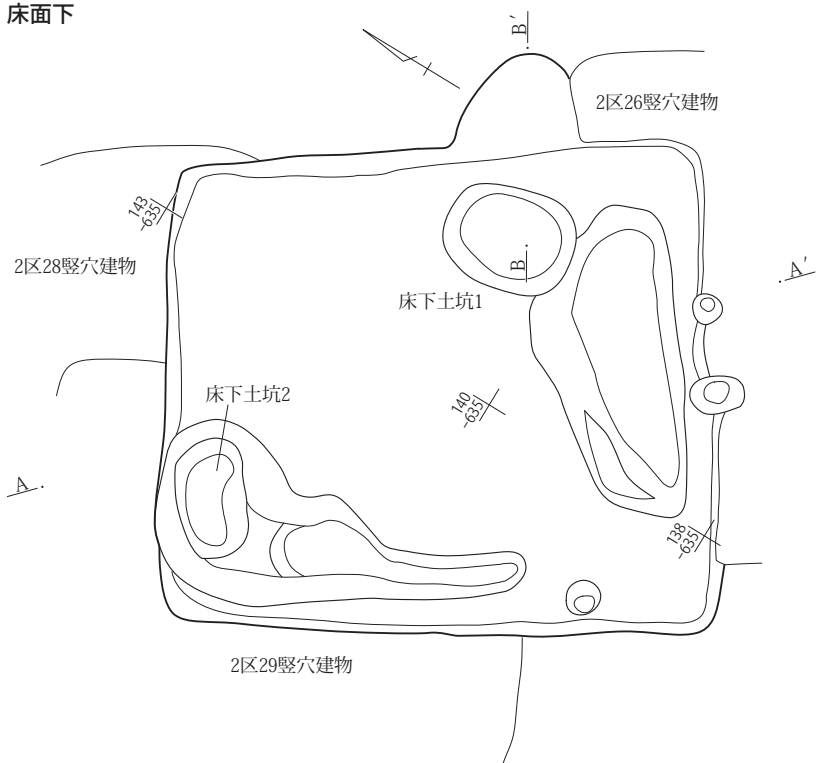
第256図 2区26号竪穴建物 カマド 平・断面図

床面



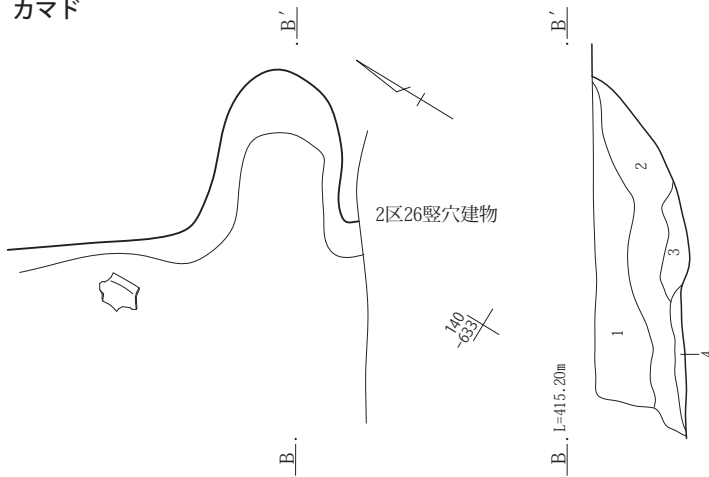
- 1 灰黄褐色土 細かな黄褐色粒と白色粒を多く含む。
- 2 黒褐色土 1層に近似するが暗く、混入物は1層より多い。
- 3 黒褐色土 床面となる上面に白色粘土を薄く堆積し、黄橙色ブロックや下位に黄色ロームブロックを含む。(床下土)

床面下



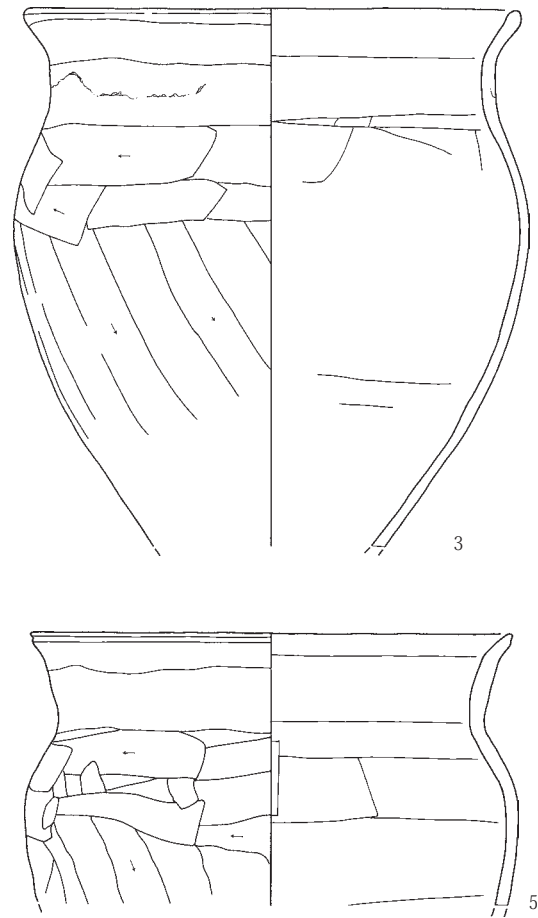
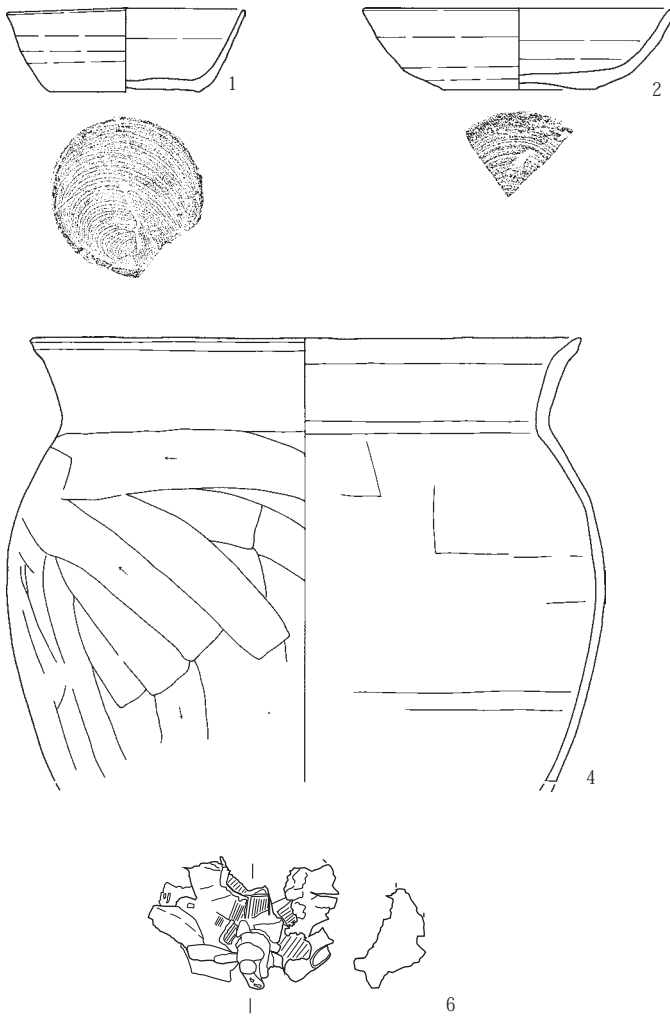
第257図 2区27号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図

カマド



- 1 黒褐色土 焼土粒、炭化粒を少量含む。(建物2層に相当)
- 2 鈍い黄褐色土 黄白色粘土、焼土ブロックを多く混入する。
- 3 赤褐色土 焼土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土 炭化物、焼土ブロック、灰を含む。

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第258図 2区27号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物

2区29号竪穴建物

(第259・260図、第13・90表、PL.42・187)

平成27年度の調査で検出した。2区27・28号竪穴建物と重複する。なお、2区28号竪穴建物との調査では、遺構確認および土層断面の判別が難しく、2区28号竪穴建物の調査を先行した。その後、出土した遺物の種類および出土のあり方から、新旧の逆転が明らかとなった。

位置：2区西側の南東寄りの2区25～30号竪穴建物が集中的に重複する一画に位置し、本建物の北東側に2区27号竪穴建物、北半を2区28号竪穴建物と重複する。また、南側に2区11・12号竪穴建物、西側に2区1号竪穴遺構が近接する。

グリッド：2B・2C-125・126

座標値：X=61,138～61,143 Y=-93,635～93,639

重複：本建物の北東半に重複する2区27号竪穴建物との新旧は、遺構確認および土層断面、2区27号竪穴建物の調査からも、本建物の方が古い。また、北西側に重複する2区28号竪穴建物とでは、出土した遺物の種類および出土のあり方から、本建物の方が新しいことが判った。

形状：方形か

規模：長軸4.00m 短軸3.86m 壁高40cm

長軸方向：N-63°-E 床面積：13.85㎡

埋没土：1層の暗褐色土と2層の黒褐色土に分層できる。なお、2区28号竪穴建物との重複する部分では不明な点もある。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、重複する2区27号竪穴建物の床面とほぼ同一の高さであるが、カマドの想定される位置も含めた北東側は大きく2区27号竪穴建物に壊される。残存する床面はほぼ平坦でやや硬化済み。壁高は40cm前後を測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：カマドは残存していないが、北東壁の中央ないし東寄りに位置すると推測される。

遺物：出土した遺物量はやや多く、中央付近の床面直上に9の壺の胴下半が出土し、南東壁中央の壁際に3の杯と7の椀が、西隅付近の床面のやや上に4・5の杯が出土している。

出土遺物として、土器10点を図示した。1・2は須恵器の杯蓋で、3～5は須恵器の杯、6・7は須恵器

の椀であり、8は須恵器の瓶類。9は土師器の壺の胴下半であり、10は土師器の甕である。

未掲載遺物には、土師器片と須恵器片が少量ある。所見・時期：建物の時期は、出土土器から8世紀第2四半期と考えられる。

2区30号竪穴建物

(第261・262図、第13・91表、PL.42・188)

平成27年度の調査で検出した。2区25号竪穴建物と重複する。なお、調査では遺構確認の判別が難しく、2区25号竪穴建物の調査を先行しつつ本建物を調査した。その結果、2区25号竪穴建物のカマドの状態から新旧が明らかとなった。

位置：2区西側の南東寄りの2区25～30号竪穴建物が集中的に重複する北東端に位置し、本建物の南西壁を2区25号竪穴建物と重複する。また、北側から南東側にかけて2区32・40～42号竪穴建物が近接する。

グリッド：2B・2C-125・126

座標値：X=61,137～61,142 Y=-93,623～93,628

重複：南西壁部分に重複する2区25号竪穴建物とでは、本建物が2区25号竪穴建物のカマドを壊していたことから、本建物の方が新しい。

形状：方形

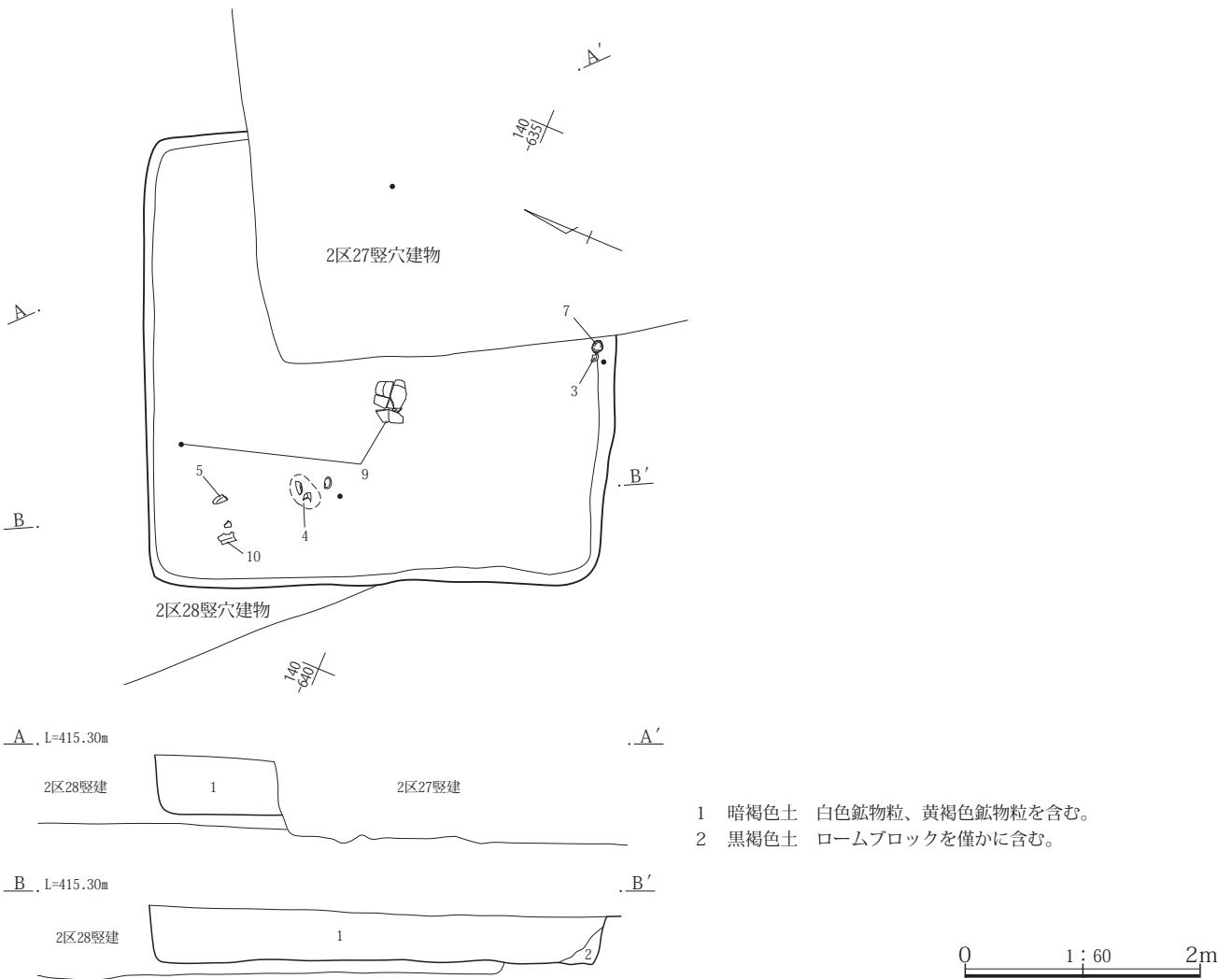
規模：長軸4.05m 短軸(3.66)m 壁高50cm

長軸方向：N-34°-W 床面積：(13.14)㎡

埋没土：1・2層の黒褐色土を主に、3層の暗褐色土とに分層できる。なお、3層に黄褐色ロームブロックを多く含むことから、人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、床面の位置は重複する2区25号竪穴建物の床面とほぼ同一である。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけてやや硬化する。壁高は50cm前後を測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-59°-Eを向き、残存状態は良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ短く突き出る。残存する規模は、全長0.96m、幅1.20mを測る。袖は壁から55cmほど突き出るように残存し、両先端に袖石を確認した。両袖石は上端が僅かに内傾し、焚き口部の天井石右端が右袖石の上端に掛かり、左端は袖石か



第259図 2区29号竪穴建物 床面 平・断面図

らずり落ちた状態にあった。焚き口部から燃焼部の底面は建物床面とほぼ同一で、煙道部は燃焼部奥から急角度で立ち上がる。また、燃焼部の内壁は被熱して著しく焼土化していた。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に袖石を据えながら、7層とした褐灰色土を袖部の構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置し、掘り込みは楕円形で長軸1.08m、短軸0.94m、深さ42cmを測る。埋土は上位に白色粘土、ローム・焼土ブロック、炭化物を含み、中位から下位は白色粘土や炭化物が少ない鈍い黄褐色土である。そして上位層に甕が正位に設置されている。

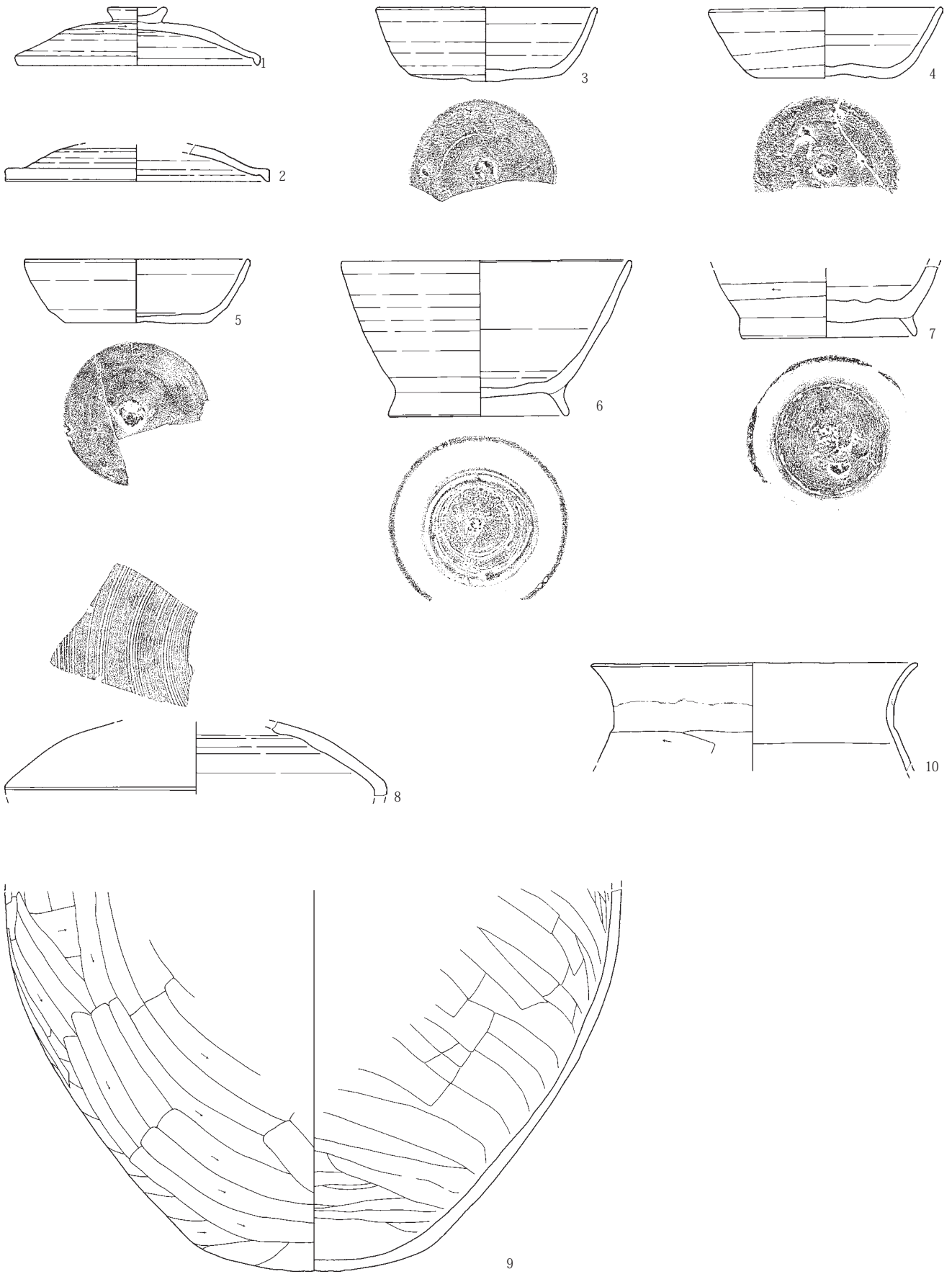
床面下：床面下を調査したが、明確な掘り込みは不明。しかし、ローム面で床下土坑を5基検出した。床下土

坑1はカマドの左側に位置し、円形を呈する。径0.50m前後、深さ17cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑2は床面中央付近に位置し、円形で径65cm、深さ25cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑3は床下土坑4に接し、床面中央のやや南側に位置する。楕円形で長軸0.65m、短軸0.45m、深さ20cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑4は床下土坑3の南側に接して位置し、楕円形で長軸0.52m、短軸0.43m、深さ16cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑5は南東壁際に位置し、楕円形で長軸0.57m、短軸0.45m、深さ12cmと浅く、黒褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物量は少ないが、甕の下半を欠く6が貯蔵穴に設置され、1の杯が床面直上から出土している。

出土遺物として、土器6点を図示した。1～3は土

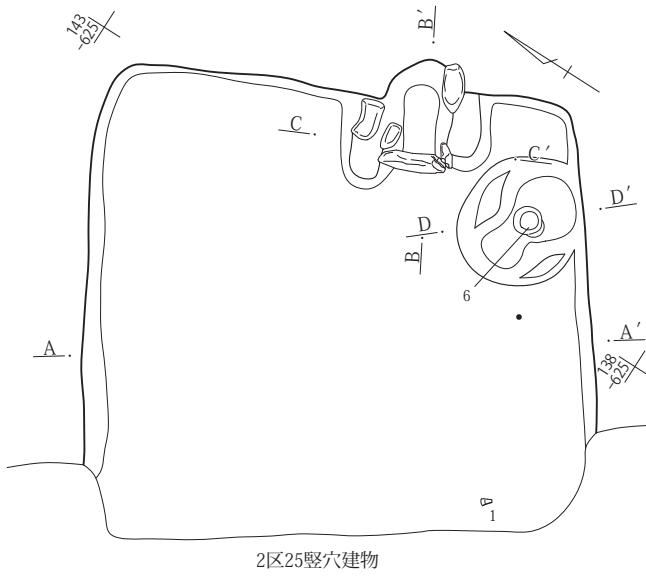
第4章 検出された遺構と遺物



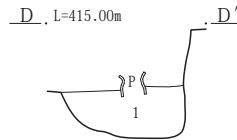
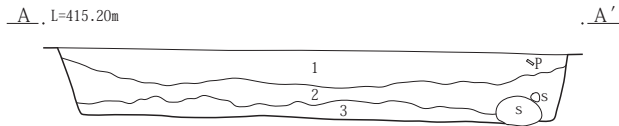
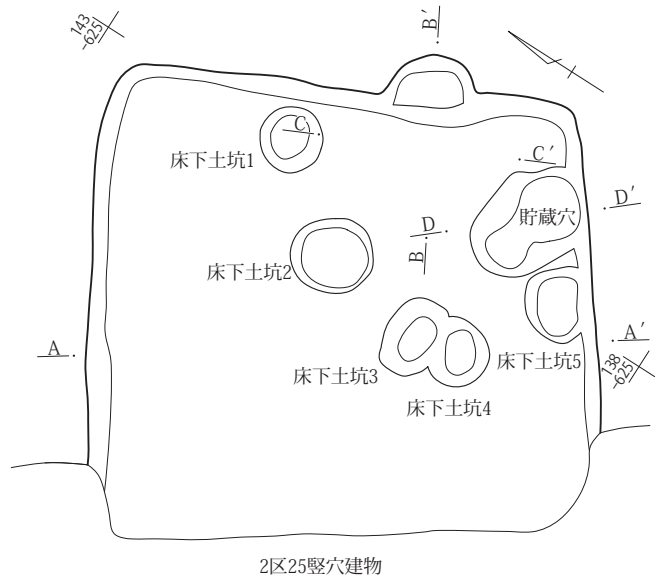
0 1:3 10cm

第260図 2区29号竖穴建物 出土遺物

床面

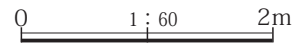


床面下

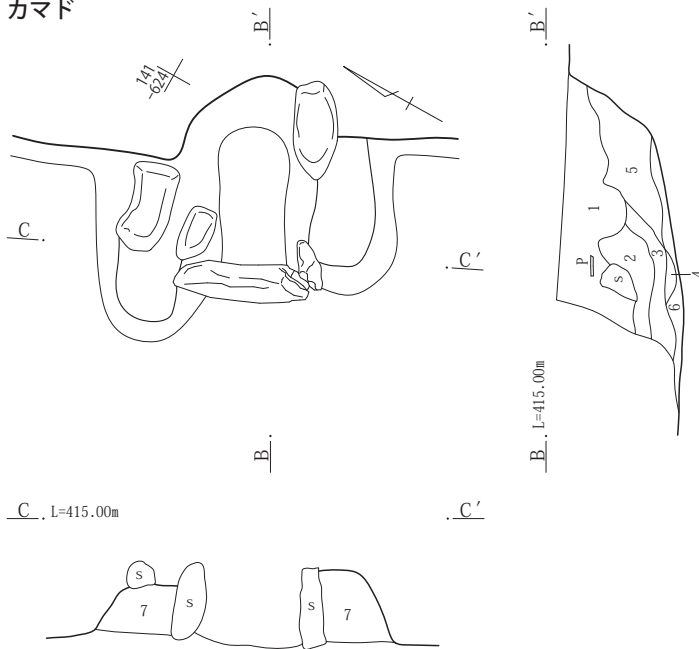


- 1 黒褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 1層よりも暗く、混入物が少ない。
- 3 暗褐色土 黄褐色ロームブロックを多く含む。

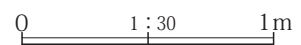
- 1 鈍い黄褐色土 上位には白色粘土、ローム・焼土ブロック、炭化物を含み、中位以下は白色粘土、炭化物が少ない。



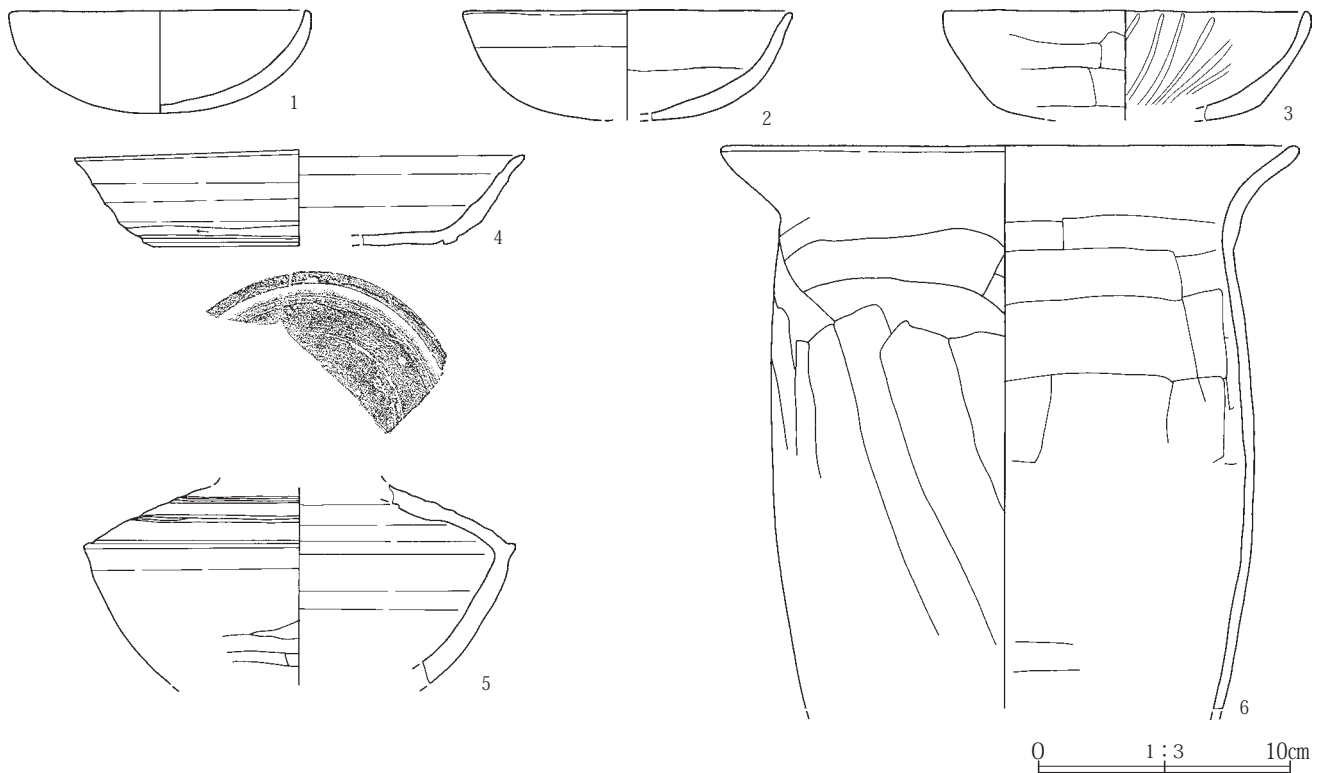
カマド



- 1 黒褐色土 焼土粒、炭化物を多く含む。(建物2層に相当)
- 2 黒褐色土 ローム粒・白色粘土粒を多く含む。
- 3 黒褐色土 1層に近い、混入物がきわめて少ない。
- 4 暗赤褐色土 焼土大ブロックを主体とする。
- 5 鈍い黄褐色土 黄褐色ロームブロック、焼土ブロックが多く混在する。
- 6 黒褐色土 混入物はない。やや粘質で締まり弱い。
- 7 褐灰色土 焼土粒、黄褐色ローム・白色粘土ブロックを多量に含み、硬く締まる。(袖構築土)



第261図 2区30号竖穴建物 床面、床面下、カマド 平・断面図



第262図 2区30号竪穴建物 出土遺物

師器の杯で、3は内面に磨きを施す。4は須恵器の杯であり、5は須恵器の長頸壺か。6は土師器の甕である。

未掲載遺物には、土師器片と須恵器片が僅かにある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀末から8世紀初頭と考えられる。

2区33号竪穴建物

(第263・264図、第13・93表、PL.44・45・189)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区の北西端に位置し、西側に2区19号竪穴建物、南東側に2区35・36号竪穴建物が近接する。

グリッド：2 I・2 J-132・133

座標値：X=61,174~61,179 Y=-93,566~93,661

形状：長方形

規模：長軸4.64m 短軸3.34m 壁高28~30cm

長軸方向：N-22°-W 床面積：13.77㎡

埋没土：1層の黒褐色土を主に、床面付近に薄く2層および壁際の3層に分層できる。また、4層は周溝の埋土である。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近が硬化する。壁高

は30cm前後を測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-70°-Eを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の外側に張り出し、煙道部はその先に長く突出する。カマドの規模は、全長2.23m、幅1.04mを測る。袖は壁際に張り出し、左袖の先端部に袖石が残存する。焚口部から燃烧部の底面にかけては床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から緩やかに長く立ち上がる。燃烧部の内壁は被熱により焼土化し、左側燃烧部奥の内壁に1石残存していることから、部分的な石組みを行った可能性がある。なお、焚き口部の天井石は不明。

一方、カマドの構築状況は、燃烧部を大きく掘り、袖石や側壁石を据えながら6層の暗褐色土を構築土として燃烧部内壁を構築している。

貯蔵穴：カマドの右側となる南隅に位置し、上面形は円形を呈する。径75cm、深さ23cmを測り、黒褐色土を埋土とする。遺物の出土あり。

周溝：カマド部分と南壁の南西隅付近で途切れるが、各壁際を巡る。幅15~20cm、深さ10cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

床面下：10~15cm前後の掘り込みを全体にもち、底面の一部には礫層の一部が露出する。埋土は黒褐色土で硬

く締まる。また、床下土坑を2基とピット1基を検出した。床下土坑1はカマド前の南寄りに位置し、楕円形で、長軸0.65m、短軸0.50m、深さ23cmを測る。埋土は黒褐色土であるが、底面に灰白色土を敷く。床下土坑2は南西隅に位置し、楕円形で、長軸0.82m、短軸0.66m、深さ36cmを測り、黒褐色土を埋土とする。ピット1はカマド前の北寄りに位置し、径0.38m、深さ20cmを測る円形。

遺物：出土した遺物量はやや多いが、カマド周辺に最も多く出土している。カマド前の床面直上に9の甕。カマド右脇の床面直上に7の椀と11の甕が、その脇の壁際に13の甕の底部が出土している。また、貯蔵穴内からは10の甕が出土し、その上面から6の椀が出土している。さらに、南壁中央の壁際付近から14の鉄製品が、西壁の中央付近の壁際に1の皿が出土している。

出土遺物として、土器13点と金属製品1点を図示した。1は須恵器の皿。2・3は須恵器の杯蓋で、4・5は須恵器の杯、6・7は須恵器の椀である。8は土師器の小型甕で、9～13は土師器の甕である。

金属製品は14の刀子で、柄部のみが残存する。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が多くある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀第3四半期と考えられる。

2区34号竪穴建物

(第265～269図、第13・94表、PL.45・46・57・189・190)

平成27・28年度に跨がって調査した。本竪穴建物内には2区48号竪穴建物がすっぽり入るように重複する。遺構確認では48号竪穴建物を確認できなかったため、本建物を先行して調査を開始した。その後、本建物と異なる48号竪穴建物のカマドが検出されたことから、両建物の調査を併行させながら、48号竪穴建物を先行させつつ調査を進めた。48号竪穴建物以外に、2区35・36・46・100号竪穴建物とも重複する。

位置：2区西側の北壁寄りにあり、2区18・34・35・46～48・100・101号竪穴建物が絡む重複の著しい一角の中央付近に位置する。本建物内に2区48号竪穴建物が重複し、南西から北西側にかけて2区35・36・46・100号竪穴建物と重複する。北側に2区101号竪穴建物、東側に2区37号竪穴建物、南東側に2区22・38号

竪穴建物、南側に2区20・45号竪穴建物、南西側に2区18・47号竪穴建物、北西側に2区19・33号竪穴建物が近接する。

グリッド：2G・2H-130・131

座標値：X=61,163～61,169 Y=-93,647～93,653

重複：本建物の内側に重複する2区48号竪穴建物とは、本建物のカマドの一部が48号竪穴建物のカマドに壊されていることや、床面の位置および土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が古い。また、他に重複する2区35・36・46・100号竪穴建物より新しい。

形状：方形ぎみ

規模：長軸5.37m 短軸5.36m 壁高45～50cm

長軸方向：N-145°-E 床面積：24.00㎡

埋没土：竪穴建物の中央部は2区48号竪穴建物との重複のため不明だが、残存する周囲は黒褐色土を主とする1・2層からなる。

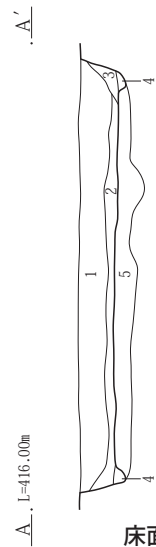
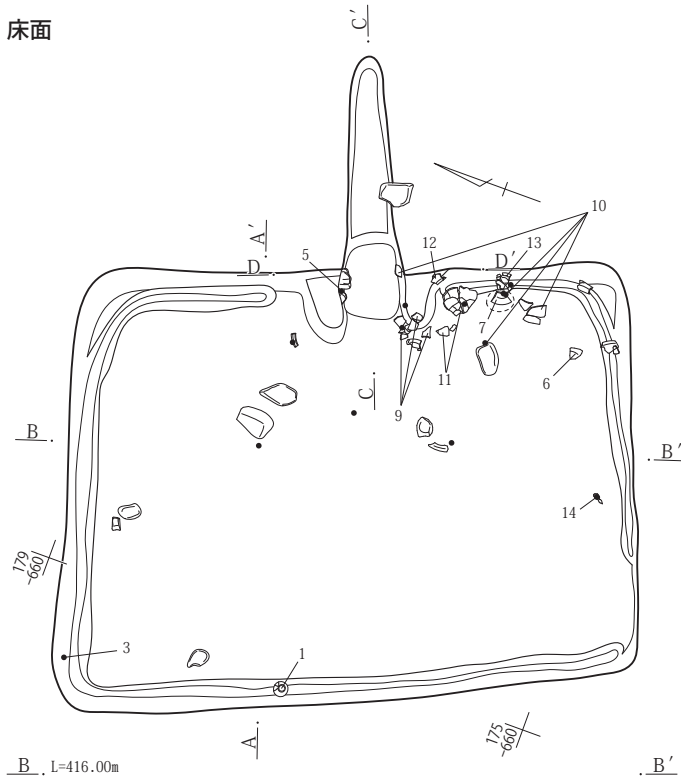
床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあるが、重複する48号竪穴建物により中央部は不明。残存する周囲の壁付近の床の状態はほぼ平坦。壁高は45～50cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南東壁の中央やや南寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-149°-Eを向き、残存状態の良好な石組みカマドであるが、カマド左袖の一部を48号竪穴建物のカマド煙道部に壊されている。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は壁の外側にやや長く突出する。カマドの規模は、全長1.54m、幅(0.87)mを測る。袖は壁から70cmほど突き出るようになり、両袖先端には袖石が残存する。また、燃烧部の内壁には側壁石を用いる石組みカマドであり、その配置状況は袖石に長方体状の石を縦に据え、2石目より奥は燃烧部側面の内壁石となり、大型の扁平礫を並べている。この内壁石の裏側には数石の補強がなされている。煙道部には側壁石はない。焚口部から燃烧部の底面にかけては床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥の一段高い位置から斜位に立ち上がる。因みに、焚き口部および燃烧部の幅は45cmを測る。

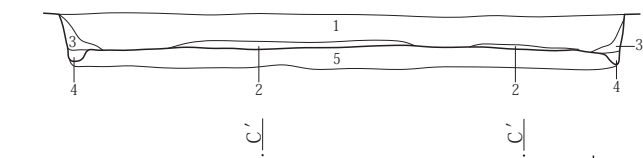
一方、袖部の構築状況は、袖石や燃烧部側壁石を据えた後に補強の石を加え、さらに黄褐色土を構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる南隅に位置し、上面形は楕

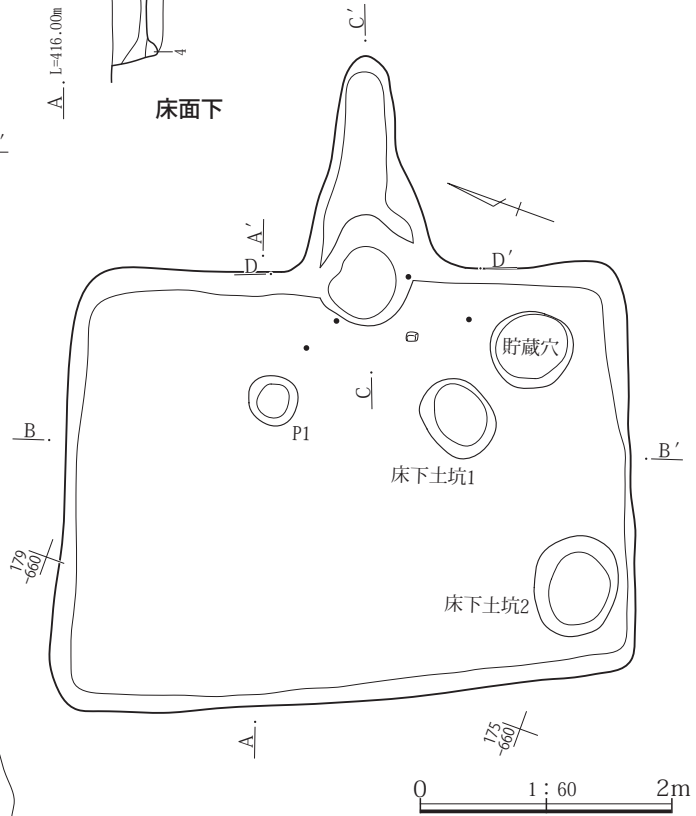
床面



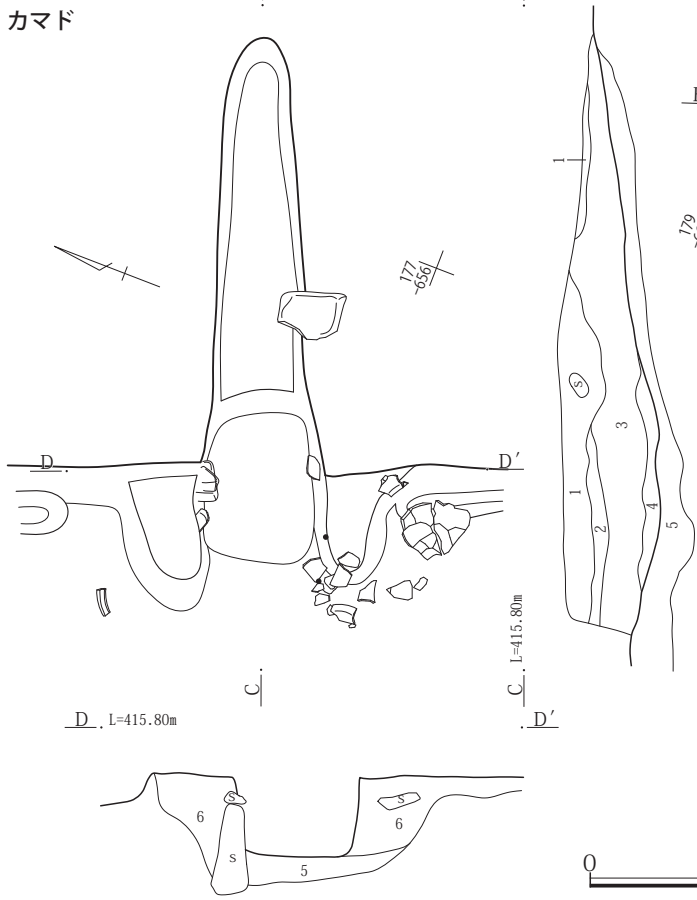
- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物粒を含む。
- 2 黒褐色土 1層に近似するが、混入物が少ない。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックが少量混入する。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック、小礫、炭化物が少量含む。(周溝)
- 5 黒褐色土 ローム・黄褐色粘土ブロック、小礫を含む。硬く締まる。(床下土)



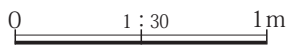
床面下



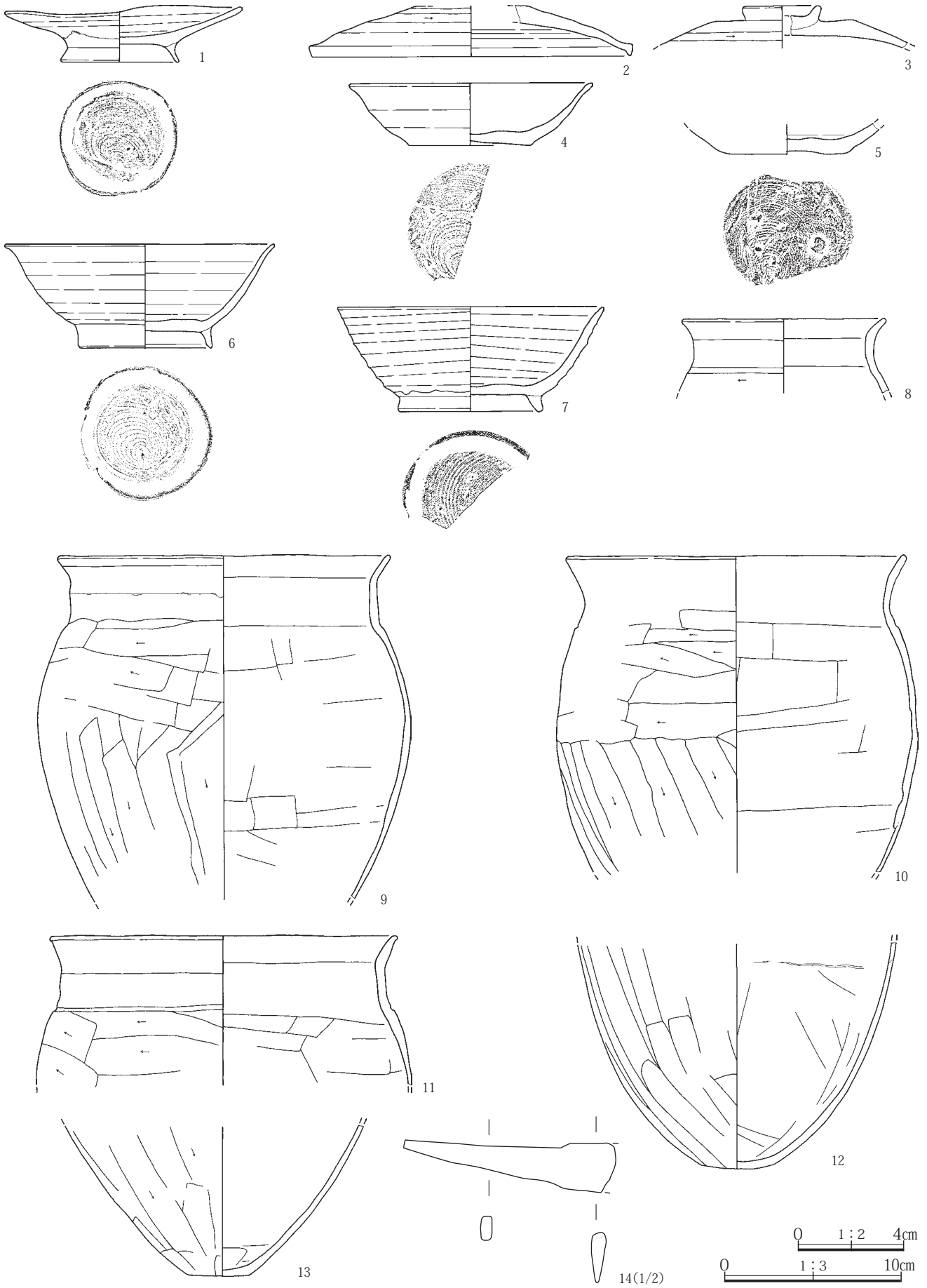
カマド



- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物粒を煙道寄りに多く含む。(建物1層に相当)
- 2 鈍い黄褐色土 白色粘土粒を混入する。
- 3 暗褐色土 焼土・白色粘土ブロックが多く混入する。
- 4 暗褐色土 黄白色粘土層と焼土層と灰層が層をなす。床面か。
- 5 黒褐色土 ローム・黄褐色粘土ブロック、炭化物、小礫を含む。硬く締まる。(建物5層に相当)
- 6 暗褐色土 黄白色粘土、ロームブロック、焼土粒を含む。硬く締まる。(カマド構築土)



第263図 2区33号竪穴建物 床面、床面下、カマド 平・断面図



第264図 2区33号竖穴建物 出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

円形を呈する。長軸72cm、短軸54cm、深さ34cmを測り、黒色土を埋土とする。

柱穴：床面下調査で多くの凹凸を検出したが、明確な主柱穴は確認できなかった。

床面下：掘り込みをもつかは不明であるが、床面下5～8cmのローム面で調査を行った。その結果、無数のピット状の凹凸と共に、床下土坑と考えられる掘り込みも検出した。しかし、これらのピット状の凹凸や床下土坑状の掘り込みは、後日に調査した重複建物に関わる物も含まれている。ここでは床下土坑1の記述に止める。床下土坑1は南西壁中央の壁際に位置し、長方形で、長軸0.87m、短軸0.70m、深さ54cmを測り、黒褐色土を埋土とする。なお、他のピット状の凹凸や床下土坑状の掘り込みの埋土も黒褐色土である。

遺物：出土した遺物量は比較的多いものの、床面直上からの遺物は少ない。また、重複する2区48号竪穴建物により不明な点もあるが、カマドの右側となる南西壁際に遺物が集中する。床面直上ないしそのやや上から出土した物には、1の杯蓋、20の椀、27の小型甕がある。南西壁際に集中する3・4・13の杯と38の甕の底部片は、埋土中位のやや下からである。

出土遺物として、土器38点を図示した。1は須恵器の杯蓋で、2～19は須恵器の杯、20～25は須恵器の椀、26は須恵器の瓶の口縁部である。27・28は土師器の小型甕で、29は土師器の台付甕の胴下半、30～35は土師器の甕であり、36・37は甕の底部である。38は須恵器の甕の底部片で、胴部外面に叩き目と内面に当て具痕が残る。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が多量にある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀第3四半期と考えられる。なお、重複する2区48号竪穴建物と同時期でもある。

2区38号竪穴建物

(第270～272図、第13・98表、PL.48・192)

平成27・28年度に跨がって調査した。2区22号竪穴建物と重複する。

位置：2区西側の中央付近に位置し、本建物の東側に2区22号竪穴建物が重複する。北側に2区37・39号竪穴建物、南側に2区21・49号竪穴建物、南西側に2区

20・45号竪穴建物が近接する。

グリッド：2F・2G-129・130

座標値：X=61,156～61,160 Y=-93,644～93,647

重複：本建物の東側に2区22号竪穴建物が重複するが、遺構確認および土層断面の観察から、本建物の方が新しい。

形状：横長長方形

規模：長軸3.36m 短軸2.71m 壁高45～49cm

長軸方向：N-21°-W 床面積：6.81㎡

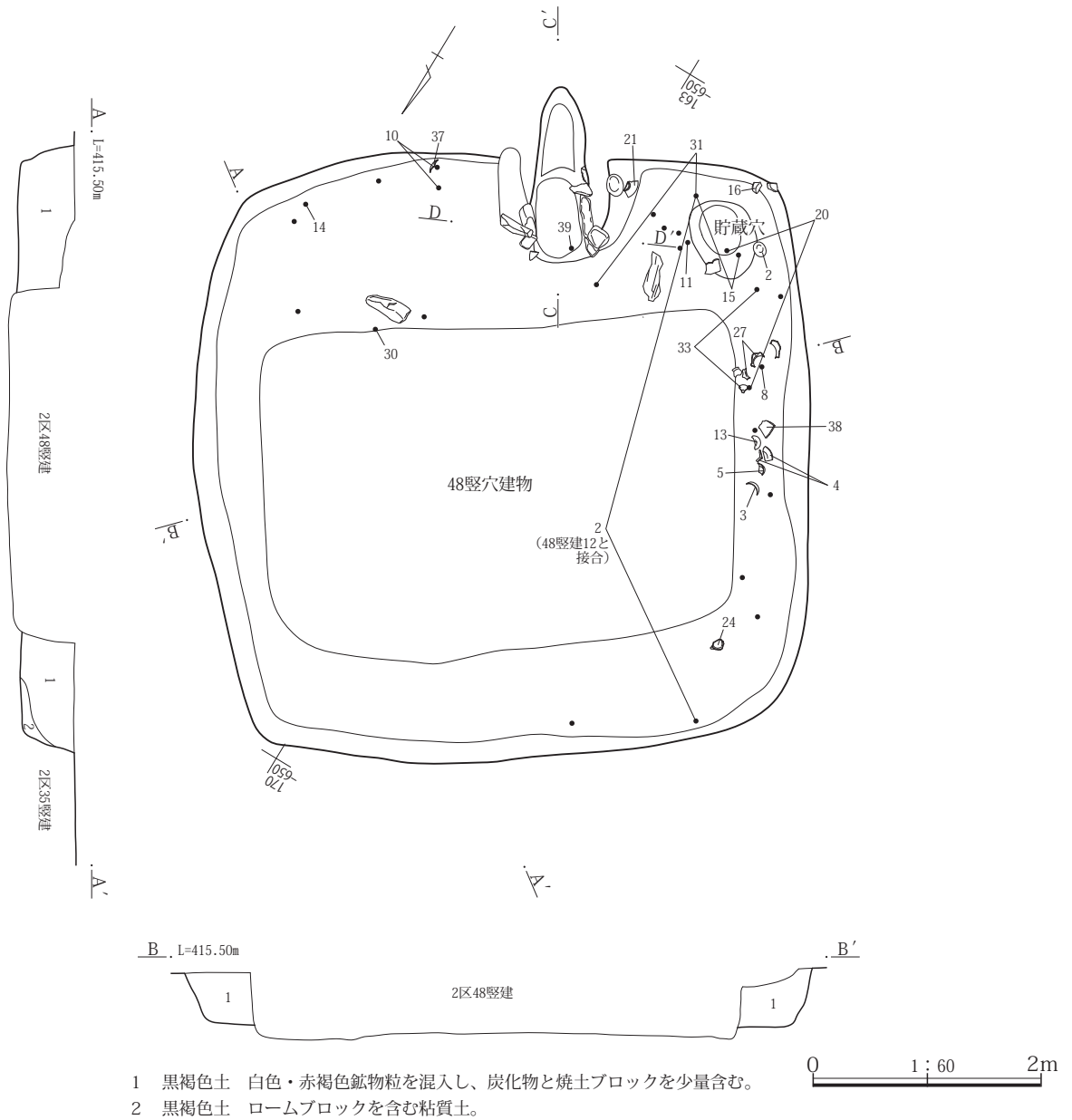
埋没土：1層の黒褐色土、2層の灰黄褐色土、3層の暗褐色土を主に、壁際の4層とに分層できる。床面直上ないしやや上に、大中の礫が多く出土している。なお、2層の存在から人為的堆積の可能性が強い。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近が硬化する。壁高は50cm前後を測り、やや斜位に立ち上がる。

カマド：東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-68°-Eを向き、遺構確認面に煙道部の側壁石や天井石が確認できた残存状態の極めて良好な石組みカマドである。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側に長く突出する。カマドの規模は、全長(1.23)m、幅(0.73)mを測るが、袖部は残存していない。燃焼部の底面は床面より僅かに低くなり、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がった奥が平らとなる。燃焼部周辺には焼土ブロックや焼土粒が厚く散乱していた。良好に残存する煙道部は石組みで、天井石および側壁石が残る。煙道部の最も手前に大型の長方体の垂角礫が天井石としてあり、写真にある奥側に残る天井石の一部は若干ずれて確認された。また、側壁石は片壁4石で構築されている。なお、焚き口および燃焼部に用いられていたと考えられる大型ないし扁平な被熱した礫が、カマド前に多く散乱しており、その中には焚き口部の天井石かと思われる長い平石も出土している。

一方、煙道部の構築状況は、周囲を大きめに掘り、側壁石を据えながら3層の黒褐色土を構築土としている。

床面下：10cm前後の掘り込みを全体にもち、埋土は黒褐色土で上面が硬く締まる。また、床下土坑を検出した。床下土坑は北東隅付近に位置し、径0.53m、深さ25cmを測り、円形を呈する。埋土は黒褐色土である。なお、



第265図 2区34号竖穴建物 床面 平・断面図

土坑の位置から、貯蔵穴の可能性をもつ。

遺物：出土した遺物量は少ない。カマド脇の東壁際の床面直上に4の横瓶の口縁部が出土し、その周囲に同胴部が出土している。また、3の杯が南東隅付近の南壁際の床面直上に出土している。他は、埋土中からであり、1の杯は混入物と考えられる。

出土遺物として、土器5点と金属製品1点を図示し

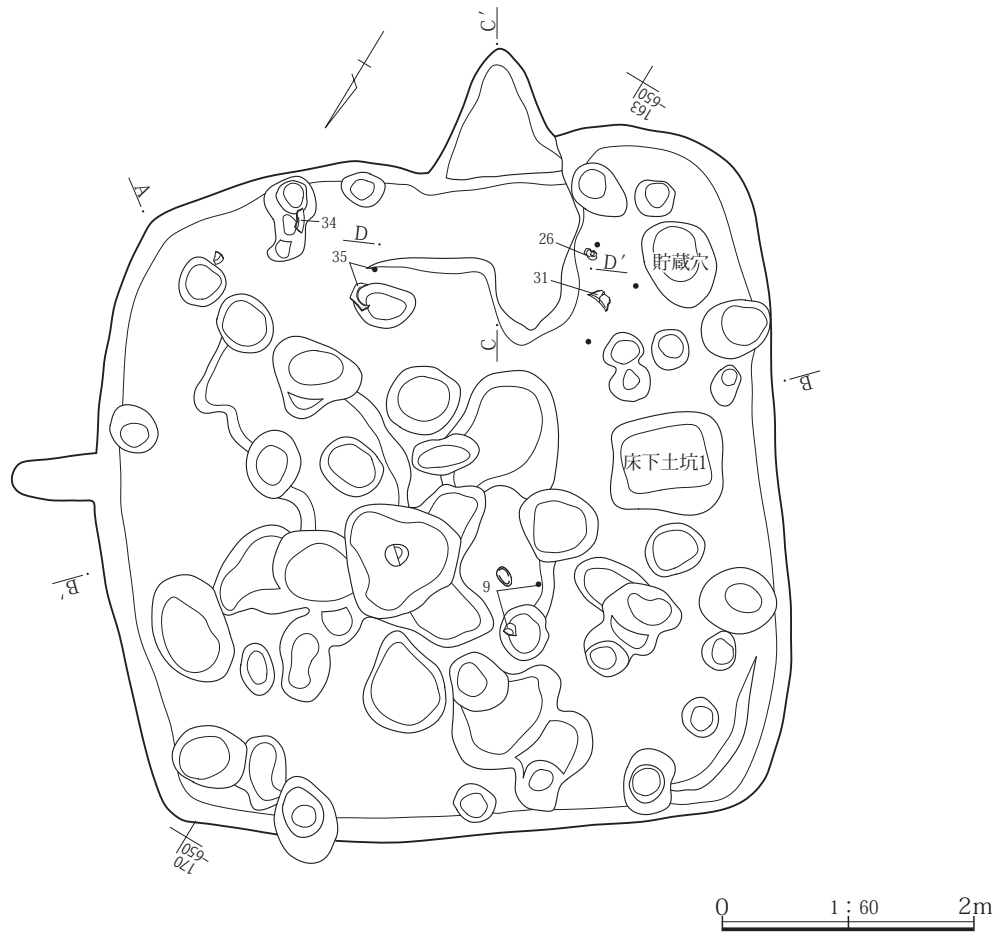
た。1・2は土師器の杯で、3は須恵器の杯。4は須恵器の横瓶であり、5は土師器の甕である。

金属製品は6の刀子片である。

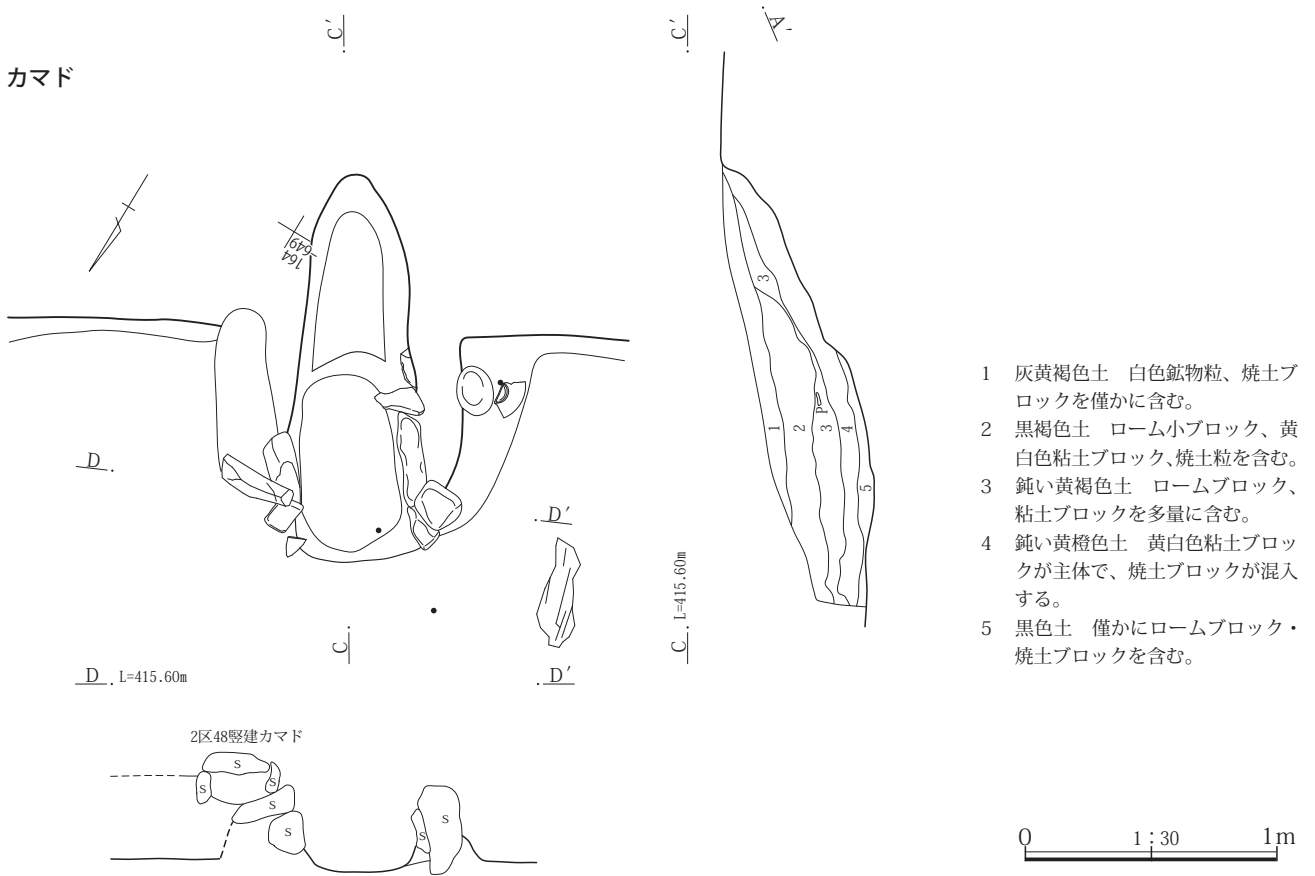
未掲載遺物には、土師器・須恵器片がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。

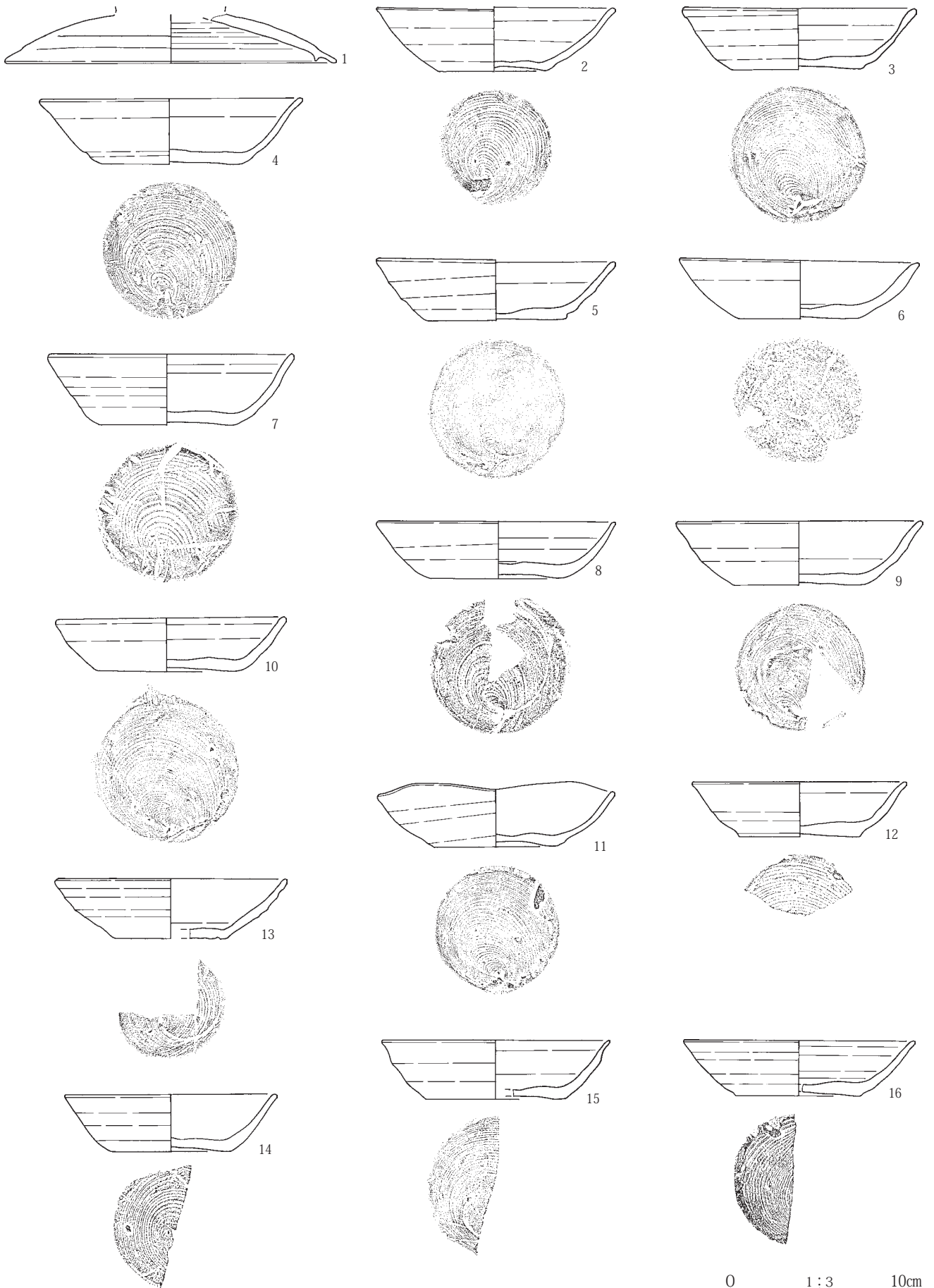
床面下



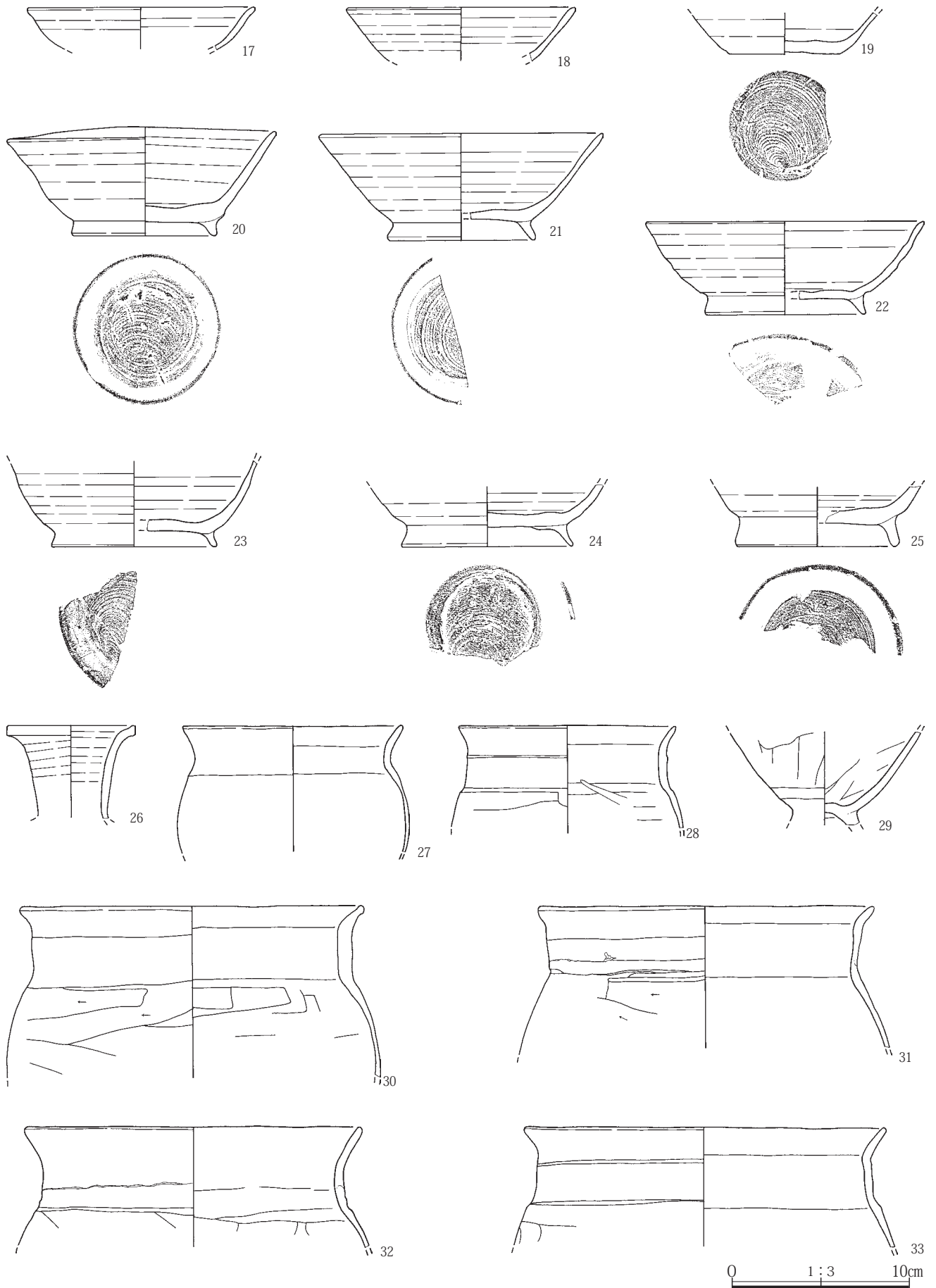
カマド



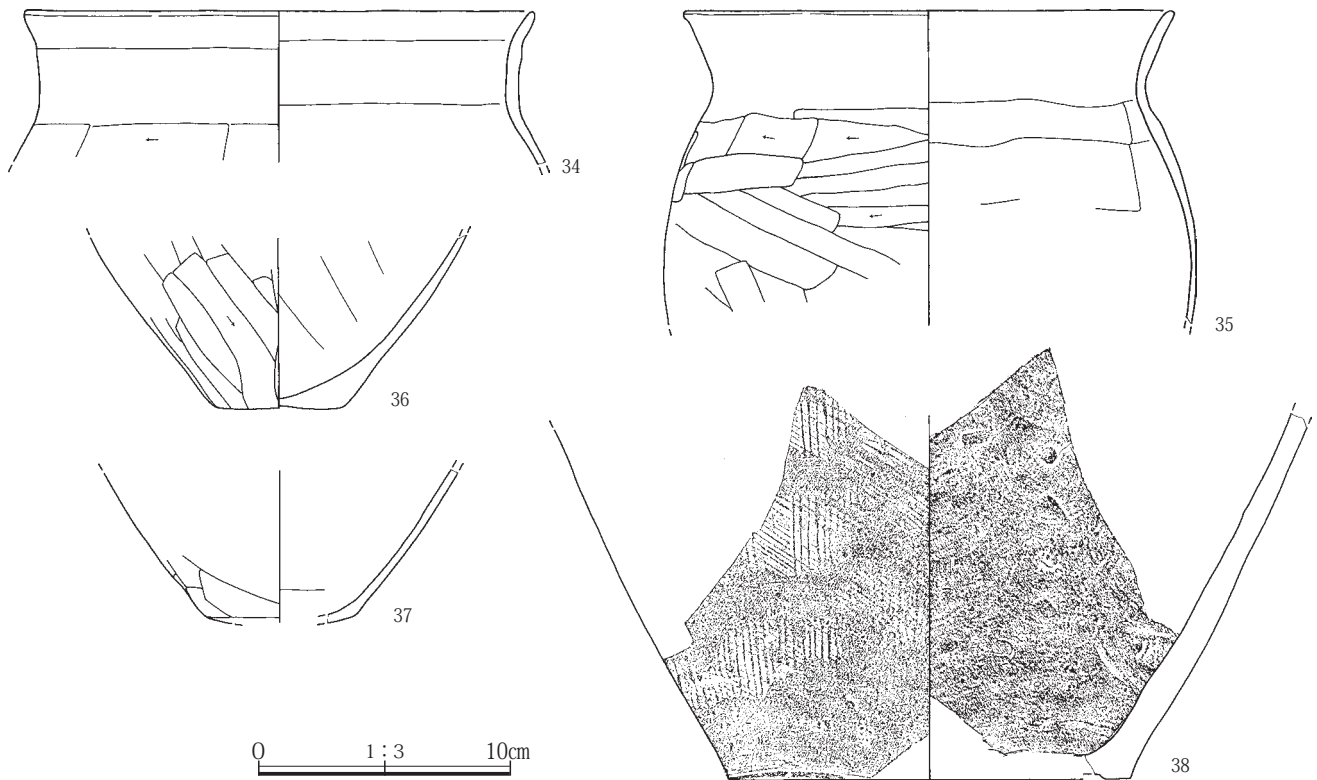
第266図 2区34号竪穴建物 床面下 平面図、カマド 平・断面図



第267図 2区34号竪穴建物 出土遺物(1)



第268図 2区34号竪穴建物 出土遺物(2)



第269図 2区34号竪穴建物 出土遺物(3)

2区39号竪穴建物(第273～281図、第13・99表、PL.49・50・88・193～196)

平成28年度の調査で検出した。2区37・99号竪穴建物と重複する。この重複する竪穴建物の調査は、遺構確認および土層断面の判別が難しく、他にも重複する建物の可能性を含みつつ同時に調査を行った。その後に確認した出土遺物の時期から、新旧が明らかとなった。

位置：2区西側の北壁付近に位置し、北側に2区99号竪穴建物、西側に2区37号竪穴建物が僅かずつ重複する。また、東側に2区67・68号竪穴建物、南側に2区22・38号竪穴建物、西側に2区34・48号竪穴建物、北西側に2区66号竪穴建物が近接する。

グリッド：2G・2H-127～129

座標値：X=61,162～61,168 Y=-93,632～93,640

重複：本建物に重複する2区37・99号竪穴建物との新旧は、出土した遺物の時期から、本建物の方が最も新しい。

形状：長方形

規模：長軸6.29m 短軸4.68m 壁高37cm

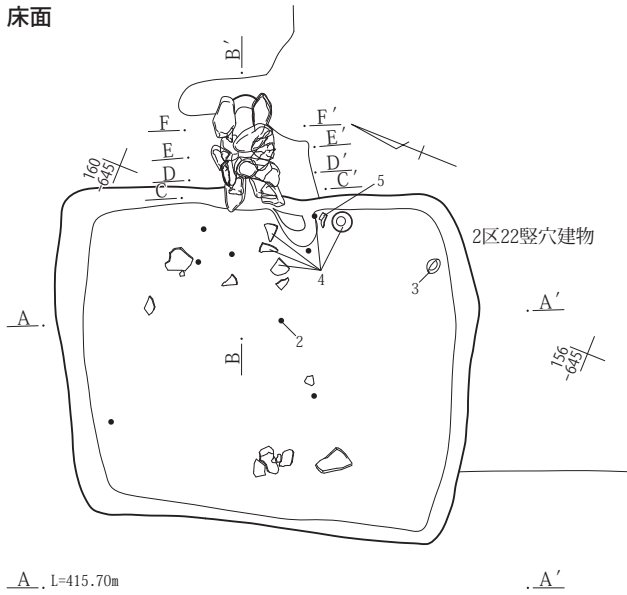
長軸方向：N-67°-E 床面積：21.25㎡

埋没土：暗褐色土を主に、1・2層に分層できる。

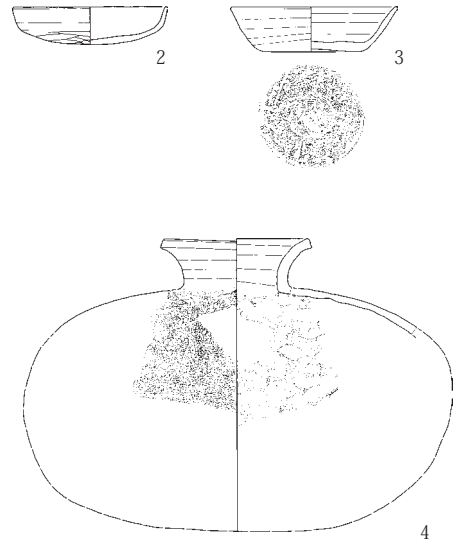
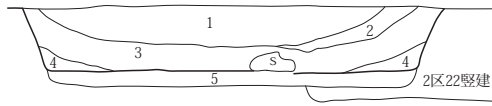
床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近が硬化する。また、床面上には多くの炭化材が出土している。壁高は37cm前後を測り、やや直立ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-74°-Eを向き、遺構確認面に煙道部の側壁石や天井石が確認できた残存状態の極めて良好な石組みカマドである。燃焼部は壁の外側にあり、煙道部はさらに外側に長く突出する。片側14石ないし15石からなるカマドの規模は、全長2.53m、幅1.09mを測り、袖は壁から僅かに突き出るように、両袖先端の袖石が残存する。この石組みの配置状況は、袖部先端に長方体状の石をカマドの長軸方向に縦長に立て、2石目は壁際に沿うように方向を変えて立てて置く。続く3・4石目は燃焼部側面の内壁石となり、大型の石を下に、さらに上に石を積み重ねる。5石目より奥は煙道部となり、傾斜をもちつつ片側8石ないし9石を連ねる。また、大型の平石が煙道部の天井石として煙道側壁石に架かって残存していた。しかし、袖に架かっていたであろう焚き口部天井石は不明。焚き口から燃焼部の底面にかけては床面より僅かに低くなり、煙道

床面

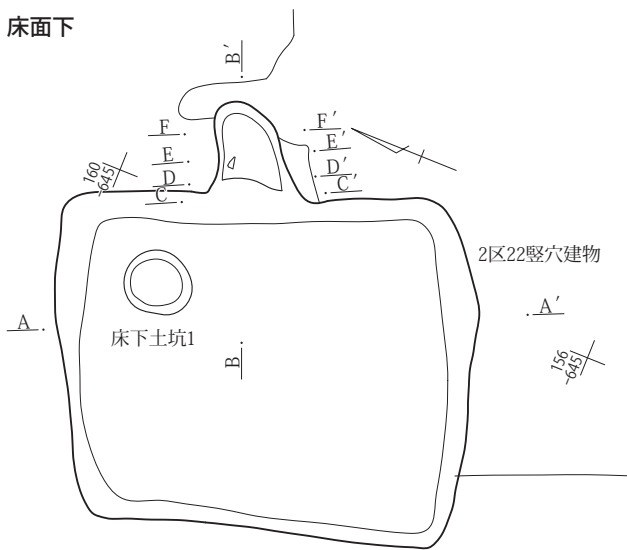


A, L=415.70m



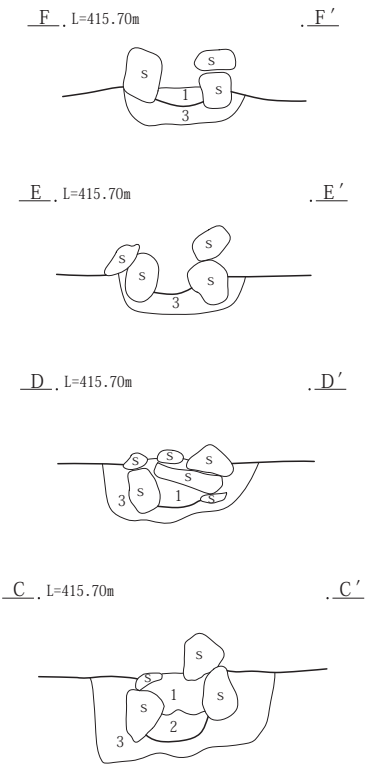
- 1 黒褐色土 黄色粒、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 1・3層より明るく、ローム粒、焼土粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 黄色・白色鉱物粒が微量に混入する。かなり粘質。
- 4 黒褐色土 3層より暗く、混入物がない。
- 5 黒褐色土 白色粒、ロームブロックを少量含み、上面は硬く締まる。
(床下土)

床面下

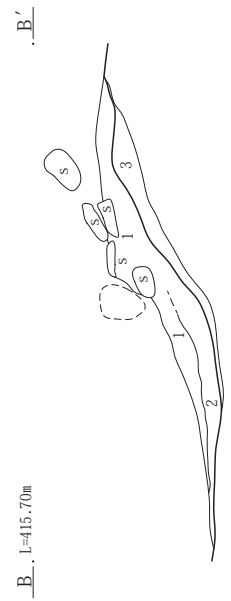
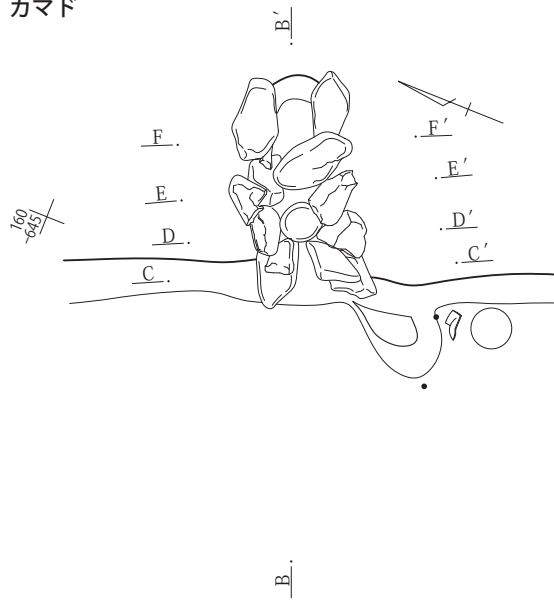


0 1:60 2m

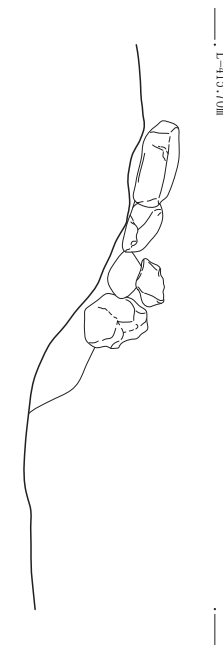
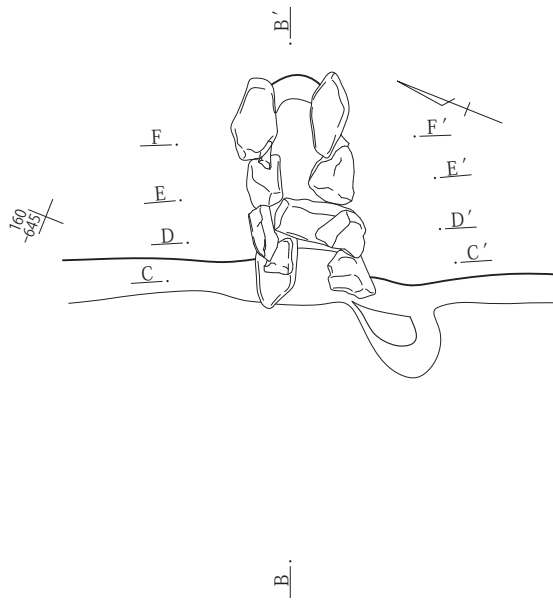
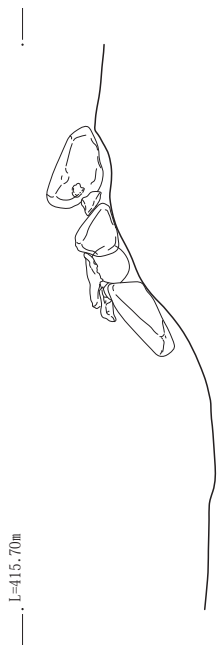
第270図 2区38号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図



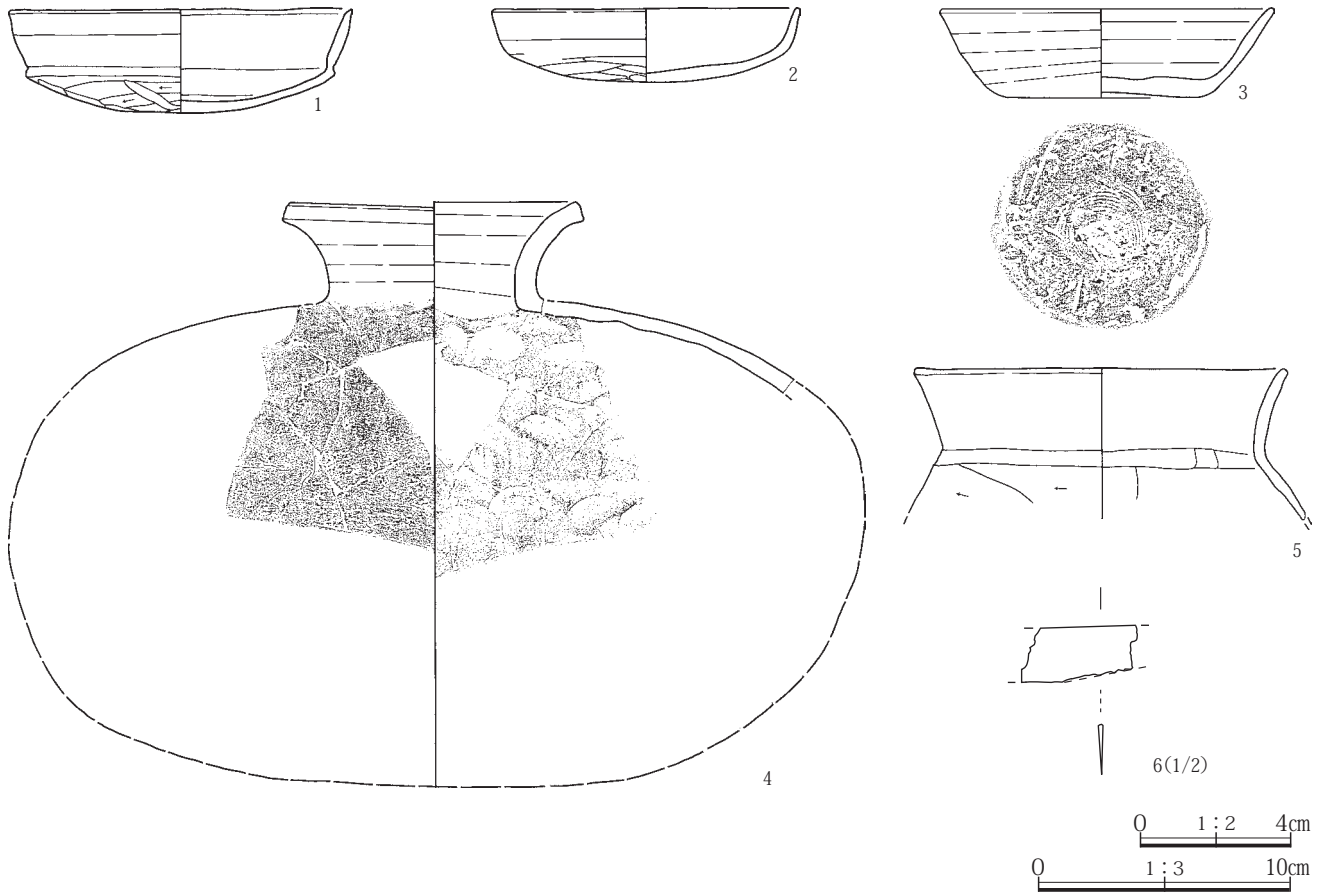
カマド



- 1 黒褐色土 ロームブロック、焼土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 焼土ブロックを少量、炭化物を含む。
- 3 黒褐色土 炭化物を僅かに含む。やや粘質。(カマド構築土)



第271図 2区38号竪穴建物 カマド 平・断面図、側面図



第272図 2区38号竪穴建物 出土遺物

部は燃烧部奥の一段高い位置から斜位に立ち上がり、その先は緩く立ち上がる。因みに、焚き口の間口は55cm、燃烧部の幅は45cm、煙道部の幅20cmを測る。

一方、燃烧部と煙道部の構築状況は、周囲を一回り大きめに掘り、側壁石を据えながら暗褐色土を構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置し、上面形は不整な円形で径100cm、深さ30cmを測り、暗褐色土を埋土とする。埋土中および底面からは、杯や碗等の遺物が多く出土している。

床面下：黒褐色土を埋土とする掘り込みをもつ可能性はあるが、詳細は不明。また、床面精査時に床下土坑を検出した。床下土坑は床中央に位置し、長軸0.98m、短軸0.90cm、深さ28cmを測る楕円形を呈する。埋土は黒褐色土で、遺物が出土している。

遺物：出土した遺物は極めて多く、本調査の中でも群を抜く量である。埋土中位より上からの遺物も多いが、多くは下位から床面上に出土している。特に床面上に集中するのは、カマド前から右側となる貯蔵穴付近、

それとカマドの左前周辺である。まず、貯蔵穴底面からは29の碗の底部、貯蔵穴内からは2の皿、7～10の杯、28の碗、57の磨石が出土している。その貯蔵穴上面および周辺の床面直上に、カマド前出土と接合した26の碗および30の碗、44・45の壺、55の甕、65の鍵が出土。次に、カマドの左前周辺の床面直上からは1の皿、45・48の壺、62の刀子、60の鎌が出土し、その床面やや上から49の壺、56の甕、64の鍵が出土している。また、南隅付近の床面直上からは15の杯、床面やや上からは16・17の杯、34・36の碗が出土している。さらに、61の鉄斧は中央付近の床面直上から、25の杯は床下土坑内から出土している。

出土遺物として、土器56点と石製品3点、金属製品12点を図示した。1～3は皿で、1は須恵器、2・3は灰釉陶器。4～6は須恵器の杯蓋で、7～25は須恵器の杯。26は灰釉陶器の碗、27～41は須恵器の碗で、27の外面には「目」、39には「牧」、41には「日」の墨書がある。42は須恵器の高盤か。43～50は壺で、43は灰釉陶器であり、他は須恵器。特に、44の胴部上位には把

手を有し、50は突帯が巡る。51・52は土師器の甕で、53は須恵器の羽釜、54・55は須恵器の小型甕、56は須恵器の甕である。

石製品には57・58の磨石と59の台石がある。57は粗粒輝石安山岩製で、表面に磨面をもち、長さ8.9cm、幅7.8cmを測る。58は変質安山岩製で、表裏面に磨面をもち、長さ10.3cm、幅5.4cmを測る。59は粗粒輝石安山岩製で、長さ(13.3)cm、幅(13.8)cmを測り、表面に滑らかな部分が認められる。

金属製品の数も多く、60～70の鉄製品と71の銅製品がある。62は刀子の刃部と茎部で、接合しないが同一個体であり、残存する刃部の長さは6.5cm、茎部の長さ6.5cmを測る。60は鎌の完形品で、長さ16.5cm、幅3.4cmを測る。61は斧の完形品で、長さ9.0cm、幅3.4cmを測る。63は紡輪で、径5.3cm。64・65は鍵で、64の基部は環状となり、先端部は両側に折れ曲がる。65は直角・垂直に折れ曲がり、先端は欠損する。66～69は釘で、66～68は大型のもの。70は長さ7.9cm、幅1.8cmの湾曲した薄い板状を呈し、細い釘が穿孔に残存しており、飾り金具と考えられる。また、71は腕輪の完形品で、径4.2cm、幅2.3cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片・須恵器片がかなり多量にあり、中でも杯・椀類は多い。また、灰釉陶器片も少量ある。

所見・時期：石組み構造のカマドを伴う竪穴建物で、床面に出土した炭化材の状況から、焼失家屋の可能性がある。建物の時期は、出土土器から10世紀第1四半期と考えられる。

2区42号竪穴建物

(第282～285図、第13・102表、PL.52・198・199)

平成28年度の調査で検出した。2区41号竪穴建物と重複する。

位置：2区中央の西寄りに位置し、大きく2区41号竪穴建物と重複する。また、北側に2区70号竪穴建物、東側に2区43・44号竪穴建物、南側に2区32号竪穴建物、南西側に2区30号竪穴建物、北西側に2区40号竪穴建物が近接する。

グリッド：2B～2D-123～125

座標値：X=61,139～61,146 Y=-93,613～93,620

重複：本建物の北側に2区41号竪穴建物が大きく重複する。遺構確認および土層断面の観察から、新旧は本建物の方が新しい。

形状：方形

規模：長軸5.79m 短軸5.04m 壁高42～50cm

長軸方向：N-34°-W 床面積：24.47㎡

埋没土：1・2層の黒褐色土を主に、壁際の3層の黒褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、床面の位置は重複する2区41号竪穴建物の床面より高い。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化する。壁高は42～50cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央の東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-55°-Eを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ短く突き出る。残存する規模は、全長1.34m、幅1.02mを測る。袖は壁から75cmほど突き出るように残存し、右袖先端に袖石を確認した。焚き口部から燃烧部の底面は建物床面より凹み、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。また、燃烧部の内壁は被熱して著しく焼土化していた。

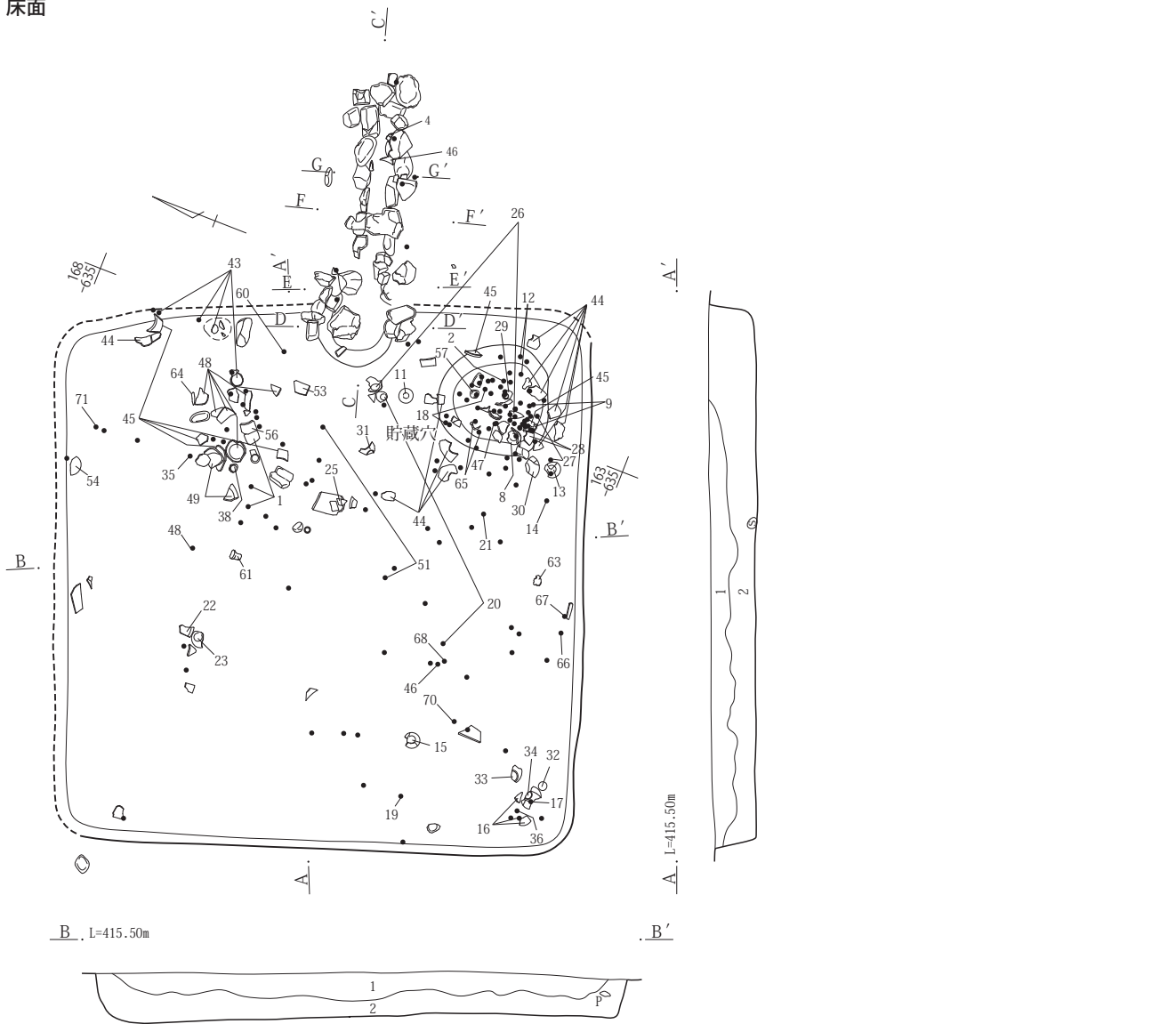
貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置し、上面形は楕円形で長軸93cm、短軸82cm、深さ42cmを測る。埋土は上位に黒褐色土、下位が褐色土となる。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸50～72cm、短軸47～50cm、深さ38～61cmを測り、埋土は黒褐色土である。なお、P4の上面には、礎石状に扁平な大型垂円礫が据えられていた。また、これら主柱穴の他に、P1に接するP5、P3・4の間にP6・7が検出され、P7の底面からは2の杯が出土している。

床面下：床面下を調査したが、2区41号竪穴建物との重複のため詳細は不明。しかし、ローム面で床下土坑を2基検出した。床下土坑1は中央付近に位置し、P5と接する。不整円形を呈し、径1.20m前後、深さ24cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑2はカマド前に位置し、P2と接する。円形で径85cm、深さ28cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

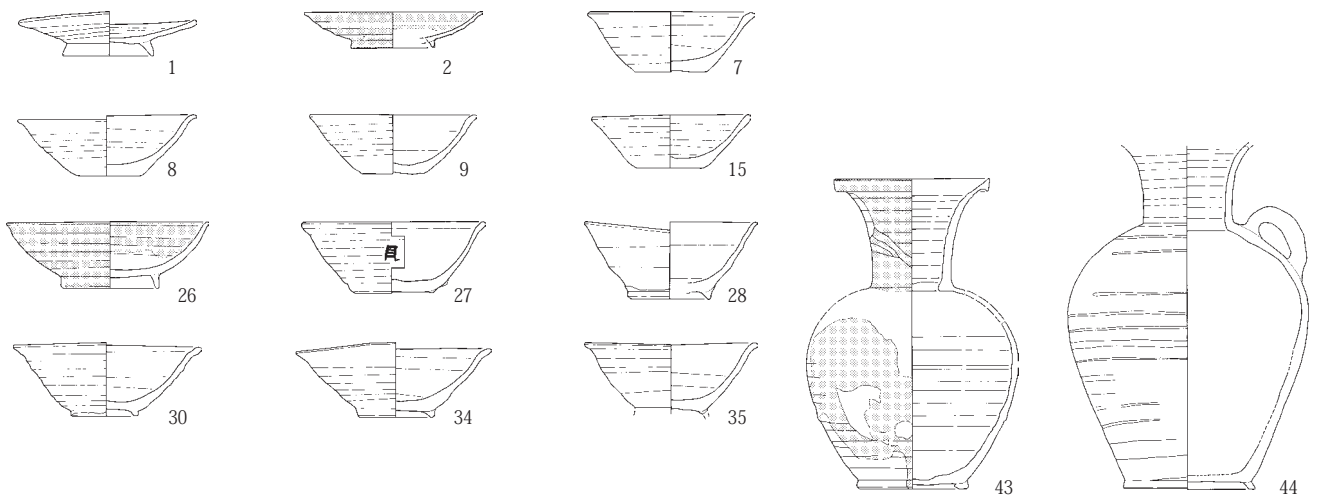
遺物：出土した遺物量が多いが、その多くは埋土中からの出土である。床面直上に出土した遺物は僅かで、カ

床面



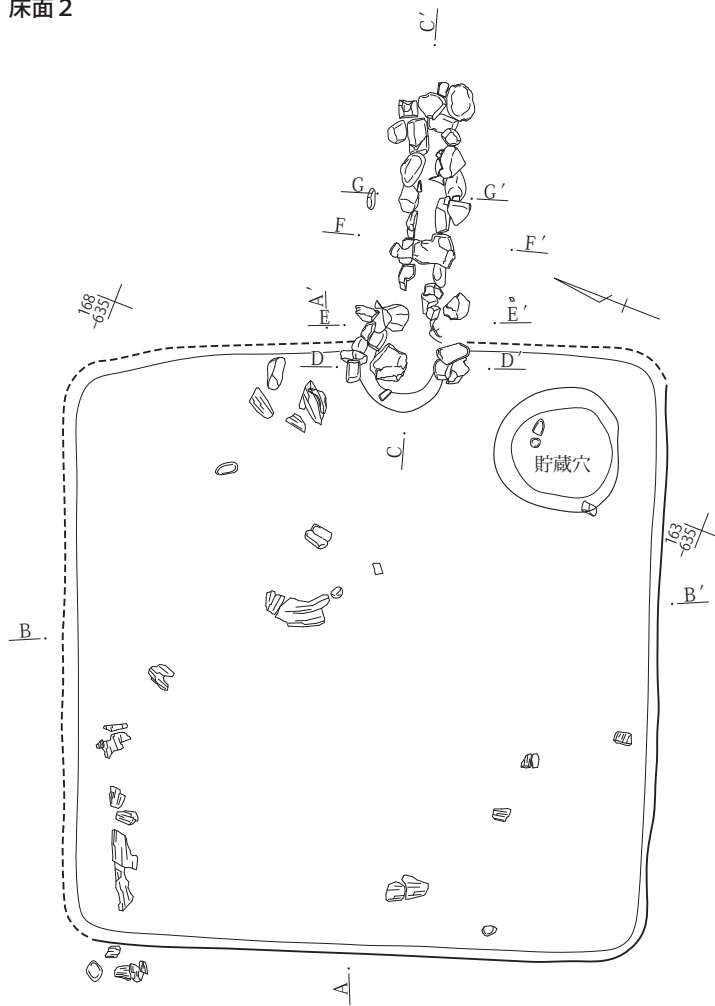
- 1 暗褐色土 焼土粒を少し含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物を多量含む。

0 1:60 2m

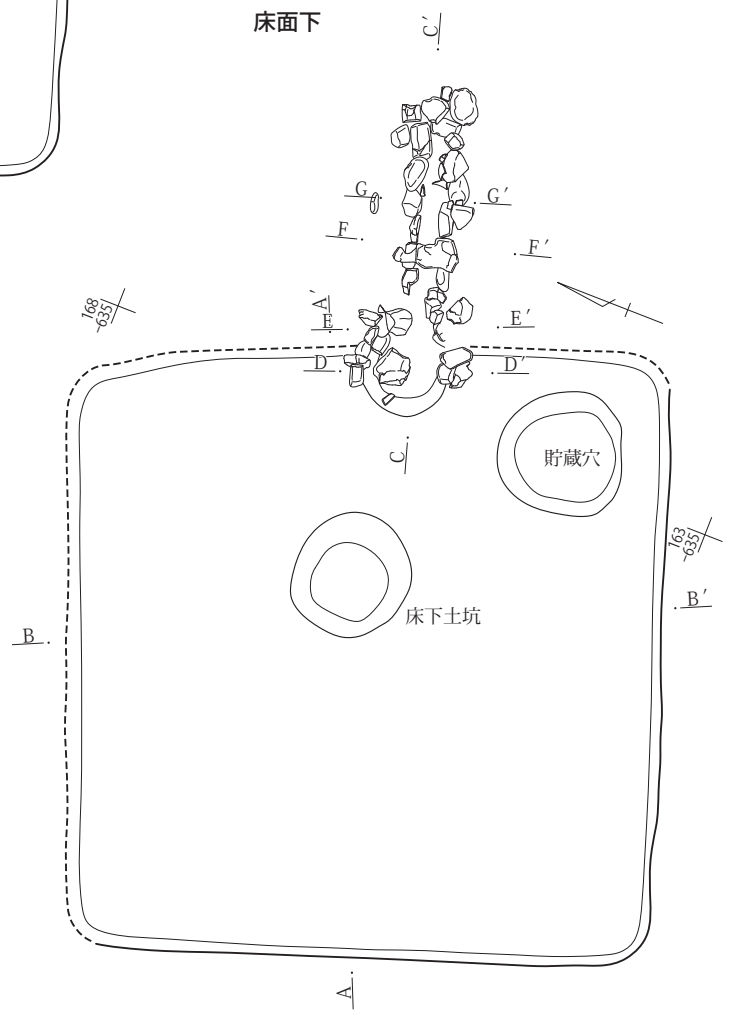


第273図 2区39号竪穴建物 床面 平・断面図

床面2

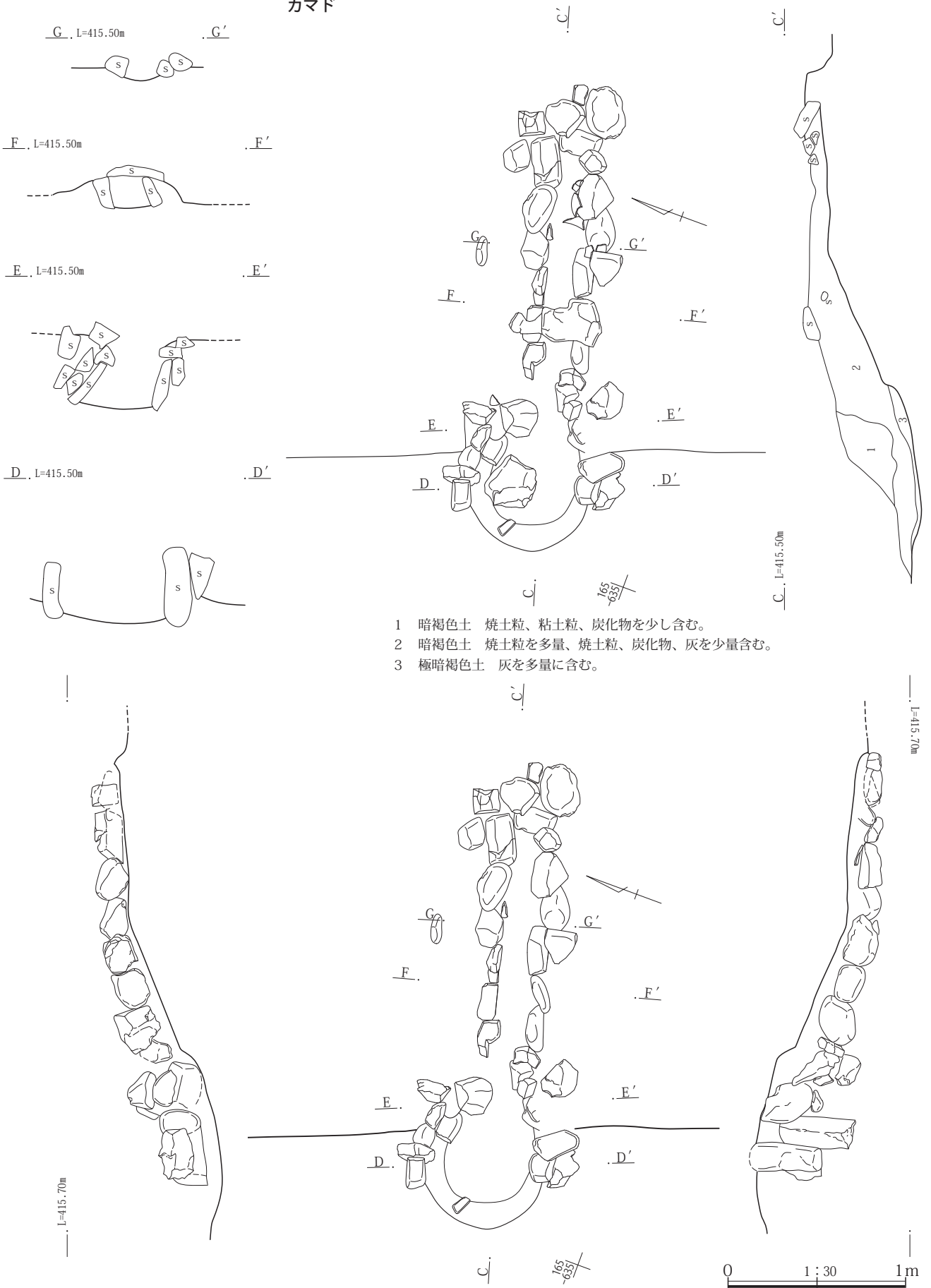


床面下

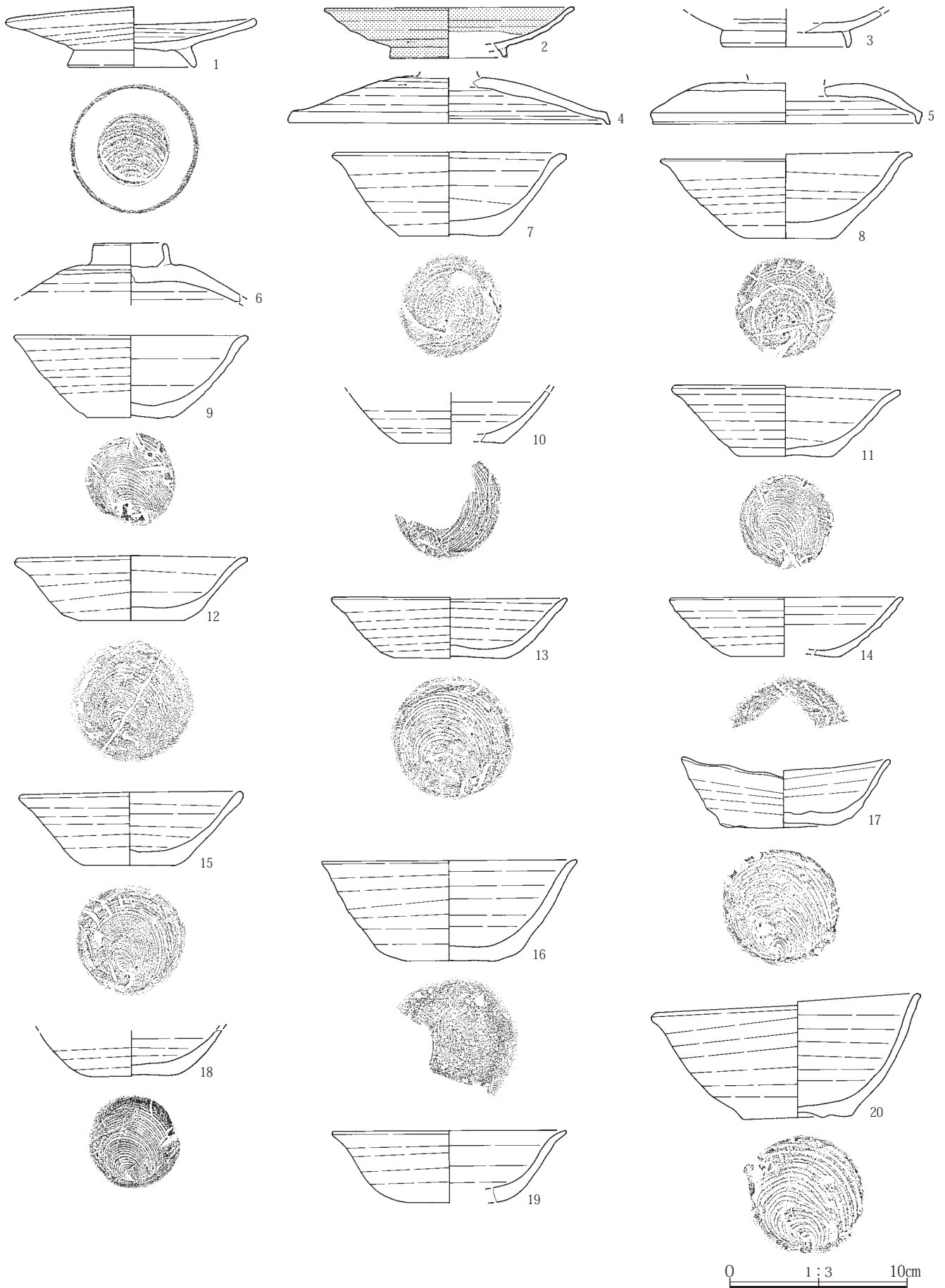


第274図 2区39号竪穴建物 床面2(炭化材出土)、床面下 平面図

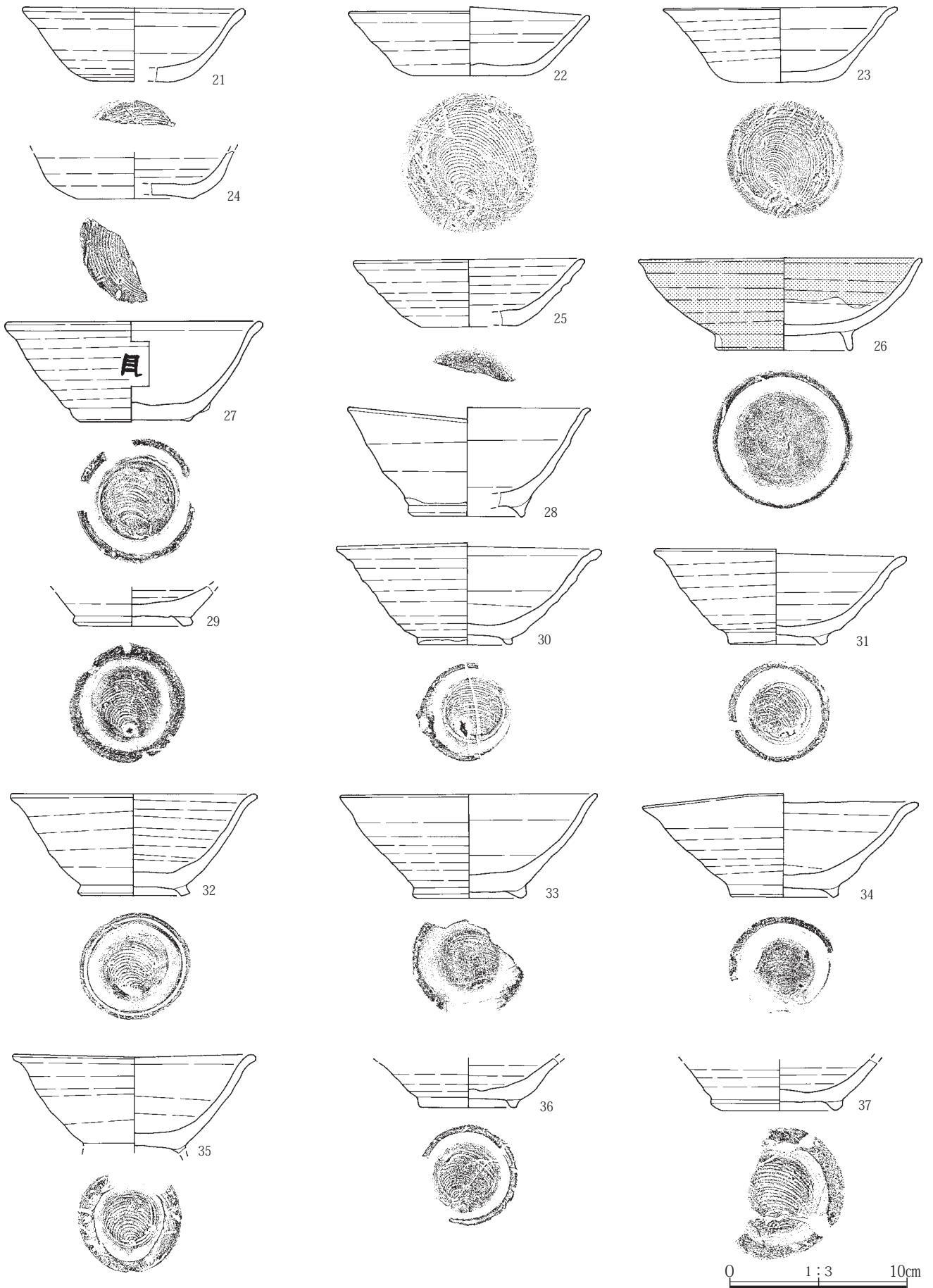
カマド



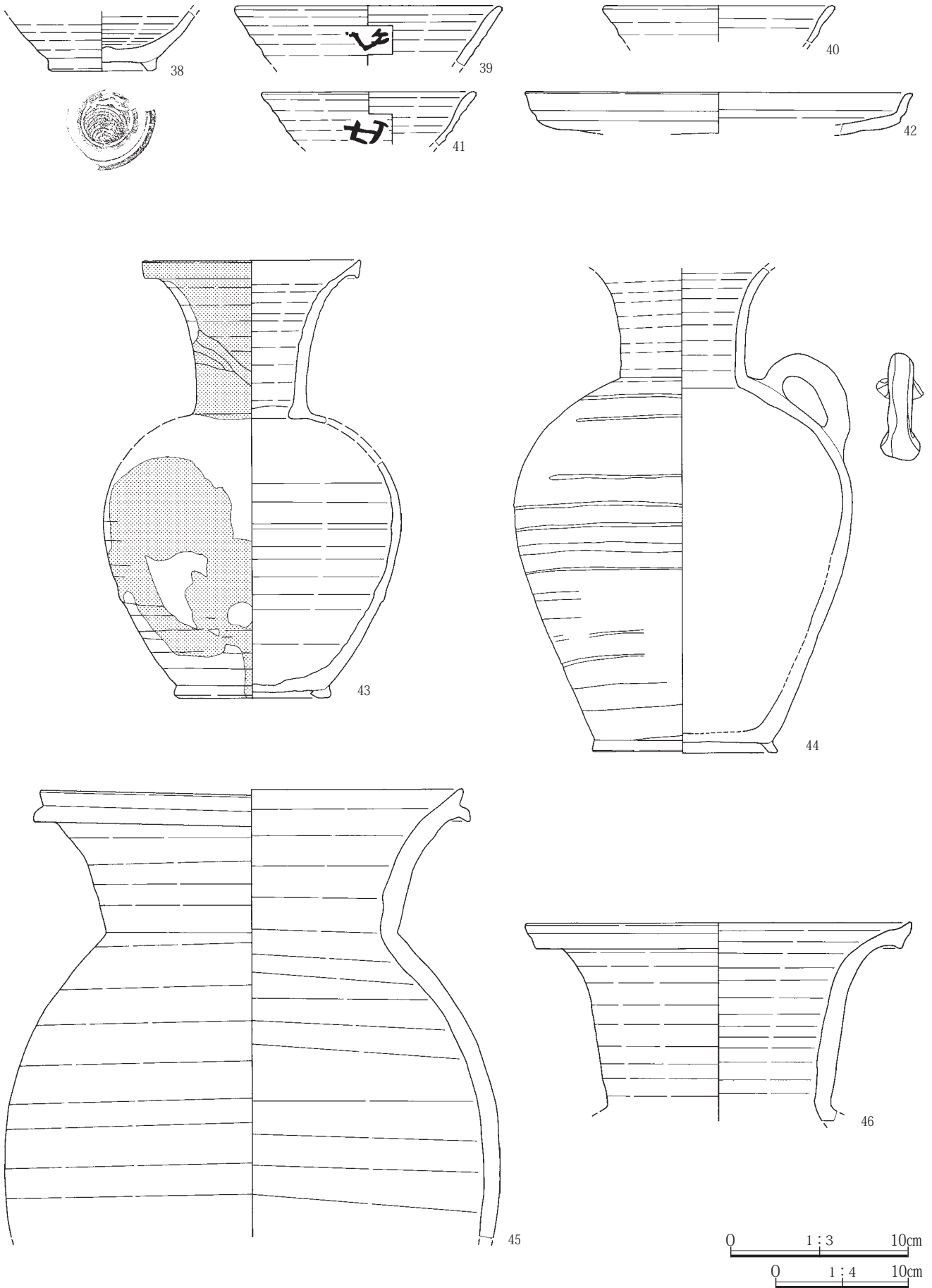
第275図 2区39号竪穴建物 カマド 平・断面図、側面図



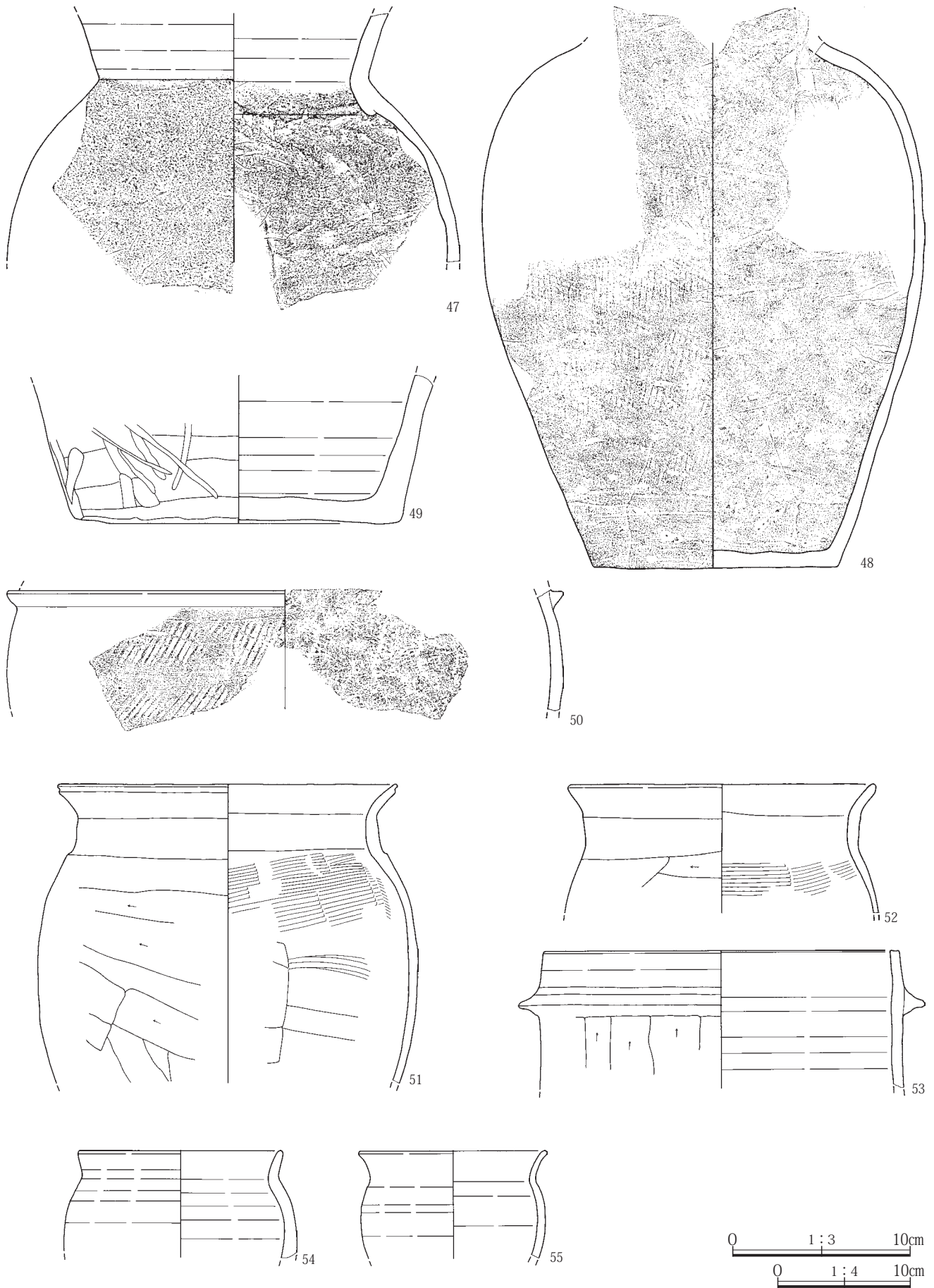
第276図 2区39号竪穴建物 出土遺物(1)



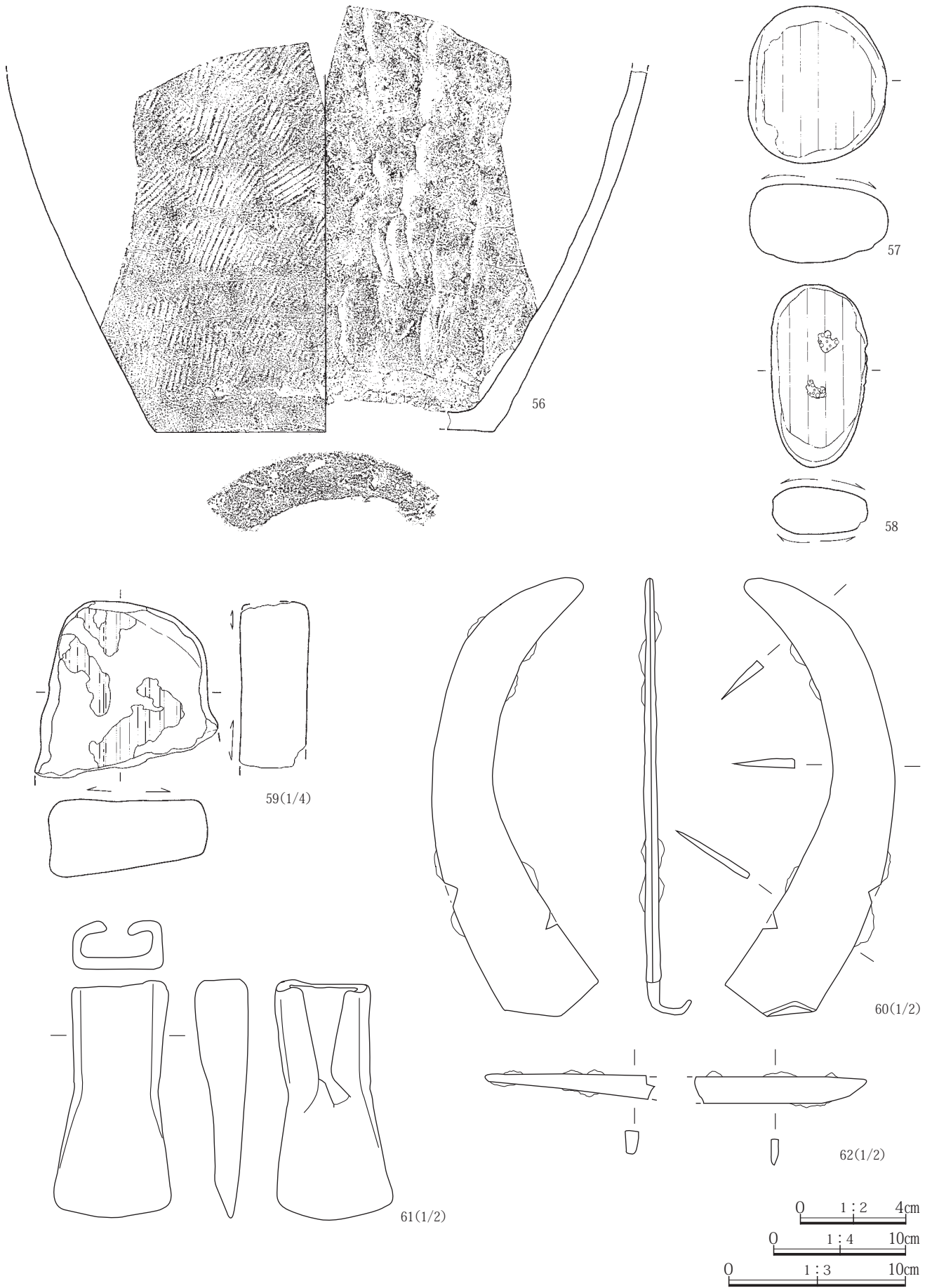
第277図 2区39号竪穴建物 出土遺物(2)



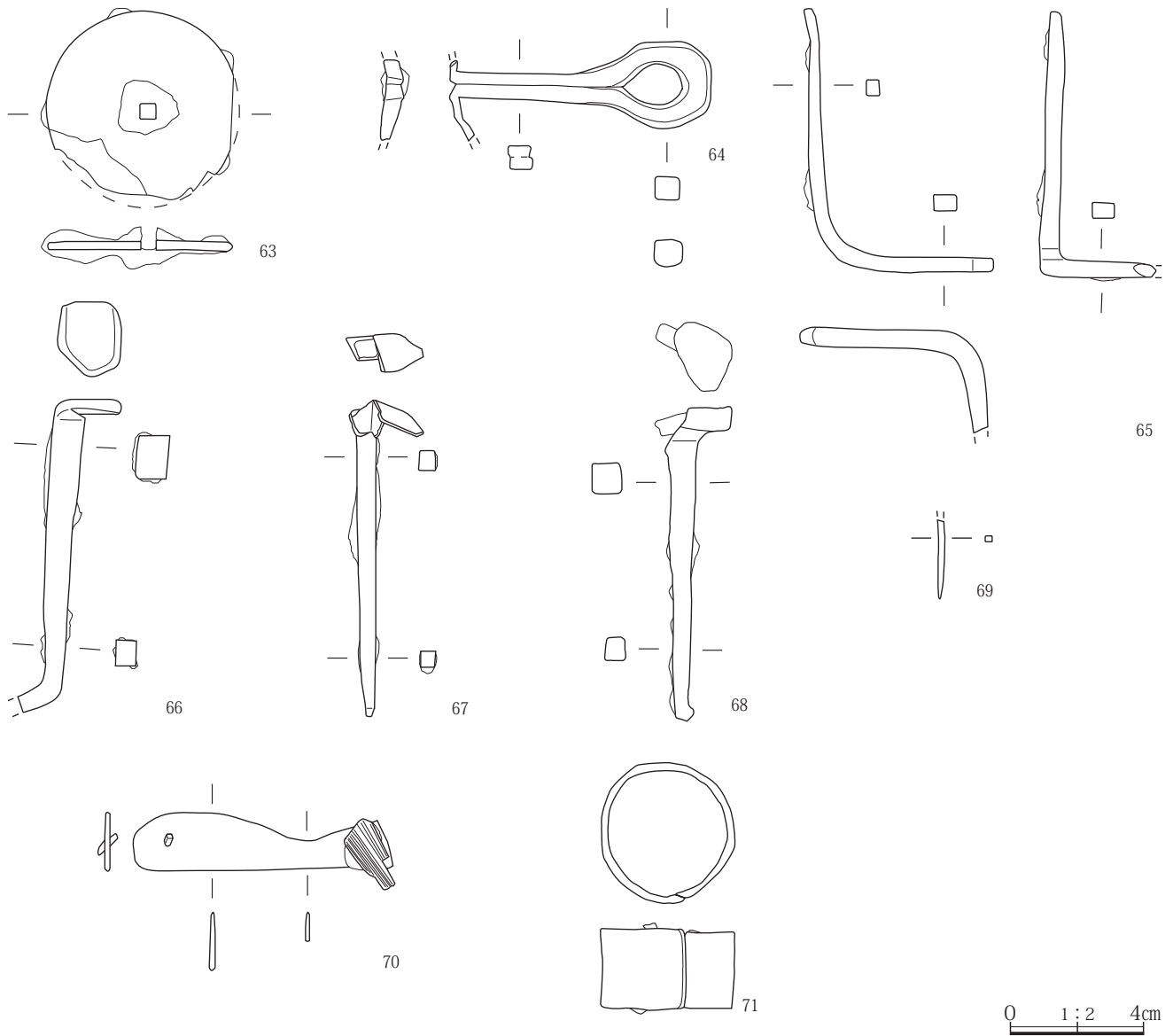
第278図 2区39号竪穴建物 出土遺物(3)



第279図 2区39号竪穴建物 出土遺物(4)



第280図 2区39号竪穴建物 出土遺物(5)



第281図 2区39号竪穴建物 出土遺物(6)

マドの右脇から20の甕があり、P4の礎石脇から11の椀が出土している。また、P7の底面には2の完形の杯が出土している。

出土遺物として、土器23点と石製品2点、金属製品1点を図示した。1は須恵器の杯蓋、2～7は須恵器の杯で、8～14は須恵器の椀。15・16は須恵器の壺の口縁から頸部で、17・18は須恵器の瓶の底部。19は胴部外面に突起をもつ須恵器の壺か。20～23は土師器の甕である。

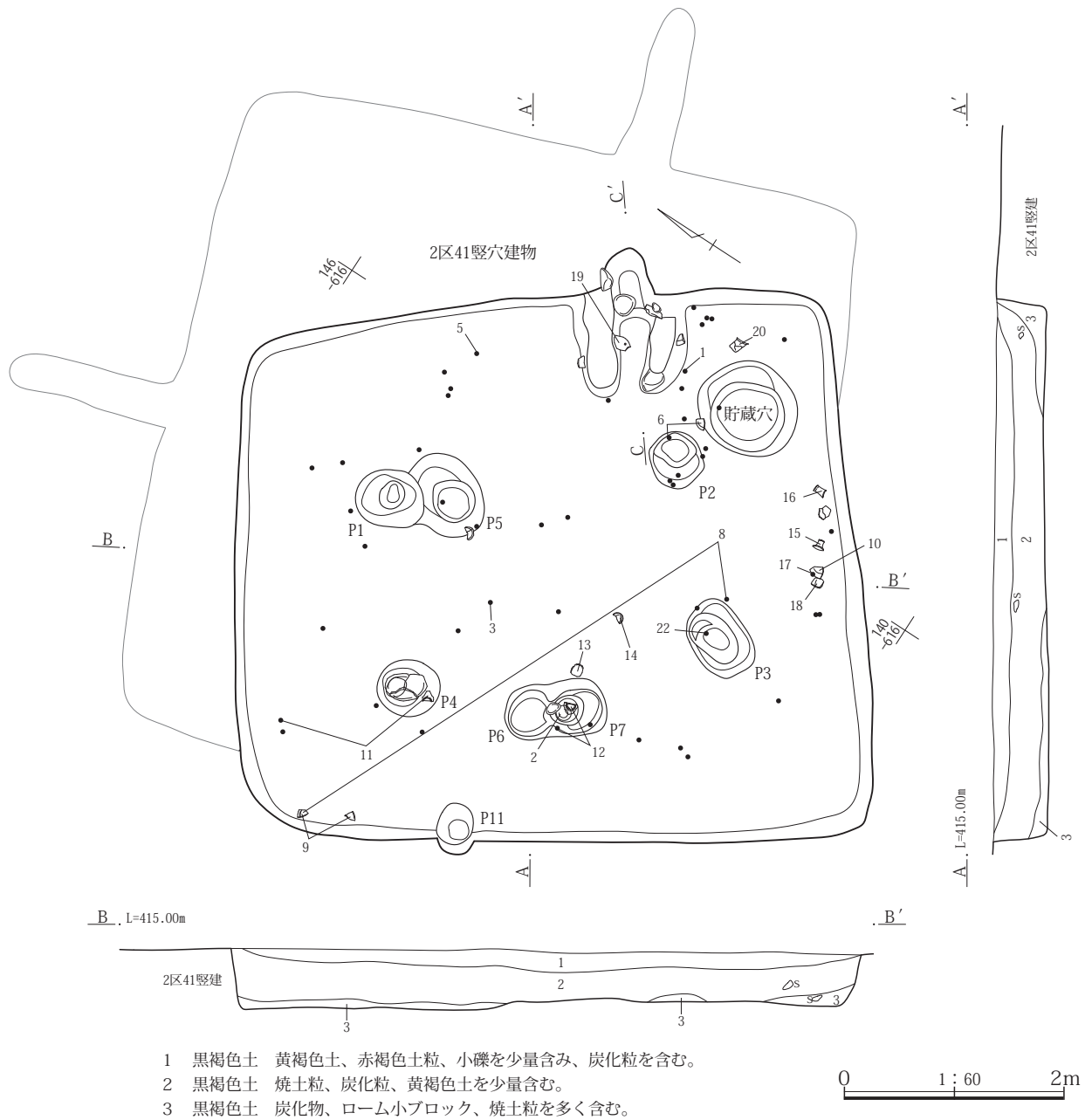
石製品には24の白玉と25の不明な石製品がある。24は滑石製で灰白色をなし、径0.8cm、厚さ0.3cm、孔径3mm、重さ0.28gを測る。25は滑石製で灰白色をなし、長さ(2.3)cm、幅(0.9)cm、厚さ(0.5)cm、重さ1.3gを

測り、石製模造品の一部の可能性が高い。なお、この石製品2点は、重複する2区41号竪穴建物の遺物の可能性もある。

金属製品は鉄製で26の刀子で、残存するのは長さ5.3cmを測る。

未掲載遺物には、古墳時代の遺物を含む土師器・須恵器片が多量にある。

所見・時期：礎石状に大型扁平礫を1石有する竪穴建物としては、後述の2区44号竪穴建物と同様である。他に、柱穴底面に礎石をもつ遺構として、2区1号掘立柱建物がある。建物の時期は、出土土器から9世紀3四半期と考えられる。



第282図 2区42号堅穴建物 床面 平・断面図

2区43号堅穴建物

(第286～289図、第13・103表、PL.52・53・199・200)

平成28年度の調査で検出した。2区44号堅穴建物と重複する。この2区44号堅穴建物との調査では、遺構確認および土層断面の判別が難しく、本建物の調査を先行した。しかし、その後に確認した出土遺物の時期から、新旧の逆転が明らかとなった。

位置：2区中央の西寄りに位置し、北西側を2区44号堅穴建物と重複する。また、西側に2区41・42号堅穴建物が近接する。

グリッド：2C・2D-122・123

座標値：X=61,140～61,147 Y=-93,605～93,611

重複：本建物の北西壁に重複する2区44号堅穴建物との新旧は、出土した遺物の時期から、本建物の方が古いと判断した。

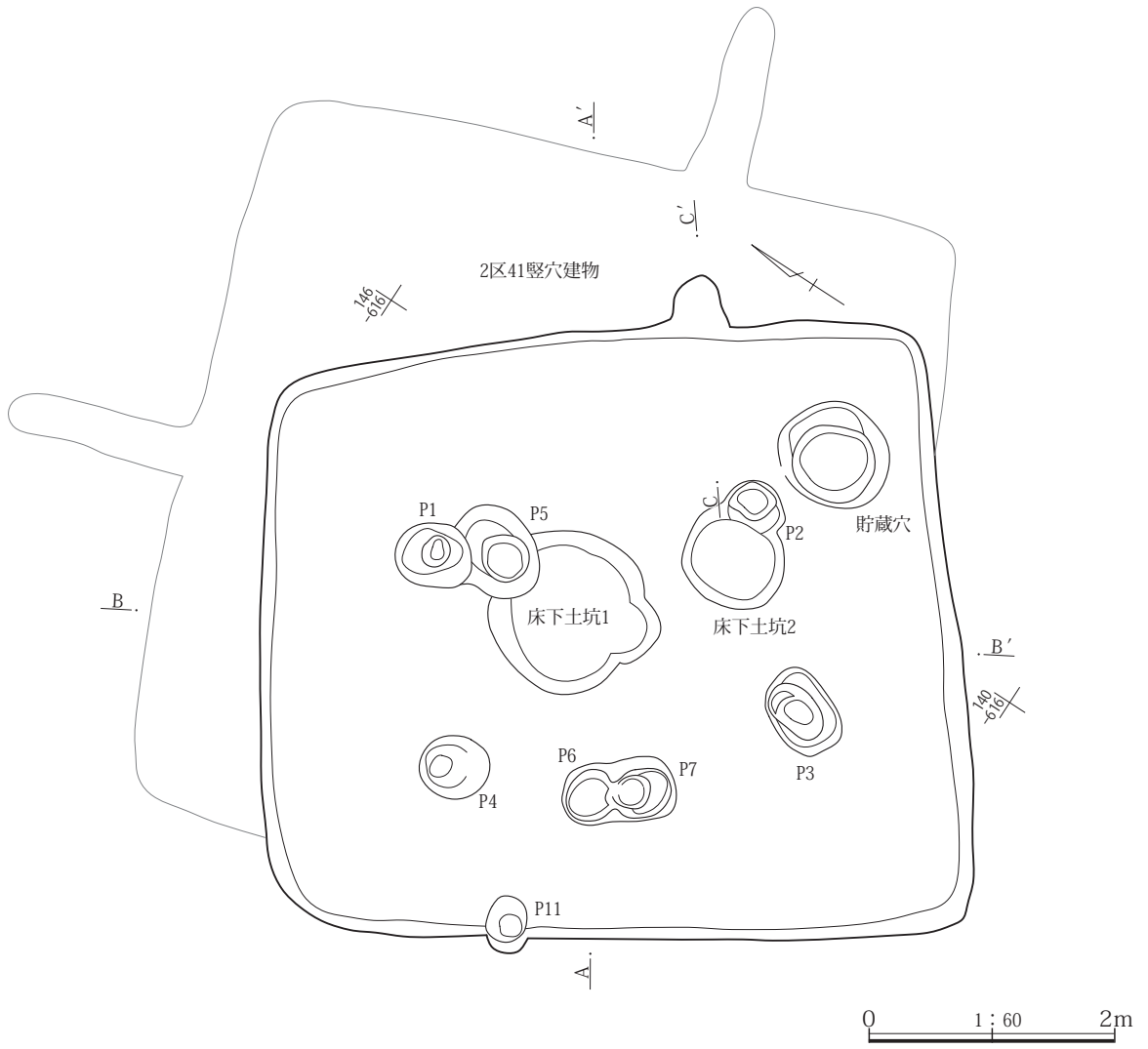
形状：方形

規模：長軸5.11m 短軸4.95m 壁高34～52cm

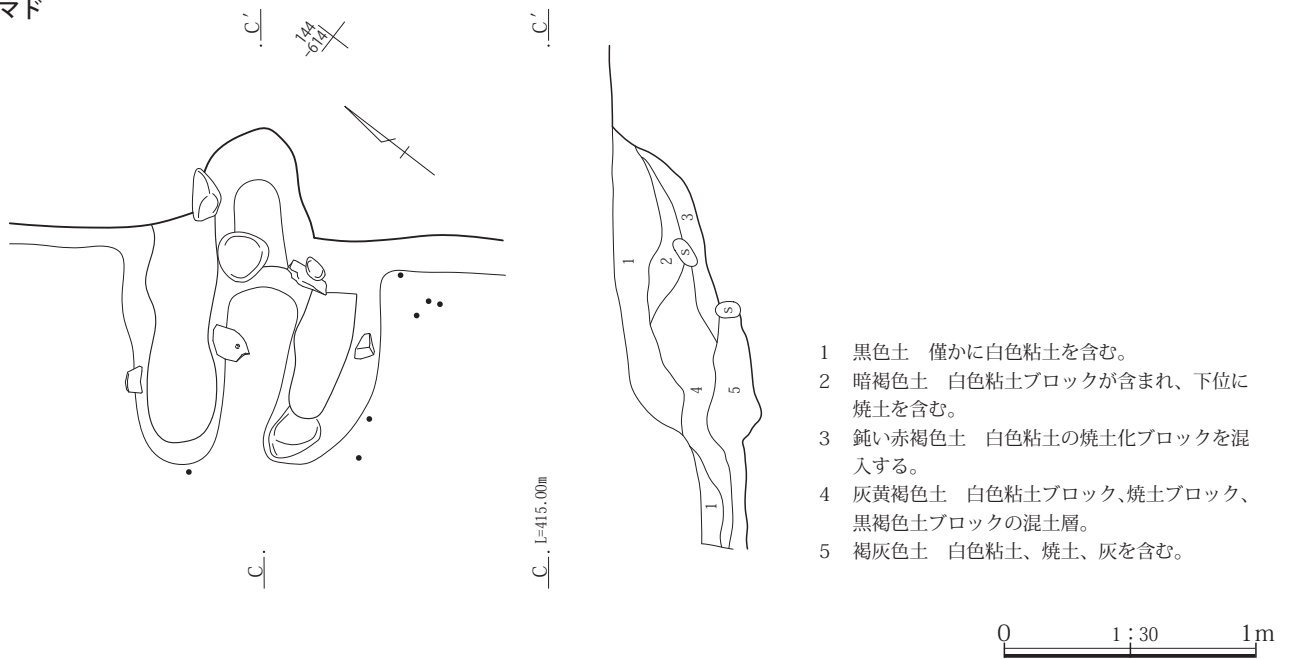
長軸方向：N-28°-W 床面積：22.07㎡

埋没土：黒褐色土を主とし、1・2層および壁際の3層に分層できる。

床面下

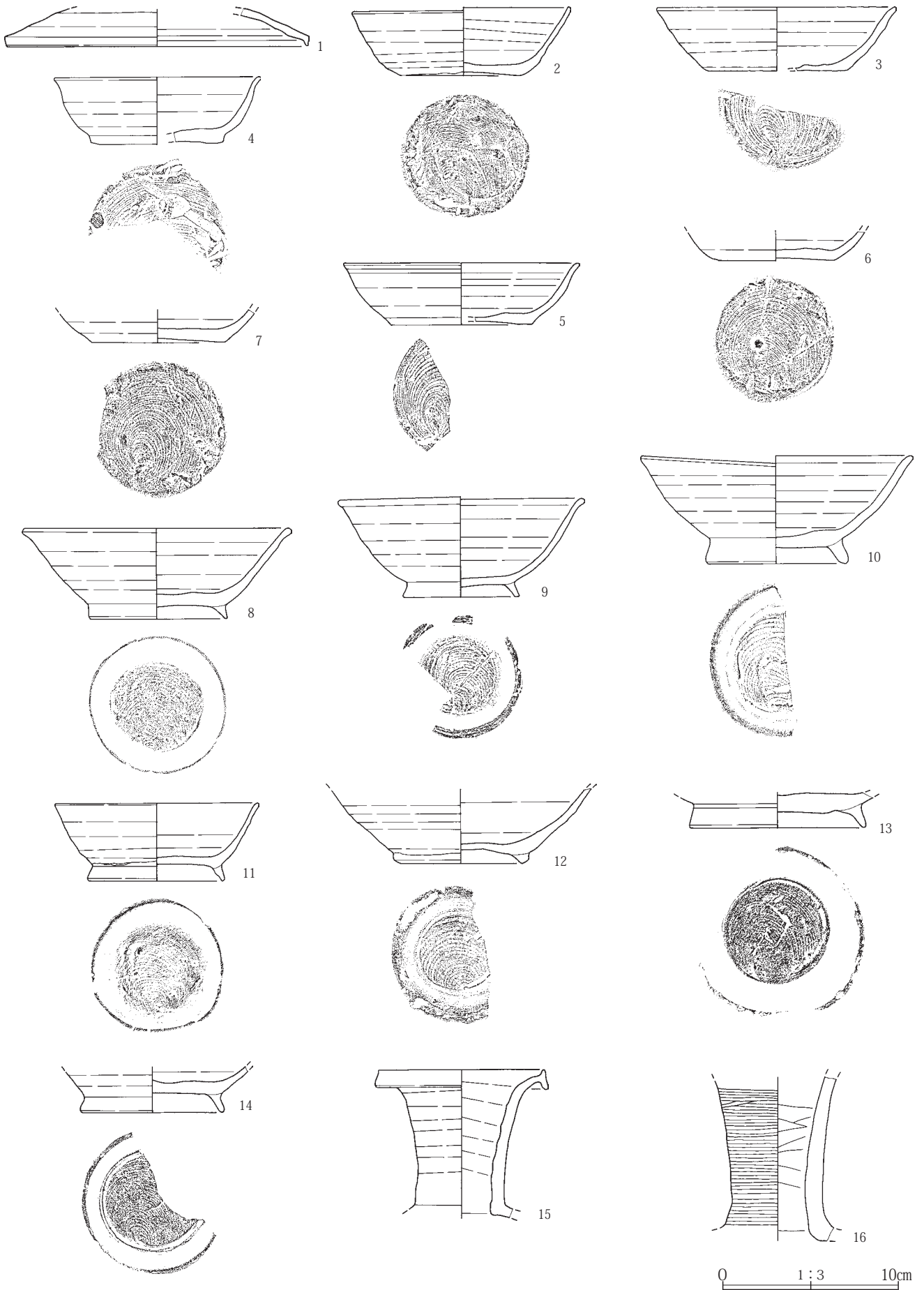


カマド

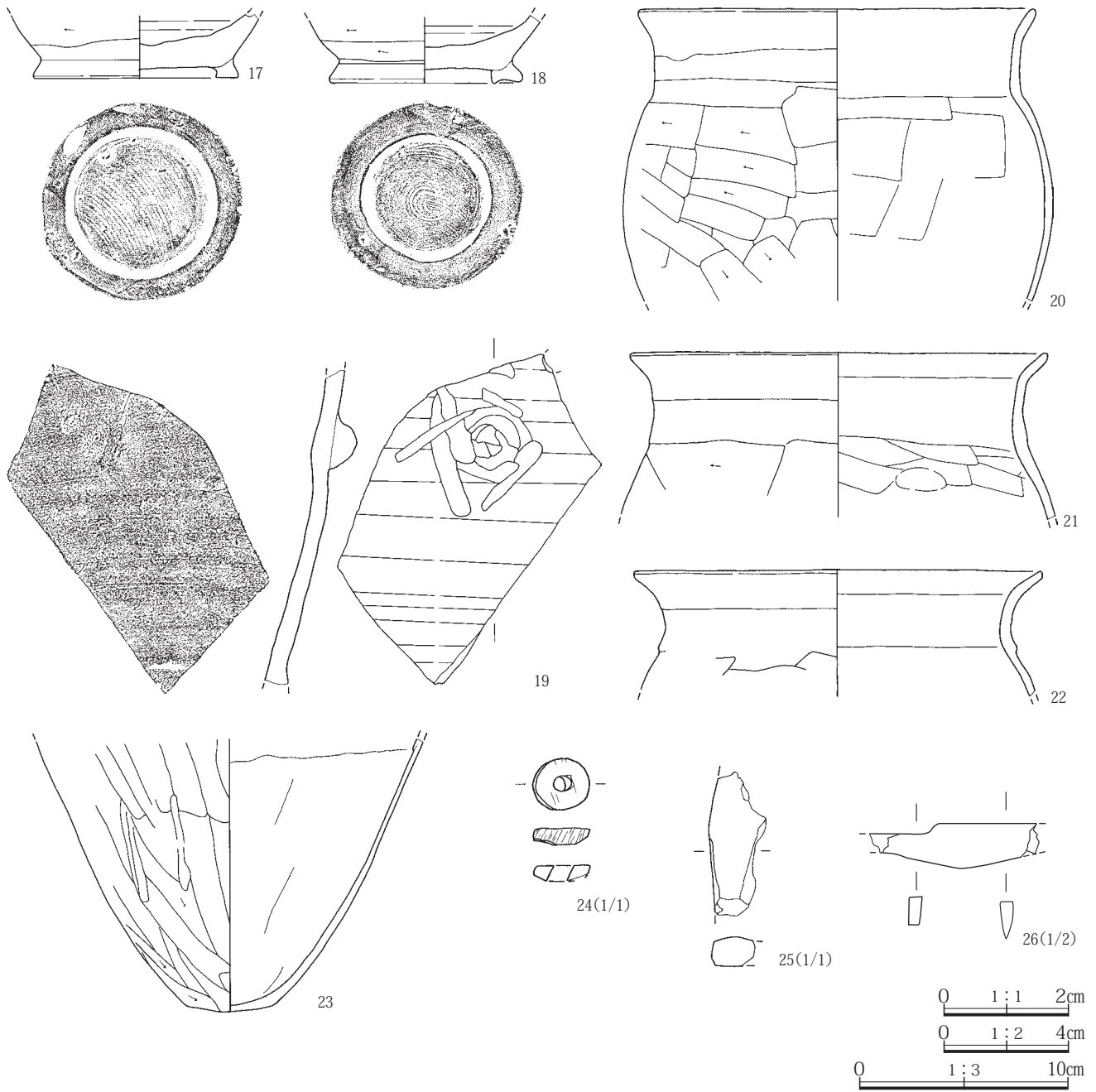


- 1 黒色土 僅かに白色粘土を含む。
- 2 暗褐色土 白色粘土ブロックが含まれ、下位に焼土を含む。
- 3 鈍い赤褐色土 白色粘土の焼土化ブロックを混入する。
- 4 灰黄褐色土 白色粘土ブロック、焼土ブロック、黒褐色土ブロックの混土層。
- 5 褐灰色土 白色粘土、焼土、灰を含む。

第283図 2区42号堅穴建物 床面下、カマド 平・断面図



第284図 2区42号竪穴建物 出土遺物(1)



第285図 2区42号竪穴建物 出土遺物(2)

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、床面の位置は重複する2区44号竪穴建物の床面より低い。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化が著しい。壁高は34～52cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-64°-Eを向き、残存状態は良好。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側へ短く突き出る。残存する規模は、全長1.16m、幅1.41mを測る。袖は壁から65cmほど突き出るように残存し、先端に袖石はない。焚き口部から燃焼部の底面は建物床面より凹み、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がる。また、燃焼部の左内壁は被熱して著しく焼土化していた。

貯蔵穴：カマドの左側に位置し、上面形は楕円形で長軸107cm、短軸82cm、深さ36cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

柱穴：床面上にP1～6までを確認したが、支柱穴と考えられるのはP2～5である。上面は円形ないし楕円形で、長軸46～55cm、短軸46～53cm、深さ40～68cmを測り、埋土は黒褐色土である。なお、P4・5の中間にP6が位置し、支柱穴に付随する可能性がある。

床面下：床面下には10～15cm前後の掘り込みをもち、ロームブロックを含む黒色土を埋土とし、上面の床面は堅く締まる。また、床下土坑を7基検出した。床下土坑は中央付近に1・3～7が集中して位置し、床下土坑2のみが北隅にある。各々は長軸0.66～0.85m、短軸0.55～0.80m、深さ12～35cmを測り、黒褐色土を埋土とする。さらに、黒褐色土を埋土とするP7～10のピットを検出した。

遺物：出土した遺物量は多いが、その多くは埋土中からの出土である。床面直上に出土した遺物は僅かで、南西壁中央付近の壁際に23の紡錘車があり、床面のやや上からの出土に南東壁際の1・2の杯がある。

出土遺物として、土器16点と土製品1点、石製品4点、金属製品2点を図示した。1～11は須恵器の杯で、12・13は須恵器の椀。14は土師器の小型甕で、15・16は土師器の甕である。

土製品の17は、上面周縁の低い段差および中央に孔が僅かに残ることから、紡輪か。

石製品には18の白玉と19の磨石、20・21の台石があ

る。18は滑石製で灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.5cm、孔径2mm、重さ0.54gを測る。19の磨石は粗粒輝石安山岩製で、長さ9.7cm、幅9.2cmを測り、全面が磨面であらゆる中央に敲打痕がある。20・21の台石は共に粗粒輝石安山岩製で、表裏面ないし表面が滑らかになっている。

金属製品は共に鉄製で、22は残存長8.6cmの刀子。23は紡錘車で、残存長22.6cm、紡輪は径6cmを測る。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が多量にある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀第3四半期と考えられる。

2区44号竪穴建物

(第290・291図、第13・104表、PL.54・200)

平成28年度の調査で検出した。2区43号竪穴建物と重複する。遺構確認および土層断面の判別が難しく、2区43号竪穴建物の調査を先行した。しかし、その後に確認した出土遺物の時期から、新旧の逆転が明らかとなった。位置：2区中央の西寄りに位置し、南東側を2区43号竪穴建物と重複する。また、北側に2区70号竪穴建物、西側に2区41・42号竪穴建物が近接する。

グリッド：2D-122・123

座標値：X=61,145～61,149 Y=-93,608～93,613

重複：本建物の南東壁に重複する2区43号竪穴建物との新旧は、出土した遺物の時期から、本建物の方が新しいと判断した。

形状：横長長方形

規模：長軸(3.80)m 短軸3.33m 壁高23～34cm

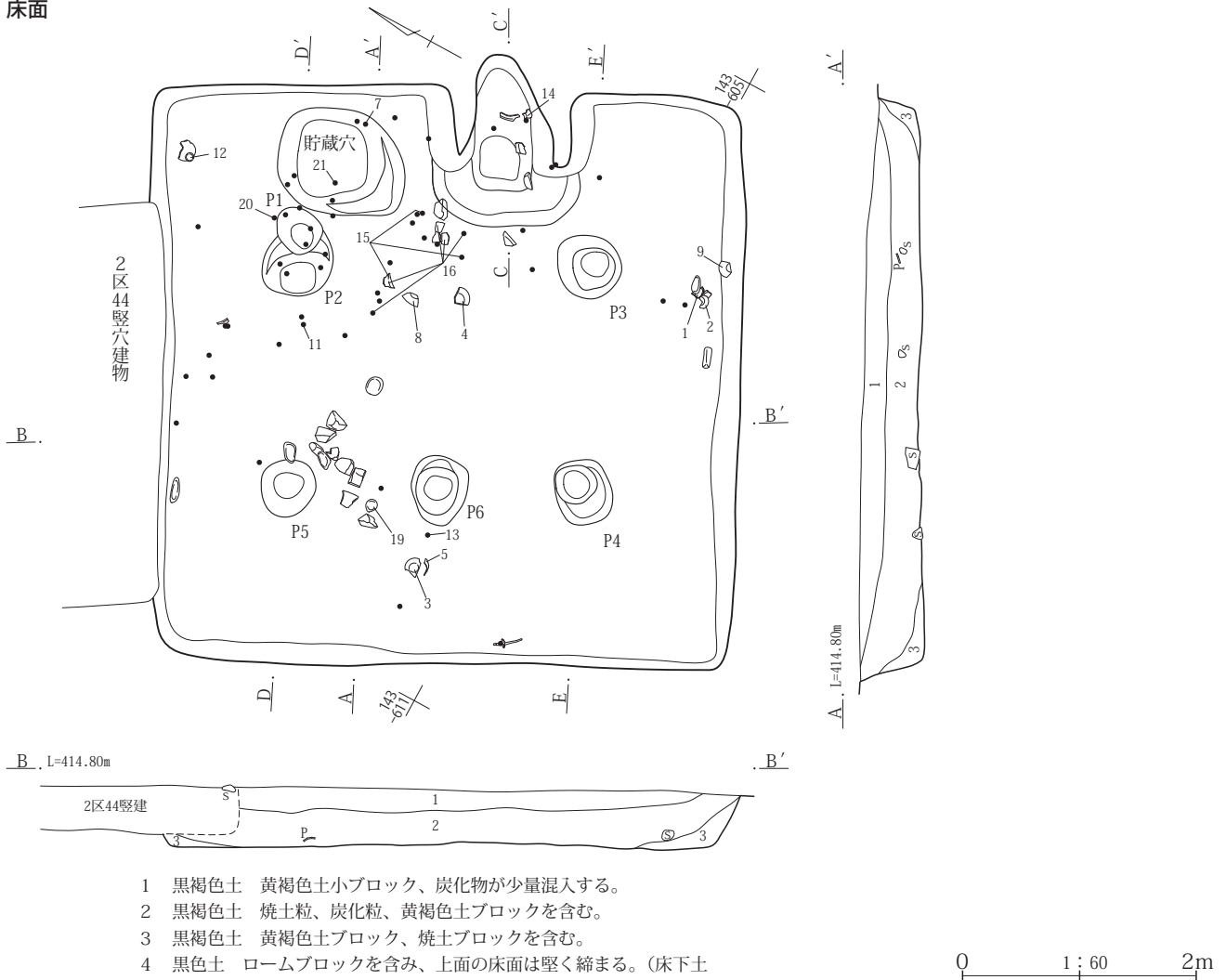
長軸方向：N-40°-W 床面積：推定10.67㎡

埋没土：黒褐色土を主とし、1・2層に分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、床面の位置は重複する2区43号竪穴建物の床面より高い。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけてやや硬化ぎみとなるが、カマド前の床下土坑部分は白色粘土を混在して柔らかい。壁高は23～34cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁の中央付近に位置し、カマドの主軸方位はN-58°-Eを向き、残存状態はやや良好。燃焼部は壁の外側に張り出し、その先に煙道部が短く付く。カマドの規模は、全長1.09m、幅0.93mを測る。袖は

床面



第286図 2区43号竪穴建物 床面 平・断面図

壁際に僅かに突出し、先端部に袖石はない。焚口部から燃焼部の底面にかけては床面より若干低くなり、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がる。燃焼部および煙道部内壁は石組みの痕跡をとどめ、右側面では燃焼部奥から煙道部に2石、左側面では煙道部に3石が残存する。

一方、カマド袖部の構築に関しては、白色粘土を混在させた暗褐色土を構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、上面形は楕円形で長軸116cm、短軸(100)cm、深さ25cmを測り、大型である。埋土は黒褐色土であるが、底面には灰白色土を薄く敷いている。なお、貯蔵穴内からは、多くの遺物が出土している。

柱穴：P1を検出したのみであるが、その脇に礎石状に大型扁平礫が1石据えられていた。他には確認されて

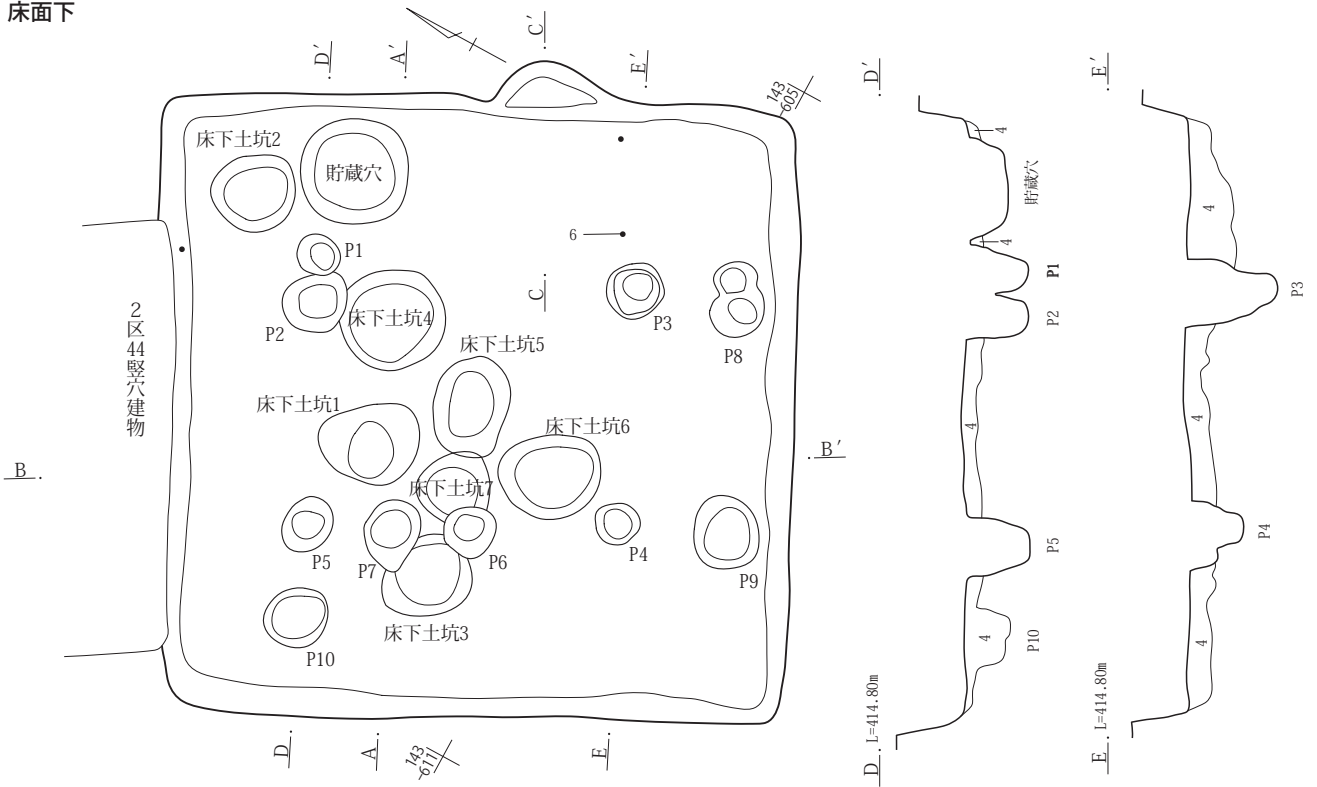
いない。

床面下：床面下には6～10cm前後の掘り込みをもち、焼土粒を僅かに含む黒褐色土を埋土とする。また、床面でも確認されていたカマド前の床下土坑は、楕円形を呈し、長軸0.78m、短軸0.65m、深さ17cmを測り、黒褐色土を埋土とする。床下土坑2はカマド前に位置し、P2と接する。円形で径85cm、深さ28cmを測り、白色粘土ブロックを混在する黒褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物量が多いが、その多くは貯蔵穴内からの出土である。床面直上に出土した遺物は僅かで、南西壁中央の壁際に4の杯、カマド内からは6の杯がある。出土遺物の大多数を占める貯蔵穴からは、1～3・5・7～10の完形を含む杯、11の椀、12の壺、13・14の甕がある。

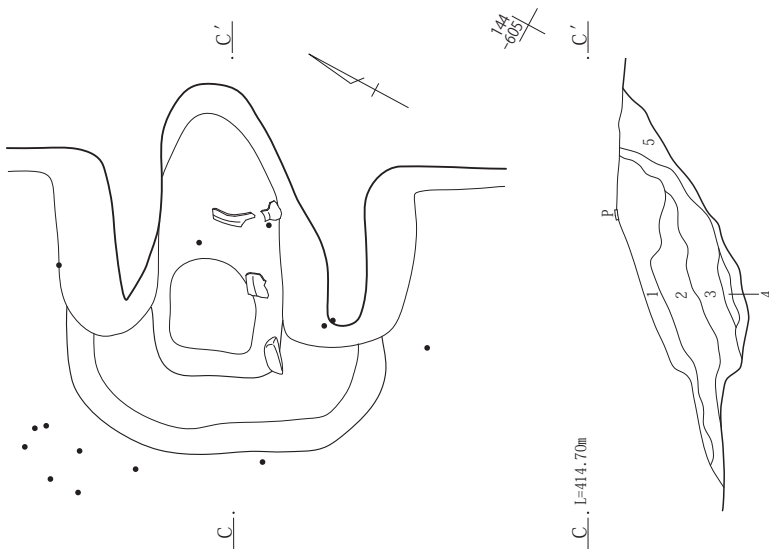
出土遺物として、土器14点と金属製品1点を図示し

床面下



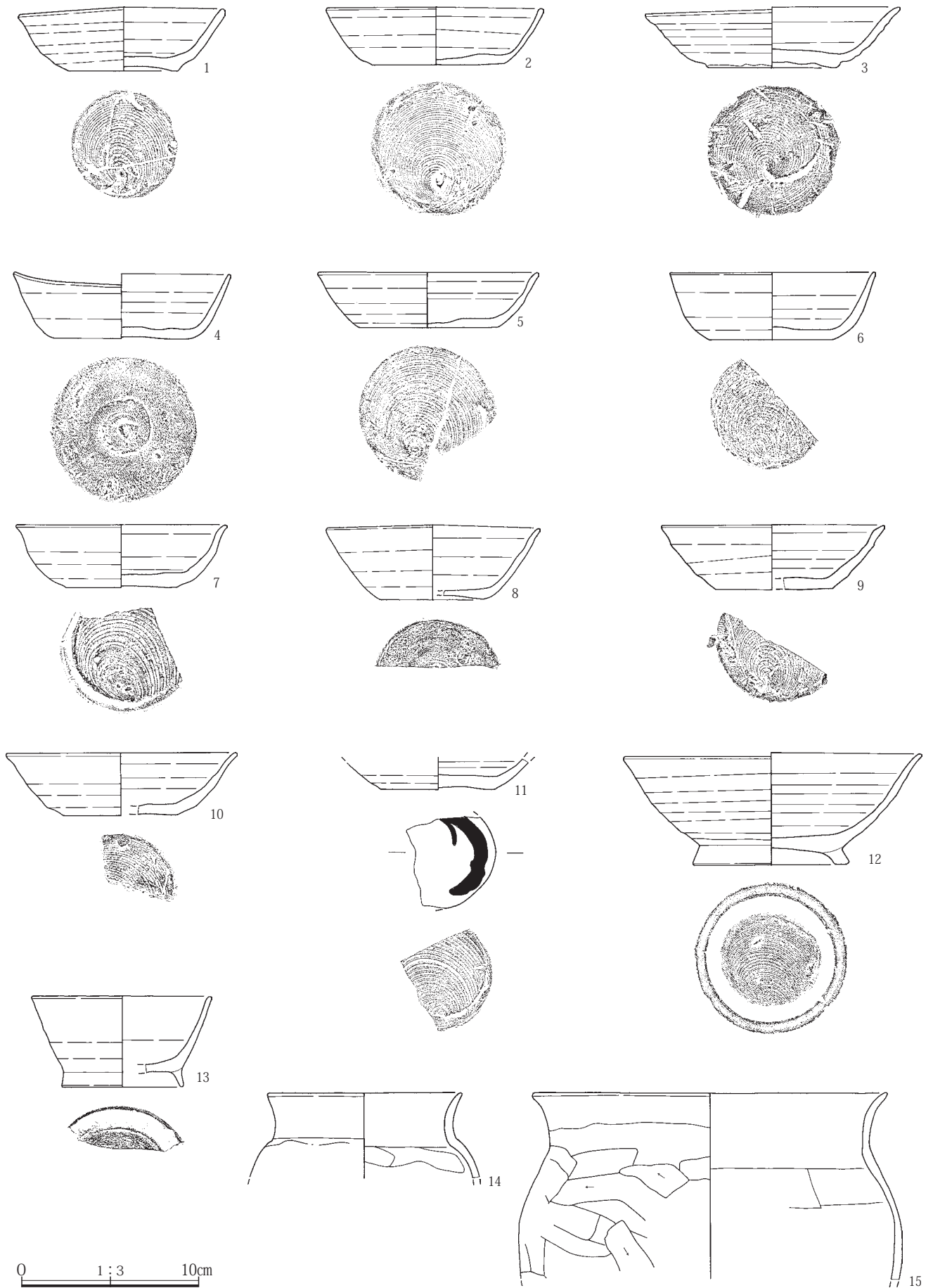
4 黒色土 ロームブロックを含み、上面の床面は堅く締まる。(床下土)

カマド

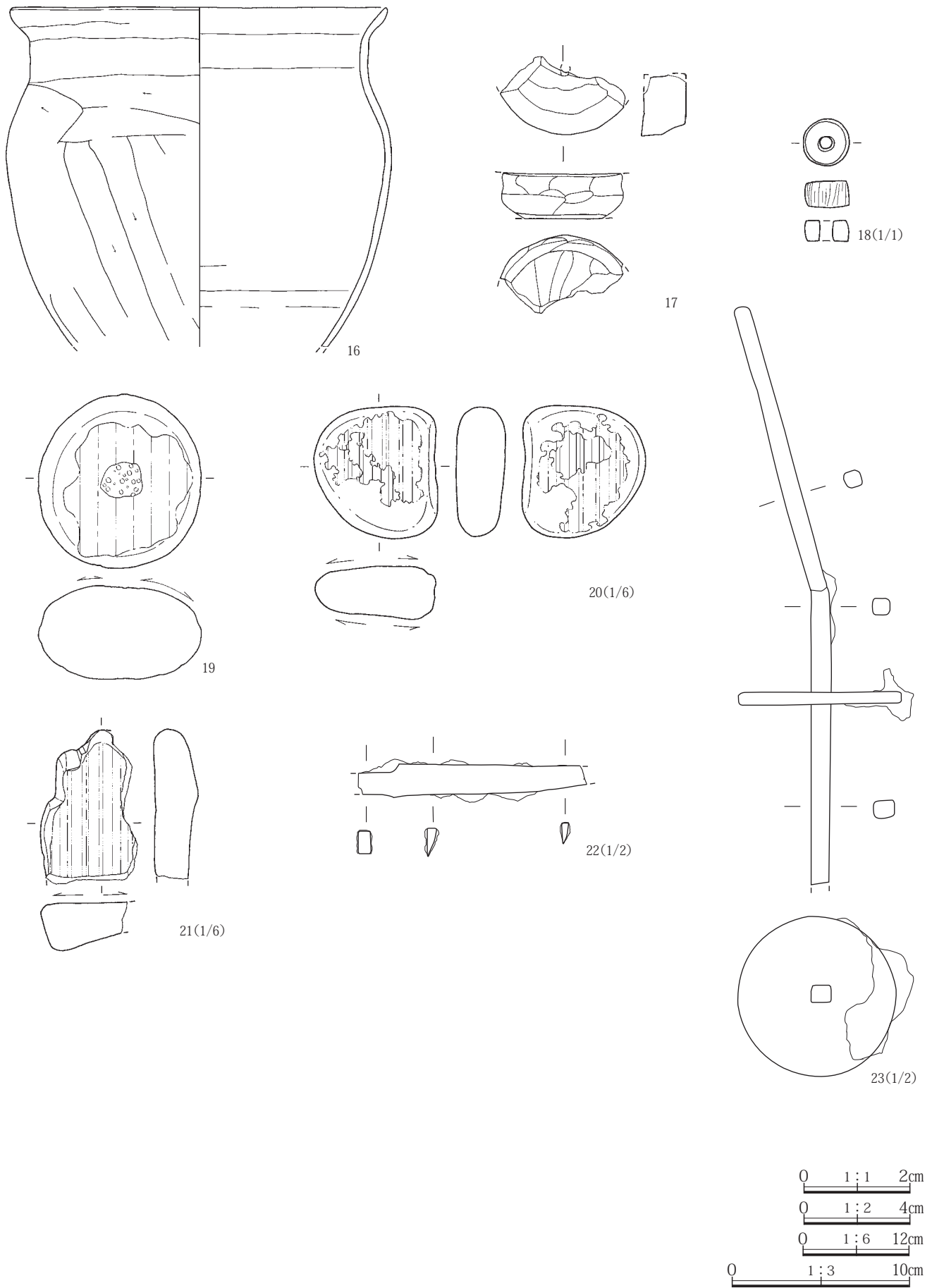


- 1 鈍い黄褐色土 白色鉱物粒、ローム小ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 ロームブロック、焼土ブロックを僅かに含む。
- 3 明赤褐色土 白色粘土ブロック、焼土ブロックが多量。
- 4 灰白色土 白色粘土ブロック、骨片が混入する。
- 5 橙色土 焼土層。

第287図 2区43号竪穴建物 床面下、カマド 平・断面図

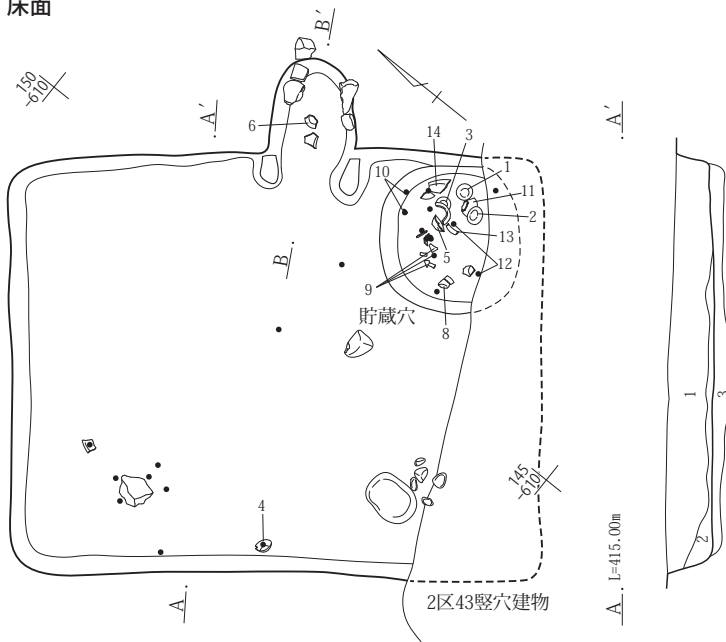


第288図 2区43号竪穴建物 出土遺物(1)



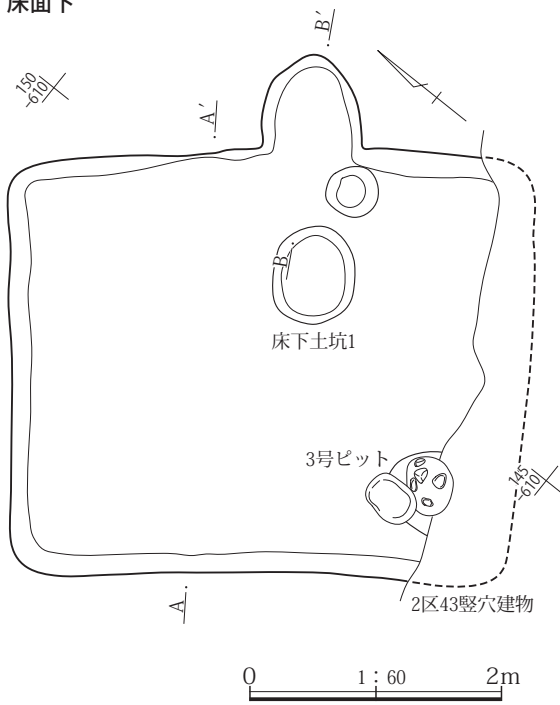
第289図 2区43号竪穴建物 出土遺物(2)

床面

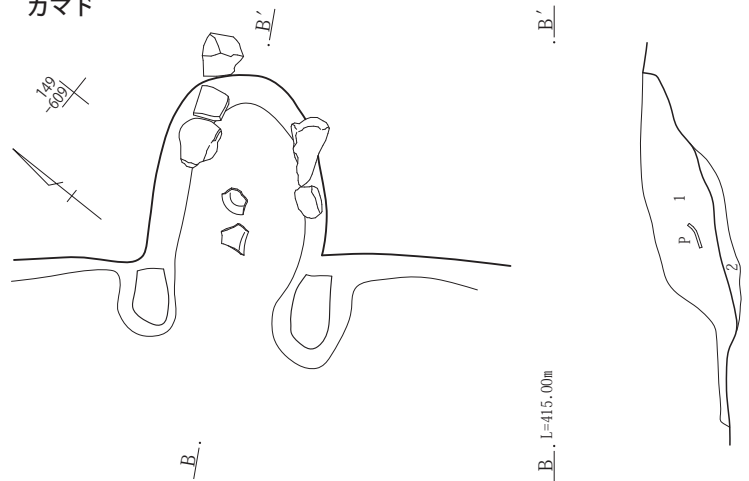


- 1 黒褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを多く、白色粒と焼土粒を僅かに含む。(床下土)

床面下

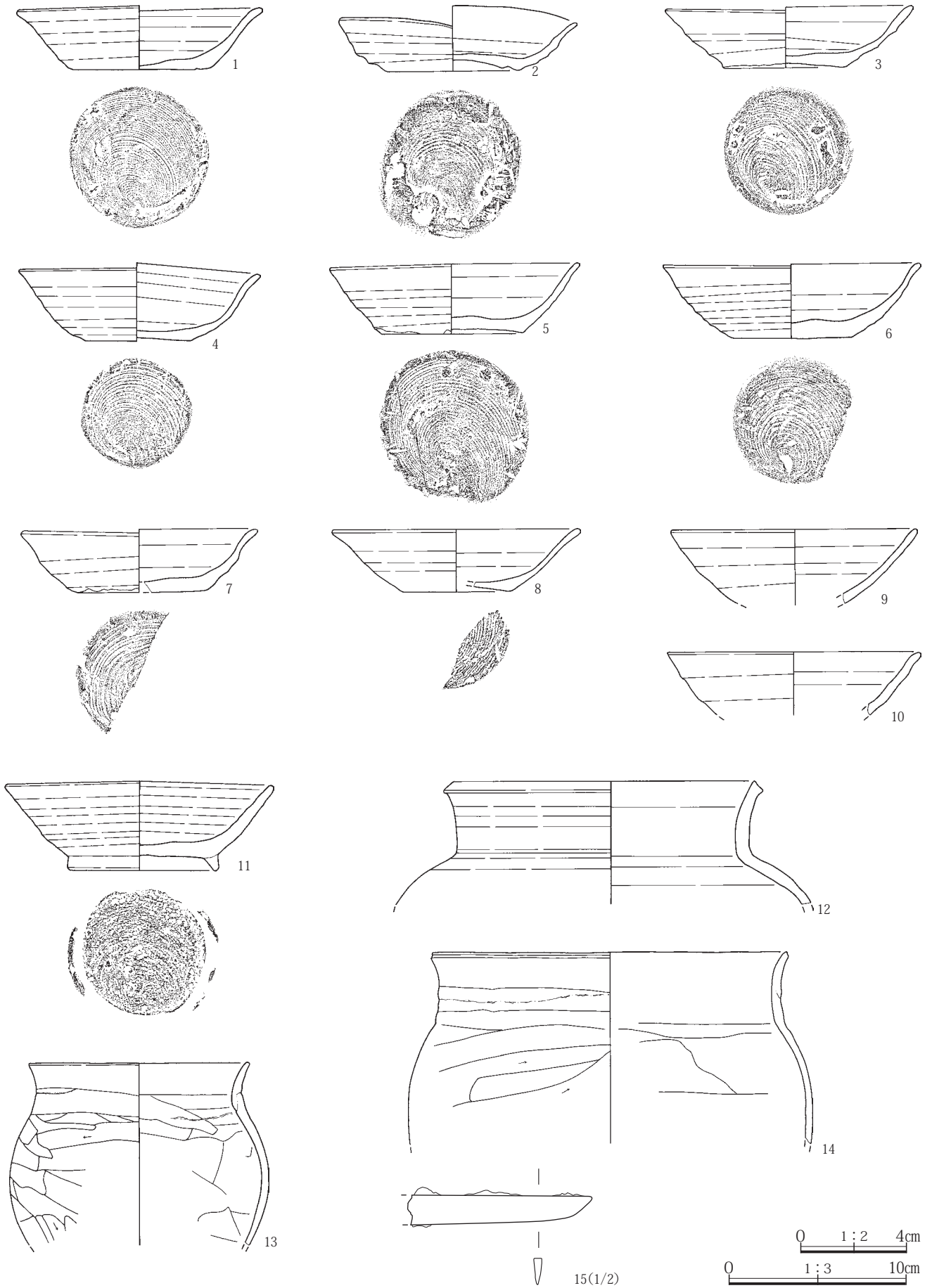


カマド



- 1 暗褐色土 ローム・白色粘土・焼土ブロックが混在する。
- 2 黒色土 僅かに炭化物が混入する。

第290図 2区44号竪穴建物 床面、床面下、カマド 平・断面図



第291図 2区44号竪穴建物 出土遺物

た。1～10は須恵器の杯で、11は須恵器の椀。12は須恵器の壺の口縁から頸部。13は土師器の小型甕で、14は甕である。

金属製品は鉄製で15の刀子で、残存するのは刃部先端で、長さ6.8cmを測る。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が多量にある。
所見・時期：礎石状に大型扁平礫を1石有する竪穴建物としては、先述の2区42号竪穴建物がある。建物の時期は、出土土器から9世紀第4四半期と考えられる。

2区46号竪穴建物

(第292～295図、第13・106表、PL.55・88・201)

平成28年度の調査で検出した。2区18・34・100号竪穴建物と重複する。

位置：2区西側の西壁寄りにあり、2区18・34・35・46～48・100号竪穴建物が絡む重複の著しい一角の中央付近に位置する。本建物の北東側に2区34・100号竪穴建物、南西側を2区18号竪穴建物と重複する。南東側に2区20・45号竪穴建物、南側に2区6・47号竪穴建物、南西側に2区17号竪穴建物、北西側に2区19・33号竪穴建物が近接する。

グリッド：2G・2H-131～133

座標値：X=61,160～61,168 Y=-93,653～93,660

重複：本建物の北東側と南西側を2区18・100号竪穴建物と重複するが、カマドの存在および遺構確認、土層断面の観察から、その新旧は本建物が最も新しい。また、カマドの煙道先端を2区34号竪穴建物に壊されていたことから、その新旧は本建物の方が古い。

形状：横長長方形

規模：長軸5.40m 短軸4.56m 壁高35～40cm

長軸方向：N-30°-W 床面積：20.29㎡

埋没土：黒褐色土を主体に、1・2層に分層できる。壁際には周溝埋土も含め3層がある。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化する。壁高は35～40cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央の東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-66°-Eを向き、遺構確認面に煙道部の側壁石や天井石が確認できた残存状態の極めて良好な石組みカマドである。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は

外側に長く突出する。カマドの規模は、全長(1.66)m、幅0.99mを測る。袖は壁から45cmほど突出し、両袖先端の袖石が残存すると共に天井石が架かった状態にある。この石組みの配置状況は、焚き口部となる袖石を先端に、続く燃烧部の内壁を成す側壁石を袖石より外側に配して燃烧部内を広くとっている。残存する状態では、これら袖石および燃烧部側壁石の上端は全体的に右側に傾いており、倒壊に近い状態にあった。なお、燃烧部内からは7の甕が出土している。燃烧部奥から続く煙道部には、手前側の2石の天井石が原位置を止め、3石目はずれている(第2面掘削時にずらせてしまった)。天井石は手前側から順に少しずつ重なるようにあり、3石で構成されていたようである。因みに、焚き口の間口は50cm、燃烧部の幅は60cmを測る。また、焚き口部天井石から煙道部手前天井石までの間は30cmを測り、この間が燃烧部天井の長さということになる。煙道部の側壁石は片側に大型礫4石で側壁をなし、天井石の高さ調節のための中型礫をその上に積み、その外側にも補強のための礫を並べて構築している。焚き口部から燃烧部の底面にかけては床面より低くなり、煙道部は燃烧部奥の一段高い位置から緩く斜位に立ち上がる。煙道部の幅は18cm前後を測る。

一方、燃烧部と煙道部の構築状況は、周囲を一回り大きめに掘り、側壁石を据えながら構築したものと考えられる。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅に位置し、上面形は楕円形で長軸95cm、短軸80cm、深さ28cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

周溝：カマドと貯蔵穴を除く各壁際を巡る。幅15cm前後、深さ6cm前後を測り、黒褐色土を埋土とする。

床面下：床面下を調査したが、重複する竪穴建物により詳細は不明。

遺物：出土した遺物量は少ないが、先述したようにカマドの燃烧部内から7の甕が出土している。また、カマドの右脇の床面直上および貯蔵穴上面からは、3の杯、10・11の甕が出土し、カマド前の床面やや上に8の甕の口縁部が出土している。また、西隅の壁際の床面直上に14・15の鉄製品2点が出土している。

出土遺物として、土器11点と石製品2点、金属製品2点を図示した。1は須恵器の杯蓋、2は土師器の杯

で、3は須恵器の杯である。4は須恵器の壺ないし甕で、外面に波状文を施す。5・6は須恵器の横瓶の胴部で同一個体の可能性をもち、外内面に叩き目や当て具痕をもつ。7～11は土師器の甕である。なお、1・2および5・6は混入と考えられる。

石製品の12・13は滑石製の白玉で、12は灰白色をなし、径0.8cm、厚さ0.5cm、孔径約3mm、重さ0.5gを測る。13は暗オリーブ灰色をなし、径0.8cm、厚さ(0.2)cm、重さ0.11gを測る。

金属製品は共に鉄製で、14は軸と紡輪からなる紡錘車であり、軸部の一方の端部を欠く。残存長14.8cm、紡輪の径5.5cmを測る。15は大型の鑿の完形品で、長さ27.1cm(刃長15.5cm、莖長11.6cm)、最大幅2.2cm、厚さ1.1cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が多く、須恵器片が少量ある。

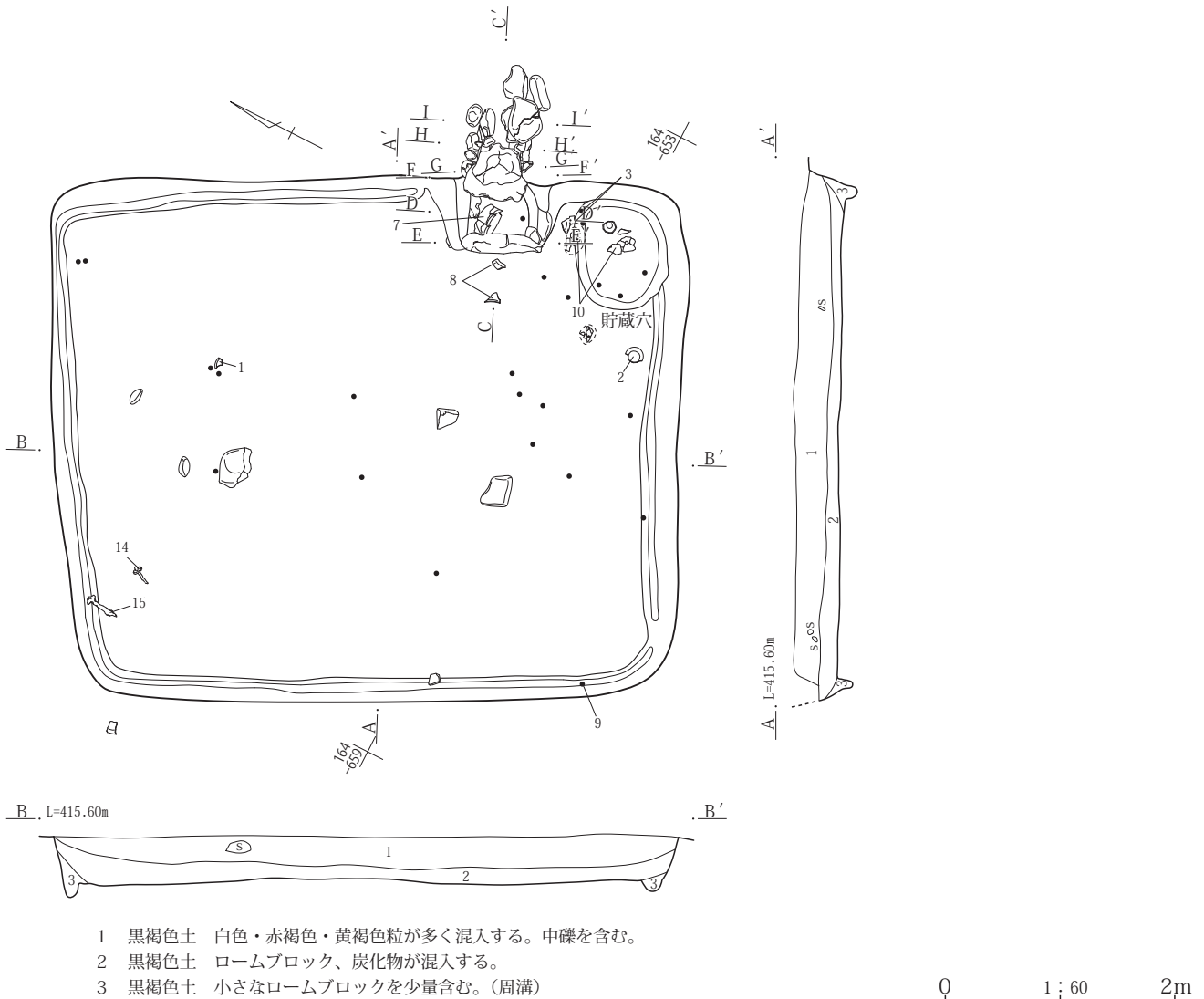
所見・時期：建物の時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。

2区47号竪穴建物

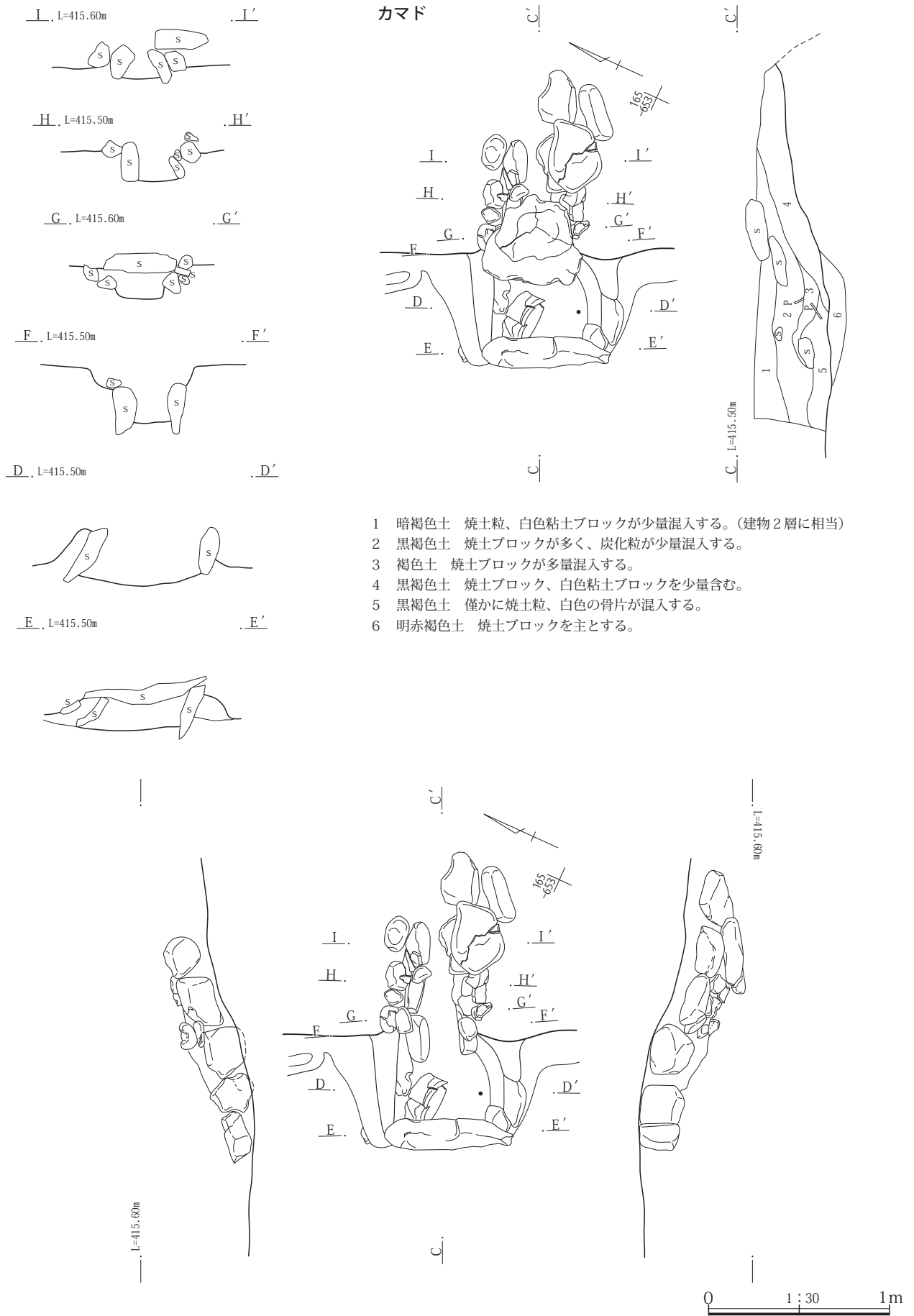
(第296・297図、第13・107表、PL.56・201・202)

平成27年度の調査で検出した。2区18号竪穴建物と重複する。

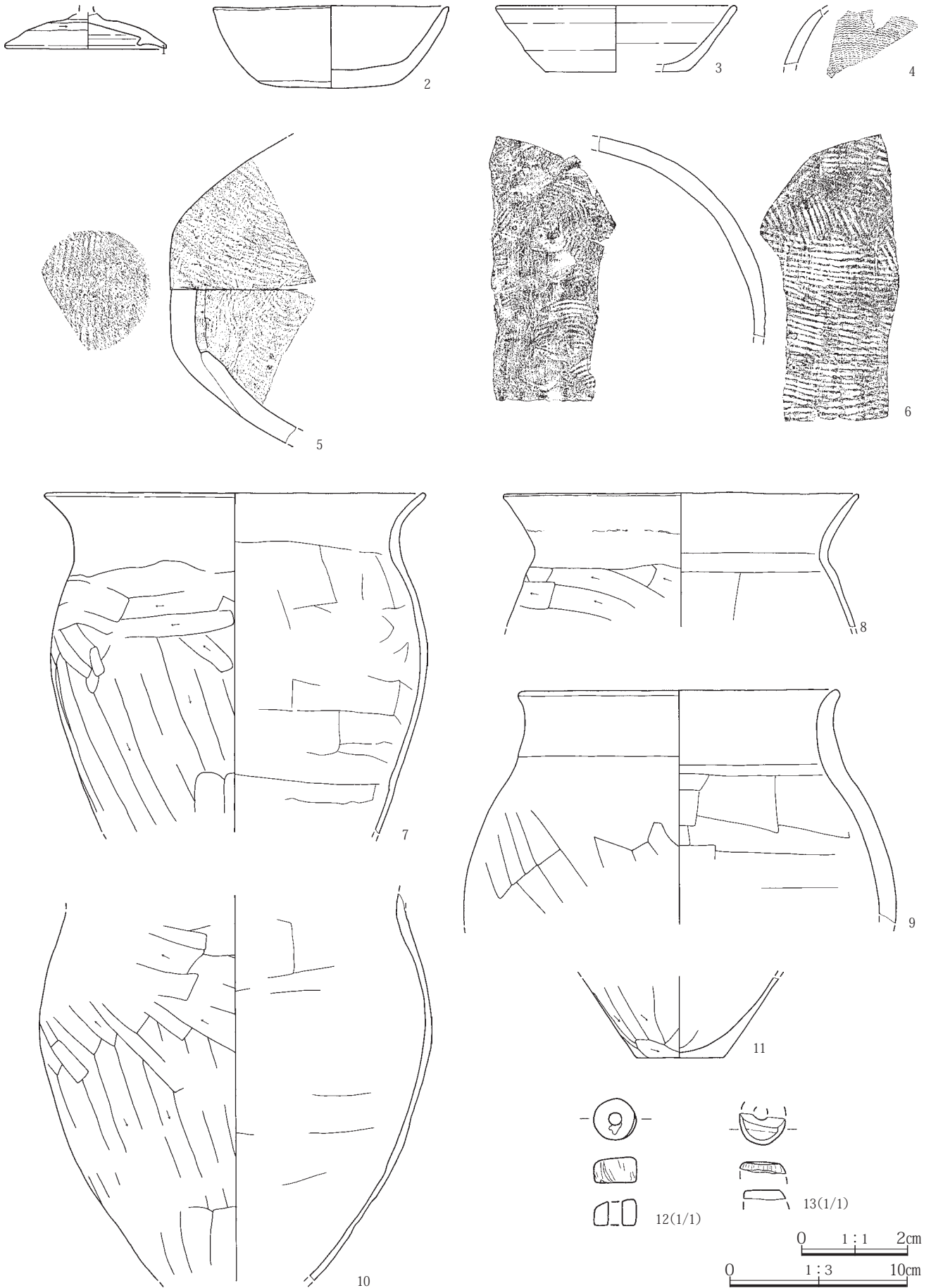
位置：2区西側の西壁寄りにあり、2区18・34・35・46～48・100号竪穴建物が絡む重複の著しい一角の南西端に位置する。本建物の北東側の大半が2区18号竪穴建物と重複する。北東側に2区46号竪穴建物、東側に2区45号竪穴建物、南側に2区6号竪穴建物、南西側



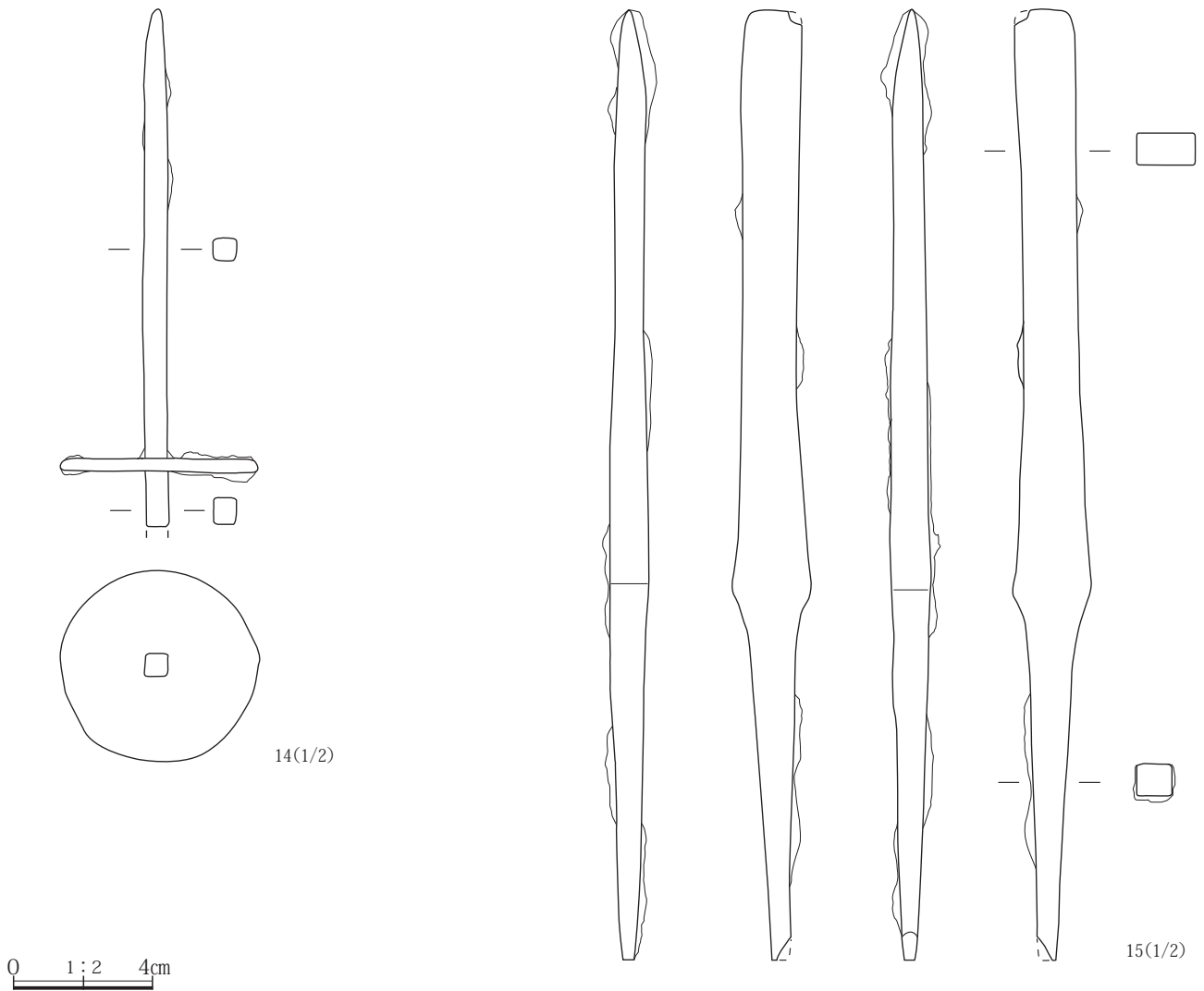
第292図 2区46号竪穴建物 床面 平・断面図



第293図 2区46号竪穴建物 カマド 平・断面図、側面図



第294図 2区46号竪穴建物 出土遺物(1)



第295図 2区46号竪穴建物 出土遺物(2)

に2区17号竪穴建物が近接する。

グリッド：2 F・2 G-132・133

座標値：X=61,159~61,163 Y=-93,658~93,662

重複：本建物の北東側を2区18号竪穴建物と大きく重複する。カマドの存在および遺構確認、土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が新しい。

形状：長方形

規模：長軸3.46m 短軸3.10m 壁高40cm

長軸方向：N-34°-W 床面積：9.06 ? m²

埋没土：黒褐色土を主体に、1・2層に分層できる。2層中には大型礫が多く出土しており、人為的堆積の可能性が強い。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化ぎみ。壁高は40cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-60°-Eを向き、残存状態は煙道部の天井石が2石残る良好な石組みカマド。燃烧部は壁の内側にあり、外側に煙道部がやや長めに突出する。カマドの規模は、全長1.47m、幅1.53mを測る。袖は壁から55cmほど突出するが、先端部に袖石はない。焚口部および燃烧部の底面は床面とほぼ同じで、煙道部は燃烧部奥に段をもちながら斜位に立ち上がる。残存する燃烧部内壁は、著しく焼土化していた。石組みは煙道部のみで、内壁となる側壁石と天井石からなる。側壁石は片側4石で構築され、部分的に2列あるいは2段積みとなる。なお、天井石は側壁となる内側の石に架かり、外側の石は天井石を縁取るように配置されている。煙道の側壁の内幅は20cm前後、高さ12~15cmを測る。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に鈍い黄橙色土(粘土)を主としてカマド袖部を構築し、煙道部は一回り大きく掘り凹めた後に側壁石を据えながら6層の黒褐色土で構築したと考えられる。

遺物：出土した遺物量は少ない。北隅の礫の集中する間に6の甕が出土している。また、南東壁際の床面やや上に1～3の各杯が出土している。

出土遺物として、土器7点と石製品1点を図示した。1・2は土師器の杯で、1の内面には暗文が施されている。3は須恵器の杯で、4は須恵器の壺片か。5・6は土師器の甕で、7は不明な土師器の底部。

石製品の8は碧玉製の管玉で、暗緑色をなし、片面穿孔の丁寧な研磨による光沢をもつ。長さ1.8cm、径0.7cm、重さ1.9gを測る。

未掲載遺物には、土師器片が多く、須恵器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から8世紀初頭と考えられる。

2区48号竪穴建物

(第298～301図、第13・108表、PL.57・202)

平成27年度の調査で検出した。第1面調査で検出された2区7号土坑と重複し、さらに2区34号竪穴建物の中にすっぽり入るように重複する。遺構確認では、2区34号竪穴建物の方が一回り大きく、本建物の片鱗を確認できていなかったため、34号竪穴建物を先行して調査を開始した。その後、34号竪穴建物と異なる本建物のカマドが検出され、両建物の調査を併行させながら、本建物をより先行させつつ調査を進めた。2区34号竪穴建物以外に、2区100号竪穴建物とも重複する。

位置：2区西側の北壁寄りにあり、2区18・34・35・46～48・100・101号竪穴建物が絡む重複の著しい一角の中央付近に位置する。本建物は2区34号竪穴建物の中にあり、西側を2区100号竪穴建物と重複する。北側に2区36・101号竪穴建物、東側に2区37号竪穴建物、南東側に2区22・38号竪穴建物、南側に2区20・45号竪穴建物、南西側に2区18・46・47号竪穴建物、北西側に2区19・33号竪穴建物が近接する。

グリッド：2G・2H-130・131

座標値：X=61,165～61,190 Y=-93,648～93,652

重複：本建物の外側に重複する2区34号竪穴建物とは、本建物のカマドが34号竪穴建物の内側に位置することや、床面の位置および土層断面の観察から、その新旧は本建物の方が新しい。また、2区100号竪穴建物より新しい。

形状：横長長方形

規模：長軸4.13m 短軸2.99m 壁高55～59cm

長軸方向：N-57°-E 床面積：10.38㎡

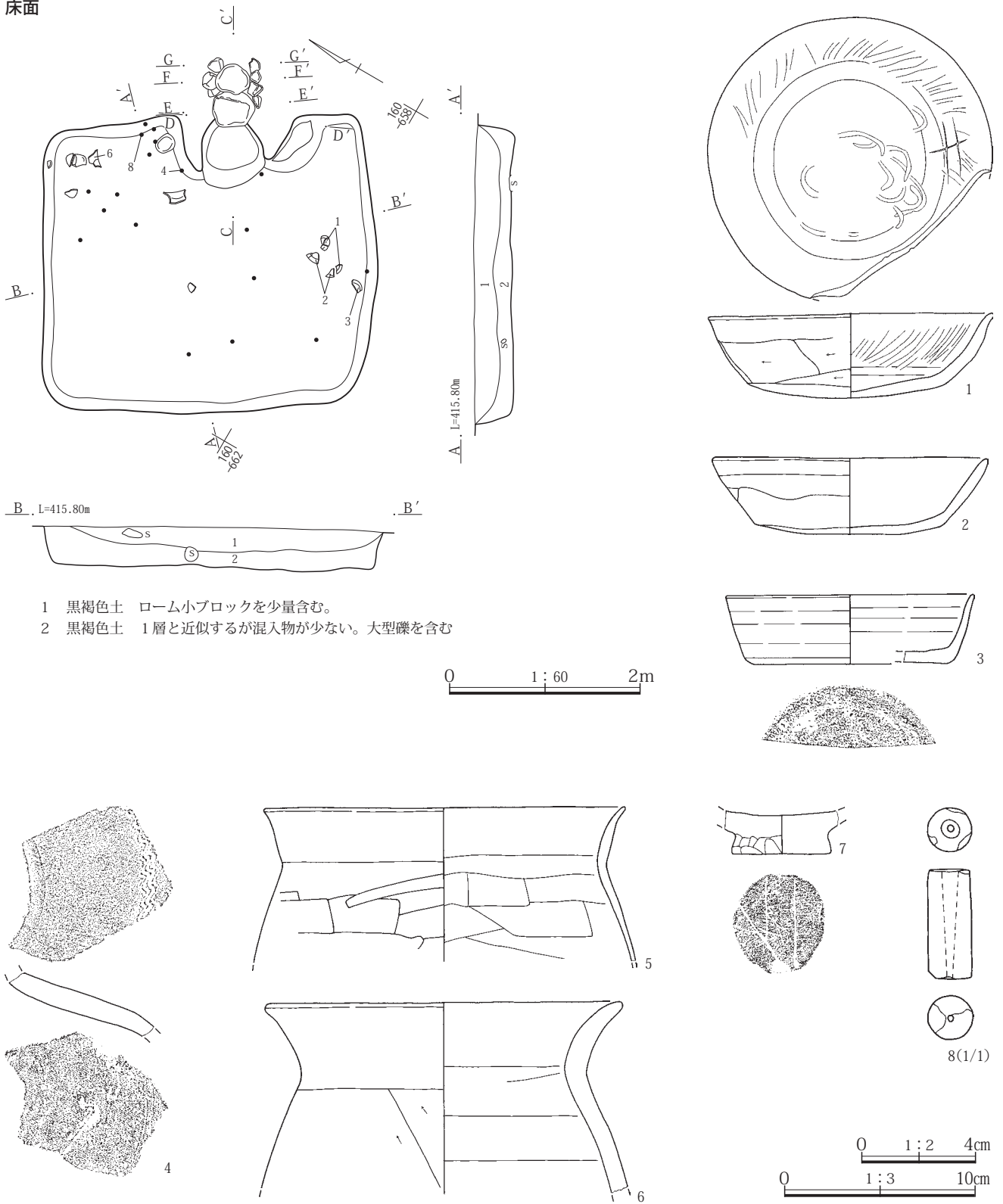
埋没土：黒褐色土を主体に、2～5層に分層できる。なお、1層はAs-Kkを多量に含む2区7号土坑の埋土である。床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化し、南西側の一部はローム面が床面となる。壁高は55～59cmを測り、ほぼ垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-150°-Eを向き、2区34号竪穴建物内の遺構確認下に煙道部の側壁石や天井石が確認できた残存状態の極めて良好な石組みカマドで、34号竪穴建物のカマド左脇を壊して残存する。燃烧部は壁の外側にあり、煙道部はさらに外側に長く突出する。片側7石ないし8、9石からなるカマドの規模は、全長1.91m、幅0.46mを測る。袖は壁から僅かに突き出るように両袖先端の袖石が存在していたようで、その袖石が焚き口部底面に散乱していた。この石組みの配置状況は、袖部先端に長方体状の石を袖石として据え、2～4石目は燃烧部側面の内壁石となり、大型の扁平礫を奥が窄まるように縦並べている。5石目より奥は煙道部となり、燃烧部より一段高い位置から傾斜をもちつつ片側4石ないし5石を連ねる。また、大型の扁平礫4石が煙道部の天井石として煙道側壁石に架かって残存していた。しかし、袖に架かっていたであろう焚き口部天井石は不明。焚き口部から燃烧部の底面にかけては床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥の一段高い位置から斜位に立ち上がり、出口部先端は斜位に立ち上がる。因みに、燃烧部の幅は40cm、煙道部の幅20cm前後を測る。

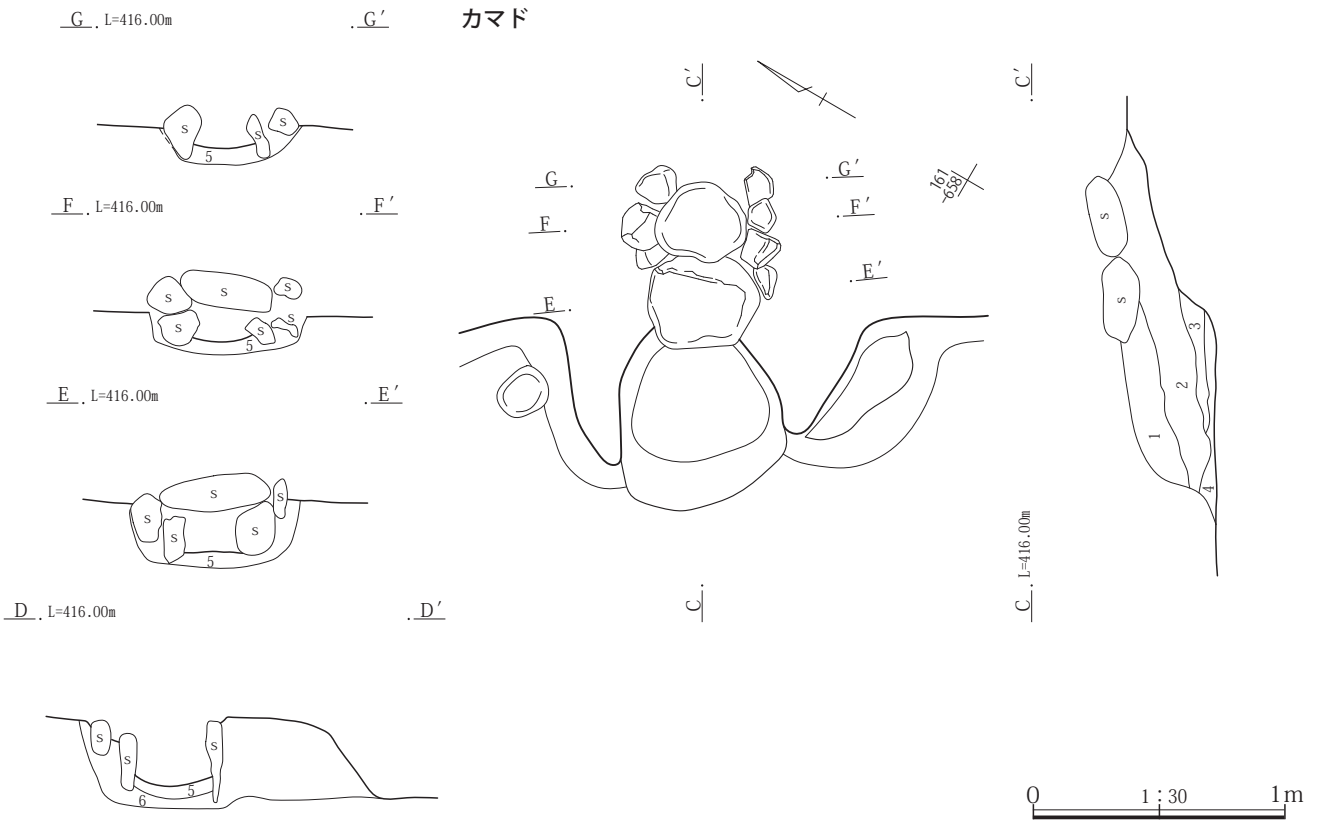
一方、燃烧部と煙道部の構築状況は、周囲を一回り大きめに掘り、側壁石を据えながら構築したものと考えられる。

床面下：床面の一部はローム面であることから、床面下

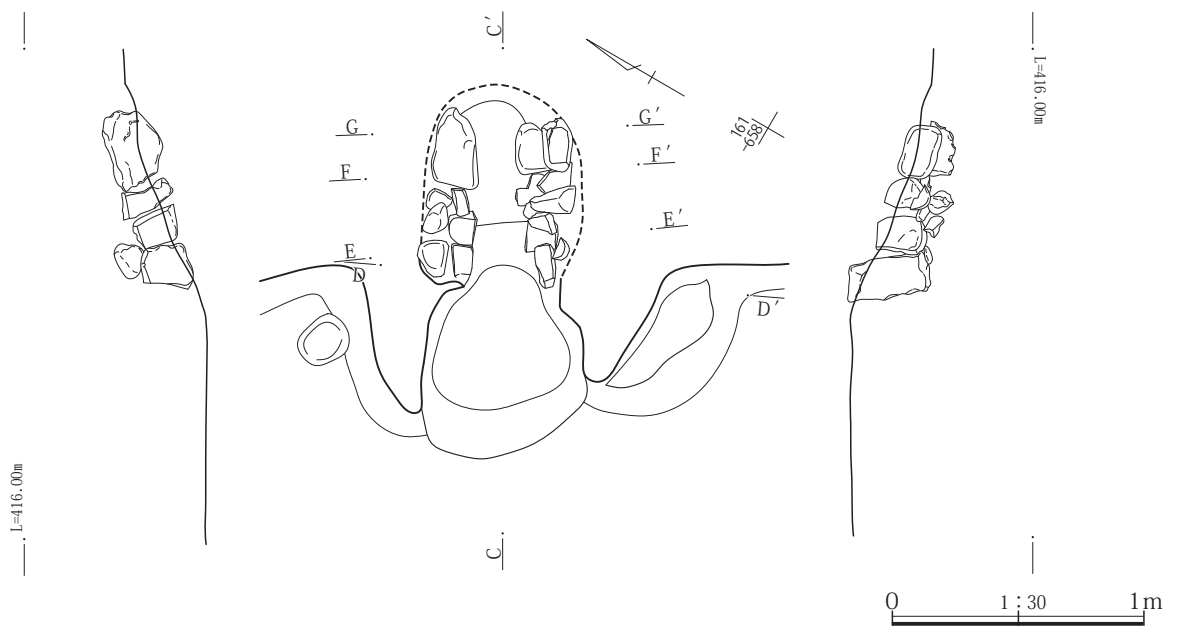
床面



第296図 2区47号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物



- 1 暗黒褐色土 黄橙色の粘土ブロックが少量混入する。(建物2層に相当)
- 2 黒褐色土 黄橙色と赤褐色に焼土化した粘土ブロックが僅かに混入する。
- 3 暗褐色土 赤褐色に焼土化した粘土ブロックを少量含む。
- 4 黒褐色土 黄橙色の粘土塊、焼土化した粘土ブロックを含む。
- 5 黒褐色土 礫を少量、一部に白色の小骨片が混入する。(煙道部構築土)



第297図 2区47号竪穴建物 カマド 平・断面図、側面図

第4章 検出された遺構と遺物

の調査は重複する34号竪穴建物の床面下として扱った。

遺物：出土した遺物量はやや多い。カマド焼き口部から崩落した袖石と共に1の杯が出土し、カマド左側の南東壁際の床面直上に9の椀と17の刻書のある甕の胴部片、南隅付近壁際の床面やや上から12・15の小型台付甕と甕が出土している。また、北西側の床面やや上からは2・3・7の杯が出土している。

出土遺物として、土器17点と石製品1点、金属製品2点、鍛冶関連遺物1点を図示した。1～8は須恵器の杯で、9～11は須恵器の椀。12～14は土師器の小型台付甕で、15・16は土師器の甕。17は須恵器の甕の胴

部片で、外面に「石」の刻書がある。

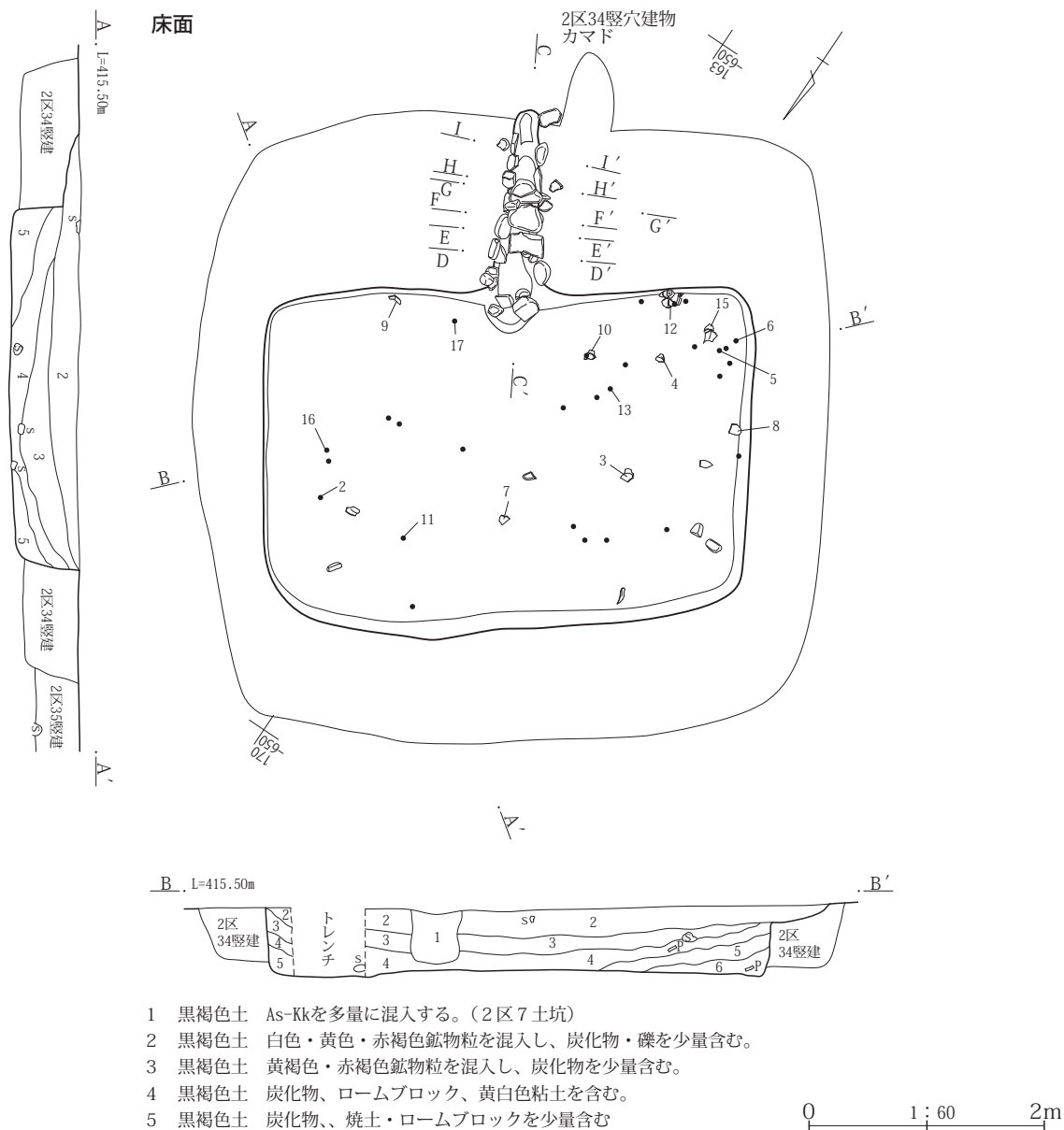
石製品の18は表裏面が平坦となる滑石製の有孔円板状の石製模造品で、鈍い黄橙色をなし、長さ(3.9)cm、幅(2.2)cm、厚さ0.7cmを測る。混入品か。

金属製品の19・20は鉄製で、19は鎌の刃部先端。20は鑿の茎部で、残存長8.2cm、幅1.7cm、厚さ0.5cmを測る。

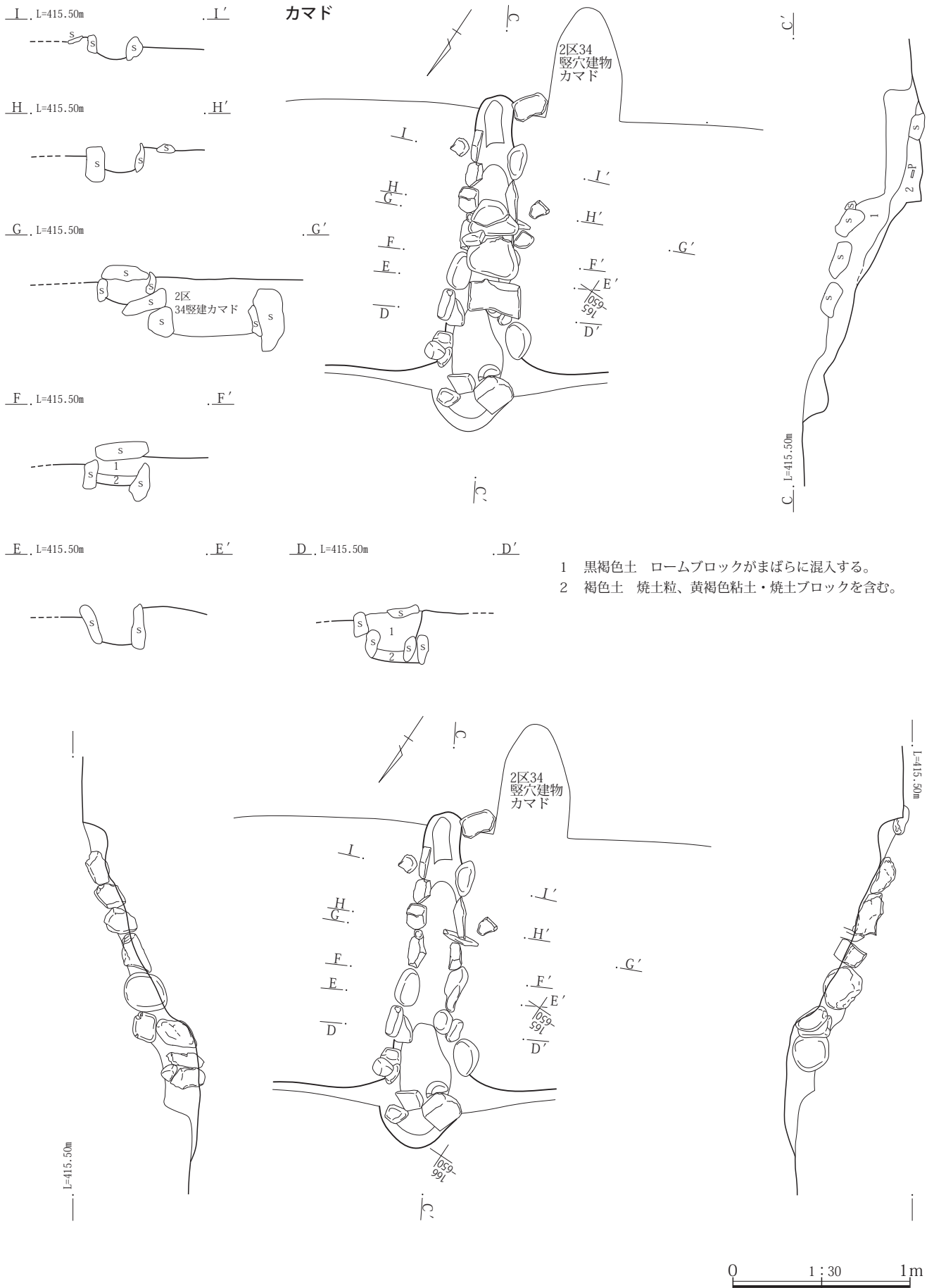
鍛冶関連遺物の21は椀形鍛冶滓で、上面に細かな炭痕が多く残る。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が多くある。

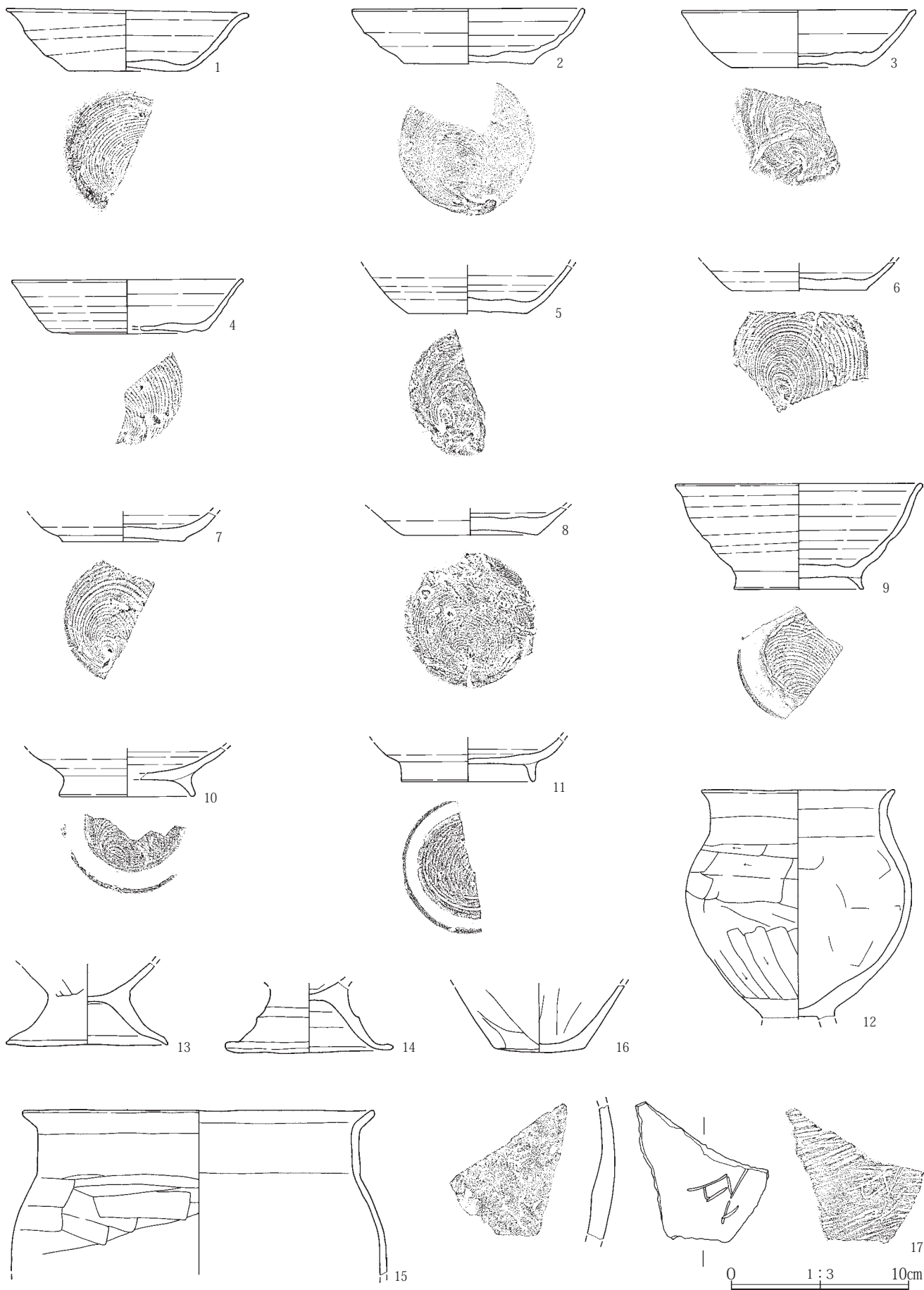
所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀第3四半期と考えられる。



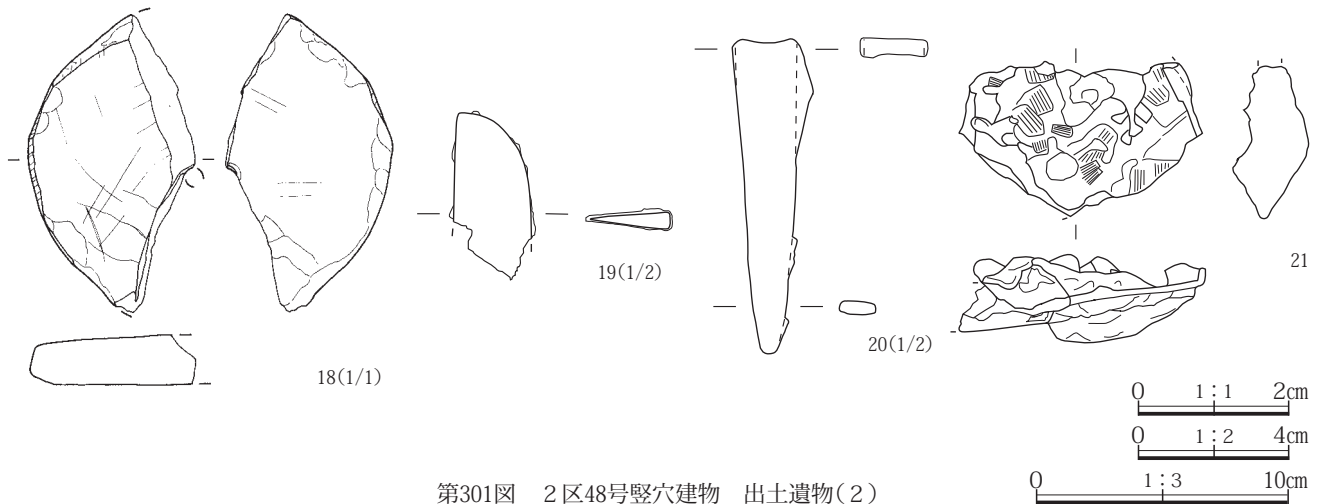
第398図 2区48号竪穴建物 床面 平・断面図



第399図 2区48号竪穴建物 カマド 平・断面図、側面図



第300図 2区48号竪穴建物 出土遺物(1)



第301図 2区48号竪穴建物 出土遺物(2)

2区49号竪穴建物

(第302・303図、第13・109表、PL.57・202)

平成27年度の調査で検出した。2区21号竪穴建物と重複する。重複する建物と同様に遺構確認が難しく、調査途中で判明したものの不明瞭な点が多い。

位置：2区西側の中央付近に位置し、本建物の北東側に2区21号竪穴建物が重複する。北側に2区22・38号竪穴建物、南側に2区9号竪穴建物、西側に2区10・20号竪穴建物が近接する。

グリッド：2D・2E-130

座標値：X=61,147~61,152 Y=-93,646~93,649

重複：本建物の北東側に重複する2区49号竪穴建物が不明瞭であったため、同時に調査し、土層断面の観察に重点を置いた。その結果、調査途中の段階でカマドが確認され、本建物の方が古いことが判明した。

形状：横長長方形

規模：長軸(4.24)m 短軸3.06m 壁高25cm

長軸方向：N-49°-E 床面積：(11.12)m²

埋没土：1層の褐色土を主に、壁際の2層とした黒色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層中位にあり、重複する2区49号竪穴建物との床面の高低差は本建物の方が高い。床面はほぼ平坦と思われるが詳細は不明。壁高は25cm前後を測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：遺構確認では検出できず、調査の途中で確認された。北西壁の中央付近に位置し、カマドの主軸方位はN-35°-Wを向き、残存状態はやや良。燃烧部は壁の内側にある。残存する規模は、全長0.69m、幅0.91

mを測る。袖は壁から50~60cmほど突き出るように残存し、両先端に袖石をもつ。袖石はほぼ垂直に据わる。焚き口部から燃烧部の底面は平坦で、煙道部は燃烧部奥の一段高い位置から斜位に立ち上がる。また、燃烧部内壁は、被熱により焼土化していた。遺構確認では検出できず、調査の途中で確認された。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に黒褐色土を袖部の構築土としている。

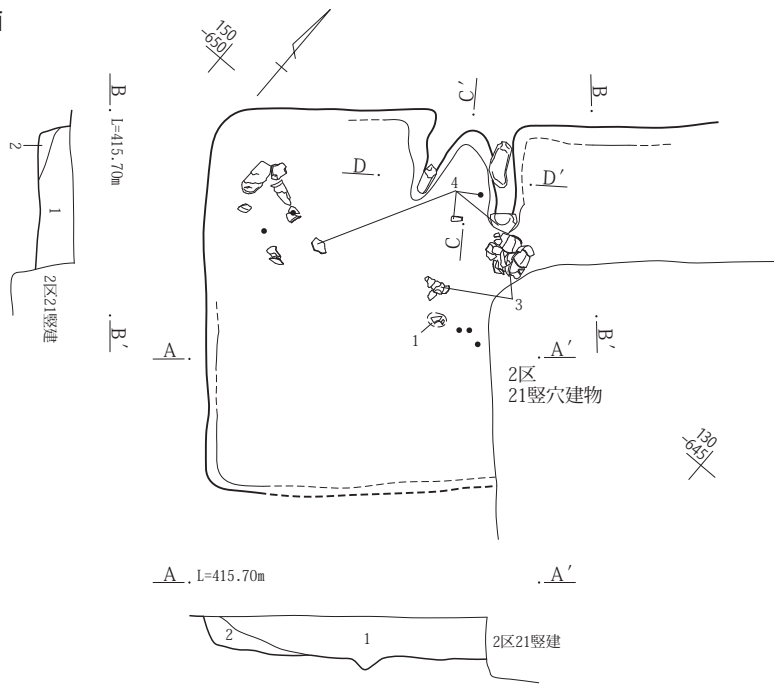
遺物：出土した遺物量は少ない。カマド前の床面直上に4の甕の底部と、横転した3の甕が出土している。また、中央付近の床面直上に1の杯片が出土している。なお、カマドの右袖内から2の椀片が出土している。

出土遺物として、土器4点を図示した。1は須恵器の杯で、2は須恵器の椀か。3・4は土師器の甕で、3はほぼ完形品。

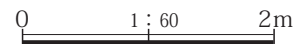
未掲載遺物には、土師器・須恵器片がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から8世紀第3四半期と考えられる。

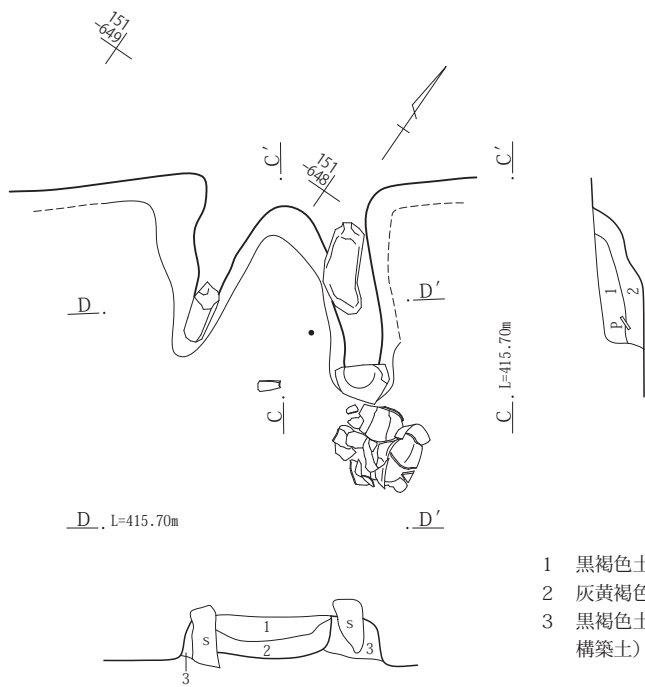
床面



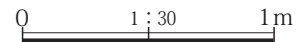
- 1 褐色土 2区21区21区建物1層に類似するが、炭化物が僅かに多く、砂質ぎみ。
- 2 黒色土 黒く、混入物少ない。



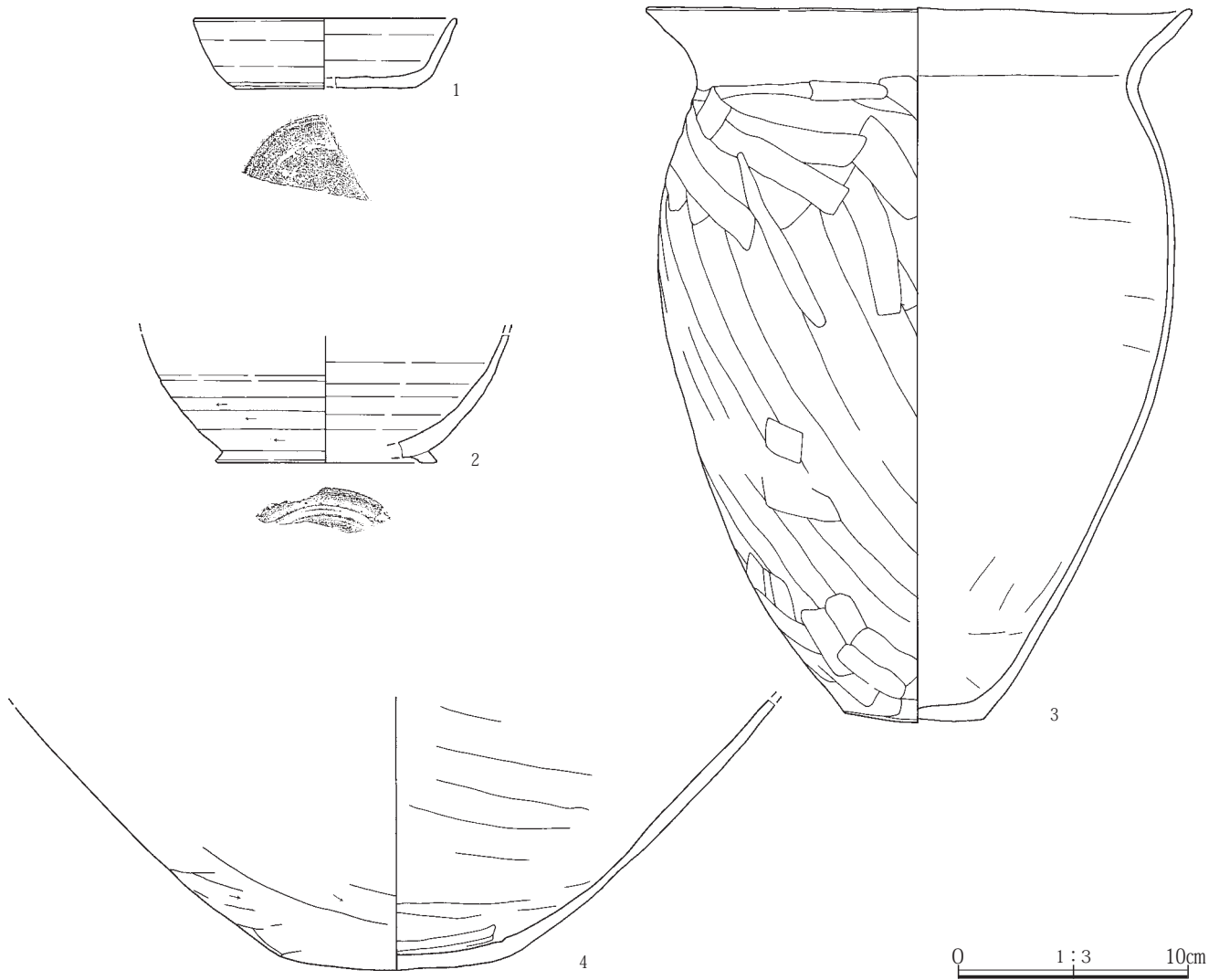
カマド



- 1 黒褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。(建物1層に相当)
- 2 灰黄褐色土 焼土ブロックを多量に、炭化物を含む。
- 3 黒褐色土 白色粘土ブロックを含み、硬く締まりあり。(袖構築土)



第302図 2区49号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第303図 2区49号竪穴建物 出土遺物

2区50号竪穴建物

(第304・305図、第13・110表、PL.58・203)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区中央の南壁際近くに位置し、周囲には北側に2区32号竪穴建物、南東側に2区51号竪穴建物、西側に2区14・15号竪穴建物がある。

グリッド：Y・Z-123~125

座標値：X=61,122~61,127 Y=-93,614~93,620

形状：長方形

規模：長軸4.38m 短軸4.11m 壁高50~55cm

長軸方向：N-52°-E 床面積：15.67㎡

埋没土：1~3層の黒褐色土を主に、壁際の4層とした黒色土とに分層できる。また、床面上には部分的に粘質な黒色土が薄く堆積していた。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、

ほぼ平坦で、カマド前から全体に硬化する。壁高は50~55cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央の東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-56°-Eを向き、残存状態はやや良。燃烧部は壁の内側にあり、外側に煙道部が長く突出する。カマドの規模は、全長2.25m、幅1.23mを測る。残存する袖は壁から45cmほど突出するが、先端部は不明(燃烧部の形状からすると、壊されている可能性が高い)。焚口部および燃烧部の底面は床面よりやや低く、煙道部は燃烧部奥に段をもちながら斜位に立ち上がる。残存する燃烧部内壁は、焼土化していた。

一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後に汚れた白色粘土ブロックを少量含む黒褐色土を袖部の構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右袖前となる東隅付近の南東壁沿いに

第4章 検出された遺構と遺物

位置し、上面形は二重の楕円形を呈し、縦長に長軸150cm、短軸58cm、深さ24cmを測り、黒色土を埋土とする。なお、杯類の遺物の出土が多い。

周溝：東隅付近のカマドから貯蔵穴を除く各壁際を巡る。幅15～20cm、深さ10cm前後を測り、4層と同じ黒色土を埋土とする。

床面下：床面下を調査した結果、10cm前後の掘り込みをもち、底面はやや凹凸ぎみで、汚れた黄褐色ロームブロックを多量に含む暗褐色土を埋土とする。また、床下土坑を2基検出した。床下土坑1はカマド前に位置し、貯蔵穴に接してあり、長軸1.12m、短軸0.75m、深さ15cmを測る楕円形を呈する。床下土坑2は北西壁際であり、長軸1.33m、短軸1.11m、深さ17cmを測る楕円形を呈する。

遺物：出土した遺物量はあまり多くはないが、貯蔵穴内から2・3・7・12といった土師器や須恵器の杯および杯蓋が出土し、その脇の壁際に15の椀、カマド前と北西壁脇の床面直上から9の杯が出土している。

出土遺物として、土器18点を図示した。1～6は土師器の杯で、1～5の内面にはへう磨きを施す。7は須恵器の杯蓋、8～14は須恵器の杯、15・16は須恵器の椀、17は須恵器の短頸壺片であり、18は土師器の甕である。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から8世紀第4四半期と考えられる。

2区51号竪穴建物

(第306～308図、第13・111表、PL.58・59・203・204) 平成27年度の調査で検出した。奈良三彩短頸壺を出土させた建物である。

位置：2区中央の南壁際に位置し、南隅が僅かに調査範囲外となる。周囲に近接する竪穴建物はなく、北西側6.5mに位置する2区50号竪穴建物が最も近い。

グリッド：X・Y-122・123

座標値：X=61,115～61,120 Y=-93,605～93,611

形状：方形

規模：長軸4.61m 短軸4.57m 壁高60cm前後

長軸方向：N-58°-E 床面積：17.24 ? m²

埋没土：1層の暗褐色土および2・3層の黒褐色土、4

層の黒色土に分層できる。また、床面上には大型礫が2石あった。堆積状況はレンズ状をなしているが、黄褐色ブロックを含むことから人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から全体に硬化する。壁高は60cm前後を測り、垂直ぎみに立ち上がる。

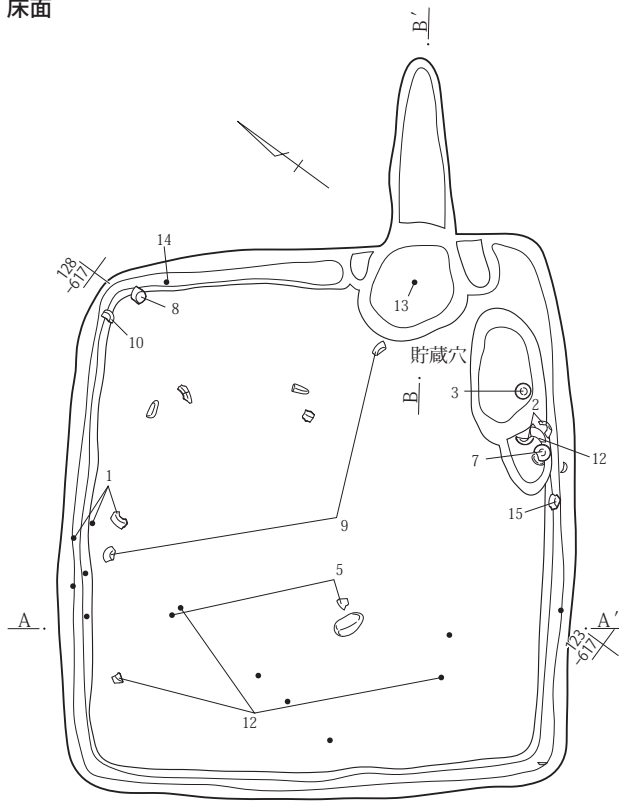
カマド：南東壁のほぼ中央に位置し、カマドの主軸方位はN-145°-Eを向き、残存状態は袖が検出できないなど極めて悪い。燃烧部底面は壁の内側にあり、外側に煙道部が僅かに突出する。カマドの規模は、全長(1.37)m、幅(0.53)mを測る。袖部は残存せず、詳細は不明。しかし、床面中央に出土した長い大型礫が、焚き口部天井石の可能性がある。燃烧部の底面は床面よりやや低く、煙道部は燃烧部奥の一段高い位置から短く急斜位に立ち上がる。なお、カマドの断面で確認された4層の黄褐色ロームの焼土化した大型ブロックは、カマド燃烧部内壁等が崩落したものと考えられ、廃棄に伴う行為の結果と推察する。

貯蔵穴：カマドの右側となる南隅付近の南西壁沿いに位置し、上面形は楕円形を呈し、縦長に長軸130cm、短軸92cm、深さ30cmを測り、黒褐色土と鈍い黄褐色土を埋土とする。なお、杯類の遺物の出土が多い。

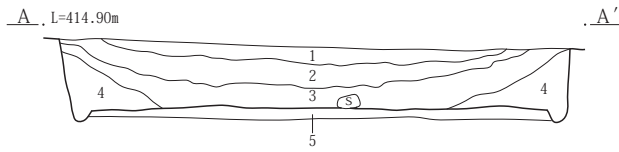
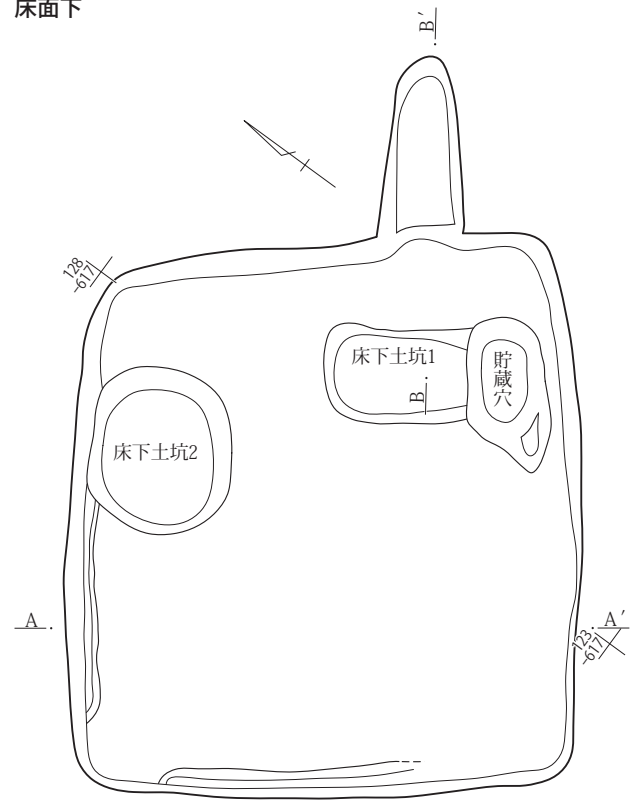
床面下：床面下の掘り込みはないが、床面精査時に床下土坑を5基検出した。床下土坑1は貯蔵穴に接してカマド前の右側に位置し、長軸0.95m、短軸0.86m、深さ39cmを測る楕円形を呈しており、貯蔵穴以前の造作による。床下土坑2は北東壁の中央際にあり、長軸0.92m、短軸0.67m、深さ10cmを測る楕円形。床下土坑3は北隅の壁際にあり、長軸0.80m、短軸0.75m、深さ7cmを測る浅い楕円形。床下土坑4は床面の中央西側にあり、床下土坑5に接し、長軸2.35m、短軸0.75～1.26m、深さ16～25cmを測る不整楕円形。床下土坑5は床面中央にあり、床下土坑4に接し、長軸1.32m、短軸0.64m、深さ21cmを測る楕円形を呈する。これら床下土坑は、黒褐色土を埋土としている。

遺物：出土した遺物量はあまり多くはないが、特筆すべきは奈良三彩短頸壺を出土させていることが挙げられる。14の奈良三彩短頸壺は、西隅の床面直上に正位で、口縁部を一部欠いた状態で出土した。この口縁部の欠

床面

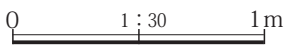
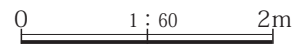
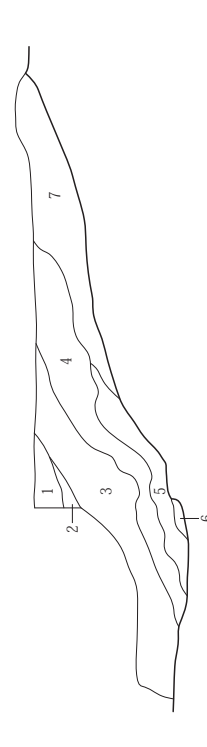
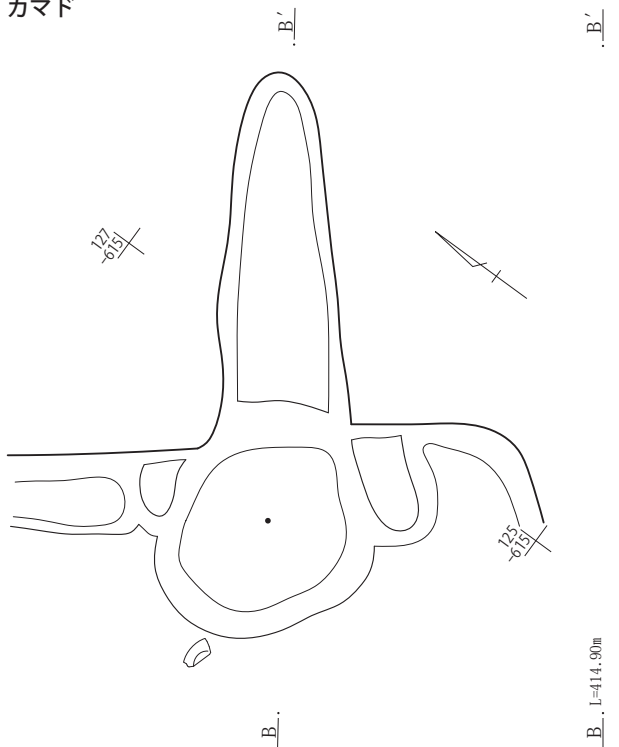


床面下



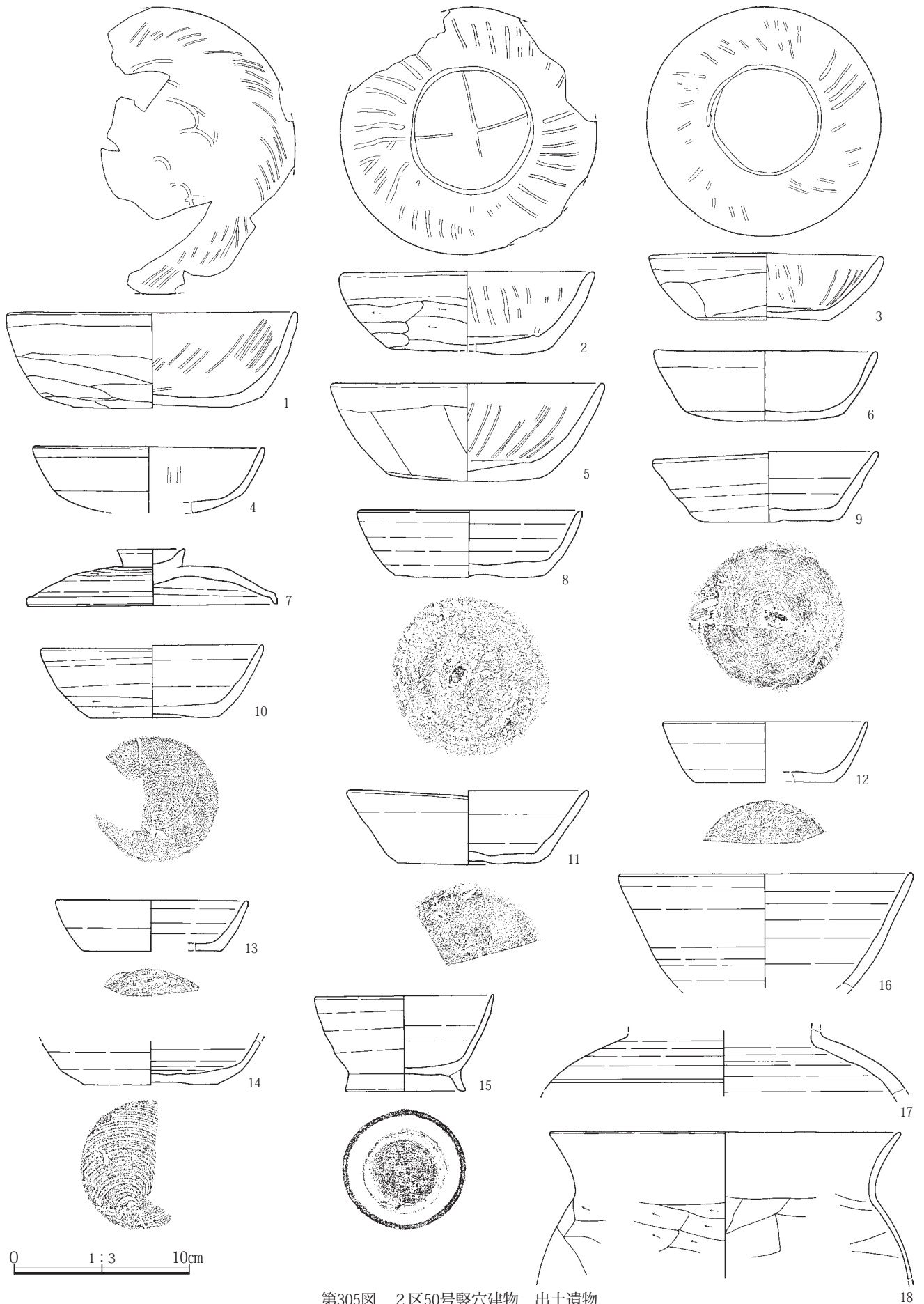
- 1 黒褐色土 黄色鉱物粒、焼土粒、炭化粒を含む。
- 2 黒褐色土 1層よりもやや明るく、黄色・白色鉱物粒、焼土粒、炭化粒を多く含む。
- 3 黒褐色土 黄橙色ブロックを少量、焼土粒、炭化粒、白色粘土ブロックを含む。
- 4 黒色土 焼土粒、炭化粒、汚れた黄橙色大ブロックを少量含む。
- 5 黒褐色土 汚れた黄褐色ロームブロックを多量に含み、硬く締まる。(床下土)

カマド



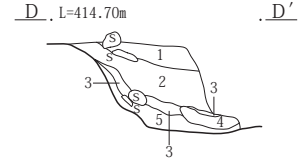
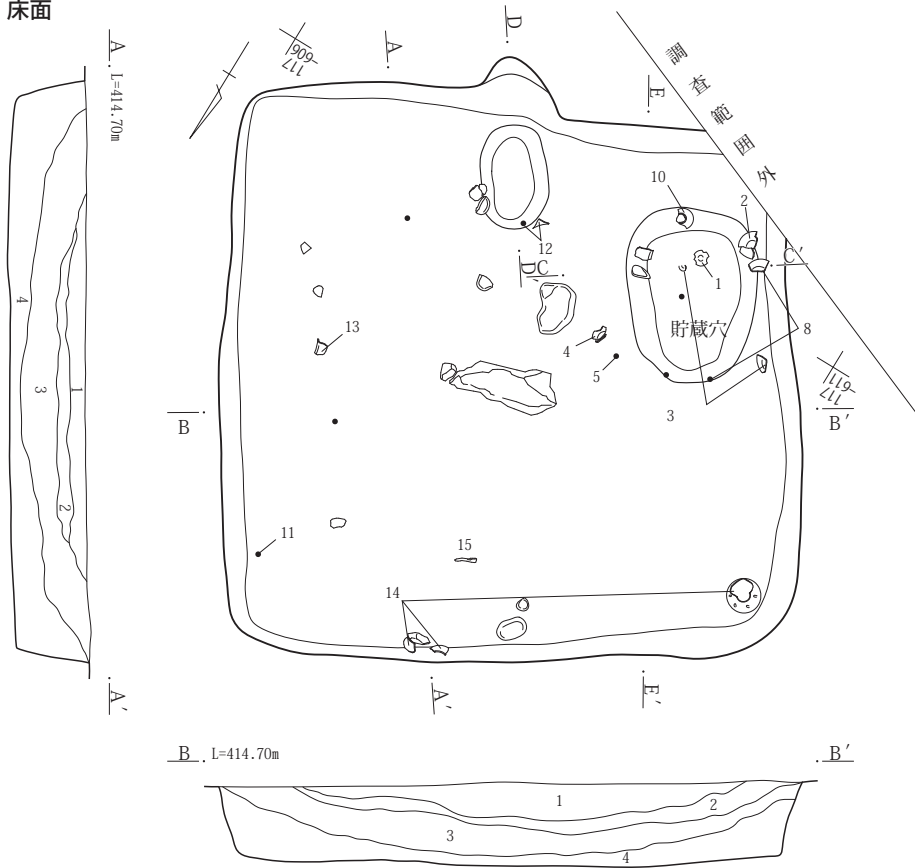
- 1 黒褐色土 黄橙色ブロックを少量、焼土粒、炭化粒、白色粘土小ブロックを含む。
- 2 明黄褐色土 明黄褐色ロームブロックを主体とする。
- 3 黒色土 焼土粒が多く、炭化粒、汚れた黄褐色ブロックを少量含む。
- 4 鈍い黄褐色土 焼土大ブロック、明黄褐色ロームブロックを多く含む。
- 5 赤褐色土 焼土粒を多量に、汚れたロームブロック粒を混在する。
- 6 黒色土 黒色の灰を主体とし、かなり粘質。
- 7 黒褐色土 明黄褐色小ブロックを微量含む。

第304図 2区50号竪穴建物 床面、床面下、カマド 平・断面図



第305図 2区50号竪穴建物 出土遺物

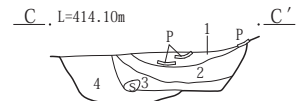
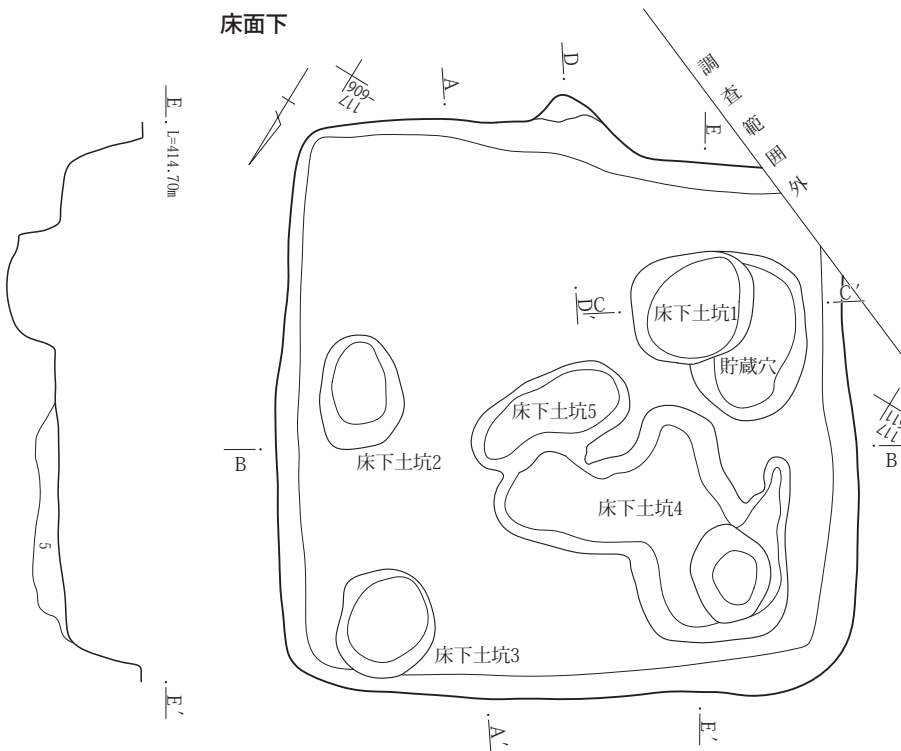
床面



- 1 黒褐色土 焼土粒、黄橙色ブロックを微量含む。(建物3層に相当)
- 2 黒色土 焼土粒、白色粘土ブロック、炭化物を少量含む。(建物4層に相当)
- 3 灰黄褐色土 黄褐色ローム粒、焼土ブロックを含む。
- 4 赤色土 黄褐色ロームの焼土化ブロック。(カマド崩落土か)
- 5 黒色土 3層に近いが黒く混入物が細かい。

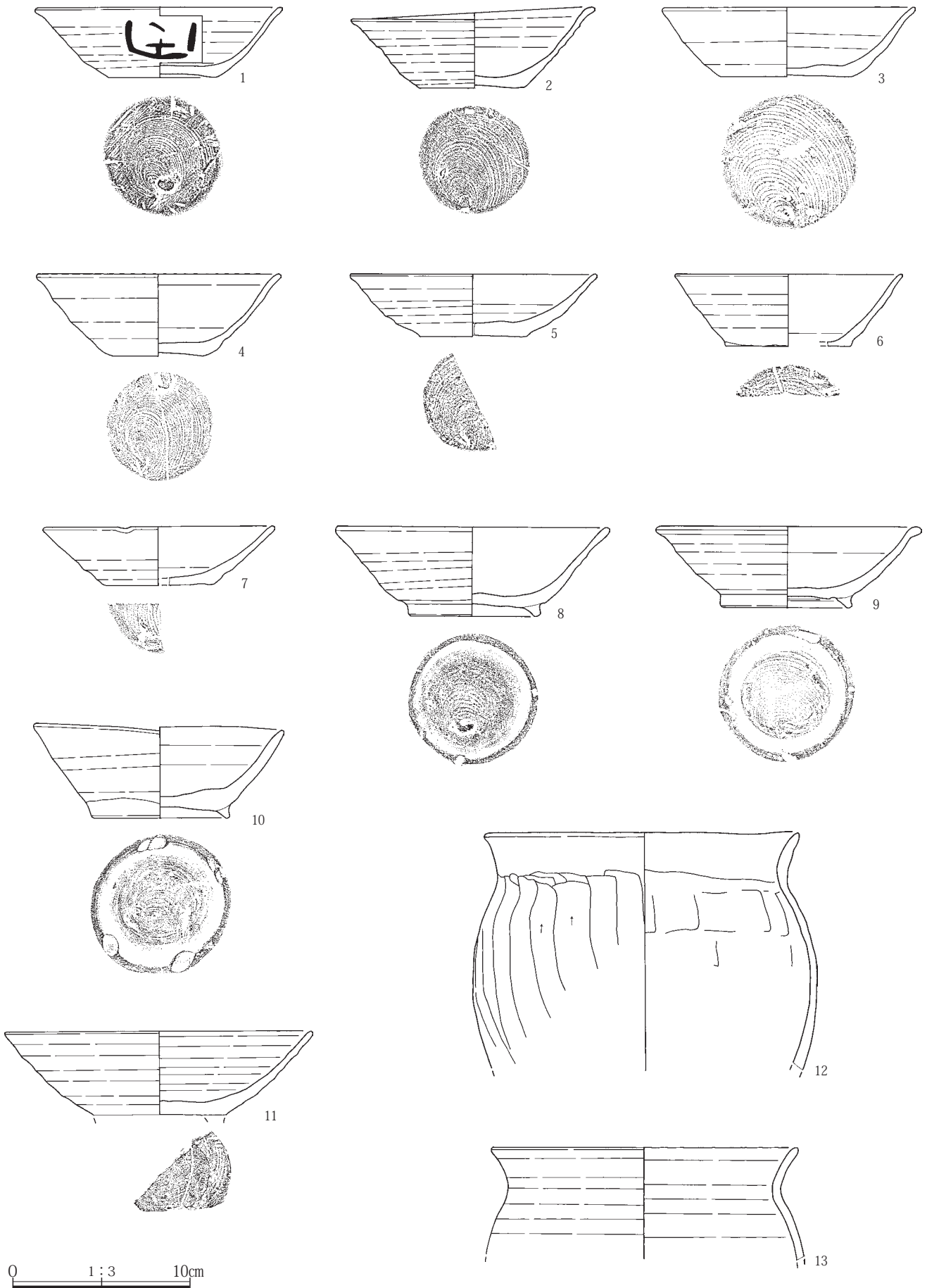
- 1 暗褐色土 白色粒、黄橙色ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 黄橙色ブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土 黄橙色ブロックを微量含む。
- 4 黒色土 混入物のほとんどない粘質土。

床面下



- 1 黒褐色土 ローム粒、炭化物を多く含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色ロームブロックを少量含む。
- 3 鈍い黄褐色土 黄褐色ローム・焼土ブロックを多量に含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒、汚れたロームブロックを少量含む。(床下土坑1)

第306図 2区51号竪穴建物 床面、床面下、カマド他 平・断面図



第307図 2区51号竪穴建物 出土遺物(1)

いた破片は、北西壁中央付近の壁際に出土している。また、貯蔵穴内から1の杯、貯蔵穴周辺の床面直上に2～4の杯および10の椀が出土し、カマド前から12の甕が出土している。さらに、北西壁中央付近の床面直上には15の金属製品が出土している。

出土遺物として、土器14点と金属製品1点を図示した。1～7は須恵器の杯で、1の体部外面に逆位で「田」の墨書がある。8～11は須恵器の椀。12は土師器の甕で、13は須恵器の甕である。14は口径13.0cm、高さ18.7cm、胴部最大径25.0cm、底径13.9cmを測る大型の奈良三彩短頸壺である。胎土は緻密で夾雑物は無く、素地は白色。施釉範囲は内外面の全面に及ぶ。外面胴部から口縁部には緑色・透明・褐色の釉薬が施釉され、外面底部と内面は緑色釉のみ。なお、外面胴部に器面剥落が広く見られる。

金属製品の15は先端を欠く鉄製の鉈で、両側を刃部とし、裏面中軸を凹ませ、茎部は刃部から45度ほど曲がる。残存長14.2cm、幅2.3cm、厚さ0.8cmを測る。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が少量あり、他に灰釉椀の小片がある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀第4四半期と考えられる。なお、本建物の周囲は他の遺構が希薄で、最も近い同時期の竪穴建物としては北北東側15mに金属製品を多く出土させた2区61号竪穴建物、その北側に2区72号竪穴建物、北西側23mに「吾」の墨書のある椀を出土させた2区26号竪穴建物等の建物を取り巻くように点在し、さらに東北東から東側にかけての20m前後の位置には1間×1間の小型な掘立柱建物が数棟群がるようがある。こうした周囲の状況は、希少な奈良三彩短頸壺を出土させた建物としての特異性を垣間見ることができる。

2区52号竪穴建物(第309図、第13・112表、PL.60・204)

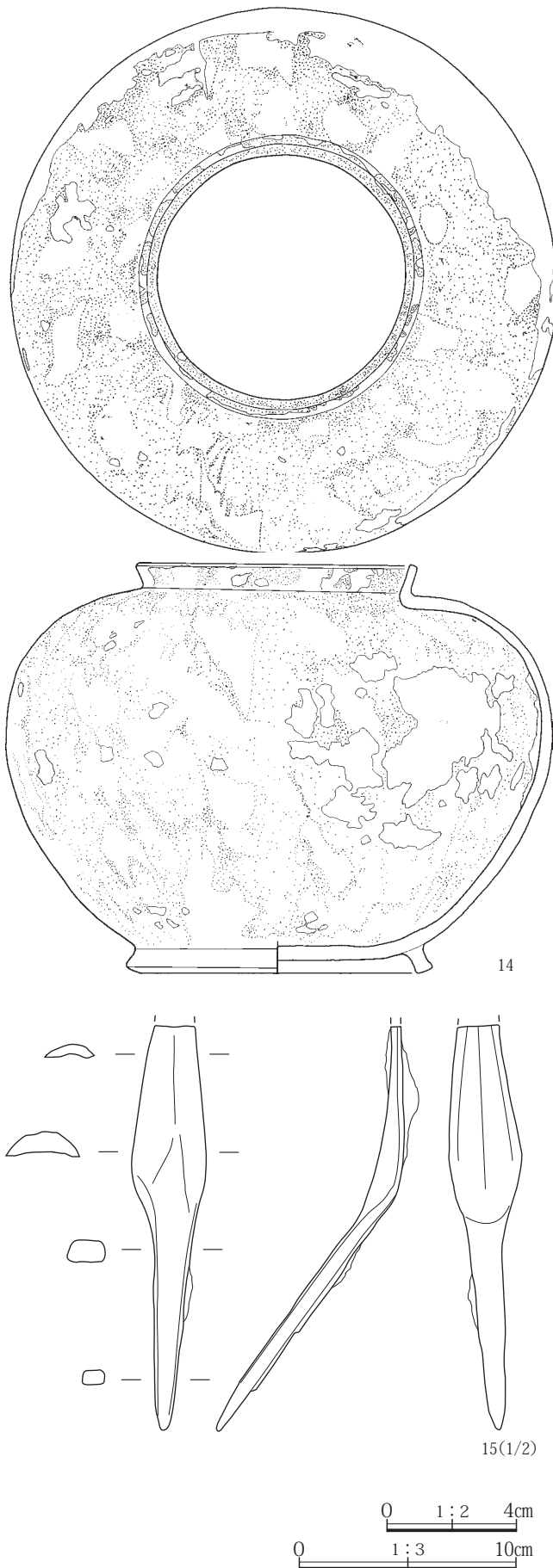
平成27年度の調査で検出した。床面までは浅く、残存状態は極めて悪い。

位置：2区中央付近の南壁寄りに位置し、東側に2区53号竪穴建物が近接する。

グリッド：X・Y-119・120

座標値：X=61,117～61,120 Y=-93,592～93,596

形状：横長長方形



第308図 2区51号竪穴建物 出土遺物(2)

第4章 検出された遺構と遺物

規模：長軸3.14m 短軸2.35m 壁高4cm前後
 長軸方向：N-52°-E 床面積：6.54㎡
 埋没土：1・2層の黒褐色土を主体とする。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下位にあり、ほぼ平坦で、やや硬化ぎみ。また、カマド前周辺の床面上には、白色粘土が薄く堆積する。壁高は4cm前後。
 カマド：北西壁中央の北側にかなり寄って位置し、カマドの主軸方位はN-37°-Wを向き、残存状態は極めて悪い。燃烧部は壁の外側にあり、煙道部は外側へ短く突出する。残存規模は、全長0.46m、幅0.40mを測るが詳細は不明。袖も判然としない。

遺物：出土した遺物は、僅かに図示した1の土師器の甕の胴部のみである。

所見・時期：建物の時期は、出土土器が少なく判然としないが7世紀か。

2区61号竪穴建物

(第310～315図、第13・120表、PL.65・66・210・211)
 平成28年度の調査で検出した。

位置：2区の中央付近に位置し、北側に2区72・78・95号竪穴建物、東側に2区73号竪穴建物、北西側に2区43号竪穴建物が近接する。また、南東側15mに奈良三彩短頸壺が出土した同時期の2区51号竪穴建物がある。

グリッド：2A・2B-119～121

座標値：X=61,133～61,139 Y=-93,594～93,601

形状：横長長方形

規模：長軸5.78m 短軸4.50m 壁高7～15cm

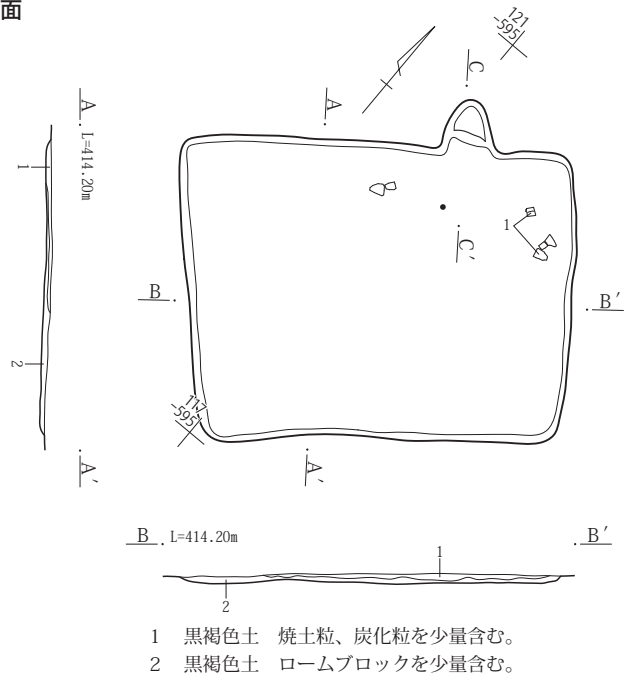
長軸方向：N-43°-W 床面積：23.18㎡

埋没土：1層の黒褐色土を主に、壁際の2層の黒褐色土に分層できる。また、床面直上および埋土中に大中の礫が混入しており、人為的堆積の可能性が強い。

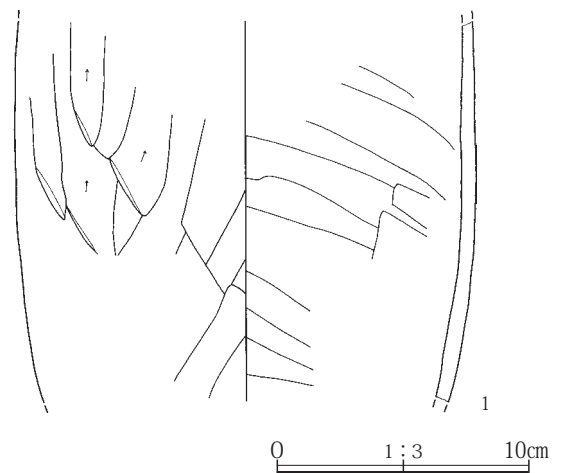
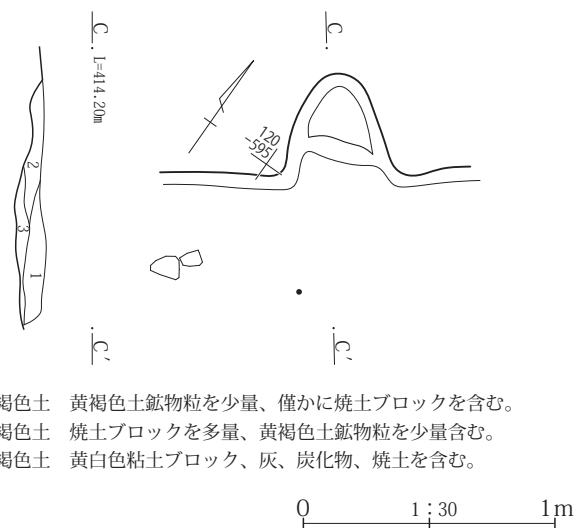
床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序Ⅵ層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけてが硬化が著しい。壁高は7～15cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：南東壁中央のやや南寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-128°-Eを向き、遺構確認時に煙道部の側壁石や天井石が確認できた残存状態の極めて良好な石組みカマドである。燃烧部は壁の外側にあり、煙道

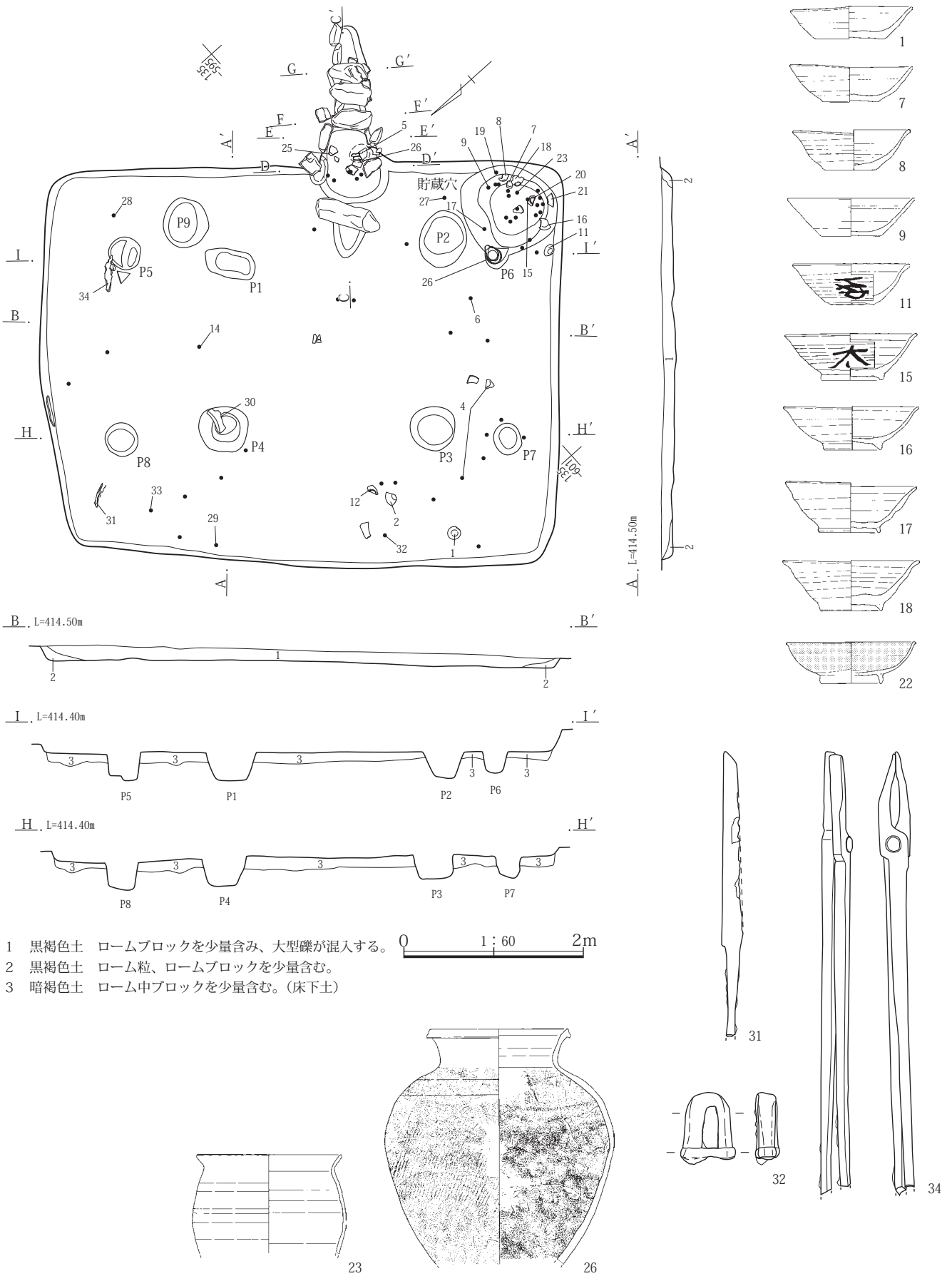
床面



カマド



第309図 2区52号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図、出土遺物



第310図 2区61号竪穴建物 床面 平・断面図

部はさらに外側に長く突出する。片側7石が連なるカマドの規模は、全長1.90m、幅1.25mを測る。袖は壁から僅かに突き出るように袖石が存在するが、燃焼部にかかる大型の石であり、右袖石は焚き口部底面に倒れていた。また、両袖石に架かっていたであろう焚き口部天井石はカマド前に検出され、長さ75cm、幅25cm、厚さ23cmを測る長い大型礫である。石組みの配置状況は、袖部を含む燃焼部側面の内壁石に、大型の扁平礫ないし平石を片側2石づつ並べ据え、3石目より奥は煙道部側壁石となる。煙道部は燃焼部底面より傾斜をもちつつ片側4石ないし5石を連なるように残存するが、右側壁の先端の側壁石は不明。また、大型の扁平礫3石が煙道部の天井石として煙道側壁石に架かって残存していた。焚き口部から燃焼部の底面にかけては床面より僅かに低くなり、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がる。因みに、燃焼部の幅は45cm、煙道部の幅20cm前後を測る。

一方、燃焼部と煙道部の構築状況は、周囲を一回り大きめに掘り、側壁石を据えながら構築したものと考えられる。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置し、上面形は楕円形で長軸52cm、短軸36cm、深さ17cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸26～45cm、短軸24～39cm、深さ24cm前後を測り、埋土は黒褐色土である。また、各主柱穴の脇に補助柱的なP5～8も検出している。上面はやや小さな円形で、径24～39cm、深さ24cm前後を測り、埋土は黒褐色土である。他にP9をも検出した。

床面下：床面下には10～15cm前後の掘り込みをもち、ロームブロック含む暗褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物量は比較的多い。カマド燃焼部内からは5の杯、25の甕の口縁部片、26の甕の胴部が出土しており、この26の口縁部はP6の上面となる床面直上に出土している。また、南隅の床面直上および貯蔵穴上面からは11の杯と21の椀が南西壁際に出土し、貯蔵穴内からは7～10の杯と15～20・22の椀、23・24の甕が出土している。西隅付近の床面直上ないし床面やや上からは1・2の杯と12の椀、32の金属製品(刀装具)

が、P4の上面からは30の砥石、北隅の床面直上からは31の刀子、東隅の床面やや上からは34の鉗が出土している。埋土中からの遺物も多い。

出土遺物として、土器26点と石製品4点、金属製品4点を図示した。1～11は須恵器の杯で、11の外面体部には「吾」の墨書がある。12～21は須恵器の椀で、15の外面体部には「太」の墨書がある。22は灰釉陶器の椀。23～25は土師器の甕で、26は須恵器の甕である。

石製品には27・28の滑石製の白玉、29・30の砥沢石製の砥石がある。27は鈍い黄橙色をなし、径1.0cm、厚さ0.8cm、孔径約2mm、重さ1.0gを測る。28は灰白色をなし、径0.9cm、厚さ0.7cm、孔径約2mm、重さ0.96gを測る。29は完形の砥石で、表裏面と両側面に砥面をもち、上端に孔を有する。長さ7.2cm、幅3.4cm、厚さ5.9cm、孔径約4mm、重さ100.2gを測る。30は大型の砥石で、表裏面と左側面が砥面となるが、中央部が研ぎ減りした表面が主要砥面となる。長さ17.3cm、幅5.0cm、厚さ5.9cm、重さ732.4gを測る。

金属製品は全て鉄製である。31は刀子の完形品で、長さ21.3cm(刃長13.7cm)、最大幅1.6cmを測る。32は完形の刀装具(柄頭)で、先端が丸く、袋状にした状態で基部側に鉄帯を巻き、峰側と刃側で厚みを変えている。長さ4.8cm、最大幅3.5cm、厚さ1.6cmを測る。33は欠損した釘片で、残存長3.5cm。34は大型の鉗の完形品で、長さ32.8cm、最大幅2.0cm、厚さ1.2cmを測り、先端の掴み部は平らな長方形をなし、柄の断面は方形の角棒となる。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が多量にある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀第4四半期と考えられる。

2区62号竪穴建物

(第316・317図、第13・121表、PL.66・67・212)

平成28年度の調査で検出した。2区75・76号竪穴建物と重複する。なお、第1面調査時の2区57号土坑に、建物の一部を壊されている。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南東側の一角に位置し、北側に2区75・76号竪穴建物が重複する。また、北側に2区88号竪穴建物、南東側に2区58号竪穴建物、南西側に2区57・65号竪穴建物、西側に2区59・82号

竪穴建物が近接する。

グリッド：W～Y-112～114

座標値：X=61,114～61,121 Y=-93,559～93,566

重複：本建物の北側に2区75号竪穴建物が僅かに、2区76号竪穴建物と大きく重複する。遺構確認および土層断面の確認から、新旧はいずれの建物より本建物の方が新しい。

形状：方形

規模：長軸5.52m 短軸5.03m 壁高23～30cm

長軸方向：N-66°-W 床面積：25.58㎡

埋没土：黒褐色土を主体に、1・2層および壁際の3層のみに分層できる。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけて硬化する。なお、重複する2区76号竪穴建物の床面より、本建物の床面の方が高い。壁高は23～30cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央の東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-24°-Eを向き、残存状態はやや良。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側に突出する。カマドの規模は、1.51m、幅1.21mを測る。袖は壁から70cmほど突き出るようにあり、右袖先端に袖石が残る。また、燃烧部の内壁には大型の壁石が縦長に1石残存していることから、石組みカマドであったものと考えられる。しかし、左袖側には残存していない。カマド周辺からも石組みにかかわる礫は出土していない。焚口部から燃烧部の底面にかけては床面より低くなり、煙道部は燃烧部奥の一段高い位置から緩く立ち上がる。

一方、燃烧部と煙道部の構築状況は、床面構築後に側壁石を据えながら5層の暗褐色土、6層の鈍い褐色土で構築している。

貯蔵穴：2基の貯蔵穴を検出した。貯蔵穴1はカマドの右側となる東隅に位置し、上面形は不整楕円形で、長軸100cm、短軸80cm、深さ18cmを測り、褐色土を埋土とする。貯蔵穴2は貯蔵穴1の南隣にP2に接しており、上面形は楕円形で、長軸98cm、短軸64cm、深さ15cmを測り、褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸48～74cm、短軸40～73cm、深さ44～53cmを測り、埋土は上位に黄褐色土と下位に

褐色土である。また、P5～7のピットをも検出した。概ね円形で、径40～48cm、深さ15～20cmを測り、埋土は黄褐色土と褐色土である。

周溝：カマドを除く各壁際を巡り、幅15cm前後、深さ10cmを測り、3層の黒褐色土を埋土とする。

床面下：床面下には10～15cm前後の掘り込みをもち、4層とした焼土ブロックを多量に含む鈍い黄褐色土、5層のロームブロック含む暗褐色土を埋土として硬く締まる。また、P4に接するように床下土坑を検出した。床下土坑は西隅付近にあり、長軸1.35m、短軸1.15m、深さ80cmを測る楕円形で、中型礫が多量に混入した暗褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物量はあまり多くなく、埋土中からの遺物がほとんどである。床面直上の遺物としては、南西壁中央付近の壁際に長さ15～20cm前後の扁平礫が5石出土している。薦網石の可能性が高いが、図示していない。

出土遺物として、土器6点と石製品1点を図示した。1～3は土師器の杯で、内面にヘラ磨きを施す。4は須恵器の杯蓋。5は土師器の甕底部で、6は須恵器の甕片である。

石製品の7は滑石製の紡輪で、丁寧な研磨が施され、径5.0cm、厚さ1.7cm、孔径約6mmを測る。

未掲載遺物には、土師器片や須恵器の甕片が多量にある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。

2区66号竪穴建物

(第318図、第13・124表、PL.69・214)

平成28年度の調査で検出した。2区37号竪穴建物と重複し、建物の大半は北側の調査範囲外となる。

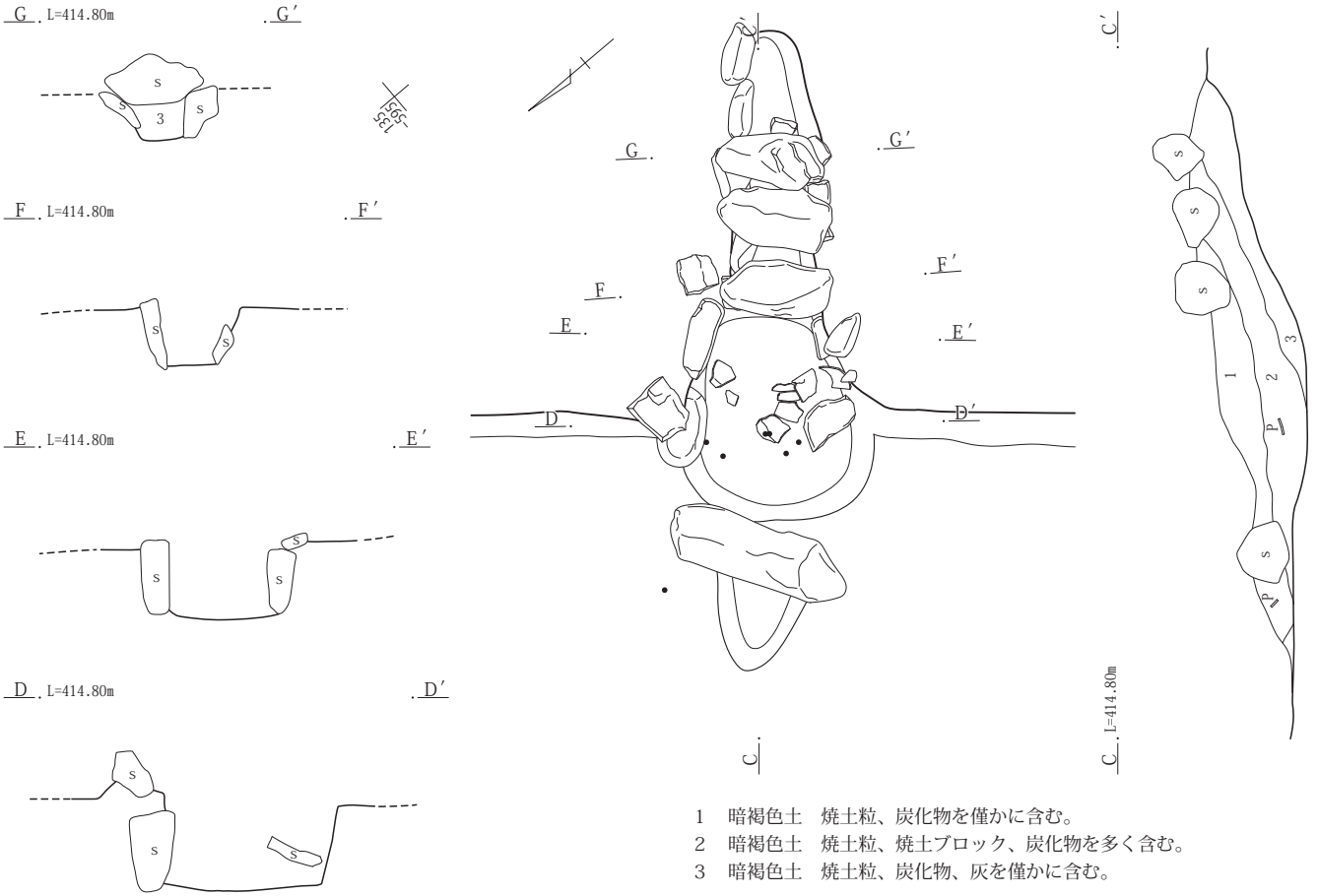
位置：2区西側の北壁際に位置し、南側に2区37号竪穴建物が僅かに重複する。また、東側および南東側に2区39・99号竪穴建物、南西側から西側にかけて2区34～36・48・101号竪穴建物が近接する。

グリッド：2I-129・130

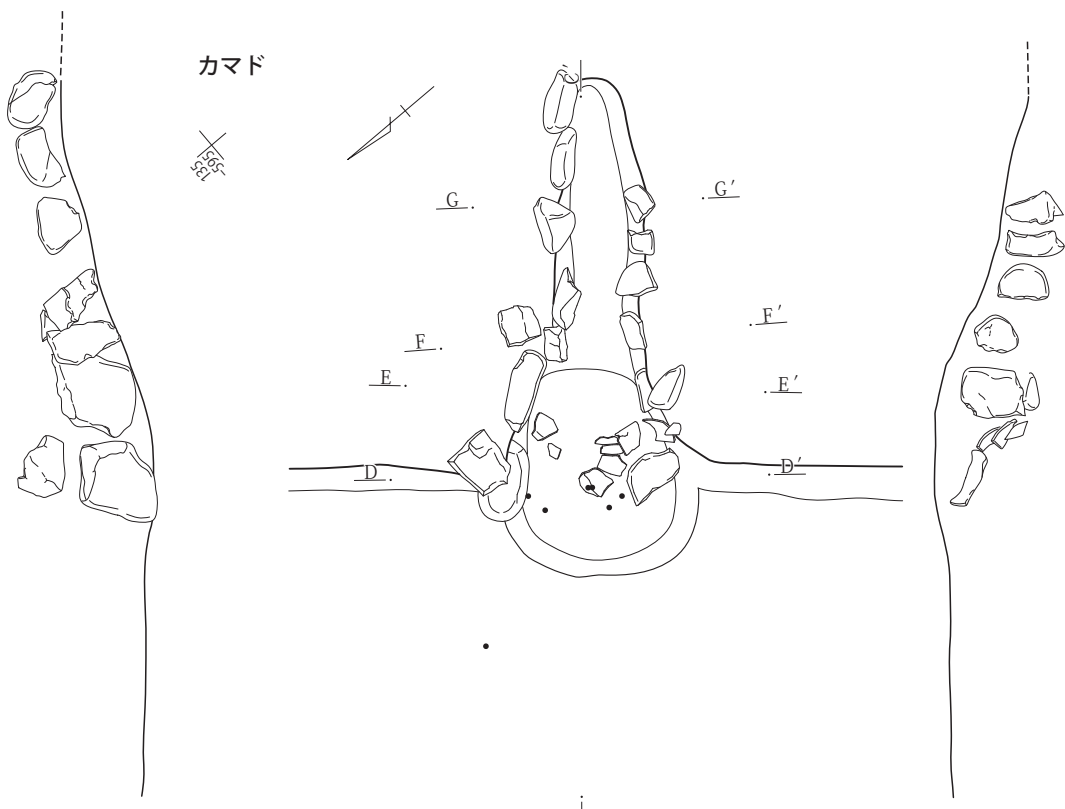
座標値：X=61,170～61,174 Y=-93,641～93,645

重複：本建物の南隅に2区39号竪穴建物が僅かに重複する。遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本建

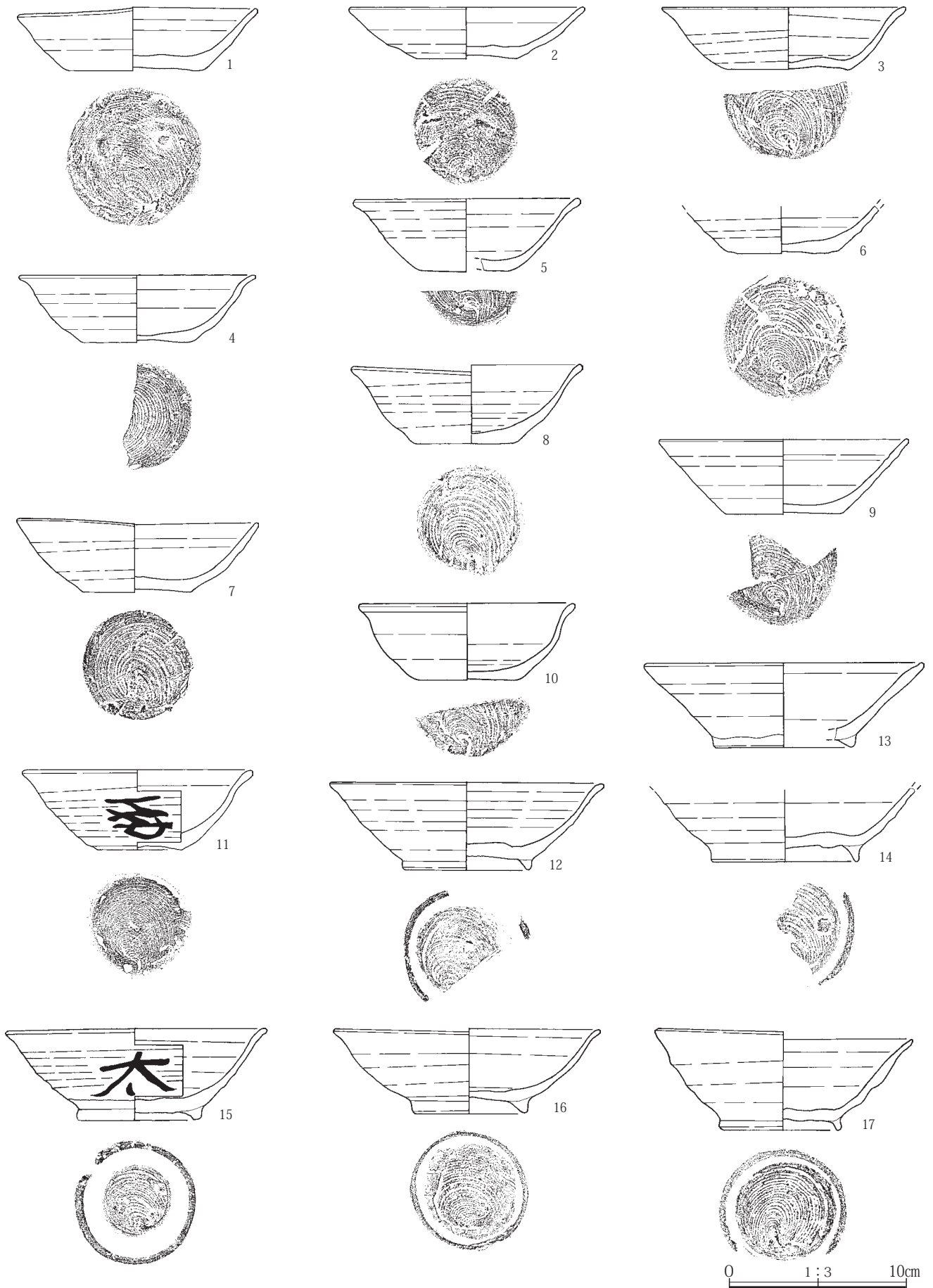
第4章 検出された遺構と遺物



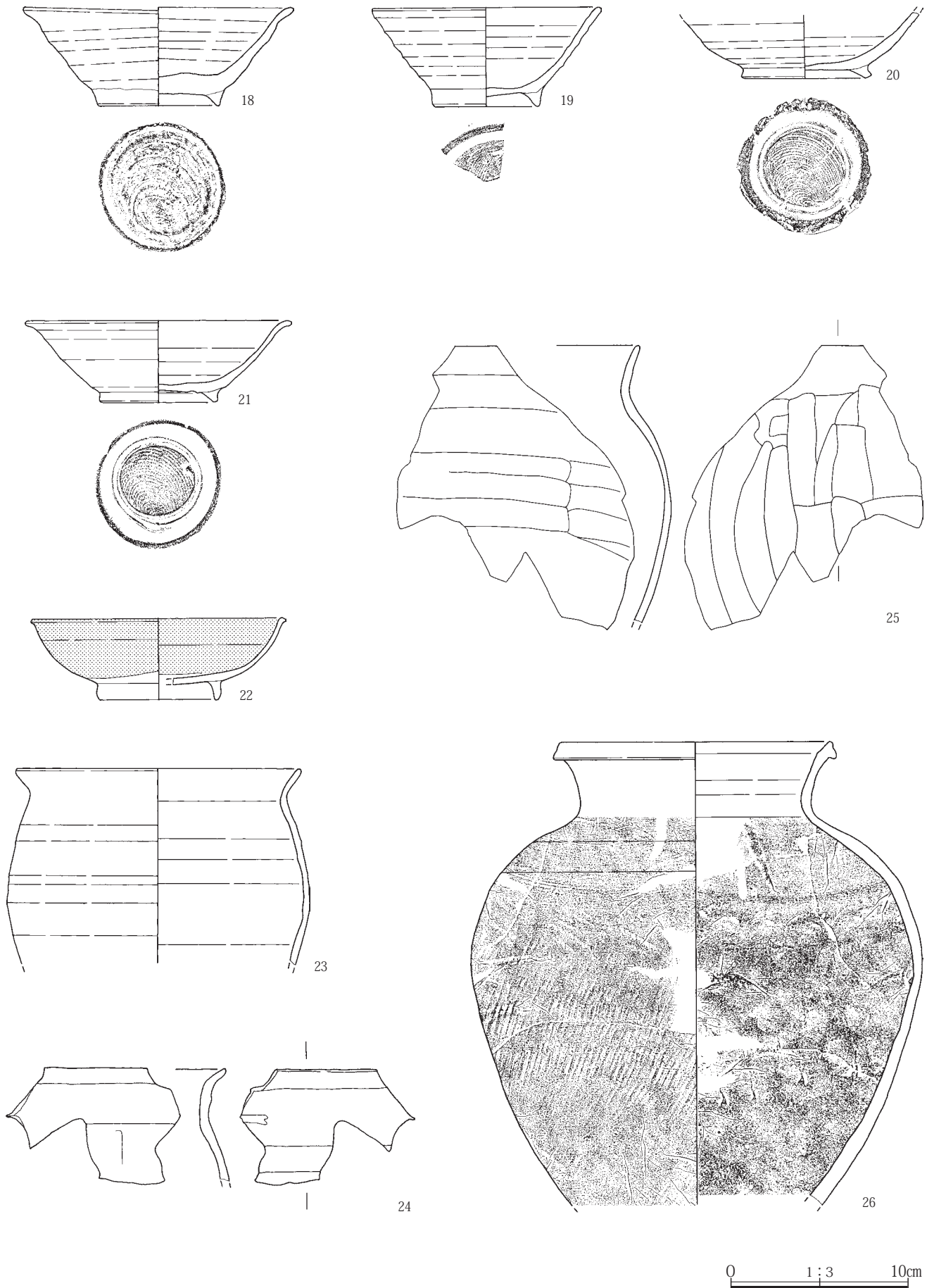
L=415.00m



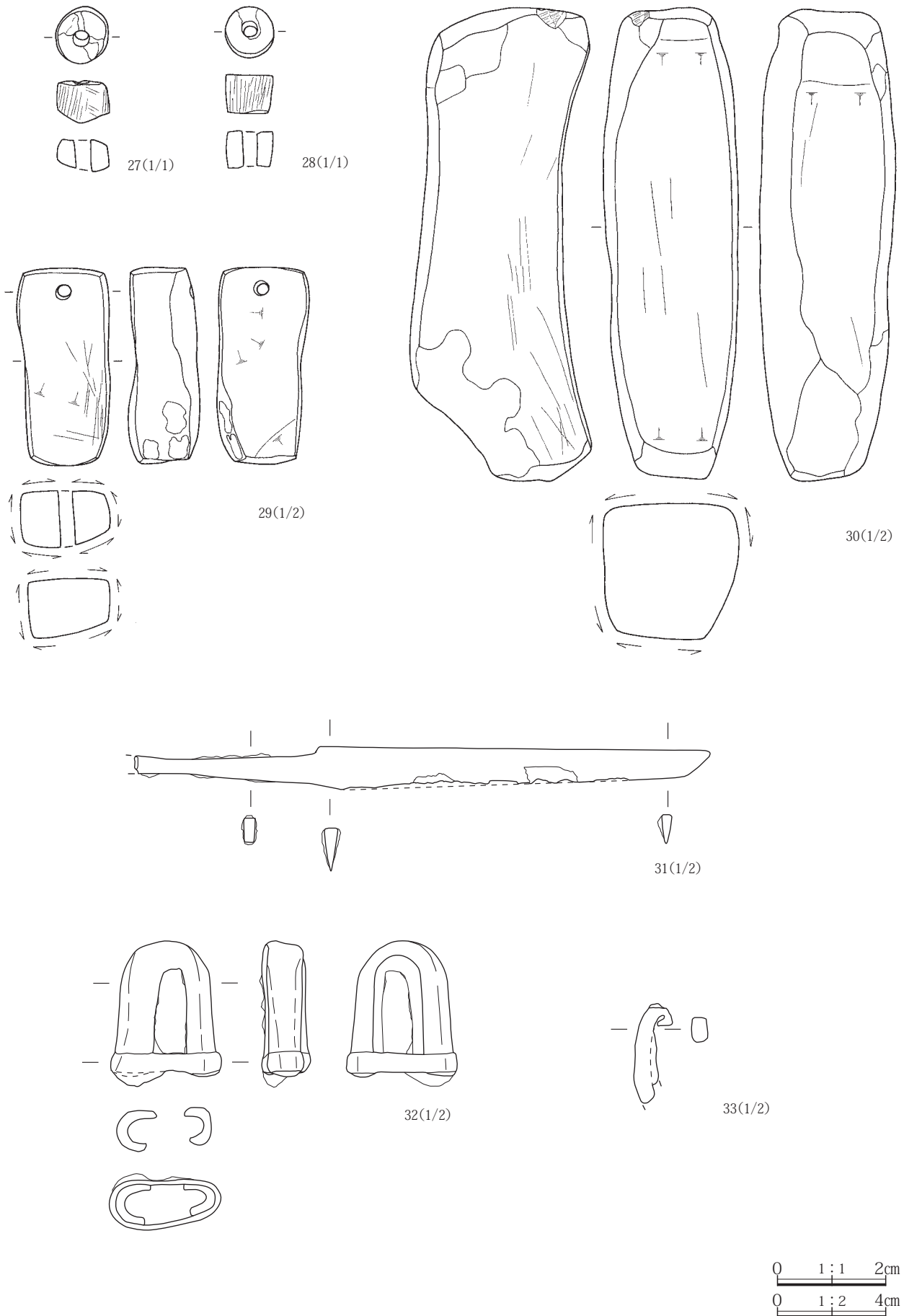
第311図 2区61号竪穴建物 カマド 平・断面図、側面図



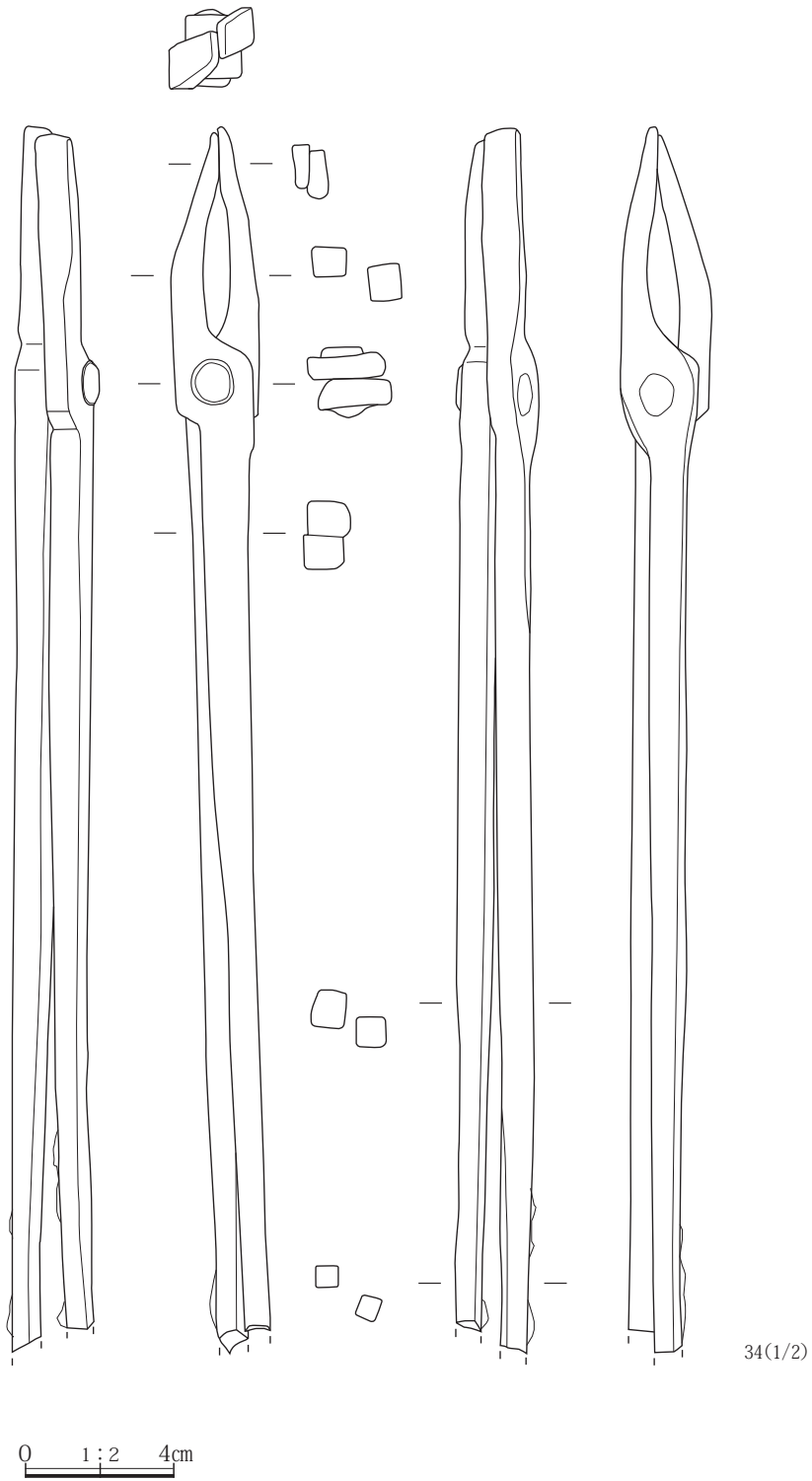
第312図 2区61号竪穴建物 出土遺物(1)



第313図 2区61号竪穴建物 出土遺物(2)

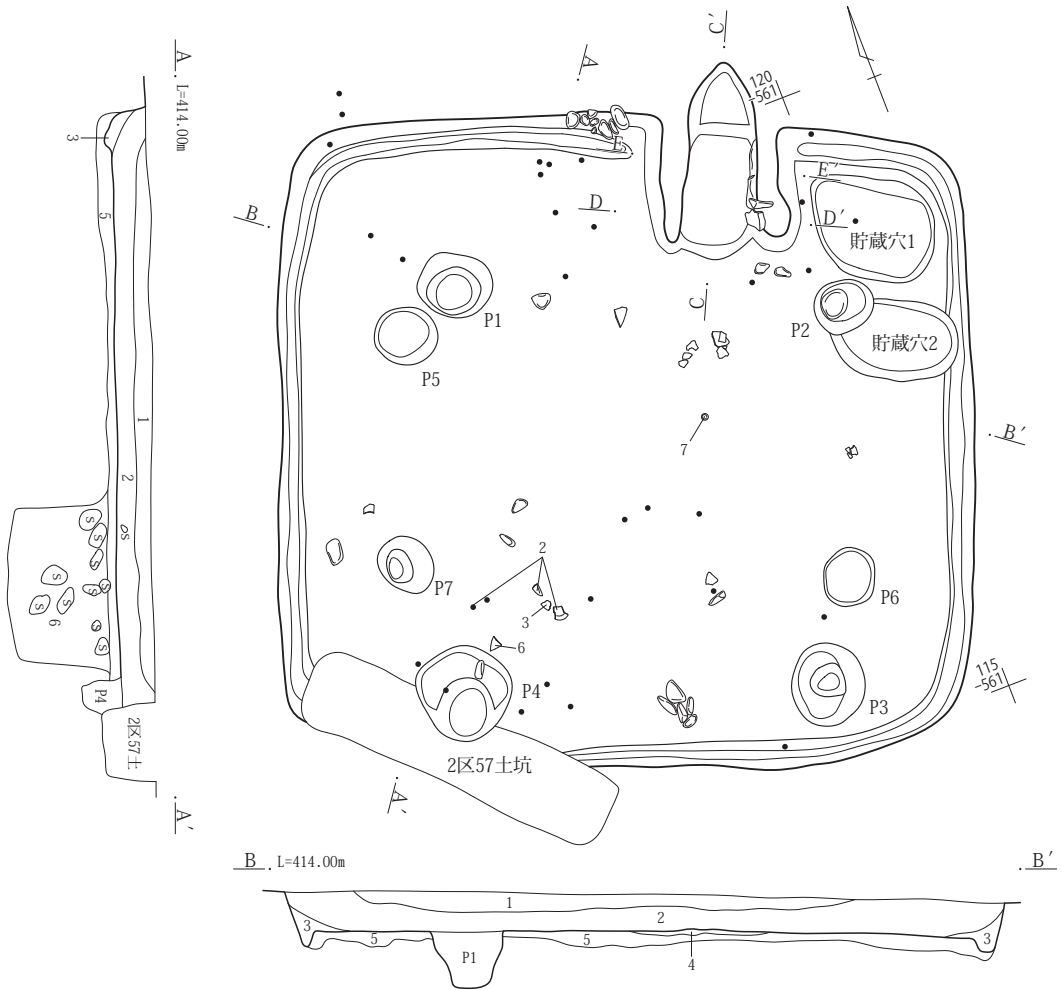


第314図 2区61号竪穴建物 出土遺物(3)

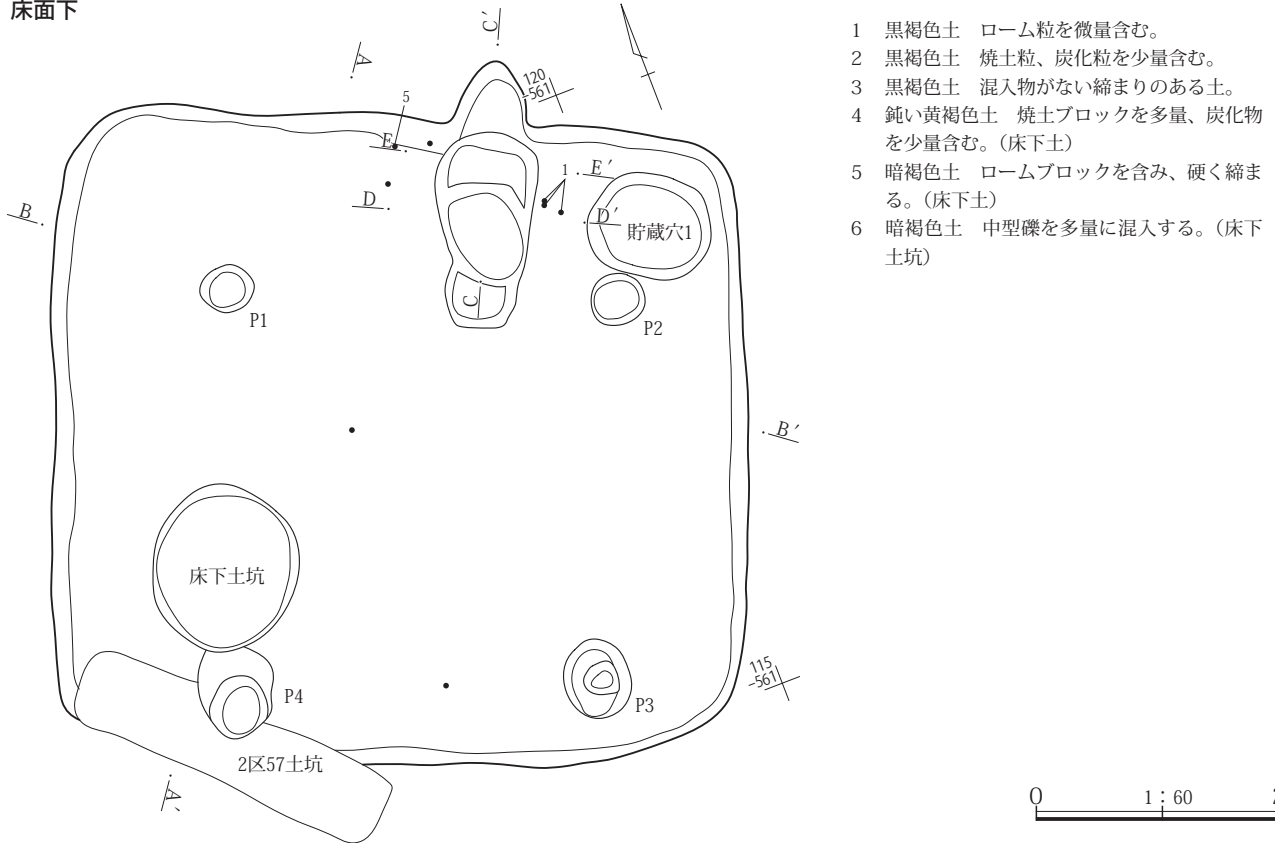


第315図 2区61号竪穴建物 出土遺物(4)

床面



床面下

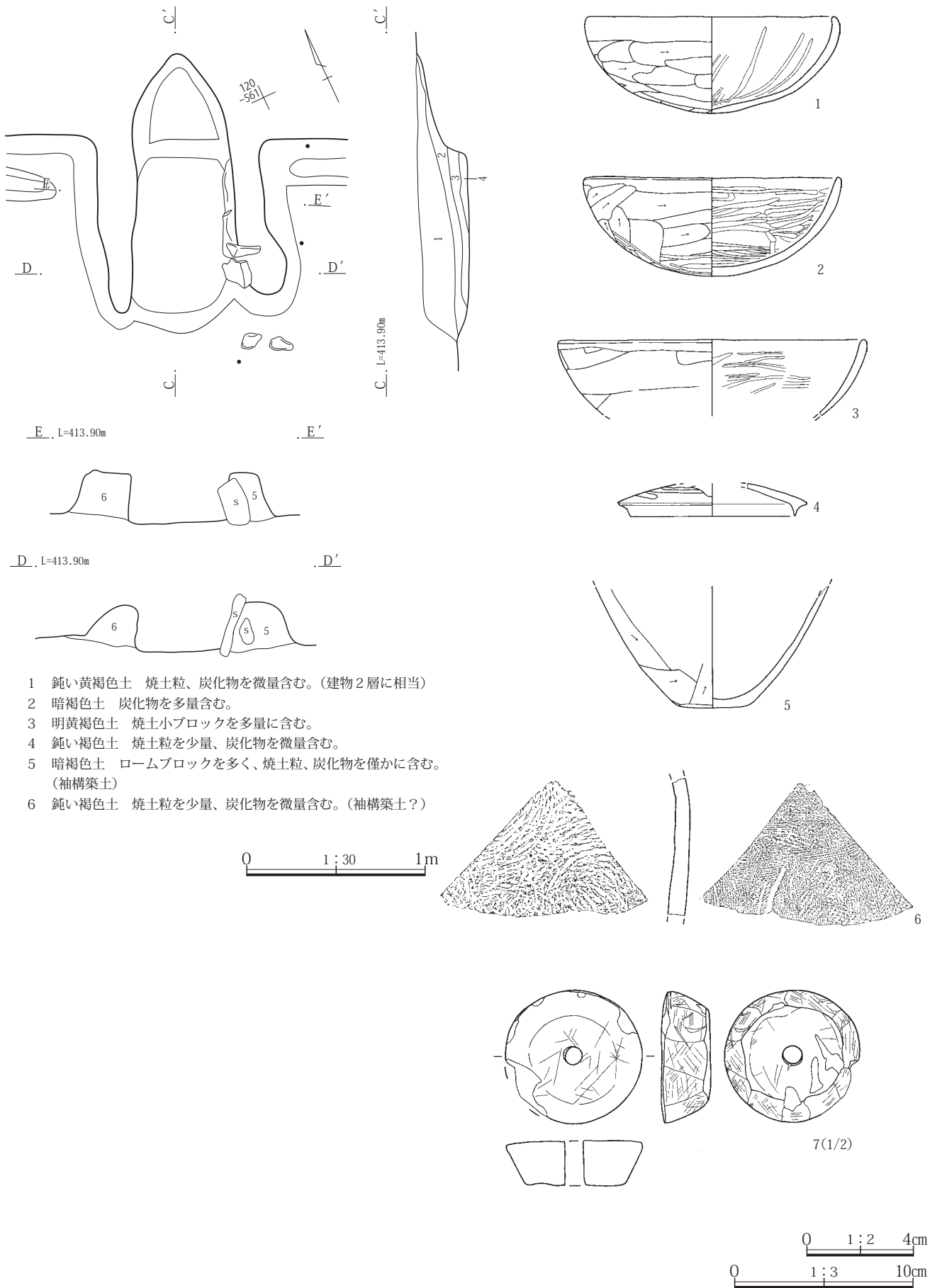


- 1 黒褐色土 ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土 焼土粒、炭化粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 混入物がない締まりのある土。
- 4 鈍い黄褐色土 焼土ブロックを多量、炭化物を少量含む。(床下土)
- 5 暗褐色土 ロームブロックを含み、硬く締まる。(床下土)
- 6 暗褐色土 中型礫を多量に混入する。(床下土坑)

0 1:60 2m

第316図 2区62号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図

第4章 検出された遺構と遺物



- 1 鈍い黄褐色土 焼土粒、炭化物を微量含む。(建物2層に相当)
- 2 暗褐色土 炭化物を多量含む。
- 3 明黄褐色土 焼土小ブロックを多量に含む。
- 4 鈍い褐色土 焼土粒を少量、炭化物を微量含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを多く、焼土粒、炭化物を僅かに含む。
(袖構築土)
- 6 鈍い褐色土 焼土粒を少量、炭化物を微量含む。(袖構築土?)

0 1:30 1m

0 1:2 4cm
0 1:3 10cm

第317図 2区62号竪穴建物 カマド 平・断面図、出土遺物

物の方が新しい。

形状：方形か長方形

規模：長軸(4.72)m 短軸(2.75)m 壁高15~20cm

長軸方向：N-30°-W 床面積：(6.34)m²

埋没土：1層の黒褐色土を主に、壁際に2・3層の暗褐色土および黒褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層中位にあり、床面はほぼ平坦で、中央がやや硬化ぎみ。南隅の床面上には白色粘土が薄く張られ、大型の扁平な垂円礫が2石据えられていた。壁高は15~20cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

周溝：検出された壁際を巡り、幅15cm前後、深さ6cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物量は少ないが、南西壁の壁際に1の杯および壁付近の床面直上に4の椀、南東壁付近の床面直上に3の杯と7の甕の口縁部が出土している。

出土遺物として、土器8点と金属製品1点を図示した。1~3は須恵器の杯で、4~6は須恵器の椀。7は須恵器の甕の口縁部で、外面に波状文が施されている。8は土師器の小型甕である。

金属製品9は鉄製の刀子で、残存する刃部は長さ4.8cm、幅0.8cmを測る。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。

2区67号竪穴建物

(第319~321図、第13・125表、PL.69・214・215)

平成28年度の調査で検出した。2区68号竪穴建物と重複する。遺構確認の判別が難しく、2区68号竪穴建物と同時に調査を行った。その後、土層断面と出土遺物の時期の確認から新旧が明らかとなり、本建物を先行して調査を継続させた。

位置：2区の西側北東の北壁寄りに位置し、東側を2区68号竪穴建物と大きく重複する。また、東側に2区69号竪穴建物、西側ないし北西側に2区39・99号竪穴建物が近接する。

グリッド：2F・2G-126・127

座標値：X=61,159~61,164 Y=-93,627~93,632

重複：本建物の東側に2区68号竪穴建物が大きく重複す

る。遺構確認および土層断面の観察、出土遺物の確認から、新旧は本建物の方が新しい。

形状：方形

規模：長軸3.96m 短軸3.91m 壁高43cm

長軸方向：N-37°-W 床面積：12.94m²

埋没土：1・2層の暗褐色土を主に、床面上に3層の赤褐色土、壁際に4層の暗褐色土に分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、床面の位置は重複する2区68号竪穴建物の床面より高い。床面はほぼ平坦で、床面の硬化状況は不明。壁高は43cm前後を測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-59°-Eを向き、残存状態は良好。燃烧部は壁の外側に突出し、煙道部は短く突き出る。残存する規模は、全長1.58m、幅1.10mを測る。袖は壁から僅かに突き出ると思われるが、詳細は不明。焚き口部から燃烧部の底面は建物床面より凹み、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。また、燃烧部の右内壁に平石2石が残存することから、燃烧部は石組みであった可能性がある。

貯蔵穴：カマドの右側となる東隅付近に位置し、上面形は楕円形で長軸52cm、短軸36cm、深さ17cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

柱穴：支柱穴と考えられるP1~4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸26~45cm、短軸24~39cm、深さ24cm前後を測り浅く、埋土は黒褐色土である。

床面下：床面下を調査したが、2区68号竪穴建物との重複のため不明。

遺物：出土した遺物量はかなり多いが、埋土中からも多く出土している。床面直上に出土した遺物としては、カマドの右脇から25の甕と8の杯、貯蔵穴上面に28の台石が据えられ、その周囲に9の杯があり、カマド前となる床中央付近に5の杯蓋が出土している。また、南隅付近の壁際の床面直上に21の椀、南西壁付近の床面やや上に20の椀があり、北西壁付近の床面直上から6の杯蓋が出土している。

出土遺物として、土器27点と石製品1点、金属製品2点を図示した。1~4は埋土中に出土し、混入遺物と考えられる。1・2は土師器の杯で、3は土師器の高杯の脚部、4は土師器の鉢である。5~7は須恵器

第4章 検出された遺構と遺物

の杯蓋、8～18は須恵器の杯で、19～21は須恵器の椀。22・23は須恵器の壺の肩部で、22は複数の沈線と自然釉が掛かり、23には沈線間に刺突文をもつ。24は須恵器の甕の口縁部で、外面は叩き目、内面は同心円状の当て具痕がつく。25～27は土師器の甕である。

石製品の28は粗粒輝石安山岩製の台石で、長さ(25.2)cm、幅(22.8)cm、厚さ5.7cmを測り、表裏面中央付近は平坦で滑らかになっている。

金属製品は共に鉄製。29は鉄鎌(三角鎌)の完形品で、全長8.3cm、最大幅2.7cmを測る。30は紡錘車の軸片と思われ、残存長4.3cmを測る。

未掲載遺物には、古墳時代の遺物を含む土師器・須恵器片がかなり多量にある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から8世紀第4四半期と考えられる。

2区69号竪穴建物(第322図、第13・127表、PL.70・216)

平成28年度の調査で検出した。建物の大半は北側の調査範囲外となる。

位置：2区の西側北東の北壁際に位置し、東側に2区71号竪穴建物、南側に2区40号竪穴建物、西側に2区67・68号竪穴建物が近接する。

グリッド：2F・2G-124～128

座標値：X=61,158～61,163 Y=93,619～93,625

形状：方形か長方形

規模：長軸(5.38)m 短軸(4.27)m 壁高40～45cm

長軸方向：N-29°-W 床面積：(11.10)m²

埋没土：1層の黒褐色土を主に、壁際に2層の暗褐色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、ほぼ平坦で、中央付近が硬化する。壁高は40～45cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

柱穴：P1～4を検出した。主柱穴は4本と考えられ、その内の一つとしてP1が相当する。上面は円形ないし楕円形で、長軸72cm、短軸65cm、深さ62cmを測り、埋土は黒褐色土である。

周溝：壁際を途切れるように巡る。幅15cm前後、深さ7cmを測り、黒褐色土を埋土とする。

床面下：床面下に掘り込まれた床下土坑を検出した。南西壁際に位置し、深さ18cmで、黒褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物量は少なく、その多くが埋土中からである。その中でも、薦編石と考えられる長さ20～25cm前後の石が、3石まとまって南隅の床面直上に出土している。

出土遺物として、土器3点と石製品2点を図示した。土器は全て土師器で、1・2は杯、3は甕である。

石製品には4の磨石と5の台石がある。共に粗粒輝石安山岩製で、4は長さ15.4cm、幅7.4cmを測り、磨面をもつ。5は長さ23.0cm、幅17.5cmを測り、表裏面が滑らかとなっている。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。

2区70号竪穴建物

(第323～326図、第13・128表、PL.70・71・216～218)

平成28年度の調査で検出した。2区71号竪穴建物と重複する。

位置：2区の北壁中央付近に位置し、西側を2区71号竪穴建物と僅かに重複する。また、南東側に2区43・44号竪穴建物、南側に2区41・42号竪穴建物、南西側に2区40号竪穴建物が近接する。

グリッド：2E・2F-122・123

座標値：X=61,151～61,156 Y=93,609～91,614

重複：本建物の西隅に2区71号竪穴建物が僅かに重複する。遺構確認および土層断面の観察から、新旧は本建物の方が新しい。

形状：長方形

規模：長軸4.43m 短軸4.00m 壁高35～47cm

長軸方向：N-27°-W 床面積：14.77m²

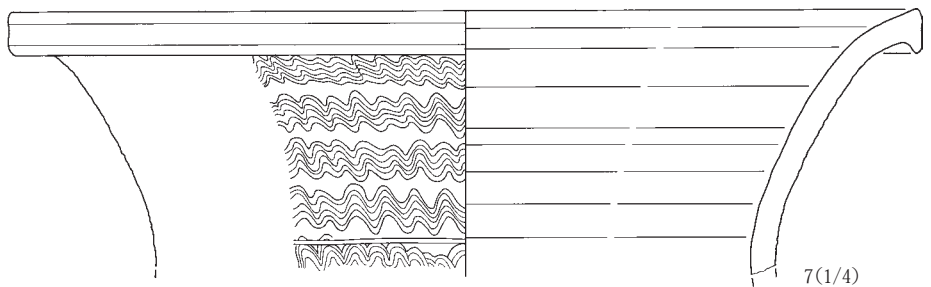
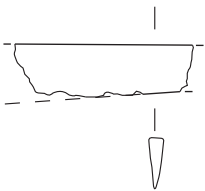
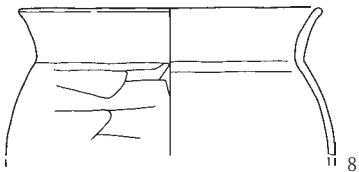
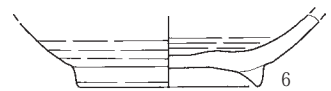
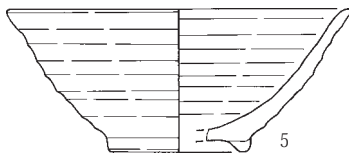
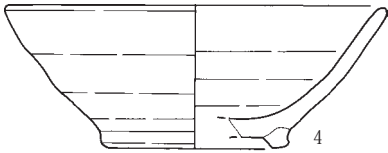
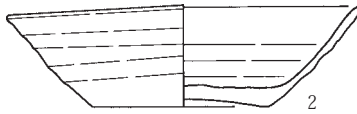
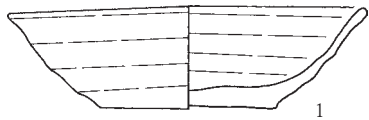
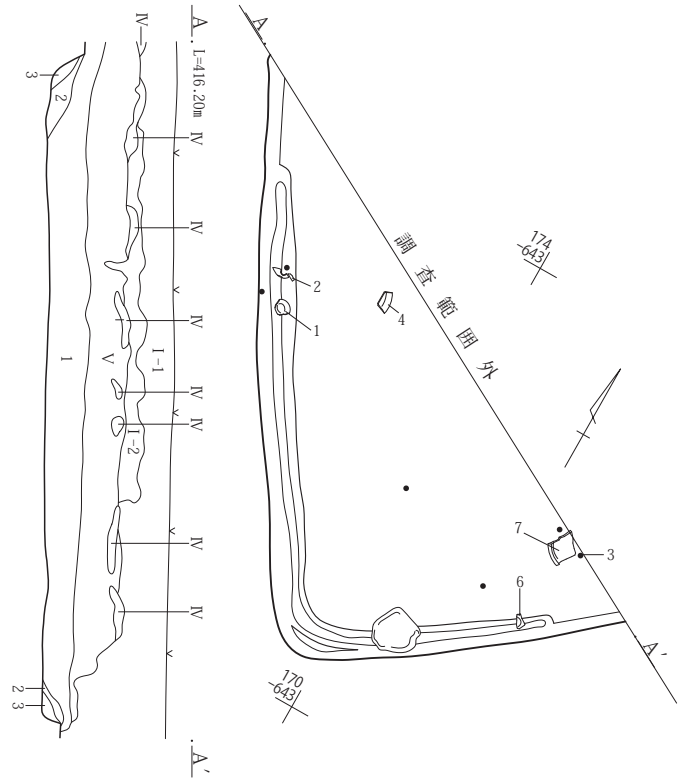
埋没土：1層の暗褐色土を主に、壁際に2層の黒色土とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、床面の位置は重複する2区71号竪穴建物の床面より高い。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけてやや硬化ぎみ。壁高は35～47cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁の中央やや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-75°-Eを向き、残存状態はやや良。燃烧部は壁の内側から僅かに外側にかけてにあり、煙道

- I-1 暗褐色土 表土(現耕作土)。As-Kk混土層。(2-A区南壁基本層序I層相当)
- I-2 暗褐色土 旧耕作土。As-Kkを多量に含む。(2-A区南壁基本層序I層相当)
- IV 褐灰色土 As-Bの灰で大ブロック状に島の畝畦間を埋める。(2-A区南壁基本層序IV層)
- V 黒褐色土 As-B降下以前の耕土。(2-A区南壁基本層序V層)
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒、炭化物を少量含む。大礫が混入する。
- 2 暗褐色土 白色鈹物粒、黄白色土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒、黄白色粘土ブロック、炭化物を含む。

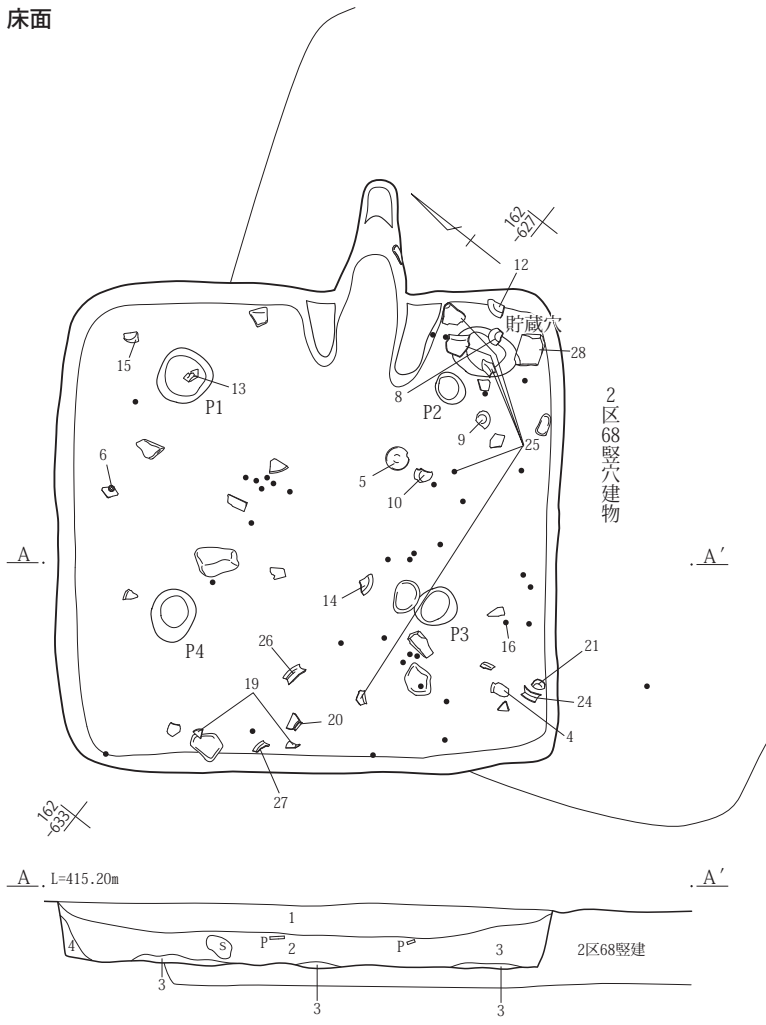
0 1:60 2m



0 1:2 4cm
0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

第318図 2区66号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

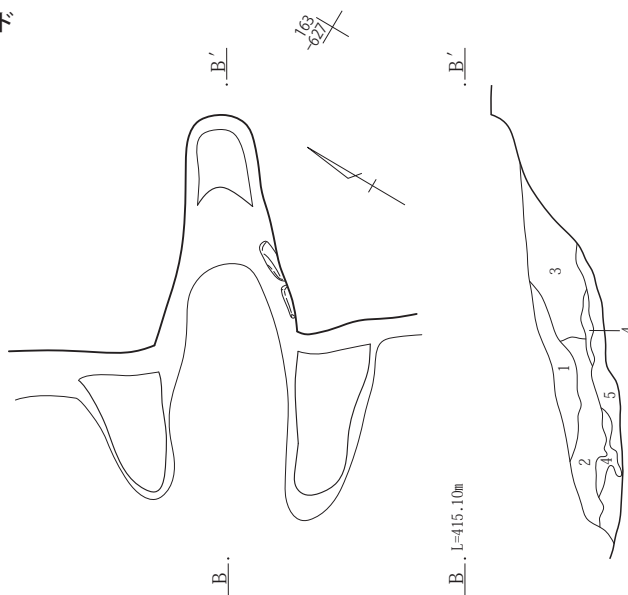
床面



- 1 暗褐色土 白色粒子を多量に、焼土粒、炭化物を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロック、炭化物を少量含む。
- 3 赤褐色土 焼土粒を主とする。
- 4 暗褐色土 ローム粒、焼土粒を僅かに含む。

0 1:60 2m

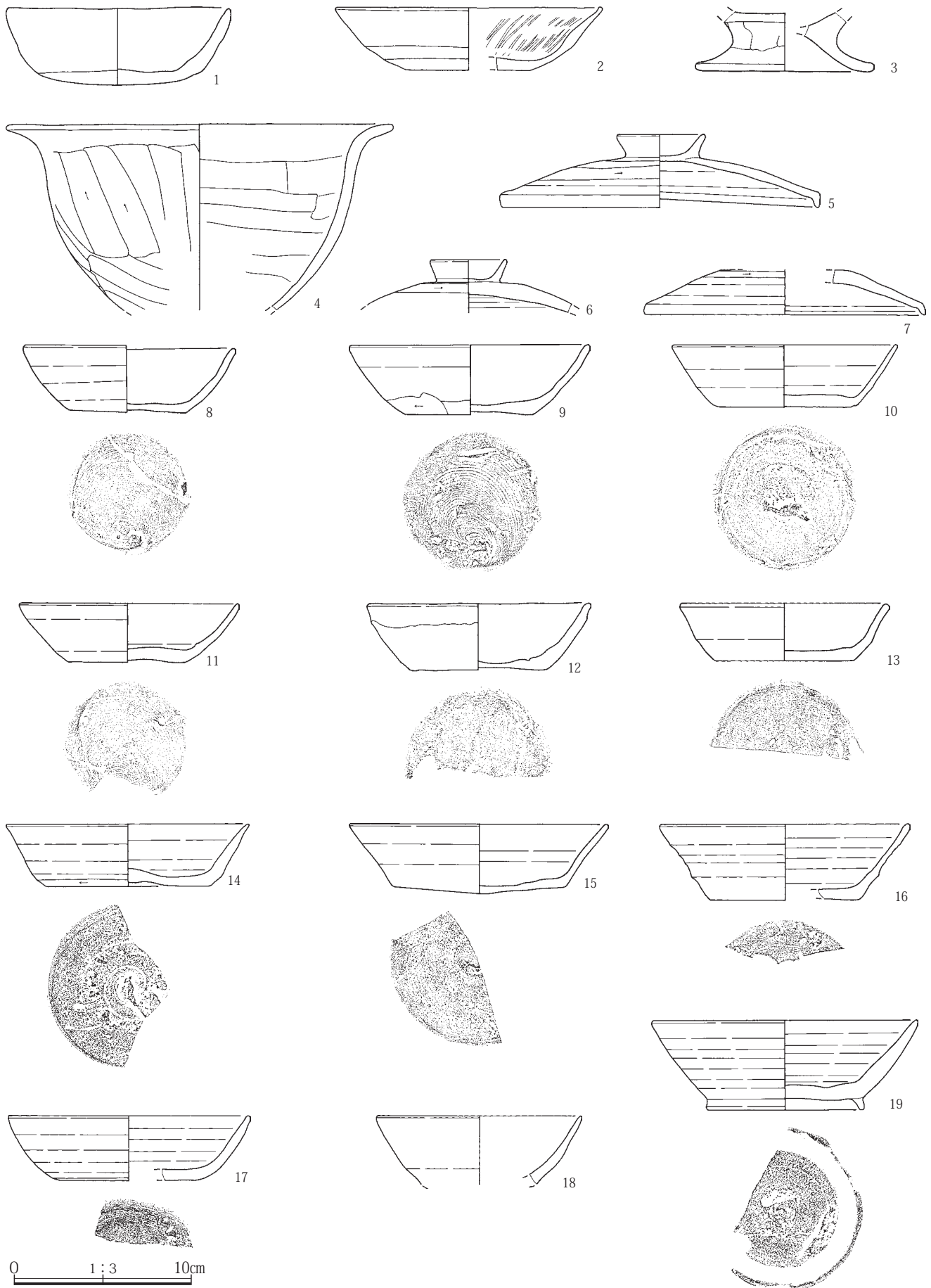
カマド



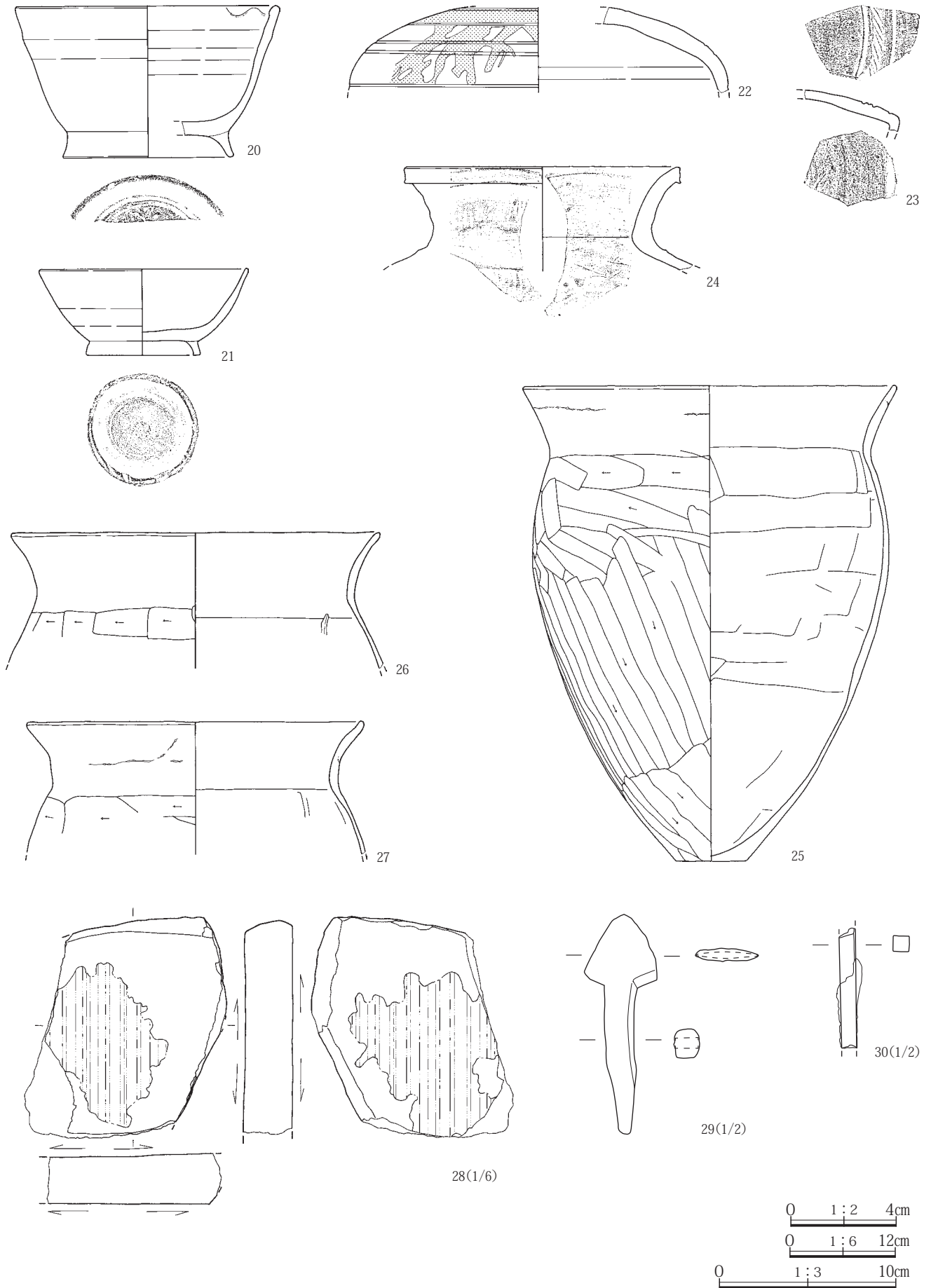
- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少し含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒、粘土粒を多く、灰を少し含む。
- 4 橙色土 焼土、粘土、灰の混層。
- 5 黒褐色土 灰を多量に、焼土粒を少し含む。

0 1:30 1m

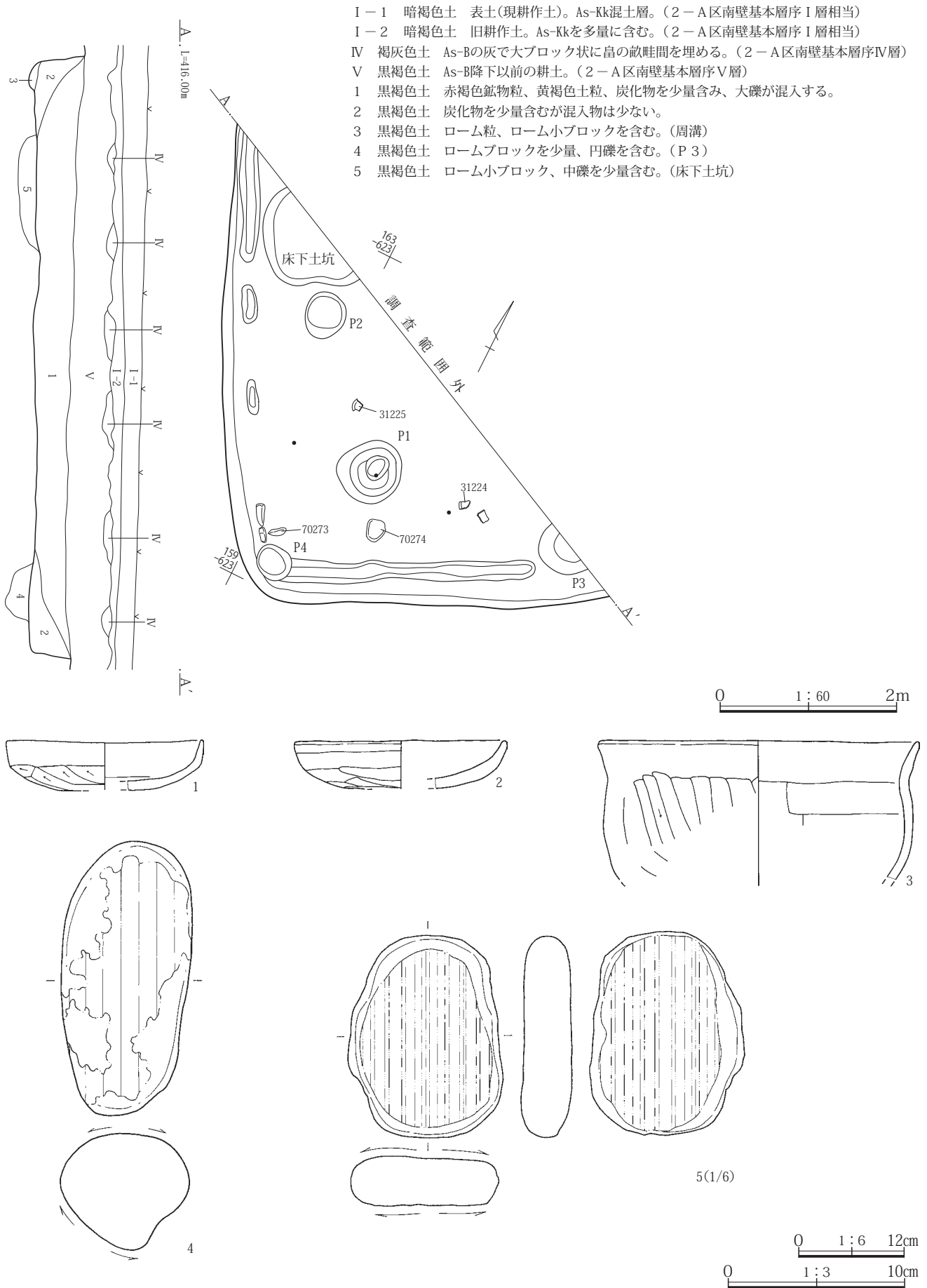
第319図 2区67号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第320図 2区67号竪穴建物 出土遺物(1)



第321図 2区67号竪穴建物 出土遺物(2)



第322図 2区69号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

部は外側へ短く突出する。残存する規模は、全長1.23m、幅1.03mを測る。右袖は壁から60cmほど突き出るように残存し、袖石等は不明。焚き口部から燃烧部の底面にかけては床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から一段高くなり斜位に立ち上がる。

貯蔵穴：カマドの右側に位置し、上面形は楕円形を呈する。長軸75cm、短軸64cm、深さ23cmを測り、黒褐色土を埋土とし、遺物を出土する。

床面下：床面下には10cm前後の掘り込みをもち、底面は凹凸が多く、ローム小ブロックを含む黒色土を埋土として締まる。

遺物：出土した遺物量はかなり多いが、その多くは埋土中からの出土である。床面直上に出土した遺物としては、カマドの左脇から15の杯蓋と38の銅製品、カマド前付近に散乱した31～33の甕があり、貯蔵穴内から18の杯が出土している。また、埋土出土のあり方は、南東壁中央から東側に集中する状況が見られ、人為的な廃棄の様相を呈している。

出土遺物として、土器35点と石製品1点、金属製品2点を図示した。1～14は土師器の杯で、8～14の内面には暗文を施す。15～17は須恵器の杯蓋、18～25は須恵器の杯で、18・19はケズリ込んで低い高台を削り出し、20・24・25は貼付高台となる。26は須恵器の盤か高盤。27・28は須恵器の横瓶で、外面に叩き目、内面に当て具痕が残る。29は土師器の小型甕で、30～35は土師器の甕である。

石製品の36は表面に磨面をもつ粗粒輝石安山岩製の磨石で、長さ17.1cm、幅8.8cmを測る。

金属製品の37は鉄鏃で、残存長7.5cm、幅2.2cmを測る。38は周縁を欠く銅製の飾金具と思われ、中央に孔を有し、径1.9cm、厚さ1mm、孔径3mmを測る。

未掲載遺物には、土師器片や須恵器片がかなり多量にある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀末から8世紀初頭と考えられる。

2区72号竪穴建物(第327・328図、第13・130表、PL.72・76・88・218・219)

平成28年度の調査で検出した。2区78・95号竪穴建物と重複する。

位置：2区中央の北壁付近に位置し、北側に2区95号竪穴建物、南西半を2区78号竪穴建物と重複する。南東側に2区73号竪穴建物、南側に2区61号竪穴建物、西側に2区43・44号竪穴建物が近接する。

グリッド：2C・2D-119・120

座標値：X=61,144～61,149 Y=-93,591～93,594

重複：本建物の北側に2区95号竪穴建物、南西半を2区78号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、いずれの建物よりも本建物の方が新しい。

形状：横長長方形

規模：長軸4.19m 短軸3.35m 壁高20～27cm

長軸方向：N-40°-W 床面積：12.26㎡

埋没土：黒褐色土を主とし、1・2層に分層できる。なお、大小の円礫が多く混入しており、人為的堆積によるものと考えられる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、ほぼ平坦で、全体に硬化する。また、床面上には多くの大小の礫が出土している。壁高は20～27cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁の中央やや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-48°-Eを向き、残存状態は良くない。燃烧部は壁の外側にあり、煙道部は外側へ短く突出する。残存する規模は、全長1.21m、幅1.00mを測る。袖は壁から35cmほど短く突き出るようにあり、先端に袖石はない。焚き口部から燃烧部の底面にかけては建物床面より低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。なお、煙道部の左側壁には側壁石が1石残存していることから、石組みカマドであった可能性が高い。

貯蔵穴：カマドの右側となる南東隅に位置し、上面形は円形を呈する。径66cm前後、深さ22cmを測り、灰色粘土粒を含む褐色土を埋土とする。

柱穴：支柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸53～60cm、短軸50cm、深さ25cm前後を測り、埋土は暗褐色土である。また、P1～4の脇にはP5～8のピットも検出され、長軸32～40cm、短軸32cm、深さ20cm前後を測り、埋土は暗褐色土。

床面下：深さ15cm前後の掘り込みをもち、底面には大小の凹凸がある。埋土はロームブロックを僅かに含む暗褐色土で硬く締まる。また、床下土坑を3基検出した。

床下土坑1はP2下付近にあり、長軸1.32m、短軸0.98m、深さ25cmを測る楕円形で、暗褐色土を埋土とする。床下土坑2は北西隅の北東壁沿いにあり、長軸1.40m、短軸0.54m、深さ22cmを測る不整長方形を呈し、暗褐色土を埋土とする。床下土坑3は北西壁際にあり、長軸0.65m、短軸0.53m、深さ26cmを測る楕円形で、暗褐色土を埋土とする。さらに、P9を検出した。

遺物：出土した遺物量はあまり多くはないが、カマド内およびカマド前から8の甕が出土し、P3上面の床面直上に2の杯、P6上面の床面直上に3の杯が出土している。また、中央付近の床面直上に10の石製品、カマド左側の壁際床面直上に11の金属製品が出土している。

出土遺物として、土器8点と石製品2点、金属製品1点を図示した。1は須恵器の杯蓋、2～6は須恵器の杯で、2の内面底部には「×」の刻書、6の底面には「寺」の墨書がある。7・8は土師器の甕で、7は台付き甕の底部である。

石製品には9の粒状礫と10の磨石がある。9は玉随製で明黄褐色をなし、長さ1.2cm、幅0.9cm、厚さ0.4cmを測る。10は表面に磨面をもつ変質安山岩製で、長さ11.7cm、幅6.3cm、厚さ3.0cmを測る。

金属製品の11は鉄製の先端部を欠損した大型の鎌で、残存長19.2cm、最大幅5.7cmを測り、基部は直角に曲がる。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が多量にある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から9世紀第4四半期と考えられる。

2区78号竪穴建物(第329図、第13表、PL.76)

平成28年度の調査で検出した。2区72号竪穴建物と重複し、床面までは浅く、残存状態は極めて悪いため不明な点が多い。

位置：2区中央の北壁付近に位置し、北東側に2区72号竪穴建物が重複する。北側に2区95号竪穴建物、南東側に2区73号竪穴建物、南側に2区61号竪穴建物、西側に2区43・44号竪穴建物が近接する。

グリッド：2C・2D-119・120

座標値：X=61,142～61,147 Y=-93,592～93,598

重複：本建物の北東側を2区72号竪穴建物と重複するが、

遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本建物の方が古い。

形状：長方形

規模：長軸5.08m 短軸3.09m 壁高1～4cm

長軸方向：N-38°-W 床面積：推定18.95㎡

埋没土：1層の暗褐色土を主とする。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層中位にあり、ほぼ平坦で、中央付近に硬化が確認された。壁高は6cm前後とかなり浅く、やや垂直ぎみに立ち上がる。

遺物：出土した遺物量は極めて少なく、埋土中に数点の土師器片が出土したのみで、図示していない。

未掲載遺物には、土師器片が3片ある。

所見・時期：建物の時期は不明。

2区79号竪穴建物(第330図、第13・136表、PL.76・85)

平成28年度の調査で検出した。2区81・90号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する北西側の一角に位置し、北側に2区90号竪穴建物、南西側を2区81号竪穴建物が重複する。また、北東側から南側にかけて2区80・83・84・91・92・96号竪穴建物、北西側に2区73・74号竪穴建物が近接する。

グリッド：2A・2B-115・116

座標値：X=61,131～61,137 Y=-93,573～93,577

重複：本建物の北側に2区90号竪穴建物、南西側に2区81号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、いずれの建物よりも本建物の方が新しい。

形状：横長長方形

規模：長軸4.81m 短軸4.20m 壁高6～15cm

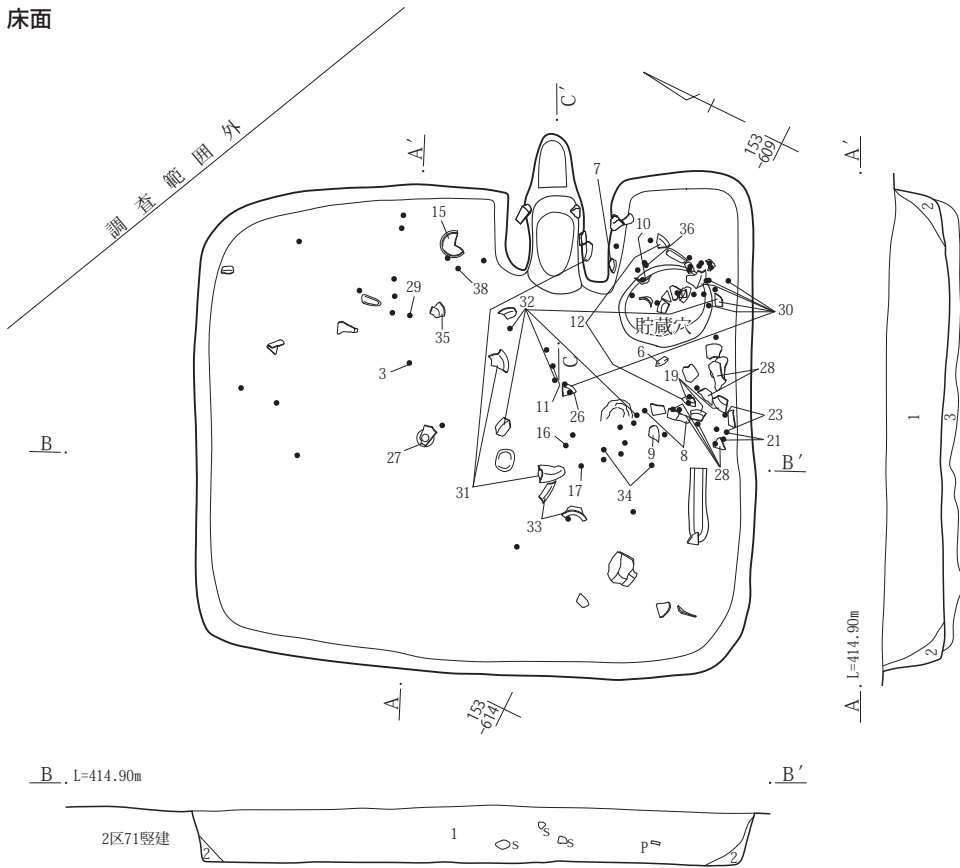
長軸方向：N-87°-W 床面積：17.10㎡

埋没土：1層の褐色土を主とする。

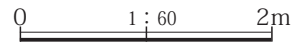
床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけてやや硬化する。なお、南半の床面上には、自然礫層の礫が点々と露出する。壁高は6～15cmと浅く、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北壁の中央より西寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-7°-Wを向き、遺構確認時にカマド上部に礫や煙道部の側壁石が確認できた残存状態のやや良好な石組みカマドである。燃烧部は壁の外側にあり、

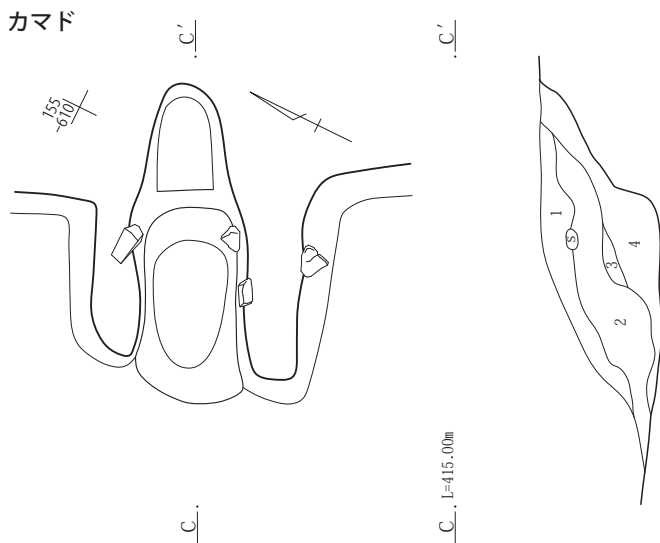
床面



- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物を僅かに含む。
- 2 黒色土 ローム小ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 ローム小ブロックが少量混入する。(床下土)



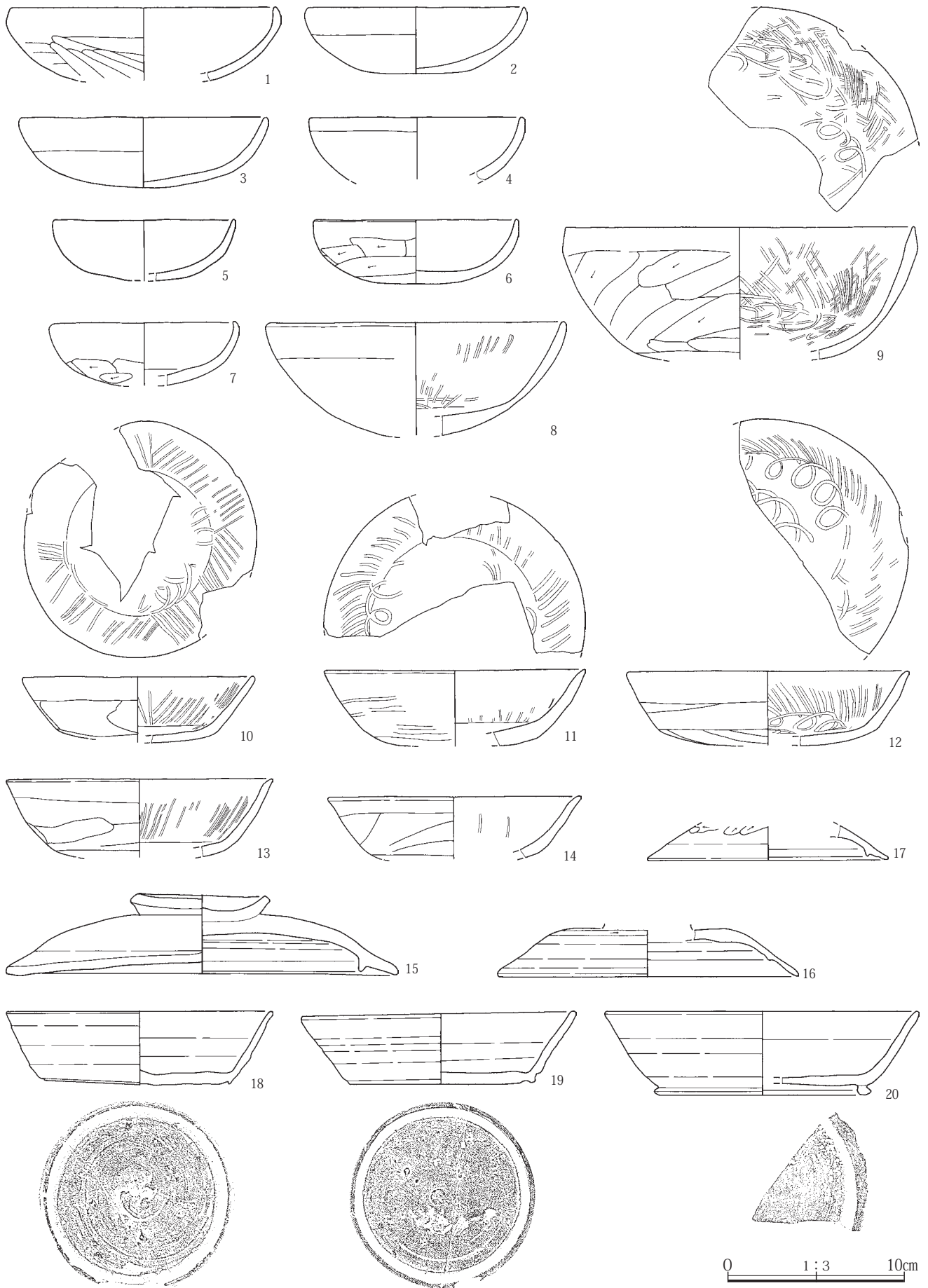
カマド



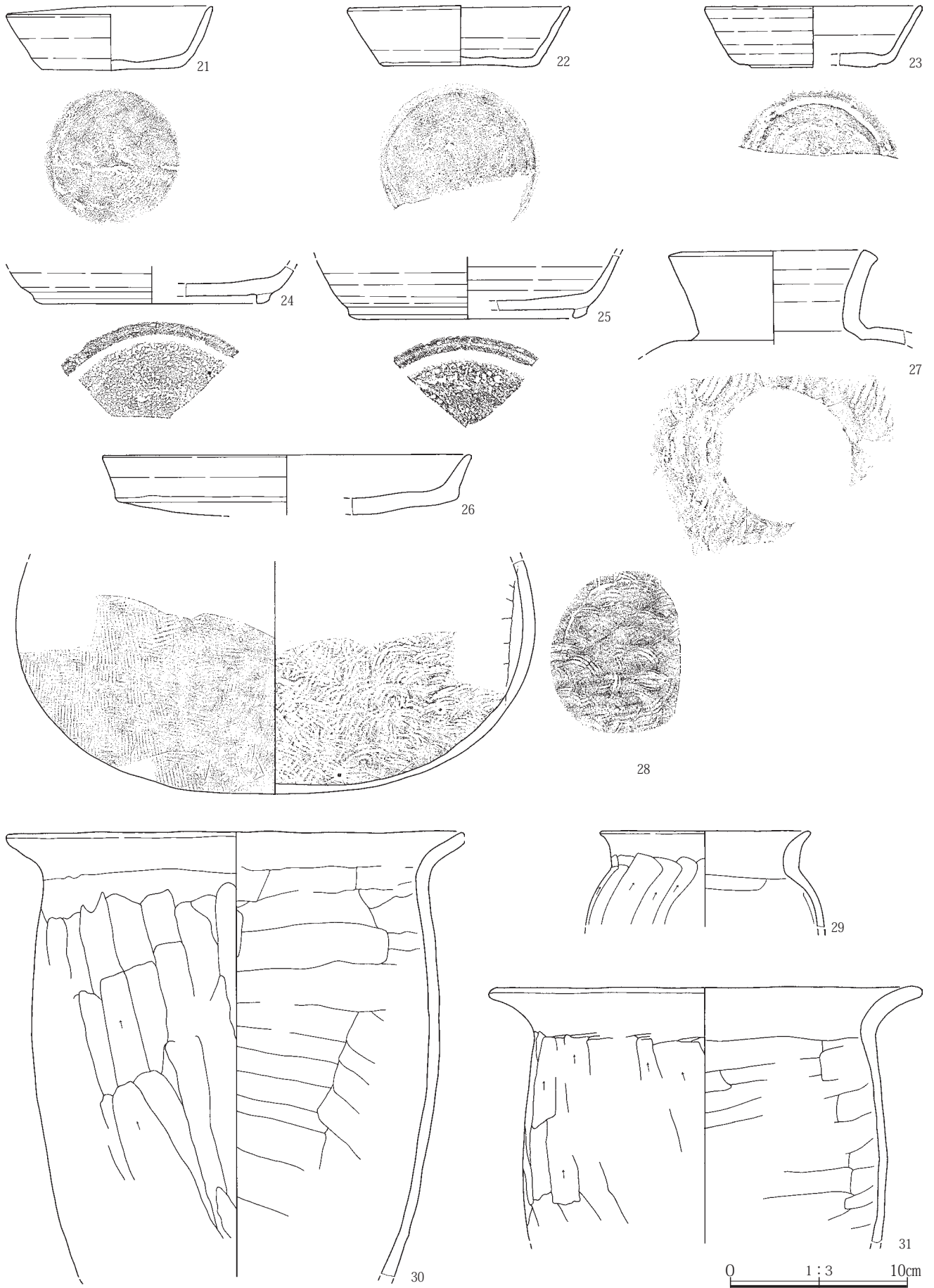
- 1 灰黄褐色土 僅かに焼土粒・白色粘土粒が混入する。
- 2 鈍い黄褐色土 白色粘土・焼土ブロック、炭化物が斑状に混入する。
- 3 黒褐色土 焼土粒、白色粘土ブロック、小礫を含む。
- 4 暗褐色土 焼土ブロック、炭化物、灰を多く含む



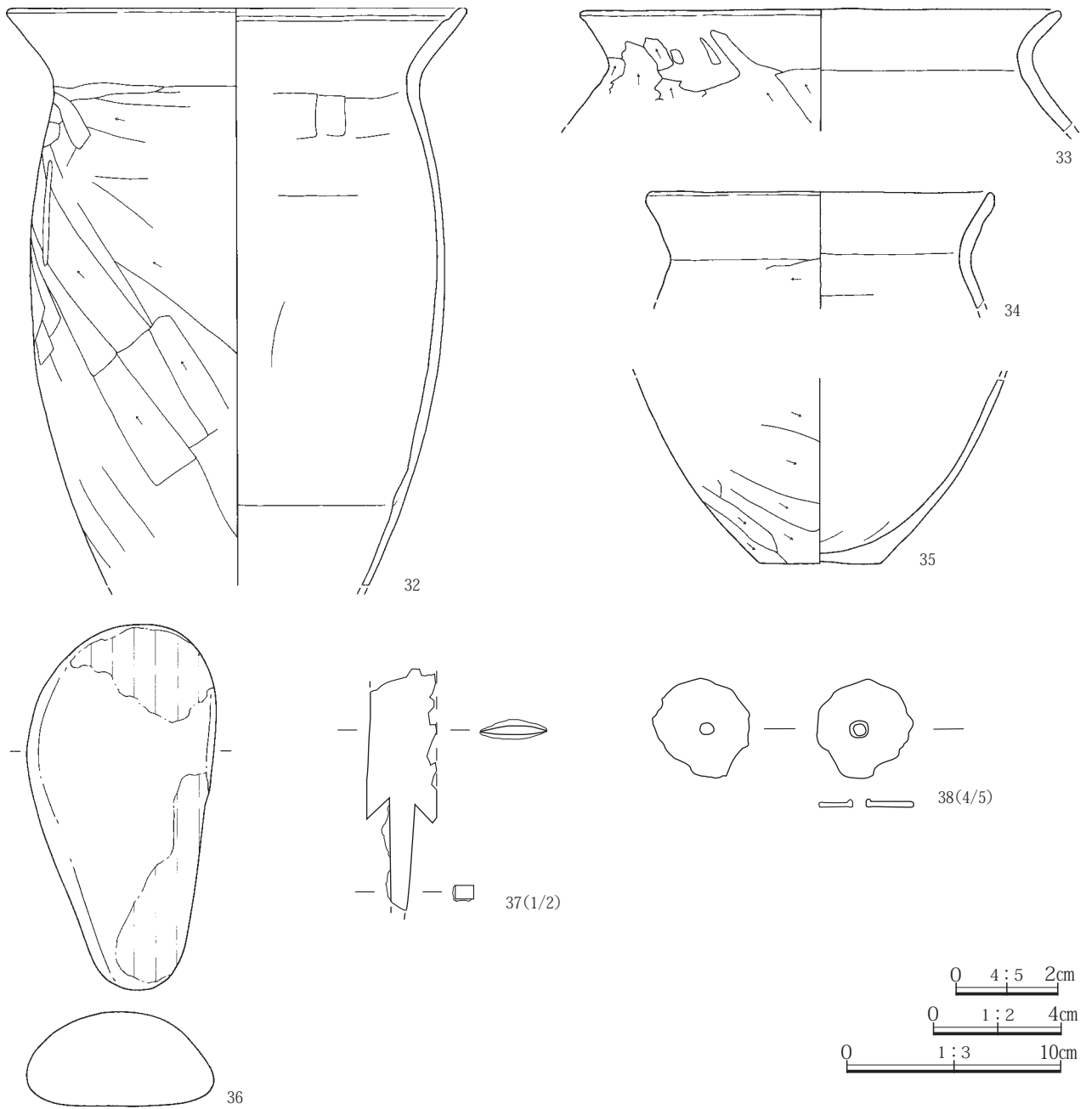
第323図 2区70号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第324図 2区70号竪穴建物 出土遺物(1)

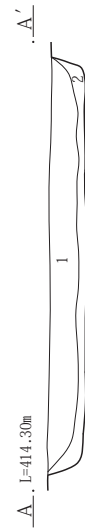
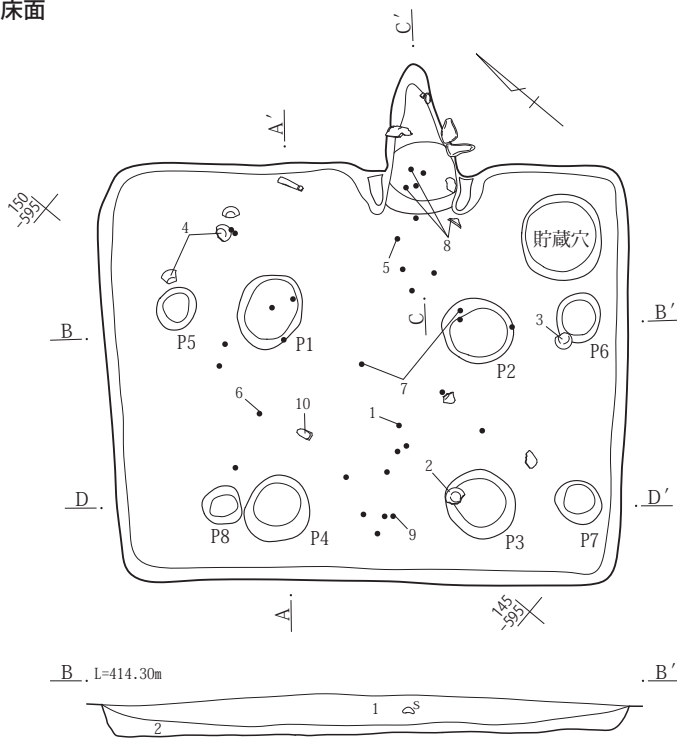


第325図 2区70号竪穴建物 出土遺物(2)



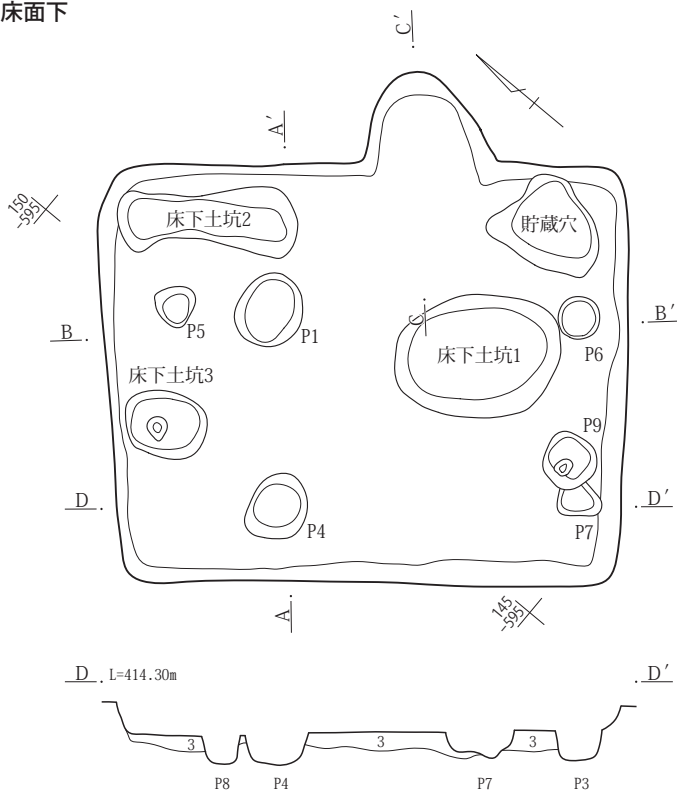
第326図 2区70号竪穴建物 出土遺物(3)

床面

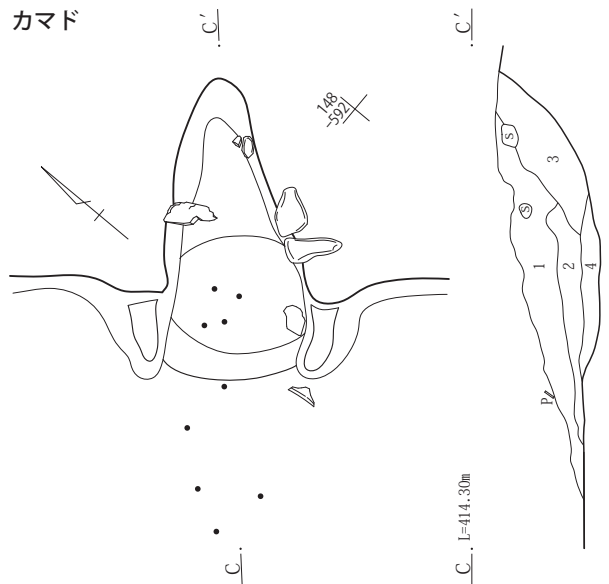


- 1 黒褐色土 赤褐色・黄褐色鉱物粒、ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土 赤褐色・黄褐色鉱物粒を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを僅かに含む。(床下土)

床面下



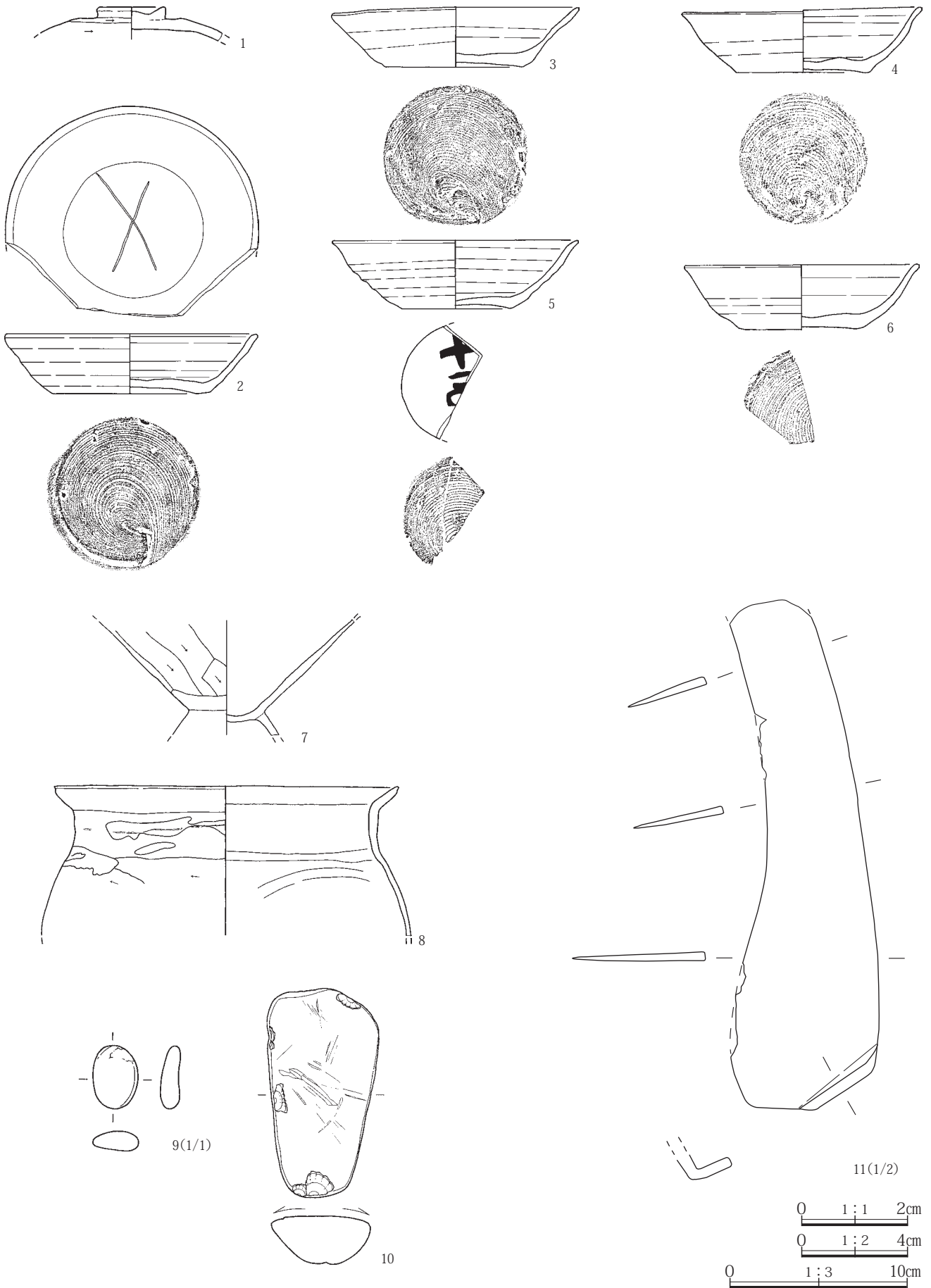
カマド



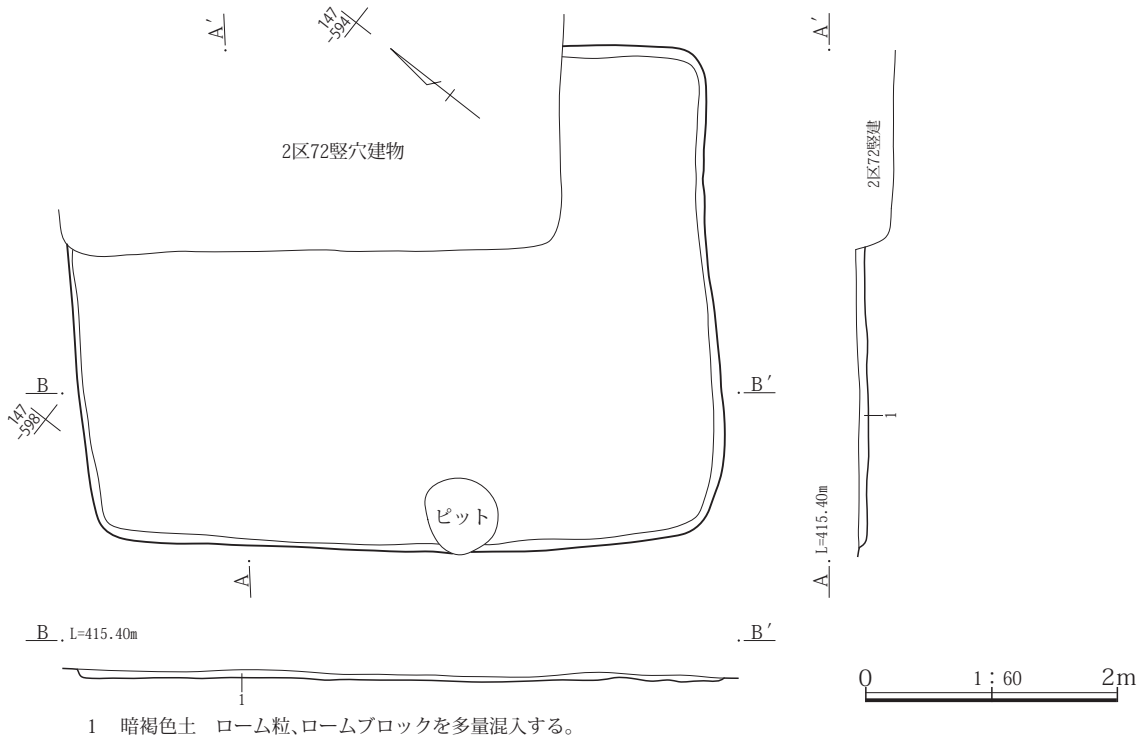
- 1 暗褐色土 焼土粒をブロック状に含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物を多く含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒を僅かに含む。
- 4 暗褐色土 下位に灰が認められる。



第327図 2区72号竪穴建物 床面、床面下、カマド 平・断面図



第328図 2区72号竪穴建物 出土遺物



第329図 2区78号竪穴建物 床面 平・断面図

煙道部はさらに外側に突出する。カマドの規模は、全長2.13m、幅1.45mを測る。袖は壁から僅かに突き出るようにあるが、袖石は確認されていない。石組みの配置状況は、燃焼部の両側面上部に中型礫が2石(左側面上部)ないし5石(右側面上部)に配され、煙道部は燃焼部との境となる最も手前部分に大型礫が1石ずつ両側に残存する。さらに、煙道部先端の出口外側にも大型礫が残存する。しかし、明らかな天井石は検出されていない。焚口部から燃焼部の底面は概ね平坦で、煙道部は燃焼部奥に段をもって緩く立ち上がる。

一方、燃焼部と煙道部の構築状況は、周囲を一回り大きめに掘り、側壁石を据えながら構築したものと考えられる。

床面下：床面下を調査したが、重複する竪穴建物により詳細は不明。なお、南半の床面下は自然礫層面となる。

遺物：出土した遺物量は極めて少なく、浅い埋土中に数点出土した。

出土遺物として、土器2点を図示した。1は土師器の杯、2は土師器の甕の底部である。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が僅かにある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。

2区80号竪穴建物

(第331・332図、第13・137表、PL.77・221・222)

平成28年度の調査で検出した。2区81・82・84号竪穴建物と重複する。床面までは浅く、残存状態は悪い。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する中央付近に位置し、東側を2区82・84号竪穴建物、北西側に2区81号竪穴建物が重複する。また、北側に2区74号竪穴建物、北側から南東側にかけて2区79・83・90～92・96号竪穴建物、西側に2区3～5号掘立柱建物が近接する。

グリッド：Y・Z-115・116

座標値：X=61,124～61,129 Y=-93,573～93,579

重複：本建物の東側に2区82・84号竪穴建物、北西側に2区81号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、いずれの建物よりも本建物の方が新しい。

形状：方形

規模：長軸4.05m 短軸4.38m 壁高4～6cm

長軸方向：N-61°-W 床面積：18.74㎡

埋没土：1層の鈍い黄褐色土を主とする。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から中央付近にかけてやや硬化する。壁高は4～6cmと浅く、やや垂直ぎみに立ち上

がる。

カマド：北東壁中央の東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-30°-Eを向き、遺構確認時にカマド上部に側壁石が確認できた残存状態の良好な石組みカマドである。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側に僅かに突出する。カマドの規模は、全長1.20m、幅1.27mを測る。袖は壁から60cmほど突き出るようにあり、その両先端に袖石を確認した。石組みの配置状況は、焚き口部から燃焼部にかけての両側面に大型礫が2石ずつ配され、その上にさらに石を積み重ね、2段積みとなっている。ただし、燃焼部の上面の高さと焚き口部の上面高では、焚き口部の方が一段低い。この状況は、この低い部分に焚き口部天井石が架かっていたことを物語っている。しかし、近辺に天井石は確認されていない。煙道部は燃焼部との境となる最も手前部分に大型礫が左側面に1石のみが残存する。焚き口部から燃焼部の底面は僅かに低くなり、煙道部は燃焼部奥から斜位に立ち上がる。

一方、構築状況は、周囲を一回り大きめに掘り、側壁石を据えながら構築したものと考えられ、燃焼部の袖部には6・7層とした暗褐色土を構築土としている。貯蔵穴：カマドの右側となる南東隅付近に位置し、上面形は不整な円形を呈する。径82cm前後、深さ20cmを測り、褐色土を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸27～75cm、短軸26～48cm、深さ25～30cmを測り、埋土は黄褐色土である。

床面下：床面下を調査したが、5cm前後の掘り込みをもつようであるが、北側は自然礫層が露出しており、南東側は重複する竪穴建物により詳細は不明。しかし、底面の明らかな部分には、礫の抜き取り痕と考えられる凹凸が著しい。暗褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物量は少ないが、カマドの右側となる貯蔵穴周辺の床面直上ないし床面のやや上から1・3～5の杯、6の甕の底部が出土している。また、カマドの左側から北隅にかけても遺物が散漫に出土しており、その中に2の杯が床面のやや上から出土している。なお、7の石製品は床下底面からの出土である。

出土遺物として、土器6点と石製品1点を図示した。1～5は土師器の杯で、5の内面にはへら磨きを施す。

6は土師器の甕の底部である。

7の石製品は珪化凝灰岩製の管玉で、淡緑色をなし、丁寧な研磨が施されている。長さ2.2cm、幅1.1cm、孔径約3mm、厚さ1.0cmを測る。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀末から8世紀初頭と考えられる。

2区88号竪穴建物

(第333～335図、第13・145表、PL.83・84・228・229)

平成28年度の調査で検出した。2区75・89号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する東側の一角に位置し、北側に2区89号竪穴建物、南側の一部を2区75号竪穴建物と重複する。また、東側に2区85号竪穴建物、南側に2区62・76号竪穴建物、北西側に2区83・92・96号竪穴建物が近接する。

グリッド：Y・Z-112・113

座標値：X=61,124～61,128 Y=-93,558～93,564

重複：本建物の北側に2区89号竪穴建物、南隅を僅かに2区75号竪穴建物のカマド先端と重複するが、遺構確認および土層断面、さらに出土遺物の確認から、いずれの建物よりも本建物の方が新しい。

形状：方形

規模：長軸3.56m 短軸3.34m 壁高20～28cm

長軸方向：N-21°-W 床面積：10.91㎡

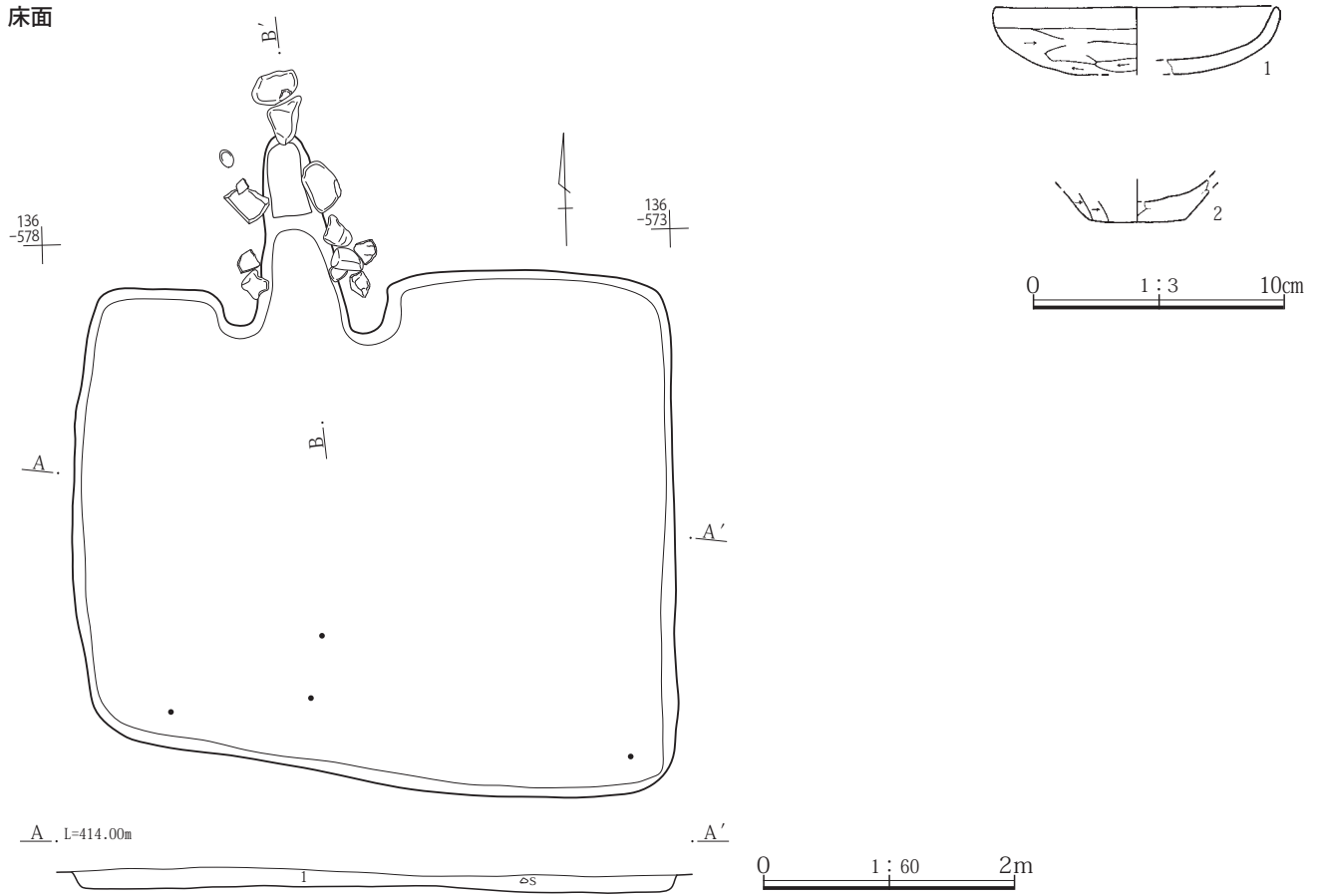
埋没土：暗褐色土を主とした1・2層に分層できる。また、埋土中には多くの遺物と共に中型礫が多量に出土しており、人為的堆積と考えられる。

床面・壁：床面は2-B区南壁基本層序Ⅷ層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前から全体に硬化する。床面上には大型の炭化材が散在し、一部に被熱による焼土化した箇所が確認されている。なお、重複する2区89号竪穴建物より、本建物の床面の方が低い。壁高は20～28cmを測り、垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央のやや東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-64°-Eを向き、遺構確認時にカマド煙道部の側壁石が確認できた残存状態の良好な石組みカマドである。燃焼部は壁の内側にあり、煙道部は外側に長く突出する。カマドの規模は、全長1.81m、幅0.99

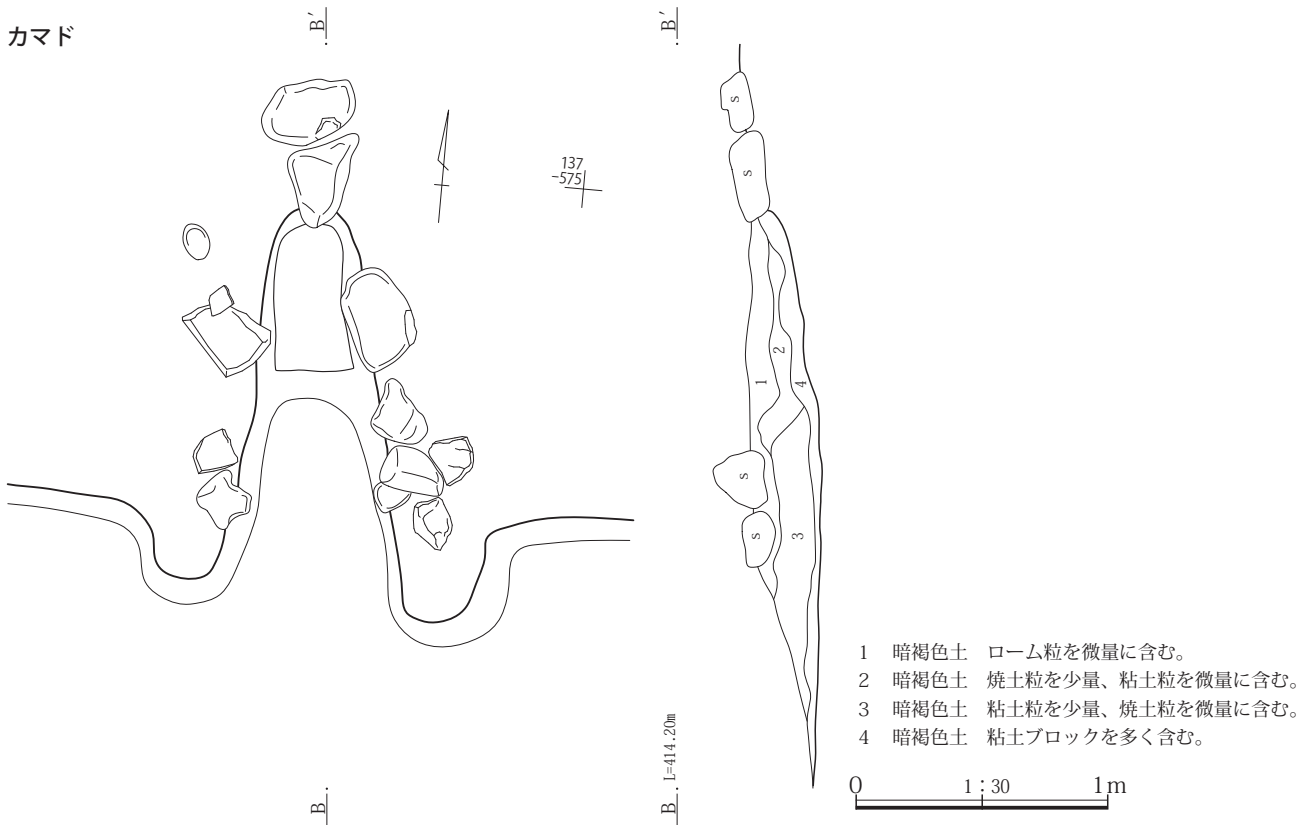
第4章 検出された遺構と遺物

床面



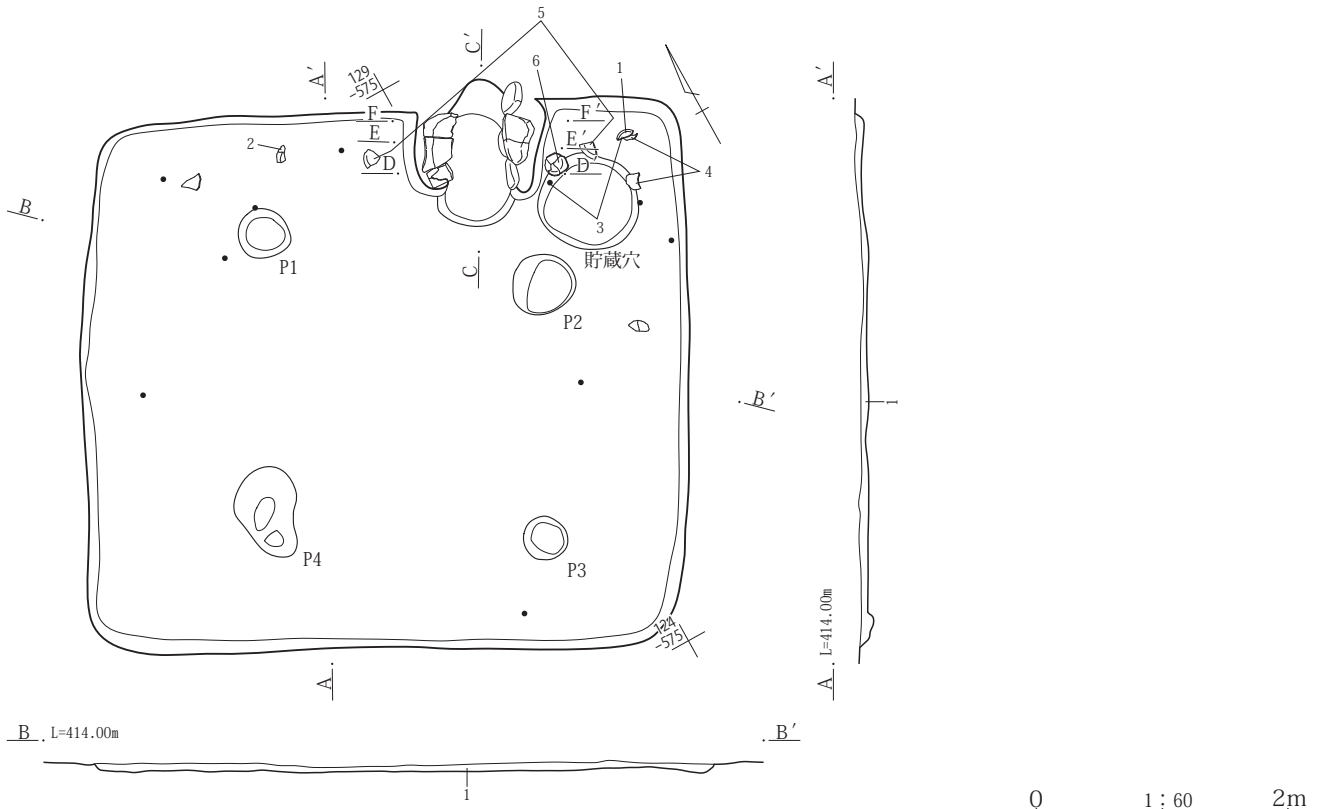
1 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物を微量に含む。

カマド

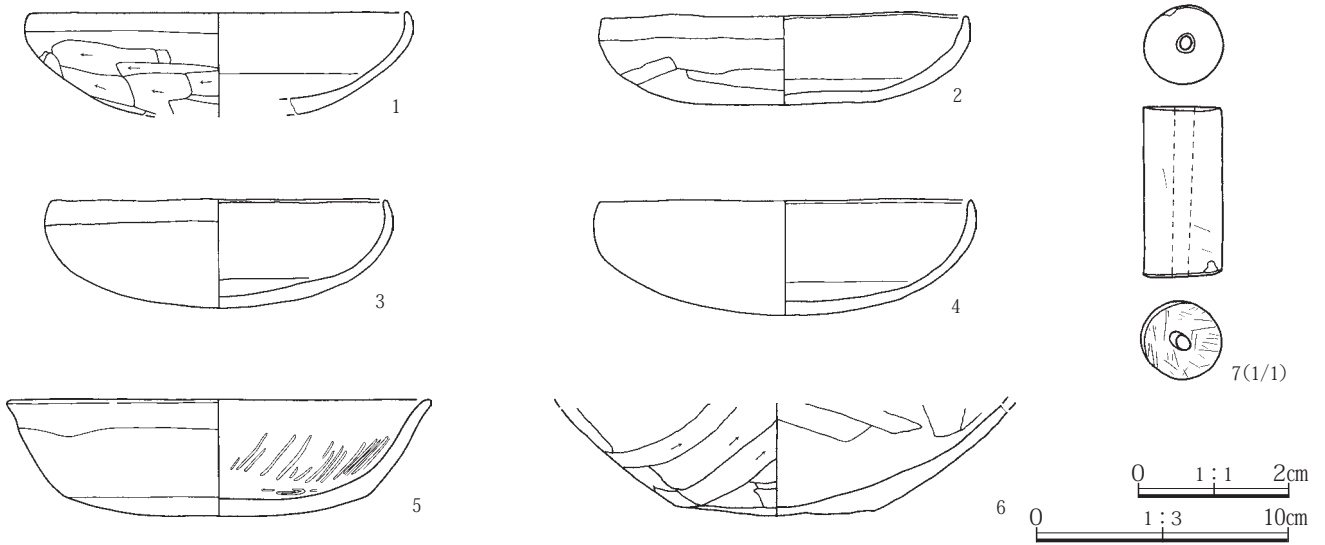


- 1 暗褐色土 ローム粒を微量に含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒を少量、粘土粒を微量に含む。
- 3 暗褐色土 粘土粒を少量、焼土粒を微量に含む。
- 4 暗褐色土 粘土ブロックを多く含む。

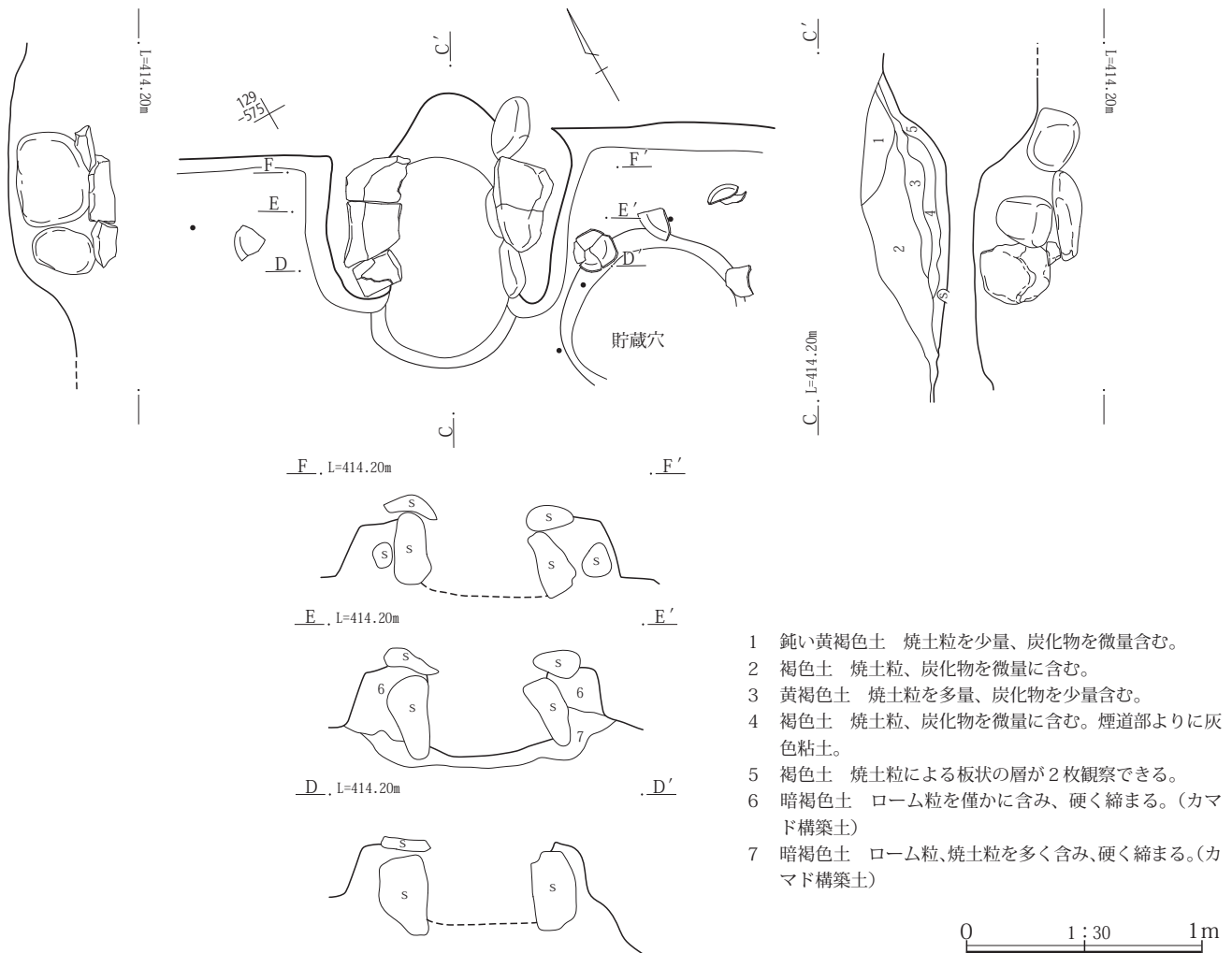
第330図 2区79号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図、出土遺物



1 鈍い黄褐色土 焼土粒、炭化物を微量含む。



第331図 2区80号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物



第332図 2区80号竪穴建物 カマド 平・断面図、側面図

mを測る。袖は壁から50cmほど突き出るようにあり、両袖先端に袖石をもつ。この焚き口部天井石と考えられる長い棒状礫がカマド内に埋もれていた。石組みの配置状況は、袖石と煙道部に配置されるのみで、燃烧部には配置されていない。煙道部では、燃烧部との境となる一段高い位置から大型礫が1石ずつ両側(左側4石、右側3石)に残存する。しかし、煙道部天井石は検出されていない。焚き口部から燃烧部の底面は概ね平坦で、煙道部は燃烧部奥に段をもって緩く立ち上がる。燃烧部の内壁は、被熱して焼土化している。なお、袖石は両上端がやや内傾し、焚き口部の間口は45cm前後を測る。

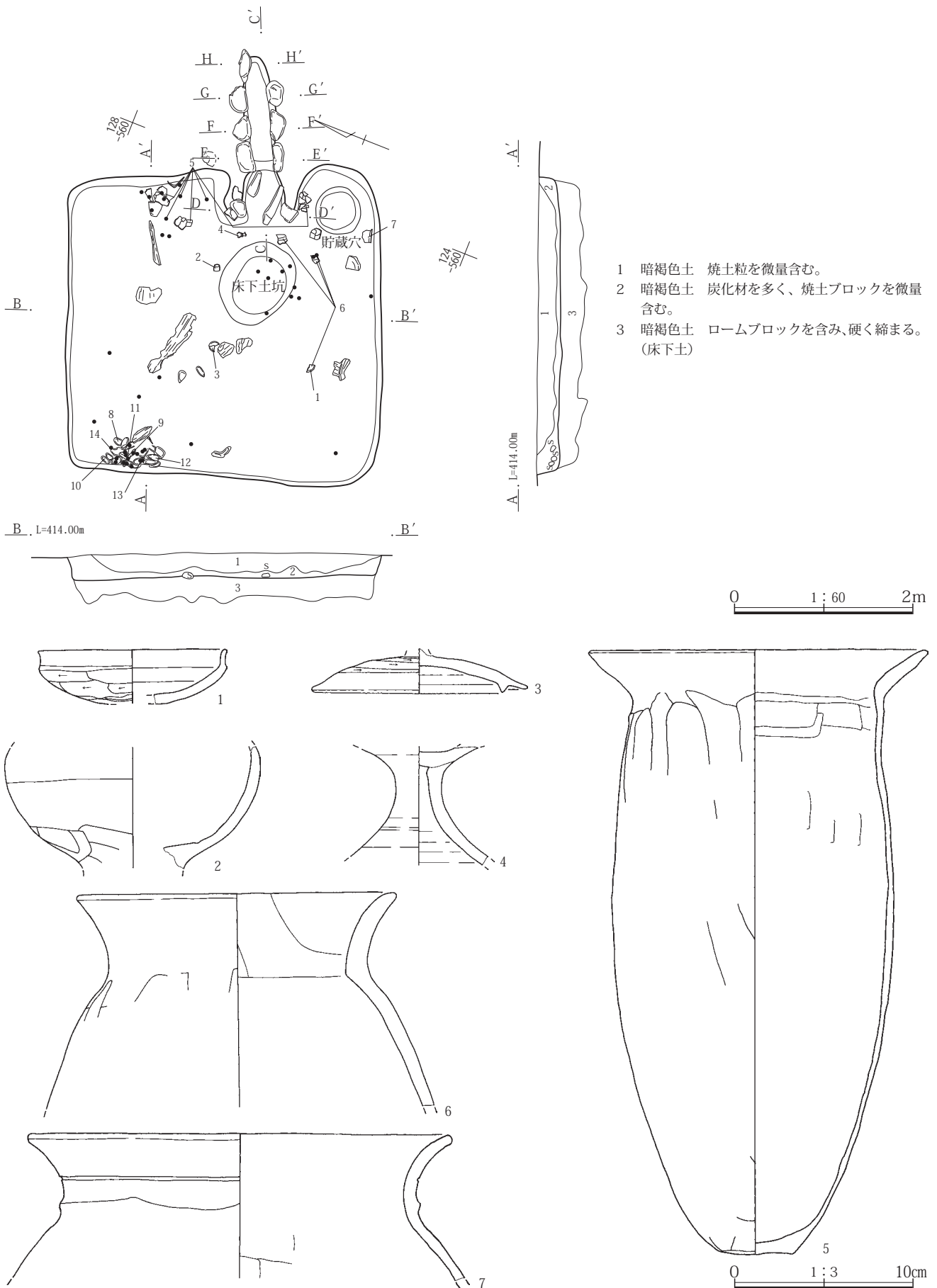
一方、カマドの構築状況は、建物の床面構築後にカマド部分を一回り大きく掘り凹めて5層の暗褐色土を構築土とし、袖石を据えながら4層の鈍い黄褐色土で袖を構築する。さらに、煙道部についても周囲を一回

り大きめに掘り、側壁石を据えながら6層の暗褐色土で構築したと考えられる。

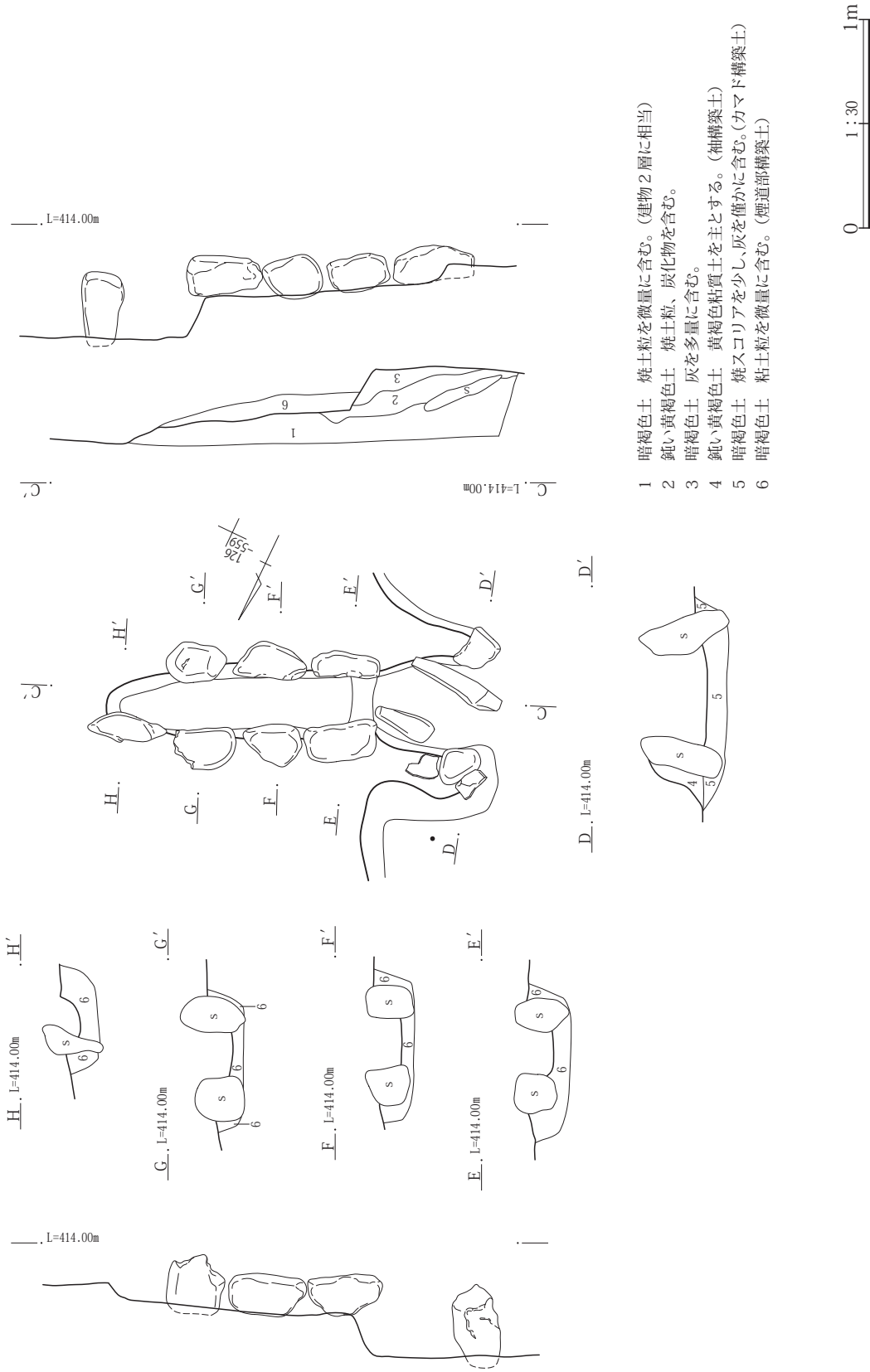
貯蔵穴：カマドの右側となる東隅にあり、上面形は円形を呈する。径50cm前後、深さ18cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

床面下：床面精査時に、床面中央の北西側に床下土坑を確認した。床下土坑は長軸0.95m、短軸0.78m、深さ18cmを測る楕円形で、黒褐色土を埋土とする。また、床面下を調査した結果、深さ20cm前後の掘り込みをもち、底面は凹凸が著しい。埋土はロームブロックを含む暗褐色土である。

遺物：出土した遺物量は多いが、そのほとんどが埋土からの出土である。僅かに、カマド前の床面直上に6の甕が出土し、床面中央の床面直上に3の杯蓋が出土している。また、西隅付近の南西壁際には、多量の中型扁平礫が床面から積み上げられた状態で出土し、そ

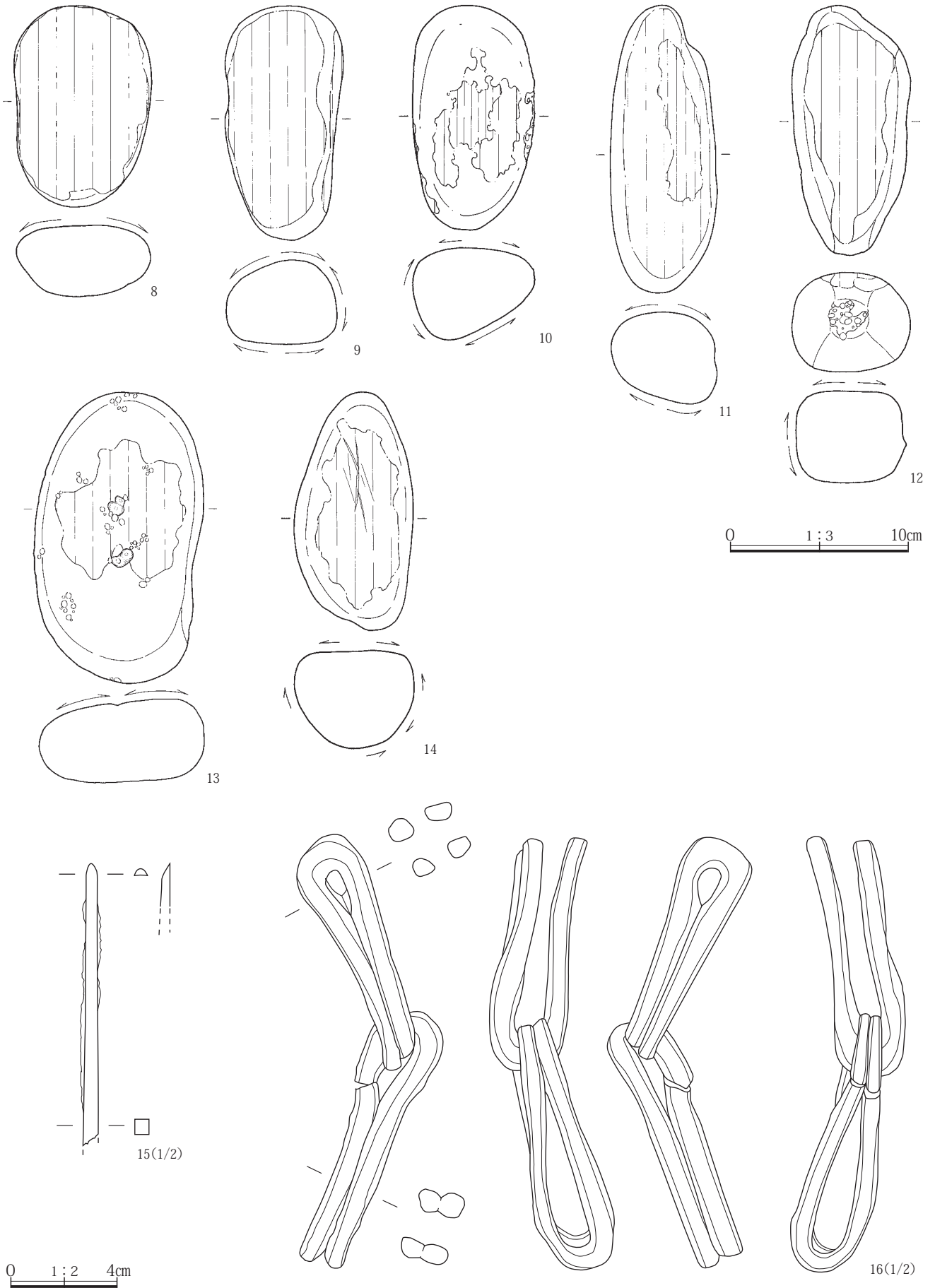


第333図 2区88号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物(1)



- 1 暗褐色土 焼土粒を微量に含む。(建物2層に相当)
- 2 鈍い黄褐色土 焼土粒、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 灰を多量に含む。
- 4 鈍い黄褐色土 黄褐色粘質土を主とする。(袖構築土)
- 5 暗褐色土 焼スコリアを少し、灰を僅かに含む。(カマド構築土)
- 6 暗褐色土 粘土粒を微量に含む。(煙道部構築土)

第334図 2区88号竪穴建物 カマド 平・断面図、側面図



第335図 2区88号竪穴建物 出土遺物(2)

第4章 検出された遺構と遺物

の中に多くの磨石が含まれており、薦網石が集積された可能性もある。なお、図示した金属製品は、埋土上位からである。

出土遺物として、土器7点と石製品7点、金属製品2点を図示した。1は土師器の杯で、2は脚部を欠く土師器の台付鉢。3は須恵器の杯蓋で、4は須恵器の高杯の脚部。5～7は土師器の甕である。

石製品の8～14は磨面をもつ粗粒輝石安山岩製の磨石で、10の右側面、12の下端部、13の表面中央に敲打痕をもつ。また、14の表面には線条痕が認められる。

金属製品には15の鉄鎌と16の鉄製の馬具がある。15は茎部を欠損する長頸鎌で、残存長10.6cm、刃幅0.4cmを測る。16は鍔金具で曲げた2つの金輪を組み合わせたもので、全長19.4cm、幅1.0cmを測る

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器片が少量ある。

所見・時期：床面に出土した炭化材の状況および床面の被熱から、焼失家屋と考えられる。建物の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。

2区90号竪穴建物

(第336・337図、第13・147表、PL.85・230)

平成28年度の調査で検出した。2区79・81・91号竪穴建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する北西側の一角に位置し、北東側に2区91号竪穴建物、南側に2区79・81号竪穴建物と大きく重複する。また、北東側から南側にかけて2区80・83・84・92・96号竪穴建物、西側に2区73号竪穴建物、北西側に2区74号竪穴建物の各竪穴建物が近接する。

グリッド：2A・2B-115・116

座標値：X=61,132～61,138 Y=-93,572～93,579

重複：本建物の北東側を2区91号竪穴建物、南側を2区79・81号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、2区79・91号竪穴建物よりも本建物が旧く、2区81号竪穴建物より新しい。

形状：方形

規模：長軸6.09m 短軸(5.33)m 壁高6～12cm

長軸方向：N-88°-W 床面積：推定29.82㎡

埋没土：1層の褐色土を主とする。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前付近はやや硬化するが、中央から南側の大半を重複しているため不明。なお、重複する2区79号竪穴建物の床面より、本建物の床面の方が僅かに高い。壁高は6～12cmと浅く、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北東壁中央の東寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-3°-Eを向き、遺構確認時にカマド上部に礫が確認され、残存状態はやや良好。燃烧部は壁の内側にあり、煙道部は外側に僅かに突出する。カマドの規模は、全長1.45m、幅1.14mを測る。袖は壁から80～90cmほど突き出るようにあり、その先端に袖石はない。しかし、燃烧部中央の両袖上部には礫が残存し、石組みであった可能性も否めない。焚口部から燃烧部の底面は僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥から斜位に立ち上がる。

柱穴：支柱穴と考えられるP1～4・6の計5基を検出した。P2およびP3・4はそれぞれ複数基となっており、P5も加わる可能性をもつ。上面は円形ないし楕円形で、長軸40～73cm、短軸40～60cm、深さ33～42cmを測り、埋土は暗褐色土である。

床面下：床面下を調査した。5cm前後の掘り込みをもつようであるが、南側は重複する竪穴建物により詳細は不明で、しかも自然礫層が露出する。しかし、底面の残存する部分には、礫の抜き取り痕と考えられる凹凸が著しい。暗褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物量はやや少ないものの、カマド右側の北東隅付近に集中する。5の杯は床面やや上から出土し、9の金属製品(耳環)は東壁際の床面直上から出土している。他は埋土中からの出土である。

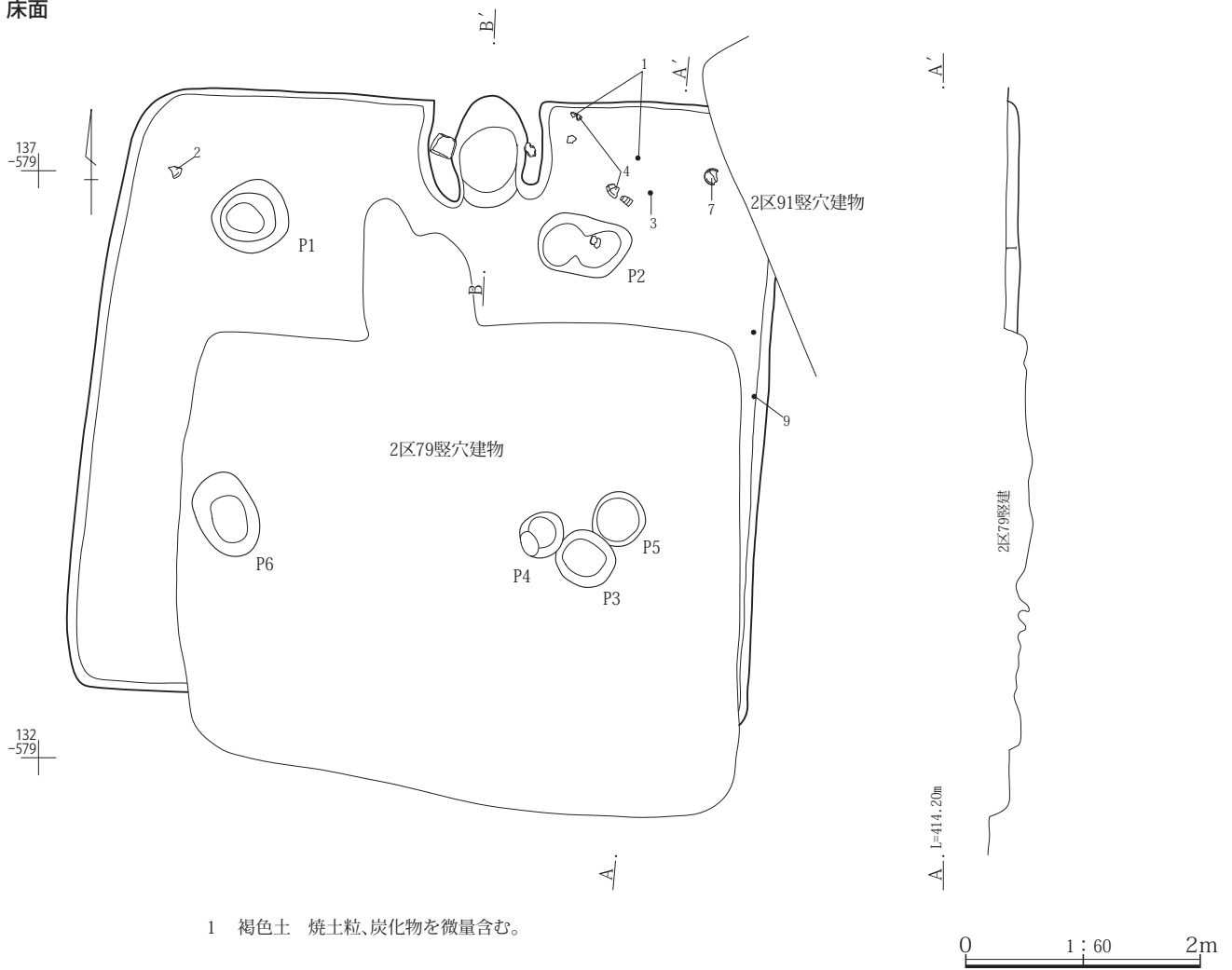
出土遺物として、土器8点と金属製品1点を図示した。1～5は土師器の杯、6は須恵器の杯蓋で、7・8は須恵器の杯である。

金属製品の9は表面に金塗装が部分的に残る金環で、外径2.1cm、内径1.3cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器片が少量ある。

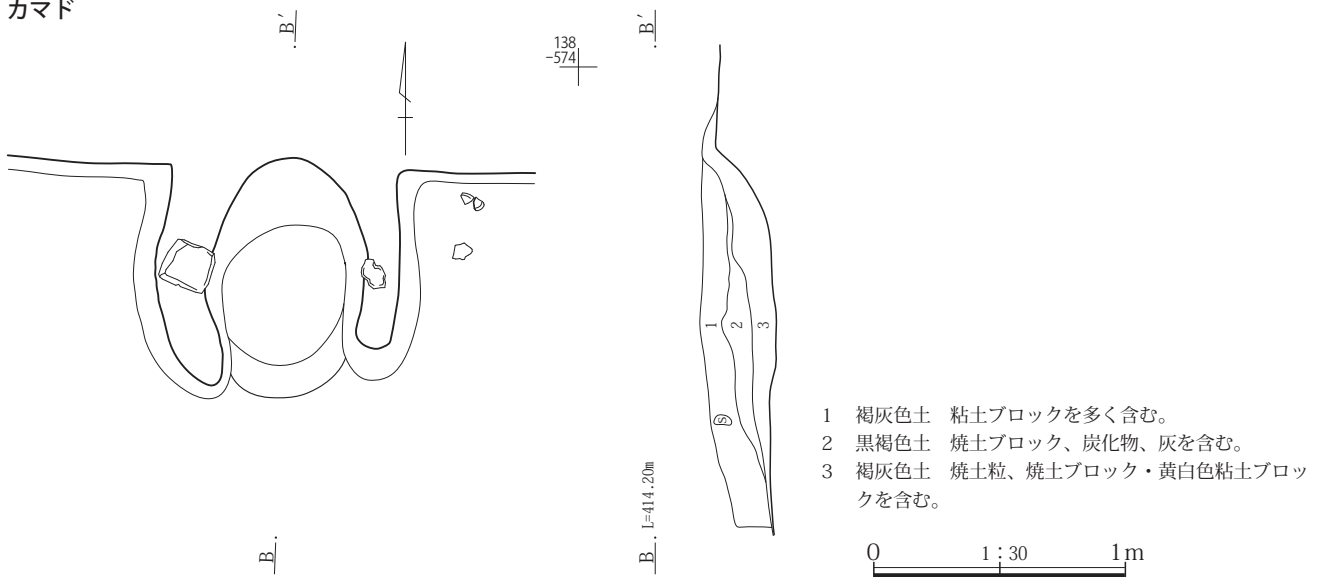
所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。

床面



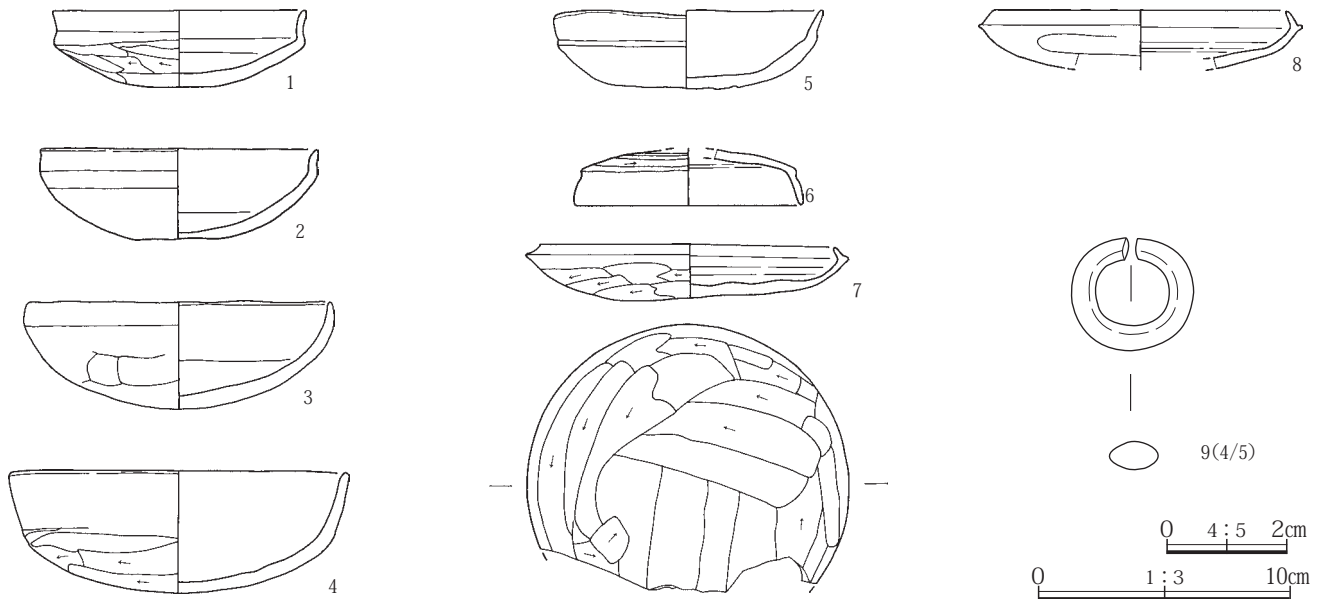
1 褐色土 焼土粒、炭化物を微量含む。

カマド



1 褐灰色土 粘土ブロックを多く含む。
 2 黒褐色土 焼土ブロック、炭化物、灰を含む。
 3 褐灰色土 焼土粒、焼土ブロック・黄白色粘土ブロックを含む。

第336図 2区90号竪穴建物 床面、カマド 平・断面図



第337図 2区90号竪穴建物 出土遺物

2区91号竪穴建物

(第338～341図、第13・148表、PL.85・86・231)

平成28年度の調査で検出した。2区90・92号竪穴建物と重複する。なお、第1面調査時の2区84号土坑の一部を壊されている。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する北側の一角に位置し、東側の大半を2区92号竪穴建物、西側の一部を2区90号竪穴建物と重複する。また、南東側から南側にかけて2区83・96号竪穴建物、南西側および西側に2区79・81号竪穴建物、北西側に2区74号竪穴建物が近接する。

グリッド：2A・2B-114・115

座標値：X=61,133～61,139 Y=-93,568～93,573

重複：本建物の東側を2区92号竪穴建物、西側を2区90号竪穴建物と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、いずれの建物よりも本建物が最も新しい。

形状：長方形

規模：長軸5.07m 短軸4.64m 壁高15～24cm

長軸方向：N-20°-W 床面積：20.65㎡

埋没土：黒褐色土を主とし、1層と壁際の2層とに分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、ほぼ平坦で、カマド前付近はやや硬化ぎみとなるが、南西壁際沿い以外の重複部分は硬化が弱い。なお、重複する2区92号竪穴建物の床面より、本建物の床面の

方が高い。壁高は15～24cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

カマド：北西壁中央のやや北寄りに位置し、カマドの主軸方位はN-23°-Wを向き、遺構確認時にカマド上部に側壁石や天井石が確認できた残存状態の良好な石組みカマドである。燃烧部は壁の内側から外側にかけてあり、煙道部は外側に突出する。カマドの規模は、全長1.27m、幅1.26mを測る。遺構確認時に確認された天井石の大型の平石は、途中で割れた状態で燃烧部上部に位置していることから、本来は煙道部側壁石に架かる煙道部天井石がずれた状態にあると考えられる。袖は壁から50～55cmほど突き出るようにあるが、その両袖の中間にそれぞれ底面から立石があることから、これが袖先端の袖石と考えられる。石組みの配置状況は、焚き口部に袖石を配し、燃烧部側面には側壁石をもたず、燃烧部底面より一段高い煙道部の最も手前部分に大型礫が両側面に1石ずつ残存する。焚口部から燃烧部の底面は床面より僅かに低くなり、煙道部は燃烧部奥に一段高い位置から緩やかに立ち上がる。

一方、構築状況は、周囲を一回り大きめに掘り、袖石や側壁石を据えながら構築したものと考えられ、燃烧部の袖部には4層とした暗褐色土を構築土としている。

貯蔵穴：カマドの右側となる北隅に位置し、上面形は円形を呈する。径78cm前後、深さ17cmを測り、暗褐色土

を埋土とする。

柱穴：主柱穴と考えられるP1～4を検出した。上面は円形ないし楕円形で、長軸50～68cm、短軸46～62cm、深さ50～60cmを測り、埋土は暗褐色土である。

床面下：床面下を調査したが、南西壁際沿いでは数cm下にローム面を確認したが、それ以外は重複する竪穴建物により詳細は不明。しかし、カマド前の床面に明らかに土色の異なる楕円状のプランを確認していたことから、床下土坑として調査を行った。床下土坑は長軸1.16m、短軸0.95m、深さ22cmを測る楕円形を呈し、鈍い黄褐色土を埋土とする。

遺物：出土した遺物量はやや多いが、その多くは埋土中からであり、僅かに9の甕が床面直上、1の杯が床面やや上から出土している。また、床下土坑からは14の石製品が出土している。

出土遺物として、土器12点と石製品3点を図示した。1～4は土師器の杯、5は須恵器の杯蓋で、6～8は土師器の甕である。9は須恵器の甕で、10～12は須恵器の甕の胴部片であり、外面に叩き痕、内面にアテ具痕が残る。

石製品には13の粒状礫、14の磨石、15の台石がある。13は砂岩製で、暗オリーブ灰色をなし、全体に光沢をもち、長さ1.4cm、幅1.0cm、厚さ0.5cmを測る。14は石英閃緑岩製で、表面に磨面、左側面から上端部に敲打痕をもち、長さ13.1cm、幅6.5cm、厚さ4.4cmを測る。15は変質安山岩製で、表裏面が平坦で滑らかとなり、敲打痕も認められる。長さ24.5cm、幅20.6cm、厚さ6.0cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が多量に、須恵器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。

2区94号竪穴建物

(第342・343図、第13・151表、PL.87・231・232)

平成28年度の調査で検出した。北壁際に竪穴建物の南側の一部を検出したが、大半は調査範囲外にあるため詳細は不明。

位置：2区東側の北壁際に位置し、南側に2区86・87・93号竪穴建物、南西側に2区92・96号竪穴建物が近接

する。

グリッド：2B・2C-110～112

座標値：X=61,136～61,140 Y=-93,549～93,556

形状：方形か

規模：長軸(5.27)m 短軸(4.76)m 壁高65cm

長軸方向：N-39°-W 床面積：(13.71)m²

埋没土：暗褐色土を主体とするが、1～4層に分層した。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下面にあり、ほぼ平坦で、全体に硬化が著しい。壁高は65cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

柱穴：主柱穴と考えられるP1の1基のみを検出した。

上面は楕円形で、長軸50cm、短軸38cm、深さ50cmを測り、埋土は暗褐色土である。

周溝：壁際を巡るようにあり、幅23cm前後、深さ10cmを測り、暗褐色土を埋土とする。

床面下：建物中央部を除く壁際付近に浅い掘り込みをもち、部分的に工具痕を確認できた。また、底面は大小の凹凸が著しく、埋土はロームブロックを含む暗褐色土で硬く締まる。

遺物：出土した遺物量は調査範囲の割に多いが、そのほとんどが埋土中からの出土である。

出土遺物として、土器14点と石製品2点、金属製品1点を図示した。1～9は土師器の杯で、9は内面が黒色処理であると共に全面へラ磨きが施される。10は須恵器の盤蓋で、11は須恵器の盤または高盤。12は須恵器の外面口縁部に凹線が1条巡る鉢で、鉄鉢か。13は土師器の甕で、14は須恵器の甕の肩部片である。

石製品の15・16は共に粗粒輝石安山岩製の磨石で、15は長さ13.1cm、幅6.4cm、16は長さ14.0cm、幅7.5cmを測る。

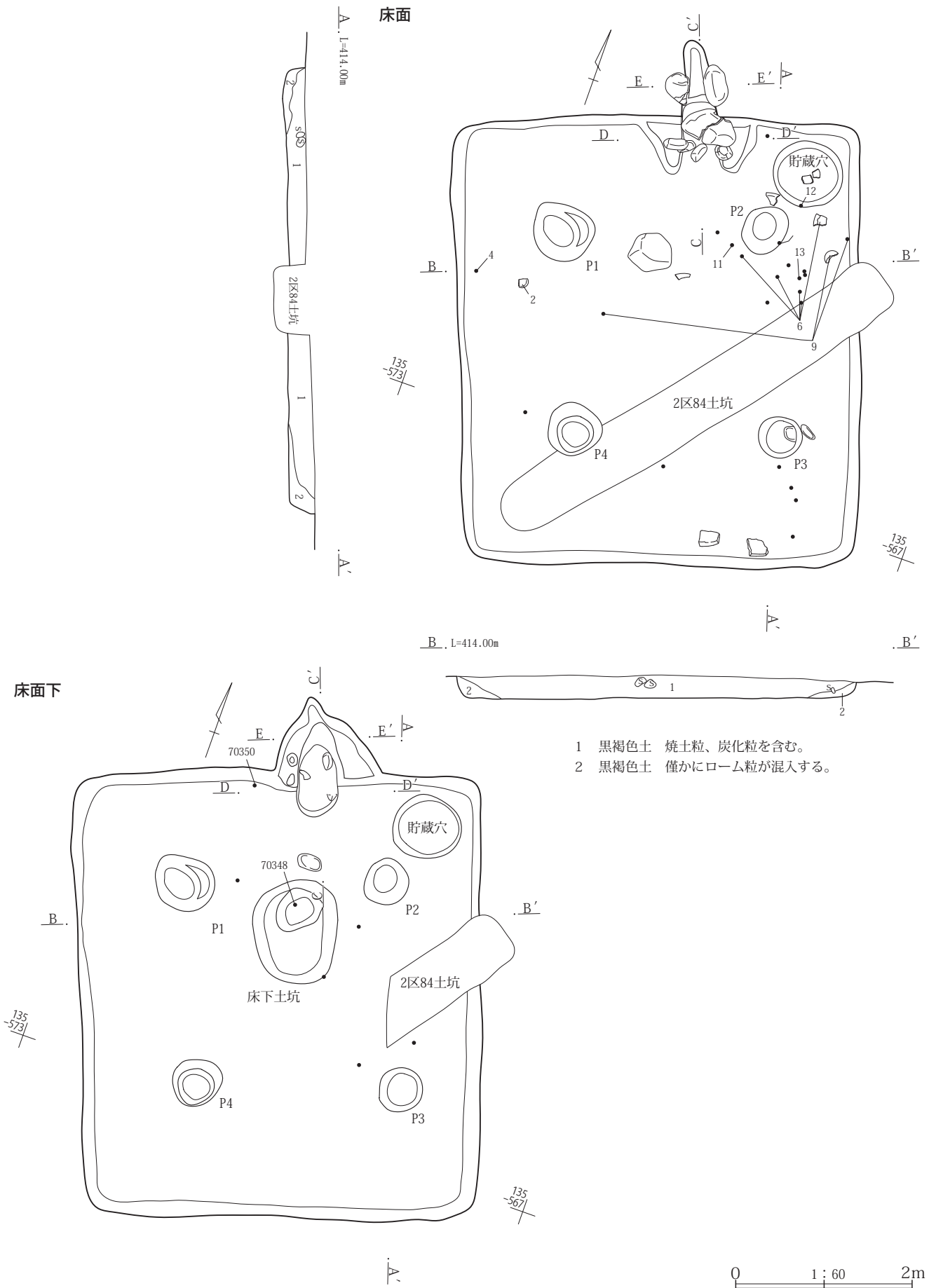
金属製品の17は両端部を欠く鉄製の釘で、残存長6.3cmを測る。

未掲載遺物には、土師器片が極めて多量に、須恵器片が少量ある。

所見・時期：建物の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。

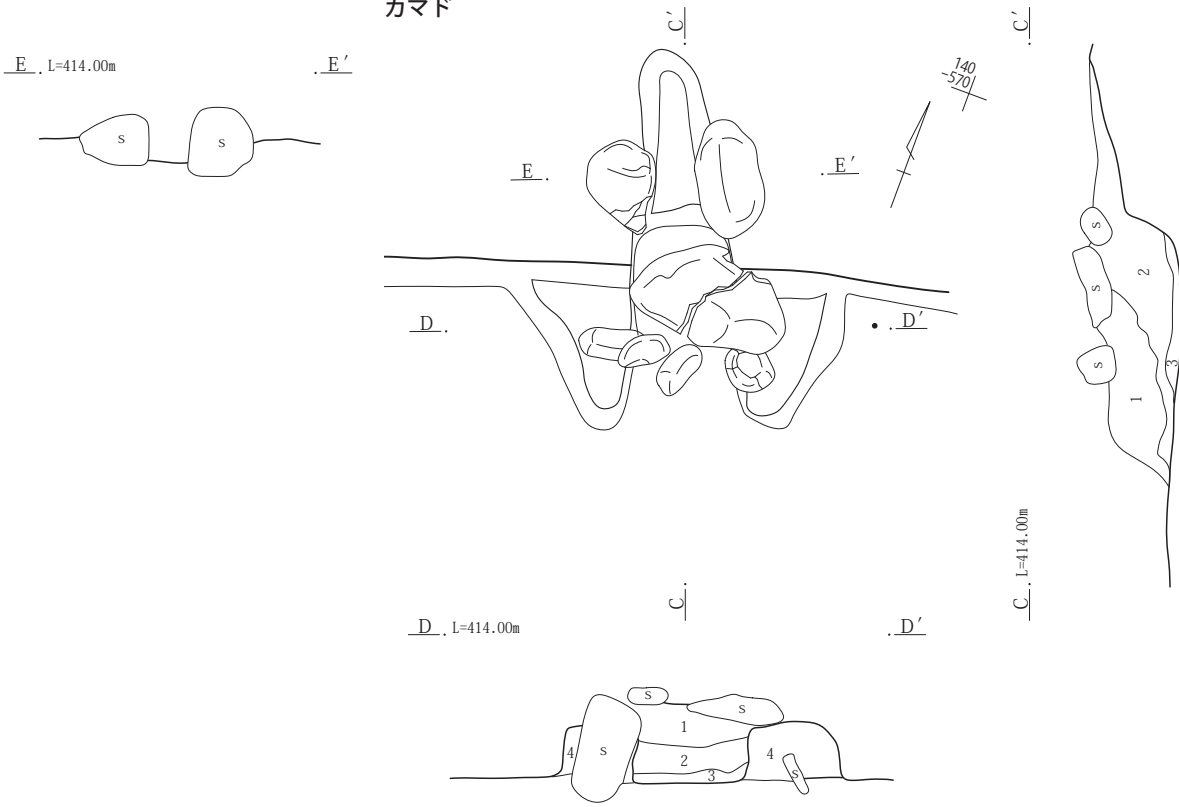
2区99号竪穴建物(第344図、第13・154表、PL.88・233)

平成28年度の調査で検出した。2区39号竪穴建物と重複し、建物の大半は北側の調査範囲外となる。なお、重

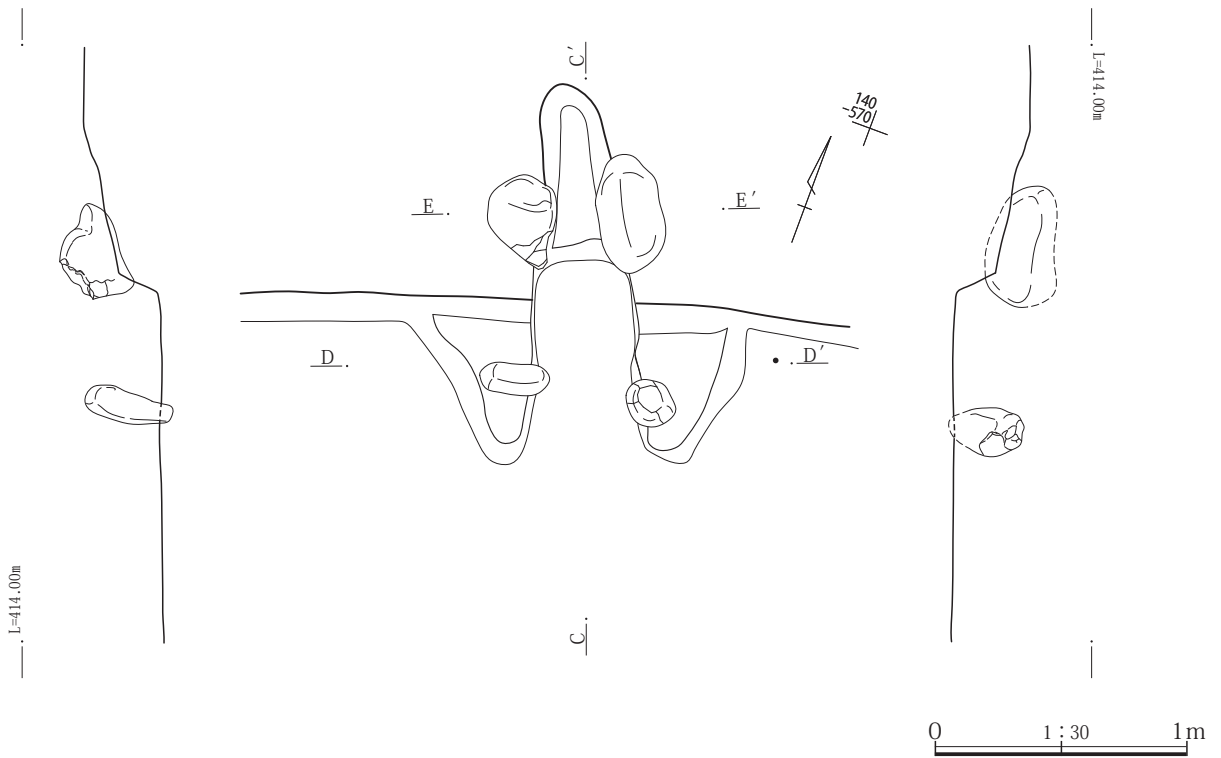


第338図 2区91号竪穴建物 床面、床面下 平・断面図

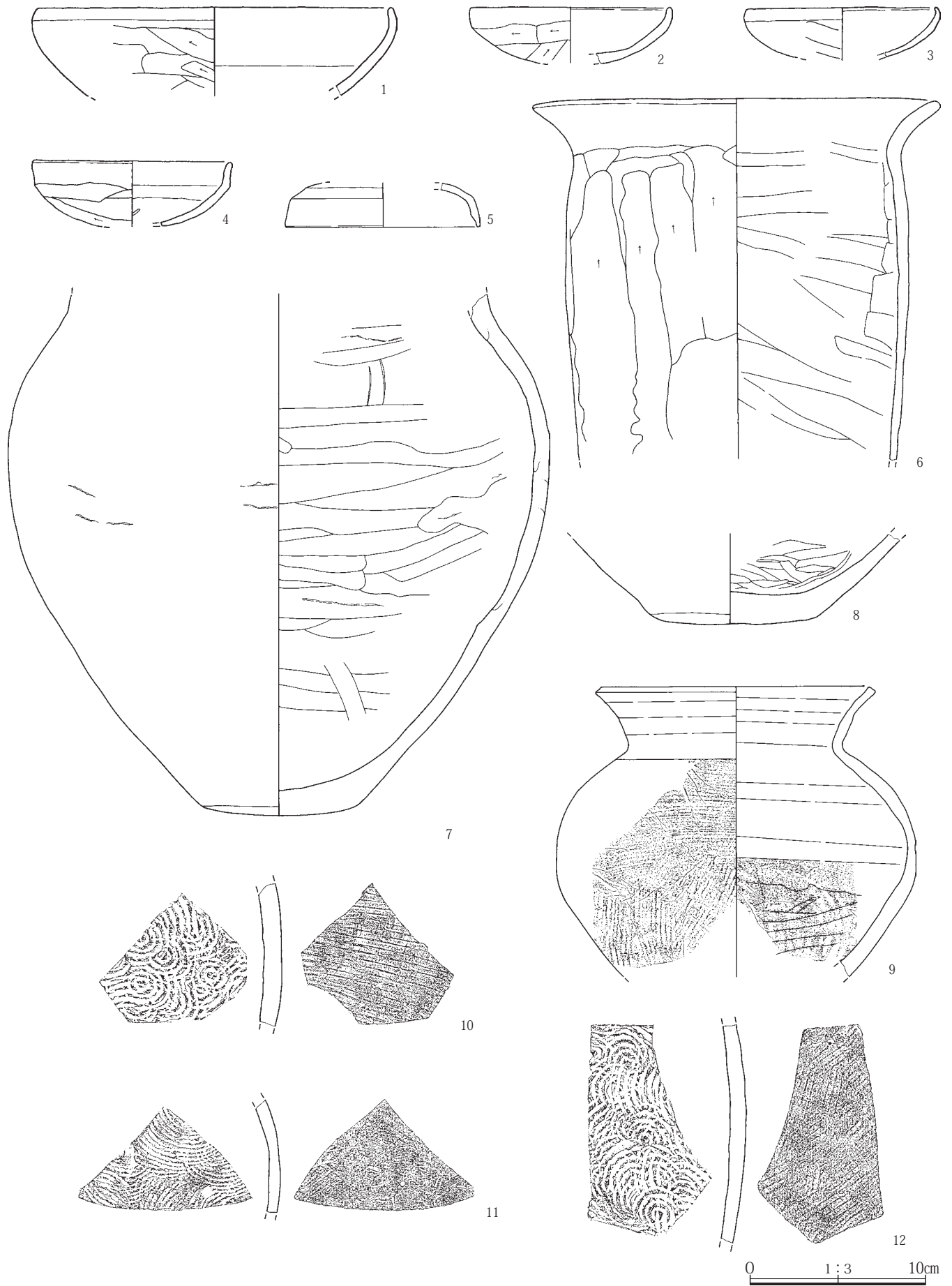
カマド



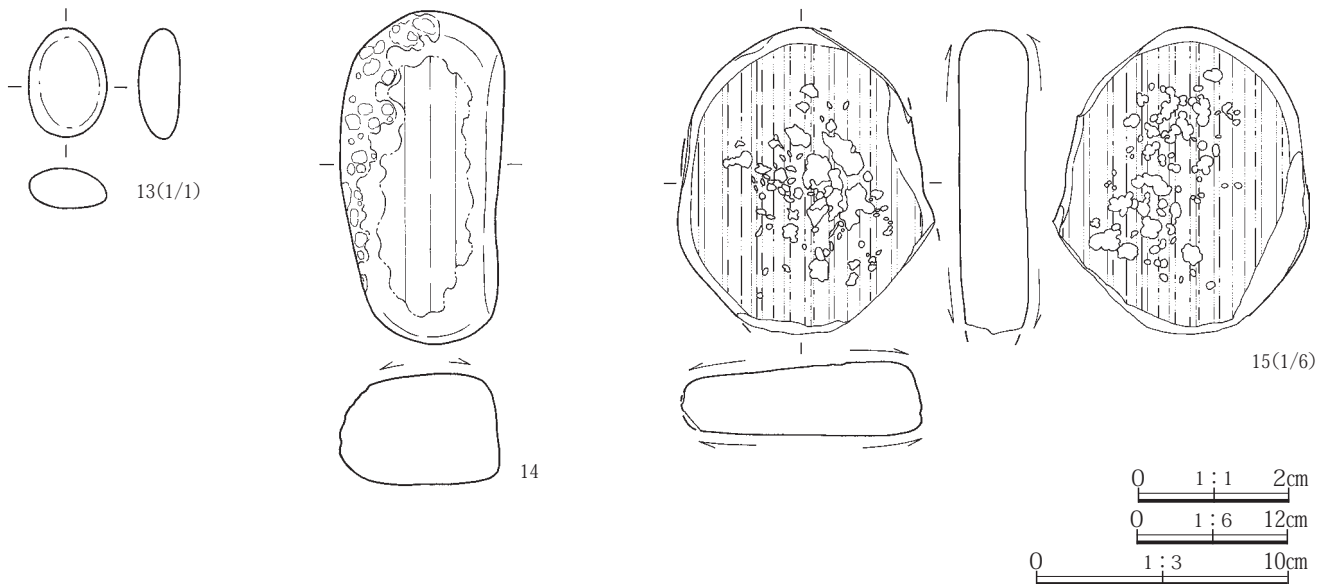
- 1 鈍い黄褐色土 焼土粒・粘土粒、炭化物を含む。
- 2 褐色土 焼土粒、灰色粘土を多量に含む。
- 3 暗褐色土 炭化物、灰、粘土を含む。
- 4 暗褐色土 粘土粒・ブロックを多量に含み、内壁は焼土化し、硬く締まる。(袖構築土)



第339図 2区91号竪穴建物 カマド 平・断面図、側面図



第340図 2区91号竪穴建物 出土遺物(1)



第341図 2区91号竪穴建物 出土遺物(2)

複する竪穴建物との調査では、遺構確認および土層断面の判別が難しく、同時に調査を行った。その後に確認した出土遺物の時期から、新旧が明らかとなった。

位置：2区西側の北壁際に位置し、南隅に2区39号竪穴建物と僅かに重複する。また、南東側に2区67・68号竪穴建物、南側に2区22・38号竪穴建物、西側に2区37・66号竪穴建物が近接する。

グリッド：2H-127・128

座標値：X=61,166~61,169 Y=-93,632~93,636

重複：本建物に重複する2区39号竪穴建物との新旧は、出土した遺物の時期から、本建物の方が古い。

形状：方形か長方形

規模：長軸(3.28)m 短軸(2.45)m 壁高47cm

長軸方向：N-26°-W 床面積：(5.10)m²

埋没土：黒褐色土を主に、1・2層に分層できる。

床面・壁：床面は2-A区南壁基本層序VI層下位にあり、床面はほぼ平坦で、中央がやや硬化済み。壁高は47cmを測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

遺物：出土した遺物量は少なく、そのほとんどが埋土中からの出土である。

出土遺物として、土器10点と石製品1点を図示した。1～3は土師器の杯。4は須恵器の杯蓋で、5～8は須恵器の杯であるが、5は埋土上位の混入である。9は須恵器の椀で、10は須恵器コップ形椀である。

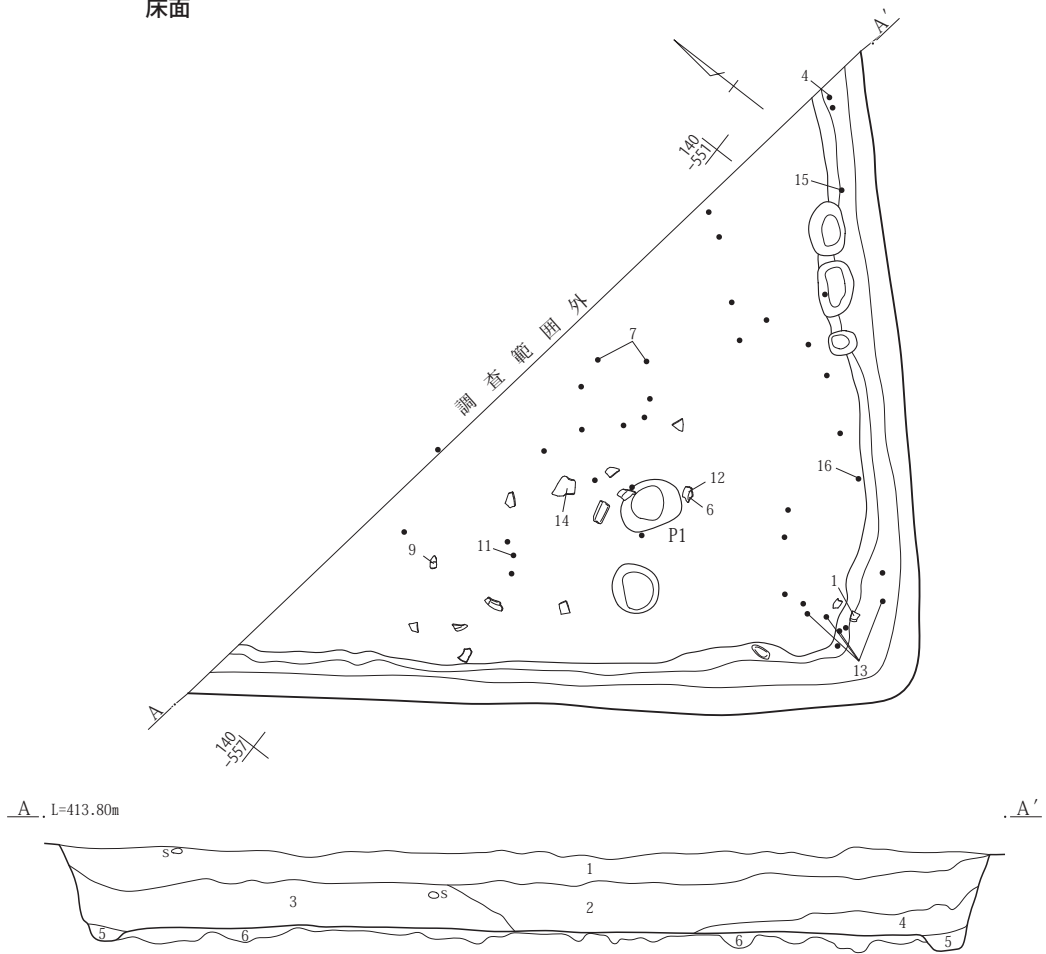
石製品11は粗粒輝石安山岩製の台石で、表面が滑ら

かとなっている。長さ16.4cm、幅13.7cmを測る。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片がある。

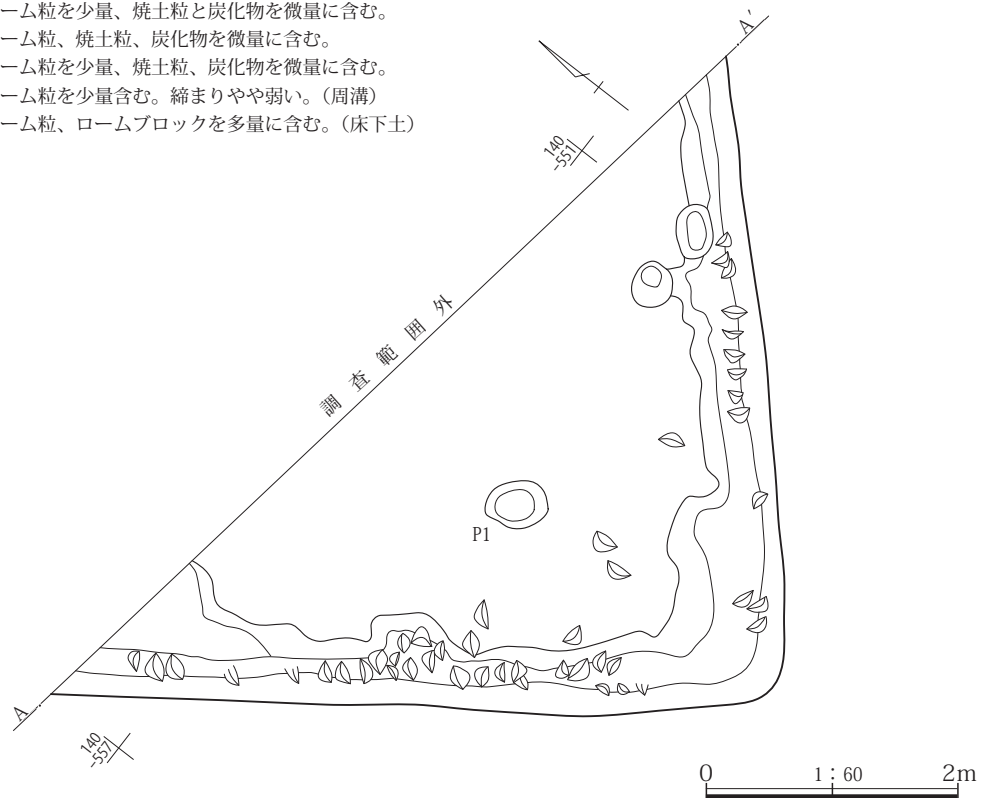
所見・時期：建物の時期は、出土土器から8世紀末と考えられる。

床面

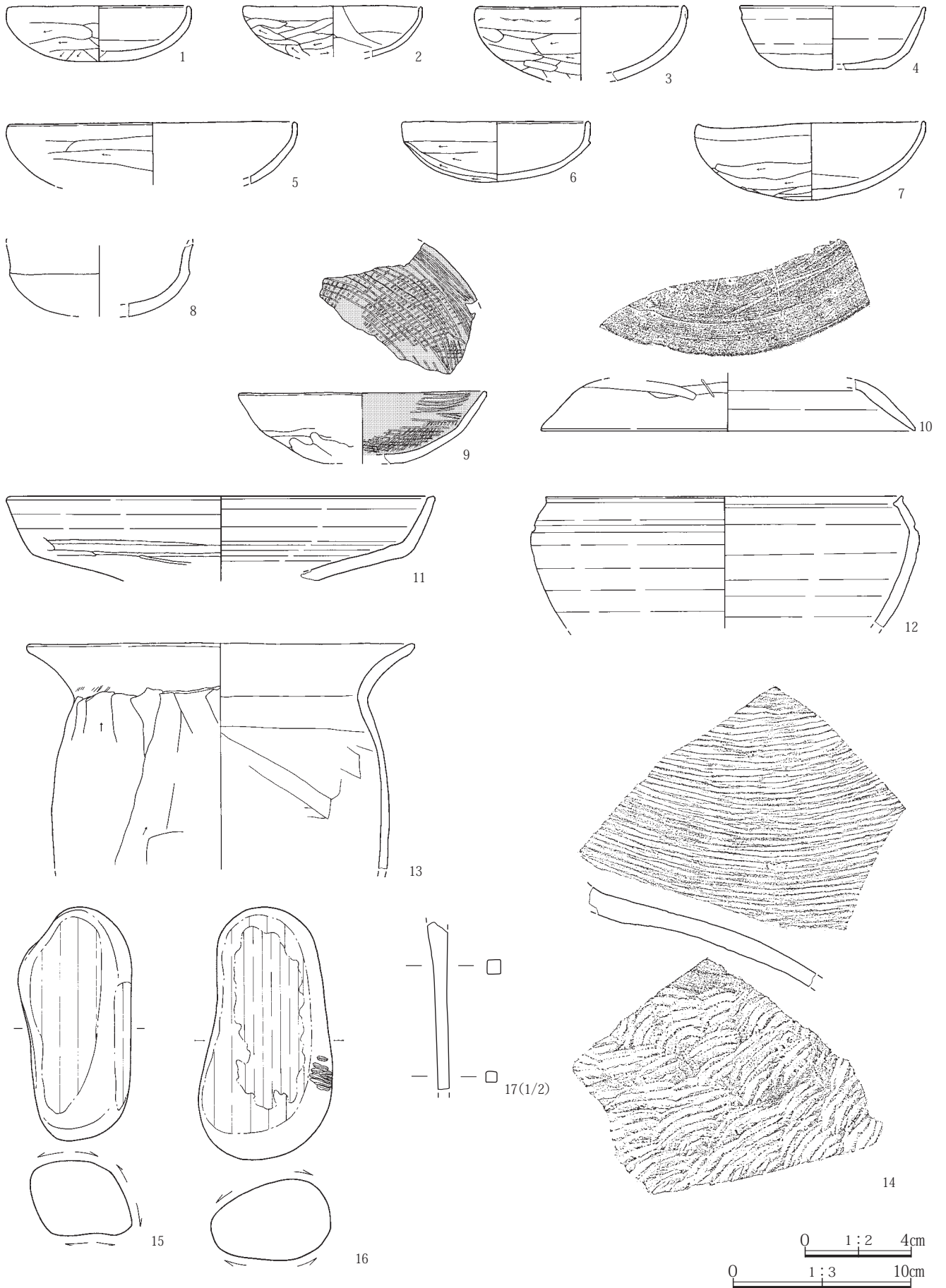


床面下

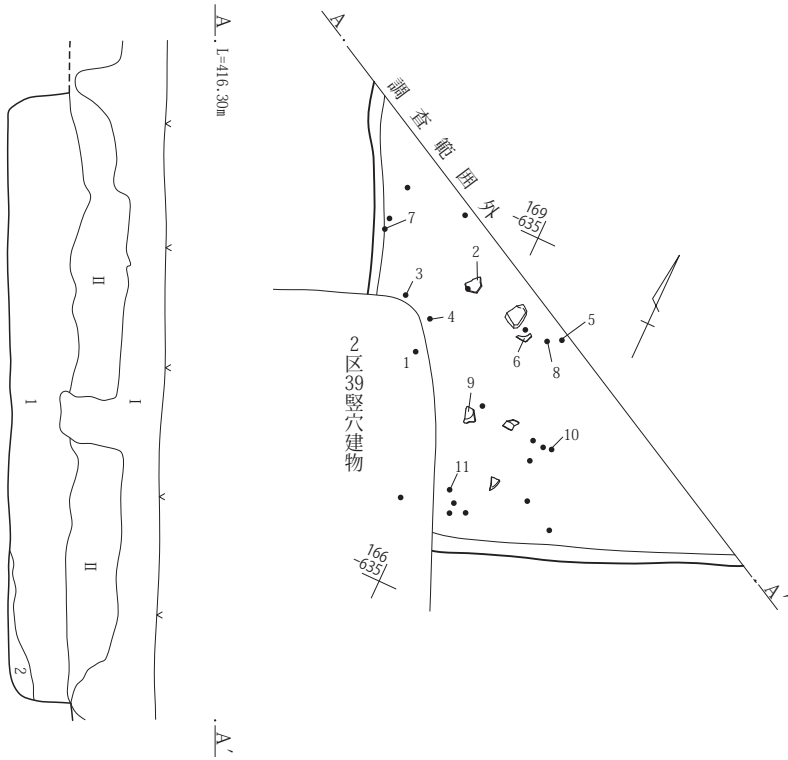
- 1 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物を微量に含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量、焼土粒と炭化物を微量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物を微量に含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒を少量、焼土粒、炭化物を微量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒を少量含む。締まりやや弱い。(周溝)
- 6 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。(床下土)



第342図 2区94号竪穴建物 床直、床面下 平・断面図

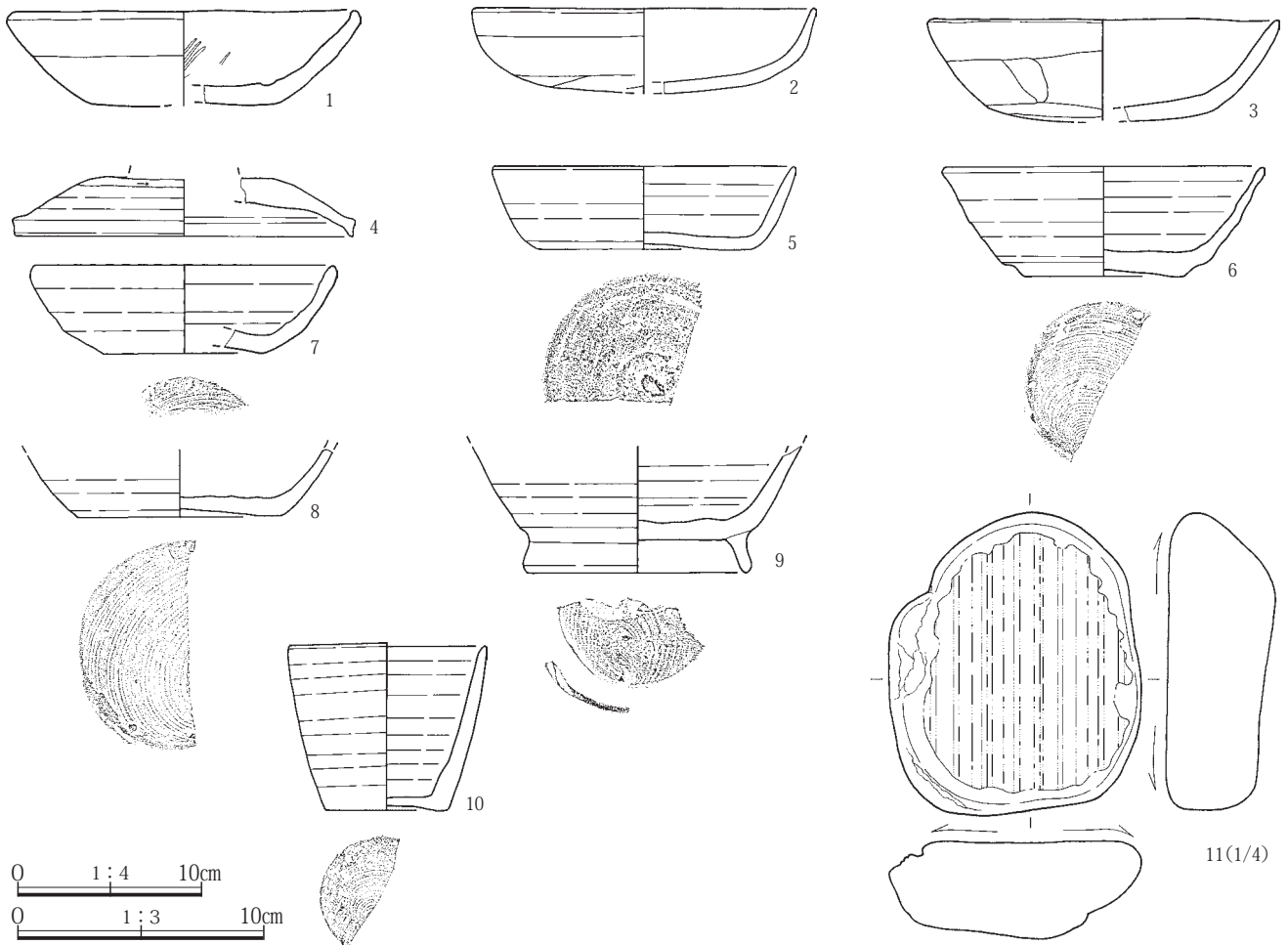


第343図 2区94号竪穴建物 出土遺物



- I 暗褐色土 表土(現耕作土)。As-Kkを多量含む。(2-A区南壁基本層序I層相当)
- II 黒褐色土 層上位に畝の畝畦間(As-B)が認められる2-A区南壁基本層序IV層、下位は2-A区南壁基本層序V層。
- 1 黒褐色土 焼土粒・白色粒、炭化物を多めに含む。
- 2 黒褐色土 焼土粒を多量に含む。

0 1:60 2m



第344図 2区99号竪穴建物 床面 平・断面図、出土遺物

(3) 竪穴遺構

本調査区で検出された竪穴遺構は、第2面調査において1基が検出された。明確な炉やカマド等の建物要件を確認できなかったことから、本報告では竪穴遺構として扱うこととした。

以下、記述する。(第14表 2区竪穴遺構一覧を参照)

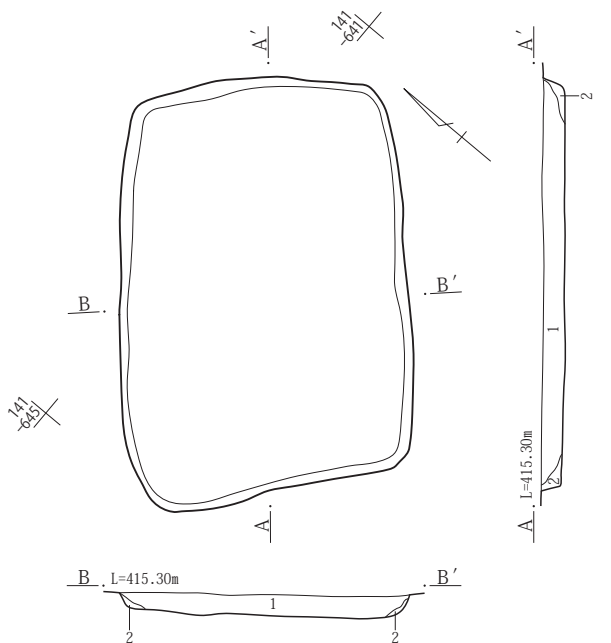
2区1号竪穴遺構 (第345図、第14表、PL.39)

平成27年度の調査で検出した。調査時は2区24号竪穴建物として扱った。

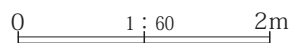
位置：2区南西側の南壁付近に位置し、北東側に2区28号竪穴建物、南東側に2区11・12号竪穴建物、西側に2区9号竪穴建物が近接する。

グリッド：2B・2C-129・130

座標値：X=61,138~61,141 Y=-93,641~93,644



- 1 黒褐色土 白色・赤褐色鉱物粒、ロームブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 僅かに白色鉱物粒を含む。



第345図 2区1号竪穴遺構 平・断面図

形状：長方形

規模：長軸3.36m 短軸2.34m 壁高12~20cm

長軸方向：N-49°-W 床面積：6.38㎡

埋没土：黒褐色土を主に、1・2層に分層できる。

床面・壁：底面は2-A区南壁基本層序VI層中位にあり、ほぼ平坦で、中央付近がやや硬化する。壁高は15cm前後を測り、やや垂直ぎみに立ち上がる。

遺物：出土していない。

所見・時期：遺物の出土がないことから不明な点はあるが、建物の時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

(4) 掘立柱建物

本調査区で検出された古代の掘立柱建物は、第2面調査において計6棟が検出された。それら6棟全てが1間×1間の柱間の狭い小規模な建物で、大型ないし総柱的な掘立柱建物は無い。

以下、各遺構ごとに記載する。(第15表 2区掘立柱建物一覧を参照)

2区1号掘立柱建物 (第346図、第15表、PL.89・90)

平成27年度の調査で検出した。2区53号竪穴建物と重複する。なお、調査当初は2区5・6号土坑としていたが、調査途中で掘立柱建物に変更した。

位置：2区東側の南壁際付近に位置し、建物の北西側を2区53号竪穴建物と大きく重複する。北東側に2区2号掘立柱建物、南東側に2区54~56号竪穴建物、西側に2区52号竪穴建物が近接する。

グリッド：W・X-117・118

座標値：X=61,113~61,117 Y=-93,584~93,589

重複：重複する2区53号竪穴建物とは、遺構確認および土層断面の観察から、その新旧は本掘立柱建物の方が新しい。

形状：正方形

規模：桁行2.55~2.75m 梁行2.52~2.58m

検出状況・埋没土：検出された柱穴は4基で、桁行1間、梁行1間の小規模な掘立柱建物となる。P1・4、P2・3はそれぞれ布堀状の溝で繋がり、その先端が柱穴部となる。柱間の距離は、桁行方向2.55~2.75m、梁行方向2.52~2.58mを測り、正方形に近い。各柱穴は概ね円形に近い楕円形を呈し、P1とP2の底面には礎

第4章 検出された遺構と遺物

石と考えられる扁平な大型礫と中型礫が重なる状態で検出されている。その規模は長軸65～75cm、短軸60～65cm、底面の深さは32～50cmを測るが、P1の礎石上面とP4の底面、P2の礎石上面とP3の底面の高さは一致する。埋土はロームブロックを多量に含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第2面であること、重複する2区53号竪穴建物が古墳時代(6世紀後半)であることから、本遺構の時期は古代である可能性が極めて高い。

2区2号掘立柱建物 (第346図、第15表、PL.90)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区東側の南壁際付近に位置し、2区1号掘立柱建物の北西側3.5mに平行するようにある。南側に2区55号竪穴建物、西側に2区53号竪穴建物が近接する。

グリッド：X・Y-116・117

座標値：X=61,116～61,120 Y=-93,579～93,583

形状：正方形

規模：桁行2.23～2.25m 梁行2.2m

検出状況・埋没土：検出された柱穴は6基で、基本的にはP1～4で構成する桁行1間、梁行1間の小規模な掘立柱建物であるが、桁方向の両側の柱の中間やや内側にそれぞれP5・6のピットが配置される。柱間の距離は、桁行方向2.23～2.25m、梁行方向2.2mを測る正方形。各柱穴は概ね円形に近い楕円形を呈し、P1～4の規模は長軸58～96cm、短軸50～76cm、深さ40cmを測る。また、P5・6は径40cm前後の円形で、深さ40cmを測る。埋土は暗褐色土ないし黒褐色土である。

所見・時期：検出面が第2面であること、2区1号掘立柱建物の北西側に平行するよう位置することから、本遺構の時期は古代の可能性が高い。

2区3号掘立柱建物 (第347図、第15表、PL.90)

平成28年度の調査で検出した。調査当初は2区108～111号土坑としていたが、調査途中で掘立柱建物に変更した。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する西側に位置し、北西側を2区4号掘立柱建物と接するようにある。北東側から南東側にかけて2区80～82号竪穴建物が、西側

に2区5号掘立柱建物が近接する。

グリッド：Y・Z-116・117

座標値：X=61,124～61,127 Y=-93,579～93,584

形状：長方形

規模：桁行2.69～2.72m 梁行2.14～2.2m

長軸方向：N-85°-E

検出状況・埋没土：検出された柱穴は4基で、桁行1間、梁行1間の小規模な掘立柱建物である。柱間の距離は、桁行方向2.69～2.72m、梁行方向2.14～2.2mを測るやや長方形。各柱穴は概ね楕円形を呈し、規模は長軸100cm前後、短軸76～92cm、深さ32～46cmを測る。埋土はロームブロックを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第2面であること、周辺の掘立柱建物の配置および規模から、本遺構の時期は古代の可能性が高い。

2区4号掘立柱建物 (第347図、第15表、PL.90)

平成28年度の調査で検出した。2区5号掘立柱建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する西側に位置し、南西側に2区5号掘立柱建物と重複し、南東側を2区4号掘立柱建物と接するようにある。北側に2区73号竪穴建物、東側に2区80・81号竪穴建物が近接する。

グリッド：Z・2A-117・118

座標値：X=61,126～61,131 Y=-93,581～93,585

重複：重複の新旧は不明。

形状：長方形

規模：桁行2.68～2.77m 梁行2.5m

長軸方向：N-41°-W

検出状況・埋没土：検出された柱穴は4基で、桁行1間、梁行1間の小規模な掘立柱建物である。柱間の距離は、桁行方向2.68～2.77m、梁行方向2.5mを測るやや長方形。各柱穴は概ね円形を呈し、規模は径45cm前後、深さ35cmを測る。埋土はロームブロックを含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第2面であること、周辺の掘立柱建物の配置および規模から、本遺構の時期は古代の可能性が高い。

2区5号掘立柱建物（第348図、第15表、PL.90）

平成28年度の調査で検出した。2区4号掘立柱建物と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する西側に位置し、北東側を2区4号掘立柱建物と重複する。北側に2区73号竪穴建物、東側に2区3号掘立柱建物および2区80・81号竪穴建物、南側に2区53号竪穴建物が近接する。

グリッド：Z-117・118

座標値：X=61,125~61,129 Y=-93,583~93,587

重複：重複の新旧は不明。

形状：長方形

規模：桁行2.1~2.14m 梁行1.84~1.88m

長軸方向：N-35°-E

検出状況・埋没土：検出された柱穴は4基で、桁行1間、梁行1間の小規模な掘立柱建物である。柱間の距離は、桁行方向2.1~2.14m、梁行方向1.84~1.88mを測るやや長方形。各柱穴は円形ないし楕円形を呈し、規模は長軸40~51cm、短軸37~42cm、深さ28~32cmを測る。埋土はロームブロックを含む暗褐色土ないし黒褐色土である。

所見・時期：検出面が第2面であること、周辺の掘立柱建物の配置および規模から、本遺構の時期は古代の可能性が高い。

2区6号掘立柱建物（第348図、第15表、PL.90）

平成28年度の調査で検出した。調査当初は2区137号土坑としていたが、整理時に掘立柱建物に変更した。

位置：2区西側中央付近のピットが集中する中に位置し、北東側に2区67・68号竪穴建物、東側に2区40号竪穴建物、南側に2区26~28号竪穴建物、西側に2区22号竪穴建物が近接する。

グリッド：2D・2E-127・128

座標値：X=61,149~61,151 Y=-93,632~93,635

形状：長方形

規模：桁行1.86m 梁行1.55~1.63m

長軸方向：N-84°-E

検出状況・埋没土：検出された柱穴は4基で、桁行1間、梁行1間の小規模な掘立柱建物である。P1・4は布堀状の溝で繋がり、その先端が柱穴部となる。柱間の

距離は、桁行方向1.86m、梁行方向1.55~1.63mを測るやや長方形。各柱穴は円形ないし楕円形を呈し、規模は長軸70~105cm、短軸64~83cm、深さ42~50cmを測る。暗褐色土を主に、下位に黒褐色土を埋土とする。
所見・時期：検出面が第2面であること、他の掘立柱建物と同様な規模等であることから、本遺構の時期は古代の可能性が高い。

(5)土坑

本調査区で検出された古代の土坑は、第2面調査において調査区全体から検出された。その数は17基である。なお、本項では古墳時代に含められる可能性の土坑も合わせて記述する。なお、形状分類については、円形および方形を除く長方形から長楕円形の土坑に対し、次の基準で類別した。A類：2.0m以下の短い類、B類：2.0~5.0mのやや長い類、C類：5.0~10.0mの長い類、D類：10.0mを超える極端に長い類。

以下、主な土坑を各土坑ごとに記載する。（第16表 2区土坑一覧を参照）

2区2号土坑（第349図、第16表）

平成27年度の調査で検出した。2区6号竪穴建物と重複する。

位置：2区の南西端付近に位置し、西側を2区6号竪穴建物と重複する。また、北側に2区18・47号竪穴建物、東側に2区10・20・45号竪穴建物、南側に2区7号竪穴建物、北西側に2区17号竪穴建物が近接する。

グリッド：2E-133

座標値：X=61,150~61,152 Y=-93,659~93,661

検出状況・重複：2区第2面調査時に検出された。2区6号竪穴建物の南東壁中央に重複するが、土層断面の観察から、新旧は本土坑の方が古い。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.75m 短軸1.47m 深さ79cm

長軸方向：N-59°-W

埋没土：暗褐色土や黒褐色土を上位に、下位にはロームブロックを含む黒色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古代と考えられる。

2区86号土坑 (第16表、PL.91)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南側に位置し、周囲に2区59・75・82号竪穴建物が近接する。

グリッド：X・Y-114・115

座標値：X=61,119・61,120 Y=-93,569・93,570

検出状況：2区第2面調査時に検出された。埋土中に土師器や須恵器の小片が少量出土している。

形状：方形

規模：長軸0.68m 短軸0.54m 深さ60cm

長軸方向：N-37°-W

埋没土：黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

2区99号土坑 (第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。2区81号土坑と重複する。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する西側に位置し、北東側を2区81号竪穴建物と重複する。また、東側に2区80号竪穴建物、西側から南西側にかけて2区3～5号掘立柱建物が近接する。

グリッド：2A-113

座標値：X=61,131・61,132 Y=-93,561～93,564

検出状況・重複：2区第1面調査時に検出された。2区81号土坑と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本土坑の方が古い。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸(2.30)m 短軸(0.27)m 深さ10cm

長軸方向：N-76°-E

埋没土：As-Bを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、埋土にAs-Bを含むことから、時期は古代と考えられる。

2区112号土坑 (第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区中央の北寄りに位置し、北側に2区72・78号竪穴建物、2区113号土坑、南西側に2区61号竪穴建物が近接する。

グリッド：2B-119

座標値：X=61,138・61,139 Y=-93,593・93,594

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.76m 短軸0.64m 深さ34cm

長軸方向：N-28°-E

埋没土：暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

2区113号土坑 (第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区中央の北寄りに位置し、北側に2区72・78号竪穴建物、南側に2区112号土坑、南西側に2区61号竪穴建物が近接する。

グリッド：2C-119

座標値：X=61,414 Y=-93,593・93,594

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.68m 短軸0.64m 深さ46cm

長軸方向：N-43°-E

埋没土：暗褐色土を主体とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

2区120号土坑 (第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区西側の北壁付近に位置し、北側に2区39号竪穴建物、東側に2区67・68号竪穴建物が近接する。

グリッド：Z-110

座標値：X=61,125・61,126 Y=-93,548・93,549

検出状況：2区第2面調査時に検出された。埋土中に土師器や須恵器の小片が少量出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.12m 短軸0.63m

長軸方向：N-49°-E

埋没土：焼土粒を含む黒褐色土を主とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

2区121号土坑（第349図、第16表、PL.92）

平成28年度の調査で検出した。2区81号竪穴建物と重複する。なお、第1面調査時の2区71号土坑の一部を壊されている。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する西側に位置し、北東側を2区81号竪穴建物と重複する。また、東側に2区80号竪穴建物、西側から南西側にかけて2区3～5号掘立柱建物が近接する。

グリッド：Z-116

座標値：X=61,127～61,129 Y=-93,578・93,579

検出状況・重複：2区第2面調査時に検出された。2区81号竪穴建物の南西壁に重複するが、その新旧は不明。遺物等の出土はない。

形状：円形

規模：長軸1.36m 短軸(0.89)m 深さ18cm

埋没土：炭化物を少量含む黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

2区122号土坑（第349図、第16表、PL.92）

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区東側の竪穴建物が密集する南東側に位置し、北側に2区85号竪穴建物、南側に2区58号竪穴建物、西側に2区62・76号竪穴建物が近接する。

グリッド：X・Y-112

座標値：X=61,118・61,119 Y=-93,556・93,557

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状：円形

規模：長軸1.01m 短軸0.94m 深さ31cm

埋没土：ロームブロックを含む黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

2区136号土坑（第349図、第16表、PL.93）

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区西側中央付近のピットが集中する南側に位置し、北側に2区6号掘立柱建物、南側に2区28号竪穴建物が近接する。

グリッド：2D-128

座標値：X=61,147・61,148 Y=-93,635・93,636

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.49m 短軸0.62m 深さ21cm

長軸方向：N-59°-E

埋没土：上位の暗褐色土、下位に黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

2区138号土坑

(第349・351図、第16・160表、PL.93・236)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区中央の北西寄りに位置し、周囲に2区40～44・70・71号竪穴建物が近接する。

グリッド：2D・2E-123・124

座標値：X=61,149～61,151 Y=-93,635・93,636

検出状況：2区第2面調査時に検出された。底面は比較的平坦で、埋土中に大型礫と共に多くの遺物が出土している。

形状(分類)楕円形(A類)

規模：長軸1.48m 短軸0.62m 深さ21cm

長軸方向：N-59°-E

埋没土：暗褐色土を主とするが、下位はロームブロックを多量に含む。

遺物：出土遺物として、土器7点を図示した。1・2は土師器の杯で、2の内面にはへら磨きを施す。3は土師器の高杯の脚部。4は土師器の壺、5は須恵器の短頸壺で、外面口縁下に3段の段差および体部外面に波状文を施す。6・7は土師器の小型甕と甕である。

未掲載遺物には、土師器・須恵器片がある。

所見・時期：時期は出土土器から古墳時代と考えられる。

2区139号土坑

(第350～352図、第16・160表、PL.93・237)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区西側中央付近のピットが集中する中に位置し、北側に2区68号竪穴建物、東側に2区40号竪穴建物、南西側に2区6号掘立柱建物が近接する。

グリッド：2E-126・127

第4章 検出された遺構と遺物

座標値：X=61,152・61,153 Y=-93,628～93,630

検出状況：2区第2面調査時に検出された。底面はほぼ平坦で、埋土中上位に大型礫と共に多くの遺物が出土している。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.98m 短軸0.70m 深さ29cm

長軸方向：N-56°-E

埋没土：黒褐色土を主とするが、上位は焼土粒や炭化物を多く含む。

遺物：出土遺物として、土器3点を図示した。8～10は須恵器の甕の胴部片と底部である。

未掲載遺物には、土師器片や須恵器の甕片が多量にある。

所見・時期：時期は出土土器から古代と考えられる。

2区140号土坑 (第350図、第16表、PL.93)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区西側中央に位置し、周囲に2区34・37・38・45号竪穴建物が近接する。

グリッド：2F・2G-130

座標値：X=61,159・61,160 Y=-93,646・93,647

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状：円形

規模：長軸0.96m 短軸0.95m 深さ25cm

埋没土：ロームブロックを含む黒褐色土を埋土とする。

所見・時期：出土遺物がなく不明な点もあるが、時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

2区141号土坑(第350・352図、第16・160表、PL.93・237)

平成28年度の調査で検出した。2区67号竪穴建物と重複する。

位置：2区の西側北東の北壁寄りに位置し、南西側を2区67号竪穴建物と重複する。また、東側に2区69号竪穴建物、西側に2区39号竪穴建物が近接する。

グリッド：2G-126

座標値：X=61,163・61,164 Y=-93,628・93,629

検出状況・重複：2区第2面調査時に検出された。2区67号土坑と重複するが、遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本土坑の方が古い。底面は平坦で、埋

土中に遺物が出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸(0.91)m 短軸0.51m 深さ38cm

長軸方向：N-34°-W

埋没土：焼土ブロックや炭化物を含む暗褐色土を埋土とする。

遺物：出土遺物として、土器2点を図示した。11は土師器の杯で、12は土師器の甕か。

所見・時期：重複する遺構との新旧および出土土器から、時期は古墳時代の可能性が高い。

2区142号土坑 (第350図、第16表、PL.93)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区西側の北壁付近に位置し、北側に2区39号竪穴建物、東側に2区67・68号竪穴建物が近接する。

グリッド：2G-127・128

座標値：X=61,161・61,162 Y=-93,654・93,655

検出状況：2区第2面調査時に検出された。埋土中に土師器や須恵器の小片が少量出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.90m 短軸0.69m 深さ28cm

長軸方向：N-30°-W

埋没土：焼土粒を少し含む黒褐色土を主とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

2区145号土坑 (第350図、第16表)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区中央西寄りの南壁付近に位置し、西側に2区14号竪穴建物が近接する。

グリッド：Z-126

座標値：X=61,128 Y=-93,626・93,627

検出状況：2区第3面調査時に検出された。埋土中に土師器や須恵器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

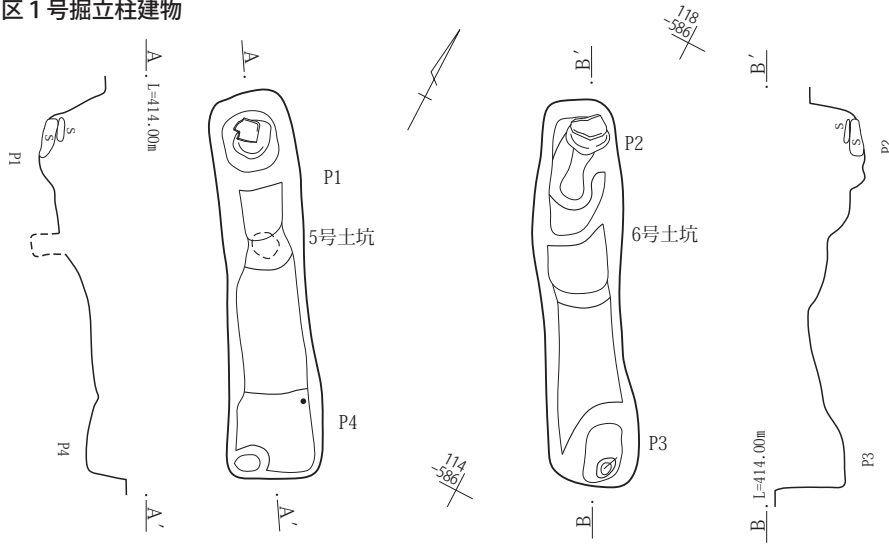
規模：長軸0.62m 短軸0.52m 深さ14cm

長軸方向：N-63°-E

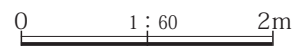
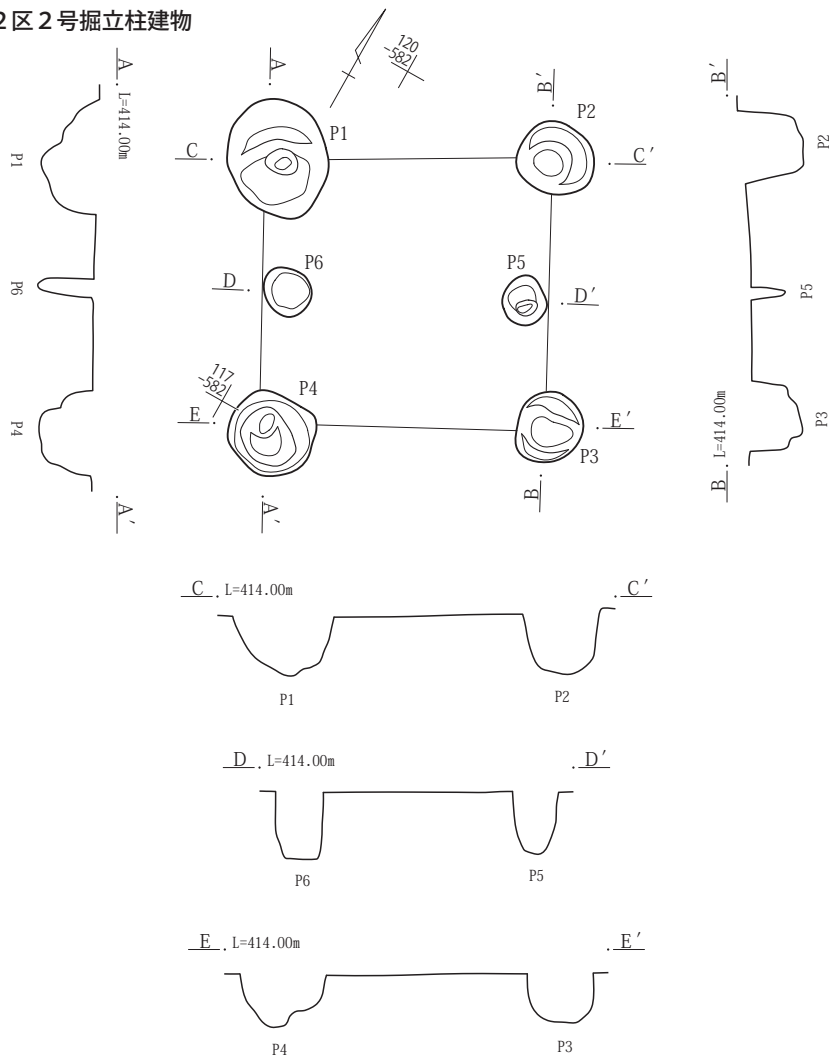
埋没土：暗褐色土を主とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

2区1号掘立柱建物

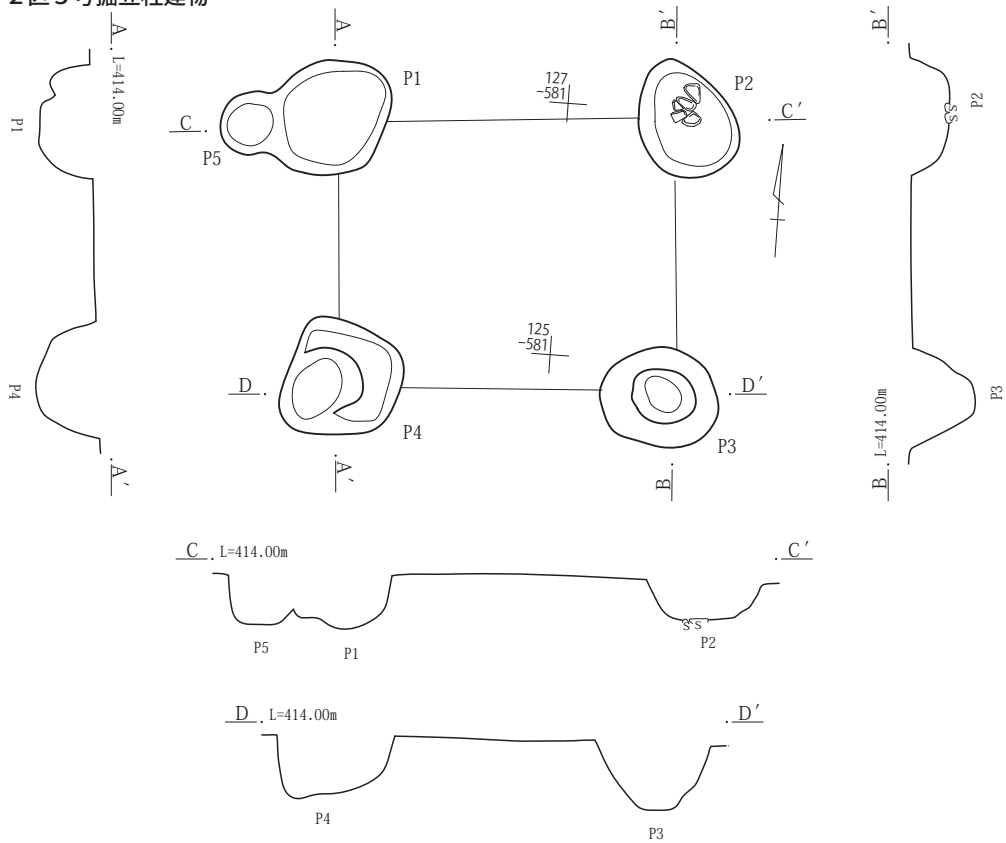


2区2号掘立柱建物

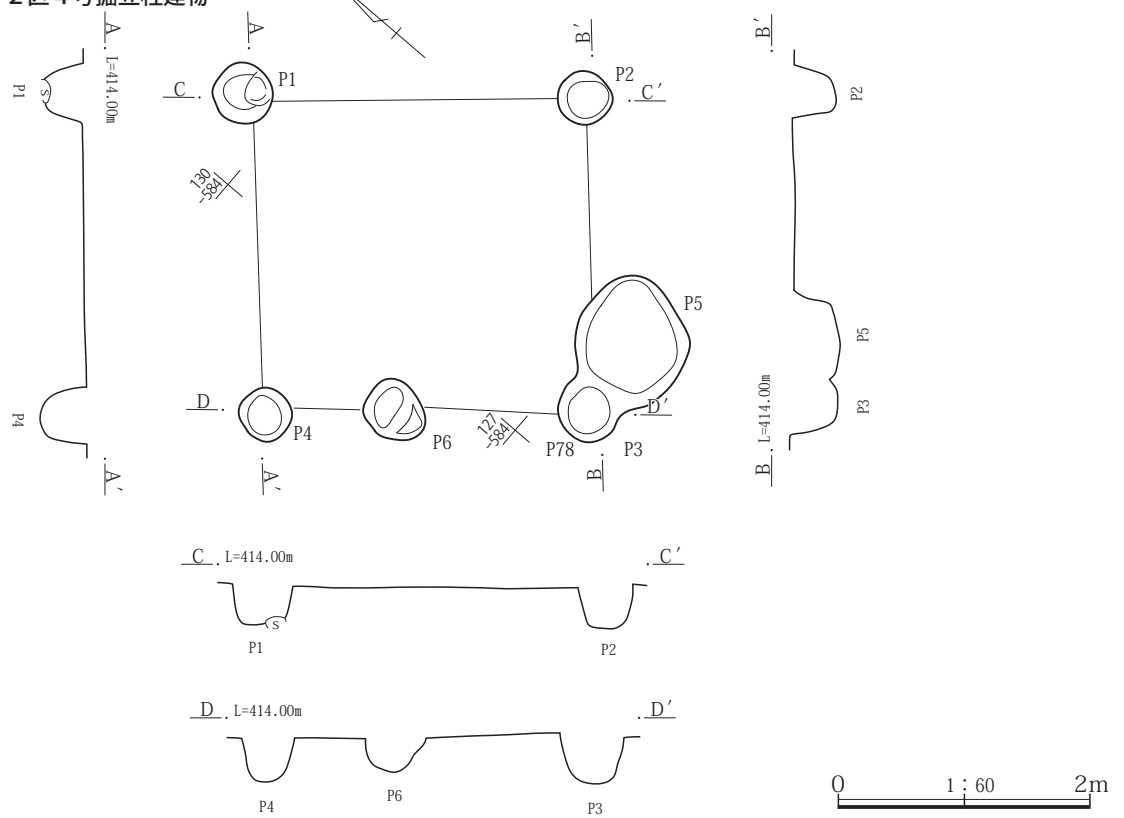


第346図 2区1・2号掘立柱建物 平・断面図

2区3号掘立柱建物

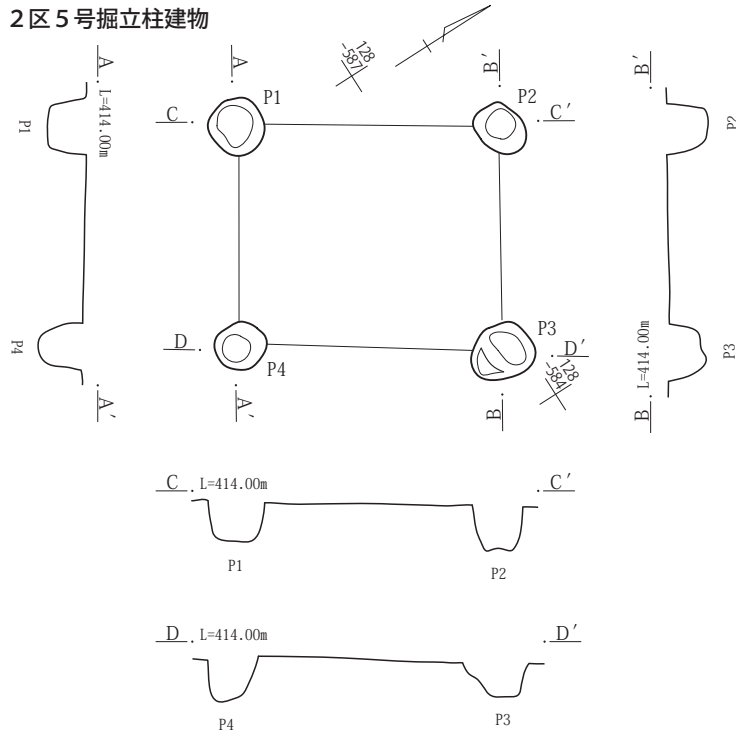


2区4号掘立柱建物

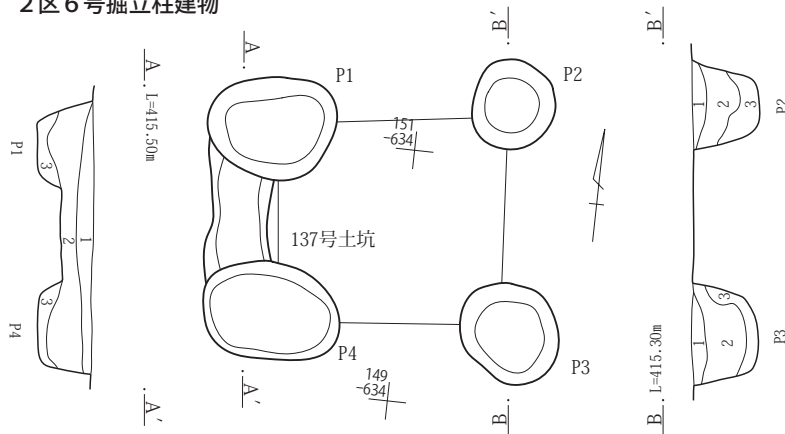


第347図 2区3・4号掘立柱建物 平・断面図

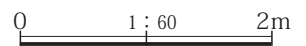
2区5号掘立柱建物



2区6号掘立柱建物

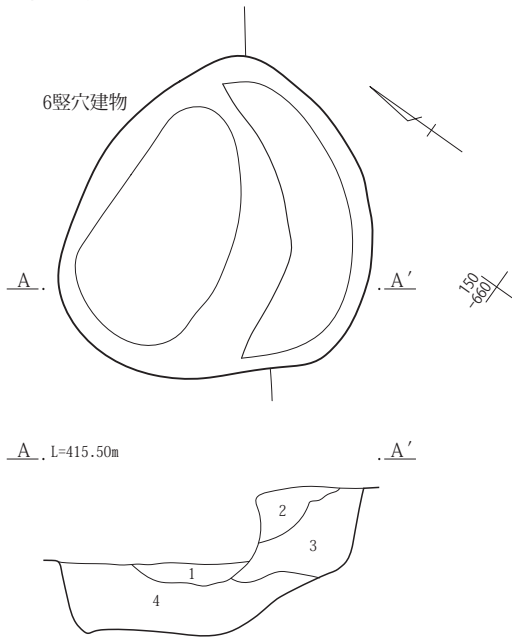


- 1 暗褐色土 白色粒を少量、焼土・炭化物を微量含む。
- 2 暗褐色土 白色粒、焼土を微量含む。
- 3 黒褐色土 暗褐色土ブロック状に含む。



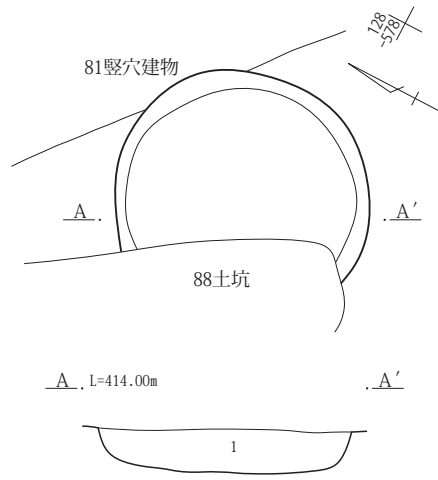
第348図 2区5・6号掘立柱建物 平・断面図

2区2号土坑



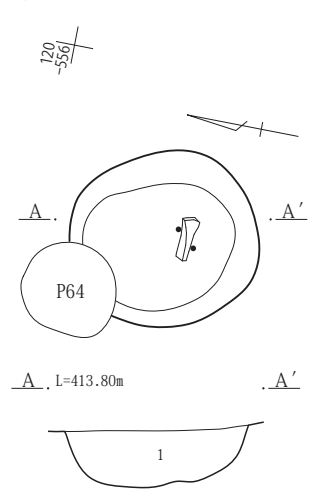
- 1 暗褐色土 白色鋳物粒を含む。
- 2 黒褐色土 白色・黄褐色・赤褐色鋳物粒を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 4 黒色土 ロームブロックを含む。

2区121号土坑



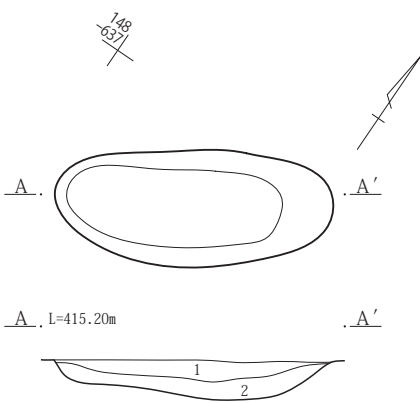
- 1 黒褐色土 白色・黄褐色土粒、炭化物を少量含む。

2区122号土坑



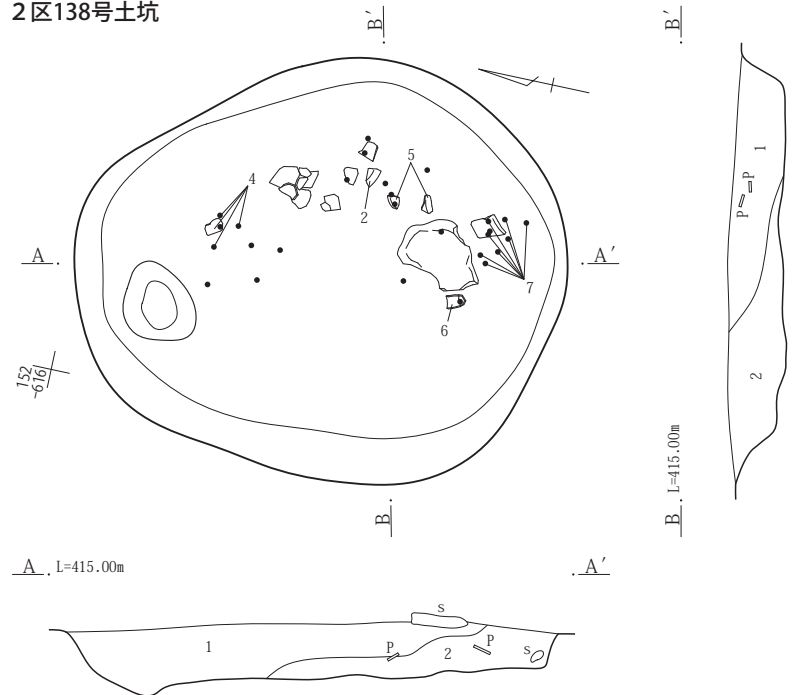
- 1 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。に混入する。

2区136号土坑

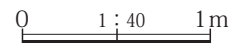


- 1 暗褐色土 黄褐色・赤褐色粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 白色鋳物・赤褐色粒を少量含む。

2区138号土坑

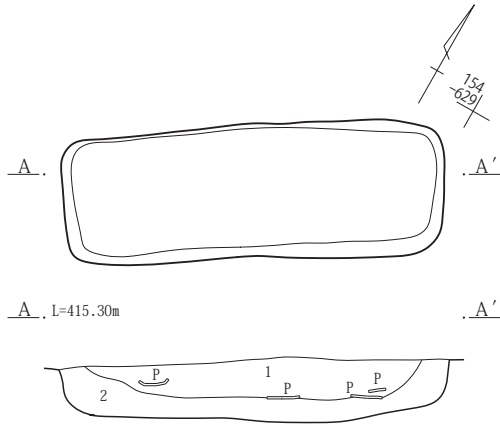


- 1 暗褐色土 ローム粒、焼土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。



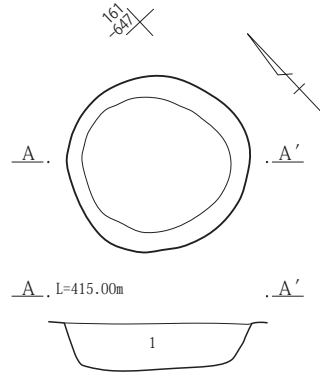
第349図 2区2・121・122・136・138号土坑 平・断面図

2区139号土坑



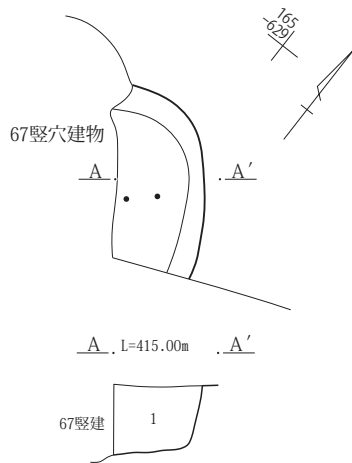
- 1 黒褐色土 焼土粒、炭化物を多く含む。
- 2 黒褐色土 焼土粒、炭化物を僅かに含む。

2区140号土坑



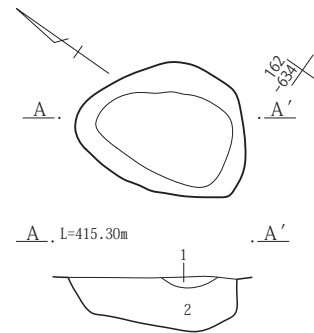
- 1 黒褐色土 焼土粒、炭化物、礫を僅かに含む。

2区141号土坑



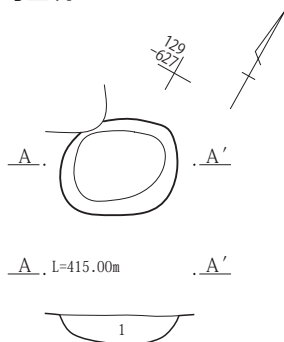
- 1 暗褐色土 焼土ブロック・粒、炭化物を含む。

2区142号土坑



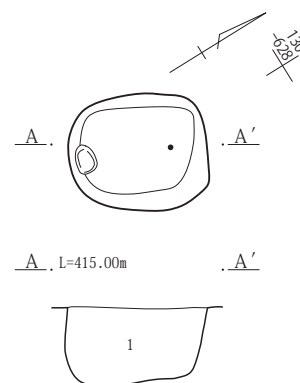
- 1 暗褐色土 焼土粒をやや多めに含む。
- 2 黒褐色土 焼土粒を少し含む。

2区145号土坑

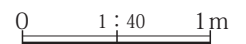


- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物、白色粒を少し含む。灰を僅かに含む。

2区146号土坑

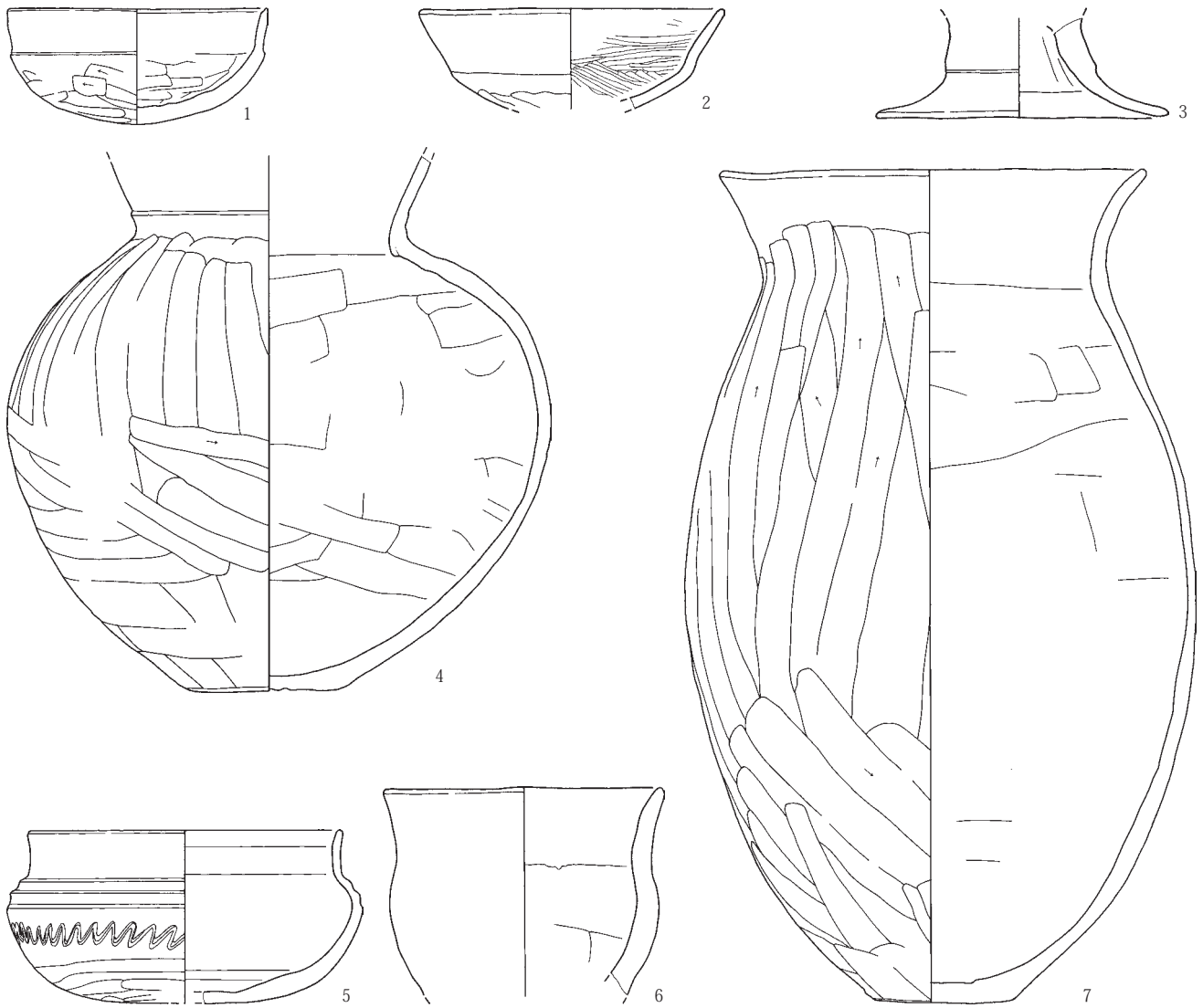


- 1 黒褐色土 焼土粒、炭化物、ローム粒を僅かに含む。粘性のある土。

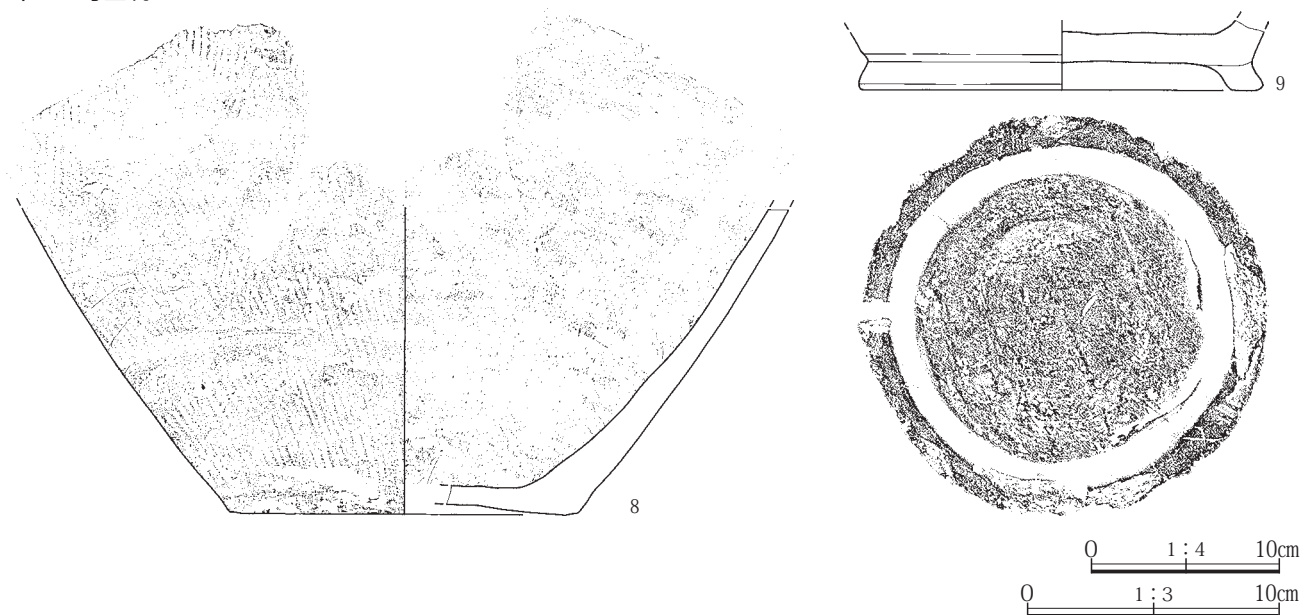


第350図 2区139～142・145・146号土坑 平・断面図

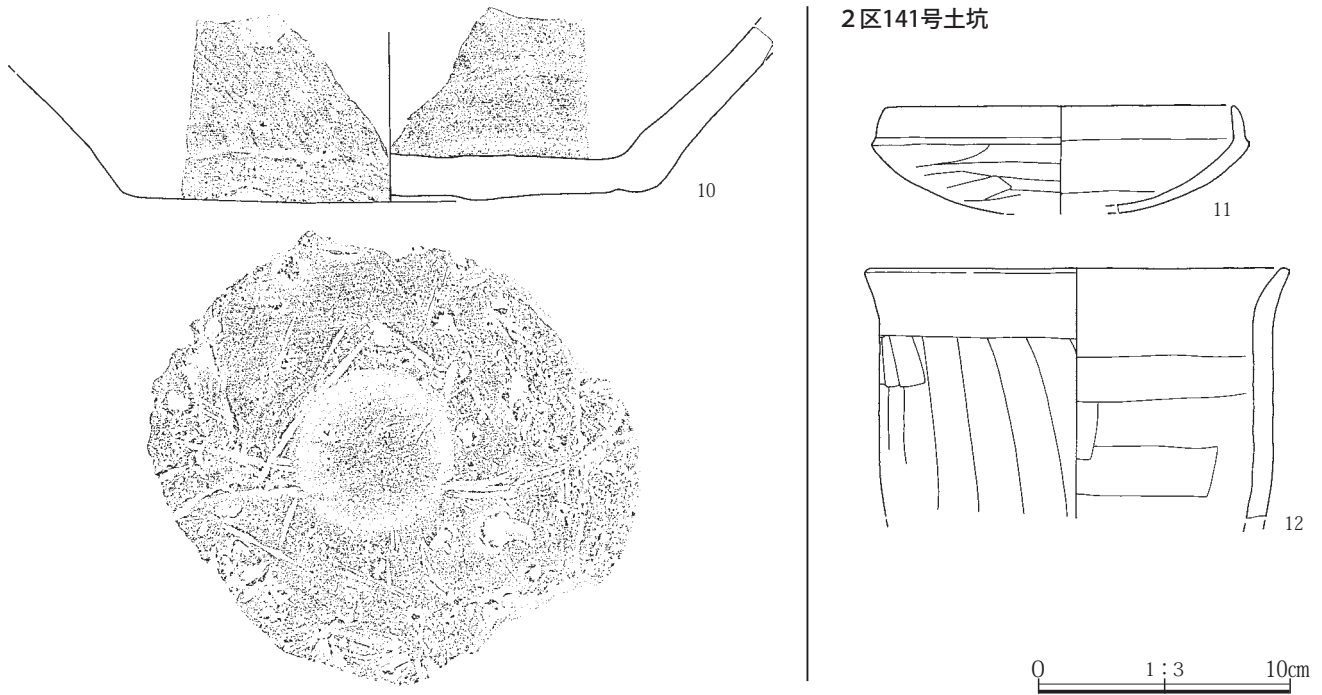
2区138号土坑



2区139号土坑



第351図 2区土坑出土遺物(1)



第352図 2区土坑出土遺物(2)

2区146号土坑 (第350図、第16表)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区中央西寄りの南壁付近に位置し、西側に2区14号竪穴建物が近接する。

グリッド：Z-126

座標値：X=61,128・61,129 Y=-93,627・93,628

検出状況：2区第3面調査時に検出された。埋土中に土師器の細片が僅かに出土している。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.74m 短軸0.62m 深さ41cm

長軸方向：N-33°-E

埋没土：黒褐色土を主とする。

所見・時期：出土遺物から、時期は古墳時代ないし古代と考えられる。

(6)ピット

本調査区で検出された古墳時代から古代のピットは、第2面調査において検出されたピットは計64基を数える。2区全体に広がりを見せるが、2区東側の竪穴建物が密集する周辺に小規模な2区2～5号掘立柱建物と共に多く、2区中央ではやや散漫に、2区西側中央付近に2区6号掘立柱建物と共に集中し、2区西端の1区との堺に多く分布する。これらピットの埋土は、暗褐色土ないし黒褐色土が圧倒的に多く、中世以降の遺構埋土に見られるAs-Kkを含まない。また、遺物を出土させるピットもある。(第17表 2区ピット一覧を参照)

以下、ピット出土の遺物について記す。

2区100号ピット (第353図、第17・161表)

グリッド：Y-112

座標値：X=61,122・61,123 Y=-93,557・93,558

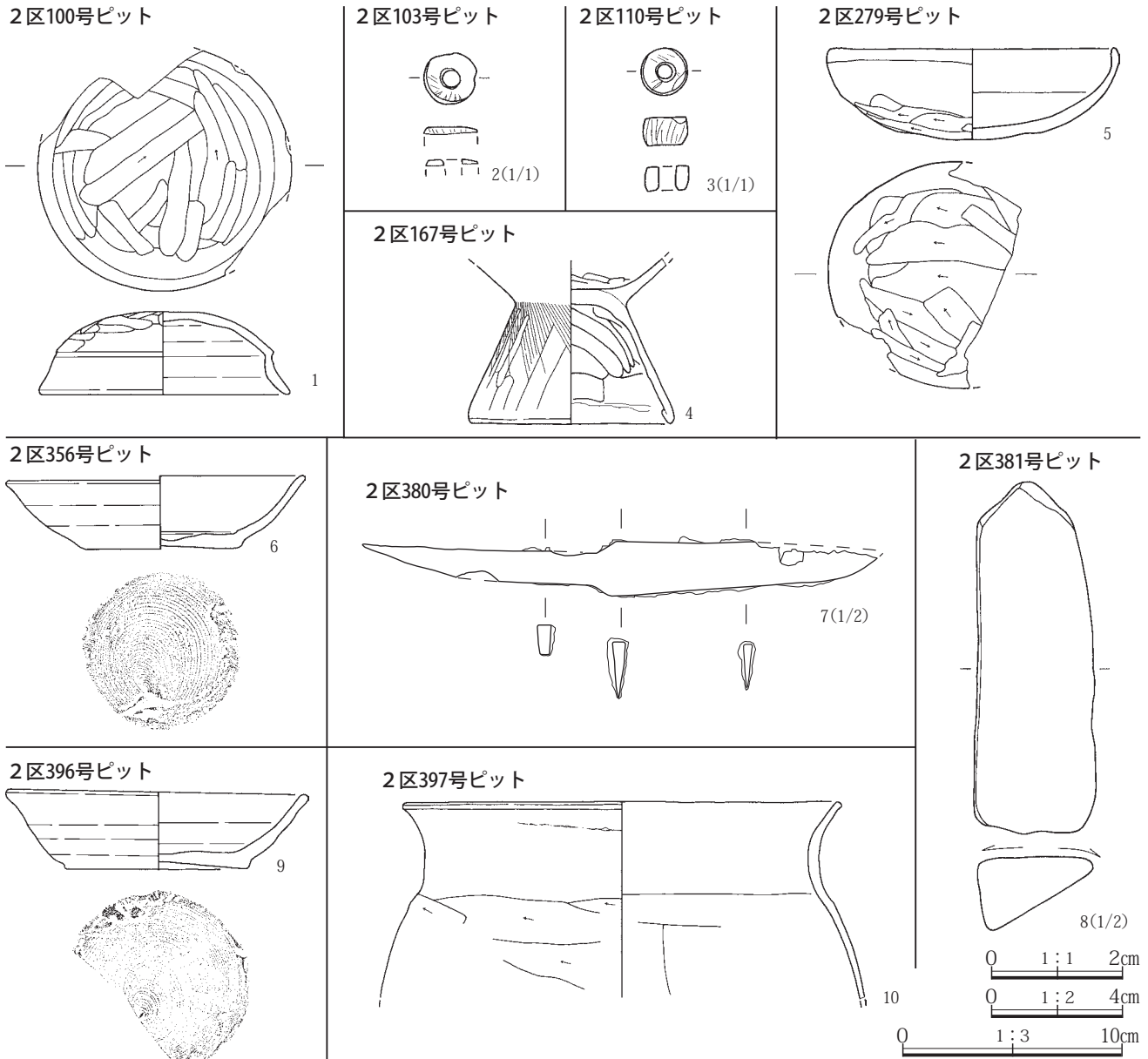
検出状況・遺物：径52cm、深さ60cmを測る円形のピットで、底面付近から1の須恵器の杯蓋が出土している。

2区103号ピット (第353図、第17・161表、PL.237)

グリッド：2E-126

座標値：X=61,153 Y=-93,626

検出状況・遺物：径31cm、深さ16cmを測る円形のピット



第353図 2区ピット出土遺物

トで、埋土中に2の白玉が出土している。滑石製で、鈍い黄橙色をなし、径0.8cm、厚さ(0.1)cm、孔径約3mm、重さ0.1gを測る。

2区110号ピット (第353図、第17・161表、PL.237)

グリッド：2F-125

座標値：X=61,158・61,159 Y=-93,620

検出状況・遺物：長軸40cm、短軸36cm、深さ28cmを測る楕円形のピットで、埋土中に3の白玉が出土している。滑石製で、灰色をなし、径0.7cm、厚さ0.4cm、孔径約2mm、重さ0.3gを測る。

2区167号ピット (第353図、第17・161表、PL.237)

グリッド：X-113

座標値：X=61,117 Y=-93,560

検出状況・遺物：径38cm、深さ25cmを測る円形のピットで、埋土中に4の刷毛目を施す土師器の台付甕の脚部が出土している。

2区279号ピット (第353図、第17・161表、PL.237)

グリッド：2F-127

座標値：X=61,159 Y=-93,633

検出状況・遺物：径50cm、深さ29cmを測る円形のピットで、底面に5の土師器の杯が出土している。

2区356号ピット (第353図、第17・161表、PL.237)

グリッド：2 J-133

座標値：X=61,177 Y=-93,660

検出状況・遺物：長軸39cm、短軸32cm、深さ55cmを測る楕円形のピットで、底面に6の須恵器の完形の杯が出土している。

2区380号ピット (第353図、第17・161表、PL.237)

グリッド：2 H-130

座標値：X=61,167 Y=-93,647

検出状況・遺物：長軸36cm、短軸30cm、深さ85cmを測る楕円形のピットで、埋土中に7の鉄製品が出土している。ほぼ完形の刀子で、長さ15.6cm、幅1.7cm、厚さ0.4cmを測る。

2区381号ピット (第353図、第17・161表、PL.237)

グリッド：2 H-130

座標値：X=61,169 Y=-93,647

検出状況・遺物：長軸17cm、短軸12cm、深さ10cmを測る楕円形の小さなピットで、埋土中に8の砥石が出土している。粗粒輝石安山岩製で、長さ10.7cm、幅3.7cm、厚さ2.2cmを測り、表面に滑らかな平坦面をもつ。

2区396号ピット (第353図、第17・161表、PL.237)

グリッド：2 A-125

座標値：X=61,130・61,131 Y=-93,623

検出状況・遺物：長軸56cm、短軸38cm、深さ48cmを測る楕円形のピットで、埋土中に9の須恵器の杯が出土している。

2区397号ピット (第353図、第17・161表、PL.237)

グリッド：2 A-125

座標値：X=61,130・61,131 Y=-93,622・93,623

検出状況・遺物：長軸58cm、短軸36cm、深さ45cmを測る楕円形のピットで、埋土中に10の土師器の甕の口縁部片が出土している。

(7) 畠

本調査区で検出された古代の畠は、第1面調査において検出された。この古代の畠は、As-Kkの1次堆積層(鈍い黄橙色軽石層)下に検出され、平成27年度調査で検出されたのが最初である。畠間の埋土は、As-B火山灰である黄灰色土が大きなブロック状に多量に混在した状態で、溝状に幾筋も連なるように確認することができた。他の調査区においても、同様な古代畠は本調査区に隣接する1-A区の南西部の一部、さらに1-C区のほぼ全域に検出されている。

以下、畠の記載をする。(第19表 2区畠一覧を参照)

2区8号畠 (第354・355図、第19表)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区西側の調査区全面にある。

グリッド：Y~2 H-122~139

座標値：X=61,122~61,174 Y=-93,603~93,692

検出状況：検出された畠の畠間は、2-A区南壁基本層序IV層としたAs-B火山灰の黄灰色土が1次堆積に近い状態ないし大ブロック状に多量に混在した状態で、2-A区南壁基本層序V層上面に幾筋もの溝状の状態を確認された(土層断面は調査区南壁面を示した)。畠間は2区東側の調査区全面に検出され、畠間方向を大きく違えるような畠の単位となる区画境はなく、畠間の方向はやや蛇行しながらも概ね地形の傾斜方向に延びる。その広がりには西側に隣接する1-A区南西部へと続き、さらに西側へ広がる様相がある。対する東側では、2区中央付近で畠間はなくなり、その東に続く部分にAs-B火山灰の黄灰色土が斑状に広がる平坦面が幅18m前後ほど続き、その先は傾斜をもって一段低くなる。

区画規模：長さ(89.0)m 幅(36.2)m

畠長(39.2)m 畠間間隔60~70cm

畦高6~8cm 畦数(93)条

畦方向 N-53°-E

所見・時期：本畠は西側に隣接する1-A区南西部へ続く畠であり、さらには1-C区で検出された畠へと続く可能性が高く、かなり広範囲に広がりをもつと考えられる。一方で、東側の黄灰色土が斑状に広がる平坦面は、その東側の一段低い面との境をなし、地目の異

なる緩衝地的な意味合いを想起させる。畠の時期はAs-B火山灰降下直後からAs-Kk降下以前で、古代集落衰退後に造られた生産域であると考えられる。

(8)水田

本調査区で検出された古代の水田は、第1面調査において検出された。この古代の水田は、As-Kkの1次堆積層(鈍い黄橙色軽石層)下となる2-B区南壁基本層序IV層下面に検出され、先述の古代畠と同一の調査面で検出された。畦等の明瞭な水田区画は確認されていないが、2区東側の南壁面の土層観察で、水田面下にグライ化した粘質な褐灰色土、さらに酸化した鈍い赤褐色土が帯状に堆積していることが確認された(西側の古代畠下では、同様なグライ下層や酸化層は存在しない)。これらの状況を踏まえ、水田と認定した。

2区水田 (第354・355図、PL.97)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区東側の一段低い面にある。

グリッド：U～2C-111～120

座標値：X=61,103～61,143 Y=-93,550～93,601

検出状況：検出された水田は、2-B区南壁基本層序IV層下面にあり、先述の2区8号畠の東側に設けられた平坦面東面の傾斜面(比高差25～30cm)を経た一段低い帯に広がる。水田面はほぼ平坦で幅5～6m前後と狭く、東側へと10cm前後の段差をもって5段ほど連なるように検出された。その状況は南壁での断面観察で、各面の縁に僅かではあるが高まりを確認している。しかし、不明瞭であるが故に、図示はできなかった。また、調査区の南東端となる3区との調査区界には大きく凹む箇所があり、その部分には水田面は達していないようである。

所見・時期：本水田は平坦面(緩衝地)を経た調査区東側の一段低い面に造られた小規模な水田と考えられ、西側での畠と同時期に存在した古代集落衰退後の生産域であると考えられる。

第4項 中世以降の遺構と遺物

(1)概要

本調査区で検出された中世以降の遺構は、土坑や溝、畠を主とし、調査区全体に広がる。結果、土坑101基、溝14条、畠7区画を検出した。基本層序とした2-A区南壁でのV層上面および2-B区南壁V層上面を確認面とした第1面調査を主とし、土坑の一部は第2面調査で検出している。これら各種遺構に共通する大きな特徴は、埋没土にAs-Kkが混入していることである。

(2)土坑

検出された土坑は、調査区全域に広がり計99基を数える。土坑には各種の形態・規模があり、その主な形態には円形、方形、長方形、楕円形、長楕円形等がある。これら各形態の中でも長方形、楕円形、長楕円形については、その規模(特に、長さ)により分類し、2.0m以下の短い類をA類、2.0～5.0mのやや長い類をB類、5.0～10.0mの長い類をC類、10.0mを超える極端に長い類をD類とした。

以下、主な土坑ごとに記載する。(第16表 2区土坑一覧を参照)

2区3号土坑 (第358図、第16表、PL.91)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区南西端の突出部に位置し、2区8号畠と重複する。

グリッド：2F-137

座標値：X=61,157・61,158 Y=-93,681～93,683

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長楕円形(A類)

規模：長軸1.64m 短軸0.32m 深さ6cm

長軸方向：N-52°-W

埋没土：As-Kkを多量に含む暗褐色土を埋土とする。

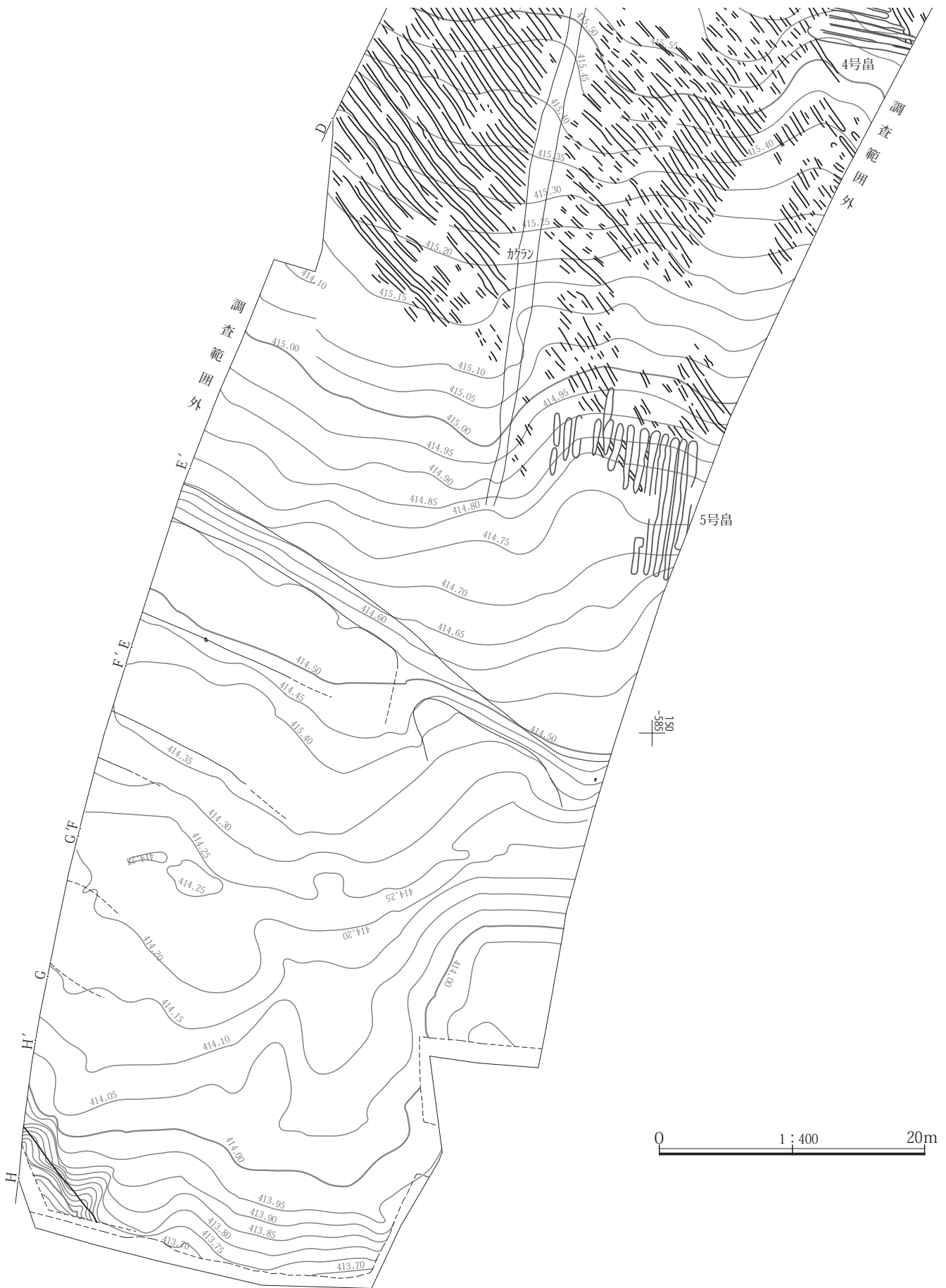
所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区4号土坑 (第358図、第16表、PL.91)

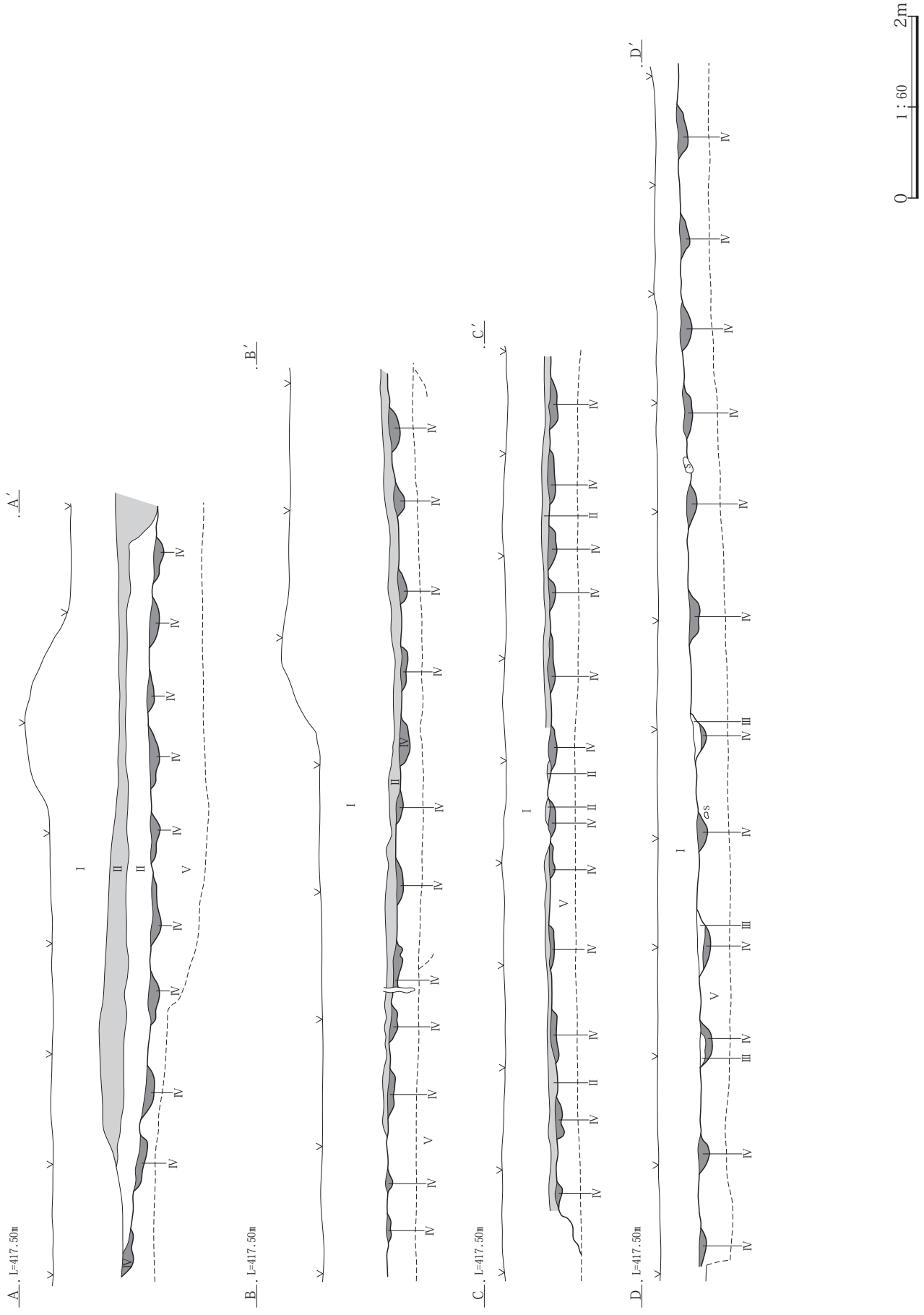
平成27年度の調査で検出した。



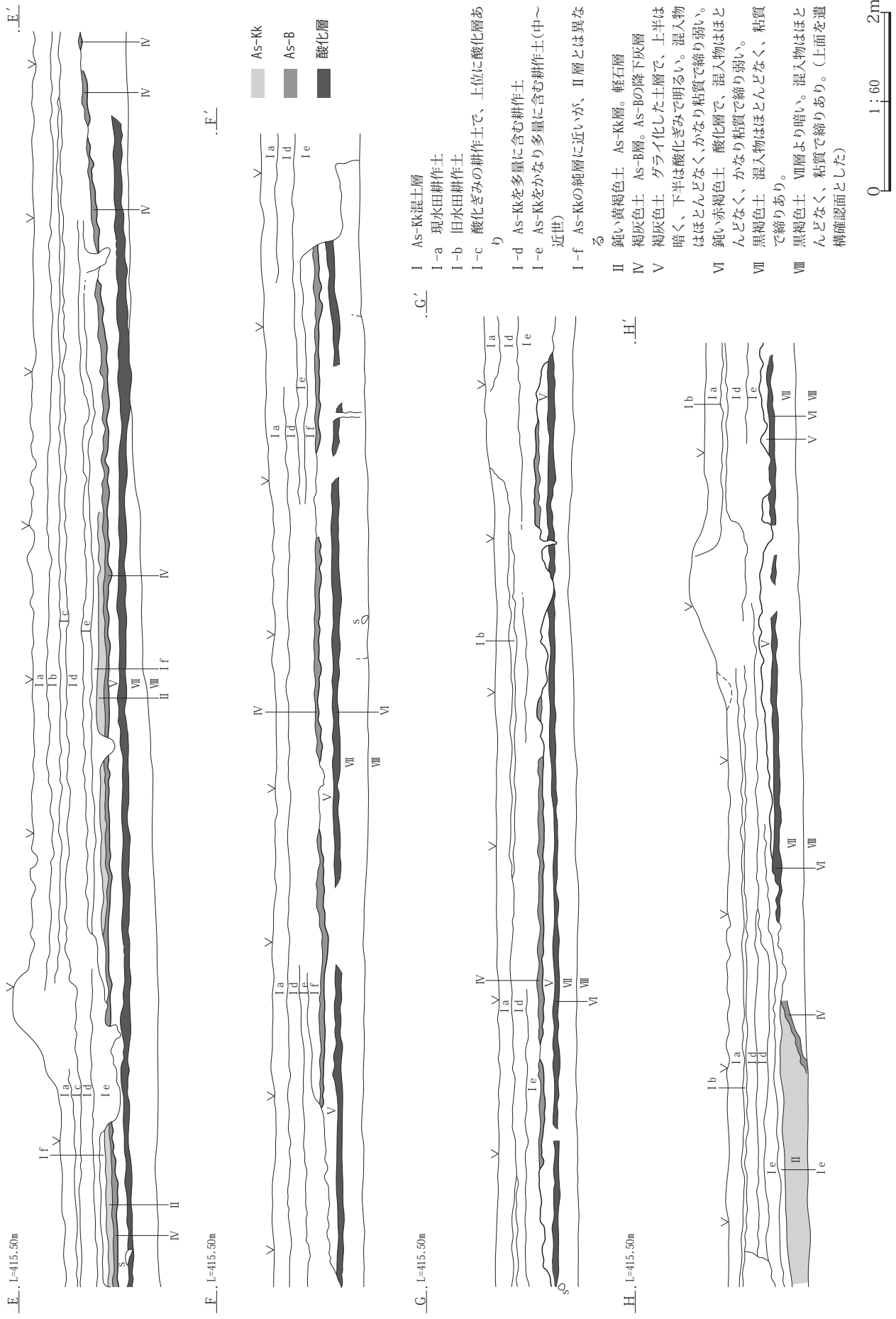
第354図 2区古代島・水田 平面図(1)



第355図 2区古代畠・水田 平面図(2)



第356図 2区南壁 断面図(1)



第357図 2区南壁 断面図(2)

位置：2区南西端の突出部付近に位置し、2区8号島と重複する。

グリッド：2D・2E-134・135

座標値：X=61,148~61,150 Y=-93,669・93,670

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.85m 短軸0.73m 深さ16cm

長軸方向：N-53°-W

埋没土：As-Kkを多量に含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区20号土坑 (第358図、第16表)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区の中央西寄りに位置し、2区8号島と重複する。

グリッド：2D-125・126

座標値：X=61,148・61,149 Y=-93,622~93,625

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸3.04m 短軸0.68m

長軸方向：N-82°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区30号土坑 (第358図、第16表)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区のほぼ中央に位置する。

グリッド：2A-125

座標値：X=61,130~61,132 Y=-93,602・93,603

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.86m 短軸0.50m 深さ27cm

長軸方向：N-13°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を

含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区36号土坑 (第16表、PL.91)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区中央の南壁付近に位置する。

グリッド：Y-124

座標値：X=61,123・61,124 Y=-93,617・93,618

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸(1.48)m 短軸0.59m

長軸方向：N-40°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区51号土坑 (第358図、第16表、PL.91)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区の東側中央付近に位置する。

グリッド：Z-116・117

座標値：X=61,127~61,129 Y=-93,579・93,580

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸2.64m 短軸0.58m 深さ58cm

長軸方向：N-32°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区54号土坑 (第358図、第16表、PL.91)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区の東側中央付近に位置する。

グリッド：Y-115・116

座標値：X=61,120・61,121 Y=-93,573~93,576

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸2.18m 短軸0.74m 深さ37cm

長軸方向：N-62°-W

第4章 検出された遺構と遺物

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区57号土坑（第358図、第16表、PL.91）

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区の東側に位置する。

グリッド：X-113・114

座標値：X=61,115~61,117 Y=-93,564~93,566

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸2.63m 短軸0.57m 深さ43cm

長軸方向：N-46°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区61号土坑（第358図、第16表）

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区の東端付近に位置する。

グリッド：W-111

座標値：X=61,113・61,114 Y=-93,553・93,554

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸2.45m 短軸0.50m 深さ22cm

長軸方向：N-33°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区68号土坑（第359図、第16表、PL.91）

平成27年度の調査で検出した。2区69号土坑と重複する。

位置：2区の東側の北壁寄りに位置し、北西側の一部を2区69号土坑と重複する。

グリッド：2B・2C-113

座標値：X=61,138~61,141 Y=-93,561・93,562

検出状況・重複：2区第1面調査時に検出された。重複

については、遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本土坑の方が古い。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸(2.14)m 短軸0.52m 深さ23cm

長軸方向：N-11°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区69号土坑（第359図、第16表、PL.91）

平成27年度の調査で検出した。2区68号土坑と重複する。

位置：2区の東側の北壁寄りに位置し、東側の一部を2区68号土坑と重複する。

グリッド：2B・2C-113

座標値：X=61,139~61,142 Y=-93,562・93,563

検出状況・重複：2区第1面調査時に検出された。重複については、遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本土坑の方が新しい。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸(2.40)m 短軸0.80m 深さ30cm

長軸方向：N-15°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区70号土坑（第359図、第16表、PL.91）

平成27年度の調査で検出した。2区6号畠と重複する。

位置：2区の東側の北壁寄りに位置し、2区6号畠と大きく重複する。

グリッド：2A・2B-114・115

座標値：X=61,134~61,137 Y=-93,568~93,571

検出状況・重複：2区第1面調査時に検出された。重複については、遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本土坑の方が古い。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(C類)

規模：長軸(5.18)m 短軸0.66m 深さ38cm

長軸方向：N-37°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を

含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区71号土坑（第359図、第16表、PL.91）

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区東側の中央北寄りに位置する。

グリッド：2A-116~118

座標値：X=61,132・61,133 Y=-93,576~93,586

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(C類)

規模：長軸(9.97)m 短軸0.36m 深さ14cm

長軸方向：N-88°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区73号土坑（第359図、第16表、PL.91）

平成27年度の調査で検出した。2区72号土坑と重複する。

位置：2区東側の中央北寄りに位置し、南端の一部を2区72号土坑と重複する。

グリッド：2A・2B-117

座標値：X=61,134~61,136 Y=-93,583・93,584

検出状況・重複：2区第1面調査時に検出された。重複については、遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本土坑の方が新しい。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.74m 短軸0.68m 深さ11cm

長軸方向：N-38°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区75号土坑（第360図、第16表、PL.91）

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区東側の中央北寄りに位置する。

グリッド：2B・2C-116・117

座標値：X=61,137~61,140 Y=-93,579・93,581

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸4.06m 短軸0.54m 深さ23cm

長軸方向：N-45°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区77号土坑（第360図、第16表、PL.91）

平成27年度の調査で検出した。北端は調査範囲外へと延びる。

位置：2区東側の北壁際に位置する。

グリッド：2C・2D-116

座標値：X=61,142~61,145 Y=-93,576~93,579

検出状況：2区第1面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸(3.80)m 短軸0.53m 深さ26cm

長軸方向：N-28°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区79号土坑（第360図、第16表）

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区東側の中央北寄りに位置する。

グリッド：2A-113

座標値：X=61,130・61,131 Y=-93,562・93,563

検出状況：2区第2面調査時に検出された。底面は南側が一段低くなる。底部直上から灯明皿片が出土。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.33m 短軸0.56m 深さ85cm

長軸方向：N-7°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区80号土坑（第360図、第16表）

平成28年度の調査で検出した。2区81号土坑と重複する。

位置：2区東側の中央北寄りに位置し、南側を2区81号

第4章 検出された遺構と遺物

土坑と重複する。

グリッド：2A-113

座標値：X=61,132・61,133 Y=-93,562・93,563

検出状況・重複：2区第2面調査時に検出された。重複については、遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本土坑の方が新しい。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸(0.84)m 短軸0.51m 深さ18cm

長軸方向：N-12°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区81号土坑 (第361図、第16表)

平成28年度の調査で検出した。2区80・99号土坑と重複する。

位置：2区東側の中央北寄りに位置し、西端付近で2区80・99号土坑と重複する。

グリッド：2A・2B-111~113

座標値：X=61,130~61,137 Y=-93,553~93,564

検出状況・重複：2区第2面調査時に検出された。重複については、遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本土坑の方が2区80号土坑より旧く、2区99号土坑より新しい。東西方向に長く延び、東端で北側に屈曲する。遺物等の出土はない。

形状(分類)：L字型(C類)

規模：長軸14.92m 短軸0.49m 深さ26cm

長軸方向：西から北へ曲がる

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区82号土坑 (第360図、第16表、PL.91)

平成28年度の調査で検出した。2区6号畠と重複する。

位置：2区の東側の北壁寄りに位置し、2区6号畠の南東隅に重複する。

グリッド：2A-114

座標値：X=61,132~61,134 Y=-93,565・93,566

検出状況・重複：2区第2面調査時に検出された。重複については、遺構確認および土層断面の確認から、新

旧は本土坑の方が古い。土師器・須恵器片が少量出土。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸2.24m 短軸0.72m 深さ26cm

長軸方向：N-5°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区83号土坑 (第360図、第16表)

平成28年度の調査で検出した。2区6号畠と重複する。

位置：2区の東側の北壁寄りに位置し、2区6号畠の南側に重複する。

グリッド：2A-114

座標値：X=61,133・61,134 Y=-93,567

検出状況・重複：2区第2面調査時に検出された。重複については、遺構確認および土層断面の確認から、新旧は本土坑の方が古い。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸0.92m 短軸0.56m 深さ16cm

長軸方向：N-65°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区94号土坑 (第361図、第16表、PL.91)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区の中央付近に位置する。

グリッド：Z・2A-118・119

座標値：X=61,128~61,130 Y=-93,587~93,590

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸2.10m 短軸0.59m 深さ23m

長軸方向：N-36°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区96号土坑 (第361図、第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区の東端付近に位置する。

グリッド：Z-112

座標値：X=61,125 Y=-93,556・93,557

検出状況：2区第2面調査時に検出された。土師器片が1点出土。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.97m 短軸0.48m 深さ39cm

長軸方向：N-87°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区97号土坑 (第361図、第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区東端北側の3区との区境に位置する。

グリッド：Z・2A-110

座標値：X=61,129・61,130 Y=-93,545・93,546

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸2.00m 短軸0.47m 深さ17cm

長軸方向：N-57°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区98号土坑 (第361図、第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区の東端付近に位置する。

グリッド：Y-112

座標値：X=61,122・61,123 Y=-93,555・93,556

検出状況：2区第2面調査時に検出された。土師器片が少量出土。

形状(分類)：不定形(A類)

規模：長軸0.71m 短軸0.35m 深さ50cm

長軸方向：N-88°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区100号土坑 (第361図、第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。2区8号溝と重複する。

位置：2区の中央付近に位置し、南端を2区8号溝と重複する。

グリッド：2A-118

座標値：X=61,131~61,133 Y=-93,585・93,586

検出状況・重複：2区第2面調査時に検出された。重複については不明。土師器片が1点出土。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸2.16m 短軸0.61m 深さ7cm

長軸方向：N-23°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区115号土坑 (第362図、第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区中央西寄りに位置する。

グリッド：2E-124・125

座標値：X=61,150・61,151 Y=-93,619~93,621

検出状況：2区第2面調査時に検出された。土師器片が1点出土。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.97m 短軸0.54m 深さ22cm

長軸方向：N-80°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区117号土坑 (第362図、第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区中央西寄りに位置する。

グリッド：2C-123・124

座標値：X=61,142 Y=-93,619・93,620

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.06m 短軸0.21m 深さ15cm

長軸方向：N-79°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

第4章 検出された遺構と遺物

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区119号土坑 (第362図、第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区の東端付近に位置する。

グリッド：W-110

座標値：X=61,111・61,112 Y=-93,549

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸(1.00)m 短軸0.53m 深さ23cm

長軸方向：N-13°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区125号土坑 (第326図、第16表、PL.92)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区中央の北寄りに位置する。

グリッド：2C-121

座標値：X=61,142・61,143 Y=-93,602~93,604

検出状況：2区第2面調査時に検出された。須恵器片が1点出土。

形状(分類)：長方形(A類)

規模：長軸1.36m 短軸0.57m 深さ40cm

長軸方向：N-65°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区126号土坑 (第362図、第16表、PL.93)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区西側の北壁際に位置する。

グリッド：2J-130・131

座標値：X=61,175・61,176 Y=-93,649・93,650

検出状況：2区第2面調査時に検出された。土師器・須恵器片が少量出土。

形状：方形

規模：長軸1.46m 短軸1.06m 深さ14cm

長軸方向：N-67°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区127号土坑 (第362図、第16表、PL.93)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区中央の西寄りに位置する。

グリッド：2D-125・126

座標値：X=61,148 Y=-93,622~93,625

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(B類)

規模：長軸2.38m 短軸1.58m 深さ5cm

長軸方向：N-82°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区128号土坑 (第362図、第16表、PL.93)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区西側の中央付近に位置する。

グリッド：2E-126・127

座標値：X=61,150~61,152 Y=-93,629~93,633

検出状況：2区第2面調査時に検出された。土師器・須恵器片が少量出土。

形状(分類)：長方形(B類)

規模：長軸3.27m 短軸0.63m 深さ22cm

長軸方向：N-72°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区129号土坑 (第362図、第16表、PL.93)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区西側の中央付近に位置する。

グリッド：2E・2F-128

座標値：X=61,154・61,155 Y=-93,637・93,638

検出状況：2区第2面調査時に検出された。土師器片が1点出土。

形状：方形

規模：長軸0.68m 短軸0.67m 深さ57cm

長軸方向：N-70°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区130号土坑 (第362図、第16表、PL.93)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区西端の1区との区境に位置する。

グリッド：2 I-133

座標値：X=61,170・61,171 Y=-93,661・93,662

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.54m 短軸0.71m 深さ27cm

長軸方向：N-27°-E

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区131号土坑 (第362図、第16表、PL.93)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区西端の1区との区境に位置する。

グリッド：2 I-133・134

座標値：X=61,170・61,171 Y=-93,664・93,665

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸1.34m 短軸0.85m 深さ15cm

長軸方向：N-16°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区132号土坑 (第16表、PL.93)

平成28年度の調査で検出した。

位置：2区西端の1区との区境に位置する。

グリッド：2 I-131

座標値：X=61,170・61,171 Y=-93,651・93,652

検出状況：2区第2面調査時に検出された。遺物等の出土はない。

形状(分類)：楕円形(A類)

規模：長軸0.9m 短軸0.39m 深さ5cm

長軸方向：N-60°-W

埋没土：As-Kkを含む暗褐色土を埋土とする。

所見・時期：検出面は第2面であるが、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

(3)溝

検出された溝は計14条を数え、2区全体に広がりを見せるが、区の西側に検出された溝と東側の溝とではやや状況が異なる。西側では南北方向に延びる溝5条が併走し、東側では概ね東西方向にそれぞれの溝が延びる。これらの溝の中でも、東側調査区の3区へ続く併走する2条の溝も確認されている。

以下、各溝ごとに記載する。(第18表 2区溝一覧を参照)

2区1号溝 (第18表、PL.94)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区西側の中央付近に位置し、東側に2区2～5号溝が併走する。

グリッド：2 D～G-128

座標値：X=61,148～61,161 Y=-93,636～93,639

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。重複する2区8号畠より明らかに新しく、底面までの深さも浅い。底面は南側が高く、緩い北勾配となるが、両端部は不明。遺物等の出土はない。

規模：長さ(13.9)m 幅0.19m

延伸方向：N-11°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。また、併走する状況からすると畠の畝間の可能性もある。

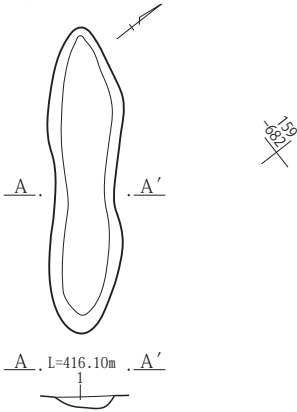
2区2号溝 (第18表、PL.94)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区西側の中央付近に位置し、西側に2区1号溝、東側に2区3～5号溝が併走する。

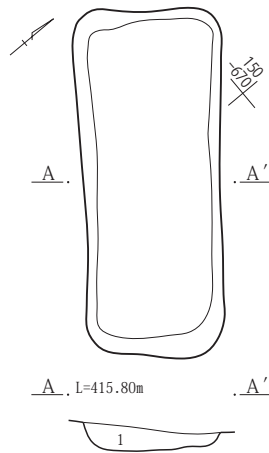
グリッド：2 D～G-128

2区3号土坑



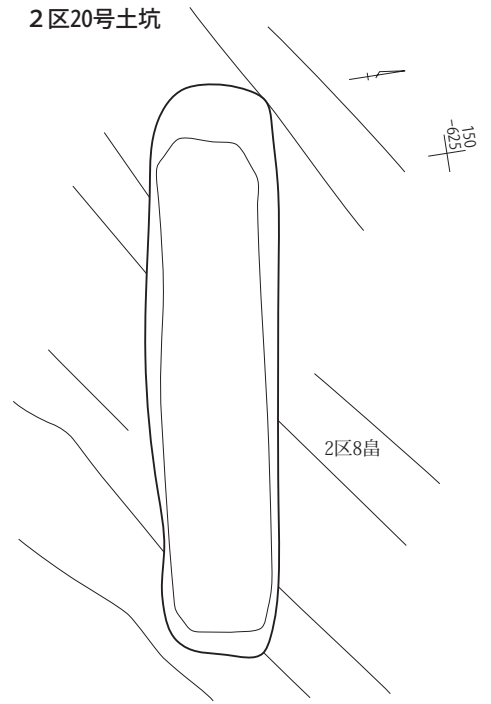
1 暗褐色土 As-Kk軽石を多量に含む。

2区4号土坑

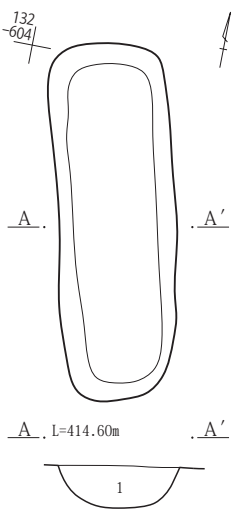


1 暗褐色土 As-Kk軽石を多量に含む。

2区20号土坑

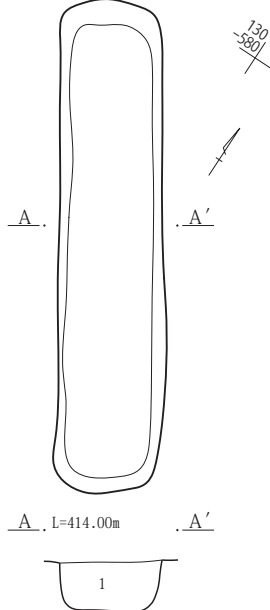


2区30号土坑



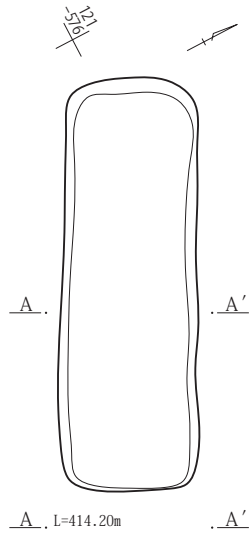
1 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。

2区51号土坑



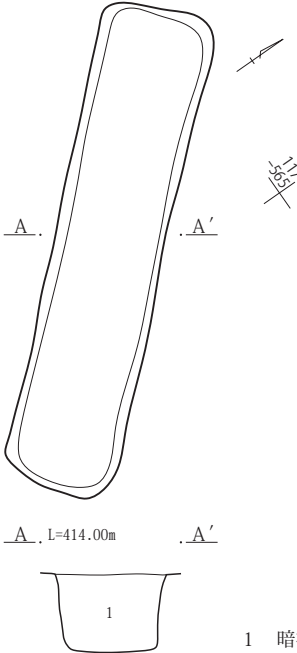
1 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。

2区54号土坑



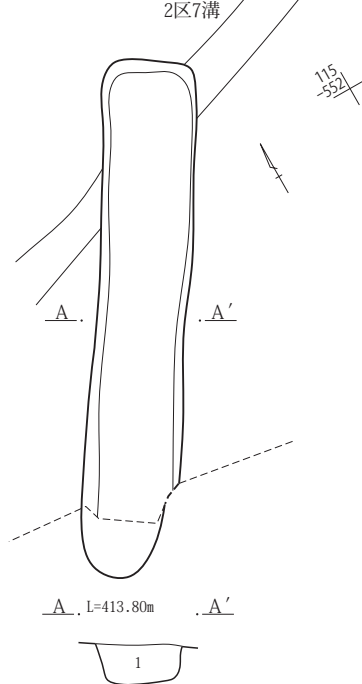
1 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。

2区57号土坑



1 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。

2区61号土坑

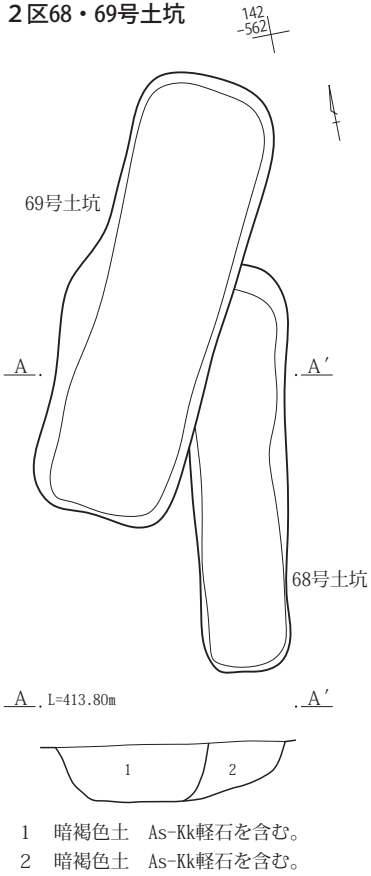


1 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。

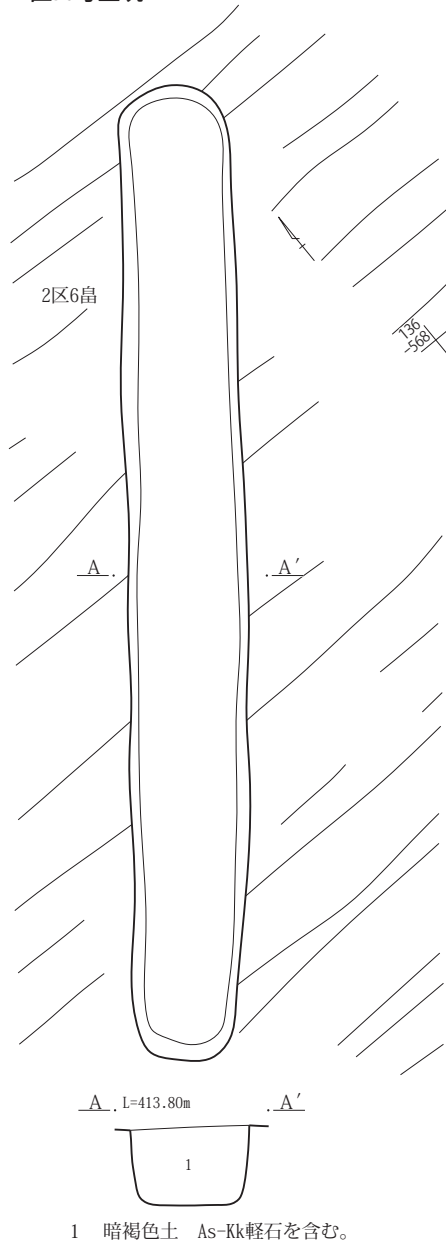
0 1:40 1m

第358図 2区3・4・20・30・51・54・57・61号土坑 平・断面図

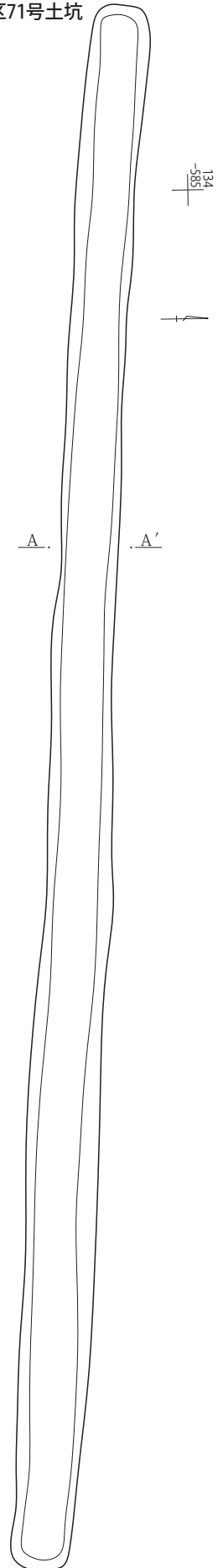
2区68・69号土坑



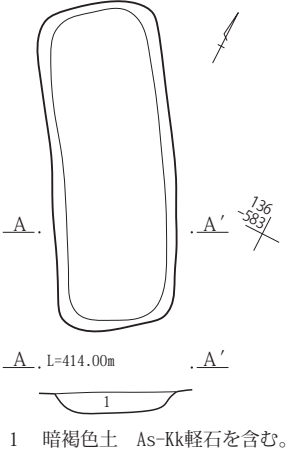
2区70号土坑



2区71号土坑



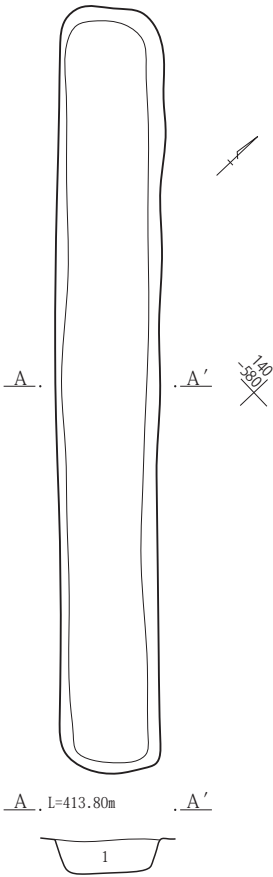
2区73号土坑



0 1:40 1m

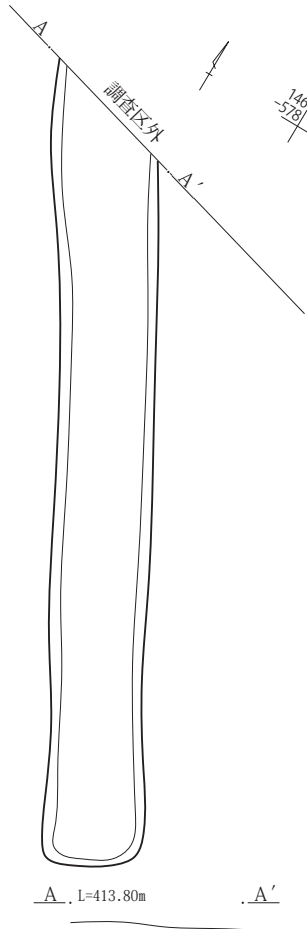
第359図 2区68~71・73号土坑 平・断面図

2区75号土坑



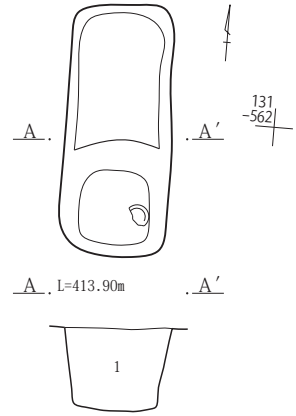
1 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。

2区77号土坑



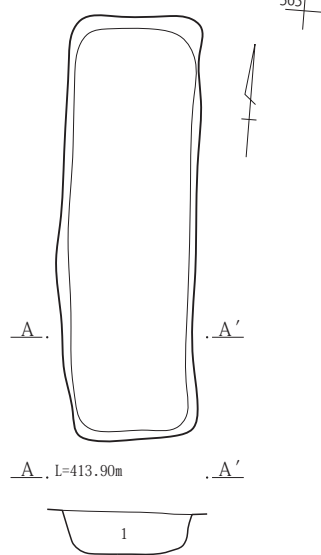
1 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。

2区79号土坑



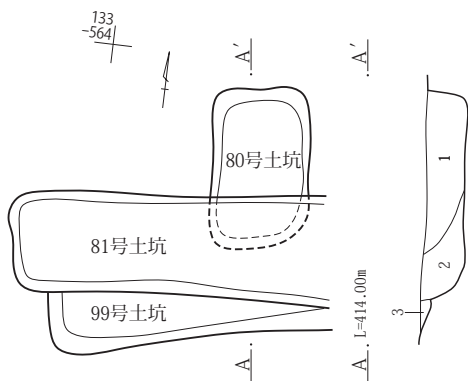
1 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。

2区82号土坑



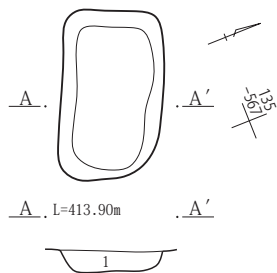
1 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。

2区80・81・99号土坑

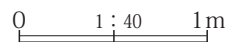


- 1 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。
- 2 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。
- 3 暗褐色土 As-Bを含む。

2区83号土坑

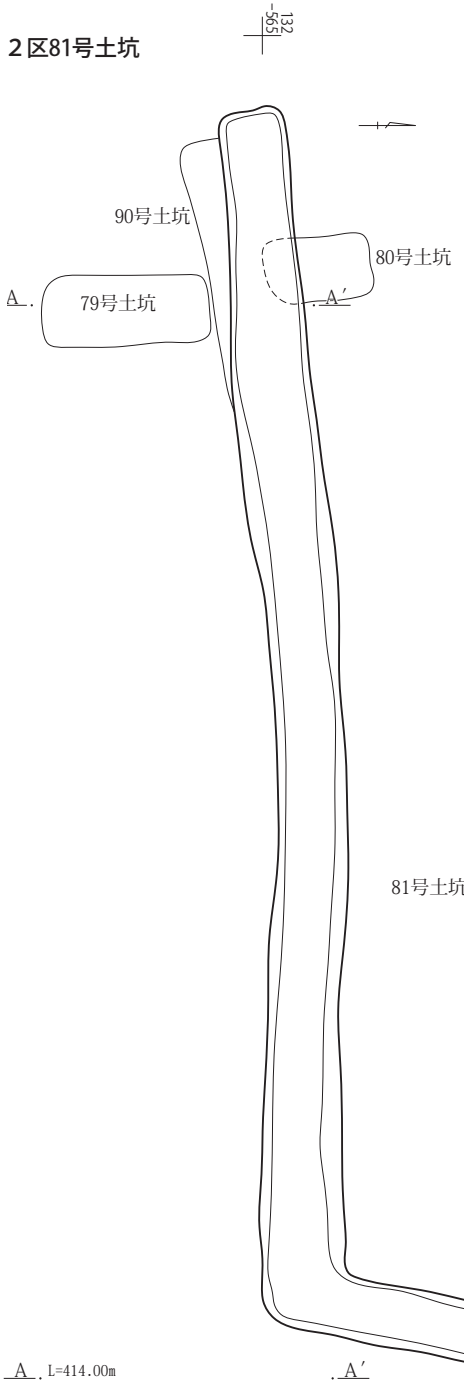


1 暗褐色土 As-Kk軽石を含む。

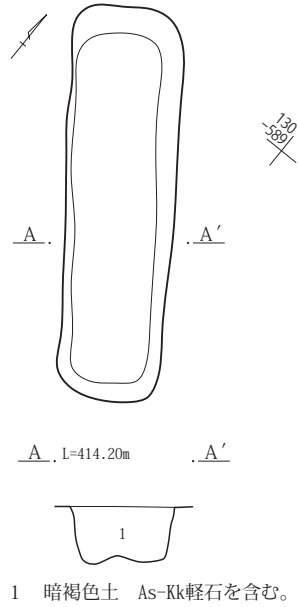


第360図 2区75・77・79・80・82・83号土坑 平・断面図

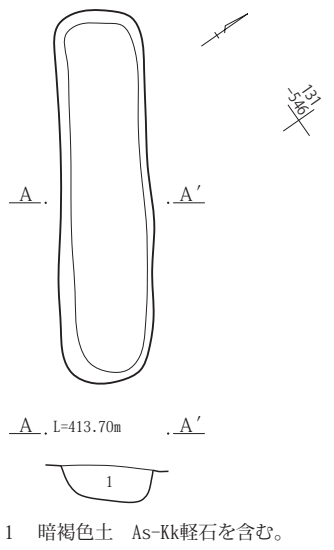
2区81号土坑



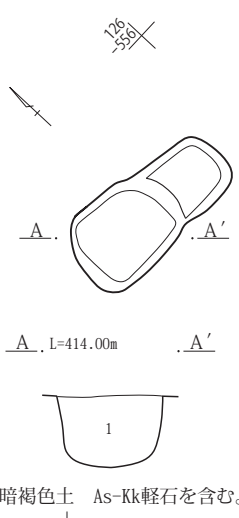
2区94号土坑



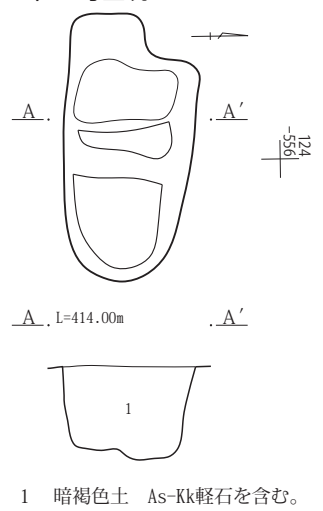
2区97号土坑



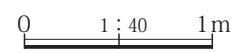
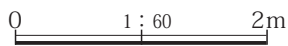
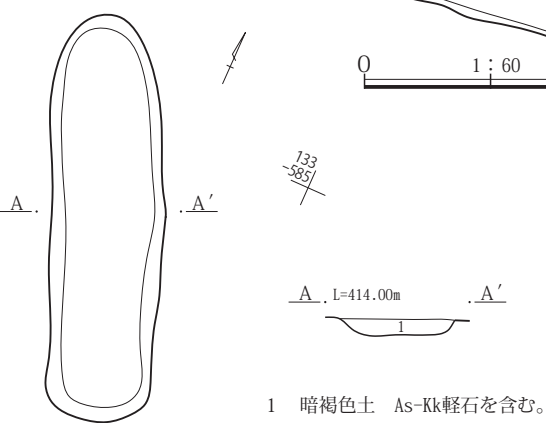
2区96号土坑



2区98号土坑

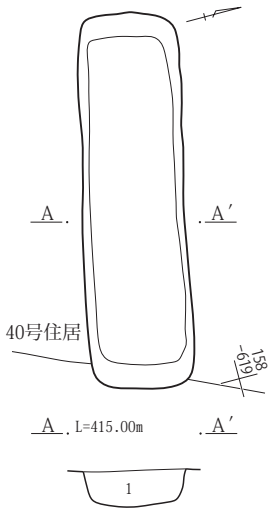


2区100号土坑



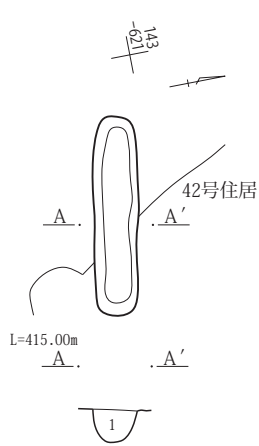
第361図 2区81・94・96～98・100号土坑 平・断面図

2区115号土坑



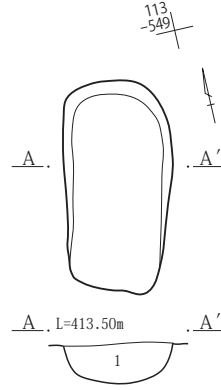
1 暗褐色土 As-Kkを少量含む。

2区117号土坑



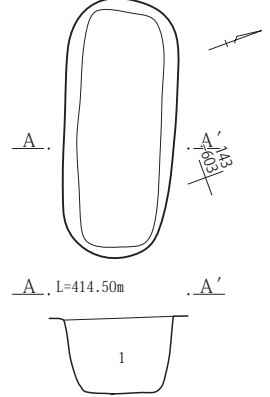
1 暗褐色土 As-Kkを少量含む。

2区119号土坑



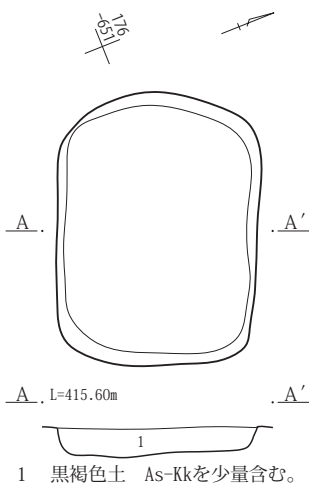
1 暗褐色土 As-Kkを多量に含む。

2区125号土坑



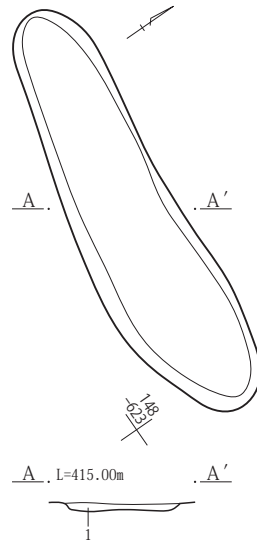
1 黒褐色土 As-Kkを多量に含む。

2区126号土坑



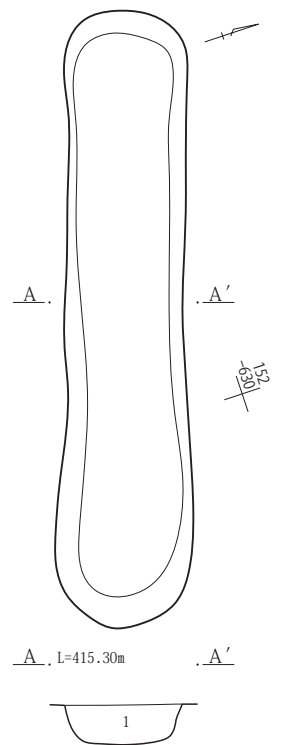
1 黒褐色土 As-Kkを少量含む。

2区127号土坑



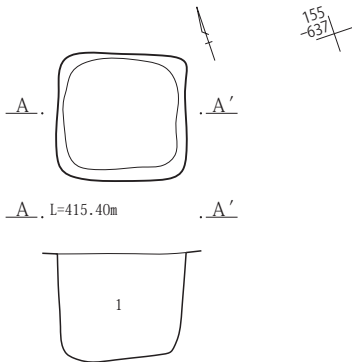
1 黒褐色土 As-Kkを少量含む。

2区128号土坑



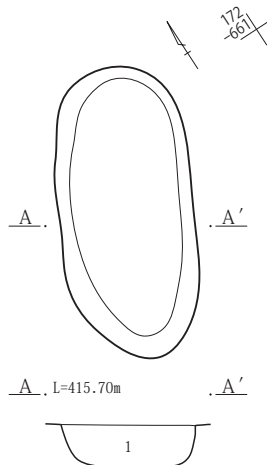
1 黒褐色土 As-Kkを多量に含む。

2区129号土坑



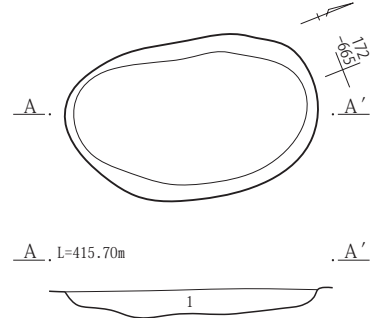
1 黒褐色土 As-Kkを多量に含む。

2区130号土坑

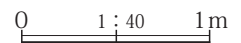


1 黒褐色土 As-Kkを少量含み、大礫が混入する。

2区131号土坑



1 黒褐色土 As-Kkを少量含み、礫が混入する。



第362図 2区115・117・119・125～131号土坑 平・断面図

座標値：X=61,147～61,160 Y=-93,636～93,639

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。重複する2区8号畠より明らかに新しく、底面までの深さも浅い。底面は南側が高く、緩い北勾配となるが、両端部は不明。遺物等の出土はない。

規模：長さ(13.2)m 幅0.28m

延伸方向：N-12°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。また、併走する状況からすると畠の畝間の可能性もある。

2区3号溝 (第18表、PL.94)

平成27年度の調査で検出した。2区17号土坑と重複する。

位置：2区西側の中央付近に位置し、北端に2区17号土坑が重複する。また、西側に2区1・2号溝、東側に2区4・5号溝が併走する。

グリッド：2D～G-127・128

座標値：X=61,148～61,162 Y=-93,636・93,637

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。重複する2区8号畠より明らかに新しく、2区17号土坑との重複では本溝の方が古い。底面までの深さは浅い。底面は南側が高く、緩い北勾配となるが、両端部は不明。遺物等の出土はない。

規模：長さ(11.1)m 幅0.34m

延伸方向：N-14°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。また、併走する状況からすると畠の畝間の可能性もある。

2区4号溝 (第18表、PL.94)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区西側の中央付近に位置し、西側に2区1～3・5号溝が併走する。

グリッド：2F-127

座標値：X=61,155～61,159 Y=-93,632・93,633

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。重複する2区8号畠より明らかに新しく、底面までの深

さも浅い。併走する他の溝より短い。底面は南側が高く、緩い北勾配となるが、両端部は不明。遺物等の出土はない。

規模：長さ(4.08)m 幅0.25m

延伸方向：N-13°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。また、併走する状況からすると畠の畝間の可能性もある。

2区5号溝 (第18表、PL.94)

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区西側の中央付近に位置し、西側に2区1～3号溝、東側に2区4号溝が併走する。

グリッド：2D～F-127・128

座標値：X=61,149～61,155 Y=-93,634～93,636

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。重複する2区8号畠より明らかに新しく、底面までの深さも浅い。併走する他の溝より短い。底面は南側が高く、緩い北勾配となるが、両端部は不明。遺物等の出土はない。

規模：長さ(6.02)m 幅0.28m

延伸方向：N-12°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。また、併走する状況からすると畠の畝間の可能性もある。

2区6号溝 (第363図、第18表、PL.94)

平成27年度の調査で検出した。3区3号溝へ続く、同一溝である。

位置：2区東側の南東側に位置し、南壁際から東壁中央際へと延び、東側調査区の3区3号溝へ続く。南側には2区7号溝が併走する。

グリッド：V～Y-109～116

座標値：X=61,116～61,120 Y=-93,544～93,577

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。直線的に北東方向へ延びる溝で、重複する2区水田より明らかに新しく、底面までの深さもやや浅い。3区7号溝とは幅1.0m前後の距離で併走し、底面は南西側

第4章 検出された遺構と遺物

が高く、緩い北東勾配となって3区3号溝へ続く。遺物等の出土はない。

規模：長さ36.0m 幅0.29m

延伸方向：N-66°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。近世の可能性もある。また、併走する3区7号溝および延伸する3区3・20号溝との状況からすると、両溝は道状遺構の両脇溝の可能性が高い。

2区7号溝（第363図、第18表、PL.94）

平成27年度の調査で検出した。3区20号溝へ続く、同一溝である。

位置：2区東側の南東側に位置し、南壁際から東側中央際へと延び、東側調査区の3区20号溝へ続く。北側には2区6号溝が併走する。

グリッド：V~X-109~115

座標値：X=61,106~61,119 Y=-93,544~93,574

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。直線的に北東方向へ延びる溝で、重複する2区水田、途中に重複する2区58・59号土坑よりも新しく、底面までの深さもやや浅い。3区6号溝とは幅1.0m前後の距離で併走し、底面は南西側が高く、緩い北東勾配となって3区20号溝へ続く。遺物等の出土はない。

規模：長軸32.8m 短軸0.17m

延伸方向：N-60°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。近世の可能性もある。また、併走する3区7号溝および延伸する3区3・20号溝との状況からすると、両溝は道状遺構の両脇溝の可能性が高い。

2区8号溝（第363図、第18表、PL.94）

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区東側の西寄り中央に位置し、西側から東側へと延びる。

グリッド：2A-116~120

座標値：X=61,131・61,132 Y=-93,577~93,597

検出状況：2区の第1面調査時に検出された。やや直線的に東方向へ延びる溝で、底面までの深さも浅いことから途切れ途切れに検出された。底面は西側が高く、緩い東勾配となる。遺物等の出土はない。

規模：長軸20.0m 短軸0.13m

延伸方向：N-87°-W

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区9号溝（第363図、第18表、PL.94）

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区中央の南壁寄りから東側中央付近に位置し、西側から東側へと延びる。東側中央付近では、南側に2区10号溝と併走するようにある。

グリッド：X・Y-112~122

座標値：X=61,119~61,122 Y=-93,589~93,609

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。直線的に東方向へ延びる溝で、重複する2区水田、途中に重複する2区41・44・54号土坑よりも新しく、底面までの深さも浅い。東側は溝の痕跡を確認したが、明瞭な状態ではない。底面は西側が高く、緩い東勾配となる。また、東中央付近では南西から弧状に延びる2区10号溝と併走し、その先は不明。遺物等の出土はない。

規模：長軸52.4m 短軸0.22m

延伸方向：N-83°-W

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区10号溝（第363図、第18表、PL.94）

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区東側の南寄りに位置し、南壁際から東側中央付近へと延びる。東側中央付近では、北側に2区9号溝と併走するようにある。

グリッド：W・X-113~120

座標値：X=61,112~61,119 Y=-93,560~93,598

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。弧状に東方向へ延びる溝で、重複する2区水田、途中に

重複する2区46・47号土坑よりも新しく、底面までの深さも浅い。東側は不明瞭な状態となる。底面は西側が高く、緩い東勾配となる。また、東中央付近では西から直線的に延びる2区9号溝と併走し、その先は不明。遺物等の出土はない。

規模：長軸39.2m 短軸0.25m

延伸方向：N-81°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区11号溝（第363図、第18表、PL.94）

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区東側の南寄りに位置し、南壁際から東側中央付近へと延びる。

グリッド：V~X-115~117

座標値：X=61,108~61,119 Y=-93,560~93,598

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。直線的に北方向へ延びる溝で、重複する2区水田より新しく、底面までの深さも浅い。底面は南側が高く、緩い北勾配となる。遺物等の出土はない。

規模：長軸11.6m 短軸0.24m

延伸方向：N-37°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。

2区12号溝（第363図、第18表、PL.94）

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区東側の南東隅付近に位置し、南壁際から北東方向へと延び、東端は2区13号溝へ続く。

グリッド：U~W-110~114

座標値：X=61,104~61,109 Y=-93,553~93,565

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。緩く弧を描くように東方向へ延びる溝で、重複する2区水田より新しく、底面までの深さも浅い。底面は南西側が高く、緩い北東勾配となる。遺物等の出土はない。

規模：長軸11.6m 短軸0.16m

延伸方向：N-71°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。近世の可能性もある。

2区13号溝（第363図、第18表、PL.94）

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区東側の南東隅付近に位置し、南壁際から北東方向へと延びる。北側には同方向に延びる2区6・7号溝、南側には2区14号溝が併走するようにある。

グリッド：U~W-110~113

座標値：X=61,103~61,111 Y=-93,549~93,563

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。直線的に北東方向へ延びる溝で、重複する2区水田より明らかに新しく、底面までの深さもやや浅い。3区14号溝とは幅1.3~1.6mの距離で併走するようであり、底面は南西側が高く、緩い北東勾配となる。遺物等の出土はない。

規模：長軸15.08m 短軸0.32m

延伸方向：N-63°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。

所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。近世の可能性もある。

2区14号溝（第363図、第18表、PL.94）

平成27年度の調査で検出した。

位置：2区東側の南東隅付近に位置し、南壁際から北東方向へと延びる。北側には2区14号溝が併走するようにある。

グリッド：U・V-111~113

座標値：X=61,103~61,108 Y=-93,552~93,560

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。直線的に北東方向へ延びる溝で、重複する2区水田より明らかに新しく、底面までの深さもやや浅い。3区13号溝とは幅1.3~1.6mの距離で併走するようであり、底面は南西側が高く、緩い北東勾配となる。遺物等の出土はない。

規模：長軸12.0m 短軸0.25m

延伸方向：N-60°-E

埋没土：As-Kkを少量含む暗褐色土である。



所見・時期：検出面が第1面で、埋土に軽石(As-Kk)を含むことから、時期は中世以降と考えられる。近世の可能性もある。

(4) 畠

検出された畠は計7区画を数え、2区全体に散漫に広がりを見せる。調査では、これら畠の畝間が連続した溝状に検出されており、その畝間の方向や間隔の違いから各畠区画を確定させた。各々の区画は、比較的小規模である。また、As-Kkを含む黒褐色土ないし暗褐色土を埋土としている点は、全ての畝間に共通する。

以下、各畠ごとに記載する。(第19表 2区畠一覧を参照)

2区1号畠 (第364図、第19表、PL.96)

平成27年度の調査で検出した。2区8号畠と重複する。

位置：2区西側の北西隅付近に位置し、本区画の北東隅に3区2号畠が近接する。

グリッド：2G・2H-131~133

座標値：X=61,163~61,169 Y=-93,653~93,660

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。畝間の方向は重複する2区8号畠とほぼ同じであるが、本畠の畝間埋土にはAs-Kkを大量(一次堆積に近い)に含んでおり、明らかに新しい。遺物等の出土はない。

区画規模：長さ7.90m、幅4.20m

畝長7.90m 畝間間隔4~7cm前後

畦数5条

畝間方向：N-47°-E

所見・時期：検出面およびAs-Kkの状況から、時期はAs-Kk降下時ないし中世でも古い段階と考えられる。

2区2号畠 (第364図、第19表、PL.96)

平成27年度の調査で検出した。2区8号畠、2区7号土坑と重複する。

位置：2区西側の北西隅付近に位置し、本区画の中央に2区7号土坑が重複する。また、西側に3区1号畠が近接する。

グリッド：2G・2H-131・132

座標値：X=61,164~61,169 Y=-93,647~93,651

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。畝

間の方向は、重複する2区8号畠と大きく異なり、南北方向を向く。また、本畠の畝間埋土にはAs-Kkを大量(一次堆積に近い)に含んでおり、明らかに新しい。遺物等の出土はない。

区画規模：長さ3.90m、幅3.70m

畝長3.90m 畝間間隔2cm前後

畦数7条

畝間方向：N-17°-E

所見・時期：検出面およびAs-Kkの状況から、時期は2区1号畠と同じAs-Kk降下時ないし中世でも古い段階と考えられる。

2区3号畠 (第364図、第19表、PL.96)

平成27年度の調査で検出した。2区8号畠と重複する。

位置：2区西側の南西側に位置する。北側に2区1号畠がある。

グリッド：2E・2F-132・133

座標値：X=61,150~61,156 Y=-93,659~93,665

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。畝間の方向は重複する2区8号畠と近いが若干ずれており、しかも本畠の畝間埋土にはAs-Kkを大量(一次堆積に近い)に含むなど、明らかに新しい。遺物等の出土はない。

区画規模：長さ4.90m、幅4.30m

畝長4.30m 畝間間隔5~7m前後

畦数6条

畝間方向：N-59°-E

所見・時期：検出面およびAs-Kkの状況から、時期は2区1号畠と同じAs-Kk降下時ないし中世でも古い段階と考えられる。

2区4号畠 (第364図、第19表)

平成27年度の調査で検出した。2区8号畠と重複する。

位置：2区西側の北壁際に位置する。西側に同じ畝間方向の2区2号畠がある。

グリッド：2G・2H-128・129

座標値：X=61,161~61,169 Y=-93,635~93,640

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。畝間の方向は、重複する2区8号畠と大きく異なり、南北方向を向く。また、本畠の畝間埋土にはAs-Kkを大



第364図 2区1～4号島 平面図

量(一次堆積に近い)に含んでおり、明らかに新しい。遺物等の出土はない。

区画規模：長さ7.70m、幅3.60m

畝長7.70m 畝間間隔1～2cm前後

畦数6条

畝間方向：N-13°-E

所見・時期：検出面およびAs-Kkの状況から、時期は2区2号畝と同じAs-Kk降下時ないし中世でも古い段階と考えられる。

2区5号畝 (第365図、第19表、PL.96)

平成27年度の調査で検出した。2区8号畝、2区25～28号土坑と重複する。

位置：2区中央の北寄りに位置し、本区画の南西側に2区25～28号土坑が重複する。また、東側に同じ畝間方向の2区6号畝がある。

グリッド：2B～2F-120～122

座標値：X=61,139～61,153 Y=-93,596～93,609

検出状況・重複：2区の第1面調査時に検出された。区画の中央付近での畝間は不明瞭。畝間の方向は、重複する2区8号畝と大きく異なり、東西方向を向く。また、本畝の畝間埋土はAs-Kkとの混在土であり、明らかに新しい。さらに、重複する各土坑より新しい。遺物等の出土はない。

区画規模：長さ12.50m、幅10.60m

畝長10.60m 畝間間隔7～12cm前後

畦数14条

畝間方向：N-82°-W

所見・時期：検出面およびAs-Kk混在土による埋没であることから、時期は中世以降と考えられる。

2区6号畝 (第365図、第19表、PL.98)

平成27年度の調査で検出した。2区水田面よりやや高い面で検出され、2区70号土坑と重複する。

位置：2区東側の北壁寄りに位置し、本区画の中央に2区70号土坑が重複する。また、東側に畝間方向を違える2区7号畝が近接する。

グリッド：2A～2C-113～115

座標値：X=61,133～61,143 Y=-93,563～93,574

検出状況・重複：2区第1面調査時でもやや上位の面で

検出された。畝間方向は2区5号畝と同じ東西方向を向き、畝間の埋土はAs-Kkとの混在土である。なお、重複する2区70号土坑より新しい。遺物等の出土はない。

区画規模：長さ11.10m、幅11.00m

畝長11.10m 畝間間隔2～4cm前後

畦数20条

畝間方向：N-90°-E

所見・時期：検出面およびAs-Kk混在土による埋没であることから、時期は中世以降と考えられる。

2区7号畝 (第365図、第19表、PL.98)

平成27年度の調査で検出した。2区水田面よりやや高い面で検出された。また、3区1・2号畝と同一の畝区画である。

位置：2区東側の北東隅に位置し、3区1・2号畝へ続く。また、西側に畝間方向を違える2区6号畝が近接する。

グリッド：Y～2B-110～113

座標値：X=61,124～61,137 Y=-93,549～93,564

検出状況：2区第1面調査時でもやや上位の面で検出された。畝間方向は2区6号畝とは異なる南東から北西方向を向き、畝間の埋土はAs-Kkとの混在土である。また、3区1・2号畝と同一の畝区画であることから、他の畝区画よりも大きく、畝間の間隔も広い。遺物等の出土はない。

区画規模：長さ18.00m、幅6.40m

畝長18.00m 畝間間隔3～5cm前後

畦数10条

畝間方向：N-52°-W

所見・時期：検出面およびAs-Kk混在土による埋没であることから、時期は中世以降と考えられる。



第365図 2区5～7号畠、3区1・2号畠 平面図

第6項 遺構外出土遺物

本調査区での第1・2面調査で出土した、古墳時代以降の遺構に伴わない遺物を扱う。遺構外出土遺物には、土器・土製品をはじめ、石製品および金属製品がある。

以下、種別ごとに記載する。

(1)土器・土製品 (第366図、第163表、PL.240)

計16点を図示した。いずれも第2面調査時に出土した。

土師器・須恵器

1は土師器の杯で、2は土師器の鉢。3・4は須恵器の杯蓋、5～9は須恵器の杯、10は須恵器の椀、11・12は須恵器の盤で、13は須恵器の高杯、14は須恵器の小型短頸壺、であり、15は須恵器の壺である。

土製品

16は完形の紡輪で、径2.0cm、厚さ0.6cm、孔径3mmを測り、穿孔は焼成前である。

(2)石製品 (第366図、第163表、PL.240)

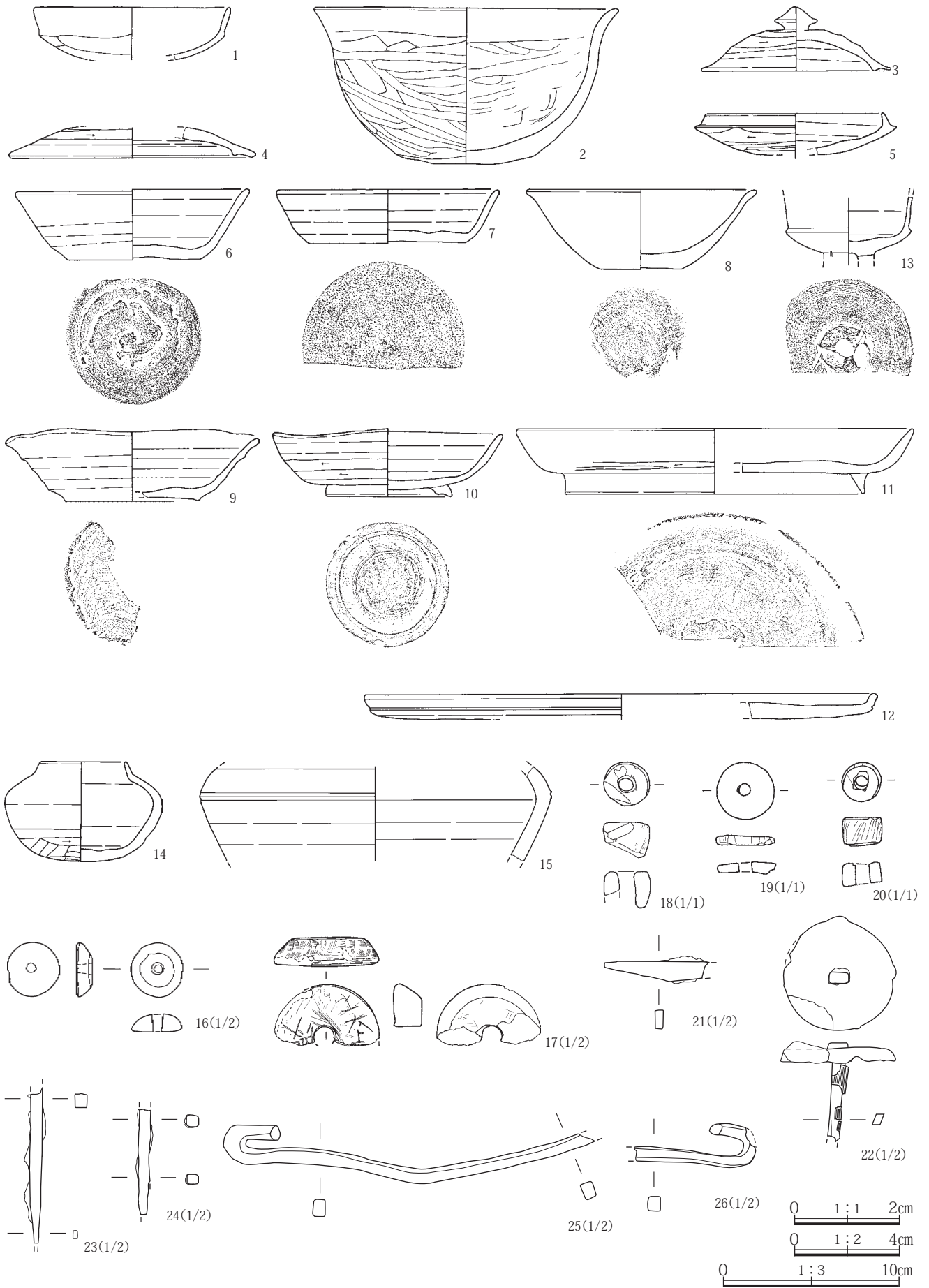
図示した石製品は4点である。いずれも第2面調査時に出土した。17は蛇紋岩製の紡輪で、径3.9cm、厚さ1.1cm、孔径約8mm、重さ13.5gを測る半欠品。丁寧な研磨整形を施し、表面の孔の周囲に「上太上□□・・・殿」の刻書がある。18～20はいずれも滑石製の白玉で、18は灰白色をなし、径0.8cm、厚さ0.7cm、孔径約3mm、重さ0.5gを測る。19は鈍い黄橙色をなし、径1.1cm、厚さ0.2cm、孔径約2mm、重さ0.4gを測る。20は灰白色をなし、径0.8cm、厚さ0.5cm、孔径約3mm、重さ0.4gを測る。

(3)金属製品 (第366図、第163表、PL.240)

図示した金属製品は6点である。第1面調査ないし第2面調査時に出土した。いずれも鉄製品である。

21は刀子の茎部、残存長4.0cm、幅1.0cmを測る。22は中心に釘が残る飾り金具で、飾り金具は径4.4cm、厚0.1cmを測り、表面が4枚の花弁状にやや盛り上がる。釘部は、残存長3.3cmの角棒状で下端がやや窄まり、木質の有機物が付着する。23は紡輪の軸片で、残存長4.0cmを測る角棒状。24は釘片で、残存長6.0cmを測る。25・26は同一個体であるが接合できなかった。馬具と考えられ、

両端がU字状に曲がる。25は残存長14.7cm、26は残存長4.5cmを測り、断面は角状をなす。



第366図 2区古墳時代以降遺構外出土遺物

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第668集

四戸遺跡-本文編1-

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和2(2020)年3月11日 印刷

令和2(2020)年3月16日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社
